

SETSUNAN UNIVERSITY
SYLLABUS

2018 外国語学部 授業
計画
外国語学科

外 国 語 学 部

(学部略号：L)

Faculty of Foreign Studies

外国語学科

(学科略号：L)

Department of Foreign Studies

◎教育研究上の目的

外国語と日本語によるコミュニケーション能力および異文化と日本の文化に対する理解を涵養し、人間力・実践力・統合力を身につけた、異文化接触の現場で活躍できる知的専門職業人を養成する。

◎ディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士(文学)の学位を授与します。

■知識・理解

[DP1] 言語と文化が果たす役割や機能に基づいて、人間社会の学術的考察に必要な知識やリテラシーを身につけている。(一般教養と専門教育の基礎知識)

[DP2] グローバルな視点で国際社会の多様性を理解するとともに、世界と日本の関係について人文・社会学的研究を行うための専門知識を身につけている。
(人文・社会分野の国際的専門知識)

■思考・判断

[DP3] 言語・文化・国際社会における問題を発見し、その解決に必要な情報の収集、分析、結論に至るまでの追究の計画・立案にかかる思考力と判断力を身につけている。(計画・立案力)

[DP4] 課題に対する計画的な解決策に基づいて、論理的な思考および多面的・多角的な判断を行うことができる。(問題解決力)

■関心・意欲・態度

[DP5] 問題解決のために他者と協調して活動するとともに、社会的規範やマナーを遵守して行動することができる。(チームワーク・倫理観)

[DP6] 課題や問題の解決のために必要な事柄について、主体的かつ継続的に学ぶ意欲や態度を身につけている。(学習意欲・態度)

■技能・表現

[DP7] <英語プロフェッショナルコース>

国際社会において円滑なコミュニケーションを可能にするような高いレベルの英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)を身につけている。

<国際キャリアコース>

各専攻言語(英語、スペイン語、中国語、インドネシア・マレー語)について日本語と比較しながら学び、将来のキャリアにつながるようなコミュニケーション能力を身につけている。(コミュニケーション力)

[DP8] <英語プロフェッショナルコース>

必修となっている海外留学の経験なども含めて、英語での議論やプレゼンテーションをしっかりと行うことができる表現力を身につけている。

<国際キャリアコース>

各専攻言語圏（英語圏、スペイン語圏、中国語圏、インドネシア・マレー語圏）などの言語はもとより文化や歴史についても日本（語）と比較しながら学び、調査や発表を行う技能や表現力を身につけている。（発表力・調査力）

◎カリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■知識・理解

- ①人間社会において言語と文化が果たす役割や機能などについての知識を習得するために、1年次にはその導入として基礎科目の「英語」「情報処理」など、2年次から3年次にかけては基礎科目の「英語」「中国語」「スペイン語」「インドネシア語」「韓国語」「フランス語」「時事問題」、教養科目の「心理学」「世界の政治」「自然科学の理解」などを段階的に配当する。
- ②グローバルな視点で国際社会の多様性を理解し、日本に関する人文・社会的知識を習得するために、1年次にはその導入として文化・社会科目の「各語圏概論」「言語学」「日本文学」など、2年次には文化・社会科目の「異文化接触論」「国際社会論」やパッケージプログラム科目の「ホスピタリティ論」「メディア文化論」、そして3年次には文化・社会科目の「ヨーロッパ史学」「現代学術論」やパッケージプログラム科目の「ビジネスコミュニケーション論」「グローバル社会と日本」などを段階的に配当する。

■思考・判断

- ③思考力と判断力に基づいて問題を発見し、その解決に必要な情報の収集・分析・結論に至るまでの研究過程を計画・立案する力を養成するため、1年次から4年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。
- ④課題に対する計画的な解決策に基づいて、論理的な思考力および多面的・多角的な判断力を養成するために、1年次から4年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。

■関心・意欲・態度

- ⑤問題解決のために他者と協調して活動することや、社会的規範やマナーを遵守して行動することを身につけるために、1年次から4年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。
- ⑥課題や問題の解決のために必要な事柄について、主体的かつ継続的に学ぶ意欲や態度を身につけるために、1年次から4年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。

■技能・表現

⑦-1 <英語プロフェッショナルコース>

国際社会において円滑なコミュニケーションを可能にするような高いレベルの英語の4技能（聞く、話す、読む、書く）を身につけるために、1年次にはその導

入として「ボキャブラリー&グラマー」「スピーキング&ライティング」など、2年次前期には「Practical English Conversation」「Integrated Skills Training」など、そして2年次後期にはコース所属の全員が英語圏の大学に海外留学する。帰国後の3年次には「English for Global Communication」「Comprehensive English」など、さらに4年次には「Oral Communication」などを段階的に配当する。

⑦-2 <国際キャリアコース>

各専攻言語（英語、スペイン語、中国語、インドネシア・マレー語）について日本語と比較しながら学び、将来のキャリアにつながるようなコミュニケーション能力を身につけるために、1年次にはその導入として「中国語を聞く/読む/書く/話す」「スペイン語/インドネシア語入門」など、2年次には「スペイン語文章構成」「総合インドネシア語」など、3年次には「スペイン語通訳」「実践インドネシア・マレー語」など、さらに4年次には「中国語コミュニケーション」「スペシャリストインドネシア・マレー語」などを段階的に配当する。

⑧-1 <英語プロフェッショナルコース>

英語での議論やプレゼンテーションをしっかりと行うことができる表現力を身につけるために、1年次にはその導入として「プレゼンテーション」「トピックスタディーズ」など、2年次前期には「Global Issues」「Academic Reading/Writing」など、そして2年次後期にはコース所属の全員が英語圏の大学に海外留学する。帰国後の3年次には「English Lecture」「Debate & Presentation」など、さらに4年次には「Advanced English」などを段階的に配当する。

⑧-2 <国際キャリアコース>

各専攻言語圏（英語圏、スペイン語圏、中国語圏、インドネシア・マレー語圏）などの言語はもとより文化や歴史についても日本（語）と比較しながら学び、調査や発表を行う技能や表現力を身につけるために、1年次にはその導入として「ビジネス中国語」「ドラマ」など、2年次には「メディアイングリッシュ」「観光中国語」「旅行インドネシア語」など、3年次には「貿易中国語」「映画/メディアのスペイン語」「時事インドネシア・マレー語」など、さらに4年次には「ビジネスイングリッシュ」「スペイン語プレゼンテーション」などを段階的に配当する。

◎アドミッション・ポリシー（AP:入学者受入れの方針）

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

①外国語学部で学ぶ諸科目の前提となる「英語」や「国語」などの科目を中心に、高等学校の教育課程を幅広く修得し、基礎的教養を身につけている。

■思考・判断

②論理的な思考力や、多面的・多角的な判断力の基礎となる文章読解力・記述力および表現力を身につけている。

■ 関心・意欲・態度

- ③ 言語や文化に関心を持ち、大学で学んだ語学や社会・文化論などを自分の将来のキャリアに活かしたいという意欲があり、またそれらを主体的かつ協調的に学ぶ姿勢・態度を身につけている。

■ 技能・表現

- ④ 外国語学部の教育の柱である語学力を養成するために、語学検定試験などに積極的に取り組む姿勢やその実績、およびコミュニケーション能力の基礎を身につけている。

入学者選抜の実施にあたっては、学力試験、適性検査をはじめとして、大学入試センター試験、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語ほかの資格検定試験の結果などを入試毎に組み合わせて評価します。

授 業 計 画

科目名	担当者	ページ
ア		
アーバンツーリズム論	柴田 陽一	17
Academic Writing	松田 早恵	18
Academic Writing	西川 眞由美	20
Academic Reading	フーパー トッド	22
Advanced English a	神崎 舞	23
アドバンスト イングリッシュ a	松井 信義	25
Advanced English b	神崎 舞	24
アドバンスト イングリッシュ b	松井 信義	26
アドバンスト ライティング a	江崎 早苗	27
アドバンスト ライティング b	江崎 早苗	28
アメリカ文化論	大原 関一 浩	29
イ		
ESP(English for Specific Purposes) a	永富 真梨	30
ESP(English for Specific Purposes) a	久田 歩	32
ESP(English for Specific Purposes) a	三宅 一平	34
ESP(English for Specific Purposes) a	西川 眞由美	35
ESP(English for Specific Purposes) a	平野 惟	37
ESP(English for Specific Purposes) a	矢富 弘	39
ESP(English for Specific Purposes) a	齋藤 安以子	40
ESP(English for Specific Purposes) b	永富 真梨	42
ESP(English for Specific Purposes) b	久田 歩	44
ESP(English for Specific Purposes) b	江崎 早苗	46
ESP(English for Specific Purposes) b	三宅 一平	47
ESP(English for Specific Purposes) b	矢富 弘	48
ESP(English for Specific Purposes) b	齋藤 安以子	49
異文化コミュニケーション論	門脇 薫	51
異文化接触論	藤井 嘉祥	52
異文化ビジネス論	中島 直嗣	53
イベント企画論	田浦 アマンダ	55
English for Global Communication a	田浦 アマンダ	57
English for Global Communication a	リチャード ダイアース	58
English for Global Communication a	アイビス ウイリアム	59
English for Global Communication a	マイケル ハーキー	60
English for Global Communication b	田浦 アマンダ	61
English for Global Communication b	リチャード ダイアース	62
English for Global Communication b	アイビス ウイリアム	63
English for Global Communication b	マイケル ハーキー	64
English for TOEFL	皆本 智美	65
イングリッシュ プレゼンテーション I b	フーパー トッド	66
イングリッシュ プレゼンテーション I b	スコット ライリー	67
イングリッシュ プレゼンテーション I b	ニール カー	68
イングリッシュ プレゼンテーション I b	ダニエル マリンズ	69
イングリッシュ プレゼンテーション I b	久田 歩	70
English Writing Workshop a	マイケル ハーキー	71
English Writing Workshop a	田浦 アマンダ	73
English Writing Workshop b	マイケル ハーキー	75
English Writing Workshop b	田浦 アマンダ	77
English Lecture I a	フーパー トッド	79
English Lecture I a	ジョセフ シウンシ	81

科目名	担当者	ページ
English Lecture I b	ジョセフ シウンシ	83
English Lecture I b	フーパー トッド	85
English Lecture II a	神崎 舞	87
English Lecture II b	田浦 アマンダ	88
インターンシップ I	石井 三恵	1245
インターンシップ II	石井 三恵	1246
Integrated Skills Training	後藤 一章	89
インドネシア・マレー語圏概論	大坪 紀子	90
インドネシア・マレー語圏の諸言語	山口 真佐夫	92
インドネシア・マレー社会論	上田 達	93
インドネシア語 I	山口 玲子	1023
インドネシア語 II	大坪 紀子	1024
インドネシア語 II a	山口 玲子	94
インドネシア語 II b	大坪 紀子	95
インドネシア語 III	山口 真佐夫	1025
インドネシア語 III a	山口 真佐夫	96
インドネシア語 III b	森田 良成	97
インドネシア語 IV	森田 良成	1026
インドネシア語 コムニカシ II a	エニ レスタリ	98
インドネシア語 コムニカシ II b	エニ レスタリ	99
インドネシア語 コムニカシ I a	エニ レスタリ	100
インドネシア語 コムニカシ I b	エニ レスタリ	101
インドネシア語 コムニカシ II a (1)	エニ レスタリ	102
インドネシア語 コムニカシ II a (2)	エニ レスタリ	103
インドネシア語 コムニカシ III a	エニ レスタリ	104
インドネシア語 コムニカシ III b	エニ レスタリ	105
インドネシア語入門 a (1)	山口 真佐夫	106
インドネシア語入門 a (2)	浦野 崇央	107
インドネシア語入門 b (1)	山口 真佐夫	108
インドネシア語入門 b (2)	浦野 崇央	109
インドネシア語入門 b (3)	山口 真佐夫	110
インドネシア語表現法	大坪 紀子	111
インドネシア語表現法 a	大坪 紀子	113
インドネシア語ボキャブラリー a	山口 玲子	115
インドネシア語ボキャブラリー b	森田 良成	116
インドネシア・マレー語学研究	山口 玲子	117

エ

エアラインビジネス論	塩崎 裕司	118
エアラインビジネス論 I	塩崎 裕司	120
エアラインビジネス論 II	塩崎 裕司	122
映画のスペイン語 I	オラシオ ゴメス	124
映画のスペイン語 I	ディアス イバン	125
映画のスペイン語 II	オラシオ ゴメス	126
映画のスペイン語 II	ディアス イバン	127
映画のスペイン語 II	ディアス イバン	128
映画のスペイン語 III	ディアス イバン	129
英語 I	有本 好一郎	1027
英語 I	関 初海	1028
英語 I	関 初海	1030
英語 I	李 孝聖	1032
英語 I	井原 駿	1034

科目名	担当者	ページ
英語Ⅰ	曾 我 直 隆	1036
英語Ⅰ	金 原 真由美	1038
英語Ⅱ	関 初 海	1040
英語Ⅱ	有 本 好一郎	1042
英語Ⅱ	李 孝 聖	1043
英語Ⅱ	関 初 海	1045
英語Ⅱ	曾 我 直 隆	1047
英語Ⅱ	井 原 駿	1049
英語Ⅱ	金 原 真由美	1051
英語Ⅲ	松 井 信 義	1053
英語Ⅳ	松 井 信 義	1054
英語意味論・語用論	住 吉 誠	130
英語科教育法Ⅰ	松 田 早 恵	1275
英語科教育法Ⅱ	齋 藤 安以子	1276
英語科教育法Ⅲ	齋 藤 安以子	1278
英語科教育法Ⅳ	松 田 早 恵	1280
英語学Ⅰ	杉 浦 秀 行	132
英語学Ⅱ	住 吉 誠	133
英語学Ⅲ	鈴 木 大 介	135
英語学概論	杉 浦 秀 行	136
英語圏概論	神 崎 舞	137
英語圏概論	フーパー トッド	138
英語圏概論(北米・ヨーロッパ)	神 崎 舞	139
英語圏概論(北米・ヨーロッパ)	フーパー トッド	140
英語構造論	鈴 木 大 介	141
映像中国語 a	中 西 正 樹	142
映像中国語 b	中 西 正 樹	143
英米文学史	齋 藤 安以子	145
英米文学	天 野 貴 史	147
エコツアーリズム論	手代木 功 基	149
エリアスタディーズ(アフリカ)	早 川 真 悠	150
エリアスタディーズ(オセアニア)	杉 浦 秀 行	152
エリアスタディーズ(北アメリカ)	大原関 一 浩	153
エリアスタディーズ(東南アジア)	森 田 良 成	154
エリアスタディーズ(日本)	赤 澤 春 彦	155
エリアスタディーズ(東アジア)	小 都 晶 子	156
エリアスタディーズ(ヨーロッパ)	林 田 敏 子	157
エリアスタディーズ(ラテンアメリカ)	北 條 ゆかり	158
エンプロイメントデザインⅠ	水 野 武	1248
エンプロイメントデザインⅡ	石 井 三 恵	1250

オ

Oral Communication a	ダンカン ホワイト	159
Oral Communication b	ダンカン ホワイト	160
オーラル コミュニケーションⅠ a	抽 冬 紘 和	161
オーラル コミュニケーションⅠ b	抽 冬 紘 和	162
オーラル コミュニケーションⅡ a	曾 我 直 隆	163
オーラル コミュニケーションⅡ b	曾 我 直 隆	164
音声学	中 島 直 嗣	165

カ

海外インターンシップ	杉 浦 秀 行	166
------------	---------	-----

科目名	担当者	ページ
海外実習	安 達 直 樹	167
海外実習	吉 村 征 洋	168
海外実習	上 田 達	169
海外実習	兪 鳴 蒙	170
海外ビジネスインターンシップ	佐 井 英 子	1131
海外留学事前演習	安 達 直 樹	171
海外留学事前演習	浦 野 崇 央	172
海外留学事前演習	浦 野 崇 央	173
海外留学事前演習	住 吉 誠	174
海外留学事前演習	上 田 達	175
海外留学事前演習	上 田 達	176
海外留学事前演習	神 崎 舞	177
海外留学事前演習	杉 浦 秀 行	178
海外留学事前演習	藤 井 嘉 祥	179
海外留学事前演習	北 條 ゆかり	180
海外留学事前演習	北 條 ゆかり	181
海外留学事前演習	鈴 木 大 介	182
海外留学事前演習	鈴 木 大 介	183
海外留学事前演習	兪 鳴 蒙	184
海外留学事前演習	兪 鳴 蒙	185
海外ワークキャンプ	浅 野 英 一	186
外国語通訳法	エニ レスタリ	187
外国語通訳法	段 飛 虹	188
外国語通訳法	北 條 ゆかり	189
外国語通訳法	湊 由 妃 子	190
外国語翻訳法	安 達 直 樹	191
外国語翻訳法	段 飛 虹	192
外国語翻訳法	湊 由 妃 子	193
カレント イングリッシュ a	矢 富 弘	194
カレント イングリッシュ a	住 吉 誠	196
カレント イングリッシュ a	三 宅 一 平	197
カレント イングリッシュ a	ニール カー	198
カレント イングリッシュ b	矢 富 弘	199
カレント イングリッシュ b	住 吉 誠	200
カレント イングリッシュ b	三 宅 一 平	201
カレント イングリッシュ b	ニール カー	202
環境学	手代木 功 基	1132
観光中国語 a	孫 輝	203
観光中国語 b	孫 輝	204
韓国語Ⅰ	北 島 由 紀 子	1055
韓国語Ⅰ	沈 明 姫	1056
韓国語Ⅱ	北 島 由 紀 子	1057
韓国語Ⅱ	沈 明 姫	1058
韓国語Ⅱ a	北 島 由 紀 子	205
韓国語Ⅱ a	沈 明 姫	206
韓国語Ⅱ b	北 島 由 紀 子	207
韓国語Ⅱ b	沈 明 姫	208
韓国語Ⅲ	李 知 垠	1060
韓国語Ⅲ a	李 知 垠	210
韓国語Ⅲ b	李 知 垠	211
韓国語Ⅳ	李 知 垠	1061

科目名	担当者	ページ
キ		
基礎演習 I	安達直樹	212
基礎演習 I	浦野崇央	213
基礎演習 I	皆本智美	214
基礎演習 I	岩間香	215
基礎演習 I	橋本正俊	216
基礎演習 I	住吉誠	217
基礎演習 I	小川豊生	218
基礎演習 I	小都晶子	219
基礎演習 I	神崎舞	220
基礎演習 I	浅野英一	221
基礎演習 I	中西正樹	222
基礎演習 I	天野貴史	223
基礎演習 I	藤井嘉祥	224
基礎演習 I	北條ゆかり	225
基礎演習 I	林田敏子	226
基礎演習 I	鈴木大介	227
基礎演習 I	齋藤安以子	228
基礎演習 II	吉村征洋	229
基礎演習 II	後藤一章	230
基礎演習 II	山口真佐夫	231
基礎演習 II	柴田陽一	232
基礎演習 II	手代木功基	233
基礎演習 II	松田早恵	234
基礎演習 II	上田達	235
基礎演習 II	杉浦秀行	236
基礎演習 II	赤澤春彦	237
基礎演習 II	大原関一浩	238
基礎演習 II	中島直嗣	239
基礎演習 II	鳥居祐介	240
基礎演習 II	田中悟	241
基礎演習 II	門脇薫	242
基礎演習 II	有馬善一	243
基礎ゼミナール	安達直樹	244
基礎ゼミナール	岩間香	245
基礎ゼミナール	吉村征洋	246
基礎ゼミナール	後藤一章	247
基礎ゼミナール	柴田陽一	248
基礎ゼミナール	住吉誠	249
基礎ゼミナール	小川豊生	250
基礎ゼミナール	小都晶子	251
基礎ゼミナール	上田達	252
基礎ゼミナール	神崎舞	253
基礎ゼミナール	西川眞由美	254
基礎ゼミナール	浅野英一	255
基礎ゼミナール	大原関一浩	256
基礎ゼミナール	中島直嗣	257
基礎ゼミナール	天野貴史	258
基礎ゼミナール	門脇薫	259
基礎ゼミナール	有馬善一	260
基礎マレー語 a	上田達	261

科目名	担当者	ページ
基礎マレー語 b	上田達	262
北河内を知る	荻田喜代一	1133
キャリアデザイン	石井三恵	1252
キャリアプランニング	橋本正俊	1254
キャリアプランニング	中島直嗣	1256
キャリアプランニング	林田敏子	1258
教育課程論	大野順子	1281
教育経営論	朝日素明	1283
教育原理	小山裕樹	1285
教育実習 I	朝日素明	1287
教育実習 II	朝日素明	1288
教育実習 III	朝日素明	1289
教育社会学	大野順子	1290
教育心理学	吉田佐治子	1292
教育相談	吉田佐治子	1293
教育方法論	林茂樹	1294
教職実践演習(中・高)	小山裕樹	1296
教師論	朝日素明	1298
共同体論	林田敏子	263

ク

暮らしの中の文化	岩間香	264
グラマー	鈴木大介	265
クリエイティブビジネス論	針尾大嗣	266
グローバルな視点から多文化共生を考える	糟谷英之	1135
Global Issues	吉村征洋	268
グローバル企業研究	中島直嗣	269
グローバル経済論	野口義直	271
グローバル社会と日本	村上司樹	272
グローバルマーケティング論	田中祥司	273

ケ

経済学入門	原田裕治	1136
経済のしくみ	原田裕治	1137
芸術論	岩間香	1138
芸能と文化	岩間香	275
芸能文化論	岩間香	277
健康論	西村和恵	1062
言語学	山口真佐夫	279
現代学術論	小川豊生	280
現代韓国事情	田中悟	1140
現代社会と法	小野晃正	1142
現代社会論	浦野崇央	281
現代中国論	大西紀	282
現代ビジネス論	牧美喜男	1144
語学教育工学	後藤一章	283

コ

国際関係の基礎理解	田中悟	284
国際関係論	田中悟	286
国際機構論	浅野英一	288
国際協力論	浅野英一	289

科目名	担当者	ページ
国際貢献実習演習	浅野 英一	290
国際社会論	田中 悟	291
国際文化概論Ⅰ	田中 悟	293
国際文化概論Ⅱ	赤澤 春彦	295
国際平和論	田中 悟	296
国際ボランティア論	浅野 英一	298
ことばと意味	西川 眞由美	299
コミュニケーション能力開発	亀田 峻宣	1260
Conflictの表象-20世紀マンガ・アニメの文化誌-	橋本 正俊	1146
Comprehensive English a	松田 早恵	300
Comprehensive English a	鳥居 祐介	302
Comprehensive English b	松田 早恵	304
Comprehensive English b	鳥居 祐介	306

シ

時事インドネシア・マレー語	上田 達	308
時事インドネシア・マレー語 a	上田 達	310
時事問題Ⅰ	香取 泰行	1063
時事問題Ⅰ	山本文子	1064
時事問題Ⅰ	西垣 有	1065
時事問題Ⅰ	早川 真悠	1066
時事問題Ⅱ	香取 泰行	1067
時事問題Ⅱ	山本文子	1068
時事問題Ⅱ	西垣 有	1069
時事問題Ⅱ	早川 真悠	1070
自然科学の理解	大塚 正人	1147
思想と文化	小川 豊生	312
実践インドネシア・マレー語 a	大坪 紀子	313
実践インドネシア・マレー語 b	大坪 紀子	314
社会開発論	手代木 功基	316
社会文化史	林田 敏子	318
就職実践基礎	亀田 峻宣	1149
就職実践基礎	亀田 峻宣	1150
就職実践基礎	亀田 峻宣	1151
就職実践基礎	亀田 峻宣	1152
就職実践基礎	亀田 峻宣	1153
就職実践基礎	橋本 朗子	1154
就職実践基礎	山岡 亮太	1155
生涯学習概論	橋本 孝成	319
生涯学習論	橋本 孝成	320
上級検定インドネシア語	山口 玲子	321
情報処理Ⅰ	星山 幸子	1071
情報処理Ⅰ	星山 幸子	1073
情報処理Ⅰ	藤木 健史	1075
情報処理Ⅰ	藤木 健史	1076
情報処理Ⅱ	星山 幸子	1077
情報処理Ⅱ	星山 幸子	1079
情報処理Ⅱ	藤木 健史	1081
情報処理Ⅱ	藤木 健史	1082
初級検定インドネシア語	山口 玲子	322
食品機能学	青笹 治	1156
初年次ゼミナール	浦野 崇央	323

科目名	担当者	ページ
初年次ゼミナール	皆本 智美	324
初年次ゼミナール	岩間 香	325
初年次ゼミナール	吉村 征洋	326
初年次ゼミナール	橋本 正俊	327
初年次ゼミナール	山口 真佐夫	328
初年次ゼミナール	手代木 功基	329
初年次ゼミナール	赤澤 春彦	330
初年次ゼミナール	浅野 英一	331
初年次ゼミナール	中西 正樹	332
初年次ゼミナール	中島 直嗣	333
初年次ゼミナール	鳥居 祐介	334
初年次ゼミナール	天野 貴史	335
初年次ゼミナール	田中 悟	336
初年次ゼミナール	藤井 嘉祥	337
初年次ゼミナール	有馬 善一	338
初年次ゼミナール	林田 敏子	339
人体の構造と機能	松浦 哲郎	1158
心理学	吉田 佐治子	1159
神話論	小川 豊生	340

ス

数的能力開発	津村 忠	1261
数的能力開発	山岡 亮太	1262
スキルズ トレーニングⅠ a	皆本 智美	341
スキルズ トレーニングⅠ b	天野 貴史	343
スキルズ トレーニング a	杉浦 秀行	345
スキルズ トレーニング a	後藤 一章	346
スキルズ トレーニング a	鈴木 大介	348
スキルズ トレーニング a	鳥居 祐介	349
スキルズ トレーニング a	皆本 智美	350
スキルズ トレーニング a	皆本 智美	351
スキルズ トレーニング b	吉村 征洋	353
スキルズ トレーニング b	鳥居 祐介	355
スキルズ トレーニング b	後藤 一章	357
スキルズ トレーニング b	大原 関一 浩	359
スキルズ トレーニング b	松田 早恵	361
スキルズ トレーニング b	天野 貴史	363
スピーキングⅠ a	ジェフリー ベル	365
スピーキングⅠ b	ジェフリー ベル	366
スピーキングⅡ a	ブルース ライリー	367
スピーキングⅡ b	ブルース ライリー	368
スピーキング&ライティングⅠ a	フーパー トッド	369
スピーキング&ライティングⅠ a	ダニエル マリンズ	370
スピーキング&ライティングⅠ a	リチャード ダイアース	371
スピーキング&ライティングⅠ a	グラント パーミンハム	372
スピーキング&ライティングⅠ a	マーティン オイクル	373
スピーキング&ライティングⅠ a	ジェーン パーメンター	374
スピーキング&ライティングⅠ a	久田 歩	375
スピーキング&ライティングⅠ a	スコット ライリー	376
スピーキング&ライティングⅠ a	ニール カー	377
スピーキング&ライティングⅠ a	ジェフリー ベル	378
スピーキング&ライティングⅠ b	フーパー トッド	379

科目名	担当者	ページ
スピーキング&ライティングⅠ b	ダニエル マリンズ	380
スピーキング&ライティングⅠ b	リチャード ダイアース	381
スピーキング&ライティングⅠ b	グラント パーミンハム	382
スピーキング&ライティングⅠ b	マーティン オイクル	383
スピーキング&ライティングⅠ b	ジェーン パーメンター	384
スピーキング&ライティングⅠ b	久 田 歩	385
スピーキング&ライティングⅠ b	スコット ライリー	386
スピーキング&ライティングⅠ b	ニール カー	387
スピーキング&ライティングⅠ b	ジェフリー ベル	388
スピーキング&ライティングⅡ a	スコット ライリー	389
スピーキング&ライティングⅡ a	アイビス ウイリアム	390
スピーキング&ライティングⅡ a	ダニエル マリンズ	391
スピーキング&ライティングⅡ a	マイケル ハーキー	392
スピーキング&ライティングⅡ a	グラント パーミンハム	393
スピーキング&ライティングⅡ a	ジョン カール	394
スピーキング&ライティングⅡ a	ブライアン スレーター	395
スピーキング&ライティングⅡ a	ブルース ライリー	396
スピーキング&ライティングⅡ b	スコット ライリー	397
スピーキング&ライティングⅡ b	アイビス ウイリアム	398
スピーキング&ライティングⅡ b	ダニエル マリンズ	399
スピーキング&ライティングⅡ b	マイケル ハーキー	400
スピーキング&ライティングⅡ b	グラント パーミンハム	401
スピーキング&ライティングⅡ b	ジョン カール	402
スピーキング&ライティングⅡ b	ブライアン スレーター	403
スピーキング&ライティングⅡ b	ブルース ライリー	404
スピーキング&ライティングⅢ a	ジョセフ シウンシ	405
スピーキング&ライティングⅢ a	ジェーン パーメンター	406
スピーキング&ライティングⅢ a	アーサー ロリングスン	407
スピーキング&ライティングⅢ a	杉 浦 秀 行	408
スピーキング&ライティングⅢ a	中 道 英美子	409
スピーキング&ライティングⅢ a	中 村 信 之	410
スピーキング&ライティングⅢ a	抽 冬 紘 和	411
スピーキング&ライティングⅢ b	ジョセフ シウンシ	412
スピーキング&ライティングⅢ b	ジェーン パーメンター	413
スピーキング&ライティングⅢ b	アーサー ロリングスン	414
スピーキング&ライティングⅢ b	杉 浦 秀 行	415
スピーキング&ライティングⅢ b	中 道 英美子	416
スピーキング&ライティングⅢ b	中 村 信 之	417
スピーキング&ライティングⅢ b	抽 冬 紘 和	418
スペイン語Ⅰ	篠原 愛人	1083
スペイン語Ⅰ	北 條 ゆかり	1084
スペイン語Ⅱ	篠原 愛人	1086
スペイン語Ⅱ a	北 條 ゆかり	419
スペイン語Ⅱ b	篠原 愛人	421
スペイン語Ⅲ	西村 初美	1087
スペイン語Ⅲ a	西村 初美	422
スペイン語Ⅲ b	西村 初美	424
スペイン語Ⅳ	西村 初美	1089
スペイン語応用Ⅰ	安達 直樹	426
スペイン語応用Ⅰ	林 安紀子	428
スペイン語応用Ⅱ	林 安紀子	430
スペイン語応用Ⅱ	磯野 吉美	432

科目名	担当者	ページ
スペイン語オラルⅡ A	ヘスス マルティン	434
スペイン語オラルⅡ A	アラセリ コラール	436
スペイン語オラルⅠ	アラセリ コラール	438
スペイン語オラルⅠ	ヘスス マルティン	440
スペイン語オラルⅡ	ヘスス マルティン	442
スペイン語オラルⅡ	アラセリ コラール	444
スペイン語オラルⅢ	オラシオ ゴメス	446
スペイン語オラルⅢ	ディアス イバン	447
スペイン語オラルⅣ	ディアス イバン	448
スペイン語オラルⅣ	オラシオ ゴメス	450
スペイン語オラルⅠ A	アラセリ コラール	452
スペイン語オラルⅠ A	ヘスス マルティン	454
スペイン語オラルⅢ A	オラシオ ゴメス	456
スペイン語オラルⅢ A	ディアス イバン	457
スペイン語オラルⅣ A	ディアス イバン	458
スペイン語オラルⅣ A	オラシオ ゴメス	460
スペイン語オラルⅤ	アラセリ コラール	462
スペイン語オラルⅤ	ヘスス マルティン	463
スペイン語オラルⅥ	ヘスス マルティン	464
スペイン語オラルⅥ	アラセリ コラール	465
スペイン語オラルⅦ	オラシオ ゴメス	466
スペイン語オラルⅧ	オラシオ ゴメス	467
スペイン語基礎A	北 條 ゆかり	469
スペイン語基礎A	西村 初美	470
スペイン語基礎B	三浦 知佐子	471
スペイン語基礎B	藤井 嘉祥	472
スペイン語基礎C	篠原 愛人	473
スペイン語基礎C	安達 直樹	474
スペイン語圏概論	安達 直樹	475
スペイン語圏トピックスⅣ	安達 直樹	476
スペイン語圏トピックスⅣ	林 安紀子	477
スペイン語講読Ⅰ	三浦 知佐子	478
スペイン語講読Ⅰ	藤井 嘉祥	479
スペイン語講読Ⅱ	藤井 嘉祥	480
スペイン語講読Ⅱ	三浦 知佐子	481
スペイン語総合A	北 條 ゆかり	482
スペイン語総合A	西村 初美	484
スペイン語総合B	林 安紀子	486
スペイン語総合B	安達 直樹	488
スペイン語通訳Ⅰ	北 條 ゆかり	490
スペイン語通訳Ⅱ	北 條 ゆかり	491
スペイン語通訳ガイドⅠ	北 條 ゆかり	492
スペイン語通訳ガイドⅡ	北 條 ゆかり	493
スペイン語トピックス	安達 直樹	494
スペイン語トピックス	林 安紀子	495
スペイン語入門A	西村 初美	496
スペイン語入門A	北 條 ゆかり	497
スペイン語入門B	藤井 嘉祥	498
スペイン語入門B	三浦 知佐子	499
スペイン語入門C	安達 直樹	500
スペイン語入門C	篠原 愛人	501
スペイン語プレゼンテーションⅠ	オラシオ ゴメス	502

科目名	担当者	ページ
スペイン語プレゼンテーションⅡ	オラシオ ゴメス	503
スペイン語文章構成Ⅰ	藤井嘉祥	505
スペイン語文章構成Ⅰ	磯野吉美	506
スペイン語文章構成Ⅱ	磯野吉美	507
スペイン語文章構成Ⅱ	藤井嘉祥	508
スペイン語文章構成Ⅲ	磯野吉美	509
スペイン語文章構成Ⅲ	林安紀子	510
スペイン語文章構成Ⅳ	藤井嘉祥	511
スペイン語文章構成Ⅳ	磯野吉美	512
スペシャリストインドネシア・マレー語	上田達	513
スポーツ科学実習Ⅰ	横山喬之	1091
スポーツ科学実習Ⅰ	横山喬之	1092
スポーツ科学実習Ⅱ	横山喬之	1093
スポーツ科学実習Ⅱ	横山喬之	1094
住まいとデザイン	北本裕之	1160
住まいとデザイン	岩波由佳	1162

セ

青少年育成ファシリテーター養成講座	浅野英一	1164
生徒指導論	朝日素明	1300
生物と環境	手代木功基	1165
生命と物質	松浦哲郎	1167
世界の政治	田中悟	1168
世界の歴史	林田敏子	514
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	一色美博	1170
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	栢木紀哉	1171
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	吉田佐治子	1172
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	久保貞也	1173
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	居場嘉教	1174
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	橋本正治	1175
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	上野山裕士	1176
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	水野武	1177
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石井信輝	1178
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石田裕子	1179
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	浅野英一	1180
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	大田住吉	1181
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	鶴坂貴恵	1182
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	藤林真美	1183
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	尾山廣	1184
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	一色美博	1185
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	栢木紀哉	1186
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	吉田佐治子	1187
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	久保貞也	1188
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	居場嘉教	1189
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	橋本正治	1190
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	上野山裕士	1191
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	水野武	1192
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石井信輝	1193
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石田裕子	1194
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	浅野英一	1195
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	大田住吉	1196
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	鶴坂貴恵	1197

科目名	担当者	ページ
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	藤林真美	1198
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	尾山廣	1199
専門日本語FⅠ	佐々木成美	1095
専門日本語FⅡ	門脇薫	1096
専門日本語R	佐々木成美	1097

ソ

総合インドネシア語a(1)	浦野崇央	515
総合インドネシア語a(2)	山口真佐夫	516
総合インドネシア語b(1)	浦野崇央	517
総合インドネシア語b(2)	山口真佐夫	518
総合スペイン語Ⅰ	安達直樹	519
総合スペイン語Ⅰ	林安紀子	521
総合スペイン語Ⅱ	林安紀子	523
総合スペイン語Ⅱ	磯野吉美	525
総合スペイン語ⅢA	北條ゆかり	527
総合スペイン語ⅢA	西村初美	529
総合スペイン語ⅢB	林安紀子	531
総合スペイン語ⅢB	安達直樹	533
総合中国語a	中西正樹	535
総合中国語b	中西正樹	536
総合マレー語a	上田達	537
総合マレー語b	上田達	538
ソーシャル・イノベーション実務総論	石井三恵	1200
組織と経営	西之坊穂	1202
卒業研究Ⅰ	フーバー トッド	539
卒業研究Ⅰ	マイケル ハーキー	540
卒業研究Ⅰ	安達直樹	541
卒業研究Ⅰ	浦野崇央	542
卒業研究Ⅰ	家口美智子	543
卒業研究Ⅰ	皆本智美	544
卒業研究Ⅰ	岩間香	545
卒業研究Ⅰ	吉村征洋	546
卒業研究Ⅰ	橋本正俊	547
卒業研究Ⅰ	後藤一章	548
卒業研究Ⅰ	山口真佐夫	549
卒業研究Ⅰ	柴田陽一	550
卒業研究Ⅰ	手代木功基	551
卒業研究Ⅰ	住吉誠	552
卒業研究Ⅰ	小川豊生	553
卒業研究Ⅰ	松田早恵	554
卒業研究Ⅰ	上田達	555
卒業研究Ⅰ	神崎舞	556
卒業研究Ⅰ	杉浦秀行	557
卒業研究Ⅰ	西川真由美	558
卒業研究Ⅰ	赤澤春彦	559
卒業研究Ⅰ	浅野英一	560
卒業研究Ⅰ	大原関一浩	561
卒業研究Ⅰ	中西正樹	562
卒業研究Ⅰ	中島直嗣	563
卒業研究Ⅰ	鳥居祐介	564
卒業研究Ⅰ	天野貴史	565

科目名	担当者	ページ
卒業研究 I	田浦 アマンダ	566
卒業研究 I	田 中 悟	567
卒業研究 I	田 中 秀 毅	568
卒業研究 I	北 條 ゆかり	569
卒業研究 I	門 脇 薫	570
卒業研究 I	有 馬 善 一	571
卒業研究 I	林 田 敏 子	572
卒業研究 I	鈴 木 大 介	573
卒業研究 I	兪 鳴 蒙	574
卒業研究 I	齋 藤 安以子	575
卒業研究 II	フーパー トッド	576
卒業研究 II	マイケル ハーキー	577
卒業研究 II	安 達 直 樹	578
卒業研究 II	浦 野 崇 央	579
卒業研究 II	家 口 美智子	580
卒業研究 II	皆 本 智 美	581
卒業研究 II	岩 間 香	582
卒業研究 II	吉 村 征 洋	583
卒業研究 II	橋 本 正 俊	584
卒業研究 II	後 藤 一 章	585
卒業研究 II	山 口 真佐夫	586
卒業研究 II	柴 田 陽 一	587
卒業研究 II	手代木 功 基	588
卒業研究 II	住 吉 誠	589
卒業研究 II	小 川 豊 生	590
卒業研究 II	松 田 早 恵	591
卒業研究 II	上 田 達	592
卒業研究 II	神 崎 舞	593
卒業研究 II	杉 浦 秀 行	594
卒業研究 II	西 川 眞由美	595
卒業研究 II	赤 澤 春 彦	596
卒業研究 II	浅 野 英 一	597
卒業研究 II	大原関 一 浩	598
卒業研究 II	中 西 正 樹	599
卒業研究 II	中 島 直 嗣	600
卒業研究 II	鳥 居 祐 介	601
卒業研究 II	天 野 貴 史	602
卒業研究 II	田浦 アマンダ	603
卒業研究 II	田 中 悟	604
卒業研究 II	田 中 秀 毅	605
卒業研究 II	北 條 ゆかり	606
卒業研究 II	門 脇 薫	607
卒業研究 II	有 馬 善 一	608
卒業研究 II	林 田 敏 子	609
卒業研究 II	鈴 木 大 介	610
卒業研究 II	兪 鳴 蒙	611
卒業研究 II	齋 藤 安以子	612

夕

大学教養入門	荻 田 喜代一	1204
体験型特別実習 A	沖 中 美 喜	613
体験型特別実習 B	中 西 正 樹	614

科目名	担当者	ページ
大衆文化論	森 本 誠 一	615
ダイバーシティとコミュニケーション	石 井 三 恵	1206
旅と観光の地理	柴 田 陽 一	617
旅の文学	小 川 豊 生	618
多文化共生論	柴 田 陽 一	619
多文化の共生	柴 田 陽 一	620

チ

地域環境論	手代木 功 基	621
地域貢献実践演習	鶴 坂 貴 恵	1208
地域と国際ビジネス	中 島 直 嗣	622
地域と私	鶴 坂 貴 恵	1209
地域連携教育活動 I	吉 田 佐治子	1211
地域連携教育活動 II	吉 田 佐治子	1212
チームビルディング	水 野 武	1213
中級検定インドネシア語	山 口 玲 子	624
中国語 I	孫 輝	1098
中国語 I	宋 東 平	1099
中国語 II	孫 輝	1100
中国語 II	宋 東 平	1101
中国語 II a	孫 輝	625
中国語 II a	宋 東 平	626
中国語 II b	孫 輝	627
中国語 II b	宋 東 平	628
中国語 III	兪 鳴 蒙	1102
中国語 III a	兪 鳴 蒙	629
中国語 III b	欒 玉 璽	631
中国語 IV	欒 玉 璽	1104
中国語 L L I a	兪 鳴 蒙	632
中国語 L L I a	小 都 晶 子	633
中国語 L L I b	兪 鳴 蒙	634
中国語 L L I b	小 都 晶 子	635
中国語 L L II a	小 都 晶 子	636
中国語 L L II a	馮 艶	637
中国語 L L II b	小 都 晶 子	638
中国語 L L II b	馮 艶	639
中国語圏概論	瀬 戸 宏	640
中国語会話 I a	大 西 紀	641
中国語会話 I a	曹 櫻	642
中国語会話 I b	大 西 紀	643
中国語会話 I b	曹 櫻	644
中国語会話 II a	段 飛 虹	645
中国語会話 II a	曹 櫻	646
中国語会話 II b	段 飛 虹	647
中国語会話 II b	曹 櫻	648
中国語会話表現法 I a	馮 艶	649
中国語会話表現法 I b	馮 艶	650
中国語会話表現法 II a	曹 櫻	651
中国語会話表現法 II b	曹 櫻	652
中国語科教育法 I	瀬 戸 宏	1301
中国語科教育法 II	中 西 正 樹	1302
中国語科教育法 III	中 西 正 樹	1304

科目名	担当者	ページ
中国語科教育法Ⅳ	俞 鳴 蒙	1305
中国語学Ⅰ	中 西 正 樹	653
中国語学Ⅱ	俞 鳴 蒙	654
中国語原書講読Ⅰ a	孫 輝	655
中国語原書講読Ⅰ b	孫 輝	656
中国語原書講読Ⅱ a	俞 鳴 蒙	657
中国語原書講読Ⅱ b	俞 鳴 蒙	658
中国語語彙論	俞 鳴 蒙	659
中国語講読Ⅰ a	俞 鳴 蒙	660
中国語講読Ⅰ b	樂 玉 璽	661
中国語講読Ⅱ a	中 西 正 樹	662
中国語講読Ⅱ b	中 西 正 樹	663
中国語コミュニケーション a	孫 輝	664
中国語コミュニケーション b	孫 輝	665
中国語作文Ⅰ a	宋 東 平	666
中国語作文Ⅰ b	宋 東 平	667
中国語作文Ⅱ a	俞 鳴 蒙	668
中国語作文Ⅱ b	俞 鳴 蒙	669
中国語視聴専科 a	中 西 正 樹	670
中国語視聴専科 b	中 西 正 樹	671
中国語トピックス a	大 西 紀	673
中国語トピックス b	大 西 紀	674
中国語プレゼンテーション a	馮 艶	675
中国語プレゼンテーション a	中 西 正 樹	676
中国語プレゼンテーション b	馮 艶	677
中国語プレゼンテーション b	中 西 正 樹	678
中国語文字論	中 西 正 樹	679
中国語を書くⅠ a	宋 東 平	680
中国語を書くⅠ b	宋 東 平	681
中国語を書くⅡ a	俞 鳴 蒙	682
中国語を書くⅡ b	俞 鳴 蒙	683
中国語を聞くⅠ a	俞 鳴 蒙	684
中国語を聞くⅠ a	小 都 晶 子	685
中国語を聞くⅠ b	俞 鳴 蒙	686
中国語を聞くⅠ b	小 都 晶 子	687
中国語を聞くⅡ a	小 都 晶 子	688
中国語を聞くⅡ a	馮 艶	689
中国語を聞くⅡ b	小 都 晶 子	690
中国語を聞くⅡ b	馮 艶	691
中国語を話すⅠ a	大 西 紀	692
中国語を話すⅠ a	曹 櫻	693
中国語を話すⅠ b	大 西 紀	694
中国語を話すⅠ b	曹 櫻	695
中国語を話すⅡ a	段 飛 虹	696
中国語を話すⅡ a	曹 櫻	697
中国語を話すⅡ b	段 飛 虹	698
中国語を話すⅡ b	曹 櫻	699
中国語を読むⅠ a	俞 鳴 蒙	700
中国語を読むⅠ b	樂 玉 璽	701
中国語を読むⅡ a	中 西 正 樹	702
中国語を読むⅡ b	中 西 正 樹	703
中国史学	小 都 晶 子	704

科目名	担当者	ページ
中国地誌学	小 都 晶 子	705
中国文学	瀬 戸 宏	706
ツ		
通訳・翻訳インドネシア・マレー語	山 口 玲 子	707
ツーリズム論Ⅰ	手代木 功 基	708
ツーリズム論Ⅱ	柴 田 陽 一	709
テ		
ディスプレイ論	松 浦 清	710
ディスプレイ論	松 浦 清	712
Debate & Presentation a	久 田 歩	714
Debate & Presentation b	齋 藤 安以子	716
哲学から学ぶ	有 馬 善 一	1214
哲学と倫理	有 馬 善 一	717
ト		
道德教育の研究	小 山 裕 樹	1306
東南アジア史学	森 田 良 成	718
東南アジア人類学	森 田 良 成	719
東南アジア地誌学	森 田 良 成	720
特別活動の理論と方法	林 茂 樹	1308
トピック スタディーズⅠ	ジェフリー ベル	721
トピック スタディーズⅠ	ニール カー	722
トピック スタディーズⅠ	ブライアン スレーター	723
トピック スタディーズⅠ	永 富 真 梨	725
トピック スタディーズⅠ a	ジェフリー ベル	726
トピック スタディーズⅠ a	ニール カー	727
トピック スタディーズⅠ a	ブライアン スレーター	728
トピック スタディーズⅠ a	永 富 真 梨	730
トピック スタディーズⅠ b	ジェフリー ベル	732
トピック スタディーズⅠ b	ニール カー	733
トピック スタディーズⅠ b	ブライアン スレーター	734
トピック スタディーズⅠ b	永 富 真 梨	736
トピック スタディーズⅡ	アーサー ロングスン	737
トピック スタディーズⅡ	リチャード ダイアース	738
トピック スタディーズⅡ	金 原 真由美	740
トピック スタディーズⅡ	抽 冬 紘 和	742
トピック スタディーズⅡ a	アーサー ロングスン	743
トピック スタディーズⅡ a	アイビス ウィリアム	744
トピック スタディーズⅡ a	金 原 真由美	745
トピック スタディーズⅡ a	抽 冬 紘 和	747
トピック スタディーズⅡ b	アーサー ロングスン	748
トピック スタディーズⅡ b	リチャード ダイアース	749
トピック スタディーズⅡ b	金 原 真由美	751
トピック スタディーズⅡ b	抽 冬 紘 和	753
ドラマ	神 崎 舞	754
ドラマ	ニール カー	755
ドラマ	久 田 歩	756
ドラマ	スコット ライリー	757
ドラマ	ダニエル マリンズ	758
ドラマⅠ	神 崎 舞	759

科目名	担当者	ページ
ドラマ I	ニール カー	760
ドラマ I	久田 歩	761
ドラマ I	スコット ライリー	762
ドラマ I	ダニエル マリンズ	763
トランスレーション トレーニング a	齋藤 安以子	764
トランスレーション トレーニング b	齋藤 安以子	766

二

日米関係論	有馬 善一	768
日米比較文化	鳥居 祐介	769
日米文化交流史	大原関 一浩	771
日本語音韻論	橋本 正俊	772
日本語会話 F I	藤原 京佳	1105
日本語会話 F II	藤原 京佳	1106
日本語会話 R	藤原 京佳	1107
日本語学 I	橋本 正俊	773
日本語学 II	橋本 正俊	774
日本語学 III	小川 豊生	775
日本語学 IV	小川 豊生	776
日本語教育実習演習	門脇 薫	777
日本語教授法 I	塩谷 尚子	779
日本語教授法 II	後藤 多恵	780
日本語教授法 III	門脇 薫	782
日本国憲法	小野 晃正	1215
日本語語彙論	小川 豊生	783
日本語史概説	橋本 正俊	784
日本語総合 F I	古川 由理子	1108
日本語総合 F II	古川 由理子	1109
日本語総合 R	古川 由理子	1110
日本語読解 F I	佐々木 成美	1111
日本語読解 F II	佐々木 成美	1112
日本語読解 R	佐々木 成美	1113
日本語能力開発 I	細川 知佐子	1263
日本語能力開発 I	人形寺 英利子	1264
日本語能力開発 I	人形寺 英利子	1265
日本語能力開発 I	高嶋 藍	1266
日本語能力開発 II	細川 知佐子	1267
日本語能力開発 II	人形寺 英利子	1268
日本語能力開発 II	人形寺 英利子	1269
日本語能力開発 II	高嶋 藍	1270
日本語表現作文 F I	佐々木 成美	1114
日本語表現作文 F II	佐々木 成美	1115
日本語表現作文 R	佐々木 成美	1116
日本語表現論	橋本 正俊	785
日本語文法 F I	佐々木 成美	1117
日本語文法 F II	佐々木 成美	1118
日本語文法 R	佐々木 成美	1119
日本語文法論	小川 豊生	786
日本史学	赤澤 春彦	787
日本事情 F I	梅野 将之	1120
日本事情 F II	門脇 薫	1121
日本事情 R I	梅野 将之	1122

科目名	担当者	ページ
日本事情 R II	門脇 薫	1123
日本と世界の出会い	村上 司樹	788
日本の思想	赤澤 春彦	789
日本の歴史	赤澤 春彦	790
日本文学	小川 豊生	791
人間の探求	池田 清	1217

ノ

脳の情報処理	寺内 睦博	1218
--------	-------	------

ハ

博物館概論	谷 直樹	792
博物館教育論	松永 和浩	794
博物館実習	谷 直樹	796
博物館情報・メディア論	中川 馨	797
博物館資料保存論	赤澤 春彦	798
博物館資料論	岩間 香	799
パッケージプログラム演習	塩崎 裕司	800
パッケージプログラム演習	住吉 誠	801
パッケージプログラム演習	中西 正樹	802
パッケージプログラム演習	中島 直嗣	803
パッケージプログラム演習	田中 悟	804
パッケージプログラム演習	林田 敏子	805
犯罪被害者の支援と法的救済	小野 晃正	1219

ヒ

ビジネス イングリッシュ a	井原 駿	806
ビジネス イングリッシュ b	井原 駿	807
ビジネスインドネシア・マレー語	エニ レスタリ	808
ビジネスインドネシア語	エニ レスタリ	809
ビジネスコミュニケーション論	石井 三恵	810
ビジネス心理学	牧野 幸志	812
ビジネス中国語 a	中西 正樹	813
ビジネス中国語 b	中西 正樹	814
ビジネスマナー	奥田 和子	1271
ビジュアルデザイン論	北村 元成	815
美術の歩み	岩間 香	816

フ

風土と地理	柴田 陽一	818
Practical English Conversation	田浦 アマンダ	819
Practical English Conversation	リチャード ダイアース	820
フランス語 I	中井 裕之	1124
フランス語 II	中井 裕之	1125
フランス語 II a	中井 裕之	821
フランス語 II b	中井 裕之	822
フランス語 III	藤本 武司	1126
フランス語 III a	藤本 武司	823
フランス語 III b	藤本 武司	824
フランス語 IV	藤本 武司	1127
プレゼンテーション	フーパー トッド	825
プレゼンテーション	スコット ライリー	826

科目名	担当者	ページ
プレゼンテーション	ニール カー	827
プレゼンテーション	ダニエル マリンズ	828
プレゼンテーション	久田 歩	829
プレゼンテーションインドネシア・マレー語	エニ レスタリ	830
プレゼンテーション論	石井 三恵	1221
フレッシュマン イングリッシュ	皆本 智美	831
プロポーザル・デザイン	北村 浩	1223
文化演習 I	フーパー トッド	832
文化演習 I	マイケル ハーキー	833
文化演習 I	安達 直樹	834
文化演習 I	浦野 崇央	835
文化演習 I	吉村 征洋	836
文化演習 I	橋本 正俊	837
文化演習 I	後藤 一章	838
文化演習 I	山口 真佐夫	839
文化演習 I	柴田 陽一	840
文化演習 I	手代木 功基	841
文化演習 I	住吉 誠	842
文化演習 I	小都 晶子	843
文化演習 I	松田 早恵	844
文化演習 I	上田 達	845
文化演習 I	神崎 舞	846
文化演習 I	杉浦 秀行	847
文化演習 I	西川 真由美	848
文化演習 I	赤澤 春彦	849
文化演習 I	浅野 英一	850
文化演習 I	大原関 一浩	851
文化演習 I	中西 正樹	852
文化演習 I	中島 直嗣	853
文化演習 I	鳥居 祐介	854
文化演習 I	天野 貴史	855
文化演習 I	田浦 アマンダ	856
文化演習 I	田中 悟	857
文化演習 I	北條 ゆかり	858
文化演習 I	有馬 善一	859
文化演習 I	林田 敏子	860
文化演習 I	鈴木 大介	861
文化演習 I	兪 鳴蒙	862
文化演習 I	齋藤 安以子	863
文化演習 II	フーパー トッド	864
文化演習 II	マイケル ハーキー	865
文化演習 II	安達 直樹	866
文化演習 II	浦野 崇央	867
文化演習 II	吉村 征洋	868
文化演習 II	橋本 正俊	869
文化演習 II	後藤 一章	870
文化演習 II	山口 真佐夫	871
文化演習 II	柴田 陽一	872
文化演習 II	手代木 功基	873
文化演習 II	住吉 誠	874
文化演習 II	小都 晶子	875
文化演習 II	松田 早恵	876

科目名	担当者	ページ
文化演習 II	上田 達	877
文化演習 II	神崎 舞	878
文化演習 II	杉浦 秀行	879
文化演習 II	西川 真由美	880
文化演習 II	赤澤 春彦	881
文化演習 II	浅野 英一	882
文化演習 II	大原関 一浩	883
文化演習 II	中西 正樹	884
文化演習 II	中島 直嗣	885
文化演習 II	鳥居 祐介	886
文化演習 II	天野 貴史	887
文化演習 II	田浦 アマンダ	888
文化演習 II	田中 悟	889
文化演習 II	北條 ゆかり	890
文化演習 II	有馬 善一	891
文化演習 II	林田 敏子	892
文化演習 II	鈴木 大介	893
文化演習 II	兪 鳴蒙	894
文化演習 II	齋藤 安以子	895
文化観光実習演習	林田 敏子	896
文化人類学	西垣 有	1225
文化と表現	橋本 正俊	897

へ

平和の思想	田中 悟	898
-------	------	-----

ホ

貿易中国語 a	兪 鳴蒙	900
貿易中国語 b	兪 鳴蒙	901
ボキャブラリー&グラマー a	鳥居 祐介	902
ボキャブラリー&グラマー a	西川 真由美	903
ボキャブラリー&グラマー a	杉浦 秀行	904
ボキャブラリー&グラマー a	中島 直嗣	905
ボキャブラリー&グラマー a	松田 早恵	906
ボキャブラリー&グラマー a	鈴木 大介	907
ボキャブラリー&グラマー a	吉村 征洋	908
ボキャブラリー&グラマー a	大原関 一浩	909
ボキャブラリー&グラマー a	後藤 一章	910
ボキャブラリー&グラマー a	皆本 智美	911
ボキャブラリー&グラマー b	中島 直嗣	912
ボキャブラリー&グラマー b	松田 早恵	913
ボキャブラリー&グラマー b	齋藤 安以子	914
ボキャブラリー&グラマー b	鳥居 祐介	915
ボキャブラリー&グラマー b	大原関 一浩	916
ボキャブラリー&グラマー b	杉浦 秀行	917
ボキャブラリー&グラマー b	後藤 一章	918
ボキャブラリー&グラマー b	西川 真由美	919
ボキャブラリー&グラマー b	吉村 征洋	920
ボキャブラリー&グラマー b	鈴木 大介	921
ホスピタリティ・インターンシップ	塩崎 裕司	922
ホスピタリティ論	沖中 美喜	923
ホテルビジネス論	塩崎 裕司	924

科目名	担当者	ページ
ホテルビジネス論Ⅰ	塩崎裕司	926
ホテルビジネス論Ⅱ	塩崎裕司	928
ボランティア論	浅野英一	930
翻訳文化論	小川豊生	931

マ

マーケティングと歴史	武居奈緒子	1227
マーケティング入門	田中祥司	1228
マイノリティー論	有馬善一	933
マスコミ論	上島誠司	934

ミ

身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中沼丈晃	1230
ミュージアムコレクション論	岩間香	936
ミュージアムへの招待	谷直樹	937
ミュージアムマネジメント論	赤澤春彦	939

メ

メディア イングリッシュ a	マイケル ハーキー	940
メディア イングリッシュ a	抽冬紘和	941
メディア イングリッシュ a	里井真理子	942
メディア イングリッシュ a	中道英美子	943
メディア イングリッシュ a	金原真由美	944
メディア イングリッシュ b	マイケル ハーキー	945
メディア イングリッシュ b	抽冬紘和	946
メディア イングリッシュ b	里井真理子	947
メディア イングリッシュ b	中道英美子	948
メディア イングリッシュ b	金原真由美	949
メディア中国語 a	大西紀	950
メディア中国語 b	大西紀	951
メディアのスペイン語Ⅰ	三浦知佐子	952
メディアのスペイン語Ⅰ	藤井嘉祥	953
メディアのスペイン語Ⅰ	安達直樹	954
メディアのスペイン語Ⅱ	藤井嘉祥	955
メディアのスペイン語Ⅱ	三浦知佐子	956
メディアのスペイン語Ⅱ	篠原愛人	957
メディアのスペイン語Ⅲ	安達直樹	958
メディアのスペイン語Ⅲ	篠原愛人	959
メディア文化論	森本誠一	960
メディアリテラシー論	有馬善一	962

モ

ものづくりインターンシップ基礎	奥野竜平	1232
ものづくりインターンシップ基礎	諏訪晴彦	1234
ものづくりインターンシップ実践	奥野竜平	1235
ものづくり海外インターンシップ	諏訪晴彦	1237
ものづくり研究の世界	堀江昌朗	1238

ヤ

役立つ金融知力	陸川富盛	1240
---------	------	------

科目名	担当者	ページ
ヨーロッパ史学	林田敏子	964

ラ

ライティング a	アーサー ロングソン	965
ライティング a	アイビス ウィリアム	966
ライティング a	金原真由美	967
ライティング a	抽冬紘和	969
ライティング b	ブライアン スレーター	970
ライフサイエンスの基礎	西矢芳昭	1242
ラテンアメリカの社会と文化	北條ゆかり	972

リ

リーディングⅠ a	住吉誠	973
リーディングⅠ a	湊由妃子	975
リーディングⅠ a	里井真理子	976
リーディングⅠ a	金原真由美	978
リーディングⅠ a	西谷継治	979
リーディングⅠ a	ジェーン パーメンター	981
リーディングⅠ b	住吉誠	983
リーディングⅠ b	湊由妃子	984
リーディングⅠ b	里井真理子	985
リーディングⅠ b	金原真由美	987
リーディングⅠ b	西谷継治	988
リーディングⅠ b	ジェーン パーメンター	989
リーディングⅡ a	吉村征洋	991
リーディングⅡ a	湊由妃子	993
リーディングⅡ a	グラント パーミンハム	995
リーディングⅡ a	リチャード ダイアース	997
リーディングⅡ a	マーティン オイクル	999
リーディングⅡ b	吉村征洋	1001
リーディングⅡ b	湊由妃子	1003
リーディングⅡ b	グラント パーミンハム	1005
リーディングⅡ b	リチャード ダイアース	1007
リーディングⅡ b	マーティン オイクル	1008
リーディングⅢ a	鈴木大介	1010
リーディングⅢ a	抽冬紘和	1011
リーディングⅢ a	有本好一郎	1012
リーディングⅢ a	松井信義	1013
リーディングⅢ b	鈴木大介	1014
リーディングⅢ b	抽冬紘和	1015
リーディングⅢ b	有本好一郎	1016
リーディングⅢ b	松井信義	1017
旅行インドネシア・マレー語	大坪紀子	1018
旅行インドネシア語	大坪紀子	1019

專 門 科 目

科目名	アーバンツーリズム論	科目名(英文)	Urban Tourism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<p>アーバンツーリズム(都市観光)とは、都市が有する歴史的・文化的遺産を活かしながら、都市経済および都市環境の再生を目指す、比較的新しい観光の形である。芸術、娯楽、ショッピングを楽しんだり、その都市の町並みや市民の暮らしに触れたりすることも含まれている。</p> <p>本講義では、アーバンツーリズムに関する基礎知識を学び、具体例からその現状と課題、今後の展望について考える。受講者が「観光まちづくり」への理解を深め、ゲストとホストの立場から観光プランを考案する力を養うことを目的とする。</p> <p>※この科目は、「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目である。</p>
到達目標	アーバンツーリズム(都市観光)に関する基礎知識を習得し、それをふまえて、ゲストとホストの立場から「都市観光プラン」と「観光まちづくりプラン」を考案することができる。
授業方法と留意点	配付資料とパワーポイントを用いて授業を進める。何度かグループディスカッションの時間を設ける。期末にはグループ発表を行ってもらう。日ごろから観光に関する報道(TVニュース、新聞、ネットなど)に関心を払うこと。
科目学習の効果(資格)	アーバンツーリズム(都市観光)について学習・理解することにより、将来の進路決定をする際の一つの判断材料として役立てることができる(とはいえ、特に公的資格には直接つながらない)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、参考書の紹介など	特になし
2	都市の形成と衰退①	都市の形成と衰退について、特に交通機関の発達との関連から考える	ふだん利用する交通機関がいつできたものかを調べる
3	都市の形成と衰退②	都市の形成と衰退について、特に交通機関の発達との関連から考える	大学周辺(寝屋川市)の都市形成について調べ、幾つかの住宅地や旧集落を訪ねてみる
4	都市の類型	都市の立地条件・形態・機能から、その類型を考える	自分の住んでいる都市の立地条件・形態・機能を調べ、どの類型に当てはまるかを考える
5	観光(ツーリズム)の歴史	近代から現代に至る観光(ツーリズム)の歴史を、社会状況と観光形態の変化など、重要な点に絞った形で振り返る	紹介した参考文献を読む
6	観光目的の変化	特にグローバル化、ポストモダン社会に注目し、それがもたらした観光目的の変化を考える	紹介した参考文献を読む
7	アーバンツーリズム(都市観光)の意義	アーバンツーリズム(都市観光)が生まれた背景と、それがもつ意義を考える	紹介した参考文献を読む
8	都市観光プランと観光まちづくりプラン	ゲストとホストの視点から、都市観光について考える。「観光まちづくり」の概念とそのねらいを考える	各プランの要点を抑え、各グループで発表の準備をする
9	都市のイメージ、アイデンティティ	アーバンツーリズム(都市観光)を考える上で欠かせない都市のイメージ、アイデンティティの形成・変容・影響について考える	日本と外国のガイドブックの中で、同じ都市がどのように紹介されているかを比較する
10	京阪神、外国都市の事例①	京阪神、外国都市の事例からアーバンツーリズムについて考える	授業で紹介した事例と比較しながら、各グループで発表の準備をする
11	京阪神、外国都市の事例②	京阪神、外国都市の事例からアーバンツーリズムについて考える	授業で紹介した事例と比較しながら、各グループで発表の準備をする
12	巡検①	講義2回分を利用し、アーバンツーリズム(都市観光)の現場を巡検する(ただし、受講生が多い場合は実施しない)。目的地は講義中に決める	巡検で観察した事例と比較しながら、各グループで発表の準備をする
13	巡検②	講義2回分を利用し、アーバンツーリズム(都市観光)の現場を巡検する(ただし、受講生が多い場合は実施しない)。目的地は講義中に決める	巡検で観察した事例と比較しながら、各グループで発表の準備をする
14	グループ発表①	ゲストの立場から、都市観光プランに関するグループ発表を行う	各グループで発表の準備をする
15	グループ発表②	ホストの立場から、観光まちづくりプランに関するグループ発表を行う	期末レポートを作成する

関連科目	「エコツーリズム論」「風土と地理」など
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	都市観光-まちの観光-	須田寛	交通新聞社
	2	アーバンツーリズム	淡野明彦	古今書院
	3	「観光まちづくり」再考-内発的観光の展開へ向けて-	安福恵美子編	古今書院

評価方法(基準)	期末レポート 50%、グループ発表 30%、授業中課題 20%
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	訪日外国人の増加や2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、観光産業はますます重要性を増している。加えてアーバンツーリズム(都市観光)は、わたしたちが日常的に接している場所で行われていることでもある。したがって、観光関連産業を将来の進路として考えている学生はもちろん、そうでない学生も興味をもって学習できる内容であろう。身近な場所を捉え直す視点を獲得しよう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 柴田研究室
備考	

科目名	Academic Writing	科目名 (英文)	Academic Writing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	留学先の大学や帰国後の専門課程での学びに適したライティングスキル (パラグラフライティング) を習得する。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。また、留学生活に必要な書類の書き方や英文メールの書き方を学ぶ。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 海外留学において必要となるライティングスキル (書類や英文メールの書き方、エッセイの書き方) を養う。 エッセイやレポートの書式は、Setsunan Academic Essay Guidelineに従う。 課題等は添削された後、合格基準に到達するまで再提出が求められる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明、ブレインストーミング	Understanding course requirements Getting ready to write Understanding process writing	Review / Preview
2	パラグラフの定義と構成、トピックセンテンス	The definition of a paragraph The parts of a paragraph Identifying and writing topic sentences	Review / Preview
3	論旨の展開、結びのセンテンス	Paragraph support and development Writing concluding sentences Peer editing	Review / Preview
4	パラグラフ執筆演習: 描写のパラグラフを書き始める	Descriptive paragraphs and reasons for writing them Organizing and writing descriptive paragraphs using adjectives and prepositions Using connecting words and phrases to write a paragraph that de	Review / Preview
5	パラグラフ執筆演習: 描写のパラグラフを完成させる	Distinguishing fact and opinion Organizing and writing paragraphs expressing opinions and arguments Using transition words to express causality Modal expressions to make recommendations	Review / Preview
6	パラグラフ執筆演習: 時系列・手順のパラグラフを書き始める	Comparison/contrast paragraphs and reasons for writing them Organizing comparison/contrast paragraphs Connecting words used for comparing and contrasting topics Writing about the advantages and disadvantages of a topic	Review / Preview
7	パラグラフ執筆演習: 時系列・手順のパラグラフを完成させる	Writing about problems and solutions Using real conditionals Writing a two-paragraph paper with linking phrases	Review / Preview
8	中間チェック: パラグラフライティングテストと振り返り演習	In-class paragraph test	Review / Test preparation
9	エッセイの定義と構成、主題文 (Thesis Statement)	The definition of an essay Formatting an essay Writing a thesis statement	Review / Preview
10	エッセイ執筆演習: アウトラインをつくる	The purpose of an outline Writing an outline	Review / Preview
11	エッセイ執筆演習: 比較対照のエッセイを下書きする	The purpose of an introduction Types of information in introductions The purpose of a conclusion Writing conclusions	Review / Preview
12	エッセイ執筆演習: 比較対照のエッセイを完成させる	The importance of unity in essay writing Editing an essay for unity The importance of coherence in essay writing Creating coherence	Review / Preview
13	エッセイ執筆演習: 論述のエッセイを下書きする	Common instructions for essay tests Writing timed essays and managing time	Review / Preview
14	エッセイ執筆演習: 論述のエッセイを完成させる	Additional materials	Review / Test preparation
15	まとめ: エッセイライティングテストと振り返り演習	In-class Essay Test	

関連科目 Academic Reading, Integrated Skills Training

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing Essays—Paragraph to essay	Drothy E Zemach & Lisa A Rumisek	マクミランランゲージハウス
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 20% 授業内ライティングテスト 30% その他の授業内外課題および提出物 50%			
学生への メッセージ	1 Unit ずつ進む予定なので、結構なスピードになると思います。欠席するとついて行けなくなりますので、毎回出席し、与えられた課題をタイムリーにこなしていくことが成功の鍵です。			
担当者の 研究室等	7号館5階 松田研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	Academic Writing	科目名 (英文)	Academic Writing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	留学先の大学や帰国後の専門課程での学びに適したライティングスキル (パラグラフライティング) を習得する。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。また、留学生活に必要な書類の書き方や英文メールの書き方を学ぶ。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 海外留学において必要となるライティングスキル (書類や英文メールの書き方、エッセイの書き方) を養う。 エッセイやレポートの書式は、Setsunan Academic Essay Guidelineに従う。 課題等は添削された後、合格基準に到達するまで再提出が求められる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明、ブレインストーミング	Understanding course requirements Getting ready to write Understanding process writing	Review / Preview
2	パラグラフの定義と構成、トピックセンテンス	The definition of a paragraph The parts of a paragraph Identifying and writing topic sentences	Review / Preview
3	論旨の展開、結びのセンテンス	Paragraph support and development Writing concluding sentences Peer editing	Review / Preview
4	パラグラフ執筆演習: 描写のパラグラフを書き始める	Descriptive paragraphs and reasons for writing them Organizing and writing descriptive paragraphs using adjectives and prepositions Using connecting words and phrases to write a paragraph that de	Review / Preview
5	パラグラフ執筆演習: 描写のパラグラフを完成させる	Distinguishing fact and opinion Organizing and writing paragraphs expressing opinions and arguments Using transition words to express causality Modal expressions to make recommendations	Review / Preview
6	パラグラフ執筆演習: 時系列・手順のパラグラフを書き始める	Comparison/contrast paragraphs and reasons for writing them Organizing comparison/contrast paragraphs Connecting words used for comparing and contrasting topics Writing about the advantages and disadvantages of a topic	Review / Preview
7	パラグラフ執筆演習: 時系列・手順のパラグラフを完成させる	Writing about problems and solutions Using real conditionals Writing a two-paragraph paper with linking phrases	Review / Preview
8	中間チェック: パラグラフライティングテストと振り返り演習	In-class paragraph test	Review / Test preparation
9	エッセイの定義と構成、主題文 (Thesis Statement)	The definition of an essay Formatting an essay Writing a thesis statement	Review / Preview
10	エッセイ執筆演習: アウトラインをつくる	The purpose of an outline Writing an outline	Review / Preview
11	エッセイ執筆演習: 比較対照のエッセイを下書きする	The purpose of an introduction Types of information in introductions The purpose of a conclusion Writing conclusions	Review / Preview
12	エッセイ執筆演習: 比較対照のエッセイを完成させる	The importance of unity in essay writing Editing an essay for unity The importance of coherence in essay writing Creating coherence	Review / Preview
13	エッセイ執筆演習: 論述のエッセイを下書きする	Common instructions for essay tests Writing timed essays and managing time	Review / Preview
14	エッセイ執筆演習: 論述のエッセイを完成させる	Additional materials	Review / Test preparation
15	まとめ: エッセイライティングテストと振り返り演習	In-class Essay Test	

関連科目	Academic Reading, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing Essays—Paragraph to essay	Drothy E Zemach & Lisa A Rumisek	マクミランランゲージハウス
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 20% 授業内ライティングテスト 30% その他の授業内外課題および提出物 50%			
学生への メッセージ	1 Unit ずつ進む予定なので、結構なスピードになると思います。欠席するとついて行けなくなりますので、毎回出席し、与えられた課題をタイムリーにこなしていくことが成功の鍵です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 西川研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	Academic Reading	科目名 (英文)	Academic Reading
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようにする。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようにする。
到達目標	リーディングスキルを用いて比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットすることを目指す多読活動の両方を行う。
授業方法と留意点	比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットする多読活動の両方を行う。「TOEIC 基本語彙テスト」およびリングボルトによる単語学習課題「Academic Reading 用課題 no. 1-1500」を課す。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	Orientation	Students should study the content of the day's lesson.
2	文脈の中で単語の意味を見分けることの基礎	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
3	パラグラフのトピックを見分ける	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
4	単語の形態的特性から意味を推測することの基礎	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
5	パラグラフの主張を見分ける	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
6	振り返り活動、英文学作品の読み方の基礎	Individual tasks.	Review for the quiz.
7	リーディングとコロケーションについて考える	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
8	主張のサポート部分を見分ける	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
9	リーディングとフレーズ (phrase) について考える	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
10	コントラストされている要素を見分ける	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
11	振り返り活動、英文学作品の読み方の発展	Individual tasks.	Review for the quiz.
12	文脈の中で単語の意味を見分けることの発展と演習	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
13	因果関係を見分ける	Individual tasks and pair work.	Review for the vocabulary test.
14	単語の形態的特性から意味を推測することの発展と演習	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
15	振り返りと総演習、英文学作品について議論する	Individual tasks.	Review for the quiz.

関連科目	Academic Writing, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Making Connections 1	Jessica Williams	Cambridge
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Koji Nishiya	Seibido	
3	『Timed Reading for Fluency 2』	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	e-learning 課題 20% 多読活動 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	We will be reading complex texts in this course. Come with an open mind and don't worry if you don't understand the readings 100%. You will learn strategies that will help make academic reading easier for you.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	Advanced English a	科目名 (英文)	Advanced English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	文献を読み、その内容、構造、表現について討論し、作文をする総合演習授業となる。英語圏の文学作品の物語構造や英語表現を主要なテーマとしてとりあげる。
到達目標	3年次までに培った英語力をさらに伸ばし、CEFR-J [B2-2] レベルの4技能の習得を目指す。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は原則として全て英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文 (レポート) 課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方などの説明を行う。	英語表現を勉強する。
2	文学作品読解 『ロミオとジュリエット』 (前半)	『ロミオとジュリエット』について理解を深める。	『ロミオとジュリエット』(前半)を読み、物語の内容を理解する。
3	物語の構造及び英語表現を学ぶ	物語の構造及び英語表現について理解を深める。	物語の構造及び英語表現を勉強する。
4	文学作品読解 『ロミオとジュリエット』 (後半)	『ロミオとジュリエット』について理解を深める。	『ロミオとジュリエット』(後半)を読み、物語の内容を理解する。
5	物語の構造及び英語表現を学ぶ	物語の構造及び英語表現について理解を深める。	物語の構造及び英語表現を勉強する。
6	文学作品読解 『マクベス』(前半)	『マクベス』について理解を深める。	『マクベス』(前半)を読み、物語の内容を理解する。
7	物語の構造及び英語表現を学ぶ	物語の構造及び英語表現について理解を深める。	物語の構造及び英語表現を勉強する。
8	文学作品読解 『マクベス』(後半)	『マクベス』について理解を深める。	『マクベス』(後半)を読み、物語の内容を理解する。
9	物語の構造及び英語表現を学ぶ	物語の構造及び英語表現について理解を深める。	物語の構造及び英語表現を勉強する。
10	文学作品読解 『リア王』(前半)	『リア王』について理解を深める。	『リア王』(前半)を読み、物語の内容を理解する。
11	物語の構造及び英語表現を学ぶ	物語の構造及び英語表現について理解を深める。	物語の構造及び英語表現を勉強する。
12	文学作品読解 『リア王』(後半)	『リア王』について理解を深める。	『リア王』(後半)を読み、物語の内容を理解する。
13	物語の構造及び英語表現を学ぶ	物語の構造及び英語表現について理解を深める。	物語の構造及び英語表現を勉強する。
14	『ロミオとジュリエット』 『マクベス』『リア王』に関する討論を行う	『ロミオとジュリエット』『マクベス』『リア王』について理解を深める。	作品を読み直し、物語の内容に関する理解を深める。
15	総括及びまとめのミニレポート作成を行う	これまで扱ったトピックについて総括する。	ミニレポートの作成準備を行う。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Three Great Plays of Shakespeare	William Shakespeare	Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	グループワーク : 60% 質疑応答への貢献 : 10% ミニレポート : 30%
-----------	---

学生へのメッセージ
英語力を伸ばすと同時に、文学作品への理解を深めましょう。

担当者の研究室等
7号館5階 神崎研究室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Advanced English b	科目名 (英文)	Advanced English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	神崎 舞
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	文献を読み、その内容、構造、表現について討論し、作文をする総合演習授業となる。英語圏の文学作品の物語構造や英語表現を主要なテーマとして取り上げる。																																																																		
到達目標	3年次までに培った英語力をさらに伸ばし、CEFR-J [B2-2] レベルの4技能の習得を目指す。																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は原則として全て英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文 (レポート) 課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方などの説明を行う。</td> <td>英語表現を勉強する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>シェイクスピアについて</td> <td>シェイクスピアについて理解を深める。</td> <td>シェイクスピアについて勉強する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文学作品読解『じゃじゃ馬馴らし』(前半)</td> <td>『じゃじゃ馬馴らし』(前半) について理解を深める。</td> <td>『じゃじゃ馬馴らし』(前半) を読み、物語の内容を理解する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文学作品読解『じゃじゃ馬馴らし』(後半)</td> <td>『じゃじゃ馬馴らし』(後半) について理解を深める。</td> <td>『じゃじゃ馬馴らし』(後半) を読み、物語の内容を理解する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>物語の構造及び英語表現を学ぶ</td> <td>物語の構造及び英語表現について理解を深める。</td> <td>物語の構造及び英語表現を勉強する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>文学作品読解『十二夜』(前半)</td> <td>『十二夜』(前半) について理解を深める。</td> <td>『十二夜』(前半) を読み、物語の内容を理解する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>文学作品読解『十二夜』(後半)</td> <td>『十二夜』(後半) について理解を深める。</td> <td>『十二夜』(後半) を読み、物語の内容を理解する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>物語の構造及び英語表現を学ぶ</td> <td>物語の構造及び英語表現について理解を深める。</td> <td>物語の構造及び英語表現を勉強する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>文学作品読解『オセロー』(前半)</td> <td>『オセロー』(前半) について理解を深める。</td> <td>『オセロー』(前半) を読み、物語の内容を理解する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>文学作品読解『オセロー』(後半)</td> <td>『オセロー』(後半) について理解を深める。</td> <td>『オセロー』(後半) を読み、物語の内容を理解する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>物語の構造及び英語表現を学ぶ</td> <td>物語の構造及び英語表現について理解を深める。</td> <td>物語の構造及び英語表現を勉強する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>文学作品読解『アントニーとクレオパトラ』(前半)</td> <td>『アントニーとクレオパトラ』(前半) について理解を深める。</td> <td>『アントニーとクレオパトラ』(前半) を読み、物語の内容を理解する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>文学作品読解『アントニーとクレオパトラ』(後半)</td> <td>『アントニーとクレオパトラ』(後半) について理解を深める。</td> <td>『アントニーとクレオパトラ』(後半) を読み、物語の内容を理解する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>物語の構造及び英語表現を学ぶ</td> <td>物語の構造及び英語表現について理解を深める。</td> <td>物語の構造及び英語表現を勉強する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括及びまとめのミニレポート作成を行う</td> <td>これまで扱ったトピックについて総括する。</td> <td>ミニレポートの作成準備を行う。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方などの説明を行う。	英語表現を勉強する。	2	シェイクスピアについて	シェイクスピアについて理解を深める。	シェイクスピアについて勉強する。	3	文学作品読解『じゃじゃ馬馴らし』(前半)	『じゃじゃ馬馴らし』(前半) について理解を深める。	『じゃじゃ馬馴らし』(前半) を読み、物語の内容を理解する。	4	文学作品読解『じゃじゃ馬馴らし』(後半)	『じゃじゃ馬馴らし』(後半) について理解を深める。	『じゃじゃ馬馴らし』(後半) を読み、物語の内容を理解する。	5	物語の構造及び英語表現を学ぶ	物語の構造及び英語表現について理解を深める。	物語の構造及び英語表現を勉強する。	6	文学作品読解『十二夜』(前半)	『十二夜』(前半) について理解を深める。	『十二夜』(前半) を読み、物語の内容を理解する。	7	文学作品読解『十二夜』(後半)	『十二夜』(後半) について理解を深める。	『十二夜』(後半) を読み、物語の内容を理解する。	8	物語の構造及び英語表現を学ぶ	物語の構造及び英語表現について理解を深める。	物語の構造及び英語表現を勉強する。	9	文学作品読解『オセロー』(前半)	『オセロー』(前半) について理解を深める。	『オセロー』(前半) を読み、物語の内容を理解する。	10	文学作品読解『オセロー』(後半)	『オセロー』(後半) について理解を深める。	『オセロー』(後半) を読み、物語の内容を理解する。	11	物語の構造及び英語表現を学ぶ	物語の構造及び英語表現について理解を深める。	物語の構造及び英語表現を勉強する。	12	文学作品読解『アントニーとクレオパトラ』(前半)	『アントニーとクレオパトラ』(前半) について理解を深める。	『アントニーとクレオパトラ』(前半) を読み、物語の内容を理解する。	13	文学作品読解『アントニーとクレオパトラ』(後半)	『アントニーとクレオパトラ』(後半) について理解を深める。	『アントニーとクレオパトラ』(後半) を読み、物語の内容を理解する。	14	物語の構造及び英語表現を学ぶ	物語の構造及び英語表現について理解を深める。	物語の構造及び英語表現を勉強する。	15	総括及びまとめのミニレポート作成を行う	これまで扱ったトピックについて総括する。	ミニレポートの作成準備を行う。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方などの説明を行う。	英語表現を勉強する。																																																																
2	シェイクスピアについて	シェイクスピアについて理解を深める。	シェイクスピアについて勉強する。																																																																
3	文学作品読解『じゃじゃ馬馴らし』(前半)	『じゃじゃ馬馴らし』(前半) について理解を深める。	『じゃじゃ馬馴らし』(前半) を読み、物語の内容を理解する。																																																																
4	文学作品読解『じゃじゃ馬馴らし』(後半)	『じゃじゃ馬馴らし』(後半) について理解を深める。	『じゃじゃ馬馴らし』(後半) を読み、物語の内容を理解する。																																																																
5	物語の構造及び英語表現を学ぶ	物語の構造及び英語表現について理解を深める。	物語の構造及び英語表現を勉強する。																																																																
6	文学作品読解『十二夜』(前半)	『十二夜』(前半) について理解を深める。	『十二夜』(前半) を読み、物語の内容を理解する。																																																																
7	文学作品読解『十二夜』(後半)	『十二夜』(後半) について理解を深める。	『十二夜』(後半) を読み、物語の内容を理解する。																																																																
8	物語の構造及び英語表現を学ぶ	物語の構造及び英語表現について理解を深める。	物語の構造及び英語表現を勉強する。																																																																
9	文学作品読解『オセロー』(前半)	『オセロー』(前半) について理解を深める。	『オセロー』(前半) を読み、物語の内容を理解する。																																																																
10	文学作品読解『オセロー』(後半)	『オセロー』(後半) について理解を深める。	『オセロー』(後半) を読み、物語の内容を理解する。																																																																
11	物語の構造及び英語表現を学ぶ	物語の構造及び英語表現について理解を深める。	物語の構造及び英語表現を勉強する。																																																																
12	文学作品読解『アントニーとクレオパトラ』(前半)	『アントニーとクレオパトラ』(前半) について理解を深める。	『アントニーとクレオパトラ』(前半) を読み、物語の内容を理解する。																																																																
13	文学作品読解『アントニーとクレオパトラ』(後半)	『アントニーとクレオパトラ』(後半) について理解を深める。	『アントニーとクレオパトラ』(後半) を読み、物語の内容を理解する。																																																																
14	物語の構造及び英語表現を学ぶ	物語の構造及び英語表現について理解を深める。	物語の構造及び英語表現を勉強する。																																																																
15	総括及びまとめのミニレポート作成を行う	これまで扱ったトピックについて総括する。	ミニレポートの作成準備を行う。																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Love in Shakespeare: Five Stories</td> <td>William Shakespeare</td> <td>Black Cat</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Love in Shakespeare: Five Stories	William Shakespeare	Black Cat	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Love in Shakespeare: Five Stories	William Shakespeare	Black Cat																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	グループワーク : 60% 質疑応答への貢献 : 10% ミニレポート : 30%																																																																		
学生へのメッセージ	英語力を伸ばすと同時に、文学作品への理解を深めましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	アドバンスト イングリッシュ a	科目名 (英文)	Advanced English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練 (Timed-Reading) が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように、英語学習に王道 (easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさないと、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	アドバンスト イングリッシュ b	科目名 (英文)	Advanced English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練 (Timed-Reading) が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように、英語学習に王道 (easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさないと、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張ってください! Keep your chin up!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	アドバンスト ライティング a	科目名 (英文)	Advanced Writing a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	江崎 早苗
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	アドバンスト・ライティングでは、ライティングよりさらに高度な文章構成力・表現力を磨く練習をする。 エッセイ・ライティングの力を養う。			
到達目標	英語でエッセイを書く能力を身につける。			
授業方法と留意点	毎回予習でリーディング箇所は終わらせておく。 きちんと日本語に訳す必要はないが、日本語で、内容を説明できるようにしておく。 授業内で短いエッセイを提出してもらい、次回の授業開始時にフィードバックを行う。			
科目学習の効果 (資格)	英語関連の資格一般			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業概要説明 自己紹介	シラバスの熟読
	2	Unit 1	Massive Earthquake	リーディング箇所
	3	Unit 2	Extremely High Tsunami	リーディング箇所
	4	Unit 3	Nuclear Accident	リーディング箇所
	5	Unit 4	International Offers of Help	リーディング箇所
	6	Unit 5	Recovery Efforts	リーディング箇所
	7	Unit 6	Tohoku Festivals	リーディング箇所
	8	Unit 7	Encouragement from the World	リーディング箇所
	9	Unit 8	Impacts of the March 11th Disaster	リーディング箇所
	10	Unit 9	Review of the Great East Japan Earthquake and Tsunami	リーディング箇所
	11	Unit 10	From Kan to Noda	リーディング箇所
	12	Unit 11	National Debt	リーディング箇所
	13	Unit 12	Strong Yen	リーディング箇所
	14	Unit 13	Trans-Pacific Partnership	リーディング箇所
	15	Unit 14	Consumption Tax	リーディング箇所
関連科目	文法、スキルズ トレーニング、イングリッシュ プレゼンテーション、ライティングなど			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Better Reading, Better Writing with NHK WORLD NEWS	Tomoyashu Kimura, Takehiro Sato, Yukimi Asai	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末レポート: 60% 授業内エッセイ: 40%			
学生へのメッセージ	授業内でエッセイを集めるため、毎回の出席が大切になります。 たとえ、予習ができていなくても、まずはきちんと出席して下さい。 また、普段ふれることの無いトピックにふれることで、皆さんの視野が広がることを願っています。			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	アドバンスト ライティング b	科目名 (英文)	Advanced Writing b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	江崎 早苗
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	アドバンスト・ライティングでは、ライティングよりさらに高度な文章構成力・表現力を磨く練習をする。 エッセイ・ライティングの力を養う。																																																																		
到達目標	英語でエッセイを書く能力を身につける。																																																																		
授業方法と留意点	毎回予習でリーディング箇所は終わらせておく。 きちんと日本語に訳す必要はないが、日本語で、内容を説明できるようにしておく。 授業内で短いエッセイを提出してもらい、次回の授業開始時にフィードバックを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	英語関連の資格一般																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction</td> <td>授業概要説明 自己紹介</td> <td>シラバスの熟読</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 15</td> <td>Global Supporters of Northeastern Japan</td> <td>リーディング箇所</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 16</td> <td>Global Reviewers of Fukushima</td> <td>リーディング箇所</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 17</td> <td>iPS Cells</td> <td>リーディング箇所</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 18</td> <td>"Nadeshiko" Japan and Other Japanese Feats</td> <td>リーディング箇所</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 19</td> <td>Uneasiness over Nuclear Power</td> <td>リーディング箇所</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 20</td> <td>"Arab Spring" Movement</td> <td>リーディング箇所</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 21</td> <td>European Credit Worries</td> <td>リーディング箇所</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 22</td> <td>Palestinian Membership</td> <td>リーディング箇所</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 23</td> <td>Extreme Weather and Global Warming</td> <td>リーディング箇所</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 24</td> <td>U.S. Presidential Election</td> <td>リーディング箇所</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 25</td> <td>President Once Again</td> <td>リーディング箇所</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 26</td> <td>What Is Happening in China</td> <td>リーディング箇所</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 27</td> <td>Like Father, Like Son</td> <td>リーディング箇所</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Unit 28</td> <td>Myanmar Bracing for Democracy</td> <td>リーディング箇所</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	授業概要説明 自己紹介	シラバスの熟読	2	Unit 15	Global Supporters of Northeastern Japan	リーディング箇所	3	Unit 16	Global Reviewers of Fukushima	リーディング箇所	4	Unit 17	iPS Cells	リーディング箇所	5	Unit 18	"Nadeshiko" Japan and Other Japanese Feats	リーディング箇所	6	Unit 19	Uneasiness over Nuclear Power	リーディング箇所	7	Unit 20	"Arab Spring" Movement	リーディング箇所	8	Unit 21	European Credit Worries	リーディング箇所	9	Unit 22	Palestinian Membership	リーディング箇所	10	Unit 23	Extreme Weather and Global Warming	リーディング箇所	11	Unit 24	U.S. Presidential Election	リーディング箇所	12	Unit 25	President Once Again	リーディング箇所	13	Unit 26	What Is Happening in China	リーディング箇所	14	Unit 27	Like Father, Like Son	リーディング箇所	15	Unit 28	Myanmar Bracing for Democracy	リーディング箇所
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	授業概要説明 自己紹介	シラバスの熟読																																																																
2	Unit 15	Global Supporters of Northeastern Japan	リーディング箇所																																																																
3	Unit 16	Global Reviewers of Fukushima	リーディング箇所																																																																
4	Unit 17	iPS Cells	リーディング箇所																																																																
5	Unit 18	"Nadeshiko" Japan and Other Japanese Feats	リーディング箇所																																																																
6	Unit 19	Uneasiness over Nuclear Power	リーディング箇所																																																																
7	Unit 20	"Arab Spring" Movement	リーディング箇所																																																																
8	Unit 21	European Credit Worries	リーディング箇所																																																																
9	Unit 22	Palestinian Membership	リーディング箇所																																																																
10	Unit 23	Extreme Weather and Global Warming	リーディング箇所																																																																
11	Unit 24	U.S. Presidential Election	リーディング箇所																																																																
12	Unit 25	President Once Again	リーディング箇所																																																																
13	Unit 26	What Is Happening in China	リーディング箇所																																																																
14	Unit 27	Like Father, Like Son	リーディング箇所																																																																
15	Unit 28	Myanmar Bracing for Democracy	リーディング箇所																																																																
関連科目	グラマー、スキルズ トレーニング、イングリッシュ プレゼンテーション、ライティングなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Better Reading, Better Writing with NHK WORLD NEWS</td> <td>Tomoyashu Kimura, Takehiro Sato, Yukimi Asai</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Better Reading, Better Writing with NHK WORLD NEWS	Tomoyashu Kimura, Takehiro Sato, Yukimi Asai	南雲堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Better Reading, Better Writing with NHK WORLD NEWS	Tomoyashu Kimura, Takehiro Sato, Yukimi Asai	南雲堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	期末レポート: 60% 授業内エッセイ: 40%																																																																		
学生へのメッセージ	授業内でエッセイを集めるため、毎回の出席が大切になります。 たとえ、予習ができていなくても、まずはきちんと出席して下さい。 また、普段ふれることの無いトピックにふれることで、皆さんの視野が広がることを願っています。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	アメリカ文化論	科目名(英文)	American Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大原関 一浩
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	アメリカの歴史はヨーロッパ人が入植してから400年ほどですが、ダイナミックな変化を経験してきました。この授業では、アメリカという国の社会・文化を、歴史、地理、民族、精神、生活、人間関係、日米関係など、さまざまな視点から考察し理解を深めていきます。各回のテーマに沿って、統計・写真・地図などの資料を参照しながら、講義を進めます。講義では、多くの情報を伝えるので、ポイントを自分の言葉でまとめることを心がけ、ノートテキングのスキルを身につけましょう。また、講義の内容を鵜のみにするのではなく、自ら問いかける姿勢を持って授業の課題(宿題、リスボンズペーパー等)にとり組んでください。																																																																		
到達目標	1) アメリカ社会・文化を多角的な視点から理解する。 2) アメリカという国の理念とその実現の試みを批判的に理解する。 3) 日本人としてアメリカ社会・文化を学ぶ意義を説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	各回のテーマに沿って、Power Point スライドを使い、統計・写真・地図などの資料を表示しながら、講義を進めていきます。スライドの文字を書き写すだけでなく、後で見返した時に要点がわかるように、自分の言葉でメモをとることがとても大切です。わからないこと、疑問に感じたことは、そのままにせず、教員に質問して理解すること。そうすれば、テストの出来もよくなります。																																																																		
科目学習の効果(資格)	・アメリカに関する多くの情報のなかから、正しいものを選ぶ力をつける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業内容・方法説明</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>アメリカの歴史1</td><td>植民地時代から独立まで</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>アメリカの歴史2</td><td>領土拡張、奴隷制、南北戦争</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>アメリカの歴史3</td><td>金びか時代から第二次大戦まで</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>アメリカの歴史4</td><td>戦後のアメリカ、現在まで</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>アメリカの地理1</td><td>北部・南部</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>アメリカの地理2</td><td>中西部・西部</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>アメリカの民族1</td><td>ヨーロッパ系</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>アメリカの民族2</td><td>アジア系</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>アメリカの民族3</td><td>ラティノー/ネイティブほか</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>アメリカの精神</td><td>ピューリタニズム、フロンティア精神、個人主義ほか</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>アメリカ人の生活</td><td>衣食住、祝祭</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>人間関係</td><td>子供、家族、LGBTなど</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>日米関係</td><td>中浜万次郎から現在まで</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>確認テストと解説</td><td>前期範囲の復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業内容・方法説明	授業内容の復習	2	アメリカの歴史1	植民地時代から独立まで	授業内容の復習	3	アメリカの歴史2	領土拡張、奴隷制、南北戦争	授業内容の復習	4	アメリカの歴史3	金びか時代から第二次大戦まで	授業内容の復習	5	アメリカの歴史4	戦後のアメリカ、現在まで	授業内容の復習	6	アメリカの地理1	北部・南部	授業内容の復習	7	アメリカの地理2	中西部・西部	授業内容の復習	8	アメリカの民族1	ヨーロッパ系	授業内容の復習	9	アメリカの民族2	アジア系	授業内容の復習	10	アメリカの民族3	ラティノー/ネイティブほか	授業内容の復習	11	アメリカの精神	ピューリタニズム、フロンティア精神、個人主義ほか	授業内容の復習	12	アメリカ人の生活	衣食住、祝祭	授業内容の復習	13	人間関係	子供、家族、LGBTなど	授業内容の復習	14	日米関係	中浜万次郎から現在まで	授業内容の復習	15	まとめ	確認テストと解説	前期範囲の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業内容・方法説明	授業内容の復習																																																																
2	アメリカの歴史1	植民地時代から独立まで	授業内容の復習																																																																
3	アメリカの歴史2	領土拡張、奴隷制、南北戦争	授業内容の復習																																																																
4	アメリカの歴史3	金びか時代から第二次大戦まで	授業内容の復習																																																																
5	アメリカの歴史4	戦後のアメリカ、現在まで	授業内容の復習																																																																
6	アメリカの地理1	北部・南部	授業内容の復習																																																																
7	アメリカの地理2	中西部・西部	授業内容の復習																																																																
8	アメリカの民族1	ヨーロッパ系	授業内容の復習																																																																
9	アメリカの民族2	アジア系	授業内容の復習																																																																
10	アメリカの民族3	ラティノー/ネイティブほか	授業内容の復習																																																																
11	アメリカの精神	ピューリタニズム、フロンティア精神、個人主義ほか	授業内容の復習																																																																
12	アメリカ人の生活	衣食住、祝祭	授業内容の復習																																																																
13	人間関係	子供、家族、LGBTなど	授業内容の復習																																																																
14	日米関係	中浜万次郎から現在まで	授業内容の復習																																																																
15	まとめ	確認テストと解説	前期範囲の復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点50%(授業中の課題および宿題の正確さと精度を評価) 確認テスト50%(授業内容の理解度を測るテストの成績)																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	大原関研究室(7号館5階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際貢献」を選択した学生を対象とした英語の授業です。「国際貢献」の分野に関連した英語の語彙や表現を中心に学習します。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、それぞれの職種における基本的な語彙や表現を用いて英語を話したり、書いたりできるようになることを目標にする。
授業方法と留意点	分野によって必要とされる英語が異なることを理解すること。例えば、航空会社やホテルで必要な英語と外資系企業や日本企業の海外事業部門などで必要な英語は異なる。自分にとって関心があるキャリアを決め、そこで要求される英語の基本を主体的に学習すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 国際貢献についてのビデオ	授業運営の説明 ビデオ鑑賞 ディスカッション	次回の授業のユニットで分からない単語を調べる
	2	Unit 1 Our Turtles and the Sea ウミガメはどこへ行く?	単語テスト リーディング リスニング ディスカッション	次回の授業のユニットで分からない単語を調べる
	3	Unit 2 Free the Children 広がる子どもたちの願い	単語テスト リーディング リスニング ディスカッション	次回の授業のユニットで分からない単語を調べる
	4	Unit 3 Empowering African Women アフリカの女性の自立	単語テスト リーディング リスニング ディスカッション	次回の授業のユニットで分からない単語を調べる
	5	Unit 4 The Red Cross 人道機関としての赤十字	単語テスト リーディング リスニング ディスカッション	次回の授業のユニットで分からない単語を調べる
	6	Unit 5 Ainu Pride 誇り高きアイヌとして	単語テスト リーディング リスニング ディスカッション	次回の授業のユニットで分からない単語を調べる
	7	Unit 6 Crisis Hotlines 希望をつなぐ「いのちの電話」	単語テスト リーディング リスニング ディスカッション	プレゼンテーションの準備
	8	中間試験(プレゼンテーション)	グループによるプレゼンテーション	次回の授業のユニットで分からない単語を調べる
	9	Unit 7 Nuclear Energy: Citizens' Challenge 市民科学者の疑問と挑戦	単語テスト リーディング リスニング ディスカッション	次回の授業のユニットで分からない単語を調べる
	10	Unit 8 Community Gardens 街で菜園をつくる	単語テスト リーディング リスニング ディスカッション	次回の授業のユニットで分からない単語を調べる
	11	Unit 9 Peace Boat 若者がはじめた平和クルーズ	単語テスト リーディング リスニング ディスカッション	次回の授業のユニットで分からない単語を調べる
	12	Unit 10 Violence against Women 見えない暴力をなくす	単語テスト リーディング リスニング ディスカッション	次回の授業のユニットで分からない単語を調べる
	13	Unit 11 Sloths and the Environment 「ナマケモノ」との出会いから	単語テスト リーディング リスニング ディスカッション	次回の授業のユニットで分からない単語を調べる
	14	Unit 12 Oxfarm: Towards Global Equity 市民が支える国際協力	単語テスト リーディング リスニング ディスカッション	確認(最終)テストの準備
	15	確認(最終)テスト 総括(まとめ)	総復習	要点整理

関連科目	リーディング IIa, b 等
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Taking Action on Global Issues	浅川和也、上月千砂、Caitlin Stonell, Beverley E. Lafaye	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	国際貢献に関する英語と、最近の国際貢献に関する世界の課題について知識を深める授業です。興味のある部分を伸ばして英語のスキルも伸ばされることを期待します。いっしょに頑張りましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名(英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「メディアビジネス」を選択した学生を対象とした英語の授業です。次の2分野の教材に交互に取り組みます。一つは「映画」というメディアを通じての学習、もう一つは「メディアツール」を通じてのビジネス英語活用を学習します。
到達目標	パッケージプログラムが想定する分野に関連した英語を学習する。英語を仕事のツールととらえ、それぞれの職種における基本的な語彙や表現を用いて英語を話したり、書いたりできるようになることを目標にする。 メディアビジネスで使われる用語と日常用語、両方の語彙拡大を目指す。ビジネス英語も日常英語の延長線上にあります。コミュニケーション力の高い表現を身につけます。ネイティブのナチュラルスピードの英語を聞くことに慣れましょう。口語表現と書き言葉の違いに注目して両方の解釈が取れるようにする。
授業方法と留意点	分野によって必要とされる英語が異なる事を理解する事。例えば、航空会社やホテルに必要な英語と外資系企業や日本企業の海外事業部門などで必要な英語は異なる。自分に取って感心があるキャリアを決め、そこで要求される英語の基本を主体的に学習すること。 テキストは両方購入しておくこと。試験は教科書持ち込み可です。貸し借り禁止です。 1. 辞書を毎回持参すること。パソコン、アイパッドによるオンライン辞書使用は認めるがスマートフォンを辞書として活用することは認め、ません。 2. 欠席は4回に達すると単位取得できません。遅刻は3回で一回の欠席と勘定します。 3. 配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ15時間程度とします。
科目学習の効果(資格)	英語関連の資格試験、TOEIC/英検対策などにつながる語彙力、表現力、リーディング及びリスニング力。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 1 Email Mania Night at the Museum	授業の進め方と評価方法等の説明 Addicted to email 映画前半	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	2	Unit 1 Email Mania Night at the Museum	単語テスト1 Volume explosion 映画1	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	3	Unit2 Email Spam 1 Night at the Museum	単語テスト2 Irritated by spam 映画2	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	4	テスト Unit2 Email Spam Night at the Museum	第一回チェックテスト Fighting spam 映画3	テスト勉強 語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	5	Unit 3 Email Fraud Night at the Museum	単語テスト3 Scam spam 映画4	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	6	Unit 3 Email Fraud Night at the Museum	単語テスト4 Getting personal information 映画5	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	7	Unit4 Email Lingo Night at the Museum	単語テスト5 LOL and more 映画調整日	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	8	テスト Unit4 Email Lingo Night at the Museum	第二回チェックテスト Getting your point across 映画後半	テスト勉強 語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	9	Unit5 Email Breakups Night at the Museum	単語テスト6 Ending it with a click of the mouse 映画6	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	10	Unit5 Email Breakups Night at the Museum	単語テスト7 Virtual goodbyes 映画7	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	11	Unit6 Mobile Email Night at the Museum	単語テスト8 Email on the go 映画8	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	12	テスト Unit6 Mobile Email Night at the Museum	第三回チェックテスト Youth Shun Email 映画9	テスト勉強 語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	13	Unit7 Email Efficiencies Night at the Museum	単語テスト9 Faster communication 映画10	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	14	Unit7 Email Efficiencies Night at the Museum	単語テスト10 Businessman prefer Email 映画調整日	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	15	テスト Night at the Museum	第四回チェックテスト review	語彙暗記 テスト勉強 (1時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English for the Digital World	Mprma Reveler ほか	三修社
	2	Night at the Museum ナイトミュージアム	Robert B Grant 他	松柏社

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト、発言、討論、宿題、提出物等 80% ※欠席 4 回未満、総合点 60 点以上を持って単位取得対象とする。			
学生への メッセージ	面白い内容で教材がそろえられたと思います。 口語表現やメディア用語は難しく思えるかもしれませんが、ひとつひとつ覚えていきましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名(英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三宅 一平
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	パッケージプログラムが想定する分野に関連した英語を学習する。英語を仕事のツールととらえ、それぞれの職種における基本的な語彙や表現を用いて英語を話したり、書いたりできるようになることを目標にする。
到達目標	分野によって必要とされる英語が異なることを理解すること。たとえば、航空会社やホテルに必要な英語と外資系企業や日本企業の海外事業部門などで必要な英語は異なる。自分にとって関心があるキャリアを決め、そこで要求される英語の基本を主体的に学習すること。 今年度の「外国語専門職」クラスでは Alice's Adventures in Wonderland (『不思議の国のアリス』) に焦点をあて、小説翻訳の演習を行う。英語を読む力のみならず、日英間の文化的、言語的差異を意識し、原文の持つ特徴を活かしながら日本語訳する力を養うことを目標とする。
授業方法と留意点	毎週数ページずつ小説を読み進める。授業内では文章の意味について確認を行ったうえで、グループワーク等を通し、取り上げた文章の翻訳を実践する。事前に該当範囲を読んでおくこと。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Chapter I	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
3	Chapter I	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
4	Chapter II	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
5	Chapter II	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
6	Chapter III	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
7	Chapter III	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
8	Chapter IV	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
9	Chapter IV	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
10	Chapter V	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
11	Chapter V	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
12	Chapter V	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
13	Chapter VI	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
14	Chapter VI	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
15	Chapter VI まとめ	文法、意味の確認 翻訳実践	作文課題

関連科目	リーディング IIa, b 等
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Alice's Adventures in Wonderland and Through the Looking-Glass	Lewis Carroll	Oxford
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「不思議の国のアリス」を英語で読む	別宮貞徳	筑摩書房
2				
3				

評価方法(基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	--

学生へのメッセージ	直訳では伝えないことのできない物語の文章を、いかに読み物として日本語に翻訳していくか。柔軟な発想をもって臨んでください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名(英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	<p>授業概要： 本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。</p> <p>授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習： 基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英語の表現を学ぶ。 ・ペアワークやグループワーク：コミュニケーション能力をつける。</p>																																																																		
到達目標	<p>英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。 																																																																		
授業方法と留意点	<p>特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。 テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。 毎回小テストをしますので、f 復習を忘れずにしてきてください。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	英語関連の資格(TOEICなど)																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>評価方法、授業の進め方、基本会話</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Transportation</td> <td>交通案内</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>A t a Check-in Counter</td> <td>ホテルでのチェックイン</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Facilities and Services</td> <td>ホテル内の施設やサービス案内</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Giving Directions</td> <td>街歩きのための道案内</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Recommending a Trip</td> <td>観光スポットを薦める</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Dining in Japan1&2</td> <td>日本食の紹介①&②</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Arranging a Tour</td> <td>国内旅行の手配</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Staying at a Ryokan</td> <td>旅館について</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Culture Experience in Japan1</td> <td>日本文化体験①</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Culture Experience in Japan2</td> <td>日本文化体験②</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Japanese Souvenirs</td> <td>ショッピング</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Dealing with Health Problems and Emergencies</td> <td>けがや病気の対応</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Dealing with Complaints and Accidents: Upon Departure</td> <td>クレームやアクシデントの対応 帰国に際して</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめのテスト</td> <td>復習のテストなど</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	Students should study the content of the day's lesson	2	Transportation	交通案内	Students should study the content of the day's lesson	3	A t a Check-in Counter	ホテルでのチェックイン	Students should study the content of the day's lesson	4	Facilities and Services	ホテル内の施設やサービス案内	Students should study the content of the day's lesson	5	Giving Directions	街歩きのための道案内	Students should study the content of the day's lesson	6	Recommending a Trip	観光スポットを薦める	Students should study the content of the day's lesson	7	Dining in Japan1&2	日本食の紹介①&②	Students should study the content of the day's lesson	8	Arranging a Tour	国内旅行の手配	Students should study the content of the day's lesson	9	Staying at a Ryokan	旅館について	Students should study the content of the day's lesson	10	Culture Experience in Japan1	日本文化体験①	Students should study the content of the day's lesson	11	Culture Experience in Japan2	日本文化体験②	Students should study the content of the day's lesson	12	Japanese Souvenirs	ショッピング	Students should study the content of the day's lesson	13	Dealing with Health Problems and Emergencies	けがや病気の対応	Students should study the content of the day's lesson	14	Dealing with Complaints and Accidents: Upon Departure	クレームやアクシデントの対応 帰国に際して	Students should study the content of the day's lesson	15	まとめのテスト	復習のテストなど	Students should study the content of the day's lesson
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	Transportation	交通案内	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	A t a Check-in Counter	ホテルでのチェックイン	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	Facilities and Services	ホテル内の施設やサービス案内	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	Giving Directions	街歩きのための道案内	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	Recommending a Trip	観光スポットを薦める	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	Dining in Japan1&2	日本食の紹介①&②	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	Arranging a Tour	国内旅行の手配	Students should study the content of the day's lesson																																																																
9	Staying at a Ryokan	旅館について	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	Culture Experience in Japan1	日本文化体験①	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	Culture Experience in Japan2	日本文化体験②	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	Japanese Souvenirs	ショッピング	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	Dealing with Health Problems and Emergencies	けがや病気の対応	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	Dealing with Complaints and Accidents: Upon Departure	クレームやアクシデントの対応 帰国に際して	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	まとめのテスト	復習のテストなど	Students should study the content of the day's lesson																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現場から学ぶ観光英語の実践</td> <td>上杉恵美 他</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現場から学ぶ観光英語の実践	上杉恵美 他	金星堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	現場から学ぶ観光英語の実践	上杉恵美 他	金星堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業参加 30%、小テスト 40%、まとめのテスト 30%																																																																		
学生へのメッセージ	さまざまなアクティビティを通して、ホスピタリティ&おもてなしの精神やツーリズム業界について楽しく学びましょう。																																																																		

担当者の 研究室等	7号館4階 西川研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名(英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平野 惟
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	<p>授業概要： 本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。</p> <p>授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習： 基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英語の表現を学ぶ。 ・ペアワークやグループワーク：コミュニケーション能力をつける。</p>																																																																		
到達目標	<p>英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。 																																																																		
授業方法と留意点	<p>特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。 テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。 毎回小テストをしますので、f復習を忘れずにしてきてください。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	英語関連の資格(TOEICなど)																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>評価方法、授業の進め方、基本会話</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Transportation</td> <td>交通案内</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>At a Check-in Counter</td> <td>ホテルでのチェックイン</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Facilities and Services</td> <td>ホテル内の施設やサービス案内</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Giving Directions</td> <td>街歩きのための道案内</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Recommending a Trip</td> <td>観光スポットを薦める</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Dining in Japan1&2</td> <td>日本食の紹介①&②</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Arranging a Tour</td> <td>国内旅行の手配</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Staying at a Ryokan</td> <td>旅館について</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Culture Experience in Japan1</td> <td>日本文化体験①</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Culture Experience in Japan2</td> <td>日本文化体験②</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Japanese Souvenirs</td> <td>ショッピング</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Dealing with Health Problems and Emergencies</td> <td>けがや病気の対応</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Dealing with Complaints and Accidents: Upon Departure</td> <td>クレームやアクシデントの対応 帰国に際して</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめのテスト</td> <td>復習のテストなど</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	Students should study the content of the day's lesson	2	Transportation	交通案内	Students should study the content of the day's lesson	3	At a Check-in Counter	ホテルでのチェックイン	Students should study the content of the day's lesson	4	Facilities and Services	ホテル内の施設やサービス案内	Students should study the content of the day's lesson	5	Giving Directions	街歩きのための道案内	Students should study the content of the day's lesson	6	Recommending a Trip	観光スポットを薦める	Students should study the content of the day's lesson	7	Dining in Japan1&2	日本食の紹介①&②	Students should study the content of the day's lesson	8	Arranging a Tour	国内旅行の手配	Students should study the content of the day's lesson	9	Staying at a Ryokan	旅館について	Students should study the content of the day's lesson	10	Culture Experience in Japan1	日本文化体験①	Students should study the content of the day's lesson	11	Culture Experience in Japan2	日本文化体験②	Students should study the content of the day's lesson	12	Japanese Souvenirs	ショッピング	Students should study the content of the day's lesson	13	Dealing with Health Problems and Emergencies	けがや病気の対応	Students should study the content of the day's lesson	14	Dealing with Complaints and Accidents: Upon Departure	クレームやアクシデントの対応 帰国に際して	Students should study the content of the day's lesson	15	まとめのテスト	復習のテストなど	Students should study the content of the day's lesson
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	Transportation	交通案内	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	At a Check-in Counter	ホテルでのチェックイン	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	Facilities and Services	ホテル内の施設やサービス案内	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	Giving Directions	街歩きのための道案内	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	Recommending a Trip	観光スポットを薦める	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	Dining in Japan1&2	日本食の紹介①&②	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	Arranging a Tour	国内旅行の手配	Students should study the content of the day's lesson																																																																
9	Staying at a Ryokan	旅館について	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	Culture Experience in Japan1	日本文化体験①	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	Culture Experience in Japan2	日本文化体験②	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	Japanese Souvenirs	ショッピング	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	Dealing with Health Problems and Emergencies	けがや病気の対応	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	Dealing with Complaints and Accidents: Upon Departure	クレームやアクシデントの対応 帰国に際して	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	まとめのテスト	復習のテストなど	Students should study the content of the day's lesson																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現場から学ぶ観光英語の実践</td> <td>上杉恵美 他</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現場から学ぶ観光英語の実践	上杉恵美 他	金星堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	現場から学ぶ観光英語の実践	上杉恵美 他	金星堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業参加 30%、小テスト 40%、まとめのテスト 30%																																																																		
学生へのメッセージ	さまざまなアクティビティを通して、ホスピタリティ&おもてなしの精神やツーリズム業界について楽しく学びましょう。																																																																		

担当者の 研究室等	7号館4階 西川研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	矢富 弘
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	英語関連の資格 (TOEIC など)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明	なし
2	Chapter 1: Making Contact	聴解 (DVD 視聴) を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Chapter に目を通しておくこと。
3	Chapter 1: Making Contact	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Chapter のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。
4	Chapter 2: Getting to Know You	小テストを終えてから、聴解 (DVD 視聴) を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
5	Chapter 2: Getting to Know You	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Chapter のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。
6	Chapter 3: Dining Out	小テストを終えてから、聴解 (DVD 視聴) を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
7	Chapter 3: Dining Out	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Chapter のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。
8	Chapter 4: Can I Ask Who Is Calling, Please?	小テストを終えてから、聴解 (DVD 視聴) を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
9	Chapter 4: Can I Ask Who Is Calling, Please?	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Chapter のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。
10	Chapter 5: Let's Stick to the Schedule	小テストを終えてから、聴解 (DVD 視聴) を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
11	Chapter 5: Let's Stick to the Schedule	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Chapter のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。
12	Chapter 6: Tell Us about Yourself	小テストを終えてから、聴解 (DVD 視聴) を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
13	Chapter 6: Tell Us about Yourself	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Chapter のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。
14	Chapter 7: Could We Meet Next Week?	小テストを終えてから、聴解 (DVD 視聴) を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
15	Chapter 7: Could We Meet Next Week?	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Chapter のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。

関連科目	ESP (English for Specific Purposes) b
------	---------------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Interactive Business English on DVD	徳田 豊、他
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)	
2			
3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	“Every man takes the limits of his own fields of vision for the limits of the world.” - Arthur Schopenhauer, Psychological Observation. 「誰もが自分の視野の限界を世界の視野の限界だと思っている。」 アルトゥル・ショーペンハウアー 『心理学的観察』 外国語学習はコミュニケーションの手段を得ることに留まらず、あなたの「視野」を広げ違う世界を見せてくれるでしょう。一緒に楽しみながら学びましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

国際キャリアコースのパッケージプログラムが想定する分野に関連した英語を学習します。

本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際教養」を選択した学生を対象とした英語の授業です。

日本と世界をアートと時事の二つの視点から見つめ、情報をわかりやすく説明したり、表現したりする英語の学習を目的とします。

日本から英語、英語から日本語の、音声通訳および文字による翻訳のための演習も行います。

英語を仕事のツールととらえ、それぞれの職種における基本的な語彙や表現を用いて英語を話したり、書いたりできるようになることを目標にする。

国内だけでなく、世界の出来事に関心を向ける。社会の出来事やそれについて自分の見解を述べるために必要な基本的語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、離したり、書いたりできるようになることを目標とする。

分野によって必要とされる英語が異なることを理解すること。例えば、航空会社やホテルで必要な英語と外資系企業や日本企業の海外事業部門などで必要な英語は異なる。自分にとって関心があるキャリアを決め、そこで要求される英語の基本を主体的に学習する。

国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。

科目学習の
効果 (資格)

TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 世界のニュースを英語で 時事問題を描く戯曲とは	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
2	社会と子ども	発表	報道記事を読む・聴く 復習
3	難民状態になる、ということ	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
4	戦争と報道	発表	報道記事を読む・聴く 復習
5	世界と日本の難民事情比較	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
6	入国管理と受け入れ制度	発表	報道記事を読む・聴く 復習
7	難民問題を描く映画・劇・ドラマ (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
8	難民問題を描く映画・劇・ドラマ (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習
9	受け入れ側の視点 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
10	受け入れ側の視点 (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習
11	歴史上の有名人の難民体験 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
12	歴史上の有名人の難民体験 (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習
13	多文化が共に生きる (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
14	多文化が共に生きる (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習
15	まとめ		ふりかえり

関連科目

リーディング IIa, b 等

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『戯曲で学ぶ対話力：Promised Land(仮)』 詳細は授業初回にお知らせします。 予定価格 1500 円。		
2	プリント教材		
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	視点を移すと、見えるものが変わってきます。自分が当たり前と思っていたことも、その背景を知らない人にとっては理解できないことかもしれません。自分とちがった文化圏で暮らしてきた人たちにわかるように、英語で伝えるには、どうしたらいいでしょう？少しでもわかり合うことができれば、相手は将来、あなたの大切な友人となるかもしれません。試行錯誤していきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階 齋藤研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名(英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	<p>本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」を選択した学生を対象とした英語の授業です。</p> <p>授業概要： テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。</p> <p>授業目的：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光とホスピタリティについての調べ学習： 基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習： 簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ： 空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英語の表現を学ぶ。 ・ペアワークやグループワーク： コミュニケーション能力をつける。
到達目標	<p>英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。
授業方法と留意点	<p>特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。</p> <p>テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。</p>
科目学習の効果(資格)	英語関連の資格(TOEIC・英検など)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方説明 観光英語についてのビデオ、紹介	次のユニットの単語テスト準備 わからない単語をチェックする ロールプレイの練習
2	Unit1- Travel	単語テスト リスニング リーディング ロールプレイ(発表) ライティング宿題説明	次のユニットの単語テスト準備 わからない単語をチェックする ロールプレイの練習
3	Unit 2- Jobs and People	単語テスト リスニング リーディング ロールプレイ(発表) ライティング宿題説明	次のユニットの単語テスト準備 わからない単語をチェックする ロールプレイの練習
4	Unit 3- Getting on the Plane	単語テスト リスニング リーディング ロールプレイ(発表) ライティング宿題説明	次のユニットの単語テスト準備 わからない単語をチェックする ロールプレイの練習
5	Unit 4- At the Immigration and Customs	単語テスト リスニング リーディング ロールプレイ(発表) ライティング宿題説明	次のユニットの単語テスト準備 わからない単語をチェックする ロールプレイの練習
6	Unit 5- At the Airport	単語テスト リスニング リーディング ロールプレイ(発表) ライティング宿題説明	次のユニットの単語テスト準備 わからない単語をチェックする ロールプレイの練習
7	Unit 6- Hotel (Accommodations)	単語テスト リスニング リーディング ロールプレイ(発表) ライティング宿題説明	次のユニットの単語テスト準備 わからない単語をチェックする ロールプレイの練習
8	Unit 7- Restaurant (Breakfast and Fast Food)	単語テスト リスニング リーディング ロールプレイ(発表) ライティング宿題説明	次のユニットの単語テスト準備 わからない単語をチェックする ロールプレイの練習
9	Unit 8- Sightseeing	単語テスト リスニング リーディング ロールプレイ(発表) ライティング宿題説明	次のユニットの単語テスト準備 わからない単語をチェックする ロールプレイの練習
10	Unit 9- Shopping	単語テスト リスニング リーディング ロールプレイ(発表) ライティング宿題説明	次のユニットの単語テスト準備 わからない単語をチェックする ロールプレイの練習
11	Unit 10-Transportation	単語テスト リスニング リーディング ロールプレイ(発表) ライティング宿題説明	次のユニットの単語テスト準備 わからない単語をチェックする ロールプレイの練習
12	Unit 11- Problems and	単語テスト	次のユニットの単語テスト準備

		Complaints	リスニング リーディング ロールプレイ (発表) ライティング宿題説明	わからない単語をチェックする ロールプレイの練習	
	13	Additional Unit 1-6 (プリント教材も含む)	単語テスト リスニング リーディング ロールプレイ (発表) ライティング宿題説明	単語テスト準備 わからない単語をチェックする ロールプレイの練習	
	14	Additional Unit 7-12 (プリント教材も含む)	単語テスト リスニング リーディング ロールプレイ (発表) ライティング宿題説明	まとめ (復習) のテスト準備	
	15	まとめ (復習) のテスト 総括	総復習	要点整理	
関連科目					
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	English for Tourism: ベーシック観光英語	観光英検センター編	三修社
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	ホスピタリティ・コミュニケーション 実践形式で学ぶおもてなし英語	仁科恭徳 他編	三修社
		2			
		3			
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%				
学生へのメッセージ	さまざまなアクティビティを通して、観光英語を学びましょう。				
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室				
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。				

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名(英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「メディアビジネス」を選択した学生を対象とした英語の授業です。次の2分野の教材に交互に組み込まれます。一つは「映画」というメディアを通じての学習、もう一つは「メディアツール」に関連するテーマで読解、英語活用を学習します。
到達目標	パッケージプログラムが想定する分野に関連した英語を学習する。英語を仕事のツールととらえ、それぞれの職種における基本的な語彙や表現を用いて英語を話したり、書いたりできるようになることを目標にする。 メディアビジネスで使われる用語と日常用語、両方の語彙拡大を目指す。ビジネス英語も日常英語の延長線上にあります。コミュニケーション力の高い表現を身につけます。ネイティブのナチュラルスピードの英語を聞くことに慣れましょう。口語表現と書き言葉の違いに注目して両方の解釈が取れるようにする。
授業方法と留意点	分野によって必要とされる英語が異なる事を理解する事。例えば、航空会社やホテルに必要な英語と外資系企業や日本企業の海外事業部門などで必要な英語は異なる。自分に取って感心があるキャリアを決め、そこで要求される英語の基本を主体的に学習すること。 テキストは両方購入しておくこと。試験はテキスト持ち込み可です。その際テキストの貸し借りは認めません。 1. 辞書を毎回持参すること。パソコン、アイパッドによるオンライン辞書使用は認めるがスマートフォンを辞書として活用することは認め、ません。 2. 欠席は4回に達すると単位取得できません。遅刻は3回で一回の欠席と勘定します。
科目学習の効果(資格)	英語関連の資格取得につながる語彙力、表現力、リーディング及びリスニング力。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 8 Social Networking Sites How to Marry a Millionaire	授業の進め方と評価方法等の説明 The Facebook Phenomenon 映画前半	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	2	Unit 8 Social Networking Sites How to Marry a Millionaire	単語テスト1 Social Networking Trouble 映画1	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	3	Unit 9 Blogging How to Marry a Millionaire	単語テスト2 Telling the World 映画2	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	4	テスト Unit 9 Blogging How to Marry a Millionaire	第一回チェックテスト Popular Japan 映画3	テスト勉強 語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	5	Unit 10 Information Superhighway How to Marry a Millionaire	単語テスト3 Knowledge Haven 映画4	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	6	Unit 10 Information Superhighway How to Marry a Millionaire	単語テスト4 Sharing What You Know 映画5	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	7	Unit 11 Online Gambling How to Marry a Millionaire	単語テスト5 Clicking, Chances and Control 映画調整日	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	8	テスト Unit 11 Online Gambling How to Marry a Millionaire	第二回チェックテスト Online Casinos and Japan 映画後半	テスト勉強 語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	9	Unit12 Citizen Journalism How to Marry a Millionaire	単語テスト6 On-the-Scene Reporting 映画6	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	10	Unit12 Citizen Journalism How to Marry a Millionaire	単語テスト7 OHMYNEWS in Japan 映画7	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	11	Unit13 Online Shopping How to Marry a Millionaire	単語テスト8 E-Commerce Boom 映画8	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	12	テスト Unit13 Online Shopping How to Marry a Millionaire	第三回チェックテスト On line Shopong and Social Networks 映画9	テスト勉強 語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	13	Unit14 Internet Advertising How to Marry a Millionaire	単語テスト9 Cyberspace Sales 映画10	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
	14	Unit14 Internet Advertising How to Marry a Millionaire	単語テスト10 Japan connected to Advertising 映画調整日	語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (1時間)
15	テスト 復習	第四回チェックテスト review	語彙暗記 テスト勉強 (1時間)	

関連科目	他の英語科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English for the Digital World	Mprma Reveler ほか	三修社
	2	How to Marry a Millionaire	Kenzo Soneda 他	開文社

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト、発言、討論、宿題、提出物等 80% ※欠席 4 回未満、総合点 60 点以上を持って単位取得対象とする。			
学生への メッセージ	面白い内容で教材がそろえられたと思うので頑張りましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名(英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	江崎 早苗
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際貢献」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。グローバルな視点からボランティア、国際貢献に関する英語の語彙や表現を習得したり、そのような内容を持った英語を理解したり、自分の意見を英語で発信できるようになることを目標とします。このクラスでは、国際貢献の実習プログラムなどで海外の子供たちに接する場面を想定した「保育英語」を学習します。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際貢献」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることや、簡単な語彙や英語の表現を使って、国際貢献について意見を述べられるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果(資格)	英語関連の資格(TOEICなど)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Chapter 1 Children's Garden	テーマに関する英語の語彙や表現を実践的に習得する。	今月の歌の練習 発音練習
3	Chapter 2 The First Day of the Internship	テーマに関する英語の語彙や表現を実践的に習得する。	今月の歌の練習 発音練習
4	Chapter 3 Out We Go!	テーマに関する英語の語彙や表現を実践的に習得する。	今月の歌の練習 発音練習
5	Chapter 4 Splish, Splash	テーマに関する英語の語彙や表現を実践的に習得する。	今月の歌の練習 発音練習
6	Chapter 5 Pancake Day	テーマに関する英語の語彙や表現を実践的に習得する。	発表に必要なマテリアルの作成
7	Chapter 6 Read Me, Tell Me Stories	テーマに関する英語の語彙や表現を実践的に習得する。	今月の歌の練習 発音練習
8	ロールプレイング形式の発表	現地の保育現場を想定したロールプレイングをグループごとに行う。	今月の歌の練習 発音練習
9	Chapter 7 Activities with Watermelons	テーマに関する英語の語彙や表現を実践的に習得する。	今月の歌の練習 発音練習
10	Chapter 8 Happy Birthday!	テーマに関する英語の語彙や表現を実践的に習得する。	今月の歌の練習 発音練習
11	Chapter 9 Children at Play	テーマに関する英語の語彙や表現を実践的に習得する。	今月の歌の練習 発音練習
12	Chapter 10 Baby News	テーマに関する英語の語彙や表現を実践的に習得する。	今月の歌の練習 発音練習
13	Chapter 11 The Tooth Fairy	テーマに関する英語の語彙や表現を実践的に習得する。	今月の歌の練習 発音練習
14	Chapter 12 The Green-Eyed Witch	テーマに関する英語の語彙や表現を実践的に習得する。	今月の歌の練習 発音練習
15	ロールプレイング形式の発表	現地の保育現場を想定したロールプレイングをグループごとに行う。	今月の歌の練習 発音練習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Children's Garden	Naoko Akamatsu	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英和辞典・和英辞典		
	2			
	3			

評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイング形式の発表(2回) 60%(各30%) ・歌のテスト 20%(毎月1曲授業中に練習し、その月の最終回に歌ってもらう。主に発音に注意する) ・小テスト 20%(教科書内にある英語フレーズを使用する)
----------	---

学生へのメッセージ	ESPはパッケージプログラムと連動する英語科目です。自分の将来をしっかり見据えて英語学習に取り組みましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三宅 一平
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	パッケージプログラムが想定する分野に関連した英語を学習する。英語を仕事のツールととらえ、それぞれの職種における基本的な語彙や表現を用いて英語を話したり、書いたりできるようになることを目標にする。
到達目標	分野によって必要とされる英語が異なることを理解すること。たとえば、航空会社やホテルに必要な英語と外資系企業や日本企業の海外事業部門などで必要な英語は異なる。自分にとって関心があるキャリアを決め、そこで要求される英語の基本を主体的に学習すること。 今年度の「外国語専門職」クラスでは Alice's Adventures in Wonderland (『不思議の国のアリス』) に焦点をあて、小説翻訳の演習を行う。英語を読む力のみならず、日英間の文化的、言語的差異を意識し、原文の持つ特徴を活かしながら日本語訳する力を養うことを目標とする。
授業方法と留意点	毎週数ページずつ小説を読み進める。授業内では文章の意味について確認を行ったうえで、グループワーク等を通し、取り上げた文章の翻訳を実践する。事前に該当範囲を読んでおくこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Chapter VII	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
3	Chapter VII	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
4	Chapter VIII	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
5	Chapter VIII	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
6	Chapter VIII	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
7	Chapter IX	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
8	Chapter IX	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
9	Chapter X	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
10	Chapter X	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
11	Chapter XI	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
12	Chapter XI	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
13	Chapter XII	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
14	Chapter XII	文法、意味の確認 翻訳実践	次週の範囲の予習
15	Chapter XII まとめ	文法、意味の確認 翻訳実践	作文課題

関連科目	リーディング IIa, b 等
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Alice's Adventures in Wonderland and Through the Looking-Glass	Lewis Carroll	Oxford
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「不思議の国のアリス」を英語で読む	別宮貞徳	筑摩書房
2				
3				

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	前期とともに受講されるのが望ましいですが、適宜前期の内容のフォローもしていきますので、後期のみの受講も可能です。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	矢富 弘/平野 惟
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果(資格)	英語関連の資格 (TOEIC など)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Chapter 8: Can I Make a Point Here?	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明、Chapter 8の導入	なし
2	Chapter 8: Can I Make a Point Here?	聴解 (DVD 視聴) と読解を中心に英語表現と語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読んでおくこと。
3	Chapter 9: I'm Not Sure I Agree	小テストを終えてから、聴解 (DVD 視聴) を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
4	Chapter 9: I'm Not Sure I Agree	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。
5	Chapter 10: Today's Topics	小テストを終えてから、聴解 (DVD 視聴) を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
6	Chapter 10: Today's Topics	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。
7	Chapter 11: To Sum Up	小テストを終えてから、聴解 (DVD 視聴) を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
8	Chapter 11: To Sum Up	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。
9	Chapter 12: Any Questions?	小テストを終えてから、聴解 (DVD 視聴) を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
10	Chapter 12: Any Questions?	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。
11	Chapter 13: Making the Offer	小テストを終えてから、聴解 (DVD 視聴) を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
12	Chapter 13: Making the Offer	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回のChapterのリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。
13	Chapter 14: That's My Final Offer	小テストを終えてから、聴解 (DVD 視聴) を中心に英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。
14	Chapter 14: That's My Final Offer Chapter 15: Finalizing the Deal	読解を中心に語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。Chapter 15を導入する。	Chapter 14のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。
15	Chapter 15: Finalizing the Deal	小テストを終えてから、聴解 (DVD 視聴) と読解を中心に英語表現と語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	小テストのための復習を行うこと。Chapter15のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。

関連科目	ESP (English for Specific Purposes) a
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Interactive Business English on DVD	徳田 豊、他	成美堂
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	“Every man takes the limits of his own fields of vision for the limits of the world.” - Arthur Schopenhauer, Psychological Observation. 「誰もが自分の視野の限界を世界の視野の限界だと思っている。」 アルトゥル・ショーペンハウアー 『心理学的観察』 外国語学習はコミュニケーションの手段を得ることに留まらず、あなたの「視野」を広げ違う世界を見せてくれるでしょう。一緒に楽しみながら学びましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名(英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	<p>国際キャリアコースのパッケージプログラムが想定する分野に関連した英語を学習します。</p> <p>本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際教養」を選択した学生を対象とした英語の授業です。</p> <p>日本と世界をアートと時事の二つの視点から見つめ、情報をわかりやすく説明したり、表現したりする英語の学習を目的とします。</p> <p>日本から英語、英語から日本語の、音声通訳および文字による翻訳のための演習も行います。</p>
到達目標	<p>英語を仕事のツールととらえ、それぞれの職種における基本的な語彙や表現を用いて英語を話したり、書いたりできるようになることを目標にする。</p> <p>国内だけでなく、世界の出来事に関心を向ける。社会の出来事やそれについて自分の見解を述べるために必要な基本的語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、離したり、書いたりできるようになることを目標とする。</p>
授業方法と留意点	<p>分野によって必要とされる英語が異なることを理解すること。例えば、航空会社やホテルで必要な英語と外資系企業や日本企業の海外事業部門などで必要な英語は異なる。自分にとって関心があるキャリアを決め、そこで要求される英語の基本を主体的に学習する。</p> <p>国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。</p>
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 世界のニュースを英語で 時事問題を描く映画・文学とは	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
2	食糧生産(1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
3	食糧生産(2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
4	食糧生産(3)	発表	報道記事を読む・聴く 復習
5	国境を超える犯罪捜査(1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
6	国境を超える犯罪捜査(2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
7	国境を超える犯罪捜査(3)	発表	報道記事を読む・聴く 復習
8	科学と倫理(1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
9	科学と倫理(2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
10	科学と倫理(3)	発表	報道記事を読む・聴く 復習
11	日本発の製品・文化を世界に(1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
12	日本発の製品・文化を世界に(2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
13	日本発の製品・文化を世界に(3)	発表	報道記事を読む・聴く 復習
14	ポスター発表(1)	発表と相互に質問	発表準備 復習
15	ポスター発表(2)	発表と相互に質問	ふりかえり

関連科目	リーディング IIa, b 等
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		『戯曲で学ぶ対話力: Promised Land(仮)』 詳細は授業初回にお知らせします。 予定価格 1500 円。	
2		プリント教材		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	視点を移すと、見えるものが変わってきます。自分が当たり前と思っていたことも、その背景を知らない人にとっては理解できないことかもしれません。自分とちがった文化圏で暮らしてきた人たちにわかるように、英語で伝えるには、どうしたらいいでしょうか？少しでもわかり合うことができれば、相手は将来、あなたの大切な友人となるかもしれません。試行錯誤していきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階 齋藤研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	異文化コミュニケーション論	科目名(英文)	Cross-Cultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	<p>・この科目は、「外国語専門職プログラム」および「国際教養プログラム」対応科目です。</p> <p>・人間の使う言葉・行動・価値の置き方には、文化の違いが反映されています。この授業では、自文化を知り、他文化を尊重し、価値観を尊重しながら、異なる文化を持つ人々とのようにつきあっていくかを考えること、文化の多様性を受け入れること、価値観の違いを乗り越えて意志疎通を図ることの意義や実践法を学びます。</p>																																																																		
到達目標	<p>・異文化コミュニケーションに関する専門用語を理解し、基礎的な知識を得る。</p> <p>・異文化経験の具体的な事例について、観察・分析し、考察することができる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>・講義 教科書の内容は熟読する。</p> <p>・タスク 異文化コミュニケーションについて考えるタスク・活動を行う。授業外の課題として行うものもある。グループワーク、発表も含まれる。(授業の進行状況により、授業テーマの順番や内容が多少変更することがあります)</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項</td> <td>プリント熟読</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>異文化コミュニケーションとは(1)</td> <td>講義、タスク</td> <td>プリント熟読 授業で出された課題</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>異文化コミュニケーションとは(1)</td> <td>講義、タスク</td> <td>プリント熟読 授業で出された課題</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>異文化適応</td> <td>講義、タスク</td> <td>プリント熟読 授業で出された課題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>問題となる異文化コミュニケーション(1)</td> <td>講義、タスク</td> <td>プリント熟読 授業で出された課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>問題となる異文化コミュニケーション(2)</td> <td>講義、タスク</td> <td>プリント熟読 授業で出された課題</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>比較する</td> <td>講義、タスク</td> <td>プリント熟読 授業で出された課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>言語コミュニケーション(1)</td> <td>講義、タスク</td> <td>プリント熟読 授業で出された課題</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語コミュニケーション(2)</td> <td>講義、タスク</td> <td>プリント熟読 授業で出された課題</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>非言語コミュニケーション</td> <td>講義、タスク</td> <td>プリント熟読 授業で出された課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>外国語の学習</td> <td>ゲストスピーカー(予定)・グループディスカッション</td> <td>プリント熟読 授業で出された課題</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>異文化ビジネスコミュニケーション</td> <td>講義、タスク</td> <td>プリント熟読 授業で出された課題</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>異文化コミュニケーションスキル・トレーニング</td> <td>講義、タスク</td> <td>プリント熟読 授業で出された課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>多文化共生社会と日本語教育</td> <td>講義、タスク</td> <td>総復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習・確認テスト</td> <td>総復習・テスト</td> <td>授業の振り返り</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	プリント熟読	2	異文化コミュニケーションとは(1)	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題	3	異文化コミュニケーションとは(1)	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題	4	異文化適応	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題	5	問題となる異文化コミュニケーション(1)	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題	6	問題となる異文化コミュニケーション(2)	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題	7	比較する	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題	8	言語コミュニケーション(1)	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題	9	言語コミュニケーション(2)	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題	10	非言語コミュニケーション	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題	11	外国語の学習	ゲストスピーカー(予定)・グループディスカッション	プリント熟読 授業で出された課題	12	異文化ビジネスコミュニケーション	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題	13	異文化コミュニケーションスキル・トレーニング	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題	14	多文化共生社会と日本語教育	講義、タスク	総復習	15	総復習・確認テスト	総復習・テスト	授業の振り返り
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	プリント熟読																																																																
2	異文化コミュニケーションとは(1)	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題																																																																
3	異文化コミュニケーションとは(1)	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題																																																																
4	異文化適応	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題																																																																
5	問題となる異文化コミュニケーション(1)	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題																																																																
6	問題となる異文化コミュニケーション(2)	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題																																																																
7	比較する	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題																																																																
8	言語コミュニケーション(1)	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題																																																																
9	言語コミュニケーション(2)	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題																																																																
10	非言語コミュニケーション	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題																																																																
11	外国語の学習	ゲストスピーカー(予定)・グループディスカッション	プリント熟読 授業で出された課題																																																																
12	異文化ビジネスコミュニケーション	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題																																																																
13	異文化コミュニケーションスキル・トレーニング	講義、タスク	プリント熟読 授業で出された課題																																																																
14	多文化共生社会と日本語教育	講義、タスク	総復習																																																																
15	総復習・確認テスト	総復習・テスト	授業の振り返り																																																																
関連科目	外国語専門職プログラム・国際教養プログラム科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プリントを配布する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリントを配布する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プリントを配布する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>異文化コミュニケーションの AtoZ -理論と実践の両面からわかる-</td> <td>小坂貴志</td> <td>研究社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>多文化共生のための異文化コミュニケーション</td> <td>原澤伊都夫</td> <td>明石書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>その他は授業で指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	異文化コミュニケーションの AtoZ -理論と実践の両面からわかる-	小坂貴志	研究社	2	多文化共生のための異文化コミュニケーション	原澤伊都夫	明石書店	3	その他は授業で指示する																																																		
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	異文化コミュニケーションの AtoZ -理論と実践の両面からわかる-	小坂貴志	研究社																																																																
2	多文化共生のための異文化コミュニケーション	原澤伊都夫	明石書店																																																																
3	その他は授業で指示する																																																																		
評価方法(基準)	課題及びレポート(30%)・授業への参加度(10%)・テスト(60%)により総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	外国語を学習している皆さんにとって、「異文化コミュニケーション」について学ぶことは非常に大切なことです。授業を通して多くの「気づき」が生じると思います。事前・事後学習が求められます(各1.5H)																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	異文化接触論	科目名(英文)	Cultural Interactions
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	情報通信の発達や国境を越える企業活動の広がりによって、現代世界では、これまで以上に多様な文化的背景をもつ人々と接触し、理解し合わなくてはならない場面が増えている。「異文化」とは外国文化だけでなく、身近な隣人もまた「異文化」的存在である。この授業は、世界における異文化接触の事例を学ぶとともに、身近な他者や異文化の認識の仕方についてグループワークも取り入れながら考え、異文化との接触を理解するための多様な視点を得ることを目的とする。
到達目標	世界の諸地域の事例から、異文化接触の明と暗についての知識を深める。 自分の異文化認識の型を知り、異文化を見る新たな視点を得る。
授業方法と留意点	文化の捉え方や歴史的な異文化接触の事例はプリントを配布して講義形式で行い、あわせて身近な異文化発見のためのグループワークを3回程度行う。グループワークのたびに異文化認識についての発見をA4一枚の中間レポートにまとめて提出する。学期末には中間レポートからの発見と講義で紹介する異文化接触の理論と事例を総合し、「異文化との豊かな交流のための提言」というテーマでA4二枚の期末レポートを提出する。
科目学習の効果(資格)	自文化と異文化の違いを知り、違いを積極的に理解する思考をもって、より多くの文化的背景の異なる人々との交流を広げる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要、講師の異文化体験	配布資料と推薦文献を読む。
2	異文化接触の明と暗	欧州と日本、アメリカ大陸との接触を例に文化接触の功罪を考える。	配布資料と推薦文献を読む。
3	文化とはなにか	文化を捉える理論、文化の多多元性	配布資料と推薦文献を読み、グループワークの下準備をする。
4	身近な異文化の発見	身近な自己と他者の文化の違いに気づくグループワーク	中間レポートの作成
5	創られる異文化対立	ルワンダの民族対立の悲劇	配布資料と推薦文献を読む。
6	異文化への視線(1)	アジアとアフリカはどのようにみられてきたか。	配布資料と推薦文献を読む。
7	異文化への視線(2)	イスラムとオリエンタリズム	配布資料と推薦文献を読み、グループワークの下準備をする。
8	自分は外国文化をどのように捉えているかを知る	外国認識の多多元性に気づくグループワーク	中間レポートの作成
9	異文化の包摂と排除(1)	米国のラテン系移民の事例から排除と包摂を考える。	配布資料と推薦文献を読む。
10	異文化の包摂と排除(2)	先住民の問題から国民国家とマイノリティの関係性を考える。	配布資料と推薦文献を読む。
11	多文化主義	多文化共生のための諸外国の取り組み	配布資料と推薦文献を読み、グループワークの下準備をする。
12	映像から文化の違いを読みとる	映像資料のなかの発言や行動と自分との違いを見つけ議論するグループワーク	中間レポートの作成
13	個人レベルの異文化接触(1)	文化相対主義と異文化感受性発展モデルをもとに異文化との接し方、偏見の回避を考える。	配布資料と推薦文献を読む。
14	個人レベルの異文化接触(2)	カルチャーショックと異文化適応のプロセスを知る。	配布資料と推薦文献を読む。
15	異文化接触を人生に生かすために	異文化接触を豊かな交流につなげるために必要なことを考える。	期末レポートの作成

関連科目 日米比較文化、芸術文化論、異文化ビジネス論、異文化コミュニケーション論、国際社会論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	イスラム報道 増補版	エドワード・W・サイド	みすず書房
2	改訂版 異文化トレーニング ボーダレス社会を生きる	八代京子ほか	三修社
3			

評価方法(基準)	授業参加度(グループワークへの取り組み、提出物等)20点、中間レポート40点、期末レポート40点で評価する。
学生へのメッセージ	他者や異文化とのかかわりを客観的に考えられるようになって、より多くの他者・異文化との関係を広げてください。
担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は60時間を目安とする。 受講生の関心や予備知識によって授業内容を一部変更する可能性がある。

科目名	異文化ビジネス論	科目名(英文)	Cross-Cultural Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本授業は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに対応する科目です。グローバルとローカルの両方の視点から、企業の事業や商業上の取引の具体例に注目しながら、ビジネスと文化の関係について学ぶことを目的とします。
到達目標	国や地域によって異なる文化について、日本と比較しながら理解を深めるとともに、国際ビジネスの現状や今後の展開について考察することを目標とします。
授業方法と留意点	グループワークを中心に行います。全グループに、学外での調査活動と、それに基づく研究発表(プレゼンテーション)を義務づけます。よって、行動力や協調性が大切になるでしょう。
科目学習の効果(資格)	文化演習(3ゼミ)などの研究にも役立つでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	研究発表(プレゼン)のテーマとなる業界の説明(1)	家具・インテリア・生活雑貨の業界に注目し、国内外のマーケティングの特徴や違いについて、具体的な事例とともに学ぶ。	授業の内容を整理し、自分で調べたことと合わせて理解を深める。
3	研究発表(プレゼン)のテーマとなる業界の説明(2)	アパレル(SPA、小売り)業界に注目し、国内外のマーケティングの特徴や違いについて、具体的な事例とともに学ぶ。	授業の内容を整理し、自分で調べたことと合わせて理解を深める。
4	研究発表(プレゼン)のテーマとなる業界の説明(3)	食文化としてカフェやコンビニ業界に注目し、国内外のマーケティングの特徴や違いについて、具体的な事例とともに学ぶ。	授業の内容を整理し、自分で調べたことと合わせて理解を深める。
5	・研究発表(プレゼン)の計画を立てる。 ・プレゼンのスキルを学ぶ。	・プレゼンのスキルについて、具体例とともに要点を確認する。 ・研究発表のグループメンバー、テーマ、発表日等を決定する。	グループごとに、今後の研究計画について検討する。
6	宗教の観点からビジネスを考察する(1)	主にアメリカにおけるキリスト教やユダヤ教などに注目し、ビジネスへの影響などについて事例とともに考察する。	・授業の内容を整理し、自分で調べたことと合わせて理解を深める。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
7	宗教の観点からビジネスを考察する(2)	イスラム教に注目し、ハラール認証やラマダン(断食月)などとビジネスの関係について、具体的な事例とともに考察する。	・授業の内容を整理し、自分で調べたことと合わせて理解を深める。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
8	生活・社会的習慣の違いからビジネスを考察する	日系企業が世界の各地に進出した際の成功例や失敗例に注目し、異文化とビジネスの関係について考察する。	・授業の内容を整理し、自分で調べたことと合わせて理解を深める。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
9	研究発表(プレゼンテーション)(1)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の仕上げをする。
10	研究発表(プレゼンテーション)(2)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりと準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の仕上げをする。
11	研究発表(プレゼンテーション)(3)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりと準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の仕上げをする。
12	研究発表(プレゼンテーション)(4)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりと準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の仕上げをする。
13	研究発表(プレゼンテーション)(5)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりと準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の仕上げをする。
14	研究発表(プレゼンテーション)(6)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりと準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の仕上げをする。
15	まとめ(総括)	レポートの講評を行い、返却する。	これまでに学んだ内容の要点を整理する。

関連科目 「地域と国際ビジネス」やその他の国際ビジネスプログラム科目など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
2				

	3		
評価方法 (基準)	研究発表(プレゼンテーション)(40%)、レポート(40%)、授業に取り組む姿勢など(20%)を合わせて評価します。 ※ただし、原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。		
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の仕事でもチームワークが重要です。この授業でも積極的かつ協調的な姿勢を大切にしたいと思います。 ・英語プロフェッショナルコースの学生も履修できますので、将来、国際ビジネスの分野で活躍したい人は、ぜひ学んでみてください。 		
担当者の 研究室等	7号館4階(中島研究室)		
備考	事前・事後学習の総時間数は、25~30時間を目安としてください。		

科目名	イベント企画論	科目名(英文)	Event Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<p>This course will be examine tourism events in the leisure industry around the world. An overview of the history, reasons for holding the events, planning and organization of events will provide the focus of the course.</p> <p>※なお、この科目は、「観光ホスピタリティ」および「メディアビジネス」プログラムの対応科目です。</p>
到達目標	<p>Students will demonstrate an understanding of the roles and significance of tourism events and experiences in past and present societies, and knowledge of the factors surrounding the process of organizing an event.</p> <p>Students will work collaboratively to research and attend a special event and demonstrate knowledge of the key concepts involved in the planning and staging of that special event.</p>
授業方法と留意点	<p>Students will research events in Japan for homework prior to the class. The lecture will then introduce similar events in other countries. The class will be interactive including a mini-lecture, note-taking in English, group discussion, and a content quiz to confirm understanding of the key concepts in English.</p>

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction to Leisure Behaviour and the Event Industry / Note taking / Research on Japanese events	An introduction to the course, This class is very important to attend.	Find out about 1 music festival in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
2	Iconic Music Events & Planning	Pair share about your festival, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Research 1 event you would like to attend in Kansai.
3	Event project plans	Project-based groups made Events decided. This is an important class to attend	Find out about 1 food festival in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
4	Food Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 religious festival in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
5	Religion-based Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 political event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
6	Political Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 beer or wine event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
7	Beer and Wine Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 flower event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
8	Flower Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 sporting event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
9	Sporting Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 comedy event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
10	Comedy Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 christmas event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
11	Christmas Market Events & Planning	Group share about your festival, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Prepare information for your powerpoint presentation to discuss with your group / text in English / video / photos
12	Event Project group - division of work - English check	Example of 2017 powerpoint presentations shown	Portfolio summaries collected (9 events at least 100 words each event) Event Presentations (1) to send powerpoint files
13	Event Presentations (1)	Evaluations	Event Presentations (2) to send powerpoint files
14	Event Presentations (2)	Evaluations	Event Presentations (3) to send powerpoint files
15	Event Presentations (3)	Evaluations	Final sum-up

関連科目 「観光ホスピタリティ」や「メディアビジネス」プログラムの他の科目など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Group-based Attendance at an event & Presentation about that event 30% In-lecture quizzes on class content 30% Portfolio of Research about events in Japan 20% Class attitude - participating, using English, talking, asking questions 20%			
学生への メッセージ	Enjoy finding out about events all over the world while using English in a meaningful way.			
担当者の 研究室等	7号館5階田浦研究室			
備考				

科目名	English for Global Communication a	科目名 (英文)	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目	Comprehensive English a, English Writing Workshop a
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	共通課題 (プレゼンテーション) 15%, Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Quizzes 20%, Portfolio writing assignments 25%, Staying in the English Zone 10%
-----------	---

学生へのメッセージ	Education is the passport to the future, for tomorrow belongs to those who prepare for it today.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 田浦研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	English for Global Communication a	科目名 (英文)	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・ダイアース
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目	Comprehensive English a, English Writing Workshop a
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	共通課題 (プレゼンテーション) 15%, Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Quizzes 20%, Portfolio writing assignments 25%, Staying in the English Zone 10%
-----------	---

学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	English for Global Communication a	科目名 (英文)	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目	Comprehensive English a, English Writing Workshop a
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	共通課題 (プレゼンテーション) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	--

学生へのメッセージ	Please bring a pen, pencil, paper and dictionary (or smart phone) to class. Looking forward to seeing you in class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	English for Global Communication a	科目名(英文)	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目	Comprehensive English a, English Writing Workshop a
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	共通課題(プレゼンテーション)15%, Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Quizzes 20%, Portfolio writing assignments 25%, Staying in the English Zone 10%
----------	---

学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	English for Global Communication b	科目名(英文)	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	English for Global Communication(a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようになる。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	6	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目	Comprehensive English b, English Writing Workshop b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	Final Discussion Presentation (共通課題) 15%, Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Quizzes 20%, Portfolio writing assignments 25%, Staying in the English Zone 10%
----------	---

学生へのメッセージ	Education is the most powerful weapon which you can use to change the world.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 田浦研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	English for Global Communication b	科目名 (英文)	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・ダイアース
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	English for Global Communication (a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようになる。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
	3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
	5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
	6	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
	8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
	9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
	11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
	13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
	15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目	Comprehensive English b, English Writing Workshop b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Final Discussion Presentation (共通課題) 15%, Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Quizzes 20%, Portfolio writing assignments 25%, Staying in the English Zone 10%
-----------	---

学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	English for Global Communication b	科目名 (英文)	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	English for Global Communication(a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようになる。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴 + Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目	Comprehensive English b, English Writing Workshop b
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	共通課題(プレゼンテーション) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	---

学生へのメッセージ	Please bring a pen, pencil, paper and dictionary (or smart phone) to class. Please don't be shy to speak and make mistakes.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	English for Global Communication b	科目名(英文)	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	English for Global Communication(a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようになる。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
6	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
7	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目	Comprehensive English b, English Writing Workshop b
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	Final Discussion Presentation (共通課題) 15%, Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Quizzes 20%, Portfolio writing assignments 25%, Staying in the English Zone 10%
----------	---

学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	English for TOEFL	科目名 (英文)	English for TOEFL
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	TOEFL 受験に必要なボキャブラリー増強と、リスニング、リーディングのスキル向上をはかる。まず TOEFL の概要をつかみ、TOEFL に対応する幅広いトピックにふれると同時に、英語による正確な聞き取り・読み取り能力を身に付ける。																																																																		
到達目標	TOEFL の問題形式や傾向を理解し、アカデミックな知識・関心を広げ、4 技能をバランスよく伸ばすことを目標にする。																																																																		
授業方法と留意点	TOEFL の対策授業を行う。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEFL, TOEIC, 英検のスコア・アップ																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業内容と説明</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Listening</td> <td>Understanding agreement and disagreement (short dialogues)</td> <td>第 2 回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Listening</td> <td>Understanding gist (extended conversations/academic mini-talks)</td> <td>第 3 回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Structure</td> <td>Verb tenses (present simple, present progressive, past simple, past progressive)</td> <td>第 4 回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Structure</td> <td>Verb tenses (present perfect, past perfect, future perfect)</td> <td>第 5 回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Reading</td> <td>Understanding gist</td> <td>第 6 回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Reading</td> <td>Understanding purpose</td> <td>第 7 回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Listening</td> <td>Understanding negatives (short dialogues)</td> <td>第 8 回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Listening</td> <td>Understanding specific information (extended conversations/academic mini-talks)</td> <td>第 9 回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Structure</td> <td>Articles</td> <td>第 10 回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Structure</td> <td>Comparatives and superlatives</td> <td>第 11 回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Reading</td> <td>Understanding specific information</td> <td>第 12 回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Reading</td> <td>Understanding pronoun reference</td> <td>第 13 回授業の予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>弱点克服</td> <td>特に苦手とするセクション解答のポイントを学ぶ</td> <td>総復習 1</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習と理解度チェック</td> <td>全体を復習し、理解度をはかる</td> <td>総復習 2</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業内容と説明	授業内容の復習	2	Listening	Understanding agreement and disagreement (short dialogues)	第 2 回授業の予習	3	Listening	Understanding gist (extended conversations/academic mini-talks)	第 3 回授業の予習	4	Structure	Verb tenses (present simple, present progressive, past simple, past progressive)	第 4 回授業の予習	5	Structure	Verb tenses (present perfect, past perfect, future perfect)	第 5 回授業の予習	6	Reading	Understanding gist	第 6 回授業の予習	7	Reading	Understanding purpose	第 7 回授業の予習	8	Listening	Understanding negatives (short dialogues)	第 8 回授業の予習	9	Listening	Understanding specific information (extended conversations/academic mini-talks)	第 9 回授業の予習	10	Structure	Articles	第 10 回授業の予習	11	Structure	Comparatives and superlatives	第 11 回授業の予習	12	Reading	Understanding specific information	第 12 回授業の予習	13	Reading	Understanding pronoun reference	第 13 回授業の予習	14	弱点克服	特に苦手とするセクション解答のポイントを学ぶ	総復習 1	15	総復習と理解度チェック	全体を復習し、理解度をはかる	総復習 2
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業内容と説明	授業内容の復習																																																																
2	Listening	Understanding agreement and disagreement (short dialogues)	第 2 回授業の予習																																																																
3	Listening	Understanding gist (extended conversations/academic mini-talks)	第 3 回授業の予習																																																																
4	Structure	Verb tenses (present simple, present progressive, past simple, past progressive)	第 4 回授業の予習																																																																
5	Structure	Verb tenses (present perfect, past perfect, future perfect)	第 5 回授業の予習																																																																
6	Reading	Understanding gist	第 6 回授業の予習																																																																
7	Reading	Understanding purpose	第 7 回授業の予習																																																																
8	Listening	Understanding negatives (short dialogues)	第 8 回授業の予習																																																																
9	Listening	Understanding specific information (extended conversations/academic mini-talks)	第 9 回授業の予習																																																																
10	Structure	Articles	第 10 回授業の予習																																																																
11	Structure	Comparatives and superlatives	第 11 回授業の予習																																																																
12	Reading	Understanding specific information	第 12 回授業の予習																																																																
13	Reading	Understanding pronoun reference	第 13 回授業の予習																																																																
14	弱点克服	特に苦手とするセクション解答のポイントを学ぶ	総復習 1																																																																
15	総復習と理解度チェック	全体を復習し、理解度をはかる	総復習 2																																																																
関連科目	Academic Reading, Academic Writing, Integrated Skills Training, Practical English Conversation																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Boost Your English 1</td> <td>Makoto Shishido etc.</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Boost Your English 1	Makoto Shishido etc.	SEIBIDO	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Boost Your English 1	Makoto Shishido etc.	SEIBIDO																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	TOEFL-ITP (模擬テスト) 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題等 70%																																																																		
学生へのメッセージ	TOEFL の得点を上げるには、さまざまなアカデミック英語に慣れる必要があります。最初はわからなくてもあきらめず、少しずつ慣れていきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 皆本研究室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	イングリッシュ プレゼンテーション I b	科目名 (英文)	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Sイあい
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル (身振り、姿勢、話し方など) や発表構成 (導入・展開・結論) を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報 (自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること) を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	アイコンタクトについて予習
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。
6	プレゼンテーション (1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。
12	プレゼンテーション (2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。

関連科目	ドラマ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センテージ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Giving a good presentation takes more than words. Voice, gesture, posture, movement, and visual aids can contribute to making a good presentation. I'm looking forward to helping you improve your presentation skills.
担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチュードントアワーにて対応する。

科目名	イングリッシュ プレゼンテーション I b	科目名 (英文)	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ろうえ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル (身振り、姿勢、話し方など) や発表構成 (導入・展開・結論) を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報 (自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること) を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	アイコンタクトについて予習
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。
6	プレゼンテーション (1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。
12	プレゼンテーション (2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。

関連科目	ドラマ
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センゲージ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Those who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will benefit most from this course. N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	イングリッシュ プレゼンテーション I b	科目名 (英文)	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハおか
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル (身振り、姿勢、話し方など) や発表構成 (導入・展開・結論) を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報 (自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること) を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	アイコンタクトについて予習
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。
6	プレゼンテーション (1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。
12	プレゼンテーション (2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。

関連科目	ドラマ
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センテージ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Be prepared to share your ideas and opinions with everyone. You will need a dictionary in this class.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	イングリッシュ プレゼンテーション I b	科目名 (英文)	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニきく
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル (身振り、姿勢、話し方など) や発表構成 (導入・展開・結論) を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報 (自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること) を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	アイコンタクトについて予習
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。
6	プレゼンテーション (1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。
12	プレゼンテーション (2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。

関連科目	ドラマ
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センテージ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	イングリッシュ プレゼンテーション I b	科目名 (英文)	English Presentation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホヘけさし
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル (身振り、姿勢、話し方など) や発表構成 (導入・展開・結論) を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報 (自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること) を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	アイコンタクトについて予習
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。
6	プレゼンテーション (1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。
12	プレゼンテーション (2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センテージ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Giving a good presentation takes more than words. Voice, gesture, posture, movement, and visual aids can contribute to making a good presentation. I'm looking forward to helping you improve your presentation skills.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	English Writing Workshop a	科目名 (英文)	English Writing Workshop a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	AB
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	読解した英文の内容について、基本的な文法構造を用いて要約したり、自分の意見を含めたレポートやエッセイを書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、複数のパラグラフでエッセイを書くことができるようになる。また、英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に慣れる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> Comprehensive English a, English for Global Communication aと連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1.1 Psychology Happiness	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 1.2 Psychology Happiness	Unit 1 Writing Task p. 11	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 2.1 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 2.2 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Unit 2 Writing Task p. 21	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Unit 3 Writing Task p. 31	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 4.1 Business 'Negotiating'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 4.2 Business 'Negotiating'	Unit 4 Unit Writing Task p. 41	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 5.1 Art History 'Modern Art'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 5.2 Art History 'Modern Art'	Unit 5 Writing Task p. 51	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 6.1 Engineering 'Robots'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 6.2 Engineering 'Robots'	Unit 6 Writing Task p.61	Review unit language structures & watch the lecture.
15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.	

関連科目	Comprehensive English a, English for Global Communication a
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題(エッセイ課題) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生への メッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
担当者の 研究室等	7号館3階 ハーキー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Writing Workshop a	科目名 (英文)	English Writing Workshop a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	CD
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	読解した英文の内容について、基本的な文法構造を用いて要約したり、自分の意見を含めたレポートやエッセイを書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、複数のパラグラフでエッセイを書くことができるようになる。また、英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に慣れる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> Comprehensive English a, English for Global Communication aと連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1.1 Psychology Happiness	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 1.2 Psychology Happiness	Unit 1 Writing Task p. 11	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 2.1 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 2.2 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Unit 2 Writing Task p. 21	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Unit 3 Writing Task p. 31	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 4.1 Business 'Negotiating'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 4.2 Business 'Negotiating'	Unit 4 Unit Writing Task p. 41	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 5.1 Art History 'Modern Art'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 5.2 Art History 'Modern Art'	Unit 5 Writing Task p. 51	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 6.1 Engineering 'Robots'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 6.2 Engineering 'Robots'	Unit 6 Writing Task p.61	Review unit language structures & watch the lecture.
15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.	

関連科目	Comprehensive English a, English for Global Communication a
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題(エッセイ課題) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生への メッセージ	An investment in knowledge pays the best interest.
担当者の 研究室等	7号館5階田浦研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Writing Workshop b	科目名 (英文)	English Writing Workshop b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	AB
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	与えられたテーマと資料に基づき、ある程度の結束性のある英語エッセイや英語レポートを、幅広い語彙や文法構造を用いて書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B2-1]を目標とし、読解した様々なトピックの情報とほかの情報源で得た情報を統合・整理し、それに対する自分の考えを根拠とともに示すことができるようになる。英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に従った文書作成ができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・Comprehensive English b, English for Global Communication bと連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 ・書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 7.1 Media Studies 'Interactive Games'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 70	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 7.2 Media Studies 'Interactive Games'	Unit 7 Writing Task p. 71	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 8.1 Biology 'Genetically Modified Food'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 80	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 8.2 Biology 'Genetically Modified Food'	Unit 8 Writing Task p. 81	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 9.1 Business 'Design Thinking'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 90	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 9.2 Business 'Design Thinking'	Unit 3 Writing Task p. 91	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 10.1 History 'Shackleton'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 100	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 10.2 History 'Shackleton'	Unit 10 Writing Task p. 101	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 11.1 Philosophy 'Ethics'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 110	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 11.2 Philosophy 'Ethics'	Unit 11 Writing Task p. 111	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 12.1 Information Technology 'Big Data'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 120	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 12.2 Information Technology 'Big Data'	Unit 6 Writing Task p. 121	Review unit language structures & watch the lecture.
	15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

関連科目	Comprehensive English b, English for Global Communication b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題(エッセイ課題) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生への メッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
担当者の 研究室等	7号館3階 ハーキー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Writing Workshop b	科目名 (英文)	English Writing Workshop b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	CD
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	与えられたテーマと資料に基づき、ある程度の結束性のある英語エッセイや英語レポートを、幅広い語彙や文法構造を用いて書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B2-1]を目標とし、読解した様々なトピックの情報とほかの情報源で得た情報を統合・整理し、それに対する自分の考えを根拠とともに示すことができるようになる。英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に従った文書作成ができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・Comprehensive English b, English for Global Communication bと連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 ・書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 7.1 Media Studies 'Interactive Games'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 70	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 7.2 Media Studies 'Interactive Games'	Unit 7 Writing Task p. 71	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 8.1 Biology 'Genetically Modified Food'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 80	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 8.2 Biology 'Genetically Modified Food'	Unit 8 Writing Task p. 81	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 9.1 Business 'Design Thinking'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 90	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 9.2 Business 'Design Thinking'	Unit 3 Writing Task p. 91	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 10.1 History 'Shackleton'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 100	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 10.2 History 'Shackleton'	Unit 10 Writing Task p. 101	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 11.1 Philosophy 'Ethics'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 110	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 11.2 Philosophy 'Ethics'	Unit 11 Writing Task p. 111	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 12.1 Information Technology 'Big Data'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 120	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 12.2 Information Technology 'Big Data'	Unit 6 Writing Task p. 121	Review unit language structures & watch the lecture.
	15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

関連科目	Comprehensive English b, English for Global Communication b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題(エッセイ課題) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生への メッセージ	The function of education is to teach one to think intensively and to think critically.
担当者の 研究室等	7号館5階田浦研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Lecture I a	科目名 (英文)	English Lecture I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	AB
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEIC スコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット運動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文 (レポート) 課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL
--------------	--------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
1	人間関係論 (Human Relations) 序論、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践します。	ノートを復習します。	
2	「個性」「価値観」「態度」とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
3	「知覚」「自尊感情」「自信」とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
4	「感情知性」(Emotional Intelligence) とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
5	目標設定と時間管理	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
6	復習テストと質疑応答	テストと復習します。	ノートを復習します。	
7	ストレスを特定する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
8	ストレスの原因と低減の方法	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
9	職場におけるコミュニケーション	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
10	コミュニケーションの様々なスタイル	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
11	言葉によらないコミュニケーション	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
12	レポート作成演習：トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。	
13	レポート作成演習：初稿を改訂する (アイデアの流れと構成を中心に)	レポートを書く。	レポートを書く。	
14	レポート作成演習：第二稿を改訂する (文章表現の確認)	レポートを書く。	レポートを書く。	
15	復習テストと質疑応答	テストを復習します。	ノートを復習します。	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版)	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/BookDetail.aspx?bookId=132
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Academic Essay Guideline (摂南大学外国語学部編)		
2				

評価方法 (基準)	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生への メッセー ジ	The aim of this course is to provide the opportunity to participate in a North American style lecture class. The content of the lectures and the skills you will learn in this class will be useful for job hunting, study abroad, and business. Be prepared to challenge yourself!
担当者の 研究室等	7号館3階 フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にテストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Lecture I a	科目名 (英文)	English Lecture I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	CD
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEIC スコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット運動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文 (レポート) 課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL
--------------	--------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
1	人間関係論 (Human Relations) 序論、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践します。	ノートを復習します。	
2	「個性」「価値観」「態度」とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
3	「知覚」「自尊感情」「自信」とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
4	「感情知性」(Emotional Intelligence) とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
5	目標設定と時間管理	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
6	復習テストと質疑応答	テストと復習します。	ノートを復習します。	
7	ストレスを特定する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
8	ストレスの原因と低減の方法	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
9	職場におけるコミュニケーション	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
10	コミュニケーションの様々なスタイル	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
11	言葉によらないコミュニケーション	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。	
12	レポート作成演習：トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。	
13	レポート作成演習：初稿を改訂する (アイデアの流れと構成を中心に)	レポートを書く。	レポートを書く。	
14	レポート作成演習：第二稿を改訂する (文章表現の確認)	レポートを書く。	レポートを書く。	
15	復習テストと質疑応答	テストと復習します。	ノートを復習します。	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版)	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/BookDetail.aspx?bookId=132
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Academic Essay Guideline (摂南大学外国語学部編)		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生への メッセー ジ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	English Lecture I b	科目名 (英文)	English Lecture I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	AB
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEICスコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文（レポート）課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL
--------------	--------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
1	導入、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践する。	ノートを復習する。	
2	職場における倫理	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
3	倫理的な意思決定を行う	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
4	モチベーション理論	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
5	モチベーションを上げるには	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
6	復習テストと質疑応答	テストと復習する。	ノートを復習する。	
7	職場におけるグループ分け	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
8	意思決定の過程を理解する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
9	職場における争議を処理する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
10	リーダーシップと管理業務	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
11	キャリアを管理する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
12	レポート作成演習：トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。	
13	レポート作成演習：初稿を改訂する（アイデアの流れと構成を中心に）	レポートを書く。	レポートを書く。	
14	レポート作成演習：第二稿を改訂する（文章表現の確認）	レポートを書く。	レポートを書く。	
15	復習テストと質疑応答	テストと復習する。	ノートを復習する。	

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版)	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/BookDetail.aspx?bookId=132
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Setsunan Academic Essay Guideline (摂南大学外国語学部編)		
2			

評価方法 (基準)	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	English Lecture I b	科目名 (英文)	English Lecture I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	CD
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEICスコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文（レポート）課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL
--------------	--------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
1	導入、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践する。	ノートを復習する。	
2	職場における倫理	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
3	倫理的な意思決定を行う	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
4	モチベーション理論	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
5	モチベーションを上げるには	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
6	復習テストと質疑応答	テストと復習する。	ノートを復習する。	
7	職場におけるグループ分け	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
8	意思決定の過程を理解する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
9	職場における争議を処理する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
10	リーダーシップと管理業務	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
11	キャリアを管理する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習する。	
12	レポート作成演習：トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。	
13	レポート作成演習：初稿を改訂する（アイデアの流れと構成を中心に）	レポートを書く。	レポートを書く。	
14	レポート作成演習：第二稿を改訂する（文章表現の確認）	レポートを書く。	レポートを書く。	
15	復習テストと質疑応答	テストと復習する。	ノートを復習する。	

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			

評価方法 (基準)	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生への メッセージ	The aim of this course is to provide the opportunity to participate in a North American style lecture class. The content of the lectures and the skills you will learn in this class will be useful for job hunting, study abroad, and business. Be prepared to challenge yourself!
担当者の 研究室等	7号館3階 フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にテストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Lecture II a	科目名 (英文)	English Lecture II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	幅広い内容の講義を英語で理解し、自らの意見を英語で述べたり、クラスメイトと英語でディスカッションできるようになる。講義テーマはブロードウェイ・ミュージカルである。
到達目標	あるトピックに関して自分の意見を交えながら、グループやクラスの前で発表したり、討論する。必ず辞書を持参すること。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文 (レポート) 課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	The Lion King [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	The Lion King [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	<ul style="list-style-type: none"> ・ Quiz ・ Students should study the content of the day's lesson
4	Cats [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Cats [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	<ul style="list-style-type: none"> ・ Quiz ・ Students should study the content of the day's lesson
6	West Side Story [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	West Side Story [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	<ul style="list-style-type: none"> ・ Quiz ・ Students should study the content of the day's lesson
8	A Chorus Line [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	A Chorus Line [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	<ul style="list-style-type: none"> ・ Quiz ・ Students should study the content of the day's lesson
10	Les Miserables [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Les Miserables [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	<ul style="list-style-type: none"> ・ Quiz ・ Students should study the content of the day's lesson
12	Evita [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Evita [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	<ul style="list-style-type: none"> ・ Quiz ・ Students should study the content of the day's lesson
14	Fiddler on the Roof [1]	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Fiddler on the Roof [2]	Individual Task, Pair Work or Group Work	<ul style="list-style-type: none"> ・ Quiz ・ Students should study the content of the day's lesson

関連科目: Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準): レポート 20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%

学生へのメッセージ: Students will need a notebook and a dictionary.

担当者の研究室等: 7号館5階 神崎研究室

備考: 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Lecture II b	科目名 (英文)	English Lecture II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	幅広い内容の講義を英語で理解し、自らの意見を英語で述べたり、クラスメイトと英語でディスカッションできるようになる。 This is a content-based academic English course on an Australian drama show and the cultural themes discovered while watching the episodes. Australian English will also be examined and an attempt made to familiarise the students with everyday life in Australia and the implications.
到達目標	あるトピックに関して自分の意見を交えながら、グループやクラスの前で発表したり、討論する。 The course will focus on listening and speaking skills and building up the vocabulary necessary for confident for lively discussions about the drama series that we watch.
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文 (レポート) 課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。 The topics will be introduced in visual form in the drama series, with background readings given for study at home in preparation and discussion will follow the episode clips. Writing assignments will be given based on the current cultural topic.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Overview	Information about grading and requirements. This is an important class to attend if you wish to take this course.
	2	Notetaking, reading, and strategies for discussion. Final essay guidelines and topics.	The way to study to improve your Academic English skills.	Listening and speaking techniques.
	3	Episode 1	Background mini-lecture, watching the clip, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments
	4	Episode 1	Listening skills	Academic readings on culture & Writing assignments
	5	Episode 1	Discussion on the cultural issues in Australia.	Academic readings on culture & Writing assignments
	6	Episode 2	Background mini-lecture, watching the clip, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments
	7	Episode 2	Listening skills	Academic readings on culture & Writing assignments
	8	Episode 2	Discussion on the cultural issues in Australia.	Academic readings on culture & Writing assignments
	9	Episode 3	Background mini-lecture, watching the clip, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments
	10	Episode 3	Listening skills	Academic readings on culture & Writing assignments
	11	Episode 3	Discussion on the cultural issues in Australia.	Academic readings on culture & Writing assignments
	12	Episode 4	Background mini-lecture, watching the clip, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments
	13	Episode 4	Listening skills	Final Essay
	14	Episode 4	Discussion on the cultural issues in Australia.	Final Essay due for assessment
	15	Final review	Evaluations	Verbal Presentations on final essay topics

関連科目: Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準): Class attitude 30% (Prepared, Enthusiastic, On time, Willing to learn), Quizzes 20%, Writing Portfolio 20% (short weekly writing assignments), Final essay & Presentation 20%, English zone maintained 10%

学生へのメッセージ: Learn as if you were to live forever.
Use a dictionary in class, always take notes while studying in class and stay in the English-only zone

担当者の研究室等: 7号館5階 田浦研究室

備考: 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Integrated Skills Training	科目名 (英文)	Integrated Skills Training
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年時で学習した英語のスタディスキルをさらに向上させる。ICT等を用いて、リスニング能力向上に主眼を置きながら、4技能をバランスよく伸ばす。
到達目標	CEFR-J[A2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。
授業方法と留意点	ICT教材を用いて、海外生活を行うための実践的なリスニング能力を養う。授業時間外にも、ICTを用いた所定のe-learning課題が課される。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1	人やものが存在するという行き先や目的を述べる	授業中に指示
	2	Unit 2	いつ～するのか言う いつ開始するか言う	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
	3	Unit 2	いつ完了するか言う 頻度を言う	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
	4	Unit 3	習慣・事実・未来 進行・状態・継続	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
	5	Unit 3	過去・完了 経験	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
	6	Unit 4	他人の行動を見聞きする	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
	7	Unit 4	他人の行動を強制・依頼・許可する	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
	8	Unit 5	説明される名詞が動詞の「目的語」 説明される名詞が「所有者」	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
	9	Unit 5	説明される部分が「義務・用途」	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
	10	Unit 6	確実に起きること・もう起きたこと 起きるかどうかわからないこと	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
	11	Unit 6	起こりそうもないこと 願望	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
	12	Unit 7	意見・感想を述べる 時制の一致	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
	13	Unit 7	意見・感想の尋ね方 予想との違い	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
	14	Unit 8	好き嫌いの表し方 可能の表し方	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。
	15	Unit 8	移動の方向 やりもらいと貸し借り	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。

関連科目	Practical English Conversation, Academic Reading, Academic Writing
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Useful Hints and Examples on Basic English Writing	鈴木卓	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	ICT教材課題 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
----------	---

学生へのメッセージ	留学後にどれだけ英語力を伸ばせるかは、日本での学習準備にかかっています。一日一日を大切に、頑張ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 後藤研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	インドネシア・マレー語圏概論	科目名(英文)	A Survey of the Indonesian-Malay World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子, 上田 達
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	インドネシア・マレー語圏の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得しする。インドネシアとマレーシアが話題の中心になるが、これらの国と結びつきの深いシンガポール、ブルネイ、東ティモールといった国々についても適宜言及する。あわせて他の東南アジア諸国についても基礎的な情報を紹介する。
到達目標	インドネシア語とマレー語が話されている地域に関する基礎的な知識を得ること、インドネシア・マレー語圏の人々の生活を、われわれの日常と地続きのものとして理解すること、の二点を到達目標とする。
授業方法と留意点	前半は大坪が行い、後半は上田が行う。授業の進め方の詳細は初回の授業時に指示するので、必ず出席すること。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	2人の候補と歌	冒頭で2014年インドネシア大統領選における2つのキャンペーン・ソングをとりあげる。続いて各時代大統領とポピュラー音楽との関係を概観する。(大坪担当)	復習として、ノートをまとめておくこと。簡単な年表を作ってくる(内容は授業で説明する)。
3	住民の反対運動とアート、ポピュラー音楽	近年インドネシア各地で開発に反対する住民運動がさかんである。それら各運動とミュージシャンたちや美術家、詩人たちの関係を概観する。(大坪担当)	事前に福岡アジア美術館公式ウェブ・サイトの各ページをできるだけ読んでおくこと。
4	Menolaklupa とアート、ポピュラー音楽	Superman Is Dead の楽曲 PV「Sunset Di Tanah Anarki」、Filastine の楽曲 PV とともに、9.30 事件をはじめとするさまざまな出来事や 98 年のリフォルマシの概要を学ぶ。(大坪担当)	事前に AKB48 の「必殺テレポート」を聞いていることが望ましい。 復習として、ノートをまとめておくこと。
5	傘	アクシ・カミサン、2016 年 12 月 2 日のジャカルタ・大デモをはじめ、ジャワ島やバリ島では傘が重要な意味を示していることがある。その意味について映像や画像を交えながら紹介する。(大坪担当)	復習として、ノートをまとめておくこと。
6	人びとと音楽	ダンドゥットをはじめ、クロンチョン、ポップ・ダエラ、レゲエ、パンク、ラップ、グランジなど、インドネシアでは多種多様なポピュラー音楽が鳴り響いている。代表的なジャンルと歴史を概観する。(大坪担当)	復習としてノートをまとめておくこと。
7	人びとと芸能	一例としてバリ島の芸能をとりあげて、バリ・ヒンドゥ教を信仰する人びとと芸能の関係についてとりあげる。またバリ島の観光開発と政治の関係についてもとりあげる。(大坪担当)	事前にバリ島に対するイメージをいくつか挙げておくこと。 復習としてノートをまとめておくこと。
8	前半まとめ	授業前半の総括と到達度の確認をはかるテストを行う。(大坪担当)	復習としてノートをまとめておくこと。
9	マレーシア 1	マレーシアに住む多様な民族集団について概説する。多民族社会という概念を説明する。(上田担当)	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
10	マレーシア 2	マレーシアに住む多様な民族集団について説明する。マレー人の生活について映像資料を用いて説明する。(上田担当)	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
11	マレーシア 3	マレーシアに住む多様な民族集団について説明する。中国系住民の生活について映像資料を用いて説明する。(上田担当)	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
12	マレーシア 4	マレーシアに住む多様な民族集団について説明する。インド系住民やオランアスリ、サバヤサラワクの人びとの生活について映像資料を用いて説明する。(上田担当)	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
13	ブルネイ	ブルネイという国やブルネイに住む人びとについて概説する。(上田担当)	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
14	シンガポール	シンガポールという国やブルネイに住む人びとについて概説する。(上田担当)	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
15	まとめ	授業の総括と到達度の確認をはかるテストを行う。(上田担当)	ノートやプリントを使って、授業で学んだ内容を整理しておくこと。

関連科目: インドネシア・マレー語関係科目および東南アジア関係の講義科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	東南アジアを知る事典		平凡社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	前半(大坪担当)と後半(上田担当)のそれぞれについて次のような観点から評価したものを総合する。 前半: 提出物や課題等の取り組み(30%)と、最終課題(70%)から総合的に判断する。 後半: 提出物や課題等の取り組み(30%)と、最終課題(70%)から総合的に判断する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)、7号館5階上田研究室			
備考	提出物は評価を付した上で、原則として翌週に返却する。			

科目名	インドネシア・マレー語圏の諸言語	科目名(英文)	Indonesian-Malay Linguistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この講義の目的はインドネシア、マレーシアおよびその周辺に分布するオーストロネシア語族の言語についての知識を習得することにある。系統、言語分類、歴史、文字等について講義する。なお、東南アジア大陸部の言語についても言及する。
到達目標	インドネシア・マレー語圏、およびその周辺の諸言語についての知識を習得することができる。
授業方法と留意点	授業は講義を中心にすすめるが、受講者に意見を求めたり、課題を与えることがあるので、積極的に参加するように。
科目学習の効果(資格)	東南アジアの言語事情がわかる。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	基礎知識 1	・基本的用語の解説等	用語について復習しておくこと
授業計画	2	インドネシア語、マレー語の音韻	・インドネシア語、マレー語の音韻を学ぶことを通して音韻論の基礎知識を得る。	内容について復習すること
	3	世界の言語からみたインドネシア、マレー語圏の言語	・言語数、話者数	内容について復習すること
	4	オーストロネシア語族言語の実際	・フィリピン語、ジャワ語等がどのような構造を持った言語か概観する。	内容について復習すること
	5	インドネシア、マレー語圏の言語の系統 1	・比較言語学の基礎知識 ・音韻対応	内容について復習すること
	6	インドネシア、マレー語圏の言語の系統 2	・語族、語派、語群 ・比較形態論	内容について復習すること
	7	オーストロネシア語族の研究史とその分布	・オーストロネシア語族の故地	内容について復習すること
	8	インドネシア語、マレー語の歴史	・古代マレー語、古典マレー語について研究する	インドネシア語あるいはマレー語の辞書を持っている場合は持参すること 内容について復習すること
	9	インドネシア、マレー語圏の言語の文字 1	・インドネシア語、マレー語の文字使用の歴史	内容について復習すること
	10	インドネシア、マレー語圏の言語の文字 2	・ジャワ文字 1	ジャワ文字について復習しておくこと
	11	インドネシア、マレー語圏の言語の文字 3	・ジャワ文字 2 ・ブギス・マカッサル文字 1	ジャワ文字、ブギス・マカッサル文字について復習しておくこと
	12	インドネシア、マレー語圏の言語の文字 4	・ブギス・マカッサル文字 2	ブギス・マカッサル文字について復習しておくこと
	13	国語、公用語	・国語、公用語 ・多言語国家	授業内容を復習すること
	14	東南アジア大陸部の言語	・東南アジア大陸部の言語についての概説	内容について復習すること
	15	・理解度確認テスト ・まとめ	・理解度確認テスト ・理解度確認テストの解説 ・授業全体についてのまとめを行う	内容について復習すること

関連科目	インドネシア語、マレー語関係の科目、音声学、言語学
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを用意する。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜指示する。		
	2			
	3			

評価方法(基準)	参加度(発言等)、理解度確認テストの総合評価 参加度(発言等) 60%、理解度確認テスト 40%
----------	---

学生へのメッセージ	この授業では、受講者の意見発表を重視するので、積極的に意見を述べることを期待する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 山口研究室
----------	-------------

備考	指示された予習・復習には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。 臨時試験の内容に関しては、試験終了後の授業中に確認、説明を行う。
----	--

科目名	インドネシア・マレー社会論	科目名(英文)	Studies on Malay Societies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田 達, 森田 良成
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	インドネシア・マレー語が話されている地域を事例に、社会という概念について考える。インドネシア・マレー語が話される地域は複数の国民国家から成立しており、それぞれの国民国家内部には文化的に多様な諸集団が暮らしている。こうした多様な集団が織りなす人と人との結びつきのありかたは、私たちの想定する社会という概念と重なるところがある一方で、多くの点で異なっている。本講義では、当該地域における人と人との結びつきの在り方を学ぶことを通じて、インドネシアやマレーシアを含む地域の「いま」をよりよく理解することを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> *インドネシア・マレー語が話されている地域の社会のあり方について理解する。 *事例研究を通じて、自分たちの生きる社会について考える視角を得る。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・初回の授業は森田と上田が共同で担当する。授業の前半は森田が、後半は上田が担当する。 ・適宜、写真や映像資料を利用する。 ・小レポートを適宜課すので、積極的な参加姿勢が望まれる。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア・マレー語を話す地域に生きる人びとの暮らしについて知見を深められる。 ・異なるものの見方や物事のとらえ方を身につけられる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方や講義概要について説明する。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
2	国民国家と社会 1	インドネシアを事例に、国民国家の成立と国家内部の複数の社会との関係について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
3	国民国家と社会 2	インドネシアを事例に、国民国家の成立と国家内部の複数の社会との関係について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
4	国民国家と社会 3	開発をめぐる国家と社会の関係について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
5	国民国家と社会 4	開発をめぐる国家と社会の関係について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
6	社会を越える社会 1	国境地帯における国家の境界を越えた社会のあり方について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
7	社会を越える社会 2	国境地帯における国家の境界を越えた社会のあり方について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
8	社会を越える社会3&まとめ	到達度の確認を図る課題を出し、それについての講評とここまでの授業のまとめを行う。	到達度の確認を図る課題を出すので準備しておくこと。
9	国民国家と社会 5	マレーシアを事例に、国民国家の成立と国家内部の複数の社会との関係について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
10	国民国家と社会 6	マレーシアを事例に宗教を媒介とする新たな社会性の在り方について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
11	国民国家と社会 7	マレーシアを事例に、宗教を媒介とする新たな社会性の在り方について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
12	国民国家と社会 8	マレーシアを事例に、種々のメディアに焦点を当てて、新たな社会性の想像について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
13	社会を越える社会 4	マレーシアと他地域との間の人の移動を事例に、社会の変容について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。
14	社会を越える社会 5	マレーシアと他地域との間の人の移動を事例に、社会の変容について学ぶ。	配付資料を熟読して理解に努めるとともに、関連する文献の該当箇所を読んでおくこと。到達度の確認を図る課題のために、授業の内容全体について復習すること。
15	社会を越える社会6&まとめ	到達度の確認を図る課題を出し、それについての講評と授業全体のまとめを行う。	到達度の確認を図る課題を出すので準備しておくこと

関連科目: インドネシア・マレー語コースの開講する講義科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準): 到達度を確認する課題(70%)とレポート(30%)から評価する。到達度を確認する課題は、森田が担当する前半部と上田が担当する後半部で、一回ずつ実施する。レポートは全ての講義内容を踏まえて期末に提出してもらう。詳細は初回の授業時に指示する。

学生へのメッセージ: 積極的に授業に関わってください。わからないことがあれば質問して下さい。

担当者の研究室等: 7号館5階上田研究室
7号館2階非常勤講師控室

備考:

科目名	インドネシア語 II a	科目名 (英文)	Indonesian IIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 玲子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。																																																																		
到達目標	この授業では、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。																																																																		
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方 インドネシア語の特徴</td> <td>学んだことの復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文字と発音</td> <td>アルファベットの読み方</td> <td>アルファベットをきちんと読めるようにしておくこと</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>発音</td> <td>基本単語の発音練習</td> <td>単語の読み方を理解しておくこと</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>挨拶 (1)</td> <td>挨拶表現</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>挨拶 (2)</td> <td>感謝、謝罪</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>紹介 (1)</td> <td>自己紹介、人称代名詞について</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>紹介 (2)</td> <td>自己紹介、疑問詞を用いた表現</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>紹介 (3)</td> <td>家族、友人を紹介、疑問詞を用いた表現</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>8回までのまとめ</td> <td>これまでに学んだことの復習 中間テストおよび解説</td> <td>これまでに学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>数詞 (1)</td> <td>数詞の仕組み</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>数詞 (2)</td> <td>序数詞や分数</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>数詞 (3)</td> <td>電話番号と数詞の練習問題</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>数詞 (4)</td> <td>日付の言い表し方</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>10回から13回までのまとめ</td> <td>数詞を使った表現の復習</td> <td>10回から13回までの再確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>これまでに学んだことの総復習 理解度確認テストおよび解説</td> <td>総復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方 インドネシア語の特徴	学んだことの復習	2	文字と発音	アルファベットの読み方	アルファベットをきちんと読めるようにしておくこと	3	発音	基本単語の発音練習	単語の読み方を理解しておくこと	4	挨拶 (1)	挨拶表現	プリントの会話部分を練習し覚えること	5	挨拶 (2)	感謝、謝罪	プリントの会話部分を練習し覚えること	6	紹介 (1)	自己紹介、人称代名詞について	プリントの会話部分を練習し覚えること	7	紹介 (2)	自己紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること	8	紹介 (3)	家族、友人を紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること	9	8回までのまとめ	これまでに学んだことの復習 中間テストおよび解説	これまでに学んだことの再確認	10	数詞 (1)	数詞の仕組み	プリントの会話部分を練習し覚えること	11	数詞 (2)	序数詞や分数	プリントの会話部分を練習し覚えること	12	数詞 (3)	電話番号と数詞の練習問題	プリントの会話部分を練習し覚えること	13	数詞 (4)	日付の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること	14	10回から13回までのまとめ	数詞を使った表現の復習	10回から13回までの再確認	15	総復習	これまでに学んだことの総復習 理解度確認テストおよび解説	総復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方 インドネシア語の特徴	学んだことの復習																																																																
2	文字と発音	アルファベットの読み方	アルファベットをきちんと読めるようにしておくこと																																																																
3	発音	基本単語の発音練習	単語の読み方を理解しておくこと																																																																
4	挨拶 (1)	挨拶表現	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
5	挨拶 (2)	感謝、謝罪	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
6	紹介 (1)	自己紹介、人称代名詞について	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
7	紹介 (2)	自己紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
8	紹介 (3)	家族、友人を紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
9	8回までのまとめ	これまでに学んだことの復習 中間テストおよび解説	これまでに学んだことの再確認																																																																
10	数詞 (1)	数詞の仕組み	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
11	数詞 (2)	序数詞や分数	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
12	数詞 (3)	電話番号と数詞の練習問題	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
13	数詞 (4)	日付の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
14	10回から13回までのまとめ	数詞を使った表現の復習	10回から13回までの再確認																																																																
15	総復習	これまでに学んだことの総復習 理解度確認テストおよび解説	総復習																																																																
関連科目	インドネシア II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への積極的な参加度合 20%、中間テスト 40%、理解度確認テスト 40%																																																																		
学生へのメッセージ	授業へは積極的に参加しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、復習については毎週少なくとも2時間以上は行うこと。半期中の事後学習総時間は30時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、中間テストおよび理解度確認テスト終了後には解説を行う。																																																																		

科目名	インドネシア語 II b	科目名 (英文)	Indonesian IIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。			
到達目標	この授業では、前期の「インドネシア語 I」に引き続き、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。また来日したインドネシア人観光客へ簡単な道案内ができるようになる。			
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。			
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	復習	前期の「インドネシア語 I」で学んだことの復習	・前期の項目を復習してから授業に臨むこと。 ・学習項目の復習
	2	曜日 (1)	曜日、月の言い表し方	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	3	曜日 (2)	季節の表現方法	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	4	時間 (1)	時間の言い表し方	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	5	時間 (2)	時間を使った会話	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	6	色 (1)	色および形容詞	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	7	色 (2)	助数詞	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	8	復習	これまでに学んだことの復習 中間テスト	中間テストに向けてこれまでに学んだことの再確認
	9	ショッピング (1)	値段の尋ね方	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	10	ショッピング (2)	店での会話	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	11	ショッピング (3)	その他役に立つ表現	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	12	位置 (1)	位置の表し方	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	13	位置 ②	道を尋ねる	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	14	9回～13回までのまとめ	ショッピングでの会話や位置に関する表現の復習	・9回～13回までに学んできたことの再確認 ・いままでに学んだ単語の綴りと意味を確認すること
	15	総復習	これまでに学んだことの総復習 理解度確認テスト	これまでに学んだことの再確認
関連科目	インドネシア語 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への積極的な参加度合 20%、中間テスト 40%、理解度確認テスト 40%等に基づき総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	授業へは積極的に参加しましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	毎週の前習は基本的に必要ないが、復習は毎週少なくとも1時間は行うこと。半期中の事後学習は 30 時間である。授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。			

科目名	インドネシア語Ⅲ a	科目名 (英文)	Indonesian IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	インドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。文法説明、講読練習、作文練習、会話練習を行う。
到達目標	文法力、読解力、作文力、会話力のバランスの取れた中級レベルの運用能力をめざす。
授業方法と留意点	テキストはプリントを配布する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語の能力向上とともに、インドネシア語技能検定試験に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方の説明 インドネシア、インドネシア語の説明	今回の復習
2	復習 1	綴りと発音の復習	前回の復習
3	復習 2	文型、語順の復習	前回の復習
4	復習 3	代名詞、基本的な語彙の復習	前回の復習
5	復習 4	数字、曜日、月名などの復習	前回の復習
6	基本 1	簡単な文の文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習。
7	基本 2	文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習
8	基本 3	文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習
9	基本 4	文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習
10	基本 5	文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習
11	基本 6	文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習
12	総合 1	やや複雑な文を用いての文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習
13	総合 2	やや複雑な文を用いての文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習
14	総合 3	やや複雑な文を用いての文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習
15	総復習	理解度を確認するための臨時試験 試験終了後、試験内容についての説明	第 1-4 回までの内容の予習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	平常点 (参加度、発言等) と臨時試験によって評価する。 平常点 40%、臨時試験 60%
学生へのメッセージ	今後さらに発展が見込まれるインドネシアの国語であるインドネシア語の能力を持つことは、将来の役に立つでしょう。
担当者の研究室等	7号館5階 山口研究室
備考	基本的に予習は必要ないが、毎回の授業内容の復習は充分行う必要がある。 臨時試験の内容に関しては、試験終了後の授業中に確認、説明を行う。

科目名	インドネシア語Ⅲ b	科目名 (英文)	Indonesian IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森田 良成
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	インドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。 インドネシア語の文章に実際に触れつつ、やや複雑な文法の習得を目指す。 同時に、インドネシアにおける人々の暮らしについても理解を深める。
到達目標	中級レベルのインドネシア語運用能力をめざす。 辞書を使いつつ、やや複雑な文章を理解し、作文することができる。 やや複雑な文章を用いての会話ができる。
授業方法と留意点	確認テストを行うほか、随時課題を出す。復習をしっかりと行うこと。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語能力の向上。 インドネシア語技能検定試験に向けての準備。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義概要と講義の進め方を説明する。 既習事項について復習する。	既習事項を復習すること。
2	文法 1	接尾辞-an、接頭辞 pe- peN- 重複の形態と機能を学習する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
3	文法 2	同等、比較、最上級の表現 接頭辞 ter- 前置詞を学習する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
4	文法 3	接続詞 付加疑問文 感嘆文を学習する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
5	復習 1	既習事項を復習。 確認テストを行う。	既習事項を復習すること。
6	文法 4	共接辞 peN--an、per--an を学習する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
7	文法 5	従位接続詞 相関構文を学習する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
8	文法 6	共接辞 ke--an 命令・勧誘表現を学習する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
9	文法 7	接頭辞 meN- meN--kan 動詞 meN--i 動詞 memper- を学習する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
10	復習 2	既習事項を復習。 確認テストを行う。	既習事項を復習すること。
11	演習 1	インドネシア語の文章、映像を題材にして表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
12	演習 2	インドネシア語の文章、映像を題材にして表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
13	演習 3	インドネシア語の文章、映像を題材にして表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
14	復習 3	既習事項を復習。 確認テストを行う。	既習事項を復習すること。
15	総合復習	確認テストについての講評と既習事項のフォローアップを行う。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。

関連科目	インドネシア語、マレー語、東南アジア関係の授業すべて。
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法 (基準)	確認テスト (60%)、提出物や課題等の授業への取り組み (40%) から総合的に判断する。詳細は第 1 回目の授業で指示する。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業の復習以外にも、自分の関心に合わせて、インドネシア語の文章・映像・音声に積極的に触れ、辞書を使ってその内容を理解しようとする心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	辞書は 1 回目の授業から使用するので持参すること。 確認テストは時間内に講評するとともに、翌週に採点のうえ返却する。 授業時間外での質問には非常勤講師室で応じるが、事前に連絡すること。
----	---

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅡ a	科目名 (英文)	Indonesian Communication II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年間のインドネシア語学習を通じて、単語力や文法の理解が深まったかと思われます。 インドネシアに旅でも長期滞在でコミュニケーション出来る。
到達目標	相手の発言に対して自分が応えることも重要であるが、まずは過去1年間で得た単語力と文法理解力をもとに、自分が言いたいことや伝えたいことを即座に比較的短い文で発言できることを目標とする。
授業方法と留意点	会話がテーマです。 毎回のテーマに応じて、どのような内容を伝えなければならないのか、もしくはどのような状況であるのかを事前にいくつか想像しておくこと。 積極的な発言と態度で臨んでください。リスニング、シャドーイングで聞き取り会話練習。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	インドネシアに上陸する (1)	到着ビザを取得する聞き取り会話練習	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
3	インドネシアに上陸する (2)	入管と聞き取り会話練習	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
4	インドネシアに上陸する (3)	スーツケース紛失の聞き取り会話練習	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
5	インドネシアに上陸する (4)	税関についての聞き取り会話練習	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
6	小試験および第2回から第5回までの復習	第2回から第5回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習
7	電話をかける。 (1)	会う約束をするための知人に電話をかける。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
8	電話をかける。 (2)	安い航空券を探す。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
9	電話をかける。 (3)	でんわで料理を注文する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
10	電話をかける。 (4)	警察署に電話をかける。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
11	小試験および第7回から第10回までの復習	第7回から第10回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習
12	インドネシアでの生活の準備。(1)	住居を探す。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
13	インドネシアでの生活の準備。(2)	家具を買う。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
14	インドネシアでの生活の準備。(3)	乗り物を連タールする。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
15	総復習試験	これまでの復習を行い、全回で学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	全授業内容の復習。

関連科目 専攻言語インドネシア語科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社
2			
3			

評価方法 (基準)	クラス参加及び活動 (聴き取り会話学習) 50% 授業内中間及び期末筆記テスト 50%
学生へのメッセージ	間違いを恐れずに、学んだ単語を自発的に使ってみましょう。 日々の地道な学習と努力は「気づき」と大きな成果を必ずもたらします。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅡ b	科目名 (英文)	Indonesian Communication II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	一年間インドネシア語学習を通じて、単語や文法の理解が深まったため、インドネシアに旅行でも長期滞在で現地の人とコミュニケーション出来る。
到達目標	相手の発言に対して自分も答えることも重要であるが、まずは前期までの得た単語や表現をもとに、自分が言いたいことや伝えたいことを即座に発言出来ることを目標とする。
授業方法と留意点	会話がテーマです。毎回のテーマに応じてどのような内容伝えなければならないのか、もしくはどのような状況であるのかを事前に想像しておくこと。積極的発言と態度で臨んでください。リスニング、シャドーイングで聞き取り会話練習。
科目学習の効果 (資格)	インドネシアの生活習慣を含めて日常のコミュニケーションが出来るようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インドネシアでの日常生活 (1)	出会い。新しい友達と出会いの聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現や自己紹介をする際に役立つ表現を覚えましょう。
2	インドネシアでの日常生活 (2)	手紙を送る。郵便局にて聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
3	インドネシアでの日常生活 (3)	博物館を訪問する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
4	インドネシアでの日常生活 (4)	映画館で映画を観る。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
5	インドネシアでの日常生活 (5)	手工芸品を見る。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
6	小テスト及び第1回目～5回目までの復習。	第1回目～5回目までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
7	日々の出来事。 (1)	講義に遅刻する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
8	日々の出来事。 (2)	運転免許証をうっかり置き忘れる。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
9	日々の出来事。 (3)	郊外で休暇を過ごす。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
10	日々の出来事。 (4)	病気。病院にて聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
11	小テスト及び第7回目～10回目までの復習	第7回目～10回目までに学習した項目をもとにあるシチュエーションを想定した会話を課す。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
12	ホテルに泊まる。 (1)	空港でホテルを予約する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
13	ホテルに泊まる。 (2)	ホテルに到着する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
14	ホテルに泊まる。 (3)	クリーニング、ルームサービスの聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
15	復習試験	全回で学習項目を基に、ある場面を想定した会話を課す。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。

関連科目	専攻言語インドネシア語科目すべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	クラス参加及び活動 (聞き取り会話学習) 50% 授業内中間・期末会話・筆記テスト 50%
学生へのメッセージ	間違いを怒らずに、学んだ単語や表現を自発的に使ってみよう。 日々の地道な学習と努力は気づきと大きな成果を必ずもたらします。
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	インドネシア語コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Indonesian Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	インドネシア語の発音をはじめ基本文法を学習して、日常会話を話す事が出来る。
到達目標	挨拶、自己紹介を始め、学んだ文法を使って様々な会話文の作成。
授業方法と留意点	会話文を学習。基本会話を聞く・文法確認・会話練習。
科目学習の効果 (資格)	挨拶、自己紹介、依頼、許可表現などを基本的な日常会話ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	アルファベット文字と発音	母音と子音の発音	二重母音と子音の発音を確認して練習する。
2	挨拶	日常に使われる挨拶	日常の挨拶練習。
3	お礼とお詫び	お礼とお詫びの表現。	お礼と謝る場合の表現を練習する。
4	自己紹介	人の名前・人称代名詞・職業の単語を学習し、その文を発言する練習。	授業内容を復習すること。
5	自己紹介	疑問詞”誰”・家族に関する単語を学習・家族に付いての自己紹介。	前回の授業の内容を使って会話の練習をする。
6	第1～5までの復習	小テスト・聞き取り会話テスト	事前に全部の授業内容を復習すること。。
7	基本文・肯定文・否定文・疑問文	名詞・名詞の否定詞。動詞・形容詞とその単語の否定詞を学習し、聞き取り会話練習。	周りにあるものの名前を覚える。日常生活に使用されている動詞又は目に身近な形容詞を覚える。
8	呼びかけ	様々な人の呼びかけ方	授業内容復習する。
9	聞き直し	時間の言い方	授業内容を復習すること。
10	依頼	tolong～ (～してください) を使って人に何かを頼んでみましょう。	授業内容を復習すること。
11	第6～10までの復習	小テスト。聞き取りテスト及び筆記テストを行う。	前回の授業で学んだ単語を文書を作成。
12	許可表現	boleh を使って相手に許可を求めてみましょう。	授業内容を復習すること。
13	確認	bukan を使って「～ですね」と確認しましょう。	授業内容の復習。
14	願望表現	～が欲しい、～したいの表現	全部の授業内容の復習。
15	第11～14までの復習	これまでの復習 小テスト、聞き取り会話及び筆記テスト テスト。	学習した語彙・会話文テスト。

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今すぐ話せるインドネシア語	ファリーダイドリスノ・好光智子	株式会社ナガセ◎東進ブックス
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	クラス参加及びクラス活動会話学習の取り込む 50% 聞き取り会話テスト及び筆記テスト 50%
-----------	---

学生へのメッセージ	授業で学んだ語彙を覚える為には、毎日インドネシア語の挨拶から学習した会話文を使用する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。
----	--

科目名	インドネシア語コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Indonesian Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	前期に引きつづきインドネシアへ行くテーマに現地の日常生活の中の場面での会話に使われる表現に関連する単語を学習する。
到達目標	インドネシア語の日常会話につづいて、現地の生活習慣やマナーなど知る事。
授業方法と留意点	会話を聞く・話す・覚える。毎回会話を練習して。復習確認テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	インドネシアの生活習慣を含めて日常コミュニケーションが能力を付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	機内にて	インドネシアへ向かう飛行機に乗ってすぐの、乗客と乗務員の会話です。聞き取り会話練習すること。	授業内容に関連単語を覚える。
3	入国	入国管理窓口での会話。聞き取り会話練習する。	授業内容に関連単語を覚える。
4	タクシーに乗る	運転手との会話。聞き取り会話練習すること。	授業内容に関連単語を覚える。
5	ホテルにて	ホテル従業員との会話。聞き取り会話練習すること。	授業内容に関連単語を覚える。
6	第1回目～5回目までの復習	日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。	ペーパーテストを行う。
7	観光案内所にて。	観光案内所の職員との会話。聞き取り会話練習すること。	授業内容に関連単語を覚える。
8	鉄道に乗る	窓口の人との会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連単語を覚える。
9	レストランにて	ウェイターとの会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連単語を覚える。
10	買い物	店員さんとの会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連単語を覚える。
11	第7回目～10回目の復習	日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。	ペーパーテストを行う。
12	道を尋ねる。	自分の行きたい場所までの道を尋ね、右や左といった単語や方向をマスターしましょう。聞き取り会話練習。	授業内容に関連単語を覚える。
13	薬局にて。	薬局の店員さんとの会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連単語を覚える。
14	電話をかける	インドネシアの友達に電話をかける。聞き取り会話練習。	授業内容に関連単語を覚える。
15	第12回目～14回目の復習	日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。	筆記テストを行う。

関連科目 専攻言語インドネシア語の科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	クラス活動参加(会話練習の取り込む) 50% 聞き取り会話及び筆記テスト 50%
学生へのメッセージ	会話文だけではなく、インドネシアの文化や生活習慣などを理解し、コミュニケーション能力を上達する。出来る限りクラスメートと先生との会話をインドネシア語でしましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅡa(1)	科目名(英文)	Indonesian Communication Ila(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	1年間のインドネシア語学習を通じて、単語力や文法の理解が深まったかと思われます。インドネシアに旅でも長期滞在でコミュニケーション出来る。
到達目標	相手の発言に対して自分が応えることも重要であるが、まずは過去1年間で得た単語力と文法理解力をもとに、自分が言いたいことや伝えたいことを即座に比較的短い文で発言できることを目標とする。
授業方法と留意点	会話がテーマです。毎回のテーマに応じて、どのような内容を伝えなければならないのか、もしくはどのような状況であるのかを事前にいくつか想像しておくこと。積極的な発言と態度で臨んでください。リスニング、シャドーイングで聞き取り会話練習。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	プロローグ	授業の進め方と、受講にあたっての留意点に関する説明を行なう。	授業の進め方に対する質問や要望を事前に考えておくこと。
2	インドネシアに上陸する(1)	到着ビザを取得する聞き取り会話練習	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
3	インドネシアに上陸する(2)	入管と聞き取り会話練習	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
4	インドネシアに上陸する(3)	スーツケース紛失の聞き取り会話練習	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
5	インドネシアに上陸する(4)	税関についての聞き取り会話練習	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
6	小試験および第2回から第5回までの復習	第2回から第5回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習
7	電話をかける。(1)	会う約束をするための知人に電話をかける。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
8	電話をかける。(2)	安い航空券を探す。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
9	電話をかける。(3)	でんわで料理を注文する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
10	電話をかける。(4)	警察署に電話をかける。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
11	小試験および第7回から第10回までの復習	第7回から第10回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習
12	インドネシアでの生活の準備。(1)	住居を探す。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
13	インドネシアでの生活の準備。(2)	家具を買う。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
14	インドネシアでの生活の準備。(3)	乗り物を連タールする。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
15	総復習試験	これまでの復習を行い、全回で学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	全授業内容の復習。

関連科目 専攻言語インドネシア語科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社
2			
3			

評価方法(基準)	クラス参加及び活動(聞き取り会話学習) 50% 授業内中間及び期末筆記テスト 50%
学生へのメッセージ	間違いを恐れずに、学んだ単語を自発的に使ってみましょう。日々の地道な学習と努力は「気づき」と大きな成果を必ずもたらします。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅡa (2)	科目名 (英文)	Indonesian Communication Iia(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	一年間インドネシア語学習を通じて、単語や文法の理解が深まったため、インドネシアに旅行でも長期滞在で現地の人とコミュニケーション出来る。
到達目標	相手の発言に対して自分も答えることも重要であるが、まずは前期までの得た単語や表現をもとに、自分が言いたいことや伝えたいことを即座に発言出来ることを目標とする。
授業方法と留意点	会話がテーマです。毎回のテーマに応じてどのような内容伝えなければならないのか、もしくはどのような状況であるのかを事前に想像しておくこと。積極的発言と態度で臨んでください。リスニング、シャドーイングで聞き取り会話練習。
科目学習の効果 (資格)	インドネシアの生活習慣を含めて日常のコミュニケーションが出来るようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	インドネシアでの日常生活 (1)	出会い。新しい友達と出会いの聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現や自己紹介をする際に役立つ表現を覚えましょう。
2	インドネシアでの日常生活 (2)	手紙を送る。郵便局にて聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
3	インドネシアでの日常生活 (3)	博物館を訪問する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
4	インドネシアでの日常生活 (4)	映画館で映画を観る。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
5	インドネシアでの日常生活 (5)	手工芸品を見る。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
6	小テスト及び第1回目～5回目までの復習。	第1回目～5回目までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
7	日々の出来事。(1)	講義に遅刻する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
8	日々の出来事。(2)	運転免許証をうっかり置き忘れる。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
9	日々の出来事。(3)	郊外で休暇を過ごす。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
10	日々の出来事。(4)	病気。病院にて聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
11	小テスト及び第7回目～10回目までの復習	第7回目～10回目までに学習した項目をもとにあるシチュエーションを想定した会話を課す。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
12	ホテルに泊まる。(1)	空港でホテルを予約する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
13	ホテルに泊まる。(2)	ホテルに到着する。聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
14	ホテルに泊まる。(3)	クリーニング、ルームサービスの聞き取り会話練習。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
15	復習試験	全回で学習項目を基に、ある場面を想定した会話を課す。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。

関連科目	専攻言語インドネシア語科目すべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	クラス参加及び活動 (聞き取り会話学習) 50% 授業内中間・期末会話・筆記テスト 50%
学生へのメッセージ	間違いを怒らずに、学んだ単語や表現を自発的に使ってみよう。 日々の地道な学習と努力は気づきと大きな成果を必ずもたらします。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅢ a	科目名 (英文)	Indonesian Communication IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	この授業ではインドネシアの人びととの会話をいっそう深めるために、インドネシアの新聞や雑誌、メディア、SNS 等から受講者がニュースや記事を取りあげて概要と意見を発表し、ディスカッションをおこなう。
到達目標	1. インドネシア語である程度の発表ができるようになること。 2. インドネシア語である程度の小レポートが書けるようになること。 3. プレゼンテーションインドネシア語にも役に立つ。
授業方法と留意点	この授業では正確な作業を行う必要がある。そのため、授業に出席する前に十分な予習と準備をしておくこと。復習も欠かさないこと。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定。 実践的なインドネシア語能力の習得。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価法、プレゼンテーションなど、留意点の説明を行なう。	・質問事項などを事前に考えておくこと。 ・予習
2	会話表現 1	会話で交わされる独特の単語を理解する。	準備と予習、復習の徹底
3	会話表現 2	会話で交わされる独特の単語を使って表現する。	準備と予習、復習の徹底
4	会話表現 3	会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。	準備と予習、復習の徹底
5	SNS における表現 1	SNS で使われる独特の単語を理解する。	準備と予習、復習の徹底
6	SNS における表現 2	SNS で使われる独特の表現を理解する。	準備と予習、復習の徹底
7	SNS における表現 3	SNS を想定し、模擬のやりとりをおこなう。	準備と予習、復習の徹底
8	新聞における表現 1	新聞のレイアウトや、読み方を知る。	準備と予習、復習の徹底
9	新聞における表現 2	長文の内容を把握して、概要をまとめる練習。	準備と予習、復習の徹底
10	新聞における表現 3	長文の内容を把握して、概要をまとめる練習。	準備と予習、復習の徹底
11	新聞における表現 4	新聞記事をもとにディスカッションをおこなう練習。	準備と予習、復習の徹底
12	インターネットで配信される記事の表現 1	配信される記事の前後関係を正確に把握する。	準備と予習、復習の徹底
13	インターネットで配信される記事の表現 2	続々と配信される記事から概要をつかむ練習。	準備と予習、復習の徹底
14	インターネットで配信される記事の表現 3	記事をもとにディスカッションをおこなう。	準備と予習、復習の徹底
15	総復習	陥りやすいミスと癖を改善するために、今後の学習の課題をみつける。	準備と予習、復習の徹底

関連科目 専攻言語インドネシア語科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	1. 準備・予習・復習からなるホームワーク (50%) 2. 授業での発表とレポート (50%) 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	1. 予習ならびに準備として、インドネシア語の記事をより理解するために自ら参考文献を調べて読んでおくこと。 2. 必ず復習をおこなうこと。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅢ b	科目名(英文)	Indonesian Communication IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1. ニュースや新聞等の情報を読んだり聴いたりし、その内容を理解できることを目標とします。 2. 受講者は毎回インドネシア語で概要と意見を発表し、ディスカッションをおこなう。 3. 随時、レポートを課す。 4. 随時、暗唱を課す。 5. 高度なインドネシア語運用能力を身につけることを目指す。
到達目標	1. 発表にふさわしいインドネシア語が運用できるようになること。 2. レポートにふさわしいインドネシア語の文章が書けるようになること。
授業方法と留意点	この授業では正確な作業を行う必要がある。そのため、授業に出席する前に十分な準備と予習をしておくこと。復習も欠かさないこと。扱う単語もやや難しいので、何度も繰り返し聞いてみましょう。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語検定。 実践的なインドネシア語能力の習得。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	短いニュース。植物の効能	1. シャドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
3	短いニュース。伝染病	1. シャドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
4	短いニュース。結婚式	1. シャドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
5	短いニュース。出生率	1. シャドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
6	短いニュース。災害	1. シャドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
7	短いニュース。携帯電話	1. シャドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
8	短いニュース。インターネット	1. シャドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
9	短いニュース。経済	1. シャドーイング 2. ニュース内容を理解する	授業内容の復習
10	発表	第2回目～9回目の中から受講者一人一人関心がある内容について詳しく発表する。	授業内容の復習
11	短編小説を読む。	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の復習
12	短編小説を読む。	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の復習
13	短編小説を読む。	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の復習
14	短編小説を読む	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の復習
15	発表 ③	1. 第12回、第13回、第14回の授業から、受講者めいめい関心を持ったことをできるだけ詳しく調べ、インドネシア語で発表する。	授業内容の復習

関連科目 専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語リスニング	ホラス由美子	三修社
	2			

評価方法(基準)
1. 授業での発表とディスカッション(60%)
2. 暗唱とレポート(40%)
詳細は、第1回目の授業で伝える。

学生へのメッセージ
前期の『インドネシア語コミュニケーションⅢ a』でインドネシア語運用能力が高まったかと思います。この授業ではいっそうの高みを目指しましょう。

担当者の研究室等
7号館2階(非常勤講師室)

備考
授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	インドネシア語入門 a (1)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian a(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。本授業では、特に文法能力を高めることを目的としている。
到達目標	インドネシア語文法の基礎をマスターすることができる。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門 a (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「インドネシア語入門」統一試験を実施する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第1課	ガイダンス インドネシア語の綴りと発音の説明1	本課の復習を必ずすること
2	第2課	インドネシア語の綴りと発音の説明2	本課の復習を必ずすること
3	第3課	名詞の文法説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
4	第4課	形容詞を使った文の作文	本課の予習・復習を必ずすること
5	第5課	動詞の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
6	第6課	数詞の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
7	第7課	時の表現の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
8	第8課	その他の品詞の文法1の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
9	第9課	その他の品詞の文法2説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
10	第10課	修飾語、被修飾語の位置の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
11	第11課	文形の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
12	第12課	インドネシア語の接辞の説明	本課の予習・復習を必ずすること
13	第13課	接頭辞 ber- の役割、使い方の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
14	第14課	接尾辞 -an の文法説明 人称接辞の説明、講読	本課の予習・復習を必ずすること
15	総復習	これまでに学習したことの総復習を行う	復習を必ずすること
16	総復習	これまでに学習したことの総復習を行う 夏期課題提示	復習を必ずすること

関連科目	専攻言語インドネシア語の科目すべて
------	-------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語入門 (2,000円程度)	浦野崇央、山口真佐夫	
2	インドネシア語辞典ポケット版 (8,000円+税)	末永晃	大学書林
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 (「インドネシア語入門」統一試験) を実施する。 平常点と積極的な授業参加度の度合いなどを総合的に判断する。 詳細は、第1回目の授業で伝える。 定期試験 70%、授業への参加度 30%
-----------	--

学生へのメッセージ	1年次の基本となる授業なので、欠席せずに参加すること。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	7号館5階 山口室
----------	-----------

備考	指示された予習・復習には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。
----	--------------------------------------

科目名	インドネシア語入門 a (2)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian a(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。			
到達目標	基本的なインドネシア語運用能力を高めることを目的とする。 本授業では、特に「読む」「書く」能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターする。			
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門 a (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。なお、定期試験についても「インドネシア語入門」統一試験を実施する。 授業時には辞書を必ず携帯すること。			
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第1課	インドネシア共和国におけるインドネシア語の位置づけについての説明 インドネシア語の綴りと発音①	学んだことの再確認
	2	第2課	インドネシア語の綴りと発音②	学んだことの再確認
	3	第3課	名詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	4	第4課	形容詞を使った文の文法説明・講読・作文	学んだことの再確認
	5	第5課	動詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	6	第6課	数詞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	7	第7課	時の表現についての文の講読・作文	学んだことの再確認
	8	第8課	その他の品詞を使った文の講読・作文①	学んだことの再確認
	9	第9課	その他の品詞を使った文の講読・作文②	学んだことの再確認
	10	第10課	語順①	学んだことの再確認
	11	第11課	語順②	学んだことの再確認
	12	中間テスト 復習	中間テスト これまでに学んだことの復習	学んだことの再確認
	13	第13課	接頭辞 ber-を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	14	第14課	接尾辞 -an、人称接辞を使った文の講読・作文	学んだことの再確認
	15	復習	これまでに学んだことの再確認	学んだことの再確認
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に、「インドネシア語入門 a(1)」)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語入門 (第3版)	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部
	2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (「インドネシア語入門」統一試験) 40%、中間テスト 40%、「積極的な授業参加」の度合い 20% 詳細は、第1回目の授業で伝える。			
学生へのメッセージ	インドネシア語はとても学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢がとても大切です。			
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)			
備考	毎回の予習は基本的に必要ないが、少なくとも毎週1時間程度以上の復習は欠かさず行うこと。			

科目名	インドネシア語入門 b (1)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian b(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。本授業では、特に文法能力を高めることを目的としている。
到達目標	インドネシア語文法の基礎をマスターすること。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門 b (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「インドネシア語入門」統一試験を実施する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第15課	綴りの規則の説明、講読 夏期課題回収	本課の復習を必ずすること
2	第16課	接頭辞 se-, 共接辞 se- nya, ke- an、 接尾辞 -nya の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
3	第17課	接頭辞 me- 文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
4	第18課	接頭辞の講読 接頭辞 di- の文法説明、講読	両課の復習を必ずすること
5	第19課	接頭辞 ter- の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
6	第20課	共接辞 ber- an, per- an の文法説明、 講読	本課の復習を必ずすること
7	第21課	接頭辞 pe-, 共接辞 pe- an の文法説 明、講読	本課の復習を必ずすること
8	中間テスト対策講座	中間テストのための準備を行う	復習をすること
9	第22課	接尾辞 -i, -kan の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
10	第23課	接頭辞 member- の文法的説明、講読	本課の復習を必ずすること
11	インドネシア語でスピーチ してみよう	インドネシア語の暗唱練習	本課の復習を必ずすること
12	第24課	能動文と受動文の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
13	第25課	重複の文法説明、講読	本課の復習を必ずすること
14	第26課	接辞の例外的変化、不規則変化の文法説 明、講読	本課の復習を必ずすること
15	第27課	接辞のまとめおよびその他の接辞 春期仮題提示	もう一度教科書全体を見ておくこと

関連科目	専攻言語インドネシア語の科目すべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語入門 (前期に購入済み)	浦野崇央、山口真佐夫	
	2	インドネシア語辞典ポケット版 (前期に購入済み)	末永晃	大学書林
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (「インドネシア語入門」統一試験) を実施する。 平常点と積極的な授業参加度の度合いなどを総合的に判断する。 詳細は、第1回目の授業で伝える。 定期試験 70%、授業への参加度 30%
-----------	--

学生へのメッセージ	1年次の基本となる授業なので、欠席せずにしっかり出席すること
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	7号館5階 山口研究室
----------	-------------

備考	指示された予習・復習には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。
----	--------------------------------------

科目名	インドネシア語入門 b (2)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian b(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基本的な運用能力の向上を目指す。		
到達目標	前期開講の「インドネシア語入門 a (2)」に引き続き、本授業では特に「読む」「書く」能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターする。		
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門 b (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。なお、定期試験についても「インドネシア語入門」統一試験を実施する。 授業時は辞書を必ず携帯すること。		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等 事前・事後学習課題
	1	第 15 課	綴りの規則に基づいた文の講読・作文 学んだことの再確認
	2	第 16 課	接頭辞 se-, 共接辞 se- nya, ke- an, 接尾辞-nya を使った文の講読・作文 学んだことの再確認
	3	第 17 課	接頭辞 me- を使った文の講読・作文 学んだことの再確認
	4	第 18 課	接頭辞 di- を使った文の講読・作文 学んだことの再確認
	5	第 19 課	接頭辞 ter- を使った文の講読・作文 学んだことの再確認
	6	第 20 課	共接辞 ber- an, per- an を使った文の講読・作文 学んだことの再確認
	7	第 21 課	接頭辞 pe-, 共接辞 pe- an を使った文の講読・作文 学んだことの再確認
	8	中間テスト 復習	中間テスト これまでに学んだことの復習 学んだことの再確認
	9	第 22 課	接尾辞-i, -kan を使った文の講読・作文 学んだことの再確認
	10	第 23 課	接頭辞 memper- を使った文の講読・作文 学んだことの再確認
	11	復習	インドネシア語暗唱コンテスト 中間テスト返却指導 学んだことの再確認
	12	第 24 課	能動文と受動文の使い分け練習と講読 学んだことの再確認
	13	第 25 課	重複の文の講読・作文 学んだことの再確認
	14	第 26 課	接辞の例外的変化、不規則変化を使った文の講読・作文 学んだことの再確認
	15	総復習 (講読・作文実践練習)	これまでに学んだ構文の講読・作文練習 学んだことの再確認
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に、「インドネシア語入門 b(1)」)		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	インドネシア語入門第3版	浦野崇央・山口真佐夫編 摂南大学外国語学部
	2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃 大学書林
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	定期試験 (「インドネシア語入門」統一試験) 40%、中間テスト40%、「積極的な授業参加」の度合い20% 詳細は、第1回目の授業で伝える。		
学生へのメッセージ	インドネシア語はとても学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢がとても大切です。		
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)		
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、毎週少なくとも1時間程度以上の復習は欠かさないこと。		

科目名	インドネシア語入門 b (3)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian b(3)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 真佐夫、大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。本授業では、特に文法能力を高めることを目的としている。
到達目標	インドネシア語文法の基礎をマスターすること。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門」をテキストを用いる。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第15課	綴りの規則に従った作文 (担当 山口)	本課の復習を必ずすること
3	第16課	接頭辞 se-、共接辞 se-nya、ke- -an、 接尾辞 -nya を使った作文 (担当 山口)	本課の復習を必ずすること
4	第17課	接頭辞 me- を使った作文 (担当 山口)	両課の復習を必ずすること
5	第18課	接頭辞 di- を使った作文 (担当 山口)	本課の復習を必ずすること
6	第19課	接頭辞 ter- を使った作文 (担当 山口)	本課の復習を必ずすること
7	第20課	共接辞 ber- -an、per- -an を使った作文 (担当 山口)	本課の復習を必ずすること
8	第21課	接頭辞 pe-、共接辞 pe- -an を使った作文 (担当 大坪)	本課の復習をすること
9	第22課	接尾辞 -i、-kan を使った作文 (担当 大坪)	本課の復習を必ずすること
10	第23課	接頭辞 member- を使った作文 (担当 大坪)	本課の復習を必ずすること
11	第24課	能動文と受動文の作文 (担当 大坪)	本課の復習を必ずすること
12	第25課	重複を使った作文 (担当 大坪)	本課の復習を必ずすること
13	第26課	接辞の例外的変化、不規則変化を使った作文 (担当 大坪)	本課の復習を必ずすること
14	第27課	接辞のまとめおよびその他の接辞の使い方 (担当 大坪)	本課の復習を必ずすること
15	理解度確認テスト 総復習	理解度確認テストを行い、その後総復習を行う (担当 大坪、山口)	もう一度教科書全体を見ておくこと

関連科目 専攻言語インドネシア語の科目すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語入門 (購入済み)	浦野崇央、山口真佐夫	
	2	インドネシア語辞典ポケット版 (購入済み)	末永晃	大学書林
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 理解度確認テスト 60%、授業への参加度 40%

学生へのメッセージ 基本となる授業なので、欠席せずにしっかり出席すること

担当者の研究室等 大坪 7号館2階 (非常勤講師室)
山口 7号館5階 山口室

備考 指示された予習・復習には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。

科目名	インドネシア語表現法	科目名(英文)	Indonesian Expression
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	日常会話レベルで用いる基本的な表現(フレーズや言い回し)について学ぶ。 日常生活で用いられる何気ない表現をできるだけ平易な言葉で言い表すための文例をしっかりとマスターする。 平易な発信もできるように語学運用能力の向上を目指す。
到達目標	日常生活でよく用いられる基本的で平易な表現を習得すること。平易な発信もできるようになること。
授業方法と留意点	1. テキストはテーマに応じたプリントを配布する。 2. 毎回辞書を携帯すること。 3. 毎回、ある状況を設定した会話練習をおこなう。 4. 適宜、小テストを実施する。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	今後の授業の進め方についての説明をおこなう。	事前に授業に対する質問事項などを考えておくこと。
	2	文字と発音	文字と発音および簡単な文法説明をおこなう。	授業内容を復習し、習った表現を暗記する。
	3	あいさつの表現①	・あいさつで用いる表現を習得する ・会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内でインドネシア語の教員に会った時には、恥ずかしがらずにインドネシア語を使ってあいさつをすること。
	4	あいさつの表現②	・あいさつで用いる表現の幅をさらに増やす。 ・会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内でインドネシア語の教員や同級生に会った時には、恥ずかしがらずにインドネシア語であいさつをすること。
	5	お礼の表現	・お礼をのべる際の表現を習得する。 ・会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生へインドネシア語でお礼をのべてみる。
	6	謝罪の表現	・謝罪する際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・事前に、日常生活ではどういう場面でよく謝罪をしているのかを考えておくこと。 ・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。
	7	許可の表現	・許可を求めたり、受けたりする際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の許可のやりとり表現を試してみる。
	8	禁止・依頼の表現	・禁止する際や、依頼する際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の禁止表現や依頼のやりとり表現を試してみる。
	9	誘いの表現	・誘う際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の「誘う」表現を試してみる。
	10	肯定・否定の表現	・肯定する際や否定する際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の肯定表現や否定表現を試してみる。
	11	命令の表現	・命令を下す際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の命令表現を使い分けて試してみる。
	12	希望・意志の表現	・希望や意志を伝える際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の命令表現を使い分けて試してみる。
	13	推量の表現	・推量する際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の推量表現を使い分けて試してみる。
	14	感情の表現	・種々の感情表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の感情表現を使い分けて試してみる。
	15	1. 総まとめと理解度確認テスト 2. 陥りやすいミスの改善	1. 「インドネシア語表現法」で学んだことの総まとめを実施する。 2. 陥りやすいミスや癖、誤解を改善する。	1. 理解度確認テストに向けての総復習。 2. 事後学習の徹底

関連科目	インドネシア語科目すべて
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業での発表や積極性(40%) 小テスト(20%) 理解度確認テスト(40%) 詳細は、第1回目の授業で伝える。			
学生への メッセージ	インドネシア語は学習しやすく、親しみやすいのが特徴です。 しかし初心者レベルに留まらず、さらなる高みを目指して積極的に学びましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	1. 毎回の予習は基本的に必要ではない。しかし授業以外での学内生活でも積極的に使ってみることも含め、復習には少なくとも毎週2時間以上を必要とする。したがって今期のこの授業に必要とされる復習時間の総計は30時間以上である。 2. 随時的小テストと第15回の理解度確認テストの終了後は、陥りやすいミスや癖、誤解を改善するための解説をおこなう。 3. 授業時間外での質問や要望は、毎週木曜の昼休みに7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。			

科目名	インドネシア語表現法 a	科目名 (英文)	Indonesian Expressions a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	日常会話レベルで用いる基本的な表現（フレーズや言い回し）について学ぶ。 日常生活で用いられる何気ない表現をできるだけ平易な言葉で言い表すための文例をしっかりとマスターする。 平易な発信もできるように語学運用能力の向上を目指す。
到達目標	日常生活でよく用いられる基本的で平易な表現を習得すること。平易な発信もできるようになること。
授業方法と留意点	1. テキストはテーマに応じたプリントを配布する。 2. 毎回辞書を携帯すること。 3. 毎回、ある状況を設定した会話練習をおこなう。 4. 適宜、小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	今後の授業の進め方についての説明をおこなう。	事前に授業に対する質問事項などを考えておくこと。
	2	文字と発音	文字と発音および簡単な文法説明をおこなう。	授業内容を復習し、習った表現を暗記する。
	3	あいさつの表現①	・あいさつで用いる表現を習得する ・会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内でインドネシア語の教員に会った時には、恥ずかしがらずにインドネシア語を使ってあいさつをすること。
	4	あいさつの表現②	・あいさつで用いる表現の幅をさらに増やす。 ・会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内でインドネシア語の教員や同級生に会った時には、恥ずかしがらずにインドネシア語であいさつをすること。
	5	お礼の表現	・お礼をのべる際の表現を習得する。 ・会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生へインドネシア語でお礼をのべてみる。
	6	謝罪の表現	・謝罪する際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・事前に、日常生活ではどういう場面でよく謝罪をしているのかを考えておくこと。 ・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。
	7	許可の表現	・許可を求めたり、受けたりする際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の許可のやりとり表現を試してみる。
	8	禁止・依頼の表現	・禁止する際や、依頼する際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の禁止表現や依頼のやりとり表現を試してみる。
	9	誘いの表現	・誘う際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の「誘う」表現を試してみる。
	10	肯定・否定の表現	・肯定する際や否定する際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の肯定表現や否定表現を試してみる。
	11	命令の表現	・命令を下す際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の命令表現を使い分けて試してみる。
	12	希望・意志の表現	・希望や意志を伝える際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の命令表現を使い分けて試してみる。
	13	推量の表現	・推量する際の表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の推量表現を使い分けて試してみる。
	14	感情の表現	・種々の感情表現を習得する。 ・ペアを組んで会話練習をおこなう。	・授業内容を復習し、習った表現を暗記する。 ・学内生活の状況に応じて、同専攻の同級生同士でインドネシア語の感情表現を使い分けて試してみる。
	15	1. 総まとめと理解度確認テスト 2. 陥りやすいミスの改善	1. 「インドネシア語表現法」で学んだことの総まとめを実施する。 2. 陥りやすいミスや癖、誤解を改善する。	1. 理解度確認テストに向けての総復習。 2. 事後学習の徹底

関連科目	インドネシア語科目すべて
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業での発表や積極性(40%) 小テスト(20%) 理解度確認テスト(40%) 詳細は、第1回目の授業で伝える。			
学生への メッセージ	インドネシア語は学習しやすく、親しみやすいのが特徴です。 しかし初心者レベルに留まらず、さらなる高みを目指して積極的に学びましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	1. 毎回の予習は基本的に必要ではない。しかし授業以外での学内生活でも積極的に使ってみることも含め、復習には少なくとも毎週2時間以上を必要とする。したがって今期のこの授業に必要とされる復習時間の総計は30時間以上である。 2. 随時的小テストと第15回の理解度確認テストの終了後は、陥りやすいミスや癖、誤解を改善するための解説をおこなう。 3. 授業時間外での質問や要望は、毎週木曜の昼休みに7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。			

科目名	インドネシア語ボキャブラリー a	科目名 (英文)	Indonesian Vocabulary a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 玲子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	語彙の強化をはかるとともに、日常生活に必要なインドネシア語の単語や表現を理解し、使えるようになることを目的とする。
到達目標	日常生活に必要な語彙を習得することができる。
授業方法と留意点	毎回、テーマに関連したプリントを配布する。授業で十分に練習を行って語彙の定着をはかる。必ず復習をすること。毎回、前週で学んだことの小テストを実施する。また、復習テストも実施する。
科目学習の効果 (資格)	日常生活に欠かせない単語や表現が身に付く。 インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	教室、道具	教室で使う基本的な表現と文房具の名称	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
3	基本的な親族名称、動物の名称	基本的な親族名称と身近な動物の名称	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
4	基本的な飲食物、味覚、色彩	基本的な飲食物の名称、調味料の名称、味覚表現・色彩表現について	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること syo
5	基本的な形容詞	大きさ・広さ・重さ・高さ・長さなどを表す基本的な形容詞、数字の0～10まで	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
6	野菜、果物	野菜や果物の名称	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
7	基本的な基語動詞、場所 (1)	接辞を使わない動詞と身近な場所を表す名称	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
8	顔、数詞、助数詞	顔の部位、助数詞の使い方、数字の10～1000000まで	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
9	身体 (1)	身体の名称、月・曜日・時の表し方	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
10	場所 (2)	施設の名称、前置詞や副詞の使い方	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
11	自然、助動詞	自然の名称、助動詞の使い方	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
12	乗り物、大陸・地域・国	乗り物の名称、陸・地域・国の名称	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
13	身体 (2)	内臓などの器官名称、装身具などの名称	指示された語彙の暗記と発音練習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
14	身体 (3)、病気・けが	生理現象・病気・けがに関する基本的な表現	これまでに習得した語彙やその用法を再確認し、復習テストに備えること
15	総まとめ (2)	前期の授業をふりかえり、学習項目の確認、復習テストおよび解説	復習テストで間違えた項目を再度学習し直すこと

関連科目 専攻言語インドネシア語の科目すべて、東南アジア関係の講義科目、文化人類学

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 毎週の小テスト 40%、積極的な授業の参加の度合い 20%、復習テスト 40%

学生へのメッセージ インドネシア語を使いこなすには、語彙を増やすことも欠かせません。どんどん単語を覚えて、使ってみましょう。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 予習は基本的に必要ないが、復習については毎週少なくとも2時間以上は行うこと。半期中の事後学習時間は30時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、小テストおよび復習テスト終了後は解説を行う。

科目名	インドネシア語ボキャブラリーb	科目名(英文)	Indonesian Vocabulary b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森田 良成
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	インドネシア語を習得するうえで、語彙力を高めることはきわめて重要である。 この授業では、やや高度なインドネシア語の単語と表現を学び、インドネシア語の語彙数を増やし、よりいっそう豊かな表現力と理解力を身に付けることを目的とする。あわせて、インドネシア語の文章や映像を通して生きた表現を学び、人々の暮らしに対する理解を深める。
到達目標	インドネシア語のやや高度な単語と表現を習得する。
授業方法と留意点	語彙力を定着させるために、毎回小テストを行う。 計3回の確認テストを行う。 課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語のやや高度な単語と表現が習得できる。 インドネシア語技能検定試験のための準備を進めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	既習事項の確認	既習事項について復習する。	前期「ボキャブラリーa」の復習をしておくこと。
3	語彙1	人間・家族・仲間に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
4	語彙2	人間・家族・仲間に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
5	復習1	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	前回の復習
6	語彙3	社会・生活に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
7	語彙4	社会・生活に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
8	語彙5	政治・経済に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
9	語彙6	芸術・文化に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
10	復習2	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項を復習すること。
11	語彙7	自然に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
12	語彙8	住まい・道具・メディアに関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
13	語彙9	住まい・道具・メディアに関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
14	復習3	既習事項を復習。 確認テストを行う。	既習事項を復習すること。
15	総合復習	単語習得状況の確認とフォローアップを行う。 単語習得到達度テストを行う。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。

関連科目 インドネシア語、マレー語に関する科目すべて。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)
 ・毎回の小テスト(20%)
 ・計3回の確認テスト第7回の中間試験(30%)
 ・第15回の単語習得到達度テストとボキャブラリーコンテスト(50%)
 *詳細は、第1回目の授業で伝える。

学生へのメッセージ
 日々の研鑽を怠らないようにしてください。
 授業の復習以外にも、自分の関心に合わせて、インドネシア語の文章・映像・音声に積極的に触れ、辞書を使ってその内容を理解しようと心がけてください。新しい単語が印象に残りやすく、そのぶんスムーズに語彙を増やしていけるはずです。

担当者の研究室等
 7号館2階(非常勤講師室)

備考
 毎回の復習は時間をかけてしっかりと行い、学習内容を確実に習得し、語彙を着実に増やしていけるように努めてください。
 授業時間外での質問には非常勤講師室で応じるが、事前に連絡すること。

科目名	インドネシア・マレー語学研究	科目名 (英文)	Indonesian-Malay Linguistic Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口 玲子
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	インドネシア語における専門的知識と能力を持った人材になるための授業を行う。需要が多いが、使える人が少ないインドネシア語の専門的人材になるための通訳、翻訳の技術を養う。この授業を通してインドネシア語能力の充実を目指す。
到達目標	インドネシア語の通訳、翻訳を専門的に行うことができる能力の習得。
授業方法と留意点	すでに3年間インドネシア語を学んできた上で、さらなる能力の向上を目指すのであれば、各受講生は自分で十分準備をしてから授業に望んでほしい。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定。 実践的なインドネシア語能力の習得。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価についての説明。	シラバスを読んでおくこと。
2	翻訳 1	翻訳に関する基本的な知識の説明。	翻訳に必要なものは何か、考えておくこと。
3	翻訳 2	翻訳の練習 1 インドネシア語から日本語への翻訳練習 1。	翻訳内容の予習をしておくこと。
4	翻訳 3	翻訳の練習 2 インドネシア語から日本語への翻訳練習 2。	翻訳内容の予習をしておくこと。
5	翻訳 4	翻訳の練習 3 インドネシア語から日本語への翻訳練習 3。	翻訳内容の予習をしておくこと。
6	翻訳 5	翻訳の練習 4 日本語からインドネシア語への翻訳練習 1。	翻訳内容の予習をしておくこと。
7	翻訳 6	翻訳の練習 5 日本語からインドネシア語への翻訳練習 2。	翻訳内容の予習をしておくこと。
8	翻訳 7	翻訳の練習 6 日本語からインドネシア語への翻訳練習 3。	翻訳内容の予習をしておくこと。
9	翻訳力の確認	臨時試験 1 臨時試験の内容の確認。	第1回から第8回の復習をしておくこと。
10	時事文の速読 1	日本語からインドネシア語。	内容の復習。
11	時事文の速読 2	インドネシア語から日本語。	内容の復習。
12	時事文の速読力の確認	臨時試験 2 臨時試験の内容の確認。	第10回から第11回の復習をしておくこと。
13	通訳 1	通訳に関する基本的な知識の説明。	内容の復習。
14	通訳 2	通訳の練習	内容の復習。
15	通訳力の確認	臨時試験 3 臨時試験の内容の確認。	第13回から第14回の復習をしておくこと。

関連科目	主言語インドネシア語の科目すべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	臨時試験 1 40%、臨時試験 2 30%、臨時試験 3 30%
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	4年間のインドネシア語学習の完成を目指して、努力をしてほしい。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	指示された予習・復習には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。また、臨時試験の内容に関しては、各試験終了後の授業中に確認、説明を行う。
----	---

科目名	エアラインビジネス論	科目名(英文)	Airline Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<p>社会インフラの一つである公共交通機関としての航空産業の役割を説明する。 航空産業の辿った歴史、現状を正確に理解し、その課題を把握することにより、将来展望について考察する。 また、航空機を運航するための多種多様な職種の役割や協体制度について講義することを通し、航空企業での業務実態を説明する。</p> <p>※この科目は、2015年度以降の入学生を対象とした「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目の一つです。</p>
到達目標	<p>航空産業の企業活動を通し、企業の事業運営に貢献する意義を身につける。 また、企業の社会的貢献や責任、顧客満足、従業員満足について学習することを通し、将来の進路選択に際しての判断材料に資することを目標とする。 客室乗務員やグランドスタッフというイメージにはしがちな航空会社の業務を正確に理解するとともに、航空機を運航するための様々な職種の存在を認識し、進路選択の幅を広げる。 将来、航空産業を目指すための知識や意識を修得する。</p>
授業方法と留意点	<p>主にパワーポイントを使用しての授業となる。 授業が理解できるように、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については随時受け付ける。また、毎回授業終了時に提出するレポートに質問を記載してもらい、次回授業時に解説する。 受講に当たっては、日ごろから航空業界に関する報道(新聞、TVニュース等)に関心を払う事。</p>
科目学習の効果(資格)	航空産業の様々な業種を知る事により、将来の進路の判断材料に資する(特に公的資格取得には直接繋がるものではない)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などの説明。	特になし。
2	航空の歴史	戦後の航空技術の発展、空の大衆化までの変遷を説明。また、戦後の我が国の民間航空の変遷、航空行政の規制緩和と、民間航空の歴史について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
3	航空自由化	米国に始まる自由化が欧州やその他の地域にどのような影響を及ぼしたのか、現在の航空事情を理解するために不可欠な OPEN SKY 政策について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
4	我が国の航空自由化	45・47 体制といわれた護送船団政策がもたらした日本の航空業界の脆弱さ、最近の米国との航空自由化の意味などについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
5	格安航空の躍進	航空の自由化に伴い、現在航空業界で最も注目を集めている格安航空について、そのコスト削減戦略や実態、将来の展望までを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
6	ハブ&スポーク(自由化の産物)	格安航空の対極にあるフルサービスキャリア、その基本となるハブ&スポークについてメリット、デメリットをわかりやすく解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
7	グローバル・アライアンス(自由化の副産物)	単独では生き残れない厳しい競争の中、アライアンスの意義は何か。成功例と失敗例を具体的に挙げてメリット・デメリットについて解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
8	運賃と費用	運賃の自由化に伴い航空会社を実施している料金政策について解説。また、航空会社が如何にしてコスト削減に取り組んでいるのかを原油のヘッジや搭載重量の軽減化など具体的事例をあげながら説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
9	顧客満足と企業の社会的責任	顧客満足(CS)を満たすには、まず従業員満足(ES)を満たす必要がある。CSとESの重要性について解説。また、昨今企業の不祥事が続く中、企業の社会的責任の重要性について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
10	航空会社の仕事 営業・予約・販売	運賃設定と販売の流れ、第一印象が問われる予約案内業務、商品企画・販売方法について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
11	航空会社の仕事 旅客取扱業務	この次も選んでいただくために、顧客満足を追求するグランドスタッフの業務について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
12	航空会社の仕事 グランドハンドリング・航空機整備	飛行機が飛び立つまでの流れ、航空機整備のしくみについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
13	航空会社の仕事 コントロール・PILOT	運航方式、管制、飛行ルートについて説明。飛行機が飛ぶ原理についても解説。また、運航乗務員の職業意識や具体的業務・訓練について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
14	航空会社の仕事 客室乗務員、機内サービス	客室乗務員が担う業務は多義に亘る。一見華やかに映る客室乗務員の業務の実態と、お客様に快適に過ごしていただく	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。

			機内サービスの努力と工夫について解説する。																	
	15	航空会社の仕事 航空貨物	沖縄ハブ構想をはじめ、今注目を集めている航空貨物について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。																
関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～2014年度入学生） 観光ホスピタリティプログラム科目（2015年度以降の入学生）																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>航空産業入門第2版</td> <td>ANA 総合研究所</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>エアラインオペレーション入門</td> <td>ANA 総合研究所</td> <td>ぎょうせい</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>数字で見る航空(2016)</td> <td>国土交通省航空局</td> <td>航空振興財団</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	航空産業入門第2版	ANA 総合研究所	東洋経済新報社	2	エアラインオペレーション入門	ANA 総合研究所	ぎょうせい	3	数字で見る航空(2016)	国土交通省航空局	航空振興財団
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	航空産業入門第2版	ANA 総合研究所	東洋経済新報社																	
2	エアラインオペレーション入門	ANA 総合研究所	ぎょうせい																	
3	数字で見る航空(2016)	国土交通省航空局	航空振興財団																	
評価方法 (基準)	最低10回以上の出席がない場合、評価の対象とならない。 定期試験60%、授業毎のレポート提出、講義参加姿勢40%。																			
学生への メッセージ	航空産業に携わる人はパイロットとCAだけと思いませんか？実際には業務は多岐にわたり、パイロットやCAたちはほんの一部です。航空産業にはどのような仕事があってどのような人が向いているのかを実務者の観点から分かり易く解説します。航空産業に関心を持っている学生には興味深い講義です。さらに、航空産業を将来の進路と考えている学生諸君にとっては大変参考になると思います。																			
担当者の 研究室等	7号館4階（塩崎・沖中研究室）																			
備考	毎回の授業でレポートを提出してもらいます。そこに記載された質問については、次回授業でフィードバックします。																			

科目名	エアラインビジネス論 I	科目名 (英文)	Airline Industry I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>社会インフラの一つである公共交通機関としての航空産業の役割を説明する。 航空産業の辿った歴史、現状を正確に理解し、その課題を把握することにより、将来展望について考察する。 また、航空機を運航するための多種多様な職種の役割や協働体制について講義することを通し、航空企業での業務実態を説明する。</p> <p>※この科目は、2015年度以降の入学生を対象とした「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目の一つです。</p>
到達目標	<p>航空産業の企業活動を通し、企業の事業運営に貢献する意義を身につける。 また、企業の社会的貢献や責任、顧客満足、従業員満足について学習することを通し、将来の進路選択に際しての判断材料に資することを目標とする。 客室乗務員やグランドスタッフというイメージにはしがちな航空会社の業務を正確に理解するとともに、航空機を運航するための様々な職種の存在を認識し、進路選択の幅を広げる。 将来、航空産業を目指すための知識や意識を修得する。</p>
授業方法と留意点	<p>主にパワーポイントを使用しての授業となる。 授業が理解できるように、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については随時受け付ける。また、毎回授業終了時に提出するレポートに質問を記載してもらい、次回授業時に解説する。 受講に当たっては、日ごろから航空業界に関する報道（新聞、TVニュース等）に関心を払う事。</p>
科目学習の効果（資格）	航空産業の様々な業種を知る事により、将来の進路の判断材料に資する（特に公的資格取得には直接繋がるものではない）。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	航空の歴史	戦後の航空技術の発展、空の大衆化までの変遷を説明。また、戦後の我が国の民間航空の変遷、航空行政の規制緩和と、民間航空の歴史について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
3	航空自由化	米国に始まる自由化が欧州やその他の地域にどのような影響を及ぼしたのか、現在の航空事情を理解するために不可欠な OPEN SKY 政策について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
4	我が国の航空自由化	45・47 体制といわれた護送船団政策がもたらした日本の航空業界の脆弱さ、最近の米国との航空自由化の意味などについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
5	格安航空の躍進	航空の自由化に伴い、現在航空業界で最も注目を集めている格安航空について、そのコスト削減戦略や実態、将来の展望までを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
6	ハブ&スポーク(自由化の産物)	格安航空の対極にあるフルサービスキャリア、その基本となるハブ&スポークについてメリット、デメリットをわかりやすく解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
7	グローバル・アライアンス(自由化の副産物)	単独では生き残れない厳しい競争の中、アライアンスの意義は何か。成功例と失敗例を具体的に挙げてメリット・デメリットについて解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
8	運賃と費用	運賃の自由化に伴い航空会社を実施している料金政策について解説。また、航空会社が如何にしてコスト削減に取り組んでいるのかを原油のヘッジや搭載重量の軽減化など具体的事例をあげながら説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
9	顧客満足と企業の社会的責任	顧客満足(CS)を満たすには、まず従業員満足(ES)を満たす必要がある。CSとESの重要性について解説。また、昨今企業の不祥事が続く中、企業の社会的責任の重要性について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
10	航空会社の仕事 営業・予約・販売	運賃設定と販売の流れ、第一印象が問われる予約案内業務、商品企画・販売方法について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
11	航空会社の仕事 旅客取扱業務	この次も選んでいただくために、顧客満足を追求するグランドスタッフの業務について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
12	航空会社の仕事 グランドハンドリング・航空機整備	飛行機が飛び立つまでの流れ、航空機整備のしくみについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
13	航空会社の仕事 コントロール・PILOT	運航方式、管制、飛行ルートについて説明。飛行機が飛ぶ原理についても解説。また、運航乗務員の職業意識や具体的業務・訓練について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
14	航空会社の仕事 客室乗務員、機内サービス	客室乗務員が担う業務は多義に亘る。一見華やかに映る客室乗務員の業務の実態と、お客様に快適に過ごしていただく	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。

			機内サービスの努力と工夫について解説する。																	
	15	航空会社の仕事 航空貨物	沖縄ハブ構想をはじめ、今注目を集めている航空貨物について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。																
関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～2014年度入学生） 観光ホスピタリティプログラム科目（2015年度以降の入学生）																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>航空産業入門第2版</td> <td>ANA 総合研究所</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>エアラインオペレーション入門</td> <td>ANA 総合研究所</td> <td>ぎょうせい</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>数字で見る航空(2016)</td> <td>国土交通省航空局</td> <td>航空振興財団</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	航空産業入門第2版	ANA 総合研究所	東洋経済新報社	2	エアラインオペレーション入門	ANA 総合研究所	ぎょうせい	3	数字で見る航空(2016)	国土交通省航空局	航空振興財団
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	航空産業入門第2版	ANA 総合研究所	東洋経済新報社																	
2	エアラインオペレーション入門	ANA 総合研究所	ぎょうせい																	
3	数字で見る航空(2016)	国土交通省航空局	航空振興財団																	
評価方法 (基準)	最低10回以上の出席がない場合、評価の対象とならない。 定期試験60%、授業毎のレポート提出、講義参加姿勢40%。																			
学生への メッセージ	航空産業に携わる人はパイロットとCAだけと思いませんか？実際には業務は多岐にわたり、パイロットやCAたちはほんの一部です。航空産業にはどのような仕事があってどのような人が向いているのかを実務者の観点から分かり易く解説します。航空産業に関心を持っている学生には興味深い講義です。さらに、航空産業を将来の進路と考えている学生諸君にとっては大変参考になると思います。																			
担当者の 研究室等	7号館4階（塩崎・沖中研究室）																			
備考	毎回の授業でレポートを提出してもらいます。そこに記載された質問については、次回授業でフィードバックします。																			

科目名	エアラインビジネス論Ⅱ	科目名(英文)	Airline Industry II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	航空会社の経営がどのような経緯をたどり、今日どのような課題と展望を抱えているのかを解説する。 また、収益を改善するための努力や社会貢献など航空会社の経営をとおし、広く一般企業の経営活動や社会的責任について理解を深める。
到達目標	航空事業の経営環境や社会的貢献などを学ぶことにより、航空業界に働くための知識や感性を修得することを目標とする。また、航空会社の経営をとおして、戦略的思考やマーケティングの発想について身につける。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを使用しての授業となる。 授業が理解できるように、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については都度受け付ける。また、毎回授業終了時に提出するレポートに質問を記入してもらい、次回授業時に解説する。 受講に当たっては、日ごろから航空業界に関する報道(新聞、TVニュース等)に関心を払う事。
科目学習の効果(資格)	航空業界が抱える課題や将来展望を学習することにより、将来の進路選択の判断材料に資する(特に公的資格取得には直接繋がるものではない)。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などの説明。	特になし。
授業計画	2	航空の歴史	飛行機の歴史は即ち航空の歴史、戦後の航空技術の発展、空の大衆化までを説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
	3	我が国の航空の歴史	戦後の我が国の民間航空の変遷、航空行政から規制緩和まで、民間航空の歴史について説明を行う。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
	4	航空の自由化	米国に始まる自由化が欧州やその他の地域にどのような影響をおよぼしたのか、現在の航空事情を理解するために不可欠なOPEN SKY政策について説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
	5	我が国の航空自由化	45・47体制といわれた護送船団政策がもたらした日本の航空業界の脆弱さ、最近の米国との航空自由化合意の意味などについて説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
	6	格安航空の躍進	航空の自由化に伴い、現在最も航空業界で注目を集めている格安航空について、そのコスト削減戦略や実態、将来の展望までを解説する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
	7	羽田自由化と関西3空港	自由化に伴い、国際線の新たなハブとなる羽田空港、伊丹空港と関西空港の経営統合など、現状と将来への課題について説明を行う。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
	8	ハブ&スポーク(自由化の副産物)	格安航空の対極にあるフルサービスキャリア、その基本となるハブ&スポークについてメリット、デメリットを分り易く解説する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
	9	グローバル・アライアンス(自由化の副産物)	単独では生き残れない厳しい競争の中、アライアンスの意義について、成功例と失敗例を具体的に挙げてメリット、デメリットについて分り易く解説する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
	10	収入を増やす努力(顧客管理)	顧客を囲い込む絶対条件となったマイルプログラム、航空会社の利益向上への貢献度やユーザーとして得する情報等も含めて説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
	11	収入を増やす努力(運賃設定)	何故、同じ区間、同じ日に搭乗するのに違う運賃が存在するのか。運賃設定の自由化に伴い、今、航空会社が実施している料金政策について解説する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
	12	支出を減らす努力	航空会社が如何にしてコスト削減に取り組んでいるかを、原油価格のヘッジや重量の軽減化など航空会社の費用削減策等について説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
	13	国際航空物流	沖縄ハブ構想をはじめ、今注目されている国際物流について基本的な航空貨物の仕組みや航空貨物代理店の仕事の紹介等、分り易く説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
	14	企業の社会的責任	企業の社会的責任とは何か、企業の社会貢献などについて航空会社を例に具体的事例を挙げて説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
	15	航空会社と顧客、従業員	企業ブランドとは? 顧客満足とは? 顧客満足を満たすためには、まず従業員満足を満たす必要がある。ESとCSの重要性について説明する。	関連する新聞記事やニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める。
	関連科目	エアラインビジネス論Ⅰ ツーリズム論Ⅰ・Ⅱ ホスピタリティー論Ⅰ・Ⅱ		

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	航空産業入門	ANA 総合研究所	東洋経済新報社
	2	数字で見る航空(2015)	国土交通省航空局	航空振興財団
	3	あなたが創る顧客満足	佐藤知恭	日経ビジネス人文庫
評価方法 (基準)	最低10回以上の出席がない場合、評価の対象とはならない。 定期試験60%、授業毎のレポート提出、講義参加姿勢40%。			
学生への メッセージ	日々変動する航空産業を実務者の視点から分かり易く解説します。航空関連産業を将来の進路と考えている学生諸君にとっては大変参考になると思います。また、そうでない方々にとっても社会インフラの一つである航空産業の状況が学べ、興味深い授業だと思います。			
担当者の 研究室等	7号館4階(エアライン・ホスピタルプログラムルーム)			
備考	エアラインビジネス論Iとの直接の関連はありませんので、必ずしもエアラインビジネス論Iを受講している必要はありません。 毎回の授業でレポートを提出していただきます。そこに記載された質問については、次回授業でフィードバックします。			

科目名	映画のスペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish through the Movies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	映画・ドラマを利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行い、重要語彙や表現をチェックしながら各場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、見た映画の要約あるいは感想をスペイン語で述べる。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション (2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション (3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第7回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。
9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
15	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第15回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。

関連科目	スペイン語関連科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業での発表、提出物 40% + 確認テストの成績 60%
学生へのメッセージ	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	辞書は必携 事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	映画のスペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish through the Movies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ディアス イバン
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	映画・ドラマを利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行い、重要語彙や表現をチェックしながら書く場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、見た映画の要約あるいは感想をスペイン語で述べる。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション(3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第7回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。
9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
15	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第15回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。

関連科目	スペイン語関連科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業での発表、提出物 40% + 確認テストの成績 60%
学生へのメッセージ	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	辞書は必携 事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	映画のスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Spanish through the Movies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	映画・ドラマを利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行い、重要語彙や表現をチェックしながら各場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、見た映画の要約あるいは感想をスペイン語で述べる。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション(3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第7回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。
9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
15	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第15回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。

関連科目	スペイン語関連科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業での発表、提出物40% + 確認テストの成績60%
学生へのメッセージ	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	辞書は必携 事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	映画のスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Spanish through the Movies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ディアス イバン
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	映画・ドラマを利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。
授業方法と留意点	映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行い、重要語彙や表現をチェックしながら書く場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、見た映画の要約あるいは感想をスペイン語で述べる。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション(3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第7回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。
9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。
14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。
15	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第15回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。

関連科目	スペイン語関連科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業での発表、提出物40% + 確認テストの成績60%
学生へのメッセージ	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	辞書は必携 事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	映画のスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Spanish through the Movies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ディアス イバン
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	スペイン語のヒアリング力を高めるために、映画を利用し、2回で1チャプタを終えるスピードで進む。ショットを見ながら、だいたいの内容を把握する。次に、そのチャプタで使われているスペイン語を和訳する。その後、スペイン語を聞いてのディクテーションをする。			
到達目標	スペイン語のヒアリング力を高める。			
授業方法と留意点	スペイン語圏で近年制作された作品の中から教材を選定する。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方の説明。ヒアリング、ディクテーションの練習。	授業内容を復習する。
	2	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	3	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	4	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	5	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	6	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	7	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	8	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	9	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	10	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	11	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	12	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	13	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	14	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。
	15	まとめ		
関連科目	スペイン語と関連のあるすべての科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	毎回のディクテーションと小テストによって評価する(100%)。			
学生へのメッセージ	間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを図ってください。			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。			

科目名	映画のスペイン語Ⅲ	科目名(英文)	Spanish through the Movies III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ディアス イバン
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語のヒアリング力を高めるために、映画を利用し、2回で1チャプタを終えるスピードで進む。ショットを見ながら、だいたいの内容を把握する。次に、そのチャプタで使われているスペイン語を和訳する。その後、スペイン語を聞いてのディクテーションをする。																																																																		
到達目標	スペイン語のヒアリング力を高める。																																																																		
授業方法と留意点	スペイン語圏で近年制作された作品の中から教材を選定する。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業の進め方の説明。ヒアリング、ディクテーションの練習。</td> <td>授業内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Escena 1</td> <td>ヒアリング、ディクテーション、和訳</td> <td>授業内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Escena 1</td> <td>ヒアリング、ディクテーション、和訳</td> <td>授業内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Escena 2</td> <td>ヒアリング、ディクテーション、和訳</td> <td>授業内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Escena 2</td> <td>ヒアリング、ディクテーション、和訳</td> <td>授業内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Escena 3</td> <td>ヒアリング、ディクテーション、和訳</td> <td>授業内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Escena 3</td> <td>ヒアリング、ディクテーション、和訳</td> <td>授業内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Escena 4</td> <td>ヒアリング、ディクテーション、和訳</td> <td>授業内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Escena 4</td> <td>ヒアリング、ディクテーション、和訳</td> <td>授業内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Escena 5</td> <td>ヒアリング、ディクテーション、和訳</td> <td>授業内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Escena 5</td> <td>ヒアリング、ディクテーション、和訳</td> <td>授業内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Escena 6</td> <td>ヒアリング、ディクテーション、和訳</td> <td>授業内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Escena 6</td> <td>ヒアリング、ディクテーション、和訳</td> <td>授業内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Escena 6</td> <td>ヒアリング、ディクテーション、和訳</td> <td>授業内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方の説明。ヒアリング、ディクテーションの練習。	授業内容を復習する。	2	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。	3	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。	4	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。	5	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。	6	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。	7	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。	8	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。	9	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。	10	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。	11	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。	12	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。	13	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。	14	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。	15	まとめ		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方の説明。ヒアリング、ディクテーションの練習。	授業内容を復習する。																																																																
2	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。																																																																
3	Escena 1	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。																																																																
4	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。																																																																
5	Escena 2	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。																																																																
6	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。																																																																
7	Escena 3	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。																																																																
8	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。																																																																
9	Escena 4	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。																																																																
10	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。																																																																
11	Escena 5	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。																																																																
12	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。																																																																
13	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。																																																																
14	Escena 6	ヒアリング、ディクテーション、和訳	授業内容を復習する。																																																																
15	まとめ																																																																		
関連科目	スペイン語と関連のあるすべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	毎回のディクテーションと小テストによって評価する(100%)。																																																																		
学生へのメッセージ	間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを図ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。																																																																		

科目名	英語意味論・語用論	科目名(英文)	English Semantics and Pragmatics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	住吉 誠
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	言語が「形式」「音声」「意味」という3つの側面から成り立っているとすると、「意味」は一番捉えにくく定式化が難しいものである。しかし、意味変化の規則性や個々の表現どうしの関連性、場面と文の意味の関係など、興味深い現象が多い。コミュニケーションが成立するためには、その土台となっているそれぞれの単語や表現がどのような意味を持ち、それが実際の場面でどのように使われ、どのような意図を伝えているかということを理解することが重要になってくる。英語の意味・用いられ方を眺めることで、言語についてのさまざまな不思議に興味を持ち、その不思議に対して「なぜか」という理由を探索する姿勢を涵養する。
到達目標	1. 同意語、上位語・下位語といった語彙どうしの意味的关系を理解できるようになる。 2. 意味とコンテキストの関係を理解できるようになる。 3. 意味変化のメカニズムを理解できるようになる。 4. 場面に応じた言葉の使われ方や会話の成立について理解できるようになる。
授業方法と留意点	この講義では、英語に焦点を当てながら、ことばの意味、場面との関係、意味の変化などについて学ぶ。英語が表す「意味」の側面に焦点をあてる意味論と、実際の場面でどのように使われ、どのような意味を伝えるのかといった「用い方」に焦点を当てる語用論を扱う。主に講義形式となるが、授業の最後にミニツバーパーにより理解度を測ったり、興味のある点について簡単な論述を課したりする。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英語の歴史と語の意味	英語の歴史の中に見られる語彙の増加、語の意味の変化の事例を紹介しながら、意味が決して固定的なものでないことを考える。	英語における語の意味変化の事例を調べておく。
3	類義語と反意語	多義性、類義性、同音性、反義性といった意味にかかわる性質について学ぶ。	英語の多義語、反意語の例を調べておく。
4	意味と指示物	意味と指示物の関係を考えながら、誤用、比喩、うそ、皮肉といった言葉遣いにかかわるメカニズムを考える。	うそと誤用はどのように違うのか、考えておく。
5	意味と辞書	辞書に意味がどのように掲載されるかを考えながら、意味記述の難しさを考えていく。	多義語の get の意味分類がどのようにになっているのか、辞書で調べておく。
6	同音語と多義語	語彙の持つ関係性を考察しながら、意味の構成性や語彙の意味関係の多様性を考えていく。その過程で、意味をどのように形式化できるのか、またはできないのかについても考える。	「ゲシュタルト理論」について調べておく。
7	文法と意味	認知文法で提唱されている構文に意味があるのかということ、具体的事例をもとに考える	構文文法とはどのような考え方をいうのか、調べておく。
8	意味の変化①	意味の向上、意味の下落といった意味変化の規則性を考え、その要因を社会的、言語的に探っていく。	意味の向上の例が日本語にないか調査しておく。
9	意味の変化②	メトニミー、メタファーといった英語の多義性にかかわるメカニズムを考察する。	メトニミーによる意味拡張の例を調べておく。
10	コアイメージ	コアイメージによる意味の説明が、語の持つ多義性の説明に非常に有益であることを考えていく。	コアイメージとはどのようなことを指すのか、調べておく。
11	意味の修得	ことばの習得、主に意味にかかわる習得について考え、カテゴリー化、プロトタイプについて学ぶ。	幼児の言語習得がどのように進んでいくのかを調べておく。
12	意味の普遍性と相対性	色名や親族関係の用語などの例を見ながら、多言語間の単語の指示物の相違を考えて、意味が相対であることを考える。	色名が他言語ではどのようにあらわされるのかを調べておく。
13	意味とコンテキスト	意味の成立が文脈や使用場面に依存していることを考える。また話の情報構造について考察し、旧情報、新情報といった談話を成立させる情報の価値について考察する。	話といった具体的なテキストを使って、新情報、旧情報がどのようにあらわされているのか、考えてみる。
14	会話の成立	会話を成り立たせるとされる「強調の原理」「会話の格率」(量(Quantity)、質(Quality)、関係(Relation)、様態(Manner))といった会話の含みの理論を学ぶ。	意味のある会話を成り立たせるにはどのようなことが必要かを考える。
15	発話行為	具体的な事例を使用して、発話の持つ意図を語用論的に分析していく。	語や表現がコンテキストの中で具体的に使用されるとまったく別の意味を表す事例を考えておく。

関連科目	スピーキング・リスニング・オーラルコミュニケーション・イングリッシュ・プレゼンテーション			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英語の意味	池上嘉彦(編)	大修館書店

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業で提出するミニツペーパー (50%) 定期テスト (50%)			
学生への メッセージ	新しいことを知る楽しさを知って下さい。			
担当者の 研究室等	7号館4階 住吉研究室			
備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数を60時間程度とする。			

科目名	英語学 I	科目名 (英文)	English Linguistics I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	母語英語の歴史や諸特徴、世界で使用される様々な英語 (World Englishes)、英語と文化・社会、英語の会話構造、英文法・構文の理論、英語の音声特徴など、英語に係る様々な研究分野について、グループ学習・演習やディスカッションを織り交ぜながら、その考え方や研究の着眼点などについて、基本的な知識と方法を身に付ける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 国際共通語としての英語の多様性について理解を深める 英語学研究の様々な分野について、基本的な考え方や方法について理解する 英語の文法、音声を含め、コミュニケーションにおける英語使用の様々な側面について、基本的な知識、考え方が身に付く
授業方法と留意点	授業の中では、グループ学習や演習等も積極的に取り入れていきますので、授業への積極的な参加がとても重要です。
科目学習の効果 (資格)	教職課程 (英語) の必修科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、英語学は何を研究するか?	レクチャー、グループ学習、演習	教科書 pp. 1-13 (復習) 教科書 pp. 15-30 (予習)
2	世界で使われる英語	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 31-61 (予習)
3	母語英語の歴史と特徴	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 63-79 (予習)
4	英語と社会的属性について考える	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 81-97 (予習)
5	発話行為論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 99-109 (予習)
6	ポライトネス理論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 107-117 (予習)
7	談話分析と会話分析	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習
8	英語会話の構造	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 119-134 (予習)
9	英語文化について考える	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 135-153 (予習)
10	英語における非言語コミュニケーション	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 155-162 (予習)
11	生成文法と認知言語学	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 162-165 (予習)
12	メタファー理論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 171-182 (予習)
13	日英語文法比較	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 182-188 (予習)
14	構文と事態把握	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 189-204 (予習)
15	英語音声学と音韻論	レクチャー、グループ学習、演習	総復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ベーシック新しい英語学概論	平賀正子	ひつじ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グローバルコミュニケーションのための英語学概論	井上逸平	慶應義塾大学出版会
2			
3			

評価方法 (基準)	期末テスト: 40% リアクション・ペーパー: 30% 授業への参加: 30%
-----------	---

学生へのメッセージ
英語学は英語という言葉を研究する学問ですが、英語学の中には、実に様々な研究分野や方法論があります。英語学の世界を知ってもらいたい機会になれば幸いです。

担当者の研究室等
7号館5階 杉浦研究室

備考

科目名	英語学Ⅱ	科目名(英文)	English Linguistics II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	住吉 誠
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	言語が「形式」「音声」「意味」という3つの側面から成り立っていると、「意味」は一番捉えにくく定式化が難しいものである。しかし、意味変化の規則性や個々の表現どうしの関連性、場面と文の意味の関係など、興味深い現象が多い。コミュニケーションが成立するためには、その土台となっているそれぞれの単語や表現がどのような意味を持ち、それが実際の場面でどのように使われ、どのような意図を伝えているかということを理解することが重要になってくる。英語の意味・用いられ方を眺めることで、言語についてのさまざまな不思議に興味を持ち、その不思議に対して「なぜか」という理由を探索する姿勢を涵養する。
到達目標	1. 同意語、上位語・下位語といった語彙どうしの意味的关系を理解できるようになる。 2. 意味とコンテキストの関係を理解できるようになる。 3. 意味変化のメカニズムを理解できるようになる。 4. 場面に応じた言葉の使われ方や会話の成立について理解できるようになる。
授業方法と留意点	この講義では、英語に焦点を当てながら、ことばの意味、場面との関係、意味の変化などについて学ぶ。英語が表す「意味」の側面に焦点をあてる意味論と、実際の場面でどのように使われ、どのような意味を伝えるのかといった「用い方」に焦点を当てる語用論を扱う。主に講義形式となるが、授業の最後にミニツバーパーにより理解度を測ったり、興味のある点について簡単な論述を課したりする。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	英語の歴史と語の意味	英語の歴史の中に見られる語彙の増加、語の意味の変化の事例を紹介しながら、意味が決して固定的なものでないことを考える。	英語における語の意味変化の事例を調べておく。
3	類義語と反意語	多義性、類義性、同音性、反義性といった意味にかかわる性質について学ぶ。	英語の多義語、反意語の例を調べておく。
4	意味と指示物	意味と指示物の関係を考えながら、誤用、比喩、うそ、皮肉といった言葉遣いにかかわるメカニズムを考える。	うそと誤用はどのように違うのか、考えておく。
5	意味と辞書	辞書に意味がどのように掲載されるかを考えながら、意味記述の難しさを考えていく。	多義語の get の意味分類がどのようにになっているのか、辞書で調べておく。
6	同音語と多義語	語彙の持つ関係性を考察しながら、意味の構成性や語彙の意味関係の多様性を考えていく。その過程で、意味をどのように形式化できるのか、またはできないのかについても考える。	「ゲシュタルト理論」について調べておく。
7	文法と意味	認知文法で提唱されている構文に意味があるのかということ、具体的事例をもとに考える	構文文法とはどのような考え方をいうのか、調べておく。
8	意味の変化①	意味の向上、意味の下落といった意味変化の規則性を考え、その要因を社会的、言語的に探っていく。	意味の向上の例が日本語にないか調査しておく。
9	意味の変化②	メトニミー、メタファーといった英語の多義性にかかわるメカニズムを考察する。	メトニミーによる意味拡張の例を調べておく。
10	コアイメージ	コアイメージによる意味の説明が、語の持つ多義性の説明に非常に有益であることを考えていく。	コアイメージとはどのようなことを指すのか、調べておく。
11	意味の修得	ことばの習得、主に意味にかかわる習得について考え、カテゴリー化、プロトタイプについて学ぶ。	幼児の言語習得がどのように進んでいくのかを調べておく。
12	意味の普遍性と相対性	色名や親族関係の用語などの例を見ながら、多言語間の単語の指示物の相違を考えて、意味が相対であることを考える。	色名が他言語ではどのようにあらわされるのかを調べておく。
13	意味とコンテキスト	意味の成立が文脈や使用場面に依存していることを考える。また話の情報構造について考察し、旧情報、新情報といった談話を成立させる情報の価値について考察する。	話といった具体的なテキストを使って、新情報、旧情報がどのようにあらわされているのか、考えてみる。
14	会話の成立	会話を成り立たせるとされる「強調の原理」「会話の格率」(量(Quantity)、質(Quality)、関係(Relation)、様態(Manner))といった会話の含みの理論を学ぶ。	意味のある会話を成り立たせるにはどのようなことが必要かを考える。
15	発話行為	具体的な事例を使用して、発話の持つ意図を語用論的に分析していく。	語や表現がコンテキストの中で具体的に使用されるとまったく別の意味を表す事例を考えておく。

関連科目	スピーキング・リスニング・オーラルコミュニケーション・イングリッシュ・プレゼンテーション			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英語の意味	池上嘉彦(編)	大修館書店

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業で提出するミニツペーパー (50%) 定期テスト (50%)			
学生への メッセージ	新しいことを知る楽しさを知って下さい。			
担当者の 研究室等	7号館4階 住吉研究室			
備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数を60時間程度とする。			

科目名	英語学Ⅲ	科目名(英文)	English Linguistics III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	なぜこの表現を使うのか、他の表現ではいけないのか、他にどんな表現が使えるのか(どのような違いがあるのか)等、英語(の構造)についての素朴な疑問を大事にしながら、英語の構造を主にコミュニケーション(情報や伝達機能)の視点から考察する。
到達目標	英語の基礎知識や教養に加え、英語(構造)に関わる諸問題について理解を深めたい。特に、コミュニケーションとの関わりの中で英語の構造を理解できるようになることを目指す。同時に日本語との比較を行うことで、英語の構造について深い考察を試みる。
授業方法と留意点	・基本的にはプリントを配布し、講義形式で進めるが、ペアワークやグループでの討議の時間も設ける。 ・本講義は受講生として言語(とりわけ構造や意味)に興味がある学生を想定している。「英語学概論(英語学Ⅰ)」や「英語意味論・語用論(英語学Ⅱ)」を履修済みであることが望ましい。
科目学習の効果(資格)	・言語の構造・意味の理解 ・3年次以降のゼミ、教職や大学院進学

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	機能(言語学)的アプローチ	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
3	言い換え表現(本当に言い換え可能か?)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
4	トピック(とコメント)・主題(と題述)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
5	旧情報と新情報(there構文など)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
6	焦点と強調(倒置表現など)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
7	照応と代用(代名詞など)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
8	中間のまとめ(テストなど)	中間の総括を行い、理解をより一層深める。	プリントの復習と次回の予習
9	認知(言語学)的アプローチ	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
10	類似性(恣意性の有無)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
11	類義語①(英語)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
12	類義語②(日本語との比較)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
13	文法化と意味変化①(英語)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
14	文法化と意味変化②(日本語との比較)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
15	まとめ	これまで扱ったトピックについて総括し、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目 英語学概論(英語学Ⅰ)、英語意味論・語用論(英語学Ⅱ)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等(100%)

学生へのメッセージ 講義テーマの性質上、難解に思えるものを扱いますが、言語の構造について深く考えていきましょう。

担当者の研究室等 7号館5階 鈴木研究室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、議論や小テストの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチュードントアワーにて対応する。

科目名	英語学概論	科目名 (英文)	Introduction to English Linguistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	母語英語の歴史や諸特徴、世界で使用される様々な英語 (World Englishes)、英語と文化・社会、英語の会話構造、英文法・構文の理論、英語の音声特徴など、英語に係る様々な研究分野について、グループ学習・演習やディスカッションを織り交ぜながら、その考え方や研究の着眼点などについて、基本的な知識と方法を身に付ける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 国際共通語としての英語の多様性について理解を深める 英語学研究の様々な分野について、基本的な考え方や方法について理解する 英語の文法、音声を含め、コミュニケーションにおける英語使用の様々な側面について、基本的な知識、考え方が身に付く
授業方法と留意点	授業の中では、グループ学習や演習等も積極的に取り入れていきますので、授業への積極的な参加がとても重要です。
科目学習の効果 (資格)	教職課程 (英語) の必修科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、英語学は何を研究するか?	レクチャー、グループ学習、演習	教科書 pp. 1-13 (復習) 教科書 pp. 15-30 (予習)
2	世界で使われる英語	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 31-61 (予習)
3	母語英語の歴史と特徴	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 63-79 (予習)
4	英語と社会的属性について考える	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 81-97 (予習)
5	発話行為論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 99-109 (予習)
6	ポライトネス理論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 107-117 (予習)
7	談話分析と会話分析	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習
8	英語会話の構造	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 119-134 (予習)
9	英語文化について考える	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 135-153 (予習)
10	英語における非言語コミュニケーション	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 155-162 (予習)
11	生成文法と認知言語学	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 162-165 (予習)
12	メタファー理論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 171-182 (予習)
13	日英語文法比較	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 182-188 (予習)
14	構文と事態把握	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 189-204 (予習)
15	英語音声学と音韻論	レクチャー、グループ学習、演習	総復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ベーシック新しい英語学概論	平賀正子	ひつじ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	グローバルコミュニケーションのための英語学概論	井上逸平	慶應義塾大学出版会
2			
3			

評価方法 (基準)	期末テスト: 40% リアクション・ペーパー: 30% 授業への参加: 30%
-----------	---

学生へのメッセージ
英語学は英語という言葉の研究する学問ですが、英語学の中には、実に様々な研究分野や方法論があります。英語学の世界を知ってもらいたい機会になれば幸いです。

担当者の研究室等
7号館5階 杉浦研究室

備考

科目名	英語圏概論	科目名(英文)	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本授業では、視聴覚資料を用いながら、北米(カナダ・アメリカ)文化について幅広く学ぶことが目的である。
到達目標	大衆文化に焦点を当てて、北米(カナダ・アメリカ)文化への理解を深める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに応じて、原作や映像を用いながら、授業を進める。 ・グループ・プレゼンテーションをしてもらう。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・教員養成 ・異文化理解 ・教養

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価、受講上の注意などの説明	授業内容を復習する
2	アメリカ	アメリカに関する基本的知識	アメリカの基本的情報を収集する
3	アメリカのテーマパーク	ディズニーランド	ディズニーランドについて調べる
4	アメリカのアニメ	ディズニー・アニメと原作の比較	ディズニー・アニメと原作について調べる
5	アメリカの映画	ハリウッド映画	ハリウッド映画について調べる
6	アメリカの舞台芸術(ミュージカル)	ミュージカルの歴史	ミュージカルについて調べる
7	アメリカの舞台芸術(演劇)	20世紀のアメリカ演劇	20世紀のアメリカ演劇について調べる
8	アメリカの舞台芸術(ダンス)	ダンスの歴史(モダンダンスからコンテンポラリーダンスまで)	モダンダンス以降のダンスについて調べる
9	カナダ	カナダに関する基本的知識	カナダの基本的情報を収集する
10	カナダの映画	『タイタニック』に見られるサバイバル精神	『タイタニック』について調べる
11	カナダの舞台芸術(演劇①)	現代の英語圏演劇	現代の英語圏演劇について調べる
12	カナダの舞台芸術(演劇②)	現代のフランス語圏演劇(英語圏との比較)	現代のフランス語圏演劇について調べる
13	カナダの舞台芸術(演劇③)	演劇フェスティバル	演劇フェスティバルについて調べる
14	カナダの舞台芸術(サーカス)	シルク・ドゥ・ソレイユ	シルク・ドゥ・ソレイユについて調べる
15	まとめ	確認テストと解説	前期の授業内容を復習する

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点(授業態度、課題への取り組み): 30% ・グループ・プレゼンテーション: 30% ・確認テスト: 40%
----------	---

学生へのメッセージ
カナダやアメリカの文化を学ぶことで、異文化への理解を深めましょう。

担当者の研究室等
7号館5階 神崎研究室

備考

- ・毎回の授業のための資料の読み込み、担当者からの課題、発表の準備などに要する事前・事後学習総時間は60時間程度とする。
- ・初回の授業でプレゼンテーションのグループを決めるので、受講予定の学生は必ず出席すること。
- ・グループ・プレゼンテーションにおけるフィードバックはその都度行う。

科目名	英語圏概論	科目名(英文)	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	This is an introduction to the people and the culture of the United States. By learning about the culture of the United States, it will become easier to understand and communicate with Americans.
到達目標	1. You will be able to listen to and understand lectures in English. 2. You will improve your note taking skills. 3. You will get experience with presenting in front of a large audience
授業方法と留意点	You will listen to lectures in English and take notes. There will also be opportunities for discussions and presentations.
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction to the United States	Go over syllabus; Lecture and discussion on the geography of the United States	Prepare materials for note taking
2	Reading	Reading and listening based activities	Level Check
3	American Values and the American Dream	Lecture and discussion on American values	Quiz
4	Religion in America	Lecture and discussion on religion in America	Quiz
5	The Frontier Spirit	Lecture and discussion on the expansion of the United States	Quiz
6	Business and Consumerism	Lecture and discussion on American business practices	Quiz
7	Test 1	Take a test on the contents of weeks 1-6	Review the notes for weeks 1-6
8	Government and Politics	Lecture and discussion on the American political system	Quiz
9	Ethnic and Racial Diversity	Lecture and discussion on America's multiracial society	Quiz
10	Education in America	Lecture and discussion on the education system in America	Quiz
11	The American Family	Lecture and discussion on the role of family in American society	Quiz
12	Test 2	Take a test on the contents of weeks 8-11	Review the notes for weeks 8-11
13	Group Presentation Preparation	Work with a group to write a presentation to be given in front of the class	.Practice for your presentation
14	Group Presentations	Present in front of a large audience	.Practice for your presentation
15	Group Presentations	Present in front of a large audience	.Practice for your presentation

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	Test 1 20% Test 2 20% Group Presentation 20% Short Writing 8% Reading Quiz 16% Lecture Quiz 16%
----------	--

学生へのメッセージ
Lectures will be in English, so it may be challenging for you, but don't worry. Time will be given during the lectures for you to check unfamiliar words in your dictionary, so please bring a dictionary to class. Also, please be prepared to take notes. Your success in this class will depend on your note taking skills.

担当者の研究室等
7号館3階 フーパー研究室

備考
毎回の授業の事前・事後学習総時間は60時間程度とする。テスト等に関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスケジュールアワーにて対応する。

科目名	英語圏概論 (北米・ヨーロッパ)	科目名 (英文)	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	本授業では、視聴覚資料を用いながら、北米 (カナダ・アメリカ) 文化について幅広く学ぶことが目的である。
到達目標	大衆文化に焦点を当てて、北米 (カナダ・アメリカ) 文化への理解を深める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに応じて、原作や映像を用いながら、授業を進める。 ・グループ・プレゼンテーションをしてもらう。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・教員養成 ・異文化理解 ・教養

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価、受講上の注意などの説明	授業内容を復習する
2	アメリカ	アメリカに関する基本的知識	アメリカの基本的情報を収集する
3	アメリカのテーマパーク	ディズニーランド	ディズニーランドについて調べる
4	アメリカのアニメ	ディズニー・アニメと原作の比較	ディズニー・アニメと原作について調べる
5	アメリカの映画	ハリウッド映画	ハリウッド映画について調べる
6	アメリカの舞台芸術 (ミュージカル)	ミュージカルの歴史	ミュージカルについて調べる
7	アメリカの舞台芸術 (演劇)	20世紀のアメリカ演劇	20世紀のアメリカ演劇について調べる
8	アメリカの舞台芸術 (ダンス)	ダンスの歴史 (モダンダンスからコンテンポラリーダンスまで)	モダンダンス以降のダンスについて調べる
9	カナダ	カナダに関する基本的知識	カナダの基本的情報を収集する
10	カナダの映画	『タイタニック』に見られるサバイバル精神	『タイタニック』について調べる
11	カナダの舞台芸術 (演劇①)	現代の英語圏演劇	現代の英語圏演劇について調べる
12	カナダの舞台芸術 (演劇②)	現代のフランス語圏演劇 (英語圏との比較)	現代のフランス語圏演劇について調べる
13	カナダの舞台芸術 (演劇③)	演劇フェスティバル	演劇フェスティバルについて調べる
14	カナダの舞台芸術 (サーカス)	シルク・ドゥ・ソレイユ	シルク・ドゥ・ソレイユについて調べる
15	まとめ	確認テストと解説	前期の授業内容を復習する

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 (授業態度、課題への取り組み) : 30% ・グループ・プレゼンテーション : 30% ・確認テスト : 40%
-----------	---

学生へのメッセージ
カナダやアメリカの文化を学ぶことで、異文化への理解を深めましょう。

担当者の研究室等
7号館5階 神崎研究室

備考

- ・毎回の授業のための資料の読み込み、担当者からの課題、発表の準備などに要する事前・事後学習総時間は60時間程度とする。
- ・初回の授業でプレゼンテーションのグループを決めるので、受講予定の学生は必ず出席すること。
- ・グループ・プレゼンテーションにおけるフィードバックはその都度行う。

科目名	英語圏概論 (北米・ヨーロッパ)	科目名 (英文)	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	This is an introduction to the people and the culture of the United States. By learning about the culture of the United States, it will become easier to understand and communicate with Americans.
到達目標	1. You will be able to listen to and understand lectures in English. 2. You will improve your note taking skills. 3. You will get experience with presenting in front of a large audience
授業方法と留意点	You will listen to lectures in English and take notes. There will also be opportunities for discussions and presentations.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Reading	Reading and listening based activities	Level Check
3	American Values and the American Dream	Lecture and discussion on American values	Quiz
4	Religion in America	Lecture and discussion on religion in America	Quiz
5	The Frontier Spirit	Lecture and discussion on the expansion of the United States	Quiz
6	Business and Consumerism	Lecture and discussion on American business practices	Quiz
7	Test 1	Take a test on the contents of weeks 1-6	Review the notes for weeks 1-6
8	Government and Politics	Lecture and discussion on the American political system	Quiz
9	Ethnic and Racial Diversity	Lecture and discussion on America's multiracial society	Quiz
10	Education in America	Lecture and discussion on the education system in America	Quiz
11	The American Family	Lecture and discussion on the role of family in American society	Quiz
12	Test 2	Take a test on the contents of weeks 8-11	Review the notes for weeks 8-11
13	Group Presentation Preparation	Work with a group to write a presentation to be given in front of the class	.Practice for your presentation
14	Group Presentations	Present in front of a large audience	.Practice for your presentation
15	Group Presentations	Present in front of a large audience	.Practice for your presentation

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	Test 1 20% Test 2 20% Group Presentation 20% Short Writing 8% Reading Quiz 16% Lecture Quiz 16%
-----------	--

学生へのメッセージ
Lectures will be in English, so it may be challenging for you, but don't worry. Time will be given during the lectures for you to check unfamiliar words in your dictionary, so please bring a dictionary to class. Also, please be prepared to take notes. Your success in this class will depend on your note taking skills.

担当者の研究室等
7号館3階 フーバー研究室

備考
毎回の授業の事前・事後学習総時間は60時間程度とする。テスト等に関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスケジュールアワーにて対応する。

科目名	英語構造論	科目名(英文)	English Syntax
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	なぜこの表現を使うのか、他の表現ではいけないのか、他にどんな表現が使えるのか(どのような違いがあるのか)等、英語(の構造)についての素朴な疑問を大事にしながら、英語の構造を主にコミュニケーション(情報や伝達機能)の視点から考察する。
到達目標	英語の基礎知識や教養に加え、英語(構造)に関わる諸問題について理解を深めたい。特に、コミュニケーションとの関わりの中で英語の構造を理解できるようになることを目指す。同時に日本語との比較を行うことで、英語の構造について深い考察を試みる。
授業方法と留意点	・基本的にはプリントを配布し、講義形式で進めるが、ペアワークやグループでの討議の時間も設ける。 ・本講義は受講生として言語(とりわけ構造や意味)に興味がある学生を想定している。「英語学概論(英語学Ⅰ)」や「英語意味論・語用論(英語学Ⅱ)」を履修済みであることが望ましい。
科目学習の効果(資格)	・言語の構造・意味の理解 ・3年次以降のゼミ、教職や大学院進学

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	機能(言語学)的アプローチ	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
3	言い換え表現(本当に言い換え可能か?)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
4	トピック(とコメント)・主題(と題述)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
5	旧情報と新情報(there構文など)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
6	焦点と強調(倒置表現など)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
7	照応と代用(代名詞など)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
8	中間のまとめ(テストなど)	中間の総括を行い、理解をより一層深める。	プリントの復習と次回の予習
9	認知(言語学)的アプローチ	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
10	類似性(恣意性の有無)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
11	類義語①(英語)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
12	類義語②(日本語との比較)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
13	文法化と意味変化①(英語)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
14	文法化と意味変化②(日本語との比較)	テーマについて理解を深め、グループで議論を行う。	プリントの復習と次回の予習
15	まとめ	これまで扱ったトピックについて総括し、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目 英語学概論(英語学Ⅰ)、英語意味論・語用論(英語学Ⅱ)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等(100%)

学生へのメッセージ 講義テーマの性質上、難解に思えるものを扱いますが、言語の構造について深く考えていきましょう。

担当者の研究室等 7号館5階 鈴木研究室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、議論や小テストの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチュードントアワーにて対応する。

科目名	映像中国語 a	科目名 (英文)	Film Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	映像と音声を通じて、中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク、タッチパネルディスプレイなどを利用して、発音のチェックや他の学生との情報共有、シャドーイングなどの活動を行う。この課程は1年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので、それらで学んだ事項を定着させることができる。
到達目標	中国語の音声を正確に判別し、既習の語彙やフレーズについて正しく発音したり漢字やピンインでディクテーションができることを目指す。中国語検定4級リスニング試験の形式やレベルの問題にも取り組み、同級合格レベルへの到達を具体的な目標とする。
授業方法と留意点	1. 必修の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し、しっかりと理解できるようにする。 2. さらにそれらを聞き取り理解できるようにさまざまな訓練を行う。とくに1年次では発音の基礎と基本語彙の練習・運用に重点を置き、確実に聞き取れるように訓練する。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	中国語聞き取り能力が向上し、前期終了時には中国語検定試験准4級の受験が可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	中国語知識 (1)	地理・民族・人口	中国語を学ぶのに必要な中国に関する高等学校程度の知識を確認する。
	2	第1課	四声と基本的な母音、子音 四択練習問題四声と基本的な母音、子音 四択練習問題	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	3	第2課	鼻母音と発音しにくい子音。 四択練習問題	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	4	第3課	声調パタンの反復練習。 練習問題	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	5	第4課	「是」構文 名前の言い方に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	6	第5課	数量に関する表現と「有」構文に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	7	第6課	動詞述語文と職業に関する表現の置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	8	第7課	形容詞述語文と比較表現を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	9	第8課	前置詞と方位詞を使った表現の置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	10	第9課	「了」と結果補語を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	11	第10課	「了」と結果補語を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	12	第11課	動作の進行、完了の表現に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	13	第12課	「就」「才」を使った文および「在」のいくつかの用法。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	14	第13課	程度補語の使い方。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	15	第14課	復習	

関連科目	必修中国語科目 (週4コマ) を必ず履修していること。
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	選択科目なので、目的意識をしっかりと持って授業に臨んでほしい。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階(中西研究室)
----------	--------------

備考	教科書は中国語必修科目用のものと共通。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	--

科目名	映像中国語 b	科目名 (英文)	Film Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	映像と音声を通じて、中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク、タッチパネルディスプレイなどを利用して、発音のチェックや他の学生との情報共有、シャドーイングなどの活動を行う。この課程は1年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので、それらで学んだ事項を定着させることができる。
到達目標	11月下旬の中国語検定4級試験受験までに、そのリスニング試験問題で6割以上の正答率を達成することを目標とする。12月以降は4級試験の長文読解問題レベルの文章を教材として、これを正しくディクテーションしたりシャドーイングすることを目指す。
授業方法と留意点	1. 必修の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し、しっかりと理解できるようにする。 2. さらにそれら聞き取り理解できるようさまざまな訓練を行う。とくに1年次では発音の基礎と基本語彙の練習・運用に重点を置き、確実に聞き取れるように訓練する。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	中国語聞き取り能力が向上し、11月に実施される中国語検定試験4級に合格することを可能とする。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	時をかける少女(1/12) 検定4級レベルリスニング問題	機器とソフトウェアの操作および授業進行についての説明。
2		時をかける少女(2/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
3		時をかける少女(3/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
4		時をかける少女(4/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
5		時をかける少女(5/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
6		時をかける少女(6/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
7		時をかける少女(7/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
8		時をかける少女(8/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
9		時をかける少女(9/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
10		時をかける少女(10/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
11		時をかける少女(11, 12/12)	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
12		サマーウォーズ(1/4) CALLシステムを利用したタイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
13		サマーウォーズ(2/4) CALLシステムを利用したタイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。

	14	サマーウォーズ(3/4) CALL システムを利用したタイピング訓練	る。 映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。																
	15	サマーウォーズ(4/4) 中国語検定 3 級模擬テスト	最新の試験問題を解きながら、6 月に受験する検定への対策を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。																
関連科目	必修中国語科目（週 4 コマ）を必ず履修していること。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中国語 I a</td> <td>摂南大学外国語学部</td> <td>摂南大学外国語学部</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%																			
学生への メッセージ	選択科目なので、目的意識をしっかりと持って授業に臨んでほしい。事前・事後に各 60 分の学修を要する。																			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階(中西研究室)																			
備考	教科書は中国語必修科目用のものと共通。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。																			

科目名	英米文学史	科目名(英文)	History of English and American Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 英語で書かれた、主に英米の作家による文学作品の歴史を学ぶ。 人々が伝えてきた「物語」に反映された、時代と共に変わること、反対に時がたっても変わらないこと、を読みとる。 授業とは別に各自が選んだ作品を読み、個別の作品として味わいつつ、歴史の中でどのような存在であるのかも考える。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語で書かれた文学作品を、原文または翻訳で読む。 個々の作品を、それが書かれた歴史と文化の観点からも理解する。 読んでよかったと思う作品を、まだ読んでいない人が読みたくなるように、紹介できるようになる。
授業方法と留意点	講義と演習
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> 物語を読む楽しみが深くなる。 身の回りや社会で起きている出来事を、俯瞰的に見る視点を持つ。 言葉の使い方方に注意を払うようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 古英語から中世の物語： 英雄の伝説	授業の進め方、目的、評価方法についての説明 『ベオウルフ』 『アーサー王の死』 抜粋を読み、背景を学び、討論する。 分析結果を書く。	復習 ブック レポート準備
2	中英語の物語と「英語訳」の 発達： 普通の人々のエネルギー	『カンタベリー物語』 『欽定訳聖書』 抜粋を読み、背景を学び、討論する。分 析結果を書く。	復習 ブック レポート準備
3	印刷技術と英語の爆発的拡 大	シェイクスピアの劇作品と、後世の翻案 作品① 『ハムレット』 『ローゼンクランツとギルデンスター ンは死んだ』 ほか 抜粋を読み、グループで声で演じてみ る。	復習 ブック レポート準備
4	現代に続く英語の文学作品	シェイクスピアの劇作品と、後世の翻案 作品② 『ロミオとジュリエット』 『ウェストサイド物語』 ほか 抜粋を読み、背景を学び、討論する。分 析結果を書く。	復習 ブック レポート準備
5	詩①	『妖精の女王』 『失楽園』 ソネット ほか 抜粋を読み、グループで訳し、朗読し てみる。	復習 ブック レポート準備
6	海・旅と人間	『ロビンソン・クルーソー』 『ガリバー旅行記』 『白鯨』 『闇の奥』 ランサム・サーガ ほか 抜粋を読み、背景を学び、討論する。分 析結果を書く。	復習 ブック レポート準備
7	感情： 時代が変わっても、変わらな いもの	『嵐が丘』 『高慢と偏見』 『ウィンダムミア夫人の扇』 『フランケンシュタイン』 ほか 抜粋を読み、グループで声で演じてみ る。	復習 ブック レポート準備
8	新聞・雑誌連載と文学： 読者のフィードバックと作 品執筆	チャールズ・ディケンズ アーサー・コナン・ドイル ほか 抜粋を読み、背景を学び、討論する。分 析結果を書く。	復習 ブック レポート準備
9	ファンタジー	『ロード・オブ・ザ・リングズ』 『ナルニア国物語』 『黄金の羅針盤』 ほか 抜粋を読み、主人公を比較する	復習 ブック レポート準備
10	子どもの視点から描かれた 社会	『メアリー・ポピンズ』 『大草原の小さな家』	復習

		『トム・ソーヤーの冒険』 ほか 抜粋を読み、背景を学び、討論する。分析結果を書く。	ブック レポート準備																
11	詩②： 物語を歌う	文学として読む歌詞 抜粋を音読し、自分たちで別バージョンを作詞してみる	復習 ブック レポート準備																
12	文学作品の「評価」： ベストセラーと文学賞	レイモンド・チャンドラー アガサ・クリスティー 抜粋を読み、背景を学び、討論する。分析結果を書く。	復習 ブック レポート準備																
13	未来を描く： 現実より文学が先行した「タイム・トラベル」「ロボット3原則」「生命倫理」	『タイム・マシーン』 『I, Robot』 『私を離さないで』 ほか 現代社会で問題になっている事柄と結びつけて論じる。	復習 「語り伝え」練習																
14	自分が選んだ英米文学作品のどれかを、「語り伝え」してみよう	語り手として、物語を伝える 学期中に読んだ課題作品リストの中から、自分が読んだ作品を「話して」聴かせる。	ブック レポート準備																
15	「英米」文学から「世界」文学へ まとめ	英語で発表された最近の文学作品	総復習																
関連科目	他の英語科目、英米文学、アメリカ文化論 ほか																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業中の発表 30% レポート 30% 筆記試験 40%																		
学生への メッセージ	物語は読んだ人の無形財産になります。 1人でいくつでも持てます。 税金はかかりません。 10代のとき、20代のとき、もっともつと後になってから、読むときの自分の成長に合わせて、見える世界が変わります。 悲しいときには支えとなり、 途方にくれたときにはきっかけをくれ、 大失敗したあなたを見捨てることなく、 成功して鼻高々のあなたに「囧に乗るな」と知らせてくれ、 あなた自身が dark side に落ちる前に、悪の途に落ちたらどうなるかを教えてくれます。 行ったことのない国のずっと昔の人も同じことを考えてたんだと教えてくれます。 あなたが目を見れば夜空の星のように、たくさんの物語が輝いています。																		
担当者の 研究室等	7号館4階 齋藤研究室																		
備考	事前事後学習の総時間を60時間程度以上とする。																		

科目名	英米文学	科目名(英文)	English and American Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	多様な文学作品を通して、英米の文学・文化について理解を深めることを目標とする。また、文学作品を英語で読んだり、日本語に翻訳したりすることで、さまざまな英語表現を学んで使えるようになることを目指す。
到達目標	古典・文学賞・翻訳の観点から、英語で書かれた代表的な文学作品への理解を深める。
授業方法と留意点	授業中に原文を読むことがある。必ず辞書を持参すること。 授業では資料を配布するので、配布資料を自己管理し、前回分を持参すること。
科目学習の効果(資格)	教職課程科目。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題

1	授業オリエンテーション・英米小説の歩き方	授業方法・成績評価の説明	_____
2	アメリカ古典文学(1) —— ナサニエル・ホーソーン	Nathaniel Hawthorne, "Rappaccinni's Daughter" (1844) Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter (1850) Nathaniel Hawthorne, The Blithedale Romance (1852)	配布資料の復習
3	アメリカ古典文学(2) —— ハーマン・メルヴィル	Herman Melville, Moby Dick (1851) Herman Melville, "Bartleby the Scrivener" (1853) Herman Melville, Billy Budd, Sailor (1891)	配布資料の復習
4	アメリカ古典文学(3) —— エドガー・アラン・ポー	Edgar Allan Poe, "The Murders in the Rue Morgue" (1841) Edgar Allan Poe, "The Black Cat" (1843) Edgar Allan Poe, "The Raven" (1845)	配布資料の復習
5	アメリカ古典文学を読むイギリス人——D.H. ロレンス	D.H. Lawrence, Studies in Classic American Literature (1923)	配布資料の復習
6	講読(1)	Nathaniel Hawthorne, "Wakefield" (1835)を読む。	配布資料の復習
7	英米の文学賞(1) —— ブッカー賞	Salman Rushdie, Midnight's Children (1981) J. M. Coetzee, Disgrace (1999) Yann Martel, Life of Pi (2001)	配布資料の復習
8	英米の文学賞(2) ——ピューリッツァー賞	Ernest Hemingway, The Old Man and the Sea (1951) Art Spiegelman, Maus (1991) Cormac McCarthy, The Road (2006)	配布資料の復習
9	英米の文学賞(3) —— ノーベル賞	Toni Morrison, Beloved (1988) Bob Dylan Kazuo Ishiguro, Never Let Me Go (2005)	配布資料の復習
10	講読(2)	Kazuo Ishiguro, "Nocturne" in Nocturnes: Five Stories of Music and Nightfall (2009)を読む。	配布資料の復習
11	英米文学の翻訳(1) —— 日本の英文学	「英語青年」 齋藤一『帝国日本の英文学』(2006年) 亀井俊介『英文学者 夏目漱石』(2011年)	配布資料の復習
12	英米文学の翻訳(2) —— 柴田元幸	柴田元幸『翻訳教室』(2013年) 柴田元幸『代表質問』(2013年) 柴田元幸・高橋源一郎『小説の読み方、書き方、訳し方』(2013年)	配布資料の復習
13	英米文学の翻訳(3) —— 村上春樹	村上春樹『やがて哀しき外国語』(1997年) 柴田元幸・村上春樹『翻訳夜話 2 サリンジャー戦記』(2003年) 村上春樹『村上春樹 翻訳(ほとんど)全仕事』(2017年)	配布資料の復習
14	講読(3)	F.S. Fitzgerald, The Great Gatsby (1925)を翻訳する。	配布資料の復習
15	全体のまとめ	全体のまとめ	配布資料の復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	レポート 60% 定期試験 40%		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	天野研究室 (7号館3階)		
備考	配布資料の読み込みなどにかかる事前事後学習の総時間を60時間程度とする。		

科目名	エコツーリズム論	科目名(英文)	Ecotourism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<p>エコツーリズムとは、地域の自然や文化、歴史などの魅力を活かしながら、それらの資源の持続的な利用を前提とする観光の形であり、今後の観光を考えていく上で重要な概念です。本講義では、エコツーリズムの背景や理念を学ぶとともに、国内外の様々な事例を通じて、エコツーリズムの現状と課題、今後の展望について考えます。</p> <p>本授業では、自らエコツーリズムを企画するなど、能動的に授業に取り組むことを求めます。そして、受講者が持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来るようになることを期待します。</p> <p>なお、この科目は「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目です。</p>
到達目標	<p>1. エコツーリズムについて理解し、説明できる</p> <p>2. 持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来る</p>
授業方法と留意点	投影資料の利用とプリントの配布による講義形式を中心とするが、エコツーリズムを企画するためのグループワーク、資料収集等の個人作業、プレゼンテーションなどを多く取り入れる。
科目学習の効果(資格)	旅行業務取扱管理者等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
2	マスツーリズムとエコツーリズム1	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
3	マスツーリズムとエコツーリズム2	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
4	マスツーリズムとエコツーリズム3	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
5	地域の自然とエコツーリズム1	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
6	地域の自然とエコツーリズム2	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
7	地域の自然とエコツーリズム3	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
8	エコツーリズムのさまざまな展開1	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
9	エコツーリズムのさまざまな展開2	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める
10	エコツーリズムのさまざまな展開3	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める
11	エコツーリズムのさまざまな展開4	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める
12	エコツーリズムを企画する1	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う
13	エコツーリズムを企画する2	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う
14	エコツーリズムを企画する3	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う
15	総括・企画の発表	企画案を発表し、ディスカッションを行う	エコツーリズム企画の発表について準備を行うとともに、ディスカッションをふまえて内容を修正する

関連科目 観光ホスピタリティプログラム関連科目(ホスピタリティ論、アーバンツーリズム論等)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 授業への取り組み(リアクションペーパーの内容、受講態度、プレゼンテーションの内容、議論やグループワークへの参加状況等)(60%)とレポート(40%)で評価します。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7号館5階(手代木研究室)

備考 事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。

科目名	エリアスタディーズ (アフリカ)	科目名 (英文)	Area Studies (Africa)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	早川 真悠
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<p>アフリカについてまったく何も知らないという人はいないと思います。みなさんはそれぞれに、アフリカにかんして何らかのイメージや知識もっています。それでは、アフリカにかんするそのイメージや知識は、いったいどこで得たものでしょうか。自分自身の経験から、あるいは能動的に自分で調べてアフリカについて何か知っているという人は、少ないのではないのでしょうか。</p> <p>本講義では、アフリカにかんするさまざまなトピック (政治、経済、文化、現代的問題) について、アフリカの人たちがじっさいに現地での暮らしをしているのか、どんな問題に直面しているのか、具体的に紹介しながら学んでいきます。一般にわたしたちがよく知っているアフリカ (たとえば紛争や貧困、開発支援など) の問題を、より具体的に、現地の人たちの視点から見ていくと、わたしたちのあまり知らないアフリカ (伝統の変化、紛争の現実、仕事の仕方、助け合いの方法など) について、理解することができます。</p> <p>この講義では、アフリカの外からアフリカの問題を考えるのではなく、アフリカの中からアフリカの問題や世界の問題を考えることを目指します。</p>
---------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分が知っているアフリカのイメージや知識について理解する。 アフリカの人びとのじっさいの生活や現地の実態について理解する。 以上を踏まえたうえで、「アフリカとは何なのか」について考え、自分なりの答えを出す。 「アフリカから世界を見ると、どのような問題が見えてくるのか」考え、自分なりの答えを出す。
------	---

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には講義形式ですが、とくに受講者が少人数の場合は、ディスカッションやグループ・ワークを中心に進めます。 受講者に発表などの課題を課すことがあります。 授業前・授業後に、学習課題を課すことがあります。 履修者の人数、関心、理解度などに応じて、シラバスの内容を一部修正する場合があります。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	今後の授業内容の概要 履修者の興味関心の確認 講師の紹介	【事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
2	アフリカのイメージ (1)	身の周りにおけるアフリカの情報 (ニュース、文化、モノなど) を紹介しながら、アフリカに対するイメージ、自分との距離などを考える。	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
3	アフリカのイメージ (2)	身の周りにおけるアフリカの情報 (ニュース、文化、モノなど) を紹介しながら、アフリカに対するイメージ、自分との距離などを考える。	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
4	「自然」 (1)	アフリカにおける自然保護と地域住民について	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
5	「自然」 (2)	アフリカにおける自然保護と地域住民について	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
6	「文化」 (1)	アフリカの民族と伝統について	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
7	「文化」 (2)	アフリカの民族と伝統について	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
8	「経済」 (1)	アフリカの貧困とお金について	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
9	「経済」 (2)	アフリカの貧困とお金について	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
10	政治 (1)	アフリカの紛争・難民	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
11	政治 (2)	アフリカの紛争・難民	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
12	「開発と経済発展」 (1)	アフリカの開発問題	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
13	「開発と経済発展」 (2)	アフリカの開発問題	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
14	総合ディスカッション	これまでの講義をふまえて受講者でディスカッションをおこなう。	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。
15	まとめと学習の到達度を測る試験	これまでの講義のふりかえりとまとめをしたうえで、筆記試験を実施する	【事前・事後】学習課題を課す場合があります。授業中に指示します。

関連科目	
------	--

教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アフリカ社会を学ぶ人のために</td> <td>松田素二 編</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文化人類学を学ぶ人のために</td> <td>米山俊直・谷泰編</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>アフリカの都市的世界</td> <td>嶋田義仁・松田素二・和崎春日</td> <td>世界思想社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	アフリカ社会を学ぶ人のために	松田素二 編	世界思想社	2	文化人類学を学ぶ人のために	米山俊直・谷泰編	世界思想社	3	アフリカの都市的世界	嶋田義仁・松田素二・和崎春日	世界思想社
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	アフリカ社会を学ぶ人のために	松田素二 編	世界思想社														
2	文化人類学を学ぶ人のために	米山俊直・谷泰編	世界思想社														
3	アフリカの都市的世界	嶋田義仁・松田素二・和崎春日	世界思想社														

評価方法 (基準)	<p>①平常点 (授業でのディスカッションやグループワークへの積極的な参加、事前・事後学習の成果など。出席回数も参考にします。)・・・50%</p> <p>②学習の到達度を測る試験 (授業最終回に実施) の得点・・・50%</p>
-----------	---

学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	参考文献は適宜授業中に紹介します。 授業時間外に質問等をする場合は、授業時間の前後に7号館2階（非常勤講師室）に来てください。

科目名	エリアスタディーズ (オセアニア)	科目名 (英文)	Area Studies (Oceania)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	オセアニア地域の中でも、特にオーストラリアとニュージーランドについて、その歴史、文化、生活習慣、教育事情、先住民、マイノリティ政策、多文化主義、移民政策など様々な観点から理解を深めることを目的とする
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> オセアニアという地域の特徴を把握できる オーストラリア、ニュージーランドについて幅広い知識を得る
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> この授業ではグループ活動 (授業内容の下調べ、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション) への積極的な参加が求められます 自分の興味のある内容についてプロジェクトを企画し、その内容についての発表とレポート作成が求められます
科目学習の効果 (資格)	より発展的なオセアニア地域の研究につながる

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明	次回の授業内容についての下調べ
	2	オセアニアという地域	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
	3	オセアニアの歴史と今	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
	4	オセアニアの歴史と今	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
	5	オーストラリア、ニュージーランドの文化、生活習慣	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
	6	オーストラリア、ニュージーランドの文化、生活習慣	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
	7	オーストラリア英語とニュージーランド英語	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
	8	オーストラリア、ニュージーランドの教育事情	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
	9	オーストラリア、ニュージーランドの教育事情	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
	10	オーストラリア、ニュージーランドの先住民について	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
	11	オーストラリア、ニュージーランドのマイノリティ政策	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
	12	オーストラリア、ニュージーランドの多文化主義、移民政策について	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
	13	オーストラリア、ニュージーランドの多文化主義、移民政策について	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
	14	オセアニアと日本との係わり	講義、グループ活動	次回の授業内容についての下調べ
	15	プロジェクト発表会	グループ活動	レポートの準備

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) グループ活動 (授業内容の下調べ、プレゼンテーション) : 20%、グループ・プロジェクトの発表 : 30%、レポート : 50%

学生へのメッセージ オセアニア、特に、オーストラリアとニュージーランドの魅力について、いっしょに学びましょう！きっと新しい発見がたくさんありますよ！

担当者の研究室等 7号館5階 杉浦研究室

備考

科目名	エリアスタディーズ (北アメリカ)	科目名 (英文)	Area Studies (North America)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大原 関 一浩
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	アメリカの歴史はヨーロッパ人が入植してから400年ほどですが、ダイナミックな変化を経験してきました。この授業では、アメリカという国の社会・文化を、歴史、地理、民族、精神、生活、人間関係、日米関係など、さまざまな視点から考察し理解を深めていきます。各回のテーマに沿って、統計・写真・地図などの資料を参照しながら、講義を進めます。講義では、多くの情報を伝えるので、ポイントを自分の言葉でまとめることを心がけ、ノートテイクのスキルを身につけましょう。また、講義の内容を鵜のみにするのではなく、自ら問いかける姿勢を持って授業の課題(宿題、リスボンスペーパー等)にとり組んでください。																																																																		
到達目標	1) アメリカ社会・文化を多角的な視点から理解する。 2) アメリカという国の理念とその実現の試みを批判的に理解する。 3) 日本人としてアメリカ社会・文化を学ぶ意義を説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	各回のテーマに沿って、Power Point スライドを使い、統計・写真・地図などの資料を表示しながら、講義を進めていきます。スライドの文字を書き写すだけでなく、後で見返した時に要点がわかるように、自分の言葉でメモをとることがとても大切です。わからないこと、疑問に感じたことは、そのままにせず、教員に質問して理解すること。そうすれば、テストの出来もよくなります。																																																																		
科目学習の効果(資格)	・アメリカに関する多くの情報のなかから、正しいものを選ぶ力をつける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業内容・方法説明</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>アメリカの歴史1</td><td>植民地時代から独立まで</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>アメリカの歴史2</td><td>領土拡張、奴隷制、南北戦争</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>アメリカの歴史3</td><td>金びか時代から第二次大戦まで</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>アメリカの歴史4</td><td>戦後のアメリカ、現在まで</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>アメリカの地理1</td><td>北部・南部</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>アメリカの地理2</td><td>中西部・西部</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>アメリカの民族1</td><td>ヨーロッパ系</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>アメリカの民族2</td><td>アジア系</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>アメリカの民族3</td><td>ラティノー/ネイティブほか</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>アメリカの精神</td><td>ピューリタニズム、フロンティア精神、個人主義ほか</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>アメリカ人の生活</td><td>衣食住、祝祭</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>人間関係</td><td>子供、家族、LGBT など</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>日米関係</td><td>中浜万次郎から現在まで</td><td>授業内容の復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>確認テストと解説</td><td>前期範囲の復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業内容・方法説明	授業内容の復習	2	アメリカの歴史1	植民地時代から独立まで	授業内容の復習	3	アメリカの歴史2	領土拡張、奴隷制、南北戦争	授業内容の復習	4	アメリカの歴史3	金びか時代から第二次大戦まで	授業内容の復習	5	アメリカの歴史4	戦後のアメリカ、現在まで	授業内容の復習	6	アメリカの地理1	北部・南部	授業内容の復習	7	アメリカの地理2	中西部・西部	授業内容の復習	8	アメリカの民族1	ヨーロッパ系	授業内容の復習	9	アメリカの民族2	アジア系	授業内容の復習	10	アメリカの民族3	ラティノー/ネイティブほか	授業内容の復習	11	アメリカの精神	ピューリタニズム、フロンティア精神、個人主義ほか	授業内容の復習	12	アメリカ人の生活	衣食住、祝祭	授業内容の復習	13	人間関係	子供、家族、LGBT など	授業内容の復習	14	日米関係	中浜万次郎から現在まで	授業内容の復習	15	まとめ	確認テストと解説	前期範囲の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業内容・方法説明	授業内容の復習																																																																
2	アメリカの歴史1	植民地時代から独立まで	授業内容の復習																																																																
3	アメリカの歴史2	領土拡張、奴隷制、南北戦争	授業内容の復習																																																																
4	アメリカの歴史3	金びか時代から第二次大戦まで	授業内容の復習																																																																
5	アメリカの歴史4	戦後のアメリカ、現在まで	授業内容の復習																																																																
6	アメリカの地理1	北部・南部	授業内容の復習																																																																
7	アメリカの地理2	中西部・西部	授業内容の復習																																																																
8	アメリカの民族1	ヨーロッパ系	授業内容の復習																																																																
9	アメリカの民族2	アジア系	授業内容の復習																																																																
10	アメリカの民族3	ラティノー/ネイティブほか	授業内容の復習																																																																
11	アメリカの精神	ピューリタニズム、フロンティア精神、個人主義ほか	授業内容の復習																																																																
12	アメリカ人の生活	衣食住、祝祭	授業内容の復習																																																																
13	人間関係	子供、家族、LGBT など	授業内容の復習																																																																
14	日米関係	中浜万次郎から現在まで	授業内容の復習																																																																
15	まとめ	確認テストと解説	前期範囲の復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点50% (授業中の課題および宿題の正確さと精度を評価) 確認テスト50% (授業内容の理解度を測るテストの成績)																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	大原関研究室 (7号館5階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	エリアスタディーズ (東南アジア)	科目名 (英文)	Area Studies (Southeast Asia)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	森田 良成
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	東南アジア各国の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得し、そのうえで各地域における人びとの生活の多様性と共通性について考える。あわせて、それらの話題と、日本で暮らすわれわれの現在とのつながりについて考える。
到達目標	* 東南アジアについての基礎的な知識を習得する。 * 東南アジアに関する報道に対して、地理的・歴史的な背景を踏まえたうえでの深い考察ができるようになる。
授業方法と留意点	* 講義形式で行う。授業の理解を助けるために映像資料を使用する。参考資料として、東南アジアに関連する映画作品をできるだけ多く紹介する予定。 * 受講者にはペーパーで毎回コメントや質問を求める。重要なものについては、次回授業冒頭で取り上げて解説する。 * 話をただ聞きながらではなく、自分で考えながらノートをとること。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方について説明する。	紹介する資料を参照すること。
2	東南アジアの基礎知識 1	東南アジアの地理的特徴を理解する。	紹介する資料を参照すること。
3	東南アジアの基礎知識 2	ヨーロッパとの接触以降の東南アジアの歴史を理解する。	紹介する資料を参照すること。
4	東南アジアの基礎知識 3	東南アジアの政治的、文化的、経済的特徴を理解する。	紹介する資料を参照すること。
5	インドネシア 1: 国民の想像	スカルノの時代、スハルトの時代	紹介する資料を参照すること。
6	インドネシア 2: 国民の想像	ポストスハルト時代の課題	紹介する資料を参照すること。
7	インドネシア 3: 国民の想像	ポストスハルト時代の課題	紹介する資料を参照すること。
8	マレーシア 1: 国民の統合と近代化	マレーシアの成立	紹介する資料を参照すること。
9	マレーシア 2: 国民の統合と近代化	マレーシアの成立	紹介する資料を参照すること。
10	マレーシア 3: 国民の統合と近代化	ブミプトラ政策の展開とこれから	紹介する資料を参照すること。
11	東ティモール 1: 新しい国家の誕生	新しい国民と新しい国語の創造	紹介する資料を参照すること。
12	東ティモール 2: 新しい国家の誕生	新しい国民と新しい国語の創造	紹介する資料を参照すること。
13	ミャンマー 1: 民政移管後の課題	民政移管とその後の課題	紹介する資料を参照すること。
14	ミャンマー 2: 民政移管後の課題	民政移管とその後の課題	紹介する資料を参照すること。
15	まとめと試験	全体のまとめと試験	紹介する資料を参照すること。

関連科目	東南アジアに関連するすべての講義科目
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	東南アジアを知る事典		平凡社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	* 平常点 40% (授業への参加・貢献度を、コメント・感想などから総合的に判断する) * 試験 60% (授業期間中に行う)
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	* 受講者数によって、評価方法等を変更することがある。 * 質問は原則として授業中に受け付けるほか、適宜非常勤講師室でも対応する。
----	--

科目名	エリアスタディーズ (日本)	科目名 (英文)	Area Studies (Japan)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本講義では日本の文化について理解を深めることを目的とします。取り上げるテーマは「和食」「名前」といった身近なものです。また「宗教」も取り上げます。宗教は一見、距離がありそうに思えますが、私たちの日常生活や年中行事の至る所に見られます。本講義を通して日本の文化に対する理解を深め世界の国々と比較するさいに役立ててください。
到達目標	日本の歴史や文化の特質を理解し、他の国々との違いを比較しながら、自らの言葉で解説できる能力を習得できます。
授業方法と留意点	基本的に板書で講義を進めますが、プリント・スライドなどの資料も使用します。
科目学習の効果 (資格)	異文化コミュニケーションの場では自分の国の文化を披露することがあるでしょう。そのさい、日本の文化の特徴について伝えることができます。また、他の国の文化に触れるときにも深く理解することができるでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の目的や進め方について説明します。歴史学とはどのような学問か解説します。	復習
2	和食の歴史 (1)	和食に対するイメージや考えをみなが考え、整理します。	復習
3	和食の歴史 (2)	和食の歴史のうち、神饌と直会など古代日本の食について考えます。	復習
4	和食の歴史 (3)	中世以降の精進料理、本膳料理が和食の成立に与えた影響について考えます。	復習
5	和食の歴史 (4)	現代における和食の実態や問題点について考えます。	復習
6	名前の歴史と文化 (1)	日本における姓名の歴史について考えます。	復習
7	名前の歴史と文化 (2)	日本における家族の歴史と文化について考えます。	復習
8	名前の歴史と文化 (3)	日本における共同体と家について考えます。	復習
9	映画『もののけ姫』にみる日本文化 (1)	エミシの世界 「日本」の枠組みについて考えます。	復習
10	映画『もののけ姫』にみる日本文化 (2)	ヤマトの世界 モデルとなった室町時代の村、町場、戦争などについて考えます。	復習
11	映画『もののけ姫』にみる日本文化 (3)	タタラ場の世界 タタラ製鉄や石火矢について考えます。	復習
12	映画『もののけ姫』にみる日本文化 (4)	シンガミの世界 日本の地理的環境や日本人の信仰について考えます。	復習
13	映画『もののけ姫』にみる日本文化 (5)	『もののけ姫』世界の構成 4つの世界の関係について考えます。	復習
14	映画『もののけ姫』にみる日本文化 (6)	『もののけ姫』とは何か？ この映画を通じてどのような事を語れるのか、講義参加者がそれぞれ考えます。	復習
15	まとめ	論述試験を行います (持ち込み可) 講義の総括を行う	今までのノートをまとめておく

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	講義最終日に行う論述試験 (持ち込み可)、講義中に課す小レポート、小テストなどによって評価します。論述試験を80%、課題などを20%とする。
学生へのメッセージ	本講義で日本の文化や歴史がすべてわかるわけではありません。講義を通じて興味を持ったことがありましたら、Webや図書などで積極的に調べるとよいでしょう。
担当者の研究室等	7号館4階 (赤澤研究室)
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。

科目名	エリアスタディーズ (東アジア)	科目名 (英文)	Area Studies (East Asia)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子・田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	中国と韓国の社会と文化の概要を学び、東アジア地域への理解を深める。
到達目標	中国と韓国を中心とした東アジアの歴史・文化の概要を理解する。
授業方法と留意点	第1～9回は中国、第11～15回は韓国を対象とします。講義形式を中心とし、レジュメ・資料を適宜配布します。また、映像資料も用います。
科目学習の効果 (資格)	日本を含む東アジア地域に対する理解が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	中国の歴史 (小都)	中華思想	配布資料の予習・復習 (事前および事後)
3	中国の文化 (小都)	中国の人と暮らし	配布資料の予習・復習 (事前および事後)
4	中国の政治・経済 (小都)	社会主義、政治体制	配布資料の予習・復習 (事前および事後)
5	中国の社会 (小都)	現代中国の諸相	配布資料の予習・復習 (事前および事後)
6	香港・マカオ (小都)	中国への返還と「一国二制度」	配布資料の予習・復習 (事前および事後)
7	台湾 (小都)	日本の植民地統治と戦後の中台関係	配布資料の予習・復習 (事前および事後)
8	華僑・華人 (小都)	華僑・華人の歴史と現在	配布資料の予習・復習 (事前および事後)
9	授業の中間まとめと確認テスト (小都)	これまでの内容の総括と確認テスト	これまでの内容を復習して、確認テストに備える。(事前)
10	韓国新聞についての基礎知識 (田中)	韓国マスメディアの日本語版サイトを紹介し、実際にアクセスしてみる。	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事後)
11	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会 (1) (田中)	記事の論説と解説：社説・論説コラム	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)
12	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会 (2) (田中)	記事の論説と解説：政治経済分野・国際関係	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)
13	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会 (3) (田中)	記事の論説と解説：社会問題	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)
14	韓国社会を読み解くための補助線 (1) (田中)	映像作品の鑑賞と解説	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)
15	韓国社会を読み解くための補助線 (2) (田中)	映像作品の鑑賞と解説	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)
 第1～9回 (60%)、第10～15回 (40%)を合算して評価します。
 第1～9回については、授業内に実施する課題および確認テストによって評価します。
 第10～15回については、授業内で指示する課題への取り組み (提出状況および内容)に基づいて評価します。

学生へのメッセージ
 東アジアに関する基礎的な知識を身につけ、自分が暮らす世界への理解を広げてください。

担当者の研究室等
 小都研究室 (7号館3階)・田中研究室 (7号館4階)

備考
 授業の進行スケジュールについては、出席者の状況に応じて調整する可能性があります。

科目名	エリアスタディーズ (ヨーロッパ)	科目名 (英文)	Area Studies (Europe)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	20世紀末以来、ヨーロッパは、EUを中心に経済のみならず政治や文化の面でも結びつきを強化してきた。「国民国家の枠をこえ、一つのヨーロッパをつくる」というその目標は達成されたかに見えるが、移民や難民の流入とこれに対する排斥運動、域内の経済格差や失業問題、地域ナショナリズムの高揚など、ヨーロッパ諸国が抱える問題はいずれも深刻なものである。国境をこえ「ヨーロッパ」の再生・創造をめざすEUがわれわれに投げかける問題を、多文化、多民族の共生という観点から考える。
到達目標	EU (European Union)の歩みに関する基本的知識を習得し、現代の「ヨーロッパ」が抱えている問題の本質を理解する。
授業方法と留意点	パワーポイントをもちいて授業をすすめる。
科目学習の効果 (資格)	EUの拡大と深化が社会に与えた影響を考察することで、現代の「ヨーロッパ」に対する多面的な理解が可能になる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	EUのあゆみ	・EU誕生までの歴史 ・イギリスのEU離脱がもたらした波紋	第二次世界大戦の終了からEU誕生までの歴史を年表化する。
3	EUの成り立ち	・従来の超国家連合との違い ・欧州議会が抱える問題	EUの行政機構とその役割について調べてくる。
4	EUに入らない国・入れない国	・永世中立国スイスとEU ・トルコの加盟問題 ～非ヨーロッパ世界との防波堤～	トルコの加盟問題を、トルコ側、EU側双方から考察する。
5	「ヨーロッパの創造」	・欧州市民権の付与 ・国境をこえるヒト・モノ・カネ	欧州市民権の付与をめぐる問題を授業の内容に即してまとめる。
6	欧州共通教科書をめぐる問題	共通の「神話」? 「記憶」? ～「ヨーロッパ人」はいかにして創られるか～	EU加盟国間で歴史解釈が異なる例の一つ挙げ、「欧州共通教科書」がそれにどう対処したのかじつさいの記述をもとにまとめる。
7	「国境なきヨーロッパ」の虚実	制度上の壁 ～国籍取得と選挙権の付与～	国籍取得法を大きく二つに分類し、それぞれの特性を整理する。
8	「一つのヨーロッパ」が抱える問題	・排外主義の台頭 ～極右勢力とEU～ ・中間テストの実施	・これまでの授業内容をふりかえる。 ・極右勢力の台頭に注目しながら、EU加盟国の政治状況を調べてくる。
9	新たな衝突 ～定住移民をめぐる問題①～	・「外国人労働者」という名の定住移民 ～ドイツにおけるトルコ人移民問題～ ・中間テストの解説	EU加盟国が抱える移民問題の全体像を調べてくる。
10	新たな衝突 ～定住移民をめぐる問題②～	フランスにおける移民問題 ～移民2世の社会統合をめぐる～	フランスにおける移民問題の特徴（他の国と違う点）についてまとめる。
11	映画『憎しみ』にみる移民問題	移民社会と暴力	映画の解釈をレポートとしてまとめる。
12	EUと「地域」 ～国家の周辺地域からEUの中心地域へ～	・アルザスの可能性 ・スコットランド独立の「失敗」	スコットランド独立騒動の経緯について調べ、「独立失敗」の原因について考えてくる。
13	国境をこえるさまざまな試み	・EUと脱ナショナル化 ・留学と言語教育の可能性	EUの言語教育、留学制度について調べてくる。
14	ボーダレス社会の到来	広域経済圏・多国籍企業・NGO	国を越えた経済的、政治的、文化的パートナーシップのありかたについて自分の考えをまとめる。
15	まとめ	小テストの実施と解説	これまでの授業内容を復習しておく。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	第15回目に実施する小テスト (80%)、中間テスト (10%)、提出物 (10%)の結果を総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	歴史学とは過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 林田研究室
----------	-------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。 中間テストに関するフィードバックは第9回目、小テストに関するフィードバックは第15回目のなかで実施する。
----	--

科目名	エリアスタディーズ (ラテンアメリカ)	科目名 (英文)	Area Studies (Latin America)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<p>ラテンアメリカは、古来先住民の文化的伝統を有しながらも、15世紀末以降のヨーロッパによる征服と植民地支配を3世紀以上にわたって経験した地域です。その後19世紀初頭にアジアやアフリカ諸国に比べて150年ほど早く植民地支配からの独立を遂げました。この地域がたどった歴史的独自性を知るだけでなく、隣接する北米のアングロアメリカとの歴史的關係と今後の共存のゆくえや日本とのより深い關係構築について展望できるようになることをめざします。同時に、6つのサブ・リージョンに分け、視聴覚教材を適宜用いることで具体像を持てるよう、各回の授業テーマの中に織り込みます。</p> <p>地理的に日本からは遠隔地に位置していますが、ラテンアメリカ諸国と日本との關係はますます緊密化しています。親日的な国々と人々のことを知ることで世界観を広げてください。ラテンアメリカで最も広く使われている言語はスペイン語です。</p>																																																																		
到達目標	<p>広大なラテンアメリカという地域は、北米大陸から南米大陸にかけて、カリブ海地域を含めた33ヶ国から構成されています。この地域を多角的な視野から学際的かつ総合的に学ぶことで、異文化理解を深める一助となります。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>教材は授業で配布します。 毎回、質問票を提出してもらい、次の授業で解説を行います。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>日本ではあまり知られていないラテンアメリカという地域の持つ固有の文化に親しむことで、グローバル社会の中で複眼的思考のできる視点を養う。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ラテンアメリカの地理 (1)</td> <td>地域名称の由来 域内諸国の名称と位置の学習</td> <td>地域を構成する33ヶ国・13非独立領を地図上で確認する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ラテンアメリカの地理 (2)</td> <td>地域の歴史的概要 産業と特産品</td> <td>基礎統計資料一覧を読み解く ラテンアメリカ原産作物と資源について調べる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ラテンアメリカの地理 (3)</td> <td>世界文化遺産を通して見る多民族・多文化社会</td> <td>ラテンアメリカの世界遺産について調べる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ラテンアメリカの歴史 (1)</td> <td>先住民古代文明</td> <td>マヤ、アステカ、インカ文明のいずれかについて調べる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ラテンアメリカの歴史 (2)</td> <td>征服と植民地支配</td> <td>前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ラテンアメリカの歴史 (3)</td> <td>独立とその後の近代化と従属化</td> <td>前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ラテンアメリカの歴史 (4)</td> <td>20世紀の革命と民主化過程</td> <td>前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ラテンアメリカの文化 (1)</td> <td>美術・音楽</td> <td>前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ラテンアメリカの文化 (2)</td> <td>文学・映画</td> <td>前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ラテンアメリカの文化 (3)</td> <td>食文化</td> <td>前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ラテンアメリカの社会</td> <td>階層社会の構造、民族文化と国民社会</td> <td>前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ラテンアメリカの政治経済</td> <td>政治体制の変遷 ラテンアメリカ経済の歴史的変容、現状と課題、地域統合</td> <td>前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>現代世界の中のラテンアメリカ</td> <td>国際政治・経済の中のラテンアメリカの位置づけ ラテンアメリカ域内の地域統合と対米關係</td> <td>前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ラテンアメリカと日本の關係</td> <td>移住と日系社会、政治・外交關係におけるラテンアメリカと日本</td> <td>前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括</td> <td>理解度確認テストの後、アメリカ合衆国への移民および「ラティーノス」がもたらす影響についての解説</td> <td>広く西半球 (米州) の相互關係に対して目を向ける。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ラテンアメリカの地理 (1)	地域名称の由来 域内諸国の名称と位置の学習	地域を構成する33ヶ国・13非独立領を地図上で確認する	2	ラテンアメリカの地理 (2)	地域の歴史的概要 産業と特産品	基礎統計資料一覧を読み解く ラテンアメリカ原産作物と資源について調べる	3	ラテンアメリカの地理 (3)	世界文化遺産を通して見る多民族・多文化社会	ラテンアメリカの世界遺産について調べる	4	ラテンアメリカの歴史 (1)	先住民古代文明	マヤ、アステカ、インカ文明のいずれかについて調べる	5	ラテンアメリカの歴史 (2)	征服と植民地支配	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。	6	ラテンアメリカの歴史 (3)	独立とその後の近代化と従属化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。	7	ラテンアメリカの歴史 (4)	20世紀の革命と民主化過程	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。	8	ラテンアメリカの文化 (1)	美術・音楽	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。	9	ラテンアメリカの文化 (2)	文学・映画	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。	10	ラテンアメリカの文化 (3)	食文化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。	11	ラテンアメリカの社会	階層社会の構造、民族文化と国民社会	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。	12	ラテンアメリカの政治経済	政治体制の変遷 ラテンアメリカ経済の歴史的変容、現状と課題、地域統合	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。	13	現代世界の中のラテンアメリカ	国際政治・経済の中のラテンアメリカの位置づけ ラテンアメリカ域内の地域統合と対米關係	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。	14	ラテンアメリカと日本の關係	移住と日系社会、政治・外交關係におけるラテンアメリカと日本	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。	15	総括	理解度確認テストの後、アメリカ合衆国への移民および「ラティーノス」がもたらす影響についての解説	広く西半球 (米州) の相互關係に対して目を向ける。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ラテンアメリカの地理 (1)	地域名称の由来 域内諸国の名称と位置の学習	地域を構成する33ヶ国・13非独立領を地図上で確認する																																																																
2	ラテンアメリカの地理 (2)	地域の歴史的概要 産業と特産品	基礎統計資料一覧を読み解く ラテンアメリカ原産作物と資源について調べる																																																																
3	ラテンアメリカの地理 (3)	世界文化遺産を通して見る多民族・多文化社会	ラテンアメリカの世界遺産について調べる																																																																
4	ラテンアメリカの歴史 (1)	先住民古代文明	マヤ、アステカ、インカ文明のいずれかについて調べる																																																																
5	ラテンアメリカの歴史 (2)	征服と植民地支配	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。																																																																
6	ラテンアメリカの歴史 (3)	独立とその後の近代化と従属化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。																																																																
7	ラテンアメリカの歴史 (4)	20世紀の革命と民主化過程	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。																																																																
8	ラテンアメリカの文化 (1)	美術・音楽	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。																																																																
9	ラテンアメリカの文化 (2)	文学・映画	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。																																																																
10	ラテンアメリカの文化 (3)	食文化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。																																																																
11	ラテンアメリカの社会	階層社会の構造、民族文化と国民社会	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。																																																																
12	ラテンアメリカの政治経済	政治体制の変遷 ラテンアメリカ経済の歴史的変容、現状と課題、地域統合	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。																																																																
13	現代世界の中のラテンアメリカ	国際政治・経済の中のラテンアメリカの位置づけ ラテンアメリカ域内の地域統合と対米關係	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。																																																																
14	ラテンアメリカと日本の關係	移住と日系社会、政治・外交關係におけるラテンアメリカと日本	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。																																																																
15	総括	理解度確認テストの後、アメリカ合衆国への移民および「ラティーノス」がもたらす影響についての解説	広く西半球 (米州) の相互關係に対して目を向ける。																																																																
関連科目	スペイン語圏概論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>授業内容に関する質問票、小レポート等 60%、理解度確認テストまたはレポート 40%により総合的に評価する。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>日本から遠く離れた地域ですが、不思議な魅力にあふれる混沌とした世界です。そこへと分け入ることで、自分自身のこれまでのものの見方を相対化するきっかけとなるでしょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																																																																		
備考	事前・事後学習の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。																																																																		

科目名	Oral Communication a	科目名 (英文)	Oral Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英語プロフェッショナルコースの4年次生を対象とする。ディスカッション、プレゼンテーション演習を通じて、英語オーラル・コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B2-1]以上のレベルを目標とする。アカデミックな話題、知的、抽象的な話題について理解し、自分の意見を述べ、ディスカッションをし、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。与えられた話題についての予習を前提としたディスカッション、および個人またはグループによるプレゼンテーション演習によって授業を進める。十分な準備をして毎回の授業に臨み、積極的に発言をすること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Natural lists	Textbook, self-expression, discussion,	Announced weekly in class
	2	Adding more information	Textbook, self-expression, discussion,	Announced weekly in class
	3	Order and priority	Textbook, self-expression, discussion,	Announced weekly in class
	4	Habits and routines	Textbook, self-expression, discussion,	Announced weekly in class
	5	Advice	Textbook, self-expression, discussion,	Announced weekly in class
	6	Future - probability and speculation	Textbook, self-expression, discussion,	Announced weekly in class
	7	Conditional imagination	Textbook, self-expression, discussion,	Announced weekly in class
	8	Instructions and process	Textbook, self-expression, discussion,	Announced weekly in class
	9	Creative instructions	Textbook, self-expression, discussion,	Announced weekly in class
	10	Relative location	Textbook, self-expression, discussion,	Announced weekly in class
	11	Giving directions	Textbook, self-expression, discussion,	Announced weekly in class
	12	Daily diaries	Textbook, self-expression, discussion,	Announced weekly in class
	13	Simple stories	Textbook, self-expression, discussion,	Announced weekly in class
	14	Description	Textbook, self-expression, discussion,	Announced weekly in class
	15	Conversation and reported speech	Textbook, self-expression, discussion,	Announced weekly in class

関連科目	English for Global Communication a, b
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD CARNAVAL	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	"Boys, be ambitious! Be ambitious not for money or for selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame. Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be."
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Oral Communication b	科目名 (英文)	Oral Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英語プロフェッショナルコースの4年次生を対象とする。ディスカッション、プレゼンテーション演習を通じて、英語オーラル・コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B2-1]以上のレベルを目標とする。アカデミックな話題、知的、抽象的な話題について理解し、自分の意見を述べ、ディスカッションをし、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。与えられた話題についての予習を前提としたディスカッション、および個人またはグループによるプレゼンテーション演習によって授業を進める。十分な準備をして毎回の授業に臨み、積極的に発言をすること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Making Comparisons	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class
	2	Creating inventions	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class
	3	Opinions 1 - What is best	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class
	4	Opinions 2 - Good or bad	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class
	5	Opinions 3 - True or false	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class
	6	Explanations	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class
	7	Tall tales & exaggeration	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class
	8	Advertising	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class
	9	Interpreting the news	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class
	10	Evaluation & review	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class
	11	All kinds of research	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class
	12	Rethinking history	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class
	13	Envisioning the future	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class
	14	Review	Discussion	Announced weekly in class
	15	Review and evaluation	Discussion, presentation	Announced weekly in class

関連科目	English for Global Communication a, b
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD CARNAVAL	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	"Boys, be ambitious! Be ambitious not for money or for selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame. Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be."
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	オーラル コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Oral Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	拙冬 紘和
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習
2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り
15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	ライティングとスピーキング (プレゼンテーション) は少しのコツと練習で上達できるスキルです。一緒に楽しんでそれらのスキルを学びましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	オーラル コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Oral Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	拙冬 紘和
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習
2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
3	人や物について書く・話すスキルを身につけるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身につけるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身につけるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
9	統一性 (Unity) について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習
13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習
14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り
15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	ライティングとスピーキング (プレゼンテーション) は少しのコツと練習で上達できるスキルです。一緒に楽しんでそれらのスキルを学びましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	オーラル コミュニケーションⅡ a	科目名 (英文)	Oral Communication Ila
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	① 「聞く」「話す」力を伸ばすための様々な訓練を行う。 ② 英語による簡単なプレゼンテーションを行う。
到達目標	① 複雑な内容でも、簡単な表現を組み合わせで表現できるようになる。 ② 自分とは異なる他者の話を聞き、自分の考えを深め、それを主張できるようになる。
授業方法と留意点	① ペア/グループワークや簡単なゲームを通して、複雑な内容を短く簡単な語句の組み合わせで表現する工夫の仕方を身につける。 ② 学期末に短いプレゼンテーションを行い、互いに講評しあう。
科目学習の効果 (資格)	① 直訳思考から脱し、「言いたいこと」をおおまかに伝えられる力が身につく。 ② 論理的なプレゼンテーションを構成できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	個人・ペア・グループワークなど	自由作文： 自己紹介 Unit 1 Exercise 1
2	Unit 1 All about the "real" me 個人の興味・嗜好に関する表現	個人・ペア・グループワークなど	Unit 2 Exercise 1
3	Unit 2 Friends forever 交友・経験に関する表現	個人・ペア・グループワークなど	Unit 3 Exercise 1 自由作文： 語の定義
4	Unit 3 Finding a "special" friend 親密な交際に関する表現	個人・ペア・グループワークなど	Unit 4 Exercise 1
5	Unit 4 Shopping for bargains 買物に関する表現	個人・ペア・グループワークなど	Unit 5 Exercise 1 自由作文： 語の定義
6	Unit 5 Dreaming about summer 休暇・旅行に関する表現	個人・ペア・グループワークなど	Unit 6 Exercise 6
7	Unit 6 I'd better get a job 職業に関する表現	個人・ペア・グループワークなど	自由作文： 語の定義
8	プレゼンテーション準備	模範プレゼンを観る プレゼンの頻出語句を学ぶ	プレゼンのトピック選定
9	プレゼンテーション準備	プレゼンの身体表現法を学ぶ	プレゼンのトピック選定
10	プレゼンテーション準備	プレゼンの構成法を学ぶ トピックを決める	プレゼンのトピック選定
11	プレゼンテーション準備	草稿を書く	初稿の完成
12	プレゼンテーション準備	原稿を仕上げる	初稿の修正
13	プレゼンテーション準備	音声訓練	最終稿の完成
14	プレゼンテーション準備	音声訓練	視覚資料の完成
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションを行い、互いに講評しあう。	プレゼン準備

関連科目													
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Face to Face</td> <td>Fuller, D. & Fuller, C.</td> <td>Macmillan Language House</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Face to Face	Fuller, D. & Fuller, C.	Macmillan Language House	2			
番号	書籍名	著者名	出版社名										
1	Face to Face	Fuller, D. & Fuller, C.	Macmillan Language House										
2													

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1									

評価方法 (基準)	授業内外での課題 (宿題) 50% プレゼンテーション 50%
-----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	<p>皆さんには、在学中にひとりで外国を旅していただくことを勧めます。旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。</p> <p>若者の旅行者が集まる安宿が、どこの国にもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。インド英語、中国英語、ヒスパニック英語… いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。</p> <p>海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません。</p> <p>時間と体力と柔軟な心のある学生時代こそ、旅をする絶好のチャンスです。お金もそんなに要りません。アルバイトで十分貯められます。自分の英語が通じるか心配？ 大丈夫、なんとかなります。この授業をぜひ役立ててください。</p>
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	オーラル コミュニケーションⅡ b	科目名 (英文)	Oral Communication IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	① 「聞く」「話す」力を伸ばすための様々な訓練を行う。 ② 英語による簡単なプレゼンテーションを行う。
到達目標	① 複雑な内容でも、簡単な表現を組み合わせで表現できるようになる。 ② 自分とは異なる他者の話を聞き、自分の考えを深め、それを主張できるようになる。
授業方法と留意点	① ペア/グループワークや簡単なゲームを通して、複雑な内容を短く簡単な語句の組み合わせで表現する工夫の仕方を身につける。 ② 学期末に短いプレゼンテーションを行い、互いに講評しあう。
科目学習の効果 (資格)	① 直訳思考から脱し、「言いたいこと」をおおまかに伝えられる力が身につく。 ② 論理的なプレゼンテーションを構成できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	個人・ペア・グループワークなど	Unit 7 Exercise 1
	2	Unit 7 What do you think? 意見交換に関する表現	個人・ペア・グループワークなど	Unit 8 Exercise 1
	3	Unit 8 Rap, rock, and reggae 音楽に関する表現	個人・ペア・グループワークなど	Unit 9 Exercise 1 自由作文： 語の定義
	4	Unit 9 What a character! 性格に関する表現	個人・ペア・グループワークなど	Unit 10 Exercise 1
	5	Unit 10 Money matters おカネに関する表現	個人・ペア・グループワークなど	Unit 11 Exercise 1 自由作文： 語の定義
	6	Unit 11 Situations in life 過去の経験に関する表現	個人・ペア・グループワークなど	Unit 12 Exercise 1
	7	Unit 12 Facing the future 将来の展望に関する表現	個人・ペア・グループワークなど	自由作文： 語の定義
	8	プレゼンテーション準備	模範プレゼンを観る プレゼンの頻出語句を学ぶ	プレゼンのトピック選定
	9	プレゼンテーション準備	プレゼンの身体表現法を学ぶ	プレゼンのトピック選定
	10	プレゼンテーション準備	プレゼンの構成法を学ぶ トピックを決める	プレゼンのトピック選定
	11	プレゼンテーション準備	草稿を書く	初稿の完成
	12	プレゼンテーション準備	原稿を仕上げる	初稿の修正
	13	プレゼンテーション準備	音声訓練	最終稿の完成
	14	プレゼンテーション準備	音声訓練	視覚資料の完成
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションを行い、互いに講評しあう。	プレゼン準備	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Face to Face	Fuller, D. & Fuller, C.	Macmillan Language House
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内外での課題 (宿題) 50% プレゼンテーション 50%
-----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	<p>皆さんには、在学中にひとりで外国を旅して行くことを勧めます。旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。</p> <p>若者の旅行者が集まる安宿が、どこの国にもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。インド英語、中国英語、ヒスパニック英語… いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。</p> <p>海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません。</p> <p>時間と体力と柔軟な心のある学生時代こそ、旅をする絶好のチャンスです。お金もそんなに要りません。アルバイトで十分貯められます。自分の英語が通じるか心配? 大丈夫、なんとかなります。この授業をぜひ役立ててください。</p>
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	音声学	科目名(英文)	Phonetics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	英語の音韻体系に基づいた調音音声学を中心とし、日本語や他の言語とも比較しながら、次のような内容について演習も交えて理解を深めていきます。①母音や子音の発音記号とその音声の特徴、②音連続における連結・脱落・同化現象および強勢やイントネーション、③語順、品詞、分詞と動名詞などの文法と音声の関連性、④中英語から現代英語へ至る音韻の歴史の変遷、⑤英国から北米・オセアニア・アジアにも広がる国際共通語としての英語の変種、などについて具体例とともに学びます。
到達目標	言語の音声の特徴について、英語を軸にし、必要に応じて日本語や他の言語とも比較しながら学んでいきます。音声の仕組み、文法と音声の関連性、音韻の歴史の変遷、国際共通語としての英語の実態などについて理解することを目標およびテーマとします。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義が中心となりますが、演習(グループワーク)も織り交ぜながら行います。 ・(電子)辞書を必ず持参すること。 ・難易度の高い科目ですので、特に復習に力を入れることをお勧めします。
科目学習の効果(資格)	語学検定試験のリスニング対策など。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(調音)音声学について	(調音)音声学とは何かについて、英語と日本語の例を比較しながら、その概要を理解する。	授業の内容について確認する。
2	母音について(1)	英語の母音について、日本語やその他の言語と比較しながら、その特徴を理解する。	音声学に関する基本的概念を確認する。
3	母音について(2)	英語の母音について、日本語やその他の言語と比較しながら、その特徴を理解する。	音声学に関する基本的概念を確認する。
4	母音からみた英語の変種(方言)について	母音からみた英国・北米・オセアニア・アジアなどの英語の変種(方言)について	音声学に関する基本的概念を確認する。
5	子音について(1)	英語の子音について、日本語と比較しながら、その特徴を理解する。	音声学に関する基本的概念を確認する。
6	子音について(2)	英語の子音について、日本語と比較しながら、その特徴を理解する。	音声学に関する基本的概念を確認する。
7	子音と半母音(接近音)について	子音と半母音(接近音)について、日英語を比較しながら、その特徴を理解する。	音声学に関する基本的概念を確認する。
8	音(音韻)の単位について	分節音と異音、音節とモーラなどの概念について、音韻構造の観点から理解する。	授業の内容について、具体例とともに、要点を整理する。
9	音韻論と形態論の接点について	音韻論と形態論のインターフェイスの観点から、日英語の現象について考察する。	授業内容に沿ったレポートを課すので、それに取り組む。
10	音の変化について	音連続における連結・脱落・同化などの現象について、具体例とともに理解する。	授業の内容について、具体例とともに、要点を整理する。
11	強勢(アクセント)について	英語の強勢(アクセント)の特徴について、体系的に理解する。	授業の内容について、具体例とともに、要点を整理する。
12	文法と音声の関連性について	英語の語順、品詞、分詞と動名詞などの文法と音声の関連性について理解する。	授業の内容について、具体例とともに、要点を整理する。
13	リズムとイントネーションについて	英語のリズムとイントネーションについて、体系的に理解する。	授業の内容について、具体例とともに、要点を整理する。
14	音韻の歴史の変遷について	中英語から現代英語へ至る音韻の歴史の変遷について理解する。	授業の内容について、具体例とともに、要点を整理する。
15	まとめ	これまでの学習内容を総括する。	これまでの授業で扱った内容について要点を整理しながら、定期試験の対策を行う。

関連科目	他の語学科目など。
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大人の英語発音講座	(生活人新書)	英語音声学研究会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ルミナス英和辞典	一つづり字と発音解説	竹林 滋・斎藤 弘子
2				
3				

評価方法(基準)	定期期末試験(75%)、課題やレポートなどの提出物(25%)を合わせて評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	難易度の高い科目ですので、まずはしっかりとしたやる気が必要です。知的好奇心を持った学生の受講を期待しています。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(中島研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習の総時間数は、60時間程度を目安としてください。
----	---------------------------------

科目名	海外インターンシップ	科目名(英文)	Overseas Internship
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP5△		

授業概要・目的	<p>外国語学部では、次代の国際ビジネスで活躍する人材の育成を目指している。このプログラムでは、将来、語学力を生かして国際ビジネスに携わることを目標とする学生が、海外企業の現場を視察したり、実際に就業体験することによって、ビジネスで実際に使われている言葉遣い・マナーを学ぶとともに、そこで働く人たちの現状・意識を正しく認識することを目的としている。同時に、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、それらを尊重できる態度を身に付けるとともに、自分の考えを明確に表現し、コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。</p> <p>なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つである。</p>																
到達目標	<p>(1) 海外インターンシップの体験を通して、海外で働くためにはどのような能力や知識が必要なのかを理解する。</p> <p>(2) 日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、それを仕事に応用できるような力を身につける。</p> <p>(3) 仕事の現場で必要とされる語学力を用いて、自分の考えを明確に表現し、他者とコミュニケーションできる基礎が身につく。</p> <p>(4) インターンシップの現場で体験したことを自らの言葉で人に語れるようになる。</p> <p>(5) 仕事に対する興味・関心が高まる</p>																
授業方法と留意点	<p>海外インターンシップは、本学内での事前・事後授業と実習先での研修、事後報告会からなっている。すべてに必ず出席すること。摂南大学のみならず、日本の代表として海外で働いているという自覚を常に持つこと。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>本海外インターンシップは、日本国内とグアムにて旅行業務に携わる。近畿日本ツーリストグアム事務所またはホテルでのインターンシップのいずれかを選択して参加する。特に、旅行業界や観光業に興味のある学生にとっては有意義な体験ができるであろう。</p> <p><グアム・インターンシップ・プログラム></p> <p>日程： 【予定】 2019年3月2日(土)～3月9日(土) グアムの近畿日本ツーリスト支店またはホテルにてインターンシップ *上記の他に事前授業、近畿日本ツーリスト国内支店でのインターンシップ、事後報告会が含まれる</p> <p>なお、詳しい内容を含め、2018年度の日程や参加費用などの情報は、後日説明会にて伝える。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>事前・事後授業、研修の取り組み：50%</p> <p>レポート：50%</p>																
学生へのメッセージ	<p>将来、観光業界で働きたいと考えている皆さんには、国内インターンと海外インターンに一度で参加・体験できる魅力的なプログラムです！国内での就職を目指している方にとっても、一度は海外の職場体験をすることで、働くことに対するいろいろな考え方・視点が得られる絶好の機会だと思います！</p>																
担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室																
備考	定員は20名(旅行代理店でのインターンシップ10名、ホテルでのインターンシップ10名)となっている。エントリー方法については、説明会にて詳細を説明する。																

科目名	海外実習	科目名(英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP5△, DP7○, DP8○		

授業概要・目的	外国語学部では、世界中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本学内での事前授業と、実習先での研修(約3週間)によって構成される(※スペイン語コースは、春季(2月初旬～3月初旬で4週間余りとなる)の実施となる予定)。 ・事前指導には必ず出席すること。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(1) 事前授業 本学内での事前授業は7回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項(リスクマネジメント)や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。</p> <p>(2) 海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。また、中国語コース以外のコースはホームステイするので、ホストファミリーとの交流もその国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。</p> <p>【実習先と実習時期(予定)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語コース(オーストラリア・サザンクロス大学[コフスハーバー校]) (8月中旬～9月初旬) ・中国語コース(中国・上海外国語大学) (8月上旬～8月下旬) ・スペイン語コース(スペイン・バレンシア州立アリカンテ大学) (2月初旬～3月初旬) ・インドネシア語コース(ストモ博士大学) (8月中旬～9月初旬) 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。</p> <p>※2015年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。</p> <p>※2012～2014年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>7号館3階 兪研究室(中国語コース)、吉村研究室(英語コース)</p> <p>7号館4階 浦野研究室(インドネシア語コース)</p> <p>7号館5階 安達研究室(スペイン語コース)</p>																
備考	<p>参加人数が少ない場合は実施を取り止めたり、引率者をつけずに実施することがある。必ず授業担当者の指示に従うとともに、より一層、学生本人の主体性と危機管理意識が求められる。</p> <p>※スペイン語圏への短期研修として、夏期休業中にメキシコ・グアナフアト大学研修があり、これは国際交流センターが主催しています。</p>																

科目名	海外実習	科目名 (英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP5△, DP7○, DP8○		

授業概要・目的	外国語学部では、世界中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本学内での事前授業と、実習先での研修（約3週間）によって構成される（※スペイン語コースは、春季（2月初旬～3月初旬で4週間余りとなる）の実施となる予定）。 ・事前指導には必ず出席すること。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>（1）事前授業 本学内での事前授業は7回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。</p> <p>（2）海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。また、中国語コース以外のコースはホームステイするので、ホストファミリーとの交流もその国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。</p> <p>【実習先と実習時期（予定）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語コース（オーストラリア・サザンクロス大学[コフスハーバー校]）（8月中旬～9月初旬） ・中国語コース（中国・上海外国語大学）（8月上旬～8月下旬） ・スペイン語コース（スペイン・バレンシア州立アリカンテ大学）（2月初旬～3月初旬） ・インドネシア語コース（ストモ博士大学）（8月中旬～9月初旬） 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。</p> <p>※2015年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。</p> <p>※2012～2014年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。</p>																
学生へのメッセージ	オーストラリアでかけがえのない体験をしましょう！																
担当者の研究室等	<p>7号館3階 兪研究室（中国語コース）、吉村研究室（英語コース）</p> <p>7号館4階 浦野研究室（インドネシア語コース）</p> <p>7号館5階 北條研究室（スペイン語コース）</p>																
備考	<p>（1）参加人数が少ない場合は実施を取り止めたり、引率者をつけずに実施することがある。必ず授業担当者の指示に従うとともに、より一層、学生本人の主体性と危機管理意識が求められる。</p> <p>（2）単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になります。したがって、4年次後期参加者は卒業時までに成績登録されません。</p> <p>※スペイン語圏への短期研修として、夏期休業中にメキシコ・グアナフアト大学研修があり、これは国際交流センターが主催しています。</p>																

科目名	海外実習	科目名 (英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP5△, DP7○, DP8○		

授業概要・目的	外国語学部では、世界中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																		
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本学内での事前授業と、実習先での研修（約3週間）によって構成される。 ・事前指導には必ず出席すること。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(1) 事前・事後授業</p> <p>本学内での事前・事後授業は7回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。帰国後も学習の成果を確認するための機会を設ける。</p> <p>具体的には次のような項目について指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前準備と諸手続について（航空券、予防接種、etc.） ・マナーについて（誤解と理解） ・留学先事情①（マレーシアでの生活にかんする情報） ・留学先事情②（パハンやパハン大学について知る） ・ホームを離れる事（各種トラブルへの対応について） <p>(2) 海外実習</p> <p>実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。</p> <p>【実習先と実習時期（予定）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パハン大学（Universiti Malaysia Pahang）（8月中旬～9月初旬） 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	<p>事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。</p> <p>※2015年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。</p> <p>※2012～2014年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 上田研究室																		
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になります。したがって、4年次後期参加者は卒業時まで成績登録されません。																		

科目名	海外実習	科目名 (英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP5△, DP7○, DP8○		

授業概要・目的	外国語学部では、世界中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																		
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。																		
授業方法と留意点	<p>・本学内での事前授業と、実習先での研修（約3週間）によって構成される（※スペイン語コースは、春季（2月初旬～3月初旬で4週間余りとなる）の実施となる予定）。</p> <p>・事前指導には必ず出席すること。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>（1）事前授業 本学内での事前授業は7回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。帰国後も学習の成果を確認する報告会を設ける。</p> <p>（2）海外実習 他の国や他大学から集まった受講生と一緒に実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。それも中国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。</p> <p>【実習先と実習時期（予定）】 ・中国語コース（中国・上海外国語大学）（8月上旬～8月下旬）</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	<p>事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。</p> <p>※2015年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。</p> <p>※2012～2014年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3階 兪研究室																		
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になる。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名(英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	<p>スペイン・サラゴサ大学およびアリカンテ大学への留学予定者が、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし記憶する。</p> <p>各自、受講するコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等を自分で確認する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行う。</p>																		
到達目標	<p>安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備しておく。</p> <p>自律心と規範意識の涵養。</p>																		
授業方法と留意点	<p>毎回出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に備えること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。注意されことを次の行動に反映させること。</p> <p>以下の点を扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス(学部合同のものもある) ・動機の確認、主体性について ・事前準備と諸手続きについて(受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き) ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情(サラゴサ/アリカンテの歴史・地理、両大学について) ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任(留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の受講継続、スペイン語技能検定3級以上合格、スピーチコンテスト参加等) <p>授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、自ら情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>欠席・遅刻なしに、各自が自分自身のこととして、自覚的に主体的に積極的に取り組めたかどうかによって評価する(留学のための準備・手続きに対する取り組み・姿勢、発表、提出物=100%)</p> <p>この出来によっては留学許可を取り消すこともある。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>自分で考える、調べる、行動することが求められる。日本で自己管理(勉学においても)ができない者は、海外では生活ができない。甘えや思考のない言動は、許容されない。決して他人事のように丸投げにしたり、指示を待っているだけ、ということのないように。</p> <p>個人の軽率な言動が、学部・大学といったレベルで、あるいは後輩の留学に対し、負の影響を及ぼすことについて、心に銘記すること。</p>																		
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室																		
備考	<p>留学希望者各自の自律と規範を前提とし、手取り足取り面倒をみたりはしない。</p> <p>留学中に羽目を外したり授業をさぼったり、問題を起こす者については、帰国後の単位認定を一部ないし全部行わない。</p> <p>個々人の留学のために多くの人が関与・支援していることを忘れないこと。</p>																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	<p>海外留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけていくことを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>本授業は、インドネシア（ストモ博士大学）へ留学するに際して必要とされる知識、すなわち、同大学の概要と学習環境、インドネシアでの生活上知っておくべきこと、日本とインドネシアの文化の相違などを把握し、留学期間がより充実したものとなるよう展開される。また、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全なる準備を整え、留学出発へ備える。</p>																
到達目標	留学期間をより充実させるよう、万全な留学準備を整える。																
授業方法と留意点	毎週、何らかの課題を出すので、それらすべてをそつなくこなすことが望まれる。また、言うまでもなく、出席は必須であり、1回でも欠席する、あるいは、こなすべき課題をしてこなかった場合など、準備が不十分であるとみなされた場合、留学許可が取り消されることになるので、十分に留意のこと。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>各回の授業内容は基本的には以下の通りであるが、ビザ手続きの進捗状況如何によっては、一部内容が変更される場合がある。</p> <p>第1回目：本授業の目的・意義を理解し、今後のスケジュールを確認する。 第2回目：ビザ手続きおよび留学に際して折衝が必要となる行政機関の概要を確認する。 第3回目：ビザ手続き書類の再確認を行う。 第4回目：「留学報告会」に参加し、留学で得られるものを確認する。 第5回目：留学先大学（ストモ博士大学）の概要を把握する。 第6回目：インドネシア語で自己紹介ができるようにすると同時に、留学先大学へ提出する個人データを作成する。 第7回目：インドネシア語運用能力の確認を行う。 第8回目：異文化理解を通じて獲得できる知見とは何なのか、について留学経験者を交えて討論する。 第9回目：留学地での生活について、特に費用面にかんする確認を行う。 第10回目：現代世界の趨勢についての理解（例えばイスラム主義に関する理解）を深める。 第11回目：留学先において「日本」を紹介できるようにする。 第12回目：危機管理ガイダンスを行う。 第13回目：留学先での生活（医療・衣食住・保険・交通・金銭管理など）について、再確認する。 第14回目：在大阪総領事館へ提出する書類の内容および留意点を再確認する。 第15回目：留学出発に際する最終確認を行う。</p>																
関連科目	インドネシア語科目およびインドネシアに関する講義科目（インドネシア・マレー語圏概論等）すべて																
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	毎週の課題をこなすなどの積極的な学習姿勢 100%																
学生へのメッセージ	留学期間を有意義なものとするために、本授業を前向きにしっかりと受講してください。																
担当者の研究室等	浦野研究室（7号館4階）																
備考	留学で得られることはとても多く、幅広いです。留学を成功させるために、この授業でイメージを膨らませていきましょう。																

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	<p>海外留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけていくことを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>本授業は、インドネシア（ストモ博士大学）へ留学するに際して必要とされる知識、すなわち、同大学の概要と学習環境、インドネシアでの生活上知っておくべきこと、日本とインドネシアの文化の相違などを把握し、留学期間がより充実したものとなるよう展開される。また、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全なる準備を整え、留学出発へ備える。</p>																
到達目標	留学期間をより充実させるよう、万全な留学準備を整える。																
授業方法と留意点	毎週、何らかの課題を出すので、それらすべてをそつなくこなすことが望まれる。また、言うまでもなく、出席は必須であり、1回でも欠席する、あるいは、こなすべき課題をしてこなかった場合など、準備が不十分であるとみなされた場合、留学許可が取り消されることになるので、十分に留意のこと。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>各回の授業内容は基本的には以下の通りであるが、ビザ手続きの進捗状況如何によっては、一部内容が変更される場合がある。</p> <p>第1回目：本授業の目的・意義を理解し、今後のスケジュールを確認する。 第2回目：ビザ手続きおよび留学に際して折衝が必要となる行政機関の概要を確認する。 第3回目：ビザ手続き書類の再確認を行う。 第4回目：「留学報告会」に参加し、留学で得られるものを確認する。 第5回目：留学先大学（ストモ博士大学）の概要を把握する。 第6回目：インドネシア語で自己紹介ができるようにすると同時に、留学先大学へ提出する個人データを作成する。 第7回目：インドネシア語運用能力の確認を行う。 第8回目：異文化理解を通じて獲得できる知見とは何なのか、について留学経験者を交えて討論する。 第9回目：留学地での生活について、特に費用面にかんする確認を行う。 第10回目：現代世界の趨勢についての理解（例えばイスラム主義に関する理解）を深める。 第11回目：留学先において「日本」を紹介できるようにする。 第12回目：危機管理ガイダンスを行う。 第13回目：留学先での生活（医療・衣食住・保険・交通・金銭管理など）について、再確認する。 第14回目：在大阪総領事館へ提出する書類の内容および留意点を再確認する。 第15回目：留学出発に際する最終確認を行う。</p>																
関連科目	インドネシア語科目およびインドネシアに関する講義科目（インドネシア・マレー語圏概論等）すべて																
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	毎週の課題をこなすなどの積極的な学習姿勢 100%																
学生へのメッセージ	留学期間を有意義なものとするために、本授業を前向きにしっかりと受講してください。																
担当者の研究室等	浦野研究室（7号館4階）																
備考	留学で得られることはとても多く、幅広いです。留学を成功させるために、この授業でイメージを膨らませていきましょう。																

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	住吉 誠
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	北米 (アメリカ合衆国・カナダ) およびオセアニア (オーストラリア・ニュージーランド) 留学に向けて、学生個々の留学目的やプランニングを明確にし、充実した留学生活が送れるように導く。留学の事務手続きを進めながら、グループ活動を通じて、留学先の文化や生活習慣、海外生活における危機管理、異文化適応などについて理解を深めたり、海外生活に必要な英語についても学んでいく。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 留学アクション・プランを策定できるようになる。 2. 留学に必要な手続きを完了する。 3. 海外で生活する上での危機管理について十分な知識を得る。 4. 渡航先の国の国民性や文化、生活習慣について知識を得る。 5. 渡航先で出会う人々に日本について英語で説明するための基礎的な表現力を修得する。 																		
授業方法と留意点	授業では、留学手続きも並行して進めていきます。提出すべき書類の準備を怠らず、設定された期日までにきちんと提出してください。全体で手続きを進めていくので、1人の遅れが全体の手続きの遅れになります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><内容></p> <p>大きなテーマとして以下の4つが設定され、それぞれ数回の授業を割り当てます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学手続きに関すること 業者の方を交えて、留学手続きを進めていきます。願書を書く、ビザを取得する、保険に加入するなど、いろいろな手続きが進んでいきます。 2. 留学に関する事項を理解すること 留学先の情報、留学に際しての危機管理などを理解する。また、留学から帰国した先輩たちの報告会を行い、これから留学に出発するみなさんに必要な情報を共有します。 3. 留学に関係する英語を理解すること 留学の際に必要な英語を学びます。 4. 日本について英語で発信できるようになること 日本について英語で発信できるよう準備をします。 <p><方法> 講義+グループ活動 (グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション) など</p> <p><事前、事後学習課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学の手続きを主体的に進めていく。申請に必要なことを調べる。 2. 次の回の授業内容について、グループで下調べをし、発表の準備をする。 																		
関連科目	エリアスタディーズ (北アメリカ・オセアニア)																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業中のプレゼンテーション (30%) 授業中の貢献度 (20%) (提出書類を含めた) 課題 (50%)																		
学生へのメッセージ	素晴らしい留学生活が実現できるように、みんなでいっしょに準備しましょう!																		
担当者の研究室等	7号館4階 住吉研究室																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名(英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	マレーシア国民大学への留学予定者を対象に、ビザ取得や入学手続など、出発前に必要な情報や知識を教授する。																		
到達目標	「留学準備という機会を通じて、マレーシア社会について理解を深めること」と「マレーシア留学をケーススタディとして異文化に暮らすことの意味について考えること」を目指す。																		
授業方法と留意点	適宜課題を出すので、主体的に取り組むこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>受講者の持っている知識や情報、渡航経験の有無を考慮しつつ、以下の各点について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・事前準備と諸手続について (ATMAでの授業内容、航空券・予防接種・ビザのスケジューリング etc.) ・マナーについて (誤解と理解) ・マレーシアを知る (マレーシア社会について解説した日本語、マレー語、英語で書かれた文章を読む) ・留学先事情① (マレーシアでの生活にかんする情報) ・留学先事情② (マレーシア国民大学について知る) ・マレー語の単語・表現について ・ホームを離れる事 (各種トラブルへの対応について) <p>授業時間外の課題として、課題文献の講読や既習事項の復習、図書館やネット上での情報収集、各種手続のための書類記入や各種書類の準備などを予定している。</p>																		
関連科目	「基礎マレー語」																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業への取り組み状況(100%)から判断する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階上田研究室																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名(英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	マレーシア国民大学への留学予定者を対象に、ビザ取得や入学手続など、出発前に必要な情報や知識を教授する。																		
到達目標	「留学準備という機会を通じて、マレーシア社会について理解を深めること」と「マレーシア留学をケーススタディとして異文化に暮らすことの意味について考えること」を目指す。																		
授業方法と留意点	適宜課題を出すので、主体的に取り組むこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>受講者の持っている知識や情報、渡航経験の有無を考慮しつつ、以下の各点について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・事前準備と諸手続について (ATMAでの授業内容、航空券・予防接種・ビザのスケジュール等) ・マナーについて (誤解と理解) ・マレーシアを知る (マレーシア社会について解説した日本語、マレー語、英語で書かれた文章を読む) ・留学先事情① (マレーシアでの生活にかんする情報) ・留学先事情② (マレーシア国民大学について知る) ・マレー語の単語・表現について ・ホームを離れる事 (各種トラブルへの対応について) <p>授業時間外の課題として、課題文献の講読や既習事項の復習、図書館やネット上での情報収集、各種手続のための書類記入や各種書類の準備などを予定している。</p>																		
関連科目	「基礎マレー語」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業への取り組み状況(100%)から判断する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階上田研究室																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	神崎 舞
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	北米 (カナダ・アメリカ) 留学に必要な準備をすることが目的である。																		
到達目標	・現地での学習及び生活を円滑に行えるようになる。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の授業への参加を必須とする。 ・留学手続きを行う。 ・留学先で役立つ表現等を学ぶ。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：本講義の目的や方針などの確認 2. 留学先の一般情報 3. 経費・送金・換金方法 4～5. 入学手続など・各種提出書類 6. 出入国・渡航手続き 7. 英文メールの書き方 8. サバイバル・イングリッシュ 9. 留学先事情(1)：医療・衣食・交通・余暇 10. 留学先事情(2)：医療・衣食・交通・余暇 11. 日本の社会・文化の理解と伝え方 12. 情報通信機器の活用法 13. 安全対策 14. 最終確認と総括 15. 帰国者報告会・出発予定者との質疑応答 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	事前授業の参加度や受講態度：60% 提出書類作成を含めた課題：40%																		
学生へのメッセージ	実り多い留学生活を送るための準備をしましょう。																		
担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室																		
備考	提出課題等に関してフィードバックを行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	オセアニア (オーストラリア・ニュージーランド) 留学に向けて、学生個人の留学目的やプランニングを明確にし、充実した留学生活が送れるように導く。また、この授業では、グループ活動を通じて、オセアニアの文化や生活習慣、海外生活における危機管理、異文化適応などについて理解を深めたり、海外生活に必要な英語についても学んでいく。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・留学アクション・プランを策定すること ・海外で生活する上での危機管理について十分な知識を得ること ・渡航先の国の国民性や文化、生活習慣について知識を得ること ・渡航先で出会う人々に日本の文化について英語で説明するための基礎的な表現力を修得する 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、グループ活動 (グループで授業内容の下調べ、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション) への積極的な参加が多く求められます。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 留学手続き① 2. 留学手続き② 3. 自己紹介、留学アクション・プランについて考える 4. 情報収集①、英文メールの書き方、サバイバル英語 5. 情報収集②、サバイバル英語 6. オーストラリア、ニュージーランドの文化 7. 情報収集③ 8. 情報収集④ 9. 英語で自分や日本について紹介する② 10. 留学手続き③ 11. 危機管理について① 12. 留学アクション・プラン発表会 13. 危機管理について② 14. 15. 渡航直前オリエンテーション <p>授業方法：講義＋グループ活動 (グループ・ディスカッション)</p> <p>事前、事後学習課題：次の回の授業内容について、下調べを徹底する。また、12回目の留学アクション・プランの発表に向けて、下調べや発表の準備をする</p>																		
関連科目	エリアスタディーズ (オセアニア)																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業貢献度 (グループ・ワーク、発表等) : 40% 留学アクション・プランの内容 : 60%																		
学生へのメッセージ	素晴らしい留学生活が実現できるように、みんなでいっしょに準備しましょう！																		
担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	<p>スペイン・サラゴサ大学およびアリカンテ大学への留学予定者が、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし記憶する。</p> <p>各自、受講するコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等を自分で確認する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行う。</p>																
到達目標	<p>安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備しておく。</p> <p>自律心と規範意識の涵養。</p>																
授業方法と留意点	<p>毎回出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に備えること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。注意されことを次の行動に反映させること。</p> <p>以下の点を扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・動機の確認、主体性について ・事前準備と諸手続きについて (受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き) ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情 (サラゴサ/アリカンテの歴史・地理、両大学について) ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任 (留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の受講継続、スペイン語技能検定3級以上合格、スピーチコンテスト参加等) <p>授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、自ら情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>欠席・遅刻なしに、各自が自分自身のこととして、自覚的に主体的に積極的に取り組めたかどうかによって評価する (留学のための準備・手続きに対する取り組み・姿勢、発表、提出物 = 100%)</p> <p>この出来によっては留学許可を取り消すこともある。</p>																
学生へのメッセージ	<p>自分で考える、調べる、行動することが求められる。日本で自己管理 (勉学においても) ができない者は、海外では生活ができない。甘えや思考のない言動は、許容されない。決して他人事のように丸投げにしたり、指示を待っているだけ、ということのないように。</p>																
担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室																
備考	留学希望者各自の自律と規範を前提とし、手取り足取り面倒をみたりはしない。																

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	メキシコ・グアナフアト大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし、受講可能なコース、入学手続き、学生ビザ申請方法を詳しく解説する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行えるよう導く。その他、出発前に必要な情報や知識を教授する。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、メキシコについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備する。																		
授業方法と留意点	皆出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に当たること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の点について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・事前準備と諸手続きについての解説（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（メキシコ現代事情、グアナフアトの歴史・地理、グアナフアト大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・メキシコの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の最大限受講を通じた継続学修、スペイン語技能検定3級以上合格、スピーチコンテスト参加等） <p>授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。</p>																		
関連科目	全スペイン語科目。スペイン語圏概論とエリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）をできるだけ1年次で履修すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	正当な理由による欠席・遅刻なしに、ビザ申請までの準備を指示通り遅延なく行えたか（40%）、留学先国、大学所在都市の歴史と現況について主体的・積極的に学ぼうとしたか、日本文化の諸相についてスペイン語で説明ができるまでの準備ができたか（60%）によって評価する。取り組み方によっては留学資格を失うこともありうる。																		
学生へのメッセージ	徒に現地での生活を恐れることはありません。留学中の先輩や同級生と Skype 等で直接連絡を取ることを勧めます。																		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																		
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	メキシコ・グアナフアト大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし、受講可能なコース、入学手続き、学生ビザ申請方法を詳しく解説する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行えるよう導く。その他、出発前に必要な情報や知識を教授する。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、メキシコについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備する。																		
授業方法と留意点	皆出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に当たること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の点について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・事前準備と諸手続きについての解説（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（メキシコ現代事情、グアナフアトの歴史・地理、グアナフアト大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・メキシコの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の最大限受講、スペイン語技能検定3級以上合格、スピーチコンテスト参加等） <p>授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。</p>																		
関連科目	全スペイン語科目。スペイン語圏概論とエリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）をできるだけ1年次で履修していること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	正当な理由による欠席・遅刻なしに、ビザ申請までの準備を指示通り遅延なく行えたか（40%）、留学先国、大学所在都市の歴史と現況について主体的・積極的に学ぼうとしたか、日本文化の諸相についてスペイン語で説明ができるまでの準備ができたか（60%）によって評価する。取り組み方によっては留学資格を失うこともありうる。																		
学生へのメッセージ	徒に現地での留学生活に恐れをなすことはありません。留学中の先輩や同級生と Skype 等で直接連絡を取ることを勧めます。																		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																		
備考	毎回の授業の事前・事後学修として計2時間をかける。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	海外留学は、提携大学での授業を受けるとともに、海外での暮らしを通して、語学力や人間力に磨きをかけることを目的とします。日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けることが重要です。渡航までのスケジュール確認や留学提出書類の作成を進めると同時に、海外生活を送る上で必要不可欠な知識やスキルを身につけていきます。																
到達目標	(現地の人々と意思疎通を図る) コミュニケーション能力を育成しつつ、留学の準備を万全に整えます。																
授業方法と留意点	必ず毎回の授業に出席すること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. ガイダンス:本講義の目的や方針などの確認 (Orientation and introduction)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学準備の重要性について ・日本語メールの基本的な書き方指導 ・英語で自己紹介 (日本の授業における自己紹介ではなく、海外で自己紹介する場面を想定) <p>2. 経費・送金・換金方法 (How to make a remittance to overseas countries/Exchange rates)</p> <p>3～4. 入学手続きなど、各種提出書類 (How to fill in English application forms)</p> <p>5. 出入国・渡航手続き (Student's visa, airport and flight information)</p> <p>6. 英文メールの書き方 (How to write an email in English)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英文メールの構成 ・海外大学担当者あてに英文メールを作成 <p>7. サバイバル・イングリッシュ (Survival English) 配布資料を参考に、空港や機内、寮の仲間との顔合わせ、寮の友人とのトラブル、病院、危機的状況などの場面を想定して、最低限必要な英語表現を指導</p> <p>9～10. 研修先事情:医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothes and food, traffic system, and leisure)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化の差異 ・マナーなど <p>11. 日本の社会・文化の理解と伝え方 (How to explain the Japanese society and culture) 学生による下調べ、口頭発表 (物や写真を用いて説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分について (家族や自分の経験、自分の出身地の特徴など) ・日本社会・文化について <p>12. 帰国者報告会・出発予定者との質疑応答 (Questions and Answer: Talk with returnees)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学先で受ける可能性のあるテストについて ・英語の様々なテストの種類について <p>13. 安全対策 (Measures of safety)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険会社からの説明 ・危機管理 <p>14～15. 最終確認と総括 (Summing up final check before departure) 留学先での目標、目標達成のための計画、その他やってみようこと等</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2							
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
評価方法 (基準)	授業や課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ	安全で充実した留学生活を送るために、しっかりと事前演習を受けてください。																
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室																

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	海外留学は、提携大学での授業を受けるとともに、海外での暮らしを通して、語学力や人間性に磨きをかけることを目的とします。日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けることが重要です。渡航までのスケジュール確認や留学提出書類の作成を進めると同時に、海外生活を送る上で必要不可欠な知識やスキルを身につけていきます。																
到達目標	(現地の人々と意思疎通を図る) コミュニケーション能力を育成しつつ、留学の準備を万全に整えます。																
授業方法と留意点	必ず毎回の授業に出席すること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. ガイダンス:本講義の目的や方針などの確認 (Orientation and introduction)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学準備の重要性について ・日本語メールの基本的な書き方指導 ・英語で自己紹介 (日本の授業における自己紹介ではなく、海外で自己紹介する場面を想定) <p>2. 経費・送金・換金方法 (How to make a remittance to overseas countries/Exchange rates)</p> <p>3～4. 入学手続きなど、各種提出書類 (How to fill in English application forms)</p> <p>5. 出入国・渡航手続き (Student's visa, airport and flight information)</p> <p>6. 英文メールの書き方 (How to write an email in English)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英文メールの構成 ・海外大学担当者あてに英文メールを作成 <p>7. サバイバル・イングリッシュ (Survival English) 配布資料を参考に、空港や機内、寮の仲間との顔合わせ、寮の友人とのトラブル、病院、危機的状況などの場面を想定して、最低限必要な英語表現を指導</p> <p>9～10. 研修先事情:医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothes and food, traffic system, and leisure)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化の差異 ・マナーなど <p>11. 日本の社会・文化の理解と伝え方 (How to explain the Japanese society and culture) 学生による下調べ、口頭発表 (物や写真を用いて説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分について (家族や自分の経験、自分の出身地の特徴など) ・日本社会・文化について <p>12. 帰国者報告会・出発予定者との質疑応答 (Questions and Answer: Talk with returnees)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学先で受ける可能性のあるテストについて ・英語の様々なテストの種類について <p>13. 安全対策 (Measures of safety)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険会社からの説明 ・危機管理 <p>14～15. 最終確認と総括 (Summing up final check before departure) 留学先での目標、目標達成のための計画、その他やってみようこと等</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2							
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
評価方法 (基準)	授業や課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ	安全で充実した留学生活を送るために、しっかりと事前演習を受けてください。																
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室																

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。 中国(北京あるいは上海)での留学はスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要と環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを紹介しながら、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全な準備をしておくのを徹底して指導する。																		
到達目標	万全な留学準備を整える。																		
授業方法と留意点	メモを取るのが肝心であり、毎回要点を確認する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える、提携校の概要と環境の紹介。 2回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成指導。 3回目：留学願書の作成状況を確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出(日本円)、支払上の注意事項。 4回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について説明。 5回目：日中文化の相違について。 6回目：留学先の歴史と最近の情勢について。 7回目：留学先での生活上知っておくべきこと。 8回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力向上やそれ以外の留学課題を考える。 9回目：自己紹介のプレゼン、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手方法。 10回目：安全対策(外務省の事例集) 11回目：医療関連の用語の中国語指導。 12回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手続きを読解し、注意事項を整理。 13回目：大使館へのビザ取得について指導、航空券の入手方法と留意点について。 14回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべきもの。 15回目：日本文化についてのプレゼン、出発前の諸注意、諸準備の確認。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	提出物 70%、プレゼン 30%、。																		
学生へのメッセージ	中国事情や中国文化の知識をたくさん知っておきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。 中国(北京あるいは上海)での留学はスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要と環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを紹介しながら、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全な準備をしておくのを徹底して指導する。																		
到達目標	万全な留学準備を整える。																		
授業方法と留意点	メモを取るのが肝心であり、毎回要点を確認する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える、提携校の概要と環境の紹介。 2回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成指導。 3回目：留学願書の作成状況を確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出(日本円)、支払上の注意事項。 4回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について説明。 5回目：日中文化の相違について。 6回目：留学先の歴史と最近の情勢について。 7回目：留学先での生活上知っておくべきこと。 8回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力向上やそれ以外の留学課題を考える。 9回目：自己紹介のプレゼン、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手方法。 10回目：安全対策(外務省の事例集) 11回目：医療関連の用語の中国語指導。 12回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手続きを読解し、注意事項を整理。 13回目：大使館へのビザ取得について指導、航空券の入手方法と留意点について。 14回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべきもの。 15回目：日本文化についてのプレゼン、出発前の諸注意、諸準備の確認。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	提出物 70%、プレゼン 30%、。																		
学生へのメッセージ	中国事情や中国文化の知識をたくさん知っておきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																		
備考																			

科目名	海外ワークキャンプ	科目名 (英文)	Overseas Work Experience
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		

授業概要・目的	参加メンバー（履修生）との共同活動を通じ、開発途上国への理解を深め、実習先での経験との共通点、相違点を確認する。現地の人々との出会いの中から、見つけた新たな課題と、今後の関わり方について考える。 なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つである。																
到達目標	①使える語学力（英語）や、異文化コミュニケーション能力を身につける。 ②異なる社会・文化のなかで暮らし、働くための総合力を身につける。 ③フィールドでの実体験を通じて、国際知識を養い、多文化環境のもとプロジェクトを動かすスキルを修得する。 ④ボランティア、自立支援など、国内外の団体を活動ができる。																
授業方法と留意点	履修登録学生は、オリエンテーションを行うので、必ず参加のこと。日時と教室は、ポータルにて連絡。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前教育 4回程度（生活環境・語学・習慣・ハートアクティビティプログラム*の習得） 現地活動 2019年2月中旬～3月上旬の2週間を予定している。 *ハートアクティビティ (Human Relation Training) プログラム：いろいろなゲームを通して、緊張をほぐし、お互いに尊重することを学び、コミュニケーションや協力関係、豊かな人間関係を築いていくためのプログラム。 履修登録時の注意事項： 履修希望者は、説明会に参加し、担当教員から、十分な説明を受けた上で履修申請を行うことが望ましい。説明を受けずに履修申請した場合、履修を取り消すことがある。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	事前活動・現地活動状況・帰国後レポートを合わせて(100%)評価する。																
学生へのメッセージ	後期に説明会を行う。ポータルにて一斉に周知する。																
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室・上田研究室）																
備考																	

科目名	外国語通訳法	科目名(英文)	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	インドネシア語における専門的知識と能力を持った人材になるための授業を行う。需要が多いが、使える人が少ないインドネシア語の専門的人材になるための通訳の技術を養う。この授業を通してインドネシア語能力の充実を目指す。
到達目標	インドネシア語⇄日本語の通訳を専門的に行うことができる能力の習得。
授業方法と留意点	すでに2年間インドネシア語を学んできた上で、さらなる能力の向上を目指すのであれば、各受講生は自分で十分準備をしてから授業に望んでほしい。様々な場面や内容によるインドネシア語⇄日本語を通訳を練習する。
科目学習の効果(資格)	通訳の知識を取得し、通訳者人材になることが出来る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価についての説明。	シラバスを読んでおくこと。
2	通訳1	通訳に関する基本的な知識の説明。	通訳に必要なものは何か、考えておくこと。
3	通訳2	通訳の練習1 インドネシア語から日本語への通訳練習。	通訳内容の予習をしておくこと。
4	通訳3	通訳の練習2 日本語からインドネシア語への翻訳練習2。	通訳内容の予習をしておくこと。
5	通訳4	通訳の練習3 インドネシア語から日本語への通訳練習3。	通訳内容の予習をしておくこと。
6	通訳5	通訳の練習4 日本語からインドネシア語への通訳練習4	通訳内容の予習をしておくこと。
7	通訳6	通訳の練習5 日本語からインドネシア語への通訳練習5。	通訳内容の予習をしておくこと。
8	通訳7	通訳の練習6 日本語からインドネシア語への通訳練習6。	通訳内容の予習をしておくこと。
9	ナレーションの通訳 ①	インドネシア語から日本語。	通訳内容の予習をしておくこと。
10	ナレーション通訳 ②	日本語からインドネシア語。	通訳内容の予習をしておくこと。
11	9回～10回までのまとめ	これまでに学んだことの復習と通訳テスト。	この授業に関する質問を用意しておくこと。
12	実践的な会話場面の通訳	インドネシア語から日本語。	通訳内容の予習をしておくこと。
13	ニュースの通訳①	インドネシア語から日本語。	通訳内容の予習をしておくこと。
14	ニュースの通訳	日本語からインドネシア語	第9回から第13回の復習をしておくこと。
15	12回～14回までのまとめ	これまでに学んだことの復習と理解度テスト。	この授業に関する質問を用意しておくこと。

関連科目	主言語インドネシア語の科目すべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	前半に2回提出する翻訳文、後半に2回行われる理解度テストおよび平常点と積極的な授業参加度の割合などを総合的に判断する。
学生へのメッセージ	4年間のインドネシア語学習の完成を目指して、努力をしてほしい。
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	指示された予習・復習には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。

科目名	外国語通訳法	科目名(英文)	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	日本の地理と文化を中国語で表現するのに必要な語彙、表現、文法の知識とともに、観光文化に関する情報、通訳する技術を学ぶ。さらにそれを発表することによってプレゼンのスキルを身につける。 この科目は「外国語専門職」「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目です。
到達目標	日本の自然文化、観光地、テーマパークなどで中国語を使った簡単な観光ガイドができることを目指す。
授業方法と留意点	日本の観光文化の基本知識を翻訳し、プレゼンの練習によって、通訳の能力を高める。
科目学習の効果(資格)	通訳案内士 中国語検定2級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	日本の自然・気候・風土①	日本の国土、人口、地形的な特徴、気候の特徴の中からよく知っていることについて、中国語で表現することを学ぶ。	資料を調査し、中国語に翻訳して、そして?プレゼンの準備をする。
2	日本の自然・気候・風土②	なぜ日本は地震と温泉が多いか、について、中国語で表現することを学ぶ。	資料を調査し、中国語に翻訳して、そして?プレゼンの準備をする。 を行う。
3	日本の自然・気候・風土③	櫻と桜の名所について、よく知っていることについて、中国語で表現することを学ぶ。	資料を調査し、中国語に翻訳して、そして?プレゼンの準備をする。
4	観光名所①	金閣寺と清水寺など、よく知っていることについて、中国語で表現することを学ぶ。	資料を調査し、中国語に翻訳して、そして?プレゼンの準備をする。
5	観光名所②	銀座と渋谷など、よく知っているところについて、中国語で表現することを学ぶ。	資料を調査し、中国語に翻訳して、そして?プレゼンの準備をする。
6	観光名所③	北海道と箱根など、よく知っていることについて、中国語で表現することを学ぶ。	資料を調査し、中国語に翻訳して、そして?プレゼンの準備をする。
7	観光名所④	有名な城、人気なテーマパークなど、よく知っていることについて、中国語で表現することを学ぶ。	資料を調査し、中国語に翻訳して、そして?プレゼンの準備をする。
8	日本事情①	日本の国旗と国歌など、よく知っていることについて、中国語で表現することを学ぶ。	資料を調査し、中国語に翻訳して、そして?プレゼンの準備をする。
9	日本事情②	寺と神社はどんな時に行くか、について、中国語で表現することを学ぶ。	資料を調査し、中国語に翻訳して、そして?プレゼンの準備をする。
10	日本事情③	日本庭園の特徴について、中国語で表現することを学ぶ。	資料を調査し、中国語に翻訳して、そして?プレゼンの準備をする。
11	日本事情④	日本の芸者について、中国語で表現することを学ぶ。	資料を調査し、中国語に翻訳して、そして?プレゼンの準備をする。
12	日本事情⑤	お正月について、中国語で表現することを学ぶ。	資料を調査し、中国語に翻訳して、そして?プレゼンの準備をする。
13	日本事情⑥	神の使者カラスなどについて、よく知っていることについて、中国語で表現することを学ぶ。	資料を調査し、中国語に翻訳して、そして?プレゼンの準備をする。
14	日本事情⑦	日本人なぜ風呂が好きなのか、について、中国語で表現することを学ぶ。	資料を調査し、中国語に翻訳して、そして?プレゼンの準備をする。
15	日本事情⑧	日本人はどんな時に着物を着るか、について、中国語で表現することを学ぶ。	資料を調査し、中国語に翻訳して、そして?プレゼンの準備をする。

関連科目 中国語主言語または共通言語2年生対象科目を修了していること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語で日本のことを話してみる	秦燕・芳沢ひろ子	中経出版社
2	中国語で旅する 日本列島大縦断		㈱日中通信社	
3	日中辞典			

評価方法 (基準) 授業への参加度と提出物：50%
期末発表：50%

学生へのメッセージ 事前60分以上の学習が必要です。教科書は使用していないが、参考となる書籍を適宜紹介するので、実際に手に取って読むことを強く進める

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。

科目名	外国語通訳法	科目名(英文)	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 通訳という専門的職業とはなにかを理解するために、その歴史、種類、求められる資質や能力、そのプロセス、翻訳との比較などの観点から、通訳という異言語間コミュニケーションの本質に迫る。その後、通訳トレーニングの紹介を通じて、言語コミュニケーションの本質を考える材料を提供し、導入的実践を行うことで、履修者は外国語学習の新しい方法を体験する。																																																																		
到達目標	通訳という職業を理論的に理解するとともに、実践的トレーニングを通じて異言語間コミュニケーションの方法論を学ぶ。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式と実習の両方の要素があり、どちらにも積極的に参加し、チャレンジしてください。																																																																		
科目学習の効果(資格)	語学力を証明できる唯一の国家資格である通訳案内士の資格取得をめざす動機付けとなる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>通訳とはなにか</td> <td>通訳の歴史</td> <td>シラバスを読む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>通訳とはなにか</td> <td>通訳の種類(技術上の分類;分野別の分類)</td> <td>参考文献を読む</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>通訳とはなにか</td> <td>通訳者に求められるもの</td> <td>参考文献を読む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>通訳とはなにか</td> <td>コミュニケーション・スペシャリストに必要な要素</td> <td>参考文献を読む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>通訳のプロセス</td> <td>言語学、心理学の最新理論</td> <td>参考文献を読む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>通訳のプロセス</td> <td>翻訳との比較</td> <td>参考文献を読む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中間試験とこれまでのまとめ</td> <td>通訳という職業の本質について</td> <td>スペイン語の通訳案内士過去問に当たる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>通訳トレーニング</td> <td>シャドウイング</td> <td>参考文献を読む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>通訳トレーニング</td> <td>スラッシュ・リーディング</td> <td>参考文献を読む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>通訳トレーニング</td> <td>サイト・トランスレーション</td> <td>参考文献を読む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>通訳トレーニング</td> <td>同時通訳と逐次通訳</td> <td>参考文献を読む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>実践編</td> <td>スペイン語による通訳実践の試み(1)</td> <td>参考文献を読む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>実践編</td> <td>スペイン語による通訳実践の試み(2)</td> <td>参考文献を読む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>プロの通訳を迎えて(または授業担当者による通訳業の具体例紹介)</td> <td>体験談を聴く</td> <td>参考文献を読む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>理解度確認試験と総まとめ</td> <td>国家資格「通訳案内士」についての説明</td> <td>資格取得に向けて、勉強を開始する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	通訳とはなにか	通訳の歴史	シラバスを読む	2	通訳とはなにか	通訳の種類(技術上の分類;分野別の分類)	参考文献を読む	3	通訳とはなにか	通訳者に求められるもの	参考文献を読む	4	通訳とはなにか	コミュニケーション・スペシャリストに必要な要素	参考文献を読む	5	通訳のプロセス	言語学、心理学の最新理論	参考文献を読む	6	通訳のプロセス	翻訳との比較	参考文献を読む	7	中間試験とこれまでのまとめ	通訳という職業の本質について	スペイン語の通訳案内士過去問に当たる	8	通訳トレーニング	シャドウイング	参考文献を読む	9	通訳トレーニング	スラッシュ・リーディング	参考文献を読む	10	通訳トレーニング	サイト・トランスレーション	参考文献を読む	11	通訳トレーニング	同時通訳と逐次通訳	参考文献を読む	12	実践編	スペイン語による通訳実践の試み(1)	参考文献を読む	13	実践編	スペイン語による通訳実践の試み(2)	参考文献を読む	14	プロの通訳を迎えて(または授業担当者による通訳業の具体例紹介)	体験談を聴く	参考文献を読む	15	理解度確認試験と総まとめ	国家資格「通訳案内士」についての説明	資格取得に向けて、勉強を開始する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	通訳とはなにか	通訳の歴史	シラバスを読む																																																																
2	通訳とはなにか	通訳の種類(技術上の分類;分野別の分類)	参考文献を読む																																																																
3	通訳とはなにか	通訳者に求められるもの	参考文献を読む																																																																
4	通訳とはなにか	コミュニケーション・スペシャリストに必要な要素	参考文献を読む																																																																
5	通訳のプロセス	言語学、心理学の最新理論	参考文献を読む																																																																
6	通訳のプロセス	翻訳との比較	参考文献を読む																																																																
7	中間試験とこれまでのまとめ	通訳という職業の本質について	スペイン語の通訳案内士過去問に当たる																																																																
8	通訳トレーニング	シャドウイング	参考文献を読む																																																																
9	通訳トレーニング	スラッシュ・リーディング	参考文献を読む																																																																
10	通訳トレーニング	サイト・トランスレーション	参考文献を読む																																																																
11	通訳トレーニング	同時通訳と逐次通訳	参考文献を読む																																																																
12	実践編	スペイン語による通訳実践の試み(1)	参考文献を読む																																																																
13	実践編	スペイン語による通訳実践の試み(2)	参考文献を読む																																																																
14	プロの通訳を迎えて(または授業担当者による通訳業の具体例紹介)	体験談を聴く	参考文献を読む																																																																
15	理解度確認試験と総まとめ	国家資格「通訳案内士」についての説明	資格取得に向けて、勉強を開始する																																																																
関連科目	外国語翻訳法																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>不実な美女か貞淑な醜女か</td> <td>米原万里</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	不実な美女か貞淑な醜女か	米原万里	新潮文庫	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	不実な美女か貞淑な醜女か	米原万里	新潮文庫																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	講義内容に対する質問や提案、実習への積極的参加等 70%、学期中の小テスト、理解度確認試験 30%																																																																		
学生へのメッセージ	通訳案内士や会議通訳として活躍する人物をお招きする機会をできれば設けます(時期は14回目とは限りません)。紹介する参考文献をどんどん読み進めてください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																																																																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。																																																																		

科目名	外国語通訳法	科目名(英文)	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 今までにつかかった英文法や語彙などの英語の知識があることと、その知識を使い、実際のコミュニケーションができることは異なるものである。 この授業では、翻訳とオーラルコミュニケーションを含む実務的な英語能力を養成することを目的とする。
到達目標	翻訳や通訳に関する基礎的な訓練を行うことにより、英語のコミュニケーション能力が向上する。 また、日本語らしい日本語訳の訓練、日本語から英語、英語から日本語への変換の訓練を通して、英語能力の向上はもとより、外国語専門職につくためのモチベーションがあがる。
授業方法と留意点	教科書は身近なトピックを扱い、英語から日本語、日本語から英語の多様な練習問題がある。予習を前提として、教科書の課題をこなしていく。 教科書以外にも翻訳、通訳に関する様々な問題に取り組む。 翻訳、通訳のための学習訓練では、積極的に授業に関わることが重要である。
科目学習の効果(資格)	外国語専門職に関連する資格試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 7: 日本の文化	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
3	Unit 7: 日本の文化	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
4	Unit 8: 海外の文化	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
5	Unit 8: 海外の文化	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
6	Unit 9: 社会事情 1	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
7	Unit 9: 社会事情 1	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
8	進度調整とテキスト以外の教材	実践的な学習訓練	予習と復習
9	Unit 10: 社会事情 2	英語から日本語 日本から英語	予習と復習
10	Unit 10: 社会事情 2	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
11	Unit 11: 観光	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
12	Unit 11: 観光	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
13	Unit 12: コミュニケーション	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
14	Unit 12: コミュニケーション	日本語から英語 複数文通訳	復習とテスト準備
15	後期まとめ	後期の学習習熟度をみるためのまとめのテスト	事前のテスト準備

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Developing Interpreting Skills for Communication	齋藤 彩子/皆川 治恵/Richard G. Potter	南雲堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業中の小テスト・発言・予習・提出等 60% まとめのテスト 40% 実務的な英語能力向上を目指す授業であるので、授業内での積極的な参加や課題提出は評価に大きく影響する。 詳しくは第1回目の授業で説明する。
----------	--

学生へのメッセージ	集中力をもって、積極的に授業に参加すること
-----------	-----------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のためにテキストや課題を読み、授業前にしっかり準備することが必要である。課題や予習に要する事前・事後の学習総時間は約3時間とする。 また、課題の提出期限は厳守すること。 随時、教科書以外の教材を使うため授業計画が変更されることがある。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	外国語翻訳法	科目名(英文)	Methods and Techniques for Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 スペイン語の文章を日本語にする練習。 翻訳とは、単純な語句の置き換えではなく、解釈と表現の両面で熟考を要する作業である。 まず、スペイン語の文章を文法的・論理的に正しくとらえること、次に、それを機械翻訳のような逐語的な訳ではなく日本語らしく表現することを心がける。
到達目標	スペイン語の様々なジャンル・スタイルの文章を、正確に読み解く力を養うこと。 新聞記事やエッセイ、小説や評論など、ジャンルや書き手による文体の相違(存在)に気づくこと。 日本語とスペイン語の違いを、文法や表現法のレベルで認識すること。 日本語について考えること(文法や言い回し、日本人の言語文化)。 言語が文化そのものであるという認識をもとに、文法的にも文化的にも適当な翻訳ができるようになること。
授業方法と留意点	予習・復習に相当の時間をかけること。 毎回、様々な文章を題材として与える。文脈や時系列、論理の筋、話の展開を意識して読む。
科目学習の効果(資格)	言語能力(文法および論理と表現の面)を鍛えること。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	どのように授業を行うか。 翻訳とはどういうものか。 辞書や参考書、アプリやツールについての説明。	シラバスを読む 課題に取り組む
	2	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。
	3	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。
	4	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。
	5	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
	6	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
	7	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
	8	試験	前半の学習内容について問う。	まとめ。
	9	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
	10	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
	11	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。
	12	読み物	日本の文学作品のスペイン語訳を読む。	読みと訳に取り組む。
	13	読み物	日本の文学作品のスペイン語訳を読む。	読みと訳に取り組む。
	14	読み物	日本の文学作品のスペイン語訳を読む。	読みと訳に取り組む。
	15	試験	学習内容のすべて。	まとめ。

関連科目	スペイン語通訳ガイド、外国語通訳法、その他スペイン語のすべての科目。 日本語に関する科目。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	中間および期末の試験70%と平常の受講態度(予習や質問、応答、確認の小テスト等も含む)30%、で評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	自分の普段の言語活動についてよく考えよう。いつでもどこでも誰に対しても同じような話し方・書き方をするだろうか。どんな時にどのような言い方を工夫するだろうか。この科目はスペイン語の科目であっても、ほとんど、問題は日本語にあることに気づくだろう。 日ごろから、とにかく、文字(書かれた言語)に触れること、本を読むこと。 何も学ぶ気がない者にとっては苦痛でしかない時間になる。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室
----------	-------------

備考	3分の1以上の欠席は、最終評価が0点となる。遅刻は原則、欠席とカウントする。
----	--

科目名	外国語翻訳法	科目名(英文)	Methods and Techniques for Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	この科目は、外国語専門職プログラム対応科目です。日本文化を中国語で紹介するのに必要な語彙、表現、文法の知識と共に翻訳の技術を学ぶ。
到達目標	日本文化に関して、中国語を使った簡単なガイドができることを目指す。
授業方法と留意点	翻訳の基礎知識を学ぶ。期末に、観光か、食文化か、日本の習慣をテーマに中国語で発表する(画像データの利用も可能)。
科目学習の効果(資格)	通訳案内士 中国語検定2級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	食文化①	「梅干し」「駅弁」「お好み焼き」の中からよく知っている食べ物について、中国語で表現する練習を行う。	与えられた課題に関係する内容(日本語)を調べ、中国語で話してみる。
2	食文化②	「稲荷寿司」「親子丼」「懷石料理」「回転寿司」の中からよく知っている食べ物について、中国語で表現する練習を行う。	与えられた課題に関係する内容(日本語)を調べ、中国語で話してみる。
3	食文化③	「かき氷」「駄菓子」「饅頭」「蒲焼き」の中からよく知っている食べ物について、中国語で表現する練習を行う。	与えられた課題に関係する内容(日本語)を調べ、中国語で話してみる。
4	生活文化①	「正座」「座布団」「布団」「押入れ」の中からよく知っていることについて、中国語で表現する練習を行う。	与えられた課題に関係する内容(日本語)を調べ、中国語で話してみる。
5	生活文化②	「炬燵(こたつ)」「団扇」「風鈴」「囲炉裏」の中からよく知っていることについて、中国語で表現する練習を行う。	与えられた課題に関係する内容(日本語)を調べ、中国語で話してみる。
6	生活文化③	「銭湯」「民宿」「簾」「暖簾」生徒がよく知っている日常生活について、中国語で表現する練習を行う。	与えられた課題に関係する内容(日本語)を調べ、中国語で話してみる。
7	衣服文化	「着物」「振袖」「浴衣」「下駄」の中からよく知っていることについて、中国語で表現する練習を行う。	与えられた課題に関係する内容(日本語)を調べ、中国語で話してみる。
8	年中行事①	「初詣」「年賀状」「お年玉」「初夢」の中よく知っていることについて、中国語で表現する練習を行う。	与えられた課題に関係する内容(日本語)を調べ、中国語で話してみる。
9	年中行事②	「ひな祭り」「花見」「鯉のぼり」「七夕」の中からよく知っていることについて、中国語で表現する練習を行う。	与えられた課題に関係する内容(日本語)を調べ、中国語で話してみる。
10	年中行事③	「紅白歌合戦」「忘年会」「お歳暮」「大晦日」の中からよく知っていることについて、中国語で表現する練習を行う。	与えられた課題に関係する内容(日本語)を調べ、中国語で話してみる。
11	趣味	「書道」「茶道」「生け花」「香道」の中からよく知っていることについて、中国語で表現する練習を行う。	与えられた課題に関係する内容(日本語)を調べ、中国語で話してみる。
12	信仰・宗教	「七福神」「地藏」「座禅」「おみくじ」の中からよく知っていることについて、中国語で表現する練習を行う。	与えられた課題に関係する内容(日本語)を調べ、中国語で話してみる。
13	スポーツ	「プロ野球」「相撲」「空手」「駅伝」の中からよく知っているスポーツについて、中国語で表現する練習を行う。	資料を探し、中国語で発表する準備をする。
14	プレゼンテーション①	自らテーマを探し、先ず日本語文を書き、次中国語に翻訳して発表する。	資料を探し、中国語で発表する準備をする。
15	プレゼンテーション②	自らテーマを探し、先ず日本語文を書き、次中国語に翻訳して発表する。	資料を探し、中国語で発表する準備をする。

関連科目	中国語主言語または共通言語2年生対象科目を修了していること。
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語で日本のことを話してみる	秦燕・芳沢ひろ子	中経出版
	2	中国語で紹介する日本	林怡州・後藤香代子	
	3	日中辞典		

評価方法(基準)	授業への参加度と提出物: 50% 期末発表: 50%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	事前60分以上の学習が必要です。教科書は使用していないが、参考となる書籍を適宜紹介するので、実際に手に取って読むことを強く進める
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	外国語翻訳法	科目名(英文)	Methods and Techniques for Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 今までにつちかった英文法や語彙などの英語の知識があることと、その知識を使い、実際のコミュニケーションができることは異なるものである。 この授業では、翻訳とオーラルコミュニケーションを含む実務的な英語能力を養成することを目的とする。
到達目標	翻訳や通訳に関する基礎的な訓練を行うことにより、英語のコミュニケーション能力が向上する。 また、日本語らしい日本語訳の訓練、日本語から英語、英語から日本語への変換の訓練を通して、英語能力の向上はもとより、外国語専門職につくためのモチベーションがあがる。
授業方法と留意点	教科書は身近なトピックを扱い、英語から日本語、日本語から英語の多様な練習問題がある。予習を前提として、教科書の課題をこなしていく。 教科書以外にも翻訳、通訳に関する様々な問題に取り組む。 翻訳、通訳のための学習訓練では、積極的に授業に関わることが重要である。
科目学習の効果(資格)	外国語専門職に関連する資格試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: 家族	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
3	Unit 1: 家族	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
4	Unit 2: 大学生活	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
5	Unit 2: 大学生活	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
6	Unit 3: 趣味1	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
7	Unit 3: 趣味1	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
8	進度調整とテキスト以外の教材	実践的な学習訓練	予習と復習
9	Unit 4: 趣味2	英語から日本語 日本から英語	予習と復習
10	Unit 4: 趣味2	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
11	Unit 5: 国際交流 実践演習1	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
12	Unit 5: 国際交流 実践演習1	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習
13	Unit 6: 国際交流 実践演習2	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習
14	Unit 6: 国際交流 実践演習2	日本語から英語 複数文通訳	復習とテスト準備
15	前期まとめ	前期の学習習熟度をみるためのまとめのテスト	事前のテスト準備

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業中の小テスト・発言・予習・提出等 60% まとめのテスト 40% 実務的な英語能力向上を目指す授業であるので、授業内での積極的な参加や課題提出は評価に大きく影響する。
学生へのメッセージ	集中力をもって、積極的に授業に参加すること
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のためにテキストや課題を読み、授業前にしっかり準備することが必要である。課題や予習に要する事前・事後の学習総時間は約3時間とする。 また、課題の提出期限は厳守すること。 随時、教科書以外の教材を使うため、授業計画の変更がある。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	カレント イングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	矢富 弘
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	最新技術に関する話題 (1)	AI やロボットといった最新の技術についてあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	AI といった技術に関する英語表現を勉強する。
3	最新技術に関する話題 (2)	第2回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
4	福祉に関する話題 (1)	福祉に関する話題 (1) 世界各国の福祉の現状をあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	ベーシックインカムなど福祉に関する英語表現を勉強する。
5	福祉に関する話題 (2)	第4回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。
7	経済に関する話題 (2)	第6回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
8	健康に関する話題 (1)	健康に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	健康に関する英語表現を勉強する。
9	健康に関する話題 (2)	第8回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
10	歴史に関する話題 (1)	歴史を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。
11	歴史に関する話題 (2)	第10回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
12	科学に関する話題 (1)	最新科学を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。
13	科学に関する話題 (2)	第12回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
14	政治に関する話題	各国の政治関連の記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	政治に関する英語表現を勉強する。

関連科目	メディアイングリッシュ a, b
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2018	若有 保彦	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	“Every man takes the limits of his own fields of vision for the limits of the world.” - Arthur Schopenhauer, Psychological Observation. 「誰もが自分の視野の限界を世界の視野の限界だと思っている。」 アルトゥール・ショーペンハウアー 『心理学的観察』 外国語学習はコミュニケーションの手段を得ることに留まらず、あなたの「視野」を拡張違う世界を見せてくれるでしょう。一緒に楽しみながら学びましょう。
-----------	---

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室.
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	カレント イングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	住吉 誠
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	最新技術に関する話題 (1)	AI やロボットといった最新の技術についてあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	AI といった技術に関する英語表現を勉強する。
3	最新技術に関する話題 (2)	第2回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
4	福祉に関する話題 (1)	福祉に関する話題 (1) 世界各国の福祉の現状をあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	ベーシックインカムなど福祉に関する英語表現を勉強する。
5	福祉に関する話題 (2)	第4回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。
7	経済に関する話題 (2)	第6回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
8	健康に関する話題 (1)	健康に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	健康に関する英語表現を勉強する。
9	健康に関する話題 (2)	第8回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
10	歴史に関する話題 (1)	歴史を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。
11	歴史に関する話題 (2)	第10回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
12	科学に関する話題 (1)	最新科学を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。
13	科学に関する話題 (2)	第12回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
14	政治に関する話題	各国の政治関連の記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2018	若有 保彦	成美堂
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 住吉研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	カレント イングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	三宅 一平
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	
	2	最新技術に関する話題 (1)	AI やロボットといった最新の技術についてあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	AI といった技術に関する英語表現を勉強する。
	3	最新技術に関する話題 (2)	第2回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
	4	福祉に関する話題 (1)	福祉に関する話題 (1) 世界各国の福祉の現状をあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	ベーシックインカムなど福祉に関する英語表現を勉強する。
	5	福祉に関する話題 (2)	第4回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
	6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。
	7	経済に関する話題 (2)	第6回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
	8	健康に関する話題 (1)	健康に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	健康に関する英語表現を勉強する。
	9	健康に関する話題 (2)	第8回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
	10	歴史に関する話題 (1)	歴史を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。
	11	歴史に関する話題 (2)	第10回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
	12	科学に関する話題 (1)	最新科学を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。
	13	科学に関する話題 (2)	第12回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
	14	政治に関する話題	各国の政治関連の記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2018	若有 保彦	成美堂
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	積極的に意見を発信する姿勢をもって授業に臨んでください。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	カレント イングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	最新技術に関する話題 (1)	AI やロボットといった最新の技術についてあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	AI といった技術に関する英語表現を勉強する。
3	最新技術に関する話題 (2)	第2回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
4	福祉に関する話題 (1)	福祉に関する話題 (1) 世界各国の福祉の現状をあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	ベーシックインカムなど福祉に関する英語表現を勉強する。
5	福祉に関する話題 (2)	第4回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。
7	経済に関する話題 (2)	第6回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
8	健康に関する話題 (1)	健康に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	健康に関する英語表現を勉強する。
9	健康に関する話題 (2)	第8回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
10	歴史に関する話題 (1)	歴史を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。
11	歴史に関する話題 (2)	第10回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
12	科学に関する話題 (1)	最新科学を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。
13	科学に関する話題 (2)	第12回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
14	政治に関する話題	各国の政治関連の記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2018	若有 保彦	成美堂
2				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	カレント イングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	矢富 弘
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起きている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文化に関する話題 (1)	日本文化の海外への広まりについてあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	文化に関する英語表現を勉強する。
3	文化に関する話題 (2)	第2回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
4	歴史に関する話題 (1)	歴史の話題をあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。
5	歴史に関する話題 (2)	第4回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。
7	経済に関する話題 (2)	第6回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
8	政治に関する話題 (1)	政治に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。
9	政治に関する話題 (2)	第8回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
10	言語に関する話題 (1)	言語を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	言語に関する英語表現を勉強する。
11	言語に関する話題 (2)	第10回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
12	保険に関する話題 (1)	保険を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	保険に関する英語表現を勉強する。
13	保険に関する話題 (2)	第12回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
14	科学に関する話題	科学的内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	科学に関する英語表現を勉強する。

関連科目	メディアイングリッシュ a, b
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2018	若野 保彦	成美堂
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	“Every man takes the limits of his own fields of vision for the limits of the world.” - Arthur Schopenhauer, Psychological Observation. 「誰もが自分の視野の限界を世界の視野の限界だと思っている。」 アルトゥール・ショーペンハウアー 『心理学的観察』 外国語学習はコミュニケーションの手段を得ることに留まらず、あなたの「視野」を広げ違う世界を見せてくれるでしょう。一緒に楽しみながら学びましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	カレント イングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	住吉 誠
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文化に関する話題 (1)	日本文化の海外への広まりについてあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	文化に関する英語表現を勉強する。
3	文化に関する話題 (2)	第2回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
4	歴史に関する話題 (1)	歴史の話題をあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。
5	歴史に関する話題 (2)	第4回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。
7	経済に関する話題 (2)	第6回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
8	政治に関する話題 (1)	政治に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。
9	政治に関する話題 (2)	第8回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
10	言語に関する話題 (1)	言語を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	言語に関する英語表現を勉強する。
11	言語に関する話題 (2)	第10回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
12	保険に関する話題 (1)	保険を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	保険に関する英語表現を勉強する。
13	保険に関する話題 (2)	第12回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
14	科学に関する話題	科学的内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Meet the World: English through Newspapers 2018</td> <td>若手 保彦</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Meet the World: English through Newspapers 2018	若手 保彦	成美堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Meet the World: English through Newspapers 2018	若手 保彦	成美堂														
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2			
番号	書籍名	著者名	出版社名										
1													
2													

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 住吉研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	カレント イングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	三宅 一平
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文化に関する話題 (1)	日本文化の海外への広まりについてあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	文化に関する英語表現を勉強する。
3	文化に関する話題 (2)	第2回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
4	歴史に関する話題 (1)	歴史の話題をあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。
5	歴史に関する話題 (2)	第4回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。
7	経済に関する話題 (2)	第6回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
8	政治に関する話題 (1)	政治に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。
9	政治に関する話題 (2)	第8回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
10	言語に関する話題 (1)	言語を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	言語に関する英語表現を勉強する。
11	言語に関する話題 (2)	第10回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
12	保険に関する話題 (1)	保険を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	保険に関する英語表現を勉強する。
13	保険に関する話題 (2)	第12回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
14	科学に関する話題	科学的内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2018	若野 保彦	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	積極的に意見を発信する姿勢をもって授業に臨んでください。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	カレント イングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文化に関する話題 (1)	日本文化の海外への広まりについてあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	文化に関する英語表現を勉強する。
3	文化に関する話題 (2)	第2回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
4	歴史に関する話題 (1)	歴史の話題をあつかった英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。
5	歴史に関する話題 (2)	第4回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。
7	経済に関する話題 (2)	第6回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
8	政治に関する話題 (1)	政治に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。
9	政治に関する話題 (2)	第8回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
10	言語に関する話題 (1)	言語を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	言語に関する英語表現を勉強する。
11	言語に関する話題 (2)	第10回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
12	保険に関する話題 (1)	保険を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	保険に関する英語表現を勉強する。
13	保険に関する話題 (2)	第12回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
14	科学に関する話題	科学的内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2018	若手 保彦	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	観光中国語 a	科目名 (英文)	Tourism Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	<p>最近、中国人観光客の増加により、日本観光市場が新しい段階を迎えようとしている。東京だけではなく、関西でも中国人観光客が増え、空港や商店などで中国語を話す声があちこちから聞こえて来る。乗務員や空港スタッフ、旅行案内、ホテルや商店の店員など、いま日本は中国語の話せる人材を大いに必要としている。観光やビジネスで中国語が話せたら、世界はもっと広がる。</p> <p>本講義は、中国一番の大都市上海をスポットとして、空港、地下鉄に乗る、ショッピング、道を探るなどでよく使われている最新の観光中国語会話を学んでいくことを主眼にしている。また、中国の世界遺産も詳しく紹介する。</p>																																																																		
到達目標	観光中国語の会話能力を身に付ける。																																																																		
授業方法と留意点	授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国人の観光客を案内する能力を身に付ける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課</td> <td>LOVE! 上海 1 の復習課</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第1課 虹橋空港にて</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第2課 地下鉄に乗って</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第3課 上海の交通は便利です</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第4課 2週間上海にいます</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第5課 豫園でショッピング</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>復習1、総合練習、小テスト</td> <td>第5課までの内容を復習する</td> <td>第5課までの内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第6課 道を探る</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第7課 オールドジャズバンド</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第8課 ジャズバーで飲みながら</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第9課 上海人の友達の家で</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第10課 朝食後は何をしますか？</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第11課 市場にて</td> <td>単語、本文、文法、練習</td> <td>授業内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>復習2、総合練習、小テスト</td> <td>第6課から第11課までの内容を復習する</td> <td>第6課から第11課までの内容を復習、発表の内容を準備する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>発表会</td> <td>発表の内容をチェックする</td> <td>発表の内容を暗唱する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課	LOVE! 上海 1 の復習課	授業内容を復習、次の内容を予習する。	2	第1課 虹橋空港にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	3	第2課 地下鉄に乗って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	4	第3課 上海の交通は便利です	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	5	第4課 2週間上海にいます	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	6	第5課 豫園でショッピング	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	7	復習1、総合練習、小テスト	第5課までの内容を復習する	第5課までの内容を復習、次の内容を予習する。	8	第6課 道を探る	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	9	第7課 オールドジャズバンド	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	10	第8課 ジャズバーで飲みながら	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	11	第9課 上海人の友達の家で	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	12	第10課 朝食後は何をしますか？	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	13	第11課 市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。	14	復習2、総合練習、小テスト	第6課から第11課までの内容を復習する	第6課から第11課までの内容を復習、発表の内容を準備する。	15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課	LOVE! 上海 1 の復習課	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
2	第1課 虹橋空港にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
3	第2課 地下鉄に乗って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
4	第3課 上海の交通は便利です	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
5	第4課 2週間上海にいます	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
6	第5課 豫園でショッピング	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
7	復習1、総合練習、小テスト	第5課までの内容を復習する	第5課までの内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
8	第6課 道を探る	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
9	第7課 オールドジャズバンド	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
10	第8課 ジャズバーで飲みながら	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
11	第9課 上海人の友達の家で	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
12	第10課 朝食後は何をしますか？	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
13	第11課 市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
14	復習2、総合練習、小テスト	第6課から第11課までの内容を復習する	第6課から第11課までの内容を復習、発表の内容を準備する。																																																																
15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>LOVE! 上海 2 初級～中級編</td> <td>楊凱榮・張麗群</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	LOVE! 上海 2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	LOVE! 上海 2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。</p> <p>授業への参加度と発表：30%</p> <p>単元テスト：70%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	最近中国からの観光客が増えています、この授業で身に付ける観光中国語がいつかどこかで役に立つはずですよ。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	<p>事前・事後に各60分の学修を要する。</p> <p>授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都、中西、兪）を通じて問い合わせることもできる。</p>																																																																		

科目名	観光中国語 b	科目名 (英文)	Tourism Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的
 最近、中国人観光客の増加により、日本観光市場が新しい段階を迎えようとしている。東京だけではなく、関西でも中国人観光客が増え、空港や商店などで中国語を話す声があちこちから聞こえて来る。乗務員や空港スタッフ、旅行案内、ホテルや商店の店員など、いま日本は中国語の話せる人材を大いに必要としている。観光やビジネスで中国語が話せたら、世界はもっと広がる。
 本講義は、中国一番の大都市—上海をスポットとして、空港、地下鉄に乗る、ショッピング、道を尋ねるなどでよく使われている最新の観光中国語会話を学んでいくことを主眼にしている。また、中国の世界遺産も詳しく紹介する。

到達目標
 観光中国語の会話能力を身に付ける。

授業方法と留意点
 授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。

科目学習の効果 (資格)
 中国人の観光客を案内する能力を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、第12課 上海人も好きです	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
2	第13課 日本料理を食べてみたい	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
3	第14課 お寺に興味はありますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
4	第15課 日本料理を食べて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
5	復習3、総合練習、小テスト	第12課から第15課までの内容を復習する	授業内容を復習、次の内容を予習する。
6	第16課 散歩から帰って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
7	第17課 列車のチケット	単語、本文、文法、練習	第5課までの内容を復習、次の内容を予習する。
8	第18課 周庄は遠いですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
9	第19課 帰国前のひととき	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
10	復習4、総合練習、小テスト	第16課から第19課までの内容を復習する	授業内容を復習、次の内容を予習する。
11	第20課 留学したいですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
12	第21課 何時に出発しますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
13	第22課 また来てください	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
14	復習5、総合練習、小テスト	第20課から第22課までの内容を復習する	発表の内容を準備する。
15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	LOVE! 上海2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。
 授業への参加度と発表：40%
 単元テスト：60%

学生へのメッセージ
 最近中国からの観光客が増えています、この授業で身に付ける観光中国語がいつかどこかで役に立つはずですよ。

担当者の研究室等
 7号館2階非常勤講師室

備考
 学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都、中西、兪)を通じて問い合わせることもできる。

科目名	韓国語Ⅱ a	科目名(英文)	Korean IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では初めて韓国語を学ぶ人を対象とし、まずは文字やその読み方から始めていく。読み書きを反復練習することを通じて文字や読み方が定着した後は、発音ルールを学び、単語、文章なども読めるように練習する。その後は基礎的な文法の能力も養っていく。
到達目標	韓国語の文字、発音と基礎的な文法事項を習得する
授業方法と留意点	初めて習う文字を定着させるために反復練習を実施する。最初は毎回授業の始めに小テスト形式で既習事項を確認する作業を予定しており、文字定着まではある程度の復習を必要とする。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	韓国語を通して、韓国の社会や文化への理解を深める。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	ハングル文字について	基本母音	テキスト2課
3	ハングル文字について	基本母音の確認テスト、子音(平音)	テキスト3課
4	ハングル文字について	基本母音、子音(平音)の確認テスト、子音(濃音、激音)	テキスト3課
5	ハングル文字について	基本母音、子音(平音、激音、濃音)の確認テスト、複合母音	テキスト4課
6	ハングル文字について	反切表	反切表
7	ハングル文字について	文字のまとめと復習	プリント配布
8	まとめ	前半のまとめ、小テスト	プリント配布
9	パッチム	パッチムの種類と発音	テキスト5課
10	発音ルール	有声音化、連音化、鼻音化	テキスト6課
11	発音ルール	h音の発音ルール	テキスト6課
12	基本のあいさつ	あいさつ文	テキスト7課
13	自己紹介文	ある程度まとまった文の読み書き	プリント配布
14	前期のまとめ	後半のまとめ、及び前期の内容についての総合的な復習。確認のテスト	プリントの配布
15	韓国ドラマの鑑賞	韓国ドラマの鑑賞、簡単なセリフの理解	プリント配布

関連科目	韓国語初級
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業参加状況、講義時の対応、小テストの成績などを総合的に評価する。授業中に多くの小テストがあるため、その得点率を重視する。定期試験は行わず、授業中の態度、複数回の小テストといった平常点で評価する。出席回数が基準に満たない場合は不合格とする。
----------	--

学生へのメッセージ	きちんと努力して学べば、これまで全く知らなかった言語を読めるようになります。隣国であり近年特に文化的にも交流のある韓国について言語を通して学んでいきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	必要事項は授業中に指示する。授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。
----	--

科目名	韓国語Ⅱ a	科目名(英文)	Korean IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	不慣れな姿のハングルを知り韓国語を学ぶことで、日本語と韓国語のもつ類似点、そして同じ漢字文化圏なので、様々な言葉や表現の共通点を発見することが出来る。隣の国、韓国を真の意味で近い国として実感し、韓国の歴史や文化に興味を深めることと、両国がより近い関係に回復できるきっかけとなつてほしいと望みます。外国語である日本語を習得する過程から得られた私の経験を踏まえ、初めて韓国語を学習する人でも楽しくやさしく学ぶことが出来るように心掛けます。
到達目標	1. 韓国語の文字であるハングルの読み、書きが出来るようになる。 2. ハングルで自分の名前を覚える。 3. 簡単な挨拶や自己紹介が出来るようになる。
授業方法と留意点	教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CDも活用しながら、k-pop や韓国映画、ドラマも紹介する。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ハングル文字について	基本母音字	テキストP. 16-19
3	ハングル文字について	基本子音字	テキスト. 20-27
4	ハングル文字について	複合母音字	テキストp. 28-32
5	ハングル文字について	激音、濃音について。 自分の名前と家族や友達の名3をハングルで書いてみる	テキストp. 30-39
6	ハングル文字について	パッチムについて。	テキストp. 40-47
7	ハングル文字総合まとめ	ハングルの覚える際に使っていた単語を覚える。 韓国で使われている外来語を読んで、意味を予測してみたり、日本語との発音の違い調べてみる。	テキストp. 16-47
8	ハングル文字総合まとめ	中間単語テスト	中間単語テスト勉強
9	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	「カンナさん大成功です！」	映画の中から聞き取れた韓国語を5つ以上ノートに書く。
10	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	「カンナさん大成功です！」	映画の中から聞き取れた韓国語を5つ以上ノートに書く。
11	基本的な助詞をまなぶ。	文字を勉強する際に覚えた単語を使って、短い作文をしながら、助詞を勉強する。	宿題;各助詞を使った作文を書いて次回の授業時間に提出する。
12	第6課 こんにちは。	基本的な挨拶と簡単な自己紹介。	テキスト P. 52-54
13	第6課 こんにちは。	職業は何ですか? 用言の終止形	テキスト p. 55-59
14	前期総合まとめ	ハングル文字の復習 前期授業の中で出てきた単語全てを整理して覚える。 前期定期試験の準備	テキスト p. 16-59
15	まとめ	前期定期試験	前期定期試験に備えての勉強

関連科目	韓国語基礎会話
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	美しい韓国語 1-1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業参加状況、講義時の対応、小テスト 50% 総合試験 50%
学生へのメッセージ	楽しく韓国語を習いましょう。積み重ねが大切ですので遅刻・欠席しないでください。安価で韓国へ渡航して、授業で学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生生活の最高の思い出になるでしょう！
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	simmh71@yahoo.co.jp

科目名	韓国語Ⅱ b	科目名 (英文)	Korean IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	本授業では前期に学んだ文字や読み方などを基礎として、まずは自己紹介などができるように日常会話に必要な基本的な文法事項を習得していく。基本的な文法事項の習得とそれを使った作文練習などが主になる。																																																																		
到達目標	韓国語の基礎的な文法を習得しつつ、初歩的な言語能力を育成する。																																																																		
授業方法と留意点	知識を毎回積み重ねていきながら、最終的により幅広い表現を韓国語で言えるように練習していく。できれば欠席しないことが望ましい。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	韓国語だけではなく、韓国の社会や文化への理解を深める																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習 1</td> <td>文字の復習</td> <td>プリントを配布</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>前期の復習 2</td> <td>パッチム、発音ルールの復習</td> <td>プリントを配布</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>数詞</td> <td>漢数詞と固有数詞</td> <td>プリントを配布 (テキスト 文法 9 課、10 課)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>私は～です</td> <td>数詞の確認の小テスト、体言文 (平叙文)</td> <td>テキスト 文法 1 課</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>～ですか?</td> <td>体言文 (疑問文)</td> <td>テキスト 文法 2 課</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>～ではありません</td> <td>体言文 (否定文)</td> <td>テキスト 文法 3 課</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>まとめ</td> <td>前半のまとめ、小テスト</td> <td>プリント配布</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>用言文のです・ます形</td> <td>公的で固い表現のです・ます形</td> <td>プリント配布</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>あります・ありません</td> <td>存在を表す用言文</td> <td>テキスト 文法 4 課</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>～をします</td> <td>動詞「する」のです・ます形</td> <td>テキスト 文法 5 課</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>用言のです・ます形を使った作文</td> <td>さまざまな用言のです・ます形</td> <td>テキスト文法 7 課</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>用言のです・ます形</td> <td>日常使いのやわらかい表現のです・ます形 (1)</td> <td>テキスト 文法 6 課</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>用言のです・ます形</td> <td>日常使いのやわらかい表現のです・ます形 (2)</td> <td>テキスト 文法 8 課</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>後半のまとめ</td> <td>後半のまとめ、授業全体の総復習と小テスト</td> <td>プリントを配布</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>前期・後期のまとめ</td> <td>韓国ドラマの鑑賞、簡単なセリフの理解</td> <td>プリントを配布</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の復習 1	文字の復習	プリントを配布	2	前期の復習 2	パッチム、発音ルールの復習	プリントを配布	3	数詞	漢数詞と固有数詞	プリントを配布 (テキスト 文法 9 課、10 課)	4	私は～です	数詞の確認の小テスト、体言文 (平叙文)	テキスト 文法 1 課	5	～ですか?	体言文 (疑問文)	テキスト 文法 2 課	6	～ではありません	体言文 (否定文)	テキスト 文法 3 課	7	まとめ	前半のまとめ、小テスト	プリント配布	8	用言文のです・ます形	公的で固い表現のです・ます形	プリント配布	9	あります・ありません	存在を表す用言文	テキスト 文法 4 課	10	～をします	動詞「する」のです・ます形	テキスト 文法 5 課	11	用言のです・ます形を使った作文	さまざまな用言のです・ます形	テキスト文法 7 課	12	用言のです・ます形	日常使いのやわらかい表現のです・ます形 (1)	テキスト 文法 6 課	13	用言のです・ます形	日常使いのやわらかい表現のです・ます形 (2)	テキスト 文法 8 課	14	後半のまとめ	後半のまとめ、授業全体の総復習と小テスト	プリントを配布	15	前期・後期のまとめ	韓国ドラマの鑑賞、簡単なセリフの理解	プリントを配布
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習 1	文字の復習	プリントを配布																																																																
2	前期の復習 2	パッチム、発音ルールの復習	プリントを配布																																																																
3	数詞	漢数詞と固有数詞	プリントを配布 (テキスト 文法 9 課、10 課)																																																																
4	私は～です	数詞の確認の小テスト、体言文 (平叙文)	テキスト 文法 1 課																																																																
5	～ですか?	体言文 (疑問文)	テキスト 文法 2 課																																																																
6	～ではありません	体言文 (否定文)	テキスト 文法 3 課																																																																
7	まとめ	前半のまとめ、小テスト	プリント配布																																																																
8	用言文のです・ます形	公的で固い表現のです・ます形	プリント配布																																																																
9	あります・ありません	存在を表す用言文	テキスト 文法 4 課																																																																
10	～をします	動詞「する」のです・ます形	テキスト 文法 5 課																																																																
11	用言のです・ます形を使った作文	さまざまな用言のです・ます形	テキスト文法 7 課																																																																
12	用言のです・ます形	日常使いのやわらかい表現のです・ます形 (1)	テキスト 文法 6 課																																																																
13	用言のです・ます形	日常使いのやわらかい表現のです・ます形 (2)	テキスト 文法 8 課																																																																
14	後半のまとめ	後半のまとめ、授業全体の総復習と小テスト	プリントを配布																																																																
15	前期・後期のまとめ	韓国ドラマの鑑賞、簡単なセリフの理解	プリントを配布																																																																
関連科目	韓国語初級																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版</td> <td>木内明</td> <td>国書刊行会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業参加状況、講義時の対応、小テストの成績などを総合的に評価する。授業中の小テストが複数あるため、定期試験は行わず小テストの得点率を重視する。授業態度、小テストといった授業内での平常点で総合的に判断する。出席回数が基準に満たない場合は不合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ	基本的な文法事項を習得していき、その知識を使って基本的な会話や、簡単な作文などできるように、頑張ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	必要事項は授業中に指示する。授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。																																																																		

科目名	韓国語Ⅱb	科目名(英文)	Korean IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>ハングル入門Ⅰを終了した程度の実力を持つ人を対象とします。ハングルの読み、書きが出来る能力を身につけたうえ、特に現代韓国社会で広く使われている表現や慣用句を、現代の韓流文化を交えて基本的な日常会話を導入し、即席で応用を広げ、ネイティブ講師ならではの長所を生かす実用的な韓国語の習得を心がけます。</p> <p>一年間を通して基本的な韓国語を読んで、聞いて、話せるようになり、ハングル入門Ⅰ・Ⅱを履修後もさらに韓国語を続けたいという意欲を掻き立てることが出来ればと思います。</p>
到達目標	<p>1. 韓国語の初級文法を理解し、旅行に役立つ程度の会話が出来るようになる。</p> <p>2. 200文字以上の自己紹介の作文が出来るようになる。</p>
授業方法と留意点	<p>教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CDも活用しながら、k-popや韓国映画、ドラマも紹介する。</p> <p>学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第7課 はじめまして。	国の名前、言語について学び、読み書きが出来るようにする。	テキスト p. 63、プリント
2	第7課 はじめまして。	どの国の人ですか？ 一ではありません。 助詞 一は、一がについて練習。	テキスト p. 62-64
3	第7課 はじめまして。	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 初対面の人に挨拶と自己紹介する。 人を紹介する時の言い方を学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 65-68
4	第8課 これは何ですか？	第7課の単語テスト。 これ、それ、あれの指示代名詞について学ぶ。 疑問詞を勉強する。 家族構成員について学ぶ。	第7課で勉強した単語を覚える テキスト p. 70-72 次回の授業中会話練習用の、日常で使う頻度の高い物を用意して来る。
5	第8課 これは何ですか？	p.72家族構成員の単語小テスト。 日常で使う頻度の高い物を用意し、これは何ですか？の会話を練習する。 所有格助詞-のについて学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 73-77
6	第8課 これは何ですか？ 第9課 週末に何をしますか？	テキストp. 79の作文 「私の家族」を勉強し、テキストの内容を参考に「自分の家族」について韓国語で作文をし、提出する。	テキスト p. 79
7	第9課 週末に何をしますか？	第8課の単語テスト 動詞、形容詞の終止形を勉強する。 助詞-を、-にを使って作文をする。 日常でよく使う動詞20個を覚え、その終止形の活用について学ぶ。 “-と一緒に”という言い方を練習する。	第8課(p.70~79)単語を覚えてくる。 テキスト p. 82 動詞の活用の練習プリント
8	第9課 週末に何をしますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト	動詞の活用の練習プリント
9	第9課 週末に何をしますか？	助詞-を、-にを使って作文をする。 “-と一緒に”という言い方を練習する。	p.83~87
10	第9課 週末に何をしますか？	いつ、どこで、誰と、何を、します。について多数の例文を用いて練習をし、作文をする。	テキスト p. 88-95
11	第10課 ここはどこですか？どこに何がありますか？	第9課の単語テスト 漢数字について学び、漢数字を用いて数える単位を付けて練習する。 5桁の数字が言えるようになる。	第8課単語テスト勉強 テキスト p. 94-95
12	第10課 ここはどこですか？どこに何がありますか？	前回の授業で新しく学んだ5桁の数字の小テスト。 位置関係の言葉を勉強し、練習	単語の小テスト勉強 テキスト p. 95-97
13	第10課 ここはどこですか？どこに何がありますか？	位置関係の言葉の小テスト 位置関係の言葉を用いて作文 「自己紹介」200文字作文して提出	位置関係の言葉を覚えてくる。 p.98~101
14	第11課 電話番号は何番ですか？ 後期総合まとめ	助詞-は、-も、-のみの使い方を練習する。 後期授業の内容整理し、復習をする。 後期定期試験の対策。	テキスト p. 104-111
15	まとめ	後期定期試験	後期定期試験の勉強

関連科目	韓国語基礎会話
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	美しい韓国語 1-1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加状況、講義時の対応、小テスト 50% 総合試験 50%			
学生への メッセージ	楽しく韓国語を学びましょう。語学がまじめに積み重ねる他方法がありませんので、遅刻・欠席しない用に頑張りましょう。 韓国旅行や韓国のテレビ番組などを通して、授業で学んだ韓国語が役立つという実感があれば、もしくは将来的に就職活動にまで生かすことが出来れば、最高でしょう！			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	simmh71@yahoo.co.jp			

科目名	韓国語Ⅲ a	科目名 (英文)	Korean IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	李 知垠
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	韓国語Ⅰ・Ⅱで習得した基礎的能力をベースに、これらの内容を実践的な会話で運用できるよう、総合的学習(読み・書き・話し・聞き)を行います。 授業内容は学習理解度・習得度により変更可能です。
到達目標	日常生活における様々な場面において、基本的なコミュニケーションが取れるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業形式は、教科書を中心に文法練習プリントを配り、ペア・グループ活動で会話練習を行う。 授業内容により、ゲーム・歌・ドラマを取り入れる。 ペア・グループ活動に積極的に参加し、事前に文法の復習と語彙を予習することが望まれる。 学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	韓国語を通じて韓国文化を理解し、日本文化との比較ができる。 韓国語能力試験(TOPIK)1級、ハングル検定4・5級を目指すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	1課 ‘明日、旅行にいくつもりです。’	文法 ①未来形-?/??? ②可能形-?/???/???	教科書1課 文法の復習、 単語の予習
3	1課 ‘明日、旅行にいくつもりです。’	文法 ③形容詞 対話	教科書1課 文法の復習、 単語の予習
4	1課 ‘明日、旅行にいくつもりです。’	読解・聴解・作文	教科書1課 文法の復習、 単語の予習
5	2課 ‘この服を着てみてください。’	文法 ①形容詞の連体形 ?(?)? ②否定 -?/??	教科書2課 文法の復習 単語の予習
6	2課 ‘この服を着てみてください。’	文法 ③勧誘 ??/?/??? 対話	教科書2課 文法の復習 単語の予習
7	2課 ‘この服を着てみてください。’	読解・聴解・作文	教科書2課 文法の復習 単語の予習
8	3課 ‘最近、どのように過ごされますか。’	文法 ①尊敬語の現在形 -(?)?? ②尊敬語の過去形 -(?)???	教科書3課 文法の復習 単語の予習
9	3課 ‘最近、どのように過ごされますか。’	対話・読解	教科書3課 文法の復習 単語の予習
10	3課 ‘最近、どのように過ごされますか。’	聴解・作文	教科書3課 文法の復習 単語の予習
11	4課 ‘水泳ができます。’	文法 ①やり方・方法の可能・不可能形 -?/???/??? ②義務表現 -?/???/??	教科書4課 文法の復習 単語の予習
12	4課 ‘水泳ができます。’	文法 ③選択表現 -?? 対話	教科書4課 文法の復習 単語の予習
13	4課 ‘水泳ができます。’	読解・聴解・作文	教科書4課 文法の復習 単語の予習
14	総合確認	習得内容のまとめ	文法・単語の復習
15	韓国文化	視聴覚授業	

関連科目	韓国語関連科目
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New 西河韓国語 1B	西河大学校 韓国語教育院	西河大学校 国際文化教育院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
2				

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度・協同力) 30%、提出物 20%、小テスト 50%で評価
-----------	--

学生へのメッセージ	授業で学んだ内容を生かし、ネイティブとの会話や韓国旅行で使ってみましょう。 韓国語を通じて異文化を体験し、世界を見る視野を広げることが、成長した自分に出会えるきっかけになると思います。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	hangeul.nara1443@gmail.com
----	----------------------------

科目名	韓国語Ⅲ b	科目名 (英文)	Korean IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	李 知垠
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修した人、及びそれに応じる文法能力ができる人を対象にします。 韓国語Ⅲに引き続き、学んだ内容を実践的に会話で運用できるよう、総合的学習(読み・書き・話し・聞き)を行います。 授業内容は学習理解度・習得度により変更可能です。
到達目標	日常生活における様々な場面において、韓国人と基本的なコミュニケーションが取れるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業形式は、教科書を中心に文法練習プリントを配り、ペア・グループ活動で会話練習を行う。 授業内容により、ゲーム・歌・ドラマを取り入れる。 ペア・グループ活動に積極的に参加し、事前に文法の復習と語彙を予習することが望まれる。 学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	韓国語を通じて韓国文化を理解し、日本文化との比較ができる。 韓国語能力試験(TOPIK)1級・ハングル検定4・5級を目指すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	5課 ‘一緒に映画をみましょうか’	文法 ③羅列接続(動詞) 表現 -? 対話	教科書5課 文法の復習、 単語の予習
3	5課 ‘一緒に映画をみましょうか’	読解・作文	教科書5課 文法の復習、 単語の予習
4	5課 ‘一緒に映画をみましょうか’	聴解・作文	教科書5課 文法の復習、 単語の予習
5	6課 ‘具合が悪かったので、行けませんでした。’	文法 ①不可能表現 ? ②理由表現 -?/?/??	教科書6課 文法の復習、 単語の予習
6	6課 ‘具合が悪かったので、行けませんでした。’	文法 ③意図表現-(?)?? ?? 対話	教科書6課 文法の復習、 単語の予習
7	6課 ‘具合が悪かったので、行けませんでした。’	読解・作文	教科書6課 文法の復習、 単語の予習
8	6課 ‘具合が悪かったので、行けませんでした。’	聴解・作文	教科書6課 文法の復習、 単語の予習
9	7課 ‘韓国料理を食べてみました。’	文法 ①経験表現 -?/? ??? ②依頼表現-?/? ???	教科書7課 文法の復習 単語の予習
10	7課 ‘韓国料理を食べてみました。’	対話・読解	教科書7課 文法の復習 単語の予習
11	7課 ‘韓国料理を食べてみました。’	聴解・作文	教科書7課 文法の復習 単語の予習
12	8課 ‘会話授業が一番楽しかったです。’	文法 ①比較表現 -?? (?) ②最上級表現 ??	教科書8課 文法の復習 単語の予習
13	8課 ‘会話授業が一番楽しかったです。’	対話・読解	教科書8課 文法の復習 単語の予習
14	8課 ‘会話授業が一番楽しかったです。’	聴解・作文	教科書8課 文法の復習 単語の予習
15	総合復習	習得内容のまとめ	文法・単語の復習

関連科目	韓国語関連科目
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New 西河韓国語 1B	西河大学校 韓国語教育院	西河大学校 国際文化教育院
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度・協同力) 30%、提出物20%、小テスト50%で評価
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	授業で学んだ内容を生かし、ネイティブとの会話や韓国旅行で使ってみましょう。 韓国語を通じて異文化を体験し、世界を見る視野を広げることが、成長した自分に会えるきっかけになると思います。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	hangeul.nara1443@gmail.com
----	----------------------------

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹, 藤井 嘉祥, 北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・ 専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】3名の教員が5回ずつ授業を担当する (計15回)。 各教員は、3、4年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。</p> <p>【留意点】この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	1回目～5回目：安達 (7号館5階) 6回目～10回目：北條 (7号館5階) 11回目～15回目：藤井 (研究室の場所は授業にて連絡)																
備考																	

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央, 上田 達, 山口 真佐夫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・ 専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。 		
授業方法と留意点	5 回を 1 名の教員が担当する。したがって、全部で 3 名の教員が担当する。各教員は、3、4 年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3 名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心に進めていく。受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>* 事前事後学習課題 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 60h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%) ※この授業を単位取得していなければ、3 年次に進級できない。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1 回目～ 5 回目：浦野 (7 号館 4 階) 6 回目～10 回目：山口 (7 号館 5 階) 11 回目～15 回目：上田 (7 号館 5 階)		
備考			

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美, 後藤 一章, 柴田 陽一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・ 専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】3名の教員が5回ずつ授業を担当する (計15回)。 各教員は、3、4年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。</p> <p>【留意点】この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1回目～5回目：皆本 (7号館4階) 6回目～10回目：柴田 (7号館5階) 11回目～15回目：後藤 (7号館5階)																		
備考																			

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩間 香, 松田 早恵, 吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・ 専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 各教員は、3、4年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。</p> <p>【留意点】この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	1回目～5回目：岩間(7号館5階) 6回目～10回目：松田(7号館5階) 11回目～15回目：吉村(7号館3階)																
備考																	

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊, 大原関 一浩, 林田 敏子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・ 専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】3名の教員が5回ずつ授業を担当する (計15回)。 各教員は、3、4年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。</p> <p>【留意点】この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1回目～5回目：橋本 (7号館4階) 6回目～10回目：林田 (7号館4階) 11回目～15回目：大原関 (7号館5階)																		
備考																			

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	住吉 誠, 鳥居 祐介, 橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・ 専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】3名の教員が5回ずつ授業を担当する (計15回)。 各教員は、3、4年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。</p> <p>【留意点】この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	1回目～5回目：住吉 (7号館4階) 6回目～10回目：橋本 (7号館4階) 11回目～15回目：鳥居 (7号館3階)																
備考																	

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 豊生, 杉浦 秀行, 皆本 智美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。 		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】3名の教員が5回ずつ授業を担当する (計15回)。 各教員は、3、4年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。</p> <p>【留意点】この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計60h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1回目～5回目：小川 (7号館4階) 6回目～10回目：皆本 (7号館4階) 11回目～15回目：杉浦 (7号館5階)		
備考			

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子, 中西 正樹, 兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・ 専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】3名の教員が5回ずつ授業を担当する (計15回)。 各教員は、3、4年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。</p> <p>【留意点】この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	1回目～5回目：小都 (研究室の場所は授業にて連絡) 6回目～10回目：中西 (7号館3階) 11回目～15回目：兪 (7号館3階)																
備考																	

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞, 手代木 功基, 中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・ 専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。 		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 3名の教員が5回ずつ授業を担当する (計15回)。 各教員は、3、4年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 60h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1 回目～ 5 回目：神崎 (7 号館 5 階) 6 回目～10 回目：中島 (7 号館 4 階) 11 回目～15 回目：手代木 (7 号館 3 階)		
備考			

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一, 西川 真由美, フーパー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。 		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】3名の教員が5回ずつ授業を担当する (計15回)。 各教員は、3、4年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。</p> <p>【留意点】この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計60h)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1回目～5回目：浅野 (7号館5階) 6回目～10回目：フーパー (7号館3階) 11回目～15回目：西川 (7号館4階)		
備考			

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹, 小都 晶子, 兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1 年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・ 専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 3名の教員が5回ずつ授業を担当する (計15回)。 各教員は、3、4年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 60h)</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1 回目～ 5 回目：中西 (7 号館 3 階) 6 回目～10 回目：兪 (7 号館 3 階) 11 回目～15 回目：小都 (研究室の場所は授業にて連絡)																		
備考																			

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史, 赤澤 春彦, マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】3名の教員が5回ずつ授業を担当する (計15回)。 各教員は、3、4年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。</p> <p>【留意点】この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ	専門的・入門的な内容を理解し、それについて自分で調べたり、発表したりできるようになりましょう。																
担当者の研究室等	1回目～5回目：天野 (7号館3階) 6回目～10回目：赤澤 (7号館4階) 11回目～15回目：ハーキー (7号館3階)																
備考																	

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥・安達 直樹・北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 各教員は、3、4年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。</p> <p>【留意点】この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	1回目～5回目：藤井(研究室の場所は授業にて連絡) 6回目～10回目：安達(7号館5階) 11回目～15回目：北條(7号館5階)																
備考																	

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり, 安達 直樹, 藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。3年次の文化演習でどのような学びを行うのかを知ることに繋がる。																
到達目標	・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。																
授業方法と留意点	【授業方法】3名の教員が5回ずつ授業を担当する (計15回)。 各教員は、3、4年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、教員の指示に従うこと。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。 【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。(合計60h)																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	1回目～5回目：北條 (7号館5階) 6回目～10回目：藤井 (研究室の場所は授業で連絡) 11回目～15回目：安達 (7号館5階)																
備考																	

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子, マイケル ハーキー, 皆本 智美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・ 専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】3名の教員が5回ずつ授業を担当する (計15回)。 各教員は、3、4年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。</p> <p>【留意点】この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	1回目～5回目：林田 (7号館4階) 6回目～10回目：ハーキー (7号館3階) 11回目～15回目：皆本 (7号館4階)																
備考																	

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介, 田浦 アマンダ, 田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・ 専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】3名の教員が5回ずつ授業を担当する (計15回)。 各教員は、3、4年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。</p> <p>【留意点】この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計 60h)</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1回目～5回目：鈴木 (7号館5階) 6回目～10回目：田浦 (7号館5階) 11回目～15回目：田中 (7号館4階)																		
備考																			

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子, 有馬 善一, フーパー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	専攻言語別にクラスを設け、1年次のゼミや授業で身に付けた、「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語・文化に関する、やや専門的な内容のゼミを通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また文章で論理的に表現することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】3名の教員が5回ずつ授業を担当する (計15回)。 各教員は、3、4年次のゼミで行うような専門的な内容について、わかりやすく実践する。 具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。</p> <p>【留意点】この授業を単位取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 3名の教員が、それぞれゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 受講生は教員の指示にそって課題の発表や提出を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した、発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ	15回すべての授業に全力で取り組むことで、3つの専門分野の入り口を体験することができます。																
担当者の研究室等	1回目～5回目：齋藤 (7号館4階) 6回目～10回目：有馬 (7号館4階) 11回目～15回目：フーパー (7号館3階)																
備考																	

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋・天野 貴史・柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ(当科目)を通して、さらに向上させることを目的とする。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 ・各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																		
関連科目	基礎演習Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1回目～5回目：吉村(7号館3階) 6回目～10回目：柴田(7号館5階) 11回目～15回目：天野(7号館3階)																		
備考																			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章. 岩間 香. 齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ(当科目)を通して、さらに向上させることを目的とする。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 ・各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 (合計 60h)</p>																		
関連科目	基礎演習Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1回目～5回目：後藤(7号館5階) 6回目～10回目：岩間(7号館5階) 11回目～15回目：齋藤(7号館4階)																		
備考																			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 真佐夫, 浅野 英一, 後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ(当科目)を通して、さらに向上させることを目的とする。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 ・各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 (合計 60h)</p>																		
関連科目	基礎演習Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1回目～5回目: 山口(7号館5階) 6回目～10回目: 後藤(7号館5階) 11回目～15回目: 浅野(7号館5階)																		
備考																			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柴田 陽一, 浅野 英一, 鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ(当科目)を通して、さらに向上させることを目的とする。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 ・各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																		
関連科目	基礎演習Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1回目～5回目：柴田(7号館5階) 6回目～10回目：浅野(7号館5階) 11回目～15回目：鈴木(7号館5階)																		
備考																			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基, 小川 豊生, 神崎 舞
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ(当科目)を通して、さらに向上させることを目的とする。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 ・各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																		
関連科目	基礎演習Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1回目～5回目:手代木(7号館5階) 6回目～10回目:小川(7号館4階) 11回目～15回目:神崎(7号館5階)																		
備考																			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵, 浦野 崇央, 門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ(当科目)を通して、さらに向上させることを目的とする。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 ・各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 <p>【事前・事後学習課題】 それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																		
関連科目	基礎演習Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1回目～5回目:松田(7号館5階) 6回目～10回目:門脇(7号館4階) 11回目～15回目:浦野(7号館4階)																		
備考																			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達, 住吉 誠, マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ(当科目)を通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 ・各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																
関連科目	基礎演習Ⅰなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	1回目～5回目：上田(7号館5階) 6回目～10回目：住吉(7号館4階) 11回目～15回目：ハーキー(7号館3階)																
備考																	

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦 秀行, 赤澤 春彦, 鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ(当科目)を通して、さらに向上させることを目的とする。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 ・各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																		
関連科目	基礎演習Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1回目～5回目：杉浦(7号館5階) 6回目～10回目：鈴木(7号館5階) 11回目～15回目：赤澤(7号館4階)																		
備考																			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦, 住吉 誠, フーパー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ(当科目)を通して、さらに向上させることを目的とする。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 ・各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 (合計 60h)</p>																		
関連科目	基礎演習Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1回目～5回目：赤澤(7号館4階) 6回目～10回目：フーパー(7号館3階) 11回目～15回目：住吉(7号館4階)																		
備考																			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大原 関 一浩、門脇 薫、田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ(当科目)を通して、さらに向上させることを目的とする。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 ・各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																		
関連科目	基礎演習Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1回目～5回目：大原関(7号館5階) 6回目～10回目：田浦(7号館5階) 11回目～15回目：門脇(7号館4階)																		
備考																			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣, 橋本 正俊, 林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ(当科目)を通して、さらに向上させることを目的とする。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 ・各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																		
関連科目	基礎演習Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1回目～5回目：中島(7号館4階) 6回目～10回目：林田(7号館4階) 11回目～15回目：橋本(7号館4階)																		
備考																			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介・岩間 香・神崎 舞
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ(当科目)を通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 ・各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																
関連科目	基礎演習Ⅰなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	1回目～5回目：鳥居(7号館3階) 6回目～10回目：神崎(7号館5階) 11回目～15回目：岩間(7号館5階)																
備考																	

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟, 有馬 善一, 田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ(当科目)を通して、さらに向上させることを目的とする。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 ・各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																
関連科目	基礎演習Ⅰなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	1回目～5回目：田中(7号館4階) 6回目～10回目：有馬(7号館4階) 11回目～15回目：田浦(7号館5階)																
備考																	

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫, 齋藤 安以子, 山口 真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ(当科目)を通して、さらに向上させることを目的とする。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 ・各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																		
関連科目	基礎演習Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ	授業では積極的に発言してください。																		
担当者の研究室等	1回目～5回目：門脇(7号館4階) 6回目～10回目：齋藤(7号館4階) 11回目～15回目：山口(7号館5階)																		
備考																			

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一・天野 貴史・小川 豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	1年次および2年次前期のゼミや授業で身に付けた「話す」「聞く」「書く」「読む」等の技能を、言語や文化に関する、より専門的な内容のゼミ(当科目)を通して、さらに向上させることを目的とする。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な事柄について、文章を読んで、また教員の話聞いて、理解することができる。 ・専門的な事柄について、自分で調べ、発表することができる。また、文章で論理的に表現することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が5回ずつ授業を担当する(計15回)。 ・各教員は、3、4年次のゼミで行う専門的な内容について、わかりやすく実践する。 ・具体的な授業方法・課題などについては、各教員の指示に従うこと。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の教員が、それぞれのゼミの内容を説明した上で、受講生の発表を中心にして進めていく。 ・受講生は教員の指示に従って、課題の発表や提出を行う。 <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>それぞれの担当教員が指示した課題・発表等の準備をする。 (合計60h)</p>																		
関連科目	基礎演習Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1回目～5回目：有馬(7号館4階) 6回目～10回目：天野(7号館3階) 11回目～15回目：小川(7号館4階)																		
備考																			

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩間 香
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>いみ【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ	自分で考える力をつけよう。																
担当者の研究室等	7号館5階岩間研究室																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋研究室																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館5階 後藤研究室																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館5階 柴田研究室																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉 誠
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレクチャーなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館4階 住吉研究室																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川 豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館4階 小川研究室																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	小都研究室 (7号館3階)																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館5階 上田研究室																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	神崎 舞
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館4階 西川研究室																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大原 一浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館5階(大原研究室)																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス当たり10数名の編成で、プレゼンテーションやレシテーションなども交えて進めていく。個人またはグループでテーマを設定し、成果を発表する。 ・また、「日本語テスト」と「時事問題テスト」(共にプリントを配布)を実施し、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1回： 授業の目的、自己紹介</p> <p>第2回以降：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・環境マネジメントについて学ぶ <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・日本語・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 <p>(合計 60h)</p>																
関連科目	初年次ゼミナールなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館4階 有馬研究室																
備考																	

科目名	基礎マレー語 a	科目名 (英文)	Basic Malay a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	本講義はマレーシアなどで話されるマレー語 (Bahasa Melayu) の基礎的な運用能力の習得を目指す。インドネシア語との相違に適宜言及しつつ、実際にマレー語に触れる機会を多く持つことで、マレー語学習の礎を築くことを目指す。読む・書く・聞く・話す力のバランスに考慮しながら講義を進める。																																																																		
到達目標	マレー語の運用能力の基礎を得る。																																																																		
授業方法と留意点	確認テストの他にも課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>講義概要および講義の進め方について説明する。マレー語がどのような国で話され、どのような歴史的背景をもつ言語であるのかを概説する。</td> <td>練習問題に取り組むこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>あいさつ、呼びかけ</td> <td>マレー語の挨拶について学習する。</td> <td>該当箇所の予習と、既習事項の練習問題</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>単語、綴り、発音 1</td> <td>語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。</td> <td>該当箇所の予習と、既習事項の練習問題</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>単語、綴り、発音 2</td> <td>語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。</td> <td>該当箇所の予習と、既習事項の練習問題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>表現</td> <td>マレー語独特の言い回しについて解説する。</td> <td>該当箇所の予習と、既習事項の練習問題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>文法 1</td> <td>マレー語の名詞について解説する。</td> <td>該当箇所の予習と、既習事項の練習問題</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>文法 2</td> <td>マレー語の形容詞について解説する。</td> <td>該当箇所の予習と、既習事項の練習問題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>復習 1</td> <td>既習事項 (表現、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。</td> <td>既習事項の確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>文法 3</td> <td>マレー語の動詞について解説する。</td> <td>該当箇所の予習と、既習事項の練習問題</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>文法 4</td> <td>マレー語の動詞について解説する。</td> <td>該当箇所の予習と、既習事項の練習問題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>文法 5</td> <td>マレー語の動詞について解説する。</td> <td>該当箇所の予習と、既習事項の練習問題</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>演習 1</td> <td>既習事項をふまえてマレー語で自己紹介文を作成する。</td> <td>該当箇所の予習と、既習事項の練習問題</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>演習 2</td> <td>マレーシアの小学生程度を読者に想定した簡単なマレー語文を講読する。</td> <td>該当箇所の予習と、既習事項の練習問題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>復習 2</td> <td>既習事項 (発音、文法、表現、語彙) について復習する。</td> <td>既習事項の確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総合復習</td> <td>とともに、理解力を問うための確認テストを行う。確認テストに対する講評と、既習事項についてのフォローアップを行う。</td> <td>確認テストのための復習に取り組むこと。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明する。マレー語がどのような国で話され、どのような歴史的背景をもつ言語であるのかを概説する。	練習問題に取り組むこと。	2	あいさつ、呼びかけ	マレー語の挨拶について学習する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題	3	単語、綴り、発音 1	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題	4	単語、綴り、発音 2	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題	5	表現	マレー語独特の言い回しについて解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題	6	文法 1	マレー語の名詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題	7	文法 2	マレー語の形容詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題	8	復習 1	既習事項 (表現、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の確認	9	文法 3	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題	10	文法 4	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題	11	文法 5	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題	12	演習 1	既習事項をふまえてマレー語で自己紹介文を作成する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題	13	演習 2	マレーシアの小学生程度を読者に想定した簡単なマレー語文を講読する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題	14	復習 2	既習事項 (発音、文法、表現、語彙) について復習する。	既習事項の確認	15	総合復習	とともに、理解力を問うための確認テストを行う。確認テストに対する講評と、既習事項についてのフォローアップを行う。	確認テストのための復習に取り組むこと。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明する。マレー語がどのような国で話され、どのような歴史的背景をもつ言語であるのかを概説する。	練習問題に取り組むこと。																																																																
2	あいさつ、呼びかけ	マレー語の挨拶について学習する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題																																																																
3	単語、綴り、発音 1	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題																																																																
4	単語、綴り、発音 2	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題																																																																
5	表現	マレー語独特の言い回しについて解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題																																																																
6	文法 1	マレー語の名詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題																																																																
7	文法 2	マレー語の形容詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題																																																																
8	復習 1	既習事項 (表現、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の確認																																																																
9	文法 3	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題																																																																
10	文法 4	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題																																																																
11	文法 5	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題																																																																
12	演習 1	既習事項をふまえてマレー語で自己紹介文を作成する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題																																																																
13	演習 2	マレーシアの小学生程度を読者に想定した簡単なマレー語文を講読する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題																																																																
14	復習 2	既習事項 (発音、文法、表現、語彙) について復習する。	既習事項の確認																																																																
15	総合復習	とともに、理解力を問うための確認テストを行う。確認テストに対する講評と、既習事項についてのフォローアップを行う。	確認テストのための復習に取り組むこと。																																																																
関連科目	基礎マレー語 b																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マレーシア語辞典ポケット版</td> <td>小野沢純、本田智津絵</td> <td>大学書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>基礎マレー語</td> <td>上田達</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マレーシア語辞典ポケット版	小野沢純、本田智津絵	大学書林	2	基礎マレー語	上田達		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	マレーシア語辞典ポケット版	小野沢純、本田智津絵	大学書林																																																																
2	基礎マレー語	上田達																																																																	
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	二回実施する確認テスト (70%) と提出物や課題等の授業への取り組み (30%) から評価する。詳細は一回目の授業時に指示する。																																																																		
学生へのメッセージ	わからないことがあれば、いつでも質問に来てください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 (上田研究室)																																																																		
備考	拙著の教科書は第一回目の授業時に頒布する。辞書は一回目の授業から使用するので購入しておくこと。確認テストは時間内に講評するとともに、翌週に採点のうえ返却する。最終回のテストは授業時間終了後、採点のうえ一週間以内に返却する。																																																																		

科目名	基礎マレー語 b	科目名 (英文)	Basic Malay b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	本講義はマレーシアなどで話されるマレー語 (Bahasa Melayu) の基礎的な運用能力の習得を目指す。実際にマレー語に触れる機会を多く持つことで、マレー語学習の礎を築くことを目指す。読む・書く・聞く・話す力のバランスに考慮しながら講義を進める。																																																																		
到達目標	マレー語の基礎的な運用能力を獲得する。																																																																		
授業方法と留意点	確認テストの他にも課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>講義概要および講義の進め方について説明するとともに、前期習得した事項について問題を課し、学習状況を把握する。</td> <td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文法 1</td> <td>マレー語の kata bantu について解説する。</td> <td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文法 2</td> <td>マレー語の前置詞について解説する。</td> <td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文法 3</td> <td>マレー語の前置詞と kata arah について解説する。</td> <td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>文法 4</td> <td>マレー語の接続詞について解説する。</td> <td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>文法 5</td> <td>マレー語の接続詞について解説する。</td> <td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>表現 1</td> <td>簡単な地図をもとに、位置関係などを説明する文章を作成する。</td> <td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>復習 1</td> <td>既習事項 (文法、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。</td> <td>既習事項の復習に努めること。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>表現 2</td> <td>グラフや表を説明する文章を作成する。</td> <td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>演習 1</td> <td>マレーシアの小学生向けの小説を読む。</td> <td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>演習 2</td> <td>マレーシアで実施されている中学生向けのマレー語試験に挑戦する。</td> <td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>基礎講読 1</td> <td>新聞の投書など短い文章を講読する。</td> <td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>基礎講読 2</td> <td>新聞の投書など短い文章を講読する。</td> <td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>復習 2</td> <td>既習事項 (文法、表現) について復習する。</td> <td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総合復習</td> <td>理解力を問うための確認テストを行う。確認テストについての講評と既習事項のフォローアップを行う。</td> <td>既習事項の復習に努めること。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明するとともに、前期習得した事項について問題を課し、学習状況を把握する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	2	文法 1	マレー語の kata bantu について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	3	文法 2	マレー語の前置詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	4	文法 3	マレー語の前置詞と kata arah について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	5	文法 4	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	6	文法 5	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	7	表現 1	簡単な地図をもとに、位置関係などを説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	8	復習 1	既習事項 (文法、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の復習に努めること。	9	表現 2	グラフや表を説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	10	演習 1	マレーシアの小学生向けの小説を読む。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	11	演習 2	マレーシアで実施されている中学生向けのマレー語試験に挑戦する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	12	基礎講読 1	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	13	基礎講読 2	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	14	復習 2	既習事項 (文法、表現) について復習する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	15	総合復習	理解力を問うための確認テストを行う。確認テストについての講評と既習事項のフォローアップを行う。	既習事項の復習に努めること。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明するとともに、前期習得した事項について問題を課し、学習状況を把握する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
2	文法 1	マレー語の kata bantu について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
3	文法 2	マレー語の前置詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
4	文法 3	マレー語の前置詞と kata arah について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
5	文法 4	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
6	文法 5	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
7	表現 1	簡単な地図をもとに、位置関係などを説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
8	復習 1	既習事項 (文法、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の復習に努めること。																																																																
9	表現 2	グラフや表を説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
10	演習 1	マレーシアの小学生向けの小説を読む。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
11	演習 2	マレーシアで実施されている中学生向けのマレー語試験に挑戦する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
12	基礎講読 1	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
13	基礎講読 2	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
14	復習 2	既習事項 (文法、表現) について復習する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
15	総合復習	理解力を問うための確認テストを行う。確認テストについての講評と既習事項のフォローアップを行う。	既習事項の復習に努めること。																																																																
関連科目	基礎マレー語 a																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マレーシア語辞典ポケット版</td> <td>小野沢純、本田智津絵</td> <td>大学書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>基礎マレー語</td> <td>上田達</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マレーシア語辞典ポケット版	小野沢純、本田智津絵	大学書林	2	基礎マレー語	上田達		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	マレーシア語辞典ポケット版	小野沢純、本田智津絵	大学書林																																																																
2	基礎マレー語	上田達																																																																	
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	二回実施する確認テスト (70%) と課題や提出物等の授業への取り組み (30%) から総合的に判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	わからないことがあれば、いつでも質問に来てください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 (上田研究室)																																																																		
備考	拙著の教科書は前期開講の「基礎マレー語」のものを継続して使用する。辞書は一回目の授業から使用するのを持参すること。確認テストは時間内に講評するとともに、翌週に採点のうえ返却する。最終回の確認テストは授業時間終了後、採点のうえ一週間以内に返却する。																																																																		

科目名	共同体論	科目名(英文)	Theory of Community
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	エスニック・マイノリティとセクシュアル・マイノリティに対するイギリスのコミュニティ・ケアの実践を通して、共同体（コミュニティ）と国家・地域・家族・個人との関係性について考えていく。焦点をあてるのは、エスニック・マイノリティとしての移民と、セクシュアル・マイノリティとしての LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）である。彼らは、1970年代以降、独自のコミュニティや文化を形成してきたが、それはマジョリティの「コミュニティ」とは一線を画すものであった。本講義では、法制度の整備を中心とする政府主導の改革だけでなく、民間の取り組みやマイノリティ側からの権利要求にも注目しながら、マイノリティ集団を社会統合していくうえでの諸問題を、グローバル化と多文化主義をキーワードに考察する。 ※この科目は、「国際教養」プログラム対応科目である。
到達目標	共同体（コミュニティ）を、国家・地域・家族・個人とのかかわりのなかで多層的にとらえる視点を身に着ける。
授業方法と留意点	パワーポイントとプリントを用いる。イギリスの事例研究をもとに、日本の社会問題についても討論する機会をもうける。
科目学習の効果（資格）	グローバル社会のなかで共同体（コミュニティ）がもつ可能性について広く学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	共同体（コミュニティ）論の今	授業の概要説明をおこなった後、多文化主義の観点から「共同体がもつ可能性」について考える。	「共同体」という言葉から連想する事例を列挙してくる。
2	社会的マイノリティの共同体	マイノリティ集団が作り出す独自の共同体について考察する。	代表的なマイノリティ問題を整理し、イギリスと日本の具体例を調べてくる。
3	セクシュアル・マイノリティの歩み	LGBT という言葉が誕生するまでのセクシュアル・マイノリティの歩みを概観する。	LGBT という言葉が生まれた背景を調べてくる。
4	同性婚というゴール	セクシュアル・マイノリティによる権利要求運動について考える。	同性婚をめぐる世界の動きについて調べてくる。
5	LGBT コミュニティの形成と多数派社会との軋轢	LGBT 独自のコミュニティ形成と、多数派社会との衝突について考察する。	LGBT コミュニティの特徴を、日本とイギリスとで比較検討する。
6	LGBT の社会統合	多様な性のあり方を認める社会の実現に向けた取り組みについて考える。	LGBT を社会統合していく上での問題点をまとめる。
7	映画『ぼくのバラ色の人生』を読む	性同一性障碍と子どものLGBTについて考える。	「親」の立場から子どものLGBTについて考えてくる。
8	中間テストと解説	中間テスト（論述問題）を実施し、その解説を通して、前半の授業を振り返る。	前半の授業内容のポイントを整理する。
9	Brexit の衝撃	イギリスの EU 離脱（Brexit）が移民問題といかなるかわりをもっているかについて考える。	Brexit がもたらした影響についてまとめる。
10	イギリスにおける移民の歴史	1960年代から現代に至るまでの移民の歴史をたどり、移民問題の概要をおさえる。	イギリスにおける移民の歴史を年表の形で整理する。
11	多文化主義の実践	学校や共同体レベルで取り組まれている多文化主義の実践例について学ぶ。	各共同体の特徴に応じた対策例を表にまとめる。
12	移民コミュニティとイギリス社会	移民コミュニティが抱える問題を、イギリス全体の社会問題とリンクさせる。	当事者、共同体、国家、という複数の観点からエスニック・マイノリティをめぐる問題を整理する。
13	映画『ベッカムに恋して』を読む	エスニック・マイノリティのなかのジェンダー問題、世代格差の問題について考える。	授業中に配布される「あらすじ」を読み、結末を予想してくる。
14	ポスト多文化主義社会の構築に向けて	多文化主義が抱える諸問題を克服するために必要なことは何か考える。	多文化主義を乗り越えるための具体策を考えてくる。
15	小テストと総括	・小テストの実施と解説 ・まとめ	これまでの授業を振り返り、論点をまとめる。

関連科目	多文化共生論、グローバル社会と日本
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業への取り組み（20%）、中間テスト（20点）、小テスト（80点）で評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	現在、われわれが直面している深刻な社会問題を扱います。世界の動きにアンテナを張りながら、高い問題関心をもって授業にのぞんでください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階（林田研究室）
----------	--------------

備考	事前・事後学習の総時間数は60時間。 中間テストに関するフィードバックは第9回目の授業で、小テストに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。
----	---

科目名	暮らしの中の文化	科目名(英文)	Cultures in Daily Life
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩間 香
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目は、「国際教養」プログラム対応科目である。 ・日常生活の中には古い伝統と文化を受け継いだものがある。それらは生活の規範として、あるいは彩りとして、日本の文化を豊かなものにしてきた。これらの文化は、時代を超えて受け継がれる一方、社会構造やライフスタイル、そして価値観とともに刻々と変化している。本講義では、日本の暮らしに根付いた伝統行事や生活文化をとりあげ、日々の暮らしと文化との関わりについて考察する。
到達目標	日常的な暮らしの中で、どのような文化が育まれてきたのか、また、それがどのようにして伝えられていくのかを理解する。
授業方法と留意点	プリントを用いて授業を進める。適宜、パワーポイント・ビデオなどの視聴覚教材を使用する。
科目学習の効果(資格)	身近な生活における日本の伝統を知る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 日本の暮らしの中の伝統	授業のすすめ方や概要について説明する。	【事後】授業で紹介した内容について調べノートを整理しておく。
2	町家	町家の空間の意味を図面や写真で解説する。	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。(90分)
3	町家の美術	掛け軸、屏風、襖、浮世絵	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。
4	町並み(1)	家の空間のもつ意味を知る。間取り図や写真で解説する。	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。
5	町並み(2) 伝統的建造物群保存地区	伝統的建造物群保存地区が生まれるまでの経緯を解説する。	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。
6	町並み(3) 伝統的建造物群保存地区	保存と修景 祇園新橋と三寧坂	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。
7	見学	授業内容に関連する展覧会・町並みなどを見学する。詳細は授業中に指示する。	【事前】見学先について事前に調べる。
8	祭礼(1) 自然崇拝と神社	磐座・神籬・巨石 神の座 神像	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。
9	祭礼(2) 御霊信仰と都市祭礼	祇園祭・天神祭について歴史と変遷を解説する。	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。
10	祭礼の美術	参詣曼荼羅 祭礼屏風 屏風祭り	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。
11	現代の祭り	祭りの変化 祭りの意味	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。
12	人生儀礼(1) 五節句の歴史	古代の宮廷行事と近世の幕府行事について文献を用いて解説する。	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。
13	人生儀礼(2) 雛祭りの歴史と変遷	中国の禊と日本の祓、ひいな遊びと守り人形について、文献と絵画資料を用いて解説する	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。
14	伝統と継承	冠婚葬祭における美術 伝統の継承と現代の暮らし	【事前】教材ホルダからプリントをダウンロードしておく。【事後】授業で紹介した内容についてノートを整理しておく。
15	まとめ	理解度確認テスト 回答と解説	【事前】ノート・プリントを整理しておく。【事後】分からなかつたところを復習する。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準) レポート(10%)、理解度確認テスト(90%)で評価する。

学生へのメッセージ 実地に見学を行います。交通費・入場料などの実費が必要です。

担当者の研究室等 7号館5階(岩間研究室)

備考

科目名	グラマー	科目名(英文)	Grammar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
13	英作文(筆記)テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b
------	-------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	クリエイティブビジネス論	科目名(英文)	Creative Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目である。 ・本講義では、ICTの急速な発展と普及により、めまぐるしく変貌する現代のメディア・コンテンツ業界（放送、映画、出版、音楽、ゲーム）の産業構造とビジネスモデル、および、メディア・コンテンツを自社のマーケティング政策に組み込む製造・サービス業界（食品、アルコール飲料、コスメ、外食等）の企業による取り組み事例について、産業論とマーケティング論の観点から解説する。 ・本講義の目的は、ICTというメディア技術の発展が、産業構造とビジネスのあり方いかに影響を与え変化をもたらしているのか、産業論とマーケティング論による理論的な理解を行い、さらに製造・サービス業界の企業によるコンテンツビジネスの最新動向を学ぶことである。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTというメディア技術の発展が、産業構造とビジネスのあり方いかに影響を与え変化をもたらしているのか、産業論とマーケティング論による理論的な論述ができる。 ・製造・サービス業界の企業によるコンテンツビジネスの最新事例をあげ、ビジネスモデルとICT利用の特徴を説明できる。
授業方法と留意点	講義は、プロジェクターを用いたプレゼン資料と配布資料を中心に解説を行なう。また一部のテーマについては学生による事前の文献調査とその発表をもとにすすめる予定である。なお講義で取り扱うテーマについては、受講生の理解状況や時の話題に応じて変更する場合もある。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	メディア・コンテンツ業界の産業構造と市場概観	主に以下について解説する。 ・メディア・コンテンツ産業とは ・メディア・コンテンツ産業の市場規模 ・産業の情報化	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
3	メディア・コンテンツ業界の動向(1) 放送業界	主に以下について解説する。 ・テレビ放送の仕組み ・放送業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
4	メディア・コンテンツ業界の動向(2) 映画業界その1	主に以下について解説する。 ・映画の仕組み ・映画業界のビジネスモデル ・資金調達法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
5	メディア・コンテンツ業界の動向(3) 映画業界その2	主に以下について解説する。 ・ハリウッド映画と日本映画の違い ・ハリウッド映画のマーケティング戦略など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
6	メディア・コンテンツ業界の動向(4) 出版業界	主に以下について解説する。 ・出版の仕組み ・出版業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
7	メディア・コンテンツ業界の動向(5) 音楽業界	主に以下について解説する。 ・楽曲販売の仕組み ・音楽業界のビジネスモデル ・関連法など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
8	メディア・コンテンツ業界の動向(6) ゲーム業界	主に以下について解説する。 ・ゲーム開発と販売の仕組み ・ゲーム業界のビジネスモデル ・ハードとソフト ・スマホゲームなど	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
9	メディア・コンテンツ化する業界(1) 食品業界	主に以下について解説する。 ・食品メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
10	メディア・コンテンツ化する業界(2) 飲料業界	主に以下について解説する。 ・飲料メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
11	メディア・コンテンツ化する業界(3) 自動車業界	主に以下について解説する。 ・自動車メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
12	メディア・コンテンツ化する業界(4) 外食サービス業界	主に以下について解説する。 ・外食サービス企業の取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
13	メディア・コンテンツ化する業界(5) 時計業界	主に以下について解説する。 ・時計製造メーカーの取り組み事例	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
14	コンテンツビジネスの課題	主に以下について解説する。 ・知的財産権等関連法 ・著作権管理技術 ・人材育成など	予習：事前に配布した資料に目を通し、関係する情報を調べておくこと。 復習：講義中に出した課題についてまとめておくこと。
15	まとめ	主に以下について解説する。 ・第2回?14回までのまとめ	これまで配布した講義資料およびノートをまとめておくこと。

関連科目	メディアビジネスプログラム科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末テスト(80%)、小テスト・レポート(20%)で評価する。 私語、携帯の使用、遅刻など講義の進行を妨げる者については厳しく評価するので注意すること。			
学生への メッセージ	本講義では、メディア・コンテンツ業界に限らず、メーカーやサービス業界を対象に広く取り扱います。就職活動に向けた業界研究を行うつもりで受講するとよいでしょう。			
担当者の 研究室等	11号館7階(針尾准教授室)			
備考				

科目名	Global Issues	科目名(英文)	Global Issues
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	国際社会についての情報を英語で入手できるようになる。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、入手した情報の要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。また同時に、文学的表現にも慣れ親しむことを目標とする。
授業方法と留意点	リスニングを中心としたタスクをこなしながら、国際社会での出来事や教養を学んでいく。耳から入る英語の情報を漠然と聞き流すのではなく、集中して聞くタスクをこなしていくことで、グローバル化していく社会で起こる様々な出来事を整理して理解できるようにする。また日ごろから、日本語によるニュースや時事問題に習熟しておくことが必要になる。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	年代記(1) ナポレオンについて	ナポレオンについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	ナポレオンに関する英語表現を勉強する。
3	年代記(2) ボンベイについて	ボンベイについてあつかった英英語講義を聞き、理解を深める。	ボンベイに関する英語表現を勉強する。
4	インターネットについて	インターネットについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	インターネットに関する英語表現を勉強する。
5	言語習得について	言語習得についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	言語習得に関する英語表現を勉強する。
6	文学的表現について(1) メタファー、およびまとめテスト(1)	文学的表現について学ぶ。またまとめテストを行う。	メタファーについての表現方法を学ぶ。
7	津波について	津波についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	津波に関する英語表現を勉強する。
8	言語使用について(フォーマル・インフォーマルの違い)	言語使用についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	言語使用に関する英語表現を勉強する。
9	類似性と差異について	類似性と差異についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	類似性と差異に関する英語表現を勉強する。
10	文学的表現について(2) 韻について、およびまとめテスト(2)	文学的表現について学ぶ。またまとめテストを行う。	韻についての表現方法を学ぶ。
11	リンカーンとケネディについて	リンカーンとケネディについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	リンカーンとケネディに関する英語表現を勉強する。
12	絶滅動物について	絶滅動物についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	絶滅動物に関する英語表現を勉強する。
13	アメリカ独立戦争について	アメリカ独立戦争についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	アメリカ独立戦争に関する英語表現を勉強する。
14	英語文化圏について、およびまとめテスト(3)	文学的表現について学ぶ。またまとめテストを行う。	英語文化圏についての表現方法を学ぶ。
15	総括する	これまでの内容の総括を行う。	

関連科目 Academic Reading, Academic Writing

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Dynamic Listening Comprehension	Patricia A. Dunkel and Phyllis L. Lim	Cengage
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) まとめテスト 30%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%

学生へのメッセージ 英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語を聞いて、英語力を高めていきましょう！

担当者の研究室等 7号館3階 吉村 征洋 研究室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	グローバル企業研究	科目名(英文)	Studies on Multinational Corporations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本授業は、6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに対応する科目です。よって、グローバルに事業を展開している日系企業や外資系企業の事例に注目しながら、国際ビジネスの特徴について学ぶことを目的とします。
到達目標	グローバル企業の例として、流通・小売り・アパレル、食品・生活用品・化粧品、メーカー、eコマースなどの業界に注目し、その戦略的特徴や今後の展開について考察することを目標とします。
授業方法と留意点	グループワークによる演習や講義を織り交ぜながら行います。全グループに研究発表(プレゼンテーション)を義務づけます。
科目学習の効果(資格)	文化演習(3ゼミ)や卒業研究(4ゼミ)などの研究にも活かせるでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の内容や方法について詳しく説明する。	授業の内容や方法をしっかりと確認する。
2	研究発表(プレゼン)のテーマとなる企業や業界の事例研究(1)	流通・小売り・アパレル業界に注目し、国内外のグローバル企業の戦略について考察する。	授業の内容と、自分で調べたことと合わせて理解を深める。
3	研究発表(プレゼン)のテーマとなる企業や業界の事例研究(2)	食品・生活用品・化粧品などの業界に注目し、国内外のグローバル企業の戦略について考察する。	授業の内容と、自分で調べたことと合わせて理解を深める。
4	研究発表(プレゼン)のテーマとなる企業や業界の事例研究(3)	メーカー(製造業)に注目し、国内外のグローバル企業の戦略について考察する。	授業の内容と、自分で調べたことと合わせて理解を深める。
5	・今後の研究計画を立てる。 ・プレゼンのスキルを学ぶ。	研究発表(プレゼン)のテーマ、グループメンバー、発表日等を決める。	グループごとに、今後の研究計画について検討する。
6	研究発表(プレゼン)のテーマとなる企業や業界の事例研究(4)	AI(人工知能)やVR(仮想現実)に関連する企業に注目し、そのグローバル戦略について考察する。	・授業の内容と、自分で調べたことと合わせて理解を深める。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
7	研究発表(プレゼン)のテーマとなる企業や業界の事例研究(5)	EC(Eコマース)、IoT、FinTechに関連する企業に注目し、そのグローバル戦略について考察する。	・授業の内容と、自分で調べたことと合わせて理解を深める。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
8	企業勤務経験者(社会人)を招いて、講義と企業・業界研究を行う	企業勤務経験者(社会人2名)を招いて、商社やIT系の業界を中心に、そのビジネスの特徴や動向について考察する。	・授業の内容と、自分で調べたことと合わせて理解を深める。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
9	研究発表(プレゼンテーション)(1)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・授業の内容と、自分で調べたことと合わせてレポートを作成する。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
10	研究発表(プレゼンテーション)(2)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・これまでのレポートをまとめて提出する。 ・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。
11	研究発表(プレゼンテーション)(3)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
12	研究発表(プレゼンテーション)(4)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
13	研究発表(プレゼンテーション)(5)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
14	研究発表(プレゼンテーション)(6)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりとその準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の総仕上げをする。
15	まとめ(総括)	レポートの講評を行い、返却する。	これまでに学んだ内容の要点を整理する。

関連科目: その他の国際ビジネスプログラム科目など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	会社四季報 業界地図 2018年版	東洋経済新報社編	東洋経済新報社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			

評価方法(基準): 研究発表(プレゼンテーション)(40%)、レポート(40%)、授業に取り組む姿勢など(20%)を合わせて評価します。
※ただし、原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。

学生への メッセージ	社会人の仕事でもチームワークが重要です。この授業でも積極的かつ協調的な姿勢を大切にしてほしいと思います。
担当者の 研究室等	7号館4階（中島研究室）
備考	事前・事後学習の総時間数は、25～30時間を目安としてください。

科目名	グローバル経済論	科目名(英文)	Global Economy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的
 この科目は国際ビジネスプログラム及び国際貢献プログラム対象科目である。
 経済のグローバル化は、日本経済および地域経済に様々な影響をもたらしている。円高が進むもとの、日本の輸出製造業の大企業が海外へと生産拠点を展開して多国籍化をすすめる、経済の空洞化が危惧されている。高度な技術力で日本のものづくりを支え、地域経済の担い手となってきた中小企業は、大企業の多国籍化のもとで、再編と淘汰を余儀なくされている。国際競争力の強化を求める日本企業は、賃金コストの圧縮のため、非正規雇用の拡大を進めたが、労働者の収入の低下をもたらして国内消費を制限し、日本経済の成長を制約する要因となっている。国内消費が停滞し、デフレが長期化するもとの、国内流通業の再編が進行し、大手小売業への集約化が進行する一方で、各地の駅前商店街が衰退した。日米間の農産物貿易の自由化交渉はTPP交渉に引き継がれ、零細農家の淘汰と農村地域経済の衰弱をもたらしている。経済のグローバル化が進行するもとの、これからの日本の国民経済と地域経済をどう立て直すのか。このような問題意識のもとに、この授業では経済のグローバル化とその日本社会への影響について、多様な側面から講義する。

到達目標
 経済グローバル化と日本経済の関わりについて、歴史的・具体的に分析する方法について学ぶ。

授業方法と留意点
 教科書にしたがった講義形式で行う。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	—
2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書 第1章	事前・教科書予習
3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書 第2章	事前・教科書予習
4	アメリカIT企業のサービス化と国際分業体制	教科書 第3章	事前・教科書予習
5	アメリカ企業・政府によるグローバル化	教科書 第4章	事前・教科書予習
6	日本の流通の再編と寡占化	教科書 第5章	事前・教科書予習
7	地球環境問題	教科書 第7章	事前・教科書予習
8	グローバル化のもとの日本の労働者の状態	教科書 第8章	事前・教科書予習
9	日本における外国人労働者	教科書 第9章	事前・教科書予習
10	労使関係の日本—スウェーデン比較	教科書 第13章	事前・教科書予習
11	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書 第10章	事前・教科書予習
12	地域間格差の拡大と日本財政	教科書 第11章	事前・教科書予習
13	グローバル化と税制改革	教科書 第12章	事前・教科書予習
14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書 序章	事前・教科書予習
15	まとめ		

関連科目 国際ビジネスプログラム科目、国際貢献プログラム科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	資本主義の現在—資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 期末レポート(100%)で評価する。

学生へのメッセージ 普段から新聞やテレビなどで、現実の経済の動きについて関心を持ってください。積極的に質問をしてください。

担当者の研究室等備考 1号館7階 野口准教授室(経済学部)

科目名	グローバル社会と日本	科目名(英文)	Japan and Globalization
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この科目は国際教養プログラム対応科目であり、グローバル社会と日本のつながりを歴史的に考えることを目的とする。具体的には16世紀の、鉄砲伝来とキリスト教伝来に象徴されるヨーロッパとの出会いを検討する。日本と欧米、両文化のファーストコンタクトを学ぶことは、中国やイスラム圏も含めたさらに広い世界の認識にもつながる。先行きの見えない現在だからこそ、グローバル化の原点にさかのぼって日本と世界の出会いを理解することが意味をもつ。
到達目標	学んだことを、結論・理由・具体例に分けて簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果(資格)	世界との出会いを知ると同時に、日本についての理解も深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	歴史を学ぶにあたって(2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	歴史を学ぶにあたって(3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	それは16世紀に(1)	グローバル化が本格的に始まった時代	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	それは16世紀に(2)	日本とヨーロッパは似ていた	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	それは16世紀に(3)	接点は戦争と宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	戦争と出会い(1)	「西洋は進んでいて東洋は遅れている」という思い込み	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	戦争と出会い(2)	鉄砲に日本史を変えるほどの力はなかった	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	戦争と出会い(3)	飛び道具を憎んだ西洋騎士、飛び道具を愛した日本武士	同上の課題に加えて小レポート。
10	戦争と出会い(4)	鉄砲の起源は東洋	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	宗教と出会い(1)	キリスト教伝来の交流史	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	宗教と出会い(2)	ザビエルをアシストした日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	宗教と出会い(3)	西洋的教育機関に留学した最初の日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	宗教と出会い(4)	ザビエルを日本に運んだのは中国の船	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	宗教と出会い(5)	布教は慈善事業やファッションとも結びついてきた	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目	世界の宗教
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト(40点)、②レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点+α)。第3に60点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。
----------	---

学生へのメッセージ	日本と世界の出会いを歴史的に読み解いていくと、「すべては表裏一体」ということに気づきます。実は、このことは授業そのものにも当てはまります。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	コミュニケーションは基本的に毎回授業のレスポンス・ペーパーで行います。緊急の場合は非常勤講師控室(7号館2階)を訪ねてください。
----	--

科目名	グローバルマーケティング論	科目名(英文)	Global Marketing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> この科目は、「国際ビジネスプログラム」および「メディアビジネスプログラム」の対象科目である。 マーケティングの基本的概念を説明した後に、グローバルマーケティングについて説明する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> グローバルマーケティングについて理解を深める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 講義形式を基本としますが、企業の具体的な事例についても言及する。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> マーケティングの基礎知識を学習し、現実の問題として捉えることで、グローバルマーケティングをより身近に理解できるようになる。 マーケティング的発想ができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	グローバルマーケティングの全体像を示します。	【事前学習】教科書第1章の読解。 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
	2	マーケティング志向	マーケティングの原点であるマーケティング志向について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
	3	マーケティングの4P	製品、販売、流通、価格の基本的な知識について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
	4	マーケティングのSTP	セグメンテーションやターゲティングについて説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
	5	競争戦略	企業の競争関係について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
	6	マーケティングとグローバル化	グローバルな市場創造について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
	7	グローバル・マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチのプロセスについて、説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
	8	グローバル市場参入戦略	市場参入戦略について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
	9	グローバル製品戦略	グローバル製品戦略の基本的な知識について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
	10	グローバル価格戦略	グローバル価格戦略の基本的な知識について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
	11	グローバル・コミュニケーション戦略	グローバル・コミュニケーション戦略の基本的な知識について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
	12	グローバル営業戦略	グローバル営業戦略の基本的な知識について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
	13	グローバル小売の店舗戦略	グローバル小売の店舗戦略の基本的な知識について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
	14	グローバル・ブランド戦略	グローバル・ブランド戦略について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。

				【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
15	まとめ	全体のまとめをします。		【事前学習】これまでの復習。 【事後学習】期末テストへの準備。
関連科目	国際ビジネスプログラム科目、メディアビジネスプログラム科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からのグローバル・マーケティング	小田部正明、栗木梨、太田一樹編著	中央経済社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	グローバル・マーケティング	諸上茂登、藤沢武史	中央経済社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(ミニツペーパー、中間レポート、発表等)40% 期末テスト60%			
学生への メッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。			
担当者の 研究室等	田中祥司研究室			
備考				

科目名	芸能と文化	科目名(英文)	Performing Arts and Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩間 香
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	芸能は演者、観客、庇護者により生み出される文化である。この講義では日本独特の文化として紹介されることの多い茶の湯、立花、能、狂言、歌舞伎、文楽、話芸を取り上げる。その源流、変遷、特徴を知り、作品鑑賞の方法を身につけることを目指す。実地体験を織り交ぜる。
到達目標	日本の古典芸能に関する基礎的な知識を身につける。すなわち古典芸能の歴史、用語、代表的な演目、演者、鑑賞の仕方などについて知る。
授業方法と留意点	毎回スライド・ビデオを使用する。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格。日本の代表的な芸能に対する理解を深める。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	遊芸 茶の湯(1)	茶の湯の源流 室町文化	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、室町文化について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	2	遊芸 茶の湯(2)	侘び茶 千利休	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、千利休について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	3	遊芸 茶の湯(3)	千宗旦 家元制度	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	4	遊芸 立花(1)	立花 池坊専好	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、立花について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。 (90分)
	5	遊芸 立花(2)	大名の立花 家元制度	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	6	舞台芸 能(1)	散楽 猿楽四座	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、能楽を見ておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	7	舞台芸 能(2)	世阿弥 夢幻能	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、世阿弥について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	8	舞台芸 能(3)	桃山時代の能 江戸時代の流派	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、関連する能楽を見ておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。 (90分)
	9	舞台芸 狂言	歴史 流派	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、狂言を見ておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	10	舞台芸 文楽	人形劇の歴史 近松門左衛門	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、文楽を見ておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	11	舞台芸 歌舞伎(1)	江戸の荒事 市川團十郎の系譜	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、歌舞伎について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	12	歌舞伎(2)	上方の和事 坂田藤十郎の系譜	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容を調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	13	舞台芸 歌舞伎(3)	舞台・演出の革新 幕末の歌舞伎	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、歌舞伎を見ておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	14	話芸	落語	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、落語について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	15	まとめ	習熟度確認テスト 回答と解説	事前:ノート・プリントを整理し、分からないところを調べる。 事後:間違えたところを確認する。

関連科目	日本史学・芸術論・暮らしの中の文化
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポート(10%)・定期試験(90%) 受講態度を加味する。
----------	-----------------------------------

学生への メッセージ	実際の舞台や芸能を見たり、茶の湯などを体験することを勧めます。
担当者の 研究室等	7号館5階（岩間研究室）
備考	講義に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする

科目名	芸能文化論	科目名(英文)	Studies in Performing Arts
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩間 香
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	芸能は演者、観客、庇護者により生み出される文化である。この講義では日本独特の文化として紹介されることの多い茶の湯、立花、能、狂言、歌舞伎、文楽、話芸を取り上げる。その源流、変遷、特徴を知り、作品鑑賞の方法を身につけることを目指す。実地体験を織り交ぜる。
到達目標	日本の古典芸能に関する基礎的な知識を身につける。すなわち古典芸能の歴史、用語、代表的な演目、演者、鑑賞の仕方などについて知る。
授業方法と留意点	毎回スライド・ビデオを使用する。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格。日本の代表的な芸能に対する理解を深める。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	遊芸 茶の湯(1)	茶の湯の源流 室町文化	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、室町文化について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
2	遊芸 茶の湯(2)	侘び茶 千利休	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、千利休について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
3	遊芸 茶の湯(3)	千宗旦 家元制度	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
4	遊芸 立花(1)	立花 池坊専好	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、立花について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。 (90分)
5	遊芸 立花(2)	大名の立花 家元制度	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
6	舞台芸 能(1)	散楽 猿楽四座	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、能楽を見ておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
7	舞台芸 能(2)	世阿弥 夢幻能	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、世阿弥について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
8	舞台芸 能(3)	桃山時代の能 江戸時代の流派	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、関連する能楽を見ておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。 (90分)
9	舞台芸 狂言	歴史 流派	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、狂言を見ておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
10	舞台芸 文楽	人形劇の歴史 近松門左衛門	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、文楽を見ておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
11	舞台芸 歌舞伎(1)	江戸の荒事 市川団十郎の系譜	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、歌舞伎について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
12	歌舞伎(2)	上方の和事 坂田藤十郎の系譜	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、内容を調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
13	舞台芸 歌舞伎(3)	舞台・演出の革新 幕末の歌舞伎	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、歌舞伎を見ておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
14	話芸	落語	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、落語について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
15	まとめ	習熟度確認テスト 回答と解説	事前:ノート・プリントを整理し、分からないところを調べる。 事後:間違えたところを確認する。

関連科目	日本史学・芸術論・暮らしの中の文化
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポート(10%)・定期試験(90%) 受講態度を加味する。
----------	-----------------------------------

学生への メッセージ	実際の舞台や芸能を見たり、茶の湯などを体験することを勧めます。
担当者の 研究室等	7号館5階（岩間研究室）
備考	講義に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする

科目名	言語学	科目名(英文)	Linguistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	この授業の目的は「言語」とは何かを理解し、また「言語」に対する知識を深めることにある。より深く言語を理解し、言語の多様性と共通性を理解することは、外国語学習のためにも必要な知識である。
到達目標	「言語学」という学問分野を理解し、外国語学習に役立てることができる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行われるが、受講生ができるだけ参加できるようにする。必要に応じてプリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	言語の多様なしくみを深く知ることができる。音声学と合わせて3・4年次のゼミや教職関連や大学院進学にも役立つ。また、現在学んでいる主言語、共通言語に対する学習効果の向上も期待できる。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	本授業の目的、授業の進め方等について説明する。	充分時間をかけ、事前にシラバスを読んでくること。
2	言語と言語学	言語とは何か、どのような役割を持っているのか理解する。また、「言語学」と「言語」についても説明する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。	
3	日本語と外国語	なぜ外国語を学ぶのか。日本語の中の借用語(語源)	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。	
4	世界の言語 1	世界にはいくつくらい言語が存在するのか、そして自分たちが学んでいる言語はどのような位置づけにあるのかを理解する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。	
5	世界の言語 2 (比較言語学)	次回までに、言語はどのように分類されるのか。そして自分たちが学んでいる言語はどのように分類されるのかを理解する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。	
6	言語と国、社会とのかかわり(社会言語学)	国語、公用語の社会における言語の役割を考える。(社会言語学)	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。	
7	言語の構造	言語はどのような構造を持っているのかを理解する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。	
8	音素(音韻論)	外国語を学ぶための「発音」とは何かを理解する。様々な言語における音素を理解する。どのような要素がどのような役割を持っているのか学ぶ。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。	
9	アクセント、声調、呼吸段落	アクセント、声調、呼吸段落等の役割を説明する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。	
10	文字 1	文字の歴史、系統について、例を挙げ説明する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。	
11	文字 2	世界で現在使われている文字について説明する。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。	
12	形態素 1 (形態論)	単語はどのように出来上がっているのか。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。	
13	形態素 2 (形態論)	単語はどのように変化するのか。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。	
14	語彙、単語の意味(意味論)	外国語の意味をどうとらえるか。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。	
15	総復習	臨時試験 臨時試験の内容の確認。	指示された事前・事後学習課題には充分時間をかけること。	

関連科目 音声学・各言語科目等。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 平常点と臨時試験によって評価する。
参加度(発言等)40%、臨時試験60%

学生へのメッセージ この授業は、外国語学部で外国語を学ぶための基礎知識を身につけるための授業です。そして、「言語学」という学問分野についての入門もできます。

担当者の研究室等 7号館5階 山口研究室

備考 臨時試験の内容に関しては、試験終了後の授業中に確認、説明を行う。

科目名	現代学術論	科目名(英文)	Contemporary Scientific Thought
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川 豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	現代のさまざまな文化(サブカルチャー)が、どのような歴史的な厚みをもっているのか、具体的な事例にそって見ていく。身近な生活のなかで出会った文化の問題を、たんに生活のなかだけで終わらせず、歴史的な文脈のなかに置きなおして考えてみる訓練、ささいな日常のなかから、「学問」「学術」という厚みのある世界へとつないでいく方法の獲得——これがこの講義の目的です。
到達目標	現代文化を「学術」へと深化させる手述を具体的に体得し、各自のテーマに即して研究する方法を身につける。
授業方法と留意点	講義が中心となる。厳正な姿勢でのぞむこと。座席は指定する場合がある。
科目学習の効果(資格)	資格試験のベースとなる、教養・語彙力・文章読解力・思考力の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入：現代学術の諸問題	この講義全体の目的について概説する。	———
2	サブカルチャー論(現代学術と神話学) 1	現代学術におけるサブカルチャーの意義について考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
3	サブカルチャー論(現代学術と神話学) 2	現代学術におけるサブカルチャーの意義について考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
4	サブカルチャー論(現代学術と神話学) 3	現代学術におけるサブカルチャーの意義について考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
5	民俗学と民話学 1	日本の民俗学とヨーロッパの伝承研究を比較しつつ、サブカルチャーと民俗伝承のかかわりについて考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
6	民俗学と民話学 2	日本の民俗学とヨーロッパの伝承研究を比較しつつ、サブカルチャーと民俗伝承のかかわりについて考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
7	民俗学と民話学 3	日本の民俗学とヨーロッパの伝承研究を比較しつつ、サブカルチャーと民俗伝承のかかわりについて考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
8	映像文化の誕生と現代学術論 1	現代文化の代表である映画の誕生と展開についてその歴史的経緯を解説し、現代学術とのかかわりを考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
9	映像文化の誕生と現代学術論 2	現代文化の代表である映画の誕生と展開についてその歴史的経緯を解説し、現代学術とのかかわりを考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
10	映像文化の誕生と現代学術論 3	アニメ「アトム」の誕生と思想的背景について現代学術論の視点から考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
11	漫画を学問する 1	漫画文化の源流と展開を追いながら、その現代学術としての可能性を考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
12	漫画を学問する 2	漫画文化の源流と展開を追いながら、その現代学術としての可能性を考察する。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
13	祭りとスポーツ 1	サッカーの起源を探究し、現代文化のなかで有するスポーツの意義について認識を深める。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
14	祭りとスポーツ 2	サッカーの起源を探究し、現代文化のなかで有するスポーツの意義について認識を深める。	・キーワードについての事前リサーチ ・講義内容の再確認と疑問点の整理
15	総合評価授業	授業全体をまとめ、総合問題を解く。	ノートの総整理と講義内容の要点整理

関連科目	文化科目全般。
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	総合評価授業での総合問題、中間テスト60%、授業時に回収したコメントや課題レポート等40%で評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	現代文化が、とおい時代から蓄積された文化の厚みのうえに成り立っていることを発見し、それらが現代学術のなかでどのように議論されているかを認識する機会にしてほしい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。
----	------------------------------------

科目名	現代社会論	科目名(英文)	Modern Society
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	昨今、私たちの日常において、「ブラック企業」や「婚活」、「インスタ映え」、「パワハラ」、「イクメン」、「コンパニオンアニマル」といった新しい概念をもった言葉が頻繁に使われ、それをめぐる言説が展開されている。これらの言葉や言説はまさに、現代社会を象徴しているものであるといえよう。本講義においては、こういった言葉や言説をめぐる現象について、さまざまなレンズを使って見直してみることを通じて、私たちの住むこの社会の構造がいかなるものであるのかを明らかにする。なお、本講義では特に、社会と人との関わり合いの観点に焦点を絞ることとした。
到達目標	本講義を通じて、現代社会の姿を明らかとできると同時に、自身のふるまい方あるいは立ち位置を再確認することが可能となろう。
授業方法と留意点	本授業は、一方的な講義形式に終わらせることなく、出来るかぎり、学生諸君の生の声を取り入れていきたい。なお、本授業においては、遅刻は厳禁であるので、その点を留意されたい。
科目学習の効果(資格)	現代の社会現象を改めて見直すことを通じて、社会人としての基礎教養の獲得につながるであろう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「現代社会論」の目指すこと	「現代社会」の概念を把握し、今後へのステップとする。	新聞から「現代社会」を象徴していると思われる事柄を抜き出してみましょう。
	2	社会のなかの「人」	「人」をテーマに、現代社会を捉えることの意義を考える。	現代社会のキーワードを考えてみましょう。
	3	人間関係の社会学	現代社会における人間関係を客観的なまなざしをもって捉えなおす。	自身のアイデンティティは何なのかを考えてみましょう。
	4	血液型性格判断からみえるもの	血液型性格判断を通じて、先入観の作られ方を探る。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	5	占いからみえるもの	現代社会における各種占いの存在意義を探る。	いろいろな「占い」の結果で使われている表現を抜き出してみましょう。
	6	人口減少社会の構造	日本における少子化現象を題材に、人口減少社会の構造について考察する。	「少子化」を説明できるようにしましょう。
	7	人口減少社会の問題点	日本における少子化現象を題材に、人口減少社会の問題点について考察する。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	8	各国の人口問題(人口減少社会と人口過剰社会の仕組み)	各国の人口問題を把握するとともに、各国が取り組んでいる施策について検討する。	日本以外の国の人口構造を把握しましょう。
	9	セックスとジェンダー	男と女をめぐる固定観念について考える。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	10	男と女の関係性	男と女を題材に、人が人を区別し、ひいてはそれが差別にいたることについての意味と構造を考える。	男の立場および女の立場でメリット・デメリットを考えてみましょう。
	11	ハラスメントの構造	男と女、男と男、女と女の場面をめぐるセクシュアル/アカデミック/アルコール・ハラスメントにみられる権力構造についての考察を行なう。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	12	個人と集団	自殺や犯罪という行為を事例に取り上げ、個人主義と集団主義について考える。	「社会規範」の意味について考えてみましょう。
	13	家族の役割	現代社会における家族の意味と役割について考える。	自身の家族間での位置づけについて客観的に捉え直してみましょう。
	14	「モノ」に翻弄される人びと	現代におけるコミュニケーション・ツール(たとえば、電話、携帯メール、インターネット、Facebook、LINE等)の意味と役割を考える。	自身のコミュニケーション・ツールの使い方を見つめ直してみましょう。
	15	まとめ	「人」・「モノ」・「コト」のかかわり合いの意味について考え、「現代社会」の意味づけおよびそれにあたって必要とされる眼差しについて総括する。	これまで何の学んだのかをまとめてみましょう。

関連科目	時事問題Ⅰ・Ⅱ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	学期末の定期試験(90%)、レポートおよび授業時における発言等積極的な取り組み姿勢(10%) 詳細は、第1回目の授業で伝える。
----------	--

学生へのメッセージ	本講義を通じて、わたしが期待することは、受講生諸君に先入観や固定観念といったものを打ち崩してもらうことです。そのためには、積極的に発言をし、議論を交わしていく必要があります。ともに切磋琢磨していきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)
----------	--------------

備考	本授業は、現代社会の事象を題材に進めていく。よって、突発的な事件や事故が発生した際は、シラバスの進行にかかわらず、題材として取り上げることがあることを留意されたい。 毎授業時にリアクションペーパーにコメントを記入してもらい、翌週の授業でフィードバックを行う。 本授業における事前・事後学習課題は、総時間60時間を目安とする。
----	--

科目名	現代中国論	科目名(英文)	Contemporary China
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	今日地球レベルで国際化、情報化、開放化が進んでいる。この流れの中で世界最大の発展途上国の中国も凄まじい発展を遂げながら、さまざまな問題を抱えている。いまの中国のもつ魅力と問題点を歴史的、総合的な視点から明らかにしていくことが本授業の目標である。具体的には現代中国社会に関して、政治、経済、教育、文化、人口問題などを中心に議論をしながら、中国の全体像を正しく捉えてその社会の理解を深めたい。
到達目標	現代中国についての自分なりの見方を獲得できる。
授業方法と留意点	授業にはプリントを使用し、現代中国に関わる幾つかのトピックについて講義を行う。単方向の授業となりがちなので、受講生からの質問は随時受け付ける。
科目学習の効果(資格)	常識力の向上。就職、面接試験に有効。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ユニットⅠ 現代中国の概況	国土、自然、地域区分、人口	次回用のプリント・地図等配布。学習課題：人口分布の不均衡、地域差
	2	ユニットⅠ 現代中国の概況	民族、宗教、行政	学習課題：多民族、与野党、地方自治
	3	ユニットⅠ 現代中国の概況	人口問題、一人っ子政策	インドと中国の人口増加を比較し、今後の世界の人口問題を考察する。
	4	ユニットⅠ 現代中国の概況	教育問題	学習課題：教育産業化、貧困学生、
	5	ユニットⅡ 歴史と現状	毛沢東の時代	学習課題：建国初期の課題と政策
	6	ユニットⅡ 歴史と現状	鄧小平と改革解放	学習課題：なぜ改革解放政策をとるか
	7	ユニットⅡ 歴史と現状	農村改革と民工問題	改革の成果と問題点を考察する。
	8	ユニットⅡ 歴史と現状	都市化の進展	学習課題：都市化に伴って城郷格差の拡大
	9	ユニットⅢ 経済	計画経済体制から市場経済体制への転換	学習課題：計画経済と市場経済は何か
	10	ユニットⅢ 経済	現代経済と若者文化	学習課題：中国特色的市場経済、若者の価値観
	11	ユニットⅢ 経済	高齢社会と貧富格差の拡大	学習課題：中国の養老問題、社会福祉の利弊。
	12	ユニットⅣ 生活	生活観の新動向	学習課題：貯蓄型から消費型への変化
	13	ユニットⅣ 生活	消費問の変化	学習課題：都市市場の消費事情と農村市場の開拓
	14	ユニットⅣ 生活	中国時事問題(台湾問題、チベット問題)	学習課題：台湾と大陸の現状、少数民族問題の現状と展望
	15	結び	中国社会の光と影	学習課題：改革解放以来の成果と問題点。現代中国のイメージについて考察する。

関連科目	日中関係論
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験は実施しない。 授業期間中随時行う復習チェックテスト、授業に臨む積極性等により総合的に評価する。 評価基準 チェックテスト 60% 平常評価 40%
----------	---

学生へのメッセージ	授業中の私語は他の受講生の迷惑となるので慎んでほしい。随時チェックテストを行い知識の定着を図るので、授業後も復習を心がけること。事前・事後に各 60 分の学修を要する。 チェックテストの平均点が六割に満たない者、出席率が三分の二を越えないものは、如何なる理由があれ、単位は認定できません。履修の際はこの点をふまえて慎重に履修するようにしてください。 新聞を読むことを勧める。特に現代中国にかかわる記事には注目すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師控室
----------	--------------

備考	授業外で連絡の必要な場合は月4限、水3限に講師控室までお越しください。
----	-------------------------------------

科目名	語学教育工学	科目名(英文)	Technology in Language Teaching
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	語学教育を行う上で有用となる ICT スキルの養成を目指す。 また、グループ課題を通して、協調性やコミュニケーション力を身につける。 なお、この科目は「外国語専門職プログラム」対応科目である。																																																																		
到達目標	自分の関心のあるテーマについて ICT スキルを用いて取り組み、その成果を効果的に発表することができるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	グループでデジタル教材などの作成を目指す。 様々なコンピュータ操作が必須となるため、ファイルやフォルダ、拡張子などの概念は最低限理解しておいてほしい。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の詳細と評価方法の具体的な説明。</td> <td>指示された演習課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>デジタル教材の現状</td> <td>デジタル教材の種類やその利用方法について理解する。</td> <td>指示された演習課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>デジタル教材作成のための ICT 技術</td> <td>画像、音声、動画ファイルの構造について理解する。</td> <td>指示された演習課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>デジタル教材作成のための ICT 技術</td> <td>画像、音声、動画ファイルの編集方法について理解する。</td> <td>指示された演習課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題作成</td> <td>テーマに従ってデジタル教材を作成する。</td> <td>指示された演習課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>課題作成</td> <td>テーマに従ってデジタル教材を作成する。</td> <td>指示された演習課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>課題作成</td> <td>テーマに従ってデジタル教材を作成する。</td> <td>指示された演習課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>発表</td> <td>作成した教材を発表する。</td> <td>指示された演習課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>課題作成</td> <td>テーマに従ってデジタル教材を作成する。</td> <td>指示された演習課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>課題作成</td> <td>テーマに従ってデジタル教材を作成する。</td> <td>指示された演習課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>課題作成</td> <td>テーマに従ってデジタル教材を作成する。</td> <td>指示された演習課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>課題作成</td> <td>テーマに従ってデジタル教材を作成する。</td> <td>指示された演習課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>課題作成</td> <td>テーマに従ってデジタル教材を作成する。</td> <td>指示された演習課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発表</td> <td>作成した教材を発表する。</td> <td>指示された演習課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括</td> <td>授業で学んだ内容の復習と、作成した課題の評価を互いに行う</td> <td>指示された演習課題に取り組む</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の詳細と評価方法の具体的な説明。	指示された演習課題に取り組む	2	デジタル教材の現状	デジタル教材の種類やその利用方法について理解する。	指示された演習課題に取り組む	3	デジタル教材作成のための ICT 技術	画像、音声、動画ファイルの構造について理解する。	指示された演習課題に取り組む	4	デジタル教材作成のための ICT 技術	画像、音声、動画ファイルの編集方法について理解する。	指示された演習課題に取り組む	5	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む	6	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む	7	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む	8	発表	作成した教材を発表する。	指示された演習課題に取り組む	9	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む	10	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む	11	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む	12	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む	13	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む	14	発表	作成した教材を発表する。	指示された演習課題に取り組む	15	総括	授業で学んだ内容の復習と、作成した課題の評価を互いに行う	指示された演習課題に取り組む
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の詳細と評価方法の具体的な説明。	指示された演習課題に取り組む																																																																
2	デジタル教材の現状	デジタル教材の種類やその利用方法について理解する。	指示された演習課題に取り組む																																																																
3	デジタル教材作成のための ICT 技術	画像、音声、動画ファイルの構造について理解する。	指示された演習課題に取り組む																																																																
4	デジタル教材作成のための ICT 技術	画像、音声、動画ファイルの編集方法について理解する。	指示された演習課題に取り組む																																																																
5	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む																																																																
6	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む																																																																
7	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む																																																																
8	発表	作成した教材を発表する。	指示された演習課題に取り組む																																																																
9	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む																																																																
10	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む																																																																
11	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む																																																																
12	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む																																																																
13	課題作成	テーマに従ってデジタル教材を作成する。	指示された演習課題に取り組む																																																																
14	発表	作成した教材を発表する。	指示された演習課題に取り組む																																																																
15	総括	授業で学んだ内容の復習と、作成した課題の評価を互いに行う	指示された演習課題に取り組む																																																																
関連科目	外国語専門職プログラム対応科目など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	積極性 30% 授業時の発言内容 20% 課題の達成度 30% ICT スキルの習熟度 20%																																																																		
学生へのメッセージ	受身の姿勢で受講するのではなく、語学教育にこのように ICT を活用してはどうか、という皆さんからの積極的な提案を期待しています。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階(後藤研究室)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	国際関係の基礎理解	科目名(英文)	Introduction to International Relations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この科目は、国際貢献プログラムおよび国際教養プログラムの対応科目である。 本講義は、国際政治経済学の基礎的な概念や議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における経済（市場主義）と政治（国民国家）との間の相互作用に注目するものである。
到達目標	国際政治経済学の基礎的な概念や議論に親しむことで、それらの観点から「現代社会の国際関係」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになること。 本講義を、自らが暮らす現代社会の諸問題を政治や経済の視点から受講者自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることが目指される。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って各回1章完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。
科目学習の効果(資格)	現代社会をめぐる社会科学的な議論についての基礎的な理解力

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	序章 「経済」の論理と「政治」の論理	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	国際政治経済学の理論的枠組み	第1章 国際政治経済の見方	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
3	国際経済体制の歴史（1）	第2章 力の構造と国際経済体制 ブレトンウッズ体制の成立までの経緯を概観する。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
4	国際経済体制の歴史（2）	第3章 冷戦とブレトンウッズ体制 冷戦期におけるブレトンウッズ体制の変容について概観する。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
5	国際政治経済体制の動態（1）	第4章 安全保障と経済 「経済安全保障」とは何か。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
6	国際政治経済体制の動態（2）	第5章 保護貿易をめぐる政治と経済 保護貿易と自由貿易との関係について考えていく。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
7	国際政治経済体制の動態（3）	第6章 金融グローバル化の構図 金融のグローバル化は、ブレトンウッズ体制崩壊後の世界に何をもたらしたか。市場と国家との関係に注目しつつ考えていく。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
8	国際政治経済体制の動態（4）	第7章 科学技術と現代国際関係 テクノロジーの発展と政治・経済との関係について考える。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
9	国際政治経済体制の動態（5）	第8章 移民をめぐる政治と経済 グローバル化するヒトの移動は、国家に何をもたらすのか。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
10	国際政治経済体制の動態（6）	第9章 経済発展と人権・民主化 経済発展と政治体制との関係について、人権保障や民主化・人間の安全保障といった観点から考える。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
11	国際政治経済体制の動態（7）	第10章 地球環境をめぐる政治経済 国際政治の争点としての地球環境問題は、何故に困難な問題であるのか。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
12	国際政治経済秩序の模索（1）	第11章 グローバルレベルの国際秩序の模索 通貨金融秩序・貿易秩序をめぐる新しい国際政治経済秩序の模索について論じる。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
13	国際政治経済秩序の模索（2）	第12章 リージョナルレベルの国際秩序の模索 地域統合・地域協力のための枠組みについて、具体的なケースを通じて概観する。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
14	国際政治経済秩序の模索（3）	第13章 ナショナルレベルからの国際秩序の模索 貿易問題を通して、国際秩序をめぐる国家の役割について考える。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
15	まとめと補遺	終章 国際政治経済学の未来像 「グローバル」と、それに対する「ローカル」「ナショナル」「反グローバル」との関係について、私たちは今度どのような	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）

				に考え、何を指すべきか。	
関連科目	国際貢献プログラムおよび国際教養プログラムの各科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	国際政治経済学・入門 第3版	野林健ほか	有斐閣	
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	■定期試験 100%				
学生への メッセージ	教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。				
担当者の 研究室等	7号館4階				
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性があります。 この科目は外国語学部パッケージプログラム（国際貢献・国際教養）の対応科目ですが、他のプログラムや英語プロフェッショナルコースの学生も受講可能です。				

科目名	国際関係論	科目名(英文)	International Relations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この科目は、国際貢献プログラムおよび国際教養プログラムの対応科目である。 本講義は、国際政治経済学の基礎的な概念や議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における経済(市場主義)と政治(国民国家)との間の相互作用に注目するものである。
到達目標	国際政治経済学の基礎的な概念や議論に親しむことで、それらの観点から「現代社会の国際関係」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになること。 本講義を、自らが暮らす現代社会の諸問題を政治や経済の視点から受講者自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることが目指される。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って各回1章完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。
科目学習の効果(資格)	現代社会をめぐる社会科学的な議論についての基礎的な理解力

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	序章 「経済」の論理と「政治」の論理	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	国際政治経済学の理論的枠組み	第1章 国際政治経済の見方	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
3	国際経済体制の歴史(1)	第2章 力の構造と国際経済体制 ブレトンウッズ体制の成立までの経緯を概観する。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
4	国際経済体制の歴史(2)	第3章 冷戦とブレトンウッズ体制 冷戦期におけるブレトンウッズ体制の変容について概観する。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
5	国際政治経済体制の動態(1)	第4章 安全保障と経済 「経済安全保障」とは何か。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
6	国際政治経済体制の動態(2)	第5章 保護貿易をめぐる政治と経済 保護貿易と自由貿易との関係について考えていく。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
7	国際政治経済体制の動態(3)	第6章 金融グローバル化の構図 金融のグローバル化は、ブレトンウッズ体制崩壊後の世界に何をもたらしたか。市場と国家との関係に注目しつつ考えていく。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
8	国際政治経済体制の動態(4)	第7章 科学技術と現代国際関係 テクノロジーの発展と政治・経済との関係について考える。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
9	国際政治経済体制の動態(5)	第8章 移民をめぐる政治と経済 グローバル化するヒトの移動は、国家に何をもたらすのか。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
10	国際政治経済体制の動態(6)	第9章 経済発展と人権・民主化 経済発展と政治体制との関係について、人権保障や民主化・人間の安全保障といった観点から考える。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
11	国際政治経済体制の動態(7)	第10章 地球環境をめぐる政治経済 国際政治の争点としての地球環境問題は、何故に困難な問題であるのか。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
12	国際政治経済秩序の模索(1)	第11章 グローバルレベルの国際秩序の模索 通貨金融秩序・貿易秩序をめぐる新しい国際政治経済秩序の模索について論じる。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
13	国際政治経済秩序の模索(2)	第12章 リージョナルレベルの国際秩序の模索 地域統合・地域協力のための枠組みについて、具体的なケースを通じて概観する。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
14	国際政治経済秩序の模索(3)	第13章 ナショナルレベルからの国際秩序の模索 貿易問題を通して、国際秩序をめぐる国家の役割について考える。	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)
15	まとめと補遺	終章 国際政治経済学の未来像 「グローバル」と、それに対する「ローカル」「ナショナル」「反グローバル」との関係について、私たちは今度どのような	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間:60分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間:60分)

				に考え、何を指すべきか。	
関連科目	国際貢献プログラムおよび国際教養プログラムの各科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	国際政治経済学・入門 第3版	野林健ほか	有斐閣	
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	■定期試験 100%				
学生への メッセージ	教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。				
担当者の 研究室等	7号館4階				
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性があります。 この科目は外国語学部パッケージプログラム（国際貢献・国際教養）の対応科目ですが、他のプログラムや英語プロフェッショナルコースの学生も受講可能です。				

科目名	国際機構論	科目名 (英文)	International Organizations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<p>国連機関は一体どんな働きをしているのだろうか。この講義は、国際機関の基礎的知識を学ぶことを目的としている。</p> <p>この科目は「国際貢献」プログラム対応科目です。</p>
到達目標	国際機構との関わりにおいて、過去の歴史から見た国際関係と現在について原理・概念がもつ重要性や課題を理解する。
授業方法と留意点	各講義は、起承転結で構成する。起：テーマのイントロダクション、承：デオ・スライドを多様してビジュアルに国際機関の現状を知る、転：テーマ内容を深く掘り下げる、結：まとめ。各講義の最後 20～30 分間は、質疑応答の時間とする。
科目学習の効果 (資格)	国際機関で働くために知っておくべき基礎的な教養

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクションと授業内容概要	国際機構論ではどんなことを、どのように学ぶのか	_____
	2	国際機構とは何か	国際機構の働きについて	前回の復習と、次回への展開
	3	日本と国際機構との関係	日本が行ってきた国際機構との協力関係について	前回の復習と、次回への展開
	4	国際機関で働くには	国際機関でグローバルに生きる方法	前回の復習と、次回への展開
	5	国際援助	国際機構が行う国際援助について	前回の復習と、次回への展開
	6	国際法	国際機関と国際法との関係	前回の復習と、次回への展開
	7	地域紛争	国際機関と地域紛争や危機管理との関係について	前回の復習と、次回への展開
	8	核の不拡散と輸出管理	大量破壊兵器と国際機関との関係について	前回の復習と、次回への展開
	9	テロリズム	9・11 事件以降のテロリズム対策について	前回の復習と、次回への展開
	10	国際難民	国際的に拡大する難民問題と国際機構との関係について	前回の復習と、次回への展開
	11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	前回の復習と、次回への展開
	12	貧困問題	開発途上国が持つ大きな問題が、貧困でありこの問題に国際機構がどう対応するかについて	前回の復習と、次回への展開
	13	持続可能な発展	「持続可能な発展」とは何か、どうして必要なのかを紐解く	前回の復習と、次回への展開
	14	国際機構の課題	今後、国際機構はどうあるべきかを考える	前回の復習と、次回への展開
	15	記述式総括確認 (必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて記述式の総合的判断を行う	_____

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 記述式小テストや記述式小レポートを合わせて (100%) 評価する。

学生へのメッセージ 国際協力機関・国際ボランティア・青年海外協力隊など、将来この方面に進みたい学生には入門講座として役割を果たします。

担当者の研究室等 7号館5階(浅野研究室)

備考

科目名	国際協力論	科目名(英文)	International Cooperation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<p>国際協力は、開発途上国に対する援助供与という観点で捉えられがちだが、開発途上国、開発援助国を問わず、互いが抱える問題にパートナーとして協力していくことが国際協力の本来のあり方である。本講座では国際協力や国際援助の歴史、意義、効果と限界、南北問題、日本外交と対外援助、日本のODAやNGOの現状と課題について、開発援助国と開発途上国との間で起こった事実を踏まえて学ぶ。</p> <p>この科目は「国際貢献」プログラム対応科目です。</p>			
到達目標	国際協力の必要性・重要性、開発途上国の実情・現状や課題について理解を深め、国際協力のありかたについて自らの考えを持つ。			
授業方法と留意点	ビデオ・スライドを多様してビジュアルに国際協力の現状を知る。各講義の最後15～20分間は、質疑応答の時間とする。			
科目学習の効果(資格)	将来的に、国際分野に進むために学んでおかなければならない国際協力の基礎			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクションと授業内容概要	国際協力論ではどんなことを、どのように学ぶのか	――
	2	国際協力とは何か	国際協力の意味	国際協力がなぜ必要なのかを考える
	3	日本の国際協力	日本が行ってきた国際協力について	国際協力の意味とな何だったのか、これからどうなるのかを考える
	4	非政府組織(NGO)	NGOの得意な分野と苦手な分野	民間でできる国際協力はあるのかを探る
	5	草の根組織・地方自治体	普通の人ができる国際協力	様々な民間団体が補助金を利用していることを調べる
	6	国際連合	様々な組織とその役割	国際機関の活動について調べる
	7	国際協力を受ける国々(1)	開発途上国(アジア)について(過去・現在・将来)	世界でアジア地域の問題とは何かを考える
	8	国際協力を受ける国々(2)	開発途上国(アフリカ)について(過去・現在・将来)	世界でアフリカ地域の問題とは何かを考える
	9	国際協力を受ける国々(3)	開発途上国(アジア・アフリカ以外の国)について(過去・現在・将来)	アジア・アフリカ以外での問題は、何かを考える
	10	国際協力の仕組み	国際協力の仕組みを解明する	誰が・誰に・何を・どうするのか理解する
	11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	先進国にあって、開発途上国にないものを考察する
	12	国際協力の課題	主要援助国が抱える国際協力問題について	いつの時代にも貧困が根本にあることを理解する
	13	開発教育	開発教育とはなにか、どうして必要なのかを紐解く	貧困を解く鍵は「教育」であることを理解する
	14	国際協力の課題	今後、国際協力はどうあるべきかを考える	人類が将来的に向き合わなければならないことは何かを考える
	15	総括的確認(必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	世界中の人々が平等に平和に過ごすための条件を考える
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	記述式小テストの総計(100%)により評価する。記述式小テストは、3週間に一度程度行います。これは、学期末に詰め込み式で理解するのではなく、ある程度まとまった形で、「理解し考える」ことを目的としています。			
学生へのメッセージ	国際協力機関・国際ボランティア・青年海外協力隊など、将来この方面に進みたい学生には入門講座として役割を果たします。この講義を受けて国際協力を興味を持った摂南大学の現役学生が青年海外協力隊員として、世界の国際協力現場の最前線で活躍しています。			
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室)			
備考				

科目名	国際貢献実習演習	科目名 (英文)	International Service Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	参加メンバー（履修生）との共同活動を通じ、開発途上国への理解を深め、実習先での経験との共通点、相違点を確認する。現地の人々との出会いの中から、見つけた新たな課題と、今後の関わり方について考える。 なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つである。																
到達目標	①使える語学力（英語）や、異文化コミュニケーション能力を身につける。 ②異なる社会・文化のなかで暮らし、働くための総合力を身につける。 ③フィールドでの実体験を通じて、国際知識を養い、多文化環境のもとプロジェクトを動かすスキルを修得する。 ④ボランティア、自立支援など、国内外の団体に活動ができる。																
授業方法と留意点	履修登録学生は、オリエンテーションを行うので、必ず参加のこと。日時と教室は、ポータルにて連絡。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前教育 4回程度（生活環境・語学・習慣・ハートアクティビティプログラム*の習得） 現地活動 2019年2月中旬～3月上旬の2週間を予定している。 *ハートアクティビティ (Human Relation Training) プログラム：いろいろなゲームを通して、緊張をほぐし、お互いに尊重することを学び、コミュニケーションや協力関係、豊かな人間関係を築いていくためのプログラム。 履修登録時の注意事項： 履修希望者は、説明会に参加し、担当教員から、十分な説明を受けた上で履修申請を行うことが望ましい。説明を受けずに履修申請した場合、履修を取り消すことがある。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	事前活動・現地活動状況・帰国後レポートを合わせて(100%)評価する。																
学生へのメッセージ	後期に説明会を行う。ポータルにて一斉に周知する。																
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室・上田研究室）																
備考																	

科目名	国際社会学論	科目名(英文)	International Sociology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	国際社会を構成する基本的な単位であるにもかかわらず、「国家」は必ずしも身近に感じられるものではない。本講義は、「そのような国家とはどのような集団であり、なぜ存在し、どのような活動をおこなってきたのか」また「国家はこれからどこに向かおうとしているのか」といった問いに対して答えようとするテキストを通じて、現代の国際社会について理解を深めることを目的とする。
到達目標	国家の統治と私たちの社会生活との関係についての分析的な考察に触れ、現代社会に対する理解を深める。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。
科目学習の効果(資格)	現代社会における「国家」をめぐる諸問題についての基礎的な理解を深めることが期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 「国家」について考えるための枠組み	はじめに 第1章 国家とは何か	テキストについて指示するので、次回講義までに入 手しておくこと
2	国家についての各論考察 (1)	第2章 国家と暴力	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキス トを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
3	国家についての各論考察 (2)	第3章 国家と官僚制	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキス トを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
4	国家についての各論考察 (3)	第4章 国家と戦争	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキス トを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
5	国家についての各論考察 (4)	第5章 国家と正当性	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキス トを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
6	国家についての各論考察 (5)	第6章 国家と社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキス トを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
7	国家についての各論考察 (6)	第7章 国家と統計(学)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキス トを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
8	国家についての各論考察 (7)	第8章 国家とナショナリズム	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキス トを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
9	国家についての各論考察 (8)	第9章 国家と資本主義経済	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキス トを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
10	国家についての各論考察 (9)	第10章 国家と民主主義	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキス トを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
11	国家についての各論考察(1 0)	第11章 国家と社会福祉	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキス トを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
12	国家とグローバル化(1)	第12章 国家のグローバル化	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキス トを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
13	国家とグローバル化(2)	第13章 脱植民地化と「崩壊国家」	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキス トを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
14	国家とグローバル化(3)	第14章 グローバル化のなかの国家	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキス トを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
15	まとめと補遺	第15章 国家の現在、国家の将来 おわりに	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキス トを読み返しておくこと (目安時間: 60分)

関連科目									
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国家の社会学</td> <td>佐藤成基</td> <td>青弓社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国家の社会学	佐藤成基	青弓社
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	国家の社会学	佐藤成基	青弓社						

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	■定期試験 100%			
学生への メッセージ	教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。			

科目名	国際文化概論 I	科目名 (英文)	Introduction to Foreign Cultures I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	国際社会を構成する基本的な単位であるにもかかわらず、「国家」は必ずしも身近に感じられるものではない。本講義は、「そのような国家とはどのような集団であり、なぜ存在し、どのような活動をおこなってきたのか」また「国家はこれからどこに向かおうとしているのか」といった問いに対して答えようとするテキストを通じて、現代の国際社会について理解を深めることを目的とする。
到達目標	国家の統治と私たちの社会生活との関係についての分析的な考察に触れ、現代社会に対する理解を深める。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。
科目学習の効果 (資格)	現代社会における「国家」をめぐる諸問題についての基礎的な理解を深めることが期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	国家についての各論考察 (1)	第2章 国家と暴力	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキ ストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
3	国家についての各論考察 (2)	第3章 国家と官僚制	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキ ストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
4	国家についての各論考察 (3)	第4章 国家と戦争	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキ ストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
5	国家についての各論考察 (4)	第5章 国家と正当性	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキ ストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
6	国家についての各論考察 (5)	第6章 国家と社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキ ストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
7	国家についての各論考察 (6)	第7章 国家と統計 (学)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキ ストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
8	国家についての各論考察 (7)	第8章 国家とナショナリズム	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキ ストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
9	国家についての各論考察 (8)	第9章 国家と資本主義経済	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキ ストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
10	国家についての各論考察 (9)	第10章 国家と民主主義	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキ ストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
11	国家についての各論考察 (1 0)	第11章 国家と社会福祉	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキ ストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
12	国家とグローバル化 (1)	第12章 国家のグローバル化	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキ ストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
13	国家とグローバル化 (2)	第13章 脱植民地化と「崩壊国家」	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキ ストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
14	国家とグローバル化 (3)	第14章 グローバル化のなかの国家	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキ ストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
15	まとめと補遺	第15章 国家の現在、国家の将来 おわりに	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキ ストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国家の社会学	佐藤成基	青弓社

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	■定期試験 100%			
学生への メッセージ	教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。			

科目名	国際文化概論Ⅱ	科目名(英文)	Introduction to Foreign Cultures II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義では日本の文化について理解を深めることを目的とします。取り上げるテーマは「和食」「名前」といった身近なものです。また「宗教」も取り上げます。宗教は一見、距離がありそうに思えますが、私たちの日常生活や年中行事の至る所に見られます。本講義を通して日本の文化に対する理解を深め世界の国々と比較するさいに役立ててください。
到達目標	日本の歴史や文化の特質を理解し、他の国々との違いを比較しながら、自らの言葉で解説できる能力を習得できます。
授業方法と留意点	基本的に板書で講義を進めますが、プリント・スライドなどの資料も使用します。
科目学習の効果(資格)	異文化コミュニケーションの場では自分の国の文化を披露することがあるでしょう。そのさい、日本の文化の特徴について伝えることができます。また、他の国の文化に触れるときにも深く理解することができるでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の目的や進め方について説明します。歴史学とはどのような学問か解説します。	復習
2	和食の歴史(1)	和食に対するイメージや考えをみながら考え、整理します。	復習
3	和食の歴史(2)	和食の歴史のうち、神饌と直会など古代日本の食について考えます。	復習
4	和食の歴史(3)	中世以降の精進料理、本膳料理が和食の成立に与えた影響について考えます。	復習
5	和食の歴史(4)	現代における和食の実態や問題点について考えます。	復習
6	名前の歴史と文化(1)	日本における姓名の歴史について考えます。	復習
7	名前の歴史と文化(2)	日本における家族の歴史と文化について考えます。	復習
8	名前の歴史と文化(3)	日本における共同体と家について考えます。	復習
9	映画『もののけ姫』にみる日本文化(1)	エミシの世界 「日本」の枠組みについて考えます。	復習
10	映画『もののけ姫』にみる日本文化(2)	ヤマトの世界 モデルとなった室町時代の村、町場、戦争などについて考えます。	復習
11	映画『もののけ姫』にみる日本文化(3)	タタラ場の世界 タタラ製鉄や石火矢について考えます。	復習
12	映画『もののけ姫』にみる日本文化(4)	シンガミの世界 日本の地理的環境や日本人の信仰について考えます。	復習
13	映画『もののけ姫』にみる日本文化(5)	『もののけ姫』世界の構成 4つの世界の関係について考えます。	復習
14	映画『もののけ姫』にみる日本文化(6)	『もののけ姫』とは何か？ この映画を通じてどのような事を語れるのか、講義参加者がそれぞれ考えます。	復習
15	まとめ	論述試験を行います(持ち込み可) 講義の総括を行う	今までのノートをまとめておく

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	講義最終日に行う論述試験(持ち込み可)、講義中に課す小レポート、小テストなどによって評価します。論述試験を80%、課題などを20%とする。
学生へのメッセージ	本講義で日本の文化や歴史がすべてわかるわけではありません。講義を通じて興味を持ったことがありましたら、Webや図書などで積極的に調べるとよいでしょう。
担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。

科目名	国際平和論	科目名(英文)	International Peace Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この科目は、国際貢献プログラムの対応科目である。 本講義は、「国際平和」をめぐる現代世界の諸問題について、基本的には国際政治学の立場からアプローチし、問題の包括的な理解を通じて、その現実的な解決策を模索していくことを目指すものである。
到達目標	「国際平和」をめぐって取り上げられる様々な問題や議論に触れ、現代社会に対する理解を深める。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って各回1章完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。
科目学習の効果(資格)	現代社会における「国際平和」をめぐる諸問題についての基礎的な理解を深めることが期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義内容およびテキストについて導入を行なう。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	現代社会の前身—国際社会の誕生	第1章 国際社会の誕生とナショナリズム	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
3	国際社会の分析視角(1)	第2章 覇権と国際政治	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
4	国際社会の分析視角(2)	第3章 理想と国際政治	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
5	国際社会の分析視角(3)	第4章 規範と国際政治	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
6	国際社会の分析視角(4)	第5章 構造と国際政治	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
7	冷戦の終結とは何だったのか	第6章 ソビエト崩壊と歴史の終わり	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
8	現代の紛争(1)	第7章 紛争と宗教・文化	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
9	現代の紛争(2)	第8章 紛争と民族・領土	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
10	現代の紛争(3)	第9章 紛争と資源	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
11	破綻国家への介入と紛争後の秩序構築(1)	第10章 軍事介入と国際連合	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
12	破綻国家への介入と紛争後の秩序構築(2)	第11章 軍事介入の論理	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
13	破綻国家への介入と紛争後の秩序構築(3)	第12章 平和構築と権力分有	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
14	人間の安全保障とは何か	第13章 人間の安全保障	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
15	まとめと補遺—地球社会の課題	第14章 G-ゼロ世界と地球社会の課題	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)

関連科目	国際貢献プログラムの各科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際平和論	福富満久	岩波書店
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	■定期試験 100%			
学生への メッセージ	教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性があります。 この科目は外国語学部パッケージプログラム（国際貢献）の対応科目ですが、他のプログラムや英語プロフェッショナルコースの学生も受講可能です。			

科目名	国際ボランティア論	科目名(英文)	International Volunteerism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義ではボランティアを、一過性のイベントとしてとらえるのではなく、自分自身を見つけるチャンスとし、それを将来的に活用する。国内ボランティア、NGO、NPO、JICA ボランティア、民間ボランティア等の現場を素材にケーススタディを行い、国内外の社会常識と知識を深める。 この科目は「国際貢献」プログラム対応科目です。
到達目標	ボランティアの定義・理念、ボランティア活動に関する基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	ビデオ・スライドを多様してビジュアルに国際ボランティアの現状を知る。各講義の最後 15～20 分間は、質疑応答の時間とする。
科目学習の効果(資格)	日本の立場を国際的な視野から見る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	(起-1) ボランティアの基礎①	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	答えのない世界とは何かを考える
3	(起-2) ボランティアの基礎②	貧困・災害とは何かを学ぶ	どこでなにが起きるか分からないということを理解する
4	(起-3) 社会貢献	社会貢献やCSRとは何かを知る	個人・団体・企業など様々な取り組みを考える
5	(承-1) 企業の社会的貢献	企業の社会的貢献の現状を知る	慈善なのか、企業倫理なのかを考える
6	(承-2) 国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	偽善とは何なのかを考える
7	(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア	国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る	目的別のボランティアを考える
8	(転-2) 国際ボランティア(青年海外協力隊)	国際ボランティア(青年海外協力隊)になるにはどうしたら良いのかを知る	チャレンジとは、何かを知る
9	(転-3) 国際ボランティア(国連ボランティア)	国際ボランティア(国連ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える①
10	(転-4) 国際ボランティア(NGO ボランティア)	国際ボランティア(NGO ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える②
11	(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ	自覚と義務とのギャップを巻がる
12	(結-2) 自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができうる事を明確にする	他人事でボランティアをしない方法はあるのかを考える
13	(結-3) 更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	ボランティアを受ける側の事情を考察する
14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	ボランティア活動10ヶ条を考える
15	総括的確認(必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	ボランティア活動を人生に生かす方法を考える

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	記述式小テストの総計(100%)により評価する。記述式小テストは、3週間に一度程度行います。これは、学期末に詰め込み式で理解するのではなく、ある程度まとまった形で、「理解し考える」ことを目的としています。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室)																
備考																	

科目名	ことばと意味	科目名(英文)	Languages and Meanings
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	<p>この科目は、「外国語専門職」プログラムに対応する科目です。 ことばが持つ意味というのは、突き詰めていけば非常に難しく、その分興味深いテーマです。ことばの意味について知るということは、私たちがどのようにことばで伝達を行っているかについて知ることであります。そして、何気なく使っている日本語や英語に対する考え方がさらに広がりが深まることでしょう。 本授業は、ことばの「意味」について、体系的かつ総合的に学習し、ことばが持つ意味の複雑さや素晴らしさ、それらを理解して使っている人の賢さや優しさを改めて考えることを目指します。</p>																																																																		
到達目標	<p>言語学の様々な理論、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、社会的アプローチ、認知言語学、などを通して、ことばが持つ「意味」とは、どのようなものか、人はそれをどのように理解するのかについて学ぶことを目標とします。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>毎回様々な言葉の意味のテーマを取り上げながら、講義を聞き、理解し、その内容を基に学生同士で議論しながら、自ら能動的に参加しながら授業を進めていきます。 配布資料と辞書は忘れないで持参してください。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	教職課程科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の進め方</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「ことば」とは</td> <td>音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、など</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>音と意味</td> <td>オノマトペ、自然的意味と恣意的意味</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文字と意味</td> <td>表意文字と表音文字、テキストメッセージとボイスメッセージ、漢字とひらがな</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>形態素と意味</td> <td>接尾語と接頭語</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>語と意味</td> <td>単語について 外延の意味と内包の意味</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>文法と意味</td> <td>時制・相</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>文脈と意味</td> <td>「どうも」「すみません」、「OK」、「Chao」</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>役割語</td> <td>役割を明示することば</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>結合語</td> <td>日本語と英語の結合語</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>メタファー</td> <td>メタファーの解釈</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>メトニミー</td> <td>メトニミーの解釈</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>アイロニー</td> <td>アイロニーの解釈</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>含意</td> <td>含意の解釈、ボライトネス</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめのテスト</td> <td>授業の復習</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の進め方	復習	2	「ことば」とは	音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、など	復習	3	音と意味	オノマトペ、自然的意味と恣意的意味	復習	4	文字と意味	表意文字と表音文字、テキストメッセージとボイスメッセージ、漢字とひらがな	復習	5	形態素と意味	接尾語と接頭語	復習	6	語と意味	単語について 外延の意味と内包の意味	復習	7	文法と意味	時制・相	復習	8	文脈と意味	「どうも」「すみません」、「OK」、「Chao」	復習	9	役割語	役割を明示することば	復習	10	結合語	日本語と英語の結合語	復習	11	メタファー	メタファーの解釈	復習	12	メトニミー	メトニミーの解釈	復習	13	アイロニー	アイロニーの解釈	復習	14	含意	含意の解釈、ボライトネス	復習	15	まとめのテスト	授業の復習	
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の進め方	復習																																																																
2	「ことば」とは	音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、など	復習																																																																
3	音と意味	オノマトペ、自然的意味と恣意的意味	復習																																																																
4	文字と意味	表意文字と表音文字、テキストメッセージとボイスメッセージ、漢字とひらがな	復習																																																																
5	形態素と意味	接尾語と接頭語	復習																																																																
6	語と意味	単語について 外延の意味と内包の意味	復習																																																																
7	文法と意味	時制・相	復習																																																																
8	文脈と意味	「どうも」「すみません」、「OK」、「Chao」	復習																																																																
9	役割語	役割を明示することば	復習																																																																
10	結合語	日本語と英語の結合語	復習																																																																
11	メタファー	メタファーの解釈	復習																																																																
12	メトニミー	メトニミーの解釈	復習																																																																
13	アイロニー	アイロニーの解釈	復習																																																																
14	含意	含意の解釈、ボライトネス	復習																																																																
15	まとめのテスト	授業の復習																																																																	
関連科目	その他の外国語専門職プログラム科目など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業態度 30%、小テスト 30%、まとめのテスト 40%																																																																		
学生へのメッセージ	普段何気なく使っていることばが持っている意味について、興味を持って授業に参加してほしいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階 西川研究室																																																																		
備考	事前事後学習：60時間																																																																		

科目名	Comprehensive English a	科目名 (英文)	Comprehensive English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	AB
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミックな内容を含む多様な分野の英文の読解と聴解の演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、インターネットや図書から関連する情報を入手、要約、報告、応用できるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication aおよびEnglish Writing Workshop aと連動した授業となる。この授業で理解した内容についてEnglish for Global Communication aで討議し、English Writing Workshop aで自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	心理学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
2	心理学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
3	言語学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
4	言語学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
5	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
6	公衆衛生の講義: 読解と聴解	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
7	公衆衛生の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
8	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
9	ビジネスの講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
10	ビジネスの講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
11	芸術史の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
12	芸術史の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
13	工学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
14	工学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
15	まとめテストと進捗調整、討論による復習	まとめ+オンラインテストの実施を予定	総復習

関連科目	English for Global Communication a, English Writing Workshop a
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2	Progress <Level 35-50> 3-in-1 test package (プログレステスト 35-50 レベル 3 回分)		Pearson
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	共通課題(オンラインテスト) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生への メッセージ	初日からすぐ授業に入りますので、テキストを買って持参してください。
担当者の 研究室等	7号館5階 松田研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Comprehensive English a	科目名 (英文)	Comprehensive English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	CD
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミックな内容を含む多様な分野の英文の読解と聴解の演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、インターネットや図書から関連する情報を入手、要約、報告、応用できるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication aおよびEnglish Writing Workshop aと連動した授業となる。この授業で理解した内容についてEnglish for Global Communication aで討議し、English Writing Workshop aで自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	心理学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
2	心理学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
3	言語学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
4	言語学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
5	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
6	公衆衛生の講義: 読解と聴解	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
7	公衆衛生の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
8	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
9	ビジネスの講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
10	ビジネスの講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
11	芸術史の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
12	芸術史の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
13	工学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
14	工学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
15	まとめテストと進捗調整、討論による復習	まとめ+オンラインテストの実施を予定	総復習

関連科目	English for Global Communication a, English Writing Workshop a
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2	Progress <Level 35-50> 3-in-1 test package (プログレステスト 35-50 レベル 3 回分)		Pearson
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	共通課題(オンラインテスト) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

<p>学生への メッセージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初日からすぐ授業に入りますので、指定教材をあらかじめ購入して持参してください。 ・指定教材が2種類あり、高価に見えるかも知れませんが、3つの授業で共用するものです。
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>7号館3階 鳥居研究室</p>
<p>備考</p>	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。</p>

科目名	Comprehensive English b	科目名 (英文)	Comprehensive English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	AB
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミックな内容を含む多様な分野の英文の読解と聴解の演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B2-1] を目標とし、現代の問題など一般的関心の高いトピックを扱った文章を読み、相違点や共通点を比較しながら読むことができるようになる。また、自分の専門分野の論文や資料を読んで理解することができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication b および English Writing Workshop b と連動した授業となる。この授業で理解した内容について English for Global Communication b で討議し、English Writing Workshop b で自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	メディア研究の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
2	メディア研究の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
3	生物学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
4	生物学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
5	Flex Week	進度調整	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
6	ビジネス研究の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
7	ビジネス研究の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
8	Flex Week	進度調整	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
9	歴史学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
10	歴史学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
11	哲学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
12	哲学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
13	情報技術の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
14	情報技術の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
15	Flex Week	まとめ	総復習	

関連科目 English for Global Communication b, English Writing Workshop b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2	Progress <Level 35-50> 3-in-1 test package (プログレステスト 35-50 レベル 3 回分)		Pearson	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 共通課題(オンラインテスト) 20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%

学生への メッセージ	教養ある英語の使い手になるために、日ごろから情報のアンテナを張ってインプットを増やし、アウトプットのスキルも磨きましょう。
担当者の 研究室等	7号館5階 松田研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Comprehensive English b	科目名 (英文)	Comprehensive English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	CD
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミックなものを中心に、様々なジャンルの英文を読解する。
到達目標	CEFR-J [B2-1]を目標とし、現代の問題など一般的な関心の高いトピックを扱った文章を読み、相違点や共通点を比較しながら読むことができるようになる。また、自分の専門分野の論文や資料を読んで理解することができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication bおよびEnglish Writing Workshop bと連動した授業となる。この授業で理解した内容についてEnglish for Global Communication bで討議し、English Writing Workshop bで自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	メディア研究の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
2	メディア研究の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
3	生物学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
4	生物学の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
5	Flex Week	進度調整	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
6	ビジネス研究の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
7	ビジネス研究の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
8	Flex Week	進度調整	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
9	歴史学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
10	歴史学の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
11	哲学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
12	哲学の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
13	情報技術の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
14	情報技術の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習	
15	Flex Week	まとめ	総復習	

関連科目 English for Global Communication b, English Writing Workshop b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
2	Progress <Level 35-50> 3-in-1 test package (プログレステスト 35-50 レベル 3 回分)			
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	共通課題(オンライン課題を予定) 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・初日から進みますので、後期に留学から帰国して新たに参加する学生はあらかじめ教材を購入しておくこと ・教材は2種類あり高価にみえるかも知れませんが、3つの必修授業で共用する教材です。
担当者の 研究室等	7号館3階鳥居研究室
備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。</p>

科目名	時事インドネシア・マレー語	科目名(英文)	Media Indonesian-Malay
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	新聞に掲載されたマレー語で書かれた時事問題に関する文に触れて、マレー語の実践的な運用能力の向上を目指す。あわせて、マレーシア・ブルネイ・シンガポールといった国々における政治・経済・社会・文化・芸能などのニュースに触れることを通じて、当該地域の社会情勢についての知識を得る。
到達目標	マレー語能力の向上。マレー語が話される国々に関する理解の深化。
授業方法と留意点	マレー語で書かれた新聞記事等の講読と、記事が書かれた背景について解説を行う。映像資料を用いて理解の一助とする。適宜課題を出すので、受講者には積極的な姿勢が望まれる。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	マレー語圏の国々について既習事項の確認を行う。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	2	表現	新聞の見出しや記事で使われる表現について学習する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	3	政治①	マレーシアの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	4	政治②	マレーシアの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	5	政治③	ブルネイとシンガポールの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	6	確認テスト	既習の文法的な事柄と政治情勢に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	確認テストのための事前準備
	7	経済①	マレーシアの経済に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシア経済情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	8	経済②	ブルネイとシンガポールの経済に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける経済情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	9	社会①	マレーシアの社会問題に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの社会情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	10	社会②	ブルネイとシンガポールの社会問題に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける社会情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	11	確認テスト	既習の文法的な事柄と経済・社会情勢に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	確認テストのための事前準備
	12	文化①	マレーシアにおけるマレー語やマレー文化について書かれた新聞記事を講読するとともに、記事の背景について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	13	文化②	ブルネイやシンガポールにおけるマレー語やマレー文化に関わる新聞記事を講読するとともに、記事の背景について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	14	確認テスト	既習の文法的な事柄とマレー語が話されている地域の文化に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	15	総合演習	確認テストについて講評を行うとともに、受講者それぞれが新聞記事を選んできて内容について報告する。	興味・関心を持った領域についての新聞記事を探して講読する。内容に関する文法的な理解と社会的な背景についての理解を深めて、発表の準備を行う。

関連科目	総合マレー語 a & b、マレー語圏トピックスII
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Kamus Dewan		Dewan Bahasa dan Pustaka
	2			
	3			
評価方法 (基準)	確認テスト (70%)、発表や提出物等の授業への取り組み (30%) から総合的に評価する。詳細は第一回目の授業で指示する。			
学生への メッセージ	日本や他国の時事問題にも関心を持つようにしてください。			
担当者の 研究室等	7号館5階(上田研究室)			
備考	提出物は原則として翌週に返却する。最終回の課題は授業期間終了後一週間以内に評価を記して返却する。『マレーシア語辞典ポケット版』で調べてもわからない単語や表現は、参考書に指定したマレー語の辞典(本学図書館所蔵)で調べること。			

科目名	時事インドネシア・マレー語 a	科目名 (英文)	Media Indonesian-Malay a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	新聞に掲載されたマレー語で書かれた時事問題に関する文に触れて、マレー語の実践的な運用能力の向上を目指す。あわせて、マレーシア・ブルネイ・シンガポールといった国々における政治・経済・社会・文化・芸能などのニュースに触れることを通じて、当該地域の社会情勢についての知識を得る。
到達目標	マレー語能力の向上。マレー語が話される国々に関する理解の深化。
授業方法と留意点	マレー語で書かれた新聞記事等の講読と、記事が書かれた背景について解説を行う。映像資料を用いて理解の一助とする。適宜課題を出すので、受講者には積極的な姿勢が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	マレー語圏の国々について既習事項の確認を行う。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	2	表現	新聞の見出しや記事で使われる表現について学習する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	3	政治①	マレーシアの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	4	政治②	マレーシアの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	5	政治③	ブルネイとシンガポールの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	6	確認テスト	既習の文法的な事柄と政治情勢に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	確認テストのための事前準備
	7	経済①	マレーシアの経済に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシア経済情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	8	経済②	ブルネイとシンガポールの経済に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける経済情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	9	社会①	マレーシアの社会問題に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの社会情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	10	社会②	ブルネイとシンガポールの社会問題に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける社会情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	11	確認テスト	既習の文法的な事柄と経済・社会情勢に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	確認テストのための事前準備
	12	文化①	マレーシアにおけるマレー語やマレー文化について書かれた新聞記事を講読するとともに、記事の背景について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	13	文化②	ブルネイやシンガポールにおけるマレー語やマレー文化に関わる新聞記事を講読するとともに、記事の背景について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	14	確認テスト	既習の文法的な事柄とマレー語が話されている地域の文化に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	15	総合演習	確認テストについて講評を行うとともに、受講者それぞれが新聞記事を選んできて内容について報告する。	興味・関心を持った領域についての新聞記事を探して講読する。内容に関する文法的な理解と社会的な背景についての理解を深めて、発表の準備を行う。

関連科目	総合マレー語 a & b、マレー語圏トピックス II
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Kamus Dewan		Dewan Bahasa dan Pustaka
	2			
	3			
評価方法 (基準)	確認テスト (70%)、発表や提出物等の授業への取り組み (30%) から総合的に評価する。詳細は第一回目の授業で指示する。			
学生への メッセージ	日本や他国の時事問題にも関心を持つようにしてください。			
担当者の 研究室等	7号館5階(上田研究室)			
備考	提出物は原則として翌週に返却する。最終回の課題は授業期間終了後一週間以内に評価を記して返却する。『マレーシア語辞典ポケット版』で調べてもわからない単語や表現は、参考書に指定したマレー語の辞典(本学図書館所蔵)で調べること。			

科目名	思想と文化	科目名(英文)	Ideas and Cultures
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川 豊生
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	太古のときより人類が生みだしてきた神話というジャンルを入口に、現代社会・文化の諸問題について考える方法を身につける。神話は古代のものという見方は誤りである。その証拠に、映画・アニメ・ゲーム・マンガといったサブカルチャーと呼ばれる大衆文化のなかで、神話モチーフは新しい復活を遂げている。神話とは何か、なぜ神話が生き続けるのか、日本と世界各地の神話にどのような違いがあるのかなど、さまざまな角度から神話に光をあて、マクロな視点から人類文明のあり方について考察を深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・神話というジャンルについて豊富な知識を獲得する。 ・現代文化にどのようなかたちで神話が生きているかについて認識する。 ・日本や世界の文化と思想の流れについて、基礎的な知識を身につけ、その全体像を的確に把握できるようにする。
授業方法と留意点	プリントによる講義が中心となる。 ただし、授業の2回分は、各自のリサーチをもとにした発表会にあてたい。その具体的方法については授業中に改めて指示する。
科目学習の効果(資格)	広い教養の獲得と思考力・記述力の深化。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	人類最古の神話	人類最古の神話を取りあげ、神話の役割を考察し、今後の講義へ向けての動機づけとする。	プリント・ノートの予習・復習
3	英雄神話の誕生 1	英雄神話を具体的にとりあげ、その人類史的意義について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
4	英雄神話の誕生 2	英雄神話を具体的にとりあげ、その人類史的意義について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
5	オイディプス神話とは何か	ギリシア神話のなかからオイディプスを取りあげ、その内容と意義について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
6	シンデレラの謎	世界中にひろがるシンデレラをめぐる伝承を取りあげ、そこに潜む人類史的な謎をめぐって考察する。	プリント・ノートの予習・復習
7	調査発表会	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プリント・ノートの予習・復習
8	日本の神話 1 (出雲)	出雲神話とは何か、その内容と特質について探求する。	プリント・ノートの予習・復習
9	日本の神話 2 (伊勢)	代表的な聖地である伊勢を取りあげ、その神話世界の内容と特質について探求する。	プリント・ノートの予習・復習
10	日本の神話 3 (熊野)	代表的な聖地である熊野を取りあげ、その神話世界の内容と特質について探求する。	プリント・ノートの予習・復習
11	図像と神話 1	具体的な図像を取りあげ、その制作背景となった神話世界を探求する。	プリント・ノートの予習・復習
12	図像と神話 2	具体的な図像を取りあげ、その制作背景となった神話世界を探求する。	プリント・ノートの予習・復習
13	現代と神話(聖地巡礼)	現代の聖地を取りあげ、「聖地巡礼」という社会現象について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
14	調査発表会	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プリント・ノートの予習・復習
15	総合確認テスト	講義内容全体に関するまとめと確認テストを行う	ノートの総合整理

関連科目	文化科目全般。
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト・総合テスト 60%、課題レポート等 40%で評価する。
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。
----	------------------------------------

科目名	実践インドネシア・マレー語 a	科目名 (英文)	Practical Indonesian-Malay a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	この授業では、特定分野のインドネシア語の講読を行う。状況にふさわしい作文も行う。この授業を通じて高度なインドネシア語能力や専門的なインドネシア語能力を養うことを目的とする。
到達目標	1. 特定の専門的な分野のインドネシア語を読み書きする技術を得ること。 2. 特定の専門的な分野の知識を養うこと。
授業方法と留意点	1. テキストはテーマに応じたプリントを配布する。 2. この授業では正確で精密な作業を行う必要がある。したがって授業に出席する前には十分な予習と準備をしておくこと。 3. ほぼ毎回、レポートや発表が課される。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定。 実践的かつ専門的なインドネシア語能力の習得。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	1. プロローグ. 2. 新聞記事の講読 1	1. 授業の進め方や受講にあたっての留意点の説明を行なう。 2. 新聞記事の文体に慣れる。	1. 事前に授業のすすめ方などに対する質問などを考えておくこと。 2. 事前にインドネシアでどのような新聞が発行されているのか調べておくこと。また新聞以外の報道機関も調べておくこと。
2	新聞記事の講読 2	新聞記事中に現れる略語、専門用語の調べ方。	図書館で各種の辞書や文献を調べて読み、予習をしていくこと。
3	新聞記事の講読 3	長文の内容を把握する練習。	予習と復習の徹底。
4	1. 新聞記事の内容把握試験 2. 陥りやすいミスの克服	1. 新聞記事を読み、大意を把握する能力の試験。 2. ミスの克服をめざす。	これまでの授業を徹底して復習すること。
5	学術雑誌の講読 1	学術雑誌の文体に慣れる。	予習として、日本語で書かれた学術雑誌を1つ読み、小説とは異なる学術論文のスタイルを知っておくこと。
6	学術雑誌の講読 2	学術文を正確に読む。	図書館へ行き、さまざまな辞書や事典を使い、文献を読んで予習をすること。
7	学術雑誌の講読 3	文の前後関係を正確に把握する。	図書館で各種の辞書や辞典、文献を調べて読み、予習をしていくこと。
8	学術的な文章の書き方 1	学術文の文体に慣れる。	第5回から第8回までの復習。
9	学術的な文章の書き方 2	的確な文を書く練習。	前回の復習。
10	1. 学術文の書き方試験 2. 陥りやすいミスや癖の改善	1. 学術文を書く能力の試験。 2. 陥りやすいミスや癖を見つけて改善する。	第8回、第9回の復習。
11	エッセイの講読 1	エッセイの文体に慣れる。	第10回の復習。 第11回の予習。
12	エッセイの講読 2	エッセイを読む。	予習と復習の徹底。
13	エッセイの講読 3	エッセイを理解する。	予習と復習の徹底。
14	1. エッセイの翻訳試験 2. 陥りやすいミスや癖の改善	1. エッセイの内容を把握して翻訳する能力の試験 2. 陥りやすいミスや癖を改善する。	第11回から第13回までの復習。
15	短い詩の購読	短い詩を読む。	インドネシアの代表的な詩人について、事前に調べておくこと。

関連科目 主言語インドネシア語の科目すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	1. 予習・復習・準備からなるホームワーク (40%) 2. 授業での発表 (20%) 3. 授業期間中に3回行われる試験 (40%) 詳細は、第1回目の授業で伝える。
-----------	---

学生へのメッセージ	1. 予習ならびに準備として、関連分野の日本語文献・インドネシア語文献を調べて読んでおくこと。 2. 必ず復習をおこなうこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	1. ほぼ毎回課されるレポートや発表の終了後に弱点克服のための解説をおこなう。 2. 授業期間中に3回行われる試験の終了後に解説をおこなう。 3. 毎週の予習・復習に必要な時間は最低でも3時間である。したがってこの授業は総計で45時間以上の予習・復習が必要である。 4. 授業時間外での質問や要望は、木曜・金曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。
----	--

科目名	実践インドネシア・マレー語 b	科目名 (英文)	Practical Indonesian-Malay b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今期もインドネシア語をテーマとする。 2. 前半はインドネシア国内で放送されている短いニュースと短編のドキュメンタリーを、 中半と後半はインドネシアの作家が執筆した短いエッセイや短編の小説をとりあげる。 3. 受講者は毎回インドネシア語で概要と意見を発表し、ディスカッションをおこなう。 4. 随時、レポートを課す。 5. 随時、暗唱を課す。 6. 高度なインドネシア語運用能力を身につけることを目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発表にふさわしいインドネシア語が運用できるようになること。 2. レポートにふさわしいインドネシア語の文章が書けるようになること。
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 使用する教材(映像、音声、プリント)は当方が用意する。 2. この授業では正確で精密な作業を行う必要がある。授業に出席する前に十分な準備と予習をしておくこと。 3. 復習も欠かせないこと。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定。 実践的なインドネシア語能力の習得。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	1. プロローグ 2. 短いニュース ①	1. 授業の進め方や受講にあたっての留意点、準備・予習・復習の仕方、資料の探し方、発表の手順・発表資料の作成などについて説明を行なう。 2. シャドーイング	授業の復習
2	短いニュース映像 ②	1. ヒアリング 2. シャドーイング 3. ニュース内容を理解する 4. 短いフレーズの暗唱。	授業の復習
3	短いニュース映像 ③	1. ヒアリング 2. シャドーイング 3. ニュース内容を理解する 4. 短いフレーズの暗唱。	授業の復習
4	短編ドキュメンタリー映像	1. ヒアリング 2. ドキュメンタリーの内容を理解する 3. 概要をその場で発表する練習。	授業の復習
5	Eka Kurniawan の短いエッセイを読む ①	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。	授業内容の復習
6	Eka Kurniawan の短いエッセイを読む ②	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要をその場で発表する練習。	授業内容の復習
7	発表とディスカッション ①	第5回、第6回の授業から、受講者めいめいが関心を持ったことをできるだけ詳しく調べ、インドネシア語で発表する。	授業内容の復習
8	Laksmi Pamuntjak の短いエッセイを読む ①	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要を発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の予習と復習
9	Laksmi Pamuntjak の短いエッセイを読む ②	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要を発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の予習と復習
10	Laksmi Pamuntjak の短いエッセイを読む ③	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要を発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業内容の予習と復習
11	発表 ②	第8回、第9回、第10回の授業から、受講者めいめいが関心を持ったことをできるだけ詳しく調べ、インドネシア語で発表する。	授業内容の復習
12	Supardi Djoko Damono の短編小説を読む ①	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要を発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業の予習と復習
13	Supardi Djoko Damono の短編小説を読む ②	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要を発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業の予習と復習
14	Supardi Djoko Damono の短編小説を読む ③	1. 長文の内容を把握する練習。2. 概要を発表する練習。 3. 質疑応答の練習。	授業の予習と復習
15	発表 ③	1. 第12回、第13回、第14回の授業から、受講者めいめいが関心を持ったことをできるだけ詳しく調べ、インドネシア語で発表する。	第14回までの授業内容の総復習

関連科目	主言語インドネシア語の科目すべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	1. 発表(40%) 2. 暗唱(20%) 3. 随時課すレポート(40%) 詳細は第1回目の授業で伝える。			
学生への メッセージ	いっそうの高みを目指して、粘り強くがんばりましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	1. 随時課されるレポートや発表の終了後に弱点克服のための解説をおこなう。 2. 毎週の授業の下調べや復習に最低でも3時間は必要である。 したがってこの授業は総計で45時間以上の予習・復習を要する。 3. 授業時間外での質問は、月曜・金曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。			

科目名	社会開発論	科目名(英文)	Social Development
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

この科目は、国際貢献プログラム対応科目となっています。

経済のグローバル化が進み、途上国への企業進出も盛んになる現代においては、それぞれの国や地域社会に対する理解力や思考力が重要です。特に、グローバルに展開される国際協力の場においては、開発援助の持つ理念やインパクト(メリット・デメリット)を理解することが必要になります。

本講義では、近年の経済成長により注目されているアジア・アフリカ諸国に関する基礎知識を学ぶとともに、開発の現代的な必要性、外部者の役割について検討していきます。また、社会開発のプロジェクトにおいて対象社会を理解するためのひとつの手段として、社会調査(フィールドワーク)を取り上げ、その方法論についても解説します。

- 到達目標
1. 開発援助の対象であるアジア・アフリカ地域の歴史と現状を理解し、ステレオタイプのな見方を変える
 2. 開発に関わる諸概念・方法論の変遷と現状を理解し、社会開発の位置づけを説明することができる。
 3. 社会開発の可能性と限界、対象社会に与える影響、対象社会の主体的な営み、を認識した上で、私たちに何ができるのか、どのように関わっていくべきなのかについて主体的・論理的に考えることができる。

授業方法と留意点
 プリントの配布および投影資料を利用した講義形式を基本とするが、講義中にグループワークやディスカッション、簡単な作業などを通して受講者の意見を求める機会を多数設ける。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
2	アフリカを知る 1	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
3	アフリカを知る 2	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
4	アフリカを知る 3	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
5	アジアを知る 1	開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
6	アジアを知る 2	開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
7	開発政策と地域社会	国家や先住民といったキーワードをもとに開発政策と地域社会への影響を検討	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
8	開発と文化・価値・エンパワメント	文化やエンパワメントといった観点から開発を考える	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
9	社会開発の現状と課題 1: 教育	教育に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
10	社会開発の現状と課題 2: 農村開発	農村開発に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
11	社会開発の現状と課題 3: 環境問題	環境問題に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
12	社会開発と社会調査: 対象社会を理解するための視点と方法 1	社会調査の方法論について理解する	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
13	社会開発と社会調査: 対象社会を理解するための視点と方法 2	社会調査の方法論について理解する	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
14	開発における外部者の役割	地域の人びとと関わり合う難しさを知るとともに、外部者の役割を考える	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
15	総括	全体のまとめ	アジア・アフリカのニュースに関心を持ち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める

関連科目 国際貢献プログラム関連科目(国際協力論、国際関係論、国際平和論、国際機構論等)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等）（60%）とレポート（40%）で評価します。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館5階（手代木研究室）			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。			

科目名	社会文化史	科目名(英文)	History of Society and Cultures
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	イギリスの歴史と文化を、現代社会とのつながりを重視しながら概観する。「サッカー発祥の地」、「紅茶とアンティークの国」など、われわれがイギリスに対して抱いているイメージには、歴史的根拠が存在する。「イギリス料理はなぜまずいのか」、「イギリス人はなぜ傘をささないのか」といった身近な問いを出発点にしながら、政治・経済・文化、あらゆる角度からイギリス社会を読み解いていく。
到達目標	ヨーロッパ、大英帝国など、複数の次元でイギリスをとらえたときの特徴を理解する。一国の歴史にとどまらない、広がりのある歴史解釈するにはどうすればよいか、その方法論を身につける。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、図像史料を活用しながら、板書をまじえて授業をすすめる。
科目学習の効果(資格)	歴史学に関する基本的知識を身につけるとともに、「過去」を通して「現代」を見つめる視座を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イギリスとは何か	国のなりたちと地理	「イギリス」の正式名称を調べてくる。
2	イギリス人のナショナル・アイデンティティ	連合王国、帝国としてのイギリス	ユニオン・ジャックの由来について調べてくる。
3	「イギリス」の歴史的形成過程	古代から現代までの領土の変遷	年表づくりをおこなう。
4	イギリス古代の歴史 ～ストーンヘンジの謎にせまる～	ケルト時代・ローマ時代・ゲルマン人の到来	異民族侵入の歴史を地図にまとめる。
5	パイユのタペストリの世界	七王国時代からノルマン朝時代まで	史料としての「パイユのタペストリ」から読み取れることをまとめる。
6	ウェールズの歴史(1)	イングランドとウェールズの関係史	プリンス・オブ・ウェールズという称号の意味について調べてくる。
7	ウェールズの歴史(2)	ウェールズ語復興運動	ウェールズ話者数の推移を調べてくる。
8	ウェールズの歴史(3)	映画『ウェールズの山』に見る重層的アイデンティティ (中間テストの実施)	これまでの授業内容をまとめてくる。
9	サッカーの歴史	スポーツに見るイギリスのナショナル・アイデンティティ (中間テスト解説)	FIFA 誕生の歴史的経緯を調べてくる。
10	スコットランドの歴史(1)	スコットランド王権の特徴	スコットランドの王位継承の特徴をイングランドと比較しながら整理する。
11	スコットランドの歴史(2)	スコットランドとイングランドとの関係史	フランスの存在に注目しつつ、スコットランドとイングランドの関係史をまとめてくる。
12	スコットランドの歴史(3)	「帝国」「EU」のなかのスコットランド	国家だけでなく、帝国やEUといった枠のなかでスコットランドがもつ可能性について考えてくる。
13	紅茶文化はいかにして生まれたか?	食文化からみたイギリスの歴史	「食」と大英帝国についてまとめる。
14	イギリス人はなぜ傘をささないのか?	ステイタス・シンボルとしての傘	傘以外のステイタス・シンボルについて調べる。
15	総括	小テストの実施と解説	全授業内容を復習してくる。

関連科目	ヨーロッパ史学
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	第15回目に実施する小テスト(80%)、中間テストおよび提出物(20%)を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歴史学とは過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
担当者の研究室等	7号館4階(林田研究室)
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。 中間テストに関するフィードバックは第9回目、小テストに関するフィードバックは第15回目の授業のなかでおこなう。

科目名	生涯学習概論	科目名(英文)	Lifelong Learning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 孝成
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	高齢化社会の現代日本では、生涯にわたる学習の必要性が指摘され続けています。ここでは「生涯学習」の基本的な理論とその実践例を紹介し、これからの「生涯学習」のあり方を考えていきます。特に担当教員の専門とする歴史学習を取り上げ、市民への文化の提供の方法やその効果、問題点を挙げていき、学芸員や各自治体の生涯学習担当としての知識と意識を身につけることを目的とします。また、各個人が「学ぶ」ことの意味を考えていくことも併せて講義します。
到達目標	生涯学習に関する基礎的な知識と意識を身につけること。また、受講生自身も生涯学習の心構えを持つこと。
授業方法と留意点	配布プリントと板書による講義中心で授業を行います。一回は展示施設の見学を行う予定です。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格などの必要単位となっていますが、自治体など市民に接する職業に就いた場合に対応の心構えの助けになるでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	社会教育と生涯学習の歴史①	現在の生涯学習の前提となる、社会教育の歴史と、生涯学習論の登場についてお話しします。	次回の授業に続きますので、見直しを推奨します。
3	社会教育と生涯学習の歴史②	社会教育の歴史と、生涯学習論の登場について現状に繋げてお話しします。	前回の内容の見直しを推奨します。
4	日本の生涯学習と方法、内容	日本の生涯学習とその形態、内容と問題点の現状についてお話しします。	授業後、機会があれば近隣自治体などで実状を見ることを推奨します。
5	生涯学習と行政の仕組み	生涯学習における社会教育行政の役割とあり方についてお話しします。	授業後、新聞やネットで行政の対応の確認を推奨します。
6	生涯各期の学習課題	人の各年代による学習・教育の特徴と課題についてお話しします。	授業後、自身やご両親、周囲の人の生涯学習状況を考えてください。
7	生涯学習と社会教育施設・公民館と図書館	社会教育施設の実態、特に公民館と図書館について概要をお話しします。	授業後、周りの社会教育施設や大学はもちろん周辺の図書館を再確認することを推奨します。
8	なんのために学ぶのか	緒方洪庵と適塾を通じて「学ぶこと」の意味を考えます。(この講義は見学の日程の直前に行われます)	直後に適塾の見学を予定していますので、ある程度の復習を推奨します。
9	学外見学	重要文化財・適塾の見学。日程については授業の中で決定します。	直前の授業内容の復習を推奨します。
10	生涯学習と社会教育施設・博物館	博物館の役割と組織、問題点とその実態についてお話しします。	授業後、近隣の博物館の見学を推奨します。
11	生涯学習と文化財事業	生涯学習における歴史学習の実状と問題点、位置づけについてお話しします。	授業後、周辺の自治体主催事業について再確認を推奨します。
12	人と「歴史」の関係	身近な「歴史」に関わることの効果とその特徴についてお話しします。	授業後、周囲の歴史についてもう一度考え直してください。
13	それぞれの「生涯学習」	「学ぶ」ことの意味や「知」との向き合い方をお話しします。	授業後、各自の「学び」について考えてください。
14	反・反知性主義	ネットを中心に蔓延する「反知性主義」がいかに生涯学習にとってマイナスになるのかをお話しします。	授業後、社会にある意見について見直してください。
15	これからの生涯学習と地域	講義内容を振り返りながら、生涯学習のあり方とその支えについてお話しし、受講生各自にとっての生涯学習を考えます。	事前に、これまでの授業内容を大枠で復習しておくことを推奨します。

関連科目	教育系科目群
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生涯学習概論	佐藤晴雄	学陽書房
2	司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論	大堀哲監修	樹村房	
3	ことば・ロジック・デザイン	妻木宣嗣	清文堂	

評価方法(基準)	定期試験 100% 配布プリントと自筆のノートのみ持ち込み可です。ただし、配布プリントのコピーは許可します。また、授業ごとに質問カードを配布します。提出は必須ではありませんが、次回授業の回答に採用された場合は平常点(1点ないし2点)を付与します。
----------	--

学生へのメッセージ	「生涯学習論」ですが、これは学習を与えるだけの意味ではなく、相互に「学習」していくことも意味します。すべての人が生涯、なにを「学習」するのか、「学習」の意味は何か、を少しでも考えて知っていただくことを願います。また、臨時試験は論述が中心となります。担当者にもわかるように論述してください。相手になにかを伝えるという訓練にもなります。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	事前事後学習の総時間の目安は60時間です。
----	-----------------------

科目名	生涯学習論	科目名(英文)	Lifelong Learning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 孝成
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	高齢化社会の現代日本では、生涯にわたる学習の必要性が指摘され続けています。ここでは「生涯学習」の基本的な理論とその実践例を紹介し、これからの「生涯学習」のあり方を考えていきます。特に担当教官の専門とする歴史学習を取り上げ、市民への文化の提供の方法やその効果、問題点を挙げていき、学芸員や各自治体の生涯学習担当としての知識と意識を身につけることを目的とします。また、各個人が「学ぶ」ことの意味を考えていくことも併せて講義します。
到達目標	生涯学習に関する基礎的な知識と意識を身につけること。また、受講生自身も生涯学習の心構えを持つこと。
授業方法と留意点	配布プリントと板書による講義中心で授業を行います。一回は展示施設の見学を行う予定です。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格などの必要単位となっていますが、自治体など市民に接する職業に就いた場合に対応の心構えの助けになるでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	社会教育と生涯学習の歴史①	現在の生涯学習の前提となる、社会教育の歴史と、生涯学習論の登場についてお話しします。	次回の授業に続きますので、見直しを推奨します。
3	社会教育と生涯学習の歴史②	社会教育の歴史と、生涯学習論の登場について現状に繋げてお話しします。	前回の内容の見直しを推奨します。
4	日本の生涯学習と方法、内容	日本の生涯学習とその形態、内容と問題点の現状についてお話しします。	授業後、機会があれば近隣自治体などで実状を見ることを推奨します。
5	生涯学習と行政の仕組み	生涯学習における社会教育行政の役割とあり方についてお話しします。	授業後、新聞やネットで行政の対応の確認を推奨します。
6	生涯各期の学習課題	人の各年代による学習・教育の特徴と課題についてお話しします。	授業後、自身やご両親、周囲の人の生涯学習状況を考えてください。
7	生涯学習と社会教育施設・公民館と図書館	社会教育施設の実態、特に公民館と図書館について概要をお話しします。	授業後、周りの社会教育施設や大学はもちろん周辺の図書館を再確認することを推奨します。
8	なんのために学ぶのか	緒方洪庵と適塾を通じて「学ぶこと」の意味を考えます。(この講義は見学の日程の直前に行われます)	直後に適塾の見学を予定していますので、ある程度の復習を推奨します。
9	学外見学	重要文化財・適塾の見学。日程については授業の中で決定します。	直前の授業内容の復習を推奨します。
10	生涯学習と社会教育施設・博物館	博物館の役割と組織、問題点とその実態についてお話しします。	授業後、近隣の博物館の見学を推奨します。
11	生涯学習と文化財事業	生涯学習における歴史学習の実状と問題点、位置づけについてお話しします。	授業後、周辺の自治体主催事業について再確認を推奨します。
12	人と「歴史」の関係	身近な「歴史」に関わることの効果とその特徴についてお話しします。	授業後、周囲の歴史についてもう一度考え直してください。
13	それぞれの「生涯学習」	「学ぶ」ことの意味や「知」との向き合い方をお話しします。	授業後、各自の「学び」について考えてください。
14	反・反知性主義	ネットを中心に蔓延する「反知性主義」がいかに生涯学習にとってマイナスになるのかをお話しします。	授業後、社会にある意見について見直してください。
15	これからの生涯学習と地域	講義内容を振り返りながら、生涯学習のあり方とその支えについてお話しし、受講生各自にとっての生涯学習を考えます。	事前に、これまでの授業内容を大枠で復習しておくことを推奨します。

関連科目	教育系科目群
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2	司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論	大堀哲監修	樹村房
3	ことば・ロジック・デザイン	妻木宣嗣	清文堂

評価方法(基準)	定期試験 100% 配布プリントと自筆のノートのみ持ち込み可です。ただし、配布プリントのコピーは許可します。また、授業ごとに質問カードを配布します。提出は必須ではありませんが、次回授業の回答に採用された場合は平常点(1点ないし2点)を付与します。
----------	--

学生へのメッセージ	「生涯学習論」ですが、これは学習を与えるだけの意味ではなく、相互に「学習」していくことも意味します。すべての人が生涯、なにを「学習」するのか、「学習」の意味は何か、を少しでも考えて知っていただくことを願います。また、臨時試験は論述が中心となります。担当者にもわかるように論述してください。相手になにかを伝えるという訓練にもなります。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	事前事後学習の総時間の目安は60時間です。
----	-----------------------

科目名	上級検定インドネシア語	科目名(英文)	Practice for Advanced Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 玲子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験C級の過去問題に取り組み、C級レベルの語彙や文法を学習する。
到達目標	インドネシア語技能検定試験C級レベルの語彙や文法事項の知識を得ることができる。
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験の過去問題を中心に、特に語彙と文法に重点をおき、授業を進める。また、適宜小テストを行う。辞書は必ず携帯すること。

科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定試験
-------------	---------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	練習問題(1)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直す
2	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
3	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
4	練習問題(2)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
5	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
6	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
7	練習問題(3)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
8	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
9	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
10	練習問題(4)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
11	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
12	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
13	練習問題(5)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
14	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
15	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること

関連科目	主言語インドネシア語科目のすべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への積極的参加度合 30%、小テスト 50%、インドネシア語技能検定試験の結果 20%
----------	---

学生へのメッセージ	検定試験合格を目指して、授業には積極的に参加しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習課題はそれぞれ少なくとも1時間以上かけること。半期中の事前・事後の学習は30時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、適宜行う小テスト終了後には解説を行う。
----	---

科目名	初級検定インドネシア語	科目名(英文)	Practice for Elementary Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口 玲子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験E級の過去問題に取り組み、E級レベルの語彙や文法を学習する。
到達目標	インドネシア語技能検定試験E級レベルの語彙や文法事項の知識を得ることができる。
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験の過去問題を中心に、特に語彙と文法に重点をおき、授業を進める。また、適宜小テストを行う。辞書は必ず携帯すること。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	練習問題(1)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直す
2	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
3	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
4	練習問題(2)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
5	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
6	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
7	練習問題(3)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
8	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
9	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
10	練習問題(4)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
11	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
12	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
13	練習問題(5)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
14	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
15	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業への積極的参加度合 30%、小テスト 50%、インドネシア語技能検定試験の結果 20%
----------	---

学生へのメッセージ	検定試験合格を目指して、授業には積極的に参加しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習課題にはそれぞれ少なくとも1時間以上かけること。半期中の事前・事後学習は30時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、適宜行う小テスト終了後には解説を行う。
----	---

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td>摂南大学教務委員会</td> <td>摂南大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>授業および課題への取り組み (100%)</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>浦野研究室 (7号館4階)</p>																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td>摂南大学教務委員会</td> <td>摂南大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各研究室 (7号館3～5階)																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩間 香
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td>摂南大学教務委員会</td> <td>摂南大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>授業および課題への取り組み (100%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>学生生活を意義あるものにしましょう。</p>																
担当者の研究室等	<p>岩間研究室 (7号館5階)</p>																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>授業および課題への取り組み (100%)</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>7号館3階 吉村征洋研究室</p>																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <p>出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td>摂南大学教務委員会</td> <td>摂南大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>授業および課題への取り組み (100%)</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>各研究室 (7号館3～5階)</p>																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td>摂南大学教務委員会</td> <td>摂南大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>授業および課題への取り組み (100%)</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>各研究室 (7号館3～5階)</p>																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>授業および課題への取り組み (100%)</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>各研究室 (7号館3～5階)</p>																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td>摂南大学教務委員会</td> <td>摂南大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>授業および課題への取り組み (100%)</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>各研究室 (7号館3～5階)</p>																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>授業および課題への取り組み (100%)</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>各研究室 (7号館3～5階)</p>																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>授業および課題への取り組み (100%)。</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>中西研究室 (7号館3階)</p>																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td>摂南大学教務委員会</td> <td>摂南大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>授業および課題への取り組み (100%)</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>各研究室 (7号館3～5階)</p>																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>授業および課題への取り組み (100%)</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>各研究室 (7号館3～5階)</p>																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td>摂南大学教務委員会</td> <td>摂南大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>授業および課題への取り組み (100%)</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>天野研究室 (7号館3階)</p>																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td>摂南大学教務委員会</td> <td>摂南大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>授業および課題への取り組み (100%)</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>各研究室 (7号館3～5階)</p>																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】</p> <p>第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。</p> <p>大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td>摂南大学教務委員会</td> <td>摂南大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide	摂南大学教務委員会	摂南大学														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>授業および課題への取り組み (100%)</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>各研究室 (7号館3～5階)</p>																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	概要：大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 目的：①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																
授業方法と留意点	1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。 また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容、方法】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) キャリアデザイン、キャリアプランニング 大学生生活の目標 その他</p> <p>【事前、事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度、内容の理解度、課題への取り組みから、総合的に評価する。 ※この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	有馬研究室 (7号館4階)																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1ゼミ当たり十数名のクラスで、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この授業を単位取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) 3つのポリシーについて知る ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) レポートの書き方 (タイピング、パソコン等による文章作成) 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 その他</p> <p>【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 漢字・時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する (合計 60h)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	First Year Study Guide																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>授業および課題への取り組み (100%)</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	<p>各研究室 (7号館3～5階)</p>																
備考																	

科目名	神話論	科目名(英文)	Mythology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川 豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	太古のときより人類が生みだしてきた神話というジャンルを入口に、現代社会・文化の諸問題について考える方法を身につける。神話は古代のものという見方は誤りである。その証拠に、映画・アニメ・ゲーム・マンガといったサブカルチャーと呼ばれる大衆文化のなかで、神話モチーフは新しい復活を遂げている。神話とは何か、なぜ神話が生き続けるのか、日本と世界各地の神話にどのような違いがあるのかなど、さまざまな角度から神話に光をあて、マクロな視点から人類文明のあり方について考察を深める。
到達目標	・神話というジャンルについて豊富な知識を獲得する。 ・現代文化にどのようなかたちで神話が生きているかについて認識する。 ・日本や世界の文化と思想の流れについて、基礎的な知識を身につけ、その全体像を的確に把握できるようにする。
授業方法と留意点	プリントによる講義が中心となる。 ただし、授業の2回分は、各自のリサーチをもとにした発表会にあてたい。その具体的方法については授業中に改めて指示する。
科目学習の効果(資格)	広い教養の獲得と思考力・記述力の深化。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	人類最古の神話	人類最古の神話を取りあげ、神話の役割を考察し、今後の講義へ向けての動機づけとする。	プリント・ノートの予習・復習
3	英雄神話の誕生 1	英雄神話を具体的にとりあげ、その人類史的意義について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
4	英雄神話の誕生 2	英雄神話を具体的にとりあげ、その人類史的意義について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
5	オイディプス神話とは何か	ギリシア神話のなかからオイディプスを取りあげ、その内容と意義について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
6	シンデレラの謎	世界中にひろがるシンデレラをめぐる伝承を取りあげ、そこに潜む人類史的な謎をめぐって考察する。	プリント・ノートの予習・復習
7	調査発表会	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プリント・ノートの予習・復習
8	日本の神話 1 (出雲)	出雲神話とは何か、その内容と特質について探求する。	プリント・ノートの予習・復習
9	日本の神話 2 (伊勢)	代表的な聖地である伊勢を取りあげ、その神話世界の内容と特質について探求する。	プリント・ノートの予習・復習
10	日本の神話 3 (熊野)	代表的な聖地である熊野を取りあげ、その神話世界の内容と特質について探求する。	プリント・ノートの予習・復習
11	図像と神話 1	具体的な図像を取りあげ、その制作背景となった神話世界を探求する。	プリント・ノートの予習・復習
12	図像と神話 2	具体的な図像を取りあげ、その制作背景となった神話世界を探求する。	プリント・ノートの予習・復習
13	現代と神話(聖地巡礼)	現代の聖地を取りあげ、「聖地巡礼」という社会現象について考察する。	プリント・ノートの予習・復習
14	調査発表会	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プリント・ノートの予習・復習
15	総合確認テスト	講義内容全体に関するまとめと確認テストを行う	ノートの総合整理

関連科目	文化科目全般。
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト・総合テスト 60%、課題レポート等 40%で評価する。
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。
----	------------------------------------

科目名	スキルズ トレーニング I a	科目名 (英文)	Skills Training Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱
2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	ICT	ICT 教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT 教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習

関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	撰南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3	5分間 TOEIC テスト・サブリメント 文法・語法 A Shorter Course in TOEIC Test Grammar	小池直己	南雲堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20%
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 皆本研究室
----------	-------------

備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。</p>
----	--

科目名	スキルズ トレーニング I b	科目名 (英文)	Skills Training Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱
2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	知覚動詞	知覚動詞(e.g. see, hear)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	使役動詞	使役動詞(e.g. have, get)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	関係副詞	関係副詞(e.g. when, where)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞(e.g. until, for)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞(e.g. in, on)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞(e.g. with, by)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習

関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia
------	---------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20%
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の 研究室等	天野研究室（7号館3階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基礎となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱
2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	ICT	ICT教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習

関連科目	ボキャブラリー&グラマー a, スピーキング&ライティング Ia
------	----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		摂南大学外国語学部
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】		西谷 恒志	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	楽しんで参加してもらえるように授業していきたいです！
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱
2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	ICT	ICT 教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT 教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	関係詞	関係代名詞 (e.g. which, that) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習

関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3	Bottom Up Listening for the TOEIC Test	湯舟 英一/Bill Benfield	成美堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	英語学習には日ごろからの自主的な学習が必要不可欠です。努力を惜しまず、頑張ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	後藤研究室（7号館5階）
----------	--------------

備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。</p>
----	--

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱
2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	ICT	ICT教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習

関連科目	ボキャブラリー&文法 a, スピーキング&ライティング Ia
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	語彙・文法は英語力の基本です。毎日、継続することで、しっかり力をつけていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ヘト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱
2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	ICT	ICT教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習

関連科目	ボキャブラリー&文法 a, スピーキング&ライティング Ia
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		摂南大学外国語学部
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】		西谷 恒志	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	英語学習には日ごろからの自主的な学習が必要不可欠です。努力を惜しまず、頑張ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	鳥居研究室（7号館3階）
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チリ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱
2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	ICT	ICT教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習

関連科目	ボキャブラリー&文法 a, スピーキング&ライティング Ia
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 皆本研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	スキルズ トレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱
2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	ICT	ICT 教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT 教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習

関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	撰南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3	5分間 TOEIC テスト・サブリメント 文法・語法 A Shorter Course in TOEIC Test Grammar	小池直己	南雲堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20%
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 皆本研究室
----------	-------------

備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。</p>
----	--

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。			
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。 			
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	5	知覚動詞	知覚動詞(e.g. see, hear)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	6	使役動詞	使役動詞(e.g. have, get)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	8	関係副詞	関係副詞(e.g. when, where)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞(e.g. until, for)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞(e.g. in, on)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞(e.g. with, by)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習
関連科目	ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング&ライティング Ib			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。			
学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語に触れて、英語力を高めていきましょう！			

担当者の 研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ロハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱
2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	知覚動詞	知覚動詞(e.g. see, hear)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	使役動詞	使役動詞(e.g. have, get)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	関係副詞	関係副詞(e.g. when, where)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞(e.g. until, for)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞(e.g. in, on)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞(e.g. with, by)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習

関連科目	ボキャブラリー&文法 b、スピーキング&ライティング Ib
------	-------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	英語学習には日ごろからの自主的な学習が必要不可欠です。努力を惜しまず、頑張ってください。
-----------	--

担当者の 研究室等	鳥居研究室（7号館3階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。			
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。 			
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	5	知覚動詞	知覚動詞(e.g. see, hear)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	6	使役動詞	使役動詞(e.g. have, get)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	8	関係副詞	関係副詞(e.g. when, where)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞(e.g. until, for)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞(e.g. in, on)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞(e.g. with, by)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習
関連科目	ボキャブラリー&文法 b、スピーキング&ライティング Ib			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
	3	STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING	塚田 幸光	金星堂
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。			
学生へのメッセージ	英語学習には日ごろからの自主的な学習が必要不可欠です。努力を惜しまず、頑張ってください。			

担当者の 研究室等	後藤研究室（7号館5階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ヘト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大原関 一浩
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱
2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	知覚動詞	知覚動詞(e.g. see, hear)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	使役動詞	使役動詞(e.g. have, get)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	関係副詞	関係副詞(e.g. when, where)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞(e.g. until, for)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞(e.g. in, on)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞(e.g. with, by)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習

関連科目	ボキャブラリー&文法 b、スピーキング&ライティング Ib
------	-------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の 研究室等	大原閣研究室（7号館5階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チリ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。			
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。 			
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	5	知覚動詞	知覚動詞(e.g. see, hear)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	6	使役動詞	使役動詞(e.g. have, get)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	8	関係副詞	関係副詞(e.g. when, where)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞(e.g. until, for)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞(e.g. in, on)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞(e.g. with, by)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習
関連科目	ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング&ライティング Ib			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
3				
評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20% ※100SS 暗唱テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。			
学生へのメッセージ	たくさん読み、書き、話し、聴くことで四技能をバランスよく鍛えましょう。 Practice makes perfect!			

担当者の 研究室等	7号館5階松田研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズ トレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。			
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。 			
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	5	知覚動詞	知覚動詞(e.g. see, hear)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	6	使役動詞	使役動詞(e.g. have, get)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	8	関係副詞	関係副詞(e.g. when, where)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞(e.g. until, for)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞(e.g. in, on)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞(e.g. with, by)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習
関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS 暗唱テスト 20%			
学生へのメッセージ				

担当者の 研究室等	天野研究室（7号館3階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スピーキング I a	科目名 (英文)	Speaking Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目 ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Setsunan Speaking and Writing Ia (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 暗唱英文 100 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%

学生へのメッセージ This course will help you with useful English phrases and improve your pronunciation and communication skills.

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング I b	科目名 (英文)	Speaking Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	This course will help you with useful English phrases and improve your pronunciation and communication skills.
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキングⅡa	科目名(英文)	Speaking IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく
2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
3	ニュースを議論するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
5	家族の生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
6	高校生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
7	映像を見て質問をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
8	ここまでの学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
9	相手の述べたことについて再確認する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
10	相手の述べたことについてより詳細に聞く	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
11	ストレスへの対処法について議論する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
12	生まれ育った地域について説明する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
13	意見を表明するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
14	意見を表明する実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目 リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュa

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Writing from Within 1	Curtis Kelly & Arlen Gargagliano	Cambridge University Press
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2			
3			

評価方法(基準)	共通課題(合同パフォーマンス) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキングⅡb	科目名(英文)	Speaking IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
4	理想の仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
5	相手の理解を確認する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
6	不平、不満を表明する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
10	報告し、質問をする基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
11	報告し、質問をする実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
12	説得する、主張する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
13	可能性について述べる	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
14	個人的な問題について助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュb
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Writing from Within 1	Curtis Kelly & Arlen Gargagliano	Cambridge University Press
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2			
3			

評価方法(基準)	共通課題(合同パフォーマンス) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目 ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング I a

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Setsunan Speaking and Writing Ia (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 暗唱英文 100 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない

学生へのメッセージ I'm looking forward to having class with you. Be prepared to speak a lot in this class.

担当者の研究室等 7号館3階 フーバー研究室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチュードントアワーにて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目: ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング I a

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Setsunan Speaking and Writing Ia (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)
 暗唱英文 100 発音テスト 10%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
 ※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない

学生へのメッセージ
 If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homesteads', particularly in Australia, should you have any.
 N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.

担当者の研究室等: 7号館2階非常勤講師室

備考: 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・ダイアース
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目: ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング I a

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Setsunan Speaking and Writing Ia (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)
 暗唱英文 100 発音テスト 10%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
 ※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない

学生へのメッセージ
 In addition to the syllabus content explained above, you will practice writing and speaking about your daily life and asking follow up questions.

担当者の研究室等
 7号館2階非常勤講師室

備考
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グラント パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目 ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング I a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ia (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 暗唱英文 100 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない

学生へのメッセージ I'm looking forward to having class with you. Be prepared to speak a lot in this class.

担当者の研究室等 7号館 2階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目 ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング I a

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Setsunan Speaking and Writing Ia (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 暗唱英文 100 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない

学生へのメッセージ 良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェーン ボーメンター
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目: ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング I a

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Setsunan Speaking and Writing Ia (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)
 暗唱英文 100 発音テスト 10%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
 ※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない

学生へのメッセージ
 Please complete the online homework units as we complete the corresponding units in class. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or you will risk failing the course.

担当者の研究室等
 7号館2階非常勤講師室

備考
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目 ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング I a

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Setsunan Speaking and Writing Ia (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 暗唱英文 100 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない

学生へのメッセージ 英語を話す機会を利用して積極的に発言していきましょう。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目 ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング I a

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Setsunan Speaking and Writing Ia (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 暗唱英文 100 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない

学生へのメッセージ Welcome to Speaking and Writing Ia. We will focus on building speaking and writing skills plus confidence! I will prepare the materials for the class. Please don't be afraid to speak and most importantly relax and have fun!

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目: ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング I a

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Setsunan Speaking and Writing Ia (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)
 暗唱英文 100 発音テスト 10%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
 ※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない

学生へのメッセージ
 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.

担当者の研究室等
 7号館2階非常勤講師室

備考
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目 ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング I a

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Setsunan Speaking and Writing Ia (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 暗唱英文 100 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%

学生へのメッセージ This course will help you with useful English phrases and improve your pronunciation and communication skills.

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目 ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ib (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90% ※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	Don't be shy! I'm looking forward to hearing and reading your ideas in class. You will improve your speaking and writing stamina in this class.
担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチューデントアワーにて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsuman Speaking and Writing Ib (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90% ※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない。
-----------	---

学生へのメッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any. N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館 2階非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・ダイアース
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目 ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ib (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 暗唱英文 100 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ In addition to the syllabus content written above, you will practice writing and speaking about your daily life and asking follow up questions.

担当者の研究室等 7号館 2階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	グラント パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90% ※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない。
-----------	---

学生へのメッセージ	I'm looking forward to having class with you. Be prepared to speak a lot in this class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ib (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90% ※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない。
-----------	---

学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館 2階非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェーン ボーメンター
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目 ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部		
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90% ※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or you will risk failing the course. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ib (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90% ※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない。
-----------	---

学生へのメッセージ	Don't be shy! I'm looking forward to hearing and reading your ideas in class. You will improve your speaking and writing stamina in this class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ib (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90% ※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	Welcome back for Speaking & Writing Ib. Now it's time to build upon the skills you learned last semester. Once again, always come to class prepared and ready to participate in all activities to get the most out of this course.
担当者の研究室等	7号館 2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ib (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90% ※発音テストが合格基準に満たない場合は原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
担当者の研究室等	7号館 2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱
	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習

関連科目	スキルズトレーニング b、ポキャブラリー&グラマー b
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ib (無料電子配布教材)	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
-----------	--

学生へのメッセージ	This course will help you with useful English phrases and improve your pronunciation and communication skills.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく
2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
3	ニュースを議論するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
5	家族の生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
6	高校生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
7	映像を見て質問をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
8	ここまでの学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
9	相手の述べたことについて再確認する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
10	相手の述べたことについてより詳細に聞く	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
11	ストレスへの対処法について議論する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
12	生まれ育った地域について説明する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
13	意見を表明するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
14	意見を表明する実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Stretch 2 (ISBN 9780194603133)	Susan Stempleski	Oxford
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2			
3			

評価方法 (基準)	共通課題 (合同パフォーマンス) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to seeing you every week in class! Be prepared to speak lots of English in each and every class.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡa	科目名(英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	3	ニュースを議論するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	5	家族の生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	6	高校生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	7	映像を見て質問をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	8	ここまでの学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	9	相手の述べたことについて再確認する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	10	相手の述べたことについてより詳細に聞く	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	11	ストレスへの対処法について議論する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	12	生まれ育った地域について説明する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	13	意見を表明するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	14	意見を表明する実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュa
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ReadyTo Write 2 (Fifth Edition)	Karen Blanchard	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			

評価方法(基準)	共通課題(合同パフォーマンス) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
----------	---

学生へのメッセージ	I am looking forward to having you in class. Be ready to speak a lot in class.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅡa	科目名(英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリノズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく
2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
3	ニュースを議論するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
5	家族の生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
6	高校生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
7	映像を見て質問をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
8	ここまでの学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
9	相手の述べたことについて再確認する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
10	相手の述べたことについてより詳細に聞く	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
11	ストレスへの対処法について議論する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
12	生まれ育った地域について説明する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
13	意見を表明するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
14	意見を表明する実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目 リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュa

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice: 3rd Edition Level 2 Student Book with Online Practice	Wilson, K.	Oxford University Press
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2			
3			

評価方法(基準) 共通課題(合同パフォーマンス) 15%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%

学生へのメッセージ
If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homesteads', particularly in Australia, should you have any.
Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or you will risk failing the course. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡa	科目名(英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく
2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
3	ニュースを議論するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
5	家族の生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
6	高校生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
7	映像を見て質問をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
8	ここまでの学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
9	相手の述べたことについて再確認する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
10	相手の述べたことについてより詳細に聞く	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
11	ストレスへの対処法について議論する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
12	生まれ育った地域について説明する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
13	意見を表明するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
14	意見を表明する実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュa
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント教材		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2			
3			

評価方法(基準)	共通課題(合同パフォーマンス) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡa	科目名(英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グラント パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく
2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
3	ニュースを議論するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
5	家族の生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
6	高校生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
7	映像を見て質問をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
8	ここまでの学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
9	相手の述べたことについて再確認する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
10	相手の述べたことについてより詳細に聞く	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
11	ストレスへの対処法について議論する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
12	生まれ育った地域について説明する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
13	意見を表明するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
14	意見を表明する実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目 リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュa

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Face to Face	Dale Fuller & Corey Fuller	MacMillan Languagehouse
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2			
3			

評価方法(基準)	共通課題(合同パフォーマンス) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡa	科目名(英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく
2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
3	ニュースを議論するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
5	家族の生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
6	高校生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
7	映像を見て質問をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
8	ここまでの学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
9	相手の述べたことについて再確認する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
10	相手の述べたことについてより詳細に聞く	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
11	ストレスへの対処法について議論する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
12	生まれ育った地域について説明する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
13	意見を表明するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
14	意見を表明する実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュa
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2			
3			

評価方法(基準)	共通課題(合同パフォーマンス) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡa	科目名(英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく
2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
3	ニュースを議論するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
5	家族の生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
6	高校生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
7	映像を見て質問をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
8	ここまでの学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
9	相手の述べたことについて再確認する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
10	相手の述べたことについてより詳細に聞く	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
11	ストレスへの対処法について議論する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
12	生まれ育った地域について説明する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
13	意見を表明するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
14	意見を表明する実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュa
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice 1	Ken Wilson	Oxford
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2				
3				

評価方法(基準)	共通課題(合同パフォーマンス) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
----------	---

学生へのメッセージ	Prepare for your future and study and speak English today.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅡa	科目名(英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	3	ニュースを議論するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	5	家族の生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	6	高校生活について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	7	映像を見て質問をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	8	ここまでの学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	9	相手の述べたことについて再確認する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	10	相手の述べたことについてより詳細に聞く	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	11	ストレスへの対処法について議論する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	12	生まれ育った地域について説明する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	13	意見を表明するための基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	14	意見を表明する実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
	15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュa
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing from Within 1	Curtis Kelly & Arlen Gargagliano	Cambridge University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			

評価方法(基準)	共通課題(合同パフォーマンス) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングII b	科目名(英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
4	理想の仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
5	相手の理解を確認する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
6	不平、不満を表明する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
10	報告し、質問をする基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
11	報告し、質問をする実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
12	説得する、主張する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
13	可能性について述べる	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
14	個人的な問題について助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目	リーディングII b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Stretch 2	Susan Stempleski	Oxford University Press
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2			
3			

評価方法(基準)	共通課題(合同パフォーマンス) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
----------	---

学生へのメッセージ	I'm looking forward to seeing you in class every week. Be sure to come to class every week prepared to speak lots of English. Remember, "practice makes perfect"!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名(英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
4	理想の仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
5	相手の理解を確認する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
6	不平、不満を表明する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
10	報告し、質問をする基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
11	報告し、質問をする実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
12	説得する、主張する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
13	可能性について述べる	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
14	個人的な問題について助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュb
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Ready to write 2 (fifth edition)	Karen Blanchard	Pearson
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2			
3			

評価方法(基準)	共通課題(合同パフォーマンス) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
----------	---

学生へのメッセージ	I am looking forward to having you in class. Be ready to speak a lot in class.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングII b	科目名(英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリノズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
4	理想の仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
5	相手の理解を確認する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
6	不平、不満を表明する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
10	報告し、質問をする基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
11	報告し、質問をする実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
12	説得する、主張する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
13	可能性について述べる	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
14	個人的な問題について助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目	リーディングII b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice: 3rd Edition Level 2 Student Book with Online Practice, ISBN-13: 9780194602730)	Wilson, K.	Oxford University Press
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2			
3			

評価方法(基準)	共通課題(合同パフォーマンス) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
----------	---

学生へのメッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any. N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅡ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
4	理想の仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
5	相手の理解を確認する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
6	不平、不満を表明する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
10	報告し、質問をする基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
11	報告し、質問をする実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
12	説得する、主張する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
13	可能性について述べる	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
14	個人的な問題について助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目	リーディングⅡ b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント教材		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2			
3			

評価方法 (基準)	共通課題 (合同パフォーマンス) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスケジュールアワーにて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングII b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	グラント パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
4	理想の仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
5	相手の理解を確認する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
6	不平、不満を表明する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
10	報告し、質問をする基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
11	報告し、質問をする実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
12	説得する、主張する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
13	可能性について述べる	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
14	個人的な問題について助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目 リーディングII b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Face to Face	Dale Fuller & Corey Fuller	MacMillan Languagehouse
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2			
3			

評価方法 (基準)	共通課題 (合同パフォーマンス) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名(英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
4	理想の仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
5	相手の理解を確認する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
6	不平、不満を表明する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
10	報告し、質問をする基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
11	報告し、質問をする実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
12	説得する、主張する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
13	可能性について述べる	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
14	個人的な問題について助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュb
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2			
3			

評価方法(基準)	共通課題(合同パフォーマンス) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
----------	---

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングII b	科目名(英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
4	理想の仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
5	相手の理解を確認する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
6	不平、不満を表明する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
10	報告し、質問をする基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
11	報告し、質問をする実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
12	説得する、主張する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
13	可能性について述べる	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
14	個人的な問題について助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目 リーディングII b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice 1	Ken Wilson	Oxford University Press
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2			
3			

評価方法(基準) 共通課題(合同パフォーマンス) 15%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%

学生へのメッセージ Prepare for your future and study and speak English today.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングII b	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	1年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。トレーニングの成果を録音・録画して発表する共通課題を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
4	理想の仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
5	相手の理解を確認する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
6	不平、不満を表明する	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
10	報告し、質問をする基礎表現	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
11	報告し、質問をする実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
12	説得する、主張する	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
13	可能性について述べる	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
14	個人的な問題について助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する
15	合同パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う

関連科目	リーディングII b, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Writing from Within 1	Curtis Kelly & Arlen Gargagliano	Cambridge University Press
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2			
3			

評価方法 (基準)	共通課題 (合同パフォーマンス) 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習
2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り
15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	You will need to bring the textbook to every class along with a notebook, writing materials, and a highlighting marker. If you have any questions, come see me anytime.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェーン ボーメンター
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習
2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り
15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate.	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。 Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please make a copy before the class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室.
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アサー ロングス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習
2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り
15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	英語で話す・書く活動をいっしょに楽しみましょう！
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習
2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り
15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate.	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	英語で話す・書く活動をいっしょに楽しみましょう!
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り
15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	積極的な授業参加を期待します。授業中の携帯の使用は認めません。辞書を持参するようにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中村 信之
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り
15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	英語の発音は読む回数に比例して上達していきます。自分の音読した英語を聞くことはリスニングの強化にもなるので、毎日英語を最低1度は読む習慣をつけて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤控室
----------	------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	拙冬 紘和
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習
2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習
11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習
14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り
15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	ライティングとスピーキング (プレゼンテーション) は少しのコツと練習で上達できるスキルです。一緒に楽しんでそれらのスキルを学びましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
9	統一性 (Unity) について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習
13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習
14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り
15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	You will need to bring the textbook to every class along with a notebook, writing materials, and a highlighting marker. If you have any questions, come see me anytime.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢb	科目名(英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェーン ボーメンター
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
9	統一性(Unity)について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習
13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習
14	英語のプレゼンテーション(発表会)	発表	発表の振り返り
15	英語のプレゼンテーション(発表会)の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題(プレゼンテーション) 15%
----------	---

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。 Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please make a copy before the class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢb	科目名(英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アサー ロンダス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習
2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
9	統一性(Unity)について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習
13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習
14	英語のプレゼンテーション(発表会)	発表	発表の振り返り
15	英語のプレゼンテーション(発表会)の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate.	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点(授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題(プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	英語で話す・書く活動をいっしょに楽しみましょう!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢb	科目名(英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習
2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
3	人や物について書く・話すスキルを身につけるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身につけるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身につけるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
9	統一性(Unity)について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習
13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習
14	英語のプレゼンテーション(発表会)	発表	発表の振り返り
15	英語のプレゼンテーション(発表会)の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate.	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点(授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題(プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	英語で話す・書く活動をいっしょに楽しみましょう!
担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢb	科目名(英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習
2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
9	統一性(Unity)について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習
13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習
14	英語のプレゼンテーション(発表会)	発表	発表の振り返り
15	英語のプレゼンテーション(発表会)の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点(授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題(プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	積極的な授業参加を期待します。 授業中の携帯の使用は認めません。辞書を持参するようにしてください。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中村 信之
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
9	統一性 (Unity) について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習
13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習
14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り
15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	ライティングやプレゼンテーションでは、自分が相手に何を伝えたいのかを考えるとこから始まります。相手に伝えたいと思う内容を自分の中で育てていけるよう、興味のあることについて複数のメディアや書籍から情報を収集したり、色々な人の話を聞いたり、そして時には体験から学ぶ姿勢を大切にしてください。授業では相手に言いたいことが効果的に伝えられるよう、文章の論理的な構成など、その方法について学んでいきます。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢb	科目名(英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	拙冬 紘和
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1年次・2年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
9	統一性(Unity)について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習
12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習
13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習
14	英語のプレゼンテーション(発表会)	発表	発表の振り返り
15	英語のプレゼンテーション(発表会)の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点(授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題(プレゼンテーション) 15%
学生へのメッセージ	ライティングとスピーキング(プレゼンテーション)は少しのコツと練習で上達できるスキルです。一緒に楽しんでそれらのスキルを学びましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スペイン語Ⅱa	科目名(英文)	Spanish IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。広域なスペイン語圏に関心を持ち、その文化に親しむ。
授業方法と留意点	前期ではアルファベットと発音から始め、第6課まで学習する予定です。 受講にあたっては教科書、配布されたプリント等を持参すること。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方。 スペイン語とスペイン語圏についての概要の説明。	挨拶表現を練習する。
2	第1課	アルファベットと発音の解説。	授業後、スペイン語の発音の法則を確認し、声に出して練習する。挨拶表現を練習する。 基数0~10を覚える。 授業後、名詞の性・数の法則を確認して覚える。 会話文を声に出して繰り返し練習する。 練習問題 p.15 を予習する。
3	前回の復習 第1課	アルファベットと発音の徹底。	単語の読みだけでなく、短い文を読む練習をし、イントネーションを身につける。
4	前回の復習 第2課	名詞、冠詞の解説。 「タクシーで」の会話。	授業後、名詞の性・数の法則を確認して覚える。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
5	理解度確認テスト(1) 第2課	発音、アクセント、名詞に関する確認テスト 動詞 hay の使い方。 「バルで」の会話。	授業後、動詞 hay の使い方を確認する。 会話文を声に出して繰り返し練習する。基数 11~20 を覚える。
6	前回の復習 第3課	主語人称代名詞の解説。 動詞 ser の使い方。 「授業で」の会話。	授業後、動詞 ser の使い方を確認する。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
7	前回の復習 第3課	疑問文と否定文の解説。 動詞 estar の使い方。 「街角で」の会話。	授業後、動詞 estar の使い方を確認する。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
8	理解度確認テスト(2) 第4課	動詞 hay, ser, estar に関する確認テスト 直説法現在規則活用と使用頻度の高い語彙の解説。	授業後、基本動詞の活用と意味を確認する。
9	前回の復習 第4課	規則活用の徹底。 指示形容詞と指示代名詞の解説。 「パーティで」の会話。	会話文を声に出して繰り返し練習する。
10	前回の復習 第5課	動詞 tener の解説。 形容詞の語尾変化。 ser, estar + 形容詞の用法。 「スペインの美しい海岸」についての文。	授業後、動詞 tener の活用と用法を確認する。語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。
11	前回の復習 第5課	感嘆文の解説。 所有形容詞の解説。 「アlicantesの街並みについて」の会話。	動詞 ser, estar の活用と用法の確認。 会話文を繰り返し声に出して読んでみる。
12	理解度確認テスト(3) 第6課	規則変化動詞および tener の活用と用法に関する確認テスト 動詞 ir, venir の解説。	動詞 ir, venir の活用と用法の確認。
13	前回の復習 第6課	国名・地名形容詞の説明。 「ブルゴスの大聖堂」についての文。	国名とその形容詞形を確認し、覚えること。
14	第6課 これまでの復習	時刻の表現。 「教会建築について」の会話。	基数の確認。 会話文を声に出して読んでみる。
15	学習内容の確認	前期に学習した文法および語彙・基本表現の確認テストと総復習。	授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておく。

関連科目	スペイン語圏概論
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アミーゴス	西川 喬	第三書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<p>一定程度進んだ段階で理解度確認テスト(30%)をする。 最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テスト(60%)をする。 授業への参加度(10%)と合わせて総合的に評価する。</p>
学生への メッセージ	<p>初めて学ぶ外国語は覚えるべきことが多いですが、スペイン語は母音が日本語と同じなので発音はとても簡単です。文法をマスターし語彙を増やすことで、スペイン語で発信することができるようになります。</p>
担当者の 研究室等	<p>7号館5階 北條研究室</p>
備考	<p>事前・事後学修に各1時間を要する。</p>

科目名	スペイン語Ⅱ b	科目名 (英文)	Spanish IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。 スペイン語圏の文化に親しむ。
授業方法と留意点	後期では第7課から第12課まで学習する予定です。 受講にあたっては教科書、西和辞典、配布されたプリント等を持参すること。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	前期の学習内容の確認	前期で学習したことの確認。	授業前に前期で学習したことを総復習しておくこと。 授業後は動詞の活用の確認。
2	第7課	動詞 decir と oír の解説 序数、曜日と日付の表現	授業後、月名・曜日・日付に関する語彙を覚えること。 会話を声に出して繰り返し練習する。
3	前回の復習 第7課	不定語と否定語 hacer 型動詞	授業後、会話を声に出して繰り返し練習する。
4	前回の復習 第8課	目的格人称代名詞 所有形容詞	会話を声に出して繰り返し練習する。
5	前回の復習 第8課	動詞 dar と ver, saber と conocer	授業後、会話を声に出して繰り返し練習する。
6	理解度確認テスト (1) 第9課	後期に習った動詞の活用と用法に関する確認テスト 動詞 querer と poder	授業後、語幹母音変化動詞の確認をすること。 会話を声に出して繰り返し練習する。
7	前回の復習 第9課	過去分詞、現在完了についての解説	授業後、動詞の活用を確認すること。 会話を声に出して繰り返し練習する。
8	前回の復習 第10課	語幹母音変化動詞 (2) al+不定詞など	語幹母音変化動詞の活用をしっかりと練習すること
9	前回の復習 第10課	gustar 型動詞 関係代名詞 que など	授業後、動詞の活用と用法を確認すること。 会話を声に出して繰り返し練習する。
10	理解度確認テスト (2) 第11課	主に第9課、第10課の内容に関する確認テスト 再帰動詞	試験前に既習事項 (特に動詞の活用) を復習しておくこと。 会話を声に出して繰り返し練習する。
11	前回の復習 第11課	受身表現、無人称表現など	授業後、受身表現を確認すること。 会話を声に出して繰り返し練習する。
12	前回の復習 第12課	形容詞・副詞の比較級、最上級についての解説。	授業後、形容詞・副詞の最上級を確認すること。 会話を声に出して繰り返し練習する。
13	前回の復習 第12課	点過去規則用法	授業後、点過去規則用法の活用と知覚動詞の用法を確認すること。 会話を声に出して繰り返し練習する。
14	これまでの復習	弱点の克服	会話を声に出して繰り返し練習する。
15	学習内容の確認	後期に学習した文法および語彙・基本表現の確認テスト。	授業前に後期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目	エリア・スタディーズ (ラテンアメリカ)
------	----------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アミーゴス	西川 喬	第三書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法 (基準)	一定程度進んだ段階で理解度確認テスト (30%) をする。 最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テスト (60%) をする。 平常点 (10%) と合わせて総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	今学期では、前期で学習したことをさらに進めて多くの表現ができるようになります。間違いを怖れず積極的に会話をしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	事前・事後学修に各1時間を要する。
----	-------------------

科目名	スペイン語Ⅲ a	科目名 (英文)	Spanish IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	この授業では文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、会話力をつける。 使用するテキスト『El tesoro de España (スペインの宝)』は、主人公である日本の若者がスペインを旅するストーリー性のある内容となっている。空港やホテル、各地での観光やお祭・食べ物等のエピソードを通して実際に現地で使えるスペイン語を学習する。 なお、受講にあたっては、スペイン語Ⅰ、Ⅱの履修経験者がのぞましい。
到達目標	スペイン語の基本的な文法・語句を学び、スペイン語圏への知識と興味を深める。
授業方法と留意点	受講にあたっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等も持参すること。 必要に応じて小テストを実施する。 以下に記す授業計画は目安であり、受講生の理解度によって進度を調整することがあります。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定6級または5級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	これまでの学習内容の確認 (2) テキスト第1課:マドリード (1)	スペイン語Ⅰ、Ⅱで習った文法事項や表現を復習する。 空港での会話。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
3	テキスト第2・3課 マドリード(2)・(3)	動詞 ser「…である」、estar「…の状態である；…にいる」の用法を学ぶ。 ホテルでチェックインの会話。 健康をたずねる会話。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
4	テキスト第4課 マドリード(4)	動詞 ir「行く」、venir「来る」の用法を学ぶ。 プラド美術館の概要を解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
5	テキスト第5・6課 セビリア(1)・(2)	動詞 tener「持つ」、hablar「話す」の用法を学ぶ。 タクシーに乗る時の会話。 スペインの新幹線AVEの概要を解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
6	テキスト第7課 セビリア(3)	動詞 comer「食べる」の用法を学ぶ。 飲食についての語句を知る。 居酒屋での会話。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
7	テキスト第8課 セビリア(4)	動詞 vivir「生きる・住む」の用法を学ぶ。 都市名を知る。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
8	理解度確認テスト	前半の学習内容の確認テスト	ここまで学習した文法・語彙・表現を総確認しておくこと。
9	テキスト第9課 バルセロナ(1)	動詞 querer「…欲する」の用法を学ぶ。 交通に関する語句を知る。 カタルーニャの概要の説明。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
10	テキスト第10課 バルセロナ(2)	動詞 poder「…できる」の用法を学ぶ。 バルセロナ観光での会話。 バルセロナについての概要を説明。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
11	テキスト第11課 バルセロナ(3)	動詞 salir「去る」、llegar「着く」の用法を学ぶ。 買い物での会話。 建物の名称を知る。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
12	テキスト第12課 バルセロナ(4)	動詞 gustar「好かれる」、decir「言う」、dar「与える」の用法を学ぶ。 バルセロナ観光での会話。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
13	テキスト第13課 パンブローナ(1)	動詞 levantarse「起きる」との用法を学ぶ。 衣服に関する語句を知る。 パンブローナの概要を説明。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
14	テキスト第14課 パンブローナ(2)	再帰動詞を学ぶ。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
15	理解度確認テスト	前期の学習内容の確認テスト。	前期で学習した文法・語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	El tesoro de Espana (スペインの宝)	福罵 教隆	同学社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト(20%)、会話(30%)、理解度確認テスト(50%)			
学生への メッセージ	授業はゆっくり進めます。 スペインの語だけではなく、スペインの風景や文化に触れながらコツコツ学習しましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。			

科目名	スペイン語Ⅲb	科目名(英文)	Spanish IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>スペイン語 III に引き続きテキスト『El tesoro de España (スペインの宝)』を用いて授業を進める。テキストは主人公である日本の若者がスペインを旅するストーリー性のある内容となっており、様々なエピソードを通して実際に現地ですべいん語を学習する。</p> <p>なお、受講にあたっては、スペイン語 I、II の履修経験者がのぞましい。</p>
到達目標	語彙を増やし、多くの表現法を学ぶことでスペイン語圏の知識と興味を深める。
授業方法と留意点	<p>受講に当たっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等も持参すること。授業では会話に重点をおき、必要に応じて小テストを実施する。</p> <p>以下に記す授業計画は目安であり、受講生の理解度によって進度を調整することがある。</p>
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定 6 級・5 級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	前期の学習内容の確認(1)	前期で習った文法事項や表現を復習する(第1課から第5課)	予習として、第1課から第5課までの確認をしておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
2	前期の学習内容の確認(2)	前期で習った文法事項や表現を復習する(第6課から第10課)	予習として、第6課から10課までの確認をしておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
3	前期の学習内容の確認(3)	前期で習った文法事項や表現を復習する(第11課から第14課)	予習として、第11課から14課までの確認をしておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
4	テキスト第15課 パンブローナ(3)	動詞 hacer「作る;する」の用法を学ぶ。 天体・四季・動植物に関する語句を知る。 天候の会話。 サン・フェルミン祭の概要の解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
5	テキスト第16課 パンブローナ(4)	過去分詞・現在完了形を学ぶ。 否定語・不定語を使う会話。 牛追い祭の概要を解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
6	テキスト第17課 サン・セバスチャン(1)	現在分詞、比較級・最上級の用法を学ぶ。 パソコン用語を知る。 パソコンを使いながらの会話。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
7	テキスト第18課 サン・セバスチャン(2)	点過去形の用法(1)を学ぶ。 親族に関する語句を知る。 バスク地方とバスク語の概要を解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
8	理解度確認テスト	第15課から第18課まで学習した内容の理解度を確認する。	テスト範囲の内容の確認と総復習をしておくこと。
9	テキスト第19課 サン・セバスチャン(3)	点過去形の用法(2)を学ぶ。 点過去形を使った会話。 かけ声に関する語句を知る。 バスク料理の概要を解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
10	テキスト第20課 サン・セバスチャン(4)	線過去形の用法を学ぶ。 線過去形を使った会話。 擬声語の語句を知る。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
11	テキスト第21課 ラ・コルーニャ(1)	未来形の用法を学ぶ。 未来形を使った会話。 サンチアゴ・デ・コンポステーラの概要を解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
12	テキスト第22課 ラ・コルーニャ(2)	接続法の用法(1)を学ぶ。 感嘆・慣用句を知る。 ガリシアとガリシア語の概要を解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
13	テキスト第23課 ラ・コルーニャ(3)	接続法で願望・不確定・感情を表現する。 ラ・コルーニャの概要を解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
14	テキスト第24課 ラ・コルーニャ(4)	接続法のまとめ。 動詞の時制のまとめ。	後期授業で学習した内容の確認と総復習をしておくこと。
15			

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	El tesoro de España (スペインの宝)	福馬 教隆	同学社

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>一定程度進んだ段階で理解度確認テスト(30%)をする。 最終週に既修範囲を対象とする到達度確認テスト(60%)をする。 平常点(10%)と合わせて総合的に評価する。</p>			
学生への メッセージ	<p>新しい語彙や表現が増えてきますが、授業はゆっくり進めます。スペインの語だけではなく、スペインの風景や文化に触れながらコツコツ学習しましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。			

科目名	スペイン語応用 I	科目名 (英文)	Applied Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。対話文やまとまった量のテキストの読みを通して、語彙、表現、文構造の理解を高める。
授業方法と留意点	正答（することだけ）にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。 疑問を持ち、考え、質問すること。 授業計画はあくまで目安であり、レベルと進捗状況に応じて多少の修正を加え得る。
科目学習の効果 (資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習。 歴史文化 (世界遺産) についても触れる。 スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	科目説明	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
2	文字と発音	アルファベット 発音	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
3	第 1 課	名詞の性と数 冠詞 形容詞 「これは何ですか」	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
4	第 2 課	主語人称代名詞 Ser/estar 指示詞 前置詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
5	第 1, 2 課まとめ	第 1, 2 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
6	中間的試験	第 1, 2 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
7	第 3 課	規則動詞直説法現在 国・言語・国民の言い方 都市・住宅に関する語彙 文の種類	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
8	第 4 課	動詞 tener, ir, venir querer, poder 型動詞 (現在) 不規則動詞 (現在) 食事・あいさつの表現	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
9	第 3, 4 課まとめ	第 3, 4 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
10	中間的試験	第 3, 4 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
11	第 5 課	基数詞 時刻表現 比較級・最上級 家族知人に関する語彙	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
12	第 6 課	目的語の代名詞「〜に」「〜を」 Gustar 型動詞 身体部位に関する語彙 hay 「〜がある」	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
13	第 7 課	再帰動詞 天候の表現 季節、月、曜日の表現 所有詞 (前置形)	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
14	第 5, 6, 7 課まとめ	第 5, 6, 7 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
15	試験	第 5, 6, 7 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習

関連科目	スペイン語入門A、B、C
------	--------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界遺産で学ぶスペイン語	福罵教隆、フアン・ロメロ・ディアス	朝日出版
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中規模の試験を複数回(2課につき1度の計3回を予定)実施する。 試験90%+受講姿勢(発表など)10%			
学生への メッセージ	初めての外国語の勉強は大変だが、毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 文法項目が応用で初めて(入門より先に)出てくることもあるが、両科目ともスペイン語の初級文法を扱っているため、混乱する必要はない(そうならないために、予習復習をきちんとすることと諸科目をリンクする意識をもつこと)。			
担当者の 研究室等	7号館5階 安達研究室			
備考	事前・事後に各1時間の学習時間を要する。 文法の「入門・基礎ABC」と内容が前後して進むことがあるが、応用が先行しようとも、それぞれの科目を予習していれば問題ない。			

科目名	スペイン語応用 I	科目名 (英文)	Applied Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。対話文やまとまった量のテキストの読みを通して、語彙、表現、文構造の理解を高める。
授業方法と留意点	正答（することだけ）にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。 疑問を持ち、考え、質問すること。 授業計画はあくまで目安であり、レベルと進捗状況に応じて多少の修正を加え得る。
科目学習の効果 (資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習。 歴史文化 (世界遺産) についても触れる。 スペイン語検定 6 級

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	科目説明	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
2	文字と発音	アルファベット 発音	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
3	第 1 課	名詞の性と数 冠詞 形容詞 「これは何ですか」	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
4	第 2 課	主語人称代名詞 Ser/estar 指示詞 前置詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
5	第 1, 2 課まとめ	第 1, 2 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
6	中間的試験	第 1, 2 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
7	第 3 課	規則動詞直説法現在 国・言語・国民の言い方 都市・住宅に関する語彙 文の種類	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
8	第 4 課	動詞 tener, ir, venir querer, poder 型動詞 (現在) 不規則動詞 (現在) 食事・あいさつの表現	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
9	第 3, 4 課まとめ	第 3, 4 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
10	中間的試験	第 3, 4 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
11	第 5 課	基数詞 時刻表現 比較級・最上級 家族知人に関する語彙	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
12	第 6 課	目的語の代名詞「〜に」「〜を」 Gustar 型動詞 身体部位に関する語彙 hay 「〜がある」	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
13	第 7 課	再帰動詞 天候の表現 季節、月、曜日の表現 所有詞 (前置形)	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
14	第 5, 6, 7 課まとめ	第 5, 6, 7 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
15	試験	第 5, 6, 7 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	

関連科目	スペイン語入門A、B、C
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界遺産で学ぶスペイン語	福罵教隆、フアン・ロメロ・ディアス	朝日出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中規模の試験を複数回(2課につき1度の計3回を予定)実施する。 試験90%+受講姿勢(発表など)10%			
学生への メッセージ	初めての外国語の勉強は大変だが、毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 文法項目が応用で初めて(入門より先に)出てくることもあるが、両科目ともスペイン語の初級文法を扱っているため、混乱する必要はない(そうならないために、予習復習をきちんとすることと諸科目をリンクする意識をもつこと)。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	事前・事後に各1時間の学習時間を要する。 文法の「入門・基礎ABC」と内容が前後して進むことがあるが、応用が先行しようとも、それぞれの科目を予習していれば問題ない。			

科目名	スペイン語応用Ⅱ	科目名(英文)	Applied Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語基礎 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語基礎 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。対話文やまとまった量のテキストの読みを通して、語彙、表現、文構造の理解を高める。
授業方法と留意点	正答(することだけ)にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。 疑問を持ち、考え、質問すること。 授業計画はあくまで目安であり、レベルと進捗状況に応じて多少の修正を加え得る。
科目学習の効果(資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習。 歴史文化(世界遺産)についても触れる。 スペイン語検定5級

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	復習	前期の学習内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
2	復習	前期の学習内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
3	第8課	点過去形(規則動詞と不規則動詞) 点過去形のはたらき 副詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
4	第9課	線過去形(規則動詞と不規則動詞) 線過去形のはたらき	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
5	第8, 9課まとめ	第8, 9課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
6	中間的試験	第8, 9課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
7	第10課	未来形と過去未来形(規則動詞と不規則動詞) 未来形と過去未来形のはたらき	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
8	第11課	現在分詞と過去分詞 現在完了形 不定語と否定語 不定詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
9	第10, 11課まとめ	第10, 11課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
10	中間的試験	第10, 11課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
11	第12課	能動文と受動文 2つの受動文 序数詞 疑問詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
12	第13課	関係詞 複文 縮小辞と増大辞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
13	第12, 13課まとめ	第12, 13課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
14	試験	第12, 13課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
15	総復習	後期の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	

関連科目	スペイン語基礎A、B、C
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界遺産で学ぶスペイン語	福嶋教隆、フアン・ロメロ・ディアス	朝日出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	中規模の試験を複数回(2課につき1度の計3回を予定)実施する。 試験90%+受講姿勢(発表など)10%
学生への メッセージ	初めての外国語の勉強は大変だが、毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 文法項目が応用で初めて(基礎より先に)出てくることもあるが、両科目ともスペイン語の初級文法を扱っているため、混乱する必要はない(そうならないために、予習復習をきちんとすることと諸科目をリンクする意識をもつこと)。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	事前・事後に各1時間の学習時間を要する。 文法の「基礎ABC」と内容が前後して進むことがあるが、応用が先行しようとも、それぞれの科目を予習していれば問題ない。

科目名	スペイン語応用Ⅱ	科目名(英文)	Applied Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語基礎 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語基礎 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。対話文やまとまった量のテキストの読みを通して、語彙、表現、文構造の理解を高める。
授業方法と留意点	正答(することだけ)にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。 疑問を持ち、考え、質問すること。 授業計画はあくまで目安であり、レベルと進捗状況に応じて多少の修正を加え得る。
科目学習の効果(資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習。 歴史文化(世界遺産)についても触れる。 スペイン語検定5級

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	復習	前期の学習内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
2	復習	前期の学習内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
3	第8課	点過去形(規則動詞と不規則動詞) 点過去形のはたらき 副詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
4	第9課	線過去形(規則動詞と不規則動詞) 線過去形のはたらき	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
5	第8, 9課まとめ	第8, 9課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
6	中間的試験	第8, 9課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
7	第10課	未来形と過去未来形(規則動詞と不規則動詞) 未来形と過去未来形のはたらき	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
8	第11課	現在分詞と過去分詞 現在完了形 不定語と否定語 不定詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
9	第10, 11課まとめ	第10, 11課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
10	中間的試験	第10, 11課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
11	第12課	能動文と受動文 2つの受動文 序数詞 疑問詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
12	第13課	関係詞 複文 縮小辞と増大辞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
13	第12, 13課まとめ	第12, 13課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
14	試験	第12, 13課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
15	総復習	後期の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	

関連科目	スペイン語基礎A、B、C
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界遺産で学ぶスペイン語	福嶋教隆、フアン・ロメロ・ディアス	朝日出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	中規模の試験を複数回(2課につき1度の計3回を予定)実施する。 試験90%+受講姿勢(発表など)10%
学生への メッセージ	初めての外国語の勉強は大変だが、毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 文法項目が応用で初めて(基礎より先に)出てくることもあるが、両科目ともスペイン語の初級文法を扱っているため、混乱する必要はない(そうならないために、予習復習をきちんとすることと諸科目をリンクする意識をもつこと)。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	事前・事後に各1時間の学習時間を要する。 文法の「基礎ABC」と内容が前後して進むことがあるが、応用が先行しようとも、それぞれの科目を予習していれば問題ない。

科目名	スペイン語オラルⅡA	科目名(英文)	Spanish Conversation IIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ヘスス マルティン
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	2グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。オラルⅠで使用した教科書を継続使用する。復習を交えながら2～3回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より前後することもある。各課は導入、文法、練習、最終課題、自己評価からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級 秋の暗唱大会に向けた詩の朗読練習

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	スペイン語オラルⅠで学習したことへの復習	既修の語彙と表現を用いた復習	スペイン語オラルⅠでの学習事項を総復習しておく。
2	Unidad 7 私は猫が好きです	gustar 型動詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 7 私は猫が好きです	直説法現在不規則動詞Ⅲ 前置詞に続く代名詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 8 私は7時に起きます	再帰動詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 8 私は7時に起きます	時間関係を表す表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 9 どんなのがいいですか？	直接目的語と直接目的代名詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 9 どんなのがいいですか？	数字 100以上	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Repaso 3 前半の復習	前半の要点復習	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
9	理解度確認中間テスト 詩の朗読練習	理解度確認中間テスト 詩の朗読	これまでに学習した事項や表現の復習 事前に配布された詩に目を通しておく。
10	Unidad 10 辞書貸してくれる？	間接目的語と間接目的代名詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 10 辞書貸してくれる？	直説法現在不規則動詞Ⅳ	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 11 カッコよくしないとね	不定詞を伴う動詞 動詞 conocer と saber	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 11 カッコよくしないとね	天候表現と四季 比較表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Repaso 4 これまでの総復習	総復習	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	まとめ 目標達成度確認テスト	理解度確認テスト	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語基礎、スペイン語応用Ⅱ
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	発見！大好き！スペイン語！！ 1	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai y Hiroko Omori	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業への参加状況(30%)、課題や小テスト、暗唱大会への参加度(30%)、理解度確認テスト(40%)などから評価する。
----------	---

学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。秋の暗唱大会へ参加するために詩の暗唱と朗詠を行う。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅡA	科目名(英文)	Spanish Conversation IIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アラセリ コラール
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	2グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。オラルⅠで使用した教科書を継続使用する。復習を交えながら2～3回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より前後することもある。各課は導入、文法、練習、最終課題、自己評価からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級 秋の暗唱大会に向けた詩の朗読練習

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	スペイン語オラルⅠで学習したことへの復習	既修の語彙と表現を用いた復習	スペイン語オラルⅠでの学習事項を総復習しておく。
2	Unidad 7 私は猫が好きです	gustar 型動詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 7 私は猫が好きです	直説法現在不規則動詞Ⅲ 前置詞に続く代名詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 8 私は7時に起きます	再帰動詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 8 私は7時に起きます	時間関係を表す表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 9 どんなのがいいですか?	直接目的語と直接目的代名詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 9 どんなのがいいですか?	数字 100以上	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Repaso 3 前半の復習	前半の要点復習	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
9	理解度確認中間テスト 詩の朗読練習	理解度確認中間テスト 詩の朗読	これまでに学習した事項や表現の復習 事前に配布された詩に目を通しておく。
10	Unidad 10 辞書貸してくれる?	間接目的語と間接目的代名詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 10 辞書貸してくれる?	直説法現在不規則動詞Ⅳ	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 11 カッコよくしないとね	不定詞を伴う動詞 動詞 conocer と saber	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 11 カッコよくしないとね	天候表現と四季 比較表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Repaso 4 これまでの総復習	総復習	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	まとめ 目標達成度確認テスト	理解度確認テスト	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語基礎、スペイン語応用Ⅱ
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	発見!大好き!スペイン語!!! 1	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai y Hiroko Omori	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業への参加状況(30%)、課題や小テスト、暗唱大会への参加度(30%)、理解度確認テスト(40%)などから評価する。
----------	---

学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。秋の暗唱大会へ参加するために詩の暗唱と朗詠を行う。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラル I	科目名 (英文)	Spanish Conversation I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アラセリ コラール
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	2グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課6ページから成り、2回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より前後することもある。 各課は、導入、文法、練習、最終課題、自己評価からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unidad preliminar 教室で	アクセント 教室で使うことば 級友とあいさつを交わす。 数字 1~20	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 1 見て、犬がいるよ!	名詞の性と数	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 1 見て、犬がいるよ!	不定冠詞と定冠詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 2 彼女は誰?	動詞 ser と主語代名詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 2 彼女は誰?	形容詞の性と数 疑問文、肯定文、否定文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 3 学生さんですか?	直説法現在規則動詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Unidad 3 学生さんですか? Repaso 1 前半の復習 理解度確認中間テスト	曜日、頻度表現 前半の復習 理解度確認中間テスト	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。 これまでに学習した事項や表現の復習
9	Unidad 4 君の町には何があるの?	動詞 estar と hay	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Unidad 4 君の町には何があるの?	Muy と mucho 指示詞、場所を表す副詞 位置表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 5 なんて素敵なんでしょう!	動詞 tener	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 5 なんて素敵なんでしょう!	所有詞前置形 感嘆文 数字 20~100	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 6 この週末どこへ行く?	直説法現在不規則動詞 I	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Unidad 6 この週末どこへ行く?	直説法現在不規則動詞 II 時間を表す表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	Repaso 2 これまでの総復習と目標達成度確認	総復習と理解度確認テスト	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語入門、スペイン語応用 I
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	発見! 大好き!! スペイン語!!! 1	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai y Hiroko Omori	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加状況(30%)、課題や小テスト(30%)、理解度確認テスト(40%)などから評価する。
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	授業の前に1時間、後に1時間の学習時間を要する。

科目名	スペイン語オラル I	科目名 (英文)	Spanish Conversation I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ヘスス マルティン
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	2グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課6ページから成り、2回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より前後することもある。各課は、導入、文法、練習、最終課題、自己評価からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unidad preliminar 教室で	アクセント 教室で使うことば 級友とあいさつを交わす。 数字 1~20	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 1 見て、犬がいるよ!	名詞の性と数	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 1 見て、犬がいるよ!	不定冠詞と定冠詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 2 彼女は誰?	動詞 ser と主語代名詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 2 彼女は誰?	形容詞の性と数 疑問文、肯定文、否定文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 3 学生さんですか?	直説法現在規則動詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Unidad 3 学生さんですか? Repaso 1 前半の復習 理解度確認中間テスト	曜日、頻度表現 前半の復習 理解度確認中間テスト	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。 これまでに学習した事項や表現の復習
9	Unidad 4 君の町には何があるの?	動詞 estar と hay	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Unidad 4 君の町には何があるの?	Muy と mucho 指示詞、場所を表す副詞 位置表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 5 なんて素敵なんでしょう!	動詞 tener	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 5 なんて素敵なんでしょう!	所有詞前置形 感嘆文 数字 20~100	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 6 この週末どこへ行く?	直説法現在不規則動詞 I	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Unidad 6 この週末どこへ行く?	直説法現在不規則動詞 II 時間を表す表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	Repaso 2 これまでの総復習と目標達成度確認	総復習と理解度確認テスト	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語入門、スペイン語応用 I
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	発見! 大好き!! スペイン語!!! 1	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai y Hiroko Omori	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加状況 (30%)、課題や小テスト (30%)、理解度確認テスト (40%) などから評価する。
学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	授業の前に1時間、後に1時間の学習時間を要する。

科目名	スペイン語オラルⅡ	科目名(英文)	Spanish Conversation II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ヘスス マルティン
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	2グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。オラルⅠで使用した教科書を継続使用する。復習を交えながら2～3回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より前後することもある。各課は導入、文法、練習、最終課題、自己評価からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級 秋の暗唱大会に向けた詩の朗読練習

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	スペイン語オラルⅠで学習したことへの復習	既修の語彙と表現を用いた復習	スペイン語オラルⅠでの学習事項を総復習しておく。
2	Unidad 7 私は猫が好きです	gustar 型動詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 7 私は猫が好きです	直説法現在不規則動詞Ⅲ 前置詞に続く代名詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 8 私は7時に起きます	再帰動詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 8 私は7時に起きます	時間関係を表す表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 9 どんなのがいいですか?	直接目的語と直接目的代名詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 9 どんなのがいいですか?	数字 100以上	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Repaso 3 前半の復習	前半の要点復習	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
9	理解度確認中間テスト 詩の朗読練習	理解度確認中間テスト 詩の朗読	これまでに学習した事項や表現の復習 事前に配布された詩に目を通しておく。
10	Unidad 10 辞書貸してくれる?	間接目的語と間接目的代名詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 10 辞書貸してくれる?	直説法現在不規則動詞Ⅳ	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 11 カッコよくしないとね	不定詞を伴う動詞 動詞 conocer と saber	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 11 カッコよくしないとね	天候表現と四季 比較表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Repaso 4 これまでの総復習	総復習	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	まとめ 目標達成度確認テスト	理解度確認テスト	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語基礎、スペイン語応用Ⅱ
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	発見!大好き!スペイン語!!! 1	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai y Hiroko Omori	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業への参加状況(30%)、課題や小テスト、暗唱大会への参加度(30%)、理解度確認テスト(40%)などから評価する。
----------	---

学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。秋の暗唱大会へ参加するために詩の暗唱と朗詠を行う。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅡ	科目名(英文)	Spanish Conversation II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アラセリ コラール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	2グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。オラルⅠで使用した教科書を継続使用する。復習を交えながら2～3回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より前後することもある。各課は導入、文法、練習、最終課題、自己評価からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級 秋の暗唱大会に向けた詩の朗読練習

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	スペイン語オラルⅠで学習したことへの復習	既修の語彙と表現を用いた復習	スペイン語オラルⅠでの学習事項を総復習しておく。
2	Unidad 7 私は猫が好きです	gustar 型動詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 7 私は猫が好きです	直説法現在不規則動詞Ⅲ 前置詞に続く代名詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 8 私は7時に起きます	再帰動詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 8 私は7時に起きます	時間関係を表す表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 9 どんなのがいいですか?	直接目的語と直接目的代名詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 9 どんなのがいいですか?	数字 100以上	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Repaso 3 前半の復習	前半の要点復習	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
9	理解度確認中間テスト 詩の朗読練習	理解度確認中間テスト 詩の朗読	これまでに学習した事項や表現の復習 事前に配布された詩に目を通しておく。
10	Unidad 10 辞書貸してくれる?	間接目的語と間接目的代名詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 10 辞書貸してくれる?	直説法現在不規則動詞Ⅳ	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 11 カッコよくしないとね	不定詞を伴う動詞 動詞 conocer と saber	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 11 カッコよくしないとね	天候表現と四季 比較表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Repaso 4 これまでの総復習	総復習	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	まとめ 目標達成度確認テスト	理解度確認テスト	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語基礎、スペイン語応用Ⅱ
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	発見!大好き!スペイン語!!! 1	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai y Hiroko Omori	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業への参加状況(30%)、課題や小テスト、暗唱大会への参加度(30%)、理解度確認テスト(40%)などから評価する。
----------	---

学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。秋の暗唱大会へ参加するために詩の暗唱と朗詠を行う。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅢ	科目名(英文)	Spanish Conversation III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。			
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。			
授業方法と留意点	なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Nos gusta 2 の Unidad Preliminar 復習しましょう	授業の進め方について 復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	2	Nos gusta 2 の Unidad 1 開けたかったけど、開けられなかった	直接法点過去 規則活用。 完結した出来事を表す、連続して起こったことを表す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Nos gusta 2 の Unidad 1 開けたかったけど、開けられなかった	直接法点過去 規則活用。 時を表す前置詞を使った表現、伝記を書く際に用いる語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Nos gusta 2 の Unidad 2 曾祖母は男装して...	直接法点過去 不規則活用。 所有詞後置形、所有詞の用法。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Nos gusta 2 の Unidad 2 曾祖母は男装して...	直接法点過去 不規則活用。 お話やエピソードを語る。 過去の出来事に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Nos gusta 2 の Unidad 3 美人で顔がよくて面白かった	直接法線過去 規則活用と不規則活用。 過去の習慣を表す、過去の人物について話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Nos gusta 2 の Unidad 3 美人で顔がよくて面白かった	直接法線過去 規則活用と不規則活用。 時を表す表現、日常の活動を表す動詞、人や物を描写する形容詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
	9	Nos gusta 2 の Unidad 4 とても疲れていたの、眠ってしまった	線過去と点過去。 再帰構文の相互用法。 事前の状況を説明しながらお話やエピソードを語る。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	10	Nos gusta 2 の Unidad 4 とても疲れていたの、眠ってしまった	線過去と点過去。 理由、結果、時間を表す筋をつなぐ語句。 驚き、興味、残念な気持ちを表す表現。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	11	Nos gusta 2 の Unidad 5 どうしたの？	動詞 doler と parecer, ser+形容詞/副詞 友達同士で、また病院で体調や感情を表す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Nos gusta 2 の Unidad 5 どうしたの？	動詞 doler と parecer, ser+形容詞/副詞 体の部位、健康に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Nos gusta 2 の Unidad 6 何をしているの？	進行形。最上級。関係詞 que と donde。 発話時に起こっている出来事を表す。 断る際の理由付けをする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Nos gusta 2 の Unidad 6 何をしているの？	進行形。最上級。関係詞 que と donde。 日常の活動を表す動詞。 文化的事象の紹介に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
関連科目	スペイン語の全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Nos gusta 2	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai, Hiroko Omori	朝日出版社
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト 70%、臨時試験の成績 30%から評価する。			
学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	. 事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。			

科目名	スペイン語オラルⅢ	科目名(英文)	Spanish Conversation III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ディアス イバン
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。			
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。			
授業方法と留意点	なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Nos gusta 2 の Unidad Preliminar 復習しましょう	授業の進め方について 復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	2	Nos gusta 2 の Unidad 1 開けたかったけど、開けられなかった	直接法点過去 規則活用。 完結した出来事を表す、連続して起こったことを表す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Nos gusta 2 の Unidad 1 開けたかったけど、開けられなかった	直接法点過去 規則活用。 時を表す前置詞を使った表現、伝記を書く際に用いる語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Nos gusta 2 の Unidad 2 曾祖母は男装して...	直接法点過去 不規則活用。 所有詞後置形、所有詞の用法。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Nos gusta 2 の Unidad 2 曾祖母は男装して...	直接法点過去 不規則活用。 お話やエピソードを語る。 過去の出来事に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Nos gusta 2 の Unidad 3 美人で顔がよくて面白かった	直接法線過去 規則活用と不規則活用。 過去の習慣を表す、過去の人物について話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Nos gusta 2 の Unidad 3 美人で顔がよくて面白かった	直接法線過去 規則活用と不規則活用。 時を表す表現、日常の活動を表す動詞、人や物を描写する形容詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
	9	Nos gusta 2 の Unidad 4 とても疲れていたの、眠ってしまった	線過去と点過去。 再帰構文の相互用法。 事前の状況を説明しながらお話やエピソードを語る。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	10	Nos gusta 2 の Unidad 4 とても疲れていたの、眠ってしまった	線過去と点過去。 理由、結果、時間を表す筋をつなぐ語句。 驚き、興味、残念な気持ちを表す表現。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	11	Nos gusta 2 の Unidad 5 どうしたの？	動詞 doler と parecer, ser+形容詞/副詞 友達同士で、また病院で体調や感情を表す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Nos gusta 2 の Unidad 5 どうしたの？	動詞 doler と parecer, ser+形容詞/副詞 体の部位、健康に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Nos gusta 2 の Unidad 6 何をしているの？	進行形。最上級。関係詞 que と donde。 発話時に起こっている出来事を表す。 断る際の理由付けをする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Nos gusta 2 の Unidad 6 何をしているの？	進行形。最上級。関係詞 que と donde。 日常の活動を表す動詞。 文化的事象の紹介に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
関連科目	スペイン語の全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Nos gusta 2	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai, Hiroko Omori	朝日出版社
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト 70%、臨時試験の成績 30%から評価する。			
学生へのメッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	. 事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。			

科目名	スペイン語オラルⅣ	科目名(英文)	Spanish Conversation IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ディアス イバン
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。			
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。			
授業方法と留意点	なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習しましょう Nos gusta 2 の Repaso 2	復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	2	Nos gusta 2 の Unidad 7 気球に乗ったことある？	直接法現在完了の活用。 過去分詞の規則形と不規則形。 現在完了の用法。 不定語と否定語。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Nos gusta 2 の Unidad 7 気球に乗ったことある？	経験を表す。 現在とつながりを持つ過去の出来事を表す。 日常の活動を表す動詞。 余暇活動と旅行に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Nos gusta 2 の Unidad 8 アサリの漁師風ってどうやって作るの？	不定主語文。 指示を与える。情報を求める。苦情を言う。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Nos gusta 2 の Unidad 8 アサリの漁師風ってどうやって作るの？	序数。料理や食生活に関する語彙。 旅行に関する語彙。 日常生活で使われる道具、機会に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Nos gusta 2 の Unidad 9 いつか君と旅行しよう	直接法未来 規則活用と不規則活用。 -mente で終わる副詞。 未来の出来事を表す。現在に関わる推量を表す。依頼や忠告をする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Nos gusta 2 の Unidad 9 いつか君と旅行しよう	依頼と忠告を表す表現。 日常の出来事を表す動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
	9	Nos gusta 2 の Unidad 10 これからずっとお元気で	接続法現在 規則活用。 願望を表す。何かを申し出る。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	10	Nos gusta 2 の Unidad 10 これからずっとお元気で	日常の活動を表す動詞。 学習に関する語彙。 他の人や自分のための願望を表す表現。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	11	Nos gusta 2 の Unidad 11 気に入ってくれて嬉しいです	接続法現在 不規則活用。 好きなこと、嫌なこと、驚いたことを表す。 意見を述べる。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Nos gusta 2 の Unidad 11 気に入ってくれて嬉しいです	日常の活動を表す動詞。 好きなこと、嫌なこと、驚いたことを表す動詞。 意見を述べる動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Nos gusta 2 の Unidad 12 お一つどうぞ、とても美味しいですよ	肯定命令。否定命令。 命令形と人称代名詞。 命令、指示、忠告をする。 依頼したり申し出たりする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Nos gusta 2 の Unidad 12 お一つどうぞ、とても美味しいですよ	日常の活動を表す動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
関連科目	スペイン語の全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Nos gusta 2	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai, Hiroko Omori	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト 70%、臨時試験の成績 30%から評価する。			

学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	.事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅣ	科目名(英文)	Spanish Conversation IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。			
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。			
授業方法と留意点	なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習しましょう Nos gusta 2 の Repaso 2	復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	2	Nos gusta 2 の Unidad 7 気球に乗ったことある？	直接法現在完了の活用。 過去分詞の規則形と不規則形。 現在完了の用法。 不定語と否定語。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Nos gusta 2 の Unidad 7 気球に乗ったことある？	経験を表す。 現在とつながりを持つ過去の出来事を表す。 日常の活動を表す動詞。 余暇活動と旅行に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Nos gusta 2 の Unidad 8 アサリの漁師風ってどうやって作るの？	不定主語文。 指示を与える。情報を求める。苦情を言う。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Nos gusta 2 の Unidad 8 アサリの漁師風ってどうやって作るの？	序数。料理や食生活に関する語彙。 旅行に関する語彙。 日常生活で使われる道具、機会に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Nos gusta 2 の Unidad 9 いつか君と旅行しよう	直接法未来 規則活用と不規則活用。 -mente で終わる副詞。 未来の出来事を表す。現在に関わる推量を表す。依頼や忠告をする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Nos gusta 2 の Unidad 9 いつか君と旅行しよう	依頼と忠告を表す表現。 日常の出来事を表す動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
	9	Nos gusta 2 の Unidad 10 これからずっとお元気で	接続法現在 規則活用。 願望を表す。何かを申し出る。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	10	Nos gusta 2 の Unidad 10 これからずっとお元気で	日常の活動を表す動詞。 学習に関する語彙。 他の人や自分のための願望を表す表現。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	11	Nos gusta 2 の Unidad 11 気に入ってくれて嬉しいです	接続法現在 不規則活用。 好きなこと、嫌なこと、驚いたことを表す。 意見を述べる。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Nos gusta 2 の Unidad 11 気に入ってくれて嬉しいです	日常の活動を表す動詞。 好きなこと、嫌なこと、驚いたことを表す動詞。 意見を述べる動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Nos gusta 2 の Unidad 12 お一つどうぞ、とても美味しいですよ	肯定命令。否定命令。 命令形と人称代名詞。 命令、指示、忠告をする。 依頼したり申し出たりする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Nos gusta 2 の Unidad 12 お一つどうぞ、とても美味しいですよ	日常の活動を表す動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
関連科目	スペイン語の全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Nos gusta 2	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai, Hiroko Omori	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト 70%、臨時試験の成績 30%から評価する。			

学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	. 事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラル I A	科目名 (英文)	Spanish Conversation IA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アラセリ コラール
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	2グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課6ページから成り、2回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より前後することもある。 各課は、導入、文法、練習、最終課題、自己評価からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unidad preliminar 教室で	アクセント 教室で使うことば 級友とあいさつを交わす。 数字 1~20	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 1 見て、犬がいるよ!	名詞の性と数	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 1 見て、犬がいるよ!	不定冠詞と定冠詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 2 彼女は誰?	動詞 ser と主語代名詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 2 彼女は誰?	形容詞の性と数 疑問文、肯定文、否定文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 3 学生さんですか?	直説法現在規則動詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Unidad 3 学生さんですか? Repaso 1 前半の復習 理解度確認中間テスト	曜日、頻度表現 前半の復習 理解度確認中間テスト	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。 これまでに学習した事項や表現の復習
9	Unidad 4 君の町には何があるの?	動詞 estar と hay	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Unidad 4 君の町には何があるの?	Muy と mucho 指示詞、場所を表す副詞 位置表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 5 なんて素敵なんでしょう!	動詞 tener	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 5 なんて素敵なんでしょう!	所有詞前置形 感嘆文 数字 20~100	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 6 この週末どこへ行く?	直説法現在不規則動詞 I	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Unidad 6 この週末どこへ行く?	直説法現在不規則動詞 II 時間を表す表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	Repaso 2 これまでの総復習と目標達成度確認	総復習と理解度確認テスト	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語入門、スペイン語応用 I
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	発見! 大好き!! スペイン語!!! 1	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai y Hiroko Omori	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法 (基準)	授業への参加状況(30%)、課題や小テスト(30%)、理解度確認テスト(40%)などから評価する。
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	授業の前に1時間、後に1時間の学習時間を要する。

科目名	スペイン語オラル I A	科目名 (英文)	Spanish Conversation IA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ヘスス マルティン
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	2グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 教科書は各課6ページから成り、2回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より前後することもある。 各課は、導入、文法、練習、最終課題、自己評価からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unidad preliminar 教室で	アクセント 教室で使うことば 級友とあいさつを交わす。 数字 1~20	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 1 見て、犬がいるよ!	名詞の性と数	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 1 見て、犬がいるよ!	不定冠詞と定冠詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 2 彼女は誰?	動詞 ser と主語代名詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 2 彼女は誰?	形容詞の性と数 疑問文、肯定文、否定文	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 3 学生さんですか?	直説法現在規則動詞	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Unidad 3 学生さんですか? Repaso 1 前半の復習 理解度確認中間テスト	曜日、頻度表現 前半の復習 理解度確認中間テスト	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。 これまでに学習した事項や表現の復習
9	Unidad 4 君の町には何があるの?	動詞 estar と hay	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Unidad 4 君の町には何があるの?	Muy と mucho 指示詞、場所を表す副詞 位置表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 5 なんて素敵なんでしょう!	動詞 tener	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 5 なんて素敵なんでしょう!	所有詞前置形 感嘆文 数字 20~100	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 6 この週末どこへ行く?	直説法現在不規則動詞 I	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Unidad 6 この週末どこへ行く?	直説法現在不規則動詞 II 時間を表す表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	Repaso 2 これまでの総復習と目標達成度確認	総復習と理解度確認テスト	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語入門、スペイン語応用 I
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	発見! 大好き!! スペイン語!!! 1	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai y Hiroko Omori	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法 (基準)	授業への参加状況(30%)、課題や小テスト(30%)、理解度確認テスト(40%)などから評価する。
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	授業の前に1時間、後に1時間の学習時間を要する。

科目名	スペイン語オラルⅢA	科目名(英文)	Spanish Conversation IIIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。			
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。			
授業方法と留意点	なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Nos gusta 2 の Unidad Preliminar 復習しましょう	授業の進め方について 復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	2	Nos gusta 2 の Unidad 1 開けたかったけど、開けられなかった	直接法点過去 規則活用。 完結した出来事を表す、連続して起こったことを表す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Nos gusta 2 の Unidad 1 開けたかったけど、開けられなかった	直接法点過去 規則活用。 時を表す前置詞を使った表現、 伝記を書く際に用いる語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Nos gusta 2 の Unidad 2 曾祖母は男装して...	直接法点過去 不規則活用。 所有詞後置形、所有詞の用法。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Nos gusta 2 の Unidad 2 曾祖母は男装して...	直接法点過去 不規則活用。 お話やエピソードを語る。 過去の出来事に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Nos gusta 2 の Unidad 3 美人で顔がよくて面白かった	直接法線過去 規則活用と不規則活用。 過去の習慣を表す、過去の人物について話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Nos gusta 2 の Unidad 3 美人で顔がよくて面白かった	直接法線過去 規則活用と不規則活用。 時を表す表現、日常の活動を表す動詞、 人や物を描写する形容詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
	9	Nos gusta 2 の Unidad 4 とても疲れていたの、眠ってしまった	線過去と点過去。 再帰構文の相互用法。 事前の状況を説明しながらお話やエピソードを語る。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	10	Nos gusta 2 の Unidad 4 とても疲れていたの、眠ってしまった	線過去と点過去。 理由、結果、時間を表す筋をつなぐ語句。 驚き、興味、残念な気持ちを表す表現。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	11	Nos gusta 2 の Unidad 5 どうしたの？	動詞 doler と parecer, ser+形容詞/副詞 友達同士で、また病院で体調や感情を表す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Nos gusta 2 の Unidad 5 どうしたの？	動詞 doler と parecer, ser+形容詞/副詞 体の部位、健康に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Nos gusta 2 の Unidad 6 何をしているの？	進行形。最上級。関係詞 que と donde。 発話時に起こっている出来事を表す。 断る際の理由付けをする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Nos gusta 2 の Unidad 6 何をしているの？	進行形。最上級。関係詞 que と donde。 日常の活動を表す動詞。 文化的事象の紹介に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
関連科目	スペイン語の全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Nos gusta 2	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai, Hiroko Omori	朝日出版社
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト 70%、臨時試験の成績 30%から評価する。			
学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	. 事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。			

科目名	スペイン語オラルⅢA	科目名(英文)	Spanish Conversation IIIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ディアス イバン
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Nos gusta 2 の Unidad Preliminar 復習しましょう	授業の進め方について復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
2	Nos gusta 2 の Unidad 1 開けたかったけど、開けられなかった	直接法点過去 規則活用。 完結した出来事を表す、連続して起こったことを表す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Nos gusta 2 の Unidad 1 開けたかったけど、開けられなかった	直接法点過去 規則活用。 時を表す前置詞を使った表現、伝記を書く際に用いる語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Nos gusta 2 の Unidad 2 曾祖母は男装して...	直接法点過去 不規則活用。 所有詞後置形、所有詞の用法。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Nos gusta 2 の Unidad 2 曾祖母は男装して...	直接法点過去 不規則活用。 お話やエピソードを語る。 過去の出来事に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Nos gusta 2 の Unidad 3 美人で顔がよくて面白かった	直接法線過去 規則活用と不規則活用。 過去の習慣を表す、過去の人物について話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Nos gusta 2 の Unidad 3 美人で顔がよくて面白かった	直接法線過去 規則活用と不規則活用。 時を表す表現、日常の活動を表す動詞、人や物を描写する形容詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
9	Nos gusta 2 の Unidad 4 とても疲れていたの、眠ってしまった	線過去と点過去。 再帰構文の相互用法。 事前の状況を説明しながらお話やエピソードを語る。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
10	Nos gusta 2 の Unidad 4 とても疲れていたの、眠ってしまった	線過去と点過去。 理由、結果、時間を表す筋をつなぐ語句。 驚き、興味、残念な気持ちを表す表現。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
11	Nos gusta 2 の Unidad 5 どうしたの？	動詞 doler と parecer, ser+形容詞/副詞 友達同士で、また病院で体調や感情を表す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Nos gusta 2 の Unidad 5 どうしたの？	動詞 doler と parecer, ser+形容詞/副詞 体の部位、健康に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Nos gusta 2 の Unidad 6 何をしているの？	進行形。最上級。関係詞 que と donde。 発話時に起こっている出来事を表す。 断る際の理由付けをする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Nos gusta 2 の Unidad 6 何をしているの？	進行形。最上級。関係詞 que と donde。 日常の活動を表す動詞。 文化的事象の紹介に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Nos gusta 2	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai, Hiroko Omori	朝日出版社
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	授業への参加状況、課題や小テスト 70%、臨時試験の成績 30%から評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	. 事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。
----	--------------------------------

科目名	スペイン語オラルIV A	科目名 (英文)	Spanish Conversation IVA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ディアス イバン
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。			
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。			
授業方法と留意点	なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習しましょう Nos gusta 2 の Repaso 2	復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	2	Nos gusta 2 の Unidad 7 気球に乗ったことある？	直接法現在完了の活用。 過去分詞の規則形と不規則形。 現在完了の用法。 不定語と否定語。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Nos gusta 2 の Unidad 7 気球に乗ったことある？	経験を表す。 現在とつながりを持つ過去の出来事を表す。 日常の活動を表す動詞。 余暇活動と旅行に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Nos gusta 2 の Unidad 8 アサリの漁師風ってどうやって作るの？	不定主語文。 指示を与える。情報を求める。苦情を言う。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Nos gusta 2 の Unidad 8 アサリの漁師風ってどうやって作るの？	序数。料理や食生活に関する語彙。 旅行に関する語彙。 日常生活で使われる道具、機会に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Nos gusta 2 の Unidad 9 いつか君と旅行しよう	直接法未来 規則活用と不規則活用。 -mente で終わる副詞。 未来の出来事を表す。現在に関わる推量を表す。依頼や忠告をする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Nos gusta 2 の Unidad 9 いつか君と旅行しよう	依頼と忠告を表す表現。 日常の出来事を表す動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
	9	Nos gusta 2 の Unidad 10 これからずっとお元気で	接続法現在 規則活用。 願望を表す。何かを申し出る。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	10	Nos gusta 2 の Unidad 10 これからずっとお元気で	日常の活動を表す動詞。 学習に関する語彙。 他の人や自分のための願望を表す表現。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	11	Nos gusta 2 の Unidad 11 気に入ってくれて嬉しいです	接続法現在 不規則活用。 好きなこと、嫌なこと、驚いたことを表す。 意見を述べる。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Nos gusta 2 の Unidad 11 気に入ってくれて嬉しいです	日常の活動を表す動詞。 好きなこと、嫌なこと、驚いたことを表す動詞。 意見を述べる動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Nos gusta 2 の Unidad 12 お一つどうぞ、とても美味しいですよ	肯定命令。否定命令。 命令形と人称代名詞。 命令、指示、忠告をする。 依頼したり申し出たりする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Nos gusta 2 の Unidad 12 お一つどうぞ、とても美味しいですよ	日常の活動を表す動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
関連科目	スペイン語の全科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Nos gusta 2	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai, Hiroko Omori	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト 70%、臨時試験の成績 30%から評価する。			

学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	. 事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルIV A	科目名 (英文)	Spanish Conversation IVA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という3つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	なお、受講生の理解度に応じ、授業計画の進度より早まったり、遅くなることもありうる。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	前期の復習しましょう Nos gusta 2 の Repaso 2	復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
2	Nos gusta 2 の Unidad 7 気球に乗ったことある？	直接法現在完了の活用。 過去分詞の規則形と不規則形。 現在完了の用法。 不定語と否定語。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
3	Nos gusta 2 の Unidad 7 気球に乗ったことある？	経験を表す。 現在とつながりを持つ過去の出来事を表す。 日常の活動を表す動詞。 余暇活動と旅行に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
4	Nos gusta 2 の Unidad 8 アサリの漁師風ってどうやって作るの？	不定主語文。 指示を与える。情報を求める。苦情を言う。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
5	Nos gusta 2 の Unidad 8 アサリの漁師風ってどうやって作るの？	序数。料理や食生活に関する語彙。 旅行に関する語彙。 日常生活で使われる道具、機会に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
6	Nos gusta 2 の Unidad 9 いつか君と旅行しよう	直接法未来 規則活用と不規則活用。 -mente で終わる副詞。 未来の出来事を表す。現在に関わる推量を表す。依頼や忠告をする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
7	Nos gusta 2 の Unidad 9 いつか君と旅行しよう	依頼と忠告を表す表現。 日常の出来事を表す動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
9	Nos gusta 2 の Unidad 10 これからずっとお元気で	接続法現在 規則活用。 願望を表す。何かを申し出る。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
10	Nos gusta 2 の Unidad 10 これからずっとお元気で	日常の活動を表す動詞。 学習に関する語彙。 他の人や自分のための願望を表す表現。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
11	Nos gusta 2 の Unidad 11 気に入ってくれて嬉しいです	接続法現在 不規則活用。 好きなこと、嫌なこと、驚いたことを表す。 意見を述べる。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
12	Nos gusta 2 の Unidad 11 気に入ってくれて嬉しいです	日常の活動を表す動詞。 好きなこと、嫌なこと、驚いたことを表す動詞。 意見を述べる動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
13	Nos gusta 2 の Unidad 12 お一つどうぞ、とても美味しいですよ	肯定命令。否定命令。 命令形と人称代名詞。 命令、指示、忠告をする。 依頼したり申し出たりする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
14	Nos gusta 2 の Unidad 12 お一つどうぞ、とても美味しいですよ	日常の活動を表す動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
15	総復習	理解度確認テスト	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Nos gusta 2	Pilar Lago, Concha Moreno, Sae Ochiai, Hiroko Omori	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況、課題や小テスト 70%、臨時試験の成績 30%から評価する。
-----------	---

学生への メッセージ	辞書をつねに携行すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	.事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルV	科目名(英文)	Spanish Conversation V
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アラセリ コラール
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	2年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	日常会話よりも深い内容の対話ができるようになる。そのために、テーマについて予め調べ、新しい知識についてスペイン語で説明したり、質問したりすることをめざす。
授業方法と留意点	積極的な授業参加、発言を期待する。 扱うテーマは学生の興味関心に応じて変更することもあり得る。
科目学習の効果(資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
1	La extraordinaria trayectoria de mujeres (1)	スペイン語圏で成功をおさめた女性(1)		
2	La extraordinaria trayectoria de mujeres (2)	スペイン語圏で成功をおさめた女性(2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
3	La extraordinaria trayectoria de mujeres (3)	スペイン語圏で成功をおさめた女性(3)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
4	Personajes que m?s han influido en la cultura latinoamericana	ラテンアメリカの文化に影響を与えた人物	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
5	Jap?n y pa?ses hispanohablantes (1)	日本とスペイン語諸国の関係(1)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
6	Jap?n y pa?ses hispanohablantes (2)	日本とスペイン語諸国の関係(2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
7	La Unesco en el mundo hispano (1)	スペイン語圏の世界遺産(1)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
8	La Unesco en el mundo hispano (2)	スペイン語圏の世界遺産(2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
9	Pel?culas para aprender espa?ol real (1)	スペイン語圏の映画(1)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
10	Pel?culas para aprender espa?ol real (2)	スペイン語圏の映画(2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
11	Pel?culas para aprender espa?ol real (3)	スペイン語圏の映画(3)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
12	Pel?culas para aprender espa?ol real (4)	スペイン語圏の映画(4)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
13	Jap?n y los Juegos Ol?mpicos del 2020	2020年の東京オリンピック	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
14	Pintores del mundo hispanohablante	スペイン語圏の芸術家	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
15	Repaso y Examen	総復習と理解度確認テスト	これまでに学んだ内容を復習しておくこと	

関連科目: スペイン語通訳ガイドⅠ、映画のスペイン語Ⅱ、スペイン語文章構成Ⅲ、スペイン語通訳Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業における参加状況・課題(50%)や理解度確認テストの成績(50%)から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。事前・事後学習に各1時間を要する。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルV	科目名(英文)	Spanish Conversation V
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ヘスス マルティン
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	2年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	日常会話よりも深い内容の対話ができるようになる。そのために、テーマについて予め調べ、新しい知識についてスペイン語で説明したり、質問したりすることをめざす。
授業方法と留意点	積極的な授業参加、発言を期待する。 扱うテーマは学生の興味関心に応じて変更することもあり得る。
科目学習の効果(資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	La extraordinaria trayectoria de mujeres (1)	スペイン語圏で成功をおさめた女性(1)		
2	La extraordinaria trayectoria de mujeres (2)	スペイン語圏で成功をおさめた女性(2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
3	La extraordinaria trayectoria de mujeres (3)	スペイン語圏で成功をおさめた女性(3)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
4	Personajes que m?s han influido en la cultura latinoamericana	ラテンアメリカの文化に影響を与えた人物	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
5	Jap?n y pa?ses hispanohablantes (1)	日本とスペイン語諸国の関係(1)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
6	Jap?n y pa?ses hispanohablantes (2)	日本とスペイン語諸国の関係(2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
7	La Unesco en el mundo hispano (1)	スペイン語圏の世界遺産(1)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
8	La Unesco en el mundo hispano (2)	スペイン語圏の世界遺産(2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
9	Pel?culas para aprender espa?ol real (1)	スペイン語圏の映画(1)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
10	Pel?culas para aprender espa?ol real (2)	スペイン語圏の映画(2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
11	Pel?culas para aprender espa?ol real (3)	スペイン語圏の映画(3)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
12	Pel?culas para aprender espa?ol real (4)	スペイン語圏の映画(4)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
13	Jap?n y los Juegos Ol?mpicos del 2020	2020年の東京オリンピック	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
14	Pintores del mundo hispanohablante	スペイン語圏の芸術家	事前に配布する資料をよく読んでおくこと	
15	Repaso y Examen	総復習と理解度確認テスト	これまでに学んだ内容を復習しておくこと	

関連科目: スペイン語通訳ガイドI、映画のスペイン語II、スペイン語文章構成III、スペイン語通訳I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準): 授業における参加状況・課題(50%)や理解度確認テストの成績(50%)から総合的に評価する。

学生へのメッセージ: 資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。事前・事後学習に各1時間を要する。

担当者の研究室等: 7号館2階 非常勤講師室

備考: 事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルVI	科目名 (英文)	Spanish Conversation VI
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ヘスス マルティン
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	2年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。
授業方法と留意点	積極的な授業参加、発言を期待する。 扱うテーマは学生の興味関心に応じて変更することもあり得る。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定3級 (とりわけ留学帰国者)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	La extraordinaria trayectoria de mujeres (1)	スペイン語圏で成功をおさめた女性 (1)	_____
2	La extraordinaria trayectoria de mujeres (2)	スペイン語圏で成功をおさめた女性 (2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
3	La extraordinaria trayectoria de mujeres (3)	スペイン語圏で成功をおさめた女性 (3)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
4	Personajes que m?s han influido en la cultura hispanoamericana (1)	スペイン語圏の文化に影響を与えた人物 (1)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
5	Personajes que m?s han influido en la cultura hispanoamericana (2)	スペイン語圏の文化に影響を与えた人物 (2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
6	Jap?n y pa?ses hispanohablantes	日本とスペイン語諸国の関係	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
7	La Unesco en el mundo hispanohablante (1)	スペイン語圏の世界遺産 (1)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
8	La Unesco en el mundo hispanohablante (2)	スペイン語圏の世界遺産 (2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
9	Pel?culas para aprender espa?ol real (1)	スペイン語圏の映画 (1)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
10	Pel?culas para aprender espa?ol real (2)	スペイン語圏の映画 (2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
11	Pel?culas para aprender espa?ol real (3)	スペイン語圏の映画 (3)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
12	Pel?culas para aprender espa?ol real (4)	スペイン語圏の映画 (4)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
13	Artistas del mundo hispanohablante (1)	スペイン語圏の芸術家 (1)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
14	Artistas del mundo hispanohablante (2)	スペイン語圏の芸術家 (2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
15	Repaso y Examen final	総復習と理解度確認テスト	これまでに学んだ内容を復習しておくこと

関連科目	スペイン語通訳Ⅱ、スペイン語文章構成Ⅳ
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業における参加状況・課題 (50%) や理解度確認テストの成績 (50%) から総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前・事後学修に要する総時間数は約30時間を目安とする。
----	------------------------------

科目名	スペイン語オラルVI	科目名 (英文)	Spanish Conversation VI
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アラセリ コラール
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	2年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもろろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。
授業方法と留意点	積極的な授業参加、発言を期待する。 扱うテーマは学生の興味関心に応じて変更することもあり得る。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかにこなせること。 スペイン語検定3級 (とりわけ留学帰国者)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	La extraordinaria trayectoria de mujeres (1)	スペイン語圏で成功をおさめた女性 (1)	_____
2	La extraordinaria trayectoria de mujeres (2)	スペイン語圏で成功をおさめた女性 (2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
3	La extraordinaria trayectoria de mujeres (3)	スペイン語圏で成功をおさめた女性 (3)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
4	Personajes que m?s han influido en la cultura hispanoamericana (1)	スペイン語圏の文化に影響を与えた人物 (1)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
5	Personajes que m?s han influido en la cultura hispanoamericana (2)	スペイン語圏の文化に影響を与えた人物 (2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
6	Jap?n y pa?ses hispanohablantes	日本とスペイン語諸国の関係	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
7	La Unesco en el mundo hispanohablante (1)	スペイン語圏の世界遺産 (1)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
8	La Unesco en el mundo hispanohablante (2)	スペイン語圏の世界遺産 (2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
9	Pel?culas para aprender espa?ol real (1)	スペイン語圏の映画 (1)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
10	Pel?culas para aprender espa?ol real (2)	スペイン語圏の映画 (2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
11	Pel?culas para aprender espa?ol real (3)	スペイン語圏の映画 (3)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
12	Pel?culas para aprender espa?ol real (4)	スペイン語圏の映画 (4)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
13	Artistas del mundo hispanohablante (1)	スペイン語圏の芸術家 (1)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
14	Artistas del mundo hispanohablante (2)	スペイン語圏の芸術家 (2)	事前に配布する資料をよく読んでおくこと
15	Repaso y Examen final	総復習と理解度確認テスト	これまでに学んだ内容を復習しておくこと

関連科目: スペイン語通訳Ⅱ、スペイン語文章構成Ⅳ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準): 授業における参加状況・課題 (50%) や理解度確認テストの成績 (50%) から総合的に評価する。

学生へのメッセージ: 資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。

担当者の研究室等: 7号館2階 非常勤講師室

備考: 事前・事後学修に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルVII	科目名(英文)	Spanish Conversation VII
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	3年次までに習得したスペイン語の基礎文法を素地として、比較文化の多様な観点からテーマを選定し、その意図や背景を解説し、役立つ表現や語彙・キーワードを教授します。それらをもとにスペイン語でスピーチを行う心構えで、毎回短いプレゼンテーションを発表することで、言語とテーマが何であっても聞き手にとって明瞭でわかりやすく論理的なコミュニケーションが行えるように導きます。プレゼンの内容を予め作文することの繰り返しによって、スペイン語で正しく文章表現ができる力を補います。プレゼン後に提出する作文は添削します。
到達目標	スペイン語で意思疎通を抵抗なく図れるようになるとともに、スペイン語圏はもちろん、異文化についての関心を深め、日本の歴史や文化についてもスペイン語で説明できるようになる。正確なスペイン語表現を行うための基礎となる書く力を養う。
授業方法と留意点	予め、プレゼンテーションのテーマ、慣用表現、語彙について解説します。教員による3分間スピーチを一例として示します。履修者はその次の週までに個別・具体的内容のプレゼンテーションの準備を行います。互いの発表に対する質問や意見交換を重んじます。テーマは履修者の積極的な提案に応じて変更することもあります。
科目学習の効果(資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えるようになる。 スペイン語検定3級(とりわけ留学帰国者)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	自己紹介	発表 誕生日を迎えるにあたって将来の目標を語るための表現と語彙の解説	発表の準備
3	将来の目標	発表 死生観と「死者の日」についての解説	発表の準備
4	「死者の日」	発表 「お盆」との比較	発表の準備
5	「お盆」と「死者の日」の比較	発表 日本文化の独自性(例:世界初の小説『源氏物語』)の紹介	発表の準備 過去時制の復習
6	私が誇りに思う日本文化	発表 中国文化の一端について知る	発表の準備 過去時制の復習
7	私が魅かれる中国文化	発表 スペイン語圏文化の一端について知る	発表の準備 過去時制の復習
8	この目で見てみたいスペイン語圏文化	発表 米国文化の一端について知る	発表の準備 過去時制の復習
9	私が影響を受けた米国文化	発表 料理についての慣用表現・語彙の解説	発表の準備 命令文の復習
10	得意料理の作り方	発表 旅行についての慣用表現・語彙の解説	発表の準備 過去未来の復習
11	旅行するとしたら	発表 買物の場面で必要な表現と語彙(気候、色、衣類、食べ物、飲み物等)	発表の準備
12	買物の場で	発表	発表の準備
13	買物の場で	発表	発表の準備
14	訪日観光客を案内して	発表 固有の社寺を説明するための語彙	発表の準備
15	訪日観光客を案内して	発表 料理文化についての語彙	発表の成果を振り返る

関連科目: スペイン語通訳ガイド(留学期間中に3年生で受講できなかった者は4年生の前・後期に受講することを推奨)

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業における参加状況・発表 60%と課題提出 40%をもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	扱うテーマには履修者の提案も取り入れます。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラルⅧ	科目名(英文)	Spanish Conversation VIII
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語とその文化がいかに様々な異言語・異文化の影響を取り込んできたかを理解できるよう、テーマを選定します。その意図や背景を解説し、役立つ表現や語彙・キーワードを教授します。それらをもとにスペイン語でスピーチを行う心構えで、毎回短いプレゼンテーションを発表することで、言語とテーマが何であっても聞き手にとって明瞭でわかりやすく論理的なコミュニケーションが行えるように導きます。プレゼンの内容を予め作文することの繰り返しによって、スペイン語で正しく文章表現ができる力を補います。プレゼン後に提出する作文は添削します。
到達目標	スペイン語とその文化が内蔵する異文化要素を理解し、それについての説明ができるようになる。正確なスペイン語表現を行うための基礎となる書く力を養う。
授業方法と留意点	予め、プレゼンテーションのテーマ、慣用表現、語彙について解説します。教員による3分間スピーチを一例として示します。履修者はその次の週までに個別・具体的内容のプレゼンテーションの準備を行います。互いの発表に対する質問や意見交換を重んじます。テーマは履修者の積極的な提案に応じて変更することもあり得ます。
科目学習の効果(資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えるようになる。 スペイン語検定3級(とりわけ留学帰国者)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	スペイン語・文化が日本に与えた影響	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
3	スペイン語・文化がギリシア語・文化から受け継いだもの	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
4	ラテン語・文化から受け継いだもの	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
5	アラビア語・文化から受け継いだもの	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
6	スペイン語圏の歴史(1)	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
7	スペイン語圏の歴史(2)	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
8	スペイン語圏の歴史(3)	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
9	スペイン語圏の政治(1)	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
10	スペイン語圏の政治(2)	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
11	スペイン語圏の経済	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
12	スペイン語圏の貿易	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
13	通訳としての仕事	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
14	通訳としての実践	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
15	各自最良の発表を行う	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の成果を振り返る

関連科目: スペイン語通訳ガイド(留学期間中に3年生で受講できなかった者は4年生の前・後期に受講することを推奨)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準): 授業における参加状況・発表60%と課題提出40%をもとに総合的に評価する。

学生への メッセージ	扱うテーマには履修者の提案も取り入れます。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペイン語基礎A	科目名(英文)	Basic Spanish A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎ABC」は同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎ABC」を合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、随時(ほぼ毎課)、範囲を決めて単語テストを課す。</p>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、特に動詞各時制の活用及び用法を正確に把握することを目指す。その他、入門の項目を踏まえ、さまざまな構文を理解する。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。ここにある授業計画はあくまで目安であり、進捗、理解度等を勘案し修正を加え得る。
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。</p> <p>日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。</p> <p>語学のやり方を学ぶ。</p> <p>スペイン語検定5級</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
2	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
3	第11課	gustar型動詞・直説法点過去・不定語/否定語・mente副詞	予習と復習 単語暗記
4	第12課	直説法点過去不規則活用・時間の経過の表現・天候の表現・疑問詞	予習と復習 単語暗記
5	第13課	直説法線過去・感嘆文・直説法過去完了・基数(100以上)	習と復習 単語暗記
6	第11～13課	11～13課の内容復習・補充	予習と復習 単語暗記
7	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
8	第14課	形容詞・副詞の比較・形容詞の絶対最上級	予習と復習 単語暗記
9	第15課	直説法未来・未来完了・使役/放任/知覚動詞など・関係代名詞	予習と復習 単語暗記
10	第16課	直説法過去未来・過去未来完了・関係代名詞	予習と復習 単語暗記
11	第14～16課	14～16課の内容復習・補充	予習と復習 単語暗記
12	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
13	総復習	これまでの復習	予習と復習 単語暗記
14	総復習	これまでの復習	予習と復習 単語暗記
15	試験	これまでの復習・確認テスト	予習と復習 単語暗記

関連科目	スペイン語入門 スペイン語基礎B、C スペイン語応用I、II スペイン語オラルI、II
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初級スペイン語講座	田尻陽一・西川喬	弘学社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2			
3			

評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎ABCは、合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第14週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>可能な限り定期的に単語テストを行う。また、ポキヤブラリ・コンテストも実施(10月の予定)。</p> <p>「期末試験+それ以外の小規模・中規模の試験+ポキヤコン 90%+単語テスト10%」</p>
----------	---

学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。</p> <p>予習・復習・自習(教科書や授業以外での取り組み)が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。</p> <p>「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。</p>
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室
----------	-------------

備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。</p> <p>集団授業である(個人授業ではない)ことを意識すること。補足プリント等は一度しか配布しない。欠席等による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。</p> <p>教科書および授業だけで勉強を終えて(制限して)しまわず、市販の問題集や参考書にあたるなど、自習を習慣とすること。</p>
----	--

科目名	スペイン語基礎A	科目名(英文)	Basic Spanish A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎ABC」は同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎ABC」を合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、随時(ほぼ毎課)、範囲を決めて単語テストを課す。</p>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、特に動詞各時制の活用及び用法を正確に把握することを目指す。その他、入門の項目を踏まえ、さまざまな構文を理解する。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。 予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。 ここにある授業計画はあくまで目安であり、進度、理解度等を勘案し修正を加え得る。
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。</p> <p>日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。</p> <p>語学のやり方を学ぶ。</p> <p>スペイン語検定5級</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
2	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
3	第11課	gustar型動詞・直説法点過去・不定語/否定語・mente副詞	予習と復習 単語暗記
4	第12課	直説法点過去不規則活用・時間の経過の表現・天候の表現・疑問詞	予習と復習 単語暗記
5	第13課	直説法線過去・感嘆文・直説法過去完了・基数(100以上)	習と復習 単語暗記
6	第11~13課	11~13課の内容復習・補充	予習と復習 単語暗記
7	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
8	第14課	形容詞・副詞の比較・形容詞の絶対最上級	予習と復習 単語暗記
9	第15課	直説法未来・未来完了・使役/放任/知覚動詞など・関係代名詞	予習と復習 単語暗記
10	第16課	直説法過去未来・過去未来完了・関係代名詞	予習と復習 単語暗記
11	第14~16課	14~16課の内容復習・補充	予習と復習 単語暗記
12	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
13	総復習	これまでの復習	予習と復習 単語暗記
14	総復習	これまでの復習	予習と復習 単語暗記
15	試験	これまでの復習・確認テスト	予習と復習 単語暗記

関連科目	スペイン語入門 スペイン語基礎B、C スペイン語応用I、II スペイン語オラルI、II
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初級スペイン語講座	田尻陽一・西川喬	弘学社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2			
3			

評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎ABCは、合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第14週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>可能な限り定期的に単語テストを行う。また、ポキヤブライ・コンテストも実施(10月の予定)。</p> <p>「期末試験+それ以外の小規模・中規模の試験+ポキヤコン 90%+単語テスト10%」</p>
----------	---

学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度かつまづき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。</p> <p>予習・復習・自習(教科書や授業以外での取り組み)が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。</p> <p>「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。</p>
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。</p> <p>集団授業である(個人授業ではない)ことを意識すること。補足プリント等は一度しか配布しない。欠席等による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。</p> <p>教科書および授業だけで勉強を終えて(制限して)しまわず、市販の問題集や参考書にあたるなど、自習を習慣とすること。</p>
----	--

科目名	スペイン語基礎B	科目名(英文)	Basic Spanish B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三浦 知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎ABC」は同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎ABC」を合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、随時(ほぼ毎課)、範囲を決めて単語テストを課す。</p>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、特に動詞各時制の活用及び用法を正確に把握することを目指す。その他、入門の項目を踏まえ、さまざまな構文を理解する。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。ここにある授業計画はあくまで目安であり、進度、理解度等を勘案し修正を加え得る。
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。</p> <p>日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。</p> <p>語学のやり方を学ぶ。</p> <p>スペイン語検定5級</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
	2	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
	3	第11課	gustar型動詞・直説法点過去・不定語/否定語・mente副詞	予習と復習 単語暗記
	4	第12課	直説法点過去不規則活用・時間の経過の表現・天候の表現・疑問詞	予習と復習 単語暗記
	5	第13課	直説法線過去・感嘆文・直説法過去完了・基数(100以上)	習と復習 単語暗記
	6	第11～13課	11～13課の内容復習・補充	予習と復習 単語暗記
	7	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
	8	第14課	形容詞・副詞の比較・形容詞の絶対最上級	予習と復習 単語暗記
	9	第15課	直説法未来・未来完了・使役/放任/知覚動詞など・関係代名詞	予習と復習 単語暗記
	10	第16課	直説法過去未来・過去未来完了・関係代名詞	予習と復習 単語暗記
	11	第14～16課	14～16課の内容復習・補充	予習と復習 単語暗記
	12	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
	13	総復習	これまでの復習	予習と復習 単語暗記
	14	総復習	これまでの復習	予習と復習 単語暗記
15	試験	これまでの復習・確認テスト	予習と復習 単語暗記	

関連科目	スペイン語入門 スペイン語基礎A、C スペイン語応用I、II スペイン語オラルI、II
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級スペイン語講座	田尻陽一・西川喬	弘学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎ABCは、合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,Cのいずれかで理解度確認テストをする。中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第14週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。可能な限り定期的に単語テストを行う。また、ポキャプラリー・コンテストも実施(6月の予定)。</p> <p>「期末試験+それ以外の小規模・中規模の試験+ポキャコン 90%+単語テスト10%」</p>
----------	---

学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。</p> <p>予習・復習・自習(教科書や授業以外での取り組み)が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。</p> <p>「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。</p>
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。</p> <p>集団授業である(個人授業ではない)ことを意識すること。補足プリント等は一度しか配布しない。欠席等による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。</p> <p>教科書および授業だけで勉強を終えて(制限して)しまわず、市販の問題集や参考書にあたるなど、自習を習慣とすること。</p>
----	--

科目名	スペイン語基礎B	科目名(英文)	Basic Spanish B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎ABC」は同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎ABC」を合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、随時(ほぼ毎課)、範囲を決めて単語テストを課す。</p>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、特に動詞各時制の活用及び用法を正確に把握することを目指す。その他、入門の項目を踏まえ、さまざまな構文を理解する。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。ここにある授業計画はあくまで目安であり、進捗、理解度等を勘案し修正を加え得る。
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。</p> <p>日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。</p> <p>語学のやり方を学ぶ。</p> <p>スペイン語検定5級</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
2	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
3	第11課	gustar型動詞・直説法点過去・不定語/否定語・mente副詞	予習と復習 単語暗記
4	第12課	直説法点過去不規則活用・時間の経過の表現・天候の表現・疑問詞	予習と復習 単語暗記
5	第13課	直説法線過去・感嘆文・直説法過去完了・基数(100以上)	習と復習 単語暗記
6	第11～13課	11～13課の内容復習・補充	予習と復習 単語暗記
7	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
8	第14課	形容詞・副詞の比較・形容詞の絶対最上級	予習と復習 単語暗記
9	第15課	直説法未来・未来完了・使役/放任/知覚動詞など・関係代名詞	予習と復習 単語暗記
10	第16課	直説法過去未来・過去未来完了・関係代名詞	予習と復習 単語暗記
11	第14～16課	14～16課の内容復習・補充	予習と復習 単語暗記
12	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
13	総復習	これまでの復習	予習と復習 単語暗記
14	総復習	これまでの復習	予習と復習 単語暗記
15	試験	これまでの復習・確認テスト	予習と復習 単語暗記

関連科目: スペイン語入門 スペイン語基礎A、C スペイン語応用I、II スペイン語オラルI、II

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初級スペイン語講座	田尻陽一・西川喬	弘学社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2			
3			

評価方法(基準): スペイン語基礎ABCは、合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,Cのいずれかで理解度確認テストをする。中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第14週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。可能な限り定期的に単語テストを行う。また、ポキヤブライ・コンテストも実施(6月の予定)。「期末試験+それ以外の小規模・中規模の試験+ポキヤコン 90%+単語テスト10%」

学生へのメッセージ: 最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。予習・復習・自習(教科書や授業以外での取り組み)が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。

担当者の研究室等: 7号館5階 藤井研究室

備考: 事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。集団授業である(個人授業ではない)ことを意識すること。補足プリント等は一度しか配布しない。欠席等による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。教科書および授業だけで勉強を終えて(制限して)しまわず、市販の問題集や参考書にあたるなど、自習を習慣とすること。

科目名	スペイン語基礎C	科目名(英文)	Basic Spanish C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎ABC」は同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎ABC」を合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、随時(ほぼ毎課)、範囲を決めて単語テストを課す。</p>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、特に動詞各時制の活用及び用法を正確に把握することを目指す。その他、入門の項目を踏まえ、さまざまな構文を理解する。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。ここにある授業計画はあくまで目安であり、進捗、理解度等を勘案し修正を加え得る。
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。</p> <p>日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。</p> <p>語学のやり方を学ぶ。</p> <p>スペイン語検定5級</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
2	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
3	第11課	gustar型動詞・直説法点過去・不定語/否定語・mente副詞	予習と復習 単語暗記
4	第12課	直説法点過去不規則活用・時間の経過の表現・天候の表現・疑問詞	予習と復習 単語暗記
5	第13課	直説法線過去・感嘆文・直説法過去完了・基数(100以上)	習と復習 単語暗記
6	第11~13課	11~13課の内容復習・補充	予習と復習 単語暗記
7	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
8	第14課	形容詞・副詞の比較・形容詞の絶対最上級	予習と復習 単語暗記
9	第15課	直説法未来・未来完了・使役/放任/知覚動詞など・関係代名詞	予習と復習 単語暗記
10	第16課	直説法過去未来・過去未来完了・関係代名詞	予習と復習 単語暗記
11	第14~16課	14~16課の内容復習・補充	予習と復習 単語暗記
12	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
13	総復習	これまでの復習	予習と復習 単語暗記
14	総復習	これまでの復習	予習と復習 単語暗記
15	試験	これまでの復習・確認テスト	予習と復習 単語暗記

関連科目: スペイン語入門A、B スペイン語基礎A、B スペイン語応用I、II スペイン語オラルI、II

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初級スペイン語講座	田尻陽一・西川喬	弘学社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2			
3			

評価方法(基準): スペイン語基礎ABCは、合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,Cのいずれかで理解度確認テストをする。中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第14週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。可能な限り定期的に単語テストを行う。また、ポキヤブライ・コンテストも実施(6月の予定)。「期末試験+それ以外の小規模・中規模の試験+ポキヤコン 90%+単語テスト10%」

学生へのメッセージ: 最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。予習・復習・自習(教科書や授業以外での取り組み)が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。

担当者の研究室等: 7号館2階 非常勤講師室

備考: 事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。集団授業である(個人授業ではない)ことを意識すること。補足プリント等は一度しか配布しない。欠席等による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。教科書および授業だけで勉強を終えて(制限して)しまわず、市販の問題集や参考書にあたるなど、自習を習慣とすること。

科目名	スペイン語基礎C	科目名(英文)	Basic Spanish C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<p>・「スペイン語基礎ABC」は同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「基礎ABC」を合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、随時(ほぼ毎課)、範囲を決めて単語テストを課す。</p>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、特に動詞各時制の活用及び用法を正確に把握することを目指す。その他、入門の項目を踏まえ、さまざまな構文を理解する。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。ここにある授業計画はあくまで目安であり、進捗、理解度等を勘案し修正を加え得る。
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。</p> <p>日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。</p> <p>語学のやり方を学ぶ。</p> <p>スペイン語検定5級</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
2	復習	前期の学習内容	前期内容の復習および後期の予習
3	第11課	gustar型動詞・直説法点過去・不定語/否定語・mente副詞	予習と復習 単語暗記
4	第12課	直説法点過去不規則活用・時間の経過の表現・天候の表現・疑問詞	予習と復習 単語暗記
5	第13課	直説法線過去・感嘆文・直説法過去完了・基数(100以上)	習と復習 単語暗記
6	第11~13課	11~13課の内容復習・補充	予習と復習 単語暗記
7	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
8	第14課	形容詞・副詞の比較・形容詞の絶対最上級	予習と復習 単語暗記
9	第15課	直説法未来・未来完了・使役/放任/知覚動詞など・関係代名詞	予習と復習 単語暗記
10	第16課	直説法過去未来・過去未来完了・関係代名詞	予習と復習 単語暗記
11	第14~16課	14~16課の内容復習・補充	予習と復習 単語暗記
12	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
13	総復習	これまでの復習	予習と復習 単語暗記
14	総復習	これまでの復習	予習と復習 単語暗記
15	試験	これまでの復習・確認テスト	予習と復習 単語暗記

関連科目	スペイン語入門A、B スペイン語基礎A、B スペイン語応用I、II スペイン語オラルI、II
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初級スペイン語講座	田尻陽一・西川喬	弘学社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2			
3			

評価方法(基準)	<p>スペイン語基礎ABCは、合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,Cのいずれかで理解度確認テストをする。中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第14週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。可能な限り定期的に単語テストを行う。また、ポキヤブラリ・コンテストも実施(6月の予定)。</p> <p>「期末試験+それ以外の小規模・中規模の試験+ポキヤコン 90%+単語テスト10%」</p>
----------	--

学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。</p> <p>予習・復習・自習(教科書や授業以外での取り組み)が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。</p> <p>「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。</p>
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室
----------	-------------

備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。</p> <p>集団授業である(個人授業ではない)ことを意識すること。補足プリント等は一度しか配布しない。欠席等による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。</p> <p>教科書および授業だけで勉強を終えて(制限して)しまわず、市販の問題集や参考書にあたるなど、自習を習慣とすること。</p>
----	--

科目名	スペイン語圏概論	科目名(英文)	Introduction to Spanish-speaking Area Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	広大なスペイン語圏の国々(ヨーロッパのスペインとラテンアメリカ)に関する基礎知識をもち、関心を高めることを目的とする。ただし、ラテンアメリカに関しては1年後期のエリア・スタディーズで学習するので、この授業では主にスペインを対象とする。
到達目標	スペイン語圏の国や地域について地理、歴史、文化に関する基本的知識を身につける。 座学、すなわち講義を聞きおもに話し(口述)の内容を要約しながら書き留める作業になれること。
授業方法と留意点	講義形式だが、視聴覚教材も適宜、利用する。プリントを配布するので(欠席等による再配布はしない)、ファイルを用意すること。 板書はあえて最小限にする。それは、聴覚情報を正確にとらえ、まとめ、自分の言葉で書き留める訓練のためである。 集団授業であることを認識し、私語はもちろん、自分勝手なタイミングでの質問(重複)等は慎むこと。
科目学習の効果(資格)	集中して話を聞くこと、話の内容を要約すること、それを書き出してまとめること。 座学の訓練。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション スペイン語圏とは	この授業の進め方 スペイン語とスペイン語圏 ラテンアメリカとは	スペイン語の特徴 スペイン語圏の広がり
	2	スペインの地理(1)	スペインの地形・地勢・気候 スペインの自然遺産	配布プリント・ノートの整理 地図に親しむ スペインの地方
	3	スペインの地理(2)	スペインの地理・経済	地形、気候と産物
	4	スペインの地理(3)	スペインは一つの国か? 自治州について	スペインの地域区分 17の自治州
	5	スペインの地理(4)	スペインは一つの国か? 自治州について	スペインの主要都市
	6	中間テスト(1)	スペインの地理に関する確認テスト	
	7	スペインの歴史(1)	文化遺産(古代)	配布プリント・ノートの整理
	8	スペインの歴史(2)	文化遺産(中世)	配布プリント・ノートの整理
	9	スペインの歴史(3)	文化遺産(中世)	配布プリント・ノートの整理
	10	スペインの歴史(4)	文化遺産(近代・現代)	配布プリント・ノートの整理
	11	スペインの歴史(5)	文化遺産(近代・現代)	それぞれの遺産の歴史的意味、場所の確認
	12	中間テスト(2)	スペインの歴史と文化遺産に関する確認テスト	
	13	スペインの芸術(1)	19世紀まで	配布プリント・ノートの整理
	14	スペインの芸術(2)	20世紀	配布プリント・ノートの整理
	15	総括	これまでの総まとめ	配布プリント・ノートの整理

関連科目	「エリア・スタディーズ(ラテンアメリカ)」「同(ヨーロッパ)」「スペイン語トピックス」「メディアのスペイン語」など。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	受講態度・提出物(レポートなど)20%+中間テスト40%+定期試験40%
----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日ごろから本や新聞記事を読み、ニュースを見聞きし、日本と世界の出来事、歴史を知ろうと努めること。 「興味がない」と簡単にいう者がいやいや受講していることなどは、講義(をやる者)の前提にはそもそもない。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階(安達研究室)
----------	--------------

備考	大学での講義のノートの取り方、まとめ方を学びましょう。事前・事後学修に各1時間を要する。 興味や関心は、知識や情報から芽生えるものです。 プリントなどは一度しか配布しない。欠席により不利益を被らないよう意識的に努めること。 事前・事後学修に各2時間を要する。
----	--

科目名	スペイン語圏トピックスⅣ	科目名(英文)	Topics in the Spanish-speaking World IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語圏の歴史や文化などに関する文章の読解を通して、スペイン語の実践的な語彙や表現を習得する。 また、DVD、動画などの視覚教材を用いて、広大なスペイン語圏の社会的問題や今日的な問題についての理解を深める。
到達目標	スペイン語の読解力を養う。スペイン語圏についての理解を深める。日本の社会や文化との比較の視点を持つこと。
授業方法と留意点	授業計画はあくまで目安であり、履修生の読解力と関心に応じて、取り組む授業テーマを変更することがある。 レポートや発表を課す予定である。資料は随時配布するが、欠席等による再配布はしない。 学習の当事者として自己管理を徹底するように。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	-----
	2	スペインの諸言語	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	3	スペインの諸言語	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	4	スペイン語の語彙	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	5	スペイン語の語彙	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	6	スペインの諸地域	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	7	スペインの諸地域	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	8	ここまでのまとめ	前半の復習と中間テスト	-----
	9	ラテンアメリカのスペイン語	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	10	ラテンアメリカの歴史	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	11	アメリカ合衆国(ヒスパニック)の社会問題	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	12	アメリカ合衆国(ヒスパニック)の社会問題	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	13	ラテンアメリカの社会問題	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	14	ラテンアメリカの社会問題	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	15	まとめ	後半のまとめと確認テスト	-----

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	受講態度・レポート・発表など 20%、臨時試験(中間・確認テスト) 80%
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	授業への積極的・主体的な参加を望む。 事前に配布したプリントを必ず熟読し、授業に臨むこと。 日ごろから読書(言語を問わず、文脈のある文章)を習慣づけること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室
----------	-------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。 プリント類は一度しか配布しない(他の受講生に頼んでコピーさせてもらうなどすること)。欠席などによる不利益を回避するよう努力を。
----	---

科目名	スペイン語圏トピックスⅣ	科目名(英文)	Topics in the Spanish-speaking World IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スペイン語圏の歴史や文化などに関する文章の読解を通して、スペイン語の実践的な語彙や表現を習得する。 また、DVD、動画などの視覚教材を用いて、広大なスペイン語圏の社会的問題や今日的な問題についての理解を深める。
到達目標	スペイン語の読解力を養う。スペイン語圏についての理解を深める。日本の社会や文化との比較の視点を持つこと。
授業方法と留意点	授業計画はあくまで目安であり、履修生の読解力と関心に応じて、取り組む授業テーマを変更することがある。 レポートや発表を課す予定である。資料は随時配布するが、欠席等による再配布はしない。 学習の当事者として自己管理を徹底するように。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	-----
	2	スペインの諸言語	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	3	スペインの諸言語	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	4	スペイン語の語彙	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	5	スペイン語の語彙	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	6	スペインの諸地域	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	7	スペインの諸地域	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	8	ここまでのまとめ	前半の復習と中間テスト	-----
	9	ラテンアメリカのスペイン語	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	10	ラテンアメリカの歴史	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	11	アメリカ合衆国(ヒスパニック)の社会問題	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	12	アメリカ合衆国(ヒスパニック)の社会問題	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	13	ラテンアメリカの社会問題	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	14	ラテンアメリカの社会問題	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
	15	まとめ	後半のまとめと確認テスト	-----

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	受講態度・レポート・発表など 20%、臨時試験(中間・確認テスト) 80%
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	授業への積極的・主体的な参加を望む。 事前に配布したプリントを必ず熟読し、授業に臨むこと。 日ごろから読書(言語を問わず、文脈のある文章)を習慣づけること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。 プリント類は一度しか配布しない(他の受講生に頼んでコピーさせてもらうなどすること)。欠席などによる不利益を回避するよう努力を。
----	---

科目名	スペイン語講読 I	科目名 (英文)	Spanish Reading I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦 知佐子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、同時に語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。
到達目標	スペイン語の文法知識が深まり、直説法に限定した長文の内容を正確に読み解くことができるようになる。
授業方法と留意点	予習として文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の本文写しと和訳を指示に従ってやってくる。授業では文の構造と文と文のつながりを詳しく学ぶ。指示詞、代名詞、動詞の時制などの文法事項は質問するので、予習の段階でよく確認すること。授業はグループワーク形式で行うこともある。予習で作成した本文写しと和訳は毎回提出すること。必ず紙の辞書を使用し、辞書を徹底的に使うこと。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級～4 級 (4 級合格には接続法の理解が必要です。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要説明と読解のための文の構造についての説明	指示された教科書を購入し、全体に目を通しておく。
2	ミレニアル世代の若者たち (1)	文法 (直説法現在と再帰動詞) および語彙の確認	1 課の文法問題とリスニング
3	ミレニアル世代の若者たち (2)	西文和訳	1 課の文章の本文写しと和訳
4	新党の台頭 (1)	文法 (gustar と不定詞) および語彙の確認	2 課の文法問題とリスニング
5	新党の台頭 (2)	西文和訳	2 課の文章の本文写しと和訳
6	チリと日本の防災協力 (1)	文法 (現在完了と点過去) および語彙の確認	3 課の文法問題とリスニング
7	チリと日本の防災協力 (2)	西文和訳	3 課の文章の本文写しと和訳
8	中間テスト、新聞記事の読解	既習範囲の確認とスペイン語圏の新聞記事の読解	既習範囲の復習
9	スペインの健康保険事情 (1)	文法 (点過去と線過去) および語彙の確認	4 課の文法問題とリスニング
10	スペインの健康保険事情 (2)	西文和訳	4 課の文章の本文写しと和訳
11	黒い伝説とマルカ・エスパーニャ (1)	文法 (過去時制の使い分け) および語彙の確認	5 課の文法問題とリスニング
12	黒い伝説とマルカ・エスパーニャ (2)	西文和訳	5 課の文章の本文写しと和訳
13	世界タバスデー (1)	文法 (未来と過去未来) および語彙の確認	6 課の文法問題とリスニング
14	世界タバスデー (2)	西文和訳	6 課の文章の本文写しと和訳
15	学習内容の確認	読解のポイントの復習と理解度判定テスト	総復習

関連科目	スペイン語オラルⅢ、スペイン語総合 A・B、スペイン語文章構成 I
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Es noticia (ニュースを聞こう! 中級スペイン語)	中島聡子ほか	三修社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	予習や提出物等の授業参加意欲 20%、中間テスト 40%、理解度判定テスト 40%
-----------	---

学生へのメッセージ	授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直ししながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。また語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 講師控室
----------	---------------

備考	各回とも事前・事後学習に要する総時間数は約 30 時間を目安とする。ポキャブラリ・コンテスト (時期は未定) により授業進度が変更になる場合がある。
----	--

科目名	スペイン語講読 I	科目名 (英文)	Spanish Reading I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、同時に語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。
到達目標	スペイン語の文法知識が深まり、直説法に限定した長文の内容を正確に読み解くことができるようになる。
授業方法と留意点	予習として文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の本文写しと和訳を指示に従ってやってくる。授業では文の構造と文と文のつながりを詳しく学ぶ。指示詞、代名詞、動詞の時制などの文法事項は質問するので、予習の段階でよく確認すること。授業はグループワーク形式で行うこともある。予習で作成した本文写しと和訳は毎回提出すること。必ず紙の辞書を使用し、辞書を徹底的に使うこと。

科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級～4 級 (4 級合格には接続法の理解が必要です。)
--------------	---------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要説明と読解のための文の構造についての説明	指示された教科書を購入し、全体に目を通しておく。
2	ミレニアル世代の若者たち (1)	文法 (直説法現在と再帰動詞) および語彙の確認	1 課の文法問題とリスニング
3	ミレニアル世代の若者たち (2)	西文和訳	1 課の文章の本文写しと和訳
4	新党の台頭 (1)	文法 (gustar と不定詞) および語彙の確認	2 課の文法問題とリスニング
5	新党の台頭 (2)	西文和訳	2 課の文章の本文写しと和訳
6	チリと日本の防災協力 (1)	文法 (現在完了と点過去) および語彙の確認	3 課の文法問題とリスニング
7	チリと日本の防災協力 (2)	西文和訳	3 課の文章の本文写しと和訳
8	中間テスト、新聞記事の読解	既習範囲の確認とスペイン語圏の新聞記事の読解	既習範囲の復習
9	スペインの健康保険事情 (1)	文法 (点過去と線過去) および語彙の確認	4 課の文法問題とリスニング
10	スペインの健康保険事情 (2)	西文和訳	4 課の文章の本文写しと和訳
11	黒い伝説とマルカ・エスパーニャ (1)	文法 (過去時制の使い分け) および語彙の確認	5 課の文法問題とリスニング
12	黒い伝説とマルカ・エスパーニャ (2)	西文和訳	5 課の文章の本文写しと和訳
13	世界タバスデー (1)	文法 (未来と過去未来) および語彙の確認	6 課の文法問題とリスニング
14	世界タバスデー (2)	西文和訳	6 課の文章の本文写しと和訳
15	学習内容の確認	読解のポイントの復習と理解度判定テスト	総復習

関連科目	スペイン語オラルⅢ、スペイン語総合 A・B、スペイン語文章構成 I
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Es noticia (ニュースを聞こう! 中級スペイン語)	中島聡子ほか	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	予習や提出物等の授業参加意欲 20%、中間テスト 40%、理解度判定テスト 40%
-----------	---

学生へのメッセージ	授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直ししながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。また語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 5 階 藤井研究室
----------	----------------

備考	各回とも事前・事後学習に要する総時間数は約 30 時間を目安とする。ボキャブラリ・コンテスト (時期は未定) により授業進度が変更になる場合がある。
----	--

科目名	スペイン語講読Ⅱ	科目名(英文)	Spanish Reading II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的
文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、同時に語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。後半はペースを上げて読んでいく。

到達目標
スペイン語の文法知識が深まり、接続法を含む長文の内容を正確に読み解くことができるようになる。

授業方法と留意点
予習として文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の本文写しと和訳を指示に従ってやってくる。授業では文の構造と文と文のつながりを詳しく学ぶ。指示詞、代名詞、動詞の時制などの文法事項は質問するので、予習の段階でよく確認すること。
授業はグループワーク形式で行うこともある。
予習で作成した本文写しと和訳は毎回提出すること。必ず紙の辞書を使用し、辞書を徹底的に使うこと。

科目学習の効果(資格)
スペイン語検定4級(4級合格には接続法の理解が必要です。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	スペインにおける家族形態の変化(1)	文法(比較級)と語彙の確認	7課の文法問題とリスニング
2	スペインにおける家族形態の変化(2)	西文和訳	7課の文章の本文写しと和訳
3	臓器移植(1)	文法(名詞節・副詞節での接続法)と語彙の確認	8課の文法問題とリスニング
4	臓器移植(2)	西文和訳	8課の文章の本文写しと和訳
5	キューバと日本(1)	文法(形容詞節での接続法)と語彙の確認	9課の文法問題とリスニング
6	キューバと日本(2)	西文和訳	9課の文章の本文写しと和訳
7	中間テスト、新聞記事の読解	既習範囲の確認とスペイン語圏の新聞記事の読解	既習範囲の復習
8	スペインにおける難民受け入れ	文法(接続法現在)と西文和訳	10課の文法問題、文章の本文写しと和訳
9	闘牛の是非をめぐって	文法(接続法現在完了)と西文和訳	11課の文法問題、文章の本文写しと和訳
10	スペイン語の経済効果	文法(接続法過去)と西文和訳	12課の文法問題、文章の本文写しと和訳
11	Yの読み方とスペインの民衆蜂起	文法(接続法過去)と西文和訳	13課の文法問題、文章の本文写しと和訳
12	国境なきライバル(1)	文法(条件文)と語彙の確認	14課の文法問題とリスニング
13	国境なきライバル(2)	西文和訳	14課の文章の本文写しと和訳
14	日本企業のメキシコ進出	文法(条件文)と西文和訳	15課の文法問題、文章の本文写しと和訳
15	学習内容の確認	読解のポイントの復習と理解度判定テスト	総復習

関連科目
スペイン語オラルⅣ、スペイン語文章構成Ⅱ、スペイン語トピックス、映画のスペイン語Ⅰ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Es noticia (ニュースを聞こう! 中級スペイン語)	中島聡子ほか	三修社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
予習や提出物等の授業参加意欲 20%、中間テスト 40%、理解度判定テスト 40%

学生へのメッセージ
授業には辞書を持参すること。
既習の文法事項を見直ししながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。また語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。

担当者の研究室等
7号館5階 藤井研究室

備考
各回とも事前・事後学習に要する総時間数は30時間を目安とする。
ポキャブラリ・コンテスト(時期は未定)により授業進度が変更になる場合がある。

科目名	スペイン語講読Ⅱ	科目名(英文)	Spanish Reading II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三浦 知佐子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、同時に語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。後半はペースを上げて読んでいく。																																																																
到達目標	スペイン語の文法知識が深まり、接続法を含む長文の内容を正確に読み解くことができるようになる。																																																																
授業方法と留意点	予習として文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の本文写しと和訳を指示に従ってやってくる。授業では文の構造と文と文のつながりを詳しく学ぶ。指示詞、代名詞、動詞の時制などの文法事項は質問するので、予習の段階でよく確認すること。 授業はグループワーク形式で行うこともある。 予習で作成した本文写しと和訳は毎回提出すること。必ず紙の辞書を使用し、辞書を徹底的に使うこと。																																																																
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級(4級合格には接続法の理解が必要です。)																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スペインにおける家族形態の変化(1)</td> <td>文法(比較級)と語彙の確認</td> <td>7課の文法問題とリスニング</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>スペインにおける家族形態の変化(2)</td> <td>西文和訳</td> <td>7課の文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>臓器移植(1)</td> <td>文法(名詞節・副詞節での接続法)と語彙の確認</td> <td>8課の文法問題とリスニング</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>臓器移植(2)</td> <td>西文和訳</td> <td>8課の文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キューバと日本(1)</td> <td>文法(形容詞節での接続法)と語彙の確認</td> <td>9課の文法問題とリスニング</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キューバと日本(2)</td> <td>西文和訳</td> <td>9課の文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中間テスト、新聞記事の読解</td> <td>既習範囲の確認とスペイン語圏の新聞記事の読解</td> <td>既習範囲の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>スペインにおける難民受け入れ</td> <td>文法(接続法現在)と西文和訳</td> <td>10課の文法問題、文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>闘牛の是非をめぐって</td> <td>文法(接続法現在完了)と西文和訳</td> <td>11課の文法問題、文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>スペイン語の経済効果</td> <td>文法(接続法過去)と西文和訳</td> <td>12課の文法問題、文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Yの読み方とスペインの民衆蜂起</td> <td>文法(接続法過去)と西文和訳</td> <td>13課の文法問題、文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>国境なきライバル(1)</td> <td>文法(条件文)と語彙の確認</td> <td>14課の文法問題とリスニング</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>国境なきライバル(2)</td> <td>西文和訳</td> <td>14課の文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>日本企業のメキシコ進出</td> <td>文法(条件文)と西文和訳</td> <td>15課の文法問題、文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学習内容の確認</td> <td>読解のポイントの復習と理解度判定テスト</td> <td>総復習</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	スペインにおける家族形態の変化(1)	文法(比較級)と語彙の確認	7課の文法問題とリスニング	2	スペインにおける家族形態の変化(2)	西文和訳	7課の文章の本文写しと和訳	3	臓器移植(1)	文法(名詞節・副詞節での接続法)と語彙の確認	8課の文法問題とリスニング	4	臓器移植(2)	西文和訳	8課の文章の本文写しと和訳	5	キューバと日本(1)	文法(形容詞節での接続法)と語彙の確認	9課の文法問題とリスニング	6	キューバと日本(2)	西文和訳	9課の文章の本文写しと和訳	7	中間テスト、新聞記事の読解	既習範囲の確認とスペイン語圏の新聞記事の読解	既習範囲の復習	8	スペインにおける難民受け入れ	文法(接続法現在)と西文和訳	10課の文法問題、文章の本文写しと和訳	9	闘牛の是非をめぐって	文法(接続法現在完了)と西文和訳	11課の文法問題、文章の本文写しと和訳	10	スペイン語の経済効果	文法(接続法過去)と西文和訳	12課の文法問題、文章の本文写しと和訳	11	Yの読み方とスペインの民衆蜂起	文法(接続法過去)と西文和訳	13課の文法問題、文章の本文写しと和訳	12	国境なきライバル(1)	文法(条件文)と語彙の確認	14課の文法問題とリスニング	13	国境なきライバル(2)	西文和訳	14課の文章の本文写しと和訳	14	日本企業のメキシコ進出	文法(条件文)と西文和訳	15課の文法問題、文章の本文写しと和訳	15	学習内容の確認	読解のポイントの復習と理解度判定テスト	総復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	スペインにおける家族形態の変化(1)	文法(比較級)と語彙の確認	7課の文法問題とリスニング																																																														
2	スペインにおける家族形態の変化(2)	西文和訳	7課の文章の本文写しと和訳																																																														
3	臓器移植(1)	文法(名詞節・副詞節での接続法)と語彙の確認	8課の文法問題とリスニング																																																														
4	臓器移植(2)	西文和訳	8課の文章の本文写しと和訳																																																														
5	キューバと日本(1)	文法(形容詞節での接続法)と語彙の確認	9課の文法問題とリスニング																																																														
6	キューバと日本(2)	西文和訳	9課の文章の本文写しと和訳																																																														
7	中間テスト、新聞記事の読解	既習範囲の確認とスペイン語圏の新聞記事の読解	既習範囲の復習																																																														
8	スペインにおける難民受け入れ	文法(接続法現在)と西文和訳	10課の文法問題、文章の本文写しと和訳																																																														
9	闘牛の是非をめぐって	文法(接続法現在完了)と西文和訳	11課の文法問題、文章の本文写しと和訳																																																														
10	スペイン語の経済効果	文法(接続法過去)と西文和訳	12課の文法問題、文章の本文写しと和訳																																																														
11	Yの読み方とスペインの民衆蜂起	文法(接続法過去)と西文和訳	13課の文法問題、文章の本文写しと和訳																																																														
12	国境なきライバル(1)	文法(条件文)と語彙の確認	14課の文法問題とリスニング																																																														
13	国境なきライバル(2)	西文和訳	14課の文章の本文写しと和訳																																																														
14	日本企業のメキシコ進出	文法(条件文)と西文和訳	15課の文法問題、文章の本文写しと和訳																																																														
15	学習内容の確認	読解のポイントの復習と理解度判定テスト	総復習																																																														
関連科目	スペイン語オラルⅣ、スペイン語文章構成Ⅱ、スペイン語トピックス、映画のスペイン語Ⅰ																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Es noticia (ニュースを聞こう! 中級スペイン語)</td> <td>中島聡子ほか</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Es noticia (ニュースを聞こう! 中級スペイン語)	中島聡子ほか	三修社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	Es noticia (ニュースを聞こう! 中級スペイン語)	中島聡子ほか	三修社																																																														
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	予習や提出物等の授業参加意欲20%、中間テスト40%、理解度判定テスト40%																																																																
学生へのメッセージ	授業には辞書を持参すること。 既習の文法事項を見直ししながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。また語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。																																																																
担当者の研究室等	7号館2階 講師控室																																																																
備考	各回とも事前・事後学習に要する総時間数は30時間を目安とする。 ボキャブラリ・コンテスト(時期は未定)により授業進度が変更になる場合がある。																																																																

科目名	スペイン語総合A	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句テストおよび中間テスト(文法確認テスト)を実施する。
到達目標	初級文法事項の反復練習を行い定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を習得する。
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。ポキャプラーコンテンツを授業内で実施する予定。予習復習を前提に講義は進行する(配布物の管理をきちんと行うこと)。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度や進度により変更し得る。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	接続法とはなにか	接続法の用法と特徴。直説法との違い。接続法現在の活用形。	1年次で既習の直説法における9つの時制を復習する。
2	接続法現在	規則・不規則動詞ともに活用を正しく身につける。命令文への導入。	直説法現在の活用を再確認し、接続法現在の活用を覚える。
3	命令文	接続法現在を用いる肯定・否定命令文の練習。2人称の肯定命令(1年次で既習)の復習。	命令文の練習問題を多く解く。
4	中間テスト1 従属節で用いる接続法の用法	接続法現在の活用と命令文の理解を問う。名詞節で用いる接続法: 願望・依頼・命令・助言・疑い・可能性を表す文、主節が否定を表す文。	命令文の総合的復習を行っておく。名詞節で接続法を用いるべき動詞になにかがあるかを把握する。
5	従属節で用いる接続法の用法	名詞節で用いる接続法: 感情・主観的判断を表す文。	「Es 形容詞 que 接続法」の文で使われる形容詞を把握する。
6	従属節で用いる接続法の用法 ポキャプラー・コンテンツ	形容詞節で用いる接続法。	関係代名詞の復習を行っておく。
7	従属節で用いる接続法の用法	副詞節で用いる接続法。	接続法を用いるべき様々な副詞、副詞節を知る。
8	中間テスト2 接続法現在完了	複文(主節+従属節)で用いる接続法(現在)の理解を問う。接続法現在完了の活用と用法。	従属節(名詞節、形容詞節、副詞節)で用いる接続法の理解を固める。接続法現在完了の活用練習を行う。
9	接続法過去完了 条件文	接続法過去完了の活用と用法。事実に反する仮定と帰結節。	接続法の4つの時制を正しく習得する。
10	条件文 譲歩文	事実に反する仮定と帰結節。「たとえ～だとしても」。	「いま～なら、～なのに」「～だったら、～だったのに」「～だったら、～なのに」を表す時制の違いを把握する。
11	これまでの総復習	中間テスト1以後の学習内容。	接続法の各時制の活用を身につけ、複文中での用い方を疑問を残さず理解するよう、多くの文章に当たる。
12	独立文(単文)で用いられる 統法 中間テスト3	接続法が単文でも用いられる場合のキーワード。条件文と譲歩文の理解を問う。	接続法を用いるべき条件文、譲歩文の例に数多く当たる。
13	接続法の総合的復習	接続法の復習・練習 文章読解	前期初回からの授業内容をじっくりと見直し、消化できていない部分について質問を重ね、教員に説明を求める。
14	接続法の総合的復習	接続法の復習・練習 文章読解	前期初回からの授業内容をじっくりと見直し、消化できていない部分について質問を重ね、教員に説明を求める。
15	理解度確認テスト(A・Bとも)	これまでの学習内容すべて	テストの受けっぱなしはいけません。

関連科目: スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法(1年次の教科書を引き続き使用する)	和佐敦子	白水社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準): 中間テスト+語句テスト+ポキャプラーコンテンツ+理解度確認テストを総合的に評価する。

学生へのメッセージ: 毎回予習復習をしたうえで授業に出席すること。遅刻・欠席過多は学習レベルと意欲を低下させるため、勉学の当事者意識をもつこと。配布物が多いので、それらをまとめるファイル、ノートを用意すること。欠席した場合は、ほかの受講生にコピーさせてもらうなどして自分自身で不足を補うこと(予習に必要)。欠席はプリントがないことは予習できないことの言い訳にならない。大学生(=大人)としてふるまうこと。

担当者の 研究室等	7号館5階 北條研究室
備考	<p>ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各1時間を要する。 1年次の教科書を引き続き使用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することが多い。配布物は欠席するともらえない（その都度一度しか配布しない）ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。自律自助を！</p>

科目名	スペイン語総合A	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句テストおよび中間テスト(文法確認テスト)を実施する。
到達目標	初級文法事項の反復練習を行い定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を習得する。
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。ポキャブラリーコンテストを授業内で実施する予定。予習復習を前提に講義は進行する(配布物の管理をきちんと行うこと)。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	接続法とはなにか	接続法の用法と特徴。直説法との違い。接続法現在の活用形。	1年次で既習の直説法における9つの時制を復習する。
2	接続法現在	規則・不規則動詞ともに活用を正しく身につける。命令文への導入。	直説法現在の活用を再確認し、接続法現在の活用を覚える。
3	命令文	接続法現在を用いる肯定・否定命令文の練習。2人称の肯定命令(1年次で既習)の復習。	命令文の練習問題を多く解く。
4	中間テスト1 従属節で用いる接続法の用法	接続法現在の活用と命令文の理解を問う。名詞節で用いる接続法: 願望・依頼・命令・助言・疑い・可能性を表す文、主節が否定を表す文。	命令文の総合的復習を行っておく。名詞節で接続法を用いるべき動詞になにかがあるかを把握する。
5	従属節で用いる接続法の用法	名詞節で用いる接続法: 感情・主観的判断を表す文。	「Es 形容詞 que 接続法」の文で使われる形容詞を把握する。
6	従属節で用いる接続法の用法 ポキャブラリー・コンテスト	形容詞節で用いる接続法。	関係代名詞の復習を行っておく。
7	従属節で用いる接続法の用法	副詞節で用いる接続法。	接続法を用いるべき様々な副詞、副詞節を知る。
8	中間テスト2 接続法現在完了	複文(主節+従属節)で用いる接続法(現在)の理解を問う。接続法現在完了の活用と用法。	従属節(名詞節、形容詞節、副詞節)で用いる接続法の理解を固める。接続法現在完了の活用練習を行う。
9	接続法過去完了 条件文	接続法過去完了の活用と用法。事実に反する仮定と帰結節。	接続法の4つの時制を正しく習得する。
10	条件文 譲歩文	事実に反する仮定と帰結節。「たとえ～だとしても」。	「いま～なら、～なのに」「～だったら、～だったのに」「～だったら、～なのに」を表す時制の違いを把握する。
11	これまでの総復習	中間テスト1以後の学習内容。	接続法の各時制の活用を身につけ、複文中での用い方を疑問を残さず理解するよう、多くの文章に当たる。
12	独立文(単文)で用いられる 統法 中間テスト3	接続法が単文でも用いられる場合のキーワード。条件文と譲歩文の理解を問う。	接続法を用いるべき条件文、譲歩文の例に数多く当たる。
13	接続法の総合的復習	接続法の復習・練習 文章読解	前期初回からの授業内容をじっくりと見直し、消化できていない部分について質問を重ね、教員に説明を求める。
14	接続法の総合的復習	接続法の復習・練習 文章読解	前期初回からの授業内容をじっくりと見直し、消化できていない部分について質問を重ね、教員に説明を求める。
15	理解度確認テスト(A・Bとも)	これまでの学習内容すべて	テストの受けっぱなしはいけません。

関連科目: スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法(1年次の教科書を引き続き使用する)	和佐敦子	白水社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準): 中間テスト+語句テスト+ポキャブラリーコンテスト+理解度確認テストを総合的に評価する。

学生へのメッセージ: 毎回予習復習をしたうえで授業に出席すること。遅刻・欠席過多は学習レベルと意欲を低下させるため、勉学の当事者意識をもつこと。配布物が多いので、それらをまとめるファイル、ノートを用意すること。欠席した場合は、ほかの受講生にコピーさせてもらうなどして自分自身で不足を補うこと(予習に必要)。欠席はプリントがないことは予習できないことの言い訳にならない。大学生(=大人)としてふるまうこと。

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	<p>ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各1時間を要する。 1年次の教科書を引き続き使用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することが多い。配布物は欠席するともらえない（その都度一度しか配布しない）ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。自律自助を！</p>

科目名	スペイン語総合B	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句テストおよび中間テスト(文法確認テスト)を実施する。
到達目標	初級文法事項の反復練習を行い定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を習得する。
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。ポキャプラーコンテンツを授業内で実施する予定。予習復習を前提に講義は進行する(配布物の管理をきちんと行うこと)。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	接続法とはなにか	接続法の用法と特徴。直説法との違い。接続法現在の活用形。	1年次で既習の直説法における9つの時制を復習する。
2	接続法現在	規則・不規則動詞ともに活用を正しく身につける。命令文への導入。	直説法現在の活用を再確認し、接続法現在の活用を覚える。
3	命令文	接続法現在を用いる肯定・否定命令文の練習。2人称の肯定命令(1年次で既習)の復習。	命令文の練習問題を多く解く。
4	中間テスト1 従属節で用いる接続法の用法	接続法現在の活用と命令文の理解を問う。名詞節で用いる接続法: 願望・依頼・命令・助言・疑い・可能性を表す文、主節が否定を表す文。	命令文の総合的復習を行っておく。名詞節で接続法を用いるべき動詞になにかがあるかを把握する。
5	従属節で用いる接続法の用法	名詞節で用いる接続法: 感情・主観的判断を表す文。	「Es 形容詞 que 接続法」の文で使われる形容詞を把握する。
6	従属節で用いる接続法の用法 ポキャプラー・コンテンツ	形容詞節で用いる接続法。	関係代名詞の復習を行っておく。
7	従属節で用いる接続法の用法	副詞節で用いる接続法。	接続法を用いるべき様々な副詞、副詞節を知る。
8	中間テスト2 接続法現在完了	複文(主節+従属節)で用いる接続法(現在)の理解を問う。接続法現在完了の活用と用法。	従属節(名詞節、形容詞節、副詞節)で用いる接続法の理解を固める。接続法現在完了の活用練習を行う。
9	接続法過去完了 条件文	接続法過去完了の活用と用法。事実と反する仮定と帰結節。	接続法の4つの時制を正しく習得する。
10	条件文 譲歩文	事実と反する仮定と帰結節。「たとえ～だとしても」。	「いま～なら、～なのに」「～だったら、～だったのに」「～だったら、～なのに」を表す時制の違いを把握する。
11	これまでの総復習	中間テスト1以後の学習内容。	接続法の各時制の活用を身につけ、複文中での用い方を疑問を残さず理解するよう、多くの文章に当たる。
12	独立文(単文)で用いられる統法 中間テスト3	接続法が単文でも用いられる場合のキーワード。条件文と譲歩文の理解を問う。	接続法を用いるべき条件文、譲歩文の例に数多く当たる。
13	接続法の総合的復習	接続法の復習・練習 文章読解	前期初回からの授業内容をじっくりと見直し、消化できていない部分について質問を重ね、教員に説明を求める。
14	接続法の総合的復習	接続法の復習・練習 文章読解	前期初回からの授業内容をじっくりと見直し、消化できていない部分について質問を重ね、教員に説明を求める。
15	理解度確認テスト(A・Bとも)	これまでの学習内容すべて	テストの受けっぱなしはいけません。

関連科目: スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法(1年次の教科書を引き続き使用する)	和佐敦子	白水社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準): 中間テスト+語句テスト+ポキャプラーコンテンツ+理解度確認テストを総合的に評価する。

学生へのメッセージ: 毎回予習復習をしたうえで授業に出席すること。遅刻・欠席過多は学習レベルと意欲を低下させるため、勉学の当事者意識をもつこと。配布物が多いので、それらをまとめるファイル、ノートを用意すること。欠席した場合は、ほかの受講生にコピーさせてもらうなどして自分自身で不足を補うこと(予習に必要)。プリントがないことは予習できないことの言い訳にならない。大学生(=大人)としてふるまうこと。

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	<p>ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各1時間を要する。 1年次の教科書を引き続き使用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することが多い。配布物は欠席するともらえない（その都度一度しか配布しない）ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。自律自助を！</p>

科目名	スペイン語総合B	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句テストおよび中間テスト(文法確認テスト)を実施する。
到達目標	初級文法事項の反復練習を行い、定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を習得する。
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。ポキャプラーリコンテストを授業内で実施する予定。予習復習を前提に講義は進行する(配布物の管理をきちんと行うこと)。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	接続法とはなにか	接続法の用法と特徴。直説法との違い。接続法現在の活用形。	1年次で既習の直説法における9つの時制を復習する。
2	接続法現在	規則・不規則動詞ともに活用を正しく身につける。命令文への導入。	直説法現在の活用を再確認し、接続法現在の活用を覚える。
3	命令文	接続法現在を用いる肯定・否定命令文の練習。2人称の肯定命令(1年次で既習)の復習。	命令文の練習問題を多く解く。
4	中間テスト1 従属節で用いる接続法の用法	接続法現在の活用と命令文の理解を問う。名詞節で用いる接続法: 願望・依頼・命令・助言・疑い・可能性を表す文、主節が否定を意味する文。	命令文の総合的復習を行っておく。名詞節で接続法を用いるべき動詞になにがあるかを把握する。
5	従属節で用いる接続法の用法	名詞節で用いる接続法: 感情・主観的判断を表す文	「Es 形容詞 que 接続法」の文で使われる形容詞を把握する。
6	従属節で用いる接続法の用法 ポキャプラーリ・コンテスト	形容詞節で用いる接続法	関係代名詞の復習を行っておく。
7	従属節で用いる接続法の用法	副詞節で用いる接続法	接続法を用いるべき様々な副詞、副詞節を知る。
8	中間テスト2 接続法現在完了	複文(主節+従属節)で用いる接続法(現在)の理解を問う。接続法現在完了の活用と用法	従属節(名詞節、形容詞節、副詞節)で用いる接続法の理解を固める。接続法現在完了の活用練習を行う。
9	接続法過去完了 条件文	接続法過去完了の活用と用法 事実と反する仮定と帰結節	接続法の4つの時制を正しく習得する。
10	条件文 譲歩文	事実と反する仮定と帰結節 「たとえ～だとしても」	「いま～なら、～なのに」「～だったら、～だったのに」「～だったら、いま～なのに」を表す時制の違いを把握する。
11	これまでの総復習	中間テスト1以後の学習内容	接続法の各時制の活用を身につけ、複文中での使い方を疑問を残さず理解するよう、多くの文章に当たる。
12	独立文(単文)で用いられる接続法 中間テスト3	接続法が単文でも用いられる場合のキーワード 条件文と譲歩文の理解を問う	接続法を用いるべき条件文、譲歩文の例に数多く当たる。
13	接続法の総合的復習	接続法の復習・練習 文章読解	前期初回からの授業内容をじっくりと見直し、消化できていない部分について質問を重ね、教員に説明を求める。
14	接続法の総合的復習	接続法の復習・練習 文章読解	前期初回からの授業内容をじっくりと見直し、消化できていない部分について質問を重ね、教員に説明を求める。
15	理解度確認テスト (A・Bとも)	これまでの学習内容すべて	テストの受けっぱなしはいけません。

関連科目: スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法(1年次の教科書を引き続き使用する)	和佐敦子	白水社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準): 中間テスト+単語テスト+ポキャプラーリコンテスト+理解度確認テストを総合的に評価する。

学生へのメッセージ: 毎回予習復習をしたうえで授業に出席すること。遅刻・欠席過多は学習レベルと意欲を低下させるため、勉学の当事者意識をもつこと。配布物が多いので、それらをまとめるファイル、ノートを用意すること。欠席した場合は、ほかの受講生にコピーさせてもらうなどして自分自身で不足を補うこと(予習に必要)。プリントがないことは予習できないことの言い訳にならない。大学生(=大人)としてふるまうこと。

担当者の 研究室等	7号館5階 安達研究室
備考	<p>ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各1時間を要する。 1年次の教科書を引き続き使用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することが多い。配布物は欠席するともらえない（その都度一度しか配布しない）ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。自律自助を！</p>

科目名	スペイン語通訳 I	科目名 (英文)	Spanish for Interpreters and Tour Guides I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	前期は日本のことについて説明できるよう、日本に関する知識を深めるとともに、外国人（とりわけスペイン語圏の人々）が日本のことをどう理解しているかを知ること主眼を置く。日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。毎回単語テストを行う。
到達目標	日本の地理、歴史、社会についてスペイン語で説明できるようになる。
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた日本紹介文献や旅行ガイドを参考に、日本についての知識とスペイン語の基本的語彙を身につける。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 3 級、通訳案内士 (スペイン語)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「通訳案内士」とは：通訳案内には何が必要か	通訳案内上の国家試験について
2	日本の自然	日本の地理的特徴、四季と気候について、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
3	日本の地理	日本の世界自然遺産について、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
4	日本の文化 (1)	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
5	日本の文化 (2)	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
6	日本の文化 (3)	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
7	到達度確認テスト	既習範囲の総点検	これまでに習った表現・語彙の復習
8	神社仏閣の案内 (1)	日本の宗教 (仏教と神道、禅)、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
9	神社仏閣の案内 (2)	日本の宗教 (仏教と神道、禅)、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
10	神社仏閣の案内 (3)	日本の宗教 (仏教と神道、禅)、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
11	ボキャコン	基本的語彙力の検証	語彙力の大切さの再認識
12	神社仏閣の案内 (3)	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
13	神社仏閣の案内 (3)	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
14	神社仏閣の案内 (3)	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
15	到達度確認テスト	特定の神社仏閣を案内する対話を実践 (エア・ガイド)	自分が調べた、日本文化の側面について3分間でスピーチ

関連科目: スペイン語オラルV、スペイン語文章構成III、映画のスペイン語II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	単語テスト (30%)、ボキャブラリ・コンテスト (20%)、到達度確認テスト (50%) を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	予習を欠かさず積極的に授業に臨んでください。 配布物が多いので、それらをこの科目用の固有のファイルに綴じて活用すること。
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室
備考	ボキャコンはスペイン語検定の日程との関係で前後することがある。 毎回の授業の事前・事後学修に計2時間をかけること。

科目名	スペイン語通訳Ⅱ	科目名(英文)	Spanish for Interpreters and Tour Guides II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。																																																																		
到達目標	おもに京阪神の名所についてガイドできる知識とスペイン語力を身につける。 世界無形文化遺産である「和食」、日本人の生活習慣等、異文化圏の人に対して客観的にスペイン語で説明できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	日本の歴史文化を理解し、現代社会の特質をスペイン語で説明できるよう基礎知識を習得し、スペイン語での質問に口頭で応答する実践を行う。 希望者には通訳案内士の資格試験に対応できる指導も行う。 毎回、単語テストを行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定3級、通訳案内士(スペイン語)																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の内容の復習</td> <td>もう一度、単語テスト</td> <td>語彙の確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本の歴史(1)</td> <td>古代(奈良を中心に)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本の歴史(2)</td> <td>中世(京都を中心に)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>日本の歴史(3)</td> <td>武士の時代(鎌倉～江戸)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>日本の歴史(4)</td> <td>近代(明治～昭和)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>到達度確認テスト</td> <td>これまでの総括</td> <td>語彙力の再点検</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>近畿地方の観光スポット(1)</td> <td>大阪の観光スポット</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>近畿地方の観光スポット(2)</td> <td>大阪の観光スポット(2)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ボキャコン</td> <td>基本語彙の点検</td> <td>語彙力の重要性を再認識</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>近畿地方の観光スポット(3)</td> <td>奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>近畿地方の観光スポット(4)</td> <td>奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>近畿地方の観光スポット(5)</td> <td>京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>近畿地方の観光スポット(6)</td> <td>京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>近畿地方の観光スポット(7)</td> <td>京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(3)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>到達度確認テスト</td> <td>エア－ガイド</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の内容の復習	もう一度、単語テスト	語彙の確認	2	日本の歴史(1)	古代(奈良を中心に)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	3	日本の歴史(2)	中世(京都を中心に)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	4	日本の歴史(3)	武士の時代(鎌倉～江戸)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	5	日本の歴史(4)	近代(明治～昭和)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	6	到達度確認テスト	これまでの総括	語彙力の再点検	7	近畿地方の観光スポット(1)	大阪の観光スポット	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	8	近畿地方の観光スポット(2)	大阪の観光スポット(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	9	ボキャコン	基本語彙の点検	語彙力の重要性を再認識	10	近畿地方の観光スポット(3)	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	11	近畿地方の観光スポット(4)	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	12	近畿地方の観光スポット(5)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	13	近畿地方の観光スポット(6)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	14	近畿地方の観光スポット(7)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(3)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	15	到達度確認テスト	エア－ガイド	
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の内容の復習	もう一度、単語テスト	語彙の確認																																																																
2	日本の歴史(1)	古代(奈良を中心に)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
3	日本の歴史(2)	中世(京都を中心に)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
4	日本の歴史(3)	武士の時代(鎌倉～江戸)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
5	日本の歴史(4)	近代(明治～昭和)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
6	到達度確認テスト	これまでの総括	語彙力の再点検																																																																
7	近畿地方の観光スポット(1)	大阪の観光スポット	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
8	近畿地方の観光スポット(2)	大阪の観光スポット(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
9	ボキャコン	基本語彙の点検	語彙力の重要性を再認識																																																																
10	近畿地方の観光スポット(3)	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
11	近畿地方の観光スポット(4)	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
12	近畿地方の観光スポット(5)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
13	近畿地方の観光スポット(6)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
14	近畿地方の観光スポット(7)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(3)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
15	到達度確認テスト	エア－ガイド																																																																	
関連科目	スペイン語文章構成Ⅳ、スペイン語オラルⅥ、メディアのスペイン語Ⅲ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	単語テスト(30%)、ボキャブラリ・コンテスト(20%)、到達度確認テスト(50%)を総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	目標は高く掲げ、それに向かって地道に学習を積み重ねましょう。 配布物が多いので、それらをこの科目のための固有のファイルに綴じて活用してください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																																																																		
備考	ボキャコンの日程はスペイン語検定との関係で前後することがある。毎回の授業の事前・事後学修に計2時間をかけること。																																																																		

科目名	スペイン語通訳ガイド I	科目名 (英文)	Tour Guiding in Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	前期は日本のことについて説明できるよう、日本に関する知識を深めるとともに、外国人（とりわけスペイン語圏の人々）が日本のことをどう理解しているかを知ること主眼を置く。日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。毎回単語テストを行う。
到達目標	日本の地理、歴史、社会についてスペイン語で説明できるようになる。
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた日本紹介文献や旅行ガイドを参考に、日本についての知識とスペイン語の基本的語彙を身につける。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 3 級、通訳案内士 (スペイン語)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日本の自然	日本の地理的特徴、四季と気候について、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
3	日本の地理	日本の世界自然遺産について、スペイン語で書かれた日本案内のガイドブックを参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
4	日本の文化 (1)	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
5	日本の文化 (2)	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
6	日本の文化 (3)	身の回りの事柄をスペイン語で説明する。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
7	到達度確認テスト	既習範囲の総点検	これまでに習った表現・語彙の復習
8	神社仏閣の案内 (1)	日本の宗教 (仏教と神道、禅)、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
9	神社仏閣の案内 (2)	日本の宗教 (仏教と神道、禅)、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
10	神社仏閣の案内 (3)	日本の宗教 (仏教と神道、禅)、相撲など武芸について、スペイン語で書かれた文章を参考に、作文練習をする。	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
11	ボキャコン	基本的語彙力の検証	語彙力の大切さの再認識
12	神社仏閣の案内 (3)	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
13	神社仏閣の案内 (3)	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
14	神社仏閣の案内 (3)	特定の神社仏閣を案内する対話文の作成	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成
15	到達度確認テスト	特定の神社仏閣を案内する対話を実践 (エア・ガイド)	自分が調べた、日本文化の側面について3分間でスピーチ

関連科目: スペイン語オラルV、スペイン語文章構成III、映画のスペイン語II

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	単語テスト (30%)、ボキャブラリ・コンテスト (20%)、到達度確認テスト (50%) を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	予習を欠かさず積極的に授業に臨んでください。 配布物が多いので、それらをこの科目用の固有のファイルに綴じて活用すること。
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室
備考	ボキャコンはスペイン語検定の日程との関係で前後することがある。 毎回の授業の事前・事後学修に計2時間をかけること。

科目名	スペイン語通訳ガイドⅡ	科目名(英文)	Tour Guiding in Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。																																																																		
到達目標	おもに京阪神の名所についてガイドできる知識とスペイン語力を身につける。 世界無形文化遺産である「和食」、日本人の生活習慣等、異文化圏の人に対して客観的にスペイン語で説明できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	日本の歴史文化を理解し、現代社会の特質をスペイン語で説明できるよう基礎知識を習得し、スペイン語での質問に口頭で応答する実践を行う。 希望者には通訳案内士の資格試験に対応できる指導も行う。 毎回、単語テストを行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定3級、通訳案内士(スペイン語)																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の内容の復習</td> <td>もう一度、単語テスト</td> <td>語彙の確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本の歴史(1)</td> <td>古代(奈良を中心に)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本の歴史(2)</td> <td>中世(京都を中心に)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>日本の歴史(3)</td> <td>武士の時代(鎌倉～江戸)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>日本の歴史(4)</td> <td>近代(明治～昭和)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>到達度確認テスト</td> <td>これまでの総括</td> <td>語彙力の再点検</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>近畿地方の観光スポット(1)</td> <td>大阪の観光スポット</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>近畿地方の観光スポット(2)</td> <td>大阪の観光スポット(2)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ボキャコン</td> <td>基本語彙の点検</td> <td>語彙力の重要性を再認識</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>近畿地方の観光スポット(3)</td> <td>奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>近畿地方の観光スポット(4)</td> <td>奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>近畿地方の観光スポット(5)</td> <td>京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>近畿地方の観光スポット(6)</td> <td>京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>近畿地方の観光スポット(7)</td> <td>京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(3)</td> <td>テーマについての文献のまとめ・語彙集作成</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>到達度確認テスト</td> <td>エア－ガイド</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	前期の内容の復習	もう一度、単語テスト	語彙の確認	2	日本の歴史(1)	古代(奈良を中心に)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	3	日本の歴史(2)	中世(京都を中心に)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	4	日本の歴史(3)	武士の時代(鎌倉～江戸)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	5	日本の歴史(4)	近代(明治～昭和)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	6	到達度確認テスト	これまでの総括	語彙力の再点検	7	近畿地方の観光スポット(1)	大阪の観光スポット	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	8	近畿地方の観光スポット(2)	大阪の観光スポット(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	9	ボキャコン	基本語彙の点検	語彙力の重要性を再認識	10	近畿地方の観光スポット(3)	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	11	近畿地方の観光スポット(4)	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	12	近畿地方の観光スポット(5)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	13	近畿地方の観光スポット(6)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	14	近畿地方の観光スポット(7)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(3)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成	15	到達度確認テスト	エア－ガイド	
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の内容の復習	もう一度、単語テスト	語彙の確認																																																																
2	日本の歴史(1)	古代(奈良を中心に)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
3	日本の歴史(2)	中世(京都を中心に)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
4	日本の歴史(3)	武士の時代(鎌倉～江戸)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
5	日本の歴史(4)	近代(明治～昭和)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
6	到達度確認テスト	これまでの総括	語彙力の再点検																																																																
7	近畿地方の観光スポット(1)	大阪の観光スポット	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
8	近畿地方の観光スポット(2)	大阪の観光スポット(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
9	ボキャコン	基本語彙の点検	語彙力の重要性を再認識																																																																
10	近畿地方の観光スポット(3)	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
11	近畿地方の観光スポット(4)	奈良の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
12	近畿地方の観光スポット(5)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(1)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
13	近畿地方の観光スポット(6)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(2)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
14	近畿地方の観光スポット(7)	京都の観光スポットについて調べ、スペイン語で説明する。(3)	テーマについての文献のまとめ・語彙集作成																																																																
15	到達度確認テスト	エア－ガイド																																																																	
関連科目	スペイン語文章構成Ⅳ、スペイン語オラルⅥ、メディアのスペイン語Ⅲ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	単語テスト(30%)、ボキャブラリ・コンテスト(20%)、到達度確認テスト(50%)を総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	目標は高く掲げ、それに向かって地道に学習を積み重ねましょう。 配布物が多いので、それらをこの科目のための固有のファイルに綴じて活用してください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																																																																		
備考	ボキャコンの日程はスペイン語検定との関係で前後することがある。毎回の授業の事前・事後学修に計2時間をかけること。																																																																		

科目名	スペイン語トピックス	科目名(英文)	Topics in the Spanish Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	スペイン語圏の歴史や文化などに関する文章の読解を通して、スペイン語の実践的な語彙や表現を習得する。 また、DVD、動画などの視覚教材を用いて、広大なスペイン語圏の社会的問題や今日的な問題についての理解を深める。
到達目標	スペイン語の読解力を養う。スペイン語圏についての理解を深める。日本の社会や文化との比較の視点を持つこと。
授業方法と留意点	授業計画はあくまで目安であり、履修生の読解力と関心に応じて、取り組む授業テーマを変更することがある。 レポートや発表を課す予定である。資料は随時配布するが、欠席等による再配布はしない。 学習の当事者として自己管理を徹底するように。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	-----
2	スペインの諸言語	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
3	スペインの諸言語	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
4	スペイン語の語彙	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
5	スペイン語の語彙	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
6	スペインの諸地域	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
7	スペインの諸地域	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
8	ここまでのまとめ	前半の復習と中間テスト	-----
9	ラテンアメリカのスペイン語	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
10	ラテンアメリカの歴史	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
11	アメリカ合衆国(ヒスパニック)の社会問題	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
12	アメリカ合衆国(ヒスパニック)の社会問題	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
13	ラテンアメリカの社会問題	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
14	ラテンアメリカの社会問題	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
15	まとめ	後半のまとめと確認テスト	-----

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	受講態度・レポート・発表など 20%、臨時試験(中間・確認テスト) 80%
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	授業への積極的・主体的な参加を望む。 事前に配布したプリントを必ず熟読し、授業に臨むこと。 日ごろから読書(言語を問わず、文脈のある文章)を習慣づけること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室
----------	-------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。 プリント類は一度しか配布しない(他の受講生に頼んでコピーさせてもらうなどすること)。欠席などによる不利益を回避するよう努力を。
----	---

科目名	スペイン語トピックス	科目名(英文)	Topics in the Spanish Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	スペイン語圏の歴史や文化などに関する文章の読解を通して、スペイン語の実践的な語彙や表現を習得する。 また、DVD、動画などの視覚教材を用いて、広大なスペイン語圏の社会的問題や今日的な問題についての理解を深める。
到達目標	スペイン語の読解力を養う。スペイン語圏についての理解を深める。日本の社会や文化との比較の視点を持つこと。
授業方法と留意点	授業計画はあくまで目安であり、履修生の読解力と関心に応じて、取り組む授業テーマを変更することがある。 レポートや発表を課す予定である。資料は随時配布するが、欠席等による再配布はしない。 学習の当事者として自己管理を徹底するように。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	-----
2	スペインの諸言語	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
3	スペインの諸言語	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
4	スペイン語の語彙	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
5	スペイン語の語彙	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
6	スペインの諸地域	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
7	スペインの諸地域	読解	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
8	ここまでのまとめ	前半の復習と中間テスト	-----
9	ラテンアメリカのスペイン語	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
10	ラテンアメリカの歴史	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
11	アメリカ合衆国(ヒスパニック)の社会問題	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
12	アメリカ合衆国(ヒスパニック)の社会問題	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
13	ラテンアメリカの社会問題	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
14	ラテンアメリカの社会問題	訳読	事前に配布されたプリントには目を通しておくこと。 文法事項の確認、復習
15	まとめ	後半のまとめと確認テスト	-----

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	受講態度・レポート・発表など 20%、臨時試験(中間・確認テスト) 80%
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	授業への積極的・主体的な参加を望む。 事前に配布したプリントを必ず熟読し、授業に臨むこと。 日ごろから読書(言語を問わず、文脈のある文章)を習慣づけること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。 プリント類は一度しか配布しない(他の受講生に頼んでコピーさせてもらうなどすること)。欠席などによる不利益を回避するよう努力を。
----	---

科目名	スペイン語入門A	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 「スペイン語入門 ABC」は同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門ABC」を合わせて受講すること。 初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、随時(ほぼ毎課)、範囲を決めて単語テストを課す。
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・現在完了形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。ここにある授業計画はあくまで目安であり、進度、理解度等を勘案し修正を加える。
科目学習の効果(資格)	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。語学のやり方を学ぶ。スペイン語検定6級。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課	アルファベットと発音	予習と復習 単語暗記
	2	第2課	名詞・冠詞・形容詞	予習と復習 単語暗記
	3	第3課	主格人称代名詞・規則動詞直説法現基數(~99)	予習と復習 単語暗記
	4	第4課	SER/ESTAR/HAY 直説法現在・定冠詞 lo・接続詞・疑問文	予習と復習 単語暗記
	5	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
	6	試験解説 第5課	一般動詞の不規則活用・前置詞+冠詞・目的語と前置詞 a・指示形容詞/第名詞・縮小辞-ito/-illo	予習と復習 単語暗記
	7	第6課	語幹母音変化動詞・所有形容詞前置形・前置詞格人称代名詞・序数	予習と復習 単語暗記
	8	第7課	一般動詞の不規則活用・従属節・所有形容詞後置形・所有代名詞・疑問詞	予習と復習 単語暗記
	9	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
	10	第8課	目的格人称代名詞・時刻表現・曜日/日付表現	予習と復習 単語暗記
	11	試験解説 第9課	再帰動詞・特定の主語をとらない表現・seの受け身表現・不定詞	予習と復習 単語暗記
	12	第10課	過去分詞・受動態・直説法現在完了・現在分詞	予習と復習 単語暗記
	13	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
	14	総復習	これまでの復習	予習と復習 単語暗記
	15	試験	これまでの復習・確認テスト	予習と復習 単語暗記

関連科目	スペイン語入門 B、C スペイン語応用 I
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級スペイン語講座	田尻陽一・西川喬	弘学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	スペイン語入門 ABC は、合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A, B, C のいずれかで理解度確認テストをする。中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第14週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。可能な限り定期的に単語テストを行う。また、ポキャプラリー・コンテストも実施(6月の予定)。「期末試験+それ以外の小規模・中規模の試験+ポキャコン 90%+単語テスト10%」
学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。予習・復習・自習(教科書や授業以外での取り組み)が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室

備考	事前・事後の学修は、それぞれ1時間ずつ、総時間30時間を目安とする。集団授業である(個人授業ではない)ことを意識すること。補足プリント等は一度しか配布しない。欠席等による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。教科書および授業だけで勉強を終えて(制限して)しまわず、市販の問題集や参考書にあたるなど、自習を習慣とすること。
----	---

科目名	スペイン語入門A	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 「スペイン語入門 ABC」は同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門ABC」を合わせて受講すること。 初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、随時(ほぼ毎課)、範囲を決めて単語テストを課す。
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・現在完了形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。ここにある授業計画はあくまで目安であり、進度、理解度等を勘案し修正を加える。
科目学習の効果(資格)	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。語学のやり方を学ぶ。スペイン語検定6級。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			予習	復習
1	第1課	アルファベットと発音	予習	復習 単語暗記
2	第2課	名詞・冠詞・形容詞	予習	復習 単語暗記
3	第3課	主格人称代名詞・規則動詞直説法現基(～99)	予習	復習 単語暗記
4	第4課	SER/ESTAR/HAY 直説法現在・定冠詞 lo・接続詞・疑問文	予習	復習 単語暗記
5	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習	復習 単語暗記
6	試験解説 第5課	一般動詞の不規則活用・前置詞+冠詞・目的語と前置詞 a・指示形容詞/第名詞・縮小辞-ito/-illo	予習	復習 単語暗記
7	第6課	語幹母音変化動詞・所有形容詞前置形・前置詞格人称代名詞・序数	予習	復習 単語暗記
8	第7課	一般動詞の不規則活用・従属節・所有形容詞後置形・所有代名詞・疑問詞	予習	復習 単語暗記
9	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習	復習 単語暗記
10	第8課	目的格人称代名詞・時刻表現・曜日/日付表現	予習	復習 単語暗記
11	試験解説 第9課	再帰動詞・特定の主語をとらない表現・seの受け身表現・不定詞	予習	復習 単語暗記
12	第10課	過去分詞・受動態・直説法現在完了・現在分詞	予習	復習 単語暗記
13	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習	復習 単語暗記
14	総復習	これまでの復習	予習	復習 単語暗記
15	試験	これまでの復習・確認テスト	予習	復習 単語暗記

関連科目	スペイン語入門B、C スペイン語応用I
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	スペイン語入門ABCは、合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,Cのいずれかで理解度確認テストをする。中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第14週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。可能な限り定期的に単語テストを行う。また、ポキャプラリー・コンテストも実施(6月の予定)。「期末試験+それ以外の小規模・中規模の試験+ポキャコン 90%+単語テスト10%」
学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。予習・復習・自習(教科書や授業以外での取り組み)が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室
備考	事前・事後の学修は、それぞれ1時間ずつ総時間数30時間を目安とする。集団授業である(個人授業ではない)ことを意識すること。補足プリント等は一度しか配布しない。欠席等による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。教科書および授業だけで勉強を終えて(制限して)しまわず、市販の問題集や参考書にあたるなど、自習を習慣とすること。

科目名	スペイン語入門 B	科目名 (英文)	Introduction to Spanish Grammar B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 「スペイン語入門 ABC」は同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理（文法）を学ぶ。そのため、必ず「入門ABC」を合わせて受講すること。 初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、随時（ほぼ毎課）、範囲を決めて単語テストを課す。
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・現在完了形の活用と用法をマスターする。基本語彙（約 500 語）を覚える。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。ここにある授業計画はあくまで目安であり、進度、理解度等を勘案し修正を加える。
科目学習の効果（資格）	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。語学のやり方を学ぶ。スペイン語検定 6 級。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 1 課	アルファベットと発音	予習と復習 単語暗記
	2	第 2 課	名詞・冠詞・形容詞	予習と復習 単語暗記
	3	第 3 課	主格人称代名詞・規則動詞直説法現基数 (~ 9 9)	予習と復習 単語暗記
	4	第 4 課	SER/ESTAR/HAY 直説法現在・定冠詞 lo・接続詞・疑問文	予習と復習 単語暗記
	5	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
	6	試験解説 第 5 課	一般動詞の不規則活用・前置詞+冠詞・目的語と前置詞 a・指示形容詞/第名詞・縮小辞-ito/-illo	予習と復習 単語暗記
	7	第 6 課	語幹母音変化動詞・所有形容詞前置形・前置詞格人称代名詞・序数	予習と復習 単語暗記
	8	第 7 課	一般動詞の不規則活用・従属節・所有形容詞後置形・所有代名詞・疑問詞	予習と復習 単語暗記
	9	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
	10	第 8 課	目的格人称代名詞・時刻表現・曜日/日付表現	予習と復習 単語暗記
	11	試験解説 第 9 課	再帰動詞・特定の主語をとらない表現・se の受け身表現・不定詞	予習と復習 単語暗記
	12	第 10 課	過去分詞・受動態・直説法現在完了・現在分詞	予習と復習 単語暗記
	13	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
	14	総復習	これまでの復習	予習と復習 単語暗記
	15	試験	これまでの復習・確認テスト	予習と復習 単語暗記

関連科目	スペイン語入門 A、C スペイン語応用 I
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級スペイン語講座	田尻陽一・西川喬	弘学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法（基準）	スペイン語入門 ABC は、合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A, B, C のいずれかで理解度確認テストをする。中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第 14 週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。可能な限り定期的に単語テストを行う。また、ポキャプラリー・コンテストも実施（6 月の予定）。「期末試験+それ以外の小規模・中規模の試験+ポキャコン 90%+単語テスト10%」
学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。予習・復習・自習（教科書や授業以外での取り組み）が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。

担当者の研究室等	7 号館 5 階 藤井研究室
----------	----------------

備考	事前・事後の学修は、それぞれ 1 時間ずつ、総時間数 30 時間を目安とする。集団授業である（個人授業ではない）ことを意識すること。補足プリント等は一度しか配布しない。欠席等による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。教科書および授業だけで勉強を終えて（制限して）しまわず、市販の問題集や参考書にあたるなど、自習を習慣とすること。
----	--

科目名	スペイン語入門 B	科目名 (英文)	Introduction to Spanish Grammar B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 「スペイン語入門 ABC」は同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理（文法）を学ぶ。そのため、必ず「入門ABC」を合わせて受講すること。 初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、随時（ほぼ毎課）、範囲を決めて単語テストを課す。
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・現在完了形の活用と用法をマスターする。基本語彙（約500語）を覚える。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。ここにある授業計画はあくまで目安であり、進度、理解度等を勘案し修正を加える。
科目学習の効果（資格）	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。語学のやり方を学ぶ。スペイン語検定6級。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第1課	アルファベットと発音	予習と復習 単語暗記
	2	第2課	名詞・冠詞・形容詞	予習と復習 単語暗記
	3	第3課	主格人称代名詞・規則動詞直説法現基數（～99）	予習と復習 単語暗記
	4	第4課	SER/ESTAR/HAY 直説法現在・定冠詞 lo・接続詞・疑問文	予習と復習 単語暗記
	5	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
	6	試験解説 第5課	一般動詞の不規則活用・前置詞+冠詞・目的語と前置詞 a・指示形容詞/第名詞・縮小辞-ito/-illo	予習と復習 単語暗記
	7	第6課	語幹母音変化動詞・所有形容詞前置形・前置詞格人称代名詞・序数	予習と復習 単語暗記
	8	第7課	一般動詞の不規則活用・従属節・所有形容詞後置形・所有代名詞・疑問詞	予習と復習 単語暗記
	9	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
	10	第8課	目的格人称代名詞・時刻表現・曜日/日付表現	予習と復習 単語暗記
	11	試験解説 第9課	再帰動詞・特定の主語をとらない表現・seの受け身表現・不定詞	予習と復習 単語暗記
	12	第10課	過去分詞・受動態・直説法現在完了・現在分詞	予習と復習 単語暗記
	13	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
	14	総復習	これまでの復習	予習と復習 単語暗記
	15	試験	これまでの復習・確認テスト	予習と復習 単語暗記

関連科目	スペイン語入門A、C スペイン語応用I
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級スペイン語講座	田尻陽一・西川喬	弘学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法（基準）	スペイン語入門ABCは、合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,Cのいずれかで理解度確認テストをする。中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第14週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。可能な限り定期的に単語テストを行う。また、ポキャプラリー・コンテストも実施（6月の予定）。「期末試験+それ以外の小規模・中規模の試験+ポキャコン 90%+単語テスト10%」
学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。予習・復習・自習（教科書や授業以外での取り組み）が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。
担当者の研究室等	7号館2階 講師控室
備考	事前・事後の学修は、それぞれ1時間ずつ、総時間30時間を目安とする。集団授業である（個人授業ではない）ことを意識すること。補足プリント等は一度しか配布しない。欠席等による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。教科書および授業だけで勉強を終えて（制限して）しまわず、市販の問題集や参考書にあたるなど、自習を習慣とすること。

科目名	スペイン語入門C	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 「スペイン語入門 ABC」は同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門ABC」を合わせて受講すること。 初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、随時(ほぼ毎課)、範囲を決めて単語テストを課す。
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・現在完了形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。ここにある授業計画はあくまで目安であり、進度、理解度等を勘案し修正を加える。
科目学習の効果(資格)	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。語学のやり方を学ぶ。スペイン語検定6級。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			予習	復習
1	第1課	アルファベットと発音	予習	復習 単語暗記
2	第2課	名詞・冠詞・形容詞	予習	復習 単語暗記
3	第3課	主格人称代名詞・規則動詞直説法現基(～99)	予習	復習 単語暗記
4	第4課	SER/ESTAR/HAY 直説法現在・定冠詞 lo・接続詞・疑問文	予習	復習 単語暗記
5	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習	復習 単語暗記
6	試験解説 第5課	一般動詞の不規則活用・前置詞+冠詞・目的語と前置詞 a・指示形容詞/第名詞・縮小辞-ito/-illo	予習	復習 単語暗記
7	第6課	語幹母音変化動詞・所有形容詞前置形・前置詞格人称代名詞・序数	予習	復習 単語暗記
8	第7課	一般動詞の不規則活用・従属節・所有形容詞後置形・所有代名詞・疑問詞	予習	復習 単語暗記
9	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習	復習 単語暗記
10	第8課	目的格人称代名詞・時刻表現・曜日/日付表現	予習	復習 単語暗記
11	試験解説 第9課	再帰動詞・特定の主語をとらない表現・seの受け身表現・不定詞	予習	復習 単語暗記
12	第10課	過去分詞・受動態・直説法現在完了・現在分詞	予習	復習 単語暗記
13	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習	復習 単語暗記
14	総復習	これまでの復習	予習	復習 単語暗記
15	試験	これまでの復習・確認テスト	予習	復習 単語暗記

関連科目: スペイン語入門A、B スペイン語応用I

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2			
3			

評価方法(基準)	スペイン語入門ABCは、合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,Cのいずれかで理解度確認テストをする。中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第14週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。可能な限り定期的に単語テストを行う。また、ポキャプラリー・コンテストも実施(6月の予定)。「期末試験+それ以外の小規模・中規模の試験+ポキャコン 90%+単語テスト10%」
学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。予習・復習・自習(教科書や授業以外での取り組み)が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室
備考	事前・事後の学修は、それぞれ1時間ずつ、総時間30時間を目安とする。集団授業である(個人授業ではない)ことを意識すること。補足プリント等は一度しか配布しない。欠席等による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。教科書および授業だけで勉強を終えて(制限して)しまわず、市販の問題集や参考書にあたるなど、自習を習慣とすること。

科目名	スペイン語入門C	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「スペイン語入門 ABC」は同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門ABC」を合わせて受講すること。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、随時(ほぼ毎課)、範囲を決めて単語テストを課す。
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・現在完了形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。
授業方法と留意点	必ず予習をして授業に臨むこと。漫然と座っているだけでは授業に出席する意味はない。学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。予習段階で不明なところを自分で把握しておくこと。そのために、教科書の練習問題も自力で可能な限り解いておくこと。ここにある授業計画はあくまで目安であり、進度、理解度等を勘案し修正を加える。
科目学習の効果(資格)	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を身に着ける。日本語とも英語とも異なる言語の存在とその相違や類似に気づく。語学のやり方を学ぶ。スペイン語検定6級。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課	アルファベットと発音	予習と復習 単語暗記
	2	第2課	名詞・冠詞・形容詞	予習と復習 単語暗記
	3	第3課	主格人称代名詞・規則動詞直説法現基數(~99)	予習と復習 単語暗記
	4	第4課	SER/ESTAR/HAY 直説法現在・定冠詞 lo・接続詞・疑問文	予習と復習 単語暗記
	5	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
	6	試験解説 第5課	一般動詞の不規則活用・前置詞+冠詞・目的語と前置詞 a・指示形容詞/第名詞・縮小辞-ito/-illo	予習と復習 単語暗記
	7	第6課	語幹母音変化動詞・所有形容詞前置形・前置詞格人称代名詞・序数	予習と復習 単語暗記
	8	第7課	一般動詞の不規則活用・従属節・所有形容詞後置形・所有代名詞・疑問詞	予習と復習 単語暗記
	9	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
	10	第8課	目的格人称代名詞・時刻表現・曜日/日付表現	予習と復習 単語暗記
	11	試験解説 第9課	再帰動詞・特定の主語をとらない表現・seの受け身表現・不定詞	予習と復習 単語暗記
	12	第10課	過去分詞・受動態・直説法現在完了・現在分詞	予習と復習 単語暗記
	13	中間的試験 これまでの総復習	中間的試験	予習と復習 単語暗記
	14	総復習	これまでの復習	予習と復習 単語暗記
	15	試験	これまでの復習・確認テスト	予習と復習 単語暗記

関連科目	スペイン語入門A、B スペイン語応用I
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級スペイン語講座	田尻陽一・西川喬	弘学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	スペイン語入門ABCは、合わせて評価する。ある程度の単元を終えると、A,B,Cのいずれかで理解度確認テストをする。中間的に少なくとも一度はテストを実施する。最終週または第14週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。可能な限り定期的に単語テストを行う。また、ポキャプラリー・コンテストも実施(6月の予定)。「期末試験+それ以外の小規模・中規模の試験+ポキャコン 90%+単語テスト10%」
学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき失敗から学びながら地道にマスターしていきましょう。予習・復習・自習(教科書や授業以外での取り組み)が必須になるので、自己管理をきちんと行うように。「覚える」ということに、中高生の時以上に時間と神経、労力を費やすこと。単元ごとに学習内容を省みること。

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前・事後の学修は、それぞれ1時間ずつ、総時間30時間を目安とする。集団授業である(個人授業ではない)ことを意識すること。補足プリント等は一度しか配布しない。欠席等による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識を持って自己管理を徹底すること。教科書および授業だけで勉強を終えて(制限して)しまわず、市販の問題集や参考書にあたるなど、自習を習慣とすること。
----	---

科目名	スペイン語プレゼンテーション I	科目名 (英文)	Presentation in Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	3年次までに習得したスペイン語の基礎文法を素地として、比較文化の多様な観点からテーマを選定し、その意図や背景を解説し、役立つ表現や語彙・キーワードを教授します。それらをもとにスペイン語でスピーチを行う心構えで、毎回短いプレゼンテーションを発表することで、言語とテーマが何であっても聞き手にとって明瞭でわかりやすく論理的なコミュニケーションが行えるように導きます。プレゼンの内容を予め作文することの繰り返しによって、スペイン語で正しく文章表現ができる力を補います。プレゼン後に提出する作文は添削します。
到達目標	スペイン語で意思疎通を抵抗なく図れるようになるとともに、スペイン語圏はもちろん、異文化についての関心を深め、日本の歴史や文化についてもスペイン語で説明できるようになる。正確なスペイン語表現を行うための基礎となる書く力を養う。
授業方法と留意点	予め、プレゼンテーションのテーマ、慣用表現、語彙について解説します。教員による3分間スピーチを一例として示します。履修者はその次の週までに個別・具体的内容のプレゼンテーションの準備を行います。互いの発表に対する質問や意見交換を重んじます。テーマは履修者の積極的な提案に応じて変更することもあり得ます。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えるようになる。 スペイン語検定3級 (とりわけ留学帰国者)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	自己紹介	発表 誕生日を迎えるにあたって将来の目標を語るための表現と語彙の解説	発表の準備
3	将来の目標	発表 死生観と「死者の日」についての解説	発表の準備
4	「死者の日」	発表 「お盆」との比較	発表の準備
5	「お盆」と「死者の日」の比較	発表 日本文化の独自性 (例: 世界初の小説『源氏物語』) の紹介	発表の準備 過去時制の復習
6	私が誇りに思う日本文化	発表 中国文化の一端について知る	発表の準備 過去時制の復習
7	私が魅かれる中国文化	発表 スペイン語圏文化の一端について知る	発表の準備 過去時制の復習
8	この目で見てみたいスペイン語圏文化	発表 米国文化の一端について知る	発表の準備 過去時制の復習
9	私が影響を受けた米国文化	発表 料理についての慣用表現・語彙の解説	発表の準備 命令文の復習
10	得意料理の作り方	発表 旅行についての慣用表現・語彙の解説	発表の準備 過去未来の復習
11	旅行するとしたら	発表 買物の場面で必要な表現と語彙 (気候、色、衣類、食べ物、飲み物等)	発表の準備
12	買物の場で	発表	発表の準備
13	買物の場で	発表	発表の準備
14	訪日観光客を案内して	発表 固有の社寺を説明するための語彙	発表の準備
15	訪日観光客を案内して	発表 料理文化についての語彙	発表の成果を振り返る

関連科目: スペイン語通訳ガイド (留学期間中に3年生で受講できなかった者は4年生の前・後期に受講することを推奨)

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準): 授業における参加状況・発表 60%と課題提出 40%をもとに総合的に評価する。

学生へのメッセージ: 扱うテーマには履修者の提案も取り入れます。

担当者の研究室等: 7号館2階 非常勤講師室

備考: 事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペイン語プレゼンテーションⅡ	科目名(英文)	Presentation in Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	スペイン語とその文化がいかに様々な異言語・異文化の影響を取り込んできたかを理解できるよう、テーマを選定します。その意図や背景を解説し、役立つ表現や語彙・キーワードを教授します。それらをもとにスペイン語でスピーチを行う心構えで、毎回短いプレゼンテーションを発表することで、言語とテーマが何であっても聞き手にとって明瞭でわかりやすく論理的なコミュニケーションが行えるように導きます。プレゼンの内容を予め作文することの繰り返しによって、スペイン語で正しく文章表現ができる力を補います。プレゼン後に提出する作文は添削します。
到達目標	スペイン語とその文化が内蔵する異文化要素を理解し、それについての説明ができるようになる。正確なスペイン語表現を行うための基礎となる書く力を養う。
授業方法と留意点	予め、プレゼンテーションのテーマ、慣用表現、語彙について解説します。教員による3分間スピーチを一例として示します。履修者はその次の週までに個別・具体的内容のプレゼンテーションの準備を行います。互いの発表に対する質問や意見交換を重んじます。テーマは履修者の積極的な提案に応じて変更することもあり得ます。
科目学習の効果(資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかにできるようになる。 スペイン語検定3級(とりわけ留学帰国者)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	スペイン語・文化が日本に与えた影響	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
3	スペイン語・文化がギリシア語・文化から受け継いだもの	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
4	ラテン語・文化から受け継いだもの	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
5	アラビア語・文化から受け継いだもの	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
6	スペイン語圏の歴史(1)	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
7	スペイン語圏の歴史(2)	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
8	スペイン語圏の歴史(3)	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
9	スペイン語圏の政治(1)	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
10	スペイン語圏の政治(2)	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
11	スペイン語圏の経済	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
12	スペイン語圏の貿易	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
13	通訳としての仕事	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
14	通訳としての実践	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
15	各自最良の発表を行う	発表 今回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の成果を振り返る

関連科目: スペイン語通訳ガイド(留学期間中に3年生で受講できなかった者は4年生の前・後期に受講することを推奨)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準): 授業における参加状況・発表60%と課題提出40%をもとに総合的に評価する。

学生への メッセージ	扱うテーマには履修者の提案も取り入れます。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペイン語文章構成 I	科目名 (英文)	Spanish Composition I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	文の要素と構造を正しく理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。後半はそれと並行して、身近なテーマで短いスピーチ原稿を作成し、それをスペイン語に訳す。その自作スピーチの添削を受けた後、暗唱し発表する。これを後期に行うスピーチ・コンテストの試行体験と位置づける。
到達目標	基本文型を理解し、正確なスペイン語での文章表現ができる。 語彙力を高め、多様な表現を作ることができる。
授業方法と留意点	和西辞典は必須です。必ず購入しておくこと。 必ず与えられた練習問題を解いたうえで授業に臨み、受講生の板書に対する添削と説明を聴き、スペイン語の文の構造と構文についての理解を深める。指示された作文の宿題は提出してもらいます。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級～4 級 (4 級合格には接続法の理解が必要です。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	文の要素	主部・述部、句・節、単文・複文・重文、目的語、補語の理解と判別	文法用語の確認と品詞ごとの特徴の整理
2	第 1 課 語順 (1)	文型と文の種類	和文西訳、語彙の整理
3	第 2 課 ser, estar, haber の使い分け	ser, estar, haber の使い分けと形容詞と副詞の正確な使い方	和文西訳、語彙の整理
4	冠詞、所有詞、指示詞、数量詞	名詞の前に置いて名詞を限定する冠詞、所有詞、指示詞、数量詞の用法	和文西訳、語彙の整理
5	第 3 課 不定語・否定語	一般動詞と不定語・否定語を用いた文	和文西訳、語彙の整理
6	一般動詞と不定詞	一般動詞と不定詞を用いた現在時制の文	和文西訳、語彙の整理
7	第 4 課 天候・気候の表現	天候・気候を正しく表現する。	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿を日本語で準備する。
8	中間テスト、接続詞を増やす	既習項目の理解度確認テスト、多様な接続詞を知る	既習事項の復習
9	人称代名詞	目的格人称代名詞、再帰代名詞、前置詞格人称代名詞の使い方	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿を西訳する。
10	第 5 課 gustar 型動詞	gustar, interesar, parecer, doler 等の動詞	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の添削を受け、理解した上で完成原稿を作成する。
11	第 6 課 比較の表現	比較級と最上級	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿を西訳する。
12	第 7 課 完了・経験・継続の表現	現在完了を用いた文	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿を暗唱し、発表の練習をする。
13	第 8 課 点過去と線過去の使い分け	過去の動作・行為を正しく表現する。	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿を暗唱し、発表の練習をする。
14	スピーチの発表	同級生のスピーチを理解しようと努め、同時に未知の語彙を聞き取り書きとめる。	事前に、スピーチ発表のための発音、イントネーション、表現力などの指導を行う。
15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習と理解度判定テスト	総復習

関連科目: スペイン語オラルⅢ、総合スペイン語 A・B、メディアのスペイン語 I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	表現のためのスペイン語作文	木越勉・古川亜矢	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準): 練習問題の予習・提出物・スピーチの作成過程など授業参加意欲 30%、中間テストおよび理解度判定テスト 70%

学生へのメッセージ: 主語と動詞、形容詞や副詞といった品詞の使い方、文型をよく理解することが大切です。これらにこだわって取り組んでください。自作原稿をスペイン語に訳して暗唱する初めてのスピーチを体験します。

担当者の研究室等: 7号館 5階 藤井研究室

備考: 語彙力を養うために、ボキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限に活用すること。事前・事後学習に要する総時間数は約 30 時間を目安とする。

科目名	スペイン語文章構成 I	科目名 (英文)	Spanish Composition I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	文の要素と構造を正しく理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。後半はそれと並行して、身近なテーマで短いスピーチ原稿を作成し、それをスペイン語に訳す。その自作スピーチの添削を受けた後、暗唱し発表する。これを後期に行うスピーチ・コンテストの試行体験と位置づける。
到達目標	基本文型を理解し、正確なスペイン語での文章表現ができる。 語彙力を高め、多様な表現を作ることができる。
授業方法と留意点	和西辞典は必須です。必ず購入しておくこと。 必ず与えられた練習問題を解いたうえで授業に臨み、受講生の板書に対する添削と説明を聴き、スペイン語の文の構造と構文についての理解を深める。指示された作文の宿題は提出してもらいます。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級～4 級 (4 級合格には接続法の理解が必要です。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	文の要素	主部・述部、句・節、単文・複文・重文、目的語、補語の理解と判別	文法用語の確認と品詞ごとの特徴の整理
2	第 1 課 語順 (1)	文型と文の種類	和文西訳、語彙の整理
3	第 2 課 ser, estar, haber の使い分け	ser, estar, haber の使い分けと形容詞と副詞の正確な使い方	和文西訳、語彙の整理
4	冠詞、所有詞、指示詞、数量詞	名詞の前に置いて名詞を限定する冠詞、所有詞、指示詞、数量詞の用法	和文西訳、語彙の整理
5	第 3 課 不定語・否定語	一般動詞と不定語・否定語を用いた文	和文西訳、語彙の整理
6	一般動詞と不定詞	一般動詞と不定詞を用いた現在時制の文	和文西訳、語彙の整理
7	第 4 課 天候・気候の表現	天候・気候を正しく表現する。	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿を日本語で準備する。
8	中間テスト、接続詞を増やす	既習項目の理解度確認テスト、多様な接続詞を知る	既習事項の復習
9	人称代名詞	目的格人称代名詞、再帰代名詞、前置詞格人称代名詞の使い方	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿を西訳する。
10	第 5 課 gustar 型動詞	gustar, interesar, parecer, doler 等の動詞	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の添削を受け、理解した上で完成原稿を作成する。
11	第 6 課 比較の表現	比較級と最上級	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿を西訳する。
12	第 7 課 完了・経験・継続の表現	現在完了を用いた文	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿を暗唱し、発表の練習をする。
13	第 8 課 点過去と線過去の使い分け	過去の動作・行為を正しく表現する。	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿を暗唱し、発表の練習をする。
14	スピーチの発表	同級生のスピーチを理解しようと努め、同時に未知の語彙を聞き取り書きとめる。	事前に、スピーチ発表のための発音、イントネーション、表現力などの指導を行う。
15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習と理解度判定テスト	総復習

関連科目: スペイン語オラルⅢ、総合スペイン語 A・B、メディアのスペイン語 I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	表現のためのスペイン語作文	木越勉・古川亜矢	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準): 練習問題の予習・提出物・スピーチの作成過程など授業参加意欲 30%、中間テストおよび理解度判定テスト 70%

学生へのメッセージ: 主語と動詞、形容詞や副詞といった品詞の使い方、文型をよく理解することが大切です。これらにこだわって取り組んでください。自作原稿をスペイン語に訳して暗唱する初めてのスピーチを体験します。

担当者の研究室等: 7号館2階 非常勤講師控室

備考: 語彙力を養うために、ボキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限に活用すること。事前・事後学習に要する総時間数は約 30 時間を目安とする。

科目名	スペイン語文章構成Ⅱ	科目名(英文)	Spanish Composition II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	文の要素と構造による種類をきちんと理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。 11月末頃に行うスペイン語スピーチ・コンテストの原稿作成に重点をおく。日本語原稿を夏休み前までに完成させ、夏休み中にスペイン語訳に取り組み、後期初回の授業で提出する。10月半ばまでに添削を受け、音読と暗唱の練習を行う。
到達目標	複文を含めた文章構造を理解し、スペイン語での正確かつ多様な文章表現ができる。 語彙力を高めて、自分の経験や考えを表現できる。
授業方法と留意点	必ず与えられた練習問題を解いたうえで授業に臨み、受講生の板書に対する添削と説明を聴き、スペイン語の文の構造と構文についての理解を深める。指示された作文の宿題は提出してもらいます。 理解度やスピーチ・コンテストの日程により、授業内容の順番が入れ替わることもある。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第9課 再帰動詞(1)	自動詞と他動詞の再帰動詞を用いた文 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の西訳の提出
2	第10課 再帰動詞(2)	再帰動詞の相互、転移の用法 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
3	第11課 受身のse	seと過去分詞を用いた受動文 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
4	第12課 一般のseを使った表現	seと動詞3人称複数形を用いた文 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
5	第13課 未来	未来、推量、命令の文 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
6	第14課 命令表現(1)	目的格人称代名詞を伴う命令文 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
7	第15課 命令表現(2)	再帰動詞の命令文 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
8	現在分詞、使役動詞、知覚動詞	現在分詞を用いた文および使役・知覚表現 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチの練習
9	第16課 接続法現在(1)	名詞節での接続法現在の用法 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチの練習
10	第17課 接続法現在(2)	形容詞節と副詞節での接続法現在の用法 コンテスト直前スピーチ指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチの練習
11	第18課 接続法過去(1)	名詞節での接続法過去の用法	和文西訳、語彙の整理
12	第19課 接続法過去(2)	形容詞節と副詞節および現在の事実に対する条件文での接続法過去の用法	和文西訳、語彙の整理
13	第20課 過去未来	過去における推量と現在の事実に対する条件文	和文西訳、語彙の整理
14	第21課 複合時制	多様な時制の完了形を用いた文	和文西訳、語彙の整理
15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習と理解度判定テスト	総復習

関連科目: スペイン語オラルⅣ、スペイン語トピックス、メディアのスペイン語Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	表現のためのスペイン語作文	木越勉・古川亜矢	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準): 練習問題の予習・提出物・スピーチの作成過程など授業参加意欲30%、理解度判定テスト70%

学生へのメッセージ: 前期のスピーチ体験に続いて、後期ではより内容の深いスピーチを目指し、日本語原稿の作成からスペイン語訳、添削、朗読練習を経て暗唱・発表まで取り組みます。夏休み前に配布する実施要領に従って計画的に準備してください。自分の経験や考えをスペイン語で表現し伝える楽しみを感じられるように、自信と勇気をもってやり遂げましょう。

担当者の研究室等: 7号館2階 非常勤講師控室

備考: 語彙力を養うために、ポキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限に活用すること。
事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペイン語文章構成Ⅱ	科目名(英文)	Spanish Composition II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	文の要素と構造による種類をきちんと理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。 11月末頃に行うスペイン語スピーチ・コンテストの原稿作成に重点をおく。日本語原稿を夏休み前までに完成させ、夏休み中にスペイン語訳に取り組み、後期初回の授業で提出する。10月半ばまでに添削を受け、音読と暗唱の練習を行う。
到達目標	複文を含めた文章構造を理解し、スペイン語での正確かつ多様な文章表現ができる。 語彙力を高めて、自分の経験や考えを表現できる。
授業方法と留意点	必ず与えられた練習問題を解いたうえで授業に臨み、受講生の板書に対する添削と説明を聴き、スペイン語の文の構造と構文についての理解を深める。指示された作文の宿題は提出してもらいます。 理解度やスピーチ・コンテストの日程により、授業内容の順番が入れ替わることもある。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第9課 再帰動詞(1)	自動詞と他動詞の再帰動詞を用いた文 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の西訳の提出
2	第10課 再帰動詞(2)	再帰動詞の相互、転移の用法 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
3	第11課 受身のse	seと過去分詞を用いた受動文 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
4	第12課 一般のseを使った表現	seと動詞3人称複数形を用いた文 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
5	第13課 未来	未来、推量、命令の文 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
6	第14課 命令表現(1)	目的格人称代名詞を伴う命令文 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
7	第15課 命令表現(2)	再帰動詞の命令文 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
8	現在分詞、使役動詞、知覚動詞	現在分詞を用いた文および使役・知覚表現 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチの練習
9	第16課 接続法現在(1)	名詞節での接続法現在の用法 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチの練習
10	第17課 接続法現在(2)	形容詞節と副詞節での接続法現在の用法 コンテスト直前スピーチ指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチの練習
11	第18課 接続法過去(1)	名詞節での接続法過去の用法	和文西訳、語彙の整理
12	第19課 接続法過去(2)	形容詞節と副詞節および現在の事実 に反する条件文での接続法過去の用法	和文西訳、語彙の整理
13	第20課 過去未来	過去における推量と現在の事実 に反する条件文	和文西訳、語彙の整理
14	第21課 複合時制	多様な時制の完了形を用いた文	和文西訳、語彙の整理
15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習と理解度判定テスト	総復習

関連科目	スペイン語オラルⅣ、スペイン語トピックス、メディアのスペイン語Ⅱ
------	----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	表現のためのスペイン語作文	木越勉・古川亜矢	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	練習問題の予習・提出物・スピーチの作成過程など授業参加意欲30%、理解度判定テスト70%
----------	--

学生へのメッセージ	前期のスピーチ体験に続いて、後期ではより内容の深いスピーチを目指し、日本語原稿の作成からスペイン語訳、添削、朗読練習を経て暗唱・発表まで取り組みます。夏休み前に配布する実施要領に従って計画的に準備してください。自分の経験や考えをスペイン語で表現し伝える楽しみを感じられるように、自信と勇気をもってやり遂げましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室
----------	-------------

備考	語彙力を養うために、ポキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限に活用すること。 事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。
----	---

科目名	スペイン語文章構成Ⅲ	科目名(英文)	Spanish Composition III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	既習のすべての時制と文法事項を用いて、テーマごとにまとめた文章のスペイン語作文の練習を行う。文法的な正確さと文と文のつながりを意識して、話を展開する表現技法を高めることを目指す。
到達目標	文法的に正確な作文ができ、話を展開させる文章表現ができる。 語彙力を日常的なものから専門的なものへと高め、多様なテーマで文章表現ができる。
授業方法と留意点	文法事項と語彙を復習しながら、和文西訳の練習を行う。予習として複数の段落からなる文章をスペイン語訳した上で、授業では一文ごとの確認だけでなく、話を展開するための文と文のつながりを考える。直訳ではなくスペイン語に訳しやすい工夫も考える。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級～3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要についての説明 既習文法事項の復習	
	2	作文練習(1)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	3	作文練習(2)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	4	作文練習(3)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	5	作文練習(4)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	6	作文練習(5)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	7	作文練習(6)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	8	学習事項の確認	既習事項の復習と中間テスト	既習範囲の復習
	9	作文練習(7)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	10	作文練習(8)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	11	作文練習(9)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	12	作文練習(10)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	13	作文練習(11)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	14	作文練習(12)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習と理解度判定テスト	総復習

関連科目	スペイン語オラルⅥ、スペイン語通訳Ⅱ、メディアのスペイン語Ⅲ
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	練習問題の予習・提出物など授業参加意欲30%、中間テストと理解度判定テスト70%
----------	--

学生へのメッセージ	スピーチ原稿作成に関しては、年頭に配布する実施要領に従って計画的に準備してください。 外国語での表現力を身につけるには、基本的な文型、新出の語彙と構文を貪欲に覚えて、表現の引き出しを増やしていくことが一番の近道です。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	授業スケジュールは一応の目安であり、状況により変更が生じうる。 事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。
----	---

科目名	スペイン語文章構成Ⅲ	科目名(英文)	Spanish Composition III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	既習のすべての時制と文法事項を用いて、テーマごとにまとめた文章のスペイン語作文の練習を行う。文法的な正確さと文と文のつながりを意識して、話を展開する表現技法を高めることを目指す。
到達目標	文法的に正確な作文ができ、話を展開させる文章表現ができる。 語彙力を日常的なものから専門的なものへと高め、多様なテーマで文章表現ができる。
授業方法と留意点	文法事項と語彙を復習しながら、和文西訳の練習を行う。予習として複数の段落からなる文章をスペイン語訳した上で、授業では一文ごとの確認だけでなく、話を展開するための文と文のつながりを考える。直訳ではなくスペイン語に訳しやすい工夫も考える。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級～3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要についての説明 既習文法事項の復習	
	2	作文練習(1)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	3	作文練習(2)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	4	作文練習(3)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	5	作文練習(4)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	6	作文練習(5)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	7	作文練習(6)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	8	学習事項の確認	既習事項の復習と中間テスト	既習範囲の復習
	9	作文練習(7)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	10	作文練習(8)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	11	作文練習(9)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	12	作文練習(10)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	13	作文練習(11)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	14	作文練習(12)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
	15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習と理解度判定テスト	総復習

関連科目	スペイン語オラルⅥ、スペイン語通訳Ⅱ、メディアのスペイン語Ⅲ
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	練習問題の予習・提出物など授業参加意欲30%、中間テストと理解度判定テスト70%
----------	--

学生へのメッセージ	スピーチ原稿作成に関しては、年頭に配布する実施要領に従って計画的に準備してください。 外国語での表現力を身につけるには、基本的な文型、新出の語彙と構文を貪欲に覚えて、表現の引き出しを増やしていくことが一番の近道です。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	授業スケジュールは一応の目安であり、状況により変更が生じうる。 事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。
----	---

科目名	スペイン語文章構成Ⅳ	科目名(英文)	Spanish Composition IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	既習のすべての時制と文法事項を用いて、テーマごとにまとめた文章のスペイン語作文の練習を行う。文法的な正確さと文と文のつながりを意識して、話を展開する表現技法を高めることを目指す。 スピーチコンテスト(全員参加)に向けて原稿のスペイン語訳、添削、暗唱を行う。授業内でスペイン語原稿の手直しもするが、自分の原稿だけでなく、他者の文章のチェック、修正も行う。この取り組みへの積極的な参加が求められる。
到達目標	文法的に正確な作文ができ、話を展開させる文章表現ができる。 語彙力を日常的なものから専門的なものへと高め、多様なテーマで文章表現ができる。 スペイン語原稿の相互チェックの活動を通じて互いの成長のために他者と協働できる。
授業方法と留意点	文法事項と語彙を復習しながら、和文西訳の練習を行う。予習として複数の段落からなる文章をスペイン語訳した上で、授業では一文ごとの確認だけでなく、話を展開するための文と文のつながりを考える。直訳ではなくスペイン語に訳しやすい工夫も考える。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級～3級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要についての説明 文の構造の復習 スピーチ原稿指導	スピーチコンテストのスペイン語原稿の作成と提出
2	スペイン語圏の国を紹介する(1)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
3	スペイン語圏の国を紹介する(2)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
4	スペイン語圏の国を紹介する(3)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
5	スペイン語圏の著名人(1)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
6	スペイン語圏の著名人(2)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
7	スペイン語圏の著名人(3)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチの練習
8	学習事項の確認	既習事項の復習と中間テスト スピーチ原稿指導	既習範囲の復習 スピーチの練習
9	スペイン語圏の社会問題(1)	和文西訳 コンテスト直前スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチの練習
10	スペイン語圏の社会問題(2)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
11	スペイン語圏の社会問題(3)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
12	スペイン語圏の世界遺産(1)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
13	スペイン語圏の世界遺産(2)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
14	スペイン語圏の世界遺産(3)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習と期末テスト	和文西訳、新出語彙の整理

関連科目	スペイン語オラルⅥ、スペイン語通訳Ⅱ、メディアのスペイン語Ⅲ
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	練習問題の予習・提出物・スピーチの作成過程など授業参加意欲 30%、中間テストと理解度判定テスト 70%
----------	--

学生へのメッセージ	スピーチ原稿作成に関しては、年頭に配布する実施要領に従って計画的に準備してください。 外国語での表現力を身につけるには、基本的な文型、新出の語彙と構文を貪欲に覚えて、表現の引き出しを増やしていくことが一番の近道です。 教材やスピーチ原稿作成にあたって出てきた語彙・構文を何度も復習して自分のものにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室
----------	-------------

備考	授業スケジュールは一応の目安であり、状況により変更が生じうる。 事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。
----	---

科目名	スペイン語文章構成IV	科目名(英文)	Spanish Composition IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	既習のすべての時制と文法事項を用いて、テーマごとにまとめた文章のスペイン語作文の練習を行う。文法的な正確さと文と文のつながりを意識して、話を展開する表現技法を高めることを目指す。 スピーチコンテスト(全員参加)に向けて原稿のスペイン語訳、添削、暗唱を行う。授業内でスペイン語原稿の手直しもするが、自分の原稿だけでなく、他者の文章のチェック、修正も行う。この取り組みへの積極的な参加が求められる。
到達目標	文法的に正確な作文ができ、話を展開させる文章表現ができる。 語彙力を日常的なものから専門的なものへと高め、多様なテーマで文章表現ができる。 スペイン語原稿の相互チェックの活動を通じて互いの成長のために他者と協働できる。
授業方法と留意点	文法事項と語彙を復習しながら、和文西訳の練習を行う。予習として複数の段落からなる文章をスペイン語訳した上で、授業では一文ごとの確認だけでなく、話を展開するための文と文のつながりを考える。直訳ではなくスペイン語に訳しやすい工夫も考える。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級～3級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	スペイン語圏の国を紹介する(1)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
3	スペイン語圏の国を紹介する(2)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
4	スペイン語圏の国を紹介する(3)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
5	スペイン語圏の著名人(1)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
6	スペイン語圏の著名人(2)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
7	スペイン語圏の著名人(3)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチの練習
8	学習事項の確認	既習事項の復習と中間テスト スピーチ原稿指導	既習範囲の復習 スピーチの練習
9	スペイン語圏の社会問題(1)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチの練習
10	スペイン語圏の社会問題(2)	和文西訳 コンテスト直前スピーチ原稿指導	和文西訳、語彙の整理 スピーチの練習
11	スペイン語圏の社会問題(3)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
12	スペイン語圏の世界遺産(1)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
13	スペイン語圏の世界遺産(2)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
14	スペイン語圏の世界遺産(3)	和文西訳	和文西訳、語彙の整理
15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習と理解度判定テスト	和文西訳、新出語彙の整理

関連科目: スペイン語オラルVI、スペイン語通訳II、メディアのスペイン語III

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準): 練習問題の予習・提出物・スピーチの作成過程など授業参加意欲30%、中間テストと理解度判定テスト70%

学生へのメッセージ: スピーチ原稿作成に関しては、年頭に配布する実施要領に従って計画的に準備してください。
外国語での表現力を身につけるには、基本的な文型、新出の語彙と構文を貪欲に覚えて、表現の引き出しを増やしていくことが一番の近道です。
教材やスピーチ原稿作成にあたって出てきた語彙・構文を何度も復習して自分のものにしてください。

担当者の研究室等: 7号館2階 非常勤講師控室

備考: 授業スケジュールは一応の目安であり、状況により変更が生じうる。
事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。

科目名	スペシャリストインドネシア・マレー語	科目名(英文)	Indonesian-Malay for Specific Purposes
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上田 達, エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	これまで学習してきたインドネシア語、マレー語の運用能力をさらに高める。そのために上級レベルの講読、論文の執筆、聞きとり及び内容に対する討論、プレゼンテーションを行う。
到達目標	インドネシア語、マレー語について高度な運用能力を獲得することができる。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加することが望まれる。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語、マレー語運用能力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	講読1	高度な内容の講読を行う。(エニ担当)	予習をしておくこと。
3	講読2	高度な内容の講読を行う。(エニ担当)	予習をしておくこと。
4	講読3	高度な内容の講読を行い、内容をまとめる。(エニ担当)	予習を行った上、講読した文献の内容をまとめておくこと。
5	論文の執筆1	論文の執筆を行うための基礎知識を学習する。論文の執筆を行う。(エニ担当)	学習した知識をもとに、予習をしておくこと。
6	論文の執筆2	論文の執筆を行う。(エニ担当)	予習をしておくこと。
7	講読、論文の内容をまとめる。	論文を完成させる。(エニ担当)	まとめ終わった内容をもとにプレゼンテーションの準備を完了しておく。
8	プレゼンテーション	プレゼンテーションを行う。(エニ担当)	プレゼンテーションの練習をしておくこと
9	文献講読1	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
10	文献講読2	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
11	文献講読3	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
12	資料読解1	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
13	資料読解2	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
14	資料読解3	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
15	プレゼンテーション	受講者が選択した論文の内容について要約を行う。(上田担当)	図書館やウェブから課題文献を選択して、配付資料等の発表準備を十分に行うこと。

関連科目	インドネシア語・マレー語の全科目
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じてプリントを用意する。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜指示する。		
2				
3				

評価方法(基準)	前半(エニ担当)と後半(上田担当)のそれぞれについて、提出物や課題等の取り組み(30%)と、最終課題(70%)から総合的に判断する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師控室 7号館5階(上田研究室)
備考	提出物は原則として翌週に返却する。最終回の課題は授業期間終了後一週間以内に評価を記して返却する。

科目名	世界の歴史	科目名(英文)	World History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	イギリスの歴史と文化を、現代社会とのつながりを重視しながら概観する。「サッカー発祥の地」、「紅茶とアンティークの国」など、われわれがイギリスに対して抱いているイメージには、歴史的根拠が存在する。「イギリス料理はなぜまずいのか」、「イギリス人はなぜ傘をささないのか」といった身近な問いを出発点にしながら、政治・経済・文化、あらゆる角度からイギリス社会を読み解いていく。
到達目標	ヨーロッパ、大英帝国など、複数の次元でイギリスをとらえたときの特徴を理解する。一国の歴史にとどまらない、広がりのある歴史解釈するにはどうすればよいか、その方法論を身につける。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、図像史料を活用しながら、板書をまじえて授業をすすめる。
科目学習の効果(資格)	歴史学に関する基本的知識を身につけるとともに、「過去」を通して「現代」を見つめる視座を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イギリスとは何か	国のなりたちと地理	「イギリス」の正式名称を調べてくる。
2	イギリス人のナショナル・アイデンティティ	連合王国、帝国としてのイギリス	ユニオン・ジャックの由来について調べてくる。
3	「イギリス」の歴史的形成過程	古代から現代までの領土の変遷	年表づくりをおこなう。
4	イギリス古代の歴史 ～ストーンヘンジの謎にせまる～	ケルト時代・ローマ時代・ゲルマン人の到来	異民族侵入の歴史を地図にまとめる。
5	パイユのタペストリの世界	七王国時代からノルマン朝時代まで	史料としての「パイユのタペストリ」から読み取れることをまとめる。
6	ウェールズの歴史(1)	イングランドとウェールズの関係史	プリンス・オブ・ウェールズという称号の意味について調べてくる。
7	ウェールズの歴史(2)	ウェールズ語復興運動	ウェールズ話者数の推移を調べてくる。
8	ウェールズの歴史(3)	映画『ウェールズの山』に見る重層的アイデンティティ (中間テストの実施)	これまでの授業内容をまとめてくる。
9	サッカーの歴史	スポーツに見るイギリスのナショナル・アイデンティティ (中間テスト解説)	FIFA 誕生の歴史的経緯を調べてくる。
10	スコットランドの歴史(1)	スコットランド王権の特徴	スコットランドの王位継承の特徴をイングランドと比較しながら整理する。
11	スコットランドの歴史(2)	スコットランドとイングランドとの関係史	フランスの存在に注目しつつ、スコットランドとイングランドの関係史をまとめてくる。
12	スコットランドの歴史(3)	「帝国」「EU」のなかのスコットランド	国家だけでなく、帝国やEUといった枠のなかでスコットランドがもつ可能性について考えてくる。
13	紅茶文化はいかにして生まれたか?	食文化からみたイギリスの歴史	「食」と大英帝国についてまとめる。
14	イギリス人はなぜ傘をささないのか?	ステイタス・シンボルとしての傘	傘以外のステイタス・シンボルについて調べる。
15	総括	小テストの実施と解説	全授業内容を復習してくる。

関連科目	ヨーロッパ史学
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	第15回目に実施する小テスト(80%)、中間テストおよび提出物(20%)を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	歴史学とは過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(林田研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。 中間テストに関するフィードバックは第9回目、小テストに関するフィードバックは第15回目の授業のなかでおこなう。
----	---

科目名	総合インドネシア語 a (1)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills a(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の総合的な運用能力の一層の向上を目指す。																																																																		
到達目標	本授業では、特に「読む」「書く」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行う。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 a (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。授業時には辞書を必ず携帯すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業の進め方の説明 これまでに学んだことの復習確認</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第2課</td> <td>基礎力確認演習 (講読)</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第4課</td> <td>基礎力確認演習 (能動文と受動文)</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第6課</td> <td>文の種類2 単文 (講読)</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第7課</td> <td>文の種類3 重文と複文 (講読①②)</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第8課</td> <td>基礎力確認演習 (総合①)</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第8課</td> <td>基礎力確認演習 (総合②)</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第10課</td> <td>インドネシアの教科書の講読①</td> <td>予習 学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第10課</td> <td>インドネシアの教科書の講読③</td> <td>予習 学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第10課</td> <td>インドネシアの教科書の講読⑤</td> <td>予習 学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第11課</td> <td>雑誌に親しんでみよう</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第12課</td> <td>会話文の講読②</td> <td>予習 学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第12課</td> <td>会話文の講読④</td> <td>予習 学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>第14課</td> <td>エッセイの講読①</td> <td>予習 学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>第14課</td> <td>エッセイの講読③</td> <td>予習 学んだことの再確認</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方の説明 これまでに学んだことの復習確認	学んだことの再確認	2	第2課	基礎力確認演習 (講読)	学んだことの再確認	3	第4課	基礎力確認演習 (能動文と受動文)	学んだことの再確認	4	第6課	文の種類2 単文 (講読)	学んだことの再確認	5	第7課	文の種類3 重文と複文 (講読①②)	学んだことの再確認	6	第8課	基礎力確認演習 (総合①)	学んだことの再確認	7	第8課	基礎力確認演習 (総合②)	学んだことの再確認	8	第10課	インドネシアの教科書の講読①	予習 学んだことの再確認	9	第10課	インドネシアの教科書の講読③	予習 学んだことの再確認	10	第10課	インドネシアの教科書の講読⑤	予習 学んだことの再確認	11	第11課	雑誌に親しんでみよう	学んだことの再確認	12	第12課	会話文の講読②	予習 学んだことの再確認	13	第12課	会話文の講読④	予習 学んだことの再確認	14	第14課	エッセイの講読①	予習 学んだことの再確認	15	第14課	エッセイの講読③	予習 学んだことの再確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方の説明 これまでに学んだことの復習確認	学んだことの再確認																																																																
2	第2課	基礎力確認演習 (講読)	学んだことの再確認																																																																
3	第4課	基礎力確認演習 (能動文と受動文)	学んだことの再確認																																																																
4	第6課	文の種類2 単文 (講読)	学んだことの再確認																																																																
5	第7課	文の種類3 重文と複文 (講読①②)	学んだことの再確認																																																																
6	第8課	基礎力確認演習 (総合①)	学んだことの再確認																																																																
7	第8課	基礎力確認演習 (総合②)	学んだことの再確認																																																																
8	第10課	インドネシアの教科書の講読①	予習 学んだことの再確認																																																																
9	第10課	インドネシアの教科書の講読③	予習 学んだことの再確認																																																																
10	第10課	インドネシアの教科書の講読⑤	予習 学んだことの再確認																																																																
11	第11課	雑誌に親しんでみよう	学んだことの再確認																																																																
12	第12課	会話文の講読②	予習 学んだことの再確認																																																																
13	第12課	会話文の講読④	予習 学んだことの再確認																																																																
14	第14課	エッセイの講読①	予習 学んだことの再確認																																																																
15	第14課	エッセイの講読③	予習 学んだことの再確認																																																																
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 a (2)」)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>総合インドネシア語 第4版</td> <td>浦野崇央・山口真佐夫編</td> <td>摂南大学外国語学部</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>インドネシア語辞典ポケット版</td> <td>末永晃</td> <td>大学書林</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	総合インドネシア語 第4版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部	2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	総合インドネシア語 第4版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部																																																																
2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>最新インドネシア語小辞典</td> <td>佐々木重次編</td> <td>Grup Sanggar</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	定期試験 (「総合インドネシア語」統一試験) 80%、「積極的な授業参加」の度合い20% 詳細は、第1回目の授業で伝える。																																																																		
学生へのメッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命取り組みましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来て下さい。積極的な姿勢が大切です。																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)																																																																		
備考	事前・事後学習課題欄を参考にして、毎週少なくとも1時間程度以上の復習は欠かさず、指示がある時は予習もこなすこと。																																																																		

科目名	総合インドネシア語 a (2)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills a(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の総合的な運用能力の一層の向上を目指す。本授業では、特に「読む」「書く」「話す」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行なう。																																																																		
到達目標	あらゆる文体のインドネシア語をマスターすること。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 a (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。 授業時には辞書を必ず携帯すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1課</td> <td>辞書の種類および使い方についての解説</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第3課</td> <td>基礎力確認演習 (作文)</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第5課</td> <td>文の種類1 疑問文 (文法・講読・作文)</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第6課</td> <td>文の種類2 単文 (作文)</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第7課</td> <td>文の種類3 (作文)</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第9課</td> <td>新聞に親しんでみよう</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第10課</td> <td>インドネシアの教科書の講読②</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第10課</td> <td>インドネシアの教科書の講読④</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第10課</td> <td>インドネシアの教科書の講読⑥</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第12課</td> <td>会話文の講読①</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第12課</td> <td>会話文の講読③</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第13課</td> <td>広告に親しんでみよう</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第14課</td> <td>エッセイの講読②</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>第14課</td> <td>エッセイの講読④</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>第14課</td> <td>エッセイの講読⑤ 総復習 夏期課題提示</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第1課	辞書の種類および使い方についての解説	次週の予習および学んだことの再確認	2	第3課	基礎力確認演習 (作文)	次週の予習および学んだことの再確認	3	第5課	文の種類1 疑問文 (文法・講読・作文)	次週の予習および学んだことの再確認	4	第6課	文の種類2 単文 (作文)	次週の予習および学んだことの再確認	5	第7課	文の種類3 (作文)	次週の予習および学んだことの再確認	6	第9課	新聞に親しんでみよう	次週の予習および学んだことの再確認	7	第10課	インドネシアの教科書の講読②	次週の予習および学んだことの再確認	8	第10課	インドネシアの教科書の講読④	次週の予習および学んだことの再確認	9	第10課	インドネシアの教科書の講読⑥	次週の予習および学んだことの再確認	10	第12課	会話文の講読①	次週の予習および学んだことの再確認	11	第12課	会話文の講読③	次週の予習および学んだことの再確認	12	第13課	広告に親しんでみよう	次週の予習および学んだことの再確認	13	第14課	エッセイの講読②	次週の予習および学んだことの再確認	14	第14課	エッセイの講読④	次週の予習および学んだことの再確認	15	第14課	エッセイの講読⑤ 総復習 夏期課題提示	学んだことの再確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第1課	辞書の種類および使い方についての解説	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
2	第3課	基礎力確認演習 (作文)	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
3	第5課	文の種類1 疑問文 (文法・講読・作文)	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
4	第6課	文の種類2 単文 (作文)	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
5	第7課	文の種類3 (作文)	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
6	第9課	新聞に親しんでみよう	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
7	第10課	インドネシアの教科書の講読②	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
8	第10課	インドネシアの教科書の講読④	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
9	第10課	インドネシアの教科書の講読⑥	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
10	第12課	会話文の講読①	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
11	第12課	会話文の講読③	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
12	第13課	広告に親しんでみよう	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
13	第14課	エッセイの講読②	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
14	第14課	エッセイの講読④	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
15	第14課	エッセイの講読⑤ 総復習 夏期課題提示	学んだことの再確認																																																																
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 a(1)」)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>総合インドネシア語</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	総合インドネシア語			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	総合インドネシア語																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	定期試験 (「総合インドネシア語」統一試験)、「積極的な授業参加」の度合いなどをもとに総合的に判断する。 定期試験 70%、授業への参加度 30%																																																																		
学生へのメッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命取り組みましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 山口研究室																																																																		
備考	授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習課題には十分な時間をかけること。																																																																		

科目名	総合インドネシア語 b (1)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills b(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	1年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) 運用能力の一層の向上を目指す。
到達目標	前期開講の「総合インドネシア語 a (1)」に引き続き、本授業では特に「読む」能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行う。
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 b (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。授業時には辞書を必ず携帯すること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第15課	手紙を書いてみよう①	学んだことの再確認
	2	第15課	手紙を書いてみよう②	学んだことの再確認
	3	第16課	ことわざの表現③④	予習 学んだことの再確認
	4	第17課	映画を観てみよう	学んだことの再確認
	5	第18課	文学作品の講読①	予習 学んだことの再確認
	6	第18課	文学作品の講読③	予習 学んだことの再確認
	7	第18課	文学作品の講読⑤	予習 学んだことの再確認
	8	第18課	文学作品の講読⑦	予習 学んだことの再確認
	9	第18課	文学作品の講読⑧	予習 学んだことの再確認
	10	第19課	スピーチをしてみよう② 単語力確認テスト	学んだことの再確認
	11	第20課	bahasa baku と bahasa sehari-hari②	予習 学んだことの再確認
	12	第20課	bahasa baku と bahasa sehari-hari③	予習 学んだことの再確認
	13	第21課	テレビを観てみよう	学んだことの再確認
	14	第23課	新聞記事の講読②	予習 学んだことの再確認
	15	第23課	新聞記事の購読④	予習 学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 b (2)」)
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合インドネシア語 第4版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部
	2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (「総合インドネシア語」統一試験) 80%、「積極的な授業参加」の度合い20% 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命に取り組みましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来て下さい。積極的な姿勢が大切です。
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)
備考	「事前・事後学習課題」欄を参考に、毎週少なくとも1時間程度以上の復習は欠かさず、指示のある時は予習をこなすこと。

科目名	総合インドネシア語 b (2)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills b(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の運用能力の一層の向上を目指す。前期開講の「総合インドネシア語 a (2)」に引き続き、本授業では特に「読む」「書く」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行なう。																																																																		
到達目標	あらゆる文体のインドネシア語をマスターすること。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 b (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。 授業時には辞書を必ず携帯すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第 15 課</td> <td>手紙を書いてみよう (作文指導) 夏期課題回収</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第 16 課</td> <td>ことわざの表現①②</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第 15 課</td> <td>手紙を書いてみよう (作文チェック)</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第 16 課</td> <td>ことわざの表現⑤⑥</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第 15 課</td> <td>手紙を書いてみよう (作文原稿チェック)</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第 18 課</td> <td>文学作品の講読②</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第 18 課</td> <td>文学作品の講読④</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第 18 課</td> <td>文学作品の講読⑥</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第 19 課</td> <td>スピーチをしてみよう① (作文チェック・読み方指導)</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第 20 課</td> <td>bahasa baku と bahasa sehari-hari①</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第 19 課</td> <td>スピーチをしてみよう③</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第 20 課</td> <td>bahasa baku と bahasa sehari-hari④</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第 22 課</td> <td>略語と借用語</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>第 23 課</td> <td>新聞記事の講読①</td> <td>次週の予習および学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>第 23 課</td> <td>新聞記事の講読③</td> <td>学んだことの再確認</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第 15 課	手紙を書いてみよう (作文指導) 夏期課題回収	次週の予習および学んだことの再確認	2	第 16 課	ことわざの表現①②	次週の予習および学んだことの再確認	3	第 15 課	手紙を書いてみよう (作文チェック)	次週の予習および学んだことの再確認	4	第 16 課	ことわざの表現⑤⑥	次週の予習および学んだことの再確認	5	第 15 課	手紙を書いてみよう (作文原稿チェック)	次週の予習および学んだことの再確認	6	第 18 課	文学作品の講読②	次週の予習および学んだことの再確認	7	第 18 課	文学作品の講読④	次週の予習および学んだことの再確認	8	第 18 課	文学作品の講読⑥	次週の予習および学んだことの再確認	9	第 19 課	スピーチをしてみよう① (作文チェック・読み方指導)	次週の予習および学んだことの再確認	10	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari①	次週の予習および学んだことの再確認	11	第 19 課	スピーチをしてみよう③	次週の予習および学んだことの再確認	12	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari④	次週の予習および学んだことの再確認	13	第 22 課	略語と借用語	次週の予習および学んだことの再確認	14	第 23 課	新聞記事の講読①	次週の予習および学んだことの再確認	15	第 23 課	新聞記事の講読③	学んだことの再確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第 15 課	手紙を書いてみよう (作文指導) 夏期課題回収	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
2	第 16 課	ことわざの表現①②	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
3	第 15 課	手紙を書いてみよう (作文チェック)	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
4	第 16 課	ことわざの表現⑤⑥	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
5	第 15 課	手紙を書いてみよう (作文原稿チェック)	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
6	第 18 課	文学作品の講読②	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
7	第 18 課	文学作品の講読④	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
8	第 18 課	文学作品の講読⑥	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
9	第 19 課	スピーチをしてみよう① (作文チェック・読み方指導)	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
10	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari①	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
11	第 19 課	スピーチをしてみよう③	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
12	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari④	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
13	第 22 課	略語と借用語	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
14	第 23 課	新聞記事の講読①	次週の予習および学んだことの再確認																																																																
15	第 23 課	新聞記事の講読③	学んだことの再確認																																																																
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 b(1)」)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>総合インドネシア語 (前期に購入済み)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	総合インドネシア語 (前期に購入済み)			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	総合インドネシア語 (前期に購入済み)																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	定期試験 (「総合インドネシア語」統一試験)、「積極的な授業参加」の度合いなどをもとに総合的に判断する。 定期試験 70%、授業への参加度 30%																																																																		
学生へのメッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命に取り組みましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 山口研究室																																																																		
備考	授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習課題には十分な時間をかけること。																																																																		

科目名	総合スペイン語 I	科目名 (英文)	Integrated Spanish Skills I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。対話文やまとまった量のテキストの読みを通して、語彙、表現、文構造の理解を高める。
授業方法と留意点	正答（することだけ）にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。 疑問を持ち、考え、質問すること。 授業計画はあくまで目安であり、レベルと進捗状況に応じて多少の修正を加え得る。
科目学習の効果 (資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習。 歴史文化 (世界遺産) についても触れる。 スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	科目説明	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
2	文字と発音	アルファベット 発音	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
3	第1課	名詞の性と数 冠詞 形容詞 「これは何ですか」	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
4	第2課	主語人称代名詞 Ser/estar 指示詞 前置詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
5	第1, 2課まとめ	第1, 2課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
6	中間的試験	第1, 2課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
7	第3課	規則動詞直説法現在 国・言語・国民の言い方 都市・住宅に関する語彙 文の種類	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
8	第4課	動詞 tener, ir, venir querer, poder 型動詞 (現在) 不規則動詞 (現在) 食事・あいさつの表現	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
9	第3, 4課まとめ	第3, 4課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
10	中間的試験	第3, 4課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
11	第5課	基数詞 時刻表現 比較級・最上級 家族知人に関する語彙	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
12	第6課	目的語の代名詞「〜に」「〜を」 Gustar 型動詞 身体部位に関する語彙 hay 「〜がある」	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
13	第7課	再帰動詞 天候の表現 季節、月、曜日の表現 所有詞 (前置形)	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
14	第5, 6, 7課まとめ	第5, 6, 7課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
15	試験	第5, 6, 7課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習

関連科目	スペイン語入門A、B、C
------	--------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界遺産で学ぶスペイン語	福罵教隆、フアン・ロメロ・ディアス	朝日出版
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中規模の試験を複数回(2課につき1度の計3回を予定)実施する。 試験90%+受講姿勢(発表など)10%			
学生への メッセージ	初めての外国語の勉強は大変だが、毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 文法項目が応用で初めて(入門より先に)出てくることもあるが、両科目ともスペイン語の初級文法を扱っているため、混乱する必要はない(そうならないために、予習復習をきちんとすることと諸科目をリンクする意識をもつこと)。			
担当者の 研究室等	7号館5階 安達研究室			
備考	事前・事後に各1時間の学習時間を要する。 文法の「入門・基礎ABC」と内容が前後して進むことがあるが、応用が先行しようとも、それぞれの科目を予習していれば問題ない。			

科目名	総合スペイン語 I	科目名 (英文)	Integrated Spanish Skills I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。対話文やまとまった量のテキストの読みを通して、語彙、表現、文構造の理解を高める。
授業方法と留意点	正答（することだけ）にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。 疑問を持ち、考え、質問すること。 授業計画はあくまで目安であり、レベルと進捗状況に応じて多少の修正を加え得る。
科目学習の効果 (資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習。 歴史文化 (世界遺産) についても触れる。 スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	科目説明	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
2	文字と発音	アルファベット 発音	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
3	第1課	名詞の性と数 冠詞 形容詞 「これは何ですか」	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
4	第2課	主語人称代名詞 Ser/estar 指示詞 前置詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
5	第1, 2課まとめ	第1, 2課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
6	中間的試験	第1, 2課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
7	第3課	規則動詞直説法現在 国・言語・国民の言い方 都市・住宅に関する語彙 文の種類	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
8	第4課	動詞 tener, ir, venir querer, poder 型動詞 (現在) 不規則動詞 (現在) 食事・あいさつの表現	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
9	第3, 4課まとめ	第3, 4課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
10	中間的試験	第3, 4課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
11	第5課	基数詞 時刻表現 比較級・最上級 家族知人に関する語彙	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
12	第6課	目的語の代名詞「〜に」「〜を」 Gustar 型動詞 身体部位に関する語彙 hay 「〜がある」	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
13	第7課	再帰動詞 天候の表現 季節、月、曜日の表現 所有詞 (前置形)	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
14	第5, 6, 7課まとめ	第5, 6, 7課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
15	試験	第5, 6, 7課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習

関連科目	スペイン語入門A、B、C
------	--------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界遺産で学ぶスペイン語	福罵教隆、フアン・ロメロ・ディアス	朝日出版
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中規模の試験を複数回(2課につき1度の計3回を予定)実施する。 試験90%+受講姿勢(発表など)10%			
学生への メッセージ	初めての外国語の勉強は大変だが、毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 文法項目が応用で初めて(入門より先に)出てくることもあるが、両科目ともスペイン語の初級文法を扱っているため、混乱する必要はない(そうならないために、予習復習をきちんとすることと諸科目をリンクする意識をもつこと)。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	事前・事後に各1時間の学習時間を要する。 文法の「入門・基礎ABC」と内容が前後して進むことがあるが、応用が先行しようとも、それぞれの科目を予習していれば問題ない。			

科目名	総合スペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語基礎 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語基礎 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。対話文やまとまった量のテキストの読みを通して、語彙、表現、文構造の理解を高める。
授業方法と留意点	正答(することだけ)にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。 疑問を持ち、考え、質問すること。 授業計画はあくまで目安であり、レベルと進捗状況に応じて多少の修正を加え得る。
科目学習の効果(資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習。 歴史文化(世界遺産)についても触れる。 スペイン語検定5級

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	復習	前期の学習内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
2	復習	前期の学習内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
3	第8課	点過去形(規則動詞と不規則動詞) 点過去形のはたらき 副詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
4	第9課	線過去形(規則動詞と不規則動詞) 線過去形のはたらき	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
5	第8, 9課まとめ	第8, 9課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
6	中間的試験	第8, 9課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
7	第10課	未来形と過去未来形(規則動詞と不規則動詞) 未来形と過去未来形のはたらき	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
8	第11課	現在分詞と過去分詞 現在完了形 不定語と否定語 不定詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
9	第10, 11課まとめ	第10, 11課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
10	中間的試験	第10, 11課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
11	第12課	能動文と受動文 2つの受動文 序数詞 疑問詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
12	第13課	関係詞 複文 縮小辞と増大辞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
13	第12, 13課まとめ	第12, 13課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
14	試験	第12, 13課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
15	総復習	後期の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	

関連科目	スペイン語基礎A、B、C
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界遺産で学ぶスペイン語	福嶋教隆、フアン・ロメロ・ディアス	朝日出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法 (基準)	中規模の試験を複数回(2課につき1度の計3回を予定)実施する。 試験90%+受講姿勢(発表など)10%
学生への メッセージ	初めての外国語の勉強は大変だが、毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 文法項目が応用で初めて(基礎より先に)出てくることもあるが、両科目ともスペイン語の初級文法を扱っているため、混乱する必要はない(そうならないために、予習復習をきちんとすることと諸科目をリンクする意識をもつこと)。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	事前・事後に各1時間の学習時間を要する。 文法の「基礎ABC」と内容が前後して進むことがあるが、応用が先行しようとも、それぞれの科目を予習していれば問題ない。

科目名	総合スペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語基礎 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語基礎 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。対話文やまとまった量のテキストの読みを通して、語彙、表現、文構造の理解を高める。
授業方法と留意点	正答(することだけ)にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。 疑問を持ち、考え、質問すること。 授業計画はあくまで目安であり、レベルと進捗状況に応じて多少の修正を加え得る。
科目学習の効果(資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習。 歴史文化(世界遺産)についても触れる。 スペイン語検定5級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	復習	前期の学習内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	2	復習	前期の学習内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	3	第8課	点過去形(規則動詞と不規則動詞) 点過去形のはたらき 副詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	4	第9課	線過去形(規則動詞と不規則動詞) 線過去形のはたらき	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	5	第8, 9課まとめ	第8, 9課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	6	中間的試験	第8, 9課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	7	第10課	未来形と過去未来形(規則動詞と不規則動詞) 未来形と過去未来形のはたらき	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	8	第11課	現在分詞と過去分詞 現在完了形 不定語と否定語 不定詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	9	第10, 11課まとめ	第10, 11課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	10	中間的試験	第10, 11課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	11	第12課	能動文と受動文 2つの受動文 序数詞 疑問詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	12	第13課	関係詞 複文 縮小辞と増大辞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	13	第12, 13課まとめ	第12, 13課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	14	試験	第12, 13課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
15	総復習	後期の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	

関連科目	スペイン語基礎A、B、C
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界遺産で学ぶスペイン語	福嶋教隆、フアン・ロメロ・ディアス	朝日出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法 (基準)	中規模の試験を複数回(2課につき1度の計3回を予定)実施する。 試験90%+受講姿勢(発表など)10%
学生への メッセージ	初めての外国語の勉強は大変だが、毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 文法項目が応用で初めて(基礎より先に)出てくることもあるが、両科目ともスペイン語の初級文法を扱っているため、混乱する必要はない(そうならないために、予習復習をきちんとすることと諸科目をリンクする意識をもつこと)。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	事前・事後に各1時間の学習時間を要する。 文法の「基礎ABC」と内容が前後して進むことがあるが、応用が先行しようとも、それぞれの科目を予習していれば問題ない。

科目名	総合スペイン語ⅢA	科目名(英文)	Advanced Spanish Grammar IIIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句テストおよび中間テスト(文法確認テスト)を実施する。
到達目標	初級文法事項の反復練習を行い定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を習得する。
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。ポキャプラーコンテンツを授業内で実施する予定。予習復習を前提に講義は進行する(配布物の管理をきちんと行うこと)。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度や進度により変更し得る。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	接続法とはなにか	接続法の用法と特徴。直説法との違い。接続法現在の活用形。	1年次で既習の直説法における9つの時制を復習する。
2	接続法現在	規則・不規則動詞ともに活用を正しく身につける。命令文への導入。	直説法現在の活用を再確認し、接続法現在の活用を覚える。
3	命令文	接続法現在を用いる肯定・否定命令文の練習。2人称の肯定命令(1年次で既習)の復習。	命令文の練習問題を多く解く。
4	中間テスト1 従属節で用いる接続法の用法	接続法現在の活用と命令文の理解を問う。名詞節で用いる接続法: 願望・依頼・命令・助言・疑い・可能性を表す文、主節が否定を表す文。	命令文の総合的復習を行っておく。名詞節で接続法を用いるべき動詞になにがあるかを把握する。
5	従属節で用いる接続法の用法	名詞節で用いる接続法: 感情・主観的判断を表す文。	「Es 形容詞 que 接続法」の文で使われる形容詞を把握する。
6	従属節で用いる接続法の用法 ポキャプラー・コンテンツ	形容詞節で用いる接続法。	関係代名詞の復習を行っておく。
7	従属節で用いる接続法の用法	副詞節で用いる接続法。	接続法を用いるべき様々な副詞、副詞節を知る。
8	中間テスト2 接続法現在完了	複文(主節+従属節)で用いる接続法(現在)の理解を問う。接続法現在完了の活用と用法。	従属節(名詞節、形容詞節、副詞節)で用いる接続法の理解を固める。接続法現在完了の活用練習を行う。
9	接続法過去完了 条件文	接続法過去完了の活用と用法。事実に反する仮定と帰結節。	接続法の4つの時制を正しく習得する。
10	条件文 譲歩文	事実に反する仮定と帰結節。「たとえ～だとしても」。	「いま～なら、～なのに」「～だったら、～だったのに」「～だったら、～なのに」を表す時制の違いを把握する。
11	これまでの総復習	中間テスト1以後の学習内容。	接続法の各時制の活用を身につけ、複文中での用い方を疑問を残さず理解するよう、多くの文章に当たる。
12	独立文(単文)で用いられる統法 中間テスト3	接続法が単文でも用いられる場合のキーワード。条件文と譲歩文の理解を問う。	接続法を用いるべき条件文、譲歩文の例に数多く当たる。
13	接続法の総合的復習	接続法の復習・練習 文章読解	前期初回からの授業内容をじっくりと見直し、消化できていない部分について質問を重ね、教員に説明を求める。
14	接続法の総合的復習	接続法の復習・練習 文章読解	前期初回からの授業内容をじっくりと見直し、消化できていない部分について質問を重ね、教員に説明を求める。
15	理解度確認テスト(A・Bとも)	これまでの学習内容すべて	テストの受けっぱなしはいけません。

関連科目: スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法(1年次の教科書を引き続き使用する)	和佐敦子	白水社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準): 中間テスト+語句テスト+ポキャプラーコンテンツ+理解度確認テストを総合的に評価する。

学生へのメッセージ: 毎回予習復習をしたうえで授業に出席すること。遅刻・欠席過多は学習レベルと意欲を低下させるため、勉学の当事者意識をもつこと。配布物が多いので、それらをまとめるファイル、ノートを用意すること。欠席した場合は、ほかの受講生にコピーさせてもらうなどして自分自身で不足を補うこと(予習に必要)。欠席はプリントがないことは予習できないことの言い訳にならない。大学生(=大人)としてふるまうこと。

担当者の 研究室等	7号館5階 北條研究室
備考	<p>ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各1時間を要する。 1年次の教科書を引き続き使用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することが多い。配布物は欠席するともらえない（その都度一度しか配布しない）ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。自律自助を！</p>

科目名	総合スペイン語ⅢA	科目名(英文)	Advanced Spanish Grammar IIIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句テストおよび中間テスト(文法確認テスト)を実施する。
到達目標	初級文法事項の反復練習を行い定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を習得する。
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。ポキャプラーコンテンツを授業内で実施する予定。予習復習を前提に講義は進行する(配布物の管理をきちんと行うこと)。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度や進度により変更し得る。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	接続法とはなにか	接続法の用法と特徴。直説法との違い。接続法現在の活用形。	1年次で既習の直説法における9つの時制を復習する。
2	接続法現在	規則・不規則動詞ともに活用を正しく身につける。命令文への導入。	直説法現在の活用を再確認し、接続法現在の活用を覚える。
3	命令文	接続法現在を用いる肯定・否定命令文の練習。2人称の肯定命令(1年次で既習)の復習。	命令文の練習問題を多く解く。
4	中間テスト1 従属節で用いる接続法の用法	接続法現在の活用と命令文の理解を問う。名詞節で用いる接続法: 願望・依頼・命令・助言・疑い・可能性を表す文、主節が否定を表す文。	命令文の総合的復習を行っておく。名詞節で接続法を用いるべき動詞になにかがあるかを把握する。
5	従属節で用いる接続法の用法	名詞節で用いる接続法: 感情・主観的判断を表す文。	「Es 形容詞 que 接続法」の文で使われる形容詞を把握する。
6	従属節で用いる接続法の用法 ポキャプラー・コンテンツ	形容詞節で用いる接続法。	関係代名詞の復習を行っておく。
7	従属節で用いる接続法の用法	副詞節で用いる接続法。	接続法を用いるべき様々な副詞、副詞節を知る。
8	中間テスト2 接続法現在完了	複文(主節+従属節)で用いる接続法(現在)の理解を問う。接続法現在完了の活用と用法。	従属節(名詞節、形容詞節、副詞節)で用いる接続法の理解を固める。接続法現在完了の活用練習を行う。
9	接続法過去完了 条件文	接続法過去完了の活用と用法。事実に反する仮定と帰結節。	接続法の4つの時制を正しく習得する。
10	条件文 譲歩文	事実に反する仮定と帰結節。「たとえ～だとしても」。	「いま～なら、～なのに」「～だったら、～だったのに」「～だったら、～なのに」を表す時制の違いを把握する。
11	これまでの総復習	中間テスト1以後の学習内容。	接続法の各時制の活用を身につけ、複文中での用い方を疑問を残さず理解するよう、多くの文章に当たる。
12	独立文(単文)で用いられる 統法 中間テスト3	接続法が単文でも用いられる場合のキーワード。条件文と譲歩文の理解を問う。	接続法を用いるべき条件文、譲歩文の例に数多く当たる。
13	接続法の総合的復習	接続法の復習・練習 文章読解	前期初回からの授業内容をじっくりと見直し、消化できていない部分について質問を重ね、教員に説明を求める。
14	接続法の総合的復習	接続法の復習・練習 文章読解	前期初回からの授業内容をじっくりと見直し、消化できていない部分について質問を重ね、教員に説明を求める。
15	理解度確認テスト(A・Bとも)	これまでの学習内容すべて	テストの受けっぱなしはいけません。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法(1年次の教科書を引き続き使用する)	和佐敦子	白水社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準)	中間テスト+語句テスト+ポキャプラーコンテンツ+理解度確認テストを総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	毎回予習復習をしたうえで授業に出席すること。遅刻・欠席過多は学習レベルと意欲を低下させるため、勉学の当事者意識をもつこと。配布物が多いので、それらをまとめるファイル、ノートを用意すること。欠席した場合は、ほかの受講生にコピーさせてもらうなどして自分自身で不足を補うこと(予習に必要)。欠席はプリントがないことは予習できないことの言い訳にならない。大学生(=大人)としてふるまうこと。
-----------	---

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	ポキヤコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各1時間を要する。 1年次の教科書を引き続き使用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することが多い。配布物は欠席するともらえない（その都度一度しか配布しない）ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。自律自助を！

科目名	総合スペイン語ⅢB	科目名(英文)	Advanced Spanish Grammar IIIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句テストおよび中間テスト(文法確認テスト)を実施する。
到達目標	初級文法事項の反復練習を行い定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を習得する。
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。ポキャプラーリコンテストを授業内で実施する予定。予習復習を前提に講義は進行する(配布物の管理をきちんと行うこと)。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度や進度により変更し得る。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	接続法とはなにか	接続法の用法と特徴。直説法との違い。接続法現在の活用形。	1年次で既習の直説法における9つの時制を復習する。
2	接続法現在	規則・不規則動詞ともに活用を正しく身につける。命令文への導入。	直説法現在の活用を再確認し、接続法現在の活用を覚える。
3	命令文	接続法現在を用いる肯定・否定命令文の練習。2人称の肯定命令(1年次で既習)の復習。	命令文の練習問題を多く解く。
4	中間テスト1 従属節で用いる接続法の用法	接続法現在の活用と命令文の理解を問う。名詞節で用いる接続法: 願望・依頼・命令・助言・疑い・可能性を表す文、主節が否定を表す文。	命令文の総合的復習を行っておく。名詞節で接続法を用いるべき動詞になにかがあるかを把握する。
5	従属節で用いる接続法の用法	名詞節で用いる接続法: 感情・主観的判断を表す文。	「Es 形容詞 que 接続法」の文で使われる形容詞を把握する。
6	従属節で用いる接続法の用法 ポキャプラーリ・コンテスト	形容詞節で用いる接続法。	関係代名詞の復習を行っておく。
7	従属節で用いる接続法の用法	副詞節で用いる接続法。	接続法を用いるべき様々な副詞、副詞節を知る。
8	中間テスト2 接続法現在完了	複文(主節+従属節)で用いる接続法(現在)の理解を問う。接続法現在完了の活用と用法。	従属節(名詞節、形容詞節、副詞節)で用いる接続法の理解を固める。接続法現在完了の活用練習を行う。
9	接続法過去完了 条件文	接続法過去完了の活用と用法。事実に反する仮定と帰結節。	接続法の4つの時制を正しく習得する。
10	条件文 譲歩文	事実に反する仮定と帰結節。「たとえ～だとしても」。	「いま～なら、～なのに」「～だったら、～だったのに」「～だったら、～なのに」を表す時制の違いを把握する。
11	これまでの総復習	中間テスト1以後の学習内容。	接続法の各時制の活用を身につけ、複文中での用い方を疑問を残さず理解するよう、多くの文章に当たる。
12	独立文(単文)で用いられる統法 中間テスト3	接続法が単文でも用いられる場合のキーワード。条件文と譲歩文の理解を問う。	接続法を用いるべき条件文、譲歩文の例に数多く当たる。
13	接続法の総合的復習	接続法の復習・練習 文章読解	前期初回からの授業内容をじっくりと見直し、消化できていない部分について質問を重ね、教員に説明を求める。
14	接続法の総合的復習	接続法の復習・練習 文章読解	前期初回からの授業内容をじっくりと見直し、消化できていない部分について質問を重ね、教員に説明を求める。
15	理解度確認テスト(A・Bとも)	これまでの学習内容すべて	テストの受けっぱなしはいけません。

関連科目: スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法(1年次の教科書を引き続き使用する)	和佐敦子	白水社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準): 中間テスト+語句テスト+ポキャプラーリコンテスト+理解度確認テストを総合的に評価する。

学生へのメッセージ: 毎回予習復習をしたうえで授業に出席すること。遅刻・欠席過多は学習レベルと意欲を低下させるため、勉学の当事者意識をもつこと。配布物が多いので、それらをまとめるファイル、ノートを用意すること。欠席した場合は、ほかの受講生にコピーさせてもらうなどして自分自身で不足を補うこと(予習に必要)。プリントがないことは予習できないことの言い訳にならない。大学生(=大人)としてふるまうこと。

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	ポキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各1時間を要する。 1年次の教科書を引き続き使用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することが多い。配布物は欠席するともらえない（その都度一度しか配布しない）ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。自律自助を！

科目名	総合スペイン語ⅢB	科目名(英文)	Advanced Spanish Grammar IIIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句テストおよび中間テスト(文法確認テスト)を実施する。
到達目標	初級文法事項の反復練習を行い、定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を習得する。
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。ポキャブラリーコンテストを授業内で実施する予定。予習復習を前提に講義は進行する(配布物の管理をきちんと行うこと)。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度や進度により変更し得る。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	接続法とはなにか	接続法の用法と特徴。直説法との違い。接続法現在の活用形。	1年次で既習の直説法における9つの時制を復習する。
2	接続法現在	規則・不規則動詞ともに活用を正しく身につける。命令文への導入。	直説法現在の活用を再確認し、接続法現在の活用を覚える。
3	命令文	接続法現在を用いる肯定・否定命令文の練習。2人称の肯定命令(1年次で既習)の復習。	命令文の練習問題を多く解く。
4	中間テスト1 従属節で用いる接続法の用法	接続法現在の活用と命令文の理解を問う。名詞節で用いる接続法: 願望・依頼・命令・助言・疑い・可能性を表す文、主節が否定を意味する文。	命令文の総合的復習を行っておく。名詞節で接続法を用いるべき動詞になにがあるかを把握する。
5	従属節で用いる接続法の用法	名詞節で用いる接続法: 感情・主観的判断を表す文	「Es 形容詞 que 接続法」の文で使われる形容詞を把握する。
6	従属節で用いる接続法の用法 ポキャブラリー・コンテスト	形容詞節で用いる接続法	関係代名詞の復習を行っておく。
7	従属節で用いる接続法の用法	副詞節で用いる接続法	接続法を用いるべき様々な副詞、副詞節を知る。
8	中間テスト2 接続法現在完了	複文(主節+従属節)で用いる接続法(現在)の理解を問う。接続法現在完了の活用と用法	従属節(名詞節、形容詞節、副詞節)で用いる接続法の理解を固める。接続法現在完了の活用練習を行う。
9	接続法過去完了 条件文	接続法過去完了の活用と用法 事実と反する仮定と帰結節	接続法の4つの時制を正しく習得する。
10	条件文 譲歩文	事実と反する仮定と帰結節 「たとえ～だとしても」	「いま～なら、～なのに」「～だったら、～だったのに」「～だったら、いま～なのに」を表す時制の違いを把握する。
11	これまでの総復習	中間テスト1以後の学習内容	接続法の各時制の活用を身につけ、複文中での使い方を疑問を残さず理解するよう、多くの文章に当たる。
12	独立文(単文)で用いられる接続法 中間テスト3	接続法が単文でも用いられる場合のキーワード 条件文と譲歩文の理解を問う	接続法を用いるべき条件文、譲歩文の例に数多く当たる。
13	接続法の総合的復習	接続法の復習・練習 文章読解	前期初回からの授業内容をじっくりと見直し、消化できていない部分について質問を重ね、教員に説明を求める。
14	接続法の総合的復習	接続法の復習・練習 文章読解	前期初回からの授業内容をじっくりと見直し、消化できていない部分について質問を重ね、教員に説明を求める。
15	理解度確認テスト (A・Bとも)	これまでの学習内容すべて	テストの受けっぱなしはいけません。

関連科目: スペイン語の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法(1年次の教科書を引き続き使用する)	和佐敦子	白水社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準): 中間テスト+単語テスト+ポキャブラリーコンテスト+理解度確認テストを総合的に評価する。

学生へのメッセージ: 毎回予習復習をしたうえで授業に出席すること。遅刻・欠席過多は学習レベルと意欲を低下させるため、勉学の当事者意識をもつこと。配布物が多いので、それらをまとめるファイル、ノートを用意すること。欠席した場合は、ほかの受講生にコピーさせてもらうなどして自分自身で不足を補うこと(予習に必要)。プリントがないことは予習できないことの言い訳にならない。大学生(=大人)としてふるまうこと。

担当者の 研究室等	7号館5階 安達研究室
備考	ポキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各1時間を要する。 1年次の教科書を引き続き使用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することが多い。配布物は欠席するともらえない（その都度一度しか配布しない）ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。自律自助を！

科目名	総合中国語 a	科目名 (英文)	Integrated Chinese Skills a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	中国経済の発展に伴い、日中の経済的結びつきはますます強くなっている。このような状況の下、中国語を駆使するビジネスマンの役割はますます重要になっている。本学ではそのようなビジネス中国語の習得をを目指す学生のために、ビジネスに特化した中国語の講座を準備した。前期の授業は基礎知識、簡単な単語でのコミュニケーション、挨拶から質問のし方・答え方などビジネス場面で必要な会話を学ぶ。
到達目標	ビジネスシーンで使われる表現を通して、関連する語彙や初歩的な構文を習得する。
授業方法と留意点	この科目が必修科目であることに注意。また、授業の内容は1年生中国語専攻クラスの他の必修科目を履修していることを前提としている。ただし、他学部、他大学、社会人による単科目の受講は可能である。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス中国語検定試験受験など

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	中国経済の概況	改革開放前の計画経済体制から今日の市場経済体制への転換軌跡を解明し、中国の特色ある経済システムについて講義する。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第1課・第2課	発音(1)(2) ビジネス時に使う中国語の単語を材料にして発音や声調を学習する。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第3課前半	(1) 判断文 (2) 疑問文(1)「～?」 (3) 副詞「也」 (4) 姓名の表現	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第3課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第4課前半	(1) 動詞述語文 (2) 疑問詞による疑問文 (3) 語気助詞「?」 (4) 副詞「好好儿」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第4課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第5課前半	(1) 形容詞述語文 (2) 反復疑問文 (3) 介詞「?」 (4) 比較の表現「A 比 B～」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第5課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第6課前半	(1) 動詞「有」(～に～がある・いる) (2) 動詞「在」 (3) 助動詞「要」 (4) 助動詞「想」 (5) 介詞「从」と「到」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第6課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第7課前半	(1) 年月日の言い方 (2) 動詞+「一下儿」 (3) 介詞「和」 (4) 動詞「有」(～が～を持っている)	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第7課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第8課前半	総合復習チェックシート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第8課後半	教養としての中国語の基礎語の学習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	総復習	第3課から第8課までの総復習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	主言語・共通言語 1 年次中国語
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごと的小テストを行う。平常点 (授業に取り組む姿勢、小テスト、発音など) 50 パーセント 単元テスト 50 パーセント
-----------	--

学生へのメッセージ	必修科目ですからしっかり自覚をもって講義に臨んでください。テストの平均点が6割以上、出席回数が三分の二を越えて、はじめて単位が認定されます。一時限開講科目ですが、30分を越えた遅刻は欠席扱いとなりますので、いつも時間に余裕を持って出席してください。また、随時、始業と同時に復習テスト行います。遅刻、欠席の場合は受験できないのでご注意ください。
-----------	---

担当者の研究室等	中西研究室 (7号館3階)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	総合中国語 b	科目名 (英文)	Integrated Chinese Skills b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	後期の授業は、基礎となる文法、会社・組織についての表現、アポイントのとり方、社交の場での会話、商談など、ビジネス現場ですぐに活用できる表現や語彙力を学ぶ。
到達目標	前期に引き続き、ビジネスシーンで使われる表現を通して、関連する語彙や初歩的な構文を習得する。
授業方法と留意点	この科目が必修科目であることに注意。また、授業の内容は1年生中国語専攻クラスの他の必修科目を履修していることを前提としている。ただし、他学部、他大学、社会人による単科目の受講は可能である。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	スコア式ビジネス中国語検定試験受験など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第8課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第9課前半	1 助詞「之」の用法 2 介詞「根据」 3 文型「只有～才～」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第9課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第10課前半	1 助詞「&00083f7;」の用法 2 可能補語「～不了」 3 文型「既…又…」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第10課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第11課前半	1「記下来」(動詞+下来) 2「写进去」(動詞+进去) 3代詞「本」 4 介詞「	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第11課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第12課前半	1 文型「A是A」 2「為…起见」 3 接続詞「再说」の用法 4「做个市场调查」: 助数詞前の「一」の省略	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第12課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第13課前半	1 過意不去 2 介詞「本着」 3 一定, 一定 4 助動詞「該」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第13課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第14課前半	復習チェックシート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第14課後半	教養としての中国語の基礎語の学習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	総復習	第8課から第13課までを総復習する	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	主言語・共通言語 1 年次中国語
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごと的小テストを行う。平常点5割 単元テスト5割を基準とします。出席は10回以上していないと単位は認定されません。
-----------	---

学生へのメッセージ	必修科目ですからしっかり自覚をもって講義に臨んでください。テストの平均点が6割以上、出席回数が三分の二を越えて、はじめて単位が認定されます。一時限開講科目ですが、30分を越えた遅刻は欠席扱いとなりますので、いつも時間に余裕を持って出席してください。また、随時、始業と同時に復習テスト行います。遅刻、欠席の場合は受験できないのでご注意ください。
-----------	---

担当者の研究室等	中西研究室 (7号館3階)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	総合マレー語 a	科目名 (英文)	Integrated Malay Skills a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	マレー語の基礎的な事項を学習した者を対象として、マレー語運用能力の向上を目指す。配付資料に依拠しながら文法事項について説明する。また、新聞、雑誌、論文、映像資料など多様な媒体におけるマレー語に触れ、理解に努める。学習事項を踏まえて、表現能力を高めるため、受講者にはまとまった量の文章作成等を随時課す。			
到達目標	マレー語能力の向上。			
授業方法と留意点	課題を出すので、自分の到達度を鑑みて自主的に取り組むこと。特に、リスニングの課題は次回授業までに確実に取り組んでおくこと。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	既習事項について復習する。	既習事項の確認問題
	2	文法1 (強勢語)	juga, pun, pula などの強勢語の意味や使用例について学習する。	既習事項の確認と演習課題
	3	文法2 (語尾の表現)	lah, kah などの文末・語末に使われる語について学習する。	既習事項の確認と演習課題
	4	文法3 (ialah, adalah)	マレー語でよく使用される kata pemerl (ialah と adalah) について学習する。	既習事項の確認と演習課題
	5	復習1	第4講義までに学んだ内容について復習を行うとともに、理解度を問う確認テストを行う。	テストのために既習事項を確認する。
	6	文法4 (感嘆語)	amboi, aduh などの感嘆語の使用について学習する。	既習事項の確認と演習課題
	7	表現1 (ことわざと慣用句)	マレー語で使用されることわざと慣用句について、その文化的背景を踏まえて学習する。	既習事項の確認と演習課題 (ことわざと慣用句についてのサイトにアクセスして、課題に取り組む)
	8	表現2 (聞き取り)	マレー語教材を用いて聞き取りを行う。	既習事項の確認と演習課題 (指定した動画ファイルを視聴して課題に取り組む)
	9	表現3 (聞き取り)	マレー語放送を視聴して聞き取りを行う。 中高生向けに書かれた文章を取り上げて講読する。	練習問題と課題文にあるわからない単語について調べてくる。
	10	復習2	第9講義までに学んだ内容について復習を行うとともに、理解度を問う筆記と聞き取りの確認テストを行う。	テストのために既習事項を確認する。
	11	講読1	中高生向けに書かれた文章を取り上げて講読する。	既習事項の確認と演習課題。練習問題と課題文にあるわからない単語について調べてくる。
	12	講読2	マレー語で書かれた雑誌の小記事を取り上げて講読する。	既習事項の確認と演習課題。練習問題と課題文にあるわからない単語について調べてくる。
	13	表現1	地図、図表、写真などを見て、作文を完成させる。	作文のための資料収集と、文章の推敲。
	14	復習3	第13講義までに学んだ諸表現について復習を行うとともに、理解度を問う確認テストを行う。	テストのために既習事項を確認する。
	15	総合復習	確認テストについての講評を行うとともに、地図や図表等に関する受講者の作文を発表する。	作文の完成と既習事項の確認。
関連科目	総合マレー語など、インドネシア・マレー語関係の授業			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合マレー語	上田達	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Kamus Dewan		Dewan Bahasa dan Pustaka
	2	マレーシア語学習辞典	川上雄作	アジアのことばと辞書の会
	3			
評価方法 (基準)	確認テスト (60%) と発表や提出物等の授業への取り組み (40%) と併せて成績を判断する。詳細は第一回目の授業で指示する。			
学生へのメッセージ	日々の研鑽を怠らないようにしてください。			
担当者の研究室等	7号館5階(上田研究室)			
備考	拙著の教科書は第一回目の授業時に頒布する。辞書は二年次に購入したものを継続して使用するので、一回目の授業から持参すること。確認テストは時間内に講評するとともに、翌週に採点のうえ返却する。第三回のテストは授業時間終了後、採点のうえ一週間以内に返却する。			

科目名	総合マレー語 b	科目名 (英文)	Integrated Malay Skills b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	基礎的な事項を学習した者を対象として、マレー語運用能力の向上を目指す。新聞、雑誌、論文、映像資料など多様な媒体におけるマレー語に触れ、理解に努める。学習事項を踏まえて、表現能力を高めるため、受講者にはまとまった量の文章作成やスピーチを随時課す。
到達目標	マレー語能力の向上。
授業方法と留意点	課題を出すので、自分の到達度を鑑みて自主的に取り組むこと。特に、リスニングの課題は次回授業までに確実に取り組んでおくこと。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	前期学習事項の確認を行う。	既習事項の確認と課題文のわからない単語について調べてくる。
2	文法 1	接続詞の用法について学ぶ。	既習事項の確認と演習問題
3	文法 2	接辞の多様な使用方法について学ぶ。	既習事項の確認と演習問題
4	講読 1	マレー文化についてマレー語で書かれた雑誌記事を講読する。あわせて、関連するトピックスに関連した映像資料を視聴する。	既習事項の確認と演習課題 (図書館やウェブからマレー語資料を収集してくる)
5	復習 1	第 4 講義までに学んだ内容について復習を行うとともに、理解度を問う確認テストを行う。	既習事項の復習
6	表現 1	マレー語ニュースを視聴して、内容を要約する。	既習事項の確認と演習課題 (マレー語ニュースにアクセスして、わからない表現や単語をピックアップしてくる)
7	表現 2	マレー語ニュースを視聴して、内容を要約する。	既習事項の確認と演習課題 (興味のあるトピックについて書かれたサイトを探して、わからない表現や単語をピックアップしてくる)
8	講読 2	インターネット上にある口語混じりの文章に触れる。	既習事項の確認と演習課題 (興味のあるトピックについて書かれたサイトを探して、わからない表現や単語をピックアップしてくる)
9	講読 3	マレー語で書かれた平易な本の一部を読む	既習事項の確認と演習課題 (本の該当箇所にあるわからない表現や単語を調べてくる)
10	復習 2	第 9 講義までに学んだ内容について復習を行うとともに、理解度を問う筆記と聞き取りの確認テストを行う。	既習事項の復習。
11	講読 4	マレー語で書かれた平易な本の一部を講読する。	既習事項の確認と演習課題 (本の該当箇所にあるわからない表現や単語を調べてくる)
12	表現 3	マレーシアのラジオ放送について概観を得た上で、口語表現を学修する。	既習事項の確認と演習課題 (マレーシアのラジオ放送を視聴する。わかった内容について報告する準備を行う)
13	演習	マレーシアの学生向けに作られた「国語 (マレー語)」問題に取り組む。	既習事項の確認と演習課題 (該当箇所にあるわからない表現や単語を調べてくる)
14	復習 3	第 13 講義までに学んだ諸表現について復習を行うとともに、理解度を問う確認テストを行う。	練習問題
15	総合復習	確認テストについての講評を行うとともに、学力試験の作文問題を発表する。	学習事項の復習

関連科目 基礎マレー語などインドネシア・マレー語関係の授業。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Kamus Dewan		Dewan Bahasa dan Pustaka
2				
3				

評価方法 (基準)	確認テスト (70%) と発表や提出物等の授業への取り組み (30%) と併せて評価する。詳細は第一回目の授業で指示する。
学生へのメッセージ	日々の研鑽を怠らないようにしてください。
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (上田研究室)
備考	参考書に挙げたマレー語辞書は、課題に取り組む際に大いに参考にすること。 提出物は原則として翌週に返却する。最終回の課題は授業期間終了後一週間以内に評価を記して返却する。

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	This course will focus on the writing of a 3000 word English graduate thesis. During this course, students will get the opportunity to apply the knowledge they acquired in Bunkaenshu I/II. Each student will be working on a self-selected topic, and will be conducting independent research with the assistance of the teacher.																		
到達目標	<p>In this course, you will be able to:</p> <p>Improve your writing and reading stamina. Conduct research both in the library and online. Support your ideas with evidence collected from your research. Manage your own research process. Write at least 1500 words of your graduate thesis.</p>																		
授業方法と留意点	We will be meeting for two semesters each week. Each session will begin with some instruction from the teacher on research or writing methods. However, the majority of each session will be dedicated towards independent research and writing by the students. The teacher will be available during this time to support the students.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>This is the planned schedule. However, schedule may be adjusted in order to respond to student needs.</p> <p>Week 1: Introduction and Thesis Topic Selection Week 2: Thesis Outline Week 3: Evaluating Sources Week 4: Introduction to Library Research Week 5: Writing Research Notes Week 6: Reading and Research Notes Feedback Week 7: Reading and Research Notes Feedback Week 8: Reading and Research Notes Feedback Week 9: Writing the Introduction Week 10: Writing the Literature Review Week 11: Writing the Literature Review Week 12: Literature Review Feedback Week 13: Research and Reading for Content Week 14: Research and Reading for Content Week 15: Research and Reading for Content</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	Outline 20% Research Notes 20% Introduction/Literature Review 30% Participation 15% Completion Checkpoints 15%																		
学生へのメッセージ	There are no assigned textbooks for this course. However, you may be asked to purchase books that are not available at the library in order to complete your research. The teacher will try to keep the purchase of additional books to a bare minimum.																		
担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	Students will continue to develop their ideas started in 3rd year and compose a final thesis.			
到達目標	Students will be able to analyze and synthesize a diverse collection of information, identify a research question, formulate a hypothesis and determine possible solutions.			
授業方法と留意点	Students will collect documents on their topics, evaluate and analyze the information, and together with feedback from the instructor, compose their final research paper.			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	Individualized for each student.			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Students will be evaluated on the content, cohesion and clarity of thought in their graduation theses. Draft 1: 40%, Final Draft 60%.			
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.			
担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	文章（本や論文、記事）を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。 各自の研究のための文献（本・資料）を丁寧に読み、要約、発表、議論を行って、早くから「卒業研究」を執筆する。																
到達目標	文章を解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。																
授業方法と留意点	各回提出物等期日を守ること。 3年次から読んできた先行研究を早くからまとめ、時間的余裕を持ってレポートの作成にあたること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	テーマは、スペインを主とする南欧の歴史・文化・社会・言語の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。 ・現代スペインの社会問題：カタルーニャの独立問題、自治州における言語政策・教育、移民問題など ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題（ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル）、印刷技術（情報革命）、宗教改革、都市の歴史など ・現代スペインの多様な文化、諸地域の固有の文化など ・アメリカ合衆国、メキシコにおけるスペイン語と英語の関係、教育における二言語の状況など とにかく文章を読み、要約し、書き、発表（口頭と文章で）する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	卒業研究とそのための取り組み																
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。 課題提出等には、期日や形式を厳守すること。スケジュールや体調の管理、つまり自己管理を徹底しよう。																
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室																
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。 就活本位で学業をおろそかにすると本末転倒、卒業も危うくなります。前期からスケジュール管理をしっかり行い、遅くなって卒研に着手し慌てたり、丸投げにしたり、「何とかなる」、「就職が決まったから通してもらえ」などと楽観しないように。努力なしに、「何とかなる、どうかしてもらえ」ことなど決してあり得ません。																

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名(英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象および社会現象がいかなる意味をもち、周りにどれほどの影響を与えているのか。3年次の「文化演習」で得た知見をベースにしつつ、各受講生が個別に選択したテーマについて、ディシプリンの見方を怠らずに、より深い考察を行っていく。																		
到達目標	研究作業を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。また、日頃のゼミ活動を通じて、「目くばり」「気くばり」「心くばり」のできる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	基本的には個人個人での取り組みとなるため、研究計画をきっちりと立て、積極的姿勢で進めていくこと。 なお、7月に卒論中間発表会を開催するので、留意のこと。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 各自が卒業研究レポート完成へ向けて、それぞれのテーマを設定し、取り組んでいく。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献資料・インターネット等を活用し、取り組んでいる研究を深化させること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「研究」を進めるために—研究資料ガイド2018—</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2018—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2018—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3																			
評価方法(基準)	毎月のレポート(50%)および積極的に研究を進めていくという受講態度(50%)で評価します。																		
学生へのメッセージ	学生生活の集大成を立派な形として残すことができるように、一生懸命取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)																		
備考	事前事後学習時間 計60時間																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	家口 美智子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3 年間で培った論理的思考を、研究テーマを選びリサーチし自分の論点を書くことで主張するという作業として完成させる。英語で書いても日本語で書いても、全力を尽くして何かを創造する喜びを味わってほしい。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> * 論理的な文章を書く * オリジナリティのある研究を行う * 日頃の疑問をはらす * じっくり考えて、実証して、自分の結論に責任を持つ * 引用の仕方を学ぶ 		
授業方法と留意点	個人指導を行う。ぎりぎりで書き上げるのではなく、時間に余裕を持つと推敲することができるので、より良いものが書ける。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>3 年次に選んだテーマを掘り下げて、トピックを選ぶ。どんなリサーチが可能かを担当教員と話し合って探る。個人指導で文献を紹介したり、トピックについてディスカッションする。</p> <p>冬休み前に卒論発表会を実施する。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業研究への取り組み、卒業研究の内容を総合的に評価する。 平常点 (30%) + 卒業研究レポート (70%)		
学生へのメッセージ	計画を立てて根気よく頑張りましょう。		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	卒業研究レポート執筆を行う。 論文を書くための方法を学ぶ。			
到達目標	卒業研究レポートを仕上げるにあたり、問題理解力と調査・表現技能を身につける。			
授業方法と留意点	論文をたくさん読んで論文の書き方を学習する。 時間に余裕を持つために、早めに執筆に取りかかること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	ゼミの全体指導と個人指導を組み合わせる。 毎回、課題を指示し、前回の課題の添削を行う。 適宜、学生間で研究内容の発表を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜、指示する。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	卒業研究レポートへの取り組み方 (50%)、卒業研究レポートの独創性 (20%)・使用言語の習熟度・論理性 (30%) により総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	大学生生活の総括として、卒業研究に取り組んでください。前学習時間：2時間、事後学習時間：2時間を要する (事前事後学修時間は総 60 時間)。			
担当者の研究室等	7号館4階 皆本研究室			
備考				

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩間 香
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成する。前期は研究テーマに関する文献を収集し、読み、基礎的な知識を身につける。またレポートの章立てを作る。ものの調べ方や文章を読み解く力をつける。																		
到達目標	専門的な文献や資料の探索方法や論文を分析し批判する力を身につける。インターネットへの注意や論文の引用の仕方を学び研究倫理を身につける。論理の組み立てを学び実践する。的確な日本語の文章を書く。																		
授業方法と留意点	教員の指示にしたがい個々に必要な作業を進める。発表を行う。毎回進捗状況をたがいに報告する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>主として美術や文化に関する問題から卒業研究レポートテーマを決める。 関連の論文・文献を収集する。 それらを読み、レポートにまとめる問題点を引き出す。 実地調査・アンケートなど必要な作業を行い、分析考察する。 章立てをまとめる。</p> <p><事前事後学習課題>自分で図書館やインターネットを利用して、必要な文献を集める。 文献を読んで分からないことは自分で調べる。 論文執筆は各自で行い、大学には家で書いてきたものを印刷して持ってくる。(必要な時間は週に6時間以上)</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	参加の態度 50% レポートの内容 50%																		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートは1年かけて行う大変な作業です。苦しいことも多々ありますが、大学で「これを学んだ」という自覚をもつことができます。充実した1年間になるよう、がんばりましょう。																		
担当者の研究室等	7号館5階岩間研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	各自が設定したテーマについて研究を行い、卒業研究レポートを作成する。			
到達目標	各自が設定するテーマについて、論理的に表現できるようになる。 質の高い卒業研究レポートを作成する。			
授業方法と留意点	各自が設定したテーマについて、教員による指導および他のゼミ受講生からのアドバイスを受けながら、卒業研究レポートの作成を進める。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	先行研究を入念に行い、教員による指導を受けて、卒業研究レポートを作成する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 卒業研究レポート 80%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7 号館 3 階 吉村 征洋 研究室			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3 年次文化演習 I・II で各自設定したテーマ及び研究の方向性に基づいて、卒業研究を進める。			
到達目標	卒業研究を進める。			
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて、資料収集・調査及び分析等を行い、卒業研究を進める。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究を作成する。 テーマに基づいて文献収集を行い、毎週報告する。 それにより、卒業研究のアウトラインを完成させる。 毎回、事前の文献収集とまとめ、事後の整理が必要である。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (卒論に取り組む姿勢) 100%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7 号館 4 階 橋本研究室			
備考	事前事後学習時間 計 6 0 時間			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	言語や文化に関して興味のあるテーマを選択し、それについて卒業研究を作成していく。		
到達目標	卒業研究を執筆し、それについて発表することが出来るようになる。		
授業方法と留意点	4月：研究テーマの決め方、資料の集め方などを学ぶ。 5月～6月：資料を収集し、整理する。研究テーマを決定し、予備調査などを行う。 7月：中間報告を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語と文化 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業研究への取り組み姿勢 20% 卒業研究の完成度 80%		
学生へのメッセージ	大学生活も残りあとわずかです。悔いのないように頑張って下さい。		
担当者の研究室等	後藤研究室 (7号館5階)		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名(英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3年次の文化演習で研究したテーマが、卒業研究のテーマとしてふさわしいか、再考する。そして、卒業研究としてのレベルを上げるためにさらに研究を行う。		
到達目標	後期の卒業研究Ⅱにおいて卒業研究レポートが完成できるようにする。		
授業方法と留意点	各自が指示された作業をしっかりと行うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自のテーマを確定した上で、計画に沿って研究を進めていく。なお、この授業では最終目的の卒業研究レポート執筆までのロードマップを指導教員とともに作成する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	ロードマップ通り研究が進行しているか、研究の内容の総合評価。 進行状況 30%、研究内容 70%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階 山口室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。研究内容については授業中に質問し評価する。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3 年次の文化演習で各自設定した研究テーマ・課題に基づいて、卒業研究を進める。これを通じて、アカデミックな調査・資料分析の方法、論理的な思考、論文執筆の技術を習得する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自身の興味関心を見つめ直したり、関連文献を読むことにより、卒業研究レポートで取り扱う研究テーマを決める。 研究テーマにかかわる知識を身に付けたり、資料を収集してじっくりと読み込む。 卒業研究レポートの章構成を固める。 		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究レポート提出までの作業スケジュールを立て、計画的に研究を進める。 ふだんのゼミでは研究の進捗状況を報告し、全員で徹底的に討論する。 7 月には中間発表会を開催し、その報告内容を中間レポートにまとめる。 		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究レポートのアウトラインの完成 ゼミでの報告・討論、個別指導 <p>・ゼミ以外の時間に、各自がどれだけ卒業研究と向き合うかが重要である。 資料収集・読解、報告の準備、文章執筆など、やることは山ほどあるはずだ。</p>		
関連科目	卒業研究 II		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	報告 (討論を含む) 50%、中間レポート 50%		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートは一つのテーマを徹底的に掘り下げる、またとない機会だ。これまでに学んだ知識や方法を用いて、じっくりと取り組んでもらいたい。そして、報告や討論を重ねる中で、研究内容を深化させていく喜びを味わってほしい。		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 柴田研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	卒業研究をすすめ、論文を作成する。学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	問題の発見、読解、データの収集・分析、文章の構成、執筆、全体のマネジメント、ディスカッションといった研究に関わるさまざまな能力を身につける。		
授業方法と留意点	各自が論文作成を進めることを中心としながら、研究内容や論文作成、文献講読の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	論文執筆の他に、研究計画書の作成、文献講読/発表、調査/調査報告等の執筆のための研究活動を実施する		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への出席、発言、報告、レジュメ、調査への取り組み姿勢等をもとに総合的に判断する (100%)。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	計 60 時間以上の事前事後学習を必要とする。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	住吉 誠
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3 年次で学習した、研究資料の収集方法や、研究方法をつかって、学生それぞれのテーマや関心をもとに、ひとつのテーマを選び、文献の渉猟・読み込み、データ収集、考察などを進める。自らの意見を論理だてて述べ、それを自らの言葉に落とし込み、卒業研究を完成させる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマに関連するデータを主体的に収集できるようになる。 2. 自ら収集したデータをもとに、客観的な議論をできるようになる。 3. 先行研究を批判的に読み、自らの意見を代替案として提示できるようになる。 4. 卒業研究の全体構想をもとに、内容を書き進めていく。 		
授業方法と留意点	前期は特に文献の渉猟、読み込み、データ収集に力点を置く。きちんと毎回の授業で指定された作業をこなしてこることが望まれる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：現代英語の語法文法研究</p> <p>内容：文献の読み込み、データの収集などをもとに、指導教員との討議から、できるだけオリジナリティのある考えに到達できることを目指す。</p> <p>事前・事後学習課題：文献の渉猟・読み込み、データ収集などを含めて、卒業論文を少しずつ書き進める。事前・事後学習の総時間を 60 時間とする。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業中の討論や議論 (30%) プレゼンテーション (20%) 期末レポート (50%)		
学生へのメッセージ	文献探しは卒業研究を作成するにあたって基本中の基本です。めんどくがらうに関係のないテーマの本でも読みこみましょう。違った分野のものでも、自分のテーマとの思わぬ関連性やヒントを得ることがあります。		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 住吉 誠 研究室		
備考			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 豊生
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3 年次の文化演習で設定したテーマ (修正・変更可) にもとづき、各自の個別研究を深めていく。調査や整理、発表や討論、さらにレポート・原稿作成という一連の作業のプロセスを通じて、知識や思考を深め、内容を洗練させたい。卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら問題を設定し、文献を探求し、論点を論理的に整理し、まとまったレポートを制作する力を養成する。 ・発表力、聞く力、質問力、コメント力など社会人としての基礎的な力を涵養する。 																		
授業方法と留意点	<p>(前期)</p> <p>まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなう。次に各自、執筆までのスケジュールを立てる。必要な文献を多く読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえて、独自の「結論」を導き出すための問題を設定する。</p> <p>(後期)</p> <p>各自の発表をふまえて執筆にとりかかる。論理的展開と明快な文章を心がけ、4 年間の集大成をおこなう。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】 日本文学・日本文化・日本語をめぐる諸問題 (海外との比較研究を含む)</p> <p>【内容】 各自が三ゼミにおいて設定したテーマを深め、発表する力、聴く力、書く力を養成する。また文献探索の方法や、論文の書き方について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ? テーマの再確認または変更 ? 参考文献の収集 ? 文献の読解・分析 ? 先行研究の分析 ? 論の構想 ? 論文の作成 ? 共同討議 <p>などを柱としてすすめる。</p> <p>【方法】 発表・討議をくりかえし、また個別指導を通じて、卒研レポートの完成をめざす。</p> <p>【事後・事前学習】 自己のテーマの深化・錬成、発表の準備とまとめ</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	口頭発表 (討論含む)・卒業研究レポートを総合的に評価する。発表 50%、卒研レポート 50%。																		
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる貴重な機会です。社会へ出るための最も重要な総合力を養成することをめざしましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (小川研究室)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	<p>3 年次には英語圏に共通する「知っておくべき事柄」(文化知識)に焦点を当て、情報収集・発表を行ってきました。また多読を通して、英語の絵本の深さにも触れました。さらに、後期は、Holes という児童文学を輪読し、伏線の面白さやストーリーからのメッセージを読み取りました。</p> <p>4 年次は、3 年次に築いた「英語圏の基礎知識」の土台の上に、「最近の」あるいは「今の」情報を加えていきます。それぞれに英語の多読を続けながら、卒業研究のテーマ絞り、アウトライン作成、文献や資料の読み込み、論文執筆に取り組みます。</p> <p>最終的には、英語、日本語、文学、映画、教育、文化の中から 2 つ以上を結びつけた卒業研究テーマを掘り下げ、新たな視点を加えながら論文の作成にあたります。</p>																
到達目標	卒業研究レポートとして扱うテーマを選び、資料収集、文献の読み込みを始めます。夏休みまでにはレポートの論理的なアウトラインができていること、最終的に完成度の高い論文を仕上げることを目標とします。																
授業方法と留意点	卒業研究レポート執筆の手順、構成、テーマなどを確認します。文献・資料の収集を続ける傍ら、それを整理し、論文の大まかな構成を考えます。調査が必要ならその準備をし、実行します。指導を受けながら、情報の追加、削除、論理の修正など推敲を重ねます。																
授業テーマ・内容・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>春休み： テーマの絞り込み、骨子となる参考文献や資料の収集・読み込み、アウトライン作成</p> <p>前期： 先行研究執筆、必要ならばアンケート・インタビュー調査、現地調査の準備調査実施</p> <p>夏休み： 文献の読み込み、調査結果分析、中間発表①</p> <p>後期： 論文執筆、中間発表②、推敲、(必要であれば)追加調査、分析</p> <p>1 月： 論文提出</p> <p>1 月末： 口頭試問、ピアレビュー、コメント書き</p> <p>それぞれが教員の指導とアドバイスを受けながら執筆を進めます。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	毎週の課題 30% 中間発表 20% 卒業研究レポート 50%																
学生へのメッセージ	調べた情報は、信ぴょう性を疑ってかかり、必ず信頼できる出典を明らかにしてください。 卒研レポートは、提出までにどれまで推敲を重ねたかで完成度とそれに伴う評価も変わります。																
担当者の研究室等	7 号館 5 階 松田研究室																
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とします。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていきます。																

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	卒業研究レポートの作成を指導する。文化人類学という広い枠を設けるものの、受講者の関心からテーマを設定して、その研究を指導する。文献の調べ方、データの収集、文章表現など、卒業研究レポート作成のために必要な知識や能力を涵養する。各自の主題に関連する文献講読と、各自の調査主題の報告が授業の中心となる。		
到達目標	卒業研究レポートの作成。		
授業方法と留意点	卒業研究完成のために計画的に取り組むことができるよう、時期にあった指導を行う。前半は完成のための礎作りのための時期とし、後半は論文作成を意識する時期とする。 卒業研究を有意義なものにするためには、受講者の主体性が必要である。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	受講者の関心に基づいて、調査主題を設定していく。そのうえで、関連するトピックについて書かれた文化人類学や社会学の文献の講読を進める。毎回報告者を指名するので、報告者は配付資料を用意して 30 分程度で内容について報告する。コメンテーターは 5 分程度のコメントをする。報告者とコメンテーターと聴衆のいずれの役割においても発言することが求められるので、指定された文献を精読してくる。各自の調査成果報告においても、同様の役割分担を行う。時間を有効に活用するため、授業時間外の作業の質と量が問われる。報告とディスカッションを経て、期末レポートを作成するための指導を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	毎回の授業への取り組み (20%) と発表内容 (30%)、および期末レポート (50%) から総合的に判断する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		
備考			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・文化演習 I、II で学んだことをもとに、舞台芸術を中心としたテーマで研究を進める。 ・資料収集やその活用の仕方、さらに論文の書き方などの習得を目指す。 																		
到達目標	研究テーマに関する文献を収集し、読み込んだ上で、卒業研究レポートの構成を考える。																		
授業方法と留意点	それぞれのテーマに合わせて指導を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 舞台芸術を中心とした芸術・文化研究</p> <p>【内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文の書き方について学ぶ。 ・文化演習 I、II の成果をもとに、各自の研究テーマに応じた資料収集を行う。 ・論文の構成を考え、それに基づいた研究発表を行う。 <p>【事前・事後学習課題】 参考資料の収集・読み込み、研究発表準備、及び卒業研究レポートの作成など</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜紹介する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜紹介する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜紹介する。																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 (授業に取り組む姿勢など)、及び卒業研究の進捗状況：100%																		
学生へのメッセージ	毎回の授業では、積極的に議論に参加すること。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 神崎研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。卒業研究レポートの作成過程でフィードバックを行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	生活する中で接する身近な言語表現、ジェスチャー、視線行動など、ゼミ生各自が気になる現象を含んだデータを持ち合い、とことんデータについて様々な角度から議論していく。そのような議論を通じて、データの見方、分析方法をお互いに切磋琢磨して磨いていく。ゼミ生仲間からの様々なインプットや気づきを得る中で、各個人が卒業研究レポートに向けて、より一層分析を深め、より質の高い、「厚みのある」記述ができるようになることを目指す。また、卒業研究レポート作成に向けて、特定のスタイルシートに基づいて、アカデミックな文章を書けるように適宜指導していく。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な言語表現、ジェスチャー、視線行動など、膨大な自然な談話データのなかで、特定の現象に焦点を定め、課題設定できるようになること ・データに基づいた客観的な論証ができるようになること ・先行研究を客観的に批評できるようになること ・特定のスタイルシートに基づいて、アカデミックな文章が書けるようになること 																
授業方法と留意点	授業では、順番に自分の興味のある現象を含んだ会話データを2~3つ持ってきてもらい、そのデータをゼミ生全員で議論していきます (ゼミ生が会話分析で卒業研究レポートを書く場合)。または、順番に自分の研究の進捗状況 (読んだ文献のレビュー、データを含めた報告) を発表してもらい、それに基づき、ゼミ生全員で議論していきます (ゼミ生が会話分析以外で卒業研究レポートを書く場合)。																
授業テーマ・内容・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ・内容・方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生各自が興味のある現象を含んだ会話データについて、ゼミ生全員で議論していく (データ・セッション) ・卒業研究レポートの進捗状況について、報告・発表する ・卒業研究レポートの中間報告 <p>【会話分析】</p> <p>事前学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味のある現象を含んだ会話データ (ターゲットとなる現象の前後 15~30 秒) について、会話分析の転記方法に基づいて、データを書き起こす。毎回 2~3 つのデータについて議論するので、2~3 つのデータを書き起こしを行う。その際、当該現象について、最もクリアなケース (自分にとって説明がしやすいもの) から順番に 2~3 つ用意するとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミでデータを披露する前に、会話分析の基本的な組織や考え方 (順番交替組織、連鎖組織、修復組織、優先性の組織、物語りの構造、成員カテゴリー etc.) を踏まえて、分析しておく <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生、教員から得られたインプットを、Word などに「自分のことば」でしっかりまとめておく ・ゼミ生、教員からのインプットに基づいて、データを再分析してみる <p>【会話分析以外】</p> <p>事前学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近自分が読んだ文献のレビュー (要約とレビュー)、研究の進捗状況について、報告・発表に向けてまとめておく。また、報告・発表の際に、図や表などオーディエンスの理解を最大限に高めるためのやり方について十分検討したうえで準備を進めておく <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生、教員から得られたインプットを、Word などに「自分のことば」でしっかりまとめておく ・ゼミ生、教員からのインプットに基づいて、報告・発表内容を修正する 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>会話分析入門</td> <td>串田秀也・平本毅・林誠</td> <td>勁草書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>論文・レポートの基本</td> <td>石黒圭</td> <td>日本実業出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	会話分析入門	串田秀也・平本毅・林誠	勁草書房	2	論文・レポートの基本	石黒圭	日本実業出版社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	会話分析入門	串田秀也・平本毅・林誠	勁草書房														
2	論文・レポートの基本	石黒圭	日本実業出版社														
3																	
評価方法 (基準)	卒業研究レポートの進捗状況：50% 報告・発表における議論への貢献度：20% 中間発表：30%																
学生へのメッセージ	卒業研究レポートを作成する過程で、ゼミ生、教員みんなで熱く議論することで、いろいろな発見や気づきが得られるはずです。卒業研究レポートで大学生活での有終の美を飾ってほしいと思います！！																
担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室																
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ (修正・変更可) にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	テーマに関して、何を調べたいのかを常に確認しながら、自分の考えをまとめつつ少しずつ書き進めること。何度も読み返し、修正を加えながら、一つのまとまった論を作る努力を重ねてください。																		
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない (「結論」の導き出せる) 問い (問題) を設定すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 各自が決めた内容に関し、それに関する本や文献に当たり、しっかり読み込んでまとめながら書き進めること。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 30%、課題・発表 20%、卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成は大変な作業ですが、頑張ってよいレポートを書いてください。																		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】 卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。</p>																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	研究テーマ・課題を設定し、論文を作成する。これを通じ、学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	研究計画書に沿って、論文作成を進める。研究内容や論文作成の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究計画書を作成する (卒業研究のテーマに関する文献のレビューおよび調査方法の説明を含む)。 ・ 調査に着手する。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	演習への出席、発言、口頭発表、調査への取り組み姿勢に基づいて行う (100%)。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 赤澤研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	国際文化演習で行った課題を自らの研究テーマにあわせて資料収集し、それを調査しながら研究報告にまとめる。グループ・ゼミと個人ゼミを組み合わせながら指導を卒業研究レポートを完成させる。																		
到達目標	下記の3つの能力を到達目標とする ①課題解決能力：与えられた課題を期限内に解決できる。 ②論理的記述能力：内容を論理的かつ簡潔に記述し、卒業研究レポートを完成させる。 ③社会的理解力：研究テーマの社会的意味や影響力を理解する。																		
授業方法と留意点	(前期) 1回目：オリエンテーション 2回目以降：執筆までの各自のスケジュールを計画しそれを実行する																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】社会開発・国際開発・国際理解の展望 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢 (50%) と、卒業研究の進捗状況 (50%) に基づいて評価																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考																			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大原 一浩
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	卒業研究を各自進める。具体的には、設定したリサーチクエストに基づき、資料の収集と分析、論文の執筆を行う。ゼミにおけるプレゼンテーション、教員との個人面談を通じて、研究の方向性や進捗状況をしっかり把握し、完成に向けて作業を着実に進める。		
到達目標	① 問題を設定し、それに答える方法を考え、実行し、分析する力を養う。 ② 証拠を提示しながら筋道の通った文章を書く力をつける。		
授業方法と留意点	担当教員との面談に際し、きちんと準備して望むこと。卒業研究を完成させるには時間がかかることを自覚し、定期的に着実に進めていくこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究レポート指導 / 文献の読み込み、担当者との討論、データの収集などを行う		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加点 50% (進捗状況の発表、コメント・質問など) 教員との面談の内容 50% (きちんと準備してきたかどうか、自分で考えて発言できたかどうか)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (大原 一浩研究室)		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	文化演習で研究したテーマをもとにそれをより深く掘り下げるとともに、関連する問題を幅広く取り上げながら独自の見解を展開する。授業で調べた内容を逐次発表しながら、最終的には論文の形式にまとめる。			
到達目標	収集した資料から必要なものを選び出し、それを効果的に利用しながら議論を展開する能力を身につける。また、論文を作成する作業を通して、論理的に思考しそれを分かりやすい文章にまとめる力をやしなう。			
授業方法と留意点	授業では発表を重視する。レポート作成の過程では、章立てとそれを作成するスケジュールを自ら決め、その進捗状況をつねに指導教員に報告する。また、利用する可能性のある資料はすべて引用元を明らかにした状態で整理、管理する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	研究テーマは自由に選択してよい。ただ、基本のテーマは「アニメ作品中国語版にみる翻訳技術について」とし、これに沿ったテーマを選ぶ場合は下のような内容となる。 ディズニーやスタジオジブリ作品の多くには複数の中国語版が存在する。この研究では、英語や日本語による原語セリフと 2 種の中国語セリフを比較対照し、2 人の翻訳者の技術や表現における工夫がどのように違うかについて検討する。また、こうした作業を通して、「よい翻訳とは何か」について考える。			
関連科目	日中観光文化と通訳法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ゼミへの取り組み、発表：50% 卒業研究レポートの内容：50%			
学生へのメッセージ	就職活動で忙しい時期です。あわてることなく、でも着実に研究を進めましょう。			
担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化（国際）ビジネス論の分野を中心に、各自がテーマを設定し、その研究を進めていきます。 ・(1) 文献や資料の収集とその活用法、(2) 論文の書式や引用・参考文献等の表記法、(3) 客観的なデータ分析に基づく論文の展開法、などの習得を主な授業目的とします。 																		
到達目標	研究テーマの決定と、その卒業研究レポートの骨子を作成することを目標とします。																		
授業方法と留意点	各自の研究テーマおよびその進行状況に応じて、指導を行っていきます。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化（国際）ビジネスなどの分野に関する研究を、演習形式で進めていきます。 ・まず、4～5月に、3年次末の第1回中間研究発表を踏まえて、それぞれの研究テーマを再確認します。 ・次に、論文の基本的な書式や展開について学びながら、参考文献や資料の収集を行っていきます。 ・さらに、論文の骨子を作成し、後期の研究作業につなげます。 <p>【事前事後学習課題】 参考文献・資料等で研究テーマについて調べ、要点を整理していきましょう。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とします。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていきます。</p>																		
関連科目	文化演習 I・II など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢（50%）と、卒業研究の進捗状況（50%）を合わせて評価します。																		
学生へのメッセージ	就職活動との両立を心がけてほしいと願っています。																		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																		
備考																			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3 年次文化演習での蓄積をもとに各自の研究を進め、アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業論文 (研究レポート) を完成に近づけます。																		
到達目標	前期のうちに卒研の全体像が見えてくるところまで進める。例えば 4 章構成の卒研であれば、2 つの章の下書きを書き終え、残りの 2 章にどのような資料を使って何を書くかという目的が立っている状態にする。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週 2 回の授業時間を分割し、各ゼミ生について隔週で 30 分程度のアポイントを取り、研究室で原稿の添削を受けたり、次のアポイントまでの進め方についての個別指導を受けてもらいます。個人面談とは違いますので、アポイントを取っている学生以外にも研究室を開放します。ゼミ仲間が受けている添削やアドバイスを聞いて自分の作業への参考にしたり、研究室の PC と資料を使って自由に作業することができます。 ・ ゼミ生全員が集合し、各自の進行状況について報告し合う全体ミーティングも毎週 30 分程度行います。 ・ PC の基本操作には 3 年次のうちに完全に習熟している必要があります。経済的に困難でなければ、自分のノート PC を所有して下さい。 ・ 就職活動と並行して進めなければなりませんので、覚悟してください。「内定が出るまでは何もできなくても仕方がない」という姿勢では、就職活動も卒論もどちらも上手く行きません。両方、しっかりやりましょう。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ボカホントス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「白雪姫 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」</p> <p>【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミ活動全体への貢献 (50%) + 卒業論文・研究レポートの進行状況 (50%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 階鳥居研究室																		
備考																			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3 年次の文化演習における議論をさらに発展させ、その成果を卒業研究レポートでまとめる。			
到達目標	英文で 3 5 0 0 語以上の卒業研究レポートを作成する。			
授業方法と留意点	卒業研究レポートと就活を両立させる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究レポートについて共通の理解を図る。 前期・・・個別指導 (木 1)、個別指導 (金 1)、月に 1 回読書会をおこなう。 後期・・・3ゼミとの合同授業 (火 3)、個別指導 (月 2・金 1)			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	卒業研究への取り組み・・・100%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7 号館 3F 天野研究室			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	In this course, students will continue to research and learn about the topics introduced in 3rd year on tourism and hospitality in English. Cross cultural issues will be discussed to create an awareness of customer service in both Japan and overseas. Students will write further on their graduation thesis in English. Reading for pleasure will be encouraged, to expand vocabulary and improve all four skills - speaking, listening, reading and writing. Oral presentations of thesis material and discussions will take place to encourage confidence in English. Job skills - interviewing techniques and answers will be reviewed."																		
到達目標	Students should improve their four skills of reading, writing listening and speaking in this double period class where only English is used.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(First term) Thesis topics which have already been decided upon will be researched at length, typed out and a Part 1 copy handed in by the end of the term. Students will attend an English play during the year.</p> <p>Academic writing skills will continue to be studied to help in the process.</p> <p>(Second term) Students will continue to write their thesis papers (Part 2). Oral presentations on thesis topics will take place and hospitality related excursions will be organized with students researching locations. Students will participate in the speech and recitation contest. Second term will be the time for more intensive study in English.</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English for International Tourism</td> <td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Basic steps to writing research papers</td> <td>Kluge and Taylor</td> <td>Cengage</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and drama events.																		
学生へのメッセージ	Reading is the core of your English improvement, so be prepared to read lots. English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on trying, and studying outside class on a daily basis.																		
担当者の研究室等	田浦研究室 7 号館 5 階																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	《近現代地域研究》 各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付け、卒業研究を完成させることを最終的には目指す。 具体的には、まず第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」(データ・資料)を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。 こうしたプロセスを実践的に試行錯誤し、質の高い卒業研究を完成させるためのゼミにしたいと考えている。																
到達目標	1. 卒業研究の完成を最終的な目標とする。 2. 演習においては、自らの研究計画をまとめて調査研究を進めるとともに、他の学生の様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。																
授業方法と留意点	1. 学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 2. 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。 3. 卒業研究の執筆にあたっては、それらのプロセスを踏まえて着手することを前提条件とする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人の調査研究に基づく発表を行ない、相互の意見交換を通じて研究の進展を促す。 (なお、発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。)																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点 (発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等) 50% 卒業研究 (研究計画・中間報告を含む) 50%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7 号館 4 階 田中研究室																
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田中 秀毅
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成するために、適切な研究テーマを選定し、参考文献の検索や言語データの収集の仕方、説得力のある議論の展開方法、読み手に親しい書き方などを修得する。英語の文献を正確に読めるように、文化演習 I・II で取り組んだ学校英文法の洗い直しと英単語の成り立ちの学習を続ける。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業研究の研究テーマを決定する。 2. 参考文献や資料を検索し、その内容を分かりやすく要約する。 3. 説得力のある論証方法を身につける。 4. 言語学的な視点で学校文法をとらえ直す。(継続) 5. 英語語彙力を強化する。(継続) 																		
授業方法と留意点	<p>本科目は、研究テーマを問わず必要となる、研究レポートの構成や書式、MS ワードの操作法などの共通事項について学ぶ。詳しいスケジュールは別紙の「卒業研究指導計画」を参照のこと。</p> <p>留意点は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「卒業研究指導計画」に従って卒業研究を計画的に進めること。 2. 個人面接の有無にかかわらず、授業時間内に組み込みの“積み上げ”を残すこと（時間を無駄にしない）。 3. 考察の範囲は欲張らず、一定の成果がでてから広げるようにすること。 4. 欠席はやむを得ない場合を除き極力避けること（本科目は授業であって、自由参加型の勉強会ではない）。就活などで欠席した場合は、次の授業の前日までに課題や配付物について確認し、自分の責任で補完しておくこと。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの決定と関連する概念の理解 2. 参考文献の調査と要約 3. 先行研究の評価（問題点や未解決の課題など） 4. 研究論文の作法の理解 5. MS ワードの活用法の習得（IT リテラシー） 6. 学校英文法の洗い直し（継続） 7. 英単語の成り立ちの理解（継続） <p>【事前事後学習課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマに関する概念を調べ、理解する。 2. 参考文献の調査し、要約する。（プレゼン、中間レポート） 3. 先行研究を評価し、自分の研究の方向性を定める。（同上） 4. 「チェックリスト」を通読し、参考文献を APA スタイルでリストする。 5. 卒業研究レポートの様式を MS ワードで作成し、例文や図表をきれいにレイアウトする。 6. 指定箇所の予習 7. 同上 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜プリントを配付する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜プリントを配付する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜プリントを配付する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>論文の教室</td> <td>戸田山 和久</td> <td>NHK ブックス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>語彙力養成の総合英語</td> <td>Joe McKim</td> <td>英潮社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ビジュアル英文法</td> <td>黒川裕一</td> <td>南雲堂</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	論文の教室	戸田山 和久	NHK ブックス	2	語彙力養成の総合英語	Joe McKim	英潮社	3	ビジュアル英文法	黒川裕一	南雲堂
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	論文の教室	戸田山 和久	NHK ブックス																
2	語彙力養成の総合英語	Joe McKim	英潮社																
3	ビジュアル英文法	黒川裕一	南雲堂																
評価方法（基準）	<p>以下の各項目について、指定された割合で総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究中間レポート 60% ・プレゼン 20% ・授業態度（研究や英語学習への取り組み姿勢、積極性など）20% 																		
学生へのメッセージ	卒業研究は、単なる専門知識の修得ではなく、論理的思考力を磨くための最大にして、最後の取り組みです。知識は分野によって変わりますが、思考力はさまざまな分野に応用でき、卒業後の人生を支えてくれるでしょう。そんな思考力を確実に会得できるように真剣に取り組ましましょう。																		
担当者の研究室等	非常勤講師室（7号館2階）																		
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の分析では英英辞典を使用することが強く推奨される。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。 2. 欠席は授業に出席しなかった場合（公欠・忌引き・病欠を含む）のすべてを対象とする（ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること）。欠席回数が4回を超えると研究の進捗に支障をきたすので避けること。なお、欠席した場合は、自己責任によって授業内容を習得しなければならない。 3. 遅刻は重要な連絡事項を聞き逃したり、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。 4. レポートなどの提出期限は厳守すること。就活を理由にして締切日を延長してもらおうとせず、むしろ締切日より早く提出することを考えること。 5. 事前事後学習時間の総時間を 60 時間とする。合わせて、卒業研究レポートの作成も進めていく。 																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	文化演習で学んだ知識をもとに、卒業研究のテーマを決定する。アンケートや聞き取り調査などを要する場合は、その準備・実施・分析を行い、それに基づき主体的に考察し、論理的な文章が書けるようになることをめざす。論文の構成と論旨についてゼミ生間で互いに建設的な批判や示唆を与えあうことが重要である。			
到達目標	研究テーマを決め、必要な文献・資料を収集し、先行研究を整理した上で、自分なりの視点と執筆目的を明らかにし、執筆に取り組む。			
授業方法と留意点	今日の多文化状況をめぐり、具体的な地域や国を対象として調べたことを発表する。その社会がグローバリゼーションのなかで直面している諸相に着目し、ひとつのテーマに絞り込んで、必要かつ確かな資料の収集と分析を進め、ゼミを報告の場とする。テーマによってはフィールドワークや聞き取り調査を積極的に実施してほしい。夏休み前に卒業研究レポートのアウトラインを作り、発表しあう。意見交換を重視する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】人の移動における「包摂と自律」 【事前事後学習課題】段階に応じた研究報告を毎回準備する。			
関連科目	専攻語科目、専攻言語圏に関する文化科目、マイノリティ論、歴史学・社会学・政治哲学系科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	問題意識を深める取り組み (50%) と研究報告 (50%) によって評価する。			
学生へのメッセージ	思考の過程をしっかりと刻んだ卒業研究レポートを計画性をもって書き上げてください。必ず読むべき文献は、各自のテーマと研究対象地域に応じて指示します。			
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室			
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 日本語・日本語教育</p> <p>【授業概要・目的・到達目標】 3年次の文化演習で学んだことを基に、広い意味の「日本語教育」-----日本語学・第二言語習得・異文化コミュニケーション・教授法・多文化共生等-----に関して、各自が設定したテーマについて考察し、卒業研究レポートを完成する。</p>																		
到達目標	<p>*スケジュールにしたがって、執筆作業を進めていくことができる。 *自分が設定したテーマに関して、自分なりに調査・分析・考察し、論理的な文章を書くことができる。</p>																		
授業方法と留意点	各自が関心を持ったテーマについて、文献及び資料を収集する。資料収集・調査・分析等の研究方法や論文執筆の指導を個別に行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 各自の研究テーマについてのディスカッション、論文執筆、論文添削</p> <p>【事前事後学習課題】 資料、文献収集、文献講読、論文執筆、推敲</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	卒業研究に取り組む意欲・態度 (20%) , 論文の内容 (80%) により総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (門脇研究室)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3 年次に決定したテーマに基づいて卒業研究レポートの執筆を進める。		
到達目標	テーマに基づいた資料の収集・読解。 卒業研究のアウトラインの完成。		
授業方法と留意点	昨年度中に決定した「テーマ」の確認、発表、卒論の執筆、草稿段階での指導、最終的な完成という手順で進める。 序章、第 1 章の原稿は、早い時期に一度発表を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究を進めるための個別指導を中心とする。 昨年度に引き続き、卒業論文の作成を進める。 全体のプランについて、中間発表を行う (7 月の予定)。 卒業論文の作成に当って配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加態度・課題の達成 (100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 有馬研究室		
備考	事前事後学習時間 計 60 時間		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ（修正・変更可）にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。			
到達目標	卒業研究レポートの作成に必要な知識およびデータをすべて取得し、独創性のある章立てを考える。			
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない（「結論」の導き出せる）問い（問題）を設定すること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 西洋社会史の総合研究 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前事後学習の総時間数は約 60 時間。			
関連科目	卒業研究 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	口頭発表・ディスカッション（30%）・レポート（70%）で評価する。			
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。			
担当者の研究室等	7号館4階 林田研究室			
備考	口頭発表に関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは、執筆過程でそのつどおこなう。			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	文化演習 I、II でのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。			
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。			
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に際し、先行研究 (文献) の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ゼミへの取り組みと卒研の内容 (100%)			
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。			
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室			
備考				

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3年次の演習で習得した知識をベース、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を向上させる。																		
到達目標	ことわざに関する比較研究を行うことによって、広い視野から国際理解を深め、言葉の感受性を豊かにし、中国語力を高めるのを目指す同時に、卒業研究レポート作成を指導し、研究能力を育成する。																		
授業方法と留意点	各自テーマを決め、収集した資料と検討を行った文章をパソコンディスプレイで提示しながら説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日中のことわざの比較 <p>【事前事後学習課題】 指示に従って、文献等で内容を調べたうえ、レポート草稿を作成して来る。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中国ことわざ教室</td> <td>尹斌庸</td> <td>泉書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中国語ことわざ用法辞典</td> <td>金丸邦三・孫玄齡</td> <td>大学書林</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>新明解 故事ことわざ辞典 第2版</td> <td>三省堂編修所</td> <td>三省堂</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国ことわざ教室	尹斌庸	泉書房	2	中国語ことわざ用法辞典	金丸邦三・孫玄齡	大学書林	3	新明解 故事ことわざ辞典 第2版	三省堂編修所	三省堂
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中国ことわざ教室	尹斌庸	泉書房																
2	中国語ことわざ用法辞典	金丸邦三・孫玄齡	大学書林																
3	新明解 故事ことわざ辞典 第2版	三省堂編修所	三省堂																
評価方法 (基準)	毎回の提出物 50%、レポート 50%。																		
学生へのメッセージ	努力を惜しまなければ、成功につながります。																		
担当者の研究室等	7号館3階 (兪研究室)																		
備考																			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 英語圏・スペイン語圏、および日本語圏と関わりを持つ言語と文化</p> <p>【 授業概要・目的・到達目標 】 3年次の文化演習で学んだことを生かして、学生各自がテーマを設定し、卒業研究レポートを作成する。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1つの話題に関して複数の立場で判断する姿勢を身に着ける。 ・ 情報の精度や公平性を気に掛けるようになる。 ・ 社会人になってからも通用する、責任をもった調査やレポートの書き方を身に着ける。 																		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて資料を収集し、資料の調査・分析など情報のインプットの方法を学ぶ。さらに、論文の構成や発表方法など情報のアウトプットの方法を学び、最終的に卒業研究レポートを完成させる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	英語圏の歴史・文化・文学や英語教育をテーマとするが、学生が個々に関心をもつテーマを選んでかまわない。																		
関連科目	ゼミの学生各自の発表と、リサーチや研究のルールの学習を、並行して行う。社会人として卒業後も活かせる知識や技術となるので、授業はもれなく全力で参加しよう。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の討論・発表 50% ・ 卒業研究レポートの中間報告 50% 																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学生の間にしておきたいことを、1つでもたくさんやってみましょう。 ・ 一生記憶に残るような良いレポートを仕上げましょう。 																		
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	This course will focus on the writing of a 3000 word English graduate thesis. During this course, students will get the opportunity to apply the knowledge they acquired in Bunkaenshu I/II. Each student will be working on a self-selected topic, and will be conducting independent research with the assistance of the teacher.																		
到達目標	<p>In this course, you will be able to:</p> <p>Improve your writing and reading stamina. Conduct research both in the library and online. Support your ideas with evidence collected from your research. Manage your own research process. Complete your graduate thesis.</p>																		
授業方法と留意点	We will be meeting for two semesters each week. Each session will begin with some instruction from the teacher on research or writing methods. However, the majority of each session will be dedicated towards independent research and writing by the students. The teacher will be available during this time to support the students.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>This is the planned schedule. However, schedule may be adjusted in order to respond to student needs.</p> <p>Week 1: Introduction and Planning Research Week 2: Reading and Research Week 3: Reading and Research Week 4: Complete Outline Week 5: How to Use References and Citations Week 6: Reading and Research Feedback Week 7: Final Reference Feedback Week 8: Writing the Body Week 9: Writing the Body Week 10: Writing the Body Week 11: Writing the Conclusion Week 12: Graduate Thesis Final Check and Submission Week 13: Graduate Thesis Feedback Week 14: Graduate Thesis Feedback Week 15: Graduate Thesis Feedback</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<table> <tr> <td>Outline</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>Research Notes</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>Body/Conclusion</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>Participation</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>Completion Checkpoints</td> <td>15%</td> </tr> </table>			Outline	20%	Research Notes	20%	Body/Conclusion	30%	Participation	15%	Completion Checkpoints	15%						
Outline	20%																		
Research Notes	20%																		
Body/Conclusion	30%																		
Participation	15%																		
Completion Checkpoints	15%																		
学生へのメッセージ	There are no assigned textbooks for this course. However, you may be asked to purchase books that are not available at the library in order to complete your research. The teacher will try to keep the purchase of additional books to a bare minimum.																		
担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	Students will continue to develop their ideas started in 3rd year and compose a final thesis.			
到達目標	Students will be able to analyze and synthesize a diverse collection of information, identify a research question, formulate a hypothesis and determine possible solutions.			
授業方法と留意点	Students will collect documents on their topics, evaluate and analyze the information, and together with feedback from the instructor, compose their final research paper.			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	Individualized for each student.			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	Students will be evaluated on the content, cohesion and clarity of thought in their graduation theses.			
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.			
担当者の研究室等	7号館3F ハーキー研究室			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	文章(本や論文、記事)を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにする。 これまでに着手・推敲してきた「卒業研究」を整える詰め段階。		
到達目標	文章を解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。 文法的・論理的文章を書くこと。		
授業方法と留意点	各回提出物等期日を守ること。 3年次から読んでまとめてきたものを、時間的余裕を持ってレポートの体裁にしていく。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	テーマは、スペインを主とする南欧の歴史・文化・社会・言語の研究。 文章指導。論理的文章を書くこと。前期に執筆・発表しているものを手直ししていく。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	卒業研究とそのための取り組み(100%)		
学生へのメッセージ	これまでの勉学の総まとめ、仕上げの段階です。後期は前期におおよそ書いたものを修正することを基本とします。 課題提出等に際しては、期日や形式を厳守すること。スケジュールや体調の管理、つまり自己管理を徹底しよう。		
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。 就活本位で学業をおろそかにすると本末転倒、卒業も危うくなります。前期からスケジュール管理をしっかり行い、遅くなって卒研に着手し慌てたり、丸投げにしたり、「何とかなる」、「就職が決まったから通してもらえ」などと楽観しないように。努力なしに、「何とかなる、どうにかしてもらえ」ことなど決してあり得ません。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象および社会現象がいかなる意味をもち、周りにどれほどの影響を与えているのか。3年次の「文化演習」で得た知見をベースにしつつ、各受講生が個別に選択したテーマについて、ディシプリンの見方を怠らずに、より深い考察を行っていく。																		
到達目標	研究作業を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。また、日頃のゼミ活動を通じて、「目くばり」「気くばり」「心くばり」のできる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	基本的には個人個人での取り組みとなるため、研究計画をきっちりと立て、積極的姿勢で進めていくこと。 なお、秋には3年ゼミと合同でのゼミ旅行を実施し、1月には卒論最終発表会を開催するので、留意のこと。 また、「卒業研究レポート」提出後に、『浦野ゼミ卒業論文集』としてまとめるので、その点も留意のこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 各自が卒業研究レポート完成へ向けて、それぞれのテーマを設定し、取り組んでいく。 ちなみに、2017年度生が取り組んだテーマ(卒業研究レポート題目)は次の通りである。 「インドネシア語とマレー語の差異—それぞれの言語の発展過程を踏まえて—」「化粧品広告のコマーシャルメッセージ—資生堂のキャッチコピーからみえるもの—」「日本におけるドラッグストアの発展—地域性と多様性の交錯—」「プロ野球における2番打者の果たす役割—データ分析と野球人の言説からの考察—」「『結婚』をめぐる地域性—結婚情報誌『ゼクシィ』からみえる結婚式の姿—」「自動車運転免許に関する総合的研究—日本とアメリカの比較を通じて—」</p> <p>【事前事後学習課題】 文献資料・インターネット等を活用し、取り組んでいる研究を深化させること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>浦野ゼミ卒業論文集各年版</td> <td>浦野ゼミ</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「研究」を進めるために—研究資料ガイド2018—</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	浦野ゼミ卒業論文集各年版	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2018—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	浦野ゼミ卒業論文集各年版	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2018—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
評価方法(基準)	積極的に研究を進めていくという受講態度(50%)および卒業研究レポートの内容:完成度(50%)で評価します。なお、卒研レポートの完成度の判断については、審査段階における副査の先生のご意見も参考にします。																		
学生へのメッセージ	学生生活の集大成を立派な形として残すことができるように、一生懸命取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)																		
備考	事前事後学習時間 計60時間																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	家口 美智子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3年間で培った論理的思考を、研究テーマを選びリサーチし自分の論点を書くことで主張するという作業として完成させる。英語で書いても日本語で書いても、全力を尽くして何かを創造する喜びを味わってほしい。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> *論理的な文章を書く *オリジナリティのある研究を行う *日頃の疑問をはらす *じっくり考えて、実証して、自分の結論に責任を持つ *引用の仕方を学ぶ 		
授業方法と留意点	個人指導を行う。ぎりぎりで書き上げるのではなく、時間に余裕を持つと推敲することができるので、より良いものが書ける。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 3年次に選んだテーマを掘り下げて、トピックを選ぶ。どんなリサーチが可能かを担当教員と話し合って探る。 個人指導で文献を紹介したり、トピックについてディスカッションする。</p> <p>冬休み前に卒論発表会を実施する。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	卒業研究への取り組み、卒業研究の内容を総合的に評価する。 平常点(30%)+卒業研究レポート(70%)		
学生へのメッセージ	計画を立てて根気よく頑張りましょう。		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	卒業研究レポート執筆を行う。 論文を書くための方法を学ぶ。		
到達目標	卒業研究レポートを仕上げるにあたり、問題理解力と調査・表現技能を身につける。		
授業方法と留意点	他者の執筆した書籍や論文を多数読み、論文の書き方を学習する。 学習した論文の書き方に沿って、実際に執筆する。 執筆した原稿の修正・校正を経て、卒業研究レポートを完成させる。 時間に余裕を持つために、早めに執筆に取りかかること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	個人指導とする。 毎回、課題を指示し、前回の課題の添削を行う。 適宜、学生間で研究内容の発表を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	適宜、指示する。	
	2		
	3		
評価方法(基準)	卒業研究レポートへの取り組み方(50%)、卒業研究レポートの独創性(20%)・使用言語の習熟度・論理性(30%)により総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	大学生活の総括として、卒業研究に取り組んでください。		
担当者の研究室等	7号館4階 皆本研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩間 香
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	卒業研究レポートを仕上げる。章立てに沿って、文章を書く。正しい日本語で論理的な文章を書く力をつける。また図版や表・グラフを適切に使用し、読み手に分かりやすいレポートの作成法を学ぶ。			
到達目標	適切な言葉を選び、論理的な文章が書けるようになる。図版や表・グラフを適切に使用できる。テーマに関して説明ができる。			
授業方法と留意点	文献検索、読み込み、発表、文章作成を連続して行う。文章は教員が添削指導する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>美術・文化に関する卒業研究レポートを執筆する。</p> <p>前期にひきつづき本・論文などで幅広い知識を蓄える。</p> <p>執筆は各自で行い、ゼミではその進捗状況を報告する。文章は印刷して持参する。</p> <p>図・表・グラフを作り読む者に分かりやすく効果的なレポートの作成をめざす。</p> <p>事前・事後にテーマについて論文を収集し、独自に読み進め、不明な点を調べる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	卒業研究レポートの内容(50%) 参加態度(50%)			
学生へのメッセージ	1年間をかけてひとつのレポートを書きます。大変な仕事ですが、自分が何を学んだのか、何を知っているのか、何ができるのか、ということが社会に向かって堂々といえるようになります。がんばりましょう。			
担当者の研究室等	岩間研究室(7号館5階)			
備考				

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	各自が設定したテーマについて研究を行い、卒業研究レポートを作成する。			
到達目標	各自が設定するテーマについて、論理的に表現できるようになる。 質の高い卒業研究レポートを作成する。			
授業方法と留意点	各自が設定したテーマについて、教員による指導および他のゼミ受講生からのアドバイスを受けながら、卒業研究レポートの作成を進める。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	先行研究を入念に行い、教員による指導を受けて、卒業研究レポートを作成する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	プレゼンテーション 20% 卒業研究レポート 80%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰの成果を継続し、各自設定したテーマ及び研究の方向性に基づいて、卒業研究を完成させる。			
到達目標	卒業研究を完成させる。			
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて、資料収集・調査及び分析等を行い、卒業研究を完成させる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究を完成させる。 テーマに基づいて文献収集、卒業研究執筆を行い、毎週報告する。 毎回、事前の文献収集とまとめ、事後の整理が必要である。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	平常点(卒論に取り組む姿勢) 100%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館4階			
備考	事前事後学習時間 計60時間			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	言語や文化に関して興味のあるテーマを選択し、それについて卒業研究を作成していく。			
到達目標	卒業研究を執筆し、それについて発表することが出来るようになる。			
授業方法と留意点	9月～12月：卒業研究を執筆する。 1月：卒業研究の最終発表を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】言語と文化 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	卒業研究への取り組み姿勢 20% 卒業研究の完成度 80%			
学生へのメッセージ	大学生生活も残りあとわずかです。悔いのないように頑張って下さい。			
担当者の研究室等	後藤研究室(7号館5階)			
備考				

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	卒業研究レポートの執筆を始める。指導教員による添削を繰り返して、卒業研究レポートを完成させる。			
到達目標	卒業研究レポートの完成。			
授業方法と留意点	各自が指示された作業をしっかりと行うこと。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期の卒業研究Ⅰで作成したロードマップに従い、卒業研究レポートを完成させる。順調に卒業研究レポートを完成させるために、事前・事後の作業をしっかりと行うこと。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	卒業研究レポートの内容 100%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館5階 山口室			
備考				

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰを継続し、各自設定した研究テーマ・課題に基づいて、卒業研究レポートを完成させる。これを通じて、アカデミックな調査・資料分析の方法、論理的な思考、論文執筆の技術を習得する。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読んだり、フィールドワーク(現地調査)を行ったりして、オリジナルな「論」を立てる。 その「論」を、証拠を示しながら、論理的に説明するプレゼン力・文章力を身に付ける。 卒業研究レポートを完成させる。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究レポート提出までの作業スケジュールを立て、計画的に研究を進める。 ふだんのゼミでは研究の進捗状況を報告し、全員で徹底的に討論する。 11月に中間発表会を開催する。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究レポートの完成 ゼミでの報告・討論、個別指導 ゼミ以外の時間に、各自がどれだけ卒業研究と向き合うかが重要である。資料収集・読解、報告の準備、文章執筆など、やることは山ほどあるはずだ。 卒業研究レポートに関する指導や相談は、ゼミ以外の時間でもできる限り行う。積極的な姿勢で取り組む人を、大いにサポートしたい。 																		
関連科目	卒業研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	報告(討論を含む)20%、卒業研究レポート80%																		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートは一つのテーマを徹底的に掘り下げる、またとない機会だ。これまでに学んだ知識や方法を用いて、じっくりと取り組んでもらいたい。そして、報告や討論を重ねる中で、研究内容を深化させていく喜びを味わってほしい。卒業研究レポートに真剣に取り組んだことは、きっとその後の人生にも意味を持つはずだ。																		
担当者の研究室等	7号館5階 柴田研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰの成果を継続し、論文を完成させる。学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	問題の発見、読解、データの収集・分析、文章の構成、執筆、全体のマネジメント、ディスカッションといった研究に関わるさまざまな能力を身につける。		
授業方法と留意点	個別に調査、文献講読、分析等を行うとともに、構成員で議論を深めながら論文を完成させる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	論文を完成させるために、文献講読/発表、調査/調査報告などといった執筆のための研究活動を実施する		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への出席、発言、報告、レジュメ、調査への取り組み姿勢等をもとに総合的に判断する(平常点:100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	事前事後学習時間 計60時間		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉 誠
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	前期で書いた卒業研究をさらに書き進めていく。前期に引き続き、関係する文献の渉猟・読み込み、データ収集、考察などを進める。自らの意見を論理だてて述べ、それを自らの言葉に落とし込み、最終的に卒業研究を完成させる。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマに関連するデータを主体的に収集できるようになる。 2. 自ら収集したデータをもとに、客観的な議論をできるようになる。 3. 先行研究を批判的に読み、自らの意見を代替案として提示できるようになる。 4. 卒業研究の全体構想をもとに、ひとつの卒業研究を完成させる。 																		
授業方法と留意点	後期は、データをもとに自分の意見を客観的に文章で表現できるようになることをめざす。きちんと毎回の授業で指定された作業をこなしていくことが望まれる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：現代英語の語法文法研究</p> <p>内容：文献の読み込み、データの収集などをもとに、指導教員との討議から、できるだけオリジナリティのある考えに到達できることを目指す。</p> <p>事前・事後学習課題：文献の渉猟・読み込み、データ収集などを含めて、卒業論文を少しずつ書き進める。事前・事後学習の総時間を60時間とする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	中間発表 (50%) 卒業研究 (50%)																		
学生へのメッセージ	文献探しは卒業研究を作成するにあたって基本中の基本です。めんどくがらずに関係のないテーマの本でも読みこみましょう。違った分野のものでも、自分のテーマとの思わぬ関連性やヒントを得ることがあります。																		
担当者の研究室等	7号館4階 住吉 誠 研究室																		
備考																			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川 豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ(修正・変更可)にもとづき、各自の個別研究を深めていく。調査や整理、発表や討論、さらにレポート・原稿作成という一連の作業のプロセスを通じて、知識や思考を深め、内容を洗練させたい。卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自ら問題を設定し、文献を探求し、論点を論理的に整理し、まとめたレポートを制作する力を養成する。 発表力、聞く力、質問力、コメント力など社会人としての基礎的な力を涵養する。 																		
授業方法と留意点	<p>(前期)</p> <p>まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなう。次に各自、執筆までのスケジュールを立てる。必要な文献を多く読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえて、独自の「結論」を導き出すための問題を設定する。</p> <p>(後期)</p> <p>各自の発表をふまえて執筆にとりかかる。論理的展開と明快な文章を心がけ、4年間の集大成をおこなう。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】 日本文学・日本文化・日本語をめぐる諸問題(海外との比較研究を含む)</p> <p>【内容】 各自が三ゼミにおいて設定したテーマを深め、発表する力、聴く力、書く力を養成する。また文献探索の方法や、論文の書き方について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマの再確認または変更 2 参考文献の収集 3 文献の読解・分析 4 先行研究の分析 5 論の構想 6 論文の作成・完成 7 共同討議 <p>などを柱としてすすめる。</p> <p>【方法】 発表・討議をくりかえし、また個別指導を通じて、卒研レポートの完成をめざす。</p> <p>【事後・事前学習】 自己のテーマの深化・錬成、発表の準備とまとめ</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	口卒業研究レポートの完成度(80%)と、授業に取り組む姿勢(20%)に基づいて評価します。																		
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる貴重な機会です。社会へ出るための最も重要な総合力を養成することをめざしましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	<p>3年次には英語圏に共通する「知っておくべき事柄」(文化知識)に焦点を当て、情報収集・発表を行ってきました。また多読を通して、英語の絵本の深さにも触れました。さらに、後期は、Holes という児童文学を輪読し、伏線の面白さやストーリーからのメッセージを読み取りました。</p> <p>4年次は、3年次に築いた「英語圏の基礎知識」の土台の上に、「最近の」あるいは「今の」情報を加えていきます。それぞれに英語の多読を続けながら、卒業研究のテーマ絞り、アウトライン作成、文献や資料の読み込み、論文執筆に取り組みます。</p> <p>最終的には、英語、日本語、文学、映画、教育、文化の中から2つ以上を結びつけた卒業研究テーマを掘り下げ、新たな視点を加えながら論文の作成にあたります。</p>																
到達目標	卒業研究レポートとして扱うテーマを選び、資料収集、文献の読み込みを始めます。夏休みまでにはレポートの論理的なアウトラインができていること、最終的に完成度の高い論文を仕上げることを目標とします。																
授業方法と留意点	卒業研究レポート執筆の手順、構成、テーマなどを確認します。文献・資料の収集を続ける傍ら、それを整理し、論文の大まかな構成を考えます。調査が必要ならその準備をし、実行します。指導を受けながら、情報の追加、削除、論理の修正など推敲を重ねます。																
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>春休み： テーマの絞り込み、骨子となる参考文献や資料の収集・読み込み、アウトライン作成</p> <p>前期： 先行研究執筆、必要ならばアンケート・インタビュー調査、現地調査の準備調査実施</p> <p>夏休み： 文献の読み込み、調査結果分析、中間発表①</p> <p>後期： 論文執筆、中間発表②、推敲、(必要であれば)追加調査、分析</p> <p>1月： 論文提出</p> <p>1月末： 口頭試問、ピアレビュー、コメント書き</p> <p>それぞれが教員の指導とアドバイスを受けながら執筆を進めます。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	毎週の課題 30% 中間発表 20% 卒業研究レポート 50%																
学生へのメッセージ	調べた情報は、信ぴょう性を疑ってかかり、必ず信頼できる出典を明らかにしてください。 卒研レポートは、提出までにどれまで推敲を重ねたかで完成度とそれに伴う評価も変わります。																
担当者の研究室等	7号館5階 松田研究室																
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	卒業研究レポートの作成を指導する。文化人類学という枠を設けるものの、受講者の関心に基づいて研究を指導する。文献の調べ方、データの収集、文章表現など、卒業研究レポート作成のために必要な知識や能力を涵養する。各自の主題に関連する文献講読と、各自の調査主題の報告が授業の中心となる。		
到達目標	卒業研究レポートの作成。		
授業方法と留意点	卒業研究完成のために計画的に取り組むことができるよう、時期にあった指導を行う。前半は完成のための礎作りのための時期とし、後半は論文を完成させる時期とする。 卒業研究を有意義なものにするためには、受講者の主体性が必要である。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	設定した主題およびその近接領域について書かれた文化人類学や社会学の文献の講読を進める。毎回報告者を指名するので、報告者は配付資料を用意して30分程度で内容について報告する。コメンテーターは5分程度のコメントをする。報告者とコメンテーターと聴衆のいずれの役割においても発言することが求められるので、指定された文献を精読してこよう。各自の調査成果報告においても、同様の役割分担を行う。時間を有効に活用するため、授業時間外の作業の質と量が問われる。報告とディスカッションを経て、主題についての知見を深めていき、卒業研究レポートの執筆ができるよう指導する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	毎回の授業への取り組み(20%)と、発表内容(30%)、完成した卒業研究レポート(50%)から総合的に判断する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階上田研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	神崎 舞
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究Ⅰで学んだことを土台に、舞台芸術を中心としたテーマで研究を進める。 研究テーマに関連した資料を読み込むことで読解力を、そして論文作成を通して論理的思考力を身につける。 																		
到達目標	卒業研究レポートを完成させる。																		
授業方法と留意点	各自の研究テーマ、及び進行状況に合わせて指導を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 舞台芸術を中心とした芸術・文化研究</p> <p>【内容・方法】 <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究Ⅰの成果をもとに、論文の概要に関する研究発表を行う。 論旨の展開・文体・書式などを中心に推敲を重ね、卒業研究レポートの完成を目指す。 </p> <p>【事前・事後学習課題】 研究発表準備、及び卒業研究レポートの作成</p>																		
関連科目	卒業研究Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	卒業研究レポートの完成度：70% 平常点(授業に取り組む姿勢など)：30%																		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成を通して、研究テーマに対する理解を深め、論理的な思考力を養いましょう。																		
担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。卒業研究レポートの作成過程でフィードバックを行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	生活する中で接する身近な言語表現、ジェスチャー、視線行動など、ゼミ生各自が気になる現象を含んだデータを持ち合い、とことんデータについて様々な角度から議論していく。そのような議論を通じて、データの見方、分析方法をお互いに切磋琢磨して磨いていく。ゼミ生仲間からの様々なインプットや気づきを得る中で、各個人が卒業研究レポートに向けて、より一層分析を深め、より質の高い、「厚みのある」記述ができるようになることを目指す。また、卒業研究レポート作成に向けて、特定のスタイルシートに基づいて、アカデミックな文章を書けるように適宜指導していく。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な言語表現、ジェスチャー、視線行動など、膨大な自然な談話データのなかで、特定の現象に焦点を定め、課題設定できるようになること ・データに基づいた客観的な論証ができるようになること ・先行研究を客観的に批評できるようになること ・特定のスタイルシートに基づいて、アカデミックな文章が書けるようになること 																
授業方法と留意点	授業では、順番に自分の興味のある現象を含んだ会話データを2~3つ持ってきてもらい、そのデータをゼミ生全員で議論していきます(ゼミ生が会話分析で卒業研究レポートを書く場合)。または、順番に自分の研究の進捗状況(読んだ文献のレビュー、データを含めた報告)を発表してもらい、それに基づき、ゼミ生全員で議論していきます(ゼミ生が会話分析以外で卒業研究レポートを書く場合)。																
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	<p>授業テーマ・内容・方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生各自が興味のある現象を含んだ会話データについて、ゼミ生全員で議論していく(データ・セッション) ・卒業研究レポートの進捗状況について、報告・発表する ・卒業研究レポートの個人指導 <p>【会話分析】</p> <p>事前学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味のある現象を含んだ会話データ(ターゲットとなる現象の前後15~30秒)について、会話分析の転記方法に基づいて、データを書き起こす。毎回2~3つのデータについて議論するので、2~3つのデータを書き起こしを行う。その際、当該現象について、最もクリアなケース(自分にとって説明がしやすいもの)から順番に2~3つ用意するとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミでデータを披露する前に、会話分析の基本的な組織や考え方(順番交替組織、連鎖組織、修復組織、優先性の組織、物語りの構造、成員カテゴリーetc.)を踏まえて、分析しておく <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生、教員から得られたインプットを、Wordなどに「自分のことば」でしっかりまとめておく ・ゼミ生、教員からのインプットに基づいて、データを再分析してみる <p>【会話分析以外】</p> <p>事前学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近自分が読んだ文献のレビュー(要約とレビュー)、研究の進捗状況について、報告・発表に向けてまとめておく。また、報告・発表の際に、図や表などオーディエンスの理解を最大限に高めるためのやり方について十分検討したうえで準備を進めておく <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生、教員から得られたインプットを、Wordなどに「自分のことば」でしっかりまとめておく ・ゼミ生、教員からのインプットに基づいて、報告・発表内容を修正する 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>会話分析入門</td> <td>串田秀也・平本毅・林誠</td> <td>勁草書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>論文・レポートの基本</td> <td>石黒圭</td> <td>日本実業出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	会話分析入門	串田秀也・平本毅・林誠	勁草書房	2	論文・レポートの基本	石黒圭	日本実業出版社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	会話分析入門	串田秀也・平本毅・林誠	勁草書房														
2	論文・レポートの基本	石黒圭	日本実業出版社														
3																	
評価方法(基準)	卒業研究レポートの完成度：80% 報告・発表における議論への貢献度：20%																
学生へのメッセージ	卒業研究レポートを作成する過程で、ゼミ生、教員みんなで熱く議論することで、いろいろな発見や気づきが得られるはずです。卒業研究レポートで大学生活での有終の美を飾ってほしいと思います!!																
担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室																
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ(修正・変更可)にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	テーマに関して、何を調べたいのかを常に確認しながら、自分の考えをまとめつつ少しずつ書き進めること。何度も読み返し、修正を加えながら、一つのまとまった論を作る努力を重ねてください。																		
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない(「結論」の導き出せる)問い(問題)を設定すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 各自が決めた内容に関し、それに関する本や文献に当たり、しっかり読み込んでまとめながら書き進めること。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点 30%、課題・発表 20%、卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成は大変な作業ですが、頑張ってよいレポートを書いてください。																		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】 卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。</p>																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	研究テーマ・課題を設定し、論文を作成する。これを通じ、学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	研究計画に沿って、論文作成を進める。研究内容や論文作成の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	調査を完了し、調査結果についての分析を進め、論文を完成させる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	卒論への取り組み(100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	赤澤研究室(7号館4階)		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	国際文化演習で行った課題を自らの研究テーマにあわせて資料収集し、それを調査しながら研究報告にまとめる。グループ・ゼミと個人ゼミを組み合わせながら指導を卒業研究レポートを完成させる。																		
到達目標	下記の3つの能力を到達目標とする ①課題解決能力：与えられた課題を期限内に解決できる。 ②論理的記述能力：内容を論理的かつ簡潔に記述し、卒業研究レポートを完成させる。 ③社会的理解力：研究テーマの社会的意味や影響力を理解する。																		
授業方法と留意点	(後期) 1回目：中間報告 2回目以降：執筆開始																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】社会開発・国際開発・国際理解の展望 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業に取り組む姿勢(50%)と、卒業研究の進捗状況(50%)に基づいて評価																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考																			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大原 一浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	前期を通じてとりこんできた卒業研究を完成させる。ゼミにおける研究報告とディスカッション、教員との面談を通じ、論文の分析・構成・ライティングの質を高めていく。		
到達目標	① 証拠を提示しながら筋道の通った文章を書く力をつける。 ② 研究成果を効果的にプレゼンテーションするスキルを身につける。		
授業方法と留意点	卒業研究レポートの完成にむけたスケジュールをしっかり把握し、やるべきことを1つ1つこなしていくことが必要になる。文章を書くことは思ったよりも時間がかかることを自覚し、早め早めに進めていることが大切になる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究レポート指導 / 文献の読み込み、担当者との討論、データの収集などを行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加点 30% (進捗状況の発表、コメント・質問など) 教員との面談の内容 20% (きちんと準備してきたかどうか、自分で考えて発言できたかどうか) 卒業研究レポートの内容 50% (分析、証拠、構成、文章などを総合して評価)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階(大原研究室)		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	文化演習で研究したテーマをもとにそれをより深く掘り下げるとともに、関連する問題を幅広く取り上げながら独自の見解を展開する。授業で調べた内容を逐次発表しながら、最終的には論文の形式にまとめる。		
到達目標	収集した資料から必要なものを選び出し、それを効果的に利用しながら議論を展開する能力を身につける。また、論文を作成する作業を通して、論理的に思考しそれを分かりやすい文章にまとめる力をやしなう。		
授業方法と留意点	授業では発表を重視する。レポート作成の過程では、章立てとそれを作成するスケジュールを自ら決め、その進捗状況をつねに指導教員に報告する。また、利用する可能性のある資料はすべて引用元を明らかにした状態で整理、管理する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	研究テーマは自由に選択してよい。ただ、基本のテーマは「アニメ作品中国語版にみる翻訳技術について」とし、これに沿ったテーマを選ぶ場合は下のような内容となる。 ディズニーやスタジオジブリ作品の多くには複数の中国語版が存在する。この研究では、英語や日本語による原語セリフと2種の中国語セリフを比較対照し、2人の翻訳者の技術や表現における工夫がどのように違うかについて検討する。また、こうした作業を通して、「よい翻訳とは何か」について考える。		
関連科目	日中観光文化と通訳法		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	ゼミへの取り組み、発表:50% 卒業研究レポートの内容50%		
学生へのメッセージ	有終の美を飾ってください。		
担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・4年次前期の卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえて、異文化(国際)ビジネスの分野を中心に研究を進めていきます。 ・資料やデータの客観的かつ多角的な分析力や、それに基づく論理的な思考力の養成を主な授業目的とします。 																
到達目標	各自で選んだテーマについて、しっかりとした卒業研究レポートを完成させることを目標とします。																
授業方法と留意点	各自の研究テーマおよびその進行状況に応じて、指導を行っていきます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化(国際)ビジネスなどの分野に関する研究を、演習形式で進めていきます。 ・まず、前期の研究成果に基づいて、論文の概要をまとめ、後期開始直後に第2回中間研究発表を行います。 ・さらに、論旨の整合性を高めながら、文体上の不備を修正していきます。 ・その後、12月下旬までに、卒業研究レポートの完成を目指します。 <p>【事前事後学習課題】 卒業研究レポートの作成を計画的に進めていきましょう。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とします。</p>																
関連科目	卒業研究Ⅰなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	卒業研究レポートの完成度(80%)と、授業に取り組む姿勢(20%)を合わせて評価します。																
学生へのメッセージ	計画的な研究活動を心がけてほしいと思います。																
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																
備考																	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	前期までの蓄積をもとに各自の研究を進め、アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業論文(研究レポート)を完成させます。																
到達目標	自分自身、指導教員、査読して下さる副査の先生の全員が満足できる卒業研究レポートを期限通りに提出し、外国語学部生としてのプライドと達成感を持って本学を卒業すること。																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・前期同様、週2回の授業時間を分割し、各ゼミ生について隔週で30分程度のアポイントを取り、研究室で原稿の添削を受けたり、次のアポイントまでの進め方についての個別指導を受けてもらいます。個人面談とは違いますので、アポイントを取っている学生以外にも研究室を開放します。ゼミ仲間が受けている添削やアドバイスを聞いて自分の作業への参考にしたり、研究室のPCと資料を使って自由に作業することができます。 ・ゼミ生全員が集合し、各自の進行状況について報告し合う全体ミーティングも毎週30分程度行います。 ・PCの基本操作には3年次のうちに完全に習熟している必要があります。経済的に困難でなければ、自分のノートPCを所有して下さい。 ・卒論、卒業研究レポートは、大学での学業の締めくくりです。とにかく期限を守ること、連絡を欠かさないことが大事です。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ボカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「白雪姫 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」</p> <p>【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	ゼミ活動全体への貢献(50%)+卒業論文・研究レポート(50%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館3階 鳥居研究室																
備考																	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3年次の文化演習における議論をさらに発展させ、その成果を卒業研究レポートでまとめる。			
到達目標	英文で3500語以上の卒業研究レポートを作成する。			
授業方法と留意点	卒業研究レポートと就活を両立させる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究レポートについて共通の理解を図る。 前期・・・個別指導(木1)、個別指導(金1)、月に1回読書会をおこなう。 後期・・・3ゼミとの合同授業(火3)、個別指導(月2・金1)			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	卒業研究への取り組み・・・100%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館3F 天野研究室			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	<p>In this course, students will continue to research and learn about the topics introduced in 3rd year on tourism and hospitality in English.</p> <p>Cross cultural issues will be discussed to create an awareness of customer service in both Japan and overseas. Students will write further on their graduation thesis in English.</p> <p>Reading for pleasure will be encouraged, to expand vocabulary and improve all four skills - speaking, listening, reading and writing.</p> <p>Oral presentations of thesis material and discussions will take place to encourage confidence in English. Job skills - interviewing techniques and answers will be reviewed.</p>																		
到達目標	<p>Students should improve their four skills of reading, writing listening and speaking in this double period class where only English is used.</p>																		
授業方法と留意点	<p>Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(First term) Thesis topics which have already been decided upon will be researched at length, typed out and a Part 1 copy handed in by the end of the term. Students will attend an English play during the year.</p> <p>Academic writing skills will continue to be studied to help in the process.</p> <p>(Second term) Students will continue to write their thesis papers (Part 2). Oral presentations on thesis topics will take place and hospitality related excursions will be organized with students researching locations. Students will participate in the speech and recitation contest. Second term will be the time for more intensive study in English.</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English for International Tourism</td> <td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Basic steps to writing research papers</td> <td>Kluge and Taylor</td> <td>Cengage</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and drama events.</p>																		
学生へのメッセージ	<p>Reading is the core of your English improvement, so be prepared to read lots.</p> <p>English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on trying, and studying outside class on a daily basis.</p>																		
担当者の研究室等	<p>田浦研究室 7号館 5階</p>																		
備考	<p>資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。</p>																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	《近現代地域研究》 各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付け、卒業研究を完成させることを最終的には目指す。 具体的には、まず第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」(データ・資料)を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。 こうしたプロセスを実践的に試行錯誤し、質の高い卒業研究を完成させるためのゼミにしたいと考えている。																
到達目標	1. 卒業研究の完成を最終的な目標とする。 2. 演習においては、自らの研究計画をまとめて調査研究を進めるとともに、他の学生の様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。																
授業方法と留意点	1. 学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 2. 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。 3. 卒業研究の執筆にあたっては、それらのプロセスを踏まえて着手することを前提条件とする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人の調査研究に基づく発表を行ない、相互の意見交換を通じて研究の進展を促す。 (なお、発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。)																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	平常点(発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等) 50% 卒業研究(研究計画・中間報告を含む) 50%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館4階 田中研究室																
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	田中 秀毅
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成するために、適切な研究テーマを選定し、参考文献の検索や言語データの収集の仕方、説得力のある議論の展開方法、読み手に親しい書き方などを修得する。英語の文献を正確に読めるように、文化演習Ⅰ・Ⅱで取り組んだ学校英文法の洗い直しと英単語の成り立ちの学習を続ける。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 先行研究を踏まえ、自論(主張と論証)を作成する。 2. 序論と結論を作成する。 3. 卒業研究レポートの体裁を整える。 4. 言語学的な視点で学校文法をとらえ直す。(継続) 5. 英語語彙力を強化する。(継続) 																		
授業方法と留意点	<p>本科目は、受講生の研究テーマに応じて個別指導を中心に進める。詳しいスケジュールは別紙の「卒業研究指導計画」を参照のこと。</p> <p>留意点は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「卒業研究指導計画」に従って卒業研究を計画的に進めること。 2. 個人面接の有無にかかわらず、授業時間内に取り組みの“積み上げ”を残すこと(時間を無駄にしない)。 3. 考察の範囲は欲張らず、一定の成果がでてから広げるようにすること。 4. 欠席はやむを得ない場合を除き極力避けること(本科目は授業であって、自由参加型の勉強会ではない)。就活などで欠席した場合は、次の授業の前日までに課題や配付物について確認し、自分の責任で補完しておくこと。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自論(主張と論証)の作成 2. 結論と序論の作成 3. 卒業研究レポートの校正 4. 卒業研究の発表 4. 学校英文法の洗い直し(継続) 5. 英単語の成り立ちの理解(継続) <p>【事前事後学習課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ドラフトの作成 2. 同上 3. 指導教員による添削をふまえた加筆・修正(卒業研究レポート) 4. 卒業研究発表会(プレゼン) 5. 指定箇所の予習・復習 6. 同上 																		
関連科目	文化演習Ⅰ・Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜プリントを配付する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜プリントを配付する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜プリントを配付する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>論文の教室</td> <td>戸田山 和久</td> <td>NHK ブックス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>語彙力養成の総合英語</td> <td>Joe McKim</td> <td>英潮社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ビジュアル英文法</td> <td>黒川裕一</td> <td>南雲堂</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	論文の教室	戸田山 和久	NHK ブックス	2	語彙力養成の総合英語	Joe McKim	英潮社	3	ビジュアル英文法	黒川裕一	南雲堂
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	論文の教室	戸田山 和久	NHK ブックス																
2	語彙力養成の総合英語	Joe McKim	英潮社																
3	ビジュアル英文法	黒川裕一	南雲堂																
評価方法(基準)	<p>以下の各項目について、指定された割合で総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究報告レポート 60% ・プレゼン 20% ・授業態度(研究や英語学習への取り組み姿勢、積極性など) 20% 																		
学生へのメッセージ	卒業研究は、単なる専門知識の修得ではなく、論理的思考力を磨くための最大にして、最後の取り組みです。知識は分野によって変わりますが、思考力はさまざまな分野に応用でき、卒業後の人生を支えてくれるでしょう。そんな思考力を確実に会得できるように真剣に取り組ましましょう。																		
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)																		
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の分析では英英辞典を使用することが強く推奨される。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。 2. 欠席は授業に出席しなかった場合(公欠・忌引き・病欠を含む)のすべてを対象とする(ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること)。欠席回数が4回を超えると研究の進捗に支障をきたすので避けること。なお、欠席した場合は、自己責任によって授業内容を習得しなければならない。 3. 遅刻は重要な連絡事項を聞き逃したり、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。 4. レポートなどの提出期限は厳守すること。就活を理由にして締切日を延長してもらおうとせず、むしろ締切日より早く提出することを考えること。 5. 事前事後学習時間の総時間を60時間とする。合わせて、卒業研究レポートの作成も進めていく。 																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	卒業研究レポートを執筆する過程で論理的思考力と文章力を養い、テーマを決めるに至った問題意識をつねに念頭におき、それへの答えを導き出す論文を書き上げる。			
到達目標	日本語文献だけに頼らず、専攻言語で培った力を十分に生かし、自分が選んだテーマに関する先行研究を整理したうえで、その中に自分の論文の位置づけを見出し、オリジナリティのある論文を作成する。			
授業方法と留意点	夏期休業中の成果を後期の始めに報告しあい、論文の構成を明確に組み立てる。以後、各自が章・節ごとの発表を少しずつ行い、質疑応答を交わし合うなかで推敲を加え、論文を完成させる。ゼミ生間で建設的な批判や示唆を与え合うことが重要である。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】人の移動における「包摂と自律」 【事前事後学習課題】段階に応じた研究報告を毎回準備する。			
関連科目	専攻語科目、専攻言語圏に関する科目全般、マイノリティ論、社会学・政治哲学系科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	研究報告の積み重ね(50%)とそれらを自己の問題意識に沿っていかに論理的にまとめあげることができたか(50%)を評価する。			
学生へのメッセージ	思考の過程をしっかりと刻んだ卒業研究レポートを計画性をもって書き上げてください。各自の研究課題に応じて必要かつ重要と思われる文献を指示しますので、英語やスペイン語のものも読みこなしましょう。			
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室			
備考	事前・事後学習に約60時間を要する。			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 日本語・日本語教育</p> <p>【授業概要・目的・到達目標】 3年次の文化演習で学んだことを基に、広い意味の「日本語教育」-----日本語学・第二言語習得・異文化コミュニケーション・教授法・多文化共生等-----に関して、各自が設定したテーマについて考察し、卒業研究レポートを完成する。</p>																		
到達目標	<p>*スケジュールにしたがって、執筆作業を進めていくことができる。 *自分が設定したテーマに関して、自分なりに調査・分析・考察し、論理的な文章を書くことができる。</p>																		
授業方法と留意点	各自が関心を持ったテーマについて、文献及び資料を収集する。資料収集・調査・分析等の研究方法や論文執筆の指導は個別に行うが、ゼミの学生同士の意見交換を通してよりよい研究論文を執筆する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 各自の研究テーマについてのディスカッション、論文執筆、論文添削</p> <p>【事前事後学習課題】 資料、文献収集、論文執筆、推敲</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>よくわかる卒論の書き方</td> <td></td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	よくわかる卒論の書き方		ミネルヴァ書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	よくわかる卒論の書き方		ミネルヴァ書房																
2																			
3																			
評価方法(基準)	卒業研究に取り組む意欲・態度(20%)、論文の内容(80%)により総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	スケジュールをしっかり立てて進めていってください。 参考文献は、各自のテーマに合わせて紹介します。																		
担当者の研究室等	7号館4階 門脇研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰの続き。 各自が決めたテーマに基づいて、卒業研究を完成させる。			
到達目標	卒業研究を完成させる。			
授業方法と留意点	卒業研究についての個別指導を中心とする。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	11月下旬までに卒業研究レポート第一稿を完成する。 12月～1月 卒業研究レポートの修正作業 原稿の完成とチェック。最終的なOKが出るまで。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加態度(30%)、卒業研究レポート(70%)			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館4階 有馬研究室			
備考	事前事後学習 計60時間。			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ(修正・変更可)にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。		
到達目標	4年間の集大成として、卒業研究レポートを書き上げる。		
授業方法と留意点	中間報告をまじえながら各自執筆にとりかかる。論理的展開と明快な文章を心がけ、4年間の集大成をおこなってほしい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 西洋社会史の総合研究 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前事後学習の総時間数は約60時間。		
関連科目	卒業研究Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	口頭発表・ディスカッション(30%)・卒業研究レポート(70%)で評価する。		
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。		
担当者の研究室等	7号館4階 林田研究室		
備考	口頭発表に関するフィードバックは発表時に、卒業研究レポートに関するフィードバックは、執筆過程でそのつどおこなう。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	文化演習Ⅰ、Ⅱでのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。			
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。			
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に際し、先行研究(文献)の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	ゼミへの取り組みと卒研の内容(100%)			
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。			
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	3年次の演習で習得した知識をベース、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を向上させる。																		
到達目標	ことわざに関する比較研究を行うことによって、広い視野から国際理解を深め、言葉の感受性を豊かにし、中国語力を高めるのを目指す同時に、卒業研究レポート作成を指導し、研究能力を育成する。																		
授業方法と留意点	各自テーマを決め、収集した資料と検討を行った文章をパソコンディスプレイで提示しながら説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日中のことわざの比較 <p>【事前事後学習課題】</p> <p>指示に従って、文献等で内容を調べたうえ、レポート草稿を作成して来る。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中国ことわざ教室</td> <td>尹斌庸</td> <td>泉書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中国語ことわざ用法辞典</td> <td>金丸邦三・孫玄齡</td> <td>大学書林</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>新明解 故事ことわざ辞典 第2版</td> <td>三省堂編修所</td> <td>三省堂</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国ことわざ教室	尹斌庸	泉書房	2	中国語ことわざ用法辞典	金丸邦三・孫玄齡	大学書林	3	新明解 故事ことわざ辞典 第2版	三省堂編修所	三省堂
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中国ことわざ教室	尹斌庸	泉書房																
2	中国語ことわざ用法辞典	金丸邦三・孫玄齡	大学書林																
3	新明解 故事ことわざ辞典 第2版	三省堂編修所	三省堂																
評価方法(基準)	毎回の提出物50%、レポート50%。																		
学生へのメッセージ	努力を惜しまなければ、成功につながります。																		
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																		
備考																			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 英語圏・スペイン語圏・日本語圏と関わりを持つ言語と文化</p> <p>【授業概要・目的・到達目標】 学生各自がテーマを設定し、卒業研究レポートを作成する。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの話題に関して複数の立場で判断する姿勢を身につける。 ・情報の精度や公平性を気に掛けるようになる。 ・社会人になってからも通用する、責任をもった調査やレポートの書き方を身につける。 																		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて資料を収集し、資料の調査・分析など情報のインプットの方法を学ぶ。さらに、論文の構成や発表方法など情報のアウトプットの方法を学び、最終的に卒業研究レポートを完成させる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	英語圏の歴史・文化・文学や英語教育をテーマとするが、学生が個々に興味をもつテーマを選んでかまわない。																		
関連科目	ゼミの学生各自の発表と、リサーチや研究のルールの学習を、並行して行う。社会人として卒業後も活かせる知識や技術となるので、授業はもれなく全力で参加しよう。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・同級生とのディスカッション 20% ・卒業研究レポート 80% 																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の間にしておきたいことを、1つでもたくさんやってみましょう。 ・一生記憶に残るような良いレポートを仕上げましょう。 																		
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	体験型特別実習 A	科目名 (英文)	Experience-based Practicum A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		

授業概要・目的	<p>観光立国を目指す日本において、エアラインの役割はますます重要となってきた。</p> <p>まず、交通インフラの拠点である空港の役割を把握する。そして、航空機を運航するための機能と多様な職種の役割、協力を理解し、さらに、お客様満足「安全」「安心」「定時制」「快適性」「顧客満足」を得るための努力を理解する。</p> <p>その後の空港研修により、授業で得た知識を実際目で確認するとともに、将来の就業意識を高める。</p> <p>なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つです。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・エアラインの仕事の多様性を理解する。 ・空港見学により、1機の飛行機を飛ばすために各部門がどのように連携し、どのような想いを抱いているのか感じ取る。 ・自らの将来像を描く。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本学内での事前・事後授業と中部空港研修（2泊3日）及びテストによる。 ・空港見学の際は、細かい身だしなみ基準に従うこと。 <p>※実習に参加可能な人数に制限がありますので、注意してください。（詳細は事前の説明会にて）</p> <p>事前事後授業と空港研修 3 9 時間から成る。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会 ・事前授業 2 日間 <ul style="list-style-type: none"> ①オリエンテーションとマナー ②エアラインの現状 ③空港の役割 ④GS の仕事とオペレーション ⑤グラウンドハンドリングと航空貨物 ⑥CA とパイロットの仕事 ・神戸・関空・伊丹の 3 空港について自主学習 ・中部空港研修（2泊3日でGSの仕事を体験） ・研修報告会 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	小レポート 20%, 自主学習レポート 30%, 授業への参加態度 30%, プレゼン 20%																
学生へのメッセージ	空港の裏側は普段見ることができません。グラウンドスタッフが、CA がどのように働いているのか見てみませんか。ホスピタリティ産業の最前線の現場を知るいい機会です。																
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (エアライン・ホスピタルプログラムルーム)																
備考																	

科目名	体験型特別実習 B	科目名 (英文)	Experience-based Practicum B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	中西 正樹, 浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3○		

授業概要・目的	<p>本学部のパッケージプログラムは、学生の主体性・自主性を喚起し、将来のキャリアについて体系的に学ぶことを目的としている。この「体験型特別実習 B」科目では、学生自身が主体的に計画、参加した社会的活動についてその活動内容や成果を日誌やプレゼン、レポートの形式（授業内容の項目で詳述）で事後に報告し、審査を経て単位を取得するが認定される。ここでいう社会的活動とは、上で述べたパッケージプログラムの趣旨に合致する授業外の研究活動やインターンシップ、ボランティア活動などを指す。事後申請型の科目なので事前に履修登録は行わない。</p>																
到達目標	<p>事前授業によってこの科目の趣旨と評価基準を十分理解したうえで、自ら立てた活動計画に基づいて活動できる自主性、積極性の獲得を目指す。さらにその活動内容とそこで得られたものについて詳細かつ分かりやすく表現できる力をつける。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内で行われる事前授業や事後授業（実施日は追ってポータル等で案内する）には必ず出席すること。無断で欠席した場合には単位を与えない。単位申請の対象となるのは申請時から遡って2年以内の活動（ただし、本学在学中のものに限る）とする。また、事前授業や事後授業、単位申請の受け付け、審査、認定はすべて外国語学部が行うが、活動そのものには関与しないので、活動への申し込みや先方への問い合わせも学生自身が行い、主催団体等の規定やスケジュールに従いながら行動すること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業は以下の順に進める。単位申請は事前、事後すべての授業への参加を条件とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前授業（4月～5月） 本科目の申請対象となる活動について、必要時間数や安全面での注意事項などについて理解する。科目の趣旨や到達目標、申請方法、評価の方法や基準、事後授業のスケジュール、さらに日誌ノートの書き方などについて学ぶ。 活動への参加（時期は活動によって異なる） 主催団体等の広報資料を集めるなどして、自分で活動計画を立てたうえで、活動に必要な手続きを進める。主催団体等によるガイダンスや審査を経て活動に参加することになれば、現地での滞在期間に日誌を書く。 事後授業（11月上旬予定） 審査のスケジュールや方法について学び、プレゼンテーションやレポート作成作業に備える。また、日誌など単位申請に必要な文書について確認し、不備があれば指導を受ける。 事後授業2（11月下旬予定） 申請者が現地で活動した内容やその成果を示す写真や映像を用いながら報告を行う。中西および数名の学部教員が審査に当たる。このあと、参加した活動の内容やそこで得られた成果をテーマとして2,000字程度のレポートを指定された締め切り日までに提出する。なお、ここでのプレゼンテーションやレポートが活動を主催する団体が求めるとは別のものであることに注意。 事後授業3（2月上旬予定） プレゼンテーションやレポートの審査にあたった教員が講評を行う。 																
関連科目	体験型特別実習 A, 海外実習, 海外インターンシップなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	事前事後授業での取り組み、日誌（60%）、プレゼンテーション、レポート（40%）をもとに総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館3階（中西研究室）																
備考																	

科目名	大衆文化論	科目名 (英文)	Popular Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>私たちはさまざまなメディアに囲まれて生活しています。みなさんはそうしたメディアをどれだけ理解し使いこなせているでしょうか。この授業ではメディアについての理解を知識として深めるだけでなく、ワークショップやグループワークを通じてさまざまなメディアに触れ、情報を編集・加工・発信することでメディアの技法を修得するとともに、これからの社会を生きていく上で求められるメディアリテラシーを身につけます。</p> <p>なお、この科目はメディアビジネスプログラム科目です。</p>
到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) メディアリテラシーが身についている (2) さまざまなメディアの特性について理解している (3) メディアを通じて情報を得たり、編集・加工したり、発信したりするスキル (メディア技法) を身につけている</p>
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、ワークショップや受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
2	メディアリテラシー	インターネットの登場により私たちの生活は劇的に変化してきました。Line や Facebook, twitter といった SNS は私たちの生活やコミュニケーションのあり方、ひいては人間関係にも大きな影響を及ぼしています。 私たちはこうした技術をどれだけ理解し使いこなせているでしょうか。今回の授業では情報社会にあって必須の能力であるメディアリテラシーを涵養します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
3	まわしよみ新聞を作る	インターネットの普及にともなって、新聞や活字文化の衰退が危惧されます。新聞の発行部数も年々減り続ける一方です。 今回の授業では、ワークショップで「まわしよみ新聞」を作り新聞に触れるとともに、情報を編集・加工・発信することがどういうことなのかを学修します。	まわしよみ新聞について調べておきましょう。 まわしよみ新聞を作るために、1週間以内の新聞を持ってきましょう。
4	SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)	SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) の特性に触れつつ、SNS がどのようなものなのかを学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
5	SNS を使いこなす	SNS の特性を理解したうえで、SNS を使って情報を得たり発信したりする技術を身につけます。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
6	名刺を作る——自己をブランディングする	ブランディングについて学修します。ワークショップを通じて自身と他者による自己分析を行い自らの魅力を発見します。その上で、自らの魅力を効果的にアピールするための手段として名刺を作成します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
7	チラシを作る——広告デザインの作法	インターネット、SNS の普及にともなって、新聞、雑誌など紙媒体のメディアが発行部数を減らす一方で、チラシやポスターは依然として身の回りにあふれています。 今回の授業では、ワークショップを通じてチラシを作ります。そのなかで、広告、デザインの作法について学修します。	あなたの基準でよいと思われるチラシを探して持参すること。また、授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。 日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
8	中間のふり返り	前半の授業をふり返ります。不明な点があれば質疑応答により解決します。	授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。

				う。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。																
9	メディア文化史	メディア文化の歴史について学修します。		授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。																
10	映像を撮る——世界を切り取るということ	誰もが手軽に写真や動画を撮影できるようになりました。今回の授業では、動画の撮影を通じて、世界を切り取るということの意味について学修します。		授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。																
11	映像を編集する——切り取った世界を加工すること	動画を撮影することが世界を切り取ることであるとするならば、その編集は切り取った世界を加工することだと言えるでしょう。 今回の授業では、映像の編集を通じて、世界を加工することの意味について学修します。		授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。																
12	映像制作論	今回の授業では、テレビ放送のドキュメンタリー番組がどのようにして作られるのかを確認しながら、映像制作の基本を学修します。		授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。																
13	大衆文化と政治	テレビ、映画、アニメといったメディアは、これまで幾度となくプロパガンダとして政治的な宣伝に利用されてきました。 今回の授業では、映像資料を交えながら大衆文化と政治の関係について学修します。		授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。																
14	メディアと権力	権力はしばしばメディアを利用します。メディアも権力におもねることが少なくありません。メディアと権力は、たいへん結びつきやすいものなのです。民主主義の社会にあって、私たちはこのことを十分に理解し、メディアと権力の両方を監視していく必要があります。 今回の授業では、メディアと権力の関係について学修します。		授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。																
15	まとめ、全体のふり返り	これまでの授業をふり返りながら、各回の授業が全体としてどのようなつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。		これまでの授業で学修したことをしっかり復習して授業に参加しましょう。授業を受けたあとは改めて授業全体をふり返りながら期末試験に向けて準備をしましょう。																
関連科目	メディアビジネスプログラム科目(2015年度入学生)																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?</td> <td>森達也</td> <td>ちくまプリマー新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	この授業は、授業内課題(リフレクションシート)15%、ワークショップ30%、講義内容に関連する課題調査10%、期末試験45%で評価します。																			
学生へのメッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。																			
担当者の研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 7号館2階 非常勤講師室 メールアドレス: xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)																			
備考																				

科目名	旅と観光の地理	科目名(英文)	Travel and Tourism Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	現代ほどたくさんの人々が移動し、さまざまな場所を観光している時代はまだかつてない。なぜこんなに観光(ツーリズム)が盛んになったのだろうか。その背景には何があるのだろうか。本講義では、観光の歴史について学んだ後、形態別の観光とさまざまな観光地の特色を明らかにしていく。 観光は交通やメディアの発達はもちろん、ひろく言えば、それぞれの時代と地域の政治・経済・文化と密接にかかわる現象である。したがって、観光という現象を通して、近現代の社会を考えてみたい。その過程で、日本や世界の風土の特色も明らかとなるだろう。
到達目標	観光の歴史や形態、さまざまな観光地の特色についてしっかりと理解し、それをふまえ、特定の観光形態や観光地の形成・現状・課題についての確に説明することができる。
授業方法と留意点	配付資料とパワーポイントを用いて、講義形式で授業を進める。授業中に何度か課題を出すので、それに取り組むことで授業内容を復習し、発展させてほしい。また、日ごろから観光に関する報道(TVニュース、新聞、ネットなど)に関心をはらうこと。
科目学習の効果(資格)	観光の歴史や形態、観光地の特色を学習・理解することにより、将来の進路決定をする際の一つの判断材料として役立てることができる(とはいえ、特に公的資格には直接つながるわけではない)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	旅と観光とは?	旅・旅行・観光とは何か、その定義について解説する	旅・旅行・観光の概念について復習する。
2	観光の歴史①	近代観光(ツーリズム)成立の背景と、その後の発展について考える	紹介した新聞記事を読む。トーマス・クック社のHPをチェックする
3	観光の歴史②	交通やメディアの発達と近代観光との関連について考える	紹介した新聞記事を読む。近代観光成立の背景にある社会のしくみのうち、現代まで続いているものを調べる
4	観光の歴史③	グローバル化、ポストモダン社会における観光目的の多様化について考える	紹介した新聞記事を読む。ネットを使って、国内外のいくつかの目的地までの経路・料金を調べる
5	団体旅行	団体旅行(社員旅行など)の歴史とその特色について考える	紹介した新聞記事を読む。小中高の修学旅行の行き先と内容を書き出す
6	修学旅行	修学旅行の歴史とその特色について考える	紹介した新聞記事を読む。両親や祖父母など身近な人の新婚旅行先と期間を聞いてみる
7	新婚旅行	新婚旅行の歴史とその特色について考える	紹介した新聞記事を読む。海外旅行のガイドブックの種類と内容を調べる
8	海外旅行	海外旅行の歴史とその特色について考える	紹介した新聞記事を読む。中間レポートを作成する
9	やま	山岳観光地とその特色、登山やスキーの歴史について考える	紹介した参考文献を読む。興味のある山岳観光地について詳しく調べる
10	うみ	海岸観光地とその特色、海水浴、サーフィン、ダイビングなどの歴史について考える	紹介した参考文献を読む。興味のある海岸観光地について詳しく調べる
11	温泉	温泉観光地とその特色、温泉浴の歴史について考える	紹介した参考文献を読む。興味のある温泉観光地について詳しく調べる
12	まち	アーバンツーリズムの歴史とその特色について考える	紹介した参考文献を読む。興味のある都市の「観光まちづくり」について詳しく調べる
13	テーマパーク	テーマパークの歴史とその特色について考える	紹介した参考文献を読む。興味のあるテーマパークについて詳しく調べる
14	アート、コンテンツ	アートツーリズム、コンテンツツーリズム(フィルム、アニメなど)の歴史とその特色について考える	紹介した参考文献を読む。興味のあるコンテンツツーリズムについて詳しく調べる
15	エスニック、ダーク	旧植民地などで行われているエスニックツーリズム、戦争や災害の跡など見るダークツーリズムの歴史とその特色について考える	期末レポートを作成する

関連科目	「アーバンツーリズム論」「エコツーリズム論」など
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ここからはじめる観光学	大橋昭一ほか編	ナカニシヤ出版
	2	観光の空間-視点とアプローチ	神田孝治編	ナカニシヤ出版
	3	レジャーの空間-諸相とアプローチ	神田孝治編	ナカニシヤ出版

評価方法(基準)	期末レポート60%、中間レポート30%、授業中課題10%
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	訪日外国人の増加や2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、観光産業はますます重要性を増している。本講義で学んだことをふまえ、身の周りで見始めている観光をめぐる動向を、一度じっくりと考えてみてほしい。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 柴田研究室
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	旅の文学	科目名(英文)	Travel Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川 豊生
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	古代から現代にいたる日本文学の流れを具体的にたどり、自らの属する社会・文化の特質についての理解を深めることを目的とする。同時に、近代以降の作品の読解を通じて、作品を読む力、批評する力、論理的に書く力など、基礎的なリテラシーの養成に力点を置きたい。また、世界の文学との比較を通じて、国際社会において日本文化の特質を自らの言葉で明快に表現する力を養成することも目的の一つである。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> さまざまなテキストを読解し、その内容を論理的に把握する基本的な力を身につける。 古代から現代にいたる日本文学史の流れを説明する力を身につける。 日本文化についてその特質を自分なりに説明する力を養う。
授業方法と留意点	プリントにもとづく講義中心の授業。
科目学習の効果(資格)	各資格試験に臨むための前提となるリテラシーの基礎的養成。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	古代文学と神話の世界1	『古事記』の神話をもとに、古代の人々の想像力の特質を探索する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
2	古代文学と神話の世界2	引き続き『古事記』の神話世界を探索する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
3	平安文学とモノガタリ1	『竹取物語』や『源氏物語』をもとに、モノガタリとは何かについて考察する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
4	平安文学とモノガタリ2	引き続き、『竹取物語』や『源氏物語』をもとに、モノガタリとは何かについて考察する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
5	説話文学の世界	『今昔物語集』について解説する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
6	軍記物語の世界	『平家物語』について解説する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
7	中世の伝承文学1	御伽草子『鉢かぎ姫』について解説する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
8	中世の伝承文学2	大阪に伝わる中世の伝承をとりあげ、信仰と文学との関わりについて考察する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
9	江戸小説の世界1	近松門左衛門の作品をとりあげ、大阪の文学について認識を深める。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
10	江戸小説の世界2	江戸のユートピア小説とヨーロッパのそれとの比較考察	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
11	近代の文学1 太宰治	太宰治の短編作品を読む。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
12	近代の文学2 宮沢賢治	宮沢賢治の短編作品を読む。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
13	近代の文学3 江戸川乱歩	江戸川乱歩の短編作品を読む。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
14	現代の文学(吉本ばなな)	吉本ばななの短編作品を読む。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
15	総合確認テスト	授業内テストおよび解説	・ノート全体の整理と講義要点の総まとめ

関連科目	日本文化にかかわる諸科目。日本語教育にかかわる諸科目。
------	-----------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	中間テストと最終日に実施する総合確認テストを中心として、他に授業時に回収したコメント、課題レポートなどを加え、総合的に評価する。中間・総合テスト70%、提出物30%。
----------	---

学生へのメッセージ	モノガタリや小説を読む楽しさを味わいつつ、日本語を適切に駆使する基本的な力を身につけてほしいと思います。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。
----	------------------------------------

科目名	多文化共生論	科目名(英文)	Multiculturalism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<p>グローバル社会に生きるわたしたちにとって、多文化共生は最重要課題の一つであろう。多文化共生は、マジョリティとは異なる背景や特性をもつマイノリティの文化を、最大限尊重することで実現される。その理念はひろく浸透しているとはいえ、差異を認めつつ共生することの困難性は容易に克服できるものではない。</p> <p>そもそもマジョリティとマイノリティの「違い」は何なのだろうか。その「違い」は絶対的なものなのだろうか。本講義では、わたしたちの身の回りに存在しているさまざまな「違い」を認識し、それに関する知識を学ぶことを通じて、多文化共生の可能性と問題点を考える。</p> <p>※この科目は、「国際教養」プログラム対応科目である。</p>
到達目標	多文化共生に関する概念と知識を理解・習得し、それをふまえて、多文化共生の可能性と問題点について、事例に示しながら論じることができる。
授業方法と留意点	配付資料とパワーポイントを用いて授業を進める。第4回～第14回のうち、希望するいずれかの回に関する報告を課す。それらの回では、2～3人の報告に続いて教員が補足解説をした後、ディスカッションの時間を設ける。いろんな角度から、積極的に意見を表明してほしい。
科目学習の効果(資格)	多文化共生に関する基礎的知識をもとに、さまざまな観点から社会問題をとらえる視座を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、「文化」と「共生」という授業のキーワードについて	紹介した参考文献を読む
2	マジョリティとマイノリティ?	マジョリティとマイノリティ、自己と他者の「違い」、身の回りに存在するさまざまな「違い」について議論する	身近に存在する、マジョリティとマイノリティの「違い」について再考する
3	「単一民族」という神話	日本が「大和民族」という「単一民族」であるという神話やナショナリズムについて考える	紹介した参考文献を読む 祖父母世代にインタビューを行う
4	祖父母世代が見ていた世界	ライフヒストリー・インタビュー及び民俗学の著作から、身近な「他者」の存在を認識する	在日外国人に関する新聞記事を読む
5	在日韓国・朝鮮人	在日韓国・朝鮮人の歴史と文化について考える	在日外国人に関する新聞記事を読む
6	在日中国人	在日中国人の歴史と文化について考える	在日外国人に関する新聞記事を読む
7	在日ブラジル人	在日ブラジル人の歴史と文化について考える	在日外国人に関する新聞記事を読む
8	在日フィリピン人、ベトナム人	在日フィリピン人、ベトナム人の歴史と文化について考える	第5回～第8回の内容を、各グループの共通点と相違点に注意しながら復習する
9	在日外国人のまとめ	第5回～第8回の内容を振り返り、在日外国人をめぐる問題について議論する	アイヌに関する新聞記事を読む
10	アイヌ	アイヌの歴史と文化について考える	琉球・沖縄に関する新聞記事を読む
11	琉球・沖縄	琉球・沖縄の歴史と文化について考える	宗教に関する新聞記事を読む
12	宗教	さまざまな宗教(神道・仏教・キリスト教・イスラム教・新宗教など)の歴史と文化について考える	ジェンダー・セクシュアリティに関する新聞記事を読む
13	ジェンダーとセクシュアリティ	ジェンダーとセクシュアリティという概念と、それぞれの「違い」について考える	障害に関する新聞記事を読む
14	障害	「障害者」と「健常者」という概念と、それらの「違い」について考える	これまでの講義内容を復習し、次週のディスカッションの準備をする
15	まとめ	講義内容を振り返り、多文化共生の可能性と問題点について議論する	期末レポートを作成する

関連科目	「暮らしの中の文化」「グローバル社会と日本」「共同体論」など
------	--------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	期末レポート 40%、報告内容・コメント 30%、グループワーク 20%、授業中課題 10%
----------	--

学生へのメッセージ	答えは一つではない。多様な立場や考え方にふれながら、柔軟に考えてみよう。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等備考	7号館5階 柴田研究室
------------	-------------

科目名	多文化の共生	科目名(英文)	Multiculturalism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>グローバル社会に生きるわたしたちにとって、多文化共生は最重要課題の一つであろう。多文化共生は、マジョリティとは異なる背景や特性をもつマイノリティの文化を、最大限尊重することで実現される。その理念はひろく浸透しているとはいえ、差異を認めつつ共生することの困難性は容易に克服できるものではない。</p> <p>そもそもマジョリティとマイノリティの「違い」は何なのだろうか。その「違い」は絶対的なものなのだろうか。本講義では、わたしたちの身の回りに存在しているさまざまな「違い」を認識し、それに関する知識を学ぶことを通じて、多文化共生の可能性と問題点を考える。</p> <p>※この科目は、「国際教養」プログラム対応科目である。</p>
到達目標	多文化共生に関する概念と知識を理解・習得し、それをふまえて、多文化共生の可能性と問題点について、事例に示しながら論じることができる。
授業方法と留意点	配付資料とパワーポイントを用いて授業を進める。第4回～第14回のうち、希望するいずれかの回に関する報告を課す。それらの回では、2～3人の報告に続いて教員が補足解説をした後、ディスカッションの時間を設ける。いろんな角度から、積極的に意見を表明してほしい。
科目学習の効果(資格)	多文化共生に関する基礎的知識をもとに、さまざまな観点から社会問題をとらえる視座を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、「文化」と「共生」という授業のキーワードについて	紹介した参考文献を読む
2	マジョリティとマイノリティ?	マジョリティとマイノリティ、自己と他者の「違い」、身の回りに存在するさまざまな「違い」について議論する	身近に存在する、マジョリティとマイノリティの「違い」について再考する
3	「単一民族」という神話	日本が「大和民族」という「単一民族」であるという神話やナショナリズムについて考える	紹介した参考文献を読む 祖父母世代にインタビューを行う
4	祖父母世代が見ていた世界	ライフヒストリー・インタビュー及び民俗学の著作から、身近な「他者」の存在を認識する	在日外国人に関する新聞記事を読む
5	在日韓国・朝鮮人	在日韓国・朝鮮人の歴史と文化について考える	在日外国人に関する新聞記事を読む
6	在日中国人	在日中国人の歴史と文化について考える	在日外国人に関する新聞記事を読む
7	在日ブラジル人	在日ブラジル人の歴史と文化について考える	在日外国人に関する新聞記事を読む
8	在日フィリピン人、ベトナム人	在日フィリピン人、ベトナム人の歴史と文化について考える	第5回～第8回の内容を、各グループの共通点と相違点に注意しながら復習する
9	在日外国人のまとめ	第5回～第8回の内容を振り返り、在日外国人をめぐる問題について議論する	アイヌに関する新聞記事を読む
10	アイヌ	アイヌの歴史と文化について考える	琉球・沖縄に関する新聞記事を読む
11	琉球・沖縄	琉球・沖縄の歴史と文化について考える	宗教に関する新聞記事を読む
12	宗教	さまざまな宗教(神道・仏教・キリスト教・イスラム教・新宗教など)の歴史と文化について考える	ジェンダー・セクシュアリティに関する新聞記事を読む
13	ジェンダーとセクシュアリティ	ジェンダーとセクシュアリティという概念と、それぞれの「違い」について考える	障害に関する新聞記事を読む
14	障害	「障害者」と「健常者」という概念と、それらの「違い」について考える	これまでの講義内容を復習し、次週のディスカッションの準備をする
15	まとめ	講義内容を振り返り、多文化共生の可能性と問題点について議論する	期末レポートを作成する

関連科目 「暮らしの中の文化」「グローバル社会と日本」「共同体論」など

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	期末レポート 40%、報告内容・コメント 30%、グループワーク 20%、授業中課題 10%
学生へのメッセージ	答えは一つではない。多様な立場や考え方にふれながら、柔軟に考えてみよう。
担当者の研究室等備考	7号館5階 柴田研究室

科目名	地域環境論	科目名(英文)	Regional Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<p>環境問題はしばしばグローバルな問題として着目されますが、実際に私たちに影響を与える環境に関わる「問題」は、地域単位で現出します。そのため、環境問題について考えるためには、何よりも地域を知り、地域固有の文脈に沿った解決策を考えていくことが重要なステップとなります。本講義では、国内外のさまざまな地域の環境や環境問題等について学びます。また、地域の自然環境と深く関わって発生する自然災害も扱います。これらを学ぶことで幅広い教養を身に付け、多角的な視野を獲得することを目指します。</p> <p>この科目は「国際教養」プログラム対応科目です。</p>																																																																		
到達目標	<p>1. 環境とは何か、環境問題とは何かについて具体例をもとに説明できる幅広い知識を身につける 2. 私達が暮らしている大阪・関西の特徴や身近に起こる災害について理解する 3. 多角的な視野で国内外の多様な環境や環境問題を把握することができる</p>																																																																		
授業方法及び留意点	<p>プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用する。また、講義中にグループワークやディスカッション、簡単な作業などを通して受講者の意見を求めることもある。受講人数によっては屋外での巡検も計画する。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>環境を学ぶための基礎知識1</td> <td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境を学ぶための基礎知識2</td> <td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>環境を学ぶための基礎知識3</td> <td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>環境を学ぶための基礎知識4</td> <td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>環境と自然災害1</td> <td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>環境と自然災害2</td> <td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>環境と自然災害3</td> <td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>環境と自然災害4</td> <td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>地球環境問題1</td> <td>地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>地球環境問題2</td> <td>地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>地球環境問題3</td> <td>地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>身近な地域の環境1</td> <td>身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>身近な地域の環境2</td> <td>身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>身近な地域の環境3・授業のまとめ</td> <td>全体のまとめ</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	2	環境を学ぶための基礎知識1	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	3	環境を学ぶための基礎知識2	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	4	環境を学ぶための基礎知識3	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	5	環境を学ぶための基礎知識4	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	6	環境と自然災害1	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	7	環境と自然災害2	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	8	環境と自然災害3	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	9	環境と自然災害4	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	10	地球環境問題1	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	11	地球環境問題2	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	12	地球環境問題3	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	13	身近な地域の環境1	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	14	身近な地域の環境2	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	15	身近な地域の環境3・授業のまとめ	全体のまとめ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
2	環境を学ぶための基礎知識1	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
3	環境を学ぶための基礎知識2	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
4	環境を学ぶための基礎知識3	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
5	環境を学ぶための基礎知識4	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
6	環境と自然災害1	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
7	環境と自然災害2	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
8	環境と自然災害3	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
9	環境と自然災害4	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
10	地球環境問題1	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
11	地球環境問題2	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
12	地球環境問題3	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
13	身近な地域の環境1	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
14	身近な地域の環境2	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
15	身近な地域の環境3・授業のまとめ	全体のまとめ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
関連科目	<p>国際教養プログラム関連科目（暮らしの中の文化、多文化共生論等）</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等）（60%）とレポート（40%）で評価します。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	<p>7号館5階（手代木研究室）</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。</p>																																																																		

科目名	地域と国際ビジネス	科目名(英文)	Regional and International Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本授業は、6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに対応する科目です。文化・地理・歴史・政治・経済などの学際的な観点から、注目すべき国や地域における企業ビジネスについて、事例とともに学ぶことを目的とします。
到達目標	国や地域の様々な特徴について、日本と比較しながら理解を深めるとともに、国際ビジネスの現状や今後の展開について多角的に考察することを目標とします。
授業方法と留意点	グループワークを中心にを行い、全グループに研究発表(プレゼンテーション)を義務づけます。よって、行動力や協調性が大切になるでしょう。
科目学習の効果(資格)	文化演習(3ゼミ)や卒業研究(4ゼミ)などの研究にも活かせることでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の内容や方法などについて詳しく説明する。	授業の内容・方法をしっかりと確認する。
2	研究発表(プレゼン)の対象となる地域研究(1)	北米(アメリカ)を中心に、産業やビジネスの特徴について、具体的な事例とともに考察する。	授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせて理解を深める。
3	研究発表(プレゼン)の対象となる地域研究(2)	中国や東南アジアを中心に、産業やビジネスの特徴について、具体的な事例とともに考察する。	授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせて理解を深める。
4	研究発表(プレゼン)の対象となる地域研究(3)	ヨーロッパを中心に、産業やビジネスの特徴について、具体的な事例とともに考察する。	授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせて理解を深める。
5	研究発表(プレゼン)の対象となる地域研究(4)	インドやオセアニアを中心に、産業やビジネスの特徴について、具体的な事例とともに考察する。	授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせて理解を深める。
6	・研究計画について ・プレゼンテーションのスキルについて	・研究発表(プレゼン)のテーマ、メンバー、発表日を設定し、グループごとに、今後の研究計画を立てる。 ・プレゼンのスキルについて具体例とともに学ぶ。	グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
7	日系企業が進出している地域を考察する(1)	選定した国・地域への日系企業の進出例などを調査するとともに、新たなビジネスモデルの構築についても検討してみたい。	・授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせて理解を深める。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
8	日系企業が進出している地域を考察する(2)	選定した国・地域への日系企業の進出例などを調査するとともに、新たなビジネスモデルの構築についても検討してみたい。	・授業の内容を整理し、さらに自分で調べたことと合わせて理解を深める。 ・グループごとに研究活動を計画的に進めていく。
9	研究発表(プレゼンテーション)(1)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりと準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の仕上げをする。
10	研究発表(プレゼンテーション)(2)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりと準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の仕上げをする。
11	研究発表(プレゼンテーション)(3)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりと準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の仕上げをする。
12	研究発表(プレゼンテーション)(4)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりと準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の仕上げをする。
13	研究発表(プレゼンテーション)(5)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりと準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の仕上げをする。
14	研究発表(プレゼンテーション)(6)	順番に、グループによる研究発表(プレゼンテーション)を行うとともに、フロアとの質疑応答により考察を深めていく。	・発表担当のグループは、しっかりと準備を行う。 ・他のグループは、自分たちの研究活動の仕上げをする。
15	まとめ(総括)	レポートの講評を行い、返却する。	これまでに学んだ内容の要点を整理する。

関連科目	その他の国際ビジネスプログラム科目など。
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	データブック オブ・ザ・ワールド 2018年版	二宮書店編集部	二宮書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			

	3		
評価方法 (基準)	研究発表(プレゼンテーション)(40%)、レポート(40%)、授業に取り組む姿勢など(20%)を合わせて評価します。 ※ただし、原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。		
学生への メッセージ	社会人の仕事でもチームワークが重要です。この授業でも積極的かつ協調的な姿勢を大切にしてほしいと思います。		
担当者の 研究室等	7号館4階(中島研究室)		
備考	事前・事後学習の総時間数は、25~30時間を目安としてください。		

科目名	中級検定インドネシア語	科目名 (英文)	Practice for Intermediate Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口 玲子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験D級の過去問題に取り組み、D級レベルの語彙や文法を学習する。
到達目標	インドネシア語技能検定試験D級レベルの語彙や文法事項の知識を得ることができる。
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験の過去問題を中心に、特に語彙と文法に重点をおき、授業を進める。また、適宜小テストを行う。辞書は必ず携帯すること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	練習問題(1)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直す
2	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
3	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
4	練習問題(2)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
5	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
6	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
7	練習問題(3)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
8	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
9	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
10	練習問題(4)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
11	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
12	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
13	練習問題(5)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
14	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
15	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への積極的参加度合 30%、小テスト 50%、インドネシア語技能検定試験の結果 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	検定試験合格を目指して、授業には積極的に参加しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習課題はそれぞれ少なくとも1時間以上かけること。半期中の事前・事後学習は30時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、適宜行う小テスト終了後には解説を行う。
----	--

科目名	中国語Ⅱ a	科目名 (英文)	Chinese IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。 学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第2課 発音 2	複母音②, 鼻母音, 子音②。	発音を練習し、ピンインを書く。
3	第3課 発音 3	複母音③④, 子音③。	発音を練習し、ピンインを書く。
4	第4課 発音 4	子音④⑤。 あいさつ言葉の復習。	発音を練習し、ピンインを書く。 テスト (第2~4課のあいさつ) の準備。
5	本文編 第1課 お名前は?	☆単元テスト1 人称代名詞, 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「也」、「都」、「很」。	練習問題を解答し、会話文を読む。
6	第1課 お名前は?	副詞「不」, 疑問詞疑問文, 名前の言い方。	練習問題を解答し、会話文を読む。
7	第2課 僕は日本人だ	「是」構文, 疑問詞「?」, 副詞「都」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
8	第2課 僕は日本人だ	助詞「的」, 反復疑問文, 疑問詞「誰」, 指示代名詞。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第1~2課) の準備。
9	第3課 君は大阪人だよ ね?	☆単元テスト2 動詞述語文, 終助詞「?」, 省略疑問文。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
10	第3課 君は大阪人だよ ね?	同時進行の表現, 二重目的語。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
11	第4課 おいくら?	単位の言葉「張」「個」, 動詞の重ね型, お金の言い方。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
12	第4課 おいくら?	「二」と「両」, 「不太〜」, 所有の「有」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第3~4課) の準備。
13	第5課 どの先生が好き?	☆単元テスト3 前置詞「和」, 名詞述語文。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
14	第5課 どの先生が好き?	時間の言い方, 前置詞「跟」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第5課) の準備。
15	おさらい	☆単元テスト4	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。

関連科目	中国語Ⅱ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西, 兪, 小都)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語Ⅱ a	科目名 (英文)	Chinese IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宋 東平
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。 学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第2課 発音 2	複母音②, 鼻母音, 子音②。	発音を練習し、ピンインを書く。
3	第3課 発音 3	複母音③④, 子音③。	発音を練習し、ピンインを書く。
4	第4課 発音 4	子音④⑤。 あいさつ言葉の復習。	発音を練習し、ピンインを書く。 テスト (第2~4課のあいさつ) の準備。
5	本文編 第1課 お名前は?	☆単元テスト1 人称代名詞, 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「也」、「都」、「很」。	練習問題を解答し、会話文を読む。
6	第1課 お名前は?	副詞「不」, 疑問詞疑問文, 名前の言い方。	練習問題を解答し、会話文を読む。
7	第2課 僕は日本人だ	「是」構文, 疑問詞「?」, 副詞「都」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
8	第2課 僕は日本人だ	助詞「的」, 反復疑問文, 疑問詞「誰」, 指示代名詞。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第1~2課) の準備。
9	第3課 君は大阪人だよ ね?	☆単元テスト2 動詞述語文, 終助詞「?」, 省略疑問文。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
10	第3課 君は大阪人だよ ね?	同時進行の表現, 二重目的語。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
11	第4課 おいくら?	単位の言葉「張」「個」, 動詞の重ね型, お金の言い方。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
12	第4課 おいくら?	「二」と「両」, 「不太〜」, 所有の「有」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第3~4課) の準備。
13	第5課 どの先生が好き?	☆単元テスト3 前置詞「和」, 名詞述語文。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
14	第5課 どの先生が好き?	時間の言い方, 前置詞「跟」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第5課) の準備。
15	おさらい	☆単元テスト4	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。

関連科目	「中国語Ⅱ」
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西, 兪, 小都)を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語Ⅱ b	科目名(英文)	Chinese IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音、フレーズに慣れてもらう。 学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第6課 今は3時5分前だ	「有」と「在」、時間詞の語順。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
2	第6課 今は3時5分前だ	不定の数量を表す「些」、時刻の言い方、意見を求める言い方。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
3	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	時間に使う「上/下」、連動文、前置詞「在」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
4	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	標点符号「,」と「、」、文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト(第6-7課)の準備。
5	第8課 小説は好きなの?	☆単元テスト1 前置詞「從」と「到」、時量補語とその語順、文型「快～了」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
6	第8課 小説は好きなの?	前置詞「離」、強調の「是」、副詞「又」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
7	第9課 ファーストフード店は家から近い	副詞「就」、副詞「才」、動詞の「要」、前置詞「給」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
8	第9課 ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」、文型「一・・・就・・・」、 「未完成の「没有～」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト(第8-9課)の準備。
9	第10課 北京ダックを食べたことある?	☆単元テスト2 助詞「過」、助動詞「要」、「想」、「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
10	第10課 北京ダックを食べたことある?	助動詞「應該」、副詞「別」、「再」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
11	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文、助動詞「会」、構造助詞「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
12	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」、比較の「没有」、禁止表現「不要」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト(第10-11課)の準備。
13	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	☆単元テスト3 仮定表現「要是～」、助動詞「能」、可能性の「会」、比較表現「比」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
14	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	使役動詞「叫」、方向補語「～来/去」、 複合補語「～進來/進去」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト(第12課)の準備。
15	おさらい	☆単元テスト4	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。

関連科目	「中国語Ⅰ」
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に1時間ずつ要します。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	「中国語Ⅰ」を履修したうえ、「中国語Ⅱ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語Ⅱ b	科目名(英文)	Chinese IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宋 東平
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音、フレーズに慣れてもらう。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第6課 今は3時5分前だ	「有」と「在」、時間詞の語順。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
2	第6課 今は3時5分前だ	不定の数量を表す「些」、時刻の言い方、意見を求める言い方。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
3	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	時間に使う「上/下」、連動文、前置詞「在」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
4	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	標点符号「,」と「、」、文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト(第6-7課)の準備。
5	第8課 小説は好きなの?	☆単元テスト1 前置詞「從」と「到」、時量補語とその語順、文型「快～了」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
6	第8課 小説は好きなの?	前置詞「離」、強調の「是」、副詞「又」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
7	第9課 ファーストフード店は家から近い	副詞「就」、副詞「才」、動詞の「要」、前置詞「給」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
8	第9課 ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」、文型「一・・・就・・・」、 「未完成の「没有～」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト(第8-9課)の準備。
9	第10課 北京ダックを食べたことある?	☆単元テスト2 助詞「過」、助動詞「要」、「想」、「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
10	第10課 北京ダックを食べたことある?	助動詞「應該」、副詞「別」、「再」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
11	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文、助動詞「会」、構造助詞「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
12	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」、比較の「没有」、禁止表現「不要」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト(第10-11課)の準備。
13	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	☆単元テスト3 仮定表現「要是～」、助動詞「能」、可能性の「会」、比較表現「比」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
14	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	使役動詞「叫」、方向補語「～来/去」、 複合補語「～進來/進去」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト(第12課)の準備。
15	おさらい	☆単元テスト4	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。

関連科目	「中国語Ⅰ」
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に1時間ずつ要します。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	「中国語Ⅰ」を履修したうえ、「中国語Ⅱ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語Ⅲ a	科目名 (英文)	Chinese IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語を基礎に、読む・聴く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験 4 級レベルに達することを旨とする。
到達目標	中国での買い物や移動に困らないレベルの聞く力、話す力を身につける。
授業方法と留意点	日本語訳を見て中国語を話す練習もする。毎回予習と復習を必ず行ってください。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第一課 自我介绍 (2) 会話・練習問題	5. 為什麼 6. 因為～所以～ 7. 看来	授業までに練習問題を解答しておく。
3	第二課 我的家庭 (1) 本文・文法	1. 在～長大的 2. 考大学/考上大学 3. 才 4. 除了～以外	課文、会話本文をノートに書き写しておく。
4	第二課我的家庭 (2) 会話・練習問題	5. 当 (老師) 6. 忙得要命 7. 很少+動詞フレーズ 8. 發短信	授業までに練習問題を解答しておく。
5	第 1 回単元テスト(筆記と口頭)	第一課・第二課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。
6	第三課 我的一天 (1) 本文・文法	1. 上 (廁所) 2. 「一節」と「第一節」 3. 「分」と「分鐘」 4. 我家離學校比較遠。 5. 一个多小时	課文、会話本文をノートに書き写しておく。
7	第三課 我的一天 (2) 会話・練習問題	6. 我在減肥。 7. 看看電視，聽聽音樂。 8. 我起得很早，睡得不太晚。 9. 雖然～，但是～	授業までに練習問題を解答しておく。
8	第四課 請假 (1) 本文・文法	1. 如果～的話 2. 請假 3. 前置詞「向」 4. 請	課文、会話本文をノートに書き写しておく。
9	第四課 請假 (2) 会話・練習問題	5. 別 6. 前置詞「对」 7. 替	授業までに練習問題を解答しておく。
10	第 2 回単元テスト(筆記と口頭)	第三課・第四課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。
11	第五課 約會 (1) 本文・文法	1. 叫你久等了 2. 星期六還是星期天? 3. 你看几点合適?	課文、会話本文をノートに書き写しておく。
12	第五課 約會 (2) 会話・練習問題	4. 那就星期天? 5. 反正我沒什麼事兒。	授業までに練習問題を解答しておく。
13	第六課 快要考試了 (1) 本文・文法	1. 今年夏天比往年來得早 2. 熱起來	課文、会話本文をノートに書き写しておく。
14	第六課 快要考試了 (2) 会話・練習問題	3. 一放假，就動身 4. 趁	授業までに練習問題を解答しておく。
15	第 3 回単元テスト(筆記と口頭)	第五課・第六課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。

関連科目	「中国語 I」、「中国語 II」、「中国語 IV」
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語中級	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	継続は力なり。事前・事後の学習に各 60 分要する。
-----------	----------------------------

担当者の 研究室等	7号館3階 兪研究室
備考	「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」を履修したうえ、「中国語Ⅲ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語Ⅲ b	科目名 (英文)	Chinese IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	礫 玉璽
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	前期の「中国語Ⅲ」に続き、読む・聴く・話す・書く一四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。
到達目標	中国語Ⅲで学んだ事項を定着させるとともに発展させ、比較的優しい新聞記事などを辞書を使って読めるレベルを目指す。
授業方法と留意点	日本語を見て中国語を話す練習もする。事前・事後の学習に各60分要する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第七課 中国の大学生生活 (2) 会話・練習問題	5 一邊～, 一邊～ 6 当家教 7 由 8 面臨着	授業までに練習問題を解答しておく。
3	第八課 中国菜 (1) 本文・文法	1 根据～不同, ～也不一样 2 以～為主 3 雖然～, 但是～	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
4	第八課 中国菜 (2) 会話・練習問題	4 愛+動詞 5 一提到～, 就～ 6 即	授業までに練習問題を解答しておく。
5	第1回単元テスト(筆記と口頭)	第七課・第八課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙, 文法項目を確認しておく。
6	第九課 中国的人口 (1) 本文・文法	1 也就是說 2 使 3 每+数量詞	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
7	第九課 中国的人口 (2) 会話・練習問題	4 動詞+起來 5 可是～, 却～ 6 尽管～, 但是～	授業までに練習問題を解答しておく。
8	第十課 中国的家庭 (1) 本文・文法	1 誰～誰～ 2 帰 3 在～上	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
9	第十課 中国的家庭 (2) 会話・練習問題	4 把 5 看来	授業までに練習問題を解答しておく。
10	第2回単元テスト(筆記と口頭)	第九課・第十課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙, 文法項目を確認しておく。
11	第十一課 中国人的交際 (1) 本文・文法	1 可見 2 誰也不白吃 3 彼	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
12	第十一課 中国人的交際 (2) 会話・練習問題	4 即使～, 也～ 5 等 6 該我了	授業までに練習問題を解答しておく。
13	第十二課 漢語的外來語 (1) 本文・文法	1 譯自 2 動詞+到	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
14	第十二課 漢語的外來語 (2) 会話・練習問題	3 動詞+成 4 对～來說	授業までに練習問題を解答しておく。
15	第3回単元テスト(筆記と口頭)	第十一課・第十二課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙, 文法項目を確認しておく。

関連科目	「中国語Ⅲ」
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語中級	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	継続は力なり。予習と復習の学習に1時間ずつ要する。
-----------	---------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	「中国語Ⅲ」を履修したうえ、「中国語Ⅳ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西, 兪, 小都)を通じて問い合わせることも
----	---

科目名	中国語LLIa	科目名(英文)	Chinese LL Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験4級に出題される文法・語彙の80%を修得する。また同試験リスニング部分でも6割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話すIa」「中国語を読むIa」「中国語を聞くIa」「中国語を書くIa」のひとつで、『摂南大学中国語Ia』を使用して、週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級または4級を受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	子音(4)、子音(5)	発音編4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	会話1	第1課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	会話2	第2課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	会話3	第3課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第1課～第3課まとめ	第1回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	会話4	第4課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	会話5	第5課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	会話6	第6課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	連動文	第7課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	了1、了2	第8課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	結果補語、介詞6	第9課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第7課～第9課まとめ	第3回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	会話10	第10課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	会話11	第11課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	会話12	第12課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話すIa」「中国語を読むIa」「中国語を書くIa」 「ビジネス中国語a」「映像中国語a」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語Ia	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	兪研究室(7号館3階)
----------	-------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(瀬戸、中西、兪)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語LLIa	科目名(英文)	Chinese LL Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験4級に出題される文法・語彙の80%を修得する。また同試験リスニング部分でも6割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話すIa」「中国語を読むIa」「中国語を聞くIa」「中国語を書くIa」のひとつで、『摂南大学中国語Ia』を使用して、週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級または4級を受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	子音(4)、子音(5)	発音編4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	会話1	第1課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	会話2	第2課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	会話3	第3課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第1課～第3課まとめ	第1回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	会話4	第4課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	会話5	第5課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	会話6	第6課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	連動文	第7課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	了1、了2	第8課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	結果補語、介詞6	第9課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第7課～第9課まとめ	第3回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	会話10	第10課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	会話11	第11課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	会話12	第12課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話すIa」「中国語を読むIa」「中国語を書くIa」 「ビジネス中国語a」「映像中国語a」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語Ia	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	小都研究室(7号館3階)
----------	--------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	中国語 L L I b	科目名 (英文)	Chinese LL Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験4級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに、中国語検定試験4級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	使役文、被動文、複合方向補語	第14課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	検定4級準備(1)リスニング	第15課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定4級準備(2)長文読解	第16課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定4級準備(3)長文読解	第17課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第15課～17課到達度確認	復習+第15課～17単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定4級準備(4)日文中訳	第18課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定4級準備(5)日文中訳	第19課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定4級準備(6)日文中訳	第20課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認(1)教材音読	第21課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認(2)日文中訳	第22課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認(3)語彙と発音	第23課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第21課～23課到達度確認	復習+第21課～第23課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認(4)中文日訳	第24課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認(5)教材音読	第25課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	兪研究室 (7号館2階)
考	質問したい事項がある場合、担当教員の研究室で問い合わせること。

科目名	中国語LLIb	科目名(英文)	Chinese LL Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験4級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに、中国語検定試験4級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話すIa」「中国語を読むIa」「中国語を聞くIa」「中国語を書くIa」のひとつで、『摂南大学中国語Ia』を使用して、週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	使役文、被動文、複合方向補語	第14課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	検定4級準備(1)リスニング	第15課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定4級準備(2)長文読解	第16課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定4級準備(3)長文読解	第17課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第15課～17課到達度確認	復習+第15課～17単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定4級準備(4)日文中訳	第18課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定4級準備(5)日文中訳	第19課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定4級準備(6)日文中訳	第20課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認(1)教材音読	第21課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認(2)日文中訳	第22課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認(3)語彙と発音	第23課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第21課～23課到達度確認	復習+第21課～第23課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認(4)中文日訳	第24課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認(5)教材音読	第25課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話すIb」「中国語を読むIb」「中国語を書くIb」 「ビジネス中国語b」「映像中国語b」
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ib	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト:30% 単元テスト:70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階(小都研究室)
----------	--------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	中国語LⅡa	科目名(英文)	Chinese LL IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語IIa』を使う必修科目「中国語を話すIIa」「中国語を読むIIa」「中国語を聞くIIa」「中国語を書くIIa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので、4科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第3回	第2話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第7回	第4話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第11回	第6話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第15回	第8話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第18回	第9話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第22回	第11話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第26回	第13話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第30回	第11話～第15話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第34回	第17話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第38回	第19話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第42回	第21話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第46回	第23話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第50回	第21話～第25話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第54回	第27話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第58回	第29話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話IIa」「中国語講読IIa」「中国語作文IIa」 「ビジネス中国語IIa」「日中翻訳法Ia」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語IIa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各60時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	小都研究室(7号館3階)
----------	--------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に研究室を訪ねること。
----	------------------------------------

科目名	中国語LLIIa	科目名(英文)	Chinese LL IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語IIa』を使う必修科目「中国語を話すIIa」「中国語を読むIIa」「中国語を聞くIIa」「中国語を書くIIa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので、4科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第3回	第2話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第7回	第4話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第11回	第6話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第15回	第8話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第18回	第9話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第22回	第11話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第26回	第13話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第30回	第11話～第15話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第34回	第17話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第38回	第19話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第42回	第21話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第46回	第23話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第50回	第21話～第25話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第54回	第27話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第58回	第29話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話IIa」「中国語講読IIa」「中国語作文IIa」 「ビジネス中国語IIa」「日中翻訳法Ia」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語IIa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各60時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都, 中西, 兪)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語 L I II b	科目名 (英文)	Chinese LL IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級および 2 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 7 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級・2 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第 2 回	第 1 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 6 回	第 3 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 10 回	第 5 話後半・第 1 回～第 10 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 13 回	第 7 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	2 年生暗唱コンテスト	狐假虎威	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 17 回	第 9 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 24 回	第 12 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 28 回	第 14 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 32 回	第 16 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 36 回	第 18 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 40 回	第 20 話後半・第 31 回～第 40 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 44 回	第 22 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 48 回	第 24 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 53 回	第 27 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 56 回	第 28 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語講読 IIb」「中国語作文 IIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各 60 時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階)
----------	------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	中国語 L I I b	科目名 (英文)	Chinese LL I I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級および 2 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 7 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで、これらのは授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級・2 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 2 回	第 1 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第 6 回	第 3 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第 10 回	第 5 話後半・第 1 回～第 10 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第 13 回	第 7 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	2 年生暗唱コンテスト	狐假虎威	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第 17 回	第 9 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第 24 回	第 12 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第 28 回	第 14 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第 32 回	第 16 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第 36 回	第 18 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第 40 回	第 20 話後半・第 31 回～第 40 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第 44 回	第 22 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第 48 回	第 24 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第 53 回	第 27 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 56 回	第 28 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語講読 IIb」「中国語作文 IIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各 60 時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語圏概論	科目名(英文)	Introduction to Cultures of the Chinese-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸 宏
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本授業では、映像を通じ、中国の社会や文化について広い視野で学ぶことを目的とする。																																																																		
到達目標	中国の社会や文化に関する事項は、中国語を学ぶ際に必ず出会うことであり、中国の人々と交流する際にも避けては通ることのできないものである。これらについて理解を深め、中国をめぐるさまざまな問題について意見を交わせるようになることを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	テーマに応じて毎回1本の中国映画を取り上げ、その鑑賞と解説を通じて授業を進める。																																																																		
科目学習の効果(資格)	日本と関係の深い中国の社会を知ることにより、国際的な視野を広げ、今後の大学での学習における基礎力をつける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業内容、授業の進め方、評価基準等についての説明</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中国の基礎知識1</td> <td>中国の地理的特徴</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>中国の基礎知識2</td> <td>中国の歴史的概要</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>新中国成立までの道のり1</td> <td>中華人民共和国成立以前の政治と社会</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>新中国成立までの道のり2</td> <td>中華人民共和国成立以前の政治と社会</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>中華人民共和国の成立1</td> <td>中華人民共和国成立前後の政治と社会</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中華人民共和国の成立2</td> <td>中華人民共和国成立前後の政治と社会</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中華人民共和国と台湾</td> <td>中華人民共和国と台湾の関係、台湾の政治と社会</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>中華人民共和国初期の諸政策1</td> <td>大躍進政策、文化大革命などの諸政策と社会</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>中華人民共和国初期の諸政策2</td> <td>大躍進政策、文化大革命などの諸政策と社会</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>現代中国の諸問題1</td> <td>改革開放後の諸政策と社会問題</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>現代中国の諸問題2</td> <td>改革開放後の諸政策と社会問題</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>現代中国の諸問題3</td> <td>改革開放後の諸政策と社会問題</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>映画からみえる中国社会</td> <td>中国の社会と人びとの暮らし</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>授業全体のまとめとレポート</td> <td>前期の授業内容を復習する。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等についての説明	関連する文献を紹介するので読むこと。	2	中国の基礎知識1	中国の地理的特徴	関連する文献を紹介するので読むこと。	3	中国の基礎知識2	中国の歴史的概要	関連する文献を紹介するので読むこと。	4	新中国成立までの道のり1	中華人民共和国成立以前の政治と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。	5	新中国成立までの道のり2	中華人民共和国成立以前の政治と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。	6	中華人民共和国の成立1	中華人民共和国成立前後の政治と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。	7	中華人民共和国の成立2	中華人民共和国成立前後の政治と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。	8	中華人民共和国と台湾	中華人民共和国と台湾の関係、台湾の政治と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。	9	中華人民共和国初期の諸政策1	大躍進政策、文化大革命などの諸政策と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。	10	中華人民共和国初期の諸政策2	大躍進政策、文化大革命などの諸政策と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。	11	現代中国の諸問題1	改革開放後の諸政策と社会問題	関連する文献を紹介するので読むこと。	12	現代中国の諸問題2	改革開放後の諸政策と社会問題	関連する文献を紹介するので読むこと。	13	現代中国の諸問題3	改革開放後の諸政策と社会問題	関連する文献を紹介するので読むこと。	14	映画からみえる中国社会	中国の社会と人びとの暮らし	関連する文献を紹介するので読むこと。	15	まとめ	授業全体のまとめとレポート	前期の授業内容を復習する。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等についての説明	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
2	中国の基礎知識1	中国の地理的特徴	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
3	中国の基礎知識2	中国の歴史的概要	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
4	新中国成立までの道のり1	中華人民共和国成立以前の政治と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
5	新中国成立までの道のり2	中華人民共和国成立以前の政治と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
6	中華人民共和国の成立1	中華人民共和国成立前後の政治と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
7	中華人民共和国の成立2	中華人民共和国成立前後の政治と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
8	中華人民共和国と台湾	中華人民共和国と台湾の関係、台湾の政治と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
9	中華人民共和国初期の諸政策1	大躍進政策、文化大革命などの諸政策と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
10	中華人民共和国初期の諸政策2	大躍進政策、文化大革命などの諸政策と社会	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
11	現代中国の諸問題1	改革開放後の諸政策と社会問題	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
12	現代中国の諸問題2	改革開放後の諸政策と社会問題	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
13	現代中国の諸問題3	改革開放後の諸政策と社会問題	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
14	映画からみえる中国社会	中国の社会と人びとの暮らし	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
15	まとめ	授業全体のまとめとレポート	前期の授業内容を復習する。																																																																
関連科目	1年次必修の中国語各課目・中国関連の講義科目。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プリント配布</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント配布			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プリント配布																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	レポート70%、毎回の提出物30%																																																																		
学生へのメッセージ	授業中は私語などを慎み、集中して内容の理解に努めてください。事前・事後に各60分の学習が必要です。授業で取り上げた映画は、可能な限り、各自で再見するようにしてください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	連絡事項や質問のある場合は、授業当日(金曜日)、授業前後の休み時間か昼休みに非常勤講師室にお越しください。																																																																		

科目名	中国語会話 I a	科目名 (英文)	Chinese Conversation Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各 60 分の学修を要する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	複母音 (2), 鼻母音 (1)	発音編 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	文末助詞, 主述述語文	第 1 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞 2	第 2 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	文末助詞 2, 副詞 3	第 3 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	数詞 2, 副詞 5	第 4 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	時間詞, 名詞述語文	第 5 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	動詞「在」, 副詞 6	第 6 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 4 課～第 6 課まとめ	第 2 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	会話 7	第 7 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話 8	第 8 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	会話 9	第 9 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	動量詞 2, 副詞 11	第 10 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	疑問代名詞 4, 能願動詞 3	第 11 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	進行文, 接続詞 1	第 12 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 10 課～第 12 課まとめ	第 4 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 Ia	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語会話 I a	科目名 (英文)	Chinese Conversation Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各 60 分の学修を要する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	複母音 (2), 鼻母音 (1)	発音編 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	文末助詞, 主述述語文	第 1 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞 2	第 2 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	文末助詞 2, 副詞 3	第 3 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	数詞 2, 副詞 5	第 4 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	時間詞, 名詞述語文	第 5 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	動詞「在」, 副詞 6	第 6 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第 4 課～第 6 課まとめ	第 2 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	会話 7	第 7 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	会話 8	第 8 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	会話 9	第 9 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	動量詞 2, 副詞 11	第 10 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	疑問代名詞 4, 能願動詞 3	第 11 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	進行文, 接続詞 1	第 12 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 10 課～第 12 課まとめ	第 4 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語会話 I b	科目名 (英文)	Chinese Conversation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験4級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに、中国語検定試験4級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	是～的構文	第13課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	動態助詞「着」、気象現象	第14課1+第13課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第13, 14課文法と語彙の復習	第13課～14復習課	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	検定4級準備(1) 文法	第15課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	検定4級準備(2) 日文中訳	第16課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	検定4級準備(3) 日文中訳	第17課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	検定4級準備(4) 長文読解	第18課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	検定4級準備(5) 長文読解	第19課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	検定4級準備(6) 長文読解	第20課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	長文読解と既習事項確認(1) 語彙と発音	第21課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第21課到達度確認	復習+第21課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	長文読解と既習事項確認(2) 中文日訳	第22課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	長文読解と既習事項確認(3) 教材音読	第23課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	長文読解と既習事項確認(4) 日文中訳	第24課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第24課～25課到達度確認	復習+第24課～第25課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都, 中西, 兪)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語会話 I b	科目名 (英文)	Chinese Conversation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	是～的構文	第 13 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	動態助詞「着」、気象現象	第 14 課 1+第 13 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第 13, 14 課文法と語彙の復習	第 13 課～14 復習課	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	検定 4 級準備 (1) 文法	第 15 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	検定 4 級準備 (2) 日文中訳	第 16 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	検定 4 級準備 (3) 日文中訳	第 17 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	検定 4 級準備 (4) 長文読解	第 18 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	検定 4 級準備 (5) 長文読解	第 19 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	検定 4 級準備 (6) 長文読解	第 20 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 語彙と発音	第 21 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第 21 課到達度確認	復習+第 21 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	長文読解と既習事項確認 (2) 中文日訳	第 22 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	長文読解と既習事項確認 (3) 教材音読	第 23 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (4) 日文中訳	第 24 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 24 課～25 課到達度確認	復習+第 24 課～第 25 課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語会話Ⅱ a	科目名(英文)	Chinese Conversation IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語Ⅱa』を使う必修科目「中国語を話すⅡa」「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を書くⅡa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので、4科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1回	第1話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第5回	第3話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第9回	第5話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第13回	第7話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第20回	第6話～第10話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第24回	第12話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第28回	第14話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第32回	第16話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第36回	第18話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第40回	第16話～第20話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第44回	第22話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第48回	第24話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第52回	第26話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第56回	第28話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第60回	第26話～第30話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語講義Ⅱa」「中国語LLⅡa」「中国語作文Ⅱa」 「ビジネス中国語Ⅱa」「日中翻訳法Ⅰa」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語Ⅱa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都、中西、兪)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語会話Ⅱ a	科目名(英文)	Chinese Conversation IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので、4科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第1回	第1話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第5回	第3話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第9回	第5話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第13回	第7話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第20回	第6話～第10話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第24回	第12話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第28回	第14話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第32回	第16話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第36回	第18話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第40回	第16話～第20話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第44回	第22話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第48回	第24話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第52回	第26話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第56回	第28話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第60回	第26話～第30話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語講義 IIa」「中国語 LLIIa」「中国語作文 IIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都、中西、兪)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語会話Ⅱb	科目名(英文)	Chinese Conversation IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも7割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話すⅡb」「中国語を読むⅡb」「中国語を聞くⅡb」「中国語を書くⅡb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語Ⅱb』をリレー式に使う。4科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級・2級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第4回	第2話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第8回	第4話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第15回	第8話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第19回	第10話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第22回	第11話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第26回	第13話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第30回	第15話後半・第21回～第30回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第34回	第17話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第38回	第19話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第42回	第21話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第46回	第23話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第50回	第25話後半・第41回～第50回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第51回	第26話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第58回	第29話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第59回	第30話前半・第51回～第59回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語講義Ⅱb」「中国語LLⅡb」「中国語作文Ⅱb」 「ビジネス中国語Ⅱb」「日中翻訳法Ⅰa」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語Ⅱb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都、中西、兪)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語会話Ⅱ b	科目名(英文)	Chinese Conversation IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級および 2 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 7 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験 3 級・2 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 4 回	第 2 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第 8 回	第 4 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第 15 回	第 8 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第 19 回	第 10 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第 22 回	第 11 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第 26 回	第 13 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第 30 回	第 15 話後半・第 21 回～第 30 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第 34 回	第 17 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第 38 回	第 19 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第 42 回	第 21 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第 46 回	第 23 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第 50 回	第 25 話後半・第 41 回～第 50 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第 51 回	第 26 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第 58 回	第 29 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 59 回	第 30 話前半・第 51 回～第 59 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語講義 IIb」「中国語 LLIIb」「中国語作文 IIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
----------	------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都, 中西, 兪)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語会話表現法 I a	科目名 (英文)	Chinese Speaking Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	この授業は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話授業です。中国の「社会事情」「文化風習」といった身近な話題で、楽しく文法事項や表現を学習し、文法練習、会話練習とリスニング練習によって、中国語のコミュニケーション能力の向上を目指します。
到達目標	文法練習、会話練習とリスニング練習によって、会話を高める。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加する態度が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話を身につけること。自らの表現能力を高めることも可能である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一課 1 初めまして	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第一課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第二課 1 早起き	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第二課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
6	第三課 1 北京の朝	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第三課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第四課 1 模範亭主	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第四課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
11	第五課 1 勘定	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第五課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第六課 1 お返し	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第六課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	総復習	全体の総括。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	快活中国語II		白帝社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	口頭および筆記による小テストを数回に分けて実施し、これらをもとに成績を評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加を望みたい。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都, 中西, 兪)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語会話表現法 I b	科目名 (英文)	Chinese Speaking Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	この授業は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話授業です。中国の「社会事情」「文化風習」といった身近な話題で、楽しく文法事項や表現を学習し、文法練習、会話練習とリスニング練習によって、中国語のコミュニケーション能力の向上を目指します。
到達目標	文法練習、会話練習とリスニング練習によって、会話力を高める。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加する態度が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とコミュニケーションするのに必要な会話力をつけること。自らの表現能力を高めることも可能である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一課 呼び方の変化 1	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第一課 呼び方の変化 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第二課 大学生の恋愛事情 1	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第二課 大学生の恋愛事情 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
6	第三課 飲食の変化 1	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第三課 飲食の変化 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	会話	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第四課 結婚しない女性 1	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第四課 結婚しない女性 2	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
11	会話	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第五課 第二子 1	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第五課 第二子 2	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	会話	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	発表	全体の総括	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	数回の単元テストによる
-----------	-------------

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大な目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加を望みたい。原則として事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都, 中西, 兪)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語会話表現法Ⅱ a	科目名(英文)	Chinese Speaking IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話の授業です。基礎文型を復習・定着させ、語彙を増やします。会話練習により、習った文法・文型を確実に身に付けるようにします。
到達目標	毎回の授業は身近な話題で、中国語で会話の練習をします。実践的な会話練習により中国語のコミュニケーションの向上を目指します。
授業方法と留意点	一回一課で、文法と本文を終了した後、すぐに文法練習と会話練習をします。学習の効果をその場で確認します。 毎回の授業に目標を持って臨むこと。
科目学習の効果(資格)	中国人との交流に必要な会話能力を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第1課 重逢	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
2	第2課 入学手?	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
3	第3課 听力?	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
4	第4課 ?早市	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
5	第5課 ?物?	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
6	第6課 中秋?	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
7	第7課 国??	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
8	第8課 看京?	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
9	第9課 借?	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
10	第10課 互相?助	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
11	第11課 找??	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
12	第12課 端午?	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
13	第13課 看日出	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
14	第14課 志愿者	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
15	まとめ	会話発表	発表内容を事前に準備する。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	WeCan! 中国語 中級	徐 送迎	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準) 授業への参加度と小テスト: 30%
テスト: 70%

学生へのメッセージ 中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大な目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加を望みたい。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	中国語会話表現法Ⅱb	科目名(英文)	Chinese Speaking IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義は習得した基礎文法を応用できるように中国語会話の授業です。基礎文型を復習・定着させ、語彙を増やします。会話練習により、習った文法・文型を確実に身に付けるようにします。
到達目標	毎回の授業は身近な話題で、中国語で会話の練習をします。実践的な会話練習により中国語のコミュニケーションの向上を目指します。
授業方法と留意点	一回一課で、文法と本文を終了した後、すぐに文法練習と会話練習をします。学習の効果をその場で確認します。 毎回の授業に目標を持って臨むこと。
科目学習の効果(資格)	中国人との交流に必要な会話能力を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第16課 参拜孔子?	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
3	第17課 ?演比?	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
4	第18課 ???家	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
5	第19課 考?	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
6	第20課 ?大衣	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
7	第21課 ??会	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
8	第22課 ?路	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
9	第23課 九寨?	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
10	第24課 兵?俑	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
11	第25課 找工作	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
12	第26課 ?拉 OK	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
13	第27課 ?祝	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
14	第28課 送行	単語、文法、文型を解説する。 本文の発音と意味を確認する。 文法練習と会話練習。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 本文の朗読。
15	まとめ	会話発表	発表内容を事前に準備する。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	WeCan! 中国語 中級	徐 送迎	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準) 授業への参加度と小テスト: 30%
テスト: 70%

学生へのメッセージ 中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大な目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加を望みたい。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	中国語学 I	科目名 (英文)	Chinese Linguistics I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	中国語は地域的な広がり、及び歴史的な広がりにおいてきわめて多様な言語である。その多様性をつなぐのが漢字であるが、漢字は基本的には表意文字であるため、文字に含まれるそれぞれの部品の意味を知ること、文字全体の意味を解釈できる。本講義では藤堂明保著『漢字語源辞典』の単語家族に関する記述を参考にしながら、上古 (周代) 漢語の音韻体系と甲骨文字や金文を手がかりに、形と意味の関係を探り、古代人のものの見方や発想法について考える。
到達目標	日常使用する漢字について、それを構成する部品が何の象形なのか、どのような意味を担っているのか、それらを組み合わせること何を表現しているのかを説明できるようになることを目指す。また、未知の漢字に接した時もその意味や読み音を推測できるようにする。
授業方法と留意点	一回の授業で4～5の漢字家族をとりあげ、その本来の意味や漢字の構成を考えていく。受講生にも意見を求める。
科目学習の効果 (資格)	中国語教職科目 (中国語の分野)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	人体・姿勢	人・女・子・鬼・兄…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	2	身体部位 1	頭・毛・目・耳・口…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	3	身体部位 2	手・足…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	4	動物 1	牛・馬・羊…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	5	動物 2	犬・鹿・豚…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	6	動物 3	鳥・虫・蛇…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	7	天体・気象	日・月・水…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	8	鉱物	土・火・金…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	9	人工物	高・示…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	10	器具 1	方・網・工…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	11	器具 2	玉・父・車…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	12	器具 3	刀・辛・戈…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	13	動作	又・口・之…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	14	状態	束・阜・変…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	15	形状	字・王・弗…	

関連科目 中国語の語学科目を履修しておくこと。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	常用漢字コアイメージ辞典	加納喜光	中央公論社
	2			
	3			

評価方法 (基準) 小テスト及び単元テスト 80%
授業参加度や提出物 20%

学生へのメッセージ 講義の内容をノートする必要は言うまでもないが、試験では複数の語から1つの共通性を帰納する能力を評価する。語の音と意味がいかに密接に結びついているかを授業を通して理解してほしい。事前・事後学習に1.5時間ずつ要する。

担当者の研究室等 7号館3階(中西研究室)

備考

科目名	中国語学Ⅱ	科目名(英文)	Chinese Linguistics II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	中国語学習において、混同しやすい日中同形語を使い分けることが非常に大切なことである。本講義は、日中常用同形語、つまり中級段階でよく使われ、誤用が生じやすく、質問が多いものを取り上げて、中国語の語彙力(分析力、理解力、運用力)を高めることを目的とする。
到達目標	中国語検定試験2級合格を目指す。
授業方法と留意点	授業では、日中同形語について3つずつ口述解説とドリルを中心に行う。 中国語専攻以外の学生が、中国語検定試験3級の資格を持っている者なら、支障なく受講できる。
科目学習の効果(資格)	中国語の能力の向上、中国語検定試験の合格などに役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「意思、援助、円満」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 22-37
3	「溫和、顔色、活動」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 44-63
4	「感覚、確実、議論」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 67-79
5	1-4回目の復習・まとめ	重要な部分をおさらいする。 ☆単元テスト1	指定した範囲を復習する。
6	「気味、工夫、結束」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 82-103
7	「検討、経験、結構」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 106-117
8	「告訴、構造、差別」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 126-157
9	「事情、柔軟、趣味」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 158-175
10	6-9回目の復習・まとめ	重要な部分をおさらいする。 ☆単元テスト2	指定した範囲を復習する。
11	「単純、注目、注意」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 180-209
12	「情緒、新鮮、損害」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 230-247
13	「通過、適当、到底」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 256-281
14	「得意、把握、発見」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 284-337
15	11-14回目の復習・まとめ	重要な部分をおさらいする。 ☆単元テスト3	指定した範囲を復習する。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中常用同形語用法作文辞典	曹 櫻	日本僑報社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	例文で覚える中国語類義語 1000	日本語版監修：平山邦彦	ASK
2	実用対外反語	朱麗雲・郭克勤ほか	北京大学出版	
3				

評価方法(基準)	提出物 30%、単元テスト 70%。
----------	--------------------

学生へのメッセージ	授業中は私語などを慎み、集中して授業内容の理解に努めましょう。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)
----------	-------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	中国語原書講読 I a	科目名 (英文)	Reading Contemporary Chinese Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	最近、中国人観光客の増加により、日本観光市場が新しい段階を迎えようとしている。東京だけではなく、関西でも中国人観光客が増え、空港や商店などで中国語を話す声があちこちから聞こえて来る。乗務員や空港スタッフ、旅行案内、ホテルや商店の店員など、いま日本は中国語の話せる人材を大いに必要としている。観光やビジネスで中国語が話せたら、世界はもっと広がる。本講義は、中国一番の大都市上海をスポットとして、空港、地下鉄に乗る、ショッピング、道を探ねるなどでよく使われている最新の観光中国語会話を学んでいくことを主眼にしている。また、中国の世界遺産も詳しく紹介する。
到達目標	観光中国語の会話能力を身に付ける。
授業方法と留意点	授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。
科目学習の効果 (資格)	中国人の観光客を案内する能力を身に付ける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課	LOVE! 上海 1 の復習課	授業内容を復習、次の内容を予習する。
	2	第1課 虹橋空港にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
	3	第2課 地下鉄に乗って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
	4	第3課 上海の交通は便利です	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
	5	第4課 2週間上海にいます	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
	6	第5課 豫園でショッピング	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
	7	復習1、総合練習、小テスト	第5課までの内容を復習する	第5課までの内容を復習、次の内容を予習する。
	8	第6課 道を探ねる	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
	9	第7課 オールドジャズバンド	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
	10	第8課 ジャズバーで飲みながら	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
	11	第9課 上海人の友達の家で	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
	12	第10課 朝食後は何をしますか？	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
	13	第11課 市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
	14	復習2、総合練習、小テスト	第6課から第11課までの内容を復習する	第6課から第11課までの内容を復習、発表の内容を準備する。
	15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	LOVE! 上海 2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：30% 単元テスト：70%
-----------	--

学生へのメッセージ	最近中国からの観光客が増えています、この授業で身に付ける観光中国語がいつかどこかで役に立つはずですよ。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	事前・事後に各60分の学修を要する。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都、中西、兪)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語原書講読 I b	科目名 (英文)	Reading Contemporary Chinese Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的
 最近、中国人観光客の増加により、日本観光市場が新しい段階を迎えようとしている。東京だけではなく、関西でも中国人観光客が増え、空港や商店などで中国語を話す声があちこちから聞こえて来る。乗務員や空港スタッフ、旅行案内、ホテルや商店の店員など、いま日本は中国語の話せる人材を大いに必要としている。観光やビジネスで中国語が話せたら、世界はもっと広がる。
 本講義は、中国一番の大都市—上海をスポットとして、空港、地下鉄に乗る、ショッピング、道を尋ねるなどでよく使われている最新の観光中国語会話を学んでいくことを主眼にしている。また、中国の世界遺産も詳しく紹介する。

到達目標
 観光中国語の会話能力を身に付ける。

授業方法と留意点
 授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。

科目学習の効果 (資格)
 中国人の観光客を案内する能力を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第13課 日本料理を食べてみたい	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
3	第14課 お寺に興味はありますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
4	第15課 日本料理を食べて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
5	復習3、総合練習、小テスト	第12課から第15課までの内容を復習する	授業内容を復習、次の内容を予習する。
6	第16課 散歩から帰って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
7	第17課 列車のチケット	単語、本文、文法、練習	第5課までの内容を復習、次の内容を予習する。
8	第18課 周庄は遠いですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
9	第19課 帰国前のひととき	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
10	復習4、総合練習、小テスト	第16課から第19課までの内容を復習する	授業内容を復習、次の内容を予習する。
11	第20課 留学したいですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
12	第21課 何時に出発しますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
13	第22課 また来てください	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する。
14	復習5、総合練習、小テスト	第20課から第22課までの内容を復習する	発表の内容を準備する。
15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	LOVE! 上海2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。
 授業への参加度と発表：40%
 単元テスト：60%

学生へのメッセージ
 最近中国からの観光客が増えています、この授業で身に付ける観光中国語がいつかどこかで役に立つはずですよ。

担当者の研究室等
 7号館2階非常勤講師室

備考
 学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都、中西、兪)を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語原書講読 II a	科目名 (英文)	Reading Contemporary Chinese IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	本授業はビジネス現場のいろんな場面に合わせて、実用性のある表現と中国の習慣や文化を勉強し、将来ビジネス現場で役立つ知識を習得する。
到達目標	中国語検定2級に必要な語彙力、コミュニケーション力を高める。
授業方法と留意点	単語やフレーズの習得を重視する。新しい言葉を辞書で調べておくこと。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験2級や通訳案内士試験の受験。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第1章 全業種共通フレーズ②	電話対応、忘れ物の対応	p47-53の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
3	第2章 飲食業フレーズ①	☆テスト (前2回の内容) 席へ案内、予約電話、	p58-69の単語と表現を覚える。
4	第2章 飲食業フレーズ②	メニュー説明など	p70-79の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
5	第2章 飲食業フレーズ③	☆テスト (前2回の内容) 食材、食べ方の説明	p80-94の単語と表現を覚える。
6	第2章 飲食業フレーズ④	クレーム対応、事例など	p95-118の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
7	第3章 販売業フレーズ①	☆テスト (前2回の内容) お客様の希望を伺う、セール・キャンペーンの案内をする	p120-129の単語と表現を覚える。
8	第3章 販売業フレーズ②	助言する、業務上の注意、取り寄せ、免税品など	p130-139の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
9	第3章 販売業フレーズ③	☆テスト I (前2回の内容) 値引き交渉、包装、配送、修理など	p140-150の単語と表現を覚える。
10	第3章 販売業フレーズ④	事例1~7	p151-175の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
11	第4章 宿泊・レジャー・美容業のフレーズ①	☆テスト (前2回の内容) フロント、館内案内、入浴、チェックアウトなど	p178-205の単語と表現を覚える。
12	第4章 宿泊・レジャー・美容業のフレーズ②	事例1~5	p206-224の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
13	第5章 医療業・病気・トラブル対応のフレーズ	☆テスト (前2回の内容) とっさの対応、病院、薬局など	p226-238の単語と表現を覚える。
14	第6章 道案内のためのフレーズ 付録一使える張り紙①	建物の中、建物の外 順番待ち、在庫、お薦め、禁止事項	p240-247の単語と表現を覚える。 p251-262の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
15	付録一使える張り紙②	☆テスト (前2回の内容) 会計、セルフ、日程、防犯、など	p263-282の単語と表現を覚える。

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%
学生へのメッセージ	フレーズをどんどん覚えてコミュニケーション力を伸ばしましょう。 事前・事後に各60分の学習を要する。
担当者の研究室等	7号館3階 (兪研究室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語原書講読 II b	科目名 (英文)	Reading Contemporary Chinese IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	本授業はビジネス現場のいろんな場面に合わせて、実用性のある表現と中国の習慣や文化を勉強し、将来ビジネス現場で役立つ知識を習得する。
到達目標	中国語検定2級に必要な語彙力、コミュニケーション力を高める。
授業方法と留意点	単語やフレーズの習得を重視する。新しい言葉を辞書で調べておくこと。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験2級や通訳案内士試験の受験。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第1章 オフィスの中国語②	自己紹介②、電話対応など	p43-48の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
3	第1章 オフィスの中国語③	☆テスト (前2回の内容) 役職用語、社内案内など	p49-54の単語と表現を覚える。
4	第2章 会議と報告①	グラフ用語、会議の司会など	p58-61の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
5	第2章 会議と報告②	☆テスト (前2回の内容) 担当者による話し合い、はっきり意見を述べる	p62-67の単語と表現を覚える。
6	第2章 会議と報告③	議論と調整、プレゼンテーションなど	p68-77の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
7	第3章 出張と接待①	☆テスト (前2回の内容) 関連用語、関連フレーズ、出張前の確認	p80-86の単語と表現を覚える。
8	第3章 出張と接待②	空港での出迎え、展示会の説明	p87-91の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
9	第3章 出張と接待③	☆テスト I (前2回の内容) お客様をもてなすなど	p92-100の単語と表現を覚える。
10	第4章 交渉と契約①	製品供給用語、契約の交渉など	p102-105の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
11	第4章 交渉と契約②	☆テスト (前2回の内容) 仕入れと価格交渉、発注と支払いなど	p106-111の単語と表現を覚える。
12	第4章 交渉と契約③	包装と輸送、業界提携など	p112-122の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
13	付録ービジネス文書①	☆テスト (前2回の内容) 総会通知、メールによる提議	p124-129の単語と表現を覚える。
14	付録ービジネス文書②	出張の申し送り、日程、確認メール	p130-135の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
15	付録ービジネス文書③	☆テスト (前2回の内容) 契約書、見積書	p136-139の単語と表現を覚える。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	DVD で学ぶライブビジネス中国語	LiveABC	東方書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みんなの接客中国語	広瀬直子・顧蘭亭	アルク
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%
学生へのメッセージ	フレーズをどんどん覚えてコミュニケーション力を伸ばしましょう。 事前・事後に各60分の学習を要する。
担当者の研究室等	7号館3階 (兪研究室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語語彙論	科目名(英文)	Chinese Lexicology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	中国語学習において、混同しやすい日中同形語を使い分けることが非常に大切なことである。本講義は、日中常用同形語、つまり中級段階でよく使われ、誤用が生じやすく、質問が多いものを取り上げて、中国語の語彙力(分析力、理解力、運用力)を高めることを目的とする。
到達目標	中国語検定試験2級合格を目指す。
授業方法と留意点	授業では、日中同形語について3つずつ口述解説とドリルを中心に行う。 中国語専攻以外の学生が、中国語検定試験3級の資格を持っている者なら、支障なく受講できる。
科目学習の効果(資格)	中国語の能力の向上、中国語検定試験の合格などに役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「意思、援助、円満」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 22-37
3	「溫和、顔色、活動」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 44-63
4	「感覚、確実、議論」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 67-79
5	1-4回目の復習・まとめ	重要な部分をおさらいする。 ☆単元テスト1	指定した範囲を復習する。
6	「気味、工夫、結束」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 82-103
7	「検討、経験、結構」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 106-117
8	「告訴、構造、差別」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 126-157
9	「事情、柔軟、趣味」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 158-175
10	6-9回目の復習・まとめ	重要な部分をおさらいする。 ☆単元テスト2	指定した範囲を復習する。
11	「単純、注目、注意」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 180-209
12	「情緒、新鮮、損害」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 230-247
13	「通過、適当、到底」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 256-281
14	「得意、把握、発見」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 284-337
15	11-14回目の復習・まとめ	重要な部分をおさらいする。 ☆単元テスト3	指定した範囲を復習する。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中常用同形語用法作文辞典	曹 櫻	日本僑報社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	例文で覚える中国語類義語 1000	日本語版監修：平山邦彦	ASK
	2	実用対外反語	朱麗雲・郭克勤ほか	北京大学出版
	3			

評価方法(基準)	提出物 30%、単元テスト 70%。
----------	--------------------

学生へのメッセージ	授業中は私語などを慎み、集中して授業内容の理解に努めましょう。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)
----------	-------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	中国語講読 I a	科目名 (英文)	Chinese Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	複母音 (3), 鼻母音 (4), 子音 (3)	発音編 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	自己紹介, 疑問詞疑問文	第 1 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	副詞語順, 全否定, 部分否定, 疑問視疑問文	第 2 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	二重目的語, 副詞 4	第 3 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 1 課～第 3 課会話文から出題	復習 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	所有, 存在, 疑問代名詞 2	第 4 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	疑問代名詞 3, 介詞 1	第 5 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	指示代名詞 2	第 6 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	介詞 3, 量詞 3	第 7 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	7 課小テスト, 介詞 4, 動量詞	第 8 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	8 課小テスト, 状態補語, 介詞 5	第 9 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 7 課～第 9 課会話文から出題	復習 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	能願動詞 1	第 10 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	比較文, 能願動詞 4	第 11 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	疑問代名詞 5, 副詞 12	第 12 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 Ia	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階 (兪研究室)
----------	-----------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (瀬戸, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語講読 I b	科目名 (英文)	Chinese Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	礫 玉壘
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。

科目学習の 効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。
------------------	------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	助動詞「打算」「準備」、前置詞「為了」「除了」	第 13 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	存現文、兼語文	第 14 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 13、14 課文法と語彙の到達度確認	第 13 課～14 単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定 4 級準備 (1) 日文中訳	第 15 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定 4 級準備 (2) リスニング	第 16 課 1+第 15 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定 4 級準備 (3) リスニング	第 17 課 1+第 16 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定 4 級準備 (4) 文法	第 18 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定 4 級準備 (5) 文法	第 19 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定 4 級準備 (6) 文法	第 20 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 日文中訳	第 21 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認 (2) 語彙と発音	第 22 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 22 課到達度確認	復習+第 22 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認 (3) 中文日訳	第 23 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (4) 教材音読	第 24 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認 (5) 日文中訳	第 25 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (瀬戸、中西、兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語講読Ⅱa	科目名(英文)	Chinese ReadingⅡa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語Ⅱa』を使う必修科目「中国語を話すⅡa」「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を書くⅡa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので、4科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第4回	第2話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第8回	第4話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第12回	第6話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第16回	第8話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第19回	第10話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第23回	第12話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第27回	第14話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第31回	第16話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第35回	第18話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第39回	第20話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第43回	第22話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第47回	第24話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第51回	第26話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第55回	第28話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第59回	第30話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話Ⅱa」「中国語LLⅡa」「中国語作文Ⅱa」 「ビジネス中国語Ⅱa」「日中翻訳法Ⅰa」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語Ⅱa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する
-----------	--

担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)
----------	--------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	中国語講読Ⅱb	科目名(英文)	Chinese Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも7割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話すⅡb」「中国語を読むⅡb」「中国語を聞くⅡb」「中国語を書くⅡb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語Ⅱb』をリレー式に使う。4科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級・2級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第3回	第2話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第7回	第4話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第11回	第6話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第14回	第7話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第18回	第9話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第21回	第11話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第25回	第13話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第29回	第15話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第33回	第17話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第37回	第19話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第41回	第21話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第45回	第23話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第49回	第25話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第54回	第27話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第57回	第29話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話Ⅱb」「中国語LLⅡb」「中国語作文Ⅱb」 「ビジネス中国語Ⅱb」「日中翻訳法Ⅰa」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語Ⅱb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する
-----------	--

担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)
----------	--------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	中国語コミュニケーション a	科目名 (英文)	Chinese Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	この授業は生の中国語を体感することにより、中国語表現能力を身に付けることが目的である。過去習った中国語の基礎をかためながら、音読、聴き取り、繰り返しなどの口頭練習を重ね、やや高度なコミュニケーションの手段としての中国語能力、ことに発信型の中国語能力の強化を目指す。
到達目標	中国語で日常のコミュニケーションができるようになります。
授業方法と留意点	会話とリスニングを重視する。 授業には積極的な態度で臨むこと。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	基礎会話を更に一步向上させることで、コミュニケーション能力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第一課 ?是件好看 (1)	単語、会話、リスニング、文法と練習問題。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
2	第一課 ?是件好看 (2)	本文の発音、翻訳、リスニング、練習問題、文化コラムと会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
3	第二課 ?是我??的手机 (1)	単語、会話、リスニング、文法と練習問題。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
4	第二課 ?是我??的手机 (2)	本文の発音、翻訳、リスニング、練習問題、文化コラムと会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
5	復習、小テスト	第 1 課から第 2 課までの内容を復習する。	授業内容の予習復習。
6	第三課 我想?往返机票 (1)	単語、会話、リスニング、文法と練習問題。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
7	第三課 我想?往返机票 (2)	本文の発音、翻訳、リスニング、練習問題、文化コラムと会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
8	第四課 去?山公?怎?走? (1)	単語、会話、リスニング、文法と練習問題。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
9	第四課 去?山公?怎?走? (2)	本文の発音、翻訳、リスニング、練習問題、文化コラムと会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
10	復習、小テスト	第 3 課から第 4 課までの内容を復習する。	授業内容の予習復習。
11	第五課 父母?我寄来一个包裹 (1)	単語、会話、リスニング、文法と練習問題。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
12	第五課 父母?我寄来一个包裹 (2)	本文の発音、翻訳、リスニング、練習問題、文化コラムと会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
13	第六課 ?能租到理想的房子? (1)	単語、会話、リスニング、文法と練習問題。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
14	第六課 ?能租到理想的房子? (2)	本文の発音、翻訳、リスニング、練習問題、文化コラムと会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
15	復習、小テスト、発表	第 5 課から第 6 課までの内容を復習する。	発表内容を暗唱。

関連科目	特になし。
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日???(准中?上), 中国語一日中の架け橋	??群・胡玉?	北京大学出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と発表：40% 小テスト：60%
-----------	----------------------------

学生へのメッセージ	目標を持って、積極的に授業に参加してもらいたい。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都、中西、兪)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語コミュニケーションb	科目名(英文)	Chinese Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	前期同様、この授業は生の中国語に体感することにより、中国語の口頭表現能力のさらなる向上を目標とする。音読、聞き取り、繰り返し、暗唱などの口頭練習を重ね、やや高度なコミュニケーションの手段としての中国語能力の強化を目指す。
到達目標	中国語で日常的コミュニケーションができるようになります。
授業方法と留意点	会話とリスニングを重視する。 授業には積極的な態度で臨むこと。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	基礎会話力を更に一步向上させることで、コミュニケーション能力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第七課 原来?就是不願意出家??!(1)	単語、会話、リスニング、文法と練習問題。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
2	第七課 原来?就是不願意出家??!(2)	本文の発音、翻訳、リスニング、練習問題、文化コラムと会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
3	第八課 以后我吃慢点儿不就行了??(1)	単語、会話、リスニング、文法と練習問題。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
4	第八課 以后我吃慢点儿不就行了??(2)	本文の発音、翻訳、リスニング、練習問題、文化コラムと会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
5	復習、小テスト	第7課から第8課までの内容を復習する。	授業内容の予習復習。
6	第九課 ?唱得太好了(1)	単語、会話、リスニング、文法と練習問題。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
7	第九課 ?唱得太好了(2)	本文の発音、翻訳、リスニング、練習問題、文化コラムと会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
8	第十課 漫画?可不都是只?小孩儿看的(1)	単語、会話、リスニング、文法と練習問題。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
9	第十課 漫画?可不都是只?小孩儿看的(2)	本文の発音、翻訳、リスニング、練習問題、文化コラムと会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
10	復習、小テスト	第9課から第10課までの内容を復習する。	授業内容の予習復習。
11	第十一課 今天我?品?一下新茶(1)	単語、会話、リスニング、文法と練習問題。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
12	第十一課 今天我?品?一下新茶(2)	本文の発音、翻訳、リスニング、練習問題、文化コラムと会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
13	第十二課 我是?迅的校友(1)	単語、会話、リスニング、文法と練習問題。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
14	第十二課 我是?迅的校友(2)	本文の発音、翻訳、リスニング、練習問題、文化コラムと会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
15	復習、小テスト、発表	第11課から第12課までの内容を復習する。	発表内容を暗唱。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日???(准中?上), 中国語一日中の架け橋	??群・胡玉?	北京大学出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業への参加度と発表: 40% 小テスト: 60%
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	目標を持って、積極的に授業に参加してもらいたい。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都, 中西, 兪)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語作文 I a	科目名 (英文)	Chinese Composition Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	宋 東平
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	四声, 単母音, 子音 (1), 複母音 (1)	発音編 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	形容詞述語文, 副詞 1, 変調	第 1 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	1 課小テスト, 是構文, 副詞 2, 構造助詞 1	第 2 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	2 課小テスト, 動目構造, 動詞重畳	第 3 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	数詞, 量詞 1	第 4 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	4 課小テスト, 数詞 3, 曜日	第 5 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	5 課小テスト, 方位詞, 不定代名詞, 量詞 2	第 6 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第 4 課～第 6 課会話文から出題	復習 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	選択疑問文, 副詞 7	第 7 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	了 1 了 2, 副詞 8	第 8 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	副詞 9, 把字句	第 9 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	動態助詞「過」副詞 10	第 10 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	10 課小テスト, 能願動詞 2, 動量詞 3	第 11 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	11 課小テスト, 方向補語	第 12 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 10 課～第 12 課会話文から出題	復習 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語作文 I b	科目名 (英文)	Chinese Composition Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	宋 東平
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	会話	第 13 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	会話	第 14 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	検定 4 級準備 (1) 長文読解	第 15 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定 4 級準備 (2) 文法	第 16 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定 4 級準備 (3) 文法	第 17 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定 4 級準備 (4) リスニング	第 18 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定 4 級準備 (5) リスニング	第 19 課 1+第 18 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定 4 級準備 (6) リスニング	第 20 課 1+第 19 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 18 課～20 課到達度確認	復習+第 18 課～20 単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 中文日訳	第 21 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認 (2) 教材音読	第 22 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認 (3) 日文中訳	第 23 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認 (4) 語彙と発音	第 24 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (5) 語彙と発音	第 25 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認 (5) 中文日訳	第 25 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語作文Ⅱa	科目名(英文)	Chinese Composition IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語Ⅱa』を使う必修科目「中国語を話すⅡa」「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を書くⅡa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので、4科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第2回	第1話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第6回	第3話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第10回	第1話～第5話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第14回	第7話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第17回	第9話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第21回	第11話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第25回	第13話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第29回	第15話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第33回	第17話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第37回	第19話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第41回	第21話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第45回	第23話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第49回	第25話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第53回	第27話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第57回	第29話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話Ⅱa」「中国語講読Ⅱa」「中国語LIIa」 「ビジネス中国語Ⅱa」「日中翻訳法Ⅰa」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語Ⅱa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する
-----------	--

担当者の研究室等	兪研究室(7号館3階)
----------	-------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	中国語作文Ⅱb	科目名(英文)	Chinese Composition IIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも7割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIB」「中国語を読む IIB」「中国語を聞く IIB」「中国語を書く IIB」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIB』をリレー式に使う。4科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級・2級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1回	第1話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第5回	第3話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第9回	第5話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第12回	第6話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第16回	第8話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第20回	第10話後半・第11回～第20回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第23回	第12話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第27回	第14話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第31回	第16話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第35回	第18話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第39回	第20話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第43回	第22話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第47回	第24話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第52回	第26話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第55回	第28話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIB」「中国語講読 IIB」「中国語 LL IIB」 「ビジネス中国語 IIB」「日中翻訳法 Ia」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIB	摂南大学外国語学	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	兪研究室(7号館3階)
----------	-------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	中国語視聴専科 a	科目名 (英文)	Practical Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	映像と音声を通じて、中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク、タッチパネルディスプレイなどを利用して、発音のチェックや他の学生との情報共有、シャドーイングなどの活動を行う。この課程は1年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので、それらで学んだ事項を定着させることができる。
到達目標	中国語の音声を正確に判別し、既習の語彙やフレーズについて正しく発音したり漢字やピンインでディクテーションができることを目指す。中国語検定4級リスニング試験の形式やレベルの問題にも取り組み、同級合格レベルへの到達を具体的な目標とする。
授業方法と留意点	1. 必修の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し、しっかりと理解できるようにする。 2. さらにそれらを聞き取り理解できるようにさまざまな訓練を行う。とくに1年次では発音の基礎と基本語彙の練習・運用に重点を置き、確実に聞き取れるように訓練する。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	中国語聞き取り能力が向上し、前期終了時には中国語検定試験准4級の受験が可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	中国語知識 (1)	地理・民族・人口	中国語を学ぶのに必要な中国に関する高等学校程度の知識を確認する。
	2	第1課	四声と基本的な母音、子音 四択練習問題四声と基本的な母音、子音 四択練習問題	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	3	第2課	鼻母音と発音しにくい子音。 四択練習問題	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	4	第3課	声調パタンの反復練習。 練習問題	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	5	第4課	「是」構文 名前の言い方に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	6	第5課	数量に関する表現と「有」構文に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	7	第6課	動詞述語文と職業に関する表現の置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	8	第7課	形容詞述語文と比較表現を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	9	第8課	前置詞と方位詞を使った表現の置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	10	第9課	「了」と結果補語を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	11	第10課	「了」と結果補語を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	12	第11課	動作の進行、完了の表現に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	13	第12課	「就」「才」を使った文および「在」のいくつかの用法。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	14	第13課	程度補語の使い方。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	15	第14課	復習	

関連科目	必修中国語科目 (週4コマ) を必ず履修していること。
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	選択科目なので、目的意識をしっかりと持って授業に臨んでほしい。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階(中西研究室)
----------	--------------

備考	教科書は中国語必修科目用のものと共通。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	--

科目名	中国語視聴専科 b	科目名 (英文)	Practical Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	映像と音声を通じて、中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク、タッチパネルディスプレイなどを利用して、発音のチェックや他の学生との情報共有、シャドーイングなどの活動を行う。この課程は1年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので、それらで学んだ事項を定着させることができる。
到達目標	11月下旬の中国語検定4級試験受験までに、そのリスニング試験問題で6割以上の正答率を達成することを目標とする。12月以降は4級試験の長文読解問題レベルの文章を教材として、これを正しくディクテーションしたりシャドーイングすることを目指す。
授業方法と留意点	1. 必修の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し、しっかりと理解できるようにする。 2. さらにそれら聞き取り理解できるようさまざまな訓練を行う。とくに1年次では発音の基礎と基本語彙の練習・運用に重点を置き、確実に聞き取れるように訓練する。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	中国語聞き取り能力が向上し、11月に実施される中国語検定試験4級に合格することを可能とする。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	時をかける少女(1/12) 検定4級レベルリスニング問題	機器とソフトウェアの操作および授業進行についての説明。
2		時をかける少女(2/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
3		時をかける少女(3/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
4		時をかける少女(4/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
5		時をかける少女(5/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
6		時をかける少女(6/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
7		時をかける少女(7/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
8		時をかける少女(8/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
9		時をかける少女(9/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
10		時をかける少女(10/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
11		時をかける少女(11, 12/12)	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
12		サマーウォーズ(1/4) CALLシステムを利用したタイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
13		サマーウォーズ(2/4) CALLシステムを利用したタイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。

	14	サマーウォーズ(3/4) CALL システムを利用したタイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかなければならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。																
	15	サマーウォーズ(4/4) 中国語検定 3 級模擬テスト	最新の試験問題を解きながら、6 月に受験する検定への対策を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。																
関連科目	必修中国語科目（週 4 コマ）を必ず履修していること。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中国語 I a</td> <td>摂南大学外国語学部</td> <td>摂南大学外国語学部</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%																			
学生への メッセージ	選択科目なので、目的意識をしっかりと持って授業に臨んでほしい。事前・事後に各 60 分の学修を要する。																			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階(中西研究室)																			
備考	教科書は中国語必修科目用のものと共通。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。																			

科目名	中国語トピックス a	科目名 (英文)	Chinese Topics a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	様々なトピックを通じ、現代中国の現況を理解することに努めます。
到達目標	中国語を読み、聞き、書くことで総合力を養成したいと思います。検定3級レベルから2級レベルに焦点を合わせます。
授業方法と留意点	既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。事前・事後に各60分の学修を要する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定3級合格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	就活の経験 1/2	文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
2	就活の経験 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
3	就活の経験小テスト 僕の恋人 1/2	第1-2回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
4	僕の恋人 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
5	僕の恋人小テスト メディアの時代 1/2	第3-4回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
6	メディアの時代 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
7	メディアの時代小テスト 祝祭日の過ごし方 1/2	第5-6回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
8	祝祭日の過ごし方 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
9	祝祭日の過ごし方小テスト 日々の憩い 1/2	第7-8回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
10	日々の憩い 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
11	日々の憩い 小テスト 結婚すべきか 1/2	第9-10回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
12	結婚すべきか 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
13	結婚すべきか 小テスト 一人っ子の是非 1/2	第11-12回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
14	一人っ子の是非 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
15	総復習	第13-14回復習テスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。

関連科目 「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を話す IIa」「中国語を書く IIa」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	焦点中国	植屋・谷川 等	白帝社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	学期中に7回実施する小テストおよび授業に取り組む姿勢をもとに評価する。 授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	語学の習得には地道な努力が必要です。最後まであきらめず、頑張りぬきましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師控室 (7号館2階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語トピックス b	科目名 (英文)	Chinese Topics b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	前期と同じく、様々なトピックを通じ、中国の現況に迫ります。
到達目標	中国語の総合力を養います。検定3級から2級合格を目指します。
授業方法と留意点	既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定3級～2級合格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	財布の紐を握るのは 1/2	文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
2	財布の紐を握るのは 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
3	財布の紐を握るのは 小テスト	第1-2回小テスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
	調和社会の悩み 1/2	文章読解	
4	調和社会の悩み 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
5	調和社会の悩み 小テスト	第3-4回小テスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
	新興自動車王国 1/2	文章読解	
6	新興自動車王国 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
7	新興自動車王国 小テスト	第5-6回小テスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
	少数民族の魅力 1/2	文章読解	
8	少数民族の魅力 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
9	少数民族の魅力 小テスト	第7-8回小テスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
	明日のために省エネ 1/2	文章読解	
10	明日のために省エネ 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
11	明日のために省エネ 小テスト	第9-10回小テスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
	エコバッグ持参 1/2	文章読解	
12	エコバッグ持参 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
13	エコバッグ持参 小テスト	第11-12回小テスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
	中国食べ歩き 1/2	文章読解	
14	中国食べ歩き 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
15	総復習	第13-14回小テスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。

関連科目	「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を話す IIb」「中国語を書く IIb」
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	焦点中国語	植屋 谷川 等	白帝社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	学期中に7回実施する小テストおよび授業に取り組む姿勢をもとに評価する。 授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	--

学生へのメッセージ	教科書は前期購入したものを引き続き使用します。ご注意ください。 前期に引き続き、地道に着実にレベルアップしていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	講師控室 (7号館2階)
----------	--------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語プレゼンテーション a	科目名 (英文)	Chinese Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	この授業は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話授業です。中国の「社会事情」「文化風習」といった身近な話題で、楽しく文法事項や表現を学習し、文法練習、会話練習とリスニング練習によって、中国語のコミュニケーション能力の向上を目指します。
到達目標	文法練習、会話練習とリスニング練習によって、会話を高める。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加する態度が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話を身につけること。自らの表現能力を高めることも可能である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一課 1 初めまして	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第一課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第二課 1 早起き	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第二課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
6	第三課 1 北京の朝	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第三課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第四課 1 模範亭主	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第四課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
11	第五課 1 勘定	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第五課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第六課 1 お返し	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第六課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	総復習	全体の総括。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目 特になし。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	快活中国語II		白帝社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	口頭および筆記による小テストを数回に分けて実施し、これらをもとに成績を評価する。
学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加を望みたい。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都, 中西, 兪)を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語プレゼンテーション a	科目名 (英文)	Chinese Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	この授業は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話授業です。中国の「社会事情」「文化風習」といった身近な話題で、楽しく文法事項や表現を学習し、文法練習、会話練習とリスニング練習によって、中国語のコミュニケーション能力の向上を目指します。
到達目標	文法練習、会話練習とリスニング練習によって、会話を高める。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加する態度が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話を身につけること。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第一課 1 初めまして	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第一課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第二課 1 早起き	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第二課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
	6	第三課 1 北京の朝	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第三課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第四課 1 模範亭主	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第四課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
	11	第五課 1 勘定	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第五課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第六課 1 お返し	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第六課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	総復習	全体の総括。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	快活中国語Ⅱ		白帝社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	口頭および筆記による小テストを数回に分けて実施し、これらをもとに成績を評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参与を望みたい。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室
----------	------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語プレゼンテーション b	科目名 (英文)	Chinese Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	この授業は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話授業です。中国の「社会事情」「文化風習」といった身近な話題で、楽しく文法事項や表現を学習し、文法練習、会話練習とリスニング練習によって、中国語のコミュニケーション能力の向上を目指します。
到達目標	文法練習、会話練習とリスニング練習によって、会話力を高める。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加する態度が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とコミュニケーションするのに必要な会話力をつけること。自らの表現能力を高めることも可能である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一課 呼び方の変化 1	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第一課 呼び方の変化 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第二課 大学生の恋愛事情 1	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第二課 大学生の恋愛事情 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
6	第三課 飲食の変化 1	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第三課 飲食の変化 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	会話	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第四課 結婚しない女性 1	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第四課 結婚しない女性 2	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
11	会話	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第五課 第二子 1	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第五課 第二子 2	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	会話	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	発表	全体の総括	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	数回の単元テストによる
-----------	-------------

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大な目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加を望みたい。原則として事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館 2階(非常勤講師室)
----------	----------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都, 中西, 兪)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語プレゼンテーション b	科目名 (英文)	Chinese Presentation b																																																																
学部	外国語学部	学科	外国語学科																																																																
配当年次	3年	クラス																																																																	
単位数	1	履修区分	必修科目																																																																
学期	後期	授業担当者	中西 正樹																																																																
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎																																																																		
授業概要・目的	この授業は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話授業です。中国の「社会事情」「文化風習」といった身近な話題で、楽しく文法事項や表現を学習し、文法練習、会話練習とリスニング練習によって、中国語のコミュニケーション能力の向上を目指します。																																																																		
到達目標	文法練習、会話練習とリスニング練習によって、会話を高める。																																																																		
授業方法と留意点	授業に積極的に参加する態度が望まれる。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国人とコミュニケーションするのに必要な会話力をつけること。自らの表現能力を高めることも可能である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第一課 呼び方の変化 1</td> <td>文法説明・本文読み練習・翻訳</td> <td>練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第一課 呼び方の変化 2</td> <td>文法練習・リスニング練習</td> <td>練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第二課 大学生の恋愛事情 1</td> <td>文法説明・本文読み練習・翻訳</td> <td>練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第二課 大学生の恋愛事情 2</td> <td>文法練習・リスニング練習</td> <td>練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>会話</td> <td>会話文を作成する。 会話を練習する。</td> <td>会話発表を準備する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第三課 飲食の変化 1</td> <td>文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表</td> <td>練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第三課 飲食の変化 2</td> <td>文法練習・リスニング練習</td> <td>練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>会話</td> <td>文法説明・本文読み練習・翻訳</td> <td>練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第四課 結婚しない女性 1</td> <td>文法練習・リスニング練習</td> <td>練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第四課 結婚しない女性 2</td> <td>会話文を作成する。 会話を練習する。</td> <td>会話発表を準備する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>会話</td> <td>文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表</td> <td>練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第五課 第二子 1</td> <td>文法練習・リスニング練習</td> <td>練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第五課 第二子 2</td> <td>文法説明・本文読み練習・翻訳</td> <td>練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>会話</td> <td>文法練習・リスニング練習</td> <td>練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>発表</td> <td>全体の総括</td> <td>練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第一課 呼び方の変化 1	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。	2	第一課 呼び方の変化 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。	3	第二課 大学生の恋愛事情 1	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。	4	第二課 大学生の恋愛事情 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。	5	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。	6	第三課 飲食の変化 1	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。	7	第三課 飲食の変化 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。	8	会話	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。	9	第四課 結婚しない女性 1	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。	10	第四課 結婚しない女性 2	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。	11	会話	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。	12	第五課 第二子 1	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。	13	第五課 第二子 2	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。	14	会話	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。	15	発表	全体の総括	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第一課 呼び方の変化 1	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。																																																																
2	第一課 呼び方の変化 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。																																																																
3	第二課 大学生の恋愛事情 1	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。																																																																
4	第二課 大学生の恋愛事情 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。																																																																
5	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。																																																																
6	第三課 飲食の変化 1	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。																																																																
7	第三課 飲食の変化 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。																																																																
8	会話	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。																																																																
9	第四課 結婚しない女性 1	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。																																																																
10	第四課 結婚しない女性 2	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。																																																																
11	会話	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。																																																																
12	第五課 第二子 1	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。																																																																
13	第五課 第二子 2	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。																																																																
14	会話	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。																																																																
15	発表	全体の総括	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。																																																																
関連科目	特になし。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プリント</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プリント																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	数回の単元テストによる																																																																		
学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大な目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加を望みたい。原則として事前・事後に各 60 分の学修を要する。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室																																																																		
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。																																																																		

科目名	中国語文字論	科目名(英文)	Chinese Writing System
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	中国語は地域的な広がり、及び歴史的な広がりにおいてきわめて多様な言語である。その多様性をつなぐのが漢字であるが、漢字は基本的には表意文字であるため、文字に含まれるそれぞれの部品の意味を知ること、文字全体の意味を解釈できる。本講義では藤堂明保著『漢字語源辞典』の単語家族に関する記述を参考にしながら、上古(周代)漢語の音韻体系と甲骨文字や金文を手がかりに、形と意味の関係を探り、古代人のもの見方や発想法について考える。
到達目標	日常使用する漢字について、それを構成する部品が何の象形なのか、どのような意味を担っているのか、それらを組み合わせること何を表現しているのかを説明できるようになることを目指す。また、未知の漢字に接した時もその意味や読みを推測できるようにする。
授業方法と留意点	一回の授業で4～5の漢字家族をとりあげ、その本来の意味や漢字の構成を考えていく。受講生にも意見を求める。
科目学習の効果(資格)	中国語教職科目(中国語の分野)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	人体・姿勢	人・女・子・鬼・兄…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	2	身体部位1	頭・毛・目・耳・口…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	3	身体部位2	手・足…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	4	動物1	牛・馬・羊…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	5	動物2	犬・鹿・豚…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	6	動物3	鳥・虫・蛇…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	7	天体・気象	日・月・水…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	8	鉱物	土・火・金…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	9	人工物	高・示…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	10	器具1	方・網・工…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	11	器具2	玉・父・車…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	12	器具3	刀・辛・戈…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	13	動作	又・口・之…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	14	状態	束・阜・変…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	15	形状	字・王・弗…	

関連科目 中国語の語学科目を履修しておくこと。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	常用漢字コアイメージ辞典	加納喜光	中央公論社
	2			
	3			

評価方法(基準) 小テスト及び単元テスト 80%
授業参加度や提出物 20%

学生へのメッセージ 講義の内容をノートする必要は言うまでもないが、試験では複数の語から1つの共通性を帰納する能力を評価する。語の音と意味がいかに密接に結びついているかを授業を通して理解してほしい。事前・事後学習に1.5時間ずつ要する。

担当者の研究室等 7号館3階(中西研究室)

備考

科目名	中国語を書く I a	科目名 (英文)	Chinese Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	宋 東平
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	四声, 単母音, 子音 (1), 複母音 (1)	発音編 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	形容詞述語文, 副詞 1, 変調	第 1 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	1 課小テスト, 是構文, 副詞 2, 構造助詞 1	第 2 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	2 課小テスト, 動目構造, 動詞重畳	第 3 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	数詞, 量詞 1	第 4 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	4 課小テスト, 数詞 3, 曜日	第 5 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	5 課小テスト, 方位詞, 不定代名詞, 量詞 2	第 6 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 4 課～第 6 課会話文から出題	復習 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	選択疑問文, 副詞 7	第 7 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	了 1 了 2, 副詞 8	第 8 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	副詞 9, 把字句	第 9 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	動態助詞「過」副詞 10	第 10 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	10 課小テスト, 能願動詞 2, 動量詞 3	第 11 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	11 課小テスト, 方向補語	第 12 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 10 課～第 12 課会話文から出題	復習 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語を書く I b	科目名 (英文)	Chinese Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	宋 東平
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	会話	第 14 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	検定 4 級準備 (1) 長文読解	第 15 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定 4 級準備 (2) 文法	第 16 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定 4 級準備 (3) 文法	第 17 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定 4 級準備 (4) リスニング	第 18 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定 4 級準備 (5) リスニング	第 19 課 1+第 18 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定 4 級準備 (6) リスニング	第 20 課 1+第 19 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 18 課～20 課到達度確認	復習+第 18 課～20 単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 中文日訳	第 21 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認 (2) 教材音読	第 22 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認 (3) 日文中訳	第 23 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認 (4) 語彙と発音	第 24 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (5) 語彙と発音	第 25 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認 (5) 中文日訳	第 25 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	日中辞典		
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語を書く II a	科目名 (英文)	Chinese Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 6 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの 4 科目がリレー式に行われるので、4 科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 2 回	第 1 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第 6 回	第 3 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第 10 回	第 1 話～第 5 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第 14 回	第 7 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第 17 回	第 9 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第 21 回	第 11 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第 25 回	第 13 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第 29 回	第 15 話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第 33 回	第 17 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第 37 回	第 19 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第 41 回	第 21 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第 45 回	第 23 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第 49 回	第 25 話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第 53 回	第 27 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 57 回	第 29 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIa」「中国語講読 IIa」「中国語 LLIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する
-----------	--

担当者の研究室等	兪研究室 (7 号館 3 階)
----------	-----------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	中国語を書く II b	科目名 (英文)	Chinese Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級および 2 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 7 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級・2 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 1 回	第 1 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第 5 回	第 3 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第 9 回	第 5 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第 12 回	第 6 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第 16 回	第 8 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第 20 回	第 10 話後半・第 11 回～第 20 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第 23 回	第 12 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第 27 回	第 14 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第 31 回	第 16 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第 35 回	第 18 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第 39 回	第 20 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第 43 回	第 22 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第 47 回	第 24 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第 52 回	第 26 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 55 回	第 28 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語講読 IIb」「中国語 LLIIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIb	摂南大学外国語学	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	兪研究室 (7 号館 3 階)
----------	-----------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	中国語を聞く I a	科目名 (英文)	Chinese Listening I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級または 4 級を受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	子音 (4), 子音 (5)	発音編 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	会話 1	第 1 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	会話 2	第 2 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	会話 3	第 3 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第 1 課～第 3 課まとめ	第 1 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	会話 4	第 4 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	会話 5	第 5 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	会話 6	第 6 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	連動文	第 7 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	了 1, 了 2	第 8 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	結果補語, 介詞 6	第 9 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第 7 課～第 9 課まとめ	第 3 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	会話 10	第 10 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	会話 11	第 11 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	会話 12	第 12 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	兪研究室 (7 号館 3 階)
----------	-----------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (瀬戸, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語を聞く I a	科目名 (英文)	Chinese Listening I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級または 4 級を受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	子音 (4), 子音 (5)	発音編 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	会話 1	第 1 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	会話 2	第 2 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	会話 3	第 3 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 1 課～第 3 課まとめ	第 1 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	会話 4	第 4 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	会話 5	第 5 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	会話 6	第 6 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	連動文	第 7 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	了 1, 了 2	第 8 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	結果補語, 介詞 6	第 9 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 7 課～第 9 課まとめ	第 3 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	会話 10	第 10 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	会話 11	第 11 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	会話 12	第 12 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階)
----------	------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	中国語を聞く I b	科目名 (英文)	Chinese Listening I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	使役文、被動文、複合方向補語	第 14 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	検定 4 級準備 (1) リスニング	第 15 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定 4 級準備 (2) 長文読解	第 16 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定 4 級準備 (3) 長文読解	第 17 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 15 課～17 課到達度確認	復習+第 15 課～17 単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定 4 級準備 (4) 日文中訳	第 18 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定 4 級準備 (5) 日文中訳	第 19 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定 4 級準備 (6) 日文中訳	第 20 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 教材音読	第 21 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認 (2) 日文中訳	第 22 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認 (3) 語彙と発音	第 23 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 21 課～23 課到達度確認	復習+第 21 課～第 23 課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (4) 中文日訳	第 24 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認 (5) 教材音読	第 25 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	兪研究室 (7 号館 2 階)
備考	質問したい事項がある場合、担当教員の研究室で問い合わせること。

科目名	中国語を聞く I b	科目名 (英文)	Chinese Listening I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	使役文、被動文、複合方向補語	第 14 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	検定 4 級準備 (1) リスニング	第 15 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定 4 級準備 (2) 長文読解	第 16 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定 4 級準備 (3) 長文読解	第 17 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 15 課～17 課到達度確認	復習+第 15 課～17 単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定 4 級準備 (4) 日文中訳	第 18 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定 4 級準備 (5) 日文中訳	第 19 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定 4 級準備 (6) 日文中訳	第 20 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 教材音読	第 21 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認 (2) 日文中訳	第 22 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認 (3) 語彙と発音	第 23 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 21 課～23 課到達度確認	復習+第 21 課～第 23 課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (4) 中文日訳	第 24 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認 (5) 教材音読	第 25 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の研究室等	7 号館 3 階(小都研究室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語を聞く II a	科目名 (英文)	Chinese Listening II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 6 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの 4 科目がリレー式に行われるので、4 科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 3 回	第 2 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第 7 回	第 4 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第 11 回	第 6 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第 15 回	第 8 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第 18 回	第 9 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第 22 回	第 11 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第 26 回	第 13 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第 30 回	第 11 話～第 15 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第 34 回	第 17 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第 38 回	第 19 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第 42 回	第 21 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第 46 回	第 23 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第 50 回	第 21 話～第 25 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第 54 回	第 27 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 58 回	第 29 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIa」「中国語講読 IIa」「中国語作文 IIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各 60 時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階)
----------	------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に研究室を訪ねること。
----	------------------------------------

科目名	中国語を聞く II a	科目名 (英文)	Chinese Listening II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 6 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの 4 科目がリレー式に行われるので、4 科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 3 回	第 2 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第 7 回	第 4 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第 11 回	第 6 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第 15 回	第 8 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第 18 回	第 9 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第 22 回	第 11 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第 26 回	第 13 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第 30 回	第 11 話～第 15 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第 34 回	第 17 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第 38 回	第 19 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第 42 回	第 21 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第 46 回	第 23 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第 50 回	第 21 話～第 25 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第 54 回	第 27 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 58 回	第 29 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIa」「中国語講読 IIa」「中国語作文 IIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各 60 時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語を聞く II b	科目名 (英文)	Chinese Listening II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級および 2 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 7 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級・2 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 2 回	第 1 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第 6 回	第 3 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第 10 回	第 5 話後半・第 1 回～第 10 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第 13 回	第 7 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	2 年生暗唱コンテスト	狐假虎威	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第 17 回	第 9 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第 24 回	第 12 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第 28 回	第 14 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第 32 回	第 16 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第 36 回	第 18 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第 40 回	第 20 話後半・第 31 回～第 40 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第 44 回	第 22 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第 48 回	第 24 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第 53 回	第 27 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 56 回	第 28 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語講読 IIb」「中国語作文 IIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各 60 時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階)
----------	------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	中国語を聞く II b	科目名 (英文)	Chinese Listening II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級および 2 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 7 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで、これらのは授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級・2 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 2 回	第 1 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第 6 回	第 3 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第 10 回	第 5 話後半・第 1 回～第 10 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第 13 回	第 7 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	2 年生暗唱コンテスト	狐假虎威	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第 17 回	第 9 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第 24 回	第 12 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第 28 回	第 14 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第 32 回	第 16 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第 36 回	第 18 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第 40 回	第 20 話後半・第 31 回～第 40 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第 44 回	第 22 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第 48 回	第 24 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第 53 回	第 27 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 56 回	第 28 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語講読 IIb」「中国語作文 IIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各 60 時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語を話す I a	科目名 (英文)	Chinese Speaking I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各 60 分の学修を要する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	複母音 (2), 鼻母音 (1)	発音編 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	文末助詞, 主述述語文	第 1 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞 2	第 2 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	文末助詞 2, 副詞 3	第 3 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	数詞 2, 副詞 5	第 4 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	時間詞, 名詞述語文	第 5 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	動詞「在」, 副詞 6	第 6 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 4 課～第 6 課まとめ	第 2 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	会話 7	第 7 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話 8	第 8 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	会話 9	第 9 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	動量詞 2, 副詞 11	第 10 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	疑問代名詞 4, 能願動詞 3	第 11 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	進行文, 接続詞 1	第 12 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 10 課～第 12 課まとめ	第 4 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語を話す I a	科目名 (英文)	Chinese Speaking I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各 60 分の学修を要する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	複母音 (2), 鼻母音 (1)	発音編 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	文末助詞, 主述述語文	第 1 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞 2	第 2 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	文末助詞 2, 副詞 3	第 3 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	数詞 2, 副詞 5	第 4 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	時間詞, 名詞述語文	第 5 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	動詞「在」, 副詞 6	第 6 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 4 課～第 6 課まとめ	第 2 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	会話 7	第 7 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話 8	第 8 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	会話 9	第 9 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	動量詞 2, 副詞 11	第 10 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	疑問代名詞 4, 能願動詞 3	第 11 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	進行文, 接続詞 1	第 12 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 10 課～第 12 課まとめ	第 4 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語を話す I b	科目名 (英文)	Chinese Speaking I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	是～的構文	第 13 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	動態助詞「着」、気象現象	第 14 課 1 + 第 13 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第 13, 14 課文法と語彙の復習	第 13 課～14 復習課	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	検定 4 級準備 (1) 文法	第 15 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	検定 4 級準備 (2) 日文中訳	第 16 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	検定 4 級準備 (3) 日文中訳	第 17 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	検定 4 級準備 (4) 長文読解	第 18 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	検定 4 級準備 (5) 長文読解	第 19 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	検定 4 級準備 (6) 長文読解	第 20 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 語彙と発音	第 21 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第 21 課到達度確認	復習 + 第 21 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	長文読解と既習事項確認 (2) 中文日訳	第 22 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	長文読解と既習事項確認 (3) 教材音読	第 23 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (4) 日文中訳	第 24 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 24 課～25 課到達度確認	復習 + 第 24 課～第 25 課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語を話す I b	科目名 (英文)	Chinese Speaking I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	是～的構文	第 13 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	動態助詞「着」、気象現象	第 14 課 1 + 第 13 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 13, 14 課文法と語彙の復習	第 13 課～14 復習課	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定 4 級準備 (1) 文法	第 15 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定 4 級準備 (2) 日文中訳	第 16 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定 4 級準備 (3) 日文中訳	第 17 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定 4 級準備 (4) 長文読解	第 18 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定 4 級準備 (5) 長文読解	第 19 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定 4 級準備 (6) 長文読解	第 20 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 語彙と発音	第 21 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 21 課到達度確認	復習 + 第 21 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認 (2) 中文日訳	第 22 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認 (3) 教材音読	第 23 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (4) 日文中訳	第 24 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 24 課～25 課到達度確認	復習 + 第 24 課～第 25 課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語を話すⅡa	科目名(英文)	Chinese Speaking II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語Ⅱa』を使う必修科目「中国語を話すⅡa」「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を書くⅡa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので、4科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1回	第1話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第5回	第3話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第9回	第5話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第13回	第7話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第20回	第6話～第10話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第24回	第12話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第28回	第14話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第32回	第16話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第36回	第18話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第40回	第16話～第20話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第44回	第22話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第48回	第24話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第52回	第26話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第56回	第28話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第60回	第26話～第30話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語講義Ⅱa」「中国語LLⅡa」「中国語作文Ⅱa」 「ビジネス中国語Ⅱa」「日中翻訳法Ⅰa」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語Ⅱa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都, 中西, 兪)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語を話す II a	科目名 (英文)	Chinese Speaking II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 6 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの 4 科目がリレー式に行われるので、4 科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 1 回	第 1 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第 5 回	第 3 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第 9 回	第 5 話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第 13 回	第 7 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第 20 回	第 6 話～第 10 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第 24 回	第 12 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第 28 回	第 14 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第 32 回	第 16 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第 36 回	第 18 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第 40 回	第 16 話～第 20 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第 44 回	第 22 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第 48 回	第 24 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第 52 回	第 26 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第 56 回	第 28 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 60 回	第 26 話～第 30 話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語講義 IIa」「中国語 LLIIa」「中国語作文 IIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語を話すⅡb	科目名(英文)	Chinese Speaking II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも7割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話すⅡb」「中国語を読むⅡb」「中国語を聞くⅡb」「中国語を書くⅡb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語Ⅱb』をリレー式に使う。4科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級・2級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第4回	第2話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第8回	第4話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第15回	第8話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第19回	第10話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第22回	第11話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第26回	第13話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第30回	第15話後半・第21回～第30回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第34回	第17話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第38回	第19話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第42回	第21話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第46回	第23話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第50回	第25話後半・第41回～第50回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第51回	第26話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第58回	第29話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第59回	第30話前半・第51回～第59回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語講義Ⅱb」「中国語LLⅡb」「中国語作文Ⅱb」 「ビジネス中国語Ⅱb」「日中翻訳法Ⅰa」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語Ⅱb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都, 中西, 兪)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語を話すⅡb	科目名(英文)	Chinese Speaking II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも7割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話すⅡb」「中国語を読むⅡb」「中国語を聞くⅡb」「中国語を書くⅡb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語Ⅱb』をリレー式に使う。4科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級・2級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第4回	第2話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第8回	第4話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第15回	第8話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第19回	第10話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第22回	第11話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第26回	第13話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第30回	第15話後半・第21回～第30回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第34回	第17話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第38回	第19話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第42回	第21話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第46回	第23話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第50回	第25話後半・第41回～第50回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第51回	第26話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第58回	第29話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第59回	第30話前半・第51回～第59回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語講義Ⅱb」「中国語LLⅡb」「中国語作文Ⅱb」 「ビジネス中国語Ⅱb」「日中翻訳法Ⅰa」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語Ⅱb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都, 中西, 兪)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語を読む I a	科目名 (英文)	Chinese Reading I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	複母音 (3), 鼻母音 (4), 子音 (3)	発音編 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	自己紹介, 疑問詞疑問文	第 1 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	副詞語順, 全否定, 部分否定, 疑問視疑問文	第 2 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	二重目的語, 副詞 4	第 3 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 1 課～第 3 課会話文から出題	復習 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	所有, 存在, 疑問代名詞 2	第 4 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	疑問代名詞 3, 介詞 1	第 5 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	指示代名詞 2	第 6 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	介詞 3, 量詞 3	第 7 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	7 課小テスト, 介詞 4, 動量詞	第 8 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	8 課小テスト, 状態補語, 介詞 5	第 9 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 7 課～第 9 課会話文から出題	復習 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	能願動詞 1	第 10 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	比較文, 能願動詞 4	第 11 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	疑問代名詞 5, 副詞 12	第 12 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階 (兪研究室)
----------	-----------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (瀬戸, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語を読む I b	科目名 (英文)	Chinese Reading I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	礫 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	助動詞「打算」「準備」、前置詞「為了」「除了」	第 13 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	存現文、兼語文	第 14 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 13, 14 課文法と語彙の到達度確認	第 13 課～14 単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定 4 級準備 (1) 日文中訳	第 15 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定 4 級準備 (2) リスニング	第 16 課 1+第 15 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定 4 級準備 (3) リスニング	第 17 課 1+第 16 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定 4 級準備 (4) 文法	第 18 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定 4 級準備 (5) 文法	第 19 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定 4 級準備 (6) 文法	第 20 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 日文中訳	第 21 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認 (2) 語彙と発音	第 22 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 22 課到達度確認	復習+第 22 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認 (3) 中文日訳	第 23 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (4) 教材音読	第 24 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認 (5) 日文中訳	第 25 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (瀬戸, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語を読むⅡa	科目名(英文)	Chinese Reading II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語Ⅱa』を使う必修科目「中国語を話すⅡa」「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を書くⅡa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので、4科目を履修していることを前提に進行する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第4回	第2話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第8回	第4話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第12回	第6話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第16回	第8話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第19回	第10話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第23回	第12話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第27回	第14話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第31回	第16話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第35回	第18話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第39回	第20話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第43回	第22話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第47回	第24話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第51回	第26話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第55回	第28話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第59回	第30話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話Ⅱa」「中国語LLⅡa」「中国語作文Ⅱa」 「ビジネス中国語Ⅱa」「日中翻訳法Ⅰa」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語Ⅱa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する
-----------	--

担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)
----------	--------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	中国語を読むⅡb	科目名(英文)	Chinese Reading II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも7割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。中国語を使って日常会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話すⅡb」「中国語を読むⅡb」「中国語を聞くⅡb」「中国語を書くⅡb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語Ⅱb』をリレー式に使う。4科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級・2級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第3回	第2話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第7回	第4話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第11回	第6話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第14回	第7話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第18回	第9話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第21回	第11話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第25回	第13話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第29回	第15話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第33回	第17話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第37回	第19話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第41回	第21話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第45回	第23話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第49回	第25話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第54回	第27話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第57回	第29話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話Ⅱb」「中国語LLⅡb」「中国語作文Ⅱb」 「ビジネス中国語Ⅱb」「日中翻訳法Ⅰa」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語Ⅱb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する
-----------	--

担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)
----------	--------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	中国史学	科目名(英文)	Chinese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	中国は日本の隣国であり、近年、日中間の相互往来はますます盛んになっていますが、一方では領土や歴史認識などがたびたび問題になってきました。中国は近代以降、清朝の崩壊、両大戦、社会主義化などによって大きく変化しました。本講義の目的は、中国の近現代史を学ぶことによって、現在の中国に対する理解も深めることです。国際的視野をもって、日本と中国の関係を考えるきっかけとなることを目指します。																																																																		
到達目標	中国近現代史の基礎的知識を習得する。																																																																		
授業方法と留意点	配布プリントによる講義形式で実施する。適宜、関連するスライド、映像資料を用いる。																																																																		
科目学習の効果(資格)	中国近現代史に関する知識を通して、現在の中国や日中関係についての理解も深める。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入</td> <td>講義の進めかた・評価方法などのガイダンス、中国史のみかた</td> <td>配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>清朝の統治</td> <td>清朝の統治とその隆盛</td> <td>配布資料の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>清朝の斜陽</td> <td>19世紀の清朝</td> <td>配布資料の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>立憲と革命</td> <td>清期末期の変革</td> <td>配布資料の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>中華民国の成立</td> <td>北京政府時期の中国</td> <td>配布資料の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>南京国民政府と中国共産党</td> <td>南京国民政府時期の中国</td> <td>配布資料の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>日中戦争と中国</td> <td>日中戦争時期の中国</td> <td>配布資料の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>国共内戦から中華人民共和国の成立へ</td> <td>戦後内戦期の中国</td> <td>配布資料の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>周辺地域の近代</td> <td>植民地、少数民族地域の諸相</td> <td>配布資料の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>社会主義建設</td> <td>中国における社会主義建設</td> <td>配布資料の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>文化大革命の10年</td> <td>文化大革命時期の中国</td> <td>配布資料の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>改革開放政策の開始</td> <td>改革開放時期の中国</td> <td>配布資料の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>社会主義市場経済</td> <td>南巡講話以降の中国</td> <td>配布資料の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>香港・台湾</td> <td>戦後の香港・台湾と中国</td> <td>配布資料の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業のまとめと確認テスト</td> <td>講義内容の総括と確認テスト</td> <td>これまでの内容を復習して、確認テストに備える</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	導入	講義の進めかた・評価方法などのガイダンス、中国史のみかた	配布資料の復習	2	清朝の統治	清朝の統治とその隆盛	配布資料の予習・復習	3	清朝の斜陽	19世紀の清朝	配布資料の予習・復習	4	立憲と革命	清期末期の変革	配布資料の予習・復習	5	中華民国の成立	北京政府時期の中国	配布資料の予習・復習	6	南京国民政府と中国共産党	南京国民政府時期の中国	配布資料の予習・復習	7	日中戦争と中国	日中戦争時期の中国	配布資料の予習・復習	8	国共内戦から中華人民共和国の成立へ	戦後内戦期の中国	配布資料の予習・復習	9	周辺地域の近代	植民地、少数民族地域の諸相	配布資料の予習・復習	10	社会主義建設	中国における社会主義建設	配布資料の予習・復習	11	文化大革命の10年	文化大革命時期の中国	配布資料の予習・復習	12	改革開放政策の開始	改革開放時期の中国	配布資料の予習・復習	13	社会主義市場経済	南巡講話以降の中国	配布資料の予習・復習	14	香港・台湾	戦後の香港・台湾と中国	配布資料の予習・復習	15	授業のまとめと確認テスト	講義内容の総括と確認テスト	これまでの内容を復習して、確認テストに備える
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	講義の進めかた・評価方法などのガイダンス、中国史のみかた	配布資料の復習																																																																
2	清朝の統治	清朝の統治とその隆盛	配布資料の予習・復習																																																																
3	清朝の斜陽	19世紀の清朝	配布資料の予習・復習																																																																
4	立憲と革命	清期末期の変革	配布資料の予習・復習																																																																
5	中華民国の成立	北京政府時期の中国	配布資料の予習・復習																																																																
6	南京国民政府と中国共産党	南京国民政府時期の中国	配布資料の予習・復習																																																																
7	日中戦争と中国	日中戦争時期の中国	配布資料の予習・復習																																																																
8	国共内戦から中華人民共和国の成立へ	戦後内戦期の中国	配布資料の予習・復習																																																																
9	周辺地域の近代	植民地、少数民族地域の諸相	配布資料の予習・復習																																																																
10	社会主義建設	中国における社会主義建設	配布資料の予習・復習																																																																
11	文化大革命の10年	文化大革命時期の中国	配布資料の予習・復習																																																																
12	改革開放政策の開始	改革開放時期の中国	配布資料の予習・復習																																																																
13	社会主義市場経済	南巡講話以降の中国	配布資料の予習・復習																																																																
14	香港・台湾	戦後の香港・台湾と中国	配布資料の予習・復習																																																																
15	授業のまとめと確認テスト	講義内容の総括と確認テスト	これまでの内容を復習して、確認テストに備える																																																																
関連科目	そのほかの中国関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業で実施する課題など(50%)と確認テスト(50%)によって総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	中国近現代史に関する理解を深め、アジアにおける日本の位置を考えるきっかけをつかんでください。																																																																		
担当者の研究室等	小都研究室(7号館3階)																																																																		
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。																																																																		

科目名	中国地誌学	科目名(英文)	Chinese Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子・田中 悟
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	中国と韓国の社会と文化の概要を学び、東アジア地域への理解を深める。
到達目標	中国と韓国を中心とした東アジアの歴史・文化の概要を理解する。
授業方法と留意点	第1～9回は中国、第11～15回は韓国を対象とします。講義形式を中心とし、レジュメ・資料を適宜配布します。また、映像資料も用います。
科目学習の効果(資格)	日本を含む東アジア地域に対する理解が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入：中国とは？(小都)	地理、民族、自然環境	配布資料の復習(事後)
2	中国の歴史(小都)	中華思想	配布資料の予習・復習(事前および事後)
3	中国の文化(小都)	中国の人と暮らし	配布資料の予習・復習(事前および事後)
4	中国の政治・経済(小都)	社会主義、政治体制	配布資料の予習・復習(事前および事後)
5	中国の社会(小都)	現代中国の諸相	配布資料の予習・復習(事前および事後)
6	香港・マカオ(小都)	中国への返還と「一国二制度」	配布資料の予習・復習(事前および事後)
7	台湾(小都)	日本の植民地統治と戦後の中台関係	配布資料の予習・復習(事前および事後)
8	華僑・華人(小都)	華僑・華人の歴史と現在	配布資料の予習・復習(事前および事後)
9	授業の中間まとめと確認テスト(小都)	これまでの内容の総括と確認テスト	これまでの内容を復習して、確認テストに備える。(事前)
10	韓国新聞についての基礎知識(田中)	韓国マスメディアの日本語版サイトを紹介し、実際にアクセスしてみる。	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事後)
11	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会(1)(田中)	記事の論説と解説：社説・論説コラム	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)
12	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会(2)(田中)	記事の論説と解説：政治経済分野・国際関係	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)
13	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会(3)(田中)	記事の論説と解説：社会問題	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)
14	韓国社会を読み解くための補助線(1)(田中)	映像作品の鑑賞と解説	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)
15	韓国社会を読み解くための補助線(2)(田中)	映像作品の鑑賞と解説	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)
 第1～9回(60%)、第10～15回(40%)を合算して評価します。
 第1～9回については、授業内に実施する課題および確認テストによって評価します。
 第10～15回については、授業内で指示する課題への取り組み(提出状況および内容)に基づいて評価します。

学生へのメッセージ
 東アジアに関する基礎的な知識を身につけ、自分が暮らす世界への理解を広げてください。

担当者の研究室等
 小都研究室(7号館3階)・田中研究室(7号館4階)

備考
 授業の進行スケジュールについては、出席者の状況に応じて調整する可能性があります。

科目名	中国文学	科目名(英文)	Chinese Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸 宏
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	中国文学の中で、中国現代文学・演劇・映画を中心とする中国現代文化を中心に講義する。清末から現在までの代表的な作家・作品や特徴的な文化事象をとりあげその背後にあるものを探る。
到達目標	中国現代文学・演劇の流れと主要作品の概要が理解できる。また、作品の背景にある現代中国の人々の思想・感情も理解できる。
授業方法と留意点	教室での講義を中心とするが、ビデオなど映像資料も随時使用する。
科目学習の効果(資格)	中国の現代文化の概況や現代中国の生きた姿が文学作品やビデオなどを通して楽しく理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	中国現代文化の内容およびそれ以前の中国伝統文化の特徴について概説する。	中国現代文学の流れをまとめる。
2	清末・民初の文学・演劇運動	五四新文学に先立つ清末・民初の文学・演劇について考える。	辛亥革命前後の文学・演劇改良運動はな不徹底に終わったか考える。
3	五四運動と魯迅	『呐喊』序を読みながら、魯迅の文学的生涯について考える。	魯迅はなぜ文学を志したか、考える。
4	五四時期のその他の文学	五四時期のその他の作家について考える。	五四時期の特徴を考えてみる。
5	曹禺 1	曹禺の生涯を概観した後、「雷雨」について映画を観ながらその内容について考える。	曹禺の生涯についてまとめてみる。
6	曹禺 2	引き続き「雷雨」について考える。	「雷雨」の内容をまとめる。
7	曹禺 3	「日の出」「原野」「北京人」など曹禺の主要作品について考える。	曹禺の戯曲を読んでみる。
8	毛沢東と文芸講話	毛沢東『文芸講話』がその後の中国文学に与えた影響について考える。	「文芸講話」の内容をまとめてみる。
9	老舎 1	「茶館」について上演ビデオを鑑賞しながらその内容とその作品が書かれた時代背景について考えていく。	「茶館」を読んでみる。
10	老舎 2	引き続き「茶館」を鑑賞しながら、その意味について考えていく。	「茶館」の内容を読んでみる。
11	文化大革命期の文学・演劇	革命模範劇など文革期の作品を鑑賞し、その特質を探る。	文化大革命について調べてみる
12	高行健	中国語で創作する作家として最初にノーベル文学賞を受賞した高行健の作品について考える。	高行健の戯曲「バス停」の内容をまとめてみる。
13	改革開放後の文学(1)	文化大革命終結後 1989 年までの中国文学の流れをふりかえる。	天安門事件について調べてみる。
14	改革開放後の文学(2)	六四天安門事件以後の中国文学の流れを振り返る	北京オリンピック、上海万博の文化的意義について考えてみる。
15	まとめ	中国現代文学の流れをもう一度振り返る	中国現代文学の流れをもう一度まとめてみる。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国の現代演劇 中国話劇史概況	瀬戸宏	東方書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国のシェイクスピア	瀬戸 宏	松本工房
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点 40%、定期試験 60%
----------	------------------

学生へのメッセージ	激動する現代中国の背景にある中国現代文化の状況を知りたい学生の参加を歓迎します。中国語を受講していない学生の受講も歓迎します。授業時間外の質問は非常勤講師室への質問メモ提出かメールで受け付け、他の学生も関心がある内容の場合もあるので、最も早い授業の冒頭などで返答する。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館2階非常勤講師室
------------	-------------

科目名	通訳・翻訳インドネシア・マレー語	科目名 (英文)	Indonesian-Malay Interpretation and Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口 玲子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	インドネシア語における専門的知識と能力を持った人材になるための授業を行う。需要が多いが、使える人が少ないインドネシア語の専門的人材になるための通訳、翻訳の技術を養う。この授業を通してインドネシア語能力の充実を目指す。
到達目標	インドネシア語の通訳、翻訳を専門的に行うことができる能力の習得。
授業方法と留意点	すでに3年間インドネシア語を学んできた上で、さらなる能力の向上を目指すのであれば、各受講生は自分で十分準備をしてから授業に望んでほしい。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定。 実践的なインドネシア語能力の習得。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価についての説明。	シラバスを読んでおくこと。
2	翻訳 1	翻訳に関する基本的な知識の説明。	翻訳に必要なものは何か、考えておくこと。
3	翻訳 2	翻訳の練習 1 インドネシア語から日本語への翻訳練習 1。	翻訳内容の予習をしておくこと。
4	翻訳 3	翻訳の練習 2 インドネシア語から日本語への翻訳練習 2。	翻訳内容の予習をしておくこと。
5	翻訳 4	翻訳の練習 3 インドネシア語から日本語への翻訳練習 3。	翻訳内容の予習をしておくこと。
6	翻訳 5	翻訳の練習 4 日本語からインドネシア語への翻訳練習 1。	翻訳内容の予習をしておくこと。
7	翻訳 6	翻訳の練習 5 日本語からインドネシア語への翻訳練習 2。	翻訳内容の予習をしておくこと。
8	翻訳 7	翻訳の練習 6 日本語からインドネシア語への翻訳練習 3。	翻訳内容の予習をしておくこと。
9	翻訳力の確認	臨時試験 1 臨時試験の内容の確認。	第1回から第8回の復習をしておくこと。
10	時事文の速読 1	日本語からインドネシア語。	内容の復習。
11	時事文の速読 2	インドネシア語から日本語。	内容の復習。
12	時事文の速読力の確認	臨時試験 2 臨時試験の内容の確認。	第10回から第11回の復習をしておくこと。
13	通訳 1	通訳に関する基本的な知識の説明。	内容の復習。
14	通訳 2	通訳の練習	内容の復習。
15	通訳力の確認	臨時試験 3 臨時試験の内容の確認。	第13回から第14回の復習をしておくこと。

関連科目	主言語インドネシア語の科目すべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	臨時試験 1 40%、臨時試験 2 30%、臨時試験 3 30%
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	4年間のインドネシア語学習の完成を目指して、努力をしてほしい。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	指示された予習・復習には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。また、臨時試験の内容に関しては、各試験終了後の授業中に確認、説明を行う。
----	---

科目名	ツーリズム論 I	科目名 (英文)	Tourism I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>エコツーリズムとは、地域の自然や文化、歴史などの魅力を活かしながら、それらの資源の持続的な利用を前提とする観光の形であり、今後の観光を考えていく上で重要な概念です。本講義では、エコツーリズムの背景や理念を学ぶとともに、国内外の様々な事例を通じて、エコツーリズムの現状と課題、今後の展望について考えます。</p> <p>本授業では、自らエコツーリズムを企画するなど、能動的に授業に取り組むことを求めます。そして、受講者が持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来るようになることを期待します。</p> <p>なお、この科目は「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目です。</p>
到達目標	<p>1. エコツーリズムについて理解し、説明できる</p> <p>2. 持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来る</p>
授業方法と留意点	投影資料の利用とプリントの配布による講義形式を中心とするが、エコツーリズムを企画するためのグループワーク、資料収集等の個人作業、プレゼンテーションなどを多く取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	旅行業務取扱管理者等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
2	マスツーリズムとエコツーリズム 1	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
3	マスツーリズムとエコツーリズム 2	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
4	マスツーリズムとエコツーリズム 3	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
5	地域の自然とエコツーリズム 1	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
6	地域の自然とエコツーリズム 2	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
7	地域の自然とエコツーリズム 3	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
8	エコツーリズムのさまざまな展開 1	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める
9	エコツーリズムのさまざまな展開 2	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める
10	エコツーリズムのさまざまな展開 3	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める
11	エコツーリズムのさまざまな展開 4	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める
12	エコツーリズムを企画する 1	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う
13	エコツーリズムを企画する 2	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う
14	エコツーリズムを企画する 3	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う
15	総括・企画の発表	企画案を発表し、ディスカッションを行う	エコツーリズム企画の発表について準備を行うとともに、ディスカッションをふまえて内容を修正する

関連科目	観光ホスピタリティプログラム関連科目 (ホスピタリティ論、アーバンツーリズム論等)
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への取り組み (リアクションペーパーの内容、受講態度、プレゼンテーションの内容、議論やグループワークへの参加状況等) (60%) とレポート (40%) で評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 (手代木研究室)
----------	----------------

備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。
----	--

科目名	ツーリズム論Ⅱ	科目名(英文)	Tourism II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>アーバンツーリズム(都市観光)とは、都市が有する歴史的・文化的遺産を活かしながら、都市経済および都市環境の再生を目指す、比較的新しい観光の形である。芸術、娯楽、ショッピングを楽しんだり、その都市の町並みや市民の暮らしに触れたりすることも含まれている。本講義では、アーバンツーリズムに関する基礎知識を学び、具体例からその現状と課題、今後の展望について考える。受講者が「観光まちづくり」への理解を深め、ゲストとホストの立場から観光プランを考案する力を養うことを目的とする。</p> <p>※この科目は、「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目である。</p>
到達目標	アーバンツーリズム(都市観光)に関する基礎知識を習得し、それをふまえて、ゲストとホストの立場から<都市観光プラン>と<観光まちづくりプラン>を考案することができる。
授業方法と留意点	配付資料とパワーポイントを用いて授業を進める。何度かグループディスカッションの時間を設ける。期末にはグループ発表を行ってもらう。日ごろから観光に関する報道(TVニュース、新聞、ネットなど)に関心を払うこと。
科目学習の効果(資格)	アーバンツーリズム(都市観光)について学習・理解することにより、将来の進路決定をする際の一つの判断材料として役立てることができる(とはいえ、特に公的資格には直接つながらない)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、参考書の紹介など	特になし
2	都市の形成と衰退①	都市の形成と衰退について、特に交通機関の発達との関連から考える	ふだん利用する交通機関がいつできたものかを調べる
3	都市の形成と衰退②	都市の形成と衰退について、特に交通機関の発達との関連から考える	大学周辺(寝屋川市)の都市形成について調べ、幾つかの住宅地や旧集落を訪ねてみる
4	都市の類型	都市の立地条件・形態・機能から、その類型を考える	自分の住んでいる都市の立地条件・形態・機能を調べ、どの類型に当てはまるかを考える
5	観光(ツーリズム)の歴史	近代から現代に至る観光(ツーリズム)の歴史を、社会状況と観光形態の変化など、重要な点に絞った形で振り返る	紹介した参考文献を読む
6	観光目的の変化	特にグローバリゼーション、ポストモダン社会に注目し、それがもたらした観光目的の変化を考える	紹介した参考文献を読む
7	アーバンツーリズム(都市観光)の意義	アーバンツーリズム(都市観光)が生まれた背景と、それがもつ意義を考える	紹介した参考文献を読む
8	都市観光プランと観光まちづくりプラン	ゲストとホストの視点から、都市観光について考える。「観光まちづくり」の概念とそのねらいを考える	各プランの要点を抑え、各グループで発表の準備をする
9	都市のイメージ、アイデンティティ	アーバンツーリズム(都市観光)を考える上で欠かせない都市のイメージ、アイデンティティの形成・変容・影響について考える	日本と外国のガイドブックの中で、同じ都市がどのように紹介されているかを比較する
10	京阪神、外国都市の事例①	京阪神、外国都市の事例からアーバンツーリズムについて考える	授業で紹介した事例と比較しながら、各グループで発表の準備をする
11	京阪神、外国都市の事例②	京阪神、外国都市の事例からアーバンツーリズムについて考える	授業で紹介した事例と比較しながら、各グループで発表の準備をする
12	巡検①	講義2回分を利用し、アーバンツーリズム(都市観光)の現場を巡検する(ただし、受講生が多い場合は実施しない)。目的地は講義中に決める	巡検で観察した事例と比較しながら、各グループで発表の準備をする
13	巡検②	講義2回分を利用し、アーバンツーリズム(都市観光)の現場を巡検する(ただし、受講生が多い場合は実施しない)。目的地は講義中に決める	巡検で観察した事例と比較しながら、各グループで発表の準備をする
14	グループ発表①	ゲストの立場から、都市観光プランに関するグループ発表を行う	各グループで発表の準備をする
15	グループ発表②	ホストの立場から、観光まちづくりプランに関するグループ発表を行う	期末レポートを作成する

関連科目	「エコツーリズム論」「風土と地理」など
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	都市観光-まちの観光-	須田寛	交通新聞社
	2	アーバンツーリズム	淡野明彦	古今書院
	3	「観光まちづくり」再考-内発的観光の展開へ向けて-	安福恵美子編	古今書院

評価方法(基準)	期末レポート 50%、グループ発表 30%、授業中課題 20%
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	訪日外国人の増加や2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、観光産業はますます重要性を増している。加えてアーバンツーリズム(都市観光)は、わたしたちが日常的に接している場所で行われていることでもある。したがって、観光関連産業を将来の進路として考えている学生はもちろん、そうでない学生も興味をもって学習できる内容であろう。身近な場所を捉え直す視点を獲得しよう。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館5階 柴田研究室
------------	-------------

科目名	ディスプレイ論	科目名(英文)	Museum Display Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 清
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	博物館施設における展示とは何か。展示の意義と役割について理解し、効果的な展示の手法を理論の裏付けと実践に基づいて身につけることをめざす。博物館施設の展示に関する基礎的知識の習得と実践的作業の演習。
到達目標	博物館施設における展示とは何かを説明することができる。また、具体的な展示物に即した効果的な展示を自ら考え、実施することができる。博物館施設の展示に関する基礎的な知識と技術の習得。
授業方法と留意点	博物館施設における展示の概要を講義形式で学び、具体的な展示の形態や手法については、実践的な演習を通して理解できるようにする。展示は単なる知識ではなく、実際の作業そのものである。その作業には、作業全体に関わる展示計画の策定が必要であるが、その策定の基礎となるのは、展示対象物や展示補助具等についての正しい知識とそれらを適切に取り扱う技術である。展示パネルの製作を通して、展示に必要な技術の基本を習得する。授業の中で各種博物館施設や展覧会について紹介するので、日頃から博物館施設を訪れ、さまざまな展示に接する機会を設けること。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格認定のため必修の科目。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	全体ガイダンス	授業のねらいと受講上の諸注意について理解する。	事前：博物館施設の活動と役割について調べておくこと(1時間)。 事後：授業を振り返り、授業のねらいと受講上の諸注意について確認すること(1時間)。
2	博物館施設の役割	博物館施設の役割について理解する。	事前：博物館施設の役割について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、博物館施設の役割について確認すること(2時間)。	
3	展示の意義	展示の意義について理解する	事前：展示の意義について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示の意義について確認すること(2時間)。	
4	展示の形態と手法	展示における各種の形態と手法について理解する。	事前：博物館施設における展示の形態と手法について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示の形態と手法について確認すること(2時間)。	
5	展示の環境と設備	展示における各種の環境と設備について理解する。	事前：博物館施設における展示の環境と設備について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示の環境と設備について確認すること(2時間)。	
6	資料の取り扱い	展示の基礎である展示物の取り扱いについて理解する。	事前：博物館施設における資料の取り扱いについて調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、資料の取り扱いについて確認すること(2時間)。	
7	展示のための補助具	展示作業に必要な補助具について理解する。	事前：博物館施設における展示のための補助具について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示のための設備と補助具について確認すること(2時間)。	
8	前半のまとめ	前半の授業内容について理解度を確認する。	事前：博物館施設における展示の全体について確認しておくこと(5時間)。 事後：授業を振り返り、展示の重要事項について整理すること(3時間)。	
9	企画展の計画	ミニ企画展を計画する。	事前：博物館施設における企画展について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、企画展の計画について確認すること(2時間)。	
10	展示物の選定	ミニ企画展に出品する展示物を選定する。	事前：企画展における展示物の選定について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示物の選定について確認すること(2時間)。	
11	梱包と開梱	展示資料の梱包と開梱について理解する。	事前：企画展における展示物の梱包と開梱の注意点について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示物の梱包と開梱について確認すること(2時間)。	
12	借用と返却	展示資料の借用と返却の実務について理解する。	事前：企画展における展示物の借用と返却の実務について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示物の借用と返却について確認すること(2時間)。	
13	展示作業	展示資料の陳列とパネルの設置をおこない、作業完了後に展示状況を記録し、撤収作業をおこなう。	事前：企画展における展示作業について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示作業について確認すること(2時間)。	
14	展示の評価	展示全体を評価する。	事前：企画展の展示を評価する基準について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示の基準について確認すること(2時間)。	
15	後半のまとめ	後半の授業内容について理解度を確認する。	事前：企画展の全体について確認しておくこと(5時間)。 事後：授業を振り返り、展示の重要事項について整理すること(3時間)。	

関連科目	学芸員資格に必要な各科目。
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	博物館展示論（放送大学教材）	佐々木利和、松原茂、原田一敏	放送大学教育振興会
	2	博物館展示論	黒沢浩	講談社
	3	博物館展示・教育論（博物館シリーズ3）	小原巖	樹村房
評価方法 （基準）	質疑応答等に関する積極的な受講態度（20%）、課題としての制作物の提出（30%）、レポートの提出（50%）によって評価する。			
学生への メッセージ	第1回の授業で受講心得と成績評価について説明するので必ず出席すること。 各種博物館施設に足を運び、実際の展示に接するとともに、展示の形態や手法について理解に努めること。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	質問・相談等は当該授業の前後に対応する。			

科目名	ディスプレイ論	科目名(英文)	Concepts in Display
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 清
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	博物館施設における展示とは何か。展示の意義と役割について理解し、効果的な展示の手法を理論の裏付けと実践に基づいて身につけることをめざす。博物館施設の展示に関する基礎的知識の習得と実践的作業の演習。
到達目標	博物館施設における展示とは何かを説明することができる。また、具体的な展示物に即した効果的な展示を自ら考え、実施することが出来る。博物館施設の展示に関する基礎的な知識と技術の習得。
授業方法と留意点	博物館施設における展示の概要を講義形式で学び、具体的な展示の形態や手法については、実践的な演習を通して理解できるようにする。展示は単なる知識ではなく、実際の作業そのものである。その作業には、作業全体に関わる展示計画の策定が必要であるが、その策定の基礎となるのは、展示対象物や展示補助具等についての正しい知識とそれらを適切に取り扱う技術である。展示パネルの製作を通して、展示に必要な技術の基本を習得する。授業の中で各種博物館施設や展覧会について紹介するので、日頃から博物館施設を訪れ、さまざまな展示に接する機会を設けること。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格認定のため必修の科目。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	全体ガイダンス	授業のねらいと受講上の諸注意について理解する。	事前：博物館施設の活動と役割について調べておくこと(1時間)。 事後：授業を振り返り、授業のねらいと受講上の諸注意について確認すること(1時間)。
2	博物館施設の役割	博物館施設の役割について理解する。	事前：博物館施設の役割について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、博物館施設の役割について確認すること(2時間)。	
3	展示の意義	展示の意義について理解する	事前：展示の意義について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示の意義について確認すること(2時間)。	
4	展示の形態と手法	展示における各種の形態と手法について理解する。	事前：博物館施設における展示の形態と手法について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示の形態と手法について確認すること(2時間)。	
5	展示の環境と設備	展示における各種の環境と設備について理解する。	事前：博物館施設における展示の環境と設備について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示の環境と設備について確認すること(2時間)。	
6	資料の取り扱い	展示の基礎である展示物の取り扱いについて理解する。	事前：博物館施設における資料の取り扱いについて調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、資料の取り扱いについて確認すること(2時間)。	
7	展示のための補助具	展示作業に必要な補助具について理解する。	事前：博物館施設における展示のための補助具について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示のための設備と補助具について確認すること(2時間)。	
8	前半のまとめ	前半の授業内容について理解度を確認する。	事前：博物館施設における展示の全体について確認しておくこと(5時間)。 事後：授業を振り返り、展示の重要事項について整理すること(3時間)。	
9	企画展の計画	ミニ企画展を計画する。	事前：博物館施設における企画展について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、企画展の計画について確認すること(2時間)。	
10	展示物の選定	ミニ企画展に出品する展示物を選定する。	事前：企画展における展示物の選定について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示物の選定について確認すること(2時間)。	
11	梱包と開梱	展示資料の梱包と開梱について理解する。	事前：企画展における展示物の梱包と開梱の注意点について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示物の梱包と開梱について確認すること(2時間)。	
12	借用と返却	展示資料の借用と返却の実務について理解する。	事前：企画展における展示物の借用と返却の実務について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示物の借用と返却について確認すること(2時間)。	
13	展示作業	展示資料の陳列とパネルの設置をおこない、作業完了後に展示状況を記録し、撤収作業をおこなう。	事前：企画展における展示作業について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示作業について確認すること(2時間)。	
14	展示の評価	展示全体を評価する。	事前：企画展の展示を評価する基準について調べておくこと(1.5時間)。 事後：授業を振り返り、展示の基準について確認すること(2時間)。	
15	後半のまとめ	後半の授業内容について理解度を確認する。	事前：企画展の全体について確認しておくこと(5時間)。 事後：授業を振り返り、展示の重要事項について整理すること(3時間)。	

関連科目	学芸員資格に必要な各科目。
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	博物館展示論（放送大学教材）	佐々木利和、松原茂、原田一敏	放送大学教育振興会
	2	博物館展示論	黒沢浩	講談社
	3	博物館展示・教育論（博物館シリーズ3）	小原巖	樹村房
評価方法 （基準）	質疑応答等に関する積極的な受講態度（20%）、課題としての制作物の提出（30%）、レポートの提出（50%）によって評価する。			
学生への メッセージ	第1回の授業で受講心得と成績評価について説明するので必ず出席すること。 各種博物館施設に足を運び、実際の展示に接するとともに、展示の形態や手法について理解に努めること。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	質問・相談等は当該授業の前後に対応する。			

科目名	Debate & Presentation a	科目名(英文)	Debate and Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	テーマに基づいたプレゼンテーション、およびディベートを英語で実施し、意思伝達能力を含めた英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	英語によるプレゼンテーションやディベートに必要な情報収集方法とスキルを理解し、実践を通して身に着ける。意見の不一致が起りやすい状況設定で、自分の意見を根拠を挙げながら相手に分かりやすく主張できるようになる。
授業方法と留意点	<p>授業は原則として全て英語で行われる。ITCを用いながら英語プレゼンテーションをして、それをもとに英語でディベートを行う事が求められる。必ず辞書を用意する事。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業初めに単語テストを行います。 ・教科書は2冊使います。必ず両方購入すること。 ・遅刻は3回で1回欠席扱いとなります。4回欠席で単位取得資格を失います。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーション プレゼンテーション 自己 (他人) 紹介 導入 UNIT12 No place like home 1	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング 語彙 ・めざしたい発表を考える	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿作成
2	単語テスト1 プレゼンテーション 自己 (他人) 紹介 仕上げ UNIT12 No place like home 2	プレゼンテーション 発展 リスニング リピーティング 語彙 ・インタビュー	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿作成
3	単語テスト2 プレゼンテーション 自己 (他人) 紹介 発表 UNIT 10 Adult Children 1	プレゼンテーション 発表 題材を元にして意見を述べる ・その場にはいない人物を描写する	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿暗記
4	プレゼンテーション 問題 解決 導入 UNIT 10 Adult Children 2	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング ・問題点を述べる	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿作成
5	テスト1回目 UNIT14 High Tech Toys 1	内容チェックテスト1 リスニング リピーティング 語彙	テスト勉強 (1時間)	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成
6	プレゼンテーション 問題 解決 仕上げ UNIT14 High Tech Toys 2	プレゼンテーション 発展 題材を元にして意見を述べる ・解決案を提案する	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿作成
7	コミュニティの中のルール 単語テスト3 プレゼンテーション 問題 解決 発表 UNIT4 Rules1	プレゼンテーション 発表 リスニング リピーティング 語彙 ・規則を説明する ・日本の習慣を説明する	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿暗記
8	コミュニティの中のルール 単語テスト4 プレゼンテーション 日本 紹介 導入 グループ分け UNIT4 Rules2	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング 語彙 ・グループ対抗でプレゼン	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿作成
9	要約をする プレゼンテーション日本紹介 調査 UNIT3 I don't care 1	プレゼンテーション 発展 題材を元にして意見を述べる ・会話文を要約する	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿作成
10	要約をする テスト2回目 UNIT3 I don't care 2	内容チェックテスト2 プレゼンテーション 発展 リスニング リピーティング 語彙 ・書かれた文章を要約する	テスト勉強 (1時間)	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成
11	意見を掘り下げる プレゼンテーション日本紹介 発表1 UNIT11 Cosmetic Surgery	プレゼンテーション 発表 リスニング リピーティング 語彙 ・根拠を述べる	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿作成
12	意見を掘り下げる 単語テスト5 プレゼンテーション日本紹介 発表2 UNIT19 One-sided love	プレゼンテーション 発表 題材を元にして意見を述べる ・具体例を挙げる	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿作成
13	質問をする 単語テスト6 プレゼンテーション 夏休み 導入 UNIT17 The compromise 1	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング 語彙 ・予定を尋ねる	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿作成
14	質問をする 単語テスト7 プレゼンテーション夏休み 仕上げ UNIT17 The compromise 2	プレゼンテーション 発展 題材を元にして意見を述べる ・尋ねた内容を元に、さらに質問をして 展開する	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿作成
15	テスト3回目	内容チェックテスト3	テスト勉強	語彙の復習

	プレゼンテーション 夏休み 発表	プレゼンテーション 発表 ・チーム対抗でディベート等	プレゼン原稿暗記 (1時間)	
関連科目	プレゼンテーション			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Impact Issues 3	Richard R Day	Longman
	2	One-minute Presentation in English	松岡 昇/傍島一夫	松柏社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	単語テスト 3点 X 7回 (21%) プレゼン 5点 X 3回 + 4点 x 1回 (19%) テスト 1 5点 X 4回 (60%)			
学生への メッセージ	身近な話題で英語プレゼンテーションをします。人前で分かりやすくプレゼンテーションができるようにしましょう。例に倣って情報を埋めていくことによってある一定のフォーマットでの発表ができます。ある程度パターン化することによって徐々に自分で文が作れるようになっていきます。会話独特の和訳しづらい表現に接して、よりネイティブライクな表現に慣れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Debate & Presentation b	科目名 (英文)	Debate and Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	テーマに基づいたプレゼンテーション、およびディベートを英語で実施し、意思伝達能力を含めた英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	英語によるプレゼンテーションやディベートに必要な情報収集方法とスキルを理解し、実践を通して身に着ける。意見の不一致が起りやすい状況設定で、自分の意見を根拠を挙げながら相手に分かりやすく主張できるようになる。CEFR-J[B1-2]レベルの表現力を目標とする。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。ITC を用いながら英語プレゼンテーションをして、それをもとに英語でディベートを行う事が求められる。必ず辞書を用意する事。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーション	これまでの発表経験をふりかえり、これからめざしたい発表を考える	語彙の復習	音読 プレゼン原稿作成
2	描写 (1)	時系列にそって出来事を伝える	語彙の復習	音読 プレゼン原稿作成
3	描写 (2)	位置関係がわかるように伝える	語彙の復習	音読 プレゼン原稿暗記
4	比較 (1)	絵画などの真作と贋作の違いを述べる	語彙の復習	音読 プレゼン原稿作成
5	比較 (2)	文書などの引用と盗用の違いを述べる	テスト勉強	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成
6	プロセスを伝える (1)	使い方を説明する	語彙の復習	音読 プレゼン原稿作成
7	プロセスを伝える (2)	作り方を説明する	語彙の復習	音読 プレゼン原稿暗記
8	チーム対抗でプレゼン大会	(互いのプレゼンテーションを見て、質問する)	語彙の復習	音読 プレゼン原稿作成
9	メリットとデメリットを述べる (1)	長期留学は得か損か	語彙の復習	音読 ディベート原稿作成
10	メリットとデメリットを述べる (2)	外見の美しさは得か損か	語彙の復習	音読 ディベート原稿作成
11	相手の意見を引き出す質問 (1)	Yes/No の質問で話を方向づける	語彙の復習	音読 ディベート原稿作成
12	相手の意見を引き出す質問 (2)	5W1H の質問で話を展開する	語彙の復習	音読 ディベート原稿作成
13	異なる立場で考える (1)	片思いする人 vs 追われて困惑する人	語彙の復習	音読 ディベート原稿作成
14	異なる立場で考える (2)	消費者と製造者にとっての商品価格	語彙の復習	音読 ディベート原稿作成
15	チーム対抗でディベート大会	(課題は前の週に発表)	語彙の復習	音読 ディベート原稿作成

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Impact Issues 3</td> <td>Richard R Day</td> <td>Longman</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Impact Issues 3	Richard R Day	Longman	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Impact Issues 3	Richard R Day	Longman													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	外国語での会話が楽しい、という時期を過ぎ、しっかりした内容を伝えるためにはオリジナリティと同時にやっぱり語彙と文法が必要、ということに、気づいている頃ではありませんか？この授業は、「ああ、もっと自由に言葉を使いこなして言いたい！」というフラストレーションがときどきたまるけれど、話の展開のバリエーションをたくさん模索できる時間になるでしょう。前年度は笑いの絶えない授業になりました。
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	哲学と倫理	科目名(英文)	Philosophy and Ethics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	哲学的な知の営みは、他の学問と比較してどのような独自性、特徴を持つであろうか。本講義では哲学的に問うことの本質を明らかにしながら、いくつかの哲学的・倫理学的問題を取り上げ、受講生と共に考えていく。「人間の心と動物の心」、「悪」、「人生と時間」といったテーマを中心に論じる。
到達目標	哲学的に考えるとはどういうことであるかを理解する。 授業で取り上げる個々の哲学・倫理学的テーマに関して、自分なりによく考える。さらに、それを論理的に文章にまとめる力をつける。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行うが、受講者同士のディスカッションの時間も組み込む予定。また、必要に応じて資料を配付する。
科目学習の効果(資格)	哲学的に考えることとはどういうことであるかを理解し、これを実践することは、学問的に必要であるばかりではなく、人生の様々な局面においても求められるものである。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	知識について(1)	どうやって私たちは何かを知るのだろうか。 経験論と合理論	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
3	知識について(2)	科学と哲学との対立と対話	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
4	知識について(3)	言葉が意味を持つとはどういうことか。 どうしてコミュニケーションが可能になるのか。 言葉の意味と音としての言葉	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
5	心の問題(1)	心の中というものはあるのだろうか。 現象学と行動主義	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
6	心の問題(2)	他人の心を知ることができるのだろうか。 独我論と共同主観性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
7	心の問題(3)	心と身体の関係はどうなっているのだろうか。 身心問題の難しさ。 観念論と実在論を越えた身体のある方	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
8	自由と因果性(1)	私たちの行為は自由に基づいているのか、それとも、何らかの法則に決定されているのか。 カントの倫理思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
9	自由と因果性(2)	実存哲学の自由に対する捉え方 因果性と関係性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
10	悪について	正しいことと悪いこととの区別はどのような根拠があるのか。 悪とは何か。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
11	生と死(1)	生きることの意味。死ぬこととはどういうことか	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
12	生と死(2)	ハイデガーの死に関する思想 仏教の死に関する思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
13	神について	神は存在するのか。 魂の不死の問題	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
14	世界について	我々の生きる世界とはいかなるものか。 人間の世界における位置。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
15	まとめ	講義を通じて明らかになった哲学的な考え方の特徴を改めてまとめてみる。	授業全体をまとめておくこと。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	<子ども>のための哲学	永井均	講談社現代新書
	2	ダンゴムシに心はあるのか	森山徹	PHPサイエンス・ワールド新書
	3	哲学ってどんなこと?	ネーゲル	昭和堂

評価方法(基準)	授業内でのレポート・平常点(40%)と授業後のレポート課題(60%)
学生へのメッセージ	大学までは、哲学的なものの考え方を訓練する機会がなかなかなかったと思いますが、これからの困難な時代を生き抜くためには、自分でものを考えることが一番大事です。
担当者の研究室等	7号館4階 有馬研究室
備考	適宜参考資料を紹介する。 事前事後学習に60時間必要。

科目名	東南アジア史学	科目名 (英文)	Southeast Asian History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森田 良成
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本講義では、大陸部から島嶼部に及ぶ広大な東南アジア地域の歴史を、先史時代から現代に至るまで通時的に概観する。																																																																		
到達目標	複雑に展開してきた東南アジアの歴史を知ることにより、現在の東南アジア社会、東南アジアと日本との関係、東南アジアを中心とした世界情勢について理解するための基本的な視座を獲得する。																																																																		
授業方法と留意点	プリントを配布する。映像資料を適宜用いる。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>東南アジアの基礎知識</td> <td>東南アジアの地理的特徴、東南アジア諸国の政治・経済・文化的特徴</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>先史時代と初期の国家形成</td> <td>交易国家の形成</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>諸王朝の盛衰 1</td> <td>大陸部における諸王朝の盛衰</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>諸王朝の盛衰 2</td> <td>島嶼部における諸王朝の盛衰</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ヨーロッパ勢力の到来 1</td> <td>新しい交易の時代 1</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ヨーロッパ勢力の到来 2</td> <td>新しい交易の時代 2</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>植民地支配の進行 1</td> <td>オランダ植民地支配の拡大</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>植民地支配の進行 2</td> <td>イギリス植民地支配の拡大</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>植民地支配の進行 3</td> <td>反植民地主義運動の展開</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ナショナリズムの台頭と脱植民地化 1</td> <td>独立と国家統合</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ナショナリズムの台頭と脱植民地化 2</td> <td>国民国家の誕生</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>東南アジアの現在 1</td> <td>東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>東南アジアの現在 2</td> <td>東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ +テスト</td> <td>授業全体のまとめとテスト</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。	2	東南アジアの基礎知識	東南アジアの地理的特徴、東南アジア諸国の政治・経済・文化的特徴	関連する文献を紹介するので読むこと。	3	先史時代と初期の国家形成	交易国家の形成	関連する文献を紹介するので読むこと。	4	諸王朝の盛衰 1	大陸部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。	5	諸王朝の盛衰 2	島嶼部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。	6	ヨーロッパ勢力の到来 1	新しい交易の時代 1	関連する文献を紹介するので読むこと。	7	ヨーロッパ勢力の到来 2	新しい交易の時代 2	関連する文献を紹介するので読むこと。	8	植民地支配の進行 1	オランダ植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。	9	植民地支配の進行 2	イギリス植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。	10	植民地支配の進行 3	反植民地主義運動の展開	関連する文献を紹介するので読むこと。	11	ナショナリズムの台頭と脱植民地化 1	独立と国家統合	関連する文献を紹介するので読むこと。	12	ナショナリズムの台頭と脱植民地化 2	国民国家の誕生	関連する文献を紹介するので読むこと。	13	東南アジアの現在 1	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。	14	東南アジアの現在 2	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。	15	まとめ +テスト	授業全体のまとめとテスト	関連する文献を紹介するので読むこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
2	東南アジアの基礎知識	東南アジアの地理的特徴、東南アジア諸国の政治・経済・文化的特徴	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
3	先史時代と初期の国家形成	交易国家の形成	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
4	諸王朝の盛衰 1	大陸部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
5	諸王朝の盛衰 2	島嶼部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
6	ヨーロッパ勢力の到来 1	新しい交易の時代 1	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
7	ヨーロッパ勢力の到来 2	新しい交易の時代 2	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
8	植民地支配の進行 1	オランダ植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
9	植民地支配の進行 2	イギリス植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
10	植民地支配の進行 3	反植民地主義運動の展開	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
11	ナショナリズムの台頭と脱植民地化 1	独立と国家統合	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
12	ナショナリズムの台頭と脱植民地化 2	国民国家の誕生	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
13	東南アジアの現在 1	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
14	東南アジアの現在 2	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
15	まとめ +テスト	授業全体のまとめとテスト	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
関連科目	東南アジア人類学、エリアスタディーズ (東南アジア) など、東南アジアの社会・文化・歴史に関係するすべての科目。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『東南アジア史 I 大陸部』</td> <td></td> <td>山川出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『東南アジア史 II 島嶼部』</td> <td></td> <td>山川出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『東南アジア史 I 大陸部』		山川出版社	2	『東南アジア史 II 島嶼部』		山川出版社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	『東南アジア史 I 大陸部』		山川出版社																																																																
2	『東南アジア史 II 島嶼部』		山川出版社																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業の最終回に実施するテストから評価する。(100%)																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	受講者多数の場合は、評価方法などを一部変更することがある。 授業時間外での質問には非常勤講師室で応じるが、事前に連絡すること。																																																																		

科目名	東南アジア人類学	科目名 (英文)	Anthropology in Southeast Asia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森田 良成
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	異なる文化を生きる人々の暮らしは、自分たちにとってはしばしば驚きに満ちたものである。それと同時に、自分たちには当たり前すぎて疑う必要すら感じられないことが、異なる文化を生きる人びとにとっては信じがたい驚きに満ちたものでありうる。文化人類学とは、このような立場から異なる文化と自らの文化を比較し、研究してきた。 この講義では、東南アジアを舞台とした人類学的研究を通して、現在の東南アジアに暮らす人々の生きた現実に対する理解を深める。あわせて、自分がこれまで慣れ親しんできたものの考え方からいったん離れて、自らの日常を新しくとらえなおすことを目指す。
到達目標	現在の東南アジアに暮らす人々の生活について理解を深める。 現代の東南アジア社会と日本社会との関係性と相違について理解を深める。 自分の文化、異なる文化に対する、文化人類学的な考え方を習得する。
授業方法と留意点	東南アジアに関する講義を初めて受講する学生も歓迎する。 講義形式で行う。 参考資料として、東南アジアに関する映画作品ほか映像資料をできるだけ多く紹介する予定。 話をただ聞くだけでなく、自分で考えながらノートをとること。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文化人類学入門 1	文化人類学の考え方と研究方法を説明する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
3	文化人類学入門 2	文化人類学の考え方と研究方法を説明する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
4	政治---その1	主にインドネシアを事例として取り上げて、同国における政治の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
5	政治---その2	主にインドネシアを事例として取り上げて、同国における政治の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
6	経済---その1	主に東ティモールを事例として取り上げて、同国における経済の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
7	経済---その2	主に東ティモールを事例として取り上げて、同国における経済の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
8	復習---その1	ここまで取り上げた諸事例と文化人類学的なものの見方との関連を示すとともに、理解度を確かめる。	既習事項の確認
9	信仰---その1	東南アジアにおける宗教文化の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
10	信仰---その2	東南アジアにおける宗教文化の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
11	民族---その1	民族という概念を文化人類学的に検討する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
12	民族---その2	民族という概念を文化人類学的に検討する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
13	伝統と近代---その1	東南アジアで暮らす人々の「いま」について、民族誌的事例から考える。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
14	伝統と近代---その2	東南アジアで暮らす人々の「いま」について、民族誌的事例から考える。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
15	復習---その2	第14講義までに取り上げた諸事例と文化人類学的なものの見方との関連を示すとともに、理解度を確かめる。	既習事項の復習。

関連科目	「文化人類学」「地域研究論」などのほか、東南アジアに関する講義科目全般。
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法 (基準)	授業への参加の度合い (40%)、 授業期間中に行うテスト (60%) から総合的に判断する。詳細は初回授業で指示する。
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	受講者の人数によって、評価方法等を変更することがある。 授業時間外での質問には非常勤講師室で応じるが、事前に連絡すること。 授業最終回にテストを行い、テスト終了後に解答の解説を行う。
----	---

科目名	東南アジア地誌学	科目名 (英文)	Southeast Asian Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森田 良成
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	東南アジア各国の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得し、そのうえで各地域における人びとの生活の多様性と共通性について考える。あわせて、それらの話題と、日本で暮らすわれわれの現在とのつながりについて考える。
到達目標	* 東南アジアについての基礎的な知識を習得する。 * 東南アジアに関する報道に対して、地理的・歴史的な背景を踏まえたうえでの深い考察ができるようになる。
授業方法と留意点	* 講義形式で行う。授業の理解を助けるために映像資料を使用する。参考資料として、東南アジアに関連する映画作品をできるだけ多く紹介する予定。 * 受講者にはペーパーで毎回コメントや質問を求める。重要なものについては、次回授業冒頭で取り上げて解説する。 * 話をただ聞きながらではなく、自分で考えながらノートをとること。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方について説明する。	紹介する資料を参照すること。
2	東南アジアの基礎知識 1	東南アジアの地理的特徴を理解する。	紹介する資料を参照すること。
3	東南アジアの基礎知識 2	ヨーロッパとの接触以降の東南アジアの歴史を理解する。	紹介する資料を参照すること。
4	東南アジアの基礎知識 3	東南アジアの政治的、文化的、経済的特徴を理解する。	紹介する資料を参照すること。
5	インドネシア 1: 国民の想像	スカルノの時代、スハルトの時代	紹介する資料を参照すること。
6	インドネシア 2: 国民の想像	ポストスハルト時代の課題	紹介する資料を参照すること。
7	インドネシア 3: 国民の想像	ポストスハルト時代の課題	紹介する資料を参照すること。
8	マレーシア 1: 国民の統合と近代化	マレーシアの成立	紹介する資料を参照すること。
9	マレーシア 2: 国民の統合と近代化	マレーシアの成立	紹介する資料を参照すること。
10	マレーシア 3: 国民の統合と近代化	ブミプトラ政策の展開とこれから	紹介する資料を参照すること。
11	東ティモール 1: 新しい国家の誕生	新しい国民と新しい国語の創造	紹介する資料を参照すること。
12	東ティモール 2: 新しい国家の誕生	新しい国民と新しい国語の創造	紹介する資料を参照すること。
13	ミャンマー 1: 民政移管後の課題	民政移管とその後の課題	紹介する資料を参照すること。
14	ミャンマー 2: 民政移管後の課題	民政移管とその後の課題	紹介する資料を参照すること。
15	まとめと試験	全体のまとめと試験	紹介する資料を参照すること。

関連科目	東南アジアに関連するすべての講義科目
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	東南アジアを知る事典		平凡社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	* 平常点 40% (授業への参加・貢献度を、コメント・感想などから総合的に判断する) * 試験 60% (授業期間中に行う)
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	* 受講者数によって、評価方法等を変更することがある。 * 質問は原則として授業中に受け付けるほか、適宜非常勤講師室でも対応する。
----	--

科目名	トピック スタディーズ I	科目名 (英文)	Topic Studies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	This course introduces a variety of topics related to Japan for students to learn about and discuss. Students will think about and give their opinion on things like: food, restaurant culture, youth subculture, juku, studying abroad, etc.
到達目標	The purpose of the course is to promote English fluency by having students think about and give their opinions in English.
授業方法と留意点	Students will do pair work, small group work, practice conversations and do listening exercises.
科目学習の効果 (資格)	The objective of the course is for students improve their fluency by considering topics and discussing their opinions about them with others in class.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Topic 2: Personal Space	Space in relation to friends, family, strangers, etc.	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
3	Topic 3: Japanese Restaurant Culture	Izakaya, teishokuya, family restaurant, etc.	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
4	Topic 4: Japanese Restaurant Culture	Japanese Restaurant Culture	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
5	Topic 5: Collectivism	Collectives in Japanese Society	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
6	Topic 6: Collectivism	Collectives in Japanese Society	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
7	Topic 7: Natural vs Artificial Snack Ingredients	Healthy vs Unhealthy Snacking re: Comбини Culture	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
8	Topic 8: Natural vs Artificial Snack Ingredients	Discussing your combini habits	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
9	Topic 9: Medical Masks in Japan	Opinions on Medical Masks	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
10	Topic 10: Medical Masks in Japan	Opinions on Medical Masks	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
11	Topic 11: Japanese Tea	Tea Culture in Japan	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
12	Topic 12: Japanese Tea	Tea Culture in Japan	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
13	Topic 13: Juku Culture	Cram School Culture in Japan	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
14	Topic 14: Juku Culture	Cram School Culture in Japan	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
15	Final Test.	Final Test.	Study for test.

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 100% Grading will be based on student class participation, attendance, textbook homework and an end of semester final test.

学生へのメッセージ To get a good grade, active participation, a positive attitude towards learning and regular attendance is important.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズ I	科目名 (英文)	Topic Studies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果 (資格)	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class.
	2	Unit exercises - Smoking	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	3	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	4	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	5	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	6	Unit exercises - Japan's LGBTs	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	7	Unit exercises - Sexism and gender roles	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	8	Unit exercises - Sleeping	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	9	Unit exercises - Japan's population crisis	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	10	Unit exercises - Parasite singles	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	11	Unit exercises - J-pop	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	12	Unit exercises - Cosmetic surgery and physical appearance	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
	13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
	14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session.
15	Course review.	Feedback session	Students should reflect on the course for the course review and feedback session.	

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN' UN-DO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ
Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズ I	科目名 (英文)	Topic Studies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	This course is designed to help students express their opinions individually and collectively in a group context. The focus will be on current topics and using critical thinking for self expression.
到達目標	The goal of this course is for students to improve their opinion forming and expressing abilities. This includes speaking English with more confidence and learning how to back-up opinions and beliefs with more passion.
授業方法と留意点	The course will be divided into coverage of specific units as outlined in the textbook "Solutions". Since there are many topics to choose from, students and teacher will choose the topics as a group and decide the best ones for detailed coverage in class.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to learn to express their own opinions through critical thinking.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introductions about the class and course.	Student and teacher self and group introductions.	Students should preview vocabulary for the unit.
	2	Lesson 1 'Should the university academic year begin in September?'	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	3	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	4	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	5	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	6	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	7	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	8	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	9	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	10	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	11	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	12	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	13	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	14	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.

	parameters.		
15	In-class review test and feedback session	Students will select several topics and write about the advantages or disadvantages of each while supporting their opinions.	
関連科目	他の英語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	プリント教材	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	In-class Review Test 30% Participation 70%		
学生への メッセージ	We will learn to express our ideas about interesting topics such as cyber money, drinking and driving, etc. and learn strategies in forming original opinions.		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	トピック スタディーズ I	科目名 (英文)	Topic Studies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	四技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）を総合的に伸ばすことで英語運用能力の基礎を身につけます。
到達目標	日常、アカデミックなコミュニケーション活動に対応できる四技能の習得をめざします。
授業方法と留意点	各授業では、アメリカのポピュラー楽曲を通じて、英文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの能力を伸ばすことを目的としています。
科目学習の効果（資格）	四技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）を総合的に伸ばします。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: Stand by Me/Ben E. King	4技能を伸ばすセクション 文法：関係代名詞の that	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
3	Unit 2: Jailhouse Rock/Elvis Presley	4技能を伸ばすセクション 文法：命令文	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
4	Unit 3: Blowin' in the Wind/Bob Dylan	4技能を伸ばすセクション 文法：現在進行形	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
5	Unit 4: Puff, the Magic Dragon/Peter, Paul and Mary	4技能を伸ばすセクション 文法：習慣の would	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
6	Unit 5: I've Gotta Get a Message to You/Bee Gees	4技能を伸ばすセクション 文法：強調構文	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。 これまでのユニットの練習問題、単語、リスニングの復習（次回のテスト）
7	中間テスト	これまでの復習テスト	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
8	Unit 6: Bridge Over Troubled Water/Simon & Garfunkel	4技能を伸ばすセクション 文法：現在完了形	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
9	Unit 7: Take Me Home, Country Roads/John Denver	4技能を伸ばすセクション 文法：仮定法過去完了形	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
10	Unit 8: Imagine/John Lennon	4技能を伸ばすセクション 文法：wonder if	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
11	Unit 9: I Need to Be in Love/The Carpenters	4技能を伸ばすセクション 文法：仮定法過去	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。 最終のプレゼンテーションで扱いたい楽曲を決める。
12	Unit 10: Honesty/Billy Joel	4技能を伸ばすセクション 文法：To 不定詞の形容詞的用法	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
13	Unit 11: Hotel California/Eagles	4技能を伸ばすセクション 文法：受動態	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。 これまでのユニットの練習問題、単語、リスニングの復習（次回のテスト）
14	まとめのテスト	これまでの総括テスト	短いプレゼンテーションに向けて楽曲を選び、フォーマットをガイドにした文章を書き、プレゼン原稿を完成させ、練習する。
15	アメリカポピュラー音楽概説（80年代以降） まとめのプレゼンテーション	まとめのプレゼンテーション	まとめのプレゼンテーション

関連科目	リーディング II a, b 等
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ソングス&カルチャー ポップソングで学ぶ初級英語	関戸冬彦、小林愛明、山中章子、吉田要	朝日出版社
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	--

学生へのメッセージ	本授業は、アメリカのポピュラー音楽を扱ったテキストに沿って英語を学びます。英語のみではなく、その楽曲の時代の概説や、プレゼンテーションなどでは、学生さんが好きな楽曲も取り扱いつつ、英語で説明する能力も伸ばす予定です。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	This course introduces a variety of topics for students to learn about and discuss. Students will think about and give their opinion on things like: Restaurant/Food Culture, Juku, Youth Subculture in Japan, etc.
到達目標	The purpose of the course is to promote English fluency by having students think about and give their opinions in English.
授業方法と留意点	Students will do pair work, small group work, practice conversations and do listening exercises.
科目学習の効果 (資格)	The objective of the course is for students improve their fluency by considering topics and discussing their opinions about them with others in class.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Topic 2: Youth Subcultures in Japan	Discussing Japanese Subcultures	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
3	Topic 3: Studying Abroad	Studying English Overseas, Homestays, Host Families, etc.	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
4	Topic 4: Studying Abroad	Studying English Overseas, Homestays, Host Families, etc.	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
5	Topic 5: Cell Phone Etiquette in Public Places	Discussing Cell Phone Etiquette	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
6	Topic 6: Cell Phone Etiquette in Public Places	Discussing Cell Phone Etiquette	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
7	Topic 7: Vending Machines	Discussing Vending Machines	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
8	Topic 8: Vending Machines	Discussing Vending Machines	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
9	Topic 9: Robotics Research	Discussing Robotics Research	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
10	Topic 10: Robotics Research	Discussing Robotics Research	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
11	Topic 11: Manga	Manga Culture in Japan	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
12	Topic 12: Manga	Manga Culture in Japan	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
13	Topic 13: Karaoke	Karaoke Culture in Japan	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
14	Topic 14: Karaoke	Karaoke Culture in Japan	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
15	Final Test.	Final Test.	Study for test.

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 100% Grading will be based on student class participation, attendance, textbook homework and an end of semester final test.

学生へのメッセージ To get a good grade, active participation, a positive attitude towards learning and regular attendance is important.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果 (資格)	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class.
	2	Unit exercises - Crime	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	3	Unit exercises - Mobile phones	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	4	Unit exercises - Smoking	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	5	Unit exercises - Junk food	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	6	Unit exercises - Celebrity marriage	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	7	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	8	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	9	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	10	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	11	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	12	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
	13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
	14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session.
15	Course review.	Feedback session	Students should reflect on the course for the course review and feedback session.	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN' UN-DO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	This course is designed to help students express their opinions individually and collectively in a group context. The focus will be on current topics and using critical thinking for self expression.
到達目標	The goal of this course is for students to improve their opinion forming and expressing abilities. This includes speaking English with more confidence and learning how to back-up opinions and beliefs with more passion.
授業方法と留意点	The course will be divided into coverage of specific units as outlined in the textbook "Solutions". Since there are many topics to choose from, students and teacher will choose the topics as a group and decide the best ones for detailed coverage in class.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to learn to express their own opinions through critical thinking.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introductions about the class and course.	Student and teacher self and group introductions.	Students should preview vocabulary for the unit.
	2	Lesson 1 'Should the university academic year begin in September?'	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	3	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	4	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	5	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	6	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	7	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	8	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	9	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	10	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	11	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	12	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	13	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	14	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.

	parameters.		
15	In-class review test and feedback session	Students will select several topics and write about the advantages or disadvantages of each while supporting their opinions.	
関連科目	他の英語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	プリント教材	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	In-class Review Test 30% Participation 70%		
学生への メッセージ	We will learn to express our ideas about interesting topics such as cyber money, drinking and driving, etc. and learn strategies in forming original opinions.		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	四技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）を総合的に伸ばすことで英語運用能力の基礎を身につけます。
到達目標	日常、アカデミックなコミュニケーション活動に対応できる四技能の習得をめざします。
授業方法と留意点	各授業では、アメリカの政治、文化、歴史に関する読み物を通し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの能力を伸ばすことを目的としています。
科目学習の効果（資格）	四技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）を総合的に伸ばします。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション Introduction (Barack Obama)	授業運営の説明 ディスカッション	テキスト購入をすませる。 次回のチャプターの音読を聞きながら、文章を読む。わからない単語を調べる。授業で内容が説明できるよう、日本語での理解も進める。
	2	Chapter 1&2 (Barack Obama)	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える ディスカッション	次回のチャプターの音読を聞きながら、文章を読む。わからない単語を調べる。授業で内容が説明できるよう、日本語での理解も進める。 フェアウェルスピーチの引用から暗唱したいものを選ぶ。
	3	Chapter 3&4 (Barack Obama) フェアウェルスピーチ	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える ディスカッション	次回のチャプターの音読を聞きながら、文章を読む。わからない単語を調べる。授業で内容が説明できるよう、日本語での理解も進める。
	4	Chapter 5&6 (Barack Obama) フェアウェルスピーチ	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える ディスカッション	中間テストの準備 スピーチの暗唱
	5	中間テスト 暗唱発表		次回のチャプターの音読を聞きながら、文章を読む。わからない単語を調べる。授業で内容が説明できるよう、日本語での理解も進める。
	6	Introduction Chapter 1&2 (the USA)	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える ディスカッション	次回のチャプターの音読を聞きながら、文章を読む。わからない単語を調べる。授業で内容が説明できるよう、日本語での理解も進める。
	7	Chapter 3&4 (the USA)	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える ディスカッション	次回のチャプターの音読を聞きながら、文章を読む。わからない単語を調べる。授業で内容が説明できるよう、日本語での理解も進める。
	8	Chapter 5&6 (the USA)	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える ディスカッション	次回のチャプターの音読を聞きながら、文章を読む。わからない単語を調べる。授業で内容が説明できるよう、日本語での理解も進める。
	9	Chapter 7&8 (the USA)	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える ディスカッション	次回のチャプターの音読を聞きながら、文章を読む。わからない単語を調べる。授業で内容が説明できるよう、日本語での理解も進める。
	10	Chapter 9&10 (the USA)	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える ディスカッション	次回のチャプターの音読を聞きながら、文章を読む。わからない単語を調べる。授業で内容が説明できるよう、日本語での理解も進める。
	11	Chapter 11&12 (the USA)	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える ディスカッション	次回のチャプターの音読を聞きながら、文章を読む。わからない単語を調べる。授業で内容が説明できるよう、日本語での理解も進める。
	12	Chapter 13&14 (the USA)	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える ディスカッション	次回のチャプターの音読を聞きながら、文章を読む。わからない単語を調べる。授業で内容が説明できるよう、日本語での理解も進める。最終のプレゼンテーションで発表したいトピックを選ぶ。
	13	Chapter 15&16 (the USA)	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える ディスカッション	まとめのテストの準備 プレゼンテーションの原稿をフォーマットに従いながら作成し、練習し始める。
	14	まとめのテスト アメリカの政治、文化、歴史と人種のポリティクスについての概説	ディスカッション	まとめのテストの準備
15	まとめのプレゼンテーション	プレゼンテーション	まとめのプレゼンテーションの準備	

関連科目	リーディング II a, b 等
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Penguin Readers: Level 2 BARACK OBAMA	Coleen Degnan-Veness	Pearson Japan
	2	Oxford Bookworms Library Factfiles Level 3: The USA	Alison Baxter	Oxford University Press
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	本授業は、アメリカの政治、歴史、文化を扱った、英語習得者初心者向けの読み物を扱い、英語で読む、理解する、聞く、書く、話すの技能を伸ばすことを目的としています。また、これらの読み物と共に、学生さんが、アメリカ合衆国と人種問題のつながりに対してより問題意識を持てるようになることも希望しています。いっしょに頑張りましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	This course introduces a variety of topics related to Japan for students to learn about and discuss. Students will think about and give their opinion on things like: food, restaurant culture, youth subculture, juku, studying abroad, etc.
到達目標	The purpose of the course is to promote English fluency by having students think about and give their opinions in English.
授業方法と留意点	Students will do pair work, small group work, practice conversations and do listening exercises.
科目学習の効果 (資格)	The objective of the course is for students improve their fluency by considering topics and discussing their opinions about them with others in class.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Topic 2: Personal Space	Space in relation to friends, family, strangers, etc.	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
3	Topic 3: Japanese Restaurant Culture	Izakaya, teishokuya, family restaurant, etc.	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
4	Topic 4: Japanese Restaurant Culture	Japanese Restaurant Culture	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
5	Topic 5: Collectivism	Collectives in Japanese Society	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
6	Topic 6: Collectivism	Collectives in Japanese Society	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
7	Topic 7: Natural vs Artificial Snack Ingredients	Healthy vs Unhealthy Snacking re: Comбини Culture	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
8	Topic 8: Natural vs Artificial Snack Ingredients	Discussing your combini habits	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
9	Topic 9: Medical Masks in Japan	Opinions on Medical Masks	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
10	Topic 10: Medical Masks in Japan	Opinions on Medical Masks	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
11	Topic 11: Japanese Tea	Tea Culture in Japan	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
12	Topic 12: Japanese Tea	Tea Culture in Japan	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
13	Topic 13: Juku Culture	Cram School Culture in Japan	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
14	Topic 14: Juku Culture	Cram School Culture in Japan	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson
15	Final Test.	Final Test.	Study for test.

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 100% Grading will be based on student class participation, attendance, textbook homework and an end of semester final test.

学生へのメッセージ To get a good grade, active participation, a positive attitude towards learning and regular attendance is important.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果 (資格)	An improvement in analytical and debating skills.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class.
2	Unit exercises - Smoking	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
3	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
4	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
5	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
6	Unit exercises - Japan's LGBTs	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
7	Unit exercises - Sexism and gender roles	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
8	Unit exercises - Sleeping	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
9	Unit exercises - Japan's population crisis	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
10	Unit exercises - Parasite singles	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
11	Unit exercises - J-pop	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
12	Unit exercises - Cosmetic surgery and physical appearance	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session.
15	Course review.	Feedback session	Students should reflect on the course for the course review and feedback session.

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN' UN-DO
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ
Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	This course is designed to help students express their opinions individually and collectively in a group context. The focus will be on current topics and using critical thinking for self expression.
到達目標	The goal of this course is for students to improve their opinion forming and expressing abilities. This includes speaking English with more confidence and learning how to back-up opinions and beliefs with more passion.
授業方法と留意点	The course will be divided into coverage of specific units as outlined in the textbook "Solutions". Since there are many topics to choose from, students and teacher will choose the topics as a group and decide the best ones for detailed coverage in class.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to express their own opinions through critical thinking.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introductions about the class and course.	Student and teacher self and group introductions.	Students should preview vocabulary for the unit.
	2	Lesson 1 'Should the university academic year begin in September?'	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	3	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	4	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	5	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	6	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	7	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	8	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	9	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	10	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	11	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	12	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	13	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	14	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.

	parameters.		
15	In-class review test and feedback session	Students will select several topics and write about the advantages or disadvantages of each while supporting their opinions.	
関連科目	他の英語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	プリント教材	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	In-class Review Test 30% Participation 70%		
学生への メッセージ	We will learn to express our ideas about interesting topics such as cyber money, drinking and driving, etc. and learn strategies in forming original opinions.		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	四技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）を総合的に伸ばすことで英語運用能力の基礎を身につけます。
到達目標	日常、アカデミックなコミュニケーション活動に対応できる四技能の習得をめざします。
授業方法と留意点	各授業では、アメリカのポピュラー楽曲を通じて、英文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの能力を伸ばすことを目的としています。
科目学習の効果（資格）	四技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）を総合的に伸ばします。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: Stand by Me/Ben E. King	4技能を伸ばすセクション 文法：関係代名詞の that	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
3	Unit 2: Jailhouse Rock/Elvis Presley	4技能を伸ばすセクション 文法：命令文	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
4	Unit 3: Blowin' in the Wind/Bob Dylan	4技能を伸ばすセクション 文法：現在進行形	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
5	Unit 4: Puff, the Magic Dragon/Peter, Paul and Mary	4技能を伸ばすセクション 文法：習慣の would	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
6	Unit 5: I've Gotta Get a Message to You/Bee Gees	4技能を伸ばすセクション 文法：強調構文	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。 これまでのユニットの練習問題、単語、リスニングの復習（次回のテスト）
7	中間テスト	これまでの復習テスト	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
8	Unit 6: Bridge Over Troubled Water/Simon & Garfunkel	4技能を伸ばすセクション 文法：現在完了形	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
9	Unit 7: Take Me Home, Country Roads/John Denver	4技能を伸ばすセクション 文法：仮定法過去完了形	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
10	Unit 8: Imagine/John Lennon	4技能を伸ばすセクション 文法：wonder if	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
11	Unit 9: I Need to Be in Love/The Carpenters	4技能を伸ばすセクション 文法：仮定法過去	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。 最終のプレゼンテーションで扱いたい楽曲を決める。
12	Unit 10: Honesty/Billy Joel	4技能を伸ばすセクション 文法：To不定詞の形容詞的用法	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。
13	Unit 11: Hotel California/Eagles	4技能を伸ばすセクション 文法：受動態	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。 これまでのユニットの練習問題、単語、リスニングの復習（次回のテスト）
14	まとめのテスト	これまでの総括テスト	短いプレゼンテーションに向けて楽曲を選び、フォーマットをガイドにした文章を書き、プレゼン原稿を完成させ、練習する。
15	アメリカポピュラー音楽概説（80年代以降） まとめのプレゼンテーション	まとめのプレゼンテーション	まとめのプレゼンテーション

関連科目	リーディング II a, b 等
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ソングス&カルチャー ポップソングで学ぶ初級英語	関戸冬彦、小林愛明、山中章子、吉田要	朝日出版社
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	--

学生へのメッセージ	本授業は、アメリカのポピュラー音楽を扱ったテキストに沿って英語を学びます。英語のみではなく、その楽曲の時代の概説や、プレゼンテーションなどでは、学生さんが好きな楽曲も取り扱いつつ、英語で説明する能力も伸ばす予定です。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅡ	科目名 (英文)	Topic Studies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アサー ロンゲス
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Introduction, overview.	No preparation required. 準備は必要ありません。
	2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Preview vocabulary for pages 2-5.
	3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9.
	4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13.
	5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17.
	6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21.
	7	Unit 6 Individualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz.
	8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29.
	9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33.
	10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37.
	11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41.
	12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45.
	13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49.
	14	Special Topic.	To be announced.	No preparation required.
15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz.	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please make a copy before the class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅡ	科目名 (英文)	Topic Studies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・グアイース
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	To listen to and learn about Western classical music from the baroque, classical and romantic periods. To practice reading comprehension and creative writing in English.
到達目標	Students will have listened to and learned about pieces of music from the baroque, classical and romantic periods of Western classical music. Students will have practiced reading and writing English skills.
授業方法と留意点	Reading comprehension and creative writing as a response to classical music.
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction to Western classical music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
2	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
3	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
4	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
5	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
6	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
7	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
8	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
9	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
10	Classical Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
11	Classical Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
12	Classical Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
13	Baroque Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
14	Baroque Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
15	Baroque Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prints provided by teacher		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Attendance 40%, Classwork 60%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	Please bring a dictionary.
-----------	----------------------------

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズⅡ	科目名(英文)	Topic Studies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教科書は2冊使用する。 全体的な構造を意識しながら英文を読む技術を身に付けると同時に、「論理的思考」を養う。 サブテキストでは、英文を正確に読んだり書いたりするのに不可欠な句読法の基本ルールを身に付ける。
到達目標	英文を構造で捉え、その論理的展開をつかむ練習を通して自己の「論理的思考」を養いエッセイに反映させることを到達目標とする。 サブテキストでは、受けた情報を正確に理解し、また明確に(時には効果的に)伝える際に必要な句読法の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	授業では主に、宿題のチェック、エッセイの論理的把握ができていないかを重視します。 エッセイ課題の提出については授業内で指示します。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	1 Conclusions / Reasons Lesson 2 コンマ(1)	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習(句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追う)
3	2 Analysis Lesson 3 コンマ(2)	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習(句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追う)
4	3 Theory / Proof Lesson 4 セミコロンの・コロンの	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習(句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追う)
5	4 Controversy Lesson 5 ダッシュ	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習(句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追う)
6	5 Comparison / Contrast Lesson 6 丸括弧・角括弧	課題チェック エッセイ購読と exercise エッセイ課題提出(1回目)	予習(句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追う)
7	6 Classification Lesson 7 省略符号	課題チェック エッセイ購読と exercise	中間テストの勉強 予習(句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追う)
8	中間テスト Lesson 8 引用符	前半の既習内容の確認テスト 課題チェック エッセイ購読と exercise	予習(句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追う)
9	7 Instructions Lesson 9 斜線	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習(句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追う)
10	8 Chronological Order (History) Lesson 10 ハイフン	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習(句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追う)
11	9 Cause & effect Lesson 11 アポストロフィ	課題チェック エッセイ購読と exercise エッセイ課題提出(2回目)	予習(句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追う)
12	10 Process Lesson 12 大文字(1)	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習(句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追う)
13	11 Explanation (New Product) Lesson 13 大文字(2)	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習(句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追う)
14	12 Definition Lesson 14 数(1)	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習(句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追う)
15	Lesson 15 数(2) 期末テスト	後半の既習内容の確認テスト エッセイ課題提出(3回目)	

関連科目	トピックスタディーズⅡ b
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Essential Guide to English Punctuation	豊田 暁	南雲堂
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中間・期末テスト 30% 発表(板書も含む)、積極的姿勢 30% 課題提出 40%			
学生への メッセージ	辞書または電子辞書必携。 分らない単語、表現については辞書を引いて例文で確認しましょう。 自分にあった文法解説書を持ち常に利用するようにしましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	トピック スタディーズⅡ	科目名(英文)	Topic Studies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	拙冬 紘和
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	トピック スタディーズⅡ b では社会言語学の観点より、さまざまな英語の種類、特徴、異文化コミュニケーションにおける英語の使用、特徴について学びます。また、学生の皆さんのこれからの英語使用への応用を学習します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界のさまざまな種類の英語について理解する。 実際の英語使用の場面を考えコミュニケーションのための英語を学ぶ。 さまざまな種類の英語をしり、自分の英語使用(発音など)のスタイルを見つける。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業はハンドアウトを中心に、ミニ講義、ペア・グループワークで進めます。 授業内での講義、ディスカッションへの参加を期待します。 教材は担当者が容易、配布します。(まとめプリントなども)

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	さまざまな英語 1	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
3	さまざまな英語 2	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
4	母語英語の特徴 1 (イギリス英語)	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
5	母語英語の特徴 1 (オーストラリア英語)	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
6	非母語英語 1 (アジア地域)	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
7	非母語英語 2 (その他の地域)	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
8	英語での丁寧語 1	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
9	英語での丁寧語 2	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
10	英語文化とコミュニケーション 1	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
11	英語文化とコミュニケーション 2	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
12	英語の非言語コミュニケーション 1	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
13	英語の非言語コミュニケーション 2	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
14	英語らしさとは?	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
15	まとめ (小テスト, レポート, or 発表)	講義、総括	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業参加態度(ペア・グループワーク) 40% ミニクイズ 30% まとめプリントの提出 30%
----------	---

学生へのメッセージ	日頃、みなさんが学習している、使用している英語の社会での特徴を学び、これからのみなさんの英語力、コミュニケーション力の向上をめざしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アサー ロングス
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Introduction, overview.	No preparation required. 準備は必要ありません。
	2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Preview vocabulary for pages 2-5.
	3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9.
	4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13.
	5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17.
	6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21.
	7	Unit 6 Individualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz.
	8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29.
	9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33.
	10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37.
	11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41.
	12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45.
	13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49.
	14	Special Topic.	To be announced.	No preparation required.
15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz.	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please make a copy before the class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウィリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	This course introduces a range of topics from around the world?including food, festivals, music and journeys?that provoke interest, inspire discussion, and ultimately broaden one's view of our diverse, global society. Knowledge and understanding of the world can not only inspire you to improve your home region, but they also make you more appreciative of it.
到達目標	Students will learn about topics from around the world, improving their English skills.
授業方法と留意点	This is a listening and speaking course with a little reading designed to create a richer speaking experience. A mixture of scripted and authentic audio provides opportunities for listening practice. Students' communicative competence is developed through guided pair and group discussion activities. Activity types include interviews, surveys, class presentations and projects, and encourage students to take their learning beyond the classroom.
科目学習の効果 (資格)	To improve reading, writing and speaking skills in English. To gain a better understanding, appreciation and enjoyment of the world we live in.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Talking about food	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan a restaurant!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	2	Talking about festivals	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Organise a festival!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	3	Review 1 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	4	Talking about your city	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Finding city solutions.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	5	Talking about jobs	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Interview someone about their job.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	6	Review 2 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	7	Talking about music	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Write a song!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	8	Talking about travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan an expedition!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	9	Review 3 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	10	Talking about famous families	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Family debate!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	11	Talking about adventure travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Make a public Service Announcement.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	12	Review 4 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	13	Talking about happiness	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. How to be happy!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	14	Talking about endangered species	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Give a persuasive presentation.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	15	Review 5 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Top Notch TV	Joan Saslow	Pearson
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法 (基準)	Class participation - 10% 3-5 Short presentations - 90%
-----------	--

学生へのメッセージ
I am looking forward to having you in class. Be prepared to speak a lot in class.

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies Ila
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	教科書は2冊使用する。 論理性的な英文を読み、全体的な構造を意識しながら要約する技術を身に付ける。最終的には与えられたテーマについてのエッセイが書けることを目的とする。 サブテキストでは、ほぼ同じ内容を違った文構造で表現できる基本的技術を身に付ける。
到達目標	1つのトピックがどのような論理性で展開しているかを捉えることで、自己の論理的な発信力を養うことへ繋げる。 同じ内容のものが違った文構造で書けるようになる。
授業方法と留意点	授業では主に段落の内容要約ができていないかを重視します。サブテキストでは宿題の書き換え文をチェックします。 エッセイ課題の提出は3度求める。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	2 名詞節の書き換え (2) to 不定詞の活用 Unit 1 Health	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
3	3 名詞節の書き換え (3) 動名詞の活用 Unit 2 Culture	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
4	4 形容詞節の書き換え Unit 3 History	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
5	5 「時」を表す副詞節の書き換え Unit 4 Biography	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
6	6 「理由・原因」を表す副詞節の書き換え Unit 5 Literature	課題チェック エッセイの要約と exercise エッセイ課題提出 (1回目)	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
7	7 「目的・結果」を表す副詞節の書き換え Unit 6 Tourism	課題チェック エッセイの要約と exercise	中間テストの勉強 予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
8	中間テスト 8 「譲歩」を表す副詞節の書き換え Unit 7 Social Problems	前半の既習内容の確認テスト 課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
9	9 「仮定・条件」を表す副詞節の書き換え Unit 7 Social Problems	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
10	10 重文の書き換え (1) to 不定詞・分詞構文の活用 Unit 8 Sociology	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
11	11 重文の書き換え (2) 前置詞・群前置詞の活用 Unit 9 Animals	課題チェック エッセイの要約と exercise エッセイ課題提出 (2回目)	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
12	12 重文の書き換え (3) 従属接続詞の活用 Unit 10 Art	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
13	13 態の書き換え Unit 11 Food	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
14	14 肯定・否定と内容上の文の書き換え Unit 12 Science / Technology	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
15	15 話法の書き換え 期末テスト	後半の既習内容の確認テスト エッセイ課題提出 (3回目)	

関連科目	トピックスタディーズⅡ b
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Active Training for Reading and Writing through 15 Topics	Michael Schauerte/ Tom Dillon/ 西谷恒志	鶴見書店
2	5分間 英文書き換えトレーニング	小中秀彦	南雲堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	中間・期末テスト 30% 発表(板書も含む)、積極的姿勢 30% 課題提出 40%			
学生への メッセージ	辞書または電子辞書必携。 エッセイ課題の提出方法は追って指示します。 分からない単語、表現については辞書を引いて例文で確認しましょう。 自分にあった文法解説書を持ち常に利用するようにしましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies Iia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	拙冬 紘和
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	トピック スタディーズⅡ aでは Media Literacy とクリティカルシンキングについて学び、実践します。身近にたくさんある、Media (SNS、広告、CM など)により発信されている情報を読み取り、新しい角度から理解することを目指します。Media Literacy とはあまり聞く言葉ではないかもしれませんが、みなさんが自然と日頃行っていることです。ひとつの情報には様々なメッセージが隠されています。それをしっかりと読み解くスキルを学びましょう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Media (SNS、広告、CM など)により発信されている情報を読み取り、新しい角度から理解することが出来るようになること。 クリティカルシンキングのスキルを習得し、論理的に物事を考え、発信できるようになること。 英語で、自分のアイデア、意見を発信できるようになること。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業は、ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッションを中心に行う。 授業内では日本語、英語の両方を使用する予定ですが、状況に応じて使い分けしましょう。 教材は、担当者が用意します (読み物、まとめシートなど)。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Media Literacy とは?1	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
3	Media Literacy とは?2	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
4	Media 分析 1	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
5	Media 分析 2	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
6	Media 分析 3	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
7	Media 分析 4 グループプレゼン	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
8	Media 分析 5 グループプレゼン	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
9	Critical Thinking とは?	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
10	Critical Chinking 実践 1	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
11	Critical Chinking 実践 2	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
12	Critical Chinking 実践 3	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
13	Critical Chinking 実践 4 グループプレゼン	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
14	Critical Chinking 実践 5 グループプレゼン	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
15	Media Literacy & Critical Thinking まとめ	まとめ講義	授業の復習 まとめプリントの完成

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	授業参加態度 40% まとめシート 30% グループ発表 30%
-----------	--

学生へのメッセージ
普段、さまざまな情報を目にし、耳にしますが、それらの情報を読み取り、新しい角度から理解してみましよう。また、その時に英語を使用し、自分の意見も発信し、自らも情報の発信源になってみましよう。

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズⅡb	科目名(英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アサー ロンゲス
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果(資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Introduction, overview.	No preparation required. 準備は必要ありません。
	2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Preview vocabulary for pages 2-5.
	3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9.
	4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13.
	5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17.
	6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21.
	7	Unit 6 Individualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz.
	8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29.
	9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33.
	10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37.
	11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41.
	12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45.
	13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49.
	14	Special Topic.	To be announced.	No preparation required.
15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz.	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法(基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please make a copy before the class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅡb	科目名(英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・ダイアース
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	To listen to and learn about Western classical music from the baroque, classical and romantic periods. To practice reading comprehension and creative writing in English.			
到達目標	Students will have listened to and learned about pieces of music from the baroque, classical and romantic periods of Western classical music. Students will have practiced reading and writing English skills.			
授業方法と留意点	Reading comprehension and creative writing as a response to classical music.			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to Western classical music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
	2	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
	3	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
	4	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
	5	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
	6	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
	7	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
	8	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
	9	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
	10	Classical Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
	11	Classical Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
	12	Classical Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
	13	Baroque Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
	14	Baroque Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
15	Baroque Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prints provided by teacher		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	Attendance 40%, Classwork 60%			
学生へのメッセージ	Please bring a dictionary.			

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズⅡ b	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	教科書は2冊使用する。 全体的な構造を意識しながら英文を読む技術を身に付けると同時に、「論理的思考」を養う。 サブテキストでは、英文を正確に読んだり書いたりするのに不可欠な句読法の基本ルールを身に付ける。
到達目標	英文を構造で捉え、その論理的展開をつかむ練習を通して自己の「論理的思考」を養いエッセイに反映させることを到達目標とする。 サブテキストでは、受けた情報を正確に理解し、また明確に（時には効果的に）伝える際に必要な句読法の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	授業では主に、宿題のチェック、エッセイの論理的把握ができていくかを重視します。 エッセイ課題の提出については授業内で指示します。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	1 Conclusions / Reasons Lesson 2 コンマ (1)	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習 (句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追求)
3	2 Analysis Lesson 3 コンマ (2)	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習 (句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追求)
4	3 Theory / Proof Lesson 4 セミコロンの・コロンの	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習 (句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追求)
5	4 Controversy Lesson 5 ダッシュ	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習 (句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追求)
6	5 Comparison / Contrast Lesson 6 丸括弧・角括弧	課題チェック エッセイ購読と exercise エッセイ課題提出 (1回目)	予習 (句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追求)
7	6 Classification Lesson 7 省略符号	課題チェック エッセイ購読と exercise	中間テストの勉強 予習 (句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追求)
8	中間テスト Lesson 8 引用符	前半の既習内容の確認テスト 課題チェック エッセイ購読と exercise	予習 (句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追求)
9	7 Instructions Lesson 9 斜線	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習 (句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追求)
10	8 Chronological Order (History) Lesson 10 ハイフン	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習 (句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追求)
11	9 Cause & effect Lesson 11 アポストロフィ	課題チェック エッセイ購読と exercise エッセイ課題提出 (2回目)	予習 (句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追求)
12	10 Process Lesson 12 大文字 (1)	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習 (句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追求)
13	11 Explanation (New Product) Lesson 13 大文字 (2)	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習 (句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追求)
14	12 Definition Lesson 14 数 (1)	課題チェック エッセイ購読と exercise	予習 (句読法 exercise、エッセイの論理的展開を追求)
15	Lesson 15 数 (2) 期末テスト	後半の既習内容の確認テスト エッセイ課題提出 (3回目)	

関連科目	トピックスタディーズⅡ b
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Essential Guide to English Punctuation	豊田 暁	南雲堂
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中間・期末テスト 30% 発表(板書も含む)、積極的姿勢 30% 課題提出 40%			
学生への メッセージ	辞書または電子辞書必携。 分らない単語、表現については辞書を引いて例文で確認しましょう。 自分にあった文法解説書を持ち常に利用するようにしましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	トピック スタディーズⅡ b	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	拙冬 紘和
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	トピック スタディーズⅡ b では社会言語学の観点より、さまざまな英語の種類、特徴、異文化コミュニケーションにおける英語の使用、特徴について学びます。また、学生の皆さんのこれからの英語使用への応用を学習します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界のさまざまな種類の英語について理解する。 実際の英語使用の場面を考えコミュニケーションのための英語を学ぶ。 さまざまな種類の英語をしり、自分の英語使用（発音など）のスタイルを見つける。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業はハンドアウトを中心に、ミニ講義、ペア・グループワークで進めます。 授業内での講義、ディスカッションへの参加を期待します。 教材は担当者が容易、配布します。（まとめプリントなども）

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	さまざまな英語 1	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
3	さまざまな英語 2	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
4	母語英語の特徴 1 (イギリス英語)	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
5	母語英語の特徴 1 (オーストラリア英語)	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
6	非母語英語 1 (アジア地域)	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
7	非母語英語 2 (その他の地域)	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
8	英語での丁寧語 1	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
9	英語での丁寧語 2	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
10	英語文化とコミュニケーション 1	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
11	英語文化とコミュニケーション 2	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
12	英語の非言語コミュニケーション 1	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
13	英語の非言語コミュニケーション 2	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
14	英語らしさとは？	ミニ講義、ペア・グループワーク	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習
15	まとめ (小テスト, レポート, or 発表)	講義、総括	ハンドアウトをしっかりと読む まとめプリントの復習

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業参加態度(ペア・グループワーク) 40% ミニクイズ 30% まとめプリントの提出 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	日頃、みなさんが学習している、使用している英語の社会での特徴を学び、これからのみなさんの英語力、コミュニケーション力の向上をめざしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ドラマ	科目名(英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現(アイコンタクトやジェスチャーなど)を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。
	2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。
	3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。
	4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。
	6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。
	8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。
	10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。
	12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。
	14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	ドラマ上演:20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。 辞書を毎回用意すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	ドラマ	科目名(英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現(アイコンタクトやジェスチャーなど)を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。
3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。
4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。
6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。
8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。
10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。
12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。
14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Romeo and Juliet</td> <td>William Shakespeare</td> <td>Black Cat</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	ドラマ上演:20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。 辞書を毎回用意すること。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ドラマ	科目名(英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現(アイコンタクトやジェスチャーなど)を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。
3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。
4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。
6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。
8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。
10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。
12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。
14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Romeo and Juliet</td> <td>William Shakespeare</td> <td>Black Cat</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat														
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法(基準)	ドラマ上演: 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ドラマ	科目名(英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ヘト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現(アイコンタクトやジェスチャーなど)を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。
2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。
3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。
4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。
6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。
8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。
10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。
12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。
14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Romeo and Juliet</td> <td>William Shakespeare</td> <td>Black Cat</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	ドラマ上演:20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																
学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。 辞書を毎回用意すること。																
担当者の研究室等	7号館2F 非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	ドラマ	科目名(英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チリ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリノズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現(アイコンタクトやジェスチャーなど)を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。
	2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。
	3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。
	4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。
	6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。
	8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。
	10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。
	12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。
	14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	ドラマ上演: 20% 授業中の小テスト・発言・討論・宿題・提出物等 80%
----------	--

学生へのメッセージ	Please try to come to every class. Missing classes will result in a low grade and possible failure of this class as it hinders other students' preparations for their performances. If you need help with anything, please contact me.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ドラマ I	科目名 (英文)	Drama I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Sイあい
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現 (アイコンタクトやジェスチャーなど) を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。
	2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。
	3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。
	4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。
	6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。
	8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。
	10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。
	12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。
	14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	ドラマ上演: 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。 辞書を毎回用意すること。
担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ドラマ I	科目名 (英文)	Drama I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ろうえ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現 (アイコンタクトやジェスチャーなど) を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。
	2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。
	3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。
	4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。
	6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。
	8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。
	10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。
	12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。
	14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	ドラマ上演: 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。 辞書を毎回用意すること。
担当者の研究室等	7号館 2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ドラマ I	科目名 (英文)	Drama I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ハおか
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現 (アイコンタクトやジェスチャーなど) を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。
	2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。
	3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。
	4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。
	6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。
	8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。
	10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。
	12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。
	14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	ドラマ上演: 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ドラマ I	科目名 (英文)	Drama I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニきく
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現 (アイコンタクトやジェスチャーなど) を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。
3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。
4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。
6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。
8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。
10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。
12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。
14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	ドラマ上演: 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。 辞書を毎回用意すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2F 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ドラマ I	科目名 (英文)	Drama I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホヘけさし
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現 (アイコンタクトやジェスチャーなど) を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。
2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。
3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。
4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。
6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。
8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。
10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。
12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。
14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Romeo and Juliet</td> <td>William Shakespeare</td> <td>Black Cat</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	ドラマ上演: 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Please try to come to every class. Missing classes will result in a low grade and possible failure of this class as it hinders other students' preparations for their performances. If you need help with anything, please contact me.
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トランスレーション トレーニング a	科目名 (英文)	Translational Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>国際キャリアコースのパッケージプログラムが想定する分野に関連した英語を学習します。</p> <p>本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際教養」を選択した学生を対象とした英語の授業です。</p> <p>日本と世界をアートと時事の二つの視点から見つめ、情報をわかりやすく説明したり、表現したりする英語の学習を目的とします。</p> <p>日本から英語、英語から日本語の、音声通訳および文字による翻訳のための演習も行います。</p>
到達目標	<p>英語を仕事のツールととらえ、それぞれの職種における基本的な語彙や表現を用いて英語を話したり、書いたりできるようになることを目標にする。</p> <p>国内だけでなく、世界の出来事に関心を向ける。社会の出来事やそれについて自分の見解を述べるために必要な基本的語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、離したり、書いたりできるようになることを目標とする。</p>
授業方法と留意点	<p>分野によって必要とされる英語が異なることを理解すること。例えば、航空会社やホテルで必要な英語と外資系企業や日本企業の海外事業部門などで必要な英語は異なる。自分にとって関心があるキャリアを決め、そこで要求される英語の基本を主体的に学習する。</p> <p>国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。</p>
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 世界のニュースを英語で 時事問題を描く戯曲とは	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
	2	社会と子ども	発表	報道記事を読む・聴く 復習
	3	難民状態になる、ということ	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
	4	戦争と報道	発表	報道記事を読む・聴く 復習
	5	世界と日本の難民事情比較	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
	6	入国管理と受け入れ制度	発表	報道記事を読む・聴く 復習
	7	難民問題を描く映画・劇・ドラマ (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
	8	難民問題を描く映画・劇・ドラマ (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習
	9	受け入れ側の視点 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
	10	受け入れ側の視点 (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習
	11	歴史上の有名人の難民体験 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
	12	歴史上の有名人の難民体験 (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習
	13	多文化が共に生きる (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
	14	多文化が共に生きる (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習
	15	まとめ		ふりかえり

関連科目	リーディング IIa, b 等
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『戯曲で学ぶ対話力：Promised Land(仮)』 詳細は授業初回にお知らせします。 予定価格 1500 円。		
	2	プリント教材		
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	視点を移すと、見えるものが変わってきます。自分が当たり前と思っていたことも、その背景を知らない人にとっては理解できないことかもしれません。自分とちがった文化圏で暮らしてきた人たちにわかるように、英語で伝えるには、どうしたらいいでしょうか？少しでもわかり合うことができれば、相手は将来、あなたの大切な友人となるかもしれません。試行錯誤していきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階 齋藤研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	トランスレーション トレーニング b	科目名 (英文)	Translational Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>国際キャリアコースのパッケージプログラムが想定する分野に関連した英語を学習します。</p> <p>本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際教養」を選択した学生を対象とした英語の授業です。</p> <p>日本と世界をアートと時事の二つの視点から見つめ、情報をわかりやすく説明したり、表現したりする英語の学習を目的とします。</p> <p>日本から英語、英語から日本語の、音声通訳および文字による翻訳のための演習も行います。</p>
到達目標	<p>英語を仕事のツールととらえ、それぞれの職種における基本的な語彙や表現を用いて英語を話したり、書いたりできるようになることを目標にする。</p> <p>国内だけでなく、世界の出来事に関心を向ける。社会の出来事やそれについて自分の見解を述べるために必要な基本的語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、離したり、書いたりできるようになることを目標とする。</p>
授業方法と留意点	<p>分野によって必要とされる英語が異なることを理解すること。例えば、航空会社やホテルで必要な英語と外資系企業や日本企業の海外事業部門などで必要な英語は異なる。自分にとって関心があるキャリアを決め、そこで要求される英語の基本を主体的に学習する。</p> <p>国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。</p>
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 世界のニュースを英語で 時事問題を描く映画・文学とは	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
	2	食糧生産 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
	3	食糧生産 (2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
	4	食糧生産 (3)	発表	報道記事を読む・聴く 復習
	5	国境を超える犯罪捜査 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
	6	国境を超える犯罪捜査 (2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
	7	国境を超える犯罪捜査 (3)	発表	報道記事を読む・聴く 復習
	8	科学と倫理 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
	9	科学と倫理 (2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
	10	科学と倫理 (3)	発表	報道記事を読む・聴く 復習
	11	日本発の製品・文化を世界に (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
	12	日本発の製品・文化を世界に (2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習
	13	日本発の製品・文化を世界に (3)	発表	報道記事を読む・聴く 復習
	14	ポスター発表 (1)	発表と相互に質問	発表準備 復習
	15	ポスター発表 (2)	発表と相互に質問	ふりかえり

関連科目	リーディング IIa, b 等
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『戯曲で学ぶ対話力: Promised Land(仮)』 詳細は授業初回にお知らせします。 予定価格 1500 円。		
	2	プリント教材		
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	視点を移すと、見えるものが変わってきます。自分が当たり前と思っていたことも、その背景を知らない人にとっては理解できないことかもしれません。自分とちがった文化圏で暮らしてきた人たちにわかるように、英語で伝えるには、どうしたらいいでしょうか？少しでもわかり合うことができれば、相手は将来、あなたの大切な友人となるかもしれません。試行錯誤していきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階 齋藤研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	日米関係論	科目名(英文)	Japan-US Relations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	開国から冷戦後までの140年にわたる日米関係の歴史を振り返る。			
到達目標	日本とアメリカの関係がどのような経緯を辿って、現在の日米同盟に至ったのかを理解する。近代国家の国際関係を動かす力学とはいかなるものであるのかという点に関する理解を深める。日本の今後進むべき道についての自分なりの考えを持つ。			
授業方法と留意点	教科書を併用しながら、資料を配布して、解説を行う。教科書をあらかじめよく読んでくること。第一次大戦後以降の歴史を中心に扱う。現在の日米関係の問題まで扱いたい。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに、講義へのイントロダクション	講義の概要と進め方	なし
	2	日本の歴史と地政学的な位置	日本の歴史的な国家形成とアジアにおける地政学的な位置について 明治時代より以前と以後の日本の相違	講義内容を復習すること
	3	アメリカ合衆国の歴史と外交政策	移民、アメリカ革命、デモクラシー モンロー主義と太平洋国家	紹介する資料を読んでくる 講義内容を復習すること
	4	日米の遭遇と世界史への登場	日本の開国から明治期の日米関係について	教科書(第1章)を読んでくる 講義内容を復習すること
	5	帝国主義時代の日本とアメリカの植民地政策(1)	日本の韓国併合、アメリカのハワイ、フィリピンへの進出 日露戦争後の日米の台頭	教科書(第2章)を読んでくる 講義内容を復習すること
	6	帝国主義時代の日本とアメリカの植民地政策(2)	第一次世界大戦後の国際情勢 国際連盟の盟主としてのアメリカと日本	教科書(第3章)を読んでくる 講義内容を復習すること
	7	日本の中国大陸侵出とアメリカの不承認	満州事変と日中戦争における日米関係の変化	教科書(第4章)を読んでくる 講義内容を復習すること
	8	日本人のアメリカ移民の歴史	ハワイとアメリカ西海岸への日本人移民の歴史 第二次大戦中の日系人収容所 第二次大戦後の日系人社会	教科書(第5章)と資料を読んでくる 講義内容を復習すること
	9	日米戦争と日本占領	ヨーロッパ戦線と日米戦争 真珠湾攻撃から沖縄戦・原爆投下に至るまで	教科書(第6章)を読んでくる 講義内容を復習すること
	10	サンフランシスコ講和条約と戦後日本	朝鮮戦争と日本の安全保障	教科書(第7章)を読んでくる 講義内容を復習すること
	11	日米安保条約と安保改定反対闘争	日米安保条約を巡る様々な動きについて学ぶ	講義内容を復習すること
	12	東西冷戦下の日米同盟と沖縄返還	ベトナム戦争と基地沖縄問題と日米同盟について	教科書(第8章)を読んでくる 講義内容を復習すること
	13	米中接近、日中国交回復の時代の日米関係	中ソの衝突と日米の対中戦略のズレ	教科書(第9章)を読んでくる 講義内容を復習すること
	14	冷戦終結とグローバル時代の日米関係	湾岸戦争・イラク戦争と日米同盟の強化	教科書(第10章)を参考のこと 講義内容を復習すること
	15	講義のまとめ	これまでの講義をまとめた上で、日米関係の将来を展望する	教科書(第11章)を参考にすること 講義内容を復習すること
関連科目	国際文化概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日米関係史	五十旗頭真編著	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本の外交	入江昭	中公新書
	2	新・日本の外交	入江昭	中公新書
	3	戦後入門	加藤典洋	筑摩新書
評価方法(基準)	授業内のレポート・平常点(40%)と授業後のレポート・記述試験(60%)により評価。受講生の多寡によっては評価方法を変更することもある。その場合は授業の中で指示する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館4階 有馬研究室			
備考	事前事後学習におよそ60時間必要。			

科目名	日米比較文化	科目名(英文)	Comparative Cultures: America and Japan
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<p>この授業では、19世紀から現在までのアメリカ人の日本人観、日本人のアメリカ人観が表れた両国の様々な文化表現を、映画と音楽を中心に見ていきます。両国の人々が互いに抱えてきたイメージと、その歴史的な変遷に注目し、背景にある国際政治、国内政治との関わりを考えます。日米間に限らず、現代世界の人種問題、民族問題について、またメディアを通じた異文化理解について、当事者意識を持って考えるきっかけにしましょう。</p> <p>受講生の皆さんには、ただ教室に来て講義を聞くのではなく、スケジュール通りに資料を読んでから講義を聴き、講義の後には教材フォルダにアップされた講義ノートを読み返すことが要求されます。また、毎回の授業時間の終盤には、その日に理解できた内容を作文として提出してもらいます。ある程度高度な日本語を読む、書く、という文系の学生に必須の学習方法を習慣として身につけ、就職活動や卒論作成に対応可能な水準の日本語力も同時に身につけましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本とアメリカ合衆国における人種問題、民族問題の歴史と現状についての基礎知識、基礎的理解を身につける。 就職活動や卒論作成に向けて日本語力、作文力を向上させる。 テーマに基づいて読解と作文を繰り返す学習技法を習得する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 教材の配布方法をはじめ、授業方法についての重要な説明を初回の授業で詳細に行います。履修を検討している人は、初回の授業に必ず出席して下さい。やむを得ない事情で欠席する(した)場合は、一両日中に教員に連絡して欠席の事由を説明し、必要な指示を受けてから二回目の授業に臨んで下さい。連絡のあった受講生についてははできるだけの配慮をしますが、二回目以降の授業に何の準備もなく突然出席されても、他の受講生の迷惑になりますのでサポートはできません。単位をとれる可能性は著しく低くなります。 高度で難解なものも含む大量のプリント教材を自分で Webbox から入手・印刷して用意し、スケジュールを確認しながら読んでもらい、講義に続いて授業時間内にコメントを作文してもらいます。コメントが書けなければその日の成績は0点です。最終課題も論述(レポート形式の試験)です。毎回出席する意思のない人や、PC 端末の操作や印刷をやりたくない人、文章を読みたくない人、書きたくない人は、この授業を選択してはいけません。 座席は指定席制です。視力等の事情がある場合は配慮します。 教材の多くは教材フォルダを通じて電子配布されますので、定期的なPC操作が必要です。 このシラバスに載っている15回のスケジュールは例年の標準的なスケジュールです。年度によって少しずつ変更があります。初回の授業でより詳しいスケジュールを配布し、さらに変更があれば随時授業で告知します。
科目学習の効果(資格)	アメリカ合衆国への渡航、留学、外国語学部生としての就職活動等に必要一般常識

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	受講に関する諸注意	受講に関する重要な説明と指示を初回授業でまとめて行います。	配付した資料の予習
授業計画	2	相撲と minstrel show — 近代国民国家と「国民文化」	ベリー提督の日本来航時(1853-54)に描かれた絵図などを読み解く	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
	3	「黄禍」としての日本人/日系人 その1 1910年代の日米関係	最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat (1915)を読み解く	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
	4	「黄禍」としての日本人/日系人 その2 Cheat (1915)の主要場面を分析する	最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat (1915)を読み解く	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
	5	日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ その1 1920年代～30年代の日米関係	1928年～1930年代の日本製「ジャズ」音楽を検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
	6	日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ その2 1930年代の反米知識人	池崎忠孝『世界を脅威するアメリカニズム』(1937)など検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
	7	「人種戦争」としての第二次世界大戦その1 アメリカのプロパガンダ	日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
	8	「人種戦争」としての第二次世界大戦その2 日本のプロパガンダ	日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
	9	東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム その1 1950年代の日米関係	映画『サヨナラ』(1957)を検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
	10	東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム その2 『サヨナラ』(1957)と人種・ジェンダー	映画『サヨナラ』(1957)を検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
	11	近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版 その1 アメリカのカウンターカルチャー	ウッドストック(1969)と1970年代の日本のロック/フォークフェス等を例に考える。	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
	12	近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版 その2 日本のカウンターカルチャー	ウッドストック(1969)と1970年代の日本のロック/フォークフェス等を例に考える。	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
	13	現代日本社会における人種差別告発と、戦後日本の「黒人」音楽 その1 ジャズとブルース	戦後日本の「黒人音楽」の歴史的・現代的意義を検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
	14	現代日本社会における人種差別告発と、戦後日本の「黒人」音楽 その2 ファンクとヒップホップ	戦後日本の「黒人音楽」の歴史的・現代的意義を検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。

	15	まとめ	期末レポートに向けて、学習内容を総括する。	自分がレポートに使う可能性のある全ての配布資料および教科書に目を通し、持参。
関連科目	日米文化交流史など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「ヘイト」の時代のアメリカ史 人種・民族・国籍を考える	兼子歩／貴堂嘉之 編	彩流社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常の作文および質疑への貢献の評価 70% 最終授業終了後に提出の最終レポート 30%			
学生への メッセージ	最初から全部分からなくてもかまいません。まずは「よく分からないが何だか面白い!」と感じるところを探しましょう。今の自分にとって難しく感じるものを、取って背伸びをして読み、また書くことを楽しめるようになって下さい。			
担当者の 研究室等	7号館3階 鳥居研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	日米文化交流史	科目名(英文)	History of Japan-US Intercultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大原 関 一浩
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	アメリカと日本は太平洋を隔てた隣国であり、100年以上の交流の歴史があります。前半は、アメリカという国の歴史や文化を形成する思想について学びます。後半は、日本とアメリカのさまざまな文化的交流のあり方について学び、異文化コミュニケーションの課題について考えます。学生による主体的な学びを促進するため、学生は日米文化交流の歴史と現状に関するリサーチ・ペーパーを作成する。課題を設定し、それについて調べ、発表し、学生同士で議論する活動を通じ、日文化交流について自分なりの意見を持つことを目標とする。																																																																		
到達目標	1. 日米文化交流の歴史を学び、異文化コミュニケーションの諸問題を学ぶ。 2. アメリカという国の歴史・社会・文化を理解する																																																																		
授業方法と留意点	映像・写真資料、PowerPoint スライド、配布資料を使用します。 リサーチ・ペーパーは早めに着手し、進めること。 授業には、積極的に参加すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>日米文化交流を学ぶ意義について考える</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国の成り立ちと起源</td> <td>アメリカの国の成り立ちと国民性の起源について学ぶ</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>宗教と思想</td> <td>アメリカ文化における宗教と思想の役割について学ぶ</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>フロンティアの意義</td> <td>アメリカ文化におけるフロンティアの意義について学ぶ</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>明治・大正期の日米文化</td> <td>明治・大正期の日本とアメリカ文化について学ぶ</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>日本人移民とアメリカ</td> <td>アメリカに渡った日本人移民の歴史について学ぶ</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学生の個人プロジェクト(途中報告)</td> <td>学生による個人プロジェクトの途中報告と討論</td> <td>授業で得られた知見をどうリサーチに生かすか考える</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>日米大戦</td> <td>日米大戦を文化・人種の視点から考える</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日本占領の遺産</td> <td>アメリカによる日本占領の遺産について考える</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>冷戦期と文化</td> <td>冷戦期カウンターカルチャーと日本</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>日本食とアメリカ</td> <td>アメリカにおける日本食</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>日本におけるアメリカ服飾文化(その1)</td> <td>日本における洋服の歴史</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>日本におけるアメリカ服飾文化(その2)</td> <td>アメリカ服の輸入から輸出へ</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学生の個人プロジェクト(その1)</td> <td>学生による調査結果の発表</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学生の個人プロジェクト(その2)</td> <td>グループ・ディスカッション</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	日米文化交流を学ぶ意義について考える	授業内容の復習	2	国の成り立ちと起源	アメリカの国の成り立ちと国民性の起源について学ぶ	授業内容の復習	3	宗教と思想	アメリカ文化における宗教と思想の役割について学ぶ	授業内容の復習	4	フロンティアの意義	アメリカ文化におけるフロンティアの意義について学ぶ	授業内容の復習	5	明治・大正期の日米文化	明治・大正期の日本とアメリカ文化について学ぶ	授業内容の復習	6	日本人移民とアメリカ	アメリカに渡った日本人移民の歴史について学ぶ	授業内容の復習	7	学生の個人プロジェクト(途中報告)	学生による個人プロジェクトの途中報告と討論	授業で得られた知見をどうリサーチに生かすか考える	8	日米大戦	日米大戦を文化・人種の視点から考える	授業内容の復習	9	日本占領の遺産	アメリカによる日本占領の遺産について考える	授業内容の復習	10	冷戦期と文化	冷戦期カウンターカルチャーと日本	授業内容の復習	11	日本食とアメリカ	アメリカにおける日本食	授業内容の復習	12	日本におけるアメリカ服飾文化(その1)	日本における洋服の歴史	授業内容の復習	13	日本におけるアメリカ服飾文化(その2)	アメリカ服の輸入から輸出へ	授業内容の復習	14	学生の個人プロジェクト(その1)	学生による調査結果の発表	授業内容の復習	15	学生の個人プロジェクト(その2)	グループ・ディスカッション	授業内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	日米文化交流を学ぶ意義について考える	授業内容の復習																																																																
2	国の成り立ちと起源	アメリカの国の成り立ちと国民性の起源について学ぶ	授業内容の復習																																																																
3	宗教と思想	アメリカ文化における宗教と思想の役割について学ぶ	授業内容の復習																																																																
4	フロンティアの意義	アメリカ文化におけるフロンティアの意義について学ぶ	授業内容の復習																																																																
5	明治・大正期の日米文化	明治・大正期の日本とアメリカ文化について学ぶ	授業内容の復習																																																																
6	日本人移民とアメリカ	アメリカに渡った日本人移民の歴史について学ぶ	授業内容の復習																																																																
7	学生の個人プロジェクト(途中報告)	学生による個人プロジェクトの途中報告と討論	授業で得られた知見をどうリサーチに生かすか考える																																																																
8	日米大戦	日米大戦を文化・人種の視点から考える	授業内容の復習																																																																
9	日本占領の遺産	アメリカによる日本占領の遺産について考える	授業内容の復習																																																																
10	冷戦期と文化	冷戦期カウンターカルチャーと日本	授業内容の復習																																																																
11	日本食とアメリカ	アメリカにおける日本食	授業内容の復習																																																																
12	日本におけるアメリカ服飾文化(その1)	日本における洋服の歴史	授業内容の復習																																																																
13	日本におけるアメリカ服飾文化(その2)	アメリカ服の輸入から輸出へ	授業内容の復習																																																																
14	学生の個人プロジェクト(その1)	学生による調査結果の発表	授業内容の復習																																																																
15	学生の個人プロジェクト(その2)	グループ・ディスカッション	授業内容の復習																																																																
関連科目	日米比較文化																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、確認テスト等)40% リサーチ・ペーパー60%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館5階(大原関研究室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	日本語音韻論	科目名(英文)	Japanese Phonology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語音韻論(日本語学Ⅱ)」では日本語の音韻について学ぶ。 音韻というのは、日本語の「音」に関すること。発音やアクセントなどについて、具体的に考える。 外国語を学ぶ上でも重要な、日本語の音について正しく理解する。
到達目標	日本語の発音やアクセントの特徴について、正確な知識をもとに説明することができる。
授業方法と留意点	板書と配布するプリントに基づいて講義する。講義後、コメントや課題を求める。 授業中には、はっきりと声に出して発音をすること。
科学習の効果(資格)	日本語に対する理解を深める。日本語を相対的に観察し、外国語と比較する視点が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる	—————
2	言語体系の諸単位 調音器官	言語の要素について 調音器官について知る	日本語の音について各自考えておく
3	母音	母音をどのように発音しているか考える	日本語の音韻史について復習しておく
4	子音1	子音をどのように発音しているか考える	母音の調音を整理しておく
5	子音2	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
6	清音・濁音	清音・濁音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
7	前半のまとめ 《確認小テスト》	ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題	子音・母音の調音について復習しておく
8	撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題	撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる	拍の表を作成しておく
9	拍、音節 五十音図	日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する	撥音・促音・長音について復習しておく
10	日本語のリズム	日本語が持つリズムの特徴について考える	拍の表に追加をしておく
11	アクセント1	高低アクセントと強弱アクセント アクセントの東西比較	日本語のリズムについての課題を作成しておく
12	アクセント2	アクセントの高低配分	関西と関東のアクセントの違いをまとめておく
13	アクセント3	活用語のアクセント イントネーションとアクセント	アクセントの法則をまとめておく
14	音の交替	母音交替・連濁	アクセントとイントネーションについて復習しておく
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの総括をし、復習テストを行う	これまでの復習

関連科目	音声学 2015年～入学生 日本語史概論、日本語語彙論、日本語文法論 ～2014年入学生 日本語学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	最終確認テスト(65%)、確認小テスト(5%)、講義時の課題等(30%)。 単位認定には最終確認テストの受験を必須とする。
学生へのメッセージ	日頃何気なく発している日本語は、どのようにして発音されているのか。 実際に発音しながら、発音やアクセントについて考えてみましょう。
担当者の研究室等	7号館4階(橋本研究室)
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。

科目名	日本語学 I	科目名 (英文)	Japanese Linguistics I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語史概説」では日本語の諸問題について歴史的に学ぶ。 日本語の歴史を知ること、現在の日本語を考察することにつながる。日本語は、文献が残されている時代からでも、発音も文字も文法も、ずいぶんと変化している。どう変化したのか、なぜ変化したのか、という視点で、古代を中心に各時代の日本語の変化を考察する。</p>
到達目標	日本語の文字、読み、言葉遣い、発音の特徴について、歴史的背景をもとに正確に説明することができる。
授業方法と留意点	板書および配布するプリントに沿って講義する。講義の後、コメントを求めたり、課題を出したりする。
科目学習の効果 (資格)	日本語の歴史の理解を通して、言葉に対する関心、理解が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	—————
2	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史 1 漢字の受容	時代区分を覚える
3	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史 2 ひらがなの成立	万葉仮名について整理する
4	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史 3 カタカナの成立	ひらがなの成立について整理する
5	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史 4 様々な文体 縦書き横書き混用の背景	カタカナの成立について整理する
6	《確認小テスト》 行列と行進	音読みについて学ぶ	文体についてまとめる
7	生きる・生まれる・生える	訓読みについて学ぶ	音読みについて整理する
8	たかが方言 されど方言	標準語と方言 1 標準語の成立	訓読みについて整理する
9	たかが方言 されど方言	標準語と方言 2 方言の分布・文法	標準語についてまとめる
10	たかが方言 されど方言	標準語と方言 3 方言の拡大と現代語	方言の分布について整理する
11	わたしだ・わしじゃ・わたくしですわ	様々な言葉遣いについて	方言の特徴を調べる
12	《確認小テスト》 「はひふへほ」と「ばびぶべぼ」	発音の変化 1 古代の発音	言葉遣いについて考察する
13	「はひふへほ」と「ばびぶべぼ」	発音の変化 2 変化の様子	古代の発音を整理する
14	恋・愛・恋愛	翻訳語について考える	発音の変化を整理する
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う	これまでの復習

関連科目 日本語音韻論 (日本語学Ⅱ)、日本語語彙論 (日本語学Ⅲ)、日本語文法論 (日本語学Ⅳ)、ことばに関する授業すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 最終確認テスト (60%)、確認小テスト (10%)、毎回の講義時の課題 (30%)。最終週の《最終確認テスト》の受験を必須とする。

学生へのメッセージ 日本語の歴史を知ること、現代の日本語の新たな一面が見えてくるはずです。

担当者の研究室等 7号館4階 (橋本研究室)

備考 事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。

科目名	日本語学Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Linguistics II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。「日本語音韻論(日本語学Ⅱ)」では日本語の音韻について学ぶ。音韻というのは、日本語の「音」に関すること。発音やアクセントなどについて、具体的に考える。外国語を学ぶ上でも重要な、日本語の音について正しく理解する。
到達目標	日本語の発音やアクセントの特徴について、正確な知識をもとに説明することができる。
授業方法と留意点	板書と配布するプリントに基づいて講義する。講義後、コメントや課題を求める。授業中には、はっきりと声に出して発音をすること。
科学習の効果(資格)	日本語に対する理解を深める。日本語を相対的に観察し、外国語と比較する視点が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる	—————
2	言語体系の諸単位 調音器官	言語の要素について 調音器官について知る	日本語の音について各自考えておく
3	母音	母音をどのように発音しているか考える	日本語の音韻史について復習しておく
4	子音1	子音をどのように発音しているか考える	母音の調音を整理しておく
5	子音2	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
6	清音・濁音	清音・濁音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
7	前半のまとめ 《確認小テスト》	ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題	子音・母音の調音について復習しておく
8	撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題	撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる	拍の表を作成しておく
9	拍、音節 五十音図	日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する	撥音・促音・長音について復習しておく
10	日本語のリズム	日本語が持つリズムの特徴について考える	拍の表に追加をしておく
11	アクセント1	高低アクセントと強弱アクセント アクセントの東西比較	日本語のリズムについての課題を作成しておく
12	アクセント2	アクセントの高低配分	関西と関東のアクセントの違いをまとめておく
13	アクセント3	活用語のアクセント イントネーションとアクセント	アクセントの法則をまとめておく
14	音の交替	母音交替・連濁	アクセントとイントネーションについて復習しておく
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの総括をし、復習テストを行う	これまでの復習

関連科目	音声学 2015年～入学生 日本語史概論、日本語語彙論、日本語文法論 ～2014年入学生 日本語学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	最終確認テスト(65%)、確認小テスト(5%)、講義時の課題等(30%)。単位認定には最終確認テストの受験を必須とする。
学生へのメッセージ	日頃何気なく発している日本語は、どのようにして発音されているのか。実際に発音しながら、発音やアクセントについて考えてみましょう。
担当者の研究室等	7号館4階(橋本研究室)
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。

科目名	日本語学Ⅲ	科目名(英文)	Japanese Linguistics III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川 豊生
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一連の日本語学関連の科目のうち、ここではとくに日本語の語彙の成り立ちを中心に、その他、語法や文章表現なども含めて、幅広く日本語についての知識や運用力を高めることを目標とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙を中心とした日本語にかかわる基礎的知識を身につける。 ・頻出する語彙の正確な理解、語彙の成り立ちに関する知識、その文章への応用などについての実力を養成する。 ・就職試験や社会活動に利する、実践的な語彙力を養う。 ・検定試験に臨むための基本的力を養成する。 ・日本語教師を目指す人にとっても役立つよう心掛ける。
授業方法と留意点	プリント・講義ノートに基づいてすすめる。就職試験や日本語検定試験にも対応できる力を養成することを目指して、講義以外に、多くの練習問題を実施していく。その訓練に耐えられるよう、心がけてほしい。
科目学習の効果(資格)	日本語検定試験を積極的に受験することを薦めます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	語彙と文法・単語の性質①	語彙と文法とが文の中でどうかかわり合っていくかについて考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	2	語彙と文法・単語の性質②	単語のもつ性質について様々な角度から考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	3	単語の種類①	単語のもつ意味や機能について分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	4	単語の種類②	単語のもつ意味や機能について分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	5	語構成①	単純語・合成語・複合語・造語法について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	6	語構成②	単純語・合成語・複合語・造語法について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	7	語彙の体系	類義語・対義語・語根について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	8	日本的語彙①	日本的語彙の特質について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	9	日本的語彙②	日本的語彙の特質について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	10	意味の変化	時代とともに変化する語彙の歴史について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	11	比喻	比喻的意味の種々相について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	12	慣用句	慣用句の成り立ちについて分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	13	文体的特徴	文体とは何か、日本文の構造から分析を加える。	配布した練習問題の回答とまとめ
	14	表記	送り仮名・仮名遣いなどの日本語表記について分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	15	総合評価授業	授業全体のまとめをおこない、総合問題を解く。	総まとめ

関連科目	国際教養論(言語)・日本語学Ⅰ～Ⅲ
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	総合評価授業での総合問題 60%、練習問題・レポート等 40%で評価する。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	ここで学んだことを実際に使ってみることを心がけてください。またそれが可能となる講義を目指します。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。
----	------------------------------------

科目名	日本語学Ⅳ	科目名(英文)	Japanese Linguistics Ⅳ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川 豊生
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	一連の日本語学関連の科目のうち、ここではとくに日本語の文法を中心に、その他文章表現技術や語彙力なども含めて、幅広く日本語についての知識や運用力を高めることを目的とする。 日本語力に自信がもてない大きな理由の一つには、「文法」に対する苦手意識があるものと思われる。語法や表現を正しく運用する基本に文法的知識は不可欠であり、逆に文法に強くなることによって日本語運用能力を一段と高めることができる。ここでは、長いあいだの「苦手意識」を払しょくし、これまでにない表現意欲を獲得することを目標に、わかりやすい講義と訓練をこころがけたいと思う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の文法を中心とした基礎的知識を身につける。 就職試験や検定試験に臨むための基本的力を養成する。 日本語教師を目指す人にも役立つことを目指す。
授業方法と留意点	プリント・講義ノートに基づいてすすめます。就職試験や日本語検定試験にも対応できる力を養成することを目指して、講義以外に、多くの練習問題を実施していきます。その訓練に耐えられるよう、心がけてください。
科目学習の効果(資格)	日本語検定試験を積極的に受験することを薦めます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	文法とは何か	文法を学ぶことの意義について、具体的な事例を挙げて解説する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	2	文法の歴史	文法はどのようにして見出されたのか、その歴史を解説する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	3	品詞とは何か	品詞についての実践的知識を得る。	配布した練習問題の回答とまとめ
	4	活用とは何か	活用についての知識を確認し、活用語の正しい運用を身につける。	配布した練習問題の回答とまとめ
	5	体言の種類と特質	体言についての知識を確認し、その正しい運用を身につける。	配布した練習問題の回答とまとめ
	6	日本語と主語	「は」と「が」の違いや、日本語の主語の特質について総合的に解説する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	7	用言の特質と運用	動詞・形容詞・助動詞など、用言の特質とその運用について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	8	助詞について	助詞の種類と特質、その運用について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	9	自動詞と他動詞	自動詞と他動詞の違いについて明確に把握する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	10	陳述(呼応)について	陳述の種類と特質について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	11	敬語の運用1	敬語の種類と特質、その運用について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	12	敬語の運用2	敬語の種類と特質、その運用について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	13	「ら」ぬき言葉と「さ」入れ言葉	「ら」ぬき言葉と「さ」入れ言葉について認識する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	14	送り仮名・仮名遣いについて	送り仮名・仮名遣いなどの日本語表記について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	15	総合評価授業	授業全体のまとめをおこない、総合問題を解く。	総まとめ

関連科目	日本語学論をはじめとする一連の日本語学関連の講義。および、日本語教育に関連する科目。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	総合評価授業での総合問題、および練習問題・レポート等を総合して評価する。テスト70%、その他30%。
----------	--

学生へのメッセージ	ここで学んだことを実際に使ってみることを心がけてください。またそれが可能となる講義を目指します。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。
----	------------------------------------

科目名	日本語教育実習演習	科目名(英文)	Japanese Teaching Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	DP1○DP2△DP5△		

授業概要・目的	外国人日本語学習者に実際に日本語を教えるために、具体的な日本語教授法について講義と実習を行います。初級・中級・上級の各コースにおいて、目的や対象などによって指導案及び教材を作成する方法を学び、教育実習期間には本学の外国人留学生を対象に受講者全員が日本語の授業を試みます。
到達目標	*日本語授業を行うための教案および教材作成ができる。 *外国人留学生を対象にした教育実習で日本語の指導ができる。
授業方法と留意点	授業では、講義に加えディスカッション、テキスト・教材分析、教案・教材作成等の作業、授業観察、模擬授業など、日本語を教えるために、より実践的に授業を行います。この科目を受講するには、必要単位数を取得しておかなければならないので、受講前に各自確認してください。
科目学習の効果(資格)	本学の日本語教師養成課程の修了証

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	外国人学習者の学習段階(初級・中級・上級レベル)について、実習運営について	配布資料 熟読
2	日本語教師の役割	日本語教師に求められるもの	日本語教育関連資料収集
3	コースデザイン	コースデザインの方法、学習者別のコースデザイン	日本語教育関連資料収集
4	テキスト・教材分析①	初級のテキスト・教材分析	担当のテキスト分析
5	テキスト・教材分析②	中上級のテキスト・教材分析	レジュメ作成、発表準備
6	発表	各自レジュメに沿って発表	教科書 熟読
7	初級レベルの指導①	指導の実際、教案の書き方	教科書 熟読
8	初級レベルの指導②	指導の実際	教科書 熟読
9	初級レベルの指導③	指導の実際	教科書 熟読
10	初級レベルの指導④	日本語の授業観察	初級のテキスト分析、発表準備
11	初級レベルの指導⑤	日本語の授業観察	課題レポート作成
12	初級レベルの指導⑥	教室活動例、副教材、指導方法の考察	教材、教案作成
13	初級レベルの指導⑦	教室活動例、副教材、指導方法の考察	教材、教案作成、発表準備
14	模擬授業	グループ発表、ディスカッション	発表準備
15	模擬授業	グループ発表、ディスカッション	課題レポート作成
16	中級レベルの指導①	中級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	中級レベルの教材作成、発表準備
17	中級レベルの指導②	中級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	中級レベルの教材作成、発表準備
18	上級レベルの指導①	上級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	上級レベルの教材作成、発表準備、
19	上級レベルの指導②	上級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	上級レベルの教材作成、発表準備、
20	指導方法について発表	発表、ディスカッション	配布資料 熟読
21	日本語授業の実際(1)	授業観察	授業観察レポート作成
22	日本語授業の実際(2)	授業観察	授業観察レポート作成
23	日本語授業の実際(3)	授業観察	授業観察レポート作成
24	日本語授業の実際(4)	授業観察	授業観察レポート作成
25	実習準備(1)	日本語教育実習実施概要と留意点、	グループごとに課題
26	実習準備(2)	実習生及び外国人留学生とのグループディスカッション	グループごとに課題
27	教育実習(実習週)	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、指導教員による個別指導	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、
28	教育実習(実習週)	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、指導教員による個別指導	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、
29	実習の反省 自己評価	ディスカッション、発表	実習ノート作成、発表準備
30	作成教材発表、実習のまとめ	発表	実習ノート完成

関連科目 日本語教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、日本語学全般、英語科教育法、その他の「日本語教員養成課程」配当の科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みんなの日本語初級Ⅰ 教え方の手引き		スリーエーネットワーク
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての日本語教育2		アスク
2				
3				

評価方法(基準) 授業におけるタスク達成度・討論・発表(30%)、作成した教案・教材や実習ノート(60%)、実習中の取り組み(10%)から総合的に評価します。

学生への メッセージ	外国人留学生に実際に日本語を教えることは貴重な経験になります。 特に本学では、学内で教育実習ができる恵まれた環境で日本語教育について学べます。このチャンスを最大限生かして、多くのことを学んでください。(事前・事後学習 1.5 時間ずつ)
担当者の 研究室等	7 号館 4 階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語教授法 I	科目名 (英文)	Japanese Teaching Methodology I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	「日本語教授法 I・II・III」の中で、本授業では、外国語教授法、教科書・教材論、コースデザイン、日本語の文字・語彙・文法とその指導方法など、外国語としての日本語教育について広く概観する。
到達目標	教科書の前半内容に関する知識を習得する。

授業方法と留意点	授業は、講義の他にグループディスカッション、DVD 視聴、課題、発表も含まれる。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。「日本語教授法 II・III」の先行科目。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日本語教育と外国語教育	日本語教育と国語教育、日本語教育と英語教育	教科書第 1 章第 2 節
3	日本語教育の歴史	時代区分別の日本語教育史	教科書第 2 章第 1 節
4	外国語教授法 (1)	外国語教授法の理論と実践	DVD を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成
5	外国語教授法 (2)	外国語教授法の理論と実践	DVD を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成
6	外国語教授法 (3)	外国語教授法の理論と実践	教授法理論のレポート作成、教科書第 2 章第 2 節
7	コースデザイン	コースデザイン、シラバスデザイン、ニューズアナリシス、評価	教科書及びその他資料による課題
8	日本語教育の目標	レベル別目標、日本語能力試験の目標	教科書及びその他資料の課題
9	教材・教具 (1)	日本語教育の教科書	課題 (教科書分析)
10	教材・教具 (2)	日本語教育の教材・教具	課題 (教材分析)、教科書第 3 章第 1 節
11	日本語学の基礎知識：文法	日本語教育のための日本語文法とその指導方法	教科書第 3 章第 2 節
12	日本語学の基礎知識：語彙	日本語の語彙の特徴、語彙の指導方法	教科書第 3 章第 3 節
13	日本語学の基礎知識：文字	文字の種類と指導方法	教科書第 3 章第 4 節
14	外国人学習者の日本語	外国人学習者との接触場面における学習者の日本語観察	教科書及びその他資料の課題
15	総復習・確認テスト	教科書の内容についての理解度確認	総復習

関連科目	日本語教授法 II・III、日本語学全般、日本語教育実習、その他の「日本語教員養成課程 (副専攻相当)」配当の選択科目
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	テスト (60%)、課題及びレポート (30%)、授業への参加度 (10%) により総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	外国人を対象に外国語として日本語を教える面白さを皆で共有したいと思います。(事前・事後学習 4 時間ずつ)
-----------	---

担当者の研究室等	
----------	--

備考	
----	--

科目名	日本語教授法Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Teaching Methodology II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤 多恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	日本語を教える上で基礎となる「視点」と「分析力」を身に付けることを目的としている。 授業前半では、講義とディスカッションを通して日本語学習者への理解を深め、非母語話者が使う日本語を客観的に捉える訓練を行う。そして授業後半では、日本語の初級段階の学習項目を取り上げ、基礎知識を増やしつつ主体的に分析できるような講義・活動を行う。
到達目標	*日本語学習者の視点で、客観的に日本語を捉えられるようになる。 *非母語話者が使う多様な日本語に慣れ、それらに柔軟に対応できるようになる。 *日本語の基礎文法の知識と分析力を身に付ける。 *他者との対話を通して思考を深め、自分なりの答えを見出すことができるようになる。
授業方法と留意点	本授業は講義のほか、議論や発表など学生主体の活動もある。学生はそれらの活動を通して、思考を深めたり自分の考えを表現したりすることが求められる。授業への積極的な参加を期待する。
科目学習の効果(資格)	日本語教員養成副専攻必須科目の一つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。 日本語教育への関心について話す。	シラバスを読んでおく。 自分の日本語教育への関心について他の人に話せるように考えておく。
2	「ことばを教える」ということ 非母語話者にとっての日本語	「ことばを教える」とはどのようなことか、ディスカッションを通して考える。 非母語話者にとって日本語はどのような言語かについて理解を深める。	授業内容について、自分の考えをまとめておく
3	「日本語学習者」を知る 「わかりやすい日本語」とは	「日本語学習者」への理解を深める。 「わかりやすい日本語」とは何か、講義とディスカッションを通して考える。	「わかりやすい日本語」について課題を通して振り返る。
4	日本語学習者の日本語1	特に発音に注目する。	自分の日本語の発音について予習する。
5	日本語学習者の日本語2	特に語彙に注目する。	日本語の語彙の品詞分類とその機能について予習する。
6	日本語学習者の日本語3	特に文構造に注目する。	日本語の文構造について予習する。
7	日本語学習者の日本語4	特に文体・談話に注目する。	日本語の文体について予習する。 第1～7回の授業を振り返り、自分の学んだことをレポートにまとめる。
8	「日本語ができるようになる」とは 日本語教育における学習項目	中間レポート提出 日本語の初級・中級の教科書をもとに、学習項目とその配列の関係について考える。	日本語の初級教科書をよく読んで復習する。
9	日本語の基礎文法1	名詞に関係すること 形容詞に関係すること1	「日本語の基礎文法1」の発表者はその準備をする。 復習プリントをする。
10	日本語の基礎文法2	形容詞に関係すること2 動詞に関係すること1	「日本語の基礎文法2」の発表者はその準備をする。 復習プリントをする。
11	日本語の基礎文法3	動詞に関係すること2	「日本語の基礎文法3」の発表者はその準備をする。 復習プリントをする。
12	日本語の基礎文法4	動詞に関係すること3 文型について1	「日本語の基礎文法4」の発表者はその準備をする。 復習プリントをする。
13	日本語の基礎文法5	文型について2	「日本語の基礎文法5」の発表者はその準備をする。 復習プリントをする。
14	日本語の基礎文法6	他者との関わり・視点について考える。	「日本語の基礎文法6」の発表者はその準備をする。 復習プリントをする。
15	総括・確認	自分の学びを振り返る。 学習事項の確認として試験を行う。	この授業を通して学んだことについて振り返る。 復習プリントを中心にこれまでの学習した内容を復習する。

関連科目	日本語教授法Ⅰ&Ⅱ、日本語学、日本語教育実習等
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター	東海大学出版会
	2	新装版 基礎日本語文法教本 英語版	西口光一	アルク
	3	みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ 翻訳・文法解説書	スリーエーネットワーク	スリーエーネットワーク

評価方法(基準)	授業への参加態度、課題達成度、中間レポート、期末試験などを総合的に評価する。 参加態度10%、課題提出20%、発表20% 中間レポート20%、期末試験30%
----------	---

学生へのメッセージ	この授業では、日本語を母語としない人の様々な日本語を紹介します。多様な言語・文化背景をもった人の日本語に触れ、今までとは違った視点から日本語をとらえられるようになってほしいと思います。また、この授業を通して、人と対話することの楽しさを味わってもらいたいと思います。
-----------	--

担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 質問・相談は授業前または授業後に対応する。メールでも可。 授業の内容に関する課題は必ず行うこと。

科目名	日本語教授法Ⅲ	科目名(英文)	Japanese Teaching Methodology III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	日本語を教えるときに必要となる基礎的知識・技能を身につける。			
到達目標	日本語教育学・日本語学・外国語教授法の理論と実践について基礎的な知識を得ることができる。			
授業方法と留意点	授業は、講義の他にグループディスカッション、DVD視聴、課題、発表も含まれる。事前に必ず教科書の内容を読んでくること。			
科目学習の効果(資格)	「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	教科書第4章第1節及び課題
	2	読むことに焦点を当てた指導の理論と実践(1)	講義、ディスカッション、その他課題	教科書第4章第1節及び課題
	3	読むことに焦点を当てた指導の理論と実践(2)	講義、ディスカッション、その他課題	教科書第4章第1、2節及び課題
	4	聞くことに焦点を当てた指導の理論と実践(1)	講義、ディスカッション、その他課題	教科書第4章第2節及び課題
	5	聞くことに焦点を当てた指導の理論と実践(2)	講義、ディスカッション、その他課題	教科書第4章第2、3節及び課題
	6	話すことに焦点を当てた指導の理論と実践(1)	講義、ディスカッション、その他課題	教科書第4章第3節及び課題
	7	日本語授業の実際	講義、観察、ディスカッション、その他課題	資料による課題
	8	話すことに焦点を当てた指導の理論と実践(2)	講義、ディスカッション、その他課題	教科書第4章第3、4節及び課題
	9	書くことに焦点を当てた指導の理論と実践(1)	講義、ディスカッション、その他課題	教科書第4章第4節及び課題
	10	書くことに焦点を当てた指導の理論と実践(2)	講義、ディスカッション、その他課題	教科書第4章第4、5節及び課題
	11	日本事情に焦点を当てた指導の理論と実践	講義、ディスカッション、その他課題	教科書第4章第5節、第5章第1節及び課題
	12	学習者の異文化体験	講義、ディスカッション、その他課題	教科書第5章第1、2節レポート
	13	留学生が経験する現実の接触場面	講義、ディスカッション、その他課題	教科書第5章第2、3節レポート
	14	日本語学習者の情意要因	講義、ディスカッション、その他課題	教科書第5章第3節及び総復習
	15	総復習・確認テスト	教科書の内容についての理解度確認	総復習
関連科目	日本語教授法Ⅰ、日本語教授法Ⅱ、日本語学、日本語教育実習、その他の選択科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	テスト(60%)、課題及びレポート(30%)、授業への参加度(10%)により総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	前期に学んだ日本語教育や日本語に関する知識をもとに、自分自身の外国語学習経験も振り返りながら、外国人にとって分かりやすく楽しい日本語の教え方について共に考えましょう。また、今後日本語教育に関わるに当たって大切なことは何か考えましょう。(事前・事後学習4時間ずつ)			
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)			
備考				

科目名	日本語語彙論	科目名(英文)	Japanese Lexicology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川 豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	一連の日本語学関連の科目のうち、ここではとくに日本語の語彙の成り立ちを中心に、その他、語法や文章表現なども含めて、幅広く日本語についての知識や運用力を高めることを目標とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙を中心とした日本語にかかわる基礎的知識を身につける。 ・頻出する語彙の正確な理解、語彙の成り立ちに関する知識、その文章への応用などについての実力を養成する。 ・就職試験や社会活動に利する、実践的な語彙力を養う。 ・検定試験に臨むための基本的力を養成する。 ・日本語教師を目指す人にとっても役立つよう心掛ける。
授業方法と留意点	プリント・講義ノートに基づいてすすめる。就職試験や日本語検定試験にも対応できる力を養成することを目指して、講義以外に、多くの練習問題を実施していく。その訓練に耐えられるよう、心がけてほしい。
科目学習の効果(資格)	日本語検定試験を積極的に受験することを薦めます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	語彙と文法・単語の性質①	語彙と文法とが文の中でどうかかわり合っていくかについて考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	2	語彙と文法・単語の性質②	単語のもつ性質について様々な角度から考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	3	単語の種類①	単語のもつ意味や機能について分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	4	単語の種類②	単語のもつ意味や機能について分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	5	語構成①	単純語・合成語・複合語・造語法について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	6	語構成②	単純語・合成語・複合語・造語法について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	7	語彙の体系	類義語・対義語・語根について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	8	日本的語彙①	日本的語彙の特質について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	9	日本的語彙②	日本的語彙の特質について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	10	意味の変化	時代とともに変化する語彙の歴史について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	11	比喻	比喻的意味の種々相について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	12	慣用句	慣用句の成り立ちについて分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	13	文体的特徴	文体とは何か、日本文の構造から分析を加える。	配布した練習問題の回答とまとめ
	14	表記	送り仮名・仮名遣いなどの日本語表記について分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	15	総合評価授業	授業全体のまとめをおこない、総合問題を解く。	総まとめ

関連科目 国際教養論(言語)・日本語学Ⅰ～Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	総合評価授業での総合問題 60%、練習問題・レポート等 40%で評価する。
学生へのメッセージ	ここで学んだことを実際に使ってみることを心がけてください。またそれが可能となる講義を目指します。
担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室)
備考	事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。

科目名	日本語史概説	科目名(英文)	History of Japanese Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	<p>全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語史概説」では日本語の諸問題について歴史的に学ぶ。 日本語の歴史を知ることが、現在の日本語を考察することにつながる。日本語は、文献が残されている時代からでも、発音も文字も文法も、ずいぶん変化している。どう変化したのか、なぜ変化したのか、という視点で、古代を中心に各時代の日本語の変化を考察する。</p>
到達目標	日本語の文字、読み、言葉遣い、発音の特徴について、歴史的背景をもとに正確に説明することができる。
授業方法と留意点	板書および配布するプリントに沿って講義する。講義の後、コメントを求めたり、課題を出したりする。
科目学習の効果(資格)	日本語の歴史の理解を通して、言葉に対する関心、理解が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	—————
2	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史1 漢字の受容	時代区分を覚える
3	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史2 ひらがなの成立	万葉仮名について整理する
4	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史3 カタカナの成立	ひらがなの成立について整理する
5	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史4 様々な文体 縦書き横書き混用の背景	カタカナの成立について整理する
6	《確認小テスト》 行列と行進	音読みについて学ぶ	文体についてまとめる
7	生きる・生まれる・生える	訓読みについて学ぶ	音読みについて整理する
8	たかが方言 されど方言	標準語と方言1 標準語の成立	訓読みについて整理する
9	たかが方言 されど方言	標準語と方言2 方言の分布・文法	標準語についてまとめる
10	たかが方言 されど方言	標準語と方言3 方言の拡大と現代語	方言の分布について整理する
11	わたしだ・わしじゃ・わたくしですわ	様々な言葉遣いについて	方言の特徴を調べる
12	《確認小テスト》 「はひふへほ」と「ばびぶべぼ」	発音の変化1 古代の発音	言葉遣いについて考察する
13	「はひふへほ」と「ばびぶべぼ」	発音の変化2 変化の様子	古代の発音を整理する
14	恋・愛・恋愛	翻訳語について考える	発音の変化を整理する
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う	これまでの復習

関連科目 日本語音韻論(日本語学Ⅱ)、日本語語彙論(日本語学Ⅲ)、日本語文法論(日本語学Ⅳ)、ことばに関する授業すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 最終確認テスト(60%)、確認小テスト(10%)、毎回の講義時の課題(30%)。最終週の《最終確認テスト》の受験を必須とする。

学生へのメッセージ 日本語の歴史を知ること、現代の日本語の新たな一面が見えてくるはずです。

担当者の研究室等 7号館4階(橋本研究室)

備考 事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。

科目名	日本語表現論	科目名(英文)	Japanese Phraseology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	<p>※2015年以降入学生には、この科目は、外国語専門職プログラム対応科目です。 我々は日本語を用いて、何をどのように表現しているのだろうか、そして表現できるのだろうか。 この授業では、日本人が日本語を用いて、どのように表現してきたのか、そしてどのような表現が可能なのかを、様々な事例を通して考える。 それによって、言語に対する感覚を研ぎ澄まし、言葉にこだわる人間になることを目指す。</p> <p>この授業は、レポートなどに必要な「正しい」日本語を書く技能を身につける授業ではありません。日本語と格闘する授業です。</p>																																																																		
到達目標	日本語表現の特徴について、具体的に説明できる。 日本語表現を客観的にとらえ、他の言語とも比較しつつ、多様な視点から考えることができる。																																																																		
授業方法と留意点	皆さんの意見も聞きながら講義を進行します。 毎回、コメントを求め、課題が出ます。 全部で3節からなります。各節の最後にまとめのテストをします。																																																																		
科目学習の 効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入</td> <td>日本語はどのような言語か 多様な視点から考える</td> <td>授業の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>世界の中の日本語</td> <td>日本語は特殊な言語なのか考える</td> <td>授業の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語の構造</td> <td>日本語の構造を考える</td> <td>授業の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1.言葉にこだわる 1-1.辞書の比較</td> <td>複数の辞書を用いて、日常使用する言葉 について考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1-2.日本語のレトリック</td> <td>様々なレトリックを学ぶ</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1-3.日本語のオノマトペ</td> <td>日本語におけるオノマトペの果たす役 割を考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1-4.まとめ</td> <td>第1節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>第1節の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>2.詩文の日本語 2-1.和歌に見る語感</td> <td>和歌を例に、日本語の表現法を知る</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>2-2.俳句に見る語感</td> <td>俳句を例に、日本語の表現法を知る</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>2-3.詩の語感</td> <td>詩を例に、日本語の表現法を知る</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>2-4.まとめ</td> <td>第2節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>第2節の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>3.日本語表現を見直す 3-1.一人称と三人称</td> <td>小説を例に、人称表現について考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>3-2.現在形と過去形</td> <td>小説を例に、現在と過去の表現について 考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>3-3.多様な表現方法</td> <td>小説を例に、日本語表現の可能性・多様 性について考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>3-4.まとめ</td> <td>第3節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>第3節の内容を整理する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する	2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	授業の内容を整理する	3	日本語の構造	日本語の構造を考える	授業の内容を整理する	4	1.言葉にこだわる 1-1.辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉 について考える	指示する課題に取り組む	5	1-2.日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	指示する課題に取り組む	6	1-3.日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役 割を考える	指示する課題に取り組む	7	1-4.まとめ	第1節の内容をまとめる確認テスト	第1節の内容を整理する	8	2.詩文の日本語 2-1.和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む	9	2-2.俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む	10	2-3.詩の語感	詩を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む	11	2-4.まとめ	第2節の内容をまとめる確認テスト	第2節の内容を整理する	12	3.日本語表現を見直す 3-1.一人称と三人称	小説を例に、人称表現について考える	指示する課題に取り組む	13	3-2.現在形と過去形	小説を例に、現在と過去の表現について 考える	指示する課題に取り組む	14	3-3.多様な表現方法	小説を例に、日本語表現の可能性・多様 性について考える	指示する課題に取り組む	15	3-4.まとめ	第3節の内容をまとめる確認テスト	第3節の内容を整理する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する																																																																
2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	授業の内容を整理する																																																																
3	日本語の構造	日本語の構造を考える	授業の内容を整理する																																																																
4	1.言葉にこだわる 1-1.辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉 について考える	指示する課題に取り組む																																																																
5	1-2.日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	指示する課題に取り組む																																																																
6	1-3.日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役 割を考える	指示する課題に取り組む																																																																
7	1-4.まとめ	第1節の内容をまとめる確認テスト	第1節の内容を整理する																																																																
8	2.詩文の日本語 2-1.和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む																																																																
9	2-2.俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む																																																																
10	2-3.詩の語感	詩を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む																																																																
11	2-4.まとめ	第2節の内容をまとめる確認テスト	第2節の内容を整理する																																																																
12	3.日本語表現を見直す 3-1.一人称と三人称	小説を例に、人称表現について考える	指示する課題に取り組む																																																																
13	3-2.現在形と過去形	小説を例に、現在と過去の表現について 考える	指示する課題に取り組む																																																																
14	3-3.多様な表現方法	小説を例に、日本語表現の可能性・多様 性について考える	指示する課題に取り組む																																																																
15	3-4.まとめ	第3節の内容をまとめる確認テスト	第3節の内容を整理する																																																																
関連科目	外国語専門職プログラム対応科目 日本語史概論、日本語音韻論、日本語語彙論、日本語文法論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題(80%) 3回以上の提出を単位認定の条件とする。 まとめテスト(10%) 授業参加度(コメントなど)(10%)																																																																		
学生への メッセージ	言葉に敏感になろう																																																																		
担当者の 研究室等	7号館4階(橋本研究室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	日本語文法論	科目名(英文)	Japanese Grammar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川 豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	一連の日本語学関連の科目のうち、ここではとくに日本語の文法を中心に、その他文章表現技術や語彙力なども含めて、幅広く日本語についての知識や運用力を高めることを目的とする。 日本語力に自信がもてない大きな理由の一つには、「文法」に対する苦手意識があるものと思われる。語法や表現を正しく運用する基本に文法的知識は不可欠であり、逆に文法に強くなることによって日本語運用能力を一段と高めることができる。ここでは、長いあいだの「苦手意識」を払しょくし、これまでにない表現意欲を獲得することを目標に、わかりやすい講義と訓練をこころがけたいと思う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の文法を中心とした基礎的知識を身につける。 就職試験や検定試験に臨むための基本的力を養成する。 日本語教師を目指す人にも役立つことを目指す。
授業方法と留意点	プリント・講義ノートに基づいてすすめます。就職試験や日本語検定試験にも対応できる力を養成することを目指して、講義以外に、多くの練習問題を実施していきます。その訓練に耐えられるよう、心がけてください。
科目学習の効果(資格)	日本語検定試験を積極的に受験することを薦めます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	文法とは何か	文法を学ぶことの意義について、具体的な事例を挙げて解説する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	2	文法の歴史	文法はどのようにして見出されたのか、その歴史を解説する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	3	品詞とは何か	品詞についての実践的知識を得る。	配布した練習問題の回答とまとめ
	4	活用とは何か	活用についての知識を確認し、活用語の正しい運用を身につける。	配布した練習問題の回答とまとめ
	5	体言の種類と特質	体言についての知識を確認し、その正しい運用を身につける。	配布した練習問題の回答とまとめ
	6	日本語と主語	「は」と「が」の違いや、日本語の主語の特質について総合的に解説する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	7	用言の特質と運用	動詞・形容詞・助動詞など、用言の特質とその運用について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	8	助詞について	助詞の種類と特質、その運用について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	9	自動詞と他動詞	自動詞と他動詞の違いについて明確に把握する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	10	陳述(呼応)について	陳述の種類と特質について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	11	敬語の運用1	敬語の種類と特質、その運用について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	12	敬語の運用2	敬語の種類と特質、その運用について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	13	「ら」ぬき言葉と「さ」入れ言葉	「ら」ぬき言葉と「さ」入れ言葉について認識する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	14	送り仮名・仮名遣いについて	送り仮名・仮名遣いなどの日本語表記について習得する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	15	総合評価授業	授業全体のまとめをおこない、総合問題を解く。	総まとめ

関連科目 日本語彙論をはじめとする一連の日本語学関連の講義。および、日本語教育に関連する科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 総合評価授業での総合問題、および練習問題・レポート等を総合して評価する。テスト70%、その他30%。

学生へのメッセージ ここで学んだことを実際に使ってみることを心がけてください。またそれが可能となる講義を目指します。

担当者の研究室等 7号館4階(小川研究室)

備考 事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。

科目名	日本史学	科目名(英文)	Japanese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	板書により講義を進めますが、プリント・スライドも用います。
科目学習の効果(資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	復習
	2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	復習
	3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	復習
	4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	復習
	5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	復習
	6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	復習
	7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	復習
	8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	復習
	9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	復習
	10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	復習
	11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	復習
	12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	復習
	13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	復習
	14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	復習
	15	まとめ	論述試験を行います。講義の総括を行う。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義最終日に行う論述試験(持ち込み可)、講義中に課す小レポートなどをもとに総合的に評価します。論述試験を80%、課題などを20%とする。詳しくは講義第1回目に説明します。
----------	---

学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。
----	------------------------

科目名	日本と世界の出会い	科目名(英文)	Encounters between Japan and Foreign Cultures
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この科目は国際教養プログラム対応科目であり、グローバル社会と日本のつながりを歴史的に考えることを目的とする。具体的には16世紀の、鉄砲伝来とキリスト教伝来に象徴されるヨーロッパとの出会いを検討する。日本と欧米、両文化のファーストコンタクトを学ぶことは、中国やイスラム圏も含めたさらに広い世界の認識にもつながる。先行きの見えない現在だからこそ、グローバル化の原点にさかのぼって日本と世界の出会いを理解することが意味をもつ。
到達目標	学んだことを、結論・理由・具体例に分けて簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果(資格)	世界との出会いを知ると同時に、日本についての理解も深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって(1)	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。
2	歴史を学ぶにあたって(2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	歴史を学ぶにあたって(3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	それは16世紀に(1)	グローバル化が本格的に始まった時代	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	それは16世紀に(2)	日本とヨーロッパは似ていた	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	それは16世紀に(3)	接点は戦争と宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	戦争と出会い(1)	「西洋は進んでいて東洋は遅れている」という思い込み	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	戦争と出会い(2)	鉄砲に日本史を変えるほどの力はなかった	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	戦争と出会い(3)	飛び道具を憎んだ西洋騎士、飛び道具を愛した日本武士	同上の課題に加えて小レポート。
10	戦争と出会い(4)	鉄砲の起源は東洋	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	宗教と出会い(1)	キリスト教伝来の交流史	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	宗教と出会い(2)	ザビエルをアシストした日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	宗教と出会い(3)	西洋的教育機関に留学した最初の日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	宗教と出会い(4)	ザビエルを日本に運んだのは中国の船	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	宗教と出会い(5)	布教は慈善事業やファッションとも結びついてきた	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目	世界の宗教
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト(40点)、②レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点+α)。第3に60点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。
----------	---

学生へのメッセージ	日本と世界の出会いを歴史的に読み解いていくと、「すべては表裏一体」ということに気づきます。実は、このことは授業そのものにも当てはまります。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	コミュニケーションは基本的に毎回授業のレスポンス・ペーパーで行います。緊急の場合は非常勤講師控室(7号館2階)を訪ねてください。
----	--

科目名	日本の思想	科目名(英文)	Japanese Thought
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦, 橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義では、古代から現代までの日本の思想について様々な視角から考えていきます。具体的には、日本の神と信仰、陰陽道と平安貴族社会、戦後の社会と民衆思想、現代日本のシュルレアリスム、善悪のとらえ方などについて、説話、映画、アニメ、マンガなどを教材に用いて分析します。作品に対する理解だけでなく、時代的・思想的背景にも目を向けて考察します。
到達目標	時代や地域によって異なる思想や文化について多面的にとらえる力を身につけることを目標とします。また、日本の思想を理解し、自らの言葉で表現する力も養います。こうした訓練を通して「異文化理解」の基礎を涵養します。
授業方法と留意点	複数回をまたいだテーマを設定し、毎回、講師が教材を用意します。事前学習をしっかりと行い、取り扱う作品の概要について理解しておいてください。講義では学生からの意見や感想を交えて議論もします。最後にこれまでの講義の内容を踏まえた上でレポートを提出してもらいます。

科目学習の
効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	神話と社会	『まんが日本昔話』から神話の世界と前近代日本の社会について考える(担当:赤澤)	近畿地方の民間説話について、著書やWebを用いて調べておく。
3	神と人々	『まんが日本昔話』から神と民衆の関係について考える(担当:赤澤)	映画『陰陽師』の作品概要について、著書やWebを用いて調べておく。
4	日本における陰陽道の展開	映画『陰陽師』から日本における陰陽道の展開について考える(担当:赤澤)	安倍晴明について、著書やWebを用いて調べておく。
5	平安貴族社会と陰陽道	映画『陰陽師』から平安期の貴族社会における陰陽道の意義について考える(担当:赤澤)	『セクシーコマンドー外伝すごい!!よマサルさん』の作品概要について、著書やWebを用いて調べておく。
6	現代日本のシュルレアリスム1	『セクシーコマンドー外伝すごい!!よマサルさん』から現代日本のシュルレアリスムを考察する(担当:赤澤)	『モンモンモン』の作品概要について、著書やWebを用いて調べておく。
7	現代日本のシュルレアリスム2	『モンモンモン』から現代日本のシュルレアリスムを考察する(担当:赤澤)	『坂本ですが?』の作品概要について、著書やWebを用いて調べておく。
8	現代日本のシュルレアリスム3	『坂本ですが?』から現代日本のシュルレアリスムを考察する(担当:赤澤)	『今昔物語集』の作品概要について、著書やwebを用いて調べておく。
9	死生観	『マンガ日本の古典 今昔物語』から輪廻思想について考える(担当:橋本)	『デビルマン』の作品概要について、著書やwebを用いて調べておく。
10	霊魂1	『デビルマン』から日本人にとっての神と悪魔について考える(担当:橋本)	『妖怪ウォッチ』について、また日本の妖怪について、著書やwebを用いて調べておく。
11	霊魂2	『妖怪ウォッチ』他から妖怪の概念について考える(担当:橋本)	任侠とは何か、代表的な作品や人物について、著書やwebを用いて調べておく。
12	義理と人情1	『沓掛時次郎』他の映画から任侠の美学について考える(担当:橋本)	忠臣蔵とは何か、著書やwebを用いて調べておく。
13	義理と人情2	『忠臣蔵』から忠義について考える(担当:橋本)	『水戸黄門』『遠山の金さん』『暴れん坊将軍』の作品概要について、著書やwebを用いて調べておく。
14	義理と人情3	時代劇から義理と人情について考える(担当:橋本)	発表の準備をする。
15	まとめ	各自がレポートの内容について発表する(担当:橋本)	レポートをまとめておく

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) レポート80%(40%×2)、授業への参加度(毎回のコメントペーパー)20%

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7号館4階赤澤研究室・橋本研究室

備考

科目名	日本の歴史	科目名(英文)	Japanese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	板書により講義を進めますが、プリント・スライドも用います。
科目学習の効果(資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	復習
2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	復習
3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	復習
4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	復習
5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	復習
6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	復習
7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	復習
8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	復習
9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	復習
10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	復習
11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	復習
12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	復習
13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	復習
14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	復習
15	まとめ	論述試験を行います。講義の総括を行う。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	講義最終日に行う論述試験(持ち込み可)、講義中に課す小レポートなどをもとに総合的に評価します。論述試験を80%、課題などを20%とする。詳しくは講義第1回目に説明します。
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。

科目名	日本文学	科目名(英文)	Japanese Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川 豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	古代から現代にいたる日本文学の流れを具体的にたどり、自らの属する社会・文化の特質についての理解を深めることを目的とする。同時に、近代以降の作品の読解を通じて、作品を読む力、批評する力、論理的に書く力など、基礎的なリテラシーの養成に力点を置きたい。また、世界の文学との比較を通じて、国際社会において日本文化の特質を自らの言葉で明快に表現する力を養成することも目的の一つである。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> さまざまなテキストを読解し、その内容を論理的に把握する基本的な力を身につける。 古代から現代にいたる日本文学史の流れを説明する力を身につける。 日本文化についてその特質を自分なりに説明する力を養う。
授業方法と留意点	プリントにもとづく講義中心の授業。
科目学習の効果(資格)	各資格試験に臨むための前提となるリテラシーの基礎的養成。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	古代文学と神話の世界1	『古事記』の神話をもとに、古代の人々の想像力の特質を探索する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
2	古代文学と神話の世界2	引き続き『古事記』の神話世界を探索する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
3	平安文学とモノガタリ1	『竹取物語』や『源氏物語』をもとに、モノガタリとは何かについて考察する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
4	平安文学とモノガタリ2	引き続き、『竹取物語』や『源氏物語』をもとに、モノガタリとは何かについて考察する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
5	説話文学の世界	『今昔物語集』について解説する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
6	軍記物語の世界	『平家物語』について解説する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
7	中世の伝承文学1	御伽草子『鉢かぎ姫』について解説する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
8	中世の伝承文学2	大阪に伝わる中世の伝承をとりあげ、信仰と文学との関わりについて考察する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
9	江戸小説の世界1	近松門左衛門の作品をとりあげ、大阪の文学について認識を深める。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
10	江戸小説の世界2	江戸のユートピア小説とヨーロッパのそれとの比較考察	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
11	近代の文学1 太宰治	太宰治の短編作品を読む。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
12	近代の文学2 宮沢賢治	宮沢賢治の短編作品を読む。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
13	近代の文学3 江戸川乱歩	江戸川乱歩の短編作品を読む。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
14	現代の文学(吉本ばなな)	吉本ばななの短編作品を読む。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
15	総合確認テスト	授業内テストおよび解説	・ノート全体の整理と講義要点の総まとめ

関連科目	日本文化にかかわる諸科目。日本語教育にかかわる諸科目。
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	中間テストと最終日に実施する総合確認テストを中心として、他に授業時に回収したコメント、課題レポートなどを加え、総合的に評価する。中間・総合テスト70%、提出物30%。
----------	---

学生へのメッセージ	モノガタリや小説を読む楽しさを味わいつつ、日本語を適切に駆使する基本的な力を身につけてほしいと思います。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。
----	------------------------------------

科目名	博物館概論	科目名(英文)	Introduction to Museology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷 直樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ミュージアムは、日本では歴史博物館・美術館・文学館・記念館・動物園・水族館などの施設で、全国でおよそ5700館を数えることができます。かつて「博物館行き」という言葉は古くさいものの代名詞でしたが、今日、ミュージアム・博物館はその姿を大きく変えています。カラフルなシンボル展示、IT技術を駆使した映像展示、実物大の家を再現した体感型展示、様々な参加型プログラムなど、おしゃれで楽しめる施設へと変化しつつあります。またミュージアムグッズも図録だけでなく、Tシャツ・ぬいぐるみ・菓子などオリジナル商品を豊富に揃えている館が少なくありません。ミュージアム・博物館とは何か、これからどう変化していくのかを、その歴史や現状を学びながら考えていきましょう。
到達目標	美術館・博物館の種類・機能・社会的な役割を理解し、学芸員に必要な基礎的な知識を修得します。
授業方法と留意点	パワーポイント・ビデオなどを随時使用して、臨場感にあふれたビジュアルな講義にします。また教室内だけではなく、実際に新しい魅力的なミュージアム・博物館を見学します。現地見学の交通費や入館料は受講者負担になります。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ミュージアム・博物館とは何か	話題のミュージアム・博物館紹介。記憶に残る展覧会。資格取得の条件・諸注意。	旅先などで博物館や美術館の見学をする習慣をつけてください。
2	日本のミュージアム・博物館(1)	動物園ランキング(旭山動物園と天王寺動物園)、水族館ランキング(美ら海水族館と海遊館)	子どものころに行った動物園・水族館と、最近の動物園・水族館を比較してください。
3	日本のミュージアム・博物館(2)	美術館(近代美術館と現代美術館)、自然史系博物館(琵琶湖博物館と大阪市立自然史博物館)、歴史系博物館(大阪歴史博物館と大阪くらしの今昔館)	美術館の特別展をのぞいてみてください。
4	日本のミュージアム・博物館(3)	野外博物館(明治村、北海道開拓の村、四国村、おきなわ郷土村、まちぐるみ博物館)	町並み保存やまちおこしも野外博物館のヒントになります。
5	日本のミュージアム・博物館(4)	企業ミュージアム(月桂冠大倉記念館、横浜ラーメン博物館、インスタントラーメン発明記念館、くすりのまち道修町資料館、大学博物館など)。実際の博物館を見学します。詳細は講義の中で指示します。	近くにある企業ミュージアムを訪ねてください。
6	「博物館法」を読む	博物館の定義と種類。博物館法、博物館法施行規則、公立博物館に関する法律。博物館の機能、展示資料による分類、設置者による分類、制度による分類	「博物館法」は事前事後によく読んでください。
7	ミュージアム・博物館をつくる(1)	博物館構想の策定、資料の収集と保管、調査と研究、展示と学習	ミュージアム・博物館に行ったら、展覧会を見るだけでなく、どんな仕事をしているのかよく観察してください。
8	ミュージアム・博物館をつくる(2)	ミュージアム・博物館の設計、博物館の空間(エントランス、展示室、収蔵庫、学習室、ミュージアムショップ、レストラン、学芸員室、事務室、駐車場、動線計画、設備計画)。博物館のバックヤード見学は講義の中で指示します。	ミュージアム・博物館に行ったら、どんな部屋があるのか、案内図を確認してください。
9	ミュージアム・博物館の展示	常設展示の概要	ミュージアム・博物館の展示(とくに常設展示)を時間かけて見学してください。
10	博物館の展示	企画展示とは何か	最近話題になった特別展示を紹介しあい、一度は見学してください。
11	ミュージアム・博物館と生涯学習	こどもとミュージアム、高齢者とミュージアム、大学生とミュージアム、観光・まちづくりとミュージアム	地域社会におけるミュージアムの役割を考えてください。
12	ミュージアム・博物館の歴史	日本と世界のミュージアム・博物館ランキング。	友達どうして、これまでに見学した博物館の中で、面白かったミュージアムや展覧会を紹介しよう。
13	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。
14	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。
15	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。

関連科目	学芸員資格の必修科目とその他の関連科目。
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	定期試験(筆記)の成績(100%)で評価します。		
学生への メッセージ	ミュージアム・博物館に行ったことがないという人がいますが、それは間違いです。歴史資料館や美術館に行ったことがなくても、動物園や水族館には行ったことがあるはずで。実は、動物園も水族館も博物館なのです。これからのミュージアム・博物館は、知的な好奇心を満足させてくれる楽しいところを目指しています。このミュージアム・博物館を企画・運営している専門職員が学芸員です。少しでもミュージアムに興味があるなら、受講してください。学芸員資格を取るには、4年生で博物館実習を行う必要があります。		
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)		
備考	事前・事後に約4時間の学修時間を要する。		

科目名	博物館教育論	科目名(英文)	Museum as Learning Resources
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松永 和浩
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この授業では博物館において実施される教育活動について、様々な具体例を通じて体系的に学びます。それにより社会における博物館の意義・役割についての理解を深め、学芸員として、あるいは博物館と社会をつなぐサイエンス・インタープリターとして活動するために必要な知識を身につけることを目的としています。
到達目標	①学芸員として必要な博物館教育に関する基礎的知識を身につける。 ②博物館教育のプログラムの実践例について具体的に学ぶ。 ③実在の展示施設を素材として教育プログラムを企画する。
授業方法と留意点	まず、現代社会において博物館に期待される教育について概説します。次に、博物館で実際に行われている教育プログラムの具体例を紹介し(受講生による体験レポートによる紹介もあり)。最後に、実在の展示施設を見学し、サイエンス・インタープリターの立場でその施設を素材にした教育プログラムを企画して発表し、相互に議論を深めます。様々な博物館が取り組んでいる教育プログラムについて、受講者は見学・参加・情報収集に努めてください。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格認定のための必修科目となります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	博物館の使命	設置主体や社会から期待される博物館の使命について説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
3	常設展の意義と活用	博物館の基本となる常設展の意義とその活用方法について実例に基づき説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
4	特別展・企画展	博物館が開催する特別展・企画展の目的・運営・役割について実例に基づき説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
5	博物館と社会教育	博物館が開催するイベントにどのようなものがあるか実例に基づき紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。ワークシートなどを見つけたら集めるようにしておいてください。
6	社会教育の実例報告	受講生が参加した社会教育プログラムの内容について紹介します。	博物館で開催される社会教育プログラムに参加して、その内容をレポートにまとめておいてください。
7	大学博物館の教育	学生を抱える大学博物館ならではの教育活動について実例に基づき紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
8	学芸員養成	大学・博物館が担う学芸員養成の概要と実例について紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
9	サイエンス・インタープリターの役割	博物館と社会のつなぎ役として近年注目されているサイエンス・インタープリターの活動について、ゲストスピーカーを招いて紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
10	社会教育の実践例	担当者が所属する大阪大学適塾記念センターが取り組む社会教育の実例について紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
11	外部施設見学①	担当者が携わる適塾を見学し、現状と課題を探ります。	適塾の現状と課題と、これまで学習した各教育プログラムの特徴を整理してください。
12	外部施設見学②	担当者が携わる適塾を見学し、現状と課題を探ります。	適塾の現状と課題と、これまで学習した各教育プログラムの特徴を整理してください。
13	教育プログラムの企画①	適塾を素材とした教育プログラムを各自で企画します。	教育プログラムの企画のために、これまでの学習内容を復習してください。
14	教育プログラムの企画②	適塾を素材とした教育プログラムを各自で企画します。	教育プログラムの企画のために、これまでの学習内容を復習してください。
15	プレゼンと質疑応答	各自が企画した教育プログラムについて発表し、意見を交換します。	発表用の資料を作成してください。発表に対して出された意見を参考に、自身の企画を練り直してください。

関連科目 学芸員資格に必要な各科目。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) プレゼン・質疑 80%、提出物 20%

<p>学生への メッセージ</p>	<p>各博物館は近年、様々な教育プログラムに熱心に取り組んでいます。しかもそのプログラムには、マニュアルも正解もない場合がほとんどで、学芸員をはじめとする博物館スタッフ、サイエンス・インタープリターやボランティアの方々の創意工夫と努力によって支えられています。受講者は教育プログラムについて積極的に参加・見学・情報収集し、現状を知るようにしてください。そして将来的には、何らかの形で博物館を支える一員となってもらえたら幸いです。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>7号館2階 非常勤講師室</p>
<p>備考</p>	<p>外部施設見学は大阪市内で、12月中の土日いずれか1日、180分間(2コマ分)の予定で行います。 事前事後学習の総時間の目安は約60時間。</p>

科目名	博物館実習	科目名(英文)	Museum Management Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	谷 直樹, 赤澤 春彦, 岩間 香
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP5△		

授業概要・目的	博物館は展示物(歴史・美術・文学ほか)、設置母体(公立・民間)、目的(教育が主・研究が主・保存が主など)により、さまざまな種類のものがある。学芸員の仕事も館の性格により、多様で一概には規定できない。この授業では博物館・美術館の実際を知り、学芸員の仕事を理解するために、博物館を实地見学に出かける。また学内においては、博物館についての知識を深め、学芸員の作業の一部を体験する。
到達目標	博物館における作業の内容と意味を理解する。博物館において学芸員の仕事の一部を体験し理解する。
授業方法と留意点	本授業は(1)大学が課する実習、(2)実習館が課する館内実習の2種に分かれ、(1)はさらに①学内での前期の講義と作業、②学外での見学の2種に分かれる。(下記15回)また(2)の館内実習は、夏休みあるいは後期に行われる。いずれが欠けても単位取得は不可である。なお見学・実習には交通費や実費が必要である。 毎回、谷・赤澤の二名、または谷・岩間・赤澤の三名が担当する。

科目学習の効果(資格)	学芸員資格
-------------	-------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーション	年間スケジュールの確認 博物館実習の取り組み方実習館の配属	事前:出身地にある博物館を見ておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
2	拓本1	拓本の道具を作り、小さなもので練習する	事前:拓本について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
3	拓本2	近隣の神社や野外の石碑で拓本をとる練習をする。	事前:拓本の道具を作っておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
4	博物館の見学	見学及びレクチャー	事前:見学する館について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
5	美術品の扱い方1	掛け軸、陶磁器の扱い方、箱の納入の仕方を、実物を用いて学ぶ。	事前:掛け軸陶磁器の扱い方を調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
6	美術品の扱い方2	絵巻物、額縁の扱い方、箱の納入の仕方を、実物を用いて学ぶ。	事前:絵巻物などの扱い方を調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
7	美術館の見学	見学及びレクチャー	事前:見学館について調べておく(90分)	事後:レポートをまとめる(90分)
8	美術品の調査・整理	美術品の計測、撮影、資料カードの作成を実物を用いて行なう。	事前:美術品の計測について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
9	歴史資料の調査・整理	調査の方法、資料カードの様々な様式、資料の整理法を学ぶ。	事前:歴史資料について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
10	写真撮影の方法	美術写真・建築写真・記録写真の方法を、実例を見ながら学ぶ。	事前:建築写真について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
11	博物館の見学	見学及びレクチャー	事前:見学館について調べておく(90分)	事後:レポートをまとめる(90分)
12	博物館の教育・普及活動	各自でワークショップ、イベントの実例を収集し発表。パンフレット、ホームページの効果についても考える。	事前:博物館かお活動についてWEBで調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
13	展覧会の企画1	各自が具体的にテーマと場所を決めて展覧会を企画する。	事前:展覧会のテーマについて調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
14	展覧会の企画2	各自が具体的にテーマと場所を決めて展覧会を企画する。	事前:指摘された点を改善して企画書を作っておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
15	プレゼンテーションと講評 博物館・館内実習の指導	各自が企画した展覧会について発表し、講評を行なう。博物館ノートの配布と書き方の指導・諸注意	事前:レジメを作り発表の練習をしておく(90分)	事後:指摘された点を改善してレポートを作る(90分)

関連科目	学芸員資格の必修科目およびその他の関連科目
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	レポート(見学2回、展覧会企画)30% 実習博物館による評価50% 受講への参加態度20%
----------	---

学生へのメッセージ	各地の博物館に赴いて行なう実習は3~8日間程度です。期間中は実習に集中し、摂南大学の学生として恥ずかしくない行動をとってください。
-----------	---

担当者の研究室等	岩間・・・7号館5階(岩間研究室) 谷・・・7号館2階(非常勤講師室) 赤澤・・・7号館4階(赤澤研究室)
----------	---

備考	
----	--

科目名	博物館情報・メディア論	科目名(英文)	Museum Media Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中川 馨
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	現代社会では様々なかたちで映像メディアと接しているが、写真の歴史と表現を学ぶことにより、映像メディア登場以後の社会環境の変化について考察する。また写真をはじめとする視覚情報によって、人間の視覚認識はどのように変化したのか、現代の膨大な映像メディアによる情報との向き合い方についても考える。
到達目標	映像メディアと社会の関係を理解する。 映像メディアによる情報との向き合い方を身につける。 博物館における映像メディアの役割を理解する。
授業方法と留意点	講義中はスライドを使用する。提示する図は必要に応じてノートに描きとどめてもらいたい。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ものを見る行為について	映像情報との関わりについて 博物館と映像メディアについて	視覚について本やWEBで調べる
2	映像イメージの発見	光の像の投影について カメラオプスキュラの誕生	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる
3	カメラオプスキュラの活用	カメラオプスキュラによる近世絵画表現の変化について	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる
4	写真のはじまり	写真技術の誕生について	初期の写真技術について本やWEBで調べる
5	肖像写真の時代	肖像写真の役割と社会への影響について	歴史上の人物の肖像写真について本やWEBで調べる
6	初期の写真表現	写真黎明期の芸術写真表現について	19世紀の写真表現について本やWEBで調べる
7	都市の記録	写真による都市表象について	19世紀の写真について本やWEBで調べる
8	写真と絵画の交わり1	写真と西洋絵画における写実表現の関係 映像による視覚がどのように表現の変化をもたらしたかについて	近代絵画について本やWEBで調べる
9	写真と絵画の交わり2	日本の近代絵画への写真の影響について 主に花鳥画における表現の考察	日本の近代絵画について本やWEBで調べる
10	近代写真の確立	ストレートフォトグラフィを中心に近代写真表現について	ストレートフォトグラフィについて本やWEBで調べる
11	時代の記録	報道写真について 報道写真の社会的な影響を考える	報道写真について本やWEBで調べる
12	カラー写真の登場	カラー写真による表現の変化について	カラー写真について本やWEBで調べる
13	現代写真表現1	アメリカの現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やWEBで調べる
14	現代写真表現2	日本の現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やWEBで調べる
15	まとめ	写真の歴史や表現から、21世紀の写真メディアの在り方を考える 博物館における映像の役割を考える	写真について復習する

関連科目	博物館科目
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業参加度40%、期末レポート60%で評価する
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	板書を写すだけでなく、講義の内容をノートすること。
-----------	---------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室) 水曜10時～15時
----------	-------------------------

備考	
----	--

科目名	博物館資料保存論	科目名(英文)	Preservation of Museum Collections
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	博物館にとって資料はなくてはならないものです。資料がなければ博物館は成り立たないと言っても過言ではありません。したがって資料の収集、管理、保存は学芸員にとって最も重要な仕事の1つとなります。また、一口に「資料」といっても例えば考古、歴史、民俗など様々な種類があります。
到達目標	資料の種類、取り扱い方、整理・管理・保存・修復の方法などの基礎的な知識と技能を習得できる。
授業方法と留意点	基本的に座学ですが、教室での講義だけでなく、基礎的な技術を身につけたり、博物館を見学することも予定しています。学芸員資格を取得するための大事な講義です。したがって原則欠席は認めません。なお、初回の講義には必ず出席してください。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格の取得(必修科目)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
1	資料とは何か、資料保存とは何か	講義の進め方、自己紹介、博物館に関する話などをします。 資料の定義、種類について解説し、資料保存の基本的な考えについて講義します。	復習	
2	考古資料の保存(1)	埋蔵文化財、考古資料の保存方法について講義します。	復習	
3	考古資料の保存(2)	遺物の接合実習をします。	復習	
4	考古資料の保存(3)	遺物の接合の続きと実測をします。	復習	実測図を完成させ、次週までに提出する。
5	民俗資料の保存	民俗資料の保存の方法について講義します。	復習	
6	石造物の保存(1)	石造物の保存方法について講義し、実測とスケッチをします。	復習	
7	石造物の保存(2)	石造物の実測、スケッチの続きをします。	復習	実測図、スケッチを完成させ、次週までに提出する。
8	歴史資料の保存(1)	歴史資料の整理方法、保存方法について講義します。	復習	
9	歴史資料の保存(2)	古文書修復の実習をします。	復習	
10	歴史資料の保存(3)	和本の装丁の実習をします。	復習	
11	燻蒸とI P M	虫損から資料を守る燻蒸とI P M(総合的有害生物管理)という2つの方法を比較検討します。	復習	
12	資料保存の現実	博物館見学		3コマ分です。 日程は講義中に決めます。
13	資料保存の現実	博物館見学		3コマ分です。 日程は講義中に決めます。
14	資料保存の現実	博物館見学		3コマ分です。 日程は講義中に決めます。
15	まとめ	授業のまとめと筆記試験を行います(持ち込み不可)		今までのノートをまとめておく。

関連科目 他の学芸員課程の講義。日本史学、日本美術史、日本文化史。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 講義最終日に行う筆記試験(持ち込み不可)、受講中に課すレポート、実技試験をもとに評価します。
筆記試験(70%)、レポートと実技試験(30%)とします。

学生へのメッセージ 学芸員を目指す方にとって必須の科目です。単に知識を得るだけでなく、私の経験をもとに資料保存の現実について一緒に考えたり、また保存に関わる基礎的な技能を身につけましょう。積極的な姿勢を望みます。

担当者の研究室等 7号館4階(赤澤研究室)

備考 事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。
課外学習の日程は天候などの要件によって変更する場合があります。

科目名	博物館資料論	科目名(英文)	Museum Collection Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩間 香
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	博物館資料は博物館になくてはならないものである。本講義では、博物館資料の種類や特質、及び、その収集・整理・保管の理論や方法を具体的に講義する。美術、歴史、民俗、考古など博物館の多様な資料について、基礎的な知識を身に付けることが目的である。この授業では博物館資料が専門的な知識やデータの裏付けにより収集され展示されていることを学ぶことになる。これらの知識は博物館における仕事に不可欠であるほか、日本の文化を学んだり、美術品を鑑賞する上でも大変に役に立つ。
到達目標	多様な博物館資料に関する基礎的な知識を身につける。それらの特性を知り、保存上の注意についての基礎的な知識を身につける。博物館・美術館で実物に接して、その種類や特性が分かるようになる。
授業方法と留意点	毎回レジメを配布して、スライドを用いながら講義を進める。博物館・美術館における臨地講義も実施する。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格の取得(必修科目)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	博物館資料の種類	博物館資料にはどのような種類があるかを概説する。	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
2	絵画資料について	油絵、日本画、水彩画、パステル画などの絵画資料の種類と特性を解説する。	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
3	彫刻資料について	仏像、近代彫刻、インスタレーションなどの彫刻資料の素材、特性を解説する。	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
4	工芸資料について	陶磁、漆芸、染織、金工、ガラスなどの工芸資料の種類と特性を解説する。	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
5	民俗・民族資料について	民具、記録など民俗・民族資料の種類と特性を解説する。	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
6	歴史資料について	古文書、遺跡、遺物などの歴史資料を解説する。	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
7	考古資料について	発掘品、遺跡などの考古資料について解説する。	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
8	模型について	博物館における模型の種類と活用について解説する。	事前:WEBで博物館の模型の実例を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
9	映像について	博物館における映像資料の種類と活用について解説する。	事前:WEBで博物館の映像資料の実例を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
10	資料の収集	博物館のコレクションの成り立ちについて解説する。	事前:WEBで博物館の収集方法について調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
11	資料の分類・整理	博物館における資料の分類と整理の方法を解説する。	事前:WEBで博物館の資料の分類について調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
12	資料の活用	目録の作成、資料の貸出し、特別利用など多様な資料活用について解説する。	事前:WEBで博物館資料活用について調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
13	資料の公開	出版やインターネットを介しての資料公開について解説する。	事前:WEBで博物館の資料公開について調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
14	博物館見学	博物館資料の展示・収蔵について実地に見学する。	事前:WEBで見学先の博物館について調べる。 事後:レポートをまとめる。
15	博物館見学	博物館資料の展示・収蔵について実地に見学する。	事前:WEBで見学先の博物館について調べる。 事後:レポートをまとめる。

関連科目	博物館科目
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験 80% レポート 20% 受講態度を加味する。
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	各地にさまざまな博物館があります。できるだけ多くの博物館に行き、実際に展示された資料を見てください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階(岩間研究室)
----------	--------------

備考	予習復習に毎週4時間ほどを目安とします。
----	----------------------

科目名	パッケージプログラム演習	科目名(英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	塩崎 裕司, 沖中 美喜
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP5△		

授業概要・目的	<p>本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。</p> <p>※なお、この科目は、「観光ホスピタリティ」プログラムの対応科目である。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受信能力を身につける。 課題のポイントをつかみ、分担する担当業務を果たす責任感、担当者間のチームワークや課題発表能力の向上を図ることで、企業説明会で主流となっているグループ面談で主導的役割を果たす力を身につけることを目標とする。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 観光ホスピタリティ演習では、参加者を少人数のチームに分け、選ばれたテーマについて議論、報告資料作成を経て発表する。ひとつのテーマに3時間程度をかけて実施、1セメスターで4つ程度のテーマを選定する。 1つのテーマについて、1回目は持ち寄った資料について議論、発表の方向性を決める。2回目は発表資料の作成。3回目はチーム毎の発表と質疑応答。テーマごとに役割分担を代え、履修者各々が能力を伸ばせるようにする。 																
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 観光ホスピタリティ演習ではこれまで学んできた観光、航空、旅行、宿泊産業等にかかわるテーマを選定し、演習参加者で議論して報告資料を作成し発表する。</p> <p>前年度のテーマ選定例（下記から3つ選定、本年度は別途提示）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①航空は新幹線にどう対抗すべきか。北陸新幹線を例に考える。 ②関空・伊丹は運営権売却で将来どう変貌するか。 ③ホテルの成功例、失敗例などを調査して、集客力のあるホテルにするための条件を考察する。 ④国際航空貨物の将来性は。 ⑤海外と日本のホスピタリティの違いを考える。 ⑥魅力ある旅行計画の作成。 <p>4回目は下記から選択したテーマについて賛成・反対の立場から発表、議論する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑦民泊の是非、日本に民泊は根付くのだろうか。 ⑧IR法案、日本にカジノは必要か。 <p>【事前・事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。</p> <p>【事前・事後学習時間】 総時間数は30h</p>																
関連科目	海外実習、体験型特別実習A、体験型特別実習B など。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業への取り組み(40%)、プレゼンテーション(60%)をもとに評価する。</p> <p>特にグループ討論や作業が中心のため、授業参加意欲を重視する。</p> <p>議論の積極性、チームのまとまりや発表能力等も考慮して評価する。</p>																
学生へのメッセージ	<p>興味ある課題について、知りたいことや疑問点などを自分で調べて研究し、答えを見つけ出すのも大きな喜びです。</p> <p>常に問題意識を持って新聞やテレビニュースなどに接してください。本演習でのグループディスカッションやプレゼンテーションなどは就職活動にも役立ちます。</p> <p>パッケージプログラムの総仕上げとして、主体的、積極的に取組んでください。</p>																
担当者の研究室等	7号館4階(エアライン・ホスピタリティールーム)																
備考	プレゼンテーションに関するフィード・バックは発表時に実施します。																

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉 誠, 橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		

授業概要・目的	本演習は、これまでのパッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※この科目（クラス）は、「外国語専門職」プログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 教室内での調査、分析、発表（討論・プレゼン・レポート作成等）が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。</p> <p>【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。（総時間数 30h）</p>																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への取り組み（40%）、プレゼンテーションもしくはレポート（60%）をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7号館4階（橋本研究室） 7号館4階（住吉研究室）																		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹, 岩間 香
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目 (クラス) は、「メディアビジネス」プログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	授業には、メディア制作現場の見学やメディア制作のための取材活動が含まれる。これらには授業外の時間を利用することがある。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 パッケージプログラム科目を担当する教員への取材活動と在阪のテレビ局や映画文化館 (東映太秦映画村内) などの見学が主な課題である。また、取材によって得られた情報や映像をもとに映像編集も行う。</p> <p>【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。課題の内容は授業で指示する。(総時間数 30h)</p>																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み (40%)、プレゼンテーションもしくはレポート (60%) をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7号館3階 (中西研究室)																		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名(英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣, 天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP5△		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムにおけるこれまでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的とします。また、本演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指します。 ※なお、この科目(クラス)は、「国際ビジネス」プログラム対応科目です。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、研究発表・プレゼンテーションを通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につけることを目標とします。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査・分析、発表・議論などを重視し、学生が自発的かつ協動的に演習を行っていきます。 ・前半の第1～7回は、中島が担当し、調査や分析に基づく研究発表(プレゼンテーション)を中心に行います。 ・後半の第8～15回は、天野が担当し、経済小説についてビブリオバトル形式のプレゼンテーションを中心に行います。(第15回は中島も参加します) 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 各自が設定したテーマに基づいて、調査や分析を行い、その研究成果をプレゼンテーション形式で発表します。また、教室内での議論や質疑応答を通じて、そのテーマに関する理解を深めていきます。</p> <p>【事前学習課題】 研究テーマに関する調査、文献・資料の収集などを行います。</p> <p>【事後学習課題】 研究発表・プレゼンテーションのフィードバックを踏まえて、修正・改善策について考えてください。 ※なお、事前・事後学習の総時間数は30時間程度を目安とします。</p>																		
関連科目	海外インターンシップ、体験型特別実習B、卒業研究Ⅰ・Ⅱなど。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(必要に応じて指示します)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(必要に応じて指示します)			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	(必要に応じて指示します)																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(必要に応じて指示します)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(必要に応じて指示します)			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	(必要に応じて指示します)																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	中島担当分50%(研究発表40%+授業への取り組み10%)と、天野担当分50%(プレゼンテーション40%+授業への取り組み10%)を合わせて評価します。 ※ただし、原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的かつ積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7号館4階(中島研究室)、7号館3階(天野研究室)																		
備考	研究発表・プレゼンテーションに関するフィードバックは、それぞれ実施後に行います。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟, 手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目（クラス）は、「国際貢献」プログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 教室内での調査、分析、発表（討論・プレゼン・レポート作成等）が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。</p> <p>【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。（総時間数 30h）</p>																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への取り組み（40%）、プレゼンテーションもしくはレポート（60%）をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7号館4階 田中研究室																		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子, 赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目 (クラス) は、「国際教養」プログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 教室内での調査、分析、発表 (討論・プレゼン・レポート作成等) が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。</p> <p>【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。(総時間数 30h)</p>																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み (40%)、プレゼンテーションもしくはレポート (60 %) をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7号館4階 (林田研究室)																		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。																		

科目名	ビジネス イングリッシュ a	科目名 (英文)	Business English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井原 駿
ディプロマポリシー (DP)	DP7○DP8◎		

授業概要・目的	国際キャリアコース4年次の学生を対象とする。グローバルにビジネスを展開している企業の内外において必要とされる英語の総合的なスキルを習得するために、以下のような内容について演習形式を通じて学習する。①対面および電話でのビジネス英会話を場面・状況別に具体例とともに実践的に学ぶ。②Eメールやビジネスレターについて、目的・状況別にその典型的なフォームと英語表現について実践形式で学ぶ。
到達目標	ビジネスに関する話題について、目的や場面、状況等に応じてCEFR-J [B1.1]レベルの英語を話し、書けるようになる。
授業方法と留意点	ロールプレイ、ペアワーク、グループワーク等の演習が主となる。十分な予習をして授業に臨み、演習に積極的に取り組むこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	挨拶と名刺交換	英語表現の実例を聞き、ロールプレイ演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
2	電話のやりとり	英語表現の実例を聞き、ロールプレイ演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
3	伝言を受ける、依頼する	英語表現の実例を聞き、ロールプレイ演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
4	丁寧な依頼をする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
5	不明点を問い合わせる	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
6	アポイントをとる	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
7	要求をする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
8	お詫びをする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
9	不在を知らせる	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
10	連絡事項の内容や理解を確認する	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
11	電子メールの添付書類について説明する	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
12	求人について問い合わせる	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
13	提案をする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
14	お別れをする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
15	総括	全体ディスカッション	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱

関連科目	リーディング IIIa, IIIb など
------	----------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	A Shorter Course in English for Business Communication	新田亜紀子	南雲堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法 (基準)	小テスト 40% 課題やレポートなどの提出物 30% 授業中の発表と取り組み姿勢 30%
-----------	--

学生へのメッセージ	慣れるまでは少し大変な内容かもしれませんが、日々少しずつ学習していきましょう。英語そのものだけでなく、ビジネスコミュニケーションの能力も学びます。英語が苦手であっても楽しめる授業にしますので、一緒に頑張りましょう。 連絡先: iharashun0@gmail.com
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤控室
----------	------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ビジネス イングリッシュ b	科目名 (英文)	Business English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井原 駿
ディプロマポリシー (DP)	DP7○DP8◎		

授業概要・目的	<p>際キャリアコース4年次の学生を対象とする。グローバルにビジネスを展開している企業の内外において必要とされる英語の総合的なスキルを習得するために、以下のような内容について演習形式を通じて学習する。①対面および電話でのビジネス英会話を場面・状況別に具体例とともに実践的に学ぶ。②Eメールやビジネスレターについて、目的・状況別にその典型的なフォームと英語表現について実践形式で学ぶ。</p>
到達目標	<p>ビジネスに関する話題について、目的や場面、状況等に応じてCEFR-J [B1.1]レベルの英語を話し、書けるようになる。</p>
授業方法と留意点	<p>ロールプレイ、ペアワーク、グループワーク等の演習が主となる。十分な予習をして授業に臨み、演習に積極的に取り組むこと。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>TOEIC, 英検等</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ビジネス英語と交渉術の概観	講義とディスカッション	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
2	アポイントとセールス	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
3	自己紹介、自社紹介	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
4	製品説明と交渉	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
5	希望、要望、提案を述べる	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
6	製品について質問、確認をする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
7	聞きにくいことを聞く、即答を避けたいことについて答える	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
8	賛成する、反対する	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
9	妥協案や代替案を示す	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
10	譲歩を求める、問題点を指摘する	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
11	価格と支払い条件を交渉する。	英語表現の実例を聞き、ロールプレイ演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
12	製品の数量、品質、保証について交渉する	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
13	英文契約書を書く	サンプルの読解	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
14	英文契約書を書く	作文演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱
15	総括	全体ディスカッション	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『ネゴシエーションの英語表現』(日経文庫 1163)	デイビッド・セイン/マーク・スプーン	日本経済新聞出版社 (830 円+税)
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法 (基準)	<p>小テスト 40% 課題やレポートなどの提出物 30% 授業中の発表と取り組み姿勢 30%</p>
学生へのメッセージ	<p>慣れるまでは少し大変な内容かもしれませんが、日々少しずつ学習していきましょう。英語そのものだけでなく、ビジネスコミュニケーションの能力も学びます。英語が苦手であっても楽しめる授業にしますので、一緒に頑張りましょう。 連絡先: iharashun0@gmail.com</p>
担当者の研究室等	<p>7号館2階非常勤控室</p>
備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>

科目名	ビジネスインドネシア・マレー語	科目名(英文)	Business Indonesian-Malay
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日常生活の中で初級的な会話が出来たことを前提にして、仕事や特にビジネス場面で使えるフォーマル単語や表現の使用を学修する。
到達目標	インドネシアのビジネスの語彙を始め、様々なビジネスの場面を学習、知識をつける。
授業方法と留意点	職場で自己紹介する始め、事務所や工場での会話を学習する。各場面や内容のフォーマル単語や表現を使って知識を高める。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語で基本的なビジネスの会話をやり取りできる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション。	授業の内容や授業の仕方について。	授業の内容確認。
2	自己紹介。	勤務先で自己紹介。	フォーマルの自己紹介を練習。 フォーマル単語や表現を学習。
3	会社で打ち合わせ。	部下のインドネシア人スタッフと打ち合わせする。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
4	秘書に仕事を頼む。	早急必要なデータを秘書に頼む。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
5	上司に報告する。	上司の質問に答える。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
6	客に自社を案内する。	クライアントに自社工場を案内する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
7	電話でレストランを予約する。	電話でレストランを予約する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
8	1回～7回まとめ(小テスト)。	復習・中間テスト。	1回から7回までに学んだことを再確認。
9	航空会社の職員に確認する。	予約したフライトの確認する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
10	工場を案内してもらう。	現地の有力工場を案内してもらう。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
11	意見交換。	宛先の政務と意見交換。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
12	研修会の司会。	現地法人の研修司会をする。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
13	メイトさんに指示する。	メイトさんに仕事の内容を指示する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
14	運転手と予定の確認する。	運転手に翌日の予定を伝える・確認する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
15	9回～14回の復習・テスト。	復習・テスト	9回から14回までに学んだことを再確認。

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス・生活で使えるインドネシア語ダイアログ	深尾 康夫・ディアーフサリ	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業の準備・授業中の活動 50% 復習テスト 50%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	日本～インドネシアのビジネスの専門用語やルールについてしっかり学んで知識を持つことは大切です。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外での質問や要望は、7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。
----	-----------------------------------

科目名	ビジネスインドネシア語	科目名(英文)	Indonesian for Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	日常生活の中で初級的な会話が出来たことを前提にして、仕事や特にビジネス場面で使えるフォーマル単語や表現の使用を学修する。
到達目標	インドネシアのビジネスの語彙を始め、様々なビジネスの場面を学習、知識をつける。
授業方法と留意点	職場で自己紹介する始め、事務所や工場での会話を学習する。各場面や内容のフォーマル単語や表現を使って知識を高める。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語で基本的なビジネスの会話をやり取りできる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション。	授業の内容や授業の仕方について。	授業の内容確認。
2	自己紹介。	勤務先で自己紹介。	フォーマルの自己紹介を練習。 フォーマル単語や表現を学習。
3	会社で打ち合わせ。	部下のインドネシア人スタッフと打ち合わせする。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
4	秘書に仕事を頼む。	早急必要なデータを秘書に頼む。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
5	上司に報告する。	上司の質問に答える。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
6	客に自社を案内する。	クライアントに自社工場を案内する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
7	電話でレストランを予約する。	電話でレストランを予約する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
8	1回～7回まとめ(小テスト)。	復習・中間テスト。	1回から7回までに学んだことを再確認。
9	航空会社の職員に確認する。	予約したフライトの確認する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
10	工場を案内してもらう。	現地の有力工場を案内してもらう。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
11	意見交換。	宛先の政務と意見交換。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
12	研修会の司会。	現地法人の研修司会をする。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
13	メイトさんに指示する。	メイトさんに仕事の内容を指示する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
14	運転手と予定の確認する。	運転手に翌日の予定を伝える・確認する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
15	9回～14回の復習・テスト。	復習・テスト	9回から14回までに学んだことを再確認。

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス・生活で使えるインドネシア語ダイアログ	深尾 康夫・ディアーフサリ	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業の準備・授業中の活動 50% 復習テスト 50%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	日本～インドネシアのビジネスの専門用語やルールについてしっかり学んで知識を持つことは大切です。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外での質問や要望は、7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。
----	-----------------------------------

科目名	ビジネスコミュニケーション論	科目名(英文)	Business Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○		

授業概要・目的	この科目は国際ビジネスプログラム対応科目である。 2年次に習得した「異文化ビジネス論」や「ビジネス心理学」などの知識を活かしながら、国際ビジネスの現場におけるコミュニケーションの特徴や注意点について考察する。また、必要に応じて、日本語と外国語の場合を比較・対象しながら、接客から交渉に至るまで様々なビジネスの現場・場面を想定して、客観的な観点から学んでいく。
到達目標	国際化に対応したビジネス実務の基礎知識の習得と、それぞれの場面に必要な日本文化・日本語に基づいた外国語能力の向上を目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、積極的に学ぶ姿勢が必要であり、第二に即戦力として学習内容を実践する意識を持つことを求める。
科目学習の効果(資格)	グローバル化した日本企業などのビジネス組織で行われている基本的なビジネス実務全般を理解し、国内外との対応に必要なコミュニケーション能力の必要性を理解し、その向上を図る。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・変化するビジネス組織 ・国際ビジネスの基本ーあいさつ ・イニシャルテスト	・事前学修：シラバスを熟読する。 ・事後学修：講義からグローバル社会に関してレポートを作成する。
2	パーティ文化	・名刺交換・席順 ・座席と服装、国の特徴 ・招待を受けた事例	・事前学修：公式なパーティとは何か、調べる。 ・事後学修：「パーティ文化」をノートにまとめる。
3	設営と慶弔含む贈答	・QUIZ①(第1回から第2回まで) ・日本文化における慶弔と贈答 ・主催者側としての設営	・事前学修：「慶弔」について調べる。 ・事後学修：「設営」手順を作成する。
4	会議等の設営	・会議の種類 ・会議に必要とされる書類 ・社内会議と社外会議	・事前学修：Minutes(議事録)例を翻訳する。 ・事後学修：社内会議の案内文を作成する。
5	ビジネス対応ー敬語	・常識としての敬語と礼儀正しい英語表現 ・QUIZ②(敬語表現)	・事前学修：「敬語」プリントをする。 ・事後学修：敬語表現を復習する。
6	ビジネス対応ー応対	・Expressions at Reception ・ロールプレイ	・事前学修：Expressions at Reception 1, 2 & 3のロールプレイを練習する。 ・事後学修：日本語、外国語での応対を練習する。
7	ビジネス対応ー電話	・Expression at Business Call ・ロールプレイ	・事前学修：・Expression at Business Call 1, 2 & 3のロールプレイを練習する。 ・事後学修：日本語、外国語での応対を練習する。
8	中間テスト	・中間テスト(正答率60%で合格)	・事前学修：第3回から7回までの復習をする。 ・事後学修：中間テストの解答を?確認し、復習する。
9	海外出張	・Y T T方式の理解 ・外国語による日程表の作成	・事前学修：San Franciscoに1週間の出張と考え、往復運賃、宿泊費等を調べてくる。 ・事後学修：外国語による日程表を作成する。
10	ビジネス文書 基礎編	・文書の基本理解と作成 ・数字の扱い方、英語の略語 ・ファイリング	・事前学修：「時候のあいさつとビジネス用語プリント」をする。 ・事後学修：社内文書と社会文書、英文レターを清書する。
11	ビジネス文書 応用編①	・社内文書と社会文書作成 ・英文ビジネスレターとメモ	・事前学修：提示された条件で、文書を作成する。 ・事後学修：授業中に指示のあった社内文書と社会文書、英文レターを清書する。
12	ビジネス文書 応用編②	・日本語と外国語による社交文書作成	・事前学修：ビジネス文書のルールを再確認する。 ・事後学修：授業中に指示のあった社内文書と社会文書、英文レターを清書する。
13	総合演習①	・QUIZ③(第10回から第12回まで) ・ロールプレイを含む課題演習①	・事前学修：ビジネス文書を書けるよう、練習しておく。 ・事後学修：課題演習①を再度確認する。
14	総合演習②	・ロールプレイを含む課題演習②	・事前学修：課題演習①を再度確認する。 ・事後学修：課題演習②を再度確認する。
15	まとめ	・コミュニケーションのあり方	・事前学修：課題演習②を再度確認する。 ・事後学修：第1回から第15回までの授業内容の理解を図る。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ENGLISH FOR BUSINESS COMMUNICATION	新田亜紀子	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務ワーク	石井三恵他	泉文堂
2	働く女性の英語術	光藤京子	The Japan Times	
3				

評価方法(基準)	ロールプレイならびにプレゼンテーション(20%)、小テスト/QUIZ(20%)、レポート(20%)、中間ならびに期末テスト(40%)を総合的に評価する。
----------	--

学生への メッセージ	グローバル化と言われ久しい日本の企業等のビジネス組織において、外国人労働者が積極的に採用・雇用される現実も出てきました。社内で英語で統一する日本企業も出現しており、対応可能な人材として外国語が使えるだけでなく、ビジネスの担い手としての常識がますます求められています。働く意識を高め、ビジネスの現場で必要とされる態度とコミュニケーションをしっかり学び、自信を深め、一歩先を歩いてほしいと願っています。
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。

科目名	ビジネス心理学	科目名(英文)	Business Psychology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	ビジネスやマーケティングに関連する心理について解説していきます。 この科目は「国際ビジネス」プログラム対応科目である。 現代社会におけるビジネスにおける心理と行動を解説していく。 ビジネスにおける消費者の心理と行動について科学的に理解することを目的とする。
到達目標	マーケティングの基礎概念および購買行動についての考察を通して、多面的に消費心理を捉える能力を養うことを目標とする。ビジネスに役立つ心理理論を学ぶことを目標とする。
授業方法と留意点	担当者が毎回パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。各自、ノートを取ることを。授業中に発言を求められることもある。第1回授業で授業ルールなどについて説明をするので必ず参加すること。 毎回授業内で小課題が出るので、回答すること。 アクティブ・ラーニングの要素を取り入れているので、積極的かつ主体的に課題に取り組むこと。
科目学習の効果(資格)	ビジネスにおける消費者の心理と行動を理解することができる。ビジネスに役立つ心理的手法を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・ビジネス心理の位置づけ	授業内容、授業方法について説明します。 消費者心理とは？	授業内容の復習
2	ビジネス心理と心理学	消費行動とは何か？購買行動と消費行動	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
3	ビジネス心理におけるブランド選択	商品選択と消費者心理	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
4	消費者の価値意識	ライフスタイルと商品選択	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
5	消費行動における個人内過程	消費者の非計画購買過程	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
6	消費者の価格判断	心的ものさしと商品の価格づけ	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
7	消費者間相互作用と購買意思決定	口コミによるマーケティング戦略	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
8	インターネットを利用した消費者間コミュニケーション	インターネットの利用により消費行動は変わるのか？	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
9	比較広告と消費行動	比較広告の効果と課題	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
10	広告媒体の種類と広告の効果	広告の内容分析とその効果	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
11	テレビ広告における内容分析とその効果	テレビ広告における内容分析と購買効果	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
12	悪質商法と消費者	悪質商法の手口と対策	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
13	企業のリスク・コミュニケーションと消費者	リスクを伝える工夫とリスク・マネジメント	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
14	サービスと消費者心理	接客サービスの効果と接客での問題点	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習
15	ビジネス心理と消費行動の今後	消費者はこれからどのような商品、サービスを選んでいくのか？	教科書該当箇所の予習 授業内容の復習

関連科目 「グローバルマーケティング論」と関連する。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	消費行動の社会心理学	竹村和久	北大路書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 毎回の授業内課題(上限10%)、定期テスト(90%)の割合で、総合的に判断する。

学生へのメッセージ 皆さんの身の回りのビジネスの中にもたくさんの心理的要素が隠されています。なぜあの商品を買ったのでしょうか？なぜ、そのサービスを選んだのでしょうか？値段だけでしょうか？消費者の心の動きについて、ビジネスの具体例を交えながら、解説していきます。
アクティブ・ラーニングを取り入れているので、主体的に活動すること。

担当者の研究室等 11号館7階(牧野(幸)准教授室)

備考 他人の迷惑となる行為(遅刻、私語、居眠り、内職、スマホ、携帯電話などの使用など)はすべて禁止とします。
事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。
このことを承知したうえで受講すること。
授業内の課題については、授業中に解説してフィードバックを行う。

科目名	ビジネス中国語 a	科目名 (英文)	Business Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	中国経済の発展に伴い、日中の経済的結びつきはますます強くなっている。このような状況の下、中国語を駆使するビジネスマンの役割はますます重要になっている。本学ではそのようなビジネス中国語の習得をを目指す学生のために、ビジネスに特化した中国語の講座を準備した。前期の授業は基礎知識、簡単な単語でのコミュニケーション、挨拶から質問のし方・答え方などビジネス場面で必要な会話を学ぶ。
到達目標	ビジネスシーンで使われる表現を通して、関連する語彙や初歩的な構文を習得する。
授業方法と留意点	この科目が必修科目であることに注意。また、授業の内容は1年生中国語専攻クラスの他の必修科目を履修していることを前提としている。ただし、他学部、他大学、社会人による単科目の受講は可能である。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス中国語検定試験受験など

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	中国経済の概況	改革開放前の計画経済体制から今日の市場経済体制への転換軌跡を説明し、中国の特色ある経済システムについて講義する。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第1課・第2課	発音(1)(2) ビジネス時に使う中国語の単語を材料にして発音や声調を学習する。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第3課前半	(1) 判断文 (2) 疑問文(1)「～?」 (3) 副詞「也」 (4) 姓名の表現	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第3課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第4課前半	(1) 動詞述語文 (2) 疑問詞による疑問文 (3) 語気助詞「?」 (4) 副詞「好好儿」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第4課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第5課前半	(1) 形容詞述語文 (2) 反復疑問文 (3) 介詞「?」 (4) 比較の表現「A 比 B～」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第5課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第6課前半	(1) 動詞「有」(～に～がある・いる) (2) 動詞「在」 (3) 助動詞「要」 (4) 助動詞「想」 (5) 介詞「从」と「到」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第6課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第7課前半	(1) 年月日の言い方 (2) 動詞+「一下儿」 (3) 介詞「和」 (4) 動詞「有」(～が～を持っている)	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第7課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第8課前半	総合復習チェックシート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第8課後半	教養としての中国語の基礎語の学習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	総復習	第3課から第8課までの総復習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	主言語・共通言語 1 年次中国語
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごと的小テストを行う。平常点 (授業に取り組む姿勢、小テスト、発音など) 50 パーセント 単元テスト 50 パーセント
-----------	--

学生へのメッセージ	必修科目ですからしっかり自覚をもって講義に臨んでください。テストの平均点が6割以上、出席回数が三分の二を越えて、はじめて単位が認定されます。一時限開講科目ですが、30分を越えた遅刻は欠席扱いとなりますので、いつも時間に余裕を持って出席してください。また、随時、始業と同時に復習テスト行います。遅刻、欠席の場合は受験できないのでご注意ください。
-----------	---

担当者の研究室等	中西研究室 (7号館3階)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	ビジネス中国語 b	科目名 (英文)	Business Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	後期の授業は、基礎となる文法、会社・組織についての表現、アポイントのとり方、社交の場での会話、商談など、ビジネス現場ですぐに活用できる表現や語彙力を学ぶ。
到達目標	前期に引き続き、ビジネスシーンで使われる表現を通して、関連する語彙や初歩的な構文を習得する。
授業方法と留意点	この科目が必修科目であることに注意。また、授業の内容は1年生中国語専攻クラスの他の必修科目を履修していることを前提としている。ただし、他学部、他大学、社会人による単科目の受講は可能である。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	スコア式ビジネス中国語検定試験受験など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第8課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第9課前半	1 助詞「之」の用法 2 介詞「根据」 3 文型「只有～才～」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第9課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第10課前半	1 助詞「&00083f7;」の用法 2 可能補語「～不了」 3 文型「既…又…」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第10課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第11課前半	1「記下来」(動詞+下来) 2「写进去」(動詞+进去) 3代詞「本」 4 介詞「	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第11課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第12課前半	1 文型「A是A」 2「為…起见」 3 接続詞「再说」の用法 4「做个市场调查」: 助数詞前の「一」の省略	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第12課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第13課前半	1 過意不去 2 介詞「本着」 3 一定, 一定 4 助動詞「該」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第13課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第14課前半	復習チェックシート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第14課後半	教養としての中国語の基礎語の学習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	総復習	第8課から第13課までを総復習する	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	主言語・共通言語 1 年次中国語
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごと的小テストを行う。平常点5割 単元テスト5割を基準とします。出席は10回以上していないと単位は認定されません。
-----------	---

学生へのメッセージ	必修科目ですからしっかり自覚をもって講義に臨んでください。テストの平均点が6割以上、出席回数が三分の二を越えて、はじめて単位が認定されます。一時限開講科目ですが、30分を越えた遅刻は欠席扱いとなりますので、いつも時間に余裕を持って出席してください。また、随時、始業と同時に復習テスト行います。遅刻、欠席の場合は受験できないのでご注意ください。
-----------	---

担当者の研究室等	中西研究室 (7号館3階)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
----	---

科目名	ビジュアルデザイン論	科目名 (英文)	Visual Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北村 元成
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目です。人間が外部から得る情報量の約8割が視覚によるものといわれています。ビジュアルは人や物、企業やサービスのイメージを大きく左右するものであり、適切に且つ魅力的にデザインされるべきものです。この授業では、広告を主なテーマとして、グラフィックデザインやブランドデザイン(キャラクター)について学びます。																																																																		
到達目標	ビジュアルデザインに関する基礎的な知識を得て、視覚的な表現に対する関心を高めると共に、流行や表現手法を読み解く力、そして表現力を高めることを目標とします。																																																																		
授業方法と留意点	この授業では講義に合わせて演習的な課題も行います。レポートや課題の発表等も予定しています。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要と進め方について</td> <td>デザイン関連書籍・雑誌を調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ビジュアルデザインのツボ</td> <td>視覚表現の仕組みやデザインの要点について</td> <td>デザイン関連書籍・雑誌を調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>広告1</td> <td>広告・広報について</td> <td>身近な広告事例を調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>広告2</td> <td>広告の事例について</td> <td>身近な広告事例を調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>広告3</td> <td>広告の要素について</td> <td>身近な広告事例を調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>広告4</td> <td>広告のワークフローと業界について</td> <td>レポート課題を進めておくこと</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ビジュアルデザインの歴史</td> <td>視覚表現の歴史について</td> <td>レポート課題を進めておくこと</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>フォント</td> <td>フォント(書体)について</td> <td>レポート課題を進めておくこと</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>広告の実践</td> <td>広告の実践的な事例解説</td> <td>提出内容を振り返っておくこと</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>キャラクターデザイン</td> <td>キャラクターデザインについて</td> <td>レポート課題を進めておくこと</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ブランドデザイン</td> <td>ブランドデザインについて</td> <td>レポート課題を進めておくこと</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>キャラクター制作1</td> <td>レポート発表</td> <td>制作課題を進めておくこと</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>キャラクター制作2</td> <td>制作のチェック</td> <td>制作課題を進めておくこと</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>キャラクター発表1</td> <td>制作の発表</td> <td>発表内容を振り返っておくこと</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>キャラクター発表2</td> <td>制作の発表</td> <td>発表内容を振り返っておくこと</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要と進め方について	デザイン関連書籍・雑誌を調べておくこと	2	ビジュアルデザインのツボ	視覚表現の仕組みやデザインの要点について	デザイン関連書籍・雑誌を調べておくこと	3	広告1	広告・広報について	身近な広告事例を調べておくこと	4	広告2	広告の事例について	身近な広告事例を調べておくこと	5	広告3	広告の要素について	身近な広告事例を調べておくこと	6	広告4	広告のワークフローと業界について	レポート課題を進めておくこと	7	ビジュアルデザインの歴史	視覚表現の歴史について	レポート課題を進めておくこと	8	フォント	フォント(書体)について	レポート課題を進めておくこと	9	広告の実践	広告の実践的な事例解説	提出内容を振り返っておくこと	10	キャラクターデザイン	キャラクターデザインについて	レポート課題を進めておくこと	11	ブランドデザイン	ブランドデザインについて	レポート課題を進めておくこと	12	キャラクター制作1	レポート発表	制作課題を進めておくこと	13	キャラクター制作2	制作のチェック	制作課題を進めておくこと	14	キャラクター発表1	制作の発表	発表内容を振り返っておくこと	15	キャラクター発表2	制作の発表	発表内容を振り返っておくこと
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要と進め方について	デザイン関連書籍・雑誌を調べておくこと																																																																
2	ビジュアルデザインのツボ	視覚表現の仕組みやデザインの要点について	デザイン関連書籍・雑誌を調べておくこと																																																																
3	広告1	広告・広報について	身近な広告事例を調べておくこと																																																																
4	広告2	広告の事例について	身近な広告事例を調べておくこと																																																																
5	広告3	広告の要素について	身近な広告事例を調べておくこと																																																																
6	広告4	広告のワークフローと業界について	レポート課題を進めておくこと																																																																
7	ビジュアルデザインの歴史	視覚表現の歴史について	レポート課題を進めておくこと																																																																
8	フォント	フォント(書体)について	レポート課題を進めておくこと																																																																
9	広告の実践	広告の実践的な事例解説	提出内容を振り返っておくこと																																																																
10	キャラクターデザイン	キャラクターデザインについて	レポート課題を進めておくこと																																																																
11	ブランドデザイン	ブランドデザインについて	レポート課題を進めておくこと																																																																
12	キャラクター制作1	レポート発表	制作課題を進めておくこと																																																																
13	キャラクター制作2	制作のチェック	制作課題を進めておくこと																																																																
14	キャラクター発表1	制作の発表	発表内容を振り返っておくこと																																																																
15	キャラクター発表2	制作の発表	発表内容を振り返っておくこと																																																																
関連科目	他の「メディアビジネス」プログラム対応科目など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業中に課すレポート・課題の評価及び授業での参加態度により総合的に評価します。(課題・レポート点70%、授業参加点30%) なお、出席数が2/3に達するものを成績評価の対象とします。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	授業時間外での質問等についてはメール(motonari@center.wakayama-u.ac.jp)にてご連絡ください。																																																																		

科目名	美術の歩み	科目名(英文)	Art History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩間 香
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	芸術は作者、時代、思想などさまざまな要素から成り立っている。この講義では各時代の代表的な作品を鑑賞しながら、どのような社会状況のもとに生み出されたのか、何に用いられたのか、主題はなにか、技法や技術の完成度はどうかなどを解説する。日本の美術や文化を知ることが、人生を豊かにするだけでなく、グローバル社会において自分を支える力になるだろう。
到達目標	日本美術の基本的な知識を修得する。教養として必要な程度の知識を身につけるとともに、美術や歴史への関心を高める。
授業方法と留意点	講義は常時スライドや教材表示装置を使用する。必要に応じノートに書き留めてもらいたい。
科目学習の効果(資格)	日本文化・美術に関する基本的な知識を身につける。学芸員資格に必要な。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	奈良時代 飛鳥美術	法隆寺の美術	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、飛鳥時代の歴史について調べておく。 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。
2	奈良時代 天平美術	興福寺・東大寺の仏像	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、天平時代の歴史について調べておく。 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。
3	平安時代 密教美術	曼荼羅／密教彫刻	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、平安前期の歴史について調べておく。 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。
4	平安時代 浄土教美術	平等院	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、平安後期の歴史について調べておく。 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。
5	平安時代 四大絵巻物	源氏物語絵巻／信貴山縁起／伴大納言絵巻／鳥獣戯画	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、院政期の歴史について調べておく。 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。
6	鎌倉時代 鎌倉彫刻	運慶とその一門	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、鎌倉時代の歴史について調べておく。 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。
7	鎌倉時代 祖師絵伝絵巻	一遍聖絵／華嚴縁起	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、鎌倉新仏教について調べておく。 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。
8	室町時代 水墨画	雪舟	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、室町時代の歴史について調べておく。 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。
9	桃山時代 金碧障壁画	狩野永徳	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、桃山時代の歴史について調べておく。 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。
10	江戸時代 流派体制の確立	狩野探幽	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸時代初期について調べておく。 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。
11	江戸時代 琳派の継承	俵屋宗達／尾形光琳	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸前期の歴史について調べておく。 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。
12	江戸時代 浮世絵 1	菱川師宣／鈴木春信	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸前期の文化について調べておく。 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。
13	江戸時代 写生派	円山応挙	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸中期の歴史について調べておく。 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。
14	江戸時代 浮世絵 2	歌麿／写楽	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸後期の歴史について調べておく。 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。
15	江戸時代 浮世絵 3	北斎／広重	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、幕末の歴史について調べておく。 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。

関連科目	日本史学・日本文化史、学芸員課程の科目
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	原色日本の美術		小学館
2	人間の美術	梅原猛	学習研究社	
3				

評価方法(基準)	定期試験(100%)
----------	------------

学生へのメッセージ	専用のノートを作り、毎回持参すること。博物館・美術館・寺・神社などに出かけて実際に美術を見に行ってください。
-----------	--

担当者の 研究室等	7号館5階(岩間研究室)
備考	講義に係る予復習は、毎回4時間程度を目安とする

科目名	風土と地理	科目名(英文)	Climate and Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	現代ほどたくさんの人々が移動し、さまざまな場所を観光している時代はまだかつてない。なぜこんなに観光(ツーリズム)が盛んになったのだろうか。その背景には何があるのだろうか。本講義では、観光の歴史について学んだ後、形態別の観光とさまざまな観光地の特色を明らかにしていく。 観光は交通やメディアの発達はもちろん、ひろく言えば、それぞれの時代と地域の政治・経済・文化と密接にかかわる現象である。したがって、観光という現象を通して、近現代の社会を考えてみたい。その過程で、日本や世界の風土の特色も明らかとなるだろう。
到達目標	観光の歴史や形態、さまざまな観光地の特色についてしっかりと理解し、それをふまえ、特定の観光形態や観光地の形成・現状・課題についての確に説明することができる。
授業方法と留意点	配付資料とパワーポイントを用いて、講義形式で授業を進める。授業中に何度か課題を出すので、それに取り組むことで授業内容を復習し、発展させてほしい。また、日ごろから観光に関する報道(TVニュース、新聞、ネットなど)に関心をはらうこと。
科目学習の効果(資格)	観光の歴史や形態、観光地の特色を学習・理解することにより、将来の進路決定をする際の一つの判断材料として役立てることができる(とはいえ、特に公的資格には直接つながるわけではない)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	旅と観光とは?	旅・旅行・観光とは何か、その定義について解説する	旅・旅行・観光の概念について復習する。
2	観光の歴史①	近代観光(ツーリズム)成立の背景と、その後の発展について考える	紹介した新聞記事を読む。トーマス・クック社のHPをチェックする
3	観光の歴史②	交通やメディアの発達と近代観光との関連について考える	紹介した新聞記事を読む。近代観光成立の背景にある社会のしくみのうち、現代まで続いているものを調べる
4	観光の歴史③	グローバリゼーション、ポストモダン社会における観光目的の多様化について考える	紹介した新聞記事を読む。ネットを使って、国内外のいくつかの目的地までの経路・料金を調べる
5	団体旅行	団体旅行(社員旅行など)の歴史とその特色について考える	紹介した新聞記事を読む。小中高の修学旅行の行き先と内容を書き出す
6	修学旅行	修学旅行の歴史とその特色について考える	紹介した新聞記事を読む。両親や祖父母など身近な人の新婚旅行先と期間を聞いてみる
7	新婚旅行	新婚旅行の歴史とその特色について考える	紹介した新聞記事を読む。海外旅行のガイドブックの種類と内容を調べる
8	海外旅行	海外旅行の歴史とその特色について考える	紹介した新聞記事を読む。中間レポートを作成する
9	やま	山岳観光地とその特色、登山やスキーの歴史について考える	紹介した参考文献を読む。興味のある山岳観光地について詳しく調べる
10	うみ	海岸観光地とその特色、海水浴、サーフィン、ダイビングなどの歴史について考える	紹介した参考文献を読む。興味のある海岸観光地について詳しく調べる
11	温泉	温泉観光地とその特色、温泉浴の歴史について考える	紹介した参考文献を読む。興味のある温泉観光地について詳しく調べる
12	まち	アーバンツーリズムの歴史とその特色について考える	紹介した参考文献を読む。興味のある都市の「観光まちづくり」について詳しく調べる
13	テーマパーク	テーマパークの歴史とその特色について考える	紹介した参考文献を読む。興味のあるテーマパークについて詳しく調べる
14	アート、コンテンツ	アートツーリズム、コンテンツツーリズム(フィルム、アニメなど)の歴史とその特色について考える	紹介した参考文献を読む。興味のあるコンテンツツーリズムについて詳しく調べる
15	エスニック、ダーク	旧植民地などで行われているエスニックツーリズム、戦争や災害の跡など見るダークツーリズムの歴史とその特色について考える	期末レポートを作成する

関連科目	「アーバンツーリズム論」「エコツーリズム論」など
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ここからはじめる観光学	大橋昭一ほか編	ナカニシヤ出版
	2	観光の空間－視点とアプローチ	神田孝治編	ナカニシヤ出版
	3	レジャーの空間－諸相とアプローチ	神田孝治編	ナカニシヤ出版

評価方法(基準)	期末レポート60%、中間レポート30%、授業中課題10%
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	訪日外国人の増加や2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、観光産業はますます重要性を増している。本講義で学んだことをふまえ、身の周りで起きている観光をめぐる動向を、一度じっくりと考えてみてほしい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 柴田研究室
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	Practical English Conversation	科目名 (英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。これまでに暗唱した英文を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2-2]レベルを目標とする。
授業方法と留意点	暗唱した英文を応用しながら、スピーキングの実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	出発に向けて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
2	異文化への心構え	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
3	下準備/手荷物確認/空港	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
4	ロールプレイ: 空港にて/機内にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
5	ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
6	プレゼントを渡す、生活環境を知る	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
7	自己紹介/これまでの海外経験について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
8	ロールプレイ: ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
9	教室にて/英語を学ぶ目的について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
10	モチベーション作り: 目標を達成するには/英語学習のストラテジー	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
11	良い質問の仕方/教え方、学び方のスタイル	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
12	ロールプレイ: 教室外の様々な場面での会話	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
13	オリジナルのロールプレイを作成する	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
14	小グループでロールプレイ練習	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
15	合同ロールプレイ大会と学生による自己評価	グループ演習・自己評価記入	リスニング、スピーキングの個人練習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad</td> <td>Lesley Riley & Nick Shackelford</td> <td>Perceptia Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	共通課題 (成果物・成果発表) 15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の研究室等	7号館5階(田浦研究室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Practical English Conversation	科目名 (英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・ダイアス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。これまでに暗唱した英文を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2-2]レベルを目標とする。
授業方法と留意点	暗唱した英文を応用しながら、スピーキングの実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	出発に向けて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
2	異文化への心構え	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
3	下準備/手荷物確認/空港	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
4	ロールプレイ: 空港にて/機内にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
5	ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
6	プレゼントを渡す、生活環境を知る	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
7	自己紹介/これまでの海外経験について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
8	ロールプレイ: ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
9	教室にて/英語を学ぶ目的について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
10	モチベーション作り: 目標を達成するには/英語学習のストラテジー	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
11	良い質問の仕方/教え方、学び方のスタイル	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
12	ロールプレイ: 教室外の様々な場面での会話	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
13	オリジナルのロールプレイを作成する	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
14	小グループでロールプレイ練習	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習
15	合同ロールプレイ大会と学生による自己評価	グループ演習・自己評価記入	リスニング、スピーキングの個人練習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad</td> <td>Lesley Riley & Nick Shackelford</td> <td>Perceptia Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	共通課題 (成果物・成果発表) 15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	フランス語Ⅱ a	科目名(英文)	French IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中井 裕之
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本授業の目的はフランス語による基礎的コミュニケーション能力の育成にあります。挨拶、注文、道の尋ね方など、日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現をこの授業では学びます。
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。一例えば、日本に旅行に来ているフランス人に偶然、街で出会ったとします。その時フランス語で声をかけてみたくはないでしょうか？あるいはフランスに旅行に行つたとします。レストランで注文する時、店でショッピングをする時、直接フランス語でやりとりがしたくはないでしょうか？この授業を取ればそれが可能となります。
授業方法と留意点	基本的な表現を繰り返し口に出して練習する。リスニング、練習問題の解答、学生同士の練習を行なう。教科書を使用するので購入して教室に持ってくる。授業への積極的な参加を望みます。
科目学習の効果(資格)	仏検(実用フランス語技能検定試験)5級へ向けた学力の準備をする。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	フランス語会話(基礎)の学び方の説明 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書、辞書の説明	テキスト全体に目を通し、どういったことを学習するかイメージをつかんでおく
2	『話したくなるフランス語』導入(pp.2-3)	アルファベットとその読み方	『話したくなるフランス語』導入部の予習復習
3	『話したくなるフランス語』第1課(pp.4-9)	物の名前を正確に言う 数字の読み方(1)	『話したくなるフランス語』第1課の予習復習、練習問題1
4	『話したくなるフランス語』第1課つづき	文法事項：男性名詞と女性名詞 名詞の複数形 つづり字と発音(1)	『話したくなるフランス語』第1課の予習復習、練習問題2
5	『話したくなるフランス語』第2課(pp.10-15)	基本的な動詞を使い、習慣になっている行為や仕事や住んでいる場所などについて話す 国、都市の名前	『話したくなるフランス語』第2課の予習復習、練習問題3
6	『話したくなるフランス語』第2課つづき	文法事項：否定文 つづり字と発音(2)	『話したくなるフランス語』第2課の予習復習、練習問題4、練習問題5
7	『話したくなるフランス語』第3課(pp.16-21)	好き嫌いの言い方 食べ物、飲み物の名前	『話したくなるフランス語』第3課の予習復習、練習問題6、練習問題7
8	『話したくなるフランス語』第3課つづき	文法事項：定冠詞、est-ce que を用いる疑問文 リエゾン・エリゾイオン・アンシェスマン 主語人称代名詞、-er 動詞の変化	『話したくなるフランス語』第3課の予習復習、練習問題8
9	『話したくなるフランス語』第4課(pp.22-27)	人の身分や特徴の表現 国籍、職業の呼び方	『話したくなるフランス語』第4課の予習復習、練習問題9、練習問題10
10	『話したくなるフランス語』第4課つづき	文法事項：形容詞の男性形と女性形 ETRE の変化	『話したくなるフランス語』第4課の予習復習、練習問題11、練習問題12
11	『話したくなるフランス語』第5課(pp.28-33)	動詞 avoir を使った表現 親族の名称	『話したくなるフランス語』第5課の予習復習、練習問題13、練習問題14
12	『話したくなるフランス語』第5課つづき	文法事項：不定冠詞、部分冠詞、否定の冠詞 avoir の変化 つづり字と発音(3)	『話したくなるフランス語』第5課の予習復習、練習問題15、練習問題16、練習問題17
13	『話したくなるフランス語』第6課(pp.34-39)	動詞 aller を使った表現 乗り物の言い方	『話したくなるフランス語』第6課の予習復習、練習問題18
14	『話したくなるフランス語』第6課つづき	文法事項：前置詞と定冠詞の縮約 指示形容詞 aller の変化	『話したくなるフランス語』第6課の予習復習、練習問題19、練習問題20
15	まとめ	前期学習内容の確認とまとめ	前期学習内容の理解のチェックと復習

関連科目	後期のフランス語 II を合わせて履修することが望ましい
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対訳フランス語で読もう「異邦人」	アルベール・カミュ[著]、柳沢文昭[訳注]	第三書房
	2			

評価方法(基準)	小テスト(50%)と平常点(授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題の提出など)(50%)
----------	--

学生へのメッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をすることの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	連絡等は授業教室または非常勤講師室で金曜日の授業時間の前後に口頭または文書で。授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。事前・事後学修に各1時間を要する。
----	--

科目名	フランス語Ⅱ b	科目名(英文)	French IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中井 裕之
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では、前期に引き続き、フランス語の基礎的コミュニケーション能力の習得を目指します。挨拶、注文、道の尋ね方など日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現を学びます。フランス語で話す喜びを感じてください。楽しい授業を目指します。
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。基本的なフランス語の言いまわしやを繰り返し練習することで、単に頭で理解できているばかりでなく、場面・状況に応じた表現が自然と口について出るようになります。
授業方法と留意点	基本的な表現を繰り返し口に出して練習する。リスニング、練習問題の解答、学生同士の練習を行なう。教科書(『かたつむりの歌(Chanson des Escargots)』、『話したくなるフランス語』)を使用するので教室に持ってくる。授業への積極的な参加を望みます。
科目学習の効果(資格)	仏検(実用フランス語技能検定試験)5級に相当する学力を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	後期オリエンテーション	後期学習に向けた示唆 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書の説明	テキストの後期学習範囲に目を通しておく
2	動詞活用表	さまざま動詞の活用 以降、適宜、『かたつむりの歌』を味読 する	『話したくなるフランス語』巻末動詞活用表
3	『話したくなるフランス語』 第7課(pp.40-45)	人、物をたずねる表現 フランス人の名前	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題21
4	『話したくなるフランス語』 第7課つづき	文法事項：指示代名詞、直接目的語になる 人称代名詞 つづり字と発音(4) CONNAITREの変化	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題22、練習問題23
5	『話したくなるフランス語』 第8課(pp.46-51)	可能性、許可、依頼の表現 条件法を用いた表現	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題22、練習問題24
6	『話したくなるフランス語』 第8課つづき	文法事項：pouvoirの変化 つづり字と発音(5) 条件法	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題25、練習問題26
7	『話したくなるフランス語』 第9課(pp.52-57)	名詞を代名詞で受ける 頻度を表わす表現	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題27
8	『話したくなるフランス語』 第9課つづき	文法事項：間接目的語になる人称代名詞 人称代名詞のまとめ	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題28、練習問題29
9	『話したくなるフランス語』 第10課(pp.58-63)	未来の予定 時刻の言い方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題30
10	『話したくなるフランス語』 第10課つづき	文法事項：代名動詞 未来の表わし方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題31
11	『話したくなるフランス語』 第11課(pp.64-69)	過去の表現 月、曜日、日付の言い方	『話したくなるフランス語』ト第11課の予習復習、練習問題32、練習問題33、練習問題34
12	『話したくなるフランス語』 第11課つづき	文法事項：複合過去 半過去	『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題35、練習問題36
13	発展的学習(1)	役に立つ表現と文法事項の補足(1) 会話練習(1)	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習
14	発展的学習(2)	役に立つ表現と文法事項の補足(2) 会話練習(2)	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習
15	まとめ	総まとめ	学習内容の理解のチェック

関連科目 前期のフランス語Ⅰを合わせて履修することが望ましい

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	かたつむりの歌(Chanson des Escargots)	田島宏[編], プレヴェール[著]	第三書房
2	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対訳フランス語で読もう「異邦人」	アルベール・カミュ[著], 柳沢文昭[訳注]	第三書房
2				
3				

評価方法(基準)	小テスト(50%)と平常点(授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題の提出など)(50%)
学生へのメッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をするの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	連絡等は授業教室または非常勤講師室で金曜日の授業時間の前後に口頭または文書で。授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	フランス語Ⅲ a	科目名 (英文)	French IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤本 武司
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	フランス語会話の初級 1
到達目標	フランス語のごく基本的な日常会話ができるようになる。
授業方法と留意点	毎回一定のテーマに沿って、基本的なフランス語の会話表現を紹介し、それを用いて実際に対話の練習を行う。原則として一つのテーマが終了するたびに、簡単な確認テストを行う (5~10分程度：形式は聞き取りや短い発話)。併せて、フランス文化の諸相を映画・音楽を用いて紹介する。特定の教科書は使用せず、自作のプリント教材をその都度配布する。
科目学習の効果 (資格)	フランス語 IV と合わせて、仏検(実用フランス語検定)4級の聞き取り問題に対応できるオーラルの力をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 フランスの映画・音楽鑑賞	オリエンテーションとこれまでの学習 内容の確認 簡単な口頭練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
2	自己紹介・あいさつ等の復習 (1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
3	自己紹介・あいさつ等の復習 (2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
4	友人や家族を紹介する (1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
5	友人や家族を紹介する (2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
6	身の回りの物について尋ねたり答えたりする (1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
7	身の回りの物について尋ねたり答えたりする (2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
8	好き嫌いを言う (1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
9	好き嫌いを言う (2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
10	カフェでの注文と支払い (1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
11	カフェでの注文と支払い (2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
12	もののある場所、位置関係を言う (1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
13	もののある場所、位置関係を言う (2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
14	復習と総括・発音のまとめ (1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
15	復習と総括・発音のまとめ (2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	①期末試験は実施しない。 ②授業時の会話練習への積極的な参加を第一とし (50%)、加えて確認テスト、映画鑑賞後のコメント等 (50%) を加えて評点を算出する。
-----------	--

学生へのメッセージ	単に語学の勉強というだけではなく、フランスの様々な姿や、日本との違いを一緒に考えてみたいと思います。なお、皆さんのこれまでのフランス語学習内容等にあわせて、上記の計画は大幅に変更することもできます。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	質問等は授業時および授業終了後に直接対応する。 事前・事後学修に各1時間を要する。
----	--

科目名	フランス語Ⅲ b	科目名 (英文)	French IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤本 武司
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	フランス語会話の初級2
到達目標	フランス語の基本的な日常会話ができるようになる。
授業方法と留意点	毎回一定のテーマに沿って、基本的なフランス語の会話表現を紹介し、それを用いて実際に対話の練習を行う。原則として一つのテーマが終了するたびに、簡単な確認テストを行う (5~10分程度：形式は聞き取りや短い発話)。併せて、フランス文化の諸相を映画・音楽を用いて紹介する。特定の教科書は使用せず、自作のプリント教材をその都度配布する。
科目学習の効果 (資格)	フランス語 III と合わせて、仏検(実用フランス語検定)4級の聞き取り問題に対応できるオーラルの力をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 フランスの映画・音楽鑑賞	オリエンテーションとこれまでの学習 内容の確認 簡単な口頭練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
2	食事と食材に関する表現 (1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
3	食事と食材に関する表現 (2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
4	服飾に関する表現 (1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
5	服飾に関する表現 (2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
6	日常のスケジュール (1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
7	日常のスケジュール (2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
8	旅行に関する表現 (1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
9	旅行に関する表現 (2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
10	レストランでの注文と支払い (1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
11	レストランでの注文と支払い (2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
12	天候に関する表現 (1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
13	天候に関する表現 (2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
14	総括と総復習 (1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
15	総括と総復習 (2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	①期末試験は実施しない。 ②授業時の会話練習への積極的な参加を第一とし (50%)、加えて確認テスト、映画鑑賞後のコメント等 (50%) を加えて評点を算出する。
学生へのメッセージ	単に語学の勉強というだけではなく、フランスの様々な姿や、日本との違いを一緒に考えてみたいと思います。なお、皆さんのこれまでのフランス語学習内容等にあわせて、上記の計画は大幅に変更することもできます。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	質問等は授業時および授業終了後に直接対応する。 事前・事後学習に各1時間を要する。

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル (身振り、姿勢、話し方など) や発表構成 (導入・展開・結論) を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報 (自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること) を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	アイコンタクトについて予習
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。
6	プレゼンテーション (1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。
12	プレゼンテーション (2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。

関連科目	ドラマ
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センテージ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	Giving a good presentation takes more than words. Voice, gesture, posture, movement, and visual aids can contribute to making a good presentation. I'm looking forward to helping you improve your presentation skills.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチュードントアワーにて対応する。
----	--

科目名	プレゼンテーション	科目名(英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル(身振り、姿勢、話し方など)や発表構成(導入・展開・結論)を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報(自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること)を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。
6	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。
12	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。

関連科目	ドラマ
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Those who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will benefit most from this course. N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	プレゼンテーション	科目名(英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル(身振り、姿勢、話し方など)や発表構成(導入・展開・結論)を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報(自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること)を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。
6	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。
12	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。

関連科目	ドラマ
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Be prepared to share your ideas and opinions with everyone. You will need a dictionary in this class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ヘト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル (身振り、姿勢、話し方など) や発表構成 (導入・展開・結論) を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報 (自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること) を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。
6	プレゼンテーション (1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。
12	プレゼンテーション (2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。

関連科目	ドラマ
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チリ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル (身振り、姿勢、話し方など) や発表構成 (導入・展開・結論) を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報 (自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること) を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	アイコンタクトについて予習
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。	
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。	
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。	
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。	
6	プレゼンテーション (1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。	
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。	
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。	
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。	
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。	
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。	
12	プレゼンテーション (2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。	
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。	
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。	
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。	

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センテージ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Giving a good presentation takes more than words. Voice, gesture, posture, movement, and visual aids can contribute to making a good presentation. I'm looking forward to helping you improve your presentation skills.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	プレゼンテーションインドネシア・マレー語	科目名 (英文)	Indonesian Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	フォーマル/インフォーマルなさまざまな局面でのインドネシア語を使った適切な表現を理解するとともに、インドネシア語で意志を伝える訓練を行う。少なくとも三回の発表の機会を設けて、フォーマルなインドネシア語原稿の作成と発表のための口頭表現を実践的に学ぶ。学習の成果を計るため、インドネシア語プレゼンテーションコンテストへの参加を必須とする。			
到達目標	インドネシア語能力の向上。			
授業方法と留意点	<p>*「インドネシア語プレゼンテーションコンテスト」への参加を必須とする。</p> <p>*資料の収集やインドネシア語を使った課題を出すので、これらに自主的に取り組むこと。</p> <p>*授業では資料の読解や文章作成の指導をおこなうとともに、提示した資料がどのような社会的背景を有するかも併せて解説する。</p>			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方の概要を指示する。資料へのアクセスの仕方、課題の作成方法などについて解説する。	指示された方法で資料にアクセスする。
	2	紹介 1	組織や事項について書かれたインドネシア語による紹介文の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	3	紹介 2	受講者の関心にもとづいて選択したインドネシア語で書かれた紹介文を探し、講読する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	4	紹介 3	主題を設定して、学んだ書式や語彙を使いながらインドネシア語による紹介文を作成する。	紹介文の完成
	5	演習 1	紹介文を発表する。	既習事項を確認する
	6	文書 1	インドネシア語で書かれた書類の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	7	文書 2	受講者の関心にもとづいて選択したインドネシア語で書かれた書類の内容を理解する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	8	文書 3	既習事項に基づき、受講者で状況を設定して書類を作成する。	文章の完成と推敲
	9	演習 2	作成した文書を発表する。	既習事項を確認する
	10	広告 1	インドネシア語の広告表現について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	11	広告 2	インドネシア語で広告を作成する。	広告についての既習事項の確認と広告の作成と推敲
	12	論説 1	新聞の論説記事を読み、表現や語彙を解説する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	13	論説 2	主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。	既習事項の復習
	14	演習 3	主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。	文章の完成、プレゼンテーションの準備
	15	総合演習	これまでの既習事項を確認するとともに、完成させたプレゼンテーションを発表する。	既習事項の確認と発表のための資料作成
関連科目	インドネシア・マレー語関係の授業			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	三回実施する演習課題 (70%)、その他課題の提出状況等授業への取り組み (30%) から総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	インドネシア語を使った表現を楽しみましょう。			
担当者の研究室等	7号館 2階非常勤講師室			
備考	<p>受講者の人数と関心を見て、課題の作成方法や提出方法等を決定します。初回の授業時に指示するので、必ず出席すること。</p> <p>参考書は本学図書館にも所蔵しているので、課題に取り組む際には大いに参考にすること。</p> <p>授業時間外での質問や要望は、7号館 2階非常勤講師室にて受け付ける。</p>			

科目名	フレッシュマン イングリッシュ	科目名(英文)	Freshman English
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中highで学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	
		事前・事後学習課題	
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
6	存在文(there構文)と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
7	非人称のit文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
8	haveとgetの用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
13	英作文(筆記)テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
3	5分間 TOEIC テスト・サブリメント 文法・語法 A Shorter Course in TOEIC Test Grammar	小池直己	南雲堂

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館4階 皆本研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	The purpose of this course is to introduce language and study skills that will allow students to discuss their ideas and to write academic papers in English. Additionally, students will learn how ideas are communicated through visual images and symbols, and will be able to apply this knowledge by working on practical projects.																		
到達目標	<p>These are the goals for this course. You will:</p> <p>Improve your reading stamina and comprehension. Improve your note taking skills. Learn how to plan and write well-organized reports. Learn how to use technology to express your ideas. Actively discuss your ideas.</p>																		
授業方法と留意点	Students will do weekly comic readings. Each week will feature a different aspect of comics. These topics will be discussed in-class. In discussions, an emphasis will be placed on students making observations based on evidence and on asking questions that reveal new ways of approaching the material.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>We will be reading and analyzing comics in this seminar. The focus will be on American comics, but comics from other cultures may also be considered. We will look at how comic creators use words and images to communicate meaning.</p> <p>Week 1: Seminar Introduction Week 2: Describing Characters Week 3: Describing Narrative Week 4: Lettering and Word Balloons Week 5: Use of Line Week 6: Use of Color Week 7: Symbols and Sound Effects Week 8: Panel Layout Week 9: Poster Project Week 10: Poster Project Week 11: Poster Project Week 12: Poster Project Week 13: Talk Planning Week 14: Talk Practice Week 15: Talk Presentation</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>Talk 20%</p> <p>Poster 20%</p> <p>Short Writing 15%</p> <p>Weekly Quiz 15%</p> <p>Notes 15%</p> <p>Participation 15%</p>																		
学生へのメッセージ	There is no textbook for this course. However, you will be asked to purchase a comic during the course. It will cost around 2000 yen. All other reading materials will be provided by the teacher.																		
担当者の研究室等	Building 7, 3rd Floor, フーパー研究室																		
備考	総学修時間数は60時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	The purpose of this class is to choose a topic that you are passionate about and deepen your understanding through reading and research. This is an ideal course for students currently studying abroad or who plan on doing so in the future.		
到達目標	It is expected that students will learn-by-doing. Using English as a medium of instruction will enable students to improve not only the four language skills, but also their critical thinking abilities.		
授業方法と留意点	The material will be presented through lecture, readings, and occasionally through video and audio. Students are expected to keep a notebook. There will be opportunity for class discussion and group work.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	The focus of this seminar is academic English. Students will read articles from a variety of academic disciplines and focus on the relevant grammar and vocabulary. Students will study and develop their research skills and will be expected to write and present regular reports.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Focus on Vocabulary 2: Mastering the Academic Word List	Diane & Norbert Schmitt
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	Tests 45%, assignments 45%, attendance & attitude 10%.		
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の研究室等	Building 7 3F Herke's office.		
備考	Please bring a dictionary. 総学修時間数は60時間。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	文章 (本や論文、記事) を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。 スペイン語またはそれ以外のロマンス語の基礎知識があることが望ましいが、文献は英語、日本語のものを精読する。全体として取り組む基本書を数冊と、各自の研究のための文献 (本・資料) を併読するが、どちらも丁寧に読み、要約、発表、議論などを行って、最終的にはレポートを執筆する。																
到達目標	読書の習慣を作る。解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。																
授業方法と留意点	とにかく、毎日、論理的な書き物に触れること。日頃から、物事について思考を巡らせること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは、スペインを主とする南欧の歴史・文化・社会の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。 ・現代スペインの社会問題：カタルーニャの独立問題、自治州における言語政策・教育、移民問題など ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題 (ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル)、印刷技術 (情報革命)、宗教改革、都市の歴史など ・現代スペインの多様な文化、諸地域の固有の文化など とにかく文章を読み、要約し、発表する。																
関連科目	スペイン語専攻の諸科目、言語科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	日ごとの受講姿勢 (読書や議論、発表に対する意欲と準備の有無、精度) と発表およびレポート等の質による。それぞれ 50% ずつを目安として判断する。																
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。これらのことを日常とするように。																
担当者の研究室等	7 号館 5 階 安達研究室																
備考																	

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	2 年次までに培った基礎力をもとに、自身が取り組むテーマを検討する。このゼミにおいては、主に現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象や社会現象を取り上げることとしたい。具体的には、本格的な文献検索や論文読解、資料調査、現地調査実習などを行い、研究方法や考え方を体得する。																		
到達目標	研究に対する考え方の整理を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。 また、日頃のゼミ活動を通してゼミ内外の人びとと接することを通じ、「気づき」「目くばり」「心くばり」ができる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	授業では積極的に発言を行い、切磋琢磨できるような刺激的な環境を作っていくよう努力すること。 なお、7 月に行われる 4 年ゼミ生による「卒業論文中間発表会」への参加を必須としている。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>①研究方法論（研究テーマの設定法、文献資料の収集法、学術研究論文の構成や論理、研究発表や研究討論の進め方等）についての解説を行う。</p> <p>②受講生各自が関心をもつテーマについて、それがテーマとなり得るか否かを全員で討論し、各自がテーマの絞り込み作業を行う。</p> <p>【事前、事後学習課題】</p> <p>自身の関心のあるテーマについて、事前学習をすること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2018—</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>浦野ゼミの手引き—「卒業論文」を仕上げるまでの過程 (タイムスケジュール)—</td> <td>浦野ゼミ</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2018—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	浦野ゼミの手引き—「卒業論文」を仕上げるまでの過程 (タイムスケジュール)—	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2018—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	浦野ゼミの手引き—「卒業論文」を仕上げるまでの過程 (タイムスケジュール)—	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3																			
評価方法 (基準)	ゼミでは、積極性が特に重視されます。そこで、成績評価については、討論への積極的な参加状況 (50%)、レポートの内容 (50%) により、総合的に判断します。 なお、1 回目の授業で、今後のスケジュールや参考文献資料を記した小冊子 (「参考書」欄に記載) を配布し、ガイダンスを行います。																		
学生へのメッセージ	「研究する」という行為は、実はとてもワクワクし、楽しいものです。大学生であることを自覚し、「研究」に勤めましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (浦野研究室)																		
備考	総学修時間数は 60 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	国内外の映画・ドラマ・文学作品を英語で読解し、自分たちでアレンジを加えながらスクリプトを作成し、実際に演じる/演出して、オリジナルの英語ムービーを作成する。インプット (リーディング・リスニング)・アウトプット (スピーキング・ライティング) 連動型の授業を行う。また 4 年次の卒業研究で扱うテーマを設定する。			
到達目標	ただ漠然と対象作品を英語を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりするのではなく、自分たちが演じる/演出することを想定しながら、英文をインプット・アウトプットできるようになる。			
授業方法と留意点	グループでの作業が多くなるので、協調性と責任感を持って、授業に臨むこと。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 クラスメイトと協同で、30 分程度の英語ムービーを作成する。</p> <p>【事前・事後学習課題】 毎授業で目標を設定し、その目標を達成するための事前・事後学習を行う。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ショートムービー 50% グループワーク 30% 課題 20%			
学生へのメッセージ	グループワークが基本になります。協調性を持って、ゼミメンバーとクオリティーの高い作品を完成させましょう！			
担当者の研究室等	7 号館 3 階 吉村 征洋 研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	《世界の中の日本語・日本文化》 日本文化や日本語など、「日本」について見つめ直す作業をする。 いったい日本とは、日本文化とは、日本語とは何なのか、考えてみることで、各自の関心ある言語やテーマについて、新たな視点を持つことを目指す。		
到達目標	様々なテーマについて議論し、自分の意見を述べ、考えを整理できる。		
授業方法と留意点	学生主体で行う。各自が関心あるテーマに基づいて報告・発表し、意見交換する。 活発な意見交換を期待する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。 およそ隔週で報告を行い、毎週他の学生の報告について積極的な発言が求められる。 十分に報告準備を行うこと。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点 (報告内容、参加態度、課題) 100%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階		
備考	事前事後学習時間 計60時間		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	担当教員の指導のもと、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査等を行い、研究に必要な手法や考え方を体得します。		
到達目標	自分の関心のあるテーマについて文献を調べ、それを整理し、発表することができるようになる。		
授業方法と留意点	「ことば」に関する資料を読みながら、基本的な知識を身につけていく。その際、全体で意見を交換・共有しながら、各トピックに関する理解を深めていく。最終的に、自分の最も関心のあるテーマを絞りこみ、卒業研究へとつなげていく。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語学演習 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	TOEIC TEST GRAMMAR 5分間 TOEIC テストサブリメント 文法・語法	小池直己
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への積極性 50% 授業での発言 20% 課題 30%		
学生へのメッセージ	これから2年間、一緒に頑張っていきましょう。		
担当者の研究室等	後藤研究室 (7号館5階)		
備考	総学修時間数は60時間。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	どのように研究テーマを設定するかについて指導する。研究方法、資料収集方法についても指導する。以上の指導に基づき、各自でテーマを決め発表を行う。		
到達目標	問題点を発見し、解決していく能力の獲得。		
授業方法と留意点	演習では、各自が作業を行うことが多い点に留意しておくように。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	授業の中で指示された作業を必ず行うこと。特に発表の際には事前に充分準備をすること。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、発表による総合評価 平常点 60%、発表 40%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (山口研究室)		
備考	指示された予習・復習・発表の準備には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。 総学修時間数は 60 時間。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p><場所イメージの形成・変容・影響>をテーマとし、各自が問題を設定し、報告・議論をとおして論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。それとともに、全員で課題文献を読み、基礎となる知識と視点を共有する。</p>		
到達目標	<p>論理的な思考にもとづく分析と考察、ディスカッション、プレゼン、文章表現の能力を身に付ける。資料の探し方や使い方を身に付ける。</p>		
授業方法と留意点	<p>各自が関心のある問題について報告し、議論する。並行して、全員で課題文献を読み、基礎となる知識と視点を共有する。その過程のなかで、各自が卒業研究で取り扱う問題を徐々にしぼりこんでいく。学期末には、その時点までの報告内容をまとめたレポートを書く。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 場所イメージとは何か。それはいかに形成・変容し、いかなる影響を与えるのか。それらを事例をとおして理解する。と同時に、関連する研究内容と基礎となる知識・視点の共有する。資料の探し方・使い方も身に付ける。</p> <p>【事前事後学習】 報告準備をしっかりとすること。課題文献を読み、その要点をまとめること。出された課題にしっかりと取り組むこと。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点 (報告内容、レポート、参加態度) 100%		
学生へのメッセージ	自分が関心のある問題を、いろんな角度から、とことん掘り下げてみてください。これまで知らなかったことが、きっと見つかるはず。		
担当者の研究室等	7号館5階 柴田研究室		
備考	総学修時間数は60時間。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	地域活性化、環境問題、世界遺産、観光など、地域や地理学と関連するテーマを各自が設定し、テーマについて関心を深めていく作業を行います。																		
到達目標	「研究」の遂行に必要な問題の発見力、データの収集・分析力、文章の構成力、執筆能力、全体のマネジメント能力などを身につける																		
授業方法と留意点	研究を遂行していくための基礎（研究手法・ルール・コツ等）についてはそれぞれ解説し、それをもとに文献購読やフィールドワークを実践していきます。 また、テーマに関するプレゼンテーション及びディスカッションを参加者全員で行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業のテーマ】 地域を知る・地域に学ぶ</p> <p>【事前事後学習】 関心のあるテーマについて、十分に情報収集をする。また、テーマや研究手法について授業外でも積極的に学び、自らの研究活動に役立てる。学習時間は60時間以上を目安とする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への参加状況（議論での積極性等）（50%）と、種々のアウトプット（プレゼンテーションの内容、レポート等）（50%）によって評価する																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 手代木研究室																		
備考	総学修時間数は60時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	住吉 誠
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに、英語の語法や文法についてさらに深く学ぶ。基本的な文法事項も再確認しながら、英語の実証的な研究の一端に触れる。適時担当を決めて、文献の購読や英語の語法文法や英語の変化について発表を行う。そのような活動を通じて、4 年次の卒業研究に向けてテーマ設定と資料収集を行う。																		
到達目標	本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や考え方を体得する。英語学に関する簡単な文献がある程度時間をかけながら理解できるようになる。英語の基本的な文法事項を整理確認する。																		
授業方法と留意点	文献の輪読や発表、プレゼンテーションを行う。そのような学びを通じて、4 年次の卒業研究に向けてテーマ設定と資料収集を行う。日常使われる英語の表現や語法に関心をもつことが望まれる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】 現代英語語法文法研究、英語の変容研究</p> <p>【内容】 現代英語の語法や文法について学ぶ。英語の変化にも注意しながら、これまでの「定説」と違う例などがある場合は、なぜそのような形が使用されているのかといったことを考えながら、</p> <p>【方法】 映画の英語や、インターネット上で使用される英語、新聞などの英語から、現代英語の実態を明らかにする実例を探して、討議する。 またそのような作業を進めるうえで、基本的な英文法の事項を習得しておくことが前提であるので、毎回英語の文法語法について復習を兼ねたエクササイズを行う。</p> <p>英語にかかわる簡単なトピック（英語の発達、語彙の変遷、意味的变化など）について英語で書かれた英語の文献を読み込み、輪読し、担当ごとに発表をする。</p> <p>【事前・事後学習課題】 配布された文献を読みこんでくる。また、グループでの発表のための準備。エクササイズの予習、復習など。事前・事後学習は、発表の準備などを含め 60 時間とする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業中のプレゼンテーション (30%) 授業中の担当発表 (20%) 期末レポート (50%)																		
学生へのメッセージ	ちょっとした言葉の使い方に疑問を持ち、「なぜ」を追求する楽しさを実感してください。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 住吉 誠 研究室																		
備考																			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	対象とする国/地域の歴史や社会について、それぞれテーマを設定し、調査、分析、発表するための基礎的な方法を学びます。また授業外での調査を通して、その方法を実践します。																		
到達目標	自ら課題を設定し、それを調査、分析、発表するための基礎的な力を習得する。																		
授業方法と留意点	文献講読を通して、テーマの設定、文献収集、インターネットの利用、フィールド調査、研究発表など、研究を進めるための方法を学ぶ。またそれぞれが関心のある国/地域をとりあげてテーマを設定し、担当を決めて発表、討論する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 方法論に関する文献を講読する。 各自が関心をもっている事柄について文献リストおよびレビューを作成し、発表する。</p> <p>【事前事後学習】 課題文献をしっかりと読む。 発表のための資料作成・準備をする。 レポートを作成する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への貢献 (50%)、発表・レポート (50%) によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階)																		
備考	総学修時間数は 6 0 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>本を読むとき、映画を観るとき、人と話すとき、そのベースとなる背景知識を持っているか否かで話の理解度が大きく変わってきます。このゼミでは、英語圏に共通する「知っておくべき事柄」を学び、文化知識の土台作りをします。取り扱う分野は、文学、ことわざ&イディオム、神話、音楽、芸術、建築物などです。</p> <p>また、ゼミとして多読活動に取り組みます。最初は自力で読める易しめの本を紹介しますが、後半には、映画化された児童文学作品を読んだり、実体験に基づくライフストーリーを読んだりして、豊かな表現に触れてもらうとともに、「今まで考えたこともなかった」ような、外の世界にも目を向けてもらいます。</p>																		
到達目標	与えられたテーマに関して調べ、それをレジュメにまとめて発表できるようになることを目指します。また、多読は初心者で 5 万語、経験者で 10 万語を目標とします。																		
授業方法と留意点	初日に決めたスケジュールに沿って、各自が当たったテーマを調べ、レジュメを作成してきます。授業中は発表と理解度チェックに充てます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初日に一学期間のテーマと担当を決めます。また、レジュメのサンプルを見せます。次回からは、各人がスケジュールに沿って下調べをしレジュメを作成してきます。余力があるようなら、全員で読む本も一冊指定するかもしれません。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題準備 20%、発表 30%、理解度チェック%、多読 20%																		
学生へのメッセージ	絵本や本、映画などを通して、ことばのみならずその背景にある文化や歴史を楽しく学んでもらえればと思います。「やるときはやる！」ゼミですので、みなさんの頑張りに期待しています。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階松田研究室																		
備考	総学修時間数は 6 0 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	本演習は、卒業研究を進めていく上での準備段階と位置づけている。自分で「調べる」という営みを始動することができるように演習を通じて指導を行っていく。前半は文化人類学者による調査に関する参考文献を講読する。文献の講読を通じて、人類学的なものの見方について学ぶ。後半は受講者自身による調査主題の設定に当てる。相互のディスカッションを通じて人類学的な「調べる」営みについて考えていき、卒業研究のための調査を指導することを目指す。			
到達目標	適切な調査テーマを設定するとともに、そのアプローチの仕方を知る。			
授業方法と留意点	前半は文化人類学に関する文献講読を行う。毎回の授業では文献に関する内容の理解を問う。後半はディスカッション等に当てる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「人類学的に調べる」が本演習の主題である。文献講読と相互のディスカッションが中心になる。発表担当者は文献の内容について 30 分程度で報告をする。コメント担当者は 5 分程度のコメントが求められる。聴衆は発表についての質問をすることが求められる。いずれの役割を担うにしても、ゼミの時間を有意義に使うために、授業の前後には指定された文献を精読しておくこと。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	発言や質問など、演習への主体的な取り組み (20%)、課題 (50%)、口頭発表 (30%) に基づいて行う。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (上田研究室)			
備考	レポート等の提出課題は評価を記して返却する。 総学修時間数は 6 0 時間。			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	舞台芸術（演劇、ミュージカル、サーカス、ダンスなど）の映像資料の鑑賞や、作品のテキスト及び関連資料の輪読を通して、さまざまな舞台芸術に親しむ。また、研究対象とする作品や劇団が生まれた社会的・文化的背景に関する知識の習得も目指す。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術について、基礎的な知識を習得する。 ・卒業研究のテーマを定める。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業では、積極的に議論に参加すること。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 舞台芸術研究入門</p> <p>【内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術作品あるいは劇団などについてリサーチし、発表及び小レポートとしてまとめる。 ・プレゼンテーションや議論を重ねることで、卒業研究のテーマを定め、レポートとしてまとめる。 ・すべてのレポートは最終的に1冊の『ゼミジャーナル』として製本する。 <p>【事前・事後学習課題】 プレゼンテーションやレポートの準備など。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	平常点 (授業に取り組む姿勢など) : 50% レポート : 40% プレゼンテーション : 10%																
学生へのメッセージ	日頃から舞台芸術に対する関心を持つようにして下さい。そして受講者が主体となって、楽しく活気あるゼミを作っていきましょう。																
担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室																
備考	レポートの場合は返却時に、プレゼンテーションの場合は終了後にフィードバックを行う。 総学修時間数は60時間。																

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	米国の社会学者 Harvey Sacks たちによって創始された会話分析 (Conversation Analysis) の方法論について、基本的な考え方や分析手続き・分析方法を、講義とデータ・セッション (実際のデータを見ながら議論する) を交えながら学んでいく。また、並行して、研究を進めていくための基本的な姿勢・態度、論文・レポートの執筆法、データの取り扱い方等についても随時触れていく。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会話分析の基本的な考え方や分析手続き・分析方法を理解する ・会話分析の方法論に基づき、実際の会話データを使って、基本的な構造を分析できる ・研究を進めていくための基本的な姿勢・態度、論文・レポートの執筆法、データの取り扱い方等に関する基本的な知識を身に付ける 																		
授業方法と留意点	授業では、講義とデータ・セッション (実際のデータを見ながら講義で取り上げられた現象をみんなで分析し、議論する) を交えて進めていきます。特に、データ・セッション時には、議論に積極的に参加してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ： 会話分析の基礎を理解する</p> <p>内容： 1. 会話分析の視点と研究プロセス 2. 発話の順番交替に係る組織について 3. 発話の連鎖に係る組織と発話の「優先性」に係る組織について</p> <p>方法： 講義とデータ・セッション (実際のデータを見ながら講義で取り上げられた現象をみんなで分析し、議論する) を交えて行います。また、講義の一部については、担当学生に教科書の指定範囲について発表してもらいます。</p> <p>事前、事後の学習課題： ・指定教科書を事前に読んだり、授業後に読んで復習する ・データ分析の課題に取り組んでもらいます</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>会話分析の基礎</td> <td>高木智世他</td> <td>ひつじ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	会話分析の基礎	高木智世他	ひつじ書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	会話分析の基礎	高木智世他	ひつじ書房																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎から分かる会話コミュニケーション</td> <td>高梨克也</td> <td>ナカニシヤ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>会話分析基本論集</td> <td>H. サックス他 (西坂仰 訳)</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>会話分析入門</td> <td>串田秀也他</td> <td>勁草書房</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎から分かる会話コミュニケーション	高梨克也	ナカニシヤ出版	2	会話分析基本論集	H. サックス他 (西坂仰 訳)	世界思想社	3	会話分析入門	串田秀也他	勁草書房
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	基礎から分かる会話コミュニケーション	高梨克也	ナカニシヤ出版																
2	会話分析基本論集	H. サックス他 (西坂仰 訳)	世界思想社																
3	会話分析入門	串田秀也他	勁草書房																
評価方法 (基準)	期末レポート：50% 課題：30% 授業参加度 (ディスカッション・発表を含む)：20%																		
学生へのメッセージ	会話分析は、言葉の形や意味そのものの分析ではなく、私たちが言葉を使って何をしているか、という切り口から見ていきます。ありふれた (日常) 会話の分析を通じて、いっしょに新しい発見をしていきましょう！！																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 杉浦研究室																		
備考	総学修時間数は 60 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。		
到達目標	本授業を受けることによって、コミュニケーションとは何かを理論的に学ぶことができます。さらに、テキストを正確に読み、理解し、それについて多面的に考察し、自分の意見を述べるできるようになります。実際に何度も練習を行うことによって、コミュニケーション能力を高めることもできるようになります。		
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて発表をします。担当者だけでなく、参加者全員が予習範囲のテキストをしっかりと読んで理解して授業に臨んでください。コミュニケーションな方法だけでなく、その内容が大事です。日ごろから情報や知識の獲得を心がけてください。英語の文献も読みますので予習をしてきてください。毎回、スピーチをしてもらいますので準備をしてきてください。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 コミュニケーションの取り方を理論的・実践的に学びます。最も大切なのは、相手の気持ちに配慮し、伝えたいことを正しくきっちり伝えることです。 そのためには何度も練習しなければなりません。 そこで、読んで考え、聞いて話すことを繰り返し行うことが決定的に重要になります。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	コミュニケーション学入門	大田信男 他
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点 40%、 課題・発表 30%、 期末レポート 30%		
学生へのメッセージ	失敗しながらも楽しくコミュニケーションを学びましょう。		
担当者の研究室等	7 号館 4 階西川研究室		
備考	総学修時間数は 60 時間。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	日本の文化や歴史を中心に、各自テーマを設定し、報告、議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	前半は各自がテーマを複数考え、みなでディスカッションしながらテーマを絞り込む。また、文献の検索方法や研究の方法論について学ぶ。後半は絞り込んだテーマについて調べ、レポートにまとめ、報告、議論する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ】 歴史、文化とは何か 文献の検索と活用方法 テーマ設定 【事前事後学習】 自分の発表時はもちろん、他者が発表する前に報告者のテーマに関する文献を読み議論に備える。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ゼミ活動への取り組み (100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	赤澤研究室 (7号館4階)		
備考			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	前期では、担当教員の指導のもと社会貢献活動などの学外活動による課題発見対処能力を高める。その活動の中で、社会問題を提起する。																
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確コミュニケーション能力を持つこと。																
授業方法と留意点	このゼミは、「夢」を持ちそれに向かって全力投球したい学生のゼミであることから様々な課題を自分自身で課すことになる。課題発見解決能力の開発や、現場ですぐに役立つ実践力を高めるプログラムを実践する。また、幼稚園、小学校、中学校の教員を目指す学生には教員採用試験の過去問題や面接対策の勉強会を行う。OB・先輩・外国人との交流が多く、年間3～4回のゼミ合宿に必ず参加することを強く希望する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 社会に貢献できる活動を実践することから、学外での活動が多い。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べる。</p> <p>計画に基づいた活動、活動発表、報告書を総合的に評価する。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	ゼミ活動参加 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表力 20%で判断する。																
学生へのメッセージ	一歩前進ではなく、半歩前進でも、前に進んだことになる。小さな成功体験の積み重ねが、エネルギーになることを実感すると、挑戦することが楽しくなります。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考																	

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大原 関 一浩
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>「どうしたら異なるバックグラウンドの人たちとうまく暮らしていけるか?」「女性も男性も働きやすい社会するにはどうしたらよいか?」日本でもこれらの課題について取り組まざるを得ない状況になりました。アメリカ合衆国は、「E Pluribus Unum (ラテン語: 多数から一つ)」という建国の理念が示すとおり、多様性を認めながら国として一つのまとまりをめざしてきましたが、歴史をふりかえれば、現在に至るまで外国人、マイノリティ、女性に対する差別や偏見は形を変えて存在し、多文化共存や男女平等という国家目標に多くの課題を突きつけてきました。そうしたアメリカの取り組み (と失敗) をふりかえれば、多様化する日本の社会でよりよく生きるヒントが見つかるかもしれません。アメリカにも日本にもあるような課題について考え、意見交換できる「場」になればと思います。</p>																		
到達目標	<p>① アメリカ (と日本) の社会と文化、特に、ジェンダーやエスニシティに関する諸問題についての理解を深め、批判的に物事を理解できるようになる。 ② 基礎的なりサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションの力をつける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 協調性と積極性をもって、活動に参加すること。 ② 課題の内容について、わからないことがあったら質問すること。 ③ 担当の課題は責任をもってやること。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[授業テーマ・内容・方法] 文献の輪読、発表、議論を中心に進める。</p> <p>[事前事後学習課題] ① 各自の役目 (質問の用意、議論の司会、規定どおりのレポート作成) を果たすこと。 ② 研究ノート (初回に説明) は規定の分量を、定期的に書くこと。 課題、発表の準備、レポートの作成など合計約 30 時間。</p> <p>[予定] アメリカ社会文化に関するトピックを 1 つ選び、それについて調べ、プレゼンテーションを各自 1 回してもらい予定。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新時代アメリカ社会を知るための 60 章</td> <td></td> <td>明石書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新時代アメリカ社会を知るための 60 章		明石書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新時代アメリカ社会を知るための 60 章		明石書店																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>授業への貢献度 50 % 課題、レポート、発表 50 %</p>																		
学生へのメッセージ	<p>このゼミは多様な見方に価値を置くので、「こんなことを言ったら笑われる」という心配はないです。お互いの話に耳を傾け、必要以上に批判的にならず、助け合おうという姿勢を重視します。</p>																		
担当者の研究室等	<p>7 号館 5 階 (大原 関 研究室)</p>																		
備考	<p>総学修時間数は 60 時間。</p>																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	Web には、解説つきの写真や動画を誰もが投稿できるサイトがある (Google マップや YouTube など)。当ゼミでは手元の写真のうち公開可能なものに日本語や外国語で案内文を作成しそれを投稿する活動を行う。授業では、各自が持ち寄った日本語文の内容や外国語への翻訳が適切かどうかを全員で検討しながら完成度を高める。撮影地は通常自由だが、ゼミによる観光地取材も適宜行う。																		
到達目標	自ら作成した観光案内をわかりやすい外国語に翻訳し、さらにそれを発表する能力を身につける。京都、大阪、奈良など関西の地理や歴史に対する知識を深めることも目指す。																		
授業方法と留意点	個人またはグループでテーマを決め、予め書籍や Web など調査したうえ現地へ行って写真やビデオの撮影を行う。さらにそれを素材として観光案内のための原稿を作成して授業で発表、必要な修正を加えて動画に編集したり Web サイトに登録するなどの作業を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は主として写真を動画に仕立ててそれにナレーションを付ける形式の観光案内ビデオを作成する。																		
関連科目	日中観光文化と通訳法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (60%)、レポート、プレゼン (40%) をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	中西研究室 (7 号館 3 階)																		
備考	総学修時間数は 60 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 年次までに培った修学上の基礎力や学術的な関心に基づいて、ビジネスと文化・社会の関係を中心に具体的な事例とともに研究していきます。 ・ 文献・資料あるいは現地で調査し、それを分析する力や、グローバルとローカルの両方の観点から論理的に考える力を養うことなどを授業目的とします。 																		
到達目標	主にビジネスの観点から、国際社会や異文化に関する理解を深めることと、それに基づいて後期の文化演習 II や 4 年次の卒業研究につながるような研究テーマを見つけることを目標とします。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞やビジネス誌の記事などを用いて、調査・発表・議論を軸とした演習形式で行います。 ・ 積極的かつ協調的な取り組みを心がけるようにしてください。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマについては、「異文化ビジネス論」や「地域と国際ビジネス」の領域を中心にしながらも、ゼミ生の関心事も考慮して決めていきます。 ・ まずは、文献・資料あるいは現地で調査し、それを客観的に分析します。次に、発表、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを行いながら、仲間との議論を通じてそのテーマの理解を深め、問題点とその解決策を探っていきます。 <p>【事前事後学習課題】 文献・資料の収集、テーマに関する要点や研究の手法の整理など。</p>																		
関連科目	基礎演習 I・II など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表、グループディスカッション、プレゼンテーションを中心とした授業に取り組む姿勢 (60%) ・ 課題やレポートなど (40%) を合わせて評価します。																		
学生へのメッセージ	明朗で、行動力と協調性のある学生の育成を目指します。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 中島研究室																		
備考	総学修時間数は 60 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業論文 (研究レポート) を書くゼミです。各自、3 年次終了時点で合計 12000 字 (40 字 x30 行で 10 ページ) 以上のレポートを書くことを目標にします。4 年次には、さらに研究を積み重ねて、これらのレポートを卒業論文に発展させることを目指します。</p> <p>各自の研究テーマは、アメリカ合衆国に関するものであれば幅広く選ぶことができます。過去のゼミ生に多いテーマは、映画や映画俳優について、音楽やミュージシャンについて、野球などのスポーツについてのものです。こうした一見カジュアルな題材を通じて、アメリカ社会の政治的、社会的、歴史的な問題点を考えるのが文化研究です。</p>																		
到達目標	<p>前期のうちに、アメリカ合衆国についての基礎的な知識を増やし、各自の卒業研究の仮テーマを決め、資料を読み、文章を書く練習を始める。小さなレポートをいくつか積み重ね、合計で少なくとも 6000 字以上を提出する。</p>																		
授業方法と留意点	<p>・最初の数週間は、全員で共通の資料を読み、アメリカ社会についての共通の理解事項を作ります。その後は、各自、自分のテーマに基づいた資料を手に入れ、読み、小さなレポートを書き、それをクラスに持ち寄って話し合う、という活動を繰り返します。</p> <p>・毎週文書を PC で作成し、学内ネットワークや電子メールを使ってやりとりをします。PC の基本操作は必須であり、自分の PC を所有しているか、好きな時に使える PC を学内および自宅に確保しておく必要があります。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニープラットフォームを巡る人種差別論争：『ボカホントス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996) と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』 — グリム童話からディズニープラットフォームへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」</p> <p>【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミ活動への貢献 (50%) + 複数の小レポートの総量と質 (50%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室																		
備考	総学修時間数は 60 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	読書会を通して「物語とは何か」という問題に取り組む。																		
授業方法と留意点	受講生による発表を中心に授業を進める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>文学を難しい・堅苦しいと思いませんか。しかし文学を〈物語〉に置き換えてみるとどうでしょう。小説、映画、演劇、おとぎ話など、私たちは子どもの頃より物語と共に成長してきました。物語をとおして／物語として、物事の感じ方、社会のルール、自分のこと、他人のことを学ぶのです。だから、私たちは自分のことを話すときに、物語にして語りたくなるのです。天野ゼミでは〈物語〉を楽しむコツを学びます。コツをつかんで面白く文学を読むことができれば、きっと新しい自分が発見できることでしょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館ガイダンスをおこなう 2. 読書会をする 3. レポートを書く 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	担当範囲の発表・・・50% 授業中の発言・・・20% レポート・・・30%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3F 天野研究室																		
備考																			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>Theme: Tourism and Hospitality</p> <p>We will look at on the job situations for cabin crew, airline ground staff and hotel staff, do tour-guiding and discuss the importance of good service and polite spoken and written English for hospitality.</p>																		
到達目標	Students will attain better reading, and writing skills, with active study and increase speaking and listening skills in the class.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(First term) We will concentrate on hospitality topics, and building up reading skills in the first term from newspaper articles and the textbook.</p> <p>Youtube will be used for study at home to build up vocabulary and listening skills. Thesis topics will be decided towards the end of this term, with research in the library encouraged.</p> <p>We will also study the play to be attended during the first term, looking at four skills - speaking, listening, reading and writing to build up those skills.</p> <p>(Second term) Academic writing skills will be studied to help students formulate their ideas on a thesis topic and tourism and travel will be the basis for weekly topics.</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English for International Tourism</td> <td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Basic steps to writing research papers</td> <td>Kluge and Taylor</td> <td>Cengage</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	Attendance, oral presentations, reading books for pleasure in English, writing and research for the thesis questionnaire will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and outside events.																		
学生へのメッセージ	English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on trying, and studying outside class on a daily basis.																		
担当者の研究室等	7号館5階 田浦研究室 (Building 7, 5th floor, Koala poster on the door)																		
備考	総学修時間数は60時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>《近現代地域研究》</p> <p>各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付けていくことを最終的には目指す。第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」(データ・資料)を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。上に挙げたようなプロセスを実践的に試行錯誤していくためのゼミにしたいと考えている。</p>																		
到達目標	演習において、様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。																		
授業方法と留意点	学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	原則として隔週で発表を分担し、意見交換を行なって研究の進展を促す。発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 (発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等) 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 田中研究室																		
備考	事前事後学習時間は、総計で 60 時間を目安とする。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>グローバル化と移民をキーワードに、基本文献を輪読しつつ、テーマをめぐる基礎知識や共通認識を培う。その過程で、関心を持ったテーマについてさらに詳しい先行研究に当たり、考察を文章化する。</p> <p>必要な資料の検索・収集方法、理論書の読解、レジユメの書き方、論文執筆の基本ルールなどを指導する。</p>																		
到達目標	基本文献を精読していきながら、卒業研究レポートで取り組みたいテーマを徐々に絞り込んでいく。																		
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて発表をする。全員が資料を熟読したうえでゼミに臨むこと。発表に傾聴し、的確な質問や批判を自分の言葉で伝える力を養いましょう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 グローバリゼーション・移民・多文化社会</p> <p>基本文献を輪読し、基礎知識と共通認識を養う。レジユメの作成になれると同時に、それをもとに議論を展開できるようになることが重要である。ときに学外での研修を行うこともある。</p> <p>【事前事後学習課題】</p> <p>文献を熟読し、そこから疑問点や論点を抽出し、さらに深く調べたり自分の考えを練り文章化する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	発表への取り組みと内容、議論への参加等 70%、レポート 30%																		
学生へのメッセージ	日本語と専攻言語の両言語の力を伸ばし続けましょう。専攻外国語の力を伸ばし続けることはもちろん重要ですが、日本語での読解力と論理的な文章構成力を高めることを目指してください。																		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																		
備考	授業中に出された課題に取り組むのに要す十分な時間を事前事後学習に充てること (総時間数は60時間)。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>テーマ「現代社会と人間」</p> <p>現代社会の様々な問題を取り上げる。教科書を中心として、さらに参考資料を読み合わせ、ディスカッションやディベートを行うことを通じて、問題の本質に迫っていくことを目指す。</p> <p>これと並行して、卒業研究レポートの準備を行う。テーマの選定、文献の蒐集と読解、またそれに必要なスキルを身につける。</p>																
到達目標	<p>現代社会の問題やそこで生きる人間のあり方について、自分なりに問題意識を涵養する。</p> <p>人前で分かりやすく自分の意見を発表する力を身につける。</p> <p>必要な文献の蒐集と読解をする。</p>																
授業方法と留意点	<p>ゼミ形式での発表とディスカッションを行うので積極的な参加が求められる。テーマ自体は幅広いものになるので、特にどのような問題を取り上げるかは、参加者と相談の上、決定する。</p> <p>卒業研究レポートについては、ゼミでの勉強を踏まえて、各自でテーマを決めてもらうが、個別に課せられた課題はしっかりとこなすことが必要。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ・内容】</p> <p>「現代社会と人間」</p> <p>人間と社会そのものに対する近代的な見方がもはや成り立たなくなってきたのが現代社会の特徴であろう。そのような現代社会の様々な問題を取り上げる。例えば、科学技術に対する信頼の崩壊（原発事故）、経済成長と人口の増加を前提に組み立てられてきた社会の危機（低成長と人口減少）、人々の価値観や倫理観の変化（権威に対する不信任感、無差別テロや理由なき殺人）、等々。</p> <p>【方法】</p> <p>資料を皆で読み合わせ、ディスカッションやディベートをする。また、その結果をまとめたレポートを書いてもらう。</p> <p>個別に卒業研究レポートの準備を進める。文献の蒐集と発表をする。</p> <p>【事前事後学習課題】</p> <p>発表の準備、発表後のレポート作成</p> <p>卒業研究レポートの文献蒐集と読解。さらにテーマの発表の準備</p> <p>およそ 30 時間。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 大学生のためのレポート・論文術</td> <td>小笠原喜康</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>大人の教養</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版新書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書	2	大人の教養	池上彰	NHK 出版新書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書														
2	大人の教養	池上彰	NHK 出版新書														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	参加[貢献]度、発表[プレゼンテーション] (60%)、レポート (40%) で評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7 号館 4 階 有馬研究室																
備考	事前事後学習におよそ 60 時間必要。																

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	方法論としての社会史の概要を理解し、自ら問題を発見する。																		
授業方法と留意点	前半は、西洋社会史関連の文献を読みながら、方法論について学んでいく。新たな史料として、小説や伝説、風刺画などの「読み解き」もおこなう。 後半は、文献収集や研究の進め方、発表や討論の仕方についてガイダンスをおこなった後、各自、社会史関連のテーマを一つ選び、関連文献を収集・整理し発表をおこなう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 (1) 西洋史学の方法論、(2) 社会史とは何か、(3) 図像史料の可能性、(4) テーマ別討論 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。																		
関連科目	文化演習 II																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	発表内容 (テーマの掘り下げ方・発表の仕方など。40%)、討論 (積極的に発言しているかなど。20%)、レポート (40%) で評価する。																		
学生へのメッセージ	夢中になって取り組める研究課題を見つけてください。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 林田研究室																		
備考	西洋の歴史 (世界史) に関する予備知識は必ずしも必要ではない。 研究発表に関するフィードバックは発表時、レポートに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。 総学修時間数は 60 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	言語に関する身近なテーマを扱い、英語について、広くは言語について様々な観点から考えます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・ 英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。 (これらの能力は、就職活動をする上で、さらには社会で活躍するための基礎となるものです。) 		
授業方法と留意点	フィールドワークで外国人観光客が多く訪れる場所に何回か調査に出ます。例えば、インタビューや質問紙 (調査)、観光地における英語の調査のため、京都などへ出向きます。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ (人間の) 言葉の不思議、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・ アカデミックな題材が中心ですが、このプロセスの中で、最終的に学生自らが主体性をもって卒業研究に取り組めるようになればと思います。 ・ なぜこの言葉を使うのか、他の言葉ではいけないのか、他にどんな言葉が使えるのか (どのような違いがあるのか) 等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ゼミおよび課題への取り組み (100%)		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室		
備考	総学修時間数は 60 時間。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	いままで培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択し、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究方法や学問的思考を体得する。																		
到達目標	このゼミでは、日本語と中国語の四字熟語（成語）を中心に比較研究を行うことによって、日中の言葉の知識、表現力を涵養すると同時に、学習力、思考力を養うのを目指す。同時に研究能力を育成する。中国語の成語（四字熟語）は中国語の口語においても文章語においてもよく使われる。リズム感がよい、形式が整然とする、意味が簡潔である、などの特色を持つ表現形式なので、中国語表現上重要な働きを担う。日本語の四字熟語も、漢語の特質を生かして、ロザさみやすく、しかも含蓄に富む意味内容を表現するものとされているが、その一部は、中国の故事を背景にもつものなので、日中の四字熟語に関する学習及び比較研究は相乗効果がある。また、異文化への理解を深めることは外国語学部の学生にとって大変重要なことである。学生の希望により、中国事情、中国文化、つまり風俗、習慣、思考様式なども課題とする。中国文化の特徴などを研究することによって、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養うのを目指す。同時に研究能力を育成する。																		
授業方法と留意点	授業では、各自テーマを決め、収集した資料などを持ち寄り、それらをパソコンディスプレイで提示しながら他のゼミ生や指導教員に説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】：中国語の成語と日本語の四字熟語の比較・対照研究</p> <p>各授業において、前回は課題と内容を決め、意味と由来を調査した資料を提示する。次回は前課題をめぐって検討をする。このローテーションで進む。</p> <p>【事前事後学習課題】 指示に従って、文献・インターネット等で内容を調べて来る。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中国語成語ハンドブック</td> <td>沈国威・紅粉芳恵他</td> <td>白水社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>精選中国語成語辞典</td> <td>上野恵司</td> <td>白帝社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本人が知りたい中国人の当たり前</td> <td>林松濤他</td> <td>三修社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国語成語ハンドブック	沈国威・紅粉芳恵他	白水社	2	精選中国語成語辞典	上野恵司	白帝社	3	日本人が知りたい中国人の当たり前	林松濤他	三修社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中国語成語ハンドブック	沈国威・紅粉芳恵他	白水社																
2	精選中国語成語辞典	上野恵司	白帝社																
3	日本人が知りたい中国人の当たり前	林松濤他	三修社																
評価方法（基準）	プレゼン 30%、提出物 70%。																		
学生へのメッセージ	もっと知りたいという好奇心を持ちましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																		
備考	総学修時間数は60時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 資料調査、分析、プレゼンテーション、わかりやすい文章にまとめる、といった体験を通して、研究手法や考え方を学びます。 グループやペアでの活動を通して、卒業後にも生かせる、人との関わり方のバリエーションを増やします。 																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 多面的に物事を見る、もしくは見ようとする姿勢を身に着ける。 想定する聴衆にとってわかりやすい情報の構成や見せ方を工夫できるようになる。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 実物を観察し、触れ、また何かを作る、といった作業を体験したあと、言語化する練習をします。 新聞やニュースの記事 (日本語・英語)、本などを用いて、調査・発表・議論をします。 いずれもスピードが要求されるので、毎回の授業に全力で取り組んでください。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 言語・文化、芸術、コミュニケーションなどの分野に関する研究 今年のテーマは「外国語学習と対話」です。</p> <p>前期は、現在、日本の小学校で始まっている外国語活動・英語学習の背景と、小学生にゼロから英語を使って「積極的に異文化圏の人とコミュニケーションをとろうとする態度を育てる」ための教え方、授業の仕組み、などを学びます。実技ができるよう練習します。</p> <p>また、学期中に複数回、ピブリオバトルを行います。おもしろい本をたくさん読んで準備してください。</p> <p>【事前事後学習課題】 授業で扱ったテーマについて、自分で直接現場に行って調べたり、インターネットとは違う情報源を探してみましょう。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プリント教材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント教材			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	プリント教材																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業にて紹介します</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業にて紹介します			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	授業にて紹介します																
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> 授業での協働作業 30% プレゼンテーション 30% レポート 40% 																
学生へのメッセージ	好奇心を覚醒させて、何でも見て、体験して、自分の感性を鍛えよう。																
担当者の研究室等	7 号館 4 階 齋藤研究室																
備考	担当者の専門：文体分析・言語教育のための教材制作・教員養成・通訳/翻訳・舞台や学会の裏方 ほか 総学修時間数は 60 時間。																

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	The purpose of this course is to introduce language and study skills that will allow students to discuss their ideas and to write an academic paper in English. Additionally, students will learn how to do a close reading of comics in order to understand how comics can provide insight into social issues.																		
到達目標	These are the goals for this course. You will: Improve your reading stamina and comprehension. Improve your note taking skills. Learn how to plan and write well-organized reports. Learn how to use technology to express your ideas. Actively discuss your ideas.																		
授業方法と留意点	Students will do weekly comic readings. Each week will feature a different social issue. These topics will be discussed in-class. In discussions, an emphasis will be placed on students making observations based on evidence and on asking questions that reveal new ways of approaching the material.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	We will be reading and analyzing comics in this seminar. The focus will be on American comics, but comics from other cultures may also be considered. We will look at how comics reflect the views of their creators on various social issues. Week 1: Introduction Week 2: Media and Power Week 3: Culture and Comics Week 4: Culture and Comics Week 5: Race and Comics Week 6: Gender and Comics Week 7: Class and Comics Week 8: Superheroes and Comics Week 9: Writing: Outline and Introduction Week 10: Writing: Literature Review Week 11: Writing: Content Week 12: Writing: Conclusion Week 13: Talk Planning Week 14: Talk Practice Week 15: Talk Presentation																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	Talk 20% Academic Paper 35% Weekly Quiz 15% Notes 15% Participation 15%																		
学生へのメッセージ	There is no textbook for this course. However, you will be asked to purchase a comic during the course. It will cost around 2000 yen. All other reading materials will be provided by the teacher.																		
担当者の研究室等	Building 7, 3rd Floor, フーパー研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	The purpose of this class is to choose a topic that you are passionate about and deepen your understanding through reading and research. This is an ideal course for students currently studying abroad or who plan on doing so in the future.		
到達目標	It is expected that students will learn-by-doing. Using English as a medium of instruction will enable students to improve not only the four language skills, but also their critical thinking abilities.		
授業方法と留意点	The material will be presented through lecture, readings, and occasionally through video and audio. Students are expected to keep a notebook. There will be opportunity for class discussion and group work.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	The focus of this seminar is academic English. Students will read articles from a variety of academic disciplines and focus on the relevant grammar and vocabulary. Students will study and develop their research skills and will be expected to write and present regular reports.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Focus on Vocabulary 2: Mastering the Academic Word List	Diane & Norbert Schmitt
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	Tests 45%, assignments 45%, attendance & attitude 10%.		
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の研究室等	Building 7 3F Herke's office.		
備考	Please bring a dictionary. 資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	文章(本や論文、記事)を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。 スペイン語またはそれ以外のロマンス語の基礎知識があることが望ましいが、文献は英語、日本語のものを精読する。全体として取り組む基本書を数冊と、各自の研究のための文献(本・資料)を併読するが、どちらも丁寧に読み、要約、発表、議論などを行って、最終的にはレポートを執筆する。																
到達目標	読書の習慣を作る。解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解をまとめ、それに対する自らの意見を構築し発表すること。																
授業方法と留意点	とにかく毎日、論理的な書き物に触れること。日頃から物事について思考を巡らせること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは、スペインを主とする南欧の言語・歴史・文化・社会の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられると思えるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。 ・現代スペインの社会問題：カタルーニャの独立問題、自治州における言語政策・教育、移民問題など ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題(ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル)、印刷技術(情報革命)、宗教改革、都市の歴史など ・現代スペインの多様な文化、諸地域の固有の文化など とにかく文章を読み、要約し、発表する。																
関連科目	スペイン語専攻の諸科目、言語科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	日ごろの受講姿勢(読書や議論、発表に対する意欲と準備の有無、精度)と発表およびレポート等の質による。それぞれ50%ずつを目安として判断する。																
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。これらのことを日常とするように。																
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室																
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。																

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	2年次までに培った基礎力をもとに、自身が取り組むテーマを検討する。このゼミにおいては、主に現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会現象や社会現象を取り上げることとする。 具体的には、本格的な文献検索や論文読解、資料調査、現地調査実習などを行い、研究方法や考え方を体得する。 最終成果として、後期末に「3年次レポート」を作成、提出する。																		
到達目標	研究に対する考え方の整理を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。 また、ゼミ内外の人びとと接することを通じて、「気づき」「目くぼり」「心くぼり」ができる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	授業では積極的に発言を行い、切磋琢磨できるような刺激的な環境を作っていくよう努力すること。 なお、4年ゼミ生との合同ゼミ合宿(秋)および1月に行われる4年ゼミ生による「卒業論文発表会」への参加を必須としている。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 各自がテーマを設定し、個別発表を行う。その際には、レジユメの作成法や研究発表の仕方等についても学ぶ。後期末には、一年間の総決算として、「3年次レポート」を作成する。 ちなみに、2017年度生が取り組んだテーマは次の通り。 『オネエ』が意味するもの—辞書の記述内容に関する比較研究—「桜が与える印象—日本における桜と海外における桜を比較して—」「日本アニメの発展—海外受容の姿に関する考察—」「学生の問題関心—2017年度摂南大学外国語学部における卒業研究レポート題目から浮かびあがるもの—」「日本バスケットボールリーグの発展—NBAリーグとの比較を通じて—」「焼酎の名前に関する考察」</p> <p>【事前、事後学習課題】 文献資料・インターネット等を活用し、自身の研究を深化させる。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「研究」を進めるために—研究資料ガイド2018—</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2018—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2018—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3																			
評価方法(基準)	ゼミでは、積極性が特に重視されます。そこで、成績評価については、ゼミ討論への積極的な参加状況(50%)、「3年次レポート」の成果(50%)により、総合的に判断します。																		
学生へのメッセージ	ぜひ、楽しんで「研究」に取り組んでいきましょう。「研究」は、「お勉強」とは違って、必ずや、皆さんに満足感や達成感を与えるものとなることでしょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)																		
備考	事前事後学習時間 計60時間																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	国内外の映画・ドラマ・文学作品を英語で読解し、自分たちでアレンジを加えながらスクリプトを作成し、実際に演じる/演出して、オリジナルの英語ムービーを作成する。インプット(リーディング・リスニング)・アウトプット(スピーキング・ライティング)連動型の授業を行う。また4年次の卒業研究で扱うテーマを設定する。																		
到達目標	ただ漠然と対象作品を英語を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりするのではなく、自分たちが演じる/演出することを想定しながら、英文をインプット・アウトプットできるようになる。																		
授業方法と留意点	グループでの作業が多くなるので、協調性と責任感を持って、授業に臨むこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 クラスメイトと協同で、30分程度の英語ムービーを作成する。</p> <p>【事前・事後学習課題】 毎授業で目標を設定し、その目標を達成するための事前・事後学習を行う。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	ショートムービー 50% グループワーク 30% 課題 20%																		
学生へのメッセージ	グループワークが基本になります。協調性を持って、ゼミメンバーとクオリティーの高い作品を完成させましょう！																		
担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	《世界の中の日本語・日本文化》 日本文化や日本語など、「日本」について見つめ直す作業をする。 いったい日本とは、日本文化とは、日本語とは何なのか、考えてみることで、各自の関心ある言語やテーマについて、新たな視点を持つことを目指す。			
到達目標	各自の関心あるテーマについて資料収集ができる。考えを整理し、報告できる。			
授業方法と留意点	学生主体で行う。各自が関心あるテーマに基づいて報告・発表し、意見交換する。 活発な意見交換を期待する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。 およそ隔週で報告を行い、毎週他の学生の報告について積極的な発言が求められる。 十分に報告準備を行うこと。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	平常点(報告内容、参加態度、課題)100%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館4階			
備考	事前事後学習時間 計60時間			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	担当教員の指導のもと、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査等を行い、研究に必要な手法や考え方を体得します。			
到達目標	自分の関心のあるテーマについて文献を調べ、それを整理し、発表することができるようになる。			
授業方法と留意点	「ことば」に関する資料を読みながら、基本的な知識を身につけていく。その際、全体で意見を交換・共有しながら、各トピックに関する理解を深めていく。最終的に、自分の最も関心のあるテーマを絞りこみ、卒業研究へとつなげていく。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】	言語学演習	【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC TEST GRAMMAR 5分間 TOEIC テストサブリメント 文法・語法	小池直己	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への積極性 50% 授業での発言 20% 課題 30%			
学生へのメッセージ	これから2年間、一緒に頑張っていきましょう。			
担当者の研究室等	後藤研究室(7号館5階)			
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	研究テーマについてどのように研究を進めるかについて指導する。収集した研究資料の分析についても指導する。以上の指導に基づき、各自でテーマを決め研究を進め研究成果を発表してもらおう。レポートの書き方についての説明を行う。最終的にレポートを作成する。		
到達目標	研究を進め、成果をまとめる能力の獲得。		
授業方法と留意点	演習では、各自が作業を行うことが多い点に留意しておくように。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	授業の中で指示された作業を必ず行うこと。特に発表の際には事前に充分準備をすること。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	平常点、発表、レポートによる総合評価 平常点 20%、発表 30%、レポート 50%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階(山口研究室)		
備考	指示された予習・復習・発表の準備には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p><場所イメージの形成・変容・影響>をテーマとし、各自が問題を設定し、報告・議論をとおして論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。それとともに、全員で課題文献を読み、基礎となる知識と視点を共有する。</p>																		
到達目標	<p>論理的な思考にもとづく分析と考察、ディスカッション、プレゼン、文章表現の能力を身に付ける。資料の探し方や使い方を身に付ける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>各自が関心のある問題について報告し、議論する。並行して、全員で課題文献を読み、基礎となる知識と視点を共有する。その過程のなかで、各自が卒業研究で取り扱う問題を徐々にしぼりこんでいく。学期末には、その時点までの報告内容をまとめたレポートを書く。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 場所イメージとは何か。それはいかに形成・変容し、いかなる影響を与えるのか。それらを事例をとおして理解する。と同時に、関連する研究内容と基礎となる知識・視点の共有する。資料の探し方・使い方も身に付ける。</p> <p>【事前事後学習】 報告準備をしっかりとすること。課題文献を読み、その要点をまとめること。出された課題にしっかりと取り組むこと。学期末には、それまでの報告内容をふまえ、やや長めのレポートをまとめること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点(報告内容、レポート、参加態度) 100%																		
学生へのメッセージ	3年後期は、卒業研究で取り扱う問題を考える、大事な時期です。自分が関心のある問題を、いろんな角度から、とことん掘り下げてみてください。																		
担当者の研究室等	7号館5階 柴田研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	地域活性化、環境問題、世界遺産、観光など、地域や地理学と関連するテーマについて各自が関心を深め、卒業論文にむけた準備作業を行います。																		
到達目標	「研究」の遂行に必要な問題の発見力、データの収集・分析力、文章の構成力、執筆能力、全体のマネジメント能力などを身につける																		
授業方法と留意点	研究を遂行していくための基礎(研究手法・ルール・コツ等)についてはそれぞれ解説し、それをもとに文献購読やフィールドワークを実践していきます。 また、テーマに関するプレゼンテーション及びディスカッションを参加者全員で行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業のテーマ】 地域を知る・地域に学ぶ</p> <p>【事前事後学習】 関心のあるテーマについて、十分に情報収集をする。また、テーマや研究手法について授業外でも積極的に学び、自らの研究活動に役立てる。学習時間は60時間以上を目安とする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業への参加状況(議論での積極性等)(50%)と、種々のアウトプット(プレゼンテーションの内容、レポート等)(50%)によって評価する																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 手代木研究室																		
備考																			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉 誠
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	前期に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに、英語の語法や文法についてさらに深く学ぶ。基本的な文法事項も再確認しながら、英語の実証的な研究の一端に触れる。適時担当を決めて、英語の語法文法や英語の変化について発表を行う。4年次の卒業研究に向けてテーマ設定と資料収集を行う。																
到達目標	本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や考え方を体得する。英語学に関する簡単な文献がある程度時間をかけながら理解できるようになる。英語の基本的な文法事項を整理確認する。また、前期で学習した内容を踏まえ、英語のさまざまな表現に興味を持ち、その成り立ちや意味、変化について辞書や文法書・語法書などで調べて発表できるようになる。																
授業方法と留意点	文献の輪読や発表、プレゼンテーションを行う。そのような学びを通じて、4年次の卒業研究に向けてテーマ設定と資料収集を行う。日常使われる英語の表現や語法に関心をもつことが望まれる。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】 現代英語語法文法研究、英語の変容研究</p> <p>【内容】 現代英語の語法や文法について学ぶ。英語の変化にも注意しながら、これまでの「定説」と違う例などがある場合は、なぜそのような形が使用されているのかといったことを考えながら、</p> <p>【方法】 映画の英語や、インターネット上で使用される英語、新聞などの英語から、現代英語の実態を明らかにする実例を探して、討議する。</p> <p>またそのような作業を進めるうえで、基本的な英文法の事項を習得しておくことが前提であるので、毎回英語の文法語法について復習を兼ねたエクササイズを行う。</p> <p>英語の文献の輪読を行い、担当ごとに発表をする。前期で扱った文献とはかなり違うトピックを読んでいくことになる。</p> <p>【事前・事後学習課題】 配布された文献を読みこんでくる。また、グループでの発表のための準備。エクササイズの予習、復習など。総事前・事後学習課題は、発表の準備などを含め60時間とする。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業中のプレゼンテーション (30%) 授業中の担当発表 (20%) 卒研に向けた準備期末レポート(50%)																
学生へのメッセージ	ちょっとした言葉の使い方に疑問を持ち、「なぜ」を追求する楽しさを実感してください。																
担当者の研究室等	7号館4階 住吉 誠 研究室																
備考																	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	対象とする国/地域の歴史や社会について、それぞれテーマを設定し、調査、分析、発表するための基礎的な方法を学びます。また授業外での調査を通して、その方法を実践します。																		
到達目標	自ら課題を設定し、それを調査、分析、発表するための基礎的な力を習得する。																		
授業方法と留意点	文献講読を通して、テーマの設定、文献収集、インターネットの利用、フィールド調査、研究発表など、研究を進めるための方法を学ぶ。またそれぞれが関心のある国/地域をとりあげてテーマを設定し、担当を決めて発表、討論する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 調査のための準備を行う。 各自が関心をもっている事柄についてテーマ発表を行い、レポートを作成する。</p> <p>【事前事後学習】 課題文献をしっかりと読む。 発表のための資料作成・準備をする。 レポートを作成する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業への貢献(50%)、発表・レポート(50%)によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	小都研究室(7号館3階)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>本を読むとき、映画を観るとき、人と話すとき、そのベースとなる背景知識を持っているか否かで話の理解度が大きく変わってきます。このゼミでは、英語圏に共通する「知っておくべき事柄」を学び、文化知識の土台作りをします。取り扱う分野は、文学、ことわざ&イディオム、神話、音楽、芸術、建築物などです。</p> <p>また、ゼミとして多読活動に取り組みます。最初は自力で読める易しめの本を紹介しますが、後半には、映画化された児童文学作品を読んだり、実体験に基づくライフストーリーを読んだりして、豊かな表現に触れてもらうとともに、「今まで考えたこともなかった」ような、外の世界にも目を向けてもらいます。</p>																		
到達目標	与えられたテーマに関して調べ、それをレジュメにまとめて発表できるようになることを目指します。また、多読は初心者で5万語、経験者で10万語を目標とします。																		
授業方法と留意点	初日に決めたスケジュールに沿って、各自が当たったテーマを調べ、レジュメを作成してきます。授業中は発表と理解度チェックに充てます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初日に一学期間のテーマと担当を決めます。また、レジュメのサンプルを見せます。次回からは、各人がスケジュールに沿って下調べをしレジュメを作成してきます。余力があるようなら、全員で読む本も一冊指定するかもしれません。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題準備 20%、発表 30%、理解度チェック%、多読 20%																		
学生へのメッセージ	絵本や本、映画などを通して、ことばのみならずその背景にある文化や歴史を楽しく学んでもらえればと思います。「やるときはやる！」ゼミですので、みなさんの頑張り期待您的しています。																		
担当者の研究室等	7号館5階松田研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	本演習は、卒業研究を進めていく上での準備段階と位置づけている。自分で「調べる」という営みを始動することができるように演習を通じて指導を行っていく。受講者自身が設定した調査主題に関連する文献の講読と、調査成果についての報告を行う。相互のディスカッションを通じて人類的な「調べる」営みについて考えていき、卒業研究のための調査を指導することを目指す。			
到達目標	主体的に「調べる」営みに取り組み、成果を適切な形でアウトプットする。			
授業方法と留意点	前半は文献講読を行う。 後半は調査報告とディスカッション等に当てる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「人類的に調べる」が本演習の主題である。文献講読とディスカッションが中心になる。 文献講読時は、演習の時間を有意義に使うために、授業の前に指定された文献を精読することが強く望まれる。成果報告時は配付資料の準備、その他関連資料の収集と提示など含めて一人30分程度の発表時間がある。発表者、コメンテーター、聴衆のいずれも発言することが求められるため、授業時間外に行う作業の質と量が問われる。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	発言や質問など、演習への主体的な取り組み(20%)、課題(50%)、口頭発表(30%)に基づいて行う。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館5階上田研究室			
備考	レポート等の提出課題は評価を記して返却する。 資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	神崎 舞
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	舞台芸術(演劇、ミュージカル、サーカス、ダンスなど)の映像資料の鑑賞や、作品のテキスト及び関連資料の輪読を通して、さまざまな舞台芸術に親しむ。また、研究対象とする作品や劇団が生まれた社会的・文化的背景に関する知識の習得も目指す。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術について、基礎的な知識を習得する。 ・卒業研究のテーマを定める。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業では、積極的に議論に参加すること。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 舞台芸術研究入門</p> <p>【内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術作品あるいは劇団などについてリサーチし、発表及び小レポートとしてまとめる。 ・プレゼンテーションや議論を重ねることで、卒業研究のテーマを定め、レポートとしてまとめる。 ・すべてのレポートは最終的に1冊の『ゼミジャーナル』として製本する。 <p>【事前・事後学習課題】 プレゼンテーションやレポートの準備など。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点(授業に取り組む姿勢など): 50% レポート: 40% プレゼンテーション: 10%																		
学生へのメッセージ	日頃から舞台芸術に対する関心を持つようにして下さい。そして受講者が主体となって、楽しく活気あるゼミを作っていきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室																		
備考	レポートの場合は返却時に、プレゼンテーションの場合は終了後にフィードバックを行う。 資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	文化演習Ⅰに引き続き、米国の社会学者 Harvey Sacks たちによって創始された会話分析 (Conversation Analysis) の方法論について、基本的な考え方や分析手続き・分析方法を、講義とデータ・セッション (実際のデータを見ながら議論する) を交えながら学んでいく。また、並行して、研究を進めていくための基本的な姿勢・態度、論文・レポートの執筆法、データの取り扱い方等についても随時触れていく。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会話分析の基本的な考え方や分析手続き・分析方法を理解する ・会話分析の方法論に基づき、実際の会話データを使って、基本的な構造を分析できる ・研究を進めていくための基本的な姿勢・態度、論文・レポートの執筆法、データの取り扱い方等に関する基本的な知識を身に付ける 																		
授業方法と留意点	授業では、講義とデータ・セッション (実際のデータを見ながら講義で取り上げられた現象をみんなで分析し、議論する) を交えて進めていきます。特に、データ・セッション時には、議論に積極的に参加してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ： 会話分析の基礎を理解する</p> <p>内容： 1. 会話の修復に係る組織について 2. 会話における物語の構造・組織について 3. 発話の組み立て・デザインと成員カテゴリーという考え方について</p> <p>方法： 講義とデータ・セッション (実際のデータを見ながら講義で取り上げられた現象をみんなで分析し、議論する) を交えて行います。また、講義の一部については、担当学生に教科書の指定範囲について発表してもらいます。</p> <p>事前、事後の学習課題： ・指定教科書を事前に読んだり、授業後に読んで復習する ・データ分析の課題に取り組んでもらいます</p>																		
関連科目	文化演習Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>会話分析の基礎</td> <td>高木智世他</td> <td>ひつじ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	会話分析の基礎	高木智世他	ひつじ書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	会話分析の基礎	高木智世他	ひつじ書房																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎から分かる会話コミュニケーション</td> <td>高梨克也</td> <td>ナカニシヤ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>会話分析基本論集</td> <td>H. サックス他 (西坂仰 訳)</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>会話分析入門</td> <td>串田秀也他</td> <td>勁草書房</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎から分かる会話コミュニケーション	高梨克也	ナカニシヤ出版	2	会話分析基本論集	H. サックス他 (西坂仰 訳)	世界思想社	3	会話分析入門	串田秀也他	勁草書房
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	基礎から分かる会話コミュニケーション	高梨克也	ナカニシヤ出版																
2	会話分析基本論集	H. サックス他 (西坂仰 訳)	世界思想社																
3	会話分析入門	串田秀也他	勁草書房																
評価方法 (基準)	期末レポート：50% 課題：30% 授業参加度 (ディスカッション・発表を含む)：20%																		
学生へのメッセージ	会話分析は、言葉の形や意味そのものの分析ではなく、私たちが言葉を使って何をしているか、という切り口から見ていきます。ありふれた (日常) 会話の分析を通じて、いっしょに新しい発見をしていきましょう！！																		
担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。		
到達目標	本授業を受けることによって、コミュニケーションとは何かを理論的に学ぶことができます。さらに、テキストを正確に読み、理解し、それについて多面的に考察し、自分の意見を述べるできるようになります。実際に何度も練習を行うことによって、コミュニケーション能力を高めることもできるようになります。		
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて発表をします。担当者だけでなく、参加者全員が予習範囲のテキストをしっかり読んで理解して授業に臨んでください。コミュニケーションな方法だけでなく、その内容が大事です。日ごろから情報や知識の獲得を心がけてください。英語の文献も読みますので予習をしてきてください。毎回、スピーチをしてもらいますので準備をしてきてください。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 コミュニケーションの取り方を理論的・実践的に学びます。最も大切なのは、相手の気持ちに配慮し、伝えたいことを正しくきっちり伝えることです。 そのためには何度も練習しなければなりません。 そこで、読んで考え、聞いて話すことを繰り返し行うことが決定的に重要になります。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とします。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	コミュニケーション学入門	大田信男 他
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	平常点 40%、課題・発表 30%、期末レポート 30%		
学生へのメッセージ	失敗しながらも楽しくコミュニケーションを学びましょう。		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室		
備考			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	日本の文化や歴史を中心に、各自テーマを設定し、報告、議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。来年の卒業論文にむけて準備をする。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	設定したテーマについて報告と討論を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 報告と討論を積み重ねることで、テーマにかかる理解を深め、卒業研究に向けて準備する。</p> <p>【事前事後学習】 自分の発表時はもちろん、他者が発表する前に報告者のテーマに関する文献を読み議論に備える。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	ゼミ活動への取り組み(100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階 赤澤研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	後期では、前期の活動で提起した社会問題について、様々な角度から調査し、その原因や解決方法を導くプロセスを習得する。その中から、自分にあった卒業研究テーマを見つけ出す。																
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																
授業方法と留意点	このゼミは、「夢」を持ちそれに向かって全力投球したい学生のゼミであることから様々な課題を自分自身で課すことになる。課題発見解決能力の開発や、現場ですぐに役立つ実践力を高めるプログラムを実践する。また、幼稚園、小学校、中学校の教員を目指す学生には教員採用試験の過去問題や面接対策の勉強会を行う。OB・先輩・外国人との交流が多く、年間3～4回のゼミ合宿に必ず参加することを強く希望する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 社会に貢献できる活動を実践することから、学外での活動が多い。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べる。</p> <p>計画に基づいた活動、活動発表、報告書を総合的に評価する。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	ゼミ活動参加 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表力 20%で判断する。																
学生へのメッセージ	一歩前進ではなく、半歩前進でも、前に進んだことになる。小さな成功体験の積み重ねが、エネルギーになることを実感すると、挑戦することが楽しくなります。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。																

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大原 一浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	インターネットの普及やグローバル化によって、日本の企業は日々激しい変化に対応することを迫られています。景気が良かった頃のやり方をくり返すだけでは十分ではありませんし、外国の人々と取引し、働く機会も増えています。こうした状況の中、言われた仕事をこなすだけではなく、自分で考え、分析し、意見を伝えられる人材はどの分野でも必要とされています。そこで役立つのが、リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションの力です。前期に学んだスキルと知識を使い、自分が関心のあることについて問題を設定し、それについて調べ、自分なりの意見を効果的に表現するための訓練をさらに積んでいきます。																
到達目標	① 問題を設定し、それについて調べ、自分なりの意見を効果的に表現できる技術を身につける。 ② 効果的なアカデミック・コミュニケーション能力を身につける。 ③ 課題を発見し、卒業研究で取り組むテーマに関する基礎的な知識を得る。																
授業方法と留意点	① 協調性と積極性をもって、活動に参加すること。 ② 課題の内容について、わからないことがあったら質問すること。 ③ 担当の課題は責任をもってやること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	[授業テーマ・内容・方法] 文献の輪読、発表、議論を中心に進める。 [事前事後学習課題] ① 各自の役目(質問の用意、議論の司会、規定どおりのレポート作成)を果たすこと。 ② 研究ノート(初回に説明)は規定の分量を、定期的に書くこと。 [予定] ・夏休み明けに仮トピック+読書リストを提出 ・後期~春休みまで、計画に従って読書とノート・テーキングを進める 【事前事後学習】 課題、発表の準備、レポートの作成など合計約60時間。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新時代アメリカ社会を知るための60章</td> <td>明石書店</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新時代アメリカ社会を知るための60章	明石書店		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	新時代アメリカ社会を知るための60章	明石書店															
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への貢献度 50% 課題やレポート 50%																
学生へのメッセージ	このゼミは多様な見方に価値を置くので、「こんなことを言ったら笑われる」という心配はないです。お互いの話に耳を傾け、必要以上に批判的にならず、助け合おうという姿勢を重視します。																
担当者の研究室等	7号館5階(大原研究室)																
備考																	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	Webには、解説つきの写真や動画を誰もが投稿できるサイトがある(GoogleマップやYouTubeなど)。当ゼミでは手元の写真のうち公開可能なものに日本語や外国語で案内文を作成しそれを投稿する活動を行う。授業では、各自が持ち寄った日本語文の内容や外国語への翻訳が適切かどうかを全員で検討しながら完成度を高める。撮影地は通常自由だが、ゼミによる観光地取材も適宜行う。																		
到達目標	日本の歴史や地理に関する情報について、書籍やWebで得る情報と、現地での調査で得られる情報の違いを知ることができる。観光情報の翻訳作業では、必要な情報をできるだけ分かりやすい外国語に翻訳する技術を身につけることができる。また、外国人観光客に対する観光動向の調査活動を通じて、外国語によるコミュニケーション能力の向上が期待できる。																		
授業方法と留意点	個人またはグループでテーマを決め、予め書籍やWebなどで調査したうえ現地へ行って写真やビデオの撮影を行う。さらにそれを素材として観光案内のための原稿を作成して授業で発表、必要な修正を加えて動画に編集したりWebサイトに登録するなどの作業を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	後期は、前期のゼミで身につけた技術や経験を活かしながら、ビデオカメラによる撮影を現地で行い、これをつかった映像作品の作成を課題とする。また、外国人観光客へのインタビューも課題の一つとしたい。																		
関連科目	日中観光文化と通訳法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(60%)、レポート、プレゼン(40%)をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次前期までに培った修学上の基礎力や学術的な関心に基づいて、ビジネスと文化・社会の関係を中心に具体的な事例とともに研究していきます。 ・文献・資料あるいは現地で調査し、それを分析する力や、グローバルとローカルの両方の観点から論理的に考える力を養うことなどを授業目的とします。 																
到達目標	主にビジネスの観点から、国際社会や異文化に関する理解を深めることと、それに基づいて4年次の卒業研究につながるような研究テーマを見つけることを目標とします。																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やビジネス誌の記事などを用いて、調査・発表・議論を軸とした演習形式で行います。 ・積極的かつ協調的な取り組みを心がけるようにしてください。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについては、「異文化ビジネス論」や「地域と国際ビジネス」の領域を中心にしながらも、ゼミ生の関心事も考慮して決めていきます。 ・まずは、文献・資料あるいは現地で調査し、それを客観的に分析します。次に、発表、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを行いながら、仲間との議論を通じてそのテーマの理解を深め、問題点とその解決策を探っていきます。 <p>【事前事後学習課題】 文献・資料の収集、テーマに関する要点や研究の手法の整理など。資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とします。</p>																
関連科目	文化演習Ⅰなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・発表、グループディスカッション、プレゼンテーションを中心とした授業に取り組む姿勢(60%) ・課題やレポートなど(40%) を合わせて評価します。																
学生へのメッセージ	明朗で、行動力と協調性のある学生の育成を目指します。																
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																
備考																	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>アメリカ合衆国の文化、歴史についての卒業論文(研究レポート)を書くゼミです。各自、3年次終了時点で合計12000字(40字x30行で10ページ)以上のレポートを書くことを目標にします。4年次には、さらに研究を積み重ねて、これらのレポートを卒業論文に発展させることを目指します。</p> <p>各自の研究テーマは、アメリカ合衆国に関するものであれば幅広く選ぶことができます。過去のゼミ生に多いテーマは、映画や映画俳優について、音楽やミュージシャンについて、野球などのスポーツについてのものです。こうした一見カジュアルな題材を通じて、アメリカ社会の政治的、社会的、歴史的な問題点を考えるのが文化研究です。</p>																		
到達目標	<p>前期からの通算で、合計少なくとも12000字以上のレポートを提出すること。</p>																		
授業方法と留意点	<p>・各自、自分のテーマに基づいた資料を手に入れ、読み、小さなレポートを書き、それをクラスに持ち寄って話し合う、という活動を繰り返します。</p> <p>・毎週文書をPCで作成し、学内ネットワークや電子メールを使ってやりとりをします。PCの基本操作は必須であり、自分のPCを所有しているか、好きな時に使えるPCを学内および自宅に確保しておく必要があります。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニープラザを巡る人種差別論争：『ボカホントス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「白雪姫 — グリム童話からディズニープラザへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」</p> <p>【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	ゼミ活動への貢献(50%)+3年次終了時点までの小レポートの総量と質(50%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3階 鳥居研究室																		
備考																			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	読書会を通して「物語とは何か」という問題に取り組む。																		
授業方法と留意点	受講生による発表を中心に授業を進める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>文学を難しい・堅苦しいと思っていませんか。しかし文学を〈物語〉に置き換えてみるとどうでしょう。小説、映画、演劇、おとぎ話など、私たちは子どもの頃より物語と共に成長してきました。物語をとおして／物語として、物事の感じ方、社会のルール、自分のこと、他人のことを学ぶのです。だから、私たちは自分のことを話すときに、物語にして語りたくなるのです。天野ゼミでは〈物語〉を楽しむコツを学びます。コツをつかんで面白く文学を読むことができれば、きっと新しい自分が発見できることでしょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館ガイダンスをおこなう 2. 読書会をする 3. レポートを書く <p>後期は4年生と合同でゼミをおこなう。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	担当範囲の発表・・・50% 授業中の発言・・・20% レポート・・・30%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3F 天野研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	Theme: Tourism, Hospitality and Australian culture We will look at on the job situations for cabin crew, airline ground staff and hotel staff, do tour-guiding and discuss the importance of good service. Australia will also be a focus for tourist destinations.																		
到達目標	Students will attain better reading, and writing skills, with active study and increase speaking and listening skills in the class.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(First term) We will concentrate on hospitality topics, and building up reading skills in the first term from newspaper articles and the textbook.</p> <p>Youtube will be used for study at home to build up vocabulary and listening skills. Thesis topics will be decided towards the end of this term, with research in the library encouraged.</p> <p>We will also study the play to be attended during the first term, looking at four skills - speaking, listening, reading and writing to build up those skills.</p> <p>(Second term) Academic writing skills will be studied to help students formulate their ideas on a thesis topic and tourism and travel will be the basis for weekly topics.</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English for International Tourism</td> <td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Basic steps to writing research papers</td> <td>Kluge and Taylor</td> <td>Cengage</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and drama events. You will undertake a research project for your thesis in 2nd term.																		
学生へのメッセージ	English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on trying, and studying outside class on a daily basis.																		
担当者の研究室等	7号館5階 田浦研究室 (Building 7, 5th floor, Koala poster on the door)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>《近現代地域研究》</p> <p>各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付けていくことを最終的には目指す。第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」(データ・資料)を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。上に挙げたようなプロセスを実践的に試行錯誤していくためのゼミにしたいと考えている。</p>																		
到達目標	演習において、様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。																		
授業方法と留意点	学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	原則として隔週で発表を分担し、意見交換を行なって研究の進展を促す。発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点(発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等)100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 田中研究室																		
備考	事前事後学習時間は、総計で60時間を目安とする。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	グローバル化と移民をキーワードに、基本文献を輪読しつつ、テーマをめぐる基礎知識や共通認識を培う。その過程で、関心を持ったテーマについてさらに詳しい先行研究に当たり、考察を文章化する。必要な資料の検索・収集方法、理論書の読解、レジユメの書き方、論文執筆の基本ルールなど研究の手法を指導する。																		
到達目標	文化演習Ⅰで得た国際社会学をめぐる基礎知識と、見つけた関心領域・対象をもとに、卒業研究レポートのテーマを定めるまでに至る。																		
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて発表をする。全員が資料を熟読したうえでゼミに臨むこと。発表に傾聴し、的確な質問や批判を自分の言葉で伝える力を養いましょう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 グローバリゼーション・移民・多文化社会 基本文献を輪読し、基礎知識と共通認識を養う。レジユメの作成になれると同時に、それをもとに議論を展開できるようになることが重要である。ときに学外での研修を行うこともある。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献を熟読し、そこから疑問点や論点を抽出し、自分自身の研究課題に取り組む。各自の研究テーマに即した主要文献を薦める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	発表への取り組みと内容、議論への参加等 70%、レポート 30%。																		
学生へのメッセージ	専攻外国語の力を伸ばし続けることはもちろん重要ですが、日本語での読解力と論理的な文章校正力を高めることを目指してください。																		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																		
備考	授業中に与えられた課題に取り組むのに要す十分な時間を事前事後学習に充てること(総時間数は60時間)。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<p>テーマ「現代社会と人間」</p> <p>現代社会の様々な問題を取り上げる。教科書を中心として、さらに参考資料を読み合わせ、ディスカッションやディベートを行うことを通じて、問題の本質に迫っていくことを目指す。</p> <p>これと並行して、卒業研究レポートの準備を行う。テーマの選定、文献の蒐集と読解、またそれに必要なスキルを身につける。</p>																
到達目標	<p>現代社会の問題やそこで生きる人間のあり方について、自分なりに問題意識を涵養する。</p> <p>人前で分かりやすく自分の意見を発表する力を身につける。</p> <p>必要な文献の蒐集と読解をする。</p>																
授業方法と留意点	<p>ゼミ形式での発表とディスカッションを行うので積極的な参加が求められる。テーマ自体は幅広いものになるので、特にどのような問題を取り上げるかは、参加者と相談の上、決定する。</p> <p>卒業研究レポートについては、ゼミでの勉強を踏まえて、各自でテーマを決めてもらうが、個別に課せられた課題はしっかりとこなすことが必要。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ・内容】</p> <p>「現代社会と人間」</p> <p>人間と社会そのものに対する近代的な見方がもはや成り立たなくなっているのが現代社会の特徴であろう。そのような現代社会の様々な問題を取り上げる。例えば、科学技術に対する信頼の崩壊(原発事故)、経済成長と人口の増加を前提に組み立てられてきた社会の危機(低成長と人口減少)、人々の価値観や倫理観の変化(権威に対する不信任感、無差別テロや理由なき殺人)、等々。</p> <p>【方法】</p> <p>資料を皆で読み合わせ、ディスカッションやディベートをする。また、その結果をまとめたレポートを書いてもらう。</p> <p>個別に卒業研究レポートの準備を進める。文献の蒐集と発表をする。</p> <p>【事前事後学習課題】</p> <p>発表の準備、発表後のレポート作成</p> <p>卒業研究レポートの文献蒐集と読解。さらにテーマの発表の準備</p> <p>およそ 60 時間。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 大学生のためのレポート・論文術</td> <td>小笠原喜康</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加[貢献]度、発表[プレゼンテーション] (60%)、レポート (40%) で評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館4階 有馬研究室																
備考	事前事後学習におよそ 60 時間必要。																

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。		
到達目標	先行研究を網羅(整理・批判)した上で、問いを立てる。		
授業方法と留意点	自らテーマを設定し、個別発表・討論をおこなう。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 文献収集、読解、レジユメの作成方法、討論の仕方等を指導する。</p> <p>【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。</p>		
関連科目	文化演習Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	発表内容(テーマの掘り下げ方・発表の仕方など。40%)、討論(積極的に発言しているかなど。20%)、レポート(40%)で評価する。		
学生へのメッセージ	できるだけ多くの文献を読み、積極的にフィールドワークに出かけることで、広い視野をもって研究に取り組んでください。		
担当者の研究室等	7号館4階 林田研究室		
備考	研究発表に関するフィードバックは発表時、レポートに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。西洋の歴史(世界史)に関する予備知識は必ずしも必要ではない。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	言語に関する身近なテーマを扱い、英語について、広くは言語について様々な観点から考えます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。(これらの能力は、就職活動をする上で、さらには社会で活躍するための基礎となるものです。) 		
授業方法と留意点	フィールドワークで外国人観光客が多く訪れる場所に何回か調査に出ます。例えば、インタビューや質問紙(調査)、観光地における英語の調査のため、京都などへ出向きます。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・(人間の)言葉の不思議、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・アカデミックな題材が中心ですが、このプロセスの中で、最終的に学生自らが主体性をもって卒業研究に取り組めるようになればと思います。 ・なぜこの言葉を使うのか、他の言葉ではいけないのか、他にどんな言葉が使えるのか(どのような違いがあるのか)等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	ゼミおよび課題への取り組み(100%)		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。		
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	いままで培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択し、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を体得する。																
到達目標	このゼミでは、日本語と中国語の四字熟語(成語)を中心に比較研究を行うことによって、日中の言葉の知識、表現力を涵養すると同時に、学習力、思考力を養うのを目指す。同時に研究能力を育成する。中国語の成語(四字熟語)は中国語の口語においても文章語においてもよく使われる。リズム感がよい、形式が整然とする、意味が簡潔である、などの特色を持つ表現形式なので、中国語表現上重要な働きを担う。日本語の四字熟語も、漢語の特質を生かして、ロザミやすく、しかも含蓄に富む意味内容を表現するものとされているが、その一部は、中国の故事を背景にもつものなので、日中の四字熟語に関する学習及び比較研究は相乗効果がある。 また、異文化への理解を深めることは外国語学部の学生にとって大変重要なことである。学生の希望により、中国事情、中国文化、つまり風俗、習慣、思考様式なども課題とする。中国文化の特徴などを研究することによって、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養うのを目指す。同時に研究能力を育成する。																
授業方法と留意点	授業では、各自テーマを決め、収集した資料などを持ち寄り、それらをパソコンディスプレイで提示しながら他のゼミ生や指導教員に説明するとともに討議を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【テーマ】 ：中国語の成語と日本語の四字熟語の比較・対照研究 各授業において、前回は課題と内容を決め、意味と由来を調査した資料を提示する。次回は前課題をめぐって検討をする。このローテーションで進む。 【事前事後学習課題】 指示に従って、文献・インターネット等で内容を調べて来る。資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中国語成語ハンドブック</td> <td>沈国威・紅粉芳恵他</td> <td>白水社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>精選中国語成語辞典</td> <td>上野恵司</td> <td>白帝社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本人が知りたい中国人の当たり前</td> <td>林松濤他</td> <td>三修社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国語成語ハンドブック	沈国威・紅粉芳恵他	白水社	2	精選中国語成語辞典	上野恵司	白帝社	3	日本人が知りたい中国人の当たり前	林松濤他	三修社
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	中国語成語ハンドブック	沈国威・紅粉芳恵他	白水社														
2	精選中国語成語辞典	上野恵司	白帝社														
3	日本人が知りたい中国人の当たり前	林松濤他	三修社														
評価方法(基準)	プレゼン 30%、提出物 70%。																
学生へのメッセージ	もっと知りたいという好奇心を持ちましょう。																
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																
備考																	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 資料調査、分析、プレゼンテーション、わかりやすい文章にまとめる、といった体験を通して、研究手法や考え方を学びます。 グループやペアでの活動を通して、卒業後にも生かせる、人との関わり方のバリエーションを増やします。 																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 多面的に物事を見る、もしくは見ようとする姿勢を身につける。 想定する聴衆にとってわかりやすい情報の構成や見せ方を工夫できるようになる。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 実物を観察し、触れ、また何かを作る、といった作業を体験したあと、言語化する練習をします。 新聞やニュースの記事(日本語・英語)、本などを用いて、調査・発表・議論をします。 いずれもスピードが要求されるので、毎回の授業に全力で取り組んでください。 																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 言語・文化、英術、コミュニケーションなどの分野に関する研究 今年のテーマは「外国語学習と対話」です。</p> <p>後期は、卒業後は社会に出る大学生に身につけてほしい言語の力に焦点をあてます。自分の言語能力を、言語以外の知識や技術と組み合わせ、他人のために役にたてられるようになるのが目標です。接客現場や医療現場、職場内、など、対人関係のなかで言語が果たす役割について、文献調査と同時に、文学や映画・ドラマに描かれた例を分析します。前期と比べて研究色の濃いゼミになるでしょう。大量に読み、聞き、考え、話して、書きます。</p> <p>また、学期中に複数回、プレゼンを行います。たくさん話す練習をしてください。</p> <p>【事前事後学習課題】 授業で扱ったテーマについて、自分で直接現場に行き調べたり、インターネットとは違う情報源を探してみましょう。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プリント教材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント教材			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	プリント教材																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業にて紹介します</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業にて紹介します			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	授業にて紹介します																
2																	
3																	
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> 授業での協働作業 30% プレゼンテーション 30% レポート 40% 																
学生へのメッセージ	好奇心を覚醒させて、何でも見て、体験して、自分の感性を鍛えよう。																
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。 担当者の専門：文体分析・言語教育のための教材制作・教員養成・通訳/翻訳・舞台や学会の裏方 ほか																

科目名	文化観光実習演習	科目名(英文)	Cultural Tourism Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子, 赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本演習では、近畿圏の歴史地区における地域振興のあり方を学ぶ。グローバル化との関連を意識しながら、資料の収集、見学、関係者への聞き取り等の調査を実施し、地域振興・観光開発を実践的に学ぶことを目的とする。			
到達目標	地域における文化、観光、地域振興といった多角的な問題を個別に解決するのではなく、それぞれを有機的に関連づけて考察できるようになる。 実地調査の基礎を習得する。			
授業方法と留意点	教室での講義・成果発表のほか、実地調査もおこなう。必ず参加すること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に必要な基礎知識として、講義と演習の形式を織り交ぜながら、地域政策と観光開発について学ぶ。 ・実習では、現地調査およびインタビュー等をおこなう。 ・学習成果をまとめ、プレゼンテーションをおこなう。 ・校外実習を行うので必ず出席すること。 			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への取り組みおよび校外実習への参加(40%)、成果発表(60%)で評価する。			
学生へのメッセージ	自ら主体的に取り組むことが求められます。学生一人一人が作りあげていく授業です。			
担当者の研究室等	林田研究室(7号館4階)			
備考	<p>第1回目の講義で校外実習の日程を決めますので必ず出席してください。 この授業は「パッケージプログラム演習(国際教養)」と合同で実施します。</p> <p>事前事後学習時間: 30h</p>			

科目名	文化と表現	科目名(英文)	Cultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>※2015年以降入学生には、この科目は、外国語専門職プログラム対応科目です。 我々は日本語を用いて、何をどのように表現しているのだろうか、そして表現できるのだろうか。 この授業では、日本人が日本語を用いて、どのように表現してきたのか、そしてどのような表現が可能なのかを、様々な事例を通して考える。 それによって、言語に対する感覚を研ぎ澄まし、言葉にこだわる人間になることを目指す。</p> <p>この授業は、レポートなどに必要な「正しい」日本語を書く技能を身につける授業ではありません。日本語と格闘する授業です。</p>																																																																		
到達目標	<p>日本語表現の特徴について、具体的に説明できる。 日本語表現を客観的にとらえ、他の言語とも比較しつつ、多様な視点から考えることができる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>皆さんの意見も聞きながら講義を進行します。 毎回、コメントを求め、課題が出ます。 全部で3節からなります。各節の最後にまとめのテストをします。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入</td> <td>日本語はどのような言語か 多様な視点から考える</td> <td>授業の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>世界の中の日本語</td> <td>日本語は特殊な言語なのか考える</td> <td>授業の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語の構造</td> <td>日本語の構造を考える</td> <td>授業の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1.言葉にこだわる 1-1.辞書の比較</td> <td>複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1-2.日本語のレトリック</td> <td>様々なレトリックを学ぶ</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1-3.日本語のオノマトペ</td> <td>日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1-4.まとめ</td> <td>第1節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>第1節の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>2.詩文の日本語 2-1.和歌に見る語感</td> <td>和歌を例に、日本語の表現法を知る</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>2-2.俳句に見る語感</td> <td>俳句を例に、日本語の表現法を知る</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>2-3.詩の語感</td> <td>詩を例に、日本語の表現法を知る</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>2-4.まとめ</td> <td>第2節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>第2節の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>3.日本語表現を見直す 3-1.一人称と三人称</td> <td>小説を例に、人称表現について考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>3-2.現在形と過去形</td> <td>小説を例に、現在と過去の表現について考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>3-3.多様な表現方法</td> <td>小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>3-4.まとめ</td> <td>第3節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>第3節の内容を整理する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する	2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	授業の内容を整理する	3	日本語の構造	日本語の構造を考える	授業の内容を整理する	4	1.言葉にこだわる 1-1.辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	指示する課題に取り組む	5	1-2.日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	指示する課題に取り組む	6	1-3.日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	指示する課題に取り組む	7	1-4.まとめ	第1節の内容をまとめる確認テスト	第1節の内容を整理する	8	2.詩文の日本語 2-1.和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む	9	2-2.俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む	10	2-3.詩の語感	詩を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む	11	2-4.まとめ	第2節の内容をまとめる確認テスト	第2節の内容を整理する	12	3.日本語表現を見直す 3-1.一人称と三人称	小説を例に、人称表現について考える	指示する課題に取り組む	13	3-2.現在形と過去形	小説を例に、現在と過去の表現について考える	指示する課題に取り組む	14	3-3.多様な表現方法	小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える	指示する課題に取り組む	15	3-4.まとめ	第3節の内容をまとめる確認テスト	第3節の内容を整理する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する																																																																
2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	授業の内容を整理する																																																																
3	日本語の構造	日本語の構造を考える	授業の内容を整理する																																																																
4	1.言葉にこだわる 1-1.辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	指示する課題に取り組む																																																																
5	1-2.日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	指示する課題に取り組む																																																																
6	1-3.日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	指示する課題に取り組む																																																																
7	1-4.まとめ	第1節の内容をまとめる確認テスト	第1節の内容を整理する																																																																
8	2.詩文の日本語 2-1.和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む																																																																
9	2-2.俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む																																																																
10	2-3.詩の語感	詩を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む																																																																
11	2-4.まとめ	第2節の内容をまとめる確認テスト	第2節の内容を整理する																																																																
12	3.日本語表現を見直す 3-1.一人称と三人称	小説を例に、人称表現について考える	指示する課題に取り組む																																																																
13	3-2.現在形と過去形	小説を例に、現在と過去の表現について考える	指示する課題に取り組む																																																																
14	3-3.多様な表現方法	小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える	指示する課題に取り組む																																																																
15	3-4.まとめ	第3節の内容をまとめる確認テスト	第3節の内容を整理する																																																																
関連科目	<p>外国語専門職プログラム対応科目 日本語史概論、日本語音韻論、日本語語彙論、日本語文法論</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>課題(80%) 3回以上の提出を単位認定の条件とする。 まとめテスト(10%) 授業参加度(コメントなど)(10%)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>言葉に敏感になろう</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館4階(橋本研究室)</p>																																																																		
備考																																																																			

科目名	平和の思想	科目名 (英文)	Ideas for Peace
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	「平和」について考えるためには、「戦争」について考えることを避けることはできない。この講義は、戦場に送り出される兵士目線から「戦争とは何か」について考察したテキストを読み進めることを通じて、平和について考える導きとすることを試みるものである。
到達目標	「戦争」や「平和」に対する考え方の違いを越えて、「戦場に置かれた人間としての兵士」が抱える問題についての理解を深めることを目標とする。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。
科目学習の効果 (資格)	現代社会における「戦争と平和」の問題についての基礎的な理解を深めることが期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	殺人と抵抗感の存在 (1)	第1章 闘争または逃避、威嚇または降伏 第2章 歴史に見る非発砲者	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
3	殺人と抵抗感の存在 (2)	第3章 なぜ兵士は敵を殺せないのか 第4章 抵抗の本質と根源	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
4	殺人と戦闘の心的外傷 (1)	第5章 精神的戦闘犠牲者の本質 第6章 恐怖の支配	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
5	殺人と戦闘の心的外傷 (2)	第7章 疲憊の重圧 第8章 罪悪感と嫌悪感の泥沼	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
6	殺人と戦闘の心的外傷 (3)	第9章 憎悪の風 第10章 忍耐力の井戸	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
7	殺人と戦闘の心的外傷 (4)	第11章 殺人の重圧 第12章 盲人と象	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
8	殺人と物理的距離 (1)	第13章 距離 第14章 最大距離および長距離からの殺人	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
9	殺人と物理的距離 (2)	第15章 中距離・手榴弾距離の殺人 第16章 近距離での殺人	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
10	殺人と物理的距離 (3)	第17章 刺殺距離での殺人 第18章 格闘距離での殺人 第19章 性的距離での殺人	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
11	殺人の解剖学 (1)	第20章 権威者の要求 第21章 集団免責	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
12	殺人の解剖学 (2)	第22章 心理的距離 第23章 犠牲者の条件	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
13	殺人の解剖学 (3)	第24章 殺人者の攻撃的要因 第25章 すべての要因を盛り込む	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
14	映像作品鑑賞	講義内容に関連する映像作品を鑑賞する。	—————
15	まとめと補遺	テキストの残り部分について概観するとともに、最終レポートの執筆のための解説を行なう。	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	戦争における「人殺し」の心理学	デーヴ・グロスマン	筑摩書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	■最終レポート (100%)			
学生への メッセージ	最終レポートは、教科書と講義の内容を踏まえて作成することが求められる。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。			

科目名	貿易中国語 a	科目名 (英文)	Chinese for International Trade a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	本授業はビジネス現場のいろんな場面に合わせて、実用性のある表現と中国の習慣や文化を勉強し、将来ビジネス現場で役立つ知識を習得する。
到達目標	中国語検定2級に必要な語彙力、コミュニケーション力を高める。
授業方法と留意点	単語やフレーズの習得を重視する。新しい言葉を辞書で調べておくこと。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 2級や通訳案内士試験の受験。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第1章 全業種共通フレーズ①	レジ案内、会計など	p24-46の単語と表現を覚える。
2	第1章 全業種共通フレーズ②	電話対応、忘れ物の対応	p47-53の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
3	第2章 飲食業フレーズ①	☆テスト (前2回の内容) 席へ案内、予約電話、	p58-69の単語と表現を覚える。
4	第2章 飲食業フレーズ②	メニュー説明など	p70-79の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
5	第2章 飲食業フレーズ③	☆テスト (前2回の内容) 食材、食べ方の説明	p80-94の単語と表現を覚える。
6	第2章 飲食業フレーズ④	クレーム対応、事例など	p95-118の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
7	第3章 販売業フレーズ①	☆テスト (前2回の内容) お客様の希望を伺う、セール・キャンペーンの案内をする	p120-129の単語と表現を覚える。
8	第3章 販売業フレーズ②	助言する、業務上の注意、取り寄せ、免税品など	p130-139の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
9	第3章 販売業フレーズ③	☆テスト I (前2回の内容) 値引き交渉、包装、配送、修理など	p140-150の単語と表現を覚える。
10	第3章 販売業フレーズ④	事例1~7	p151-175の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
11	第4章 宿泊・レジャー・美容業のフレーズ①	☆テスト (前2回の内容) フロント、館内案内、入浴、チェックアウトなど	p178-205の単語と表現を覚える。
12	第4章 宿泊・レジャー・美容業のフレーズ②	事例1~5	p206-224の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
13	第5章 医療業・病気・トラブル対応のフレーズ	☆テスト (前2回の内容) とっさの対応、病院、薬局など	p226-238の単語と表現を覚える。
14	第6章 道案内のためのフレーズ 付録一使える張り紙①	建物の中、建物の外 順番待ち、在庫、お薦め、禁止事項	p240-247の単語と表現を覚える。 p251-262の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
15	付録一使える張り紙②	☆テスト (前2回の内容) 会計、セルフ、日程、防犯、など	p263-282の単語と表現を覚える。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	みんなの接客中国語	広瀬直子・顧蘭亭	アルク
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	DVDで学ぶライブビジネス中国語	LiveABC	東方書店
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%
学生へのメッセージ	フレーズをどんどん覚えてコミュニケーション力を伸ばしましょう。 事前・事後に各60分の学習を要する。
担当者の研究室等	7号館3階 (兪研究室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	貿易中国語 b	科目名 (英文)	Chinese for International Trade b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	本授業はビジネス現場のいろんな場面に合わせて、実用性のある表現と中国の習慣や文化を勉強し、将来ビジネス現場で役立つ知識を習得する。			
到達目標	中国語検定2級に必要な語彙力、コミュニケーション力を高める。			
授業方法と留意点	単語やフレーズの習得を重視する。新しい言葉を辞書で調べておくこと。			
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験2級や通訳案内士試験の受験。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1章 オフィスの中国語①	オフィス用品、オフィス用語、自己紹介①など	p36-42の単語と表現を覚える。
	2	第1章 オフィスの中国語②	自己紹介②、電話対応など	p43-48の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
	3	第1章 オフィスの中国語③	☆テスト (前2回の内容) 役職用語、社内案内など	p49-54の単語と表現を覚える。
	4	第2章 会議と報告①	グラフ用語、会議の司会など	p58-61の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
	5	第2章 会議と報告②	☆テスト (前2回の内容) 担当者による話し合い、はっきり意見を述べる	p62-67の単語と表現を覚える。
	6	第2章 会議と報告③	議論と調整、プレゼンテーションなど	p68-77の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
	7	第3章 出張と接待①	☆テスト (前2回の内容) 関連用語、関連フレーズ、出張前の確認	p80-86の単語と表現を覚える。
	8	第3章 出張と接待②	空港での出迎え、展示会の説明	p87-91の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
	9	第3章 出張と接待③	☆テスト I (前2回の内容) お客様をもてなすなど	p92-100の単語と表現を覚える。
	10	第4章 交渉と契約①	製品供給用語、契約の交渉など	p102-105の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
	11	第4章 交渉と契約②	☆テスト (前2回の内容) 仕入れと価格交渉、発注と支払いなど	p106-111の単語と表現を覚える。
	12	第4章 交渉と契約③	包装と輸送、業界提携など	p112-122の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
	13	付録ービジネス文書①	☆テスト (前2回の内容) 総会通知、メールによる提議	p124-129の単語と表現を覚える。
	14	付録ービジネス文書②	出張の申し送り、日程、確認メール	p130-135の単語と表現を覚える。 前2回の復習。
	15	付録ービジネス文書③	☆テスト (前2回の内容) 契約書、見積書	p136-139の単語と表現を覚える。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	DVDで学ぶライブビジネス中国語	LiveABC	東方書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みんなの接客中国語	広瀬直子・顧蘭亭	アルク
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%			
学生へのメッセージ	フレーズをどんどん覚えてコミュニケーション力を伸ばしましょう。 事前・事後に各60分の学習を要する。			
担当者の研究室等	7号館3階 (兪研究室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。			

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	
		事前・事後学習課題	
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	撰南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	習った勉強法はまずは試してみてください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能 (読む・書く・聞く・話すこと) への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
	3	English Ace	Atsuko Yamamoto 他	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階 西川研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
-----------	--

学生へのメッセージ	話したり書いたりする活動もできる限り取り入れていきますので、楽しくやってみましょう！
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	
		事前・事後学習課題	
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
13	英作文(筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	撰南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) TOEIC 基本語彙テスト 30%、100SS 筆記テスト 30%、授業中の小テスト・発表など 40%
 ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7号館4階 中島研究室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 5 階 松田研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中highで学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	13	英作文(筆記)テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 3 階 吉村 征洋 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大原 関 一浩
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能 (読む・書く・聞く・話す) への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 5 階 大原関研究室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中highで学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能(読む・書く・聞く・話す)への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	
		事前・事後学習課題	
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

番号	書籍名	著者名		出版社名
1	暗唱英文 100	撰南大学外国語学部		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志		成美堂
3	TOEIC TEST GRAMMAR 5 分間 TOEIC テストサプリメント 文法・語法	小池直己		南雲堂

番号	書籍名	著者名		出版社名
1				
2				
3				

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
-----------	--

学生へのメッセージ	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 後藤研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
	3	5分間 TOEIC テスト・サブリメント 文法・語法 A Shorter Course in TOEIC Test Grammar	小池直己	南雲堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館4階 皆本研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	
		事前・事後学習課題	
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
13	英作文(筆記)テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	撰南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30%、100SS 筆記テスト 30%、授業中の小テスト・発表など 40% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 5 階 松田研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	
		事前・事後学習課題	
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	撰南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	語彙と文法は言語学習の基礎です。あなたのセンスや感性を通して感じたこと、考えたことを、できるだけまちがいがなく伝えるために、しっかりと土台を築いていきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 4 階 齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能 (読む・書く・聞く・話す) への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	撰南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	ボキャブラリー&文法 b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大原 関 一浩
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b
------	-------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 5 階 大原関研究室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	ボキャブラリー&文法 b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	話したり書いたりする活動もできる限り取り入れていきますので、楽しくやっていきましょう！
担当者の研究室等	7号館 5階 杉浦研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b
------	-------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
3	Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2	David E. Bramley	松柏社

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 5 階 後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	
		事前・事後学習課題	
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b

番号	書籍名	著者名		出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志		成美堂
3	English Illustrated	Kazumi Namiki 他		金星堂

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館4階 西川研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b
------	-------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 3 階 吉村 征洋 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能 (読む・書く・聞く・話す) への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	
		事前・事後学習課題	
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習

関連科目 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ホスピタリティ・インターンシップ	科目名 (英文)	Hospitality Business Internship
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP5△		

授業概要・目的	<p>観光ホスピタリティプログラムの授業で学んだ内容を実践する。 ホスピタリティ・インターンシップの目的は、ホスピタリティ産業において実際の仕事の現場に接することにより、</p> <p>①社会における仕事の役割・意義 ②責任とやりがい ③ホスピタリティの本質を体感することである。 ※なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つです。</p>																
到達目標	ホスピタリティ産業の現場で実務を体験することにより、仕事の厳しさ、楽しさ、やりがいなどを実感して、就業意識を高めることを目標とする。また、ここまで授業で学んできたホスピタリティの知識や感性を実際に発揮する機会を得ることである。																
授業方法と留意点	<p>6月、対象企業、参加人数、実施日時確定後に説明会を開催。履修希望者はESを提出。選考後、履修者発表。 (希望者多数の場合は、機会均等の観点から2年時に「体験型特別実習Aに参加していないものを優先する)。 8月上旬、前期試験終了後、事前集中授業を開催(参加者は必ず受講のこと)。 8月中下旬、各企業のインターンシップに参加。 9月、後期授業開始前に事後授業(体験報告)を実施。 受入企業に迷惑がかかるため、受講態度、マナーの悪いものには本インターンシップへの参加を認めない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[事前・事後授業] 下記①、②は39時間、③は14時間</p> <p>(1) 事前授業 前期授業終了後、本学内で2～6回的事前集中授業を実施し、対象事業の基礎知識を習得するとともに、それぞれの目標、目的を見直し、参加にあたっての心構えを作り上げる。</p> <p>(2) インターンシップ(対象企業は確定していません。下記は過去の実績からの予定企業です)。</p> <p>① 海外空港実務体験(2名) ・台湾・台北空港での空港旅客取扱業務(GS業務)の実践 ・4泊5日程度で実際の訓練と実務を体験 ・対象企業 : ANA台北空港所</p> <p>② 海外空港実務体験(2名) ・ベトナム・ハノイ空港での空港旅客取扱業務(GS業務)の実践 ・4泊5日程度で実際の訓練と実務を体験 ・対象企業 : ANAハノイ空港所</p> <p>③ ホテル業務訓練の体験(3～4名) ・ホテルでの新入訓練と同等の訓練の圧縮版を体験 ・2週間程度で実際の訓練と実務を体験(通い) ・対象企業 : ANAクラウンプラザホテル大阪</p> <p>(3) 事後授業 後期授業開始前に事後授業とし2コマの報告会を実施する。</p>																
関連科目	「観光ホスピタリティ」プログラム科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	各インターンシップとも受入企業先評価30%、事前・事後授業の参加姿勢30%、体験報告の内容40%																
学生へのメッセージ	憧れのホスピタリティ産業。ここまで学んできた知識や感性が実際の仕事を体験する中で、どこまで通用するか実感することは今後の大きな収穫です。是非、この機会に実際の宿場にチャレンジして、自分との距離を縮めてみましょう。																
担当者の研究室等	7号館4階(エアライン・ホスピタリティールーム)																
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になります。																

科目名	ホスピタリティ論	科目名(英文)	Hospitality
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<p>・現代社会では多種多様な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、ショッピング等、ホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。ホスピタリティというものに言語、文化そして、個人(消費者)からの視点など多角的にアプローチをし、ホスピタリティを生み出す為には何が求められるかについて考察し、理解を深めていく。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。</p> <p>※この授業は観光ホスピタリティプログラム科目の一つである。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティについて学び、自ら考え、創造できるようになることを目指す。 ・コミュニケーション能力の向上
授業方法と留意点	Power point と配布資料で授業を進めていき、適宜ディスカッション等も交えていく。授業の最後に、小レポートを課し提出。また、簡単な社会人としてのマナーの実習も行う。
科目学習の効果(資格)	ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものとする。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	積極的な参加
2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを考えてみる。
3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。
4	事例研究1「感動はこうして生まれる」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。
6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。
7	ホスピタリティとマニュアル	お客様へ伝えるための留意点を考える。マニュアルとホスピタリティマインドについて考察する。	アルバイト先のマニュアルがどのようなものか考えてみる。
8	事例研究「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足No.1のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験(スポーツ、アルバイトなど)を振り返る。
10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる、
11	事例研究3「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
12	ホスピタリティマネジメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。
13	事例研究4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。
14	観光立国	日本の観光の現状はどうなっているのか	新聞で観光に関する記事を見つける。
15	まとめ	授業全体のまとめ	積極的な参加

関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目(～2014年度入学生) 観光ホスピタリティプログラム科目(2015年度～入学生) エアラインビジネス論 ホテルビジネス論
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	参加態度 10% 毎回の小レポート 40% 定期試験 50%
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には適宜”社会人になる為の心得”も盛り込んでいきます。 ・自分の考えをまとめ、コミュニケーションを取ることは難しいと思います。誰しも最初からできる人はいません。力まずに、まずは積極的に参加する！という気持ちを持って参加して下さい。する！という気持ちを大切に、受講して下さい。 ・この授業を終えた頃には、周りの様々なことに「気づく」ということが身についているはずです。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(塩崎・沖中研究室)
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	ホテルビジネス論	科目名(英文)	Hotel Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	訪日外国人の増加や2020年東京オリンピック開催に向け、注目されるホテル業界に関心を持つ受講生に、その産業特性や歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、現在の様々な課題について社会的・経済的背景を分かりやすく説明する。 また、事例を挙げながら、基礎的な事業知識や具体的な業務の実態について解説する。 ※この科目は、2015年度以降の入学を対象とした「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目の一つです。
到達目標	ホテル業界での業務知識、日系・外資系ホテルの相違点などを学ぶことにより、ホテル業界で働くための知識や、どのような意識を持てば良いのか等、就業意識や社会で働く力を高める事を目標とする。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを使用して授業する。指定する教科書はないが、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。質問については随時受け付ける。また、授業終了時に毎回提出する小レポートに質問を記入してもらい、次回の授業時に解説する。 日ごろからホテル関連の報道等に関心を持って接し、授業に臨んで欲しい。
科目学習の効果(資格)	観光産業に深く関わるホテル事業を学習、理解することにより、将来の進路の判断材料として役立つ事ができる(特に公的資格取得には繋がるものではない)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	世界の宿泊業の歴史	世界の宿泊業の歴史は古代ギリシャやローマの時代に遡る。そのような宿泊施設からホテルに発展し、その後様々な形に変化して現在に至るまでを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
3	日本の宿泊業の歴史(1)第二次世界大戦まで	日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
4	日本の宿泊業の歴史(2)終戦から現代まで	前回に引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテルの歴史について、東京オリンピックや大阪万博など様々な時代背景を交えて説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
5	日本のホテル業界の現況	日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な課題が生じており、決して楽観視できるような環境ではない。こうした状況について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
6	ホテルビジネスの特性	ホテル事業をより解り易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他の事業との比較を交えながら説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
7	ホテルの経営方式	ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の方式・形態も存在する。そうした方式・形態の特徴や問題点について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
8	チェーンビジネスの基本	ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統括する本部に必要な機能はどのようなものなのかについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
9	世界のホテルチェーン	世界の主要なホテルチェーンの展開方式や現状を解説し、外資系ホテルチェーンの日本進出を読み解く。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
10	日本のホテルチェーン	日本にも多くのホテルチェーンが存在するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
11	日本の宿泊産業	日本の宿泊施設には、ホテル、旅館、民宿やペンションなど実に多くの宿泊施設があり、それぞれの特徴や相違点などを説明する。現在、導入されつつある民泊の現状や課題についても考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
12	ホテルの収入構成と収益構造について	ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
13	ホテルの組織と仕事(1)宿泊部門	ホテル全体の組織の説明のあと、部門別にそれぞれの組織、具体的な業務内容について講義する。今回は宿泊部門。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
14	ホテルの組織と仕事(2)料飲・宴会部門など	前回に引き続き、料飲部門、宴会部門、管理部門の組織と業務内容について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
15	まとめと特別講義	我が国の主要ホテルを例に貫かれたアイデンティティやホスピタリティに対する考え方について考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。

関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～2014年度入学生） 観光ホスピタリティプログラム科目（2015年度以降の入学生）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版
	2	宿を支える女将たち	岩崎信也	柴田書店
	3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館
評価方法 (基準)	10回以上の出席がない場合、評価の対象とならない。 定期試験60%、授業毎のレポート、授業参加姿勢40%。			
学生への メッセージ	訪日外国人の増加、2020年の東京オリンピックに向け注目されるホテル業界。その事業の実態と課題について学習します。 また、仕事の内容や求められる資質について考察します。将来の進路として考えている学生諸君にも参考になる内容です。一緒に研究しましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階（塩崎・沖中研究室）			
備考	毎回の授業でレポートを提出していただきます。そこに記載された質問については、次回授業でフィードバックいたします。			

科目名	ホテルビジネス論 I	科目名 (英文)	Hotel Business I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	訪日外国人の増加や2020年東京オリンピック開催に向け、注目されるホテル業界に関心を持つ受講生に、その産業特性や歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、現在の様々な課題について社会的・経済的背景を分かりやすく説明する。 また、事例を挙げながら、基礎的な事業知識や具体的な業務の実態について解説する。 ※この科目は、2015年度以降の入学を対象とした「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目の一つです。
到達目標	ホテル業界での業務知識、日系・外資系ホテルの相違点などを学ぶことにより、ホテル業界で働くための知識や、どのような意識を持てば良いのか等、就業意識や社会で働く力を高める事を目標とする。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを使用して授業する。指定する教科書はないが、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。質問については随時受け付ける。また、授業終了時に毎回提出する小レポートに質問を記入してもらい、次回の授業時に解説する。 日ごろからホテル関連の報道等に関心を持って接し、授業に臨んで欲しい。
科目学習の効果 (資格)	観光産業に深く関わるホテル事業を学習、理解することにより、将来の進路の判断材料として役立てる事ができる (特に公的資格取得には繋がるものではない)。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などを説明。	特になし。
2	世界の宿泊業の歴史	世界の宿泊業の歴史は古代ギリシャやローマの時代に遡る。そのような宿泊施設からホテルに発展し、その後様々な形に変化して現在に至るまでを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
3	日本の宿泊業の歴史 (1) 第二次世界大戦まで	日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
4	日本の宿泊業の歴史 (2) 終戦から現代まで	前回に引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテルの歴史について、東京オリンピックや大阪万博など様々な時代背景を交えて説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
5	日本のホテル業界の現況	日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な課題が生じており、決して楽観視できないような環境ではない。こうした状況について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
6	ホテルビジネスの特性	ホテル事業をより解り易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他の事業との比較を交えながら説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
7	ホテルの経営方式	ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の方式・形態も存在する。そうした方式・形態の特徴や問題点について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
8	チェーンビジネスの基本	ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統括する本部に必要な機能はどのようなものなのかについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
9	世界のホテルチェーン	世界の主要なホテルチェーンの展開方式や現状を解説し、外資系ホテルチェーンの日本進出を読み解く。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
10	日本のホテルチェーン	日本にも多くのホテルチェーンが存在するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
11	日本の宿泊産業	日本の宿泊施設には、ホテル、旅館、民宿やペンションなど実に多くの宿泊施設があり、それぞれの特徴や相違点などを説明する。現在、導入されつつある民泊の現状や課題についても考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
12	ホテルの収入構成と収益構造について	ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
13	ホテルの組織と仕事 (1) 宿泊部門	ホテル全体の組織の説明のあと、部門別にそれぞれの組織、具体的な業務内容について講義する。今回は宿泊部門。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
14	ホテルの組織と仕事 (2) 料飲・宴会部門など	前回に引き続き、料飲部門、宴会部門、管理部門の組織と業務内容について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
15	まとめと特別講義	我が国の主要ホテルを例に貫かれたアイデンティティやホスピタリティに対する考え方について考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。

関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～2014年度入学生） 観光ホスピタリティプログラム科目（2015年度以降の入学生）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版
	2	宿を支える女将たち	岩崎信也	柴田書店
	3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館
評価方法 (基準)	10回以上の出席がない場合、評価の対象とならない。 定期試験60%、授業毎のレポート、授業参加姿勢40%。			
学生への メッセージ	訪日外国人の増加、2020年の東京オリンピックに向け注目されるホテル業界。その事業の実態と課題について学習します。 また、仕事の内容や求められる資質について考察します。将来の進路として考えている学生諸君にも参考になる内容です。一緒に研究しましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階（塩崎・沖中研究室）			
備考	毎回の授業でレポートを提出していただきます。そこに記載された質問については、次回授業でフィードバックいたします。			

科目名	ホテルビジネス論Ⅱ	科目名(英文)	Hotel Business II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ホテル業をはじめとする宿泊産業に関心を持つ受講生に、ホテルマネジメント、ホテルマーケティングを大きなテーマとして取り上げ、宿泊業経営に関する知識、現状とその将来性について説明する。 宿泊業経営を理解することで、他産業にも通じる経営の基礎、一般論を学ぶ。また世界中の有名なクラシックホテルについても紹介する。
到達目標	宿泊業について主として経営面から考察し、理解する。 ホスピタリティー産業である宿泊業の経営を例に、「会社」という組織がどのような活動をしているか、経営の基礎を学び、課題認識を持って就業意欲を高めることを目標とする。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを使用しての授業となる。 教科書は特に指定しないが、授業が良く理解できるように、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については随時受け付ける。また、授業終了時に毎回提出する小レポートに質問を記入してもらい、次回授業時に解説する。 最新の状況や経営環境を授業に取り入れて行くので、常にホテル関連の報道等に関心を持って接し、授業に臨んで欲しい。
科目学習の効果(資格)	ホテルという事業を例に一般企業にも通じる経営活動の概要を学習する。ホスピタリティー産業の代表ともいえるホテル事業の経営活動や業務内容を学び、そこで働く人材に求められる資質を考察することにより、各自の進路決定にあたり一つの判断材料に資することが出来る(特に公的資格には直接つながるものではない)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ホテル業の社会的な役割と意義-1(位置づけと役割)	第3次産業の中で宿泊産業はどのような位置づけにあるのか、また社会的にはどのような役割が期待されているのかを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
3	ホテル業の社会的役割と意義-2(ホテル業の意義)	ホテル業を取り巻く時代・社会的な環境変化がどのような影響をホテル経営に及ぼすのか、そしてホテル業の意義とはどのようなものかを解かり易く解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
4	ホテル業の課題	我が国のホテル業界は新しいニーズに応えられるのか、高齢者、女性、環境問題に対応できるのか、接客サービスの質は向上しているのかなど現代のホテル業界が抱える様々な課題を具体的に解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
5	ホテル業の将来性	近年、外資系の積極的な進出や民泊の導入等様々な新しい動きが見られるようになった宿泊業界。この中でホテル業界は、今後どのような動向を示すのか説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
6	ホテル業の経営・事業	一般論として経営と事業の定義について解説し、ホテル業における経営特性や経営・事業資源について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
7	ホテルの組織と人事・労務管理-1(組織と人事管理)	ホテル業の組織を理解することにより、ホテル業における人事・労務管理面での特性を明らかにするとともに課題への対応策についても学習する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
8	ホテルの組織と人事・労務管理-2(労務管理と人材育成)	有用な人材を育成するためにどのような労務管理がなされているか所定労働時間や福利厚生についても解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
9	ホテル業の財務・会計管理	ホテルの売上と支出にはどのようなものがあり、原価管理・原価計算とはどのようなものなのか、財務管理と会計管理について基本的な事項を解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
10	仕入管理と施設管理	ホテル経営に対する効率化に重大な役割を果たす仕入管理と施設管理について解かり易く解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
11	防犯・防災・衛生管理	ホテルには利用者の生命・財産やプライバシーを守る社会的使命があり、そのために防犯・防災・衛生管理など管理業務が強化されている。それらの基本的な対応ポイントを学習する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
12	ホテルマーケティングの基本-1(企画から開業まで)	ホテルマーケティングを学ぶにあたり、その基本となる考え方やマーケティングの構成要因の概要などについて解説し、ホテル開業までのマーケティング活動について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
13	ホテルマーケティングの基本-2(開業後)	ホテルのセールス活動とはどのようなものか、またホテルの安定かつ発展的な経営の継続に必要な不可欠なホテル開業後のマーケティング活動のポイントとなる業務について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
14	顧客満足と従業員満足	顧客満足とは何か、顧客満足の最大化が企業にどのように貢献するのか、その最大化と従業員満足の関係について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。

	15	ホテルの社会的責任	今、ホテル業界が問われている社会的責任とは何か、経済、社会、環境の観点から論じる。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。																
関連科目	ホテルビジネス論 I ツーリズム論 I・II ホスピタリティー論 I・II																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現代ホテル経営の基礎理論</td> <td>岡本伸之</td> <td>柴田書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ホテル</td> <td>中村正人</td> <td>産学社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ホテルブランド物語</td> <td>寺田直子</td> <td>角川書店</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現代ホテル経営の基礎理論	岡本伸之	柴田書店	2	ホテル	中村正人	産学社	3	ホテルブランド物語	寺田直子	角川書店
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	現代ホテル経営の基礎理論	岡本伸之	柴田書店																	
2	ホテル	中村正人	産学社																	
3	ホテルブランド物語	寺田直子	角川書店																	
評価方法 (基準)	最低10回以上がない場合、評価の対象とはならない。 定期試験60%、授業毎のレポート提出、授業参加姿勢40%。																			
学生への メッセージ	ホテルビジネス論 I に比べてより経営の立場からの授業になります。 企業経営の概要を知ることはホテル業界に限らず、どの業界においても重要ですが、特にホスピタリティー産業の経営を知ることにより、求められる知識や資質を知ることは今後の進路選択の重要な要素となります。是非チャレンジしてください。																			
担当者の 研究室等	7号館4階 (エアライン・ホスピタルプログラムルーム)																			
備考	ホテルビジネス論 I を受講していることが望ましいが、アプローチが違うので履修条件ではない。 毎回の授業でレポートを提出していただきます。そこに記載された質問については次回授業でフィードバックします。																			

科目名	ボランティア論	科目名(英文)	Volunteerism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本講義ではボランティアを、一過性のイベントとしてとらえるのではなく、自分自身を見つけるチャンスとし、それを将来的に活用する。国内ボランティア、NGO、NPO、JICA ボランティア、民間ボランティア等の現場を素材にケーススタディを行い、国内外の社会常識と知識を深める。 この科目は「国際貢献」プログラム対応科目です。
到達目標	ボランティアの定義・理念、ボランティア活動に関する基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	ビデオ・スライドを多様してビジュアルに国際ボランティアの現状を知る。各講義の最後 15～20 分間は、質疑応答の時間とする。
科目学習の効果(資格)	日本の立場を国際的な視野から見る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	(起-1) ボランティアの基礎①	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	答えのない世界とは何かを考える
3	(起-2) ボランティアの基礎②	貧困・災害とは何かを学ぶ	どこでなにが起きるか分からないということを理解する
4	(起-3) 社会貢献	社会貢献やCSRとは何かを知る	個人・団体・企業など様々な取り組みを考える
5	(承-1) 企業の社会的貢献	企業の社会的貢献の現状を知る	慈善なのか、企業倫理なのかを考える
6	(承-2) 国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	偽善とは何なのかを考える
7	(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア	国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る	目的別のボランティアを考える
8	(転-2) 国際ボランティア(青年海外協力隊)	国際ボランティア(青年海外協力隊)になるにはどうしたら良いのかを知る	チャレンジとは、何かを知る
9	(転-3) 国際ボランティア(国連ボランティア)	国際ボランティア(国連ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える①
10	(転-4) 国際ボランティア(NGO ボランティア)	国際ボランティア(NGO ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える②
11	(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ	自覚と義務とのギャップを巻がる
12	(結-2) 自分に何が出来るのか	ボランティア活動をするために、自分が出来る事を明確にする	他人事でボランティアをしない方法はあるのかを考える
13	(結-3) 更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	ボランティアを受ける側の事情を考察する
14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	ボランティア活動10ヶ条を考える
15	総括的確認(必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	ボランティア活動を人生に生かす方法を考える

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	記述式小テストの総計(100%)により評価する。記述式小テストは、3週間に一度程度行います。これは、学期末に詰め込み式で理解するのではなく、ある程度まとまった形で、「理解し考える」ことを目的としています。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室)																
備考																	

科目名	翻訳文化論	科目名(英文)	Translation and Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川 豊生
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	〈翻訳〉には、たんにある外国語から別の言語へと移し変えるということだけではなく、豊かな文化的な営みが含まれている。〈翻訳〉を〈文化〉の問題としてとらえ、日本で〈翻訳文化〉が登場する歴史的な流れや、新しい翻訳語創造のプロセス、名訳の誕生のいきさつなど、多角的に探究する。日本文化のなかで「翻訳」がいかに大切な問題であったかを深く理解してほしい。なお、2015年度入学生については、この科目は外国語専門職プログラム科目です。
到達目標	・翻訳によって形づくられてきた文化の様々な問題について知識を深める。 ・文化的な諸問題への関心を高めることによって外国語学習への意欲を促進する。
授業方法と留意点	講義とノートを中心にすすめる。外国語の修得を目的とした授業ではないことに留意してほしい。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	「翻訳文化」とはなにか	〈翻訳〉を、文化の問題としてとらえる視点をもつことの大切さについて概説する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
2	翻訳のはじまり1 中国文化の受容と翻訳	翻訳のはじまりについて古くさかのぼり歴史的に探求する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
3	翻訳のはじまり2 キリシタンと翻訳	キリシタンがなった役割は翻訳文化という側面にとってもきわめて重要な意義がある。物語や辞書づくりのなかにその足跡をたどる。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理とポイントの明確化
4	江戸の翻訳文化	前近代において〈翻訳〉はどのような形で生まれたか、江戸時代の具体的な事例(『解体新書』)をとりあげて探究する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
5	明治の翻訳文化1	『西洋事情』や外国語辞書の誕生の問題をとりあげて、明治の翻訳文化の諸相を探究する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
6	明治の翻訳文化2	日本の近代化にあたって、社会と文化に大きな影響を与えた明治期の翻訳について、多角的に学ぶ。明治の翻訳の事例を具体的にとりあげ、異文化遭遇の現場を検証する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
7	明治の翻訳文化3	現代日本語に不可欠な翻訳語を取り上げ、その翻訳事情について追究する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理とポイントの明確化
8	外国人のみたイメージとしての「日本」1	日本を海外に翻訳紹介した人々について「文化の翻訳」という観点から探求する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理とポイントの明確化
9	外国人のみたイメージとしての「日本」2	日本を海外に翻訳紹介した人々について「文化の翻訳」という観点から探求する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
10	難語の翻訳	「日本らしさ」をいかに翻訳するか、いくつもの難語をテーマに考察する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理とポイントの明確化
11	映画字幕の世界	映画字幕の翻訳が生まれるプロセスを学び、現代のサブカルチャーにおける翻訳の意義について考察する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
12	歌詞と翻訳	歌詞がどのように翻訳されているか、事例をあげながら考察し、サブカルチャーにおける翻訳の意義について考える。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理とポイントの明確化
13	翻訳と日本文学	俳句や古典作品、小説など名作の翻訳例を通して、翻訳文化の厚みと困難について認識を深める。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
14	漫画の翻訳	翻訳テキストを例に、原文と訳文とのズレを発見・分析し、異文化理解のあり方について探究する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
15	総合評価授業	講義全体のまとめをおこない、修得度確認のための総合問題を解く。	_____

関連科目 外国語専門職プログラム科目(2015年度入学生)および学部で開講されている文化科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『翻訳と日本文化』	芳賀徹編	山川出版社
	2			
	3			

評価方法(基準) 授業における中間テスト、総合テスト、および課題レポート、ミニ確認問題などを総合的に評価する。テスト70%、その他30%。

学生への メッセージ	外国語を文化の問題としてとらえる目を養ってほしい。
担当者の 研究室等	7号館4階(小川研究室)
備考	事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。

科目名	マイノリティー論	科目名(英文)	Minority Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	マイノリティーの問題について、様々な観点から、いくつかのトピックを取り上げて考察する。歴史的な観点、世界史的な観点からの考察と、現在の日本における問題の双方を取り上げる。
到達目標	マイノリティーの問題の多様性を理解する。 マイノリティーと差別の問題との関連性を理解する。 マイノリティーに対する自分自身の立場をはっきりさせ、差別のない社会を作るためにはどうしたらよいか、自分なりの考えを持つ。
授業方法と留意点	講義形式で行う。適宜、資料を配付する。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	マイノリティー問題の概括	マイノリティー問題を扱う理論的枠組み マイノリティー問題の2つのベクトル、差別と支配について	2回の授業内容をまとめる。
3	マイノリティー問題の原型としての「いじめ」問題	様々なレベルでの「いじめ」について考える。	「いじめ」問題に対する自分の考えをまとめる。
4	日本の差別問題(1)	日本において歴史的な背景の下に、どのような差別が行われてきたかについて、考える。 階級差別としての部落問題。 部落問題の歴史と現状。	差別問題に対する解決策について各自で掘り下げ、まとめる。
5	日本の差別問題(2)	ヤクザないしは暴力団の問題を考える。 国家権力とアウトローの衝突	事前に指示された映画を見る。 ヤクザ映画の人気はどこに理由があるのかを考えて、各自の意見をまとめる。
6	日本の差別問題(3)	在日コリアン、琉球、アイヌの人たちと「日本人」との関係について考える。	事前に指示された映画を見る。
7	ジェンダーの問題	ジェンダーとは何か。	身近にあるジェンダーの問題について取り上げて、自分の考えをまとめる。
8	セクシュアル・マイノリティーの問題(1)	LGBT(性的マイノリティー)とは何か LGBTに対する偏見と誤解の歴史 LGBTの現在	同性愛を扱った資料をあらかじめ見ておく。
9	セクシュアル・マイノリティーの問題(2)	日本におけるLGBTへの差別 世界におけるLGBTへの差別	授業内容をまとめておく。
10	セクシュアル・マイノリティーの問題(3)	LGBTと社会の関わり カミングアウトとLGBTの祭典	授業内容を整理して、LGBTへの差別に対する自分の考えをまとめる。
11	ユダヤ人問題(1)	ユダヤ人問題の社会的・経済的側面 近代におけるユダヤ人問題 ナチスとユダヤ人虐殺	授業内容を整理しておく。
12	ユダヤ人問題(2)	ユダヤ人問題の現在 アメリカにおけるユダヤ人勢力 差別から支配への転換 イスラエルの建国とユダヤ人問題 民族紛争とマイノリティー	授業内容を踏まえた上で、ユダヤ人問題についてまとめる。
13	フランスにおけるマイノリティー問題	共和制の理念と現実の乖離 イスラム系移民の問題 極右勢力の伸張	授業内容を踏まえて、フランスの共和制の理念と現実との矛盾についてまとめる。
14	アメリカにおけるマイノリティーの問題	黒人問題 ネイティブ・アメリカン問題 黄色人種問題	授業内容を踏まえて、アメリカにおける人種差別の問題についてまとめる。
15	まとめ	人種・階級とマイノリティーの関係についてまとめる。	これまでの授業内容をまとめておく。

関連科目	多文化の共生
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	授業内でのレポート・平常点(40%)と授業後のレポート課題(60%)
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	マイノリティーの問題は、突きつめると、人間らしく生きるということはどういうことなのかという問題に突き当たることを理解して欲しい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 有馬研究室
----------	-------------

備考	講義の内容・評価方法等は、受講生の数などに応じて変更する可能性がある。変更の際には、講義中に通知する。 事前事後学習におよそ60時間必要。
----	--

科目名	マスコミ論	科目名(英文)	Mass Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	「マスコミとは何か」という基本的な問いかけを軸に、マスコミの役割や機能、個人や社会にもたらす影響などについて理解する。一方で、「報道とは何か」というジャーナリズムの根幹やその変遷について考え、マスコミの将来について考えたい。
到達目標	※この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目です。 マスコミの基本的な役割を理解し、新聞記事やテレビニュース、ネット情報などを、メディアリテラシーに基づく、判断ができる能力の開発を目指す。
授業方法と留意点	一方的な講義型授業ではなく、学生との対話やグループディスカッションや作業などを重視した双方向型の授業を目指したい。毎回、課題を設定し、学生自らが考え、自説を発表したり、書いたりする学生参加型授業を実践する。
科目学習の効果(資格)	マスコミを理解することによって、事態をうのみにするのではなく、リテラシー能力を持って、自分の考えをつくることことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	この科目の狙いや進め方、評価方法などを説明する。	新聞やテレビニュースなどに触れる。
2	マスコミって何だろう1	マスコミの現状を知る マスコミとマスメディア SNSはマスコミか	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
3	マスコミって何だろう2	新聞記事を基に5W1Hを考える	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
4	マスコミって何だろう3	ニュース記事を書いてみる 5W1Hを意識して書く 発信する責任 事実を考えるうえで主観と客観を意識する	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
5	振り返り	これまでの内容を振り返り、「マスコミとは何か」という自分の考えをまとめる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。
6	報道を考える1	多面的報道型とオピニオン型の違いや新聞とテレビの違いを理解する。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
7	報道を考える2	客観報道の意味を考え、事実と真実の関係を理解する。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
8	報道を考える3	ジャーナリストはなぜ疑り深いのか、を考える。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
9	振り返り	これまでの内容を振り返り、マスコミに対する自分の意見をまとめる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。
10	報道と情報1	ネット情報を読み解く。ネット情報は玉石混交、情報の確度を考える。 四つの疑問(①事実か印象か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
11	報道と情報2	誤報とやらせや「伝える」と「伝わる」を考える。 四つの疑問(①事実か印象か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
12	報道と情報3	informationとinteligencenの違い 四つの疑問(①事実か印象か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
13	報道と情報4	民主主義を守る報道、権力監視という役割を考える。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
14	振り返り	情報と報道の違いを意識して、論説文を書いてみる。	あらゆる媒体に触れ、自分の意見を構築してみる。
15	全体のまとめ	学んだことを踏まえ、改めて「マスコミとは何か」という自分の考えをつくる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。

関連科目	メディアビジネスプログラムの他の科目など。
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題・レポート(70%)、授業への取り組みなど(30%)により、総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	巷にあふれる情報をいかに取り入れ、正しく判断するか、を考える機会にしたいと思っています。スマホなどのネット情報だけではなく、新聞、テレビ、雑誌など幅広い媒体に興味を持つきっかけにしてください。
-----------	--

	<p>※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝るなどというのほかに、真面目に学ぼうとする人の学習権を侵害する行為はやめてください。注意してもやめない場合はそれなりの措置をとることがあります。他人に迷惑をかけない、という最低限の大人のマナーは守ってください。</p>
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師控室） 学習支援センター
備考	

科目名	ミュージアムコレクション論	科目名(英文)	Studies on Museum Collections
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩間 香
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	博物館資料は博物館になくてはならないものである。本講義では、博物館資料の種類や特質、及び、その収集・整理・保管の理論や方法を具体的に講義する。美術、歴史、民俗、考古など博物館の多様な資料について、基礎的な知識を身に付けることが目的である。この授業では博物館資料が専門的な知識やデータの裏付けにより収集され展示されていることを学ぶことになる。これらの知識は博物館における仕事に不可欠であるほか、日本の文化を学んだり、美術品を鑑賞する上でも大変に役に立つ。
到達目標	多様な博物館資料に関する基礎的な知識を身につける。それらの特性を知り、保存上の注意についての基礎的な知識を身につける。博物館・美術館で実物に接して、その種類や特性が分かるようになる。
授業方法と留意点	毎回レジメを配布して、スライドを用いながら講義を進める。博物館・美術館における臨地講義も実施する。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格の取得(必修科目)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	博物館資料の種類	博物館資料にはどのような種類があるかを概説する。	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
2	絵画資料について	油絵、日本画、水彩画、パステル画などの絵画資料の種類と特性を解説する。	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
3	彫刻資料について	仏像、近代彫刻、インスタレーションなどの彫刻資料の素材、特性を解説する。	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
4	工芸資料について	陶磁、漆芸、染織、金工、ガラスなどの工芸資料の種類と特性を解説する。	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
5	民俗・民族資料について	民具、記録など民俗・民族資料の種類と特性を解説する。	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
6	歴史資料について	古文書、遺跡、遺物などの歴史資料を解説する。	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
7	考古資料について	発掘品、遺跡などの考古資料について解説する。	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
8	模型について	博物館における模型の種類と活用について解説する。	事前:WEBで博物館の模型の実例を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
9	映像について	博物館における映像資料の種類と活用について解説する。	事前:WEBで博物館の映像資料の実例を調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
10	資料の収集	博物館のコレクションの成り立ちについて解説する。	事前:WEBで博物館の収集方法について調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
11	資料の分類・整理	博物館における資料の分類と整理の方法を解説する。	事前:WEBで博物館の資料の分類について調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
12	資料の活用	目録の作成、資料の貸出し、特別利用など多様な資料活用について解説する。	事前:WEBで博物館資料活用について調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
13	資料の公開	出版やインターネットを介しての資料公開について解説する。	事前:WEBで博物館の資料公開について調べる。 事後:ノートの整理をして不明点を調べる。
14	博物館見学	博物館資料の展示・収蔵について実地に見学する。	事前:WEBで見学先の博物館について調べる。 事後:レポートをまとめる。
15	博物館見学	博物館資料の展示・収蔵について実地に見学する。	事前:WEBで見学先の博物館について調べる。 事後:レポートをまとめる。

関連科目	博物館科目
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験 80% レポート 20% 受講態度を加味する。
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	各地にさまざまな博物館があります。できるだけ多くの博物館に行き、実際に展示された資料を見てください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階(岩間研究室)
----------	--------------

備考	予習復習に毎週4時間ほどを目安とします。
----	----------------------

科目名	ミュージアムへの招待	科目名 (英文)	Introduction to Museum Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	ミュージアムは、日本では歴史博物館・美術館・文学館・記念館・動物園・水族館などの施設で、全国でおよそ 5700 館を数えることができます。かつて「博物館行き」という言葉は古くさいものの代名詞でしたが、今日、ミュージアム・博物館はその姿を大きく変えています。カラフルなシンボル展示、IT 技術を駆使した映像展示、実物大の家を再現した体感型展示、様々な参加型プログラムなど、おしゃれで楽しめる施設へと変化しつつあります。またミュージアムグッズも図録だけでなく、Tシャツ・ぬいぐるみ・菓子などオリジナル商品を豊富に揃えている館が少なくありません。ミュージアム・博物館とは何か、これからどう変化していくのかを、その歴史や現状を学びながら考えていきましょう。
到達目標	美術館・博物館の種類・機能・社会的な役割を理解し、学芸員に必要な基礎的な知識を修得します。
授業方法と留意点	パワーポイント・ビデオなどを随時使用して、臨場感にあふれたビジュアルな講義にします。また教室内だけではなく、実際に新しい魅力的なミュージアム・博物館を見学します。現地見学の交通費や入館料は受講者負担になります。
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ミュージアム・博物館とは何か	話題のミュージアム・博物館紹介。記憶に残る展覧会。資格取得の条件・諸注意。	旅先などで博物館や美術館の見学をする習慣をつけてください。
2	日本のミュージアム・博物館 (1)	動物園ランキング (旭山動物園と天王寺動物園)、水族館ランキング (美ら海水族館と海遊館)	子どもに行った動物園・水族館と、最近の動物園・水族館を比較してください。
3	日本のミュージアム・博物館 (2)	美術館 (近代美術館と現代美術館)、自然史系博物館 (琵琶湖博物館と大阪市立自然史博物館)、歴史系博物館 (大阪歴史博物館と大阪くらしの今昔館)	美術館の特別展をのぞいてみてください。
4	日本のミュージアム・博物館 (3)	野外博物館 (明治村、北海道開拓の村、四国村、おきなわ郷土村、まちぐるみ博物館)	町並み保存やまちおこしも野外博物館のヒントになります。
5	日本のミュージアム・博物館 (4)	企業ミュージアム (月桂冠大倉記念館、横浜ラーメン博物館、インスタントラーメン発明記念館、くすりのまち道修町資料館、大学博物館など)。実際の博物館を見学します。詳細は講義の中で指示します。	近くにある企業ミュージアムを訪ねてください。
6	「博物館法」を読む	博物館の定義と種類。博物館法、博物館法施行規則、公立博物館に関する法律。博物館の機能、展示資料による分類、設置者による分類、制度による分類	「博物館法」は事前事後によく読んでください。
7	ミュージアム・博物館をつくる (1)	博物館構想の策定、資料の収集と保管、調査と研究、展示と学習	ミュージアム・博物館に行ったら、展覧会を見るだけでなく、どんな仕事をしているのかよく観察してください。
8	ミュージアム・博物館をつくる (2)	ミュージアム・博物館の設計、博物館の空間 (エントランス、展示室、収蔵庫、学習室、ミュージアムショップ、レストラン、学芸員室、事務室、駐車場、動線計画、設備計画)。博物館のバックヤード見学は講義の中で指示します。	ミュージアム・博物館に行ったら、どんな部屋があるのか、案内図を確認してください。
9	ミュージアム・博物館の展示	常設展示の概要	ミュージアム・博物館の展示 (とくに常設展示) を時間かけて見学してください。
10	博物館の展示	企画展示とは何か	最近話題になった特別展示を紹介しあい、一度は見学してください。
11	ミュージアム・博物館と生涯学習	こどもとミュージアム、高齢者とミュージアム、大学生とミュージアム、観光・まちづくりとミュージアム	地域社会におけるミュージアムの役割を考えてください。
12	ミュージアム・博物館の歴史	日本と世界のミュージアム・博物館ランキング。	友達どうして、これまでに見学した博物館の中で、面白かったミュージアムや展覧会を紹介しよう。
13	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3 コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。
14	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3 コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。
15	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3 コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。

関連科目 学芸員資格の必修科目とその他の関連科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	定期試験(筆記)の成績(100%)で評価します。		
学生への メッセージ	ミュージアム・博物館に行っていないという人がいますが、それは間違いです。歴史資料館や美術館に行っても、動物園や水族館には行ったことがあるはず。実は、動物園も水族館も博物館なのです。これからのミュージアム・博物館は、知的な好奇心を満足させてくれる楽しいところを目指しています。このミュージアム・博物館を企画・運営している専門職員が学芸員です。少しでもミュージアムに興味があるなら、受講してください。学芸員資格を取るには、4年生で博物館実習を行う必要があります。		
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)		
備考	事前・事後に約4時間の学修時間を要する。		

科目名	ミュージアムマネジメント論	科目名(英文)	Museum Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	博物館経営に関する行財政制度を踏まえながら、さまざまな博物館の形態や多岐にわたる活動について講義する。今後の方向性を考えるとともに、学芸員に必要な博物館経営に関する基礎的知識の習得をめざす。
到達目標	博物館の現状と課題を認識しながら、博物館はどうあるべきかを考え、理想の博物館を実現するためには、どのようなミュージアムマネジメント(博物館経営)が必要であるのかを具体的に理解できる。
授業方法と留意点	配布資料やスライドを見ながら進め、適宜板書もする。 受講生が調べたり、考えたりする作業を行い、毎回レポートを課すので欠席しないようにしてください。また、受講生と相談の上、博物館の臨地講義も実施する予定である。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格の取得(必修科目)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	行財政制度と博物館	博物館に関係する法律や財務に関する制度について解説する。	配布資料や参考書で復習する。
3	博物館をめぐる行政改革	指定管理者制度、PFI法、独立行政法人制度など、博物館に関する近年の行政改革について解説し、その問題点を考える。	PFI法、指定管理者制度について、本やWEBで調べておく。
4	博物館の財務	博物館の基本的な歳入と歳出などを解説し、財務状況や入館料をめぐる問題点を考える。	博物館の予算的な問題について調べる。
5	博物館の立地と環境	博物館にふさわしい立地条件や自然及び社会的環境について具体的に解説する。	実際の博物館の立地・環境を調べる。
6	博物館の施設と設備	博物館にどのような施設と設備が必要であるかを解説し、館種による相違点を比較する。	配布資料や参考書で復習する。
7	博物館の組織と職員	一般的な博物館の組織と職員、学芸員の具体的な業務内容を説明する。	配布資料や参考書で復習する。
8	博物館事業のあり方	博物館の理念と目的を説明し、その達成のためにどのような事業計画が必要かを検討する。	博物館が実施している事業の具体例を調べておく。
9	博物館の評価	博物館を評価するにはどのような基準・方法があるかを解説し、評価により得られる効果を検討する。	行ったことのある博物館の評価をしてみる。
10	博物館の危機管理	博物館で想定されるさまざまな危機について解説し、その対策を具体的に検討する。	博物館にかかわる危機にはどのようなものがあるか考えておく。
11	博物館の広報活動	非営利組織のマーケティングリサーチと、博物館における広報活動の具体的な方法を解説する。	博物館のポスターやチラシなどを見ておく。
12	ミュージアムサービス	ミュージアムショップ、レストランなどに代表されるサービスの現状を説明し、今後の方向性を考える。	本やWEBで博物館のサービスの具体例を調べる。
13	市民参画をめざす博物館	友の会、ボランティアなどの支援組織や、市民参画を促す博物館事業について解説する。	WEBやリーフレットなどで、博物館の友の会などについて調べる。
14	博物館のネットワーク	いろいろな博物館のネットワークについて解説する。	WEBで、日本博物館協会、日本動物園水族館協会などのHPを見る。
15	対話と連携の博物館	博物館が目指す対話と連携を具体的に検討することで、これからの博物館の経営について考える。	配布資料や参考書で復習する。

関連科目	ほかの学芸員科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	講義最終日に行う筆記試験(持ち込み不可)、講義中に課すレポートをもとに評価する。 筆記試験(70%)、レポート(30%)とします。
----------	--

学生へのメッセージ	必ず毎回出席すること。また、本講義を受講する間、多くの博物館を訪れることを望みます。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。
----	------------------------

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等
--------------	------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	環境と経済に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
3	国際スポーツの記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
4	国際スポーツの記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
5	気候に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
6	気候に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
7	日本国内のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
9	日本国内の交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
11	災害救助のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
12	災害救助のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
13	高速鉄道のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
14	高速鉄道のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intro to Reading The Japan Times ST/『週刊 ST』からはじめる時事英語	富永美喜	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	拙冬 紘和
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等
--------------	------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	環境と経済に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
3	国際スポーツの記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
4	国際スポーツの記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
5	気候に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
6	気候に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
7	日本国内のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
9	日本国内の交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
11	災害救助のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
12	災害救助のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
13	高速鉄道のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
14	高速鉄道のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intro to Reading The Japan Times ST/『週刊 ST』からはじめる時事英語	富永美喜	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	社会の出来事をしっかりと理解し、それについて意見を持ち、英語で発信できる能力をもつことはこれからの社会で大きなスキルとなります。 楽しんで頑張りましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等
--------------	------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	環境と経済に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
3	国際スポーツの記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
4	国際スポーツの記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
5	気候に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
6	気候に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
7	日本国内のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
9	日本国内の交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
11	災害救助のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
12	災害救助のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
13	高速鉄道のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
14	高速鉄道のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intro to Reading The Japan Times ST/『週刊 ST』からはじめる時事英語	富永美喜	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等
--------------	------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	環境と経済に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
3	国際スポーツの記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
4	国際スポーツの記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
5	気候に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
6	気候に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
7	日本国内のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
9	日本国内の交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
11	災害救助のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
12	災害救助のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
13	高速鉄道のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
14	高速鉄道のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intro to Reading The Japan Times ST/『週刊 ST』からはじめる時事英語	富永美喜	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	環境と経済に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
3	国際スポーツの記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
4	国際スポーツの記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
5	気候に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
6	気候に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
7	日本国内のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
9	日本国内の交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
11	災害救助のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
12	災害救助のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
13	高速鉄道のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
14	高速鉄道のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intro to Reading The Japan Times ST/『週刊 ST』からはじめる時事英語	富永美喜	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等
--------------	------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intro to Reading The Japan Times ST / 『週刊 ST』からはじめる時事英語	富永美喜	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 毎回、授業始めに復習テストを行います。 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 予習、復習をしっかりと行いましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	拙冬 紘和
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	社会の出来事、問題を理解し、意見を持ち、それを英語で発信する力はこれからの社会では大きなスキルとなります。 一緒に楽しんで頑張りましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等
--------------	------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 毎回、授業始めに復習テストを行います。 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 予習、復習をしっかりと行いましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等
--------------	------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 毎回、授業始めに復習テストを行います。 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 予習、復習をしっかりと行いましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等
--------------	------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 毎回、授業始めに復習テストを行います。 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 予習、復習をしっかりと行いましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	メディア中国語 a	科目名 (英文)	Media Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	様々なトピックを通じ、現代中国の現況を理解することに努めます。
到達目標	中国語を読み、聞き、書くことで総合力を養成したいと思います。検定3級レベルから2級レベルに焦点を合わせます。
授業方法と留意点	既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。事前・事後に各60分の学修を要する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定3級合格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	就活の経験 1/2	文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
2	就活の経験 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
3	就活の経験小テスト 僕の恋人 1/2	第1-2回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
4	僕の恋人 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
5	僕の恋人小テスト メディアの時代 1/2	第3-4回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
6	メディアの時代 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
7	メディアの時代小テスト 祝祭日の過ごし方 1/2	第5-6回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
8	祝祭日の過ごし方 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
9	祝祭日の過ごし方小テスト 日々の憩い 1/2	第7-8回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
10	日々の憩い 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
11	日々の憩い 小テスト 結婚すべきか 1/2	第9-10回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
12	結婚すべきか 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
13	結婚すべきか 小テスト 一人っ子の是非 1/2	第11-12回復習テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
14	一人っ子の是非 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
15	総復習	第13-14回復習テスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。

関連科目	「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を話す IIa」「中国語を書く IIa」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2	3	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2	3	

評価方法 (基準)	学期中に7回実施する小テストおよび授業に取り組む姿勢をもとに評価する。 授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	語学の習得には地道な努力が必要です。最後まであきらめず、頑張りぬきましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師控室 (7号館2階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。

科目名	メディア中国語 b	科目名 (英文)	Media Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	前期と同じく、様々なトピックを通じ、中国の現況に迫ります。
到達目標	中国語の総合力を養います。検定3級から2級合格を目指します。
授業方法と留意点	既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定3級～2級合格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	財布の紐を握るのは 1/2	文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
2	財布の紐を握るのは 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
3	財布の紐を握るのは 小テスト 調和社会の悩み 1/2	第1-2回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
4	調和社会の悩み 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
5	調和社会の悩み 小テスト 新興自動車王国 1/2	第3-4回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
6	新興自動車王国 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
7	新興自動車王国 小テスト 少数民族の魅力 1/2	第5-6回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
8	少数民族の魅力 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
9	少数民族の魅力 小テスト 明日のために省エネ 1/2	第7-8回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
10	明日のために省エネ 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
11	明日のために省エネ 小テスト エコバッグ持参 1/2	第9-10回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
12	エコバッグ持参 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
13	エコバッグ持参 小テスト 中国食べ歩き 1/2	第11-12回小テスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
14	中国食べ歩き 2/2	音読練習 練習問題	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
15	総復習	第13-14回小テスト	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。

関連科目	「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を話す IIb」「中国語を書く IIb」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	焦点中国語	植屋 谷川 等	白帝社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	学期中に7回実施する小テストおよび授業に取り組む姿勢をもとに評価する。 授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	--

学生へのメッセージ	教科書は前期購入したものを引き続き使用します。ご注意ください。 前期に引き続き、地道に着実にレベルアップしていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	講師控室 (7号館2階)
----------	--------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	メディアのスペイン語 I	科目名 (英文)	Media Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、同時に語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。
到達目標	スペイン語の文法知識が深まり、直説法に限定した長文の内容を正確に読み解くことができるようになる。
授業方法と留意点	予習として文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の本文写しと和訳を指示に従ってやってくる。授業では文の構造と文と文のつながりを詳しく学ぶ。指示詞、代名詞、動詞の時制などの文法事項は質問するので、予習の段階でよく確認すること。授業はグループワーク形式で行うこともある。予習で作成した本文写しと和訳は毎回提出すること。必ず紙の辞書を使用し、辞書を徹底的に使うこと。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級～4 級 (4 級合格には接続法の理解が必要です。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要説明と読解のための文の構造についての説明	指示された教科書を購入し、全体に目を通しておく。
2	ミレニアル世代の若者たち (1)	文法 (直説法現在と再帰動詞) および語彙の確認	1 課の文法問題とリスニング
3	ミレニアル世代の若者たち (2)	西文和訳	1 課の文章の本文写しと和訳
4	新党の台頭 (1)	文法 (gustar と不定詞) および語彙の確認	2 課の文法問題とリスニング
5	新党の台頭 (2)	西文和訳	2 課の文章の本文写しと和訳
6	チリと日本の防災協力 (1)	文法 (現在完了と点過去) および語彙の確認	3 課の文法問題とリスニング
7	チリと日本の防災協力 (2)	西文和訳	3 課の文章の本文写しと和訳
8	中間テスト、新聞記事の読解	既習範囲の確認とスペイン語圏の新聞記事の読解	既習範囲の復習
9	スペインの健康保険事情 (1)	文法 (点過去と線過去) および語彙の確認	4 課の文法問題とリスニング
10	スペインの健康保険事情 (2)	西文和訳	4 課の文章の本文写しと和訳
11	黒い伝説とマルカ・エスパーニャ (1)	文法 (過去時制の使い分け) および語彙の確認	5 課の文法問題とリスニング
12	黒い伝説とマルカ・エスパーニャ (2)	西文和訳	5 課の文章の本文写しと和訳
13	世界タバスデー (1)	文法 (未来と過去未来) および語彙の確認	6 課の文法問題とリスニング
14	世界タバスデー (2)	西文和訳	6 課の文章の本文写しと和訳
15	学習内容の確認	読解のポイントの復習と理解度判定テスト	総復習

関連科目	スペイン語オラルⅢ、スペイン語総合 A・B、スペイン語文章構成 I
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Es noticia (ニュースを聞こう! 中級スペイン語)	中島聡子ほか	三修社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	予習や提出物等の授業参加意欲 20%、中間テスト 40%、理解度判定テスト 40%
-----------	---

学生へのメッセージ	授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直ししながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。また語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 講師控室
----------	---------------

備考	各回とも事前・事後学習に要する総時間数は約 30 時間を目安とする。ポキャブラリ・コンテスト (時期は未定) により授業進度が変更になる場合がある。
----	--

科目名	メディアのスペイン語 I	科目名 (英文)	Media Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、同時に語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。
到達目標	スペイン語の文法知識が深まり、直説法に限定した長文の内容を正確に読み解くことができるようになる。
授業方法と留意点	予習として文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の本文写しと和訳を指示に従ってやってくる。授業では文の構造と文と文のつながりを詳しく学ぶ。指示詞、代名詞、動詞の時制などの文法事項は質問するので、予習の段階でよく確認すること。授業はグループワーク形式で行うこともある。予習で作成した本文写しと和訳は毎回提出すること。必ず紙の辞書を使用し、辞書を徹底的に使うこと。

科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級～4 級 (4 級合格には接続法の理解が必要です。)
--------------	---------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要説明と読解のための文の構造についての説明	指示された教科書を購入し、全体に目を通しておく。
2	ミレニアル世代の若者たち (1)	文法 (直説法現在と再帰動詞) および語彙の確認	1 課の文法問題とリスニング
3	ミレニアル世代の若者たち (2)	西文和訳	1 課の文章の本文写しと和訳
4	新党の台頭 (1)	文法 (gustar と不定詞) および語彙の確認	2 課の文法問題とリスニング
5	新党の台頭 (2)	西文和訳	2 課の文章の本文写しと和訳
6	チリと日本の防災協力 (1)	文法 (現在完了と点過去) および語彙の確認	3 課の文法問題とリスニング
7	チリと日本の防災協力 (2)	西文和訳	3 課の文章の本文写しと和訳
8	中間テスト、新聞記事の読解	既習範囲の確認とスペイン語圏の新聞記事の読解	既習範囲の復習
9	スペインの健康保険事情 (1)	文法 (点過去と線過去) および語彙の確認	4 課の文法問題とリスニング
10	スペインの健康保険事情 (2)	西文和訳	4 課の文章の本文写しと和訳
11	黒い伝説とマルカ・エスパーニャ (1)	文法 (過去時制の使い分け) および語彙の確認	5 課の文法問題とリスニング
12	黒い伝説とマルカ・エスパーニャ (2)	西文和訳	5 課の文章の本文写しと和訳
13	世界タバスデー (1)	文法 (未来と過去未来) および語彙の確認	6 課の文法問題とリスニング
14	世界タバスデー (2)	西文和訳	6 課の文章の本文写しと和訳
15	学習内容の確認	読解のポイントの復習と理解度判定テスト	総復習

関連科目	スペイン語オラルⅢ、スペイン語総合 A・B、スペイン語文章構成 I
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Es noticia (ニュースを聞こう! 中級スペイン語)	中島聡子ほか	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	予習や提出物等の授業参加意欲 20%、中間テスト 40%、理解度判定テスト 40%
-----------	---

学生へのメッセージ	授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直ししながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。また語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 5 階 藤井研究室
----------	----------------

備考	各回とも事前・事後学習に要する総時間数は約 30 時間を目安とする。ボキャブラリ・コンテスト (時期は未定) により授業進度が変更になる場合がある。
----	--

科目名	メディアのスペイン語 I	科目名 (英文)	Media Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	今までに学習したスペイン語の文法知識を十分に駆使して、新聞、雑誌、ウェブページ、ブログなどの様々なメディアで用いられるスペイン語の文章をできるだけ多く読み、「メディアのスペイン語」に慣れる。 国内外のさまざまな出来事・ニュースに敏感になる。
到達目標	スペイン語による様々な表現や文法知識の更なる習得を目指す。
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた新聞記事、雑誌記事、ウェブ記事をプリントにして配布します。 事前に配布されたプリントに目を通して頂くこと。事前・事後学習に各1時間を要する。 また、関連記事やそれに限らない国内外のニュースなどにも日頃から目を配っておくこと。レポートを課すことがある。授業計画はあくまで目安であり、集団の様子を見て、テーマやペースが変わる場合もある。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4,3 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日本に関するスペイン語の記事 (1)	文化記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
3	日本に関するスペイン語の記事 (2)	文化記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
4	日本に関するスペイン語の記事 (3)	社会記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
5	日本に関するスペイン語の記事 (4)	社会記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
6	中間テスト	既習事項の再確認	到達度の確認
7	スペインに関するスペイン語の記事 (1)	文化記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
8	スペインに関するスペイン語の記事 (2)	文化記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
9	スペインに関するスペイン語の記事 (3)	文化記事の訳読 3	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
10	復習 ボキャブラリーコンテスト	ここまでの復習と意見発表など 単語、語句、表現	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
11	中南米諸国に関するスペイン語の記事 (1)	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
12	中南米に関するスペイン語の記事 (2)	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
13	世界に関するスペイン語の記事 (1)	社会記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
14	世界に関するスペイン語の記事 (2)	社会記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
15	到達度確認テスト	既習事項の再確認	さらなる復習を

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	中間テストや到達度確認テストおよびボキャブラリーコンテスト 90%、毎回の発表等の受講姿勢 10%
-----------	---

学生へのメッセージ	文法事項ももう一度きちんと学習し直し、スペイン語のスキルアップにつなげよう。 日本語にももっと注意を向けること。 新聞、書籍を読み、言語を問わず読解力をつけること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 (安達研究室)
----------	---------------

備考	とにかく文章を読むこと。 事前・事後学習に各2時間を要す。
----	----------------------------------

科目名	メディアのスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Media Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、同時に語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。後半はペースを上げて読んでいく。																																																																
到達目標	スペイン語の文法知識が深まり、接続法を含む長文の内容を正確に読み解くことができるようになる。																																																																
授業方法と留意点	予習として文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の本文写しと和訳を指示に従ってやってくる。授業では文の構造と文と文のつながりを詳しく学ぶ。指示詞、代名詞、動詞の時制などの文法事項は質問するので、予習の段階でよく確認すること。授業はグループワーク形式で行うこともある。予習で作成した本文写しと和訳は毎回提出すること。必ず紙の辞書を使用し、辞書を徹底的に使うこと。																																																																
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級(4級合格には接続法の理解が必要です。)																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スペインにおける家族形態の変化(1)</td> <td>文法(比較級)と語彙の確認</td> <td>7課の文法問題とリスニング</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>スペインにおける家族形態の変化(2)</td> <td>西文和訳</td> <td>7課の文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>臓器移植(1)</td> <td>文法(名詞節・副詞節での接続法)と語彙の確認</td> <td>8課の文法問題とリスニング</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>臓器移植(2)</td> <td>西文和訳</td> <td>8課の文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キューバと日本(1)</td> <td>文法(形容詞節での接続法)と語彙の確認</td> <td>9課の文法問題とリスニング</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キューバと日本(2)</td> <td>西文和訳</td> <td>9課の文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中間テスト、新聞記事の読解</td> <td>既習範囲の確認とスペイン語圏の新聞記事の読解</td> <td>既習範囲の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>スペインにおける難民受け入れ</td> <td>文法(接続法現在)と西文和訳</td> <td>10課の文法問題、文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>闘牛の是非をめぐって</td> <td>文法(接続法現在完了)と西文和訳</td> <td>11課の文法問題、文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>スペイン語の経済効果</td> <td>文法(接続法過去)と西文和訳</td> <td>12課の文法問題、文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Yの読み方とスペインの民衆蜂起</td> <td>文法(接続法過去)と西文和訳</td> <td>13課の文法問題、文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>国境なきライバル(1)</td> <td>文法(条件文)と語彙の確認</td> <td>14課の文法問題とリスニング</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>国境なきライバル(2)</td> <td>西文和訳</td> <td>14課の文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>日本企業のメキシコ進出</td> <td>文法(条件文)と西文和訳</td> <td>15課の文法問題、文章の本文写しと和訳</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学習内容の確認</td> <td>読解のポイントの復習と理解度判定テスト</td> <td>総復習</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	スペインにおける家族形態の変化(1)	文法(比較級)と語彙の確認	7課の文法問題とリスニング	2	スペインにおける家族形態の変化(2)	西文和訳	7課の文章の本文写しと和訳	3	臓器移植(1)	文法(名詞節・副詞節での接続法)と語彙の確認	8課の文法問題とリスニング	4	臓器移植(2)	西文和訳	8課の文章の本文写しと和訳	5	キューバと日本(1)	文法(形容詞節での接続法)と語彙の確認	9課の文法問題とリスニング	6	キューバと日本(2)	西文和訳	9課の文章の本文写しと和訳	7	中間テスト、新聞記事の読解	既習範囲の確認とスペイン語圏の新聞記事の読解	既習範囲の復習	8	スペインにおける難民受け入れ	文法(接続法現在)と西文和訳	10課の文法問題、文章の本文写しと和訳	9	闘牛の是非をめぐって	文法(接続法現在完了)と西文和訳	11課の文法問題、文章の本文写しと和訳	10	スペイン語の経済効果	文法(接続法過去)と西文和訳	12課の文法問題、文章の本文写しと和訳	11	Yの読み方とスペインの民衆蜂起	文法(接続法過去)と西文和訳	13課の文法問題、文章の本文写しと和訳	12	国境なきライバル(1)	文法(条件文)と語彙の確認	14課の文法問題とリスニング	13	国境なきライバル(2)	西文和訳	14課の文章の本文写しと和訳	14	日本企業のメキシコ進出	文法(条件文)と西文和訳	15課の文法問題、文章の本文写しと和訳	15	学習内容の確認	読解のポイントの復習と理解度判定テスト	総復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	スペインにおける家族形態の変化(1)	文法(比較級)と語彙の確認	7課の文法問題とリスニング																																																														
2	スペインにおける家族形態の変化(2)	西文和訳	7課の文章の本文写しと和訳																																																														
3	臓器移植(1)	文法(名詞節・副詞節での接続法)と語彙の確認	8課の文法問題とリスニング																																																														
4	臓器移植(2)	西文和訳	8課の文章の本文写しと和訳																																																														
5	キューバと日本(1)	文法(形容詞節での接続法)と語彙の確認	9課の文法問題とリスニング																																																														
6	キューバと日本(2)	西文和訳	9課の文章の本文写しと和訳																																																														
7	中間テスト、新聞記事の読解	既習範囲の確認とスペイン語圏の新聞記事の読解	既習範囲の復習																																																														
8	スペインにおける難民受け入れ	文法(接続法現在)と西文和訳	10課の文法問題、文章の本文写しと和訳																																																														
9	闘牛の是非をめぐって	文法(接続法現在完了)と西文和訳	11課の文法問題、文章の本文写しと和訳																																																														
10	スペイン語の経済効果	文法(接続法過去)と西文和訳	12課の文法問題、文章の本文写しと和訳																																																														
11	Yの読み方とスペインの民衆蜂起	文法(接続法過去)と西文和訳	13課の文法問題、文章の本文写しと和訳																																																														
12	国境なきライバル(1)	文法(条件文)と語彙の確認	14課の文法問題とリスニング																																																														
13	国境なきライバル(2)	西文和訳	14課の文章の本文写しと和訳																																																														
14	日本企業のメキシコ進出	文法(条件文)と西文和訳	15課の文法問題、文章の本文写しと和訳																																																														
15	学習内容の確認	読解のポイントの復習と理解度判定テスト	総復習																																																														
関連科目	スペイン語オラルⅣ、スペイン語文章構成Ⅱ、スペイン語トピックス、映画のスペイン語Ⅰ																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Es noticia (ニュースを聞こう! 中級スペイン語)</td> <td>中島聡子ほか</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Es noticia (ニュースを聞こう! 中級スペイン語)	中島聡子ほか	三修社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	Es noticia (ニュースを聞こう! 中級スペイン語)	中島聡子ほか	三修社																																																														
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	予習や提出物等の授業参加意欲 20%、中間テスト 40%、理解度判定テスト 40%																																																																
学生へのメッセージ	授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直ししながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。また語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。																																																																
担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室																																																																
備考	各回とも事前・事後学習に要する総時間数は30時間を目安とする。ポキャブラリ・コンテスト(時期は未定)により授業進度が変更になる場合がある。																																																																

科目名	メディアのスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Media Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三浦 知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、同時に語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。後半はペースを上げて読んでいく。
到達目標	スペイン語の文法知識が深まり、接続法を含む長文の内容を正確に読み解くことができるようになる。

授業方法と留意点	予習として文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の本文写しと和訳を指示に従ってやってくる。授業では文の構造と文と文のつながりを詳しく学ぶ。指示詞、代名詞、動詞の時制などの文法事項は質問するので、予習の段階でよく確認すること。授業はグループワーク形式で行うこともある。予習で作成した本文写しと和訳は毎回提出すること。必ず紙の辞書を使用し、辞書を徹底的に使うこと。
----------	--

科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級(4級合格には接続法の理解が必要です。)
-------------	-------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	スペインにおける家族形態の変化(1)	文法(比較級)と語彙の確認	7課の文法問題とリスニング
2	スペインにおける家族形態の変化(2)	西文和訳	7課の文章の本文写しと和訳
3	臓器移植(1)	文法(名詞節・副詞節での接続法)と語彙の確認	8課の文法問題とリスニング
4	臓器移植(2)	西文和訳	8課の文章の本文写しと和訳
5	キューバと日本(1)	文法(形容詞節での接続法)と語彙の確認	9課の文法問題とリスニング
6	キューバと日本(2)	西文和訳	9課の文章の本文写しと和訳
7	中間テスト、新聞記事の読解	既習範囲の確認とスペイン語圏の新聞記事の読解	既習範囲の復習
8	スペインにおける難民受け入れ	文法(接続法現在)と西文和訳	10課の文法問題、文章の本文写しと和訳
9	闘牛の是非をめぐって	文法(接続法現在完了)と西文和訳	11課の文法問題、文章の本文写しと和訳
10	スペイン語の経済効果	文法(接続法過去)と西文和訳	12課の文法問題、文章の本文写しと和訳
11	Yの読み方とスペインの民衆蜂起	文法(接続法過去)と西文和訳	13課の文法問題、文章の本文写しと和訳
12	国境なきライバル(1)	文法(条件文)と語彙の確認	14課の文法問題とリスニング
13	国境なきライバル(2)	西文和訳	14課の文章の本文写しと和訳
14	日本企業のメキシコ進出	文法(条件文)と西文和訳	15課の文法問題、文章の本文写しと和訳
15	学習内容の確認	読解のポイントの復習と理解度判定テスト	総復習

関連科目	スペイン語オラルⅣ、スペイン語文章構成Ⅱ、スペイン語トピックス、映画のスペイン語Ⅰ
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Es noticia (ニュースを聞こう! 中級スペイン語)	中島聡子ほか	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	予習や提出物等の授業参加意欲20%、中間テスト40%、理解度判定テスト40%
----------	--

学生へのメッセージ	授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直ししながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。また語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 講師控室
----------	------------

備考	各回とも事前・事後学習に要する総時間数は30時間を目安とする。ポキャブラリ・コンテスト(時期は未定)により授業進度が変更になる場合がある。
----	---

科目名	メディアのスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Media Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	辞書と習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を読みこなす力を身につけていくことを目指す。授業では主にスペイン語圏に関する文章を読み進めていくが、スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得と、単文のみならず複文を含めた長文の読解力を身に付ける。
授業方法と留意点	文章の読解をしていく。授業では、一文一文詳しく見ていく。また、指示語や代名詞、動詞の時制などの文法事項をひとつひとつ尋ねるので、答えられるように予習の段階で確認しておくこと。事前・事後学修に各1時間を要する。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	授業で指示
2	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
3	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
4	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
5	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
6	中間テスト	既習範囲の確認	単語と表現
7	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
8	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
9	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
10	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	単語と表現
11	中間テスト(2)	既習範囲の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
12	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
13	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
14	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
15	理解度確認テスト	これまでの総括	総復習

関連科目	スペイン語の科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	予習訳の提出40% + 中間テスト 30% + 理解度確認テスト30%
学生へのメッセージ	必ず予習の段階で自分なりに訳してみる。必ず予習をして授業に出席すること。また、辞書を持参すること。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学修に各2時間を要する。

科目名	メディアのスペイン語Ⅲ	科目名(英文)	Media Spanish III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	今までに学習したスペイン語の文法知識を十分に駆使して、新聞、雑誌、ウェブページ、ブログなどの様々なメディアで用いられるスペイン語の文章をできるだけ多く読み、「メディアのスペイン語」に慣れる。 国内外のさまざまな出来事・ニュースに敏感になる。
到達目標	スペイン語による様々な表現や文法知識の更なる習得を目指す。
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた新聞記事、雑誌記事、ウェブ記事をプリントにして配布します。 事前に配布されたプリントに目を通して頂くこと。事前・事後学習に各1時間を要する。 また、関連記事やそれに限らない国内外のニュースなどにも日頃から目を配っておくこと。レポートを課すことがある。授業計画はあくまで目安であり、集団の様子を見て、テーマやペースが変わる場合もある。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定 4,3級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本に関するスペイン語の記事(1)	文化記事の訳読1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
3	日本に関するスペイン語の記事(2)	文化記事の訳読2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
4	日本に関するスペイン語の記事(3)	社会記事の訳読1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
5	日本に関するスペイン語の記事(4)	社会記事の訳読2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
6	中間テスト	既習事項の再確認	到達度の確認
7	スペインに関するスペイン語の記事(1)	文化記事の訳読1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
8	スペインに関するスペイン語の記事(2)	文化記事の訳読2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
9	スペインに関するスペイン語の記事(3)	文化記事の訳読3	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
10	復習 ボキャブラリーコンテスト	ここまでの復習と意見発表など 単語、語句、表現	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
11	中南米諸国に関するスペイン語の記事(1)	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
12	中南米に関するスペイン語の記事(2)	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
13	世界に関するスペイン語の記事(1)	社会記事の訳読1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
14	世界に関するスペイン語の記事(2)	社会記事の訳読2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。単語帳の作成。
15	到達度確認テスト	既習事項の再確認	さらなる復習を

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	中間テストや到達度確認テストおよびボキャブラリーコンテスト90%、毎回の発表等の受講姿勢10%
----------	---

学生へのメッセージ	文法事項ももう一度きちんと学習し直し、スペイン語のスキルアップにつなげよう。 日本語にももっと注意を向けること。 新聞、書籍を読み、言語を問わず読解力をつけること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階(安達研究室)
----------	--------------

備考	とにかく文章を読むこと。 事前・事後学習に各2時間を要す。
----	----------------------------------

科目名	メディアのスペイン語Ⅲ	科目名(英文)	Media Spanish III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	辞書と習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を読みこなす力を身につけていくことを目指す。授業では主にスペイン語圏に関する文章を読み進めていくが、スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得と、単文のみならず複文を含めた長文の読解力を身に付ける。
授業方法と留意点	文章の読解をしていく。授業では、一文一文詳しく見ていく。また、指示語や代名詞、動詞の時制などの文法事項をひとつひとつ尋ねるので、答えられるように予習の段階で確認しておくこと。事前・事後学修に各1時間を要する。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	授業で指示
	2	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
	3	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
	4	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
	5	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
	6	中間テスト	既習範囲の確認	単語と表現
	7	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
	8	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
	9	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
	10	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	単語と表現
	11	中間テスト(2)	既習範囲の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
	12	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
	13	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
	14	スペイン・メキシコなどの新聞や雑誌の記事	文の構造の確認	前もって渡された記事の和訳語彙集の作成
	15	理解度確認テスト	これまでの総括	総復習

関連科目	スペイン語の科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	予習訳の提出40% + 中間テスト 30% + 理解度確認テスト30%
学生へのメッセージ	必ず予習の段階で自分なりに訳してみる。必ず予習をして授業に出席すること。また、辞書を持参すること。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学修に各2時間を要する。

科目名	メディア文化論	科目名 (英文)	Media Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<p>私たちはさまざまなメディアに囲まれて生活しています。みなさんはそうしたメディアをどれだけ理解し使いこなせているでしょうか。この授業ではメディアについての理解を知識として深めるだけでなく、ワークショップやグループワークを通じてさまざまなメディアに触れ、情報を編集・加工・発信することでメディアの技法を修得するとともに、これからの社会を生きていく上で求められるメディアリテラシーを身につけます。</p> <p>なお、この科目はメディアビジネスプログラム科目です。</p>
到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) メディアリテラシーが身についている (2) さまざまなメディアの特性について理解している (3) メディアを通じて情報を得たり、編集・加工したり、発信したりするスキル (メディア技法) を身につけている</p>
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、ワークショップや受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
2	メディアリテラシー	<p>インターネットの登場により私たちの生活は劇的に変化してきました。Line や Facebook, twitter といった SNS は私たちの生活やコミュニケーションのあり方、ひいては人間関係にも大きな影響を及ぼしています。</p> <p>私たちはこうした技術をどれだけ理解し使いこなせているでしょうか。今回の授業では情報社会にあって必須の能力であるメディアリテラシーを涵養します。</p>	<p>授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。</p> <p>授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。</p>
3	まわしよみ新聞を作る	<p>インターネットの普及とともに、新聞や活字文化の衰退が危惧されます。新聞の発行部数も年々減り続ける一方です。</p> <p>今回の授業では、ワークショップで「まわしよみ新聞」を作り新聞に触れるとともに、情報を編集・加工・発信することがどういうことなのかを学修します。</p>	<p>まわしよみ新聞について調べておきましょう。</p> <p>まわしよみ新聞を作るために、1週間以内の新聞を持ってきましょう。</p>
4	SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)	SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) の特性に触れつつ、SNS がどのようなものなのかを学修します。	<p>授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。</p> <p>授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。</p>
5	SNS を使いこなす	SNS の特性を理解したうえで、SNS を使って情報を得たり発信したりする技術を身につけます。	<p>授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。</p> <p>授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。</p>
6	名刺を作る——自己をブランディングする	ブランディングについて学修します。ワークショップを通じて自身と他者による自己分析を行い自らの魅力を発見します。その上で、自らの魅力を効果的にアピールするための手段として名刺を作成します。	<p>授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。</p> <p>授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。</p>
7	チラシを作る——広告デザインの作法	<p>インターネット、SNS の普及とともに、新聞、雑誌など紙媒体のメディアが発行部数を減らす一方で、チラシやポスターは依然として身の回りにあふれています。</p> <p>今回の授業では、ワークショップを通じてチラシを作ります。そのなかで、広告、デザインの作法について学修します。</p>	<p>あなたの基準でよいと思われるチラシを探して持参すること。また、授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。</p> <p>日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。</p> <p>授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。</p>
8	中間のふり返り	前半の授業をふり返ります。不明な点があれば質疑応答により解決します。	授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかりと復習しましょう。

				う。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。																
9	メディア文化史	メディア文化の歴史について学修します。		授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。																
10	映像を撮る——世界を切り取るということ	誰もが手軽に写真や動画を撮影できるようになりました。今回の授業では、動画の撮影を通じて、世界を切り取るということの意味について学修します。		授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。																
11	映像を編集する——切り取った世界を加工すること	動画を撮影することが世界を切り取ることであるとすれば、その編集は切り取った世界を加工することだと言えるでしょう。 今回の授業では、映像の編集を通じて、世界を加工することの意味について学修します。		授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。																
12	映像制作論	今回の授業では、テレビ放送のドキュメンタリー番組がどのようにして作られるのかを確認しながら、映像制作の基本を学修します。		授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。																
13	大衆文化と政治	テレビ、映画、アニメといったメディアは、これまで幾度となくプロパガンダとして政治的な宣伝に利用されてきました。 今回の授業では、映像資料を交えながら大衆文化と政治の関係について学修します。		授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。																
14	メディアと権力	権力はしばしばメディアを利用します。メディアも権力におもねることが少なくありません。メディアと権力は、たいへん結びつきやすいものなのです。民主主義の社会にあって、私たちはこのことを十分に理解し、メディアと権力の両方を監視していく必要があります。 今回の授業では、メディアと権力の関係について学修します。		授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。																
15	まとめ、全体のふり返り	これまでの授業をふり返りながら、各回の授業が全体としてどのようなつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。		これまでの授業で学修したことをしっかり復習して授業に参加しましょう。授業を受けたあとは改めて授業全体をふり返りながら期末試験に向けて準備をしましょう。																
関連科目	メディアビジネスプログラム科目(2015年度入学生)																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?</td> <td>森達也</td> <td>ちくまプリマー新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	この授業は、授業内課題(リフレクションシート)15%、ワークショップ30%、講義内容に関連する課題調査10%、期末試験45%で評価します。																			
学生へのメッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。																			
担当者の研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 7号館2階 非常勤講師室 メールアドレス: xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)																			
備考																				

科目名	メディアリテラシー論	科目名(英文)	Media Literacy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目である。 現代社会においては、インターネットの発達に伴い、メディアからの情報の量も質も大きく様変わりしている。文字通り、情報の洪水の奔流の中で、嘘と真実を見分ける能力が必要とされている。また、ソーシャルメディアを通じて、自ら情報発信をする機会も格段に増えており、情報を読みとる力と発信する力の両方が必要とされているのである。 この講義では、メディアの社会的特性を理解し、適切な情報読解と発信をするために必要な知識とスキルを修得することを目標とする。
到達目標	新聞・テレビの情報が歪んでしまうメカニズムを理解する。 インターネットの情報の真偽を見抜くためのスキルを修得する。 インターネットでの発信を正しく行うための倫理とスキルを身につける。
授業方法と留意点	講義方式で行う。適宜、資料を配布・紹介する。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	メディアとメディアリテラシー	メディアとは何か メディアリテラシーとは何か メディアリテラシーのレベル	メディアリテラシーという言葉の意味についてまとめる。
	2	新聞とニュースについて(1)	新聞と世論形成 新聞の中立性と「偏向」	新聞各紙のニュースの取り上げ方の違いについて調べる。
	3	新聞とニュースについて(2)	日本の新聞の経営面における問題 新聞とインターネット 新聞のデジタル化とニュースサイト	ニュースサイトのまとめと新聞記事の違いについて調べる。
	4	新聞とニュースについて(3)	事例研究。朝日新聞における「慰安婦報道」について	朝日新聞と読売・産経新聞の対立の本当の理由は何かを考える。
	5	テレビについて(1)	テレビの映像の特性 番組編集 「やらせ」の問題 「ムスタン王国」について	テレビの「やらせ」の事例について、さらに各自で調べてみる。
	6	テレビについて(3)	NHKと民放 NHKの受信料問題 テレビの番組編成・広告における問題 ニュース番組における報道の問題	NHKと民放の違いについて考えてみる。 NHKの受信料問題についての各自の考えをまとめる。
	7	テレビについて(3)	事例研究。「発掘!あるある大事典」捏造事件	テレビの捏造事件が起きる背景についてまとめる。
	8	メディアと広告	広告・CMの影響力と価値 産業としてのメディアと広告	テレビCMが喚起するイメージについて、各自で調べてみる。
	9	メディアと(権力)	新聞・テレビの権力との関わり メディアの支配者としての(資本)	授業内容をまとめる。 権力によるメディアへの介入について他の事例を調べる。
	10	インターネット社会について	インターネット社会の過去 インターネット社会の現在 インターネット社会の今後のあり方	授業内容をまとめる。 インターネットの将来について議論する。
	11	インターネットと倫理	ネット社会とリアル社会の倫理のズレ インターネットとプライバシー 著作権の問題 匿名性の問題	ネット社会での倫理的逸脱について各自で調べる。
	12	ソーシャルメディアについて(1)	コミュニケーション空間としてのSNS 電子掲示板の問題 ブログ、ホームページ ネット炎上の問題	電子掲示板やブログでの炎上の事例を調べる。
	13	ソーシャルメディアについて(2)	まとめサイト フェイスブック ツイッター ソーシャルメディアと情報の商業的利用	フェイスブック、ツイッターについて、各自の利用法について報告する。
	14	ソーシャルメディアについて(3)	まとめサイト閉鎖の問題 アメリカ大統領選挙におけるフェイク・ニュース問題	インターネットにおける嘘と本当を見抜くために何が必要かについて各自の考えをまとめる。
	15	まとめ	メディアリテラシーについてのまとめ	

関連科目	メディアビジネスプログラム科目
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ネット炎上の研究	田中辰雄・山口真一	勁草書房
	2	池上彰に聞くどうなってるの?ニッポンの新聞	池上彰	東京堂出版
	3	大学生のための メディアリテラシートレーニング	長谷川・村田(編著)	三省堂

評価方法 (基準)	授業内のレポート・平常点 (40%) と授業後のレポート課題 (60%)
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館4階 (有馬研究室)
備考	事前事後学習 計60時間

科目名	ヨーロッパ史学	科目名(英文)	European History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	ヨーロッパ世界を中心に世界の歴史をたどる。ヨーロッパ諸国は、「大航海時代」以来、アジアやアフリカ、アメリカ世界と密接なかかわりをもってきた。時代によってその「中心」(覇権国)は刻々と変化するものの、ヨーロッパ世界は今日にいたるまで、ある種の一体性を有しながら発展してきたといえる。常に世界史上の重大局面にかかわってきたヨーロッパを中心に、世界の歴史を読み解くことで、現代社会を歴史的観点からとらえかえす。
到達目標	ヨーロッパ、ひいては(日本を含めた)アジアの未来に関する明確なビジョンをもつために、古代、中世、近世、近代の歴史的特質を把握する。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、図像史料を活用しながら、板書をまじえて授業をすすめる。
科目学習の効果(資格)	ヨーロッパを中心とする世界の歴史への知見を深め、歴史的思考を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	古代エジプト(1)	時代区分と歴史学	古代エジプトの歴史について予習してくる。
	2	古代エジプト(2)	ナイル川・ピラミッド・ファラオ	古代エジプトにおける王権についてまとめる。
	3	古代エジプト(3)	ミイラ信仰に見る古代の死生観	エジプトと宗教の関係についてまとめる。
	4	中世ヨーロッパにおける魔女狩り(1)	「魔女」とは誰か? ~時代による変遷~	「魔女」に関するイメージと、その源泉について考えてくる。
	5	中世ヨーロッパにおける魔女狩り(2)	魔女裁判の社会的・宗教的意義	魔女裁判がもつ社会的機能についてまとめる。
	6	中世ヨーロッパにおける魔女狩り(3)	魔女狩りの時代差・地域差	魔女狩りの時代差・地域差魔女裁判が中世社会においてもった意義についてまとめる。
	7	中世ヨーロッパにおける魔女狩り(4)	古代および中世ヨーロッパと宗教・王権(中間テスト)	これまでの授業内容をまとめ、テスト対策をしてくる。
	8	「大航海時代」~アジアへの道~(1)	ヨーロッパはなぜ「大航海時代」を必要としたか?(中間テスト解説)	「大航海時代」の新航路の開拓を地図上にまとめる。
	9	「大航海時代」~アジアへの道~(2)	覇権国の移り変わり	「覇権国」としてのスペイン、ポルトガル、オランダ、フランス、イギリスについてまとめる。
	10	「大航海時代」~アジアへの道~(3)	ヨーロッパとアジアの「出会い」がもたらしたこと	ヨーロッパとアジア、双方の観点から「大航海」がもたらした影響についてまとめる。
	11	フランス革命(1)	フランス革命とは何か? ~何が革命的だったのか~	フランス革命に関する年表を作成する。
	12	フランス革命(2)	フランス革命の進展	フランス革命を描いたカリカチュア(風刺画)を検索してくる。
	13	フランス革命(3)	王権の廃止と諸外国の干渉	周辺国がフランス革命にどのような反応をとったか、調べてくる。
	14	フランス革命(4)	習俗の革命~「普通の人びと」は革命にどう反応したか~	フランス革命が「暮らし」に与えた変化についてまとめる。
	15	総括	小テストの実施と解説	全授業内容を復習してくる。

関連科目	社会文化史(世界の歴史)
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	第15回目の授業で実施する小テスト(80%)、中間テストおよび提出物(20%)を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歴史学とは、過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
担当者の研究室等	7号館4階(林田研究室)
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。 中間試験に関するフィードバックは第9回目、小テストに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。

科目名	ライティング a	科目名 (英文)	Writing a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アサー ロンゲス
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Introduction, overview.	No preparation required. 準備は必要ありません。
	2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Preview vocabulary for pages 2-5.
	3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9.
	4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13.
	5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17.
	6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21.
	7	Unit 6 Individualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz.
	8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29.
	9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33.
	10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37.
	11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41.
	12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45.
	13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49.
	14	Special Topic.	To be announced.	No preparation required.
15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz.	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。 Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please make a copy before the class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ライティング a	科目名 (英文)	Writing a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	This course introduces a range of topics from around the world?including food, festivals, music and journeys?that provoke interest, inspire discussion, and ultimately broaden one's view of our diverse, global society. Knowledge and understanding of the world can not only inspire you to improve your home region, but they also make you more appreciative of it.
到達目標	Students will learn about topics from around the world, improving their English skills.
授業方法と留意点	This is a listening and speaking course with a little reading designed to create a richer speaking experience. A mixture of scripted and authentic audio provides opportunities for listening practice. Students' communicative competence is developed through guided pair and group discussion activities. Activity types include interviews, surveys, class presentations and projects, and encourage students to take their learning beyond the classroom.
科目学習の効果 (資格)	To improve reading, writing and speaking skills in English. To gain a better understanding, appreciation and enjoyment of the world we live in.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Talking about food	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan a restaurant!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	2	Talking about festivals	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Organise a festival!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	3	Review 1 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	4	Talking about your city	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Finding city solutions.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	5	Talking about jobs	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Interview someone about their job.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	6	Review 2 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	7	Talking about music	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Write a song!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	8	Talking about travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan an expedition!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	9	Review 3 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	10	Talking about famous families	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Family debate!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	11	Talking about adventure travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Make a public Service Announcement.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	12	Review 4 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	13	Talking about happiness	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. How to be happy!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	14	Talking about endangered species	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Give a persuasive presentation.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	15	Review 5 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Top Notch TV	Joan Saslow	Pearson
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法 (基準)	Class participation - 10% 3-5 Short presentations - 90%
-----------	--

学生へのメッセージ	I am looking forward to having you in class. Be prepared to speak a lot in class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ライティング a	科目名 (英文)	Writing a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	教科書は2冊使用する。 論理性的な英文を読み、全体的な構造を意識しながら要約する技術を身に付ける。最終的には与えられたテーマについてのエッセイが書けることを目的とする。 サブテキストでは、ほぼ同じ内容を違った文構造で表現できる基本的技術を身に付ける。
到達目標	1つのトピックがどのような論理性で展開しているかを捉えることで、自己の論理的な発信力を養うことへ繋げる。 同じ内容のものが違った文構造で書けるようになる。
授業方法と留意点	授業では主に段落の内容要約ができていないかを重視します。サブテキストでは宿題の書き換え文をチェックします。 エッセイ課題の提出は3度求める。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	2 名詞節の書き換え (2) to 不定詞の活用 Unit 1 Health	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
3	3 名詞節の書き換え (3) 動名詞の活用 Unit 2 Culture	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
4	4 形容詞節の書き換え Unit 3 History	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
5	5 「時」を表す副詞節の書き換え Unit 4 Biography	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
6	6 「理由・原因」を表す副詞節の書き換え Unit 5 Literature	課題チェック エッセイの要約と exercise エッセイ課題提出 (1回目)	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
7	7 「目的・結果」を表す副詞節の書き換え Unit 6 Tourism	課題チェック エッセイの要約と exercise	中間テストの勉強 予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
8	中間テスト 8 「譲歩」を表す副詞節の書き換え Unit 7 Social Problems	前半の既習内容の確認テスト 課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
9	9 「仮定・条件」を表す副詞節の書き換え Unit 7 Social Problems	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
10	10 重文の書き換え (1) to 不定詞・分詞構文の活用 Unit 8 Sociology	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
11	11 重文の書き換え (2) 前置詞・群前置詞の活用 Unit 9 Animals	課題チェック エッセイの要約と exercise エッセイ課題提出 (2回目)	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
12	12 重文の書き換え (3) 従属接続詞の活用 Unit 10 Art	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
13	13 態の書き換え Unit 11 Food	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
14	14 肯定・否定と内容上の文の書き換え Unit 12 Science / Technology	課題チェック エッセイの要約と exercise	予習 (英文の書き換え、エッセイの精読と段落のまとめ)
15	15 語法の書き換え 期末テスト	後半の既習内容の確認テスト エッセイ課題提出 (3回目)	

関連科目	トピックスタディーズ II b
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Active Training for Reading and Writing through 15 Topics	Michael Schauerte/ Tom Dillon/ 西谷恒志	鶴見書店
	2	5分間 英文書き換えトレーニング	小中秀彦	南雲堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	中間・期末テスト 30% 発表(板書も含む)、積極的姿勢 30% 課題提出 40%			
学生への メッセージ	辞書または電子辞書必携。 エッセイ課題の提出方法は追って指示します。 分からない単語、表現については辞書を引いて例文で確認しましょう。 自分にあった文法解説書を持ち常に利用するようにしましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ライティング a	科目名 (英文)	Writing a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	拙冬 紘和
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	トピック スタディーズⅡ aでは Media Literacy とクリティカルシンキングについて学び、実践します。身近にたくさんある、Media (SNS、広告、CM など)により発信されている情報を読み取り、新しい角度から理解することを目指します。Media Literacy とはあまり聞く言葉ではないかもしれませんが、みなさんが自然と日頃行っていることです。ひとつの情報は様々なメッセージが隠されています。それをしっかりと読み解くスキルを学びましょう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Media (SNS、広告、CM など)により発信されている情報を読み取り、新しい角度から理解することが出来るようになること。 クリティカルシンキングのスキルを習得し、論理的に物事を考え、発信できるようになること。 英語で、自分のアイデア、意見を発信できるようになること。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業は、ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッションを中心に行う。 授業内では日本語、英語の両方を使用する予定ですが、状況に応じて使い分けしましょう。 教材は、担当者が用意します (読み物、まとめシートなど)。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Media Literacy とは?1	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
3	Media Literacy とは?2	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
4	Media 分析 1	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
5	Media 分析 2	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
6	Media 分析 3	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
7	Media 分析 4 グループプレゼン	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
8	Media 分析 5 グループプレゼン	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
9	Critical Thinking とは?	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
10	Critical Chinking 実践 1	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
11	Critical Chinking 実践 2	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
12	Critical Chinking 実践 3	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
13	Critical Chinking 実践 4 グループプレゼン	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
14	Critical Chinking 実践 5 グループプレゼン	ミニ講義、ペア・グループワークでのディスカッション	授業の復習 まとめプリントの完成
15	Media Literacy & Critical Thinking まとめ	まとめ講義	授業の復習 まとめプリントの完成

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業参加態度 40% まとめシート 30% グループ発表 30%
-----------	--

学生へのメッセージ
普段、さまざまな情報を目にし、耳にしますが、それらの情報を読み取り、新しい角度から理解してみましよう。また、その時に英語を使用し、自分の意見も発信し、自らも情報の発信源になってみましよう。

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ライティング b	科目名 (英文)	Writing b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	In this course students will begin to develop writing skills to help them express themselves directly in English rather than translating. Writing practice will focus on descriptive writing (people and places) and narrative writing (personal experiences). Part of the course will focus on vocabulary development directed at these topics. Students will also learn how to effectively incorporate photos and other visual information into their written work.
到達目標	The goal of this class is for the students to be able to introduce a topic, develop an idea and clearly express themselves in an organized and coherent manner using complete sentences and paragraphs.
授業方法と留意点	Each new writing activity will include new vocabulary and practical grammar practice. All of the completed coursework will be organized into a comprehensive notebook. Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	In this class you will have the opportunity to write about yourselves and your daily life. You will also learn how to write for different purposes in English.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction: Course overview	Orientation activities: 英文ライティングの基本	Finishing up or making revisions of classwork.
	2	Exercises: パラグラフエッセイとはなにか Questionnaire	Individual Task, Pair Work or Group Work: パラグラフの構成を学ぶ Writing and grammar activity	Finishing up or making revisions of classwork.
	3	Exercises: トピックの選択 Self-introductions	Individual Task, Pair Work or Group Work: 与えられたトピックを吟味する Writing and grammar activity	Finishing up and making revisions of classwork.
	4	Exercises: トピックに応じた議論の流れを考える Vocabulary building	Individual Task, Pair Work or Group Work: トピックについて賛成・反対のどちらの意見をとるか考える Reading and writing activities	Finishing up or making revisions of classwork.
	5	Exercises: 議論データの収集 Daily routines	Individual Task, Pair Work or Group Work: 自分の意見を支持するデータを収集する Writing activity and computer skills	Finishing up and making revisions of classwork.
	6	Exercises: パラグラフの作成 Review	Individual Task, Pair Work or Group Work: 収集したデータを使ってパラグラフを作成していく Comprehensive notebook organization	Finishing up or making revisions of classwork.
	7	Exercises: センテンスを整える Timed writing	Individual Task, Pair Work or Group Work: パラグラフを構成する英文を正確に整える Writing activity	Finishing up or making revisions of classwork.
	8	Exercises: センテンスどうしの論理関係を作る Past experience	Individual Task, Pair Work or Group Work: センテンスの論理関係を示す表現について学ぶ Grammar and writing activity	Finishing up and making revisions of classwork.
	9	Exercises: エッセイ全体を整える Favorite places	Individual Task, Pair Work or Group Work: パラグラフの論理関係を示す表現を学ぶ Reading and writing activities	Finishing up and making revisions of classwork.
	10	Exercises: エッセイを完成させる Photos and illustrations	Individual Task, Pair Work or Group Work: エッセイの起承転結に気を付けながら全体を完成させる Information design activity	Finishing up and making revisions of classwork.
	11	Exercises: エッセイを発表する Timed writing	Individual Task, Pair Work or Group Work: クラスメートの前でエッセイの概要を発表し、論理関係に破たんがないか考える Writing activity	Finishing up or making revisions of classwork.
	12	Exercises: エッセイを発表する Mini research report	Individual Task, Pair Work or Group Work: Writing activity: クラスメートの前でエッセイの概要を発表し、反論のデータなどがないか考える	Finishing up or making revisions of classwork.
	13	Exercises: 講評をもとにエッセイの改訂をする Vocabulary building	Individual Task, Pair Work or Group Work: 論理関係、反論データなどをさらに追加し、エッセイを書き直していく Listening, reading and writing activities	Finishing up or making revisions of classwork.
	14	Exercises: エッセイの改訂	Individual Task, Pair Work or Group	Finishing up or making revisions of classwork.

	をする Spring plans	Work: 書き直したエッセイの起承転結に気を付けて、エッセイを改訂していく Writing activities		
	15 Exercises: エッセイを完成させる Review	Individual Task, Pair Work or Group Work: エッセイを整えて完成させる Comprehensive notebook organization	Finishing up or making revisions of classwork.	
関連科目	College Writing			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing from Within 1	Kelly & Gargagliano	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Grades are based on regular attendance with active participation, 50%; comprehensive notebook 40%; 共通単語試験 (vocabulary examination) 10%.			
学生へのメッセージ	All the coursework in this class will be done in English. Attending class regularly and arriving on time is important.			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ラテンアメリカの社会と文化	科目名(英文)	Latin American Society and Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ラテンアメリカは、古来先住民の文化的伝統を有しながらも、15世紀末以降のヨーロッパによる征服と植民地支配を3世紀以上にわたって経験した地域です。その後19世紀初頭にアジアやアフリカ諸国に比べて150年ほど早く植民地支配からの独立を遂げました。この地域がたどった歴史的独自性を知るだけでなく、隣接する北米のアングロアメリカとの歴史的關係と今後の共存のゆくえや日本とのより深い關係構築について展望できるようになることをめざします。同時に、6つのサブ・リージョンに分け、視聴覚教材を適宜用いることで具体像を持てるよう、各回の授業テーマの中に織り込みます。 地理的に日本からは遠隔地に位置していますが、ラテンアメリカ諸国と日本との關係はますます緊密化しています。親日的な国々と人々のことを知ることで世界観を広げてください。ラテンアメリカで最も広く使われている言語はスペイン語です。
到達目標	広大なラテンアメリカという地域は、北米大陸から南米大陸にかけて、カリブ海地域を含めた33ヶ国から構成されています。この地域を多角的な視野から学際的かつ総合的に学ぶことで、異文化理解を深める一助となります。
授業方法と留意点	教材は授業で配布します。 毎回、質問票を提出してもらい、次の授業で解説を行います。
科目学習の効果(資格)	日本ではあまり知られていないラテンアメリカという地域の持つ固有の文化に親しむことで、グローバル社会の中で複眼的思考のできる視点を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ラテンアメリカの地理(1)	地域名称の由来 域内諸国の名称と位置の学習	地域を構成する33ヶ国・13非独立領を地図上で確認する
	2	ラテンアメリカの地理(2)	地域の歴史的概要 産業と特産品	基礎統計資料一覧を読み解く ラテンアメリカ原産作物と資源について調べる
	3	ラテンアメリカの地理(3)	世界文化遺産を通して見る多民族・多文化社会	ラテンアメリカの世界遺産について調べる
	4	ラテンアメリカの歴史(1)	先住民古代文明	マヤ、アステカ、インカ文明のいずれかについて調べる
	5	ラテンアメリカの歴史(2)	征服と植民地支配	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	6	ラテンアメリカの歴史(3)	独立とその後の近代化と従属化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	7	ラテンアメリカの歴史(4)	20世紀の革命と民主化過程	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	8	ラテンアメリカの文化(1)	美術・音楽	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	9	ラテンアメリカの文化(2)	文学・映画	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	10	ラテンアメリカの文化(3)	食文化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	11	ラテンアメリカの社会	階層社会の構造、民族文化と国民社会	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	12	ラテンアメリカの政治経済	政治体制の変遷 ラテンアメリカ経済の歴史的変容、現状と課題、地域統合	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	13	現代世界の中のラテンアメリカ	国際政治・経済の中のラテンアメリカの位置づけ ラテンアメリカ域内の地域統合と対米關係	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	14	ラテンアメリカと日本の關係	移住と日系社会、政治・外交關係におけるラテンアメリカと日本	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	15	総括	理解度確認テストの後、アメリカ合衆国への移民および「ラティーノス」がもたらす影響についての解説	広く西半球(米州)の相互關係に対して目を向ける。

関連科目	スペイン語圏概論
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内容に関する質問票、小レポート等 60%、理解度確認テストまたはレポート 40%により総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	日本から遠く離れた地域ですが、不思議な魅力にあふれる混沌とした世界です。そこへと分け入ることで、自分自身のこれまでのものの見方を相対化するきっかけとなるでしょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室
----------	-------------

備考	事前・事後学習の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。
----	--------------------------------------

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	住吉 誠
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度が多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	オリエンテーション 速読に挑戦する。 精読に挑戦する。	多読学習 テキストの予習 技術・社会に関する単語の学習
2	Give me an Objective Opinion	速読活動: Dolphin Talks 精読活動: AI と社会についての文章	多読学習 AI についての追加記事を読んでくる
3	Give me an Objective Opinion	速読活動: Levels in Nature 精読活動: AI についての文章	多読学習 テキストの予習 社会経済に関する単語の学習
4	Antenna Shops, Symbols of Local Regions	速読活動: A Dangerous Wind 精読活動: 地域社会経済についての文章	多読学習 社会経済についての追加記事を読んでくる
5	Antenna Shops, Symbols of Local Regions	速読活動: A Hard-Working Plant 精読活動: 社会経済についての文章	多読学習 テキストの予習 経済活動に関する単語の学習
6	New Customers from Abroad	速読活動: Lost Forever? 精読活動: 国境を越える商売についての文章	多読学習 商売についての追加記事を読んでくる
7	New Customers from Abroad	速読活動: Fun and Games and Music 精読活動: 文化を超えた商売についての文章	多読学習 テキストの予習 観光に関する単語の学習
8	Rickshaw Runners Wait for Foreign Tourists	速読活動: That Can Make Music? 精読活動: 日本に訪れる外国人観光客についての文章	多読学習 外国人観光客についての追加記事を読んでくる
9	Rickshaw Runners Wait for Foreign Tourists	速読活動: Healthy to Hear 精読活動: 外国人観光客についての文章	多読学習 テキストの予習 生活に関する単語の学習
10	Try Minimalism	速読活動: Music That Stays in Your Head 速読活動: 人々の生活の変化についての文章	多読学習 生き方の多様性についての追加記事を読んでくる
11	Try Minimalism	速読活動: Only Voices 精読活動: 生き方の多様性についての文章	多読学習 テキストの予習 技術革新に関する単語の学習
12	Producing Sound Everyone Can Enjoy Together	速読活動: Sleep -- You Need It! 精読活動: 技術革新についての文章	多読学習 最新科学についての追加記事を読んでくる
13	Producing Sound Everyone Can Enjoy Together	速読活動: Doctor Trees 精読活動: 最新科学技術についての文章	多読学習 テキストの予習 日本社会に関する単語の学習
14	Race Against the Clock	速読活動: Blood Work 精読活動: 日本社会についての文章	多読学習 これまで読んだ記事の内容について理解を深め、自分の意見が言えるようにしておく
15	まとめの確認	これまで読んだ記事をもとに、理解を確認し、内容把握を行う	多読学習

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Insights 2018	Junko Murao ほか	金星堂
2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 80% (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む)
----------	---

学生へのメッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 住吉研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチュードントアワーにて対応する。
----	--

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。																																																																		
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度が多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方、評価方法の説明</td> <td>教科書を準備しておくこと</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1: Cross-Cultural Understanding</td> <td>教科書 pp.2-4</td> <td>予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 1: Cross-Cultural Understanding</td> <td>教科書 pp.5-7</td> <td>予習と復習 小テスト準備</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 2: Foods</td> <td>教科書 pp.8-10 Unit 1の小テスト</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 2: Foods</td> <td>教科書 pp.11-13</td> <td>予習と復習 小テスト準備</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3: Foreign Language Learning</td> <td>教科書 pp.14-16 Unit 2の小テスト</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 3: Foreign Language Learning</td> <td>教科書 pp.17-19</td> <td>予習と復習 小テスト準備</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 4: Sports</td> <td>教科書 pp.20-22 Unit 3の小テスト</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 4: Sports</td> <td>教科書 pp.23-25</td> <td>予習と復習 小テスト準備</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 5: Fashion</td> <td>教科書 pp.26-28 Unit 4の小テスト</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 5: Fashion</td> <td>教科書 pp.29-31</td> <td>予習と復習 小テスト準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 6: Living Things</td> <td>教科書 pp.32-34 Unit 5の小テスト</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 6: Living Things</td> <td>教科書 pp.35-37</td> <td>予習と復習 小テスト準備</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 7: Art</td> <td>教科書 pp.38-41</td> <td>予習と復習 まとめのテスト準備</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>前期の総復習とまとめのテスト</td> <td>前期内容のまとめのテストを実施</td> <td>まとめのテスト準備</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法の説明	教科書を準備しておくこと	2	Unit 1: Cross-Cultural Understanding	教科書 pp.2-4	予習	3	Unit 1: Cross-Cultural Understanding	教科書 pp.5-7	予習と復習 小テスト準備	4	Unit 2: Foods	教科書 pp.8-10 Unit 1の小テスト	予習と復習	5	Unit 2: Foods	教科書 pp.11-13	予習と復習 小テスト準備	6	Unit 3: Foreign Language Learning	教科書 pp.14-16 Unit 2の小テスト	予習と復習	7	Unit 3: Foreign Language Learning	教科書 pp.17-19	予習と復習 小テスト準備	8	Unit 4: Sports	教科書 pp.20-22 Unit 3の小テスト	予習と復習	9	Unit 4: Sports	教科書 pp.23-25	予習と復習 小テスト準備	10	Unit 5: Fashion	教科書 pp.26-28 Unit 4の小テスト	予習と復習	11	Unit 5: Fashion	教科書 pp.29-31	予習と復習 小テスト準備	12	Unit 6: Living Things	教科書 pp.32-34 Unit 5の小テスト	予習と復習	13	Unit 6: Living Things	教科書 pp.35-37	予習と復習 小テスト準備	14	Unit 7: Art	教科書 pp.38-41	予習と復習 まとめのテスト準備	15	前期の総復習とまとめのテスト	前期内容のまとめのテストを実施	まとめのテスト準備
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法の説明	教科書を準備しておくこと																																																																
2	Unit 1: Cross-Cultural Understanding	教科書 pp.2-4	予習																																																																
3	Unit 1: Cross-Cultural Understanding	教科書 pp.5-7	予習と復習 小テスト準備																																																																
4	Unit 2: Foods	教科書 pp.8-10 Unit 1の小テスト	予習と復習																																																																
5	Unit 2: Foods	教科書 pp.11-13	予習と復習 小テスト準備																																																																
6	Unit 3: Foreign Language Learning	教科書 pp.14-16 Unit 2の小テスト	予習と復習																																																																
7	Unit 3: Foreign Language Learning	教科書 pp.17-19	予習と復習 小テスト準備																																																																
8	Unit 4: Sports	教科書 pp.20-22 Unit 3の小テスト	予習と復習																																																																
9	Unit 4: Sports	教科書 pp.23-25	予習と復習 小テスト準備																																																																
10	Unit 5: Fashion	教科書 pp.26-28 Unit 4の小テスト	予習と復習																																																																
11	Unit 5: Fashion	教科書 pp.29-31	予習と復習 小テスト準備																																																																
12	Unit 6: Living Things	教科書 pp.32-34 Unit 5の小テスト	予習と復習																																																																
13	Unit 6: Living Things	教科書 pp.35-37	予習と復習 小テスト準備																																																																
14	Unit 7: Art	教科書 pp.38-41	予習と復習 まとめのテスト準備																																																																
15	前期の総復習とまとめのテスト	前期内容のまとめのテストを実施	まとめのテスト準備																																																																
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Ambitions(Pre-Intermediate)</td> <td>VELC 研究会教材開発グループ</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Timed Reading for Fluency 1</td> <td>Paul Nation & Casey Malarcher</td> <td>Seed Learning</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Ambitions(Pre-Intermediate)	VELC 研究会教材開発グループ	金星堂	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Ambitions(Pre-Intermediate)	VELC 研究会教材開発グループ	金星堂																																																																
2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ	速読の指定教科書以外の教材は、プリントを配布します。 英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Unit 1 The Brexit Referendum	授業内容についての説明 速読・多読 読解・問題 (pp.1~4)	授業範囲の予習・復習
	2	Unit 1 The Brexit Referendum Unit 2 The New Mayor of London	Review 速読・多読 読解・問題 (pp.5~7) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	3	Unit 2 The New Mayor of London Unit 3 Brits on Bikes	Review 速読・多読 読解・問題 (pp.8~11) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	4	Unit 3 Brits on Bikes	Review 速読・多読 読解・問題 (pp.12~15) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	5	Unit 4 Oxford and Cambridge: Looking to the Future	速読・多読 読解・問題 (pp.16~18) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	6	Unit 4 Oxford and Cambridge: Looking to the Future Unit 5 A Profile of Cornwall	Review 速読・多読 読解・問題 (pp.19~22) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	7	Unit 5 A Profile of Cornwall Unit 6 The Cost of Being Young Today	Review 速読・多読 読解・問題 (pp.23~27) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	8	Unit 6 The Cost of Being Young Today	Review 速読・多読 読解・問題 (pp.27~30) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	9	Unit 7 It All Began at Rugby School	速読・多読 読解・問題 (pp.31~33) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	10	Unit 7 It All Began at Rugby School Unit 8 Britain and the Sea	Review 速読・多読 読解・問題 (pp.34~37) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	11	Unit 8 Britain and the Sea	Review 速読・多読 読解・問題 (pp.37~40) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	12	Unit 9 Images of Scotland	速読・多読 読解・問題 (pp.41~43) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	13	Unit 9 Images of Scotland Unit 10 "The New Look": Bears and Tattoos	Review 速読・多読 読解・問題 (pp.44~46) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	14	Unit 10 "The New Look": Bears and Tattoos	Review 速読・多読 読解・問題 (pp.47~50) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	15	General Review	Unit 1~Unit 10 までの総まとめ	Unit 1~Unit 10 までの授業ノート・テキストをしっかり復習しておくこと

関連科目	スキルズトレーニング a, スピーキング&ライティング Ia, ボキャブラリー&グラマー a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Britain at a Watershed	John H. Randle, Atsushi Mukuhira	成美堂
	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 80% (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む)			
学生への メッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ヘト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。																																																																		
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス 簡単な小テスト Chapter 1-1 を始める</td> <td>授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Chapter 1-1 print</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1-2 salaryman / OL</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1-3 mansions</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1-4 risutora</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1-5 case by case</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Chapter 2-1 put on / wear / rake off</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>中間復習テストの勉強</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間復習テスト</td> <td>前半の既習内容の確認テスト</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>2-2 in time / on time</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>2-3 made of / made by / made from</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>2-4 yes</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>2-5 expect / look forward to</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Chapter 3-1 infinitives and gerunds</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>3-2 tag questions</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>最終復習テストの勉強</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>最終復習テスト 総括 (まとめ)</td> <td>・後半の既習内容の確認テスト ・振り返りとまとめ</td> <td>要点整理</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス 簡単な小テスト Chapter 1-1 を始める	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明	本文の下読み、exercise の予習	2	Chapter 1-1 print	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	3	1-2 salaryman / OL	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	4	1-3 mansions	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	5	1-4 risutora	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	6	1-5 case by case	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	7	Chapter 2-1 put on / wear / rake off	本文解釈と exercise のチェック	中間復習テストの勉強	8	中間復習テスト	前半の既習内容の確認テスト	本文の下読み、exercise の予習	9	2-2 in time / on time	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	10	2-3 made of / made by / made from	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	11	2-4 yes	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	12	2-5 expect / look forward to	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	13	Chapter 3-1 infinitives and gerunds	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	14	3-2 tag questions	本文解釈と exercise のチェック	最終復習テストの勉強	15	最終復習テスト 総括 (まとめ)	・後半の既習内容の確認テスト ・振り返りとまとめ	要点整理
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス 簡単な小テスト Chapter 1-1 を始める	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明	本文の下読み、exercise の予習																																																																
2	Chapter 1-1 print	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
3	1-2 salaryman / OL	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
4	1-3 mansions	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
5	1-4 risutora	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
6	1-5 case by case	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
7	Chapter 2-1 put on / wear / rake off	本文解釈と exercise のチェック	中間復習テストの勉強																																																																
8	中間復習テスト	前半の既習内容の確認テスト	本文の下読み、exercise の予習																																																																
9	2-2 in time / on time	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
10	2-3 made of / made by / made from	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
11	2-4 yes	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
12	2-5 expect / look forward to	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
13	Chapter 3-1 infinitives and gerunds	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
14	3-2 tag questions	本文解釈と exercise のチェック	最終復習テストの勉強																																																																
15	最終復習テスト 総括 (まとめ)	・後半の既習内容の確認テスト ・振り返りとまとめ	要点整理																																																																
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ODDS & ENDS Essays on everyday conversation</td> <td>James Tschudy / 吉田英次</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Timed Reading for Fluency 1</td> <td>Paul Nation & Casey Malarcher</td> <td>Seed Learning</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ODDS & ENDS Essays on everyday conversation	James Tschudy / 吉田英次	成美堂	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ODDS & ENDS Essays on everyday conversation	James Tschudy / 吉田英次	成美堂																																																																
2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動(提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む) 80%																																																																		
学生へのメッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チリ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	オリエンテーション 速読に挑戦する。 精読に挑戦する。	多読学習 テキストの予習 技術・社会に関する単語の学習
2	Give me an Objective Opinion	速読活動: Dolphin Talks 精読活動: AI と社会についての文章	多読学習 AI についての追加記事を読んでくる
3	Give me an Objective Opinion	速読活動: Levels in Nature 精読活動: AI についての文章	多読学習 テキストの予習 社会経済に関する単語の学習
4	Antenna Shops, Symbols of Local Regions	速読活動: A Dangerous Wind 精読活動: 地域社会経済についての文章	多読学習 社会経済についての追加記事を読んでくる
5	Antenna Shops, Symbols of Local Regions	速読活動: A Hard-Working Plant 精読活動: 社会経済についての文章	多読学習 テキストの予習 経済活動に関する単語の学習
6	New Customers from Abroad	速読活動: Lost Forever? 精読活動: 国境を越える商売についての文章	多読学習 商売についての追加記事を読んでくる
7	New Customers from Abroad	速読活動: Fun and Games and Music 精読活動: 文化を超えた商売についての文章	多読学習 テキストの予習 観光に関する単語の学習
8	Rickshaw Runners Wait for Foreign Tourists	速読活動: That Can Make Music? 精読活動: 日本に訪れる外国人観光客についての文章	多読学習 外国人観光客についての追加記事を読んでくる
9	Rickshaw Runners Wait for Foreign Tourists	速読活動: Healthy to Hear 精読活動: 外国人観光客についての文章	多読学習 テキストの予習 生活に関する単語の学習
10	Try Minimalism	速読活動: Music That Stays in Your Head 速読活動: 人々の生活の変化についての文章	多読学習 生き方の多様性についての追加記事を読んでくる
11	Try Minimalism	速読活動: Only Voices 精読活動: 生き方の多様性についての文章	多読学習 テキストの予習 技術革新に関する単語の学習
12	Producing Sound Everyone Can Enjoy Together	速読活動: Sleep -- You Need It! 精読活動: 技術革新についての文章	多読学習 最新科学についての追加記事を読んでくる
13	Producing Sound Everyone Can Enjoy Together	速読活動: Doctor Trees 精読活動: 最新科学技術についての文章	多読学習 テキストの予習 日本社会に関する単語の学習
14	Race Against the Clock	速読活動: Blood Work 精読活動: 日本社会についての文章	多読学習 これまで読んだ記事の内容について理解を深め、自分の意見が言えるようにしておく
15	まとめの確認	これまで読んだ記事をもとに、理解を確認し、内容把握を行う	多読学習

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
2	Let's Enjoy SF Short-Shorts 超短編SFで楽しく学ぶ読解・英作文	Takako Takamoto / Hiroshi Ikezono	開文社出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室

備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>
----	--

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェーン ボーメンター
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Your Music and Your Personality Part one Dolphins Talk	Orientation - class explanation, textbooks, grading, tour of library A Good Read Chapter One Timed Reading for Fluency (TRFF) Unit one Reading One	Extensive reading at home Review class lesson
	2	Your Music and Your Personality part Two Levels in Nature Extensive Reading	A Good Read Chapter One Part Two TRFF Unit One Reading Two Extensive Reading	Extensive reading at home Review class lesson
	3	Happiness A Dangerous Wind Extensive Reading	AGR Chapter 2 p12/13 TRFF Unit 2 Reading 3 Extensive Reading	Extensive reading at home Review class lesson
	4	Happiness A Hard Working Plant Lost Forever? Extensive Reading	AGR Ch2 p14/15/16 TRFF Unit 2 Readings 4 and 5 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	5	Friendship Music - Fun and Games and Music Extensive Reading	AGR p18/19 TRFF Reading 6 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	6	Friendship That Can Make Music? Extensive Reading Extensive Reading	AGR p20/21/22 TRFF Reading 7 extensive reading score check Extensive Reading score check/troubleshooting	Extensive Reading at home Review class lesson
	7	Jennifer Lopez Healthy to hear Extensive Reading	AGR Review 1 p24 TRFF Reading 8 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	8	Difficult Decisions Music that stays in your head Only Voices Extensive Reading	AGR p28/29 TRFF Readings 9 and 10 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	9	Difficult Decisions Health Extensive Reading	AGR p30/31/32 TRFF Reading 11 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	10	Life-changing Moments Doctor Trees Blood Work Extensive Reading	AGR p34/35 TRFF Readings 12/13 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	11	Life-changing Moments Are You Under Stress? Getting Vitamin D Extensive Reading	AGR p36/37/38 TRFF Readings 14/15 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	12	Unexplained Events Education Extensive Reading	AGR p40/41 TRFF Readings 16/17	Extensive Reading at home review class lesson
	13	Unexplained Events How to take Notes A Part of Learning	AGR p42/43/44 TRFF Readings 18/19 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	14	Review of Reading Strategies Private Vs Public Schools Extensive Reading	AGR p40 TRFF Reading 20 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	15	Reading Activity - handout (to be planned) Extensive Reading Collect Extensive Reading Records and Speed Reading Records	Fun Reading Activity Extensive Reading End of Term Wrap Up	Keep Reading over the holidays!
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>A Good Read 1</td> <td>Osamu Takeuchi</td> <td>SHOHAKUSHA</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Timed Reading for Fluency 1</td> <td>Paul Nation & Casey Malarcher</td> <td>Seed Learning</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	A Good Read 1	Osamu Takeuchi	SHOHAKUSHA	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	A Good Read 1	Osamu Takeuchi	SHOHAKUSHA														
2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	Extensive Reading 10 percent (Spring - 50,000 words/100 books; Autumn 60,000 words/75 books) Speed Reading 10 percent Intensive Reading 80 percent																
学生への メッセージ	I'm looking forward to meeting you and exploring English through reading together! Please relax and ask questions at anytime! It's a good idea to bring a dictionary to class too.																
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉 誠
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	A Happy Business Trip with Your Family	速読活動: Art in the Classroom 精読活動: 働き方についての文章	多読学習 働き方と人生についての追加記事を読んでくる
3	A Happy Business Trip with Your Family	速読活動: Does Homework Help? 精読活動: 生き方についての文章	多読学習 テキストの予習 衛生に関する単語の学習
4	Are You Clean Enough?	速読活動: How to Take Notes 精読活動: 衛生についての文章	多読学習 健康についての追加記事を読んでくる
5	Are You Clean Enough?	速読活動: A Part of Learning 精読活動: 衛生と健康についての文章	多読学習 テキストの予習 感情表現に関する単語の学習
6	Cry, and Refresh!	速読活動: Private vs. Public Schools 精読活動: 感情を表現する効果についての文章	多読学習 人間の精神活動についての追加記事を読んでくる
7	Cry, and Refresh!	速読活動: A Job for Everyone? 精読活動: 人間の精神についての文章	多読学習 テキストの予習 建築と社会に関する単語の学習
8	Urban-Style Aquariums	速読活動: The Work Week 精読活動: 建築と社会についての文章	多読学習 建築についての追加記事を読んでくる
9	Urban-Style Aquariums	速読活動: Desks at the office 精読活動: 建築についての文章	多読学習 テキストの予習 環境に関する単語の学習
10	Save the World's Plants	速読活動: Brands and Colors 速読活動: 環境についての文章	多読学習 環境問題についての追加記事を読んでくる
11	Save the World's Plants	速読活動: Who Owns a Song? 精読活動: 環境問題についての文章	多読学習 テキストの予習 栄養に関する単語の学習
12	Long-Lasting Lunches	速読活動: Insects are Good 精読活動: 社会と食事についての文章	多読学習 生き方と食事についての追加記事を読んでくる
13	Long-Lasting Lunches	速読活動: Green Tea 精読活動: 食育についての文章	多読学習 テキストの予習 少子高齢化に関する単語の学習
14	Troubled Aging Japan	速読活動: Waste Not 精読活動: 高齢化についての文章	多読学習 これまで読んだ記事の内容について理解を深め、自分の意見が言えるようにしておく
15	まとめの確認	これまで読んだ記事をもとに、理解を確認し、内容把握を行う	多読学習

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			

評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 80% (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む)
-----------	---

学生へのメッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 住吉研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。																																																																		
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度が多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Unit 8: Global Issues</td> <td>教科書 pp.44-46</td> <td>予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 8: Global Issues</td> <td>教科書 pp.47-49</td> <td>予習と復習 小テスト準備</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 9: Japanese Culture</td> <td>教科書 pp.50-52 Unit 8の小テスト</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 9: Japanese Culture</td> <td>教科書 pp.53-55</td> <td>予習と復習 小テスト準備</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 10: Human Rights</td> <td>教科書 pp.56-58 Unit 9の小テスト</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 10: Human Rights</td> <td>教科書 pp.59-61</td> <td>予習と復習 小テスト準備</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 11: Health & Medical Issues</td> <td>教科書 pp.62-64 Unit 10の小テスト</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 11: Health & Medical Issues</td> <td>教科書 pp.65-67</td> <td>予習と復習 小テスト準備</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 12: Environmental Issues</td> <td>教科書 pp.68-70 Unit 11の小テスト</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 12: Environmental Issues</td> <td>教科書 pp.71-73</td> <td>予習と復習 小テスト準備</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 13: Economy & Industry</td> <td>教科書 pp.74-76 Unit 12の小テスト</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 13: Economy & Industry</td> <td>教科書 pp.77-79</td> <td>予習と復習 小テスト準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 14: Legal Issues</td> <td>教科書 pp.80-82 Unit 13の小テスト</td> <td>予習と復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 14: Legal Issues</td> <td>教科書 pp.83-85</td> <td>予習と復習 まとめのテスト準備</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>後期の総復習とまとめのテスト</td> <td>後期内容のまとめのテストを実施</td> <td>まとめのテスト準備</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Unit 8: Global Issues	教科書 pp.44-46	予習	2	Unit 8: Global Issues	教科書 pp.47-49	予習と復習 小テスト準備	3	Unit 9: Japanese Culture	教科書 pp.50-52 Unit 8の小テスト	予習と復習	4	Unit 9: Japanese Culture	教科書 pp.53-55	予習と復習 小テスト準備	5	Unit 10: Human Rights	教科書 pp.56-58 Unit 9の小テスト	予習と復習	6	Unit 10: Human Rights	教科書 pp.59-61	予習と復習 小テスト準備	7	Unit 11: Health & Medical Issues	教科書 pp.62-64 Unit 10の小テスト	予習と復習	8	Unit 11: Health & Medical Issues	教科書 pp.65-67	予習と復習 小テスト準備	9	Unit 12: Environmental Issues	教科書 pp.68-70 Unit 11の小テスト	予習と復習	10	Unit 12: Environmental Issues	教科書 pp.71-73	予習と復習 小テスト準備	11	Unit 13: Economy & Industry	教科書 pp.74-76 Unit 12の小テスト	予習と復習	12	Unit 13: Economy & Industry	教科書 pp.77-79	予習と復習 小テスト準備	13	Unit 14: Legal Issues	教科書 pp.80-82 Unit 13の小テスト	予習と復習	14	Unit 14: Legal Issues	教科書 pp.83-85	予習と復習 まとめのテスト準備	15	後期の総復習とまとめのテスト	後期内容のまとめのテストを実施	まとめのテスト準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Unit 8: Global Issues	教科書 pp.44-46	予習																																																																
2	Unit 8: Global Issues	教科書 pp.47-49	予習と復習 小テスト準備																																																																
3	Unit 9: Japanese Culture	教科書 pp.50-52 Unit 8の小テスト	予習と復習																																																																
4	Unit 9: Japanese Culture	教科書 pp.53-55	予習と復習 小テスト準備																																																																
5	Unit 10: Human Rights	教科書 pp.56-58 Unit 9の小テスト	予習と復習																																																																
6	Unit 10: Human Rights	教科書 pp.59-61	予習と復習 小テスト準備																																																																
7	Unit 11: Health & Medical Issues	教科書 pp.62-64 Unit 10の小テスト	予習と復習																																																																
8	Unit 11: Health & Medical Issues	教科書 pp.65-67	予習と復習 小テスト準備																																																																
9	Unit 12: Environmental Issues	教科書 pp.68-70 Unit 11の小テスト	予習と復習																																																																
10	Unit 12: Environmental Issues	教科書 pp.71-73	予習と復習 小テスト準備																																																																
11	Unit 13: Economy & Industry	教科書 pp.74-76 Unit 12の小テスト	予習と復習																																																																
12	Unit 13: Economy & Industry	教科書 pp.77-79	予習と復習 小テスト準備																																																																
13	Unit 14: Legal Issues	教科書 pp.80-82 Unit 13の小テスト	予習と復習																																																																
14	Unit 14: Legal Issues	教科書 pp.83-85	予習と復習 まとめのテスト準備																																																																
15	後期の総復習とまとめのテスト	後期内容のまとめのテストを実施	まとめのテスト準備																																																																
関連科目	スキルズトレーニング a, スピーキング&ライティング Ia, ボキャブラリー&グラマー a																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Ambitions(Pre-Intermediate)</td> <td>VELC 研究会教材開発グループ</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Timed Reading for Fluency 1</td> <td>Paul Nation & Casey Malarcher</td> <td>Seed Learning</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Ambitions(Pre-Intermediate)	VELC 研究会教材開発グループ	金星堂	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Ambitions(Pre-Intermediate)	VELC 研究会教材開発グループ	金星堂																																																																
2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 80% (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む)																																																																		
学生へのメッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Unit 11 The Japanese in Britain	速読・多読 読解・問題 (pp. 51~53)	授業範囲の予習・復習
	2	Unit 11 The Japanese in Britain Unit 12 Health Matters	Review 速読・多読 読解・問題 (pp. 54~56) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	3	Unit 12 Health Matters	Review 速読・多読 読解・問題 (pp. 57~60) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	4	Unit 13 The House of Windsor:Crisis and Continuity	速読・多読 読解・問題 (pp. 61~63) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	5	Unit 13 The House of Windsor: Crisis and Continuity Unit 14 The Changing London Skyline	Review 速読・多読 読解・問題 (pp. 64~66) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	6	Unit 14 The Changing London Skyline	Review 速読・多読 読解・問題 (pp. 78~70) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	7	Unit 15 Women's Rights: Alook through History	Review 速読・多読 読解・問題 (pp. 71~74) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	8	Unit 15 Women's Rights: Alook through History Unit 16 Women in Britain Today: A Report	速読・多読 読解・問題 (pp. 75~78) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	9	Unit 16 Women in Britain Today: A Report Unit 17 The White Rose of York	Review 速読・多読 読解・問題 (pp. 79~82) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	10	Unit 17 The White Rose of York Unit 18 Charles Dickens: Childhood and Christmas	Review 速読・多読 読解・問題 (pp. 83~86) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	11	Unit 18 Charles Dickens: Childhood and Christmas Unit 19 The Great British Bake Off	Review 速読・多読 読解・問題 (pp. 87~91) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	12	Unit 19 The Great British Bake Off Unit 20 Brits Abroad	Review 速読・多読 読解・問題 (pp. 92~94) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	13	Unit 19 The Great British Bake Off Unit 20 Brits Abroad	Review 速読・多読 読解・問題 (pp. 95~97) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	14	Unit 20 Brits Abroad	Review 速読・多読 読解・問題 (pp. 98~100) 暗唱/Quiz	授業範囲の予習・復習
	15	General Review	Unit 11~Unit 20 までの総まとめ	Unit 11~Unit 20 までの授業ノート・テキストをしっかり復習しておくこと

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Britain at a Watershed	John H. Randle , Atsushi Mukuhira	成美堂
	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 80% (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む)			
学生への メッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ヘト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。																																																																		
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス 簡単な小テスト Chapter 3-3 を始める</td> <td>授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Chapter 3-3 passive voice</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3-4 adjective order</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3-5 countable / uncountable</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4-1 look / see / watch</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>4-2 common /popular</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>4-3 because / as / since</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>中間復習テストの勉強</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間復習テスト</td> <td>前半の既習内容の確認テスト</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>4-4 maybe / probably</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>4-5 wish /hope</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>5-1 red</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>5-2 blue</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>5-3 yellow</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>本文の下読み、exercise の予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>5-4 green</td> <td>本文解釈と exercise のチェック</td> <td>最終復習テストの勉強</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>最終復習テスト 総括 (まとめ)</td> <td>・後半の既習内容の確認テスト ・振り返りとまとめ</td> <td>要点整理</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス 簡単な小テスト Chapter 3-3 を始める	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明	本文の下読み、exercise の予習	2	Chapter 3-3 passive voice	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	3	3-4 adjective order	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	4	3-5 countable / uncountable	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	5	4-1 look / see / watch	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	6	4-2 common /popular	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	7	4-3 because / as / since	本文解釈と exercise のチェック	中間復習テストの勉強	8	中間復習テスト	前半の既習内容の確認テスト	本文の下読み、exercise の予習	9	4-4 maybe / probably	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	10	4-5 wish /hope	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	11	5-1 red	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	12	5-2 blue	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	13	5-3 yellow	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習	14	5-4 green	本文解釈と exercise のチェック	最終復習テストの勉強	15	最終復習テスト 総括 (まとめ)	・後半の既習内容の確認テスト ・振り返りとまとめ	要点整理
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス 簡単な小テスト Chapter 3-3 を始める	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明	本文の下読み、exercise の予習																																																																
2	Chapter 3-3 passive voice	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
3	3-4 adjective order	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
4	3-5 countable / uncountable	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
5	4-1 look / see / watch	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
6	4-2 common /popular	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
7	4-3 because / as / since	本文解釈と exercise のチェック	中間復習テストの勉強																																																																
8	中間復習テスト	前半の既習内容の確認テスト	本文の下読み、exercise の予習																																																																
9	4-4 maybe / probably	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
10	4-5 wish /hope	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
11	5-1 red	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
12	5-2 blue	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
13	5-3 yellow	本文解釈と exercise のチェック	本文の下読み、exercise の予習																																																																
14	5-4 green	本文解釈と exercise のチェック	最終復習テストの勉強																																																																
15	最終復習テスト 総括 (まとめ)	・後半の既習内容の確認テスト ・振り返りとまとめ	要点整理																																																																
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ODDS & ENDS Essays on everyday conversation</td> <td>James Tschudy / 吉田英次</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Timed Reading for Fluency 1</td> <td>Paul Nation & Casey Malarcher</td> <td>Seed Learning</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ODDS & ENDS Essays on everyday conversation	James Tschudy / 吉田英次	成美堂	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ODDS & ENDS Essays on everyday conversation	James Tschudy / 吉田英次	成美堂																																																																
2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む) 80%																																																																		
学生へのメッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チリ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1			多読学習 テキストの予習
2		速読活動: Art in the Classroom 精読活動: 働き方についての文章	多読学習 働き方と人生についての追加記事を読んでくる
3	A Happy Business Trip with Your Family	速読活動: Does Homework Help? 精読活動: 生き方についての文章	多読学習 テキストの予習 衛生に関する単語の学習
4	Are You Clean Enough?	速読活動: How to Take Notes 精読活動: 衛生についての文章	多読学習 健康についての追加記事を読んでくる
5	Are You Clean Enough?	速読活動: A Part of Learning 精読活動: 衛生と健康についての文章	多読学習 テキストの予習 感情表現に関する単語の学習
6	Cry, and Refresh!	速読活動: Private vs. Public Schools 精読活動: 感情を表現する効果についての文章	多読学習 人間の精神活動についての追加記事を読んでくる
7	Cry, and Refresh!	速読活動: A Job for Everyone? 精読活動: 人間の精神についての文章	多読学習 テキストの予習 建築と社会に関する単語の学習
8	Urban-Style Aquariums	速読活動: The Work Week 精読活動: 建築と社会についての文章	多読学習 建築についての追加記事を読んでくる
9	Urban-Style Aquariums	速読活動: Desks at the office 精読活動: 建築についての文章	多読学習 テキストの予習 環境に関する単語の学習
10	Save the World's Plants	速読活動: Brands and Colors 精読活動: 環境についての文章	多読学習 環境問題についての追加記事を読んでくる
11	Save the World's Plants	速読活動: Who Owns a Song? 精読活動: 環境問題についての文章	多読学習 テキストの予習 栄養に関する単語の学習
12	Long-Lasting Lunches	速読活動: Insects are Good 精読活動: 社会と食事についての文章	多読学習 生き方と食事についての追加記事を読んでくる
13	Long-Lasting Lunches	速読活動: Green Tea 精読活動: 食育についての文章	多読学習 テキストの予習 少子高齢化に関する単語の学習
14	Troubled Aging Japan	速読活動: Waste Not 精読活動: 高齢化についての文章	多読学習 これまで読んだ記事の内容について理解を深め、自分の意見が言えるようにしておく
15	まとめの確認	これまで読んだ記事をもとに、理解を確認し、内容把握を行う	多読学習

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib、ボキャブラリー&グラマー b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
2	A Taste of English Food and Fiction	Fiona Wall Minami et al.	Asahi Press	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェーン ボーメンター
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Finding Love Business Extensive Reading	AGR Ch7 p50/51 TRFF Unit 5 Reading 21 Extensive Reading	Extensive reading at home Review class lesson
	2	Finding Love The Work Week	AGR p52/53/54 TRFF Unit 5 Reading 22 Extensive Reading	Extensive reading at home Review class lesson
	3	Kindness Desks at the Office Brands and Colours Extensive Reading	AGR Chapter 8 p56/57 TRFF Unit 5 Readings 23/24 Extensive Reading	Extensive reading at home Review class lesson
	4	Kindness Who Owns a Song? Extensive Reading	AGR Ch8 p58/59/60 TRFF Unit 5 Reading 25 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	5	Bravery Food Extensive Reading	AGR p62/63 TRFF Unit 6 Reading 26 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	6	Bravery Green Tea Waste Not Extensive Reading	AGR p64/65/66 TRFF Unit 6 Readings 27/28 extensive reading score check Extensive Reading score check/troubleshooting	Extensive Reading at home Review class lesson
	7	Riding the Wave Marmite Extensive Reading	AGR Review 3 p68-71 TRFF Reading 29 (plus taste test!) Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	8	Urban Legends Extensive Reading	AGR p72/73 TRFF Reading 30 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	9	Urban Legends Stack Your Engines Cup Stacking Extensive Reading	AGR p74-77 TRFF Readings 31/32 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	10	Relationship Myths Kicking it for fun Believe it or Not Extensive Reading	AGR p78/79 TRFF Readings 33/34 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	11	Relationship Myths The No-sweat Sport Extensive Reading	AGR p80-82 TRFF Reading 35 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	12	Adventure People Extensive Reading	AGR p84/85 TRFF Readings 36/37 Extensive Reading	Extensive Reading at home review class lesson
	13	Adventure Making Beautiful Music An Internet Star Extensive Reading	AGR p86-89 TRFF Readings 38/39 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
	14	Review of Reading Strategies Born to be the same? Extensive Reading	AGR p90-93 TRFF Reading 40 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson
15	Reading Activity - handout (to be planned) Extensive Reading Collect Extensive Reading Records and Speed Reading Records	Fun Reading Activity Extensive Reading End of Term Wrap Up	Keep Reading over the holidays!	

関連科目	スキルズトレーニング a, スピーキング&ライティング Ia, ボキャブラリー&グラマー a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A Good Read 1	Osamu Takeuchi	SHOHAKUSHA
	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Extensive Reading 10 percent (Spring - 50,000 words/100 books; Autumn 60,000 words/75 books) Speed Reading 10 percent Intensive Reading 80 percent			
学生への メッセージ	I'm looking forward to meeting you and exploring English through reading together! Please relax and ask questions at anytime! It's a good idea to bring a dictionary to class too.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	リーディングⅡa	科目名(英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	比喩表現について(1) 直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
4	比喩表現について(2) 暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
6	比喩表現について(3) 換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
8	比喩表現について(4) 比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。

関連科目	リーディングⅠa, Ⅰb
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
	2			

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% E-learning(リンガポルタ)課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
----------	--

学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語の本を読んで、英語力を高めていきましょう!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋研究室
----------	----------------

備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。</p>
----	--

科目名	リーディングⅡa	科目名(英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学的作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学的作品を読解する。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	比喩表現について(1) 直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
4	比喩表現について(2) 暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
6	比喩表現について(3) 換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
8	比喩表現について(4) 比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。

関連科目	リーディングⅠa, Ⅰb
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	VOA ラーニングイングリッシュで世界を読む	VELC 研究会教材開発グループ	三修社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
2				

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% E-learning(リンガポルタ)課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
----------	--

学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語の本を読んで、英語力を高めていきましょう!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>
----	--

科目名	リーディングⅡa	科目名(英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グラント パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学的作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学的作品を読解する。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	比喩表現について(1) 直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
4	比喩表現について(2) 暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
6	比喩表現について(3) 換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
8	比喩表現について(4) 比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。

関連科目	リーディングⅠa, Ⅰb
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Advantage 3	Casey Malarcher	Cengage Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
	2			

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% E-learning(リンガポルタ)課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
----------	--

学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語の本を読んで、英語力を高めていきましょう!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>
----	--

科目名	リーディングⅡa	科目名(英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・ダイアース
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	比喩表現について(1) 直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
4	比喩表現について(2) 暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
6	比喩表現について(3) 換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
8	比喩表現について(4) 比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。

関連科目	リーディングⅠa, Ⅰb
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	READ THIS! (Intro)	Daphne Mackey	CAMBRIDGE 978-1-107-63071-0 ISBN
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ	Graded Readers シリーズ	Graded Readers シリーズ
	2			
	3			

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% E-learning(リンガボルト)課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
----------	--

学生へのメッセージ	Welcome to Reading 2ab! We will focus on building reading skills and confidence! We will be using both our text book and the guided readers from the library.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>
----	--

科目名	リーディングⅡa	科目名(英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	比喩表現について(1) 直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
4	比喩表現について(2) 暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
6	比喩表現について(3) 換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
8	比喩表現について(4) 比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。

関連科目	リーディングⅠa, Ⅰb
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Advantage 3	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814336550
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
	2			
	3			

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>
----	--

科目名	リーディングⅡb	科目名(英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。
5	韻について(1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
7	韻について(2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
9	韻について(3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目	リーディングⅠa, Ⅰb
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
	2			

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% E-learning(リンガポルタ)課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
----------	--

学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語の本を読んで、英語力を高めていきましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋研究室
----------	----------------

備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。</p>
----	--

科目名	リーディングⅡb	科目名(英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。
5	韻について(1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
7	韻について(2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
9	韻について(3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目	リーディング Ia, Ib
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	VOA ラーニングイングリッシュで世界を読む	VELC 研究会教材開発グループ	三修社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
2				

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% E-learning(リンガポルタ)課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
----------	--

学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語の本を読んで、英語力を高めていきましょう!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>
----	--

科目名	リーディングⅡb	科目名(英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	グラント パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。
5	韻について(1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
7	韻について(2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
9	韻について(3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目	リーディングⅠa, Ⅰb
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Advantage 3	Casey Malarcher	Cengage Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
	2			

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% E-learning(リンガポルタ)課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
----------	--

学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語の本を読んで、英語力を高めていきましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>
----	--

科目名	リーディングⅡb	科目名(英文)	Reading IⅡb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・ダイアース
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。
5	韻について(1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
7	韻について(2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
9	韻について(3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目	リーディングⅠa, Ⅰb
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	READ THIS! (Intro)	Daphne Mackey	CAMBRIDGE 978-1-107-63071-0	ISBN

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ	Graded Readers シリーズ	Graded Readers シリーズ
2				

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% E-learning(リンガボルト)課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
----------	--

学生へのメッセージ	Welcome to Reading 2ab! We will focus on building reading skills and confidence! We will be using both our text book and the guided readers from the library.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	リーディングⅡb	科目名(英文)	Reading IIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。
5	韻について(1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
7	韻について(2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
9	韻について(3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目	リーディング Ia, Ib
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Advantage 3	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814336550
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
	2			
	3			

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>
----	--

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練 (Timed-Reading) が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2	Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills	Donald J. Sobol	英宝社
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	拙冬 紘和
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練 (Timed-Reading) が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	What in the World (ちよつと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2	Meet the World: English through Newspapers	Yasuhiko Wakaari	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	リーディング中心の授業ですが、ただ読むだけではなく、内容に対して自分の意見、考え方を持てるようにしたいと思います。楽しんで、一緒にがんばりましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練 (Timed-Reading) が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練 (Timed-Reading) が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	---

学生へのメッセージ
There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように、英語学習に王道 (easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさないと、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up!

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練 (Timed-Reading) が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	What in the World (ちよつと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2	Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills	Donald J. Sobol	英宝社
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	リーディングⅢb	科目名(英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	拙冬 紘和
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	What in the World (ちよつと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2	Meet the World: English through Newspapers	Yasuhiko Wakaari	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	リーディング中心の授業ですが、ただ読むだけではなく、内容に対して自分の意見、考え方を持てるようにしたいと思います。楽しんで、一緒にがんばりましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅢb	科目名(英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅢb	科目名(英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
速読・多読活動 20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%

学生へのメッセージ
There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし)にあるように、英語学習に王道(easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさないと、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ)を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張ってください! Keep your chin up!

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	旅行インドネシア・マレー語	科目名(英文)	Indonesian-Malay for Travel
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	インドネシアへ実際に旅行に出かけることを想定し、さまざまな状況に応じた実践的なインドネシア語表現を学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 交通機関を利用する際、緊急時、買い物時などの会話表現がスムーズにできるようになること。 2. 訪問先の歴史や芸能などの予備知識をある程度得ておくと、旅がもっと豊かな体験となることを学ぶ。 3. インドネシア語で書かれた旅行案内やガイドブックがある程度読めるようになること。 4. 日本を訪れるインドネシアからの観光客や友人との会話内容が豊かになること。
授業方法と留意点	1. テキストはテーマに応じたプリントを配布する。 2. 辞書を必ず携帯すること。
科目学習の効果(資格)	「インドネシア語技能検定試験」に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	プロローグ	授業の進め方や留意点、評価基準について説明を行なう。	_____
2	基本的な表現	旅行にも使える基本的な日常表現について、1年次で学んだことの復習も兼ねつつ習得する。	学習項目の復習
3	搭乗する	飛行機内での会話表現を習得する。	学習項目の復習
4	空港にて	イミグレーションや税関、両替所等での表現を習得する。	学習項目の復習
5	交通機関を利用する	タクシーやバスに乗って移動する際の表現を習得する。	学習項目の復習
6	ホテルにて	チェックインからチェックアウトまで、ホテルで過ごす際によく使う会話表現を習得する。	学習項目の復習
7	レストランにて	レストランを利用する際の会話表現を習得する。	学習項目の復習
8	復習	これまでに学習したことの再確認(中間テスト)を行う。	これまでに学んだことの整理と復習
9	買い物をする	買い物をする際の表現を習得する。	学習項目の復習
10	スラバヤ周辺の旅行案内書を読む①	インドネシア語で書かれた旅行案内書を講読する。	学習項目の復習
11	スラバヤ周辺の旅行案内書を読む②	インドネシア語で書かれた旅行案内書を講読する。	学習項目の復習
12	スラバヤ周辺の旅行案内書を読む③	インドネシア語で書かれた旅行案内書を講読する。	学習項目の復習
13	大阪や京阪神間のマスのジツドの所在を調べる。	インドネシアから来阪したムスリムとムスリマへ、大阪や京阪神の情報を伝えることができるよう、最新の情報を集める。	・事前に配布する資料をよく読んでまとめておくこと。 ・学習項目の復習
14	大阪や京阪神間のハラール・レストランや食品を扱っている店の所在を調べる。	インドネシアから来阪したムスリムとムスリマへ、大阪や京阪神の情報を伝えることができるよう、最新の情報を集める。	・事前に配布する資料をよく読んでまとめておくこと。 ・学習項目の復習
15	総復習	これまでに習得した表現を再確認(理解度確認テスト)をし、陥りがちなミスの原因について考え、改める。	今までに学習したことの整理と復習

関連科目 インドネシア語・マレー語関係科目、東南アジア関係の講義科目。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
2	現代日本語-インドネシア語辞典	末永晃	大学書林
3			

評価方法(基準)	中間テスト40%、理解度確認テスト40%、積極的な取り組み姿勢(ホームワーク課題、発表等)20% 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	1年間のインドネシア語学習を通じて、単語力や文法の理解が深まったかと思います。この授業で「生きたインドネシア語」を学び、一層の自信をつけていきましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	1. 中間テストと理解度確認テストの際は、終了後に総復習を行う。予習・復習に必要な時間は最低1時間以上である。したがってこの授業全体で復習・予習に必要な総時間は15時間以上である。 2. 授業時間外での質問や要望は、木曜のお昼休みと金曜の1限終了後に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	旅行インドネシア語	科目名(英文)	Indonesian for Travel
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		

授業概要・目的	インドネシアへ実際に旅行に出かけることを想定し、さまざまな状況に応じた実践的なインドネシア語表現を学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 交通機関を利用する際、緊急時、買い物時などの会話表現がスムーズにできるようになること。 2. 訪問先の歴史や芸能などの予備知識をある程度得ておくと、旅がもっと豊かな体験となることを学ぶ。 3. インドネシア語で書かれた旅行案内やガイドブックがある程度読めるようになること。 4. 日本を訪れるインドネシアからの観光客や友人との会話内容が豊かになること。
授業方法と留意点	1. テキストはテーマに応じたプリントを配布する。 2. 辞書を必ず携帯すること。
科目学習の効果(資格)	「インドネシア語技能検定試験」に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	プロローグ	授業の進め方や留意点、評価基準について説明を行なう。	――
2	基本的な表現	旅行にも使える基本的な日常表現について、1年次で学んだことの復習も兼ねつつ習得する。	学習項目の復習
3	搭乗する	飛行機内での会話表現を習得する。	学習項目の復習
4	空港にて	イミグレーションや税関、両替所等での表現を習得する。	学習項目の復習
5	交通機関を利用する	タクシーやバスに乗って移動する際の表現を習得する。	学習項目の復習
6	ホテルにて	チェックインからチェックアウトまで、ホテルで過ごす際によく使う会話表現を習得する。	学習項目の復習
7	レストランにて	レストランを利用する際の会話表現を習得する。	学習項目の復習
8	復習	これまでに学習したことの再確認(中間テスト)を行う。	これまでに学んだことの整理と復習
9	買い物をする	買い物をする際の表現を習得する。	学習項目の復習
10	スラバヤ周辺の旅行案内書を読む①	インドネシア語で書かれた旅行案内書を講読する。	学習項目の復習
11	スラバヤ周辺の旅行案内書を読む②	インドネシア語で書かれた旅行案内書を講読する。	学習項目の復習
12	スラバヤ周辺の旅行案内書を読む③	インドネシア語で書かれた旅行案内書を講読する。	学習項目の復習
13	大阪や京阪神間のマスのジツドの所在を調べる。	インドネシアから来阪したムスリムとムスリマへ、大阪や京阪神の情報を伝えることができるよう、最新の情報を集める。	・事前に配布する資料をよく読んでまとめておくこと。 ・学習項目の復習
14	大阪や京阪神間のハラール・レストランや食品を扱っている店の所在を調べる。	インドネシアから来阪したムスリムとムスリマへ、大阪や京阪神の情報を伝えることができるよう、最新の情報を集める。	・事前に配布する資料をよく読んでまとめておくこと。 ・学習項目の復習
15	総復習	これまでに習得した表現を再確認(理解度確認テスト)をし、陥りがちなミスの原因について考え、改める。	今までに学習したことの整理と復習

関連科目 インドネシア語・マレー語関係科目、東南アジア関係の講義科目。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
2	現代日本語-インドネシア語辞典	末永晃	大学書林
3			

評価方法(基準)	中間テスト40%、理解度確認テスト40%、積極的な取り組み姿勢(ホームワーク課題、発表等)20% 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	1年間のインドネシア語学習を通じて、単語力や文法の理解が深まったかと思います。この授業で「生きたインドネシア語」を学び、一層の自信をつけていきましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	1. 中間テストと理解度確認テストの際は、終了後に総復習を行う。予習・復習に必要な時間は最低1時間以上である。したがってこの授業全体で復習・予習に必要な総時間は15時間以上である。 2. 授業時間外での質問や要望は、木曜のお昼休みと金曜の1限終了後に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。

基礎科目

科目名	インドネシア語 I	科目名 (英文)	Indonesian I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 玲子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。																																																																		
到達目標	この授業では、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。																																																																		
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方 インドネシア語の特徴</td> <td>学んだことの復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文字と発音</td> <td>アルファベットの読み方</td> <td>アルファベットをきちんと読めるようにしておくこと</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>発音</td> <td>基本単語の発音練習</td> <td>単語の読み方を理解しておくこと</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>挨拶 (1)</td> <td>挨拶表現</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>挨拶 (2)</td> <td>感謝、謝罪</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>紹介 (1)</td> <td>自己紹介、人称代名詞について</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>紹介 (2)</td> <td>自己紹介、疑問詞を用いた表現</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>紹介 (3)</td> <td>家族、友人を紹介、疑問詞を用いた表現</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>8回までのまとめ</td> <td>これまでに学んだことの復習 中間テストおよび解説</td> <td>これまでに学んだことの再確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>数詞 (1)</td> <td>数詞の仕組み</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>数詞 (2)</td> <td>序数詞や分数</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>数詞 (3)</td> <td>電話番号と数詞の練習問題</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>数詞 (4)</td> <td>日付の言い表し方</td> <td>プリントの会話部分を練習し覚えること</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>10回から13回までのまとめ</td> <td>数詞を使った表現の復習</td> <td>10回から13回までの再確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>これまでに学んだことの総復習 理解度確認テストおよび解説</td> <td>総復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方 インドネシア語の特徴	学んだことの復習	2	文字と発音	アルファベットの読み方	アルファベットをきちんと読めるようにしておくこと	3	発音	基本単語の発音練習	単語の読み方を理解しておくこと	4	挨拶 (1)	挨拶表現	プリントの会話部分を練習し覚えること	5	挨拶 (2)	感謝、謝罪	プリントの会話部分を練習し覚えること	6	紹介 (1)	自己紹介、人称代名詞について	プリントの会話部分を練習し覚えること	7	紹介 (2)	自己紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること	8	紹介 (3)	家族、友人を紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること	9	8回までのまとめ	これまでに学んだことの復習 中間テストおよび解説	これまでに学んだことの再確認	10	数詞 (1)	数詞の仕組み	プリントの会話部分を練習し覚えること	11	数詞 (2)	序数詞や分数	プリントの会話部分を練習し覚えること	12	数詞 (3)	電話番号と数詞の練習問題	プリントの会話部分を練習し覚えること	13	数詞 (4)	日付の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること	14	10回から13回までのまとめ	数詞を使った表現の復習	10回から13回までの再確認	15	総復習	これまでに学んだことの総復習 理解度確認テストおよび解説	総復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方 インドネシア語の特徴	学んだことの復習																																																																
2	文字と発音	アルファベットの読み方	アルファベットをきちんと読めるようにしておくこと																																																																
3	発音	基本単語の発音練習	単語の読み方を理解しておくこと																																																																
4	挨拶 (1)	挨拶表現	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
5	挨拶 (2)	感謝、謝罪	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
6	紹介 (1)	自己紹介、人称代名詞について	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
7	紹介 (2)	自己紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
8	紹介 (3)	家族、友人を紹介、疑問詞を用いた表現	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
9	8回までのまとめ	これまでに学んだことの復習 中間テストおよび解説	これまでに学んだことの再確認																																																																
10	数詞 (1)	数詞の仕組み	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
11	数詞 (2)	序数詞や分数	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
12	数詞 (3)	電話番号と数詞の練習問題	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
13	数詞 (4)	日付の言い表し方	プリントの会話部分を練習し覚えること																																																																
14	10回から13回までのまとめ	数詞を使った表現の復習	10回から13回までの再確認																																																																
15	総復習	これまでに学んだことの総復習 理解度確認テストおよび解説	総復習																																																																
関連科目	インドネシア II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への積極的な参加度合 20%、中間テスト 40%、理解度確認テスト 40%																																																																		
学生へのメッセージ	授業へは積極的に参加しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、復習については毎週少なくとも2時間以上は行うこと。半期中の事後学習総時間は30時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、中間テストおよび理解度確認テスト終了後には解説を行う。																																																																		

科目名	インドネシア語Ⅱ	科目名(英文)	Indonesian II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。
到達目標	この授業では、前期の「インドネシア語Ⅰ」に引き続き、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。また来日したインドネシア人観光客へ簡単な道案内ができるようになる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした学習を行う。声に出して繰り返し練習することを重視する。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	復習	前期の「インドネシア語Ⅰ」で学んだことの復習	・前期の項目を復習してから授業に臨むこと。 ・学習項目の復習
	2	曜日 (1)	曜日、月の言い表し方	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	3	曜日 (2)	季節の表現方法	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	4	時間 (1)	時間の言い表し方	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	5	時間 (2)	時間を使った会話	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	6	色 (1)	色および形容詞	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	7	色 (2)	助数詞	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	8	復習	これまでに学んだことの復習 中間テスト	中間テストに向けてこれまでに学んだことの再確認
	9	ショッピング (1)	値段の尋ね方	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	10	ショッピング (2)	店での会話	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	11	ショッピング (3)	その他役に立つ表現	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	12	位置 (1)	位置の表し方	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	13	位置 ②	道を尋ねる	・プリントの会話部分を練習し覚えること ・単語の綴りと意味を覚えること
	14	9回～13回までのまとめ	ショッピングでの会話や位置に関する表現の復習	・9回～13回までに学んできたことの再確認 ・いままでに学んだ単語の綴りと意味を確認すること
	15	総復習	これまでに学んだことの総復習 理解度確認テスト	これまでに学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語Ⅰ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への積極的な参加度合 20%、中間テスト 40%、理解度確認テスト 40%等に基づき総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	授業へは積極的に参加しましょう。
-----------	------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	毎週の子習は基本的に必要ないが、復習は毎週少なくとも1時間は行うこと。半期中の事後学習は30時間である。授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。
----	--

科目名	インドネシア語Ⅲ	科目名(英文)	Indonesian III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	インドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。文法説明、講読練習、作文練習、会話練習を行う。
到達目標	文法力、読解力、作文力、会話力のバランスの取れた中級レベルの運用能力をめざす。
授業方法と留意点	テキストはプリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語の能力向上とともに、インドネシア語技能検定試験に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方の説明 インドネシア、インドネシア語の説明	今回の復習
2	復習1	綴りと発音の復習	前回の復習
3	復習2	文型、語順の復習	前回の復習
4	復習3	代名詞、基本的な語彙の復習	前回の復習
5	復習4	数字、曜日、月名などの復習	前回の復習
6	基本1	簡単な文の文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習。
7	基本2	文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習
8	基本3	文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習
9	基本4	文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習
10	基本5	文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習
11	基本6	文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習
12	総合1	やや複雑な文を用いての文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習
13	総合2	やや複雑な文を用いての文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習
14	総合3	やや複雑な文を用いての文法説明、講読練習、作文練習、会話練習	前回の復習
15	総復習	理解度を確認するための臨時試験 試験終了後、試験内容についての説明	第14回までの内容の予習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(参加度、発言等)と臨時試験によって評価する。 平常点 40%、臨時試験 60%
----------	--

学生へのメッセージ	今後さらに発展が見込まれるインドネシアの国語であるインドネシア語の能力を持つことは、将来の役に立つでしょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 山口研究室
----------	-------------

備考	基本的に予習は必要ないが、毎回の授業内容の復習は充分行う必要がある。 臨時試験の内容に関しては、試験終了後の授業中に確認、説明を行う。
----	--

科目名	インドネシア語IV	科目名(英文)	Indonesian IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森田 良成
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	インドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。 インドネシア語の文章に実際に触れつつ、やや複雑な文法の習得を目指す。 同時に、インドネシアにおける人々の暮らしについても理解を深める。
到達目標	中級レベルのインドネシア語運用能力をめざす。 辞書を使いつつ、やや複雑な文章を理解し、作文することができる。 やや複雑な文章を用いての会話ができる。
授業方法と留意点	確認テストを行うほか、随時課題を出す。復習をしっかりと行うこと。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語能力の向上。 インドネシア語技能検定試験に向けての準備。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義概要と講義の進め方を説明する。 既習事項について復習する。	既習事項を復習すること。
2	文法 1	接尾辞-an、接頭辞 pe- peN- 重複の形態と機能を学習する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
3	文法 2	同等、比較、最上級の表現 接頭辞 ter- 前置詞を学習する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
4	文法 3	接続詞 付加疑問文 感嘆文を学習する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
5	復習 1	既習事項を復習。 確認テストを行う。	既習事項を復習すること。
6	文法 4	共接辞 peN--an、per--an を学習する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
7	文法 5	従位接続詞 相関構文を学習する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
8	文法 6	共接辞 ke--an 命令・勧誘表現を学習する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
9	文法 7	接頭辞 meN- meN--kan 動詞 meN--i 動詞 memper- を学習する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
10	復習 2	既習事項を復習。 確認テストを行う。	既習事項を復習すること。
11	演習 1	インドネシア語の文章、映像を題材にして表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
12	演習 2	インドネシア語の文章、映像を題材にして表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
13	演習 3	インドネシア語の文章、映像を題材にして表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
14	復習 3	既習事項を復習。 確認テストを行う。	既習事項を復習すること。
15	総合復習	確認テストについての講評と既習事項のフォローアップを行う。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。

関連科目	インドネシア語、マレー語、東南アジア関係の授業すべて。
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	確認テスト(60%)、提出物や課題等の授業への取り組み(40%)から総合的に判断する。詳細は第1回目の授業で指示する。
----------	---

学生へのメッセージ	授業の復習以外にも、自分の関心に合わせて、インドネシア語の文章・映像・音声に積極的に触れ、辞書を使ってその内容を理解しようという心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	辞書は1回目の授業から使用するので持参すること。 確認テストは時間内に講評するとともに、翌週に採点のうえ返却する。 授業時間外での質問には非常勤講師室で応じるが、事前に連絡すること。
----	---

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
	2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習 (固有名詞、複数形など)	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	4	趣味についての文章を通して主語+動詞~の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	7	コンサートについての文章を通して How+形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	15	9-14 回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	関 初海
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1, 2 の予習
	2	Unit 1, 2	"It's the Titanic" "A Floating Palace" (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 3, 4 予習
	3	Unit 3, 4	Departure Iceberg (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 5, 6 予習
	4	Unit 5, 6	Iceberg (2), (3) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 7, 8 予習
	5	Unit 7, 8	Lifeboat The Miracle of Philip Aks (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 9, 10 予習
	6	Unit 9, 10	The Miracle of Philip Aks (2), (3) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 11, 12 予習
	7	Unit 11, 12	Mr. Smith's "White Lie" Together until the End of Their Lives (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 13, 14 予習
	8	Unit 13, 14	Together until the End of Their Lives (2) The Californian (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 15, 16 予習
	9	Unit 15, 16	The Carpathia Radio Officers (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 17 予習
	10	Unit 17	Firemen (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 18 予習
	11	Unit 18	Eight Courageous Musicians (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 19 予習
	12	Unit 19	Eight Courageous Musicians (2) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 20 予習
	13	Unit 20	Only 705 Survivors (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 21 予習
	14	Unit 21	If Only... (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習
	15	まとめ	総まとめ	総復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Voyage	木村啓子他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 定期試験 40% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 30%			
学生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 3
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	関 初海
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1, 2 の予習
	2	Unit 1, 2	"It's the Titanic" "A Floating Palace" (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 3, 4 予習
	3	Unit 3, 4	Departure Iceberg (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 5, 6 予習
	4	Unit 5, 6	Iceberg (2), (3) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 7, 8 予習
	5	Unit 7, 8	Lifeboat The Miracle of Philip Aks (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 9, 10 予習
	6	Unit 9, 10	The Miracle of Philip Aks (2), (3) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 11, 12 予習
	7	Unit 11, 12	Mr. Smith's "White Lie" Together until the End of Their Lives (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 13, 14 予習
	8	Unit 13, 14	Together until the End of Their Lives (2) The Californian (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 15, 16 予習
	9	Unit 15, 16	The Carpathia Radio Officers (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 17 予習
	10	Unit 17	Firemen (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 18 予習
	11	Unit 18	Eight Courageous Musicians (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 19 予習
	12	Unit 19	Eight Courageous Musicians (2) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 20 予習
	13	Unit 20	Only 705 Survivors (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 21 予習
	14	Unit 21	If Only... (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習
	15	まとめ	総まとめ	総復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Voyage	木村啓子他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 定期試験 40% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 30%			
学生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 4
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	李 孝聖
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入。コース全体の組み立て。授業の進め方。成績のつけ方。出席・欠席への注意など。	どうしてこのコースを選択したか。キャリアデザインとの関係。英語はどう役立つか。	Chapter I: Money: The Basics の Chapter I: Money: The Basics を読んでくる。
	2	お金の機能について	I-1 Money has three functions.	Chapter I: Money: The Basics の When you borrow money, you have to pay interest. を読んでくる。
	3	お金を借りたら利息がつく。	When you borrow money, you have to pay interest.	Chapter I: Money: The Basics の What happens to money you deposit in a bank? を読んでくる。
	4	銀行に預けたお金はどうなるのか。	What happens to money you deposit in a bank?	Chapter I: Money: The Basics の Banks aren't the only financial institutions.
	5	銀行が唯一の金融機関ではない。	Banks aren't the only financial institutions.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Prices are set according to the principle of supply and demand. を読んでくる。
	6	価格は需要と供給によって決まる。	Prices are set according to the principle of supply and demand.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Foreign trade is a two-way street. を読んでくる。
	7	海外貿易は二方向。	Foreign trade is a two-way street.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Exchange rates also vary according to supply and demand. を読んでくる。
	8	為替レートも需要と供給。	Exchange rates also vary according to supply and demand.	Chapter II: The Value of Money Constantly Changes の Currencies continuously strengthen and weaken against one another. を読んでくる。
	9	通貨の強弱。	Currencies continuously strengthen and weaken against one another.	Chapter III: How Companies Work の Joint-stock companies: how they came about を読んでくる。
	10	株式会社はどう生まれたか。	Joint-stock companies: how they came about?	Chapter III: How Companies Work の Companies share their profits among their shareholders. を読んでくる。
	11	企業は株主と利益を分配する。	Companies share their profits among their shareholders.	Chapter III: How Companies Work の Trading in Stocks has become a full-fledged market. を読んでくる。
	12	株式の取引は本物の市場になった。	Trading in Stocks has become a full-fledged market.	Chapter III: How Companies Work の E-trading has changed the nature of stock trading dramatically. を読んでくる。
	13	E-trading は株式の取引を根本的に変えた。	E-trading has changed the nature of stock trading dramatically.	Chapter III: How Companies Work の A company doesn't belong only to its shareholders. を読んでくる。
	14	企業は株主のものだけではない。	A company doesn't belong only to its shareholders.	これまでのまとめ。
	15	総復習。	これまでのまとめ。	期末テストへの注意と解説。

関連科目	他の英語関係科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	All About Money and the Economy	池上 彰	朝日出版社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	評価は以下の通りです。 全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 課題レポート 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 60%
-----------	--

<p>学生への メッセージ</p>	<p>出席と予習を含む宿題を重視。 授業態度を重んじるので受講生はきちんと授業に参加してください。</p> <p>【事前事後学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均1時間は学習してください。 ・授業の13回目までに、単語番号201～400までを最低一巡は終わるようにしてください。 <p>【授業中の注意点について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辞書を必ず持参してください。
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>7号館2階非常勤講師室</p>
<p>備考</p>	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E5
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	井原 駿
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1 の予習
	2	Unit 1 Family	Usage Patterns: Responding Positively and Negatively (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次 Unit 予習
	3	Unit 2 Friends	Usage Patterns: Expressing Frequency (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次 Unit 予習
	4	Unit 3 Culture	Usage Patterns: Talking about what should and shouldn't be done (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次 Unit 予習
	5	Unit 4 Education	Usage Patterns: Expressing opinions and making surprising statements (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次 Unit 予習
	6	Unit 5 Sports	Usage Patterns: Expressing honesty and hope (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次 Unit 予習
	7	Unit 6 Work	Usage Patterns: Talking about past, present, and future situations (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次 Unit 予習 中間テスト準備
	8	中間テスト	中間テスト	復習・次 Unit 予習
	9	Unit 7 Food	中間テストのフィードバック Usage Patterns: Talking about chances and conditions (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次 Unit 予習
	10	Unit 8 Studying English	Usage Patterns: Talking about problems and goals (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次 Unit 予習
	11	Unit 9 Health	Usage Patterns: Taking a sick day and expressing sympathy (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次 Unit 予習
	12	Unit 10 Clothes	Usage Patterns: Giving reasons and conditions (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次 Unit 予習
	13	Unit 11 Traveling	Usage Patterns: Talking about frequency (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次 Unit 予習
	14	Unit 12 Music	Usage Patterns: Exaggerating what we like and dislike (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・まとめテスト準備
	15	まとめ	まとめテストとフィードバック	総復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Listening and Speaking Patterns 2 『パターン』で学ぶ英語コミュニケーション2	Andrew E. Bennett 著	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。 授業曜日以外の質問はメールで受け付ける。詳細は第1回目授業時に指示する。 email: iharashun0@gmail.com			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 6
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	個人/ペア/グループワーク	自由作文: 自己紹介
	2	Unit 1 Let's get started! 初対面の挨拶	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 1
	3	Unit 2 On the job 職業に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 2 自由作文: 語の定義
	4	Unit 3 My daily life 日常生活に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 3
	5	Unit 4 My life story 過去の出来事に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 4 自由作文: 語の定義
	6	Unit 5 Getting around いま起こっていることに関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 5
	7	Unit 6 What a good story! 場所・方角に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 6 自由作文: 語の定義
	8	Unit 7 Seeing the world 将来の計画に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 7
	9	Unit 8 What's she like? 容姿・性格・嗜好に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 8 自由作文: 語の定義
	10	Unit 9 Out and about 比較に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 9
	11	Unit 10 Chores and bores 日々の作業に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 10 自由作文: 語の定義
	12	Unit 11 What's on TV? 興味に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 11
	13	Unit 12 All about money おカネに関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 12 自由作文: 語の定義
	14	Unit 13 What's for dinner? 食べ物に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 13
	15	総復習・実力チェック	個人/ペア/グループワーク	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Network 2 Student Book with Online Practice	Tom Hutchinson; Kristin Sherman	Oxford University Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	<p>皆さんには、在学中にひとりで外国を旅していただくことを勧めます。旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。</p> <p>若者の旅行者が集まる宿舎が、どこの国にもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。インド英語、中国英語、ヒスパニック英語… いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。</p> <p>海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません。</p>
-----------	---

	<p>時間と体力と柔軟な心のある学生時代こそ、旅をする絶好のチャンスです。 お金もそんなに要りません。アルバイトで十分貯められます。 自分の英語が通じるか心配？ 大丈夫、なんとかなります。この授業をぜひ役立ててください。</p>
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス、自己紹介 ・簡単な小テスト	・授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明 ・Chapter 1-1 文法解説など	exercise の予習、本文の下読み
	2	1-1 Let's Enjoy Fukuoka 1-2 動詞の種類と文型	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	3	2-1 Let's Enjoy Niigata 2-2 文の種類	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	4	3-1 Let's Enjoy Shimane 3-2 動詞 (時制)	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	5	4-1 Let's Enjoy Iwate 4-2 助動詞	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	6	5-1 Let's Enjoy Kagoshima 5-2 名詞と冠詞・数詞	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	7	6-1 Let's Enjoy Kochi 6-2 代名詞・It の特別用法	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	中間復習テストの事前勉強
	8	中間復習テスト	前半の既習内容の確認テスト	exercise の予習、本文の下読み
	9	7-1 Let's Enjoy Osaka 7-2 接続詞	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	10	8-1 Let's Enjoy Miyazaki 8-2 前置詞	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	11	9-1 Let's Enjoy Saga 9-2 能動態と受動態	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	12	10-1 Let's Enjoy Tokyo 10-2 形容詞・副詞	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	13	11-1 Let's Enjoy Hiroshima 11-2 比較	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	14	12-1 Let's Enjoy Miyagi 12-2 不定詞	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	最終復習テストの事前勉強
	15	最終復習テスト 総括 (まとめ)	・後半の既習内容の確認テスト ・振り返りとまとめ	要点整理

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Enjoyable Tourist Brochure for English Writing	佐藤哲三・他 6 名	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%

学生へのメッセージ	日本各地の名所・旧跡を辿りながら、語彙と文法、英作文の基礎力を付けていくテキストです。電子辞書や紙の辞書で頻繁に辞書を引き予習に時間をかけましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。



科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	関 初海
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1,2の予習
	2	Unit 1,2	"It's the Titanic" "A Floating Palace" (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 3,4 予習
	3	Unit 3,4	Departure Iceberg (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 5,6 予習
	4	Unit 5,6	Iceberg (2), (3) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 7,8 予習
	5	Unit 7,8	Lifeboat The Miracle of Philip Aks (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 9,10 予習
	6	Unit 9,10	The Miracle of Philip Aks (2), (3) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 11,12 予習
	7	Unit 11,12	Mr. Smith's "White Lie" Together until the End of Their Lives (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 13,14 予習
	8	Unit 13,14	Together until the End of Their Lives (2) The Californian (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 15,16 予習
	9	Unit 15,16	The Carpathia Radio Officers (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 17 予習
	10	Unit 17	Firemen (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 18 予習
	11	Unit 18	Eight Courageous Musicians (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 19 予習
	12	Unit 19	Eight Courageous Musicians (2) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 20 予習
	13	Unit 20	Only 705 Survivors (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 21 予習
	14	Unit 21	If Only... (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習
	15	まとめ	総まとめ	総復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Voyage	木村啓子他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 定期試験 40% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 30%			
学生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど</td> <td>授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明</td> <td>教科書の予習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>空港で放送される文章を通して接続詞の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>レストランで使われる文章を通して形容詞の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>野球についての文章を通して比較級の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間試験</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>旅行案内についての文章を通して受動態の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>問題解決についての文章を通して受動態の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>体調不良についての文章を通して分詞の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>電話の会話についての文章を通して動名詞の学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>9-14回の復習とまとめ</td> <td>読解、文法、リスニング演習問題形式を通して</td> <td>期末試験の準備</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記	2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	15	9-14回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記																																																																
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記																																																																
15	9-14回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備																																																																
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Forerunner to Power-up English</td> <td>JACET リスニング研究会</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Forerunner to Power-up English	JACET リスニング研究会	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Forerunner to Power-up English	JACET リスニング研究会	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<table border="1"> <tr> <td>全学共通英語課題 A</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>全学共通英語課題 B</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)</td> <td>70%</td> </tr> </table>			全学共通英語課題 A	20%	全学共通英語課題 B	10%	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	70%																																																										
全学共通英語課題 A	20%																																																																		
全学共通英語課題 B	10%																																																																		
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	70%																																																																		
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E3
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	李 孝聖
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	後期にあたって、新たな気持ちで英語に取り組む姿勢を喚起する。	各レッスンの訳、要約。自発的で積極的な授業への取り組み方を考える。	Chapter III: The State of the Economy の The economy fluctuates in cycle. を読んでくる。 指定単語の学習
	2	経済は周期的に変動する。	The economy fluctuates in cycle.	Chapter III: The State of the Economy の There are two basic ways countries can stimulate their economics. を読んでくる。 指定単語の学習
	3	経済を活性化させる2方法。	There are two basic ways countries can stimulate their economics.	Chapter III: The State of the Economy の Sometimes an economy can become too robust. を読んでくる。 指定単語の学習
	4	経済はときには強すぎる。	Sometimes an economy can become too robust.	Chapter III: The State of the Economy の In extrem casus, the economy can grow like a bubble. を読んでくる。 指定単語の学習
	5	経済は泡のように膨らむ。	In extrem casus, the economy can grow like a bubble.	Chapter v: Economic Systems の There are two main economic systems in operation today. を読んでくる。 指定単語の学習
	6	今日の2つの経済システム。	There are two main economic systems in operation today.	これまでの復習。
	7	Review, Midterm Exam	復習、期間外試験1	Chapter v: Economic Systems の Socialism largely ended in failure. を読んでくる。 指定単語の学習
	8	社会主義の失敗。	Socialism largely ended in failure.	Chapter v: Economic Systems の Globalization has its good points and its bad. を読んでくる。 指定単語の学習
	9	グローバリゼーションの良い点と悪い点。	Globalization has its good points and its bad.	Chapter v: Economic Systems の Neo-liberalism is changing the way business done. を読んでくる。 指定単語の学習
	10	新自由主義はビジネスを変える。	Neo-liberalism is changing the way business done.	Chapter v: Economic Systems の Economic policies can serve to protect the natural environment. を読んでくる。 指定単語の学習
	11	経済政策は自然環境の保護に役立つ。	Economic policies can serve to protect the natural environment.	プリントを用意する。 指定単語の学習
	12	食物アレルギー	Food allergies	Food allergies を読んでくる。 指定単語の学習
	13	食物アレルギー	Food allergies	プリントを用意する。 指定単語の学習
	14	青色発光ダイオード	Blue LED	Blue LED を読んでくる。 指定単語の学習
15	青色発光ダイオード	Blue LED	期末テストの注意と重点項目。	

関連科目	英語関連科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	All About Money and the Economy	池上 彰	朝日出版社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 50%、課題レポート 10%、共通英語課題A 20%、共通英語課題B 10% 授業態度 (授業中の発表) 10%の割合で評価する。
学生への メッセージ	<p>※授業態度に問題のある場合 (遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など) は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。</p> <p>英語を効果的にマスターしたい人は、少しずつでも必ず毎日英語に触れましょう。 週に一日だけ1時間勉強するよりも、毎日15分勉強するほうがはるかに効果が上がります。 英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。 授業以外にも、自分の興味ある分野の英文をどんどん読んでみましょう。 全員参加で活気ある授業を創り上げましょう。</p> <p>【事前事後学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に単語は e-learning 学習など、毎日、平均1時間は学習してください。 <p>【授業中の注意点について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辞書を必ず持参してください。
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E4
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	関 初海
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1,2の予習
	2	Unit 1,2	"It's the Titanic" "A Floating Palace" (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 3,4 予習
	3	Unit 3,4	Departure Iceberg (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 5,6 予習
	4	Unit 5,6	Iceberg (2), (3) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 7,8 予習
	5	Unit 7,8	Lifeboat The Miracle of Philip Aks (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 9,10 予習
	6	Unit 9,10	The Miracle of Philip Aks (2), (3) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 11,12 予習
	7	Unit 11,12	Mr. Smith's "White Lie" Together until the End of Their Lives (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 13,14 予習
	8	Unit 13,14	Together until the End of Their Lives (2) The Californian (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 15,16 予習
	9	Unit 15,16	The Carpathia Radio Officers (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 17 予習
	10	Unit 17	Firemen (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 18 予習
	11	Unit 18	Eight Courageous Musicians (1) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 19 予習
	12	Unit 19	Eight Courageous Musicians (2) (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 20 予習
	13	Unit 20	Only 705 Survivors (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・Unit 21 予習
	14	Unit 21	If Only... (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習
	15	まとめ	総まとめ	総復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Voyage	木村啓子他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 定期試験 40% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 30%			
学生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E5
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	個人/ペア/グループワーク	自由作文: 自己紹介
	2	Unit 1 Let's get started! 初対面の挨拶	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 1
	3	Unit 2 On the job 職業に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 2 自由作文: 語の定義
	4	Unit 3 My daily life 日常生活に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 3
	5	Unit 4 My life story 過去の出来事に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 4 自由作文: 語の定義
	6	Unit 5 Getting around いま起こっていることに関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 5
	7	Unit 6 What a good story! 場所・方角に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 6 自由作文: 語の定義
	8	Unit 7 Seeing the world 将来の計画に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 7
	9	Unit 8 What's she like? 容姿・性格・嗜好に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 8 自由作文: 語の定義
	10	Unit 9 Out and about 比較に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 9
	11	Unit 10 Chores and bores 日々の作業に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 10 自由作文: 語の定義
	12	Unit 11 What's on TV? 興味に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 11
	13	Unit 12 All about money おカネに関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 12 自由作文: 語の定義
	14	Unit 13 What's for dinner? 食べ物に関する表現	小テスト 個人/ペア/グループワーク	読解: Unit 13
		15	総復習・実力チェック	個人/ペア/グループワーク

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Network 2 Student Book with Online Practice	Tom Hutchinson; Kristin Sherman	Oxford University Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20%
	全学共通英語課題 B 10%
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%

学生へのメッセージ

皆さんには、在学中にひとりで外国を旅していただくことを勧めます。旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。

若者の旅行者が集まる宿舎が、どこの国にもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。インド英語、中国英語、ヒスパニック英語… いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。

海外一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなるでしょう。帰国する頃には、ひとまわり大きくなった自分に気づくかもしれません。

	<p>時間と体力と柔軟な心のある学生時代こそ、旅をする絶好のチャンスです。 お金もそんなに要りません。アルバイトで十分貯められます。 自分の英語が通じるか心配？ 大丈夫、なんとかなります。この授業をぜひ役立ててください。</p>
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E6
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	井原 駿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1の予習
	2	Unit 1 Family	Usage Patterns: Responding Positively and Negatively (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit 予習
	3	Unit 2 Friends	Usage Patterns: Expressing Frequency (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit 予習
	4	Unit 3 Culture	Usage Patterns: Talking about what should and shouldn't be done (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit 予習
	5	Unit 4 Education	Usage Patterns: Expressing opinions and making surprising statements (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit 予習
	6	Unit 5 Sports	Usage Patterns: Expressing honesty and hope (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit 予習
	7	Unit 6 Work	Usage Patterns: Talking about past, present, and future situations (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit 予習 中間テスト準備
	8	中間テスト	中間テスト	復習・次Unit 予習
	9	Unit 7 Food	中間テストのフィードバック Usage Patterns: Talking about chances and conditions (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit 予習
	10	Unit 8 Studying English	Usage Patterns: Talking about problems and goals (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit 予習
	11	Unit 9 Health	Usage Patterns: Taking a sick day and expressing sympathy (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit 予習
	12	Unit 10 Clothes	Usage Patterns: Giving reasons and conditions (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit 予習
	13	Unit 11 Traveling	Usage Patterns: Talking about frequency (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・次Unit 予習
	14	Unit 12 Music	Usage Patterns: Exaggerating what we like and dislike (文法理解とリーディング、ライティングとスピーキング)	復習・まとめテスト準備
	15	まとめ	まとめテストとフィードバック	総復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Listening and Speaking Patterns 2 『パターン』で学ぶ英語コミュニケーション2	Andrew E. Bennett 著	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%			
学生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。 授業曜日以外の質問はメールで受け付ける。詳細は第1回目授業時に指示する。 email: iharashun0@gmail.com			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語 II	科目名 (英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、自己紹介	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明 Chapter 1 文法解説など	exercise の予習、本文の下読み
	2	1 5つの基本文型	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	3	2 動詞 3 進行形・未来形・助動詞	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	4	5 前置詞・接続詞 I	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	5	6 形容詞・副詞と比較級	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	6	7 命令文・感嘆文	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	7	8 不定詞	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	中間テスト事前勉強
	8	中間テスト	前半の既習内容確認テスト	exercise の予習、本文の下読み
	9	9 動名詞と分詞	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	10	10 各種疑問文・It の特別用法	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	11	11 受動態	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	12	12 完了形	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	13	13 接続詞 II (自制の一致を含む)	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	exercise の予習、本文の下読み
	14	14 仮定法	・exercises (語彙・作文など) の解答解説 ・本文読解と Q&A	復習 (期末) テストの事前勉強
15	復習 (期末) テスト 総括 (まとめ)	後半の既習内容確認テスト	要点整理	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Elementary English --Reading & Writing	佐藤哲三・伊藤真紀	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
-----------	---

学生へのメッセージ	紙の辞書や電子辞書を頻繁に引く癖を付けましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅲ	科目名(英文)	English III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	本講座は、1年次で学んだ語彙、文法を基に英語力の更なる向上を目指し、総合的な運用能力を高めることを目的とする。異文化間のコミュニケーションは、英語コミュニケーション能力だけにあるのではない。トピックは日米比較で、身の周りにあるものを取り上げ、それらの題材を通して英語力を高めると同時に、日米の差異・共通性の理解を深める。
到達目標	英検2級以上、TOEIC550点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’(授業への前向きな参加)が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書(できれば、紙の英和辞典)は必ず持ってくること。
科目学習の効果(資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検2級以上、TOEIC550点以上は必ず取れるはずだ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 Lesson 1の導入 Physical Education	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	Lesson 1の予習
	2	Lesson 1 Physical Education	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	3	Lesson 2 Sports Clubs	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	4	Lesson 2 Sports Clubs	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	5	Lesson 3 Cultural Differences	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	6	Lesson 4 Haircuts	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	7	Lesson 5 Music	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	8	Lesson 6 Money	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	9	Lesson 7 Safety	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	10	Lesson 8 Life Expectancy	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	11	Lesson 9 The Metric System	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	12	Lesson 10 Police	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	13	Lesson 11 Seasons	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	14	Lesson 12 TV Sports	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
15	Lesson 1 ~ Lesson 12 Physical Education ~ TV Sports	既習範囲の総復習 定期試験(前期末)の準備	定期試験(前期末)の準備	

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Eye on America and Japan	G. Truscott 他	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3	英和辞典・和英辞典		

評価方法(基準)	定期試験 60% 小テスト(Quiz) 20% 課題レポート(只管筆写、英語多読) 20% 原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。
----------	---

学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし)にあるように英語学習に王道(easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさないと、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ)を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語IV	科目名(英文)	English IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	本講座は、1年次で学んだ語彙、文法を基に英語力の更なる向上を目指し、総合的な運用能力を高めることを目的とする。異文化間のコミュニケーションは、英語コミュニケーション能力だけにあるのではない。トピックは日米比較で、身の周りにあるものを取り上げ、それらの題材を通して英語力を高めると同時に、日米の差異・共通性の理解を深める。
到達目標	英検2級以上、TOEIC550点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’（授業への前向きな参加）が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書（できれば、紙の英和辞典）は必ず持ってくること。
科目学習の効果（資格）	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検2級以上、TOEIC550点以上は必ず取れるはずだ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 Lesson 13の導入 Business	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	Lesson 13の予習
	2	Lesson 13 Business	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	3	Lesson 14 Jobs	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	4	Lesson 14 Jobs	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	5	Lesson 15 NHK vs. PBS	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	6	Lesson 16 Marriage Ceremonies	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	7	Lesson 17 American Culture	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	8	Lesson 18 International Marriage	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	9	Lesson 19 Apartments	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	10	Lesson 20 Technology	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	11	Lesson 21 School Rules	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	12	Lesson 22 Drinking	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	13	Lesson 23 Entertaining	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	14	Lesson 24 Choice	内容把握、語彙・発音、練習問題	既習範囲の復習及び予習
	15	Lesson 13 ~ Lesson 24 Business ~ Choice	既習範囲の総復習 定期試験（後期末）の準備	定期試験（後期末）の準備

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Eye on America and Japan	G. Truscott 他	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3	英和辞典・和英辞典		

評価方法（基準）	. 定期試験 60% 小テスト(Quiz) 20% 課題レポート(只管筆写、英語多読) 20% 原則、出席率80%以上の学生を成績評価の対象とする。
----------	---

学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし)にあるように英語学習に王道(easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ)を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。諦めずに頑張ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	この授業では初めて韓国語を学ぶ人を対象とし、まずは文字やその読み方から始めていく。読み書きを反復練習することを通じて文字や読み方が定着した後は、発音ルールを学び、単語、文章なども読めるように練習する。その後は基礎的な文法の能力も養っていく。
到達目標	韓国語の文字、発音と基礎的な文法事項を習得する
授業方法と留意点	初めて習う文字を定着させるために反復練習を実施する。最初は毎回授業の始めに小テスト形式で既習事項を確認する作業を予定しており、文字定着まではある程度の復習を必要とする。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	韓国語を通して、韓国の社会や文化への理解を深める。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	ハングル文字について	基本母音	テキスト 2 課
3	ハングル文字について	基本母音の確認テスト、子音 (平音)	テキスト 3 課
4	ハングル文字について	基本母音、子音 (平音) の確認テスト、子音 (濃音、激音)	テキスト 3 課
5	ハングル文字について	基本母音、子音 (平音、激音、濃音) の確認テスト、複合母音	テキスト 4 課
6	ハングル文字について	反切表	反切表
7	ハングル文字について	文字のまとめと復習	プリント配布
8	まとめ	前半のまとめ、小テスト	プリント配布
9	パッチム	パッチムの種類と発音	テキスト 5 課
10	発音ルール	有声音化、連音化、鼻音化	テキスト 6 課
11	発音ルール	h 音の発音ルール	テキスト 6 課
12	基本のあいさつ	あいさつ文	テキスト 7 課
13	自己紹介文	ある程度まとまった文の読み書き	プリント配布
14	前期のまとめ	後半のまとめ、及び前期の内容についての総合的な復習。確認のテスト	プリントの配布
15	韓国ドラマの鑑賞	韓国ドラマの鑑賞、簡単なセリフの理解	プリント配布

関連科目	韓国語初級
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2			
3			

評価方法 (基準)	授業参加状況、講義時の対応、小テストの成績などを総合的に評価する。授業中に多くの小テストがあるため、その得点率を重視する。定期試験は行わず、授業中の態度、複数回の小テストといった平常点で評価する。出席回数が基準に満たない場合は不合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	きちんと努力して学べば、これまで全く知らなかった言語を読めるようになります。隣国であり近年特に文化的にも交流のある韓国について言語を通して学んでいきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	必要事項は授業中に指示する。授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。
----	--

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	不慣れな姿のハングルを知り韓国語を学ぶことで、日本語と韓国語のもつ類似点、そして同じ漢字文化圏なので、様々な言葉や表現の共通点を発見することが出来る。隣の国、韓国を真の意味で近い国として実感し、韓国の歴史や文化に興味を深めることと、両国がより近い関係に回復できるきっかけとなつてほしいと望みます。外国語である日本語を習得する過程から得られた私の経験を踏まえ、初めて韓国語を学習する人でも楽しくやさしく学ぶことが出来るように心掛けます。
到達目標	1. 韓国語の文字であるハングルの読み、書きが出来るようになる。 2. ハングルで自分の名前を覚える。 3. 簡単な挨拶や自己紹介が出来るようになる。
授業方法と留意点	教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CDも活用しながら、k-pop や韓国映画、ドラマも紹介する。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ハングル文字について	基本母音字	テキスト P. 16-19
3	ハングル文字について	基本子音字	テキスト. 20-27
4	ハングル文字について	複合母音字	テキスト p. 28-32
5	ハングル文字について	激音、濃音について。 自分の名前と家族や友達の名 3 をハングルで書いてみる	テキスト p. 30-39
6	ハングル文字について	パッチムについて。	テキスト p. 40-47
7	ハングル文字総合まとめ	ハングルの覚える際に使っていた単語を覚える。 韓国で使われている外来語を読んで、意味を予測してみたり、日本語との発音の違い調べてみる。	テキスト p. 16-47
8	ハングル文字総合まとめ	中間単語テスト	中間単語テスト勉強
9	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	「カンナさん大成功です！」	映画の中から聞き取れた韓国語を5つ以上ノートに書く。
10	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	「カンナさん大成功です！」	映画の中から聞き取れた韓国語を5つ以上ノートに書く。
11	基本的な助詞をまなぶ。	文字を勉強する際に覚えた単語を使って、短い作文をしながら、助詞を勉強する。	宿題；各助詞を使った作文を書いて次回の授業時間に提出する。
12	第6課 こんにちは。	基本的な挨拶と簡単な自己紹介。	テキスト P. 52-54
13	第6課 こんにちは。	職業は何ですか？ 用言の終止形	テキスト p. 55-59
14	前期総合まとめ	ハングル文字の復習 前期授業の中で出てきた単語全てを整理して覚える。 前期定期試験の準備	テキスト p. 16-59
15	まとめ	前期定期試験	前期定期試験に備えての勉強

関連科目	韓国語基礎会話
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	美しい韓国語 1-1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業参加状況、講義時の対応、小テスト 50% 総合試験 50%
-----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	楽しく韓国語を習いましょう。積み重ねが大切ですので遅刻・欠席しないでください。安価で韓国へ渡航して、授業で学んだ韓国語を直接体験したり、確認したりすれば、大学生活の最高の思い出になるでしょう！
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	simmh71@yahoo.co.jp
----	---------------------

科目名	韓国語Ⅱ	科目名(英文)	Korean II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	本授業では前期に学んだ文字や読み方などを基礎として、まずは自己紹介などができるように日常会話に必要な基本的な文法事項を習得していく。基本的な文法事項の習得とそれを使った作文練習などが主になる。
到達目標	韓国語の基礎的な文法を習得しつつ、初歩的な言語能力を育成する。
授業方法と留意点	知識を毎回積み重ねていながら、最終的により幅広い表現を韓国語で言えるように練習していく。できれば欠席しないことが望ましい。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	韓国語だけではなく、韓国の社会や文化への理解を深める

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習1	文字の復習	プリントを配布
	2	前期の復習2	パッチム、発音ルールの復習	プリントを配布
	3	数詞	漢数詞と固有数詞	プリントを配布(テキスト 文法9課、10課)
	4	私は～です	数詞の確認の小テスト、体言文(平叙文)	テキスト 文法1課
	5	～ですか?	体言文(疑問文)	テキスト 文法2課
	6	～ではありません	体言文(否定文)	テキスト 文法3課
	7	まとめ	前半のまとめ、小テスト	プリント配布
	8	用言文のです・ます形	公的で固い表現のです・ます形	プリント配布
	9	あります・ありません	存在を表す用言文	テキスト 文法4課
	10	～をします	動詞「する」のです・ます形	テキスト 文法5課
	11	用言のです・ます形を使った作文	さまざまな用言のです・ます形	テキスト文法7課
	12	用言のです・ます形	日常使いのやわらかい表現のです・ます形(1)	テキスト 文法6課
	13	用言のです・ます形	日常使いのやわらかい表現のです・ます形(2)	テキスト 文法8課
	14	後半のまとめ	後半のまとめ、授業全体の総復習と小テスト	プリントを配布
	15	前期・後期のまとめ	韓国ドラマの鑑賞、簡単なセリフの理解	プリントを配布

関連科目	韓国語初級
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業参加状況、講義時の対応、小テストの成績などを総合的に評価する。授業中の小テストが複数あるため、定期試験は行わず小テストの得点率を重視する。授業態度、小テストといった授業内での平常点で総合的に判断する。出席回数が基準に満たない場合は不合格とする。
----------	--

学生へのメッセージ	基本的な文法事項を習得していき、その知識を使って基本的な会話や、簡単な作文などもできるように、頑張ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	必要事項は授業中に指示する。授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。
----	--

科目名	韓国語Ⅱ	科目名(英文)	Korean II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	<p>ハングル入門Ⅰを終了した程度の実力を持つ人を対象とします。ハングルの読み、書きが出来る能力を身につけたうえ、特に現代韓国社会で広く使われている表現や慣用句を、現代の韓流文化を交えて基本的な日常会話を導入し、即席で応用を広げ、ネイティブ講師ならではの長所を生かす実用的な韓国語の習得を心がけます。</p> <p>一年間を通して基本的な韓国語を読んで、聞いて、話せるようになり、ハングル入門Ⅰ・Ⅱを履修後もさらに韓国語を続けたいという意欲を掻き立てることが出来ればと思います。</p>
到達目標	<p>1. 韓国語の初級文法を理解し、旅行に役立つ程度の会話が出来るようになる。</p> <p>2. 200文字以上の自己紹介の作文が出来るようになる。</p>
授業方法と留意点	<p>教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CDも活用しながら、k-popや韓国映画、ドラマも紹介する。</p> <p>学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第7課 はじめまして。	国の名前、言語について学び、読み書きが出来るようにする。	テキスト p. 63、プリント
2	第7課 はじめまして。	どの国の人ですか？ 一ではありません。 助詞 一は、一がについて練習。	テキスト p. 62-64
3	第7課 はじめまして。	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト。 初対面の人に挨拶と自己紹介する。 人を紹介する時の言い方を学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 65-68
4	第8課 これは何ですか？	第7課の単語テスト。 これ、それ、あれの指示代名詞について学ぶ。 疑問詞を勉強する。 家族構成員について学ぶ。	第7課で勉強した単語を覚える テキスト p. 70-72 次回の授業中会話練習用の、日常で使う頻度の高い物を用意して来る。
5	第8課 これは何ですか？	p.72家族構成員の単語小テスト。 日常で使う頻度の高い物を用意し、これは何ですか？の会話を練習する。 所有格助詞-のについて学ぶ。	単語の小テスト勉強 テキスト p. 73-77
6	第8課 これは何ですか？ 第9課 週末に何をしますか？	テキストp. 79の作文 「私の家族」を勉強し、テキストの内容を参考に「自分の家族」について韓国語で作文をし、提出する。	テキスト p. 79
7	第9課 週末に何をしますか？	第8課の単語テスト 動詞、形容詞の終止形を勉強する。 助詞-を、-にを使って作文をする。 日常でよく使う動詞20個を覚え、その終止形の活用について学ぶ。 “-と一緒に”という言い方を練習する。	第8課(p.70~79)単語を覚えてくる。 テキスト p. 82 動詞の活用の練習プリント
8	第9課 週末に何をしますか？	前回の授業で新しく学んだ単語の小テスト	動詞の活用の練習プリント
9	第9課 週末に何をしますか？	助詞-を、-にを使って作文をする。 “-と一緒に”という言い方を練習する。	p.83~87
10	第9課 週末に何をしますか？	いつ、どこで、誰と、何を、します。について多数の例文を用いて練習をし、作文をする。	テキスト p. 88-95
11	第10課 ここはどこですか？どこに何がありますか？	第9課の単語テスト 漢数字について学び、漢数字を用いて数える単位を付けて練習する。 5桁の数字が言えるようになる。	第8課単語テスト勉強 テキスト p. 94-95
12	第10課 ここはどこですか？どこに何がありますか？	前回の授業で新しく学んだ5桁の数字の小テスト。 位置関係の言葉を勉強し、練習	単語の小テスト勉強 テキスト p. 95-97
13	第10課 ここはどこですか？どこに何がありますか？	位置関係の言葉の小テスト 位置関係の言葉を用いて作文 「自己紹介」200文字作文して提出	位置関係の言葉を覚えてくる。 p.98~101
14	第11課 電話番号は何番ですか？ 後期総合まとめ	助詞-は、-も、-のみの使い方を練習する。 後期授業の内容整理し、復習をする。 後期定期試験の対策。	テキスト p. 104-111
15	まとめ	後期定期試験	後期定期試験の勉強

関連科目	韓国語基礎会話			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	美しい韓国語 1-1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加状況、講義時の対応、小テスト 50% 総合試験 50%			
学生への メッセージ	楽しく韓国語を学びましょう。語学がまじめに積み重ねる他方法がありませんので、遅刻・欠席しない用に頑張りましょう。 韓国旅行や韓国のテレビ番組などを通して、授業で学んだ韓国語が役立つという実感があれば、もしくは将来的に就職活動にまで生かすことが出来れば、最高でしょう！			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	simmh71@yahoo.co.jp			

科目名	韓国語Ⅲ	科目名(英文)	Korean III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	李 知垠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	韓国語Ⅰ・Ⅱで習得した基礎的能力をベースに、これらの内容を実践的な会話で運用できるよう、総合的学習(読み・書き・話し・聞き)を行います。 授業内容は学習理解度・習得度により変更可能です。
到達目標	日常生活における様々な場面において、基本的なコミュニケーションが取れるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業形式は、教科書を中心に文法練習プリントを配り、ペア・グループ活動で会話練習を行う。 授業内容により、ゲーム・歌・ドラマを取り入れる。 ペア・グループ活動に積極的に参加し、事前に文法の復習と語彙を予習することが望まれる。 学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	韓国語を通じて韓国文化を理解し、日本文化との比較ができる。 韓国語能力試験(TOPIK)1級、ハングル検定4・5級を目指すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	基礎の復習	現在形、過去形、存在形 (-?/??, -?/???, -?/???)	文法項目の復習
2	1課 ‘明日、旅行にいくつもりです。’	文法 ①未来形-?/??? ②可能形-?/???/???	教科書1課 文法の復習、 単語の予習
3	1課 ‘明日、旅行にいくつもりです。’	文法 ③形容詞 対話	教科書1課 文法の復習、 単語の予習
4	1課 ‘明日、旅行にいくつもりです。’	読解・聴解・作文	教科書1課 文法の復習、 単語の予習
5	2課 ‘この服を着てみてください。’	文法 ①形容詞の連体形 ?(?)? ②否定 -?/??	教科書2課 文法の復習 単語の予習
6	2課 ‘この服を着てみてください。’	文法 ③勧誘 ??/? ??? 対話	教科書2課 文法の復習 単語の予習
7	2課 ‘この服を着てみてください。’	読解・聴解・作文	教科書2課 文法の復習 単語の予習
8	3課 ‘最近、どのように過ごされますか。’	文法 ①尊敬語の現在形 -(?)?? ②尊敬語の過去形 -(?)???	教科書3課 文法の復習 単語の予習
9	3課 ‘最近、どのように過ごされますか。’	対話・読解	教科書3課 文法の復習 単語の予習
10	3課 ‘最近、どのように過ごされますか。’	聴解・作文	教科書3課 文法の復習 単語の予習
11	4課 ‘水泳ができます。’	文法 ①やり方・方法の可能・不可能形 -?/???/??? ②義務表現 -?/???/??	教科書4課 文法の復習 単語の予習
12	4課 ‘水泳ができます。’	文法 ③選択表現 -?? 対話	教科書4課 文法の復習 単語の予習
13	4課 ‘水泳ができます。’	読解・聴解・作文	教科書4課 文法の復習 単語の予習
14	総合確認	習得内容のまとめ	文法・単語の復習
15	韓国文化	視聴覚授業	

関連科目	韓国語関連科目
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New 西河韓国語 1B	西河大学校 韓国語教育院	西河大学校 国際文化教育院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
2				

評価方法(基準)	平常点(授業態度・協同力)30%、提出物20%、小テスト50%で評価
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	授業で学んだ内容を生かし、ネイティブとの会話や韓国旅行で使ってみましょう。 韓国語を通じて異文化を体験し、世界を見る視野を広げることが、成長した自分に出会えるきっかけになると思います。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	hangeul.nara1443@gmail.com
----	----------------------------

科目名	韓国語Ⅳ	科目名(英文)	Korean IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	李 知垠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修した人、及びそれに応じる文法能力ができる人を対象にします。 韓国語Ⅲに引き続き、学んだ内容を実践的に会話で運用できるよう、総合的学習(読み・書き・話し・聞き)を行います。 授業内容は学習理解度・習得度により変更可能です。
到達目標	日常生活における様々な場面において、韓国人と基本的なコミュニケーションが取れるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業形式は、教科書を中心に文法練習プリントを配り、ペア・グループ活動で会話練習を行う。 授業内容により、ゲーム・歌・ドラマを取り入れる。 ペア・グループ活動に積極的に参加し、事前に文法の復習と語彙を予習することが望まれる。 学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	韓国語を通じて韓国文化を理解し、日本文化との比較ができる。 韓国語能力試験(TOPIK)1級・ハングル検定4・5級を目指すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	5課 ‘一緒に映画をみましょうか’	文法 ③羅列接続(動詞)表現 -? 対話	教科書5課 文法の復習、 単語の予習
3	5課 ‘一緒に映画をみましょうか’	読解・作文	教科書5課 文法の復習、 単語の予習
4	5課 ‘一緒に映画をみましょうか’	聴解・作文	教科書5課 文法の復習、 単語の予習
5	6課 ‘具合が悪かったので、行けませんでした。’	文法 ①不可能表現 ? ②理由表現 -?/?/?	教科書6課 文法の復習、 単語の予習
6	6課 ‘具合が悪かったので、行けませんでした。’	文法 ③意図表現-(?)?? ?? 対話	教科書6課 文法の復習、 単語の予習
7	6課 ‘具合が悪かったので、行けませんでした。’	読解・作文	教科書6課 文法の復習、 単語の予習
8	6課 ‘具合が悪かったので、行けませんでした。’	聴解・作文	教科書6課 文法の復習、 単語の予習
9	7課 ‘韓国料理を食べてみました。’	文法 ①経験表現 -?/? ??? ②依頼表現-?/? ???	教科書7課 文法の復習 単語の予習
10	7課 ‘韓国料理を食べてみました。’	対話・読解	教科書7課 文法の復習 単語の予習
11	7課 ‘韓国料理を食べてみました。’	聴解・作文	教科書7課 文法の復習 単語の予習
12	8課 ‘会話授業が一番楽しかったです。’	文法 ①比較表現 -?? (?) ②最上級表現 ??	教科書8課 文法の復習 単語の予習
13	8課 ‘会話授業が一番楽しかったです。’	対話・読解	教科書8課 文法の復習 単語の予習
14	8課 ‘会話授業が一番楽しかったです。’	聴解・作文	教科書8課 文法の復習 単語の予習
15	総合復習	習得内容のまとめ	文法・単語の復習

関連科目	韓国語関連科目
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New 西河韓国語 1B	西河大学校 韓国語教育院	西河大学校 国際文化教育院
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

評価方法(基準)	平常点(授業態度・協同力)30%、提出物20%、小テスト50%で評価
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	授業で学んだ内容を生かし、ネイティブとの会話や韓国旅行で使ってみましょう。 韓国語を通じて異文化を体験し、世界を見る視野を広げることが、成長した自分に会えるきっかけになると思います。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	hangeul.nara1443@gmail.com
----	----------------------------

科目名	健康論	科目名(英文)	Health Care
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村 和恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△		

授業概要・目的	健康で充実した人生を歩むための知識を総合的に理解し、実践していくための健康理念を学ぶ。																																																																		
到達目標	(1) 日常生活を点検・改善 (2) 生活習慣病は自身がつくっているものと認識・見直し。 (3) 社会人として生きる知恵を実践していくための方法を学ぶ。																																																																		
授業方法と留意点	講義方式で授業を進める。なお、資料配布など、教育効果を上げる。																																																																		
科目学習の効果(資格)	この講義を受講することにより、健康な身体を取り戻すための第一歩を踏み出すことが出来る。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>健康に生きる</td> <td>点検</td> <td>健康度をチェックし把握しておく。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>気づき、学習、行動、評価</td> <td>ライフスタイルを検証</td> <td>各自で健康観をまとめておく</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>自然の摂理</td> <td>今と昔の比較</td> <td>資料記入</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>生活習慣の点検、受容、行動変容</td> <td>生活習慣の見直し</td> <td>資料記入</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>生活習慣病</td> <td>疾病の種類</td> <td>資料記入</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>食</td> <td>現代食、古代食</td> <td>書き出し</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>運動</td> <td>運動不足病</td> <td>現代病</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>休養</td> <td>昼夜逆転生活</td> <td>現代病</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>脳と健康</td> <td>脳の機能</td> <td>脳トレ実践</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>心と脳と神経</td> <td>心はどこ？</td> <td>脳のしくみ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>MC I</td> <td>認知症状</td> <td>プリント記入</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ストレスマネジメント</td> <td>現代社会病</td> <td>見直し作業</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>老化と健康、生涯健康</td> <td>老化現象、平均寿命</td> <td>生き方検証</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>デスエデュケーション</td> <td>歳のとり方</td> <td>休養スバ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>心身を考える、まとめ</td> <td>心と体と脳の関係</td> <td>小テスト・まとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	健康に生きる	点検	健康度をチェックし把握しておく。	2	気づき、学習、行動、評価	ライフスタイルを検証	各自で健康観をまとめておく	3	自然の摂理	今と昔の比較	資料記入	4	生活習慣の点検、受容、行動変容	生活習慣の見直し	資料記入	5	生活習慣病	疾病の種類	資料記入	6	食	現代食、古代食	書き出し	7	運動	運動不足病	現代病	8	休養	昼夜逆転生活	現代病	9	脳と健康	脳の機能	脳トレ実践	10	心と脳と神経	心はどこ？	脳のしくみ	11	MC I	認知症状	プリント記入	12	ストレスマネジメント	現代社会病	見直し作業	13	老化と健康、生涯健康	老化現象、平均寿命	生き方検証	14	デスエデュケーション	歳のとり方	休養スバ	15	心身を考える、まとめ	心と体と脳の関係	小テスト・まとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	健康に生きる	点検	健康度をチェックし把握しておく。																																																																
2	気づき、学習、行動、評価	ライフスタイルを検証	各自で健康観をまとめておく																																																																
3	自然の摂理	今と昔の比較	資料記入																																																																
4	生活習慣の点検、受容、行動変容	生活習慣の見直し	資料記入																																																																
5	生活習慣病	疾病の種類	資料記入																																																																
6	食	現代食、古代食	書き出し																																																																
7	運動	運動不足病	現代病																																																																
8	休養	昼夜逆転生活	現代病																																																																
9	脳と健康	脳の機能	脳トレ実践																																																																
10	心と脳と神経	心はどこ？	脳のしくみ																																																																
11	MC I	認知症状	プリント記入																																																																
12	ストレスマネジメント	現代社会病	見直し作業																																																																
13	老化と健康、生涯健康	老化現象、平均寿命	生き方検証																																																																
14	デスエデュケーション	歳のとり方	休養スバ																																																																
15	心身を考える、まとめ	心と体と脳の関係	小テスト・まとめ																																																																
関連科目	スポーツ科学実習 I・II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	小テスト及びレポート(60%)と授業態度(40%)の総合点で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	質問などがある場合は、総合体育館1階事務室へ来てください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館1階 体育館事務室																																																																		
備考	事前・事後学習に必要な時間については、60時間を目安とします。																																																																		

科目名	時事問題Ⅰ	科目名(英文)	Current IssuesⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	香取 泰行
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskenitei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(3級 2,500円、準2級 3,000円、2級 4,000円。変更の可能性あり)が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	9	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
	10	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受験する	検定に向けて学習する
	11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	14	「ニュース時事能力検定」の復習	受験した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目	時事問題Ⅱ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2018年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。
----	--

科目名	時事問題Ⅰ	科目名(英文)	Current IssuesⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 文子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskenitei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(3級 2,500円、準2級 3,000円、2級 4,000円。変更の可能性あり)が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	9	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
	10	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受験する	検定に向けて学習する
	11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	14	「ニュース時事能力検定」の復習	受験した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目	時事問題Ⅱ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2018年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。
----	--

科目名	時事問題Ⅰ	科目名(英文)	Current IssuesⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskenetei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(3級 2,500円、準2級 3,000円、2級 4,000円。変更の可能性あり)が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	9	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
	10	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受験する	検定に向けて学習する
	11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	14	「ニュース時事能力検定」の復習	受験した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目	時事問題Ⅱ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2018年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。
----	--

科目名	時事問題Ⅰ	科目名(英文)	Current IssuesⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早川 真悠
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskenetei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(3級 2,500円、準2級 3,000円、2級 4,000円。変更の可能性あり)が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	9	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
	10	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受験する	検定に向けて学習する
	11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	14	「ニュース時事能力検定」の復習	受験した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目	時事問題Ⅱ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2018年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。
----	--

科目名	時事問題Ⅱ	科目名(英文)	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	香取 泰行
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskenitei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(3級 2,500円、準2級 3,000円、2級 4,000円。変更の可能性あり)が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 準2級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	8	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
	9	「ニュース時事能力検定」受検	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
	10	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目	時事問題Ⅰ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2018年度版ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%
----------	---

学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)

備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。
----	--

科目名	時事問題Ⅱ	科目名(英文)	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 文子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskenetei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(3級 2,500円、準2級 3,000円、2級 4,000円。変更の可能性あり)が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 準2級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	8	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
	9	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
	10	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目	時事問題Ⅰ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2018年度版ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。
----	--

科目名	時事問題Ⅱ	科目名(英文)	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskenetei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(3級 2,500円、準2級 3,000円、2級 4,000円。変更の可能性あり)が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 準2級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	8	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
	9	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受験する	検定に向けて学習する
	10	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	14	「ニュース時事能力検定」の復習	受験した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目	時事問題Ⅰ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2018年度版ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%
----------	---

学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)

備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。
----	--

科目名	時事問題Ⅱ	科目名(英文)	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早川 真悠
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskenetei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 受験料(3級 2,500円、準2級 3,000円、2級 4,000円。変更の可能性あり)が必要となるので、留意のこと。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 準2級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	8	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
	9	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
	10	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	14	「ニュース時事能力検定」の復習	受検した検定の問題を復習する	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目	時事問題Ⅰ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2018年度版ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%
----------	---

学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)

備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。
----	--

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△		

授業概要・目的	Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じ、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能を知るとともに、コンピュータの持つ特性と有用性について理解し情報処理能力の養成をはかる。
到達目標	課題やレポート、卒業論文作成のために必要な情報活用能力の習得、および就活時にアピールできるコンピュータ利用に関する技能検定への足掛かりとする。
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。 課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。 授業時間内に課題を完成できない場合は次週までに提出することが求められる。 なお、出席率が 8 割に満たない場合は単位を認めないものとする。
科目学習の効果 (資格)	就活時にアピールできる IT 系の資格に挑戦するためにも役立つ講座である。 身近なものとしては MOS 等のマイクロソフト認定資格や IT パスポート等が挙げられる。 情報処理授業単位取得後、独学で MOS を取得した学生も多い。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明とガイダンス	――
2	コンピュータ基礎知識の確認	パーソナルコンピュータ基本知識の習得とレポート	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
3	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
4	情報の処理技術 (1)	文字情報処理の基礎 1 文書作成技術 書式設定 1	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
5	情報の処理技術 (2)	文字情報処理の基礎 2 文書作成技術 書式設定 2	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
6	情報の処理技術 (3)	文字情報処理の基礎 3 文書作成技術 表その他	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
7	情報の処理技術 (4)	文字情報処理の応用 1 文書作成技術 実用的ビジネス文書の作成技術	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
8	前半まとめと確認	復習と確認テスト	文書作成技法復習と技能修得度の確認
9	情報の蓄積と利用 (1)	表計算基礎 1 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理 基本処理の確認	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
10	情報の蓄積と利用 (2)	表計算基礎 2 関数利用技術	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
11	情報の蓄積と利用 (3)	表計算基礎 3 グラフ処理	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
12	情報の蓄積と利用 (4)	表計算応用 1 データベースとピボットテーブル活用 技術	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
13	情報の蓄積と利用 (5)	表計算応用 2 散布図および分析ツールと回帰分析基本	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
14	情報の蓄積と連携	レポート活用の為のアプリケーション ソフトの連携	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
15	後半まとめと確認	復習と確認テスト	表計算技法復習と技能修得度の確認

関連科目 ステップアップとして「情報処理 II」の受講を推奨する。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows8・Office2013による情報処理入門	安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法 (基準) 出席率 80%以上を必須とする。
授業参加状況、毎回の課題、実技を含む試験を総合して評価する。
(授業参加状況および毎回の課題 40%、中間テスト 30%、期末テスト 30%)

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。
多くの先輩が、「情報処理 I」「情報処理 II」受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。

担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業日に非常勤講師室で問い合わせること。

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△		

授業概要・目的	Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じ、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能を知るとともに、コンピュータの持つ特性と有用性について理解し情報処理能力の養成をはかる。
到達目標	課題やレポート、卒業論文作成のために必要な情報活用能力の習得、および就活時にアピールできるコンピュータ利用に関する技能検定への足掛かりとする。
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。 課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。 授業時間内に課題を完成できない場合は次週までに提出することが求められる。 なお、出席率が 8 割に満たない場合は単位を認めないものとする。
科目学習の効果 (資格)	就活時にアピールできる IT 系の資格に挑戦するためにも役立つ講座である。 身近なものとしては MOS 等のマイクロソフト認定資格や IT パスポート等が挙げられる。 情報処理授業単位取得後、独学で MOS を取得した学生も多い。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明とガイダンス	――
2	コンピュータ基礎知識の確認	パーソナルコンピュータ基本知識の習得とレポート	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
3	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
4	情報の処理技術 (1)	文字情報処理の基礎 1 文書作成技術 書式設定 1	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
5	情報の処理技術 (2)	文字情報処理の基礎 2 文書作成技術 書式設定 2	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
6	情報の処理技術 (3)	文字情報処理の基礎 3 文書作成技術 表その他	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
7	情報の処理技術 (4)	文字情報処理の応用 1 文書作成技術 実用的ビジネス文書の作成技術	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
8	前半まとめと確認	確認テスト	文書作成技法復習と技能修得度の確認
9	情報の蓄積と利用 (1)	表計算基礎 1 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理 基本処理の確認	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
10	情報の蓄積と利用 (2)	表計算基礎 2 関数利用技術	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
11	情報の蓄積と利用 (3)	表計算基礎 3 グラフ処理	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
12	情報の蓄積と利用 (4)	表計算応用 1 データベースとピボットテーブル活用 技術	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
13	情報の蓄積と利用 (5)	表計算応用 2 散布図および分析ツールと回帰分析基本	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
14	情報の蓄積と連携	レポート活用の為のアプリケーション ソフトの連携	配布資料の確認 授業の内容をまとめた演習問題に解答 テキストの該当箇所を読んでおく
15	後半まとめと確認	確認テスト	表計算技法復習と技能修得度の確認

関連科目 ステップアップとして「情報処理 II」の受講を推奨する。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows8・Office2013による情報処理入門	安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法 (基準) 出席率 80%以上を必須とする。
授業参加状況、毎回の課題、実技を含む試験を総合して評価する。
(授業参加状況および毎回の課題 40%、中間テスト 30%、期末テスト 30%)

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。
多くの先輩が、「情報処理 I」「情報処理 II」受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。

担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△		

授業概要・目的	Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じて、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能を知るとともに、コンピュータの持つ特性と有用性について理解し、情報処理能力の養成をはかる。
到達目標	Office 「Word」「Excel」の基本操作をマスターする。
授業方法と留意点	演習方式の講義です。毎回講義用資料を用意するため、指定の教科書はありません。習熟度合いに応じて、講義内容を多少変更する可能性があります。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とします。
科目学習の効果 (資格)	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明、コンピュータの仕組み、Windows 基本操作方法	—————
2	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	情報検索課題
3	情報の処理技術 (1)	文字情報処理の基礎 1 文書作成技術 書式設定 1	文書作成練習課題 1
4	情報の処理技術 (2)	文字情報処理の基礎 2 文書作成技術 書式設定 2	文書作成練習課題 2
5	情報の処理技術 (3)	文字情報処理の基礎 3 文書作成技術 表その他	文書作成練習課題 3
6	情報の処理技術 (4)	文字情報処理の応用 1 文書作成技術：レポート、論文の作成 1	文書作成練習課題 4
7	情報の処理技術 (5)	文字情報処理の応用 2 文書作成技術：レポート、論文の作成 2	文書作成練習課題 5
8	前半まとめと確認	まとめ	まとめ
9	情報の蓄積と利用 (1)	表計算基礎 1 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理	表計算練習課題 1
10	情報の蓄積と利用 (2)	表計算基礎 2 関数利用技術	表計算練習課題 2
11	情報の蓄積と利用 (3)	表計算基礎 3 グラフ処理	表計算練習課題 3
12	情報の蓄積と利用 (4)	表計算応用 1 データベースとピボットテーブル活用技術	表計算練習課題 4
13	情報の蓄積と利用 (5)	表計算応用 2 分析ツールと回帰分析基本	表計算練習課題 5
14	情報の蓄積と連携	アプリケーションソフトの連携	複合練習課題
15	後半まとめと確認	まとめ	まとめ

関連科目 ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は不要です		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	参考書は不要です		
2			
3			

評価方法 (基準)	授業ごとに行う練習・課題の点数を 100% で評価します。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。
担当者の研究室等	11 号館 6 階 (非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問等がありましたら、配布資料表紙に載っているメールアドレスにお問い合わせください。

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△		

授業概要・目的	Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じて、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能を知るとともに、コンピュータの持つ特性と有用性について理解し、情報処理能力の養成をはかる。
到達目標	Office 「Word」「Excel」の基本操作をマスターする。
授業方法と留意点	演習方式の講義です。毎回講義用資料を用意するため、指定の教科書はありません。習熟度合いに応じて、講義内容を多少変更する可能性があります。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とします。
科目学習の効果 (資格)	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明、コンピュータの仕組み、Windows 基本操作方法	—————
	2	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	情報検索課題
	3	情報の処理技術 (1)	文字情報処理の基礎 1 文書作成技術 書式設定 1	文書作成練習課題 1
	4	情報の処理技術 (2)	文字情報処理の基礎 2 文書作成技術 書式設定 2	文書作成練習課題 2
	5	情報の処理技術 (3)	文字情報処理の基礎 3 文書作成技術 表その他	文書作成練習課題 3
	6	情報の処理技術 (4)	文字情報処理の応用 1 文書作成技術：レポート、論文の作成 1	文書作成練習課題 4
	7	情報の処理技術 (5)	文字情報処理の応用 2 文書作成技術：レポート、論文の作成 2	文書作成練習課題 5
	8	前半まとめと確認	まとめ	まとめ
	9	情報の蓄積と利用 (1)	表計算基礎 1 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理	表計算練習課題 1
	10	情報の蓄積と利用 (2)	表計算基礎 2 関数利用技術	表計算練習課題 2
	11	情報の蓄積と利用 (3)	表計算基礎 3 グラフ処理	表計算練習課題 3
	12	情報の蓄積と利用 (4)	表計算応用 1 データベースとピボットテーブル活用技術	表計算練習課題 4
	13	情報の蓄積と利用 (5)	表計算応用 2 分析ツールと回帰分析基本	表計算練習課題 5
	14	情報の蓄積と連携	アプリケーションソフトの連携	複合練習課題
	15	後半まとめと確認	まとめ	まとめ

関連科目	ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書は不要です		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	参考書は不要です		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業ごとに行う練習・課題の点数を 100% で評価します。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
-----------	--

学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。
-----------	--

担当者の研究室等	11 号館 6 階 (非常勤講師室)
----------	--------------------

備考	授業時間外での質問等がありましたら、配布資料表紙に載っているメールアドレスにお問い合わせください。
----	---

科目名	情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△		

授業概要・目的	情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して情報処理の基礎を学習する。情報を発信する側に必要とされる技能として、効果的なプレゼンテーションの学習、画像処理の知識、プログラミングの基本を習得する。これらの作業によってコンピュータの機能についてさらに知識を深め、その特性と有用性についてより深く理解するものとする。
到達目標	効率的な論文ツールの活用、画像編集、就活時にアピールできるプレゼンテーション能力の獲得等、情報発信に必要とされる知識を習得する。
授業方法と留意点	情報処理Ⅰのテキストと配布資料を用いて演習形式で行う。 毎回課題が出題される。課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。 授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。 出席率が8割に満たない場合は単位を認めない。 学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	就活時にアピールできるIT系の資格に挑戦するためにも役立つ講座である。 身近なものとしてはMOS等のマイクロソフト認定資格やITパスポート等が挙げられる。 情報処理授業単位取得後、独学でMOSを取得した学生も多い。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。 特に、プレゼンテーションの技術は、就活時にアピールできるだけでなく社会人としても役立つものなので、ぜひとも習得してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	効果的なレポートの作成	効果的な論文作成のための参考資料ツールの利用	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
2	情報の表現(1)	紙メディアから電子メディアへの移行 プレゼンテーション技術1 スライド基本操作	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
3	情報の表現(2)	プレゼンテーション技術2 図の挿入と編集、 クリップアートとスマートアート	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
4	情報の表現(3)	プレゼンテーション技術3 アニメーションの設定 発表の基本確認	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
5	情報の表現(4)	画像編集の基本知識 画像編集アプリケーションソフト学習 とプレゼンテーションソフト上における利用	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
6	課題1制作(1)	提示テーマに沿ったスライドの作成。 表示リボンの活用と発表原稿の作成。ノ ート機能、配布資料、印刷時の注意	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
7	課題1制作(2)	リハーサル機能の活用と発表用原稿と のリンク	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
8	課題2制作(1)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料 の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
9	課題2制作(2)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料 の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
10	プレゼンテーション発表(1)	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表 内容の把握と整理
11	プレゼンテーション発表(2)	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表 内容の把握と整理
12	情報の発信(1)	アプリケーションソフトを使用したWeb ページの作成、基本学習	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
13	情報の発信(2)	アプリケーションソフトを使用したWeb ページの作成と応用	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
14	情報の発信(3)	プログラミング基本操作 HTMLの学習	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
15	情報の発信(4)	プログラミング基本操作 HTMLの学習2	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答

関連科目 情報処理Ⅰを修得していることが望ましい

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows8・Office2013による情報処理入門	安積淳 他	実教出版
	2			
	3			

評価方法 (基準)	80%以上の出席率を必要とする。 授業参加状況、毎回の課題(練習問題)、実技を含む重要課題を総合して評価する。
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。 多くの先輩が「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」の受講後、独学でMOS(Microsoft Office Specialist マイクロソフト オフィスペシャリスト)に合格しています。資格取得の足掛かりにも有用です。 プレゼンテーションスキルは就職活動だけでなく、社会に出てからも役立つ技術です。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。

科目名	情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△		

授業概要・目的	情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して情報処理の基礎を学習する。情報を発信する側に必要とされる技能として、効果的なプレゼンテーションの学習、画像処理の知識、プログラミングの基本を習得する。これらの作業によってコンピュータの機能についてさらに知識を深め、その特性と有用性についてより深く理解するものとする。
到達目標	効率的な論文ツールの活用、画像編集、就活時にアピールできるプレゼンテーション能力の獲得等、情報発信に必要とされる知識を習得する。
授業方法と留意点	情報処理Ⅰのテキストと配布資料を用いて演習形式で行う。 毎回課題が出題される。課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。 授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。 出席率が8割に満たない場合は単位を認めない。 学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	就活時にアピールできるIT系の資格に挑戦するためにも役立つ講座である。 身近なものとしてはMOS等のマイクロソフト認定資格やITパスポート等が挙げられる。 情報処理授業単位取得後、独学でMOSを取得した学生も多い。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。 特に、プレゼンテーションの技術は、就活時にアピールできるだけでなく社会人としても役立つものなので、ぜひとも習得してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	効果的なレポートの作成	効果的な論文作成のための参考資料ツールの利用	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
2	情報の表現(1)	紙メディアから電子メディアへの移行 プレゼンテーション技術1 スライド基本操作	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
3	情報の表現(2)	プレゼンテーション技術2 図の挿入と編集、 クリップアートとスマートアート	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
4	情報の表現(3)	プレゼンテーション技術3 アニメーションの設定 発表の基本確認	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
5	情報の表現(4)	画像編集の基本知識 画像編集アプリケーションソフト学習 とプレゼンテーションソフト上における利用	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
6	課題1制作(1)	提示テーマに沿ったスライドの作成。 表示リボンの活用と発表原稿の作成。ノ ート機能、配布資料、印刷時の注意	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
7	課題1制作(2)	リハーサル機能の活用と発表用原稿と のリンク	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
8	課題2制作(1)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料 の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
9	課題2制作(2)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料 の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
10	プレゼンテーション発表(1)	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表 内容の把握と整理
11	プレゼンテーション発表(2)	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表 内容の把握と整理
12	情報の発信(1)	アプリケーションソフトを使用したWeb ページの作成、基本学習	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
13	情報の発信(2)	アプリケーションソフトを使用したWeb ページの作成と応用	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
14	情報の発信(3)	プログラミング基本操作 HTMLの学習	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答
15	情報の発信(4)	プログラミング基本操作 HTMLの学習2	配布資料の確認 内容の把握と整理 授業の内容をまとめた演習問題に解答

関連科目 情報処理Ⅰを修得していることが望ましい

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Windows8・Office2013による情報処理入門	安積淳 他	実教出版
2				
3				

評価方法 (基準)	80%以上の出席率を必要とする。 授業参加状況、毎回の課題(練習問題)、実技を含む重要課題を総合して評価する。
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。 多くの先輩が「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」の受講後、独学でMOS(Microsoft Office Specialist マイクロソフト オフィスペシャリスト)に合格しています。資格取得の足掛かりにも有用です。 プレゼンテーションスキルは就職活動だけでなく、社会に出てからも役立つ技術です。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。

科目名	情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△		

授業概要・目的	情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して、情報処理の基礎を学習する。プレゼンテーションソフトの基本操作を通して、スライドの作成、プレゼンテーションの構成と実行を行う。プレゼンテーションソフトは、研究成果や調査結果の報告、商品企画の発表など、様々な用途で用いられており、コンピュータ社会において重要なツールである。本講義では、プレゼンテーションソフトを応用的に活用するスキルも学ぶ。
到達目標	Office「Powerpoint」の基本操作および応用的活用をマスターする。
授業方法と留意点	演習方式の講義です。毎回講義用資料を用意するため、指定の教科書はありません。習熟度合いに応じて、講義内容を多少変更する可能性があります。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とします。
科目学習の効果(資格)	ビジネスシーンを想定したスライド作成スキル以外に、簡易的な画像処理技術、ポスター制作スキルなどの応用技術も習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法の説明	特になし
2	PowerPoint 基本操作	基本操作の復習する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
3	PowerPoint 図の活用1	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
4	PowerPoint 図の活用2	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
5	PowerPoint 動画の活用	PowerPoint で動画を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
6	PowerPoint 画像処理1	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
7	PowerPoint 画像処理2	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
8	PowerPoint 画像処理3	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
9	PowerPoint 応用 1_図形の合成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
10	PowerPoint 応用 2_名刺の作成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
11	PowerPoint 実践 1_スライドの作成	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
12	PowerPoint 実践 2_スマートアートの活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
13	PowerPoint 実践 3_アニメの有効活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
14	提出課題の発表	各自作成した課題を発表する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
15	まとめ	まとめ、およびフォローアップを行う	特に困難な箇所の確認と復習

関連科目 「情報処理Ⅰ」を修得していることが望ましい

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は不要です		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	参考書は不要です		
2			
3			

評価方法(基準) 授業ごとに行う練習・課題の点数を100%で評価します。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。

学生へのメッセージ 毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので、可能な限り欠席や遅刻をしないようにしましょう。欠席するとそれ以降の授業の理解が困難となります。もし万一欠席したときには周りの友人などに授業内容・課題を聞いたりしておくといでしょう。

担当者の研究室等 11号館6階(非常勤講師室)

備考 授業時間外での質問等がありましたら、配布資料表紙に載っているメールアドレスにお問い合わせください。

科目名	情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△		

授業概要・目的	情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して、情報処理の基礎を学習する。プレゼンテーションソフトの基本操作を通して、スライドの作成、プレゼンテーションの構成と実行を行う。プレゼンテーションソフトは、研究成果や調査結果の報告、商品企画の発表など、様々な用途で用いられており、コンピュータ社会において重要なツールである。本講義では、プレゼンテーションソフトを応用的に活用するスキルも学ぶ。
到達目標	Office「Powerpoint」の基本操作および応用的活用をマスターする。
授業方法と留意点	演習方式の講義です。毎回講義用資料を用意するため、指定の教科書はありません。習熟度合いに応じて、講義内容を多少変更する可能性があります。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とします。
科目学習の効果(資格)	ビジネスシーンを想定したスライド作成スキル以外に、簡易的な画像処理技術、ポスター制作スキルなどの応用技術も習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法の説明	特になし
2	PowerPoint 基本操作	基本操作の復習する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
3	PowerPoint 図の活用1	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
4	PowerPoint 図の活用2	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
5	PowerPoint 動画の活用	PowerPoint で動画を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
6	PowerPoint 画像処理1	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
7	PowerPoint 画像処理2	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
8	PowerPoint 画像処理3	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
9	PowerPoint 応用 1_図形の合成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
10	PowerPoint 応用 2_名刺の作成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
11	PowerPoint 実践 1_スライドの作成	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
12	PowerPoint 実践 2_スマートアートの活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
13	PowerPoint 実践 3_アニメの有効活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
14	提出課題の発表	各自作成した課題を発表する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
15	まとめ	まとめ、およびフォローアップを行う	特に困難な箇所の確認と復習

関連科目	「情報処理Ⅰ」を修得していることが望ましい
------	-----------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は不要です		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	参考書は不要です		
2			
3			

評価方法(基準)	授業ごとに行う練習・課題の点数を100%で評価します。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので、可能な限り欠席や遅刻をしないようにしましょう。欠席するとそれ以降の授業の理解が困難となります。もし万一欠席したときには周りの友人などに授業内容・課題を聞いたりしておくといでしょう。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館6階(非常勤講師室)
----------	----------------

備考	授業時間外での質問等がありましたら、配布資料表紙に載っているメールアドレスにお問い合わせください。
----	---

科目名	スペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。 広域なスペイン語圏に関心を持ち、その文化に親しむ。
授業方法と留意点	前期ではアルファベットと発音から始め、第5課まで学習する予定です。 受講にあたっては教科書、西和辞典、配布されたプリント等を持参すること。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第1課	アルファベットと発音の解説。	授業後、スペイン語の発音の法則を確認し、声に出して練習する。 基数1～10を覚える。
3	前回の復習 第1課	アルファベットと発音の徹底。	単語の読みだけでなく、短い文を読む練習をし、イントネーションを身につける。
4	前回の復習 第2課	名詞、冠詞の解説。 「タクシーで」の会話。	授業後、名詞の性・数の法則を確認して覚える。 会話を声に出して繰り返し練習する。
5	理解度確認テスト (1) 第2課	発音、アクセント、名詞に関する確認テスト 動詞 hay の使い方。 「バルで」の会話。	授業後、動詞 hay の使い方を確認する。 会話を声に出して繰り返し練習する。基数 11～20 を覚える。
6	前回の復習 第3課	動詞 ser の使い方。 「授業で」の会話。	授業後、動詞 ser の使い方を確認する。 会話を声に出して繰り返し練習する。
7	前回の復習 第3課	疑問文と否定文の解説。 動詞 estar の使い方。 「街角で」の会話。	授業後、動詞 estar の使い方を確認する。 会話を声に出して繰り返し練習する。
8	理解度確認テスト (2) 第4課	動詞 hay, ser, estar に関する確認テスト 直説法現在規則活用と使用頻度の高い語彙の解説。	授業後、基本動詞の活用を確認する。
9	前回の復習 第4課	規則活用の徹底。 「パーティで」の会話。	会話を声に出して繰り返し練習する。
10	前回の復習 第5課	動詞 tener の解説 形容詞の語尾変化 「スペインの美しい海岸」についての文	授業後、動詞 tener の活用を確認する。
11	前回の復習 第5課	感嘆文の解説。 所有形容詞の解説。 「アlicantesの街並みについて」の会話。	動詞 ser, estar の活用と用法の確認 会話を繰り返し声に出して読んでみる。
12	理解度確認テスト (3) 第6課	規則変化動詞および tener の活用と用法に関する確認テスト 動詞 ir, venir の解説。	動詞 ir, venir の活用と用法の確認
13	前回の復習 第6課	国名・地名形容詞の説明。 「ブルゴスの大聖堂」についての文。	国名とその形容詞形を確認し、覚えること。
14	第6課 これまでの復習	時刻の表現。 「教会建築について」の会話。	基数の確認 会話を声に出して読んでみる。
15	学習内容の確認	前期に学習した文法および語彙・基本表現の確認テスト。	授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目	スペイン語圏概論
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アミーゴス	西川 喬	第三書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣ほか	小学館
	2			

評価方法 (基準)	一定程度進んだ段階で理解度確認テスト(30%)をする。 最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テスト(60%)をする。 授業への参加度(10%)と合わせて総合的に評価する。
学生へのメッセージ	初めて学ぶ外国語は覚えるべきことが多いですが、スペイン語は母音が日本語と同じなので発音はとても簡単です。文法をマスターし語彙を増やすことで、スペイン語で発信することができるようになります。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	スペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。広域なスペイン語圏に関心を持ち、その文化に親しむ。
授業方法と留意点	前期ではアルファベットと発音から始め、第6課まで学習する予定です。 受講にあたっては教科書、配布されたプリント等を持参すること。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方。 スペイン語とスペイン語圏についての概要の説明。	挨拶表現を練習する。
2	第1課	アルファベットと発音の解説。	授業後、スペイン語の発音の法則を確認し、声に出して練習する。挨拶表現を練習する。 基数0~10を覚える。 授業後、名詞の性・数の法則を確認して覚える。 会話を声に出して繰り返し練習する。 練習問題 p.15 を予習する。
3	前回の復習 第1課	アルファベットと発音の徹底。	単語の読みだけでなく、短い文を読む練習をし、イントネーションを身につける。
4	前回の復習 第2課	名詞、冠詞の解説。 「タクシーで」の会話。	授業後、名詞の性・数の法則を確認して覚える。 会話を声に出して繰り返し練習する。
5	理解度確認テスト (1) 第2課	発音、アクセント、名詞に関する確認テスト 動詞 hay の使い方。 「バルで」の会話。	授業後、動詞 hay の使い方を確認する。 会話を声に出して繰り返し練習する。基数 11~20 を覚える。
6	前回の復習 第3課	主語人称代名詞の解説。 動詞 ser の使い方。 「授業で」の会話。	授業後、動詞 ser の使い方を確認する。 会話を声に出して繰り返し練習する。
7	前回の復習 第3課	疑問文と否定文の解説。 動詞 estar の使い方。 「街角で」の会話。	授業後、動詞 estar の使い方を確認する。 会話を声に出して繰り返し練習する。
8	理解度確認テスト (2) 第4課	動詞 hay, ser, estar に関する確認テスト 直説法現在規則活用と使用頻度の高い語彙の解説。	授業後、基本動詞の活用と意味を確認する。
9	前回の復習 第4課	規則活用の徹底。 指示形容詞と指示代名詞の解説。 「パーティで」の会話。	会話を声に出して繰り返し練習する。
10	前回の復習 第5課	動詞 tener の解説。 形容詞の語尾変化。 ser, estar + 形容詞の用法。 「スペインの美しい海岸」についての文。	授業後、動詞 tener の活用と用法を確認する。語彙を覚えること。 会話を声に出して繰り返し練習する。
11	前回の復習 第5課	感嘆文の解説。 所有形容詞の解説。 「アlicantesの街並みについて」の会話。	動詞 ser, estar の活用と用法の確認。 会話を繰り返し声に出して読んでみる。
12	理解度確認テスト (3) 第6課	規則変化動詞および tener の活用と用法に関する確認テスト 動詞 ir, venir の解説。	動詞 ir, venir の活用と用法の確認。
13	前回の復習 第6課	国名・地名形容詞の説明。 「ブルゴスの大聖堂」についての文。	国名とその形容詞形を確認し、覚えること。
14	第6課 これまでの復習	時刻の表現。 「教会建築について」の会話。	基数の確認。 会話を声に出して読んでみる。
15	学習内容の確認	前期に学習した文法および語彙・基本表現の確認テストと総復習。	授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておく。

関連科目	スペイン語圏概論
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アミーゴス	西川 喬	第三書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣ほか	小学館
2				
3				

評価方法 (基準)	一定程度進んだ段階で理解度確認テスト(30%)をする。 最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テスト(60%)をする。 授業への参加度(10%)と合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	初めて学ぶ外国語は覚えるべきことが多いですが、スペイン語は母音が日本語と同じなので発音はとても簡単です。文法をマスターし語彙を増やすことで、スペイン語で発信できるようになります。
担当者の 研究室等	7号館5階 北條研究室
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。



科目名	スペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。 スペイン語圏の文化に親しむ。
授業方法と留意点	後期では第7課から第12課まで学習する予定です。 受講にあたっては教科書、西和辞典、配布されたプリント等を持参すること。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	前期の学習内容の確認	前期で学習したことの確認。	授業前に前期で学習したことを総復習しておくこと。 授業後は動詞の活用の確認。
2	第7課	動詞 decir と oír の解説 序数、曜日と日付の表現	授業後、月名・曜日・日付に関する語彙を覚えること。 会話を声に出して繰り返し練習する。
3	前回の復習 第7課	不定語と否定語 hacer 型動詞	授業後、会話を声に出して繰り返し練習する。
4	前回の復習 第8課	目的格人称代名詞 所有形容詞	会話を声に出して繰り返し練習する。
5	前回の復習 第8課	動詞 dar と ver, saber と conocer	授業後、会話を声に出して繰り返し練習する。
6	理解度確認テスト(1) 第9課	後期に習った動詞の活用と用法に関する確認テスト 動詞 querer と poder	授業後、語幹母音変化動詞の確認をすること。 会話を声に出して繰り返し練習する。
7	前回の復習 第9課	過去分詞、現在完了についての解説	授業後、動詞の活用を確認すること。 会話を声に出して繰り返し練習する。
8	前回の復習 第10課	語幹母音変化動詞(2) al+不定詞など	語幹母音変化動詞の活用をしっかりと練習すること
9	前回の復習 第10課	gustar 型動詞 関係代名詞 que など	授業後、動詞の活用と用法を確認すること。 会話を声に出して繰り返し練習する。
10	理解度確認テスト(2) 第11課	主に第9課、第10課の内容に関する確認テスト 再帰動詞	試験前に既習事項(特に動詞の活用)を復習しておくこと。 会話を声に出して繰り返し練習する。
11	前回の復習 第11課	受身表現、無人称表現など	授業後、受身表現を確認すること。 会話を声に出して繰り返し練習する。
12	前回の復習 第12課	形容詞・副詞の比較級、最上級についての解説。	授業後、形容詞・副詞の最上級を確認すること。 会話を声に出して繰り返し練習する。
13	前回の復習 第12課	点過去規則用法	授業後、点過去規則用法の活用と知覚動詞の用法を確認すること。 会話を声に出して繰り返し練習する。
14	これまでの復習	弱点の克服	会話を声に出して繰り返し練習する。
15	学習内容の確認	後期に学習した文法および語彙・基本表現の確認テスト。	授業前に後期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目	エリア・スタディーズ(ラテンアメリカ)
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アミーゴス	西川 喬	第三書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣ほか	小学館
2			
3			

評価方法(基準)	一定程度進んだ段階で理解度確認テスト(30%)をする。 最終週に既習範囲を対象とする到達度確認テスト(60%)をする。 平常点(10%)と合わせて総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	今学期では、前期で学習したことをさらに進めて多くの表現ができるようになります。間違いを怖れず積極的に会話をしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	事前・事後学修に各1時間を要する。
----	-------------------

科目名	スペイン語Ⅲ	科目名(英文)	Spanish III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	この授業では文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、会話力をつける。 使用するテキスト『El tesoro de España (スペインの宝)』は、主人公である日本の若者がスペインを旅するストーリー性のある内容となっている。空港やホテル、各地での観光やお祭・食べ物等のエピソードを通して実際に現地で使えるスペイン語を学習する。 なお、受講にあたっては、スペイン語Ⅰ、Ⅱの履修経験者がのぞましい。
到達目標	スペイン語の基本的な文法・語句を学び、スペイン語圏への知識と興味を深める。
授業方法と留意点	受講にあたっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等も持参すること。 必要に応じて小テストを実施する。 以下に記す授業計画は目安であり、受講生の理解度によって進度を調整することがあります。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級または5級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	これまでの学習内容の確認(2) テキスト第1課:マドリード(1)	スペイン語Ⅰ、Ⅱで習った文法事項や表現を復習する。 空港での会話。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
3	テキスト第2・3課 マドリード(2)・(3)	動詞 ser「…である」、estar「…の状態である；…にいる」の用法を学ぶ。 ホテルでチェックインの会話。 健康をたずねる会話。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
4	テキスト第4課 マドリード(4)	動詞 ir「行く」、venir「来る」の用法を学ぶ。 プラド美術館の概要を解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
5	テキスト第5・6課 セビリア(1)・(2)	動詞 tener「持つ」、hablar「話す」の用法を学ぶ。 タクシーに乗る時の会話。 スペインの新幹線AVEの概要を解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
6	テキスト第7課 セビリア(3)	動詞 comer「食べる」の用法を学ぶ。 飲食についての語句を知る。 居酒屋での会話。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
7	テキスト第8課 セビリア(4)	動詞 vivir「生きる・住む」の用法を学ぶ。 都市名を知る。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
8	理解度確認テスト	前半の学習内容の確認テスト	ここまで学習した文法・語彙・表現を総確認しておくこと。
9	テキスト第9課 バルセロナ(1)	動詞 querer「…欲する」の用法を学ぶ。 交通に関する語句を知る。 カタルーニャの概要の説明。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
10	テキスト第10課 バルセロナ(2)	動詞 poder「…できる」の用法を学ぶ。 バルセロナ観光での会話。 バルセロナについての概要を説明。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
11	テキスト第11課 バルセロナ(3)	動詞 salir「去る」、llegar「着く」の用法を学ぶ。 買い物での会話。 建物の名称を知る。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
12	テキスト第12課 バルセロナ(4)	動詞 gustar「好かれる」、decir「言う」、dar「与える」の用法を学ぶ。 バルセロナ観光での会話。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
13	テキスト第13課 パンブローナ(1)	動詞 levantarse「起きる」との用法を学ぶ。 衣服に関する語句を知る。 パンブローナの概要を説明。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
14	テキスト第14課 パンブローナ(2)	再帰動詞を学ぶ。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
15	理解度確認テスト	前期の学習内容の確認テスト。	前期で学習した文法・語彙・表現を総確認しておくこと。

関連科目	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	El tesoro de Espana (スペインの宝)	福罵 教隆	同学社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト(20%)、会話(30%)、理解度確認テスト(50%)			
学生への メッセージ	授業はゆっくり進めます。 スペインの語だけではなく、スペインの風景や文化に触れながらコツコツ学習しましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。			

科目名	スペイン語IV	科目名(英文)	Spanish IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	<p>スペイン語 III に引き続きテキスト『El tesoro de España (スペインの宝)』を用いて授業を進める。テキストは主人公である日本の若者がスペインを旅するストーリー性のある内容となっており、様々なエピソードを通して実際に現地ですべイン語を学習する。</p> <p>なお、受講にあたっては、スペイン語 I、II の履修経験者がのぞましい。</p>
到達目標	語彙を増やし、多くの表現法を学ぶことでスペイン語圏の知識と興味を深める。
授業方法と留意点	<p>受講に当たっては、教科書に加えて授業中に配布されたプリント等も持参すること。授業では会話に重点をおき、必要に応じて小テストを実施する。</p> <p>以下に記す授業計画は目安であり、受講生の理解度によって進度を調整することがある。</p>
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定 6 級・5 級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	前期の学習内容の確認(1)	前期で習った文法事項や表現を復習する(第1課から第5課)	予習として、第1課から第5課までの確認をしておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
2	前期の学習内容の確認(2)	前期で習った文法事項や表現を復習する(第6課から第10課)	予習として、第6課から10課までの確認をしておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
3	前期の学習内容の確認(3)	前期で習った文法事項や表現を復習する(第11課から第14課)	予習として、第11課から14課までの確認をしておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
4	テキスト第15課 パンブローナ(3)	動詞 hacer「作る;する」の用法を学ぶ。 天体・四季・動植物に関する語句を知る。 天候の会話。 サン・フェルミン祭の概要の解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
5	テキスト第16課 パンブローナ(4)	過去分詞・現在完了形を学ぶ。 否定語・不定語を使う会話。 牛追い祭の概要を解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
6	テキスト第17課 サン・セバスチャン(1)	現在分詞、比較級・最上級の用法を学ぶ。 パソコン用語を知る。 パソコンを使いながらの会話。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
7	テキスト第18課 サン・セバスチャン(2)	点過去形の用法(1)を学ぶ。 親族に関する語句を知る。 バスク地方とバスク語の概要を解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
8	理解度確認テスト	第15課から第18課まで学習した内容の理解度を確認する。	テスト範囲の内容の確認と総復習をしておくこと。
9	テキスト第19課 サン・セバスチャン(3)	点過去形の用法(2)を学ぶ。 点過去形を使った会話。 かけ声に関する語句を知る。 バスク料理の概要を解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
10	テキスト第20課 サン・セバスチャン(4)	線過去形の用法を学ぶ。 線過去形を使った会話。 擬声語の語句を知る。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
11	テキスト第21課 ラ・コルーニャ(1)	未来形の用法を学ぶ。 未来形を使った会話。 サンチアゴ・デ・コンポステーラの概要を解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
12	テキスト第22課 ラ・コルーニャ(2)	接続法の用法(1)を学ぶ。 感嘆・慣用句を知る。 ガリシアとガリシア語の概要を解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
13	テキスト第23課 ラ・コルーニャ(3)	接続法で願望・不確定・感情を表現する。 ラ・コルーニャの概要を解説。	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
14	テキスト第24課 ラ・コルーニャ(4)	接続法のまとめ。 動詞の時制のまとめ。	後期授業で学習した内容の確認と総復習をしておくこと。
15			

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	El tesoro de España (スペインの宝)	福馬 教隆	同学社

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>一定程度進んだ段階で理解度確認テスト(30%)をする。 最終週に既修範囲を対象とする到達度確認テスト(60%)をする。 平常点(10%)と合わせて総合的に評価する。</p>			
学生への メッセージ	<p>新しい語彙や表現が増えてきますが、授業はゆっくり進めます。スペインの語だけではなく、スペインの風景や文化に触れながらコツコツ学習しましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。			

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之、川野 裕姫子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5△		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。																																																																		
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>体力測定①</td> <td>屋外種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>体力測定②</td> <td>体育館種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>種目の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>ルールの解説、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価	3	体力測定②	体育館種目	測定記録評価	4	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価																																																																
3	体力測定②	体育館種目	測定記録評価																																																																
4	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの実論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の実論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの) 事前事後の課題に必要な時間は、毎回約1時間。																																																																		

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之、川野 裕姫子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5△		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。																																																																		
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>体力測定①</td> <td>屋外種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>体力測定②</td> <td>体育館種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>種目の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>ルールの解説、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価	3	体力測定②	体育館種目	測定記録評価	4	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価																																																																
3	体力測定②	体育館種目	測定記録評価																																																																
4	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの) 事前事後の課題に必要な時間は、毎回約1時間。																																																																		

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Sports Science II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之、川野 裕姫子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5△		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。																																																																		
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目(サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど) ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">回数</th> <th style="width: 30%;">授業テーマ</th> <th style="width: 30%;">内容・方法等</th> <th style="width: 30%;">事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)</td><td>ルールの理解</td></tr> <tr><td>2</td><td>各コース別実技</td><td>種目の概要説明、基礎技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>3</td><td>各コース別実技</td><td>ルールの解説、基礎技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>4</td><td>各コース別実技</td><td>基礎技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>5</td><td>各コース別実技</td><td>基礎技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>6</td><td>各コース別実技</td><td>攻防技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>7</td><td>各コース別実技</td><td>攻防技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>8</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>9</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>10</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>11</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>12</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>13</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>14</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>15</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの) 事前事後の課題に必要な時間は、毎回約1時間。																																																																		

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Sports Science II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之、川野 裕姫子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5△		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。																																																																		
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目(サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど) ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td>ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)</td><td>ルールの理解</td></tr> <tr><td>2</td><td>各コース別実技</td><td>種目の概要説明、基礎技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>3</td><td>各コース別実技</td><td>ルールの解説、基礎技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>4</td><td>各コース別実技</td><td>基礎技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>5</td><td>各コース別実技</td><td>基礎技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>6</td><td>各コース別実技</td><td>攻防技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>7</td><td>各コース別実技</td><td>攻防技術練習</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>8</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>9</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>10</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>11</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>12</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>13</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>14</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> <tr><td>15</td><td>各コース別実技</td><td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td><td>授業内容のまとめ</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの) 事前事後の課題に掛ける時間の目安は、毎回1時間程度。																																																																		

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : F O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 O, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, W 科 : DP1 O, DP7 O, N 科 : DP1 O, DP8 Δ N : DP1 O, DP8 Δ		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	復習
	7	話し方1	話題の変え方	復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	復習
	9	話し方3	話の広げ方	復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	復習・課題
3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	復習・課題
4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	復習・課題
5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	復習・課題
6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	復習・課題
7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	復習・課題
8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	復習・課題
9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	復習・課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	復習・課題
11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	復習・課題
12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	復習・課題
13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	復習・課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	復習
15	総復習・確認テスト	総復習	復習

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業の参加度 (10%)、課題 (30%)、テスト (60%) により総合的に判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。(事前・事後学習 1 時間)
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	7号館4階 (門脇研究室)
----------	---------------

備考	授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがあります。
----	---------------------------------------

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	復習
	7	話し方1	話題の変え方	復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	復習
	9	話し方3	話の広げ方	復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。																																																																		
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。																																																																		
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。 学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>発音編 第1課 発音 1</td> <td>ピンインと四声, 単母音, 子音①, 複母音①。</td> <td>発音を練習し、ピンインを書く。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第2課 発音 2</td> <td>複母音②, 鼻母音, 子音②。</td> <td>発音を練習し、ピンインを書く。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第3課 発音 3</td> <td>複母音③④, 子音③。</td> <td>発音を練習し、ピンインを書く。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第4課 発音 4</td> <td>子音④⑤。 あいさつ言葉の復習。</td> <td>発音を練習し、ピンインを書く。 テスト (第2~4課のあいさつ) の準備。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>本文編 第1課 お名前は?</td> <td>☆単元テスト1 人称代名詞, 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「也」、「都」、「很」。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読む。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第1課 お名前は?</td> <td>副詞「不」, 疑問詞疑問文, 名前の言い方。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読む。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第2課 僕は日本人だ</td> <td>「是」構文, 疑問詞「?」, 副詞「都」。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第2課 僕は日本人だ</td> <td>助詞「的」, 反復疑問文, 疑問詞「誰」, 指示代名詞。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第1~2課) の準備。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第3課 君は大阪人だよ ね?</td> <td>☆単元テスト2 動詞述語文, 終助詞「?」, 省略疑問文。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第3課 君は大阪人だよ ね?</td> <td>同時進行の表現, 二重目的語。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第4課 おいくら?</td> <td>単位の言葉「張」「個」, 動詞の重ね型, お金の言い方。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第4課 おいくら?</td> <td>「二」と「両」, 「不太〜」, 所有の「有」。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第3~4課) の準備。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第5課 どの先生が好き?</td> <td>☆単元テスト3 前置詞「和」, 名詞述語文。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>第5課 どの先生が好き?</td> <td>時間の言い方, 前置詞「跟」。</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第5課) の準備。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>おさらい</td> <td>☆単元テスト4</td> <td>練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	発音編 第1課 発音 1	ピンインと四声, 単母音, 子音①, 複母音①。	発音を練習し、ピンインを書く。	2	第2課 発音 2	複母音②, 鼻母音, 子音②。	発音を練習し、ピンインを書く。	3	第3課 発音 3	複母音③④, 子音③。	発音を練習し、ピンインを書く。	4	第4課 発音 4	子音④⑤。 あいさつ言葉の復習。	発音を練習し、ピンインを書く。 テスト (第2~4課のあいさつ) の準備。	5	本文編 第1課 お名前は?	☆単元テスト1 人称代名詞, 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「也」、「都」、「很」。	練習問題を解答し、会話文を読む。	6	第1課 お名前は?	副詞「不」, 疑問詞疑問文, 名前の言い方。	練習問題を解答し、会話文を読む。	7	第2課 僕は日本人だ	「是」構文, 疑問詞「?」, 副詞「都」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。	8	第2課 僕は日本人だ	助詞「的」, 反復疑問文, 疑問詞「誰」, 指示代名詞。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第1~2課) の準備。	9	第3課 君は大阪人だよ ね?	☆単元テスト2 動詞述語文, 終助詞「?」, 省略疑問文。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。	10	第3課 君は大阪人だよ ね?	同時進行の表現, 二重目的語。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。	11	第4課 おいくら?	単位の言葉「張」「個」, 動詞の重ね型, お金の言い方。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。	12	第4課 おいくら?	「二」と「両」, 「不太〜」, 所有の「有」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第3~4課) の準備。	13	第5課 どの先生が好き?	☆単元テスト3 前置詞「和」, 名詞述語文。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。	14	第5課 どの先生が好き?	時間の言い方, 前置詞「跟」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第5課) の準備。	15	おさらい	☆単元テスト4	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	発音編 第1課 発音 1	ピンインと四声, 単母音, 子音①, 複母音①。	発音を練習し、ピンインを書く。																																																																
2	第2課 発音 2	複母音②, 鼻母音, 子音②。	発音を練習し、ピンインを書く。																																																																
3	第3課 発音 3	複母音③④, 子音③。	発音を練習し、ピンインを書く。																																																																
4	第4課 発音 4	子音④⑤。 あいさつ言葉の復習。	発音を練習し、ピンインを書く。 テスト (第2~4課のあいさつ) の準備。																																																																
5	本文編 第1課 お名前は?	☆単元テスト1 人称代名詞, 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「也」、「都」、「很」。	練習問題を解答し、会話文を読む。																																																																
6	第1課 お名前は?	副詞「不」, 疑問詞疑問文, 名前の言い方。	練習問題を解答し、会話文を読む。																																																																
7	第2課 僕は日本人だ	「是」構文, 疑問詞「?」, 副詞「都」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																																
8	第2課 僕は日本人だ	助詞「的」, 反復疑問文, 疑問詞「誰」, 指示代名詞。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第1~2課) の準備。																																																																
9	第3課 君は大阪人だよ ね?	☆単元テスト2 動詞述語文, 終助詞「?」, 省略疑問文。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																																
10	第3課 君は大阪人だよ ね?	同時進行の表現, 二重目的語。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																																
11	第4課 おいくら?	単位の言葉「張」「個」, 動詞の重ね型, お金の言い方。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																																
12	第4課 おいくら?	「二」と「両」, 「不太〜」, 所有の「有」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第3~4課) の準備。																																																																
13	第5課 どの先生が好き?	☆単元テスト3 前置詞「和」, 名詞述語文。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																																
14	第5課 どの先生が好き?	時間の言い方, 前置詞「跟」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第5課) の準備。																																																																
15	おさらい	☆単元テスト4	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。																																																																
関連科目	中国語 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>摂南大学 中国語入門</td> <td>摂南大学外国語学部編</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中日辞典</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日中辞典</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中日辞典			2	日中辞典			3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	中日辞典																																																																		
2	日中辞典																																																																		
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%																																																																		
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西, 兪, 小都)を通じて問い合わせることもできる。																																																																		

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	宋 東平
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。 学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第2課 発音 2	複母音②, 鼻母音, 子音②。	発音を練習し、ピンインを書く。
3	第3課 発音 3	複母音③④, 子音③。	発音を練習し、ピンインを書く。
4	第4課 発音 4	子音④⑤。 あいさつ言葉の復習。	発音を練習し、ピンインを書く。 テスト (第2~4課のあいさつ) の準備。
5	本文編 第1課 お名前は?	☆単元テスト1 人称代名詞, 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「也」、「都」、「很」。	練習問題を解答し、会話文を読む。
6	第1課 お名前は?	副詞「不」, 疑問詞疑問文, 名前の言い方。	練習問題を解答し、会話文を読む。
7	第2課 僕は日本人だ	「是」構文, 疑問詞「?」, 副詞「都」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
8	第2課 僕は日本人だ	助詞「的」, 反復疑問文, 疑問詞「誰」, 指示代名詞。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第1~2課) の準備。
9	第3課 君は大阪人だよ ね?	☆単元テスト2 動詞述語文, 終助詞「?」, 省略疑問文。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
10	第3課 君は大阪人だよ ね?	同時進行の表現, 二重目的語。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
11	第4課 おいくら?	単位の言葉「張」「個」, 動詞の重ね型, お金の言い方。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
12	第4課 おいくら?	「二」と「両」, 「不太〜」, 所有の「有」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第3~4課) の準備。
13	第5課 どの先生が好き?	☆単元テスト3 前置詞「和」, 名詞述語文。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
14	第5課 どの先生が好き?	時間の言い方, 前置詞「跟」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト (第5課) の準備。
15	おさらい	☆単元テスト4	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。

関連科目	「中国語 II」
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	日中辞典		
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西, 兪, 小都)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音、フレーズに慣れてもらう。 学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第6課 今は3時5分前だ	「有」と「在」、時間詞の語順。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
2	第6課 今は3時5分前だ	不定の数量を表す「些」、時刻の言い方、意見を求める言い方。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
3	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	時間に使う「上/下」、連動文、前置詞「在」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
4	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	標点符号「,」と「、」、文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト(第6-7課)の準備。
5	第8課 小説は好きなの?	☆単元テスト1 前置詞「從」と「到」、時量補語とその語順、文型「快～了」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
6	第8課 小説は好きなの?	前置詞「離」、強調の「是」、副詞「又」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
7	第9課 ファーストフード店は家から近い	副詞「就」、副詞「才」、動詞の「要」、前置詞「給」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
8	第9課 ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」、文型「一・・・就・・・」、 「未完成の「没有～」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト(第8-9課)の準備。
9	第10課 北京ダックを食べたことある?	☆単元テスト2 助詞「過」、助動詞「要」、「想」、「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
10	第10課 北京ダックを食べたことある?	助動詞「應該」、副詞「別」、「再」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
11	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文、助動詞「会」、構造助詞「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
12	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」、比較の「没有」、禁止表現「不要」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト(第10-11課)の準備。
13	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	☆単元テスト3 仮定表現「要是～」、助動詞「能」、可能性の「会」、比較表現「比」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
14	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	使役動詞「叫」、方向補語「～来/去」、 複合補語「～進來/進去」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト(第12課)の準備。
15	おさらい	☆単元テスト4	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。

関連科目	「中国語Ⅰ」
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に1時間ずつ要します。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	「中国語Ⅰ」を履修したうえ、「中国語Ⅱ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宋 東平
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音、フレーズに慣れてもらう。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第6課 今は3時5分前だ	「有」と「在」、時間詞の語順。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
2	第6課 今は3時5分前だ	不定の数量を表す「些」、時刻の言い方、意見を求める言い方。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
3	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	時間に使う「上/下」、連動文、前置詞「在」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
4	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	標点符号「,」と「、」、文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト(第6-7課)の準備。
5	第8課 小説は好きなの?	☆単元テスト1 前置詞「從」と「到」、時量補語とその語順、文型「快～了」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
6	第8課 小説は好きなの?	前置詞「離」、強調の「是」、副詞「又」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
7	第9課 ファーストフード店は家から近い	副詞「就」、副詞「才」、動詞の「要」、前置詞「給」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
8	第9課 ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」、文型「一・・・就・・・」、 「未完成の「没有～」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト(第8-9課)の準備。
9	第10課 北京ダックを食べたことある?	☆単元テスト2 助詞「過」、助動詞「要」、「想」、「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
10	第10課 北京ダックを食べたことある?	助動詞「應該」、副詞「別」、「再」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
11	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文、助動詞「会」、構造助詞「得」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
12	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」、比較の「没有」、禁止表現「不要」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト(第10-11課)の準備。
13	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	☆単元テスト3 仮定表現「要是～」、助動詞「能」、可能性の「会」、比較表現「比」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。
14	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	使役動詞「叫」、方向補語「～来/去」、 複合補語「～進來/進去」。	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。 テスト(第12課)の準備。
15	おさらい	☆単元テスト4	練習問題を解答し、会話文を読み、覚える。

関連科目	「中国語Ⅰ」
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に1時間ずつ要します。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	「中国語Ⅰ」を履修したうえ、「中国語Ⅱ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語Ⅲ	科目名(英文)	Chinese III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語を基礎に、読む・聴く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。
到達目標	中国での買い物や移動に困らないレベルの聞く力、話す力を身につける。
授業方法と留意点	日本語訳を見て中国語を話す練習もする。毎回予習と復習を必ず行ってください。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第一課 自我介绍 (2) 会話・練習問題	5. 為什麼 6. 因為～所以～ 7. 看来	授業までに練習問題を解答しておく。
3	第二課 我的家庭 (1) 本文・文法	1. 在～長大的 2. 考大学/考上大学 3. 才 4. 除了～以外	課文、会話本文をノートに書き写しておく。
4	第二課 我的家庭 (2) 会話・練習問題	5. 当 (老師) 6. 忙得要命 7. 很少+動詞フレーズ 8. 發短信	授業までに練習問題を解答しておく。
5	第1回単元テスト(筆記と口頭)	第一課・第二課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。
6	第三課 我的一天 (1) 本文・文法	1. 上 (廁所) 2. 「一節」と「第一節」 3. 「分」と「分鐘」 4. 我家離學校比較遠。 5. 一个多小时	課文、会話本文をノートに書き写しておく。
7	第三課 我的一天 (2) 会話・練習問題	6. 我在減肥。 7. 看看電視，聽聽音樂。 8. 我起得很早，睡得不太晚。 9. 雖然～，但是～	授業までに練習問題を解答しておく。
8	第四課 請假 (1) 本文・文法	1. 如果～的話 2. 請假 3. 前置詞「向」 4. 請	課文、会話本文をノートに書き写しておく。
9	第四課 請假 (2) 会話・練習問題	5. 別 6. 前置詞「对」 7. 替	授業までに練習問題を解答しておく。
10	第2回単元テスト(筆記と口頭)	第三課・第四課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。
11	第五課 約會 (1) 本文・文法	1. 叫你久等了 2. 星期六還是星期天? 3. 你看几点合適?	課文、会話本文をノートに書き写しておく。
12	第五課 約會 (2) 会話・練習問題	4. 那就星期天? 5. 反正我沒什麼事兒。	授業までに練習問題を解答しておく。
13	第六課 快要考試了 (1) 本文・文法	1. 今年夏天比往年來得早 2. 熱起來	課文、会話本文をノートに書き写しておく。
14	第六課 快要考試了 (2) 会話・練習問題	3. 一放假，就動身 4. 趁	授業までに練習問題を解答しておく。
15	第3回単元テスト(筆記と口頭)	第五課・第六課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。

関連科目	「中国語 I」、「中国語 II」、「中国語 IV」
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語中級	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	継続は力なり。事前・事後の学習に各 60 分要する。
-----------	----------------------------

担当者の 研究室等	7号館3階 兪研究室
備考	「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」を履修したうえ、「中国語Ⅲ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。



科目名	中国語Ⅳ	科目名(英文)	Chinese IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	礫 玉壘
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	前期の「中国語Ⅲ」に続き、読む・聴く・話す・書く一四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。
到達目標	中国語Ⅲで学んだ事項を定着させるとともに発展させ、比較的優しい新聞記事などを辞書を使って読めるレベルを目指す。
授業方法と留意点	日本語を見て中国語を話す練習もする。事前・事後の学習に各60分要する。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第七課 中国の大学生生活 (2) 会話・練習問題	5 一邊～, 一邊～ 6 当家教 7 由 8 面臨着	授業までに練習問題を解答しておく。
3	第八課 中国菜 (1) 本文・文法	1 根据～不同, ～也不一样 2 以～為主 3 雖然～, 但是～	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
4	第八課 中国菜 (2) 会話・練習問題	4 愛+動詞 5 一提到～, 就～ 6 即	授業までに練習問題を解答しておく。
5	第1回単元テスト(筆記と口頭)	第七課・第八課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙, 文法項目を確認しておく。
6	第九課 中国的人口 (1) 本文・文法	1 也就是說 2 使 3 每+数量詞	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
7	第九課 中国的人口 (2) 会話・練習問題	4 動詞+起来 5 可是～, 却～ 6 尽管～, 但是～	授業までに練習問題を解答しておく。
8	第十課 中国的家庭 (1) 本文・文法	1 誰～誰～ 2 帰 3 在～上	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
9	第十課 中国的家庭 (2) 会話・練習問題	4 把 5 看来	授業までに練習問題を解答しておく。
10	第2回単元テスト(筆記と口頭)	第九課・第十課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙, 文法項目を確認しておく。
11	第十一課 中国人的交際 (1) 本文・文法	1 可見 2 誰也不白吃 3 彼	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
12	第十一課 中国人的交際 (2) 会話・練習問題	4 即使～, 也～ 5 等 6 該我了	授業までに練習問題を解答しておく。
13	第十二課 漢語的外來語 (1) 本文・文法	1 譯自 2 動詞+到	課文, 会話本文をノートに書き写しておく。
14	第十二課 漢語的外來語 (2) 会話・練習問題	3 動詞+成 4 对～來說	授業までに練習問題を解答しておく。
15	第3回単元テスト(筆記と口頭)	第十一課・第十二課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙, 文法項目を確認しておく。

関連科目	「中国語Ⅲ」
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語中級	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2			

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	継続は力なり。予習と復習の学習に1時間ずつ要する。
-----------	---------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	「中国語Ⅲ」を履修したうえ、「中国語Ⅳ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西, 兪, 小都)を通じて問い合わせることも
----	---

科目名	日本語会話F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー (DP)	V科：Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科：A〇,A科：C〇,M科：B2〇,E科：F〇,C科：Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科：DP1〇,DP7△,DP8△,D科：DP1〇,S科：DP1〇,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1〇,W科：DP1〇,DP7〇,N科：DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 1-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 4-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 5-1</td> <td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 5-2</td> <td>前回聞いた内容について発表する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>発表資料の作り方</td> <td>発表資料の作り方について学ぶ</td> <td>発表テーマを決めておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発表準備 1</td> <td>発表資料の作成</td> <td>発表資料の作成 (残り)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発表準備 2</td> <td>発表資料の修正</td> <td>発表練習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>口頭発表</td> <td>発表 質疑応答 振り返り</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	復習	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	復習	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	復習	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	復習	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	復習	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	復習	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	復習																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	復習																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	復習																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語会話FⅡ	科目名(英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅴ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	日本・国際社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関するニュース等を見て、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>学生持ち寄りのトピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>学生持ち寄りのトピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>学生持ち寄りのトピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>学生持ち寄りのトピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>学生持ち寄りのトピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>学生持ち寄りのトピック⑥</td><td>議論</td><td>自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集</td></tr> <tr><td>14</td><td>発表準備</td><td>自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する</td><td>発表練習</td></tr> <tr><td>15</td><td>発表</td><td>口頭発表 質疑応答 振り返り</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習	9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習	10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習	11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習	12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習	13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集	14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習	15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	トピック⑦	議論	復習																																																																
8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習																																																																
9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習																																																																
10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習																																																																
11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習																																																																
12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習																																																																
13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集																																																																
14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習																																																																
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語会話R	科目名(英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本・国際社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関するニュース等を見て、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>学生持ち寄りのトピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>学生持ち寄りのトピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>学生持ち寄りのトピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>学生持ち寄りのトピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>学生持ち寄りのトピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>学生持ち寄りのトピック⑥</td><td>議論</td><td>自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集</td></tr> <tr><td>14</td><td>発表準備</td><td>自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する</td><td>発表練習</td></tr> <tr><td>15</td><td>発表</td><td>口頭発表 質疑応答 振り返り</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習	9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習	10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習	11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習	12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習	13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集	14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習	15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	トピック⑦	議論	復習																																																																
8	学生持ち寄りのトピック①	議論	復習																																																																
9	学生持ち寄りのトピック②	議論	復習																																																																
10	学生持ち寄りのトピック③	議論	復習																																																																
11	学生持ち寄りのトピック④	議論	復習																																																																
12	学生持ち寄りのトピック⑤	議論	復習																																																																
13	学生持ち寄りのトピック⑥	議論	自分の持ち寄りトピックに関するさらなる資料収集																																																																
14	発表準備	自分が持ち寄ったトピックをさらに深めたうえで、発表資料を作成する	発表練習																																																																
15	発表	口頭発表 質疑応答 振り返り	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室 (7号館2階) またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p> <p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>																																																																		

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP7〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p> <p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>																																																																		

科目名	日本語総合R	科目名(英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p> <p>事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>																																																																		

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	--

科目名	日本語読解F II	科目名(英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	4	背理法①	読解、内容理解	復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	ついでに何をする?①	読解、内容理解	復習
	9	ついでに何をする?②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	10	ウイルス発見!①	読解、内容理解	復習
	11	ウイルス発見!②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解F I
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語表現作文 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文 F II
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	---

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅴ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP8〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める
	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習
	8	序論②	序論を書く	復習
	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習
	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習
	11	本論③	本論を書く	復習
	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習
	13	結論②	結論を書く	復習
	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習

関連科目	日本語表現作文FⅠ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、レポート(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう!
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	--

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果(資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文FII
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p> <p>(3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。</p>
----	---

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を開いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	復習
	13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
	14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語文法FⅡ	科目名(英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP8〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を開いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本語文法R	科目名(英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を開いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法FI、日本語読解FII
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	年中行事やしきたりなど日常生活に見られる日本の伝統文化から、日本人の価値観や考え方について、体験もまじえながら考察します。
到達目標	日本の年中行事やしきたりについて理解を深めます。 考察したことや体験を通して学んだことを日本語で表現する力を身に着けます。 日本文化・社会と自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できる力を身に着けます。
授業方法と留意点	授業担当者が用意した自作のスライドやプリントに沿って、テーマについて学び、講義後に理解度の確認小テストを受けます。その後、クラス全体でフィードバックを行います。体験で学んだことは、レポートを作成しほかの受講生たちと意見交換を行います。
科目学習の効果 (資格)	異文化理解を深めます。 異文化に対する柔軟な見方、態度を養います。 日本語の表現能力 (技術) を高めることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	造幣局のさくらの通り抜けを体験しよう
2	花見	講義、小テスト	「茶道」に関するアンケート
3	茶道①	講義、小テスト	DVD (茶道) を視聴
4	茶道②	茶道体験	体験レポート
5	茶道③	体験レポート (茶道) の要約と意見交換 日本語での口頭発表の練習	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における子どもの祝い事に関する行事について
6	冠婚葬祭① —成人式、子どもの祝い事—	口頭発表 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における結婚式 (婚礼) について
7	冠婚葬祭② —結婚式編—	口頭発表 講義 招待状の返信を書く練習 ロールプレイ 袱紗と祝儀の包み方、渡し方	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における葬式、法事について
8	冠婚葬祭③ —葬式編—	口頭発表、 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における贈答文化について
9	日本の贈答文化 —中元/歳暮—	口頭発表、 講義、小テスト	「社寺」に関するアンケート
10	日本の贈答文化 —風呂敷に学ぶ—	「折る・包む・結ぶ」の体験、小テスト	体験レポート
11	神社と寺	講義、小テスト 神社参拝	体験レポート
12	七夕	講義、小テスト 七夕飾りを作ろう	レポート テーマ: 出身国、地域における信仰、祈願について
13	盆踊りに向けて① —盆と盆踊り—	講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ①: 出身国、地域における伝統服飾文化 (民族衣装) について テーマ②: 出身国、地域における伝統舞踊について
14	盆踊りに向けて② —着物—	口頭発表 講義、小テスト	「盆踊り」に関するアンケート
15	盆踊り体験をしよう	摂大国際盆踊り講習会 (浴衣、盆踊り体験)	体験レポート

関連科目	日本語文字・語彙、日本語アカデミックライティング
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学で学ぶための日本語ライティング	藤尾 喜代子, 佐々木 瑞枝, 細井 和代	The Japan Times
	2	知っておきたい日本の年中行事辞典	福田 アジオ, 山崎 祐子 常光徹, 福原 敏男, 菊池 健策	吉川弘文館
	3	Hiragana Times		ヤック企画

評価方法 (基準)	発表 (20%)、レポート (30%)、授業への参加度 (20%)、小テスト (30%)
-----------	--

学生へのメッセージ	実際に体験を楽しみながら日本の文化・社会について学びましょう! また、伝統行事から日本人の価値観や考え方には、どんな秘密があるのか発見してみましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	国際交流センター教員控室 (3号館4階)
----------	----------------------

備考	事前事後学習時間の目安は計60時間。
----	--------------------

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてのディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各課題 (10%) 及び授業への参加度 (10%)、レポート (80%) により総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は約2時間ずつ。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	年中行事やしきたりなど日常生活に見られる日本の伝統文化から、日本人の価値観や考え方について、体験もまじえながら考察します。
到達目標	日本の年中行事やしきたりについて理解を深めます。 考察したことや体験を通して学んだことを日本語で表現する力を身に着けます。 日本文化・社会と自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できる力を身に着けます。
授業方法と留意点	授業担当者が用意した自作のスライドやプリントに沿って、テーマについて学び、講義後に理解度の確認小テストを受けます。その後、クラス全体でフィードバックを行います。体験で学んだことは、レポートを作成しほかの受講生たちと意見交換を行います。
科目学習の効果 (資格)	異文化理解を深めます。 異文化に対する柔軟な見方、態度を養います。 日本語の表現能力 (技術) を高めることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	造幣局のさくらの通り抜けを体験しよう
2	花見	講義、小テスト	「茶道」に関するアンケート
3	茶道①	講義、小テスト	DVD (茶道) を視聴
4	茶道②	茶道体験	体験レポート
5	茶道③	体験レポート (茶道) の要約と意見交換 日本語での口頭発表の練習	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における子どもの祝い事に関する行事について
6	冠婚葬祭① —成人式、子どもの祝い事—	口頭発表 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における結婚式 (婚礼) について
7	冠婚葬祭② —結婚式編—	口頭発表 講義 招待状の返信を書く練習 ロールプレイ 袱紗と祝儀の包み方、渡し方	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における葬式、法事について
8	冠婚葬祭③ —葬式編—	口頭発表、 講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ: 出身国、地域における贈答文化について
9	日本の贈答文化 —中元/歳暮—	口頭発表、 講義、小テスト	「社寺」に関するアンケート
10	日本の贈答文化 —風呂敷に学ぶ—	「折る・包む・結ぶ」の体験、小テスト	体験レポート
11	神社と寺	講義、小テスト 神社参拝	体験レポート
12	七夕	講義、小テスト 七夕飾りを作ろう	レポート テーマ: 出身国、地域における信仰、祈願について
13	盆踊りに向けて① —盆と盆踊り—	講義、小テスト	口頭発表の準備 テーマ①: 出身国、地域における伝統服飾文化 (民族衣装) について テーマ②: 出身国、地域における伝統舞踊について
14	盆踊りに向けて② —着物—	口頭発表 講義、小テスト	「盆踊り」に関するアンケート
15	盆踊り体験をしよう	摂大国際盆踊り講習会 (浴衣、盆踊り体験)	体験レポート

関連科目	日本語文字・語彙、日本語アカデミックライティング
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学で学ぶための日本語ライティング	藤尾 喜代子, 佐々木 瑞枝, 細井 和代	The Japan Times
	2	知っておきたい日本の年中行事辞典	福田 アジオ, 山崎 祐子 常光徹, 福原 敏男, 菊池 健策	吉川弘文館
	3	Hiragana Times		ヤック企画

評価方法 (基準)	発表 (20%)、レポート (30%)、授業への参加度 (20%)、小テスト (30%)
-----------	--

学生へのメッセージ	実際に体験を楽しみながら日本の文化・社会について学びましょう! また、伝統行事から日本人の価値観や考え方には、どんな秘密があるのか発見してみましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	国際交流センター教員控室 (3号館4階)
----------	----------------------

備考	事前事後学習時間の目安は計60時間。
----	--------------------

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴: 内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	映画1: テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1: テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1: テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2: テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
6	映画2: テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
7	映画2: テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3: テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3: 「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4: 「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
13	映画4: 「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
14	映画4: 「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各課題 (10%) 及び授業への参加度 (10%)、レポート (80%) により総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう! 事前・事後学習は約2時間ずつ。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	フランス語 I	科目名 (英文)	French I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中井 裕之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	本授業の目的はフランス語による基礎的コミュニケーション能力の育成にあります。挨拶、注文、道の尋ね方など、日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現をこの授業では学びます。
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。一例えば、日本に旅行に来ているフランス人に偶然、街で出会ったとします。その時フランス語で声をかけてみたくはないでしょうか？あるいはフランスに旅行に行つたとします。レストランで注文する時、店でショッピングをする時、直接フランス語でやりとりがしたくないでしょうか？この授業を取ればそれが可能となります。
授業方法と留意点	基本的な表現を繰り返し口に出して練習する。リスニング、練習問題の解答、学生同士の練習を行なう。教科書を使用するので購入して教室に持ってくる。授業への積極的な参加を望みます。
科目学習の効果 (資格)	仏検 (実用フランス語技能検定試験) 5級へ向けた学力の準備をする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	『話したくなるフランス語』 導入 (pp. 2-3)	アルファベットとその読み方	『話したくなるフランス語』 導入部の予習復習
3	『話したくなるフランス語』 第1課 (pp. 4-9)	物の名前を正確に言う 数字の読み方 (1)	『話したくなるフランス語』 第1課の予習復習、練習問題1
4	『話したくなるフランス語』 第1課つづき	文法事項：男性名詞と女性名詞 名詞の複数形 つづり字と発音 (1)	『話したくなるフランス語』 第1課の予習復習、練習問題2
5	『話したくなるフランス語』 第2課 (pp. 10-15)	基本的な動詞を使い、習慣になっている行為や仕事や仕事や住んでいる場所などについて話す 国、都市の名前	『話したくなるフランス語』 第2課の予習復習、練習問題3
6	『話したくなるフランス語』 第2課つづき	文法事項：否定文 つづり字と発音 (2)	『話したくなるフランス語』 第2課の予習復習、練習問題4、練習問題5
7	『話したくなるフランス語』 第3課 (pp. 16-21)	好き嫌いの言い方 食べ物、飲み物の名前	『話したくなるフランス語』 第3課の予習復習、練習問題6、練習問題7
8	『話したくなるフランス語』 第3課つづき	文法事項：定冠詞、est-ce que を用いる疑問文 リエゾン・エリゾイオン・アンシェスマン 主語人称代名詞、-er 動詞の変化	『話したくなるフランス語』 第3課の予習復習、練習問題8
9	『話したくなるフランス語』 第4課 (pp. 22-27)	人の身分や特徴の表現 国籍、職業の呼び方	『話したくなるフランス語』 第4課の予習復習、練習問題9、練習問題10
10	『話したくなるフランス語』 第4課つづき	文法事項：形容詞の男性形と女性形 ETRE の変化	『話したくなるフランス語』 第4課の予習復習、練習問題11、練習問題12
11	『話したくなるフランス語』 第5課 (pp. 28-33)	動詞 avoir を使った表現 親族の名称	『話したくなるフランス語』 第5課の予習復習、練習問題13、練習問題14
12	『話したくなるフランス語』 第5課つづき	文法事項：不定冠詞、部分冠詞、否定の冠詞 avoir の変化 つづり字と発音 (3)	『話したくなるフランス語』 第5課の予習復習、練習問題15、練習問題16、練習問題17
13	『話したくなるフランス語』 第6課 (pp. 34-39)	動詞 aller を使った表現 乗り物の言い方	『話したくなるフランス語』 第6課の予習復習、練習問題18
14	『話したくなるフランス語』 第6課つづき	文法事項：前置詞と定冠詞の縮約 指示形容詞 aller の変化	『話したくなるフランス語』 第6課の予習復習、練習問題19、練習問題20
15	まとめ	前期学習内容の確認とまとめ	前期学習内容の理解のチェックと復習

関連科目	後期のフランス語 II を合わせて履修することが望ましい
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対訳フランス語で読もう「異邦人」	アルベール・カミュ[著]、柳沢文昭[訳注]	第三書房
	2			

評価方法 (基準)	小テスト (50%) と平常点 (授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題の提出など) (50%)
-----------	--

学生へのメッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をする楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	連絡等は授業教室または非常勤講師室で金曜日の授業時間の前後に口頭または文書で。 授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。 事前・事後学修に各1時間を要する。
----	--

科目名	フランス語Ⅱ	科目名(英文)	French II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中井 裕之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、前期に引き続き、フランス語の基礎的コミュニケーション能力の習得を目指します。挨拶、注文、道の尋ね方など日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現を学びます。フランス語で話す喜びを感じてください。楽しい授業を目指します。
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。基本的なフランス語の言いまわしやを繰り返し練習することで、単に頭で理解できているばかりでなく、場面・状況に応じた表現が自然と口について出るようになります。
授業方法と留意点	基本的な表現を繰り返し口に出して練習する。リスニング、練習問題の解答、学生同士の練習を行なう。教科書(『かたつむりの歌(Chanson des Escargots)』、『話したくなるフランス語』)を使用するので教室に持ってくる。授業への積極的な参加を望みます。
科目学習の効果(資格)	仏検(実用フランス語技能検定試験)5級に相当する学力を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	後期オリエンテーション	後期学習に向けた示唆 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書の説明	テキストの後期学習範囲に目を通しておく
2	動詞活用表	さまざま動詞の活用 以降、適宜、『かたつむりの歌』を味読する	『話したくなるフランス語』巻末動詞活用表
3	『話したくなるフランス語』第7課(pp.40-45)	人、物をたずねる表現 フランス人の名前	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題21
4	『話したくなるフランス語』第7課つづき	文法事項：指示代名詞、直接目的語になる人称代名詞 つづり字と発音(4) CONNAITREの変化	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題22、練習問題23
5	『話したくなるフランス語』第8課(pp.46-51)	可能性、許可、依頼の表現 条件法を用いた表現	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題22、練習問題24
6	『話したくなるフランス語』第8課つづき	文法事項：pouvoirの変化 つづり字と発音(5) 条件法	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題25、練習問題26
7	『話したくなるフランス語』第9課(pp.52-57)	名詞を代名詞で受ける 頻度を表わす表現	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題27
8	『話したくなるフランス語』第9課つづき	文法事項：間接目的語になる人称代名詞 人称代名詞のまとめ	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題28、練習問題29
9	『話したくなるフランス語』第10課(pp.58-63)	未来の予定 時刻の言い方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題30
10	『話したくなるフランス語』第10課つづき	文法事項：代名動詞 未来の表わし方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題31
11	『話したくなるフランス語』第11課(pp.64-69)	過去の表現 月、曜日、日付の言い方	『話したくなるフランス語』ト第11課の予習復習、練習問題32、練習問題33、練習問題34
12	『話したくなるフランス語』第11課つづき	文法事項：複合過去 半過去	『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題35、練習問題36
13	発展的学習(1)	役に立つ表現と文法事項の補足(1) 会話練習(1)	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習
14	発展的学習(2)	役に立つ表現と文法事項の補足(2) 会話練習(2)	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習
15	まとめ	総まとめ	学習内容の理解のチェック

関連科目 前期のフランス語Ⅰを合わせて履修することが望ましい

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	かたつむりの歌(Chanson des Escargots)	田島宏[編], プレヴェール[著]	第三書房
2	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対訳フランス語で読もう「異邦人」	アルベール・カミュ[著], 柳沢文昭[訳注]	第三書房
2				
3				

評価方法(基準)	小テスト(50%)と平常点(授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題の提出など)(50%)
学生へのメッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をするの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	連絡等は授業教室または非常勤講師室で金曜日の授業時間の前後に口頭または文書で。授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	フランス語Ⅲ	科目名(英文)	French III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤本 武司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

基礎科目

授業概要・目的	フランス語会話の初級1
到達目標	フランス語のごく基本的な日常会話ができるようになる。
授業方法と留意点	毎回一定のテーマに沿って、基本的なフランス語の会話表現を紹介し、それを用いて実際に対話の練習を行う。原則として一つのテーマが終了するたびに、簡単な確認テストを行う(5~10分程度：形式は聞き取りや短い発話)。併せて、フランス文化の諸相を映画・音楽を用いて紹介する。特定の教科書は使用せず、自作のプリント教材をその都度配布する。
科目学習の効果(資格)	フランス語Ⅳと合わせて、仏検(実用フランス語検定)4級の聞き取り問題に対応できるオーラルの力をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 フランスの映画・音楽鑑賞	オリエンテーションとこれまでの学習内容の確認 簡単な口頭練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
2	自己紹介・あいさつ等の復習(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
3	自己紹介・あいさつ等の復習(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
4	友人や家族を紹介する(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
5	友人や家族を紹介する(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
6	身の回りの物について尋ねたり答えたりする(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
7	身の回りの物について尋ねたり答えたりする(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
8	好き嫌いを言う(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
9	好き嫌いを言う(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
10	カフェでの注文と支払い(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
11	カフェでの注文と支払い(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
12	もののある場所、位置関係を言う(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
13	もののある場所、位置関係を言う(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
14	復習と総括・発音のまとめ(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
15	復習と総括・発音のまとめ(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	①期末試験は実施しない。 ②授業時の会話練習への積極的な参加を第一とし(50%)、加えて確認テスト、映画鑑賞後のコメント等(50%)を加えて評点を算出する。
学生へのメッセージ	単に語学の勉強というだけではなく、フランスの様々な姿や、日本との違いを一緒に考えてみたいと思います。なお、皆さんのこれまでのフランス語学習内容等にあわせて、上記の計画は大幅に変更することもできます。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	質問等は授業時および授業終了後に直接対応する。 事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	フランス語Ⅳ	科目名(英文)	French IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤本 武司
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		

授業概要・目的	フランス語会話の初級2
到達目標	フランス語の基本的な日常会話ができるようになる。
授業方法と留意点	毎回一定のテーマに沿って、基本的なフランス語の会話表現を紹介し、それを用いて実際に対話の練習を行う。原則として一つのテーマが終了するたびに、簡単な確認テストを行う(5~10分程度：形式は聞き取りや短い発話)。併せて、フランス文化の諸相を映画・音楽を用いて紹介する。特定の教科書は使用せず、自作のプリント教材をその都度配布する。
科目学習の効果(資格)	フランス語 III と合わせて、仏検(実用フランス語検定)4級の聞き取り問題に対応できるオーラルの力をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 フランスの映画・音楽鑑賞	オリエンテーションとこれまでの学習内容の確認 簡単な口頭練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
2	食事と食材に関する表現(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
3	食事と食材に関する表現(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
4	服飾に関する表現(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
5	服飾に関する表現(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
6	日常のスケジュール(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
7	日常のスケジュール(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
8	旅行に関する表現(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
9	旅行に関する表現(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
10	レストランでの注文と支払い(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
11	レストランでの注文と支払い(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
12	天候に関する表現(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
13	天候に関する表現(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
14	総括と総復習(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
15	総括と総復習(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	①期末試験は実施しない。 ②授業時の会話練習への積極的な参加を第一とし(50%)、加えて確認テスト、映画鑑賞後のコメント等(50%)を加えて評点を算出する。
学生へのメッセージ	単に語学の勉強というだけではなく、フランスの様々な姿や、日本との違いを一緒に考えてみたいと思います。なお、皆さんのこれまでのフランス語学習内容等にあわせて、上記の計画は大幅に変更することもできます。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	質問等は授業時および授業終了後に直接対応する。 事前・事後学習に各1時間を要する。

教 養 科 目

科目名	海外ビジネスインターンシップ	科目名 (英文)	Overseas Business Internship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	佐井 英子, 西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>本学では、将来グローバル、あるいは地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。そのためには、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観なども海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と相手国 (インドネシア・バリ島) の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。 ・異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。 ・他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本が抱えている問題について深く考察する。 ・将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。 																		
授業方法と留意点	<p>研修先として美術館 (ホテル、レストラン併設)、PPLH (NPO)、ウダヤナ大学、コーヒー農園、ウブド高校、マングローブセンター等を予定しています。</p> <p>研修先により研修内容は異なり、求められる資質、英語能力が異なります。事前学習において各研修先について説明しますが、受講生自身も調査し、研修先を選択します。有意義なインターンシップにするためには、学生の希望と相手先の要望とのマッチングが非常に重要になります。そのため学生の希望は配慮しますが、学生が最初に希望した研修先に配属されるとは限りません。事前に充分個人面談を行い、話し合いの上決定します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前学習 10日 を予定。現地での各自の研修内容の事前準備 (プレゼン等) が完了するまで行う。 ガイダンス、研修先の研修内容の解説、受け入れ先とのマッチング、バリ島の歴史、習慣、経済状況などを各自調べ発表する。</p> <p>現地実習 10日 (移動日含む)</p> <p>1日目 移動 2日目 環境学習 マングローブセンター、PPLHにて実習 3日目 各研修先へ移動、ガイダンス 4日目～8日目 各研修先にて各々インターンシップ研修実施 9日目 現地視察 10日目 移動日</p> <p>研修内容は、研修先により環境問題に対する取り組み、日本語授業のSA、課外活動のサポート、農業経営・フェアトレードの取り組みなど異なります。各自、毎日研修内容の報告書を作成する。</p> <p>事後学習 3日 (資料の作成が間に合わない場合は、追加する) 報告書の作成、指導、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成、指導、全体報告会</p>																		
関連科目	外国語関連科目、世界の歴史、日本の歴史等																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	実習前の事前学習 (10%)、海外現地研修 60% (実習記録 20%、実習態度 50% (研修先からの評価を勘案し、引率教員が評価する)、実習報告書 (20%)、全体報告会のプレゼン 10%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館8階 佐井研究室 11号館8階 西の坊研究室																		
備考	共同担当者 西の坊 准教授																		

科目名	環境学	科目名(英文)	Environmental Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)			

教養科目

授業概要・目的	<p>環境問題はしばしばグローバルな問題として着目されますが、実際に私たちに影響を与える環境に関わる「問題」は、地域単位で現出します。そのため、環境問題について考えるためには、何よりも地域を知り、地域固有の文脈に沿った解決策を考えていくことが重要なステップとなります。本講義では、国内外のさまざまな地域の環境や環境問題等について学びます。また、地域の自然環境と深く関わって発生する自然災害も扱います。これらを学ぶことで幅広い教養を身につけ、多角的な視野を獲得することを目指します。</p> <p>この科目は「国際教養」プログラム対応科目です。</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは何か、環境問題とは何かについて具体例をもとに説明できる幅広い知識を身につける 2. 私達が暮らしている大阪・関西の特徴や身近に起こる災害について理解する 3. 多角的な視野で国内外の多様な環境や環境問題を把握することができる 																																																																		
授業方法と留意点	<p>プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用する。また、講義中にグループワークやディスカッション、簡単な作業などを通して受講者の意見を求めることもある。受講人数によっては屋外での巡検も計画する。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>環境を学ぶための基礎知識1</td> <td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境を学ぶための基礎知識2</td> <td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>環境を学ぶための基礎知識3</td> <td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>環境を学ぶための基礎知識4</td> <td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>環境と自然災害1</td> <td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>環境と自然災害2</td> <td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>環境と自然災害3</td> <td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>環境と自然災害4</td> <td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>地球環境問題1</td> <td>地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>地球環境問題2</td> <td>地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>地球環境問題3</td> <td>地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>身近な地域の環境1</td> <td>身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>身近な地域の環境2</td> <td>身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>身近な地域の環境3・授業のまとめ</td> <td>全体のまとめ</td> <td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	2	環境を学ぶための基礎知識1	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	3	環境を学ぶための基礎知識2	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	4	環境を学ぶための基礎知識3	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	5	環境を学ぶための基礎知識4	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	6	環境と自然災害1	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	7	環境と自然災害2	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	8	環境と自然災害3	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	9	環境と自然災害4	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	10	地球環境問題1	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	11	地球環境問題2	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	12	地球環境問題3	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	13	身近な地域の環境1	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	14	身近な地域の環境2	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	15	身近な地域の環境3・授業のまとめ	全体のまとめ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
2	環境を学ぶための基礎知識1	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
3	環境を学ぶための基礎知識2	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
4	環境を学ぶための基礎知識3	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
5	環境を学ぶための基礎知識4	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
6	環境と自然災害1	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
7	環境と自然災害2	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
8	環境と自然災害3	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
9	環境と自然災害4	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
10	地球環境問題1	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
11	地球環境問題2	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
12	地球環境問題3	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
13	身近な地域の環境1	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
14	身近な地域の環境2	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
15	身近な地域の環境3・授業のまとめ	全体のまとめ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
関連科目	<p>国際教養プログラム関連科目（暮らしの中の文化、多文化共生論等）</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等）（60%）とレポート（40%）で評価します。</p>																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	<p>7号館5階（手代木研究室）</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。</p>																																																																		

科目名	北河内を知る	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荻田 喜代一・伊藤 謙・尾山 廣・鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「講演の聴講」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。情報収集ツールとしてスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等を持参すること
科目学習の効果(資格)	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・グループワークのアイスブレイク 9月15日(土)	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
2	北河内地域に関する事前学習 9月29日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
3	北河内地域に関する講演 9月29日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
4	グループワーク・プレゼンテーション 9月29日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
5	北河内地域に関する事前学習 10月20日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
6	北河内地域に関する講演 10月20日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
7	グループワーク・プレゼンテーション 10月20日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
8	北河内地域に関する事前学習 11月17日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
9	北河内地域に関する講演 11月17日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
10	グループワーク・プレゼンテーション 11月17日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
11	北河内地域に関する事前学習 12月1日(土)	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
12	北河内地域に関する講演 12月1日(土)	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
13	グループワーク・プレゼンテーション 12月1日(土)	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
14	全体のまとめと振り返りのためのグループワーク 12月15日(土)	北河内地域の活性化や課題の解決のための具体的なアクションプランを策定する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
15	プレゼンテーション 12月15日(土)	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。

関連科目 ソーシャルイノベーション副専攻科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準) 個人レポートの評価(40%)、グループごとの講演聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。

学生へのメッセージ 地域創生の第一歩を踏み出してみませんか?

担当者の 研究室等	荻田喜代一（薬学部・副学長室）、鶴坂貴恵（経営学部・経営情報学科）、尾山廣（理工学部・生命科学科）、伊藤謙（理工学部・都市環境工学科）、喜多大三
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。



科目名	グローバルな視点から多文化共生を考える	科目名 (英文)	Realizing the Importance of Cultural Diversity -from the Glo
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	糟谷 英之
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>摂南大学が加盟する国連アカデミックインパクトの原則 10「異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く」を実施するため、移民・難民・マイノリティーの問題など人権問題を考えることによってグローバルな人材を育成することを目的とします。</p> <p>現在では海外で活動する場合に限らず、地方自治体などを含め地域社会で活動する際にも国際的な人権感覚を身につけることが重要であると考えます。</p> <p>こうした目的を達成するため 授業では、次の二つの課題を実行します。</p> <p>①国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) と連携し、学校パートナーズとして映画祭や講演会の企画運営をします。</p> <p>②タイでの海外研修を行います。</p> <p>*2018年度については、①は、10月、②は、2019年2月に実施予定。</p>																
到達目標	<p>学校パートナーズとして UNHCR 難民映画祭の企画運営への参加、およびタイでの海外研修を通じて、移民・難民・マイノリティーの問題を自分自身の問題として捉え直し、グローバルな人材として必要な人権感覚を身につけます。</p> <p>さらに企画運営能力や問題解決能力およびコミュニケーション能力の開発を目指します。</p>																
授業方法と留意点	<p>集中講義の形式をとります。</p> <p>通常の講義とは異なり毎週授業があるわけではありません。しかし UNHCR 難民映画祭・学校パートナーズ企画および海外研修のため事前及び事後に不定期に集まります。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>先の目的を実現するため本講義では次の二つの課題を実行します。</p> <p>①まず国連アカデミックインパクト加盟大学の取り組みの一環として、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) と連携して映画祭や講演会の企画運営を目指します。これによって受講生の国際的人権意識を高めるとともに企画運営能力、コミュニケーション能力などを開発します。情宣活動を通じて大学構成員全体の国際的人権意識をも高めることにもなるでしょう。</p> <p>①の実施に当たり、</p> <p>(1) 寝屋川市国際交流協会などと連携して宣伝活動を行い、一般市民へのアピールを行います。</p> <p>(2) 大学祭中の開催を計画し、大学の学生・教職員にもせっきょくにかかわってもらいます。</p> <p>(3) 開催後、実施報告書やアンケート結果などをもとに検証を行い次年度の参考にします。</p> <p>②次にタイでの海外研修を通じ、移民、難民・マイノリティー問題をあらためて考えます。現地での語学研修、さらに現地の国際的機関や NGO などの人々へのインタビューなどを通じ多文化共生とは何かを体感したいと思います。現地での体験が①で身につけた知識、企画運営能力、問題解決能力およびコミュニケーション能力を真に生きたものにするでしょう。</p> <p>②の海外研修実施に当たり、</p> <p>(1) 事前の打ち合わせにおいて、現地の情報収集と危機管理の講習を行います。</p> <p>(2) 研修の目標を各人が設定するため事前のアンケートを採ります。</p> <p>(3) 現地では、研修ノートを取り、それを基に最終レポートを作成してもらいます。</p> <p>最終的には、提出されたレポートを基礎にして報告会を持ちたいと思います。</p>																
関連科目	国際人権法、法律英語、グローバル社会論、国際ボランティア論など																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	二つの課題①②の事前打ち合わせへ積極的参加 (20%)、①②の研修参加態度 (60%) および検証報告 (20%) の内容を総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	<p>いま私たちが住む世界は今までにない大きな変化を経験しています。これからは外国人を含めさまざまな人々と共に生きていく時代です。こうした社会で生きていくために我々一人ひとりにとって何が必要であるかを講義を通じて是非感じ取ってください。</p> <p>海外研修を通じて異文化を体験してください。それだけでも君たちにとって大きな意味があると思います。</p>																
担当者の研究室等	<p>11号館 10階 糟谷研究室</p> <p>E-mail: kasutani@law.setsunan.ac.jp</p>																
備考	<p>*海外研修期間は、2019年2月中旬を予定しています (都合により若干変更する場合があります)。</p> <p>*また法学部学生は、前期科目の「法律英語」を予定していますできれば受講してください。</p> <p>*UNHCR 難民映画祭や海外研修の具体的な内容については、ガイダンスで紹介いたします。</p> <p>*海外研修への参加費は基本的には自己負担となりますので注意してください。</p>																

科目名	経済学入門	科目名(英文)	Introduction to Economics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	経済現象を理解するために必要な基本的知識や経済学的な考え方、現実の経済現象を事例として参照しながら、解説することを目的とする。		
到達目標	1) 戦後日本経済の歴史の大まかな流れについて説明できる。 2) 雇用、企業組織、財政、社会保障といった日本経済の動きに関わる基本的な事項について説明でき、日々の経済ニュースを理解できるようになる。 3) 日本経済が抱える問題について、その重要性を説明することができ、それにかんする異なる立場の議論を比較することができる。		
授業方法と留意点	基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。毎回、レジュメを配布する。		
科目学習の効果(資格)	日々の経済ニュースを理解できるようになることで、就職活動において企業を選択する際や、企業で働く際に客観的な判断ができるようになる。		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等 事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	現代経済で起こっていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。 講義内容の復習
	2	経済とは	経済の基本的な仕組みについて概説する 講義内容の復習
	3	戦後日本経済の歩み(1)	終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する 講義内容の復習
	4	戦後日本経済の歩み(2)	高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する 講義内容の復習
	5	戦後日本経済の歩み(3)	高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する 講義内容の復習
	6	戦後日本経済の歩み(4)	安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する 講義内容の復習
	7	戦後日本経済の歩み(5)	バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する 講義内容の復習
	8	雇用のしくみ	企業と労働者の関係について、日本の雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する 講義内容の復習
	9	企業のしくみ	所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する 講義内容の復習
	10	授業内討論(1)非正規雇用の是非	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式の討論を行う 事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り
	11	財政のしくみ(1)	日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する 講義内容の復習
	12	財政のしくみ(2)	日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する 講義内容の復習
	13	社会保障のしくみ	日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する 講義内容の復習
	14	授業内討論(2)日本の公的年金制度は持続可能か	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式の討論を行う 事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り
	15	まとめ	全体の総括 講義内容の復習、定期試験への準備
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	日本経済の常識	中原隆幸編 ナカニシヤ出版
	2	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎他 ナツメ社
	3		
評価方法(基準)	授業時間内外の課題(50%)、期末レポート(50%)で総合的に評価する。授業時間内外の課題ではMoodleを利用するので、授業初回での指示にしたがって速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けられないので注意してください。なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。		
学生へのメッセージ	日々のニュースなどで目にする「経済」に関する事柄は、小難しく自分には関係のないことのように思えてしまっていますが、実際にはみなさんの身の回りで起こっていることと密接に結びついています。そうしたことをこの授業で感じ取ってもらえればと思います。そのためには、少々難しく感じても、日々の新聞やニュースで目にする経済的な事象に関心を持つことから始めてもらいたいです。		
担当者の研究室等			
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更がありうる。 事前事後学習の総時間の目安は60時間。		

科目名	経済のしくみ	科目名(英文)	Basic Economics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	経済現象を理解するために必要な基本的知識や経済学的な考え方、現実の経済現象を事例として参照しながら、解説することを目的とする。			
到達目標	1) 戦後日本経済の歴史の大まかな流れについて説明できる。 2) 雇用、企業組織、財政、社会保障といった日本経済の動きに関わる基本的な事項について説明でき、日々の経済ニュースを理解できるようになる。 3) 日本経済が抱える問題について、その重要性を説明することができ、それにかんする異なる立場の議論を比較することができる。			
授業方法と留意点	基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。毎回、レジュメを配布する。			
科目学習の効果(資格)	日々の経済ニュースを理解できるようになることで、就職活動において企業を選択する際や、企業で働く際に客観的な判断ができるようになる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	現代経済で起こっていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。	講義内容の復習
	2	経済とは	経済の基本的な仕組みについて概説する	講義内容の復習
	3	戦後日本経済の歩み(1)	終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する	講義内容の復習
	4	戦後日本経済の歩み(2)	高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する	講義内容の復習
	5	戦後日本経済の歩み(3)	高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する	講義内容の復習
	6	戦後日本経済の歩み(4)	安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する	講義内容の復習
	7	戦後日本経済の歩み(5)	バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する	講義内容の復習
	8	雇用のしくみ	企業と労働者の関係について、日本の雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する	講義内容の復習
	9	企業のしくみ	所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する	講義内容の復習
	10	授業内討論(1)非正規雇用の是非	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式の討論を行う	事前: 討論のための準備 事後: 討論内容の振り返り
	11	財政のしくみ(1)	日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する	講義内容の復習
	12	財政のしくみ(2)	日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する	講義内容の復習
	13	社会保障のしくみ	日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する	講義内容の復習
	14	授業内討論(2)日本の公的年金制度は持続可能か	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式の討論を行う	事前: 討論のための準備 事後: 討論内容の振り返り
	15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習、定期試験への準備
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本経済の常識	中原隆幸編	ナカニシヤ出版
	2	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎他	ナツメ社
	3			
評価方法(基準)	授業時間内外の課題(50%)、期末レポート(50%)で総合的に評価する。授業時間内外の課題ではMoodleを利用するので、授業初回での指示にしたがって速やかに登録してください。また期限以降の登録は受け付けられないので注意してください。なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。			
学生へのメッセージ	日々のニュースなどで目にする「経済」に関する事柄は、小難しく自分には関係のないことのように思えてしまいがちですが、実際にはみなさんの身の回りで起こっていることと密接に結びついています。そうしたことをこの授業で感じ取ってもらえればと思います。そのためには、少々難しく感じても、日々の新聞やニュースで目にする経済的な事象に関心を持つことから始めてもらいたいです。			
担当者の研究室等				
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更がありうる。 事前事後学習の総時間の目安は60時間。			

科目名	芸術論	科目名(英文)	Fine Arts
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩間 香
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	芸術は作者、時代、思想などさまざまな要素から成り立っている。この講義では各時代の代表的な作品を鑑賞しながら、どのような社会状況のもとに生み出されたのか、何に用いられたのか、主題はなにか、技法や技術の完成度はどうかなどを解説する。日本の美術や文化を知ることが、人生を豊かにするだけでなく、グローバル社会において自分を支える力になるだろう。
到達目標	日本美術の基本的な知識を修得する。教養として必要な程度の知識を身につけるとともに、美術や歴史への関心を高める。
授業方法と留意点	講義は常時スライドや教材表示装置を使用する。必要に応じノートに書き留めてもらいたい。
科目学習の効果(資格)	日本文化・美術に関する基本的な知識を身につける。学芸員資格に必要な。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	奈良時代 飛鳥美術	法隆寺の美術	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、飛鳥時代の歴史について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	2	奈良時代 天平美術	興福寺・東大寺の仏像	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、天平時代の歴史について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	3	平安時代 密教美術	曼荼羅/密教彫刻	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、平安前期の歴史について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	4	平安時代 浄土教美術	平等院	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、平安後期の歴史について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	5	平安時代 四大絵巻物	源氏物語絵巻/信貴山縁起/伴大納言絵巻/鳥獣戯画	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、院政期の歴史について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	6	鎌倉時代 鎌倉彫刻	運慶とその一門	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、鎌倉時代の歴史について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	7	鎌倉時代 祖師絵伝絵巻	一遍聖絵/華嚴縁起	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、鎌倉新仏教について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	8	室町時代 水墨画	雪舟	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、室町j時代の歴史について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	9	桃山時代 金碧障壁画	狩野永徳	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、桃山時代の歴史について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	10	江戸時代 流派体制の確立	狩野探幽	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸時代初期について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	11	江戸時代 琳派の継承	俵屋宗達/尾形光琳	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸前期の歴史について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	12	江戸時代 浮世絵1	菱川師宣/鈴木春信	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸前期の文化について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	13	江戸時代 写生派	円山応挙	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸中期の歴史について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	14	江戸時代 浮世絵2	歌麿/写楽	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸後期の歴史について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。
	15	江戸時代 浮世絵3	北斎/広重	事前:教材ホルダからプリントをダウンロードし、幕末の歴史について調べておく。 事後:ノートを整理し、分からないところを調べる。

関連科目	日本史学・日本文化史、学芸員課程の科目
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	原色日本の美術		小学館
	2	人間の美術	梅原猛	学習研究社
	3			

評価方法(基準)	定期試験(100%)
----------	------------

学生へのメッセージ	専用のノートを作り、毎回持参すること。博物館・美術館・寺・神社などに出かけて実際に美術を見に行ってください。
-----------	--

教養科目

担当者の 研究室等	7号館5階(岩間研究室)
備考	講義に係る予復習は、毎回4時間程度を目安とする

科目名	現代韓国事情	科目名(英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな隣国である韓国。そのような韓国に関して、大きな歴史的流れを検討し、近現代の韓国社会における変化を長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	この講義を通じて、韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国近現代史を概観できるようになる。 ・「解放」前後における朝鮮半島の政治状況について理解する。 ・「民主化」前後における韓国の政治状況について理解する。
授業方法と留意点	韓国近現代史の基礎を踏まえた上で、関連する映画作品を鑑賞し、それらの解説なども交えながら講義を進める。
科目学習の効果(資格)	韓国近現代史および現代韓国社会に関する基礎的な理解

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	近現代韓国の基礎知識(1)	韓国近現代史概説: 1945年以前と以後	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
3	近現代韓国の基礎知識(2)	韓国近現代史概説: 軍事政権の時代と民主化後の時代	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
4	映画作品に見る「韓国現代史」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
5	映画作品に見る「韓国現代史」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
6	近現代韓国社会への理解(1)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
7	近現代韓国社会への理解(2)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
8	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
9	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
10	近現代韓国社会への理解(3)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
11	近現代韓国社会への理解(4)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
12	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
13	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
14	現代韓国に向き合う(1)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)
15	現代韓国に向き合う(2)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと(目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと(目安時間: 60分)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国現代史	木村幹	中公新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。			

科目名	現代社会と法	科目名(英文)	Law in Contemporary Society
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 このような法の特徴と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 様々な法規範を適用ないし運用する上で、当該法規範の趣旨を確認し、さらにその修正規範を確実におさえる。 民事法と刑事法の違いについて、具体的に他者に説明できるようにする。 身近な事例について法学的アプローチをすることができるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 講義形式によるが、教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> 公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	家族関係と法(1)	<ul style="list-style-type: none"> 婚姻とその不当破棄 内縁と重婚の内縁関係 婚姻の効果 婚姻費用 日常家事債務 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
3	家族関係と法(2)	<ul style="list-style-type: none"> 離婚 協議離婚と調停離婚 裁判離婚 離婚原因 有責配偶者の離婚請求ほか 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
4	家族関係と法(3)	<ul style="list-style-type: none"> 親子 認知と非嫡出子 親族間の扶養 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
5	家族関係と法(4)	<ul style="list-style-type: none"> 相続 遺留分 寄与分 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
6	財産関係と法(1)	<ul style="list-style-type: none"> 契約と意思表示 契約と当事者 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
7	財産関係と法(2)	<ul style="list-style-type: none"> 債務不履行と危険負担 契約の解除 瑕疵担保責任 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
8	財産関係と法(3)	<ul style="list-style-type: none"> 事務管理と不当利得 不法行為 使用者責任 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
9	医療と法	<ul style="list-style-type: none"> 医療契約 医療過誤 専断的医療行為 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
10	消費者と法	<ul style="list-style-type: none"> 訪問販売 マルチ商法 ローンとクレジット契約 製造物責任法 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
11	職場と法	<ul style="list-style-type: none"> 労働法とは何か 労働紛争の諸類型 ブラック企業 非正規雇用の問題点 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
12	犯罪と法(1)	<ul style="list-style-type: none"> 刑法の意義 罪刑法定主義とその派生原則 犯罪論 緊急行為 未遂と共犯 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
13	犯罪と法(2)	<ul style="list-style-type: none"> 逮捕と勾留 捜索と差押 公訴の提起 少年法の特例 死刑をめぐる諸問題 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
14	人権と国際法	<ul style="list-style-type: none"> 立憲主義と憲法 自由権と社会権 国際関係と紛争 集団的自衛権 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
15	法の適用、法源及び法の解釈	<ul style="list-style-type: none"> 制定法と慣習法 判例・学説・条理 概念法学と自由法学 文理解釈と論理解釈 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習

関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎からわかる法学(第2版)	谷口 貴都=松原 哲	成文堂

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学入門 (第6版補訂版) (有斐閣双書)	末川 博/編著	有斐閣
	2	現代法学入門 (第4版) (有斐閣双書)	伊藤 正己=加藤一郎/編著	有斐閣
	3	判例法学 (第5版)	西村 健一郎=西井 正弘=初宿 正典/編著	有斐閣
評価方法 (基準)	・ 定期試験の得点により評価する。			
学生へのメッセージ	・ 法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。			
担当者の研究室等	11号館10階 小野准教授室			
備考	<p>事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回1,5時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。</p> <p>・ 受講生の興味や関心に応じて、例えば、刑事法や家族法分野を増やすなど、講義内容を多少変更することがある。</p>			

科目名	現代ビジネス論	科目名 (英文)	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧 美喜男
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

教養科目

授業概要・目的
 本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。
 両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本の経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー事例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。

到達目標
 本講義では、以下の3つの目標を設定する。
 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。
 ②日本の経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。
 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。

授業方法と留意点
 可能な限り双方向 (interactive) の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。

科目学習の効果 (資格)
 資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	現在のビジネス環境及びリーダーの重要性	オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。働くとは何かをを考える。	日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。
2	マネージャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネージャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいリーダーの特徴を考えてみる。
5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(1~5回までのレポート提出)	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしているのか考えてみる。
7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。多国籍従業員の意識。	トヨタ自動車・GMとの合弁企業 NUMMI がなぜ設立されたのか調べてみよう。最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。	日本人は自己主張をしないとされています。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか？
9	自身を考える	日米中韓4か国の若者調査の紹介・12人の有識者による若者の実像。人材育成モデルの紹介。人材育成モデルの提案。	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか？自身の能力をどう評価していますか？
10	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢の観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。(6~10回までのレポート提出)	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。
11	自分はどうなるか 事例1. 二宮尊徳	日本の経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。	以下3回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。3人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
12	事例2 本田技研創業者藤沢武夫の紹介	本田の実質的な経営者の追求したマネジメントの実態に迫る。	11回参照
13	事例3 パナソニック創業者 松下幸之助	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	11回参照
14	君たちはどのようなリーダーを目指すか	自由討議 10人ぐらいのチームに分け、討議・各グループの発表。	事例紹介のうちどの点がすごいと思ったか事前に考えておく。
15	まとめ	全14回の講義の中で浮かび上がったことを総括する。	

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際人的資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社
2	マネジメント入門	スティーブンP. ロビンス	ダイヤモンド社

	3	世界が称賛する日本の経営	伊勢雅臣	育鵬社
評価方法 (基準)	第5回時のレポート(20%)、第10回時のレポート(20%)、定期試験(60%)			
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。			
担当者の 研究室等	教務課(11号館1階)			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」			

科目名	Conflict の表象－20 世紀マンガ・アニメの文化誌－	科目名 (英文)	How are "conflicts" culturally represented in 20th century Japanese manga and animation?
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊, 赤澤 春彦, 有馬 善一, 上田 達, 小山 裕樹, 住吉 誠
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		

授業概要・目的
 conflict とは con (共に) flict (衝突する) こと。対立や争い、矛盾、葛藤を意味する。戦後の日本は「平和」が続いてきたように語られるが、直接戦争に関わらなかつただけで、そこには様々な矛盾や軋轢が内包されてきた。これらの conflict を描き出してきた媒体の一つが、20 世紀日本のマンガ・アニメである。それゆえに日本のマンガ・アニメは現代社会の普遍的なテーマを扱うものとして、一部のファンだけではなく、世界中の人々に影響を与え続けてきたのである。この講義では、特に影響が大きく、メディアミックスとして展開した数本の作品を取り上げ、多様な視点から分析を試みたい。

到達目標
 マンガやアニメを娯楽的に享受するだけではなく、そこに現代の価値観・世界観を読み取るための論点を見出し、考えることができる。

授業方法と留意点
 6名の教員が担当する。
 毎回作品を決め、1名の教員がテーマを設定し、論じる。受講生はコメントペーパーを提出する。
 それぞれの作品について、受講生は講義の内容も踏まえて考察し、レポートを提出する。
 受講生は必ず前週に指定された事前学習に取り組んでくること。
 ※授業以外の学習時間の目安は、約 60 時間。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	20 世紀日本のマンガ・アニメ	代表的な作品を取り上げ、マンガ・アニメの果たしてきた役割を考える (担当: 橋本)	-----
2	機動戦士ガンダム 1	ガンダム作品における家族や子育ての描かれ方について考える (担当: 小山)	劇場版『機動戦士ガンダム』をみる
3	機動戦士ガンダム 2	ガンダム作品における女性の描かれ方について考える (担当: 住吉)	劇場版『機動戦士ガンダム II 哀・戦士編』をみる
4	機動戦士ガンダム 3	ガンダム作品におけるシャア・アズナブルの位置づけについて考える (担当: 赤澤)	劇場版『機動戦士ガンダム III めぐりあい宇宙編』をみる
5	機動戦士ガンダム 4	モビルスーツ (モビルアーマー) について受講生とともに議論する (担当: 赤澤・小山・住吉)	モビルスーツに関するレポートをまとめる
6	風の谷のナウシカ 1	テーマの概説、アニメ版、漫画版の概要と違いについて (担当: 有馬)	アニメ『風の谷のナウシカ』を見る
7	風の谷のナウシカ 2	「風の谷」から「中心」と「周辺」について考える (担当: 上田)	コミック『風の谷のナウシカ』1・2・3 巻を読む (徳間書店、全 7 巻)
8	風の谷のナウシカ 3	「皇弟」と「蟲使い」から「おぞましいもの」の描かれ方について考える (担当: 橋本)	コミック『風の谷のナウシカ』4・5 巻を読む (徳間書店、全 7 巻)
9	風の谷のナウシカ 4	「巨神兵」の謎と多義性について考える (担当: 有馬)	コミック『風の谷のナウシカ』6・7 巻を読む (徳間書店、全 7 巻)
10	ジョジョの奇妙な冒険 1	ジョジョの奇妙な表現力 (担当: 赤澤)	コミック『ジョジョの奇妙な冒険』を数巻読む 主要登場人物について確認する
11	ジョジョの奇妙な冒険 2	ジョジョの奇妙な想像力 (担当: 上田)	コミック『ジョジョの奇妙な冒険』を数巻読む 主要登場人物やスタンドについて確認する
12	ジョジョの奇妙な冒険 3	ジョジョの奇妙な人間性 (担当: 小山)	コミック『ジョジョの奇妙な冒険』を数巻読む 主要登場人物について確認する
13	攻殻機動隊 1	「コピー」と「多様性」について考える (担当: 住吉)	押井守『GHOST IN THE SHELL』を見る
14	攻殻機動隊 2	「脳が支配されること」の描かれ方について考える (担当: 橋本)	士郎正宗『攻殻機動隊』1 巻を読む 「人形使い事件」について確認する
15	攻殻機動隊 3	「タチコマ」に見られる AI の「個性」、さらに、AI と人間との関係性について考える (担当: 有馬)	『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX The Laughing Man』を見る

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

評価方法 (基準)
 各作品のレポート 60% (15%×4)、授業への参加度 (毎回のコメントペーパー) 40%

学生へのメッセージ

担当者の研究室等
 7 号館 4 階 (赤澤・有馬・小山・住吉・橋本)
 7 号館 5 階 (上田)

備考

科目名	自然科学の理解	科目名 (英文)	Introduction to Natural Science
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	地球温暖化や放射性廃棄物などの社会問題は、物理、化学、生物、天文学や地球物理学等の科学分野にまたがっている。これらの問題を議論するときには、総合的な科学的知識が必要となり、そのような知識を得るためには、自然科学のすべてを概観でき、またこれにより自然界の構造的な理解を明確にできるようになる必要がある。 このコースでは、自然科学に対する知識の習得と、大局的な理解を目指す。
到達目標	自然科学の体系や基本的な考え方について理解し、また、自然科学のすべてを概観でき、説明できる。 またこれにより自然界の構造的な理解を明確にできるようになる。科学リテラシーを確立できる。
授業方法と留意点	講義を主体とし、各回のテーマに沿って系統的に自然科学全体を説明する。講義内容について Moodle を用いて資料を配付し、パワーポイント及び黒板を用いて解説する。講義ごとに Moodle を介してミニッツペーパー・リアクションペーパーの提出を求める。また、本講義はアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。具体的には、講義終了約 20 分前に時間を設け、グループワークによる、各講義の内容についてのディスカッション、まとめ作成及びピア評価を行う。その他、必要に応じてレポート、小論文、演習問題などの課題を課す。Moodle でこれらを行います。グループディスカッションや SGD を行います。研究発表やその他のアクティブラーニングの手法を用いて講義を行います。また、反転授業を行う回も設けます。自然科学は多岐にわたります。物理学、化学、生命科学等を文系の学生さんによく分かるようにバランス良く解説します。毎回の授業の終りに Moodle を用いて「ミニッツペーパー・リアクションペーパー」を書く時間（5 分間）を設け、理解の程度を把握すると同時に質問を受け、次回に回答する。また講義開始前の学生証による出席確認と、講義終了時のミニッツペーパー・リアクションペーパーの提出の両方がなされたことをもって、講義出席の証拠とする。Moodle を多用します。スマホもしくはタブレット必須の講義です。スマホを充電してから講義に臨んで下さい。
科目学習の効果 (資格)	科学リテラシーを確立できる。また、さまざまなテクノロジーと、我々のくらしや健康との関わりが理解できる。Moodle を使った多講義に違和感なく取り組めるようになる。アクティブラーニングを体験して、自ら学習できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	自然科学とは何か	自然科学の学習前に、なぜ科学を勉強していくのかを明確にする。これから自然科学を統合的に理解することの意義を知る。	講義前に配布資料を予習・復習する。予習した上で?、今回の講義に関する質問を 5 個考えてくると言う課題を Moodle を介して講義 前に予め提出させる。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパー・リアクションペーパー?一ハ?一?振り返り学習及び?復習する。
2	天空の法則と地上での運動	自然界にある秩序を認識することで、科学的方法論が発達してきた過程を学ぶ。	講義前に配布資料を予習・復習する。予習した上で?、今回の講義に関する質問を 5 個考えてくると言う課題を Moodle を介して講義 前に予め提出させる。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパー・リアクションペーパー?一ハ?一?振り返り学習及び?復習する。
3	ニュートンの法則	ニュートンが示した、運動とその原因としての力の関係を理解する。	講義前に配布資料を予習・復習する。予習した上で?、今回の講義に関する質問を 5 個考えてくると言う課題を Moodle を介して講義 前に予め提出させる。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパー・リアクションペーパー?一ハ?一?振り返り学習及び?復習する。
4	力学的エネルギー	力学的エネルギーとは何かについて学習する。	講義前に配布資料を予習・復習する。予習した上で?、今回の講義に関する質問を 5 個考えてくると言う課題を Moodle を介して講義 前に予め提出させる。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパー・リアクションペーパー?一ハ?一?振り返り学習及び?復習する。
5	光の性質と相互作用及び相対性理論	相対性の考え方に触れ、アインシュタインの相対性理論を理解する。	講義前に配布資料を予習・復習する。予習した上で?、今回の講義に関する質問を 5 個考えてくると言う課題を Moodle を介して講義 前に予め提出させる。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパー・リアクションペーパー?一ハ?一?振り返り学習及び?復習する。
6	放射性物質と原子力	原子核の中で起こる法則について学ぶ。	講義前に配布資料を予習・復習する。予習した上で?、今回の講義に関する質問を 5 個考えてくると言う課題を Moodle を介して講義 前に予め提出させる。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパー・リアクションペーパー?一ハ?一?振り返り学習及び?復習する。
7	基本的な化学の概念と化学結合	化学の基本となる原子間の結合、化学結合について学ぶ。	講義前に配布資料を予習・復習する。予習した上で?、今回の講義に関する質問を 5 個考えてくると言う課題を Moodle を介して講義 前に予め提出させる。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパー・リアクションペーパー?一ハ?一?振り返り学習及び?復習する。
8	有機化学と化学反応	有機化学の基本的な反応の仕組みについて理解する。	講義前に配布資料を予習・復習する。予習した上で?、今回の講義に関する質問を 5 個考えてくると言う課題を Moodle を介して講義 前に予め提出させる。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパー・リアクションペーパー?一ハ?一?振り返り学習及び?復習する。
9	物質の性質と科学的新素材	物質の持つ基本的な性質を学び、近年になり増え続ける科学的新素材についても学ぶ。	講義前に配布資料を予習・復習する。予習した上で?、今回の講義に関する質問を 5 個考えてくると言う課題を Moodle を介して講義 前に予め提出させる。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパー・リアクションペーパー?一ハ?一?振り返り学習及び?復習する。
10	生命の発生と進化の戦略	生物の種類や成り立ち、生物進化の概略	講義前に配布資料を予習・復習する。予習した上

			について学ぶ。	て?、今回の講義に関する質問を 5 個考えてくると言う課題を Moodle を介して講義前に予め提出させる。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパー?ーハ?ー・リアクションペーパー?ーハ?ー?振り返り学習及び?復習する。																
	11	生命の基本となる化学物質	生命科学全般について概略する。特に、生命の基本となる化学物質について学ぶ。	講義前に配布資料を予習・復習する。予習した上で?、今回の講義に関する質問を 5 個考えてくると言う課題を Moodle を介して講義前に予め提出させる。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパー?ーハ?ー・リアクションペーパー?ーハ?ー?振り返り学習及び?復習する。																
	12	細胞と生体エネルギー	細胞の構成や、細胞が如何にしてエネルギーを作り出しているかなどについて学ぶ	講義前に配布資料を予習・復習する。予習した上で?、今回の講義に関する質問を 5 個考えてくると言う課題を Moodle を介して講義前に予め提出させる。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパー?ーハ?ー・リアクションペーパー?ーハ?ー?振り返り学習及び?復習する。																
	13	iPS細胞と遺伝子治療	iPS細胞とは何か、また、胚性幹細胞との違いや利点などについて学ぶ。また、再生医療の最先端に触れる。	講義前に配布資料を予習・復習する。予習した上で?、今回の講義に関する質問を 5 個考えてくると言う課題を Moodle を介して講義前に予め提出させる。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパー?ーハ?ー・リアクションペーパー?ーハ?ー?振り返り学習及び?復習する。																
	14	なぜがんになるのか	がんとは何か、そしてがんになる過程を学び、なぜがんになるのかを知り、がんの予防法についても考察する。	講義前に配布資料を予習・復習する。予習した上で?、今回の講義に関する質問を 5 個考えてくると言う課題を Moodle を介して講義前に予め提出させる。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパー?ーハ?ー・リアクションペーパー?ーハ?ー?振り返り学習及び?復習する。																
	15	環境の科学と人間	主にオゾン層の破壊、地球の温暖化等に関して発生原因、発生機構、人への影響およびその防止対策に関して述べる。	講義前に配布資料を予習・復習する。予習した上で?、今回の講義に関する質問を 5 個考えてくると言う課題を Moodle を介して講義前に予め提出させる。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパー?ーハ?ー・リアクションペーパー?ーハ?ー?振り返り学習及び?復習する。																
関連科目	食品機能学、人体の構造と機能																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Moodle を利用し配布します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Moodle を利用し配布します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Moodle を利用し配布します。																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>やさしい基礎生物学</td> <td>南雲保</td> <td>羊土社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>物理学入門 力と運動</td> <td>武谷三男</td> <td>ちくま文芸文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>はじめて学ぶ化学</td> <td>野島 高彦</td> <td>化学同人</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしい基礎生物学	南雲保	羊土社	2	物理学入門 力と運動	武谷三男	ちくま文芸文庫	3	はじめて学ぶ化学	野島 高彦	化学同人
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	やさしい基礎生物学	南雲保	羊土社																	
2	物理学入門 力と運動	武谷三男	ちくま文芸文庫																	
3	はじめて学ぶ化学	野島 高彦	化学同人																	
評価方法 (基準)	毎回の小テスト (30%) 定期試験の点数 (30%) および、授業態度、ミニッツペーパー (10%) およびレポート、小論文、演習問題などの課題 (30%) の総合点で評価する。課題を 4 回以上未提出の場合も定期試験受験資格を失います。出席および遅刻・欠席の扱いは、薬学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱いです。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。3 回を超えての欠席 (4 回以上欠席すると) は、定期試験受験資格を失います。																			
学生への メッセージ	自然科学は多岐にわたります。物理学、化学、生命科学等を文系の学生さんによく分かるようにバランス良く解説します。毎回の授業の終りに Moodle を用いて「ミニッツペーパー・リアクションペーパー」を書く時間 (5 分間) を設け、理解の程度を把握すると同時に質問を受け、次回に回答する。また講義開始前の学生証による出席確認と、講義終了時のミニッツペーパー・リアクションペーパーの提出の両方がなされたことをもって、講義出席の証拠とします。Moodle を多用した講義をしますので、スマホは必須です。毎回充電して持ってきて下さい。																			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 1 号館 5 階 大塚教授室 otsuka@pharm.setsunan.ac.jp																			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、薬学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱いです。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。3 回を超えての欠席 (4 回以上欠席すると) は、定期試験受験資格を失います。																			

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎, DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
備考	

教養科目

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)として、筆記試験を通過できる実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲について、基本の解き方の習得と、応用問題への対応力の獲得を目指します。就職活動本番に向けて、比較的時間をかけての対策を考えている学生に受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。本授業では筆記試験対策として実践レベルの問題をメインに取り組みます。できる限り個別指導も行いますが、個々のレベルに応じて自主的に予習・復習をしてください。後期に開講される「就職実践」と基本的には同じ内容です。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題①	損益算の基礎・料金の割引	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	金銭問題②	損益算の応用・代金の精算	文章題による代金の精算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による分数問題について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算①・復習①	速度算の基礎・復習①	1~6回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	速度算②・中テスト①	速度算の応用・中テスト①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	集合	集合	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②・復習②	推論②・復習②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・7~12回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③・中テスト②	推論③・中テスト②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	推論小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 55%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	食品機能学	科目名(英文)	Functional Food Science
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	青笹 治
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	食生活と健康とのかかわりを理解し、免疫系、内分泌系(体調リズム)、神経系(精神の高揚や鎮静)などの生体機能の調節に関与する機能性食品の特性についての知識を習得する。本講義では、食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について学び、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を理解する。また、がんや老化に加え、肥満、高血圧、脂質異常症(高脂血症)、糖尿病などの生活習慣病を取り上げ、食生活とヒトの健康のかかわりについて習得する。 学科の学習・教育目標との対応:[A],[F]
到達目標	食品に含まれる栄養・機能成分が列挙でき、それぞれ生体調節機能と、ヒトの健康との係わりについて説明できる。
授業方法と留意点	教科書の内容に沿って、プロジェクトにより講義を行う。 中間試験を行う。 1回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明する。
科目学習の効果(資格)	食品成分の機能についての知識が得られ、健康と食生活とのかかわりが理解できるようになる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	機能性食品	保健機能食品、特別用途食品および健康食品など、新しい食品の形態や制度について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
3	活性酸素	活性酸素の生成メカニズムについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
4	活性酸素と疾病、がん、および老化	活性酸素と疾病、がん、および老化などの関連について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
5	抗酸化(活性酸素除去)機能	ポリフェノールなど抗酸化物質と、それら含む抗酸化機能性食品らについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
6	消化、吸収のメカニズム	消化、吸収のメカニズムとミネラルについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
7	消化吸収促進と代謝改善機能	ミネラル吸収機能食と、大豆イソフラボンなどの代謝改善機能食品について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
8	難消化性炭水化物、食物繊維機能食品	難消化性炭水化物、食物繊維機能食品および乳酸菌類について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
9	脂質関連代謝機能	n-3系脂肪酸とn-6系脂肪酸、ジアシルグリセロールおよび中佐脂肪酸について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
10	コレステロールの吸収・代謝	コレステロールの吸収・代謝と共役リノールについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
11	血圧、消化酵素阻害と糖尿病	レニン・アンジオテンシン系と血圧、消化酵素阻害と糖尿病について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
12	酵素阻害、酵素活性機能	血圧が高めのヒトのための食品、血糖値が気になり始めた人に適した食品、肥満の人のための食品および酵素活性化について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
13	免疫機能におよぼす機能	我が国における食物アレルギー患者の現状と、その発症機構および免疫機能を活性化する食品成分について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
14	神経系におよぼす機能	カプサイシン、γ-アミノ酸、杜仲葉における有用成分、食品タンパク質から得られる鎮静効果のあるペプチドなどの機能について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
15	演習	総復習	事前に、これまでの講義内容について整理しておく。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験(70%)、中間試験(30%)、講義に取り組む姿勢により、総合的に評価する。 講義に取り組む姿勢を重視する。
学生へのメッセージ	本講義により、健康と食生活とのかかわりについての知識が得られます。授業では、理解度を確認するために演習問題に取り組んでもらいます。積極的に参加して下さい。 1回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明します。履修する場合は、必ず、出席してください

担当者の 研究室等	1号館8階 環境分析学(青笹) 研究室
備考	事前事後学習の総時間の目安は60時間。

科目名	人体の構造と機能	科目名(英文)	Human Anatomy and Physiology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 哲郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	授業内容はほぼヒトの生体の話である。生体内とはとりもなおさず、10の器官系からなる我々の体の中のしくみと働きである。しかしながら、案外、我々は自分の体の中で行われていることを知らない。この半年間、生物学のうちで最も身近な対象である人体の構造・生理を中心に解説し、併せて最近話題となっているトピックスについて解説する。
到達目標	新聞・ニュース等で解説される生物学の用語を理解し、簡単に概略を説明できる。
授業方法と留意点	ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルに解りやすくやっていきたい。授業中に理解してしまえば、特に新たな勉強は必要ない。
科目学習の効果(資格)	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
2	細胞・組織・器官・器官系	ビデオ「動物の体」。ヒトは約60兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	細胞説・・・細胞は生物の基本単位	ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	細胞膜	ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシャボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	原形質と原形質流動	ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	細胞小器官	ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	胃の構造と機能	ビデオ「人体-消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと
8	循環器系	循環器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	循環器系	ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	循環器系	ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	肝臓の構造と機能	ビデオ「人体-壮大な化学工場・肝臓」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	生殖器系・性周期・排卵・妊娠・出産のしくみ	男性と女性のそれぞれの生殖器系の基本的な器官とそのしくみを覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	生殖器系	ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖器系のしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	総括質問とプレゼンテーション	すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
15	まとめと習熟度試験	すべての授業範囲について総括試験を実施する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。

関連科目 自然科学 II と連動している。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新生物図表		浜島書店
2				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法(基準) 小テストを40%、臨時テストを40%および授業態度を20%で評価する

学生へのメッセージ 社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。

担当者の研究室等 枚方・薬学部6号館3階病理学研究室1

備考 講義後の復習(ノートをまとめ、重要単語を暗記する1時間X15回)。事前事後の総学習時間の目安は60時間。

科目名	心理学	科目名(英文)	Psychology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	心理学のうち、特に「ことばとコミュニケーション」に関わる領域を中心に扱う。 私達はことばを用いて思考し、情報伝達を行う。その過程において、私達はどのようにしてことばを理解し、あるいは産出しているのか。また、他者とのやりとりの中では、ことばそのものの意味だけではなく、その状況に対する知識や判断、相手の意図の推測なども不可欠である。 本科目ではこのような話題について議論する。また、私達がどのようにしてこのようなことばを使えるようになったのかという観点から、ことばの言語獲得、第二言語修得についても考察する。
到達目標	言語心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている言語活動やコミュニケーションについて、心理学的に説明し、考えることができるようになる。さらに、専攻言語の学習に活かすことができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。必要に応じて簡易実験やグループディスカッションを取り入れる。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	言語とは何か 言語の機能	本時の復習
2	こどもの言語発達1	ことばの獲得 発話の発達 ことばの発達を支えるもの	本時の予習と復習
3	こどもの言語発達2	ことばの発達の個人差 ことばと思考 新しいことばの世界へ	本時の予習と復習
4	単語の理解1	単語の認知 心的辞書の構造	本時の予習と復習
5	単語の理解2	単語の処理 単語認識と身体 心的辞書と外的語彙	本時の予習と復習
6	文の理解1	文の理解とは 意味表象の形成	本時の予習と復習
7	文の理解2	文理解の実験的研究	本時の予習と復習
8	文章理解1	文章理解とは 一貫性の確立 照応解決	本時の予習と復習
9	文章理解2	文章理解における推論 文章理解と知識	本時の予習と復習
10	文章産出	作文の過程 作文の意義 読みやすい文章とは	本時の予習と復習
11	会話1	会話の成立 対人配慮	本時の予習と復習
12	会話2	攻撃、皮肉 誤解	本時の予習と復習
13	比喩の理解	比喩の理解と認知過程 比喩の機能	本時の予習と復習
14	第二言語習得1	生活の中の学習	本時の予習と復習
15	第二言語修得2	学校などでの学習	本時の復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業内レポート50%、期末レポート50%
学生へのメッセージ	ふだん何気なく使っていることばについて、少し意識的になってみてください。
担当者の研究室等	7号館3階
備考	授業内で moodle を使用することがあります。利用できるようにしておいてください。 事前事後学習時間の目安は総計60時間。

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Living Environment and Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北本 裕之
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	古来より人間は自然の力をかりて暮らしてきており、そこには多くの知恵と工夫を見ることができる。この授業では、インテリア・住宅・建築・まちを対象として、住まい方・デザイン・環境などに関するさまざまな事例を紹介しながら、デザイン性に優れた心地の良い空間を創り出し、快適・安全に暮らすための工夫や知恵について説明する。 将来、住み手の立場として必要となる基礎知識を身につけることが目標である。
到達目標	将来、住み手の立場で、住宅を購入したり借りるようになった時、あるいは、住まいの維持管理・賢い住み方に必要な基礎知識を身につけることを目指す。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	住まいの歴史	住まいの歴史について、先史時代から奈良、平安貴族、武家、町人・百姓の住まい、近代の住まいまで、時系列的な住まいの流れを学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
3	現代の住まい	終戦以後の住宅事情、住宅供給体制、新しい住様式等、現代の住まいについて学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
4	気候と暮らし	日本の気候・風土 (災害) と暮らし (住まいやライフスタイル) との関係について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
5	住まいと環境 (I)	人の生理機能と取り巻く環境について学び、快適な住環境について考えていく。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
6	住まいと環境 (II)	温暖、光、音、空気、都市環境について学び、良好な住環境を実現するための手法について考えていく。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
7	住まいの材料と構造	住まいの材料 (土・石・木・コンクリート・鉄) とそれぞれの構造・工法について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
8	住まいの安全	日本において多発している自然災害 (地震・風害・水害・雪害等) や火災、犯罪、日常生活事故について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
9	住まいの管理	住まいの日常管理や定期的なメンテナンス、生活財の管理と収納、家計や住居費について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
10	集合住宅の管理	集合住宅の形式、および、運営管理システムやメンテナンスと修繕計画、近隣生活問題について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
11	住まいづくりと住宅問題	住まいを取り巻く様々な住宅問題や公共的な住宅政策、ハウジングの方法について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
12	快適な住まいの設計 (I)	住宅設計の法的基準や規定、住まいの敷地と住宅地の構成について学ぶ。また、人間工学的観点や近代住居計画等、様々な住居設計を考え方を学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
13	快適な住まいの設計 (II)	インテリアと家具の設計、住宅内各室 (寝室・子供室・老人室・居間・食事室・台所・便所・浴室・玄関) の設計要点について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
14	設計図の見方、描き方 住まいのできるまで	平面図・立面図・断面図等の一般図や構造図、設備図の見方、描き方を学ぶ。また、木造住宅の施工方法について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
15	住環境の評価と問題	街並み、景観、都市施設等の住環境や住まい手から見た望ましい住環境について学ぶ。また、高齢化社会、情報化社会における住まいの問題点について考えていく。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	私たちの住居学 サステナブル社会の住まいと暮らし	中根 芳一	オーム社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各講義ごとに講義メモの提出やレポート課題の作成が課せられる。または小テストが行われる場合もある(30%)。期末テストを行う(70%)。両者を合わせて総合的に評価を行う。			
学生への メッセージ	自分の周りにある住宅や建物、街なみなどを興味を持って眺めて下さい。また、室内の家具や照明などにも目を向けてください。きっと新しい発見があることでしょう。			
担当者の 研究室等	12号館7階、岩田教授室			
備考	事前事後学習の総時間の目安は60時間。			

科目名	住まいとデザイン	科目名(英文)	Living Environment and Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩波 由佳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	住まいは人間の生活と深くかかわっている。原初は身の安全をはかる場所として、心の拠り所として作られ、さらには快適に過ごさせて美しい空間を求めて発達してきた。また住まいの成立には自然環境の他に社会的背景や文化、風俗習慣なども関連する。この講義では、住宅、建築、インテリア、都市について、形態やデザイン様式の移り変わりを様々な角度から、映像資料などを用いて学び、基礎的知識を習得する。そして様々な時代で求められたデザインを捉え、現代のよりよい住宅、住生活を創造する感性を身に付けることを目的とする。
到達目標	日常生活において、住まいやインテリアの選定などの際に、授業で学んだ内容や優れたデザインを参照して快適で豊かな生活空間を創造できる感覚を身に付ける。 日本文化の基本である住宅や建築についての知識を教養として身に付けることで、留学などの海外生活や国内での留学生との交流の際に、正しく自国の文化を論じる能力を培う。
授業方法と留意点	板書を中心にパワーポイントや映像資料を用いて講義を行う。プリントは適宜配布する。 毎回授業終了時に授業内容に関する質問感想を提出してもらう。 参考文献や関連書籍は授業で随時紹介する。
科目学習の効果(資格)	住まい環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	住まいの成り立ち 気候風土文化 白夜の過ごし方 ～厳寒の森の国	日本と同様に木造の文化を持つが気候の厳しいフィンランドの住宅、住生活について学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
3	住まいの成り立ち 気候風土文化 月の砂漠 ～乾燥とオアシスの国	湿潤な日本と対照的な乾燥地帯であるエジプトの住宅、住生活について学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
4	住まいの移り変わり・日本(1) たてにあなを掘ると… ～洞窟を出て堅穴を	人類最古の住まいおよび日本での原始の住まいはどのようなものであったかを学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
5	住まいの移り変わり・日本(2) 貴族の優雅、武士の剛健 ～寝殿造・書院造…	日本文化の基盤が形成された時期の住まいやしつらい、その後の展開を学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
6	住まいの移り変り・日本(3) デザインの極みは何処に ～美をめぐる闘い 秀吉・利休・後水尾上皇	爛熟期の文化の中での書院造の完成と成熟から洗練を加えてゆく過程を学ぶ。 現代の和風住宅につながる流れを学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
7	住まいの移り変り・西洋(1) 全ての道はローマに通ず ～水道、見世物、大浴場	ヨーロッパデザインの根幹である古代ローマについてデザインの特徴を学び、ローマ人の住生活を知る。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
8	住まいの移り変り・西洋(2) 教会と民衆と ～キリスト教世界の暮らし	キリスト教を中心としたヨーロッパの住宅、住生活を知る。基本となるゴシック様式を中心に学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
9	住まいの移り変り・西洋(3) 荘厳なる様式 ～華麗なる宮廷生活へようこそ	人間中心となったヨーロッパの住宅、建築のデザインルネサンスからバロックを中心に学ぶ。 ヴェルサイユ宮殿案内を行う。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
10	住まいの移り変り・世界(1) あたらしい人と生活のデザイン ～鉄、ガラス、コンクリート アーツ・アンド・クラフツ運動からアールヌーヴォーへ	社会の変革により出てきた新しいデザイン運動であるイギリスのアーツアンドクラフツ運動、フランス・ベルギーのアールヌーヴォーについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
11	住まいの移り変り・世界(2) あたらしい人と生活のデザイン ～ゼセッション、グラスゴー派、モデルニスモ	ヨーロッパ各地で展開したデザイン運動であるウィーンのゼセッション、マッキントッシュによるグラスゴー派、スペインのガウディによるモデルニスモについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
12	住まいの移り変り・世界(3) あたらしい人と生活のデザイン ～普遍なるものへの旅 バウハウス、そして三大巨匠の時代へ	民衆のための合理的デザインの追求とモダニズムへ至る軌跡を学ぶ。そして三大巨匠とされるライト、ミース、コルビュジェの住宅デザインについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
13	住まいのデザインを構成す	光の特徴や種類、扱い方を学び、効果的	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。

		るもの 光 採光・照明 ～あたたかい光、クールな光	な照明による快適な空間を考える。	気になった単語やフレーズを調べてみる。																
	14	住まいのデザインを構成するもの 家具・ファブリックス ～くつろぐ、あつまる、ぼんやりする	家具やファブリックス、アクセサリーの種類や効果的な使い方を事例を通して学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。																
	15	住宅をデザインする わたしの住みたい住まい ～とにかくイメージ、そして描いてみよう	自分にとって快適な空間を考え、表現する。	住宅、建築、インテリア雑誌などに目を通して自分の好みを考えておく。																
関連科目	特になし																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで</td> <td>コロナブックス編集部</td> <td>平凡社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アパートメント 世界の夢の集合住宅</td> <td>上田実・平地勲</td> <td>平凡社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン</td> <td>ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル</td> <td>タッセン・ジャパン</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで	コロナブックス編集部	平凡社	2	アパートメント 世界の夢の集合住宅	上田実・平地勲	平凡社	3	FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン	ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル	タッセン・ジャパン
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで	コロナブックス編集部	平凡社																	
2	アパートメント 世界の夢の集合住宅	上田実・平地勲	平凡社																	
3	FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン	ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル	タッセン・ジャパン																	
評価方法 (基準)	定期試験80%、提出物20%。 授業終了時の内容に対する質問、意見も加点の対象とする。																			
学生への メッセージ	テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで目にする住宅、建築に関するニュースに興味をもって見てみる。ドラマや映画、音楽PVで使われている場所、漫画や小説に出てくる場所など空間に対しても注目する。また自宅や友人の家、カフェやショップなどで心地よさを感じたらそれはなぜかを考えてみる。																			
担当者の 研究室等																				
備考	授業内容に対する質問には授業時間後に非常勤講師室で対応可能。また個別にメールでの対応も可能。 事前事後の総学習時間の目安は60時間。																			

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名(英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマニエールの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。																
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果す体験を同時に得るものである。																
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>活動場所は、寝屋川市内の小学校、寝屋川市教育委員会関連団体、共学センター、交野市役所、門真市役所、すさみ町役場、寝屋川青年会議所等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>事前教育①～⑨回分： ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ ⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とかかわり方を学ぶ ⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ ⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動（90分×20回分）： 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育（90分）： 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																
備考	第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。																

科目名	生物と環境	科目名(英文)	Life and Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	環境をめぐる諸問題は、ニュースでみない日はないほど私達にとって身近な話題となっています。しかし、みなさんは「環境」について本当に理解しているといえるでしょうか？環境を理解するためには、さまざまな知識や考え方が必要です。 本講義では、生物(ヒトも含む)と環境の関わりを学ぶことを通して、私達の身の回りにある環境・環境問題を正しく理解できるようになることを目指します。そして、これからの時代を生きる人類にとって避けて通れない環境問題の解決を模索していく上で必要になる考え方を身につけ、自身で情報を見わけることができるようになることを期待します。
到達目標	1. 生物と環境の関係について基礎知識を習得し、自ら説明することができる。 2. 環境問題や地域の実態について、自分の意見を述べるができる。
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。 理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用する。また、講義中にグループワークやディスカッション、簡単な作業などを通して受講者の意見を求めることもある。
科目学習の効果(資格)	環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
2	地球環境史	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
3	文明と環境 1	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
4	文明と環境 2	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
5	文明と環境 3	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
6	食からみる環境 1	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
7	食からみる環境 2	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
8	食からみる環境 3	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
9	食からみる環境 4	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
10	生物と環境の多様な関係性 1	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
11	生物と環境の多様な関係性 2	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
12	生物と環境の多様な関係性 3	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
13	生物と環境の多様な関係性 4	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
14	生物と環境の多様な関係性 5	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
15	全体の総括	授業のまとめ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への取り組み (リアクションペーパーの内容、小レポート、受講態度等) (50%)、期末レポート (50%) で評価します。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館5階
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。

科目名	生命と物質	科目名(英文)	Life and Materials
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 哲郎
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	授業内容はほぼヒトの生体の話である。生体内とはとりもなおさず、10の器官系からなる我々の体の中のしくみと働きである。しかしながら、案外、我々は自分の体の中で行われていることを知らない。この半年間、生物学のうちで最も身近な対象である人体の構造・生理を中心に解説し、併せて最近話題となっているトピックスについて解説する。
到達目標	新聞・ニュース等で解説される生物学の用語を理解し、簡単に概略を説明できる。
授業方法と留意点	ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルに解りやすくやっていきたい。授業中に理解してしまえば、特に新たな勉強は必要ない。
科目学習の効果(資格)	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
	2	細胞・組織・器官・器官系	ビデオ「動物の体」。ヒトは約60兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	3	細胞説・・・細胞は生物の基本単位	ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	4	細胞膜	ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシャボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	5	原形質と原形質流動	ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	6	細胞小器官	ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	7	胃の構造と機能	ビデオ「人体-消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと
	8	循環器系	循環器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	9	循環器系	ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	10	循環器系	ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	11	肝臓の構造と機能	ビデオ「人体-壮大な化学工場・肝臓」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	12	生殖器系・性周期・排卵・妊娠・出産のしくみ	男性と女性のそれぞれの生殖器系の基本的な器官とそのしくみを覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	13	生殖器系	ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖器系のしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	14	総括質問とプレゼンテーション	すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
	15	まとめと習熟度試験	すべての授業範囲について総括試験を実施する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。

関連科目	自然科学 II と連動している。
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新生物図表		浜島書店
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	小テストを40%、臨時テストを40%および授業態度を20%で評価する
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
-----------	--

担当者の研究室等	枚方・薬学部6号館3階病理学研究室1
----------	--------------------

備考	講義後の復習(ノートをまとめ、重要単語を暗記する1時間X15回)。事前事後の総学習時間の目安は60時間。
----	--

科目名	世界の政治	科目名 (英文)	World Politics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	本講義は、比較政治学の基礎的な議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における政治制度の問題に注目するものである。
到達目標	比較政治学の基本的な考え方や方法論に親しむことで、それらの観点からなされる「世界の政治」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになること。 本講義を、自らが暮らす現代社会の諸問題を比較政治の視点から受講者自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることが目指される。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 基本的には教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、その内容や進行状況等によって多少の調整がありうる。
科目学習の効果 (資格)	現代社会をめぐる社会科学的な議論についての基礎的な理解力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の進め方およびテキストについて導入を行なう。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
	2	社会科学の方法 (1)	第1章 比較政治学とは何か	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	3	社会科学の方法 (2)	第1章 比較政治学とは何か 第2章 制度論	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	4	社会科学の方法 (3)	第2章 制度論	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	5	政治制度 (1)	第3章 選挙制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	6	政治制度 (2)	第4章 執政制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	7	政治制度 (3)	第5章 政党制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	8	政治制度 (4)	第6章 議会制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	9	政治制度 (5)	第7章 官僚制	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	10	政治制度 (6)	第8章 司法制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	11	政治制度 (7)	第9章 中央銀行制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	12	政治制度 (8)	第10章 中央・地方関係制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	13	日本の政治制度 (1)	第3章 選挙制度 第4章 執政制度 第5章 政党制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	14	日本の政治制度 (2)	第6章 議会制度 第7章 官僚制 第8章 司法制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
	15	日本の政治制度 (3) まとめと補遺	第9章 中央銀行制度 第10章 中央・地方関係制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	比較政治制度論	建林正彦ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	■定期試験 100%			
学生への メッセージ	教科書は定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。			
担当者の 研究室等	7号館4階			
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 鈞本 聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。 また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F.ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マネジメント基本と原則	P.F.ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社	2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	マネジメント基本と原則	P.F.ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社														
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社														
3																	
評価方法(基準)	汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉, 鶴坂 貴恵, 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	寝屋川市成美小学校地域協働協議会青少年部会と連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。																
到達目標	本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。 ①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的な研究方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンター的な関わりによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場面で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。																
授業方法と留意点	寝屋川市成美小学校地域協働協議会と共に、プログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進める。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月～6月 プログラムコンテンツの作成 体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等 7月～8月 ①小学生・摂大生の初セッション（アイスブレイキング、グループワーク） ②フィールドワークⅠ（例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場） ③フィールドワークⅡ（例えば、地元運動団体、地元商店街） ④フィールドワークⅢ（例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等） ⑤学習会（例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける） 9月～10月 ①体験活動の振り返り ②摂大祭りでの発表・展示（中間報公開を兼ねる） ※小学生・保護者・協働協議会員を招待 1月 最終報告会																
関連科目	摂南大学PBLプロジェクトⅠ・Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	企画書(15%)、活動報告書(15%)、取り組み姿勢(50%)、ループリック(20%)を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	PBL活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。活動を通して常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。自主的な参加と積極的な提案を期待します。																
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」マーケティングプロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の認知度向上に関する企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦来場者の経験価値を測定し、来場者は何に価値を見出しているのかを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知率を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>その上で、特に「トライ&エラーを実践する行動力」、「対人関係構築力の向上」、「工程管理、組織の価値連鎖を学ぶ」ことを目標とする。</p>																
授業方法と留意点	<p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証（連携先の許可により実施） 近隣市におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案 活動全体の評価 <p>【年間計画（予定）】</p> <p>4月 プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 4月 マーケティング手法の学習（座学による） ～5月 5月 枚方市内におけるクラブの認知度の測定 6月 連携先との面談 7月 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 8月 ホームゲーム来場者の経験価値測定調査 広報誌制作準備（ポスター、観戦ガイド、PV等の制作） ホームゲーム観戦促進活動、ホームゲーム戦運営補助、枚方市内における広報活動の実施 9月 PBL中間報告会、来場者へのアンケートの実施 ～12月 ホームゲーム会場内でのイベントの企画・実施 12月 まとめと最終報告会</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。																
担当者の研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣, 牧野 幸志, 山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カラーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河南町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教. 木村 朋紀. 鶴坂 貴恵. 船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の企画・開発プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。昨年度は摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(本格芋焼酎仕込みのみかん酒、焦げがごびりつきにくいBBQ網など)。本プロジェクトでは、(開発プロジェクト)と(企画プロジェクト)に分け、すでに企画した商品について具体的な商品化を目指すとともに、作年度と同様に新規の商品企画も行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>4人の教員が担当し、1グループ5人(合計20人)までの少人数で活動を行う。</p> <p>そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p><開発プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <p><企画プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報分析および情報収集を行う。 2. 商品案を企画し、ビジネスプランを作成する。 3. 寝屋川市のビジネスコンテストに応募する 4. 次年度プロジェクトに向け、連携企業を探す。 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)、鶴坂教授室(11号館7階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>< 過疎地域における地域資源活用プロジェクト (グリーンプロジェクト) ></p> <p>和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。</p> <p>「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのビフォーアフターを体験する。</p> <p>具体的なイベントは、地域の連携団体(すさみ町役場地域未来課)と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回)</p> <p>それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないように目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマの情報共有(昨年度までの成果の説明)と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て 5. 現地で加工、施工、組み立て開始 6. 装置・設備の完成 7. 試作装置・設備による実験評価 8. 実験結果の考察と改良 9. 改良した装置について評価実験・考察 10. 現地で再実験 11. 実験結果の考察と改良 12. 最終実地評価と報告 <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないとといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回)の活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p> <p>学生へのメッセージ</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>																
到達目標	<p>次の四点を本講義において学ぶべき到達目標とします。 また受講生には、下記の学びを通じ、「中山間地域における生活支援のあり方」についての自分なりの考えを作り上げることを期待します。</p> <p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知ること、地域生活やその課題の多様性を学ぶこと ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について学ぶこと ③中山間地域における生活支援体制の構築にさまざまな主体がかかわっていることを理解すること ④学生自身が「地域の見守り、支え合い」の担い手となりうることを自覚すること</p>																
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義の流れは下記の通りです（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キックオフミーティング（参加者の顔合わせ、プログラムの概要説明） 2. 学内研修①（中山間地域における生活支援体制の構築について関する講義（担当教員による）、意見交換） 3. 学内研修②（紀美野町の地理、伝統、文化、その他についての発表、共有） 4. 学内研修③（同上） 5. 紀美野町での現地調査①（地域視察、ヒアリング、地域活動への参加、住民との交流等） ※1泊2日（民泊）での活動を予定しています 6. 学内研修④（第1回現地調査での学びについて各自発表、共有） 7. 学内研修⑤（具体的な生活支援体制構築の手法についての検討） 8. 学内研修⑥（同上） 9. 紀美野町での現地調査②（学生による提案内容の報告会、生活支援体制構築に向けた取り組みの実践） ※1泊2日（民泊）での活動を予定しています 10. 学内研修⑦（中間報告会準備） 11. 中間報告会 ※他のプロジェクトと合同で実施します 12. 学内研修⑧（最終報告会準備） 13. 学内研修⑨（最終報告会準備） 14. 学内研修⑩（最終報告会準備） 15. 最終報告会 ※他のプロジェクトと合同で実施します 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	学内研修および現地調査への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																
担当者の研究室等備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 前年までに作成した紙芝居の読み聞かせ活動(例: 寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせなど)、および近隣行政の要望に応じて、紙芝居の新規制作と上演活動を行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。 読み聞かせ活動及びそのトレーニングを通して「伝える力」を涵養する。 																		
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する紙芝居制作・読み聞かせボランティアのプロジェクトです。全員が「自分が主役」という意識を持って取り組んでください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市役所や警察署のご担当者、及び近隣行政・図書館等のご担当者様と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。 毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 和歌山県由良町・及び近隣行政の民話を語り継ぐための紙芝居 対象となるご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、その地域の民話をもとに紙芝居を作成する。 その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市の小学校での読み聞かせ・和歌山県由良町の民話を題材に紙芝居の新規制作を行いました。紙芝居の読み聞かせにあたっては、練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。答えの無い・形の見えない価値を創り出すことは大変に難しいことですが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>7号館3階 キャリア教育推進室 水野 武</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>概要: 本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、8年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2018年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的: 池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ピオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法: 池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点: 学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ: 寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ピオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法: 授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題: 内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養 C1・C2</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみならずの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川村からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキープポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	このPBLのプロジェクト名は、「交野おりひめ大学との連携プロジェクト ～地域貢献、そしてビジネス戦略～」です。 このPBLのキーワードは、「地域活性化」、「ビジネス戦略」、「裏方」の3つです。主なプロジェクト概要は、以下のとおり。 ①交野市の市民大学である「交野おりひめ大学」と連携し、本学学生が様々な活動を通じて地域住民の方々と交流し、地域貢献を行うとともに、通常の大学授業では学習できない様なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習します。 ②なお、この事業は交野おりひめ大学のほか、交野市役所、商工会議所、交野市工業会、関係企業、各種市民団体、地域マスコミなど、交野市関連の様々な関係機関と連携しています。																
到達目標	①PBL前とPBL後を比較し、本学学生が実社会でビジネスを行うための様々な要因・ノウハウ等について体験的かつ実践的に学修し、理解することが、このPBLの到達目標です。 ②地域の異世代の方々と交流し、実のあるプロジェクト成果を狙います。 ③交野おりひめ大学にとって、本学のPBL履修学生の参加により、どのような効果があったのか総括し、市民大学としてのさらなる質の向上を目指します。																
授業方法と留意点	①「交野おりひめ大学」には、現在7つの学科があり、交野市内の住民など約300名が参加しています。2017年度は、本学のPBL履修学生32名(全て現3回生)が5～6名ずつ6つの学科に分かれて所属し、それぞれの活動を展開してきました。 ②2018年度は、新2年生を加え、活動内容をさらに充実させるとともに、先輩から後輩への円滑な引継ぎを行い、本PBLが地域と持続的な関係を構築できるよう努めます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	①2018年4月～9月中旬 <3回生> ・基本的には、2017年度の活動を継続しますが、所属学科の配属替え、リーダー・役割分担の交替等を行うなど、新体制で活動に取り組みます。 <2回生> ①課外活動前の事前学習として、ケースメソッド形式(少人数、グループ討議、プレゼン等)によるビジネス戦略に関する実践的学修を重ねる。これにより、学内授業と学外活動の相乗効果を狙います。 ②前期または夏休み期間中に、学生全員を一度現地へ連れて行き、交野おりひめ大学関係者、関係団体、事業者等との顔合わせを行います。 ②9月中旬～2019年3月 <3回生、2回生> ①学年合同のチーム編成により、交野おりひめ大学の各学科の活動に参加します。 ②交野市内の関係各団体と連携し、様々なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習するとともに、その活動内容について情報発信を行います。 ③活動成果は、PBL全体授業における各学科単位のプレゼン報告・質疑応答等を通じ、全員で精査することでPDCAサイクルを回し、次のアクションへつなげます。 ④活動中でのOJTを通じ、3回生から2回生へ円滑な引継ぎを行い、次年度以降の活動に活かします。 ⑤総じて、イベント参加等の単なる『遠足』『ママごと遊び』に終始しない。楽しさも追求しつつ、実践的なビジネス体験学修を重ね、到達目標を達成します。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	①PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%) ②なお、本PBLは、交野おりひめ大学のほか、関係各団体等と連携したプロジェクトであり、多くの関係先の監視の下で活動を行うこととなります。したがって、学修成果は学内外の報告会(中間報告等を含む)、関連学会等においてプレゼン発表を行うことで、第三者の評価を受けるかたちとなります。																
学生へのメッセージ	①このPBLは、正直言って「しんどい」。炎天下での草むしり、農作業や雑用・裏方業務(準備・後片付けなど)もあり、土日のうち、年間数日はつぶれます。しかも、バイトとは異なり、報酬等は一切ありません。 ②それでも、2017年度は4つの学部から32名が履修しており、全員楽しく、ガッツ溢れる活動を展開しています。その理由とは何か? そこに興味がある人、大歓迎です。諸君のチャレンジをお待ちしています!																
担当者の研究室等	11号館7階 大田住吉研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵・尾山 廣
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、由良町の周知や由良町の特質の創出を行う。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。 今年度は由良町の観光PRキャラクター「ゆらの助」を活用した取り組みを行う。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を発見する。 ②パンフレットの作成。 ③企画立案の手法を習得する。 ④企画したものをカタチにする。 ⑤自ら考え行動できる力をつける。 ⑥チームで活動できる力をつける。																		
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ外向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 2. 由良町の現状を学ぶ 昨年度の成果 由良町の抱える問題について学びます。 3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。 4. 商品開発についての調査 5. 商品開発のアイデア出し 6. 商品化にむけたとりくみ(商品決定、委託メーカーの決定、デザイン、価格決定、販売方法、販売促進など) 7. 商品完成後の取組(販売促進活動) 8. ふりかえり <p>この間に中間報告会、最終報告会が入ります。</p>																		
関連科目	各学部マーケティング関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社																
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館																
3																			
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																		
学生へのメッセージ	和歌山県由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																		
担当者の研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美・小川 宣子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は若者との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し、高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。																
授業方法と留意点	他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ <p>■5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ決め ・活動内容の検討 ・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討 <p>■6月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北河内にて活動開始 ・由良町へ提言、内容検討 <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 ・由良町にて活動 <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	総合体育館1階 藤林研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山 廣, 川上 比奈子, 松尾 康光
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創り出す“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや星座、神話などを交えて、交野市の児童・生徒に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える学習投映プログラムを製作する。2018年度は、交野市教育委員会から依頼された交野市の児童・生徒を対象に投映を試行し、そのアンケート結果などを踏まえて、内容をブラッシュアップし、体験学習型プレゼンテーション・シナリオと簡易機器操作マニュアルを完成する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。																		
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は2018年5月～2019年1月であり、月1回の全体ミーティングと年間7回程度を交野市で活動する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの概要と基本方針の説明 プラネタリウム投影機のメンテナンスと理科教材用のシナリオ案を策定 プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成 交野市在住の児童や生徒を対象に投映会を試行 アンケート結果に基づいた内容のブラッシュアップ(連携団体との協議を含む) 体験学習型プレゼンテーション・シナリオのブラッシュアップ プラネタリウムの簡易操作マニュアルの完成 上記の項目を2018年5月～2019年1月に実施する(機器の状況により変更がある)。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の3点について、ノートやレポート評価表などで総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発(ソフト)と機器操作マニュアルの作成を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生な学生を中心に募集しています。																		
担当者の研究室等	理工学部生命科学科(松尾先生、尾山)は1号館8階または9階、住環境デザイン学科(川上先生)は12号館7階に教授室がある。																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博, 栗田 寿基, 鈞本 聖司
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチの鉄道模型を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。 また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。																		
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。 履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. プロジェクトの開始に先立って、社会人基礎力、目標管理、工程管理、プロジェクト管理について、メンバーで調査・討議する。 2. 教員の指導の下に目標と計画を作成する。 3. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設等を製作する。 4. 計画からの遅れには対策を講じる。 5. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 6. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 7. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マネジメント基本と原則</td> <td>P.F.ドラッカー (上田惇生編訳)</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら</td> <td>岩崎夏海</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マネジメント基本と原則	P.F.ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社	2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マネジメント基本と原則	P.F.ドラッカー (上田惇生編訳)	ダイヤモンド社																
2	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社																
3																			
評価方法(基準)	汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。																		
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。																		
担当者の研究室等	1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉, 鶴坂 貴恵, 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	寝屋川市成美小学校地域協働協議会青少年部会と連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。																
到達目標	本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。 ①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的な研究方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンター的な関わりによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場面で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。																
授業方法と留意点	寝屋川市成美小学校地域協働協議会と共に、プログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進める。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月～6月 プログラムコンテンツの作成 体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等 7月～8月 ①小学生・摂大生の初セッション（アイスブレイキング、グループワーク） ②フィールドワークⅠ（例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場） ③フィールドワークⅡ（例えば、地元運動団体、地元商店街） ④フィールドワークⅢ（例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等） ⑤学習会（例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける） 9月～10月 ①体験活動の振り返り ②摂大祭りでの発表・展示（中間報公開を兼ねる） ※小学生・保護者・協働協議会会員を招待 1月 最終報告会																
関連科目	摂南大学PBLプロジェクトⅠ・Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	企画書(15%)、活動報告書(15%)、取り組み姿勢(50%)、ループリック(20%)を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	PBL活動は、社会に出てからも大いに役に立ちます。活動を通して常に考えることを意識し、多くの経験を身につけてください。自主的な参加と積極的な提案を期待します。																
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」マーケティングプロジェクト</p> <p>【概要】 枚方市に所在する社会人サッカークラブ「FC TIAMO 枚方」の認知度向上に関する企画を立案・実施する。ホームゲームにおける観戦来場者の経験価値を測定し、来場者は何に価値を見出しているのかを明らかにした上で広報戦略を立案する。また枚方市内における認知率を測定し、認知度向上に向けた施策を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>その上で、特に「トライ&エラーを実践する行動力」、「対人関係構築力の向上」、「工程管理、組織の価値連鎖を学ぶ」ことを目標とする。</p>																
授業方法と留意点	<p>「FC TIAMO 枚方」と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】 ホームゲーム来場者が感じる経験価値を測定し、クラブの広報活動に関する提案を行う。そのことにより、近隣市内におけるクラブの認知度向上とホームゲーム観戦者数の増加を目指す。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームゲームでのアンケート調査の実施と考察 連携先へのヒアリングを通じて課題を抽出 クラブのプロモーション案の展開を作成・評価・検証(連携先の許可により実施) 近隣市におけるクラブの認知率測定と認知度の向上のための施策を提案 活動全体の評価 <p>【年間計画(予定)】</p> <p>4月 プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 4月 マーケティング手法の学習(座学による) ～5月 5月 枚方市内におけるクラブの認知度の測定 6月 連携先との面談 7月 連携先業務内容の理解, ヒアリングによる課題抽出 8月 ホームゲーム来場者の経験価値測定調査 広報誌制作準備(ポスター、観戦ガイド、PV等の制作) ホームゲーム観戦促進活動, ホームゲーム戦運営補助, 枚方市内における広報活動の実施 9月 PBL中間報告会、来場者へのアンケートの実施 ～12月 ホームゲーム会場内でのイベントの企画・実施 12月 まとめと最終報告会</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	全体で行う活動やミーティングへの貢献, 自分の役割の遂行, 報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表, 連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は, みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み, 「FC TIAMO 枚方」を盛り立てていきましょう。																
担当者の研究室等	吉田佐治子(7号館3階) 水野武(7号館3階)																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也, 針尾 大嗣, 牧野 幸志, 山本 圭三
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～ 地元の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する 以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。																
授業方法と留意点	学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。 プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。 参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～ 【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カラーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河南町)などである。 【方法】 ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。 【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教. 木村 朋紀. 鶴坂 貴恵. 船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の企画・開発プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。昨年度は摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、いくつかの商品を企画した(本格芋焼酎仕込みのみかん酒、焦げがごびりつきにくいBBQ網など)。本プロジェクトでは、(開発プロジェクト)と(企画プロジェクト)に分け、すでに企画した商品について具体的な商品化を目指すとともに、作年度と同様に新規の商品企画も行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>4人の教員が担当し、1グループ5人(合計20人)までの少人数で活動を行う。</p> <p>そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p><開発プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <p><企画プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報分析および情報収集を行う。 2. 商品案を企画し、ビジネスプランを作成する。 3. 寝屋川市のビジネスコンテストに応募する 4. 次年度プロジェクトに向け、連携企業を探す。 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)、鶴坂教授室(11号館7階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>< 過疎地域における地域資源活用プロジェクト(グリーンプロジェクト) ></p> <p>和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。</p> <p>「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのビフォーアフターを体験する。</p> <p>具体的なイベントは、地域の連携団体(すさみ町役場地域未来課)と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回)</p> <p>それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3年計画の3年目のプロジェクトです。はじめに大きな目標からはずれないように目的を設定します。(受講生が提案して目的を定めることから始めます)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマの情報共有(昨年度までの成果の説明)と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て 5. 現地で加工、施工、組み立て開始 6. 装置・設備の完成 7. 試作装置・設備による実験評価 8. 実験結果の考察と改良 9. 改良した装置について評価実験・考察 10. 現地で再実験 11. 実験結果の考察と改良 12. 最終実地評価と報告 <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないとといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回)の活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p> <p>学生へのメッセージ</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等	<p>8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p>																
到達目標	<p>次の四点を本講義において学ぶべき到達目標とします。 また受講生には、下記の学びを通じ、「中山間地域における生活支援のあり方」についての自分なりの考えを作り上げることを期待します。</p> <p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知ること、地域生活やその課題の多様性を学ぶこと ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について学ぶこと ③中山間地域における生活支援体制の構築にさまざまな主体がかかわっていることを理解すること ④学生自身が「地域の見守り、支え合い」の担い手となりうることを自覚すること</p>																
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義の流れは下記の通りです（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キックオフミーティング（参加者の顔合わせ、プログラムの概要説明） 2. 学内研修①（中山間地域における生活支援体制の構築について関する講義（担当教員による）、意見交換） 3. 学内研修②（紀美野町の地理、伝統、文化、その他についての発表、共有） 4. 学内研修③（同上） 5. 紀美野町での現地調査①（地域視察、ヒアリング、地域活動への参加、住民との交流等） <p>※1泊2日（民泊）での活動を予定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 学内研修④（第1回現地調査での学びについて各自発表、共有） 7. 学内研修⑤（具体的な生活支援体制構築の手法についての検討） 8. 学内研修⑥（同上） 9. 紀美野町での現地調査②（学生による提案内容の報告会、生活支援体制構築に向けた取り組みの実践） <p>※1泊2日（民泊）での活動を予定しています</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 学内研修⑦（中間報告会準備） 11. 中間報告会 <p>※他のプロジェクトと合同で実施します</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 学内研修⑧（最終報告会準備） 13. 学内研修⑨（最終報告会準備） 14. 学内研修⑩（最終報告会準備） 15. 最終報告会 <p>※他のプロジェクトと合同で実施します</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	学内研修および現地調査への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																
担当者の研究室等備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 前年までに作成した紙芝居の読み聞かせ活動(例:寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせなど)、および近隣行政の要望に応じて、紙芝居の新規制作と上演活動を行う。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。 読み聞かせ活動及びそのトレーニングを通して「伝える力」を涵養する。 																		
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する紙芝居制作・読み聞かせボランティアのプロジェクトです。全員が「自分が主役」という意識を持って取り組んでください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市役所や警察署のご担当者、及び近隣行政・図書館等のご担当者様と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。 毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 和歌山県由良町・及び近隣行政の民話を語り継ぐための紙芝居 対象となるご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、その地域の民話をもとに紙芝居を作成する。 その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市の小学校での読み聞かせ・和歌山県由良町の民話を題材に紙芝居の新規制作を行いました。紙芝居の読み聞かせにあたっては、練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。答えの無い・形の見えない価値を創り出すことは大変に難しいことですが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																		
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 水野 武																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の手続きで授業を展開する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>概要: 本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、8年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2018年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的: 池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法: 池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点: 学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ: 寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法: 授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題: 内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%)</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみならずの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキープポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	このPBLのプロジェクト名は、「交野おりひめ大学との連携プロジェクト ～地域貢献、そしてビジネス戦略～」です。 このPBLのキーワードは、「地域活性化」、「ビジネス戦略」、「裏方」の3つです。主なプロジェクト概要は、以下のとおり。 ①交野市の市民大学である「交野おりひめ大学」と連携し、本学学生が様々な活動を通じて地域住民の方々と交流し、地域貢献を行うとともに、通常の大学授業では学習できない様なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習します。 ②なお、この事業は交野おりひめ大学のほか、交野市役所、商工会議所、交野市工業会、関係企業、各種市民団体、地域マスコミなど、交野市関連の様々な関係機関と連携しています。																
到達目標	①PBL前とPBL後を比較し、本学学生が実社会でビジネスを行うための様々な要因・ノウハウ等について体験的かつ実践的に学修し、理解することが、このPBLの到達目標です。 ②地域の異世代の方々と交流し、実のあるプロジェクト成果を狙います。 ③交野おりひめ大学にとって、本学のPBL履修学生の参加により、どのような効果があったのか総括し、市民大学としてのさらなる質の向上を目指します。																
授業方法と留意点	①「交野おりひめ大学」には、現在7つの学科があり、交野市内の住民など約300名が参加しています。2017年度は、本学のPBL履修学生32名(全て現3回生)が5～6名ずつ6つの学科に分かれて所属し、それぞれの活動を展開してきました。 ②2018年度は、新2年生を加え、活動内容をさらに充実させるとともに、先輩から後輩への円滑な引継ぎを行い、本PBLが地域と持続的な関係を構築できるよう努めます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	①2018年4月～9月中旬 <3回生> ・基本的には、2017年度の活動を継続しますが、所属学科の配属替え、リーダー・役割分担の交替等を行うなど、新体制で活動に取り組みます。 <2回生> ①課外活動前の事前学習として、ケースメソッド形式(少人数、グループ討議、プレゼン等)によるビジネス戦略に関する実践的学修を重ねる。これにより、学内授業と学外活動の相乗効果を狙います。 ②前期または夏休み期間中に、学生全員を一度現地へ連れて行き、交野おりひめ大学関係者、関係団体、事業者等との顔合わせを行います。 ②9月中旬～2019年3月 <3回生、2回生> ①学年合同のチーム編成により、交野おりひめ大学の各学科の活動に参加します。 ②交野市内の関係各団体と連携し、様々なビジネス戦略(新商品開発、マーケティング、生産加工、ビジネスプラン作成など)について体験・学習するとともに、その活動内容について情報発信を行います。 ③活動成果は、PBL全体授業における各学科単位のプレゼン報告・質疑応答等を通じ、全員で精査することでPDCAサイクルを回し、次のアクションへつなげます。 ④活動中でのOJTを通じ、3回生から2回生へ円滑な引継ぎを行い、次年度以降の活動に活かします。 ⑤総じて、イベント参加等の単なる『遠足』『ママごと遊び』に終始しない。楽しさも追求しつつ、実践的なビジネス体験学修を重ね、到達目標を達成します。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>とくにありません。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	とくにありません。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	とくにありません。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	①PBL活動への参加意欲および貢献度(70%)、学内・学外発表会等への貢献度(30%) ②なお、本PBLは、交野おりひめ大学のほか、関係各団体等と連携したプロジェクトであり、多くの関係先の監視の下で活動を行うこととなります。したがって、学修成果は学内外の報告会(中間報告等を含む)、関連学会等においてプレゼン発表を行うことで、第三者の評価を受けるかたちとなります。																
学生へのメッセージ	①このPBLは、正直言って「しんどい」。炎天下での草むしり、農作業や雑用・裏方業務(準備・後片付けなど)もあり、土日のうち、年間数日はつぶれます。しかも、バイトとは異なり、報酬等は一切ありません。 ②それでも、2017年度は4つの学部から32名が履修しており、全員楽しく、ガッツ溢れる活動を展開しています。その理由とは何か? そこに興味がある人、大歓迎です。諸君のチャレンジをお待ちしています!																
担当者の研究室等	11号館7階 大田住吉研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵・尾山 廣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、由良町の周知や由良町の特質の創出を行う。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。 今年度は由良町の観光PRキャラクター「ゆらの助」を活用した取り組みを行う。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を発見する。 ②パンフレットの作成。 ③企画立案の手法を習得する。 ④企画したものをカタチにする。 ⑤自ら考え行動できる力をつける。 ⑥チームで活動できる力をつける。																		
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ外向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 2. 由良町の現状を学ぶ 昨年度の成果 由良町の抱える問題について学びます。 3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。 4. 商品開発についての調査 5. 商品開発のアイデア出し 6. 商品化にむけたとりくみ(商品決定、委託メーカーの決定、デザイン、価格決定、販売方法、販売促進など) 7. 商品完成後の取組(販売促進活動) 8. ふりかえり <p>この間に中間報告会、最終報告会が入ります。</p>																		
関連科目	各学部マーケティング関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティング</td> <td>恩蔵直人</td> <td>日本経済新聞出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域マネジメント戦略</td> <td>池田潔ほか</td> <td>同友館</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社																
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館																
3																			
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																		
学生へのメッセージ	和歌山県由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																		
担当者の研究室等	11号館7階 鶴坂研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美, 小川 宣子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は若者との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し、高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。																
授業方法と留意点	他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ■4月 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ ■5月 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ決め ・活動内容の検討 ・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討 ■6月～ <ul style="list-style-type: none"> ・北河内にて活動開始 ・由良町へ提言、内容検討 ■10月 <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 ・由良町にて活動 ■1月 <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 ■2月 <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	総合体育館1階 藤林研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山 廣, 川上 比奈子, 松尾 康光
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創り出す“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや星座、神話などを交えて、交野市の児童・生徒に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える学習投映プログラムを製作する。2018年度は、交野市教育委員会から依頼された交野市の児童・生徒を対象に投映を試行し、そのアンケート結果などを踏まえて、内容をブラッシュアップし、体験学習型プレゼンテーション・シナリオと簡易機器操作マニュアルを完成する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。																		
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は2018年5月～2019年1月であり、月1回の全体ミーティングと年間7回程度を交野市で活動する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの概要と基本方針の説明 プラネタリウム投影機のメンテナンスと理科教材用のシナリオ案を策定 プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成 交野市在住の児童や生徒を対象に投映会を試行 アンケート結果に基づいた内容のブラッシュアップ(連携団体との協議を含む) 体験学習型プレゼンテーション・シナリオのブラッシュアップ プラネタリウムの簡易操作マニュアルの完成 上記の項目を2018年5月～2019年1月に実施する(機器の状況により変更がある)。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の3点について、ノートやルブリック評価表などで総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発(ソフト)と機器操作マニュアルの作成を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生な学生を中心に募集しています。																		
担当者の研究室等	理工学部生命科学科(松尾先生、尾山)は1号館8階または9階、住環境デザイン学科(川上先生)は12号館7階に教授室がある。																		
備考																			

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名(英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきている。ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ない。グローバル社会において必要とされるビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティブティを発揮する自らの職業観を確立することを目的とする。
到達目標	1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果(資格)	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修: 自己紹介の原案を考える。 ・事後学修: プレゼンテーション資料を熟読する。
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめる。 ・事後学修: 企業の事例を調べる。
3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修: NPOについて調べる。 ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成する。
4	ビジネス環境をとらえる①ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集める。 ・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成する。
5	ビジネス環境をとらえる②ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめる。 ・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめる。
6	ビジネス現場をとらえるー オフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめる。 ・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成する。
7	ビジネス実務能力	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。	・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめる。 ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめる。
8	ビジネス実務の基本①ー 仕事の進め方ー	・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修: 問題プリント①を解く。 ・事後学修: 問題プリント②を解く。
9	ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修: CSRについて調べ、まとめる。 ・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成する。
10	ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめる。 ・事後学修: 、ワークライフバランスに関してレポートを作成する。
11	ビジネス実務の基本④ー ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務)ー	・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修: 業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめる。 ・事後学修: CMの必要性の有無に関してレポートを作成する。
12	自己実現とキャリアプランニングー セルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修: 自己振り返りシートを作成する。 ・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめる。
13	ビジネスプラン①ー 起業への意識ー	・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。 ・CM比較をイノベーションの観点から行う(とくにCSRに関するもの)。	・事前学修: 各自がテーマを見つける。 ・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
14	ビジネスプラン②	・CM比較プレゼンテーションを準備する。 ・実際に企画を考える。	・事前学修: グループのビジネスプランを発展させる。 ・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修: プレゼンテーション準備を行う。 ・事後学修: 最終レポートを作成する。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。
------	--------------------------

教養科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社
	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 			
学生への メッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	組織と経営	科目名(英文)	Organizations and Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 基本的な企業経営の仕組みについての講義を行います。この講義では、組織論・管理論・戦略論の基本的な用語と概念を学び、それらを用いて具体的な経営現象を説明していきます。</p> <p>【目的】 経営学の基本的な理論と概念を理解すること</p>
到達目標	<p>【到達目標】 経営学の基本的な概念や用語を説明できるようにします。 国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験で出題される「経営学」を理解できる程度の知識を習得します。</p>
授業方法と留意点	教科書を中心にした講義を行います。講義の理解を促進するために、講義の中で理解度テストを行うことがあります。
科目学習の効果(資格)	国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験科目の「経営学」対策

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義のガイダンスを行います。	シラバスを事前に読んでおくこと
2	企業経営の基本的な仕組み	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学習します。	今回のノートの復習
3	古典的管理論	テイラーの科学的管理法およびファヨールの管理過程論について学習します。	今回のノートの復習
4	フォード・システム	フォード・システムおよびフォードイズムについて学習し、フォード・システムが世の中に与えた影響や意義について検討します。	今回のノートの復習
5	人間関係論	メイヨーの人間関係論についてホソン実験を通じて学習します。	今回のノートの復習
6	新人間関係論(1)	アージリスの成熟・未成熟理論、マズローの欲求階層説、アルダーファーのERG理論、マクレガーのX理論・Y理論について学習します。	今回のノートの復習
7	新人間関係論(2)	マレーの欲求リスト、マクレランドの達成欲求理論、ハーズバーグの二要因理論について学習します。	今回のノートの復習
8	モチベーション理論(1)	デシの内発的動機付け理論、ロックの目標設定理論の他にモチベーションの内容理論である誇りの理論や目標共有理論について学習します。	今回のノートの復習
9	モチベーション理論(2)	モチベーションのプロセス理論である、アダムスの公平理論、ヒュースマンの公平感受性理論、ブルームの期待理論について学習します。	今回のノートの復習
10	中間テスト	中間テストを行います。テスト終了後、解説を行います。	第1～9回に行った講義内容を復習しておくこと。
11	モチベーション向上の実践	TESSEIの事例を用いて、ワークを行います。また、企業で実際に導入されているモチベーション向上施策について学習します。	今回のノートの復習
12	ヒトのマネジメント	企業の人事管理について学習します。具体的には、人事評価制度、賃金制度、教育制度について学習した上で、企業がどのような人材を求めているのかを紹介しします。	今回のノートの復習
13	近代組織論と意思決定論(1)	バーナード革命とサイモンの意思決定理論について学習します。	今回のノートの復習
14	近代組織論と意思決定論(2)	バーナード革命とサイモンの意思決定理論について学習します。	今回のノートの復習
15	DVD視聴	DVDを視聴し、今後海外展開する上で必要な知識やスキルについてワークを行います。	今回のノートの復習

関連科目 経営学、経営管理論、経営組織論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄他	有斐閣ブックス
2	経営管理論	上野恭裕/馬場大治	中央経済社	

	3	テキスト経営学（第3版）	井原久光	ミネルヴァ書房
評価方法 （基準）	定期試験 70%と中間テスト 30%の成績によって評価します。ただし、受講態度やワークへの参加の程度により、加点あるいは減点する場合があります。			
学生への メッセージ	経営学は、社会で働く上で役立つ知識になります。理論が企業内でどのように活用されているのか等、実経営のエピソードを絡ませて解説します。授業の方法は講義形式になりますが、より主体的に学べるように工夫します。			
担当者の 研究室等	11号館8階 西之坊講師室			
備考	事前事後の総学習時間の目安は60時間。			

科目名	大学教養入門	科目名(英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荻田 喜代一・石井 三恵・伊藤 謙・大塚 正人・寺内 睦博・藤林 真美・水野 武・柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	この科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身に付けるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身に付けるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身に付けることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身に付けている。 (2)ABDによる読書法を身に付けている。 (3)チームワーク能力を身に付け、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)国連アカデミックインパクトについて討議することができる。 (5)読書の意義を理解して読書習慣を身に付けている。 (6)コミュニケーション能力を身に付け、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 学修法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果(資格)	大学生に必要な教養の基礎知識が身につく。ABD法等の協働学習の方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	アイスブレイク 事前アンケート 科目の特徴、どのような力が見につくのか グループワーク「教養とは何か?」	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	2	教養入門:「大人の教養」 第7章 日本と日本人	教科書の紹介, 概要 チーム作り, 授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第7章 日本と日本人」	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	3	教養入門: 第1章 宗教	解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	4	教養入門: 第2章 宇宙	解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	5	教養入門: 第3章 人類の旅路	解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	6	教養入門: 第6章 歴史	解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り 中間発表テーマの決定	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	7	教養入門: 中間成果発表1	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	振り返りレポート1
	8	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」 第1章 アドラーとはどんな人であったのか	教科書の紹介, はじめに 解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	9	自分を知る教養: 第2章 アドラー心理学の育児と教養	解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	10	自分を知る教養: 第3章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	11	自分を知る教養: 第5章 人生の意味を求めて	解説 協働学習, 対話 理解度確認クイズ, 振り返り 中間発表テーマの決定	振り返り学習: 割り当て個所全体の読み返し
	12	自分を知る教養: 中間成果発表2	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	振り返りレポート2
	13	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 協働学習(チームの提案) 理解度確認クイズ, 振り返り	振り返り学習: チーム学習の振り返り
	14	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 協働学習(チームの提案) 理解度確認クイズ, 振り返り	振り返り学習: チーム学習の振り返り
	15	大学教養入門	グループワーク「教養とは何か?」 事後アンケート	振り返りレポート3
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム : 30%) ・ポスター/発表 (チーム : 30%) ・振り返りレポート 3回 (個人 : 30%) ・理解度確認クイズ (個人 : 10%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>この科目は全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。</p>			
担当者の 研究室等	<p>荻田喜代一 (薬学部・枚方キャンパス 1号館 6F、副学長室)、伊藤謙 (1号館 3F)、柳沢学 (8号館 3F) 大塚正人 (薬学部 1号館 5F)、藤林真美 (総合体育館 1F)、久保貞也 (11号館 7F)、寺内睦博 (11号館 10F)、石井三恵 (7号館 5F)、水野武 (7号館 3F)、喜多大三 (7号館 8F)、上野山裕土 (7号館 3F)</p>			
備考	<p>この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを期待しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。</p>			

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名(英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1◎,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		

授業概要・目的	グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れている。「境界線」も一つの視野では理解できない。さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰することが目的である。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果(資格)	・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修:ダイバーシティに関して、調べる。 ・事後学修:身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成する。
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修:私たちの周りにおける伝統や習慣について考える。 ・事後学修:「ウチとソト」に関するレポートを作成をする。
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・時代を生きた女性たち6名に関して調査	・事前学修:フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べる。 ・事後学修:活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめる。
4	日本の近代化	・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション	・事前学修:明治・大正・昭和の歴史年表を作成する。 ・事後学修:明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成する。
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修:国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考える。 ・事後学修:国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成する。
6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デートDV	・事前学修:性役割を理解し、幼児期から振り返る。 ・事後学修:自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成する。
7	性役割の形成②	・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違	・事前学修:共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考える。 ・事後学修:自らの結婚観に関するレポートを作成する。
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化	・事前学修:日本と世界を比較しながら、女性労働について考える。 ・事後学修:M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成する。
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修:ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べる。 ・事後学修:ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成する。
10	中間プレゼンテーション	・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する	・事前学修:調査考察し、発表準備をする。 ・事後学修:議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習する。
11	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出	・事前学修:アサーティブネスについて調べる。 ・事後学修:アサーティブに話す練習をする。
12	アサーティブネス理論②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修:アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考える。 ・事後学修:アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成する。
13	ダイバーシティマネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修:企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究する。 ・事後学修:興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成する。
14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修:事例研究した内容をプレゼンテーションできるように練習する。 ・事後学修:事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるように練習する。
15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修:ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめる。 ・事後学修:ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめる。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。
------	--

教養科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
評価方法 (基準)	ロールプレイ (20%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	地域貢献実践演習	科目名 (英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 上野山 裕士, 藤林 真美, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	<p>この授業は、ソーシャルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。</p>																																																										
到達目標	<p>①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。 ②課題発見から解決までのPDCAサイクルを回すことができる。 ③チームで活動することができる。 ④チーム内で役割行動ができる。 ⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。</p>																																																										
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行います。 ・中間発表会、最終報告会での発表（チーム単位）、個人別レポートの作成が課せられます。 ・チームで活動を行うため、コミュニケーションを密にし、役割行動ができることが求められます。 ・社会に出れば、必ず求められる「報告、連絡、相談」を実践し、チームで情報共有しながら連携先との相互理解を図り、課題解決のための、計画策定から実施、振り返りまで、途中で投げ出すことなく取り組むことが求められます。 																																																										
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>この授業は学生がチームごとに主体的にフィールドワークを行っていきますが、月に1度程度、共有を図り、進捗状況の確認を行います。チームで活動したときには、必ず日誌を作成し、担当教員、連携先、チームメンバーに共有をしてください。また、課題や問題が発生した時には、必ず担当教員に相談をしてください。</p> <p>月に1度程度のミーティングは、木曜日6時間目に設定しています。</p> <table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>4月19日</td> <td>オリエンテーション①</td> <td>プロジェクト内容や進め方の説明</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>4月26日</td> <td>オリエンテーション②</td> <td>マネー研修</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>5月24日</td> <td>集合日①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>6月21日</td> <td>集合日②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>7月19日</td> <td>集合日③</td> <td></td> </tr> </table> <p>夏期休業期間：各グループで調査研究活動を進める。</p> <table border="1"> <tr> <td>第6回</td> <td>9月20日</td> <td>集合日④</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>9月27日</td> <td>集合日⑤</td> <td>中間発表</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>10月25日</td> <td>集合日⑥</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>11月8日</td> <td>集合日⑦</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>11月22日</td> <td>集合日⑧</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>12月6日</td> <td>集合日⑨</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>12月13日</td> <td>集合日⑩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>12月26日</td> <td>最終報告会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>同</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </table>			第1回	4月19日	オリエンテーション①	プロジェクト内容や進め方の説明	第2回	4月26日	オリエンテーション②	マネー研修	第3回	5月24日	集合日①		第4回	6月21日	集合日②		第5回	7月19日	集合日③		第6回	9月20日	集合日④		第7回	9月27日	集合日⑤	中間発表	第8回	10月25日	集合日⑥		第9回	11月8日	集合日⑦		第10回	11月22日	集合日⑧		第11回	12月6日	集合日⑨		第12回	12月13日	集合日⑩		第13回	12月26日	最終報告会		第14回	同	まとめ	
第1回	4月19日	オリエンテーション①	プロジェクト内容や進め方の説明																																																								
第2回	4月26日	オリエンテーション②	マネー研修																																																								
第3回	5月24日	集合日①																																																									
第4回	6月21日	集合日②																																																									
第5回	7月19日	集合日③																																																									
第6回	9月20日	集合日④																																																									
第7回	9月27日	集合日⑤	中間発表																																																								
第8回	10月25日	集合日⑥																																																									
第9回	11月8日	集合日⑦																																																									
第10回	11月22日	集合日⑧																																																									
第11回	12月6日	集合日⑨																																																									
第12回	12月13日	集合日⑩																																																									
第13回	12月26日	最終報告会																																																									
第14回	同	まとめ																																																									
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																																																										
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1																																																											
2																																																											
3																																																											
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																								
1																																																											
2																																																											
3																																																											
評価方法 (基準)	活動の取組（自己評価、相互評価、連携先からの評価等）50%、発表会での発表（中間、最終）20%、レポート30%																																																										
学生へのメッセージ	PBLより、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう！																																																										
担当者の研究室等																																																											
備考																																																											

科目名	地域と私	科目名(英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵、石井 三恵、稲地 秀介、上野山 裕士、久保貞也、田中 結華、藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	V科：II◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1◎, E科：B◎, C科：II◎, L科：DP2◎, D科：DP1◎, S科：DP1◎, P科：DP8△, J科：DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科：DP1◎, DP7◎, N科：DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。</p> <p>この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。 			
授業方法と留意点	<p>グループで議論等をした上で、グループごとに発表するといったグループワークが中心の授業です。</p> <p>第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。</p> <p>第11回目は和歌山県由良町での体験学習となります。</p> <p>グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。</p>			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 4月14日(土)	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 (鶴坂)	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える。 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える。
	2	自己の探求 4月21日(土)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきをまとめる。
	3	自己の探求 4月22日(日)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師・鶴坂)	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考える。
	4	今、地域で何が起きているか 5月19日(土)1限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 (鶴坂)	【事前学習】 キーワード「消滅都市」について調べる。 【事後学習】インターネットで地方都市では具体的にどのような問題が発生しているのか、その問題をどうやって解決しようとしているのかを調べる。
	5	地域経済・経営 ー地域の観光・ブランディングー 5月19日(土)2限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 (鶴坂・久保)	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる。 【事後学習】 自分の地元と和歌山の観光の目玉を考える。
	6	地域環境・防災 ー空き家の現状と課題ー 5月19日(土)3限	大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 (稲地)	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと 【事後学習】 授業後は議論した内容を整理しておくこと
	7	地域政策・文化 ー地域とスポーツー 6月2日(土)1限	地域とスポーツとの関連；「トップスポーツ(プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など)との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 (藤林)	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと 【事後学習】 授業ノート等で復習すること
	8	地域医療 ー地域で健康な生活を送るには？ー 6月2日(土)2限	地域で健康な生活を支える上で住民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。 (田中・上野山)	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと。 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、地域医療に関する知識をまとめておくこと。
	9	事前学習① 由良町関係者の講演 6月2日(土)3限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、由良町の現状や課題をお聞かせします。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる。 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめる。
10	事前学習② グループワーク 6月16日(土)1、2限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく。 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う。	

	11	体験学習 (和歌山県由良町) 6月30日(土) 終日	由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。(鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく。 【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく。																
	12	プレゼンテーション講座 7月7日(土) 1限	プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。 (石井、鶴坂)	【事前学習】 現地で得た情報をまとめておく。 【事後学習】 スライドをつくってみる。																
	13	事後学習① グループワーク 7月7日(土) 2限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく。 【事後学習】 発表できるよう準備をする。																
	14	事後学習② 成果発表会 7月21日(土) 1、2限	作成したスライドを使い、成果発表を行います。 (鶴坂、稲地、藤林、上野山)	【事前学習】 発表の練習を行う。 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする。 発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。																
	15	事後学習③ ふりかえり 7月21日(土) 3限	「地域と私」全体の総括、ふりかえりを行います。(鶴坂)	【事前学習】 これまでのプリントや副専攻課程ガイドブック等を整理する。 【事後学習】 副専攻課程ガイドブックの完成、レポート作成。																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% (ルーブリック評価) 最終レポート 40% 60%で合格とする。																			
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																			
担当者の 研究室等	鶴坂研究室 11号館7階																			
備考																				

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 小山 裕樹, 林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>本科目はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。</p>																		
到達目標	<p>実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。</p>																		
授業方法と留意点	<p>原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」を初めて履修する学生を対象とする。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前指導 1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導 2 マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導 3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動 1～25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	<p>教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(小山研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)</p>																		
備考	<p>事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。</p>																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 小山 裕樹, 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																		
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生のみとする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前指導1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前指導2 マナー講座・小中学校の教育現場について</p> <p>事前指導3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1～25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(小山研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。																		

科目名	チームビルディング	科目名(英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2回生以降に摂南大学PBLプロジェクトを履修する際にも役立つ。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [II]</p>
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果(資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 講義の進め方 なぜチームが必要なのかを知る チームビルディングとは何かを理解する 	本科目のシラバスを精読すること。
2	チームビルディングとは何か	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介ワーク チームビルディングの理論を学ぶ チームビルディングのための技能を知る 	チームにどのように貢献できるかを考える。
3	チームビルディング体験	<ul style="list-style-type: none"> ペーパータワーワーク(予定) チームの10カ条などに取り組み、チームビルディングを体験する 	チームでの取り組みを振り返る。
4	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	<ul style="list-style-type: none"> リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける 	配布資料を熟読する。
5	学習するためのチームづくり	<ul style="list-style-type: none"> チームを機能させるために必要な要素を学ぶ 	配布資料を精読する。
6	話し合う技術	<ul style="list-style-type: none"> チーム話し合う際の技術を学ぶ 	配布資料を熟読する事
7	ビジネス記事を活用したディスカッション	記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える	チームでのディスカッションを振り返る。
8	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ①	<ul style="list-style-type: none"> ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ 	チームにどのように貢献できるかを考える。
9	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ②	<ul style="list-style-type: none"> グループでニッポンの課題の解決策を考える 	チームにどのように貢献できるかを考える。
10	チームでプロジェクトを企画する	<ul style="list-style-type: none"> 講義の中間おさらい チームでプロジェクトを企画する 	チームにどのように貢献できるかを考える。
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介①	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
12	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介②	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
13	工程管理を意識したチームビルディング	ビジネスゲームを題材にリソースとコスト、工程管理を意識したワークに取り組む	工程管理に関して調べる。
14	プロジェクトのプレゼンテーション	第10回目の課題の報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの際に留意することを考える。
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	提出物などの出し忘れがないか確認する。

関連科目	<ul style="list-style-type: none"> 「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 キャリアデザイン I・II、摂南大学 PBL プロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、最終レポート 50% で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野研究室)
----------	------------------------

備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。
----	---------------------

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	哲学的な知の営みは、他の学問と比較してどのような独自性、特徴を持つであろうか。本講義では哲学的に問うことの本質を明らかにしながら、いくつかの哲学的・倫理学的問題を取り上げ、受講生と共に考えていく。「人間の心と動物の心」、「悪」、「人生と時間」といったテーマを中心に論じる。
到達目標	哲学的に考えるとはどういうことであるかを理解する。 授業で取り上げる個々の哲学・倫理学的のテーマに関して、自分なりによく考える。さらに、それを論理的に文章にまとめる力をつける。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行うが、受講者同士のディスカッションの時間も組み込む予定。また、必要に応じて資料を配付する。
科目学習の効果 (資格)	哲学的に考えることとはどういうことであるかを理解し、これを実践することは、学問的に必要であるばかりではなく、人生の様々な局面においても求められるものである。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	知識について (1)	どうやって私たちは何かを知るのだろうか。 経験論と合理論	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
3	知識について (2)	科学と哲学との対立と対話	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
4	知識について (3)	言葉が意味を持つとはどういうことか。 どうしてコミュニケーションが可能になるのか。 言葉の意味と音としての言葉	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
5	心の問題 (1)	心の中というものはあるのだろうか。 現象学と行動主義	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
6	心の問題 (2)	他人の心を知ることができるのだろうか。 独我論と共同主観性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
7	心の問題 (3)	心と身体の関係はどうなっているのだろうか。 身心問題の難しさ。 観念論と実在論を越えた身体のある方	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
8	自由と因果性 (1)	私たちの行為は自由に基づいているのか、それとも、何らかの法則に決定されているのか。 カントの倫理思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
9	自由と因果性 (2)	実存哲学の自由に対する捉え方 因果性と関係性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
10	悪について	正しいことと悪いこととの区別はどのような根拠があるのか。 悪とは何か。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
11	生と死 (1)	生きることの意味。死ぬこととはどういうことか	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
12	生と死 (2)	ハイデガーの死に関する思想 仏教の死に関する思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
13	神について	神は存在するのか。 魂の不死の問題	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
14	世界について	我々の生きる世界とはいかなるものか。 人間の世界における位置。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
15	まとめ	講義を通じて明らかになった哲学的な考え方の特徴を改めてまとめてみる。	授業全体をまとめておくこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	<子ども>のための哲学	永井均	講談社現代新書
	2	ダンゴムシに心はあるのか	森山徹	PHPサイエンス・ワールド新書
	3	哲学ってどんなこと?	ネーゲル	昭和堂

評価方法 (基準)	授業内でのレポート・平常点 (40%) と授業後のレポート課題 (60%)
学生へのメッセージ	大学までは、哲学的なものの考え方を訓練する機会がなかなかなかったと思いますが、これからの困難な時代を生き抜くためには、自分でものを考えることが一番大事です。
担当者の研究室等	7号館4階 有馬研究室
備考	適宜参考資料を紹介する。 事前事後学習に60時間必要。

科目名	日本国憲法	科目名(英文)	Japanese Constitution
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法は、専断的になりがちな公権力に制限を加え、国民の基本的人権を広く保障しようとする国家の基礎法である。 ・日本国憲法は、主に基本的人権とそれを担保するための統治機構の規定から構成される。 ・こうした憲法上の規定をめぐる争われる、国民と国家機関ないし国家類似団体間での法的紛争をめぐる諸問題について、身近な事例を取り上げながら、わかりやすく解説を加える。 ・また、講義を通じて、事例から憲法上の争点を抽出する能力、争点に対する考え方(判例や学説)を理解する能力、および、争点に対する結論とその論拠についてコンパクトにまとめて提示できる能力の養成を目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「立憲主義」とはどのようなものを説明できるようになる。 ・日本国憲法上の論点(問題の争点)を抽出し、それに対する判例や通説の見解を説明できる。 ・公務員試験に出題される憲法に関する問題を素早く解けるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として講義形式で行うが、質疑応答を通じて受講生との双方向理解につとめたい。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の公務員試験(行政職、警察官、消防官など)では、必ず、憲法やそれに関連する問題が出題されます。 ・これらの試験を受けようとする人は十分に理解してください。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	憲法と立憲主義	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法と法律 ・立憲主義 ・権力分立と法の支配 	教科書の入手 事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
2	日本国憲法の制定過程	<ul style="list-style-type: none"> ・マッカーサー・ノート ・大日本帝国憲法改正限界論 ・日本国憲法の正当性 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
3	平和主義	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法9条1項の解釈 ・日本国憲法9条2項の解釈 ・自衛隊の海外活動 ・集団的自衛権 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
4	基本的人権	<ul style="list-style-type: none"> ・人権とは何か ・近代自然法と社会契約説 ・夜警国家と福祉国家 ・公共の福祉 ・プログラム規定 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
5	基本的人権の享有主体 憲法の私人間効力	<ul style="list-style-type: none"> ・天皇の人権享有主体性 ・外国人の人権享有主体性 ・子どもの人権とその制約 ・憲法の直接適用説と間接適用説 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
6	精神的自由権(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・思想良心の自由 ・信教の自由とその限界 ・政教分離の原則と違憲審査基準 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
7	精神的自由権(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の自由とその類型 ・表現の自由に対する規制類型 ・報道の自由と限界 ・学問の自由と最先端科学研究 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
8	経済的自由権(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・職業選択と営業の自由 ・居住と移転の自由 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
9	経済的自由権(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・財産権の保障 ・財産権の限界 ・私有財産に対する正当な補償 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
10	人身の自由	<ul style="list-style-type: none"> ・適正手続の保障 ・罪刑法定主義 ・令状主義とその例外 ・接見交通権 ・黙秘権と拷問の禁止 ・残虐な刑罰と死刑制度 ・刑事補償請求権 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
11	社会権	<ul style="list-style-type: none"> ・生存権の保障 ・教育を受ける権利 ・労働基本権 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
12	包括的基本権 平等権	<ul style="list-style-type: none"> ・幸福追求権と死刑 ・新しい人権 ・機会の平等と結果の平等 ・法の下での平等をめぐる違憲審査基準 ・尊属殺人罪(刑法旧200条)と尊属傷害致死罪(刑法旧205条2項) 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
13	国会	<ul style="list-style-type: none"> ・国権の最高機関性と「政治的美称説」 ・二院制 ・委員会中心主義 ・議員の免責特権 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
14	内閣と裁判所	<ul style="list-style-type: none"> ・議院内閣制 ・独立行政委員会 ・内閣不信任決議と衆議院の解散 ・司法権の独立と「児島惟謙」 ・違憲審査制 ・違憲判決の効果 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
15	財政、地方自治、憲法の保障	<ul style="list-style-type: none"> ・財政民主主義 ・地方自治の本旨 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理

	・憲法改正の手續と限界		
関連科目	行政法、民法及び刑法その他諸法と密接に関連しています。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	【合格水準】教職のための憲法	志田 陽子ほか
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	憲法（第6版）	芦部 信喜＝高橋 和之（補訂）
	2	スタート憲法（第2版補訂版）	吉田仁美
	3	憲法判例集（第10版）	野中 俊彦＝江橋 崇
評価方法 （基準）	・定期試験の成績のみで評価する。		
学生への メッセージ	・各種国家試験や資格試験、および、公務員試験受験予定者は、この講義そのものが試験対策になり得ますので、積極的に受講してください。		
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室		
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回1,5時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。		

科目名	人間の探求	科目名 (英文)	Humanities
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田 清
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	フロイトの精神分析は、現在でも多くの批判にさらされているとはいえ、無意識という新しい観点から人間の考え方や振舞い方の意味を考えるその立場は、西欧の伝統的な人間論と深い関係をもっている。授業では、フランスの哲学者デカルト以来の近代の人間論をフロイトの精神分析の過激性と対比させながら、その理論的厳密性を紹介する。また、後半では、授業で得た知識を確認するために、デカルトの考え方を批判的に捉えた映画『Blade Runner』を観る。																																																																		
到達目標	他者との関係、自分自身との関係、見ることの複雑性、記憶の現在性などに対する問題意識の形成。																																																																		
授業方法と留意点	テキストは使用しない。板所はかなりの量になるので、ノートは必ず準備すること。書き残したノートがないと、試験問題に解答することはできません。参考文献は、そのつど紹介します。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	人間論によって自分自身の存在＝「私は何ものなのか」、あるいは死＝「私が無になるとは、どういうことなのか」について考えることができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに</td> <td>講義の概要</td> <td>――</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フロイトの生涯</td> <td>フロイトの人生と思想の流れ</td> <td>シラバスの熟読</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>無意識の存在</td> <td>ヒステリー研究</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>無意識の存在</td> <td>夢の解釈方法</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>心的外傷</td> <td>抑圧の事後性</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>心的外傷</td> <td>現実か幻想か</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>デカルトの思想</td> <td>「私は考える、故に私は存在する」</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>デカルトの思想</td> <td>欺く神と神の誠実性</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>死の欲動</td> <td>糸巻き遊びによる反復強迫</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>死の欲動</td> <td>快感原則と現実原則</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ラカンの精神分析</td> <td>自我の誕生としての鏡像</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ラカンの精神分析</td> <td>言語と無意識</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>生と死の意味</td> <td>『Blade Runner』鑑賞</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>生と死の意味</td> <td>『Blade Runner』鑑賞及び分析</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>試験対策</td> <td>試験問題答案の書き方</td> <td>これまでのノートの見直し</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	はじめに	講義の概要	――	2	フロイトの生涯	フロイトの人生と思想の流れ	シラバスの熟読	3	無意識の存在	ヒステリー研究	前回のノートの見直し	4	無意識の存在	夢の解釈方法	前回のノートの見直し	5	心的外傷	抑圧の事後性	前回のノートの見直し	6	心的外傷	現実か幻想か	前回のノートの見直し	7	デカルトの思想	「私は考える、故に私は存在する」	前回のノートの見直し	8	デカルトの思想	欺く神と神の誠実性	前回のノートの見直し	9	死の欲動	糸巻き遊びによる反復強迫	前回のノートの見直し	10	死の欲動	快感原則と現実原則	前回のノートの見直し	11	ラカンの精神分析	自我の誕生としての鏡像	前回のノートの見直し	12	ラカンの精神分析	言語と無意識	前回のノートの見直し	13	生と死の意味	『Blade Runner』鑑賞	前回のノートの見直し	14	生と死の意味	『Blade Runner』鑑賞及び分析	前回のノートの見直し	15	試験対策	試験問題答案の書き方	これまでのノートの見直し
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに	講義の概要	――																																																																
2	フロイトの生涯	フロイトの人生と思想の流れ	シラバスの熟読																																																																
3	無意識の存在	ヒステリー研究	前回のノートの見直し																																																																
4	無意識の存在	夢の解釈方法	前回のノートの見直し																																																																
5	心的外傷	抑圧の事後性	前回のノートの見直し																																																																
6	心的外傷	現実か幻想か	前回のノートの見直し																																																																
7	デカルトの思想	「私は考える、故に私は存在する」	前回のノートの見直し																																																																
8	デカルトの思想	欺く神と神の誠実性	前回のノートの見直し																																																																
9	死の欲動	糸巻き遊びによる反復強迫	前回のノートの見直し																																																																
10	死の欲動	快感原則と現実原則	前回のノートの見直し																																																																
11	ラカンの精神分析	自我の誕生としての鏡像	前回のノートの見直し																																																																
12	ラカンの精神分析	言語と無意識	前回のノートの見直し																																																																
13	生と死の意味	『Blade Runner』鑑賞	前回のノートの見直し																																																																
14	生と死の意味	『Blade Runner』鑑賞及び分析	前回のノートの見直し																																																																
15	試験対策	試験問題答案の書き方	これまでのノートの見直し																																																																
関連科目	思想系の科目。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	レポート (20%)、定期試験 (80%) により総合的に評価。																																																																		
学生へのメッセージ	自分自身のあり方、人間関係のあり方、生きるあるいは死ぬとはどういうことか、こうした根本的な問題に関して、答えは出ないものの、新しい見方をすることができますと思います。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	事前事後の総学習時間の目安は60時間。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。																																																																		

科目名	脳の情報処理	科目名(英文)	Computing in Brain
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	人間の知的活動の中核である脳における諸機能の理解を通して、認識、思考、判断、注意などの人間の諸活動に関わる基礎知識を獲得し、専門分野に活かす。
到達目標	脳における情報処理の基礎事項の理解とそれらを自身の生活に活かすこと。
授業方法と留意点	講義内でのミニツッパーパー、復習のための課題レポートの提出を必要とする。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	脳の構造	大脳は頭部にある様々な器官と連携してはたしている。それぞれの器官の構造と役割を概説する	課題レポートを仕上げる
3	学習: シナプスと可塑性	脳による認識・記憶・学習の基本となる神経細胞のシナプスにおける信号伝達の変化(可塑性)について概説する	課題レポートを仕上げる
4	視覚	感覚情報の大部分を占める視覚の情報処理について概説する	課題レポートを仕上げる
5	錯視・錯覚	認識戦略におけるわれわれの積極的な推測による副作用である錯視や錯覚から、人間の認識手法を知る	課題レポートを仕上げる
6	男女の脳	生理学的な脳の男女の差から男女の心理行動の違いについて考える	課題レポートを仕上げる
7	注意と選択	認識をはじめとする脳の情報処理は、意識の注がれるところに集中的に作用する。その現象を説明する	課題レポートを仕上げる
8	聴覚と言語	コミュニケーションや情緒の表現に使用される音楽や音声の取扱いの違いや意味の取扱いが、いかになされるかを概説する	課題レポートを仕上げる
9	感覚の連合	複数の感覚からひとつの概念が形成されることを情報の流れを通じて説明する	課題レポートを仕上げる
10	運動	大脳のさまざまな部位での情報処理と小脳および周辺器官の連携による、運動の生成および運動の学習について概説する	課題レポートを仕上げる
11	思考と推論	高度に発達した人間の特徴のひとつである思考と推論について概説する	課題レポートを仕上げる
12	構造と認知	ゲシュタルト心理等の構造の知覚および認知について概説する	課題レポートを仕上げる
13	記憶	大脳と辺縁系による記憶の定着と再現のしくみについて概説する	課題レポートを仕上げる
14	人間関係	人間の社会性における自他の区別や共通性、自我や感情について脳の機能を中心に考える	課題レポートを仕上げる
15	総括	まとめ	期末試験に向けて復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	MIND HACKS	Tom Stafford, Matt Webb	オライリー・ジャパン
	2			
	3			

評価方法(基準)	ミニツッパーパー等の活動を含めた授業態度 20%、課題レポート 40%、試験 40% を総合して判断する。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	11号館10階 寺内研究室
----------	---------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名(英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。 ・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害(マルチ商法)、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。 ・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。 ・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。 ・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。 ・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」(教養)でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「被害者」概念について説明できるようになる。 ・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できるようになる。 ・犯罪被害者の支援制度について理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答も随時行いたい。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・方が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。 ・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義 	事前: 「犯罪被害者」について調べてみよう 事後: 重要事項をまとめる
2	「犯罪者」をめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「犯罪者」の刑事責任 ・刑罰の正当化根拠 ・厳罰化をめぐる諸問題 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
3	犯罪被害の告訴・告発と証拠収集 犯罪捜査への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・告訴と告発の方法 ・証拠保全 ・犯罪被害者に対するメディアスクラム ・報道による被害(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット) ・被害者連絡制度 ・被害者側からの問い合わせ ・被害者からの事情聴取 ・警察と検察によるカウンセリング体制 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
4	加害者との示談	<ul style="list-style-type: none"> ・示談の意義 ・示談が与える影響 ・示談慰謝料の算定 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
5	加害者の不起訴と検察審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
6	刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者による裁判傍聴 ・被害者による記録の閲覧と謄写 ・被害者の意見陳述 ・被害者等特定事項の非公開 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
7	犯罪被害者参加制度	<ul style="list-style-type: none"> ・対象犯罪 ・被害者に認められる行為 ・参加の申出と参加時期 ・公判前整理手続への参加 ・被害者の証人尋問 ・被告人質問と意見陳述 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
8	遺族による法廷への遺影の持ち込みをめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> ・遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判 	事前: 前回までの復習 事後: 重要事項をまとめる
9	損害賠償命令制度	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の趣旨 ・対象犯罪 ・遺族による申立 ・請求対象とその範囲 ・管轄裁判所と申立期間 	事前: 「犯罪被害者への経済支援」を調べよう 事後: 重要事項をまとめる
10	被害者通知制度 犯罪被害者等給付金制度	<ul style="list-style-type: none"> ・加害者の施設内処遇と社会内処遇 ・加害者の仮釈放 ・犯罪被害者への経済支援制度 ・受給資格 ・支給要件と支給額 ・不服申立 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる

	11	その他の経済的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪被害者救護基金 ・交通事故犯罪 ・犯罪による精神被害 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	12	少年事件における被害者保護	<ul style="list-style-type: none"> ・少年法と犯罪被害者救済 ・少年事件における記録閲覧 ・少年審判の傍聴 ・少年事件での意見陳述 ・少年とその親に対する損害賠償 ・少年法と犯罪被害者救済 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	13	DV被害 高齢者に対する虐待	<ul style="list-style-type: none"> ・DVとは何か ・配偶者による犯罪 ・DV被害者の保護と支援 ・保護命令 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	14	ストーカー被害	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる「ストーカー規制法」の概要 ・ストーカーへの行政処分 ・ストーカー犯罪の類型 ・ストーカーへの対応策 ・高齢者虐待の原因論 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4訂版 ビクティム・サポート (VS) マニュアル</td> <td>第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会</td> <td>東京法令出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	4訂版 ビクティム・サポート (VS) マニュアル	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	4訂版 ビクティム・サポート (VS) マニュアル	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時に指示する。																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	・試験の成績による。																			
学生への メッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室																			
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回1,5時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。																			

科目名	プレゼンテーション論	科目名(英文)	Presentation
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	現代社会における企業等のビジネス組織で用いられているプレゼンテーションに関する知識や技法についての基礎的理論を体系的に学習する。また、基本的コミュニケーションの在り方からスピーチの構成と実践に取り組み、次いでプレゼンテーションでの実践へと段階的に学習し、体得することを目的とする。
到達目標	1) 自己紹介等、自分のことや興味・関心の高いものを堂々と述べるようになる。 2) 相手を尊重したコミュニケーションの必要性を理解できるようになる。 3) 自分の伝えたいことを明確にし、それを伝えるための初歩的スキルを身に付けることができる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 個人のプレゼンテーションを繰り返すので、学んだことを実践に移す努力が必要である。そのためにプレゼンしている姿をカメラ等で撮影し、それを基に自分自身で改善していくことが望まれる。
科目学習の効果(資格)	コミュニケーションに対する理解が深まり、自主性を養うことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・プレゼンテーションの定義と語源	・事前学修: プレゼンテーションの意味を考える。 ・事後学修: 初歩的プレゼンテーションについてレポートを作成する。
2	自己紹介プレゼンテーション①	・漢字一文字で自分を表現する。	・事前学修: 漢字一文字表現を練習する。 ・事後学修: 漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考える。
3	プレゼンテーションとコミュニケーション	・プレゼンはコミュニケーションの一部であること、それ以前にプレゼンターとしての人間の要素を高めることの必要性を学ぶ。	・事前学修: 漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。 ・事後学修: コミュニケーション思考についてレポートを作成する。
4	プレゼンテーションの基本	・基本的スキルの提示、ならびにそれを高める努力の在り方を学ぶ。	・事前学修: プレゼンテーションの基本は何かを考える。 ・事後学修: 自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
5	自己紹介プレゼンテーション②	・1分、3分という時間を使い切るプレゼンテーションを練習する。	・事前学修: 初歩的プレゼンテーションレポートを振り返る。 ・事後学修: 自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
6	プレゼンテーションの評価	・プレゼンテーションは評価されるものであることを理解し、その観点をアイデア会議で抽出する。	・事前学修: 自己紹介プレゼンを修正する。 ・事後学修: 評価の意味を考え、自己紹介プレゼンを評価する。
7	プレゼンテーションの構成	・プレゼンテーションの論理的組み立て方と校正方法を学ぶ。	・事前学修: 評価から修正した自己紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修: 自己紹介プレゼンをさらに評価し、修正したものを練習する。
8	評価表作成①	・グループワークの中で、アイデア会議で抽出したことを基に、評価表を作成する。	・事前学修: 修正した自己紹介プレゼンをさらに練習する。 ・事後学修: グループ活動としての評価表作成を行う。
9	評価表作成②	・グループ活動で作成した評価表を基に、グループ内で自己紹介のプレゼンテーションを実際に評価し、調整し、完成する。	・事前学修: 評価表作成を行う。 ・事後学修: グループ内で評価表に基づいた評価を行い、完成させる。
10	評価表作成③	・各グループで作成した評価表を発表し、本年度のプレゼン評価表を全体で完成する。 ・「良かった点・改善点」であるフィードバックの意味を理解する。	・事前学修: 評価表を完成させる。 ・事後学修: フィードバックの必要性に関してレポートを作成する。
11	紹介プレゼンテーション①	・紹介したいモノを選択し、各自で紹介プレゼンテーションの作成をする。	・事前学修: 紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修: 紹介プレゼンを練習する。
12	紹介プレゼンテーション②	・紹介プレゼンテーションを評価表を基に完成させる。	・事前学修: 紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修: 作成した評価表が機能するか、紹介プレゼンで確かめる。
13	紹介プレゼンテーション③	・グループ内発表、全体発表を繰り返し、評価表に記入する。 ・個人プレゼンのテーマを決め、実際に練習する。	・事前学修: 紹介プレゼンを完成させる。 ・事後学修: 個人プレゼンを完成させる。
14	フィードフォワード	・「良かった点・改善すべき点」のフィードバックを受け、フィードフォワードとする意味を理解する。	・事前学修: 個人プレゼンを完成させる。 ・事後学修: 個人プレゼンに関して改善レポートを作成する。
15	まとめ	・まとめワーク。 ・個人プレゼン発表。	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プレゼンテーション ZEN	ガー・レイノルズ	阪急コミュニケーションズ
	2	TED トーク 世界最高のプレゼン術	ジェレミー・ドノバン	新潮社
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション (50%)、レポート (50%) で評価し、総点の 60% で合格とする。			
学生への メッセージ	人前で話すこと、意見を述べるのが得意な人は決して多くはありません。しかしながら、社会人ともなればコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が問われます。不得意だという意識を変え、自分なりに取り組む方法を覚え、練習を重ねていくことによって、以前とは異なった自分自身を発見できるでしょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。			

科目名	プロポーザル・デザイン	科目名(英文)	Design and Proposal
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	サービスデザインの構築による新事業をいかに創造するか、そのプロセスの概観を学習する。新商品・サービスの企画段階では、提供者（企業）、利用者（消費者）の発信する情報をいかに融合させて価値を示すのかが課題である。本授業は、Webサービスの普及において、企業・消費者等の叡智を融合する『デザイン思考 (Design Thinking)』の手法により、多様な視点で共創型の提案をどのように進めるのかを学ぶ。デザイン思考は、学部・専攻の枠を超えた汎用的な課題解決プロセスを提供し、多くの産官学で実践されている米国発の方法論で、新サービスの発想の有形化を行う手段として、新市場の開拓を狙う関係者から注目を集めている。
到達目標	<p>1. サービス思考 どのようなサービスを提案し、いかにつくるのかを思考する。</p> <p>2. 共創 (コラボレーション) 異分野や立場の異なる人達と思考ベクトルを融合させ、新しい価値の創出を狙う。</p> <p>3. サービス提案 共創のアウトプット (結果) を整理し、アウトカム (成果) としてまとめて、プレゼン等で発信する。</p> <p>プロポーザル・デザインにかかわる、①e-Sales 商材開拓、②e-Promotion SNS 利活用広報、③e-Marketing 事業推進 の課題を指定する。(これらの事業に係る企業やNPO 法人からのゲスト講演の受講機会あり。)</p>
授業方法と留意点	<p>授業は、講義、テーマごとに、課題の個人発表、グループワーク・発表 (4~5名/グループ) から構成される。毎回、グループワーク・発表 (プレゼンテーション) を中心に授業運営を進める。また、ランダムに指名し各自の意見を求めた際には、積極的・建設的な発言等で授業への参画に励むよう努めること。適宜、最新の業界トピック、適用されているテクノロジーを学習する。</p> <p>デザイン思考は、新サービスの発想を形にするコミュニケーション支援手法で、異なる価値観を有する人との間で、共創活動をとおして成果を導き出す狙いがある。異分野交流を期待する人に向けた領域である。</p>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やWeb が提供する Web デザイン関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。 ・異分野の者の間のグループワークによる交流・親交の機会に接する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	サービスデザインの科学	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスデザイン ・Web サービスと人間系サービス ・人間中心のデザイン (Human-Centered Design) ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
3	ケーススタディ 1	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスにおける人間系要素 ・メンタルマトリックス ・Web サービスの特質 ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
4	サービスの市場	<ul style="list-style-type: none"> ・『市場 (Market)』とは何か ・プロポーザルフレームワーク ・提案の視点 ・提案を取り巻くステークホルダー ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
5	『デザイン思考 (Design Thinking)』の概観	<ul style="list-style-type: none"> ・『デザイン思考』の視点 ・デザイン思考とシステム思考 ・デザイン思考の位置づけ ・個人発表 (プレゼンテーション) 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
6	ケーススタディ 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーエクスペリエンスデザイン (User Experience Design) ・カスタマーエクスペリエンスデザイン (Customer Experience Design) ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
7	『デザイン思考 (Design Thinking)』の手順	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン思考の標準ステップ ・発見 (Discover) / 定義 (Define) / 発想 (Ideate) / 実証 (Prototype) ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
8	『デザイン思考 (Design Thinking)』の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス提供者 (企業) と利用者 (消費者) の関係性マネジメント ・RAD (Rapid Application Development) ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
9	ケーススタディ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・プロトタイプング ・ステークホルダー 顧客、取引先、CMO (chief marketing officer)、利益団体 (Interest Group) ・個人発表 (プレゼンテーション) 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
10	『デザイン思考 (Design Thinking)』と提案 (Proposal) 活動	<ul style="list-style-type: none"> ・提案 (Proposal) 活動の骨子 ・ワークショップ適用事例 ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
11	ケーススタディ 4	<ul style="list-style-type: none"> ・B2C とデザイン思考 ・B2B とデザイン思考 ・グループワーク・発表 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
12	ケーススタディ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・思考の発散と収束 ・演繹法と帰納法 	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ

			・グループワーク・発表	
	13	ケーススタディ 6	・B2B2C デザイン思考 ・ゲスト講演聴講	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
	14	ケーススタディ 7	・オープンデザイン ・ビジネス実践事例 ・グループワーク・発表	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
	15	まとめ	・総合課題 ・総括	教科書の指定する章・節の予復習、指定するケーススタディ
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	デザイン思考の教科書	ファン・パイエン, アネミック/ ダールハウゼン, ヤープ/ザイル ストラ, イェル/ファンデル・ス コール, ロース	日経 BP 社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	デザイン思考が世界を変える	ティム・ブラウン	早川書房
	2	IBMの思考とデザイン	山崎 和彦	丸善出版
	3	オープンデザイン ―参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」	ヴァン・アベル, バス/エバース, ルーカス/クラーセン, ロエル/ トロクスラー, ビーター	オライリージャパン
評価方法 (基準)	平常点 (25%)、個人レポートの提出 (15%)、定期試験 (60%) による総合評価を行う。平常点は、個人およびグループでの課題・ディスカッション、指名時の発言、小テスト (毎回、不定期)、授業への参画程度・態度で評価する。私語、携帯機器の利用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映するので、くれぐれも注意すること。			
学生への メッセージ	新サービスの発想を形にする手段として、市場から注目を集めているデザイン思考は、多様な視点で共創型の提案を進め、新サービスの発想を形にするコミュニケーション支援の方法論です。異なる価値観を有する人達との間で、グループワークをととして成果を導き出すアプローチに慣れ親しんでください。			
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 (北村教授室)			
備考	全座席指定での着席をお願いします。初回の授業ガイダンスでは、クラス運営法、学習法、成績評価基準の説明、課題・発表 (プレゼンテーション) 要領、授業用ツール (Portal、SNS) 利用を説明するので、必ず出席すること。また、授業の出席回数要件を満たさない者、成績評価にかかわる活動での不正行為者は、初回授業で示す評価基準に従った評価を行う。			

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中のさまざまな人々の多様な生の理解を通して、私たち人類が地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探求してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学がどのような学問であるかを理解すること。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解すること。
授業方法と留意点	講義
科目学習の効果 (資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	文化人類学とは？	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念や方法論について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
2	人類学の誕生 (1) : 博物学から人類学へ	19世紀におこった博物学から進化主義人類学へという変化を通して、人類学の誕生をあとづける。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
3	人類学の誕生 (2) : 進化主義人類学	前回の続き。タイラー、モーガン、フレイザーの研究を例に進化主義人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
4	機能主義人類学 (1) : マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケーム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、マリノフスキーとラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
5	機能主義人類学 (2) : 有機的全体としての社会	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
6	アメリカ文化人類学の誕生 (1) :	フランツ・ポアズの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
7	アメリカ文化人類学の誕生 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
8	アメリカ文化人類学の展開 (1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、アメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
9	アメリカ文化人類学の展開 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
10	構造主義 (1) : モースからレヴィ=ストロースへ	マルセル・モースとレヴィ=ストロースの研究を中心に構造主義について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
11	構造主義 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
12	構造主義 (3)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
13	解釈人類学 (1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
14	解釈人類学 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
15	『文化を書く』とそれ以降	ポストモダン人類学とその後の展開について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。

関連科目 学芸員課程

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	100%定期試験によって評価する。 評価の基準は、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうかにおく。			
学生への メッセージ	<p>情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。ノートは板書をただ受動的に書き写すのではなく、疑問点や興味を持ったポイントなどについてもメモを取り、あとで見返した時にわかるようなノートをつくる習慣をつけてください。わからないことがあれば積極的に質問に来てください。</p> <p>各回の講義終了後あまり時間をおかずに、それまでの講義の流れを理解したうえで、各回の講義の要約をノート半ページから1ページ程度で作ってみることを推奨します。要約の作り方については授業の中で適宜指示します。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	事前事後の総学習時間の目安は60時間。			

科目名	マーケティングと歴史	科目名(英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本とします。
科目学習の効果(資格)	マーケティングの発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
6	マーケティングのSTPAアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
10	越後屋の仕入機構(1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
11	越後屋の仕入機構(2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめテキストを一読しましょう。事後学習として、文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動	武居 奈緒子	晃洋書房
3			

評価方法(基準)	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の研究室等備考	11号館8階 武居教授室

科目名	マーケティング入門	科目名 (英文)	Introduction to Marketing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 祥司
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> この科目は、「国際ビジネスプログラム」および「メディアビジネスプログラム」の対象科目である。 マーケティングの基本的概念を説明した後に、グローバルマーケティングについて説明する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> グローバルマーケティングについて理解を深める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 講義形式を基本としますが、企業の具体的な事例についても言及する。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> マーケティングの基礎知識を学習し、現実の問題として捉えることで、グローバルマーケティングをより身近に理解できるようになる。 マーケティング的発想ができるようになる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	グローバルマーケティングの全体像を示します。	【事前学習】教科書第1章の読解。 【事後学習】教科書を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
2	マーケティング志向	マーケティングの原点であるマーケティング志向について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
3	マーケティングの4P	製品、販売、流通、価格の基本的な知識について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
4	マーケティングのSTP	セグメンテーションやターゲティングについて説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
5	競争戦略	企業の競争関係について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
6	マーケティングとグローバル化	グローバルな市場創造について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
7	グローバル・マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチのプロセスについて、説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
8	グローバル市場参入戦略	市場参入戦略について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
9	グローバル製品戦略	グローバル製品戦略の基本的な知識について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
10	グローバル価格戦略	グローバル価格戦略の基本的な知識について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
11	グローバル・コミュニケーション戦略	グローバル・コミュニケーション戦略の基本的な知識について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
12	グローバル営業戦略	グローバル営業戦略の基本的な知識について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
13	グローバル小売の店舗戦略	グローバル小売の店舗戦略の基本的な知識について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。 【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
14	グローバル・ブランド戦略	グローバル・ブランド戦略について説明します。	【事前学習】前回授業時に案内した教科書該当章の読解。

授業計画

				【事後学習】教科書や配布資料を読み直し、事前に分からなかった内容や用語が理解できているかの確認。
	15	まとめ	全体のまとめをします。	【事前学習】これまでの復習。 【事後学習】期末テストへの準備。
関連科目	国際ビジネスプログラム科目、メディアビジネスプログラム科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からのグローバル・マーケティング	小田部正明、栗木梨、太田一樹編著	中央経済社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	グローバル・マーケティング	諸上茂登、藤沢武史	中央経済社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(ミニツペーパー、中間レポート、発表等)40% 期末テスト60%			
学生への メッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。			
担当者の 研究室等	田中祥司研究室			
備考				

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名(英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A], 理工学部 [I1]
到達目標	自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようにする。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよいと考える。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果(資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか?	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか?	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	3	犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか?	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	4	大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか?	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	5	街頭犯罪—ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	7	性犯罪—街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	9	ストーカー、DV(配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	10	詐欺—高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、事例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	11	サイバー犯罪—子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験70%、講義毎回の確認ペーパー30%で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できることからよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえと思う。			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。			

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥野 竜平
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生(大学3年)を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)企業における品質問題を体験する。(4)原価管理の基礎知識を修得する。(5)PDCAサイクルによる課題解決を体験する。
授業方法と留意点	パナソニック(株)より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック(株)の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁です。なお、1~8回目までは120分授業とする。
科目学習の効果(資格)	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	企業・製造業・仕事の基本とは② 4月19日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
3	企業・製造業・仕事の基本とは③ 4月26日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
4	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5月10日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
5	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5月17日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
6	企業・製造業・仕事の基本とは⑥ 5月24日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
7	品質教育① 5月31日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	----
8	品質教育② 6月7日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	品質教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
9	原価・コスト教育① 6月14日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
10	原価・コスト教育② 6月21日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
11	原価・コスト教育③ 6月28日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
12	課題解決教育① 7月5日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	----
13	課題解決教育② 7月12日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
14	プレゼンテーションの方法 7月19日(木)	プレゼンテーションの基礎知識を習得する	これまでの講義を総括して、全体討議・質疑応答でのプレゼン資料作成を行うこと
15	全体討議・質疑応答 7月26日(木)	14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

教養科目

評価方法 (基準)	課題レポート(6回)と受講レポート50%、授業姿勢(積極性)20%、全体討議(プレゼンテーション)10%、期末試験20%にて総合評価を行う。
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック(株)と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。
担当者の 研究室等	1号館4階 奥野教授室
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回1時間程度。 レポート各回3時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習20時間程度。全体討議におけるプレゼンテーション資料作成のため、2回 実習前指導を実施する(7/12(木), 7/19(木)6限目)。 パナソニック講師:佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、町田秀人

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	諏訪 晴彦, 木多 彩子, 楢橋 祥一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎		

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で、実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識 (社会・文化等)、協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。?
到達目標	(1) 海外事情が理解できる。(2) 海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3) グローバル企業の現状が理解できる。(4) 海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5) 英語による基本的なコミュニケーションができる。(6) 社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。講義室内ではできるだけ、日本語を使わないようにする。
科目学習の効果 (資格)	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEIC や英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。?海外における実体験ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	海外事情, 日系企業のグローバル化, 英語コミュニケーション2	英語による自己紹介発表, 海外の文化, 経済, グローバル化事情	今回の課題レポート作成 研修先の英字新聞の調査
3	研修先 事前調査, 英語コミュニケーション3	英字新聞記事の調査, 文化, 歴史, 経済事情, 企業・大学	今回の課題レポート作成 格差社会の調査
4	格差社会の問題	これからのグローバル人材として必要な素養を考える, ビデオ鑑賞など	今回の課題レポート作成 格差社会の問題についてレポート提出 英語による日本の紹介準備
5	社会人基礎力, 英語コミュニケーション4	社会人として必要な基礎力, 英語による日本の紹介発表	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
6	英語コミュニケーション5	海外渡航, 海外生活, 大学紹介, 専門科目の紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
7	英語コミュニケーション6	研修先企業, 大学の調査, 英語による発表, 英語によるワークショップなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
8	英語コミュニケーション7	海外研修を想定したグループ実習1, テクノセンター見学, ヒヤリングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
9	英語コミュニケーション8	海外研修を想定したグループ実習2, テクニカルニュースのリスニングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
10	英語コミュニケーション9	海外研修を想定したグループ実習3, テクニカルニュースの発表など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
11	英語コミュニケーション10	海外研修を想定したグループ実習4, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
12	英語コミュニケーション11	海外研修を想定したグループ実習5, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
13	マナー実習	挨拶, 礼儀, 服装, ミーティング, 質疑, 懇親会, 感謝, 気配り, 機転	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
14	海外渡航, 海外生活	渡航準備, 入出国, 習慣, 食生活, 健康管理	今回の課題レポート作成 成果発表の準備
15	英語による成果発表	まとめ	成果発表の反省

関連科目 ものづくり海外インターンシップ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 課題レポート60%, 取組み姿勢20%, 成果発表20%として評価を行う。

学生へのメッセージ これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。

担当者の研究室等 1号館4階 諏訪教授室

備考 【事前事後学習】レポート作成, 復習の学習時間: 20時間程度
【共同担当者】 諏訪教授 (M科), 石田准教授 (C科), 川野教授 (M科), 理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野 竜平
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。																		
到達目標	(1)生産革新・改善を体験する。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験する。(3)チームワーク・QCD問題を体験する。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。																		
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック(株)人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、ものづくりインターンシップ実践の準備 7/19(木) 6限目 ・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/26(木) 6限目 <p>宿泊実習(パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1~3日目 【授業テーマ】 生産革新演習 【内容・方法等】 1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・4~5日目 【授業テーマ】 モノづくりシミュレーション演習 【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得(設計~生産)し、目標達成のためのチームワーク・QCD問題意識の重要性を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・6日目 【授業テーマ】 工場見学 【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場) 【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・7日目 【授業テーマ】 研修成果報告会 【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。(グループ単位) 【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月1日(土) 1~4限目 プレゼンテーション指導 <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 体験報告書の添削指導 ・2回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導 ・4回目 研修成果報告会(2回目) ・5回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・6回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評 																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習成果40%、研修成果報告会(2回)20%、実習最終レポート10%、体験報告書10%、実習・授業態度20%とした総合評価を行なう。																		
学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。																		
担当者の	奥野教授室(1号館4階)																		

研究室等	
備考	<p>期間：2018年8月27日（月）～8月31日（金）、9月3日（月）～9月4日（火） パナソニック（株）人材開発カンパニーでの宿泊研修です。9月1日（土）には摂南大学でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。</p> <p>【事前事後学習】 レポート作成，プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。</p> <p>【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫</p>

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名 (英文)	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	諏訪 晴彦. 木多 彩子. 檜橋 祥一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。研修先はとりわけ東南アジアとする。?研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。																
到達目標	(1) グローバル企業の現状が理解できる。(2) 英語による基本的なコミュニケーションができる。(3) 海外でのものづくりの工程を体験できる。(4) チームワークを体験できる。(5) 国際的視野を広げられる。(6) 研修成果が発表できる。																
授業方法と留意点	東南アジアは、フィリピン1箇所とタイ1箇所を予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間(予定)の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習 ・1～2日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学(英語)研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習/ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の上流である企画・設計部門。 【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイディアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4～5日目 【授業テーマ】製造工場見学 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地従業員、大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイディアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6～8日目 【授業テーマ】製造系実習 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9～10日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でPPTでプレゼン、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出のこと</p> <p>実習後指導 ・1回目 最終レポート(体験報告書)の添削指導 ・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p>																
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	海外現地研修 60% (実習記録簿 20%, 実習・授業態度 20%, 実習成果プレゼン 20%), 実習前後の学習 5%, 実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会 (2回) 15%として評価を行う。																
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。																
担当者の研究室等	1号館4階 諏訪教授室, 川野教授室, 1号館3階 石田准教授室																
備考	【注意事項】研修予定期間: 2017年8月中旬(研修先の都合により変更する場合があります。)航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間: 20時間程度 【共同担当者】石田准教授, 川野教授, 理工学部インターンシップ委員会委員																

科目名	ものづくり研究の世界	科目名(英文)	Introduction to Manufacturing Technology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀江 昌朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートに丁寧にまとめていくことが大事。
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	道具を作る(1) - ヒトと道具	・道具の歴史:ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	配布資料に目を通しておくこと。
3	道具を作る(2) - 作り方	・鋳造、塑性加工、粉末冶金、材料加工、生産加工 ・刀鍛冶、セラミックス、溶接・切断	配布資料に目を通しておくこと。
4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか? ・鉄鋼の製造方法	配布資料に目を通しておくこと。
5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造(金属と何が異なるか?) ・高強度・機能性材料の話	配布資料に目を通しておくこと。
6	モノの材料を知る(3) - 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶、超伝導、ナノ材料	配布資料に目を通しておくこと。
7	ものづくり(1) - 母なる機械	・機械部品を作る機械(工作機械の歴史) ・機械時計、工具と運動、機械部品	配布資料に目を通しておくこと。
8	ものづくり(2) - 精密に加工する	・精度を追求する(コンピュータと工作機械) ・精密加工、マシニングセル、ナノ加工	配布資料に目を通しておくこと。
9	ものづくり(3) - 工場(ファクトリー)	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場、デジタル屋台、トヨタ生産方式	配布資料に目を通しておくこと。
10	大きな力を得る(1) - 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪、滑車、てこ、歯車	配布資料に目を通しておくこと。
11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器、電動機	配布資料に目を通しておくこと。
12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ、電動アシスト自転車、人工筋肉	配布資料に目を通しておくこと。
13	ミクロの機械(1) - 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計、携帯電話、計算機、テレビカメラ、情報機器	配布資料に目を通しておくこと。
14	ミクロの機械(2) - 小さく作る	・小さくすることで変わる物理の法則、加工法・アクチュエータ ・微細加工、ナノテク、半導体製造、カーボンナノチューブ、微細気泡	配布資料に目を通しておくこと。
15	ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡、鞭毛モーター	配布資料に目を通しておくこと。

関連科目 産業技術史

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 毎回、講義メモとレポートを提出する。講義全体にわたるメモ(50%)、講義内容に対する理解と考察に関するレポート(50%)で評価する。

学生へのメッセージ 機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか?日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか?近未来にどのような乗り物が実現されているのか?等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。

担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1号館の3階・4階・5階〕
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前事後の総学習時間の目安は60時間。

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川 富盛
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	<p>諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」はもう変わることはありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。つまり、たかだか「正解を覚えてもらって要領良く覚える」ということをやってきただけに過ぎません。</p> <p>しかし、諸君がこれから歩を進めていく社会は「明日を創っていく社会」ですから、最初から決まり切った正解なんかどこにもありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかないのです。そこで最も必要となるのは、他人の話や文章を正確に理解し、自分の考えを的確に表現する能力です。</p> <p>実社会で諸君が自ら成長し自分の人生を築き上げていくことは、企業がより良い企業となることを目指して経営していくことと同じです。つまり、諸君のこれからの人生は「自分株式会社を経営していくこと」に他なりません。それには、自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となる、という大きな方向転換が必要なのです。具体的には、市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく力を身に着ける、ということです。</p> <p>経済や法律などの学問的知識に加え、金融や投資などファイナンスに関する実践的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単に目先のお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。</p> <p>本講義の目的は、諸君が人生のさまざまな局面で的確に決断し行動できるよう、ファイナンスの知識や考え方に根差した実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けることです。</p>																																								
到達目標	<p>主としてファイナンスの観点から、実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着ける。</p> <p>この講義は、諸君が将来直面する経済生活やキャリアライフで、諸君自身が「賢い経済主体」として適宜的確に行動できるようになることを目指します。</p> <p>諸君としては、講義に漫然と出席して教科書を開いているだけでは目標に到達することなどあり得ず、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる事が必要です。</p> <p>本講義は15回全体を通して次の三つのステップで構成し、各回とも教科書を使用した講義形式で進めます。</p>																																								
授業方法と留意点	<p>① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。</p> <p>② 次に、ファイナンスの基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。</p> <p>③ 更に、それらを統合し活用する能力をインテリジェンスとして身に着け、社会生活に応用する方法を学びます。</p> <p>本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。</p> <p>但し、講義の内容は教科書通りではなく、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎません。このため、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p>																																								
科目学習の効果 (資格)	<p>経済・社会生活やキャリアライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、ファイナンスの知識を活用する実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けます。</p>																																								
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>「経済主体としての立ち位置」</td> <td>テキスト<P15~14, 4~13> ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経済・金融の基礎知識 ①</td> <td>「国際経済と国家財政」</td> <td>テキスト<P44~49, 38~44> ・国際経済 ・国家の財政</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>経済・金融の基礎知識 ②</td> <td>「市場経済と金融の役割」</td> <td>テキスト<P16~18, 25~29, 18~25> ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>法律の基礎知識</td> <td>「契約の基本」</td> <td>テキスト<P154~157, 159~166> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>リスクと向き合う ①</td> <td>「日常生活のリスク」</td> <td>テキスト<P79~87, 166~168, 157~159, 168> ・リスクマネジメント ・契約社会 III</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>リスクと向き合う ②</td> <td>「リタイアメント」</td> <td>テキスト<P88~97> ・年金制度 ・老後生活資金</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>投資の基礎知識</td> <td>「投資とは何か」</td> <td>テキスト<P98~104> ・投資とは ・投資意思決定プロセス</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>経済活動と金融市場</td> <td>「景気・株価」</td> <td>テキスト<P30~31, 56~57, 32~36, 54~55, 37, 50~53> 景気 景気と株価</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>金融商品の基礎知識 ①</td> <td>「代表的な金融商品 (株式等)」</td> <td>テキスト<P123~135> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置」	テキスト<P15~14, 4~13> ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性	2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P44~49, 38~44> ・国際経済 ・国家の財政	3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~18, 25~29, 18~25> ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行	4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P154~157, 159~166> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II	5	リスクと向き合う ①	「日常生活のリスク」	テキスト<P79~87, 166~168, 157~159, 168> ・リスクマネジメント ・契約社会 III	6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P88~97> ・年金制度 ・老後生活資金	7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P98~104> ・投資とは ・投資意思決定プロセス	8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~31, 56~57, 32~36, 54~55, 37, 50~53> 景気 景気と株価	9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品 (株式等)」	テキスト<P123~135> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																						
1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置」	テキスト<P15~14, 4~13> ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性																																						
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P44~49, 38~44> ・国際経済 ・国家の財政																																						
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~18, 25~29, 18~25> ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行																																						
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P154~157, 159~166> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II																																						
5	リスクと向き合う ①	「日常生活のリスク」	テキスト<P79~87, 166~168, 157~159, 168> ・リスクマネジメント ・契約社会 III																																						
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P88~97> ・年金制度 ・老後生活資金																																						
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P98~104> ・投資とは ・投資意思決定プロセス																																						
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~31, 56~57, 32~36, 54~55, 37, 50~53> 景気 景気と株価																																						
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品 (株式等)」	テキスト<P123~135> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品																																						

				・デリバティブ テキスト<P117~123> ・預貯金 ・信託 ・債券
	10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品（債券他）」	
	11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト<P105~117> ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
	12	投資のリスク管理	「投資のリスクマネジメント」	テキスト<P136~153> ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
	13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト<P58~67> ・ライフプランニング
	14	人生の三大資金	「住宅、教育、リタイアメント資金」	テキスト<P68~78> ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題
	15	最終まとめ	「講義のまとめ」	全体レビュー 講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎		金融知力普及協会
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
評価方法 (基準)	<p>下記のとおり、本講義と課題に対する取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験 : 20% (経済やファイナンスに関する知識の正確性を評価します。試験範囲は講義全体です。) ・レポート : 50% (自分で考えて調査し問題解決する能力、即ち、全講義を受講して得た知見を評価します。) ・平常点 : 30% (全員の受講状況と態度、質疑応答、課題・討議などを評価します。出席点ではありません。) <p>講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、目標に到達することはあり得ませんから、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる必要があります。</p> <p>講義の中で提示した課題については、当日の講義中または次回の講義で検討と解説を行ないますので、知識の確認に適宜役立ててください。</p> <p>成績評価の一つとなる上記課題レポートは表計算ソフト「エクセル」で出題するので、提出期限（定期試験当日を予定）までにこの課題レポートの出題に答えて必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。 (講義では「エクセル」の使い方は教えませんが、フォーマットを提示するので表入力と確認が必要です。)</p> <p>レポート課題は大学内の情報システムを通じて掲示・連絡しますので、学内情報システムの利用や連絡設定は各自で事前に必ず行っておいてください。</p>			
学生への メッセージ	<p>本講義は「受講者の誰もが覚えられるように一つ一つ教えていく」のではなく、初回「イントロダクション」でも説明する通り、全15回を通して受講することによって、情報収集能力、考える力、判断力などの実力が付くように構成してあります。このため本講義を聴講すると、諸君は実戦と同じく、広範で大量の情報が一方的に流れてくることを経験することになります。</p> <p>しかし、諸君は既に大学生なのだから、「自分に分かる程度のことを自分に分かるように教えてもらえるのが当然だ」という子供じみた甘えは捨て去ること。</p> <p>その上で、「講義されている内容を自分自身で考えて理解しよう」という確固たる意志を持ち、私語を慎み毎回静粛に受講すること。そうすればこれまでと異なる観点に立つことができ、本講義本来の効果を各自が最大限に得ることができます。</p> <p>本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありませんが、スマホやタブレット等からのネット検索やサイトの利用を適宜指示することがあります。</p> <p>受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容も教科書通りではありませんので、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p> <p>その他、課題の提示方法等についても詳しくは講義の中で説明しますので、講義は毎回注意深く受講し、指示に従って下さい。こうした日常の情報収集能力が、各自の実力や成績評価にも大きく影響します。</p> <p>本講義で得た知識は、自分が学んでいる様々な専門知識と組み合わせることで、より高い効果を得ることができます。安直にありきたりの答えを求めるのではなく、自分で考える習慣を身につけてください。</p> <p>なお、居眠り、内職、途中離着席、私語など、真摯に受講せず講義の妨げとなる学生には、講義を中断して注意を促し退席を命じる場合があります。学生の本分を弁えない不適切な行動は本講義の主旨を理解していない証左であり、成績評価にはマイナスとして反映します。</p>			
担当者の 研究室等	11号館1階（教務課）			
備考	<p>「事前・事後学習課題」について 予習（シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む）：30分程度 復習（講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する）：30分程度</p> <p>質問等は、講義前又は後の時間帯に、教室等での対面による自由な質疑応答で受け付けます。 興味のあることや疑問を感じたことなど、自分で抱え込まないで気軽に相談してください。</p> <p>この講義は、SMBC日興証券グループによる「寄附講座」です。</p>			

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名(英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭. 青笹 治. 井尻 貴之. 居場 嘉教. 尾山 廣. 川崎 勝己. 木村 朋紀. 中嶋 義隆. 長田 武. 西村 仁. 船越 英資. 丸山 如江. 宮崎 裕明. 村田 幸作. 吉岡 泰 秀
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎的知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。
到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎的知識の理解
授業方法と留意点	配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。
科目学習の効果(資格)	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	概要説明 特殊環境微生物学(西矢)	授業の進め方を説明する。 特殊環境の微生物に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	2	食品微生物学(村田)	微生物と生命・食糧・環境について解説する。	講義後に小論文を課す。
	3	細胞生命生理学(宮崎)	生物がいかんして環境に適応する仕組み(ホメオスタシス)を獲得し、進化してきたのかについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	4	分子生物学(川崎)	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	5	環境分析学(青笹)	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	6	生命環境科学(長田)	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	講義後に小論文を課す。
	7	細胞機能学(船越)	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポート、または確認小テストを課す。
	8	環境毒性学(木村)	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	9	構造生物学(中嶋)	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートを課す。
	10	タンパク質科学(丸山)	タンパク質の生合成、分類、機能、解析方法などについて概説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	11	分子細胞制御学(西村)	多くの生命現象は「現在(いま)」を生きたためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	12	生体触媒科学(井尻)	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	13	病態薬理学(居場)	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
	14	発生遺伝学(吉岡)	形態形成を中心にモデル生物を用いた応用研究についても解説する。	講義中にレポートを課す。
	15	生体分子機能学(尾山)	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	確認小テストを課す。

関連科目	生物学概論、生化学Ⅰ、生物無機化学、生物統計学
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等備考	1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科全専任教員)
------------	------------------------------

キャリア形成科目



科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP2○		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じることであり、事前学習として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。
到達目標	インターンシップへ意欲的に自信を持って参加できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。インターンシップの現場につながる講義 (演習を含む) であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果 (資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	・インターンシップとは何かについて考えること。
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・ビジネスとは何かを考えること。
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・インターン受入企業等の組織のリストに目を通しておくこと。
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・プレゼンテーションができるように準備すること。
5	課題のプレゼンテーション①	・第4回目の課題をプレゼンテーションする	・第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること。
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・マナーがなぜ大切なのかを考えること。
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること。
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・マナーの大切さを再度考えること。
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・履歴書を書く準備をしておくこと。
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・グループ内の自分の役割を考えること。
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・グループの最大の力を出すために、自分に何ができるかを考え、プレゼンテーションの準備をして下さい。
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること。
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること。
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること。
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること。

関連科目 この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ (企業等の組織での就業体験)」を履修することが望まれる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 発表 (40%)、レポート等の提出物 (30%)、授業態度 (30%) を総合的に評価する。

学生へのメッセージ インターシップの流れは以下のとおりである。
※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始 (予定)
インターン先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。

担当者の研究室等 7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)

備考 教科書・・・必要に応じてレジュメを配布
参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示
インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。
なお、事前事後学習には毎回1時間以上かけること。

キャリア形成科目

科目名	インターンシップⅡ	科目名(英文)	Internship II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵、水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP2○		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げること、職業観の涵養に努めることを目標とする。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。
科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	直前学修② 6月16日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	マナーについて考えること。
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	事前に立てた目標を意識して参加すること。
7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	事前学修の通りに報告書を作成する。提出前に必ず推敲を行うこと。 提出期限を厳守すること。
8	事後学修① 9月22日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
9	事後学修② 9月22日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
10	事後学修③ 9月29日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
11	事後学修④ 9月29日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
12	事後学修⑤ 10月13日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	実習記録簿を見直してこること。
13	事後学修⑥ 10月13日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	実習記録簿を見直してこること。
14	事後学修⑦ 10月20日(土) 1限目(予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること。
15	事後学修⑧ 10月20日(土) 2限目(予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ	全員スーツ着用

関連科目	インターンシップⅠ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(40%)を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	1. 「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 2. 「インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)
----------	---------------------

キャリア形成科目

備考	<p>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。</p> <p>なお、振り返りの課題（体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など）は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際はスーツを着用してくること。</p>
----	--

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment Development I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武, 石井 三恵, 上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP2○		

授業概要・目的	大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、またどのような職業へと導かれたかの3つのテーマを基に、本学の教職員から多様な生き方を聴き、それらに基づいたグループワーク、個人ワークを行う。 この活動により、4年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方を理解する。
到達目標	講師の意見を聴き、自身のキャリア（職業生活）を通したライフプランニング（人生設計）を必ず描いてみることで、またそのための試行錯誤することを学ぶことが目標である。
授業方法と留意点	人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は1年生向けの科目で、2018年度入学生のみ履修ができる。
科目学習の効果（資格）	大学生生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とかわかるといふことについて考える契機となる。

キャリア形成科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義を振り返る
2	学生生活① 未来の自分に何を渡すか！ ～大学生活で成長するために必要な3つのこと～ (担当：地域連携センター 古屋豊吾)	・みなさんと同じ摂大生として、ラグビー部での経験と社会で活かせる能力とを関連付けて、「自己肯定感」の重要性についてお話しします。 個人ワークやミニゲームを取り入れながら進みます。	・講義を振り返る
3	学生生活② チャンスだらけの摂南大学- 学生時代に飛躍する方法- (担当：経営学部 准教授 久保 貞也)	(1) 摂南大学をうまく活かした先輩たち (事例紹介) (2) チャンスを失う典型的な学生 (注意喚起) (3) 摂大でチャンスを得る方法	・講義を振り返る
4	学生生活③ 大学生活が教えてくれた10のこと (担当：教務課 池田 有紀)	・講師の話を聴き、自分が「好きなこと・モノ」を明確化するとともに、大学生生活のなかで何かに向かって試行錯誤しながらチャレンジするきっかけを作る。	・講義を振り返る
5	学生生活④ 講義の中間まとめ (担当：キャリア教育推進室)	・グループ分けの実施 ・講義2回から4回のまとめ ・レポートの書き方	・講義を振り返る ・第1回「学生生活」に関するレポート締切
6	キャリアパス① 個別ワーク「私がNO.1プロジェクト」	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1になる」為の計画を立て、実践する。	・設定した課題を実践すること
7	キャリアパス② 「私のキャリア」 キャリアアップを考える (担当：経済学部 教授 持永 政人)	・企業での経験を踏まえ、将来のキャリアアップのために学生時代に何をすべきかを講義します。	・講義を振り返る
8	キャリアパス③ 「NO.1 プロジェクト」途中経過の共有	・講義6で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する。	・講義を振り返る ・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること
9	キャリアパス④ 自分のキャリア形成のためには何が必要なのか？ (担当：スポーツ振興センター 准教授 藤林 真美)	・自身の失敗（しかし、将来への原動力につながる）から、充足・不足していたことを紹介します。事前課題として「学歴、資金、マンパワーなど何一つ心配することなく、自分のやりたい職業に就ける or 起業できると仮定し、その内容と準備について」自由な発想で考えてきてください。	・講義を振り返る
10	キャリアパス⑤ 講義の中間まとめ (担当：キャリア教育推進室)	・キャリアパスの回のまとめ ・グループワーク	・第2回課題「キャリアパス」に関する課題を提出
11	学修① 学修の回のオリエンテーション (担当：キャリア教育推進室)	・学修の回のオリエンテーション ・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザルの作成」	・グループで課題に取り組む
12	学修② 法律とスポーツと将来の職 (担当：法学部 教授 石井 信輝)	法とスポーツとの関係性は見出しにくいですが、様々な関係性を有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学における学習に向かう心構え等について講義する。	・講義を振り返る
13	学修③ 講師のキャリア事例から「キャリア」を考える (担当：経営学部 講師 西之坊 穂)	・これまで学んできた「キャリア」は何か、キャリアについてあらためて考える	・講義を振り返る
14	学修③	・講義11で取り組んだ課題をグループ	・講義を振り返る

		課題「グループで課題研究」の発表	ごとに発表する。	・グループ課題を提出
	15	講義のまとめ(担当:キャリア教育推進室)	・エンプロイメントデザインⅠの振り返り	・講義を振り返る ・第3回課題「講義の最終レポート」
関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	毎回のミニッツペーパー(15%)、グループワーク(15%)、グループ課題(10%)、レポート3回(60%)、を総合的に判断する。			
学生へのメッセージ	学生生活4年間を以下に有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切に、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。			
担当者の研究室等	7号館5階キャリア教育推進室(石井) 7号館3階キャリア教育推進室(水野)			
備考	教科書:各回の講師が必要に応じ、プリント配布。 参考書:各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。			

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名(英文)	Employment Development II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵, 上野山 裕士, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP2○		

授業概要・目的	<p>毎回、キャリア教育推進室(石井・水野・上野山)の3名が担当し、外部講師(本学卒業生を含む)をお招きする。外部講師から仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。</p> <p>また、さまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養を目的とする。</p> <p>なお、第1回目オリエンテーション、第10回中間まとめ、第15回講義のまとめはキャリア教育推進室が担当し、気構えと態度、振り返り方、レポートのまとめ方等を学ぶ。</p>
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。
科目学習の効果(資格)	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

キャリア形成科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「先人(企業家)に学ぶ～仕事への心構え」(商工会議所/職員)	<ul style="list-style-type: none"> 企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします。 	講義の感想を提出
3	私が大阪府警察で働く理由～警察官の数だけ理由がある～(警察官)	<ul style="list-style-type: none"> 採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介します。DVDの上映も行います。 	講義の感想を提出
4	ソフトウェアエンジニア、起業、NPO活動、海外へ行って仕事をする、常に目標を持ち続けること(ICT開発/代表)	<ul style="list-style-type: none"> キャリアデザインの一つの参考事例として、これまで歩んできたキャリアパスをお話しします。 ソフトウェアエンジニアとして仕事を始め、インターネット時代の到来とともに起業、その後の仕事の考え方、10年間取り組んだNPO活動「子どもサポートプロジェクト」、そして現在取り組んでいる台湾への仕事の展開をお話しします。 	講義の感想を提出
5	プログラマを目指して摂南大学に入学してからNPO代表になるまで(摂大OB/NPO法人代表)	<ul style="list-style-type: none"> 理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器にNPO法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。 	講義の感想を提出
6	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大OB/住職)	<ul style="list-style-type: none"> 一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。 	講義の感想を提出
7	金融業界と銀行業務について(金融)	<ul style="list-style-type: none"> 金融業界と銀行業務について、自分のキャリアをも含め、詳しくお話しします。 	講義の感想を提出
8	新卒での就職活動で全てが決まる!?(摂南大学OG・旅行代理店/カウンター業務)	<ul style="list-style-type: none"> 講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを実体験を交えてお話しします。 	講義の感想を提出
9	信用金庫の歴史と社会的使命(金融/人材開発)	<ul style="list-style-type: none"> 信用金庫の設立と信用金庫理念、そして北おおさか信用金庫の取り組みについて講義します。 	講義の感想を提出
10	中間まとめ(キャリア教育推進室)	<ul style="list-style-type: none"> 講義の中間まとめを行います。 	中間レポートを提示(提出期間は概ね2週間)
11	中間まとめのグループワーク	<ul style="list-style-type: none"> グループワークを実施します。 	グループ課題を提出
12	高校教師の仕事(高校教師)	<ul style="list-style-type: none"> 高校の教師の仕事についてお話しします。 	講義の感想を提出
13	今求められる公務員像(摂南大学OB/市役所職員)	<ul style="list-style-type: none"> あるべき姿からありたい姿へ職業としての公務員-経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直ししていただきます。 	講義の感想を提出
14	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ(摂南大学OB/経営者)	<ul style="list-style-type: none"> 社会人となる学生へ、体験談を通して企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。 	講義の感想を提出
15	講義のまとめ(キャリア教育推進室)	<ul style="list-style-type: none"> エンプロイメントデザインⅡのまとめ まとめのワークシート 	最終レポートを提出

関連科目: キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の感想 (30%)、レポート2回 (60%)、グループ課題 (10%) を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	7号館5階キャリア教育推進室 (石井) 7号館3階キャリア教育推進室 (水野)			
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。			

科目名	キャリアデザイン	科目名(英文)	Career Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵, 上野山 裕士, 橋本 朗子, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP2○		

授業概要・目的	1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べ・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	さあ始めよう!大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・大学で学ぶ意味について考えること。
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること。 ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること。
4	自己効力感を高めよう	・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと。
5	グループ課題の設定	・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考えること。
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること。
7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること。
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読すること。
9	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと。
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること。
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること。
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選んでおくこと。
13	グループ課題の発表会	・グループ課題の発表会	・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること。
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること。
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること。

関連科目: キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ、エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

キャリア形成科目

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井) 7号館3階 キャリア教育推進室 (水野)
備考	必要に応じて授業内でレジユメを配布する。

科目名	キャリアプランニング	科目名(英文)	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊・住吉 誠
ディプロマポリシー(DP)	DP2○		

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つで、前半は、将来のキャリアプランにつながる6つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択をおこないます。後半は、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。
到達目標	人間はなぜ働くのかという哲学的な問いから、社会の中でどのように生きていくかといった人生観に至るまで、多面的に今後のキャリアプランについて考えるとともに、それに基づいて「パッケージプログラム」を選択し、来年度以降の学びにつなげていくことを目標とします。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。 ・第2～7回(計6回)は、3つのクラスに分かれて、外国語学部の教員(複数)が授業を行います。 ・第8～13回(計6回)は、キャリア教育推進室の教員(複数)が、合同(1つの大教室)で授業を行います。
科目学習の効果(資格)	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	パッケージプログラムの紹介(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
3	パッケージプログラムの紹介(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
4	パッケージプログラムの紹介(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
5	パッケージプログラムの紹介(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
6	パッケージプログラムの紹介(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
7	パッケージプログラムの紹介(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。
8	人生のイベントについて	キャリアの節目、人生のイベントについて考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：自分の将来について考え、ノートにまとめる。 事後学修：キャリアの節目、人生にイベントについて自分の考えをまとめる。
9	人はなぜ働くのか	報酬、やりがい、役割など、様々な「働く理由」を考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめる。 事後学修：「働く理由」に関して自分の考えをまとめる。
10	グループワーク	前回(第9回)の課題を持ち寄り、グループで討議、発表する。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめたものを見直す。 事後学修：インタビューした人に自分の感想とお礼を記した手紙を書く。
11	業種について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・視点/視座/視野の使い方と事例を知る。 ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念を理解する。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
12	会社と職種について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・会社・業種・職種を理解する。 ・付加価値について考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
13	未来の働き方を考える	未来ではどのような力・考え方が必要であるのかを考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：「未来の働き方」を考える。 事後学修：第8～13回のまとめのレポートを作成する。第14回の授業で作成する「期末レポート」の準備をする。
14	「期末レポート」の作成 パッケージプログラムの選択申請	<ul style="list-style-type: none"> ・「期末レポート」を授業中に作成し、提出する。 ・パッケージプログラムを1つ選択し、申請書を提出する。 ※外国語学部教員による合同授業。	<ul style="list-style-type: none"> ・提出した「期末レポート」の内容について振り返ってみる。 ・選択したパッケージプログラムについて確認する。
15	総括(まとめ)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んできたことを総括する。 ・提出したワークシートやレポートについて講評する。 ※外国語学部教員による合同授業。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。

関連科目 キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。

キャリア形成科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや課題、授業に取り組む姿勢などを中心とした平常点(60%) ・期末レポート(40%) ※ただし、原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。			
学生への メッセージ	出席と提出物を重視して、がんばってください。			
担当者の 研究室等	7号館4階 (林田研究室)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前および事後に1時間以上の学習を必要とします。 ・ワークシートやレポートに関するフィードバックは、第15回の授業にて行います。 			

科目名	キャリアプランニング	科目名(英文)	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣, 浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	DP2○		

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つで、前半は、将来のキャリアプランにつながる6つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択をおこないます。後半は、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。
到達目標	人間はなぜ働くのかという哲学的な問いから、社会の中でどのように生きていくかといった人生観に至るまで、多面的に今後のキャリアプランについて考えるとともに、それに基づいて「パッケージプログラム」を選択し、来年度以降の学びにつなげていくことを目標とします。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。 ・第2～7回(計6回)は、3つのクラスに分かれて、外国語学部の教員(複数)が授業を行います。 ・第8～13回(計6回)は、キャリア教育推進室の教員(複数)が、合同(1つの大教室)で授業を行います。
科目学習の効果(資格)	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	パッケージプログラムの紹介(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
3	パッケージプログラムの紹介(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
4	パッケージプログラムの紹介(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
5	パッケージプログラムの紹介(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
6	パッケージプログラムの紹介(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
7	パッケージプログラムの紹介(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。
8	人生のイベントについて	キャリアの節目、人生のイベントについて考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：自分の将来について考え、ノートにまとめる。 事後学修：キャリアの節目、人生にイベントについて自分の考えをまとめる。
9	人はなぜ働くのか	報酬、やりがい、役割など、様々な「働く理由」を考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめる。 事後学修：「働く理由」に関して自分の考えをまとめる。
10	グループワーク	前回(第9回)の課題を持ち寄り、グループで討議、発表する。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめたものを見直す。 事後学修：インタビューした人に自分の感想とお礼を記した手紙を書く。
11	業種について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・視点/視座/視野の使い方と事例を知る。 ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念を理解する。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
12	会社と職種について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・会社・業種・職種を理解する。 ・付加価値について考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
13	未来の働き方を考える	未来ではどのような力・考え方が必要であるのかを考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：「未来の働き方」を考える。 事後学修：第8～13回のまとめのレポートを作成する。第14回の授業で作成する「期末レポート」の準備をする。
14	「期末レポート」の作成 パッケージプログラムの選択申請	<ul style="list-style-type: none"> ・「期末レポート」を授業中に作成し、提出する。 ・パッケージプログラムを1つ選択し、申請書を提出する。 ※外国語学部教員による合同授業。	<ul style="list-style-type: none"> ・提出した「期末レポート」の内容について振り返ってみる。 ・選択したパッケージプログラムについて確認する。
15	総括(まとめ)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んできたことを総括する。 ・提出したワークシートやレポートについて講評する。 ※外国語学部教員による合同授業。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。

関連科目	キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。
------	--------------------------

キャリア形成科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや課題、授業に取り組む姿勢などを中心とした平常点(60%) ・期末レポート(40%) ※ただし、原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。			
学生への メッセージ	出席と提出物を重視して、がんばってください。			
担当者の 研究室等	7号館4階 (林田研究室)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前および事後に1時間以上の学習を必要とします。 ・ワークシートやレポートに関するフィードバックは、第15回の授業にて行います。 			

科目名	キャリアプランニング	科目名(英文)	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子, 赤澤 春彦, 中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2○		

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つで、前半は、将来のキャリアプランにつながる6つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択をおこないます。後半は、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。
到達目標	人間はなぜ働くのかという哲学的な問いから、社会の中でどのように生きていくかといった人生観に至るまで、多面的に今後のキャリアプランについて考えるとともに、それに基づいて「パッケージプログラム」を選択し、来年度以降の学びにつなげていくことを目標とします。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。 ・第2～7回(計6回)は、3つのクラスに分かれて、外国語学部の教員(複数)が授業を行います。 ・第8～13回(計6回)は、キャリア教育推進室の教員(複数)が、合同(1つの大教室)で授業を行います。
科目学習の効果(資格)	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

キャリア形成科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	パッケージプログラムの紹介(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
3	パッケージプログラムの紹介(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
4	パッケージプログラムの紹介(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
5	パッケージプログラムの紹介(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
6	パッケージプログラムの紹介(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
7	パッケージプログラムの紹介(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・各パッケージプログラムの構成とその授業内容(概要)について説明する。 ・ワークシートの作成 	どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。
8	人生のイベントについて	キャリアの節目、人生のイベントについて考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：自分の将来について考え、ノートにまとめる。 事後学修：キャリアの節目、人生にイベントについて自分の考えをまとめる。
9	人はなぜ働くのか	報酬、やりがい、役割など、様々な「働く理由」を考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめる。 事後学修：「働く理由」に関して自分の考えをまとめる。
10	グループワーク	前回(第9回)の課題を持ち寄り、グループで討議、発表する。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめたものを見直す。 事後学修：インタビューした人に自分の感想とお礼を記した手紙を書く。
11	業種について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・視点/視座/視野の使い方と事例を知る。 ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念を理解する。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
12	会社と職種について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・会社・業種・職種を理解する。 ・付加価値について考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学修：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
13	未来の働き方を考える	未来ではどのような力・考え方が必要であるのかを考える。 ※キャリア教育推進室の教員による合同授業。	事前学修：「未来の働き方」を考える。 事後学修：第8～13回のまとめのレポートを作成する。第14回の授業で作成する「期末レポート」の準備をする。
14	「期末レポート」の作成 パッケージプログラムの選択申請	<ul style="list-style-type: none"> ・「期末レポート」を授業中に作成し、提出する。 ・パッケージプログラムを1つ選択し、申請書を提出する。 ※外国語学部教員による合同授業。	<ul style="list-style-type: none"> ・提出した「期末レポート」の内容について振り返ってみる。 ・選択したパッケージプログラムについて確認する。
15	総括(まとめ)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んできたことを総括する。 ・提出したワークシートやレポートについて講評する。 ※外国語学部教員による合同授業。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。

関連科目	キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや課題、授業に取り組む姿勢などを中心とした平常点(60%) ・期末レポート(40%) ※ただし、原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。			
学生への メッセージ	出席と提出物を重視して、がんばってください。			
担当者の 研究室等	7号館4階(林田研究室)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前および事後に1時間以上の学習を必要とします。 ・ワークシートやレポートに関するフィードバックは、第15回の授業にて行います。 			

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名(英文)	Development of Communication Skills
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣, 橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの4技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。これはまた、本格的に社会生活を始める前に経験する「就職活動」においてもポイントとなるスキルです。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。
到達目標	高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。
授業方法と留意点	毎回、個人ワーク・グループワーク等演習を中心に進行します。主体性を持って積極的に参加することで一層の学習効果が期待できます。
科目学習の効果(資格)	双方向のコミュニケーションをとる上で必要な非言語的要素と言語的要素を体得できます。会話、文章において論理的思考で組み立てることができるようになります。ダイバーシティを考えた効果的なコミュニケーションについて理解が深まります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読
	2	聞く技術、話す技術	話す、聴くための技術の基本的な方法を学ぶ。	講義内容を復習しておく。
	3	言語能力開発①	正しい日本語の基礎を学ぶ。 (語彙・文章について)	講義内容を復習しておく。
	4	言語能力開発②	正しい日本語の基礎を学ぶ。 (敬語について)	講義内容を復習しておく。
	5	ダイバーシティコミュニケーション	多様な方々とのコミュニケーションを学ぶ。	講義内容を復習しておく。
	6	ロジカルシンキング①	論理的思考法の基礎、概要を学ぶ。	講義内容をまとめておく。
	7	ロジカルシンキング②	論理的思考法を用いて、文章を構築する。	自己PRを完成させる。
	8	中間テスト	言語表現能力(日本語力/語彙力、文章構築力)を問う。	中間テスト
	9	プレゼンテーション①	論理的思考法を用いて構築した文章を効果的に伝える方法を学ぶ。	講義で学んだことを実践する。
	10	プレゼンテーション②	論理的思考法を用いて構築した文章を効果的に伝える方法を学ぶ。	講義で学んだことを実践する。
	11	グループディスカッション①	ディベート型ディスカッションを体験する。	講義で学んだことを実践する。
	12	グループディスカッション②	問題解決型ディスカッションを体験する。	講義で学んだことを実践する。
	13	面接演習①	対人コミュニケーションの代表的事例として面接を体験する。	自己PRやアピールポイントなどを整理しておく。
	14	面接演習②	対人コミュニケーションの代表的事例として面接を体験する。	自己PRやアピールポイントなどを整理しておく。
	15	講義の振り返り	全体のまとめとレポート作成	全ての範囲を確認しておく。

関連科目: キャリアデザインⅡ, 数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準): 平常点40% テスト&授業内レポート60%(中間テスト及び最終レポート)で評価します。

学生へのメッセージ: 人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」です。ビジネスにおいても同様です。社会を形成する一要素がビジネスなのだから当然ですね。だから「学生に一番求める能力は？」というアンケートで、コミュニケーション能力は10年以上もずっと1位であり続けるのです。さあ、その能力を、今から一緒に磨いて行きましょう！

担当者の研究室等: 授業の前後の休み時間に質問を受け付けます。

備考:

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Mathematical Ability
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△		

授業概要・目的
 社会に出るにあたり必要とされる数的能力(算数・数学)を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。

到達目標
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること。

授業方法と留意点
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目
 キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャリアのための数的思考	キャリアラボ	キャリアラボ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法(基準)
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

学生へのメッセージ
 算数や数学を楽しんで学習してください。
 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等
 7号館3階 キャリア教育推進室

備考
 授業では『キャリアのための数的思考』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。また Smart SPI も利用します。

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△		

授業概要・目的
 社会に出るにあたり必要とされる数的能力 (算数・数学) を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。

到達目標
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

授業方法と留意点
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。
 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。
 なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

科目学習の効果 (資格)
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学②	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目
 キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャリアのための数的思考	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します

学生へのメッセージ
 算数や数学を楽しんで学習してください。
 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
 毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週1時間以上の復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等
 7号館3階 キャリア教育推進室

備考

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	課題・レポート (70%)、授業への取り組みなど (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間以上はかけること。 授業時間外の質問は、メールにより対応。

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	人形寺 英利子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	大学生生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。説明文・論説文・レポートの3つの課題を提出する。 随時、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	大学生生活、社会人生活に必要な文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文・報告書において求められる文章の基礎を学ぶ1	—————
	2	文章の書き方2	レポート・論文・報告書において求められる文章の基礎を学ぶ2	前回の復習
	3	文章の書き方3 事実と意見	レポート・論文・報告書において求められる文章の基礎を学ぶ3 事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	これまでの復習
	4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック これまでの復習	【課題1】のフィードバック これまでの復習	【課題1】を見直す これまでの復習
	8	文章を引用する	書籍、論文、インターネット上の記事等から文章を引用する方法を学ぶ	これまでの復習
	9	図表を引用する	図表から数値を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習	文章と図表の引用の復習	引用の復習
	11	意見を述べる 【課題2】論説文	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ 資料を引用し、論理的に意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方1	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習 レポートの作成
	13	レポートの書き方2 フィードバック1 レポートの下書き	レポート作成の補足 【課題2】のフィードバック レポートの下書きをする	【課題2】を見直す これまでの復習 レポートの作成
	14	フィードバック2 資料収集の方法 レポートの下書き・執筆	【課題2】のフィードバック 文献の検索について学ぶ レポートの下書き・執筆をする	【課題2】を見直す これまでの復習 レポートの作成
	15	【課題3】レポート提出 小テストの復習テスト	【課題3】レポートを提出する 小テストの復習テストを行う	これまでの復習 レポートの作成 小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題（70%）、小テストの復習テスト（10%）、授業への取り組みなど（20%）により総合的に評価する。 ※単位取得の最低条件として、【課題1～3】の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語、文学表現に用いる日本語と、レポート・論文・報告書などで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間以上はかけること。 宿題を課すこともあります。 授業時間外での質問についてはメールにて対応します。メールアドレスは初回授業で通知します。

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	人形寺 英利子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成 フィードバック 1	レポートなどの文章構成を学ぶ 課題 1 のフィードバック	これまでの復習
6	要約 フィードバック 2	要旨の要約の作成方法を学ぶ 課題 1 のフィードバック	前回の復習
7	フィードバック 3	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
11	レポートの書き方 1 フィードバック 1	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明 課題 2 のフィードバック	これまでの復習
12	レポートの書き方 2 フィードバック 2	レポート作成の補足 課題 2 のフィードバック	前回の復習
13	フィードバック 2	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
14	【課題 3】 レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する 小テストの復習テスト	課題 2 を見直す
15	資料収集の方法 レポートの書き方の復習	文献の検索について学ぶ レポートの書き方の復習	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	課題・レポート (70%)、授業への取り組みなど (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)
----------	-----------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間以上はかけること。 質問、相談は出講時 (月曜日・火曜日) に非常勤講師室にて対応する。
----	--

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高嶋 藍
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成と要約	レポートなどの文章構成を学ぶ 要旨の要約の作成方法を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック 要約の復習	課題 1 のフィードバック 要約の復習をする	課題 1 を見直す
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
8	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方 1	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	レポートの書き方 2 フィードバック 1	レポート作成の補足 課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
14	フィードバック 2 資料収集の方法	課題 2 のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題・レポート (70%)、授業への取り組みなど (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)
----------	-----------------

備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間以上はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前で適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 授業時間外の質問は、メールにより対応。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	人形寺 英利子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切かなどを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	大学生生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。レポート・手紙・報告書の3回の課題を提出する。 随時、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な、書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス レポートの書き方1	授業の目的・進め方の説明 レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方について確認する1	—————
2	レポートの書き方2	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方について確認する2	前回の復習
3	【課題1】レポート	資料を引用して、論理的に意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック1 手紙の書き方1 敬語の復習	【課題1】のフィードバック1 手紙の書式・用語・マナーを学ぶ 敬語の練習問題	【課題1】を見直す 前回の復習
6	フィードバック2 手紙の書き方の復習	【課題1】のフィードバック2 手紙の下書き	【課題1】を見直す 前回の復習
7	【課題2】手紙 ディスカッション・プレゼンテーション・報告文のガイダンス	手紙を書く ディスカッション・プレゼンテーション・報告文の進め方についてのガイダンス	手紙の書き方の復習
8	グループディスカッションの方法 ディスカッション1	グループ分け グループディスカッションの方法について学ぶ ディスカッションを行う1	ディスカッション1のための下調べ 自分の考えの整理
9	ディスカッション2 プレゼンテーションの概要、資料の作り方	ディスカッションを行う2 プレゼンテーションの概要、資料の作成方法について学ぶ	ディスカッション1における、グループと自分の考えの整理 ディスカッション2のための下調べ
10	プレゼンテーションの方法 資料作成	プレゼンテーションの方法について学ぶ プレゼンテーション資料を作成する	ディスカッション1・2における、グループと自分の考えの整理 資料作成の準備
11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う1	プレゼンテーション資料の作成・提出 プレゼンテーションの準備
12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う2	前回の振り返り プレゼンテーションの準備
13	【課題3】報告文	報告文の書き方について学ぶ ディスカッションの経過と結論、プレゼンテーションの内容と反省について、文書で報告する	前回の振り返り 報告文の準備
14	フィードバック 手紙の書き方と敬語の復習 電子メールの書き方	【課題2】のフィードバック 手紙の書き方と敬語の復習 電子メールの基本とマナーを学ぶ	手紙の書き方の復習 敬語の復習
15	小テストの復習	小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	課題(70%)、小テストの復習テスト(10%)、授業への取り組みなど(20%)により総合的に評価する。 ※単位取得の最低条件として、【課題1～3】の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語、文学表現に用いる日本語と、レポート・論文・報告書などで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、日常での話し言葉と人前で話す日本語も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 宿題を出す場合もあります。 授業時間外での質問についてはメールにて対応します。メールアドレスは初回授業で通知します。
----	---

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	人形寺 英利子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題1】レポートの作成	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習 敬語の予習プリント
4	敬意を表す言葉 フィードバック1	敬語の種類と用法を学ぶ 課題1のフィードバック	これまでの復習
5	フィードバック2	敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
7	【課題2】手紙	敬語を適切に使って、手紙を作成する	前回の復習
8	フィードバック1 ディスカッションの準備	課題2のフィードバック ディスカッションのテーマについて、自分の考えをまとめる	これまでの復習
9	ディスカッション1 フィードバック2	グループ分け ディスカッションを行う 課題2のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション2	プレゼンテーション資料の作成とリハーサルを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション3	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 電子メールの書き方 授業の総括	小テストの復習テスト 電子メールの基本とマナーを学ぶ 授業の総括	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 ディスカッションとプレゼンテーションへの参加、課題の提出は必須。 場合によっては再提出も求める。
----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間以上はかけること。 質問、相談は月曜日及び火曜日の昼休み(12:40-13:10)に非常勤講師室にて対応する。
----	---

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高嶋 藍
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方	授業の目的、進め方の説明 レポートの構成、資料の引用の仕方を学ぶ	—————
2	レポートの書き方	資料引用の復習 考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	前回の復習
5	手紙の書き方 敬語の復習	手紙の書き方を学ぶ 敬語の復習をする	前回の復習
6	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
7	課題1のフィードバック (1) ディスカッションの準備	課題1のフィードバック ディスカッション用資料の要約などを行う	ディスカッションの準備
8	課題1のフィードバック (2) ディスカッション(1)	課題1のフィードバック グループ分けをして、ディスカッションをする	ディスカッションの準備
9	課題2のフィードバック (1) ディスカッション(2)	課題2のフィードバック ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
10	課題2のフィードバック (2) ディスカッション(3)	課題2のフィードバック ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
11	プレゼンテーション(1)	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	プレゼンテーション(2)	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告分の準備
14	敬語の復習	ロールプレイング形式で、敬語を使った会話の練習をする。	敬語の復習
15	小テストの復習テスト 電子メール	小テストの復習テスト 電子メールのマナーと書き方を学ぶ	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

キャリア形成科目

科目名	ビジネスマナー	科目名 (英文)	Business Manners
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2○		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性和それを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定とPDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめる (400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	電話対応	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話対応プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
7	来客対応	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客対応プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
8	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社外文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書①をする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学修：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する (400字以上)。
13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書 (社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

キャリア形成科目

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

教 職 科 目



科目名	英語科教育法 I	科目名 (英文)	English Teaching Methods I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かせるようにする。また、中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに評定への総括のしかたについて理解する。さらに、中学校および高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」の指導および領域統合型の言語活動に関する基本的な知識と技能を身に付けるとともに、様々な教材やICTの活用方法を学び、生徒の特性や習熟度に応じた指導についても考える。
到達目標	中学校及び高等学校における英語の学習指導に関する知識と授業指導および学習評価の基礎を身につけた上で、授業観察、授業体験、模擬授業などの学習形態を通して、実際の授業の組み立て方や学習指導案の作成方法を学ぶ。また、言語能力の測定や評価の方法を理解する。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。
科目学習の効果 (資格)	英語教員免許 (中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第二言語習得と英語教育	第二言語習得とは 英語教授法の種類	第7章、第8章
2	語彙指導	語彙とは 語彙学習活動と評価	第19章
3	リーディング指導	リーディングとは リーディング活動と評価	第12章
4	リーディング指導	多読とは 多読活動と評価、	第12章
5	ライティング指導	ライティングとは ライティング活動と評価	第13章
6	リスニング指導	リスニングとは リスニング活動と評価	第10章
7	スピーキング指導	スピーキングとは スピーキング活動と評価	第11章
8	模擬授業と分析 (1)	単独領域模擬授業	第10～13章、第19章、第20章
9	領域統合型指導	領域統合型活動と評価	第10～13章、第19章、第20章
10	学習者要因	学習者要因とは 種類とその影響	第4章
11	測定と評価	測定と評価の種類と方法	第15章
12	ICTを用いた活動	ICTを用いた活動例の紹介、実践	第16章
13	模擬授業と分析 (2)	領域統合型模擬授業	第10～13章、第19章、第20章
14	模擬授業と分析 (3)	領域統合型模擬授業	第10～13章、第19章、第20章
15	総括	求められる英語教師像 教師の役割	第5章

関連科目 「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月昭彦編著	大修館書店
2	Sunshine 1 / 2 / 3		開隆堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英語4技能評価の理論と実践	望月昭彦・深澤真・印南洋・小泉利恵 [編著]	大修館書店
2	英語リーディングの科学一読めたつむりの謎を解く	卯城祐司 [編著]	研究社
3	英語多読・多聴指導マニュアル	高瀬敦子	大修館書店

評価方法 (基準)
①筆記試験・レポート (50%)
②模擬授業 (学習指導案作成・実技・実技分析) (50%)

学生へのメッセージ
英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目となりますので情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらい入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から4技能をバランスよく伸ばす努力をしてください。一緒に頑張りましょう！

担当者の研究室等
7号館5階(松田研究室)

備考

教職科目

科目名	英語科教育法Ⅱ	科目名(英文)	English Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	外国語としての英語を学習する過程をデザインする立場に身をおき、教材や機器を効果的に用いて学習者に合ったさまざまな学習指導案を作成したり、実際に実技を行ったりしながら教授法を学ぶ。自己の実技を録画したものをを用いて改善点を見出し、改訂版の授業を行う。小中高といった校種や教科の壁を越えて連携ができるよう、他者の学習指導案や授業について建設的なディスカッションを行い、多様な授業を創る方法を理解する。なお、学習指導案の個別指導は課外にも行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校および高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」(「聞く」「読む」「話す(やりとり)」「話す(発表)」及び「書く」)の指導および各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付け、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。 ・教材やICTの活用方法を知るとともに、英語による授業展開やALT等とのチーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。 ・学年ごとのカリキュラムを考え、ユニットや個々の授業時間の学習目標を設定できるようになる。 ・模擬授業を分析し、授業展開のオプションを検討できるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 <p>留意点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。 ・ブロークンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行うこと。 ・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。
科目学習の効果(資格)	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「5つの領域」と領域統合型の言語活動の指導 英語の発音指導	基本母音と子音・機材の利用について	発音記号の復習(読み方・聞き分け・調音の仕組み)
2	小学校における外国語活動と英語・文字に関する指導	小学校での外国語活動の実例紹介	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習(1)
3	中学校の英語の検定教科書と高校入試	検定教科書と入試問題の分析	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習(2)
4	教材研究と学習指導案の作成(1) 英語の音声的な特徴に関する指導	中学校の検定教科書を用いた音声指導案の作成	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習(3)
5	学習者間のやりとりを増やす学習活動デザイン:英語でのインタラクション	リスニング力の向上の方法に関して学ぶ 中学校で学ぶ語彙・文法を用いた対話例の作成	公立高校の入試問題を解く(1)
6	模擬授業と分析(1) 音声言語を中心とする学習活動	指導上の留意点・生徒の発話を引き出す方法	公立高校の入試問題を解く(2)
7	高校の英語の検定教科書と大学入試	ライティングの指導法・方法論に関して高等学校の検定教科書を分析する	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる(1)
8	教材研究と学習指導案作成(2) ICT等の活用	指導案作成	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる(2)
9	ICT活用と教授言語:学習言語のみによる授業展開と、日本語併用の場合の比較	板書とICTの演習	センター入試の前年度の問題を自分で解いてみる
10	模擬授業と分析(2) 教員1人でICT機器を使う場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習(1)
11	生徒の特性や習熟度に応じた指導と評価	指導案の展開バリエーションを増やす	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習(2)
12	教材研究と学習指導案作成(3) ALT等とのチーム・ティーチング	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習
13	演劇を応用した言語活動	易しい英語の脚本を用いたスキット指導を学ぶ ドラマ手法を会話練習に応用する	授業の練習
14	模擬授業と分析(3)教員2人の場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習

	15	これからの英語教育がめざすもの	討論と発表	復習
関連科目	教職科目全般 英語科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法 [ISBN 978-4-469-24558-5]	望月 昭彦 編著	大修館書店
	2	The History of the English Language [ISBN 978-0-19-423397-2]	Brigit Viney	Oxford UP
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに十分な英語の知識と運用力を前提とした、 (1) 模擬授業 (レッスンプラン作成・15回の授業時間中に行う実技・レポート) (2) 筆記試験 上記項目の両方の評価がいずれも100点満点中の60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目を十分理解し、授業立案・実技などを行うためには、辞書をひきながら英語を読み解き、正確に理解し、文法的に正確な例文を書く能力が必要です。 ・今の大学生が高校生だったころよりも、日本の中高の教育が目指す英語教育の目標が引き上げられています。3年次のうちに英検準1級の取得をめざしましょう。 ・英語の文法、語彙、スペル、発音等、中高生にとってお手本になれるよう、基礎から復習をしてください。 			
担当者の 研究室等	7号館4階(齋藤研究室)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のHPで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 			

科目名	英語科教育法Ⅲ	科目名(英文)	English Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>中学校や高等学校の英語教員をめざすうえで、押さえておくべき英語科教育の基礎について理論的側面と実践的側面から学ぶ。特に</p> <p>①リーディングとライティングの指導、 ②文字と文法に関する指導、 ③語彙・表現に関する指導</p> <p>に焦点をあてて、学習指導要領の「3つの資質・能力」(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力等」)を踏まえた目標の設定方法と指導計画の立て方、学習到達目標に基づいた授業の組み立て方と学習指導案の作成方法、観点別学習状況の評価方法や評価規準の設定方法、などを修得し、それらを実践する力を養う。</p>
到達目標	英語科教育に関する基礎的内容を押さえ、リーディングとライティングの指導法、文字と文法の指導法、語彙・表現の指導法を修得する。受講生は授業観察や授業体験を通じて実際の授業の展開を理解し、さらに自分で作成した学習指導案に基づいた模擬授業を行うことによって実践的な力を養う。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・各自が授業指導案を作成する際は、担当者が随時添削など個別指導を行う。 <p>留意点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。 ・ブロークンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行う。 ・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りない判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。
科目学習の効果(資格)	<p>英語教員免許(中・高)</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育課程及び指導法に関する科目</p> <p>各科目に含める必要事項：各教科の指導法</p>

教職科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	学習者と英語教員 音声指導(1)+指導案作成	カリキュラムとシラバス 調音の仕組み	鏡を見て自分の発声を観察する・いろいろな音を聞き分ける
	2	学習指導要領と英語教授法 音声指導(2)+指導案作成	カリキュラムとシラバス 英語の音と日本語の音のちがいが	音の出し方を他人に説明する練習をする
	3	第2言語習得と英語教育 音声指導(3)+模擬授業	イントネーション	意識的な音の出し方を練習する
	4	リーディング指導:リーディング指導の目標	読むことの指導	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
	5	リーディング指導:指導方法と評価方法	読むことの指導と評価	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
	6	ライティング指導:ライティング指導の目標 文字の指導	書くことの指導	日常生活の中から、質問のバリエーションを広げる
	7	ライティング指導:指導方法と評価方法	書くことの指導と評価	広告や雑誌・新聞などを教材の材料として注意深く見る
	8	教材研究と指導案作成の基礎	教材の作りやすさと使いやすさ	糊とはさみで教材を作る
	9	指導案作成と模擬授業(1):リーディング指導	授業づくり 使えるものは何でも使ってみよう:学校の機器を使って、学習活動のバリエーションを増やす	校内にあるさまざまな教具や機器を探す
	10	指導案作成と模擬授業(2):ライティング指導	授業の狙いと機器の価値:実際に教室の機器や学内の設備を使って、教科書の価値を高める教え方・学び方を考える	校内にあるさまざまな教具や機器が授業でどのように使われているか調査する
	11	文字の指導	文字の指導方法 ディスレクシアの理解と教育現場での対応	復習 調査
	12	文法の指導	文法の指導方法	復習 調査
	13	語彙・表現の指導	語彙・表現の指導方法 自分で企画した授業をクラスで分析する	復習 調査
	14	指導案作成と模擬授業	文字・文法の指導、語彙・表現の指導を含めた授業づくり	復習
15	英語教育の展望	社会が要請する外国語教育について、報道記事を元に考え、討論する 今学期の自分の変化を語る・今後の目標	これまでの自分の学習を振り返る	

			と到達のための手がかりを探す	
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教職科目全般 ・英語科目全般 			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法 [ISBN 978-4-469-24558-5]	望月 昭彦 編著	大修館書店
	2	The History of the English Language [ISBN 978-0-19-423397-2]	Brigit Viney	Oxford UP
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに十分な英語の知識と運用力を前提とした、</p> <p>(1) 模擬授業 (レッスンプラン作成・15回の授業時間中に行う実技・レポート)</p> <p>(2) 筆記試験</p> <p>上記項目の両方の評価がいずれも100点満点の60点以上で合格とする。</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目を十分理解し、授業立案・実技などを行うためには、辞書をひきながら英語を読み解き、正確に理解し、文法的に正確な例文を書く能力が必要です。 ・今の大学生が高校生だったころよりも、日本の中高の教育が目指す英語教育の目標が引き上げられています。3年次のうちに英検準1級の取得をめざしましょう。 ・英語の文法、語彙、スペル、発音等、中高生にとってお手本になれるよう、基礎から復習をしてください。 ・大好きな科目、大好きな学校で働きたい、と思うなら、責任を持って教えられる人になるため、貪欲に知識を増やし、妥協せず能力を磨いていきましょう。 			
担当者の 研究室等	7号館4階(齋藤研究室)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のHPで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 			

科目名	英語科教育法IV	科目名(英文)	English Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	現在の英語教育学界は、小学校への英語教育導入を始め、高等学校への英語による英語授業への展開等、目まぐるしい動きを見ている。それに対応できるように、新たな英語教育へ向けて、英語教授法や授業の運営スキル等を身につけることが、この授業の目標である。主に、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導というテーマに焦点をおいて、これらのことを理解し、授業指導に生かすことができるようになることを目指す。
到達目標	本授業は3つのことを行う。第1に、教科書を講読しながら、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導に関する理論を学び、知識を身につける。第2に、これらの知識を基に創意あふれる授業を計画し、その学習指導案が書けるようになる。第3に、模擬授業を行い、自分のパフォーマンスを客観的に見返し、またクラスメートからのコメントを参考にし、自分の教授のスキルの弱点を克服することを学ぶ。学習指導案の個人指導は課外時間に行う。充実した教育実習を行うことができるように万全の準備をする。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。

科目学習の 効果(資格)	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法
-----------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 英語科教育法の目的	序章
	2	英語教育の基礎理論	英語教育と英語教育学	第1章
	3	英語教育の基礎理論	英語の国際化と日本の英語教育	第2章
	4	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第3章
	5	英語教育の実践編	リスニングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第10章
	6	英語教育の実践編	リスニング：教科書を使った模擬授業	第10章
	7	英語教育の実践編	スピーキングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第11章
	8	英語教育の実践編	スピーキング：教科書を使った模擬授業	第11章
	9	英語教育の実践編	ライティングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第13章
	10	英語教育の実践編	ライティングの指導：教科書を使った模擬授業	第13章
	11	英語教育の実践編	文法の指導：教材研究及び学習指導案作成	第18章
	12	英語教育の実践編	文法の指導：教科書を使った模擬授業	第18章
	13	英語教育の実践編	語彙・表現の指導：教材研究及び学習指導案作成	第19章
	14	英語教育の実践編	語彙・表現：教科書を使った模擬授業	第19章
	15	英語教育の実践編及びまとめ	異文化理解の指導及びまとめ	第2章、第9章

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法(改訂版)	望月昭彦	大修館書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英語で英語を読む授業	卯城祐司〔編著〕	研究社
	2	シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学	門田修平	コスモピア
	3	英語指導における効果的な誤り訂正：第二言語習得研究の見地から	白井知彦	大修館書店

評価方法(基準)	①筆記試験・レポート(50%) ②模擬授業(学習指導案作成・実技・実技分析)(50%)
----------	--

学生へのメッセージ	英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目となりますので情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から4技能をバランスよく伸ばす努力をしてください。一緒に頑張りましょう！
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館5階(松田研究室)
------------	--------------

教職科目

科目名	教育課程論	科目名(英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となりますが、扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読んだり、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、目を通しておくことが望ましいと考えます。また本授業用のノートを1冊準備してください。授業でレジュメを配布予定としていますが、板書内容やパワーポイント資料の中の内容を記述するためのノートを1冊準備しておいてください。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当する分を読んでおくこと。
5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。
6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新教育課程ライブラリ (Vol.1～Vol.12)	(株)ぎょうせい	(株)ぎょうせい
2				
3				

評価方法(基準) 出席(全15回出席が当たり前、少なくとも8割以上出席必須)、学期末試験(単位取得のためには60点以上必要)、中間試験(実施予定)、レポート及び授業態度や授業への貢献度(グループでの発表を含む)など総合的に評価を行う。特に、学期末試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習をする。また、遅刻、欠席が多い者については成績評価の対象から外すので注意すること(原則、第一回目から全15回出席すること)。

学生へのメッセージ 以下の項目、必ず守ってください。
1. 第一回目の授業は必ず出席すること。
2. 欠席・遅刻はしない。
3. 授業中、むやみやたらに出入りしたり、私語、飲食はしない。
4. グループワークでは何事にも積極的に取り組む(グループ内の他のメンバーに迷惑をかけない)。

	<p>5. 毎回授業内容の復習をする。</p> <p>6. テキスト、資料等については配布するので準備の必要はありません。参考書にあげているテキストは 12 セット販売で高額なテキストですので担当者のほうで印刷し配布します。</p> <p>7. 授業内容で分からない点については遠慮せずに担当者に空いている時間を見つけて質問に行くこと。</p>
担当者の研究室等	7号館3階(大野順子研究室)
備考	<p>2009 年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択授業計画、及び内容は授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。</p> <p>テキストに代わる配布資料 (『新教育課程ライブラリ』、発行：ぎょうせい) については事前に該当箇所を配布します。</p>

科目名	教育経営論	科目名(英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本科目では、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。これを通して、私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について考え、理解を深めます。
到達目標	例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが見えてくるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTDについて説明 公教育の成立前史 教育における「公」と「私」	シラバス、テキスト第1部を読んでくる。
	2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」「学習する権利」	テキスト第2部を読んでくる。
	3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 教育の制度原理	教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。
	4	学校体系のしくみ	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。
	5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合	テキスト第1部を読んでくる。
	6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。
	7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第3部を読んでくる。
	8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき	テキスト第3部を読んでくる。
	9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 教育行政の原則、監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。
	10	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第3部を読んでくる。
	11	指導行政と教育課程管理	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 学力論争と教育評価論	テキスト第4部を読んでくる。
	12	人事行政と教職員管理	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク 教職員の資格・身分・労務管理、教育労働管理	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。
	13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第4部を読んでくる。
	14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。
	15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第4部を読んでくる。

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内 孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート内容 30%、グループワーク・ピア評価 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	教育原理	科目名(英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 裕樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	あなたは、「そもそも「教育」とはいったい何なのだろう」と疑問に思ったことはありませんか。あるいは、この疑問と関連して、次のように問うてみたことはありませんか。すなわち、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか。」「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか。」「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについてもう一度丁寧に考え直してみることが目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができるようになります。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたうえで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。とはいえ、毎回授業の最後に受講者にコメントペーパーを書いてもらって次の授業中にその内容のいくつかを紹介することで、受講者が相互に関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して主体的かつ多角的に考えを深められるよう配慮します。
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得 (3) 学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについても一度考える。
3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」の教育についてより広い観点から考察を深める。
4	教育をめぐる諸論①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要素である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
5	教育をめぐる諸論②:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」観(あるいは「人間形成」観)の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の違いについて、授業後にもう一度整理しておく。
6	教育をめぐる諸論③:「子ども」観の歴史的变化と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変化してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史的变化を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	「子ども」一般に対して自分が抱いているイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、授業後にもう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
8	教育の思想の歴史②	ペスタロッチ、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
11	日本の教育の歴史②	大正自由主義教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へとという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
13	教育と権力②	①権力論の新たな展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「媒介者」という観点から考える。	「自分が将来どのような教師になりたいか」を考えておく。
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西洋教育思想史	眞壁宏幹	慶應義塾大学出版会
2			
3			

教職科目

評価方法 (基準)	毎回の授業中に書いてもらうコメントペーパーの内容 (30%) や、学期末試験の結果 (70%) をもとに、総合的に評価します。なお、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る者に対しては厳正に対処をします (マイナス点やペナルティも課されます) ので、学生としての自覚と覚悟をもって授業に参加すること。
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)
備考	

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明、大野 順子、小山 裕樹、林 茂樹、吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義(体験報告を含む)、演習(文献購読、発表、討議を含む)、実習(指導案作成、模擬授業を含む)を行う。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育実習の意義等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について	授業時に指示する
2	教育実習への準備と心がまえ等	事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
3	実習中の勤務の要領	学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
4	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
5	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
6	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
7	指導案の作成(1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
8	指導案の作成(2)	学級(ホームルーム)活動等の指導案について	授業時に指示する
9	模擬授業(1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
10	模擬授業(2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業(3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業(4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
14	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
15	まとめ		

関連科目 教職課程で学んだ全科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。

学生へのメッセージ 教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。

担当者の研究室等 吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室(7号館3階)
小山研究室(7号館4階)

備考 教育実習体験発表会(10月末土曜日)、教育実習総括講義(11月末土曜日)には原則として必ず出席すること。
ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。
担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 小山 裕樹, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。			
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。			
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。			
	2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出			
	3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。			
	4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。			
	5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。			
	6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。			
	7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。			
	8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。			
関連科目	教職関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林
	2	学習指導要領解説	文部科学省	
3				
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び課題提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。			
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。			
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(小山研究室)			
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。			

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 小山 裕樹, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(10月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(小山研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。																		

科目名	教育社会学	科目名(英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。 3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。

授業方法と留意点	講義形式を中心としますが、ワークショップや体験活動・課外活動、問題理解・解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。例えば、実際に学校教育現場へ向向き、リアルな学校教育現場の様子を体験し、学ぶ機会ももうけます(授業時間外に実施する場合もある)。よって、基本的に受講生の皆さんは本講義が提供する全プログラム(週末などに実施される課外活動含む)に出席する義務があります。また、毎回、講義開始の5分間、教育社会学必須単語の小テストを行います。遅刻や欠席が多い場合小テストが0点となりますので気を付けてください。 ○準備学習の具体的な方法 指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分を要約しておく。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。また、毎時間的小テスト対策として必須単語帳に記載されている教育社会学必須単語をすべて覚える。
----------	--

科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目: 教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題: 教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	新自由主義と学校教育	近年の学校教育(制度)の質的転換について事前資料を基にグループで意見交換し、発表する(学校教育を社会学観点から考察します)。	事前課題: 小テスト対策、事前配布資料を読み、その内容についてまとめてくる。
3	マイノリティと教育I	マイノリティ体験ワークショップの実施。	事前課題: 小テスト対策
4	マイノリティと教育II	前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考える。	事前課題: 小テスト対策、前時のワークショップの感想をまとめてくる。
5	マイノリティと教育III	予定: 当事者(外国にルーツのある子ども)による学校での経験についてのお話を聞く。その後、質疑応答、ふりかえりの実施。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。
6	教育格差・学力格差問題I	教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。	事前課題: 小テスト対策、教科書の第7章の要約。
7	教育格差・学力格差問題II	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。子どもの貧困・格差に関する映画、あるいはビデオの鑑賞(予定)	事前課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。
8	教育格差・学力格差問題III	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、グループで話し合い、発表する。	事前課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。
9	学校教育の現場を知るI	予定: 学校関係者等、話題提供者による学校教育が抱える問題についての講義。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。
10	学校教育の現場を知るII	予定: 学校関係者等、話題提供者による学校教育が抱える問題についての講義。	事前課題: 小テスト対策、前時の復習、及び話題提供者からの課題等があれば予習をしてくる。
11	学校教育の現場を知るIII	前々回～前回の授業を踏まえ、学校教育が抱える諸問題について、小グループに分かれ発表する。	事前課題: 小テスト対策、発表資料の準備をしてくる。
12	ジェンダーと教育I	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考えるワークの実施。	事後課題: 小テスト対策、事前に配布する資料を読み、要約する。
13	ジェンダーと教育II	ジェンダー問題を扱った映画鑑賞(予定)。	事後課題: 小テスト対策、前時の復習をしてくる。
14	ジェンダーと教育III	ジェンダーにとらわれない教育、社会の創造について意見交換しながら考える。	事後課題: 小テスト対策、映画の感想をまとめてくる。
15	総括	まとめの確認テストと「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題: 小テスト対策、教科書の第10章の要約。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習I」「教職実践演習」「各教科教育法」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社
2				

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス
	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
	3			
評価方法 (基準)	出席・授業への貢献度、試験（毎時間行う小テストとまとめの確認テスト）、学校でのボランティア活動体験報告書（必須）、課題・レポート等をすべてこなした上で総合的に評価するが、まとめの確認テストで6割以上取れない場合、さらに、出席が80%に満たない者、課題（要約）の提出が十分でない者は成績評価の対象外とする。また、遅刻は欠席とするので注意すること。			
学生への メッセージ	本講義を履修する者は、原則、学校現場での活動経験（学習支援、授業補助、部活指導等内容は問わない長期、短期の無償・有償ボランティア活動）をしている（あるいは今後する予定、過去に経験したことがある）ことが必須条件とします。学校でのボランティア等活動経験のない者については本講義を履修期間中、学校でボランティア活動することを義務づけます。よって、学校でのボランティア活動をやっていない者、やりたくない者、やる予定がない者は履修しても単位認定しません。また、提出物に関しては締め切りを厳守すること。締め切り以降の提出に関しては受け取りませんが「未提出」扱いとします。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。また、いくつかの課外活動を通常の時間割外に行う予定です。課外活動に参加できない人は本科目の単位を取得することは困難な場合もあります。また、学校でのボランティア活動への参加も必須です。こちらへの参加ができない人も本科目の単位取得が困難となりますので、履修を決める前にしっかりと考えてから履修登録してください。履修登録をした時点で、あなた自身が本講義のシラバス内容をすべて了解した上で登録したことになりますので、履修登録以降のシラバスに関するご意見については一切受け付けませんのでご了承ください。			

科目名	教育心理学	科目名(英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、様々な形で援助していくためにはどうすればよいのか、それを考えていくにあたって必要な、基礎的な知識を身につけることを目標とし、特に、認知的な側面に焦点を当てて議論していく。具体的には、教育について考える際に、ある意味基本となる「発達と学習」、学習者が主体的に学ぶための「学習意欲」、個人差の理解、障害の理解と特別支援教育について考える「個に応じた教育」を中心とする。また、学校を学習の場としてとらえたときの「人間関係」についてもふれることとする。
到達目標	教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」6単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	—————
2	教育を支える認知機能1	思考(1)……人間の思考の特徴	テキスト第8章、第9章を読む
3	教育を支える認知機能2	思考(2)……思考の発達、メタ認知	テキスト第7章の1、第8章、第9章を読む
4	教育を支える認知機能3	言語(1)……言語の機能、言語の発達	テキスト第9章の2、第11章を読む
5	教育を支える認知機能4	言語(2)……文章理解	テキスト第11章を読む
6	教育を支える認知機能5	記憶(1)……記憶のメカニズム	テキスト第4章、第5章を読む
7	教育を支える認知機能6	記憶(2)……記憶の発達	テキスト第4章、第5章を読む
8	こどもの学び1	様々な学習(1)……学習とは何か、古典的条件づけ	テキスト第1章を読む
9	こどもの学び2	様々な学習(2)………道具的条件づけ、観察学習	テキスト第1章を読む
10	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か……動機づけ過程、期待×価値理論、学習性無力感	テキスト第2章、第3章を読む
11	学習を支える動機づけ2	さまざまな学習意欲(1)……外発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
12	学習を支える動機づけ3	さまざまな学習意欲(2)……内発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
13	学習を支える動機づけ4	学習意欲を育むために……報酬と罰、評価、目標、教師の対応	テキスト第0章の2、第2章、第3章を読む
14	個に応じた教育1	個人差の理解と教育……ATI、学習方略	テキスト第0章の3、第6章を読む
15	個に応じた教育2	「障害」の理解と特別支援教育	テキスト第13章を読む

関連科目	教育原理、教育相談
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト30% 期末試験70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	・授業内で、moodleを使用することがあります。利用できるようにしておいてください。 ・定期テストは希望者に返却します。

教職科目

科目名	教育相談	科目名(英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせで行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	—————
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	—————
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	—————
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第3章を読む
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習
11	相談援助活動の実際1	不登校……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第5章を読む
12	相談援助活動の実際2	いじめ……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第6章を読む
13	相談援助活動の実際3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第7章を読む
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第8章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む

関連科目 教育方法論、生徒指導論、教育心理学、教育社会学など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育相談	森田健宏・吉田佐治子(編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	グループ発表 50% 期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。また、全発表中最も評価が高かったグループも、最後にお知らせします。 グループ内ではピア評価を行います。

教職科目

科目名	教育方法論	科目名(英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成の理解、学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略の習得、および、グループに分かれて、共同作業による教材開発とマイクロ・ティーチングの体験により構成する。授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを経験する。</p> <p>それらのことを通じて、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「教え込む技術」の習得ではなく、生徒の生活背景や教室の人間関係を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、日々の教室での出来事に柔軟かつ確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とする授業づくりをめざす。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が、上記(2)に関する専門性を向上させるだけでなく、職場で相互に学び合える同僚性を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性を理解する。</p>
到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。</p>
授業方法と留意点	<p>(1) 講義・ワークを中心に授業を進める。インタラクティブ(双方向的)な授業構成となるよう積極的な参加を求める。私語は厳禁だが、質問や意見提起は歓迎する。</p> <p>(2) 毎回、講義資料とコメントペーパーを配付する。講義資料は各自ファイリングし、「コメントペーパー」は記入・提出すること(編集して、次回に配布し、共有すべき点についてコメントを行う。なお、「コメントペーパー」の返却はできないので、必要場合はメモを残しておくこと)。</p> <p>(3) 第9～12回でチームによるマイクロティーチングを実施する。また、チーム授業に関するレポートの提出をもとめる(中間レポートとして)。</p> <p>(4) 定期試験を受験すること。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育課程及び指導法に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)</p>

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、教育方法学の論点と課題 授業技術ミニ講座①授業びらき・授業じまい	「学力」の登場と学力論争、「問題解決学習」論争、「たのしい授業」論争、「教育技術」をめぐる論争	教科書第3章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
2	子どもは何を学ぶのか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第4章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
3	学習とは何か(学習論) 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態	教科書第5章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
4	欧米における授業の歴史(教授論の歴史①) 授業技術ミニ講座④板書の技術	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第1章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
5	日本における授業の歴史(教授論の歴史②) 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第2章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
6	学力をどう高めるか(学力論) 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方 チーム顔合わせ・自己紹介	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって	教科書第6章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
7	授業をどうデザインするか(計画論) チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ①	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第7章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
8	教育の道具・素材・環境(教材論) チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ②	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第8章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
9	何をどう評価するか(評価論) 第1・2グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第9章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論) 第3・4グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	カリキュラム・イメージの払拭、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
11	ICTを活用した授業をつくる① 第5・6グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	各種メディアの授業への活用、学習用デジタル・コンテンツの利用	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。

	12	ICTを活用した授業をつくる ② 第7・8グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	情報教育、メディア・リテラシー、eラーニング、学校運営・教務事務のICT化	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	13	インクルーシブな授業をつくる チームによるマイクロ・ティーチングの振り返り① 授業技術ミニ講座⑦個別指導と一斉指導	通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	14	ユニバーサルデザイン化した授業をつくる チームによるマイクロ・ティーチングの振り返り② 授業技術ミニ講座⑥ほめ方・叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法	2つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて	教科書第11章をよく読んでおく。学習内容を整理する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教育の方法</td> <td>佐藤学</td> <td>左右社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教育の方法	佐藤学	左右社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	教育の方法	佐藤学	左右社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー (20%) により総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																			
備考																				

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 小山 裕樹, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・3回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。 	教育実習ノートの点検と再確認
2	専攻科目における実践上の課題①	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理
3	専攻科目における実践上の課題②	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理
4	生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習)①	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導 (生徒指導・進路指導のあり方) についてレポートにまとめる
5	生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習)②	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導 (教科指導のあり方) についてレポートにまとめる
6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないか。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点をを用い、学校教育を改めて考えてみたい。特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	(事前) 第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
9	学校の中のマイノリティ: 外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	(事前) 第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。

	10	「甘え」と「自律」の教育学入門①	従来の常識的な見方では、「甘え」を脱して「自律」に至ることが「教育」の理想とされてきた。本講義では、この常識的な見方に対して、様々な角度から再検討を加えていく。第一回目は、特に子どもの「甘え」について教育学的に考える。	(事前) 子ども「甘え」や自分自身の「甘え」について改めて考え直しておく。 (事後) 講義内容を踏まえたうえでの小レポートを提出する。																
	11	「甘え」と「自律」の教育学入門②	第一回目の講義内容を踏まえつつ、第二回目は、特に子どもの「自律」について教育学的に考える。まさに大人へと「自律」しようとしている大学生諸氏とともに探究してみたい。	(事前) 子どもの「自律」や自分自身の「自律」について改めて考え直しておく。 (事後) 二回分の講義内容を踏まえたうえでの論述試験を課す。																
	12	教員の体罰はなぜなくなるのか?	教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。																
	13	教員の勤務時間はなぜ長くなるのか?	労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背景にある問題について考察し、働き方改革の方途を考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。																
	14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート																
	15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート																
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。																			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けること。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(朝日、大野、林、吉田) 7号館4階(小山)																			
備考																				

科目名	教師論	科目名(英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や責任は何か」「教師の職務とはどのようなものか」「教師として生きるとはどのようなことか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づいてグループワークを行います。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。

科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む)・進路選択に資する各種の機会の提供等
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	さまざまな教師像(1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	さまざまな教師像(2)	「不良教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	さまざまな教師像(3)	「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	さまざまな教師像(4)	「人間教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」に関する配布資料を読みレポート提出
11	さまざまな教師像(5)	「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
12	教員の役割・職務(1)	教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
13	教員の役割・職務(2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
14	教員の役割・職務(3)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 教員の勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務(4)	教員のメンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	定期試験 70%、レポート 20%、グループワーク・ピア評価 10%
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養とともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
-----------	--

担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	生徒指導論	科目名(英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的で普遍的な原理について学びます。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導の意義や指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の目標と意義	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり 生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 3-10
2	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 10-24
3	生徒指導の理論(1)	理論の重要性 発達に関する理論	テキスト pp. 32-39
4	生徒指導の理論(2)	生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 39-42
5	生徒理解の進め方(1)	生徒理解の意義と目的	テキスト pp. 43-46
6	生徒理解の進め方(2)	生徒理解の方法 生徒の自己理解の支援	テキスト pp. 46-56
7	生徒理解の進め方(3)	教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 56-61
8	学級経営の進め方(1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
9	学級経営の進め方(2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-74
10	学級経営の進め方(3)	教師のリーダーシップ	テキスト pp. 74-79
11	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
12	進路指導の意義と課題	進路指導の意義 進路指導の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	勤労観・職業観の形成と変容	青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
14	進路指導の理論	キャリア発達に関する諸理論	キャリア発達理論に関する配布資料
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導における「ガイダンスの機能」 進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 215-234

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生徒指導・進路指導	高橋超・石井真治・熊谷信順	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験 80%、レポート 20%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。

学生へのメッセージ 生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。
授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。

担当者の研究室等 7号館3階 朝日研究室

備考 ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポート課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	中国語科教育法 I	科目名 (英文)	Chinese Teaching Methods I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸 宏
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的 中国語および中国語教育についての基礎知識を身につけ、その概要がわかるようにする。授業の成果を踏まえ、授業案を書く練習、それに基づく模擬授業の練習もおこなう。

到達目標 中国語教育の歴史と現状および中国語教育に必要な中国語の概要 (音声・文法・表記上の特徴) が理解できる。

授業方法と留意点 講義形式を主にするが、教材分析などでは学生に発表も課する。

科目学習の効果 (資格) 中国語教員免許の必須科目である。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：教育課程及び指導法に関する科目
各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	中国語概論 I	中国語の歴史・性格・構造について考える。	教科書の該当部分を予習しておく
2	中国語概論 II	中国語が使われる範囲や中国語教育の概要について考える。	教科書の該当部分を予習しておく
3	中国語の学習段階と学習目標 I	中国語教育における初級・中級・上級段階とは何かを考える。	教科書の該当部分を予習しておく
4	中国語の学習段階と学習目標 II	引き続き、初級を中心にその内容について考えていく。	教科書の該当部分を予習しておく
5	教授法概論 I	各種の外国語教授法について概説する。	教科書の該当部分を予習しておく
6	教授法概論 II	引き続き中国語の教授法について考えていく。特に学習指導案に重点を置く。	教科書の該当部分を予習しておく
7	初級教材研究 I	初級教材の内容について中国で出版された教科書を使いながら具体的に分析していく。	教科書の該当部分を予習しておく
8	初級教材研究 II	引き続き初級段階の内容について考えていく。	教科書の該当部分を予習しておく
9	初級教材研究 III	引き続き初級段階の内容について考えていく。	教科書の該当部分を予習しておく
10	中級教材研究	中級段階の内容について考えていく	教科書の該当部分を予習しておく
11	上級教材研究	上級段階の内容について引き続き考えていく	教科書の該当部分を予習しておく
12	高校中国語研究 I	高校中国語教育の内容について考えていく	教科書の該当部分を予習しておく
13	高校中国語研究 II	引き続き高校中国語教育の内容について考えていく	教科書の該当部分を予習しておく
14	高校中国語研究 III	引き続き高校中国語教育の内容について考えていき、学習指導案を実際に書いてみる。	教科書の該当部分を予習しておく
15	まとめ	前回作成した学習指導案に基づき模擬授業を行う。それを通して、日本における中国語教育のまとめをおこなう	教科書の該当部分を予習しておく

関連科目 「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語の教え方・学び方 中国語科教育法概説	興水優	日本大学文理学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 授業参加 60%、レポート 40%

学生へのメッセージ 比較的少人数の授業です。一緒に勉強していきましょう。

担当者の研究室等 7号館2階非常勤講師室

備考

科目名	中国語科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Chinese Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「中国語科教育法Ⅰ」で学ぶ中国語教育の実状と指導のあり方をふまえて、ここでは授業を「計画」「実践」「反省」という体験を経ることによって、「何を」「どのように」教えるかを理解する。具体的には： 1. 日本語を母語とする中国語学習者にとって何が必要で何が不要でないかを学ぶ。 2. 学習者の状態を常に目と耳を使って観察することを学ぶ。 3. 学習者の状態によっては教える「内容」と「方法」を随時調整せねばならないことを学ぶ。
到達目標	教える能力としては、教育実習の場面で学習歴、クラスサイズ、教材などさまざまな状況に対応しながら学習者の知的好奇心を刺激できるような授業ができることを目標とする。 教科内容については、中国語の文法や語彙を系統的に整理する能力を高めて、学習者の状況に合わせた教材やテストを用意できる能力を身につける。
授業方法と留意点	教育実習時に不可欠な「学習指導案」作成を中心に据えながら、これに実践と自己分析を盛り込む。したがって実習にじゅうぶんな時間を当てる。
科目学習の効果(資格)	中国語教員免許状 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発音とピンイン指導	中国語の発音やピンインの指導では、日本語の発音やローマ字から逸脱する事項に重点を置き、これを学習者に十分理解させる。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
2	学習指導案作成Ⅰ(発音篇)	入門期の学習者がつまづきやすい二音節語の声調パターンの学習を想定し、音声素材を活用した授業を企画する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
3	発音の指導と評価実習	他の受講生を学習者と見立てながら、前回は作成した指導案に沿って授業を実践する。模範の提示、評価、アドバイスは適切だろうか。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
4	講読・作文の指導	文の意味を理解し、文を自在に生成するために文法を理解させねばならない。日本語などとの比較を通して、効果的に「読み」「書き」を教える。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
5	学習指導案作成Ⅱ(講読・作文篇)	動詞「是」の学習を想定する。英語のbe動詞との比較やパターン練習をうまく構成して一回の授業でこの動詞を理解させる指導案を作ってみる。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
6	講読・作文の指導実習	指導案に沿って授業を試みる。パターン練習では学習者をうまくオペレートできるだろうか？質問に的確に答えられるだろうか？	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
7	リスニング指導と関連機器	テープ・MD・CD・PC・DVDなどメディアの特性に加えてLLやCALLの概念をよく理解し、これらを授業にうまく利用する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
8	学習指導案作成Ⅲ(リスニング篇)	ディクテーションやサイトトランスレーション・シャドウイングなど「リスニング」に関わる訓練法を取り入れた指導案を作成する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
9	ディクテーションとシャドウイング	LL教室を使用する。すでに作成してある指導案に沿いながら、音声や映像メディアの送出や学習者のモニタリングを実習する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
10	テストの目的とその方法	テストとは既習事項の達成度を測り、その結果を学習者と教師双方の指針とするものである。テスト問題作成の方法とその結果の扱いを学ぶ。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
11	テストを作ってみる	授業2～3回分の既習事項を確認するためのショートテストをWordで作ってみる。レイアウトにも気を配りながら過不足なく適切な問題を作る。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
12	学習者へのフィードバックと成績管理	(1) サービスの宣誓 (2) 信用失墜行為の禁止 (3) 兼職の禁止 等について	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
13	マルチメディアを利用する(1)	CDやDVDあるいはWebで入手可能な音声・映像素材を教材用に編集する技術を学ぶとともに著作権の概念を理解する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
14	マルチメディアを利用する(2)	eラーニング及びさまざまなWebサービスを利用した授業を考える。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
15	マルチメディアを利用する(3)	CALL教室で模擬授業をする。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト及び単元テスト 80% 授業参加度や提出物 20%			
学生への メッセージ	「教えられる者」の視点に立つ、つまり生徒を観察する余裕が持てること。大切なことなのですがこれがなかなか難しいのです。この問題を授業の中で皆さんといっしょに考えて生きたいと思います。			
担当者の 研究室等	7号館3階(中西研究室)			
備考				

科目名	中国語科教育法Ⅲ	科目名(英文)	Chinese Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	中国語の文法書をテキストにします。そのなかから習得が難しい文法項目を取り上げて、「わかりやすい説明」「わかりやすい例文」「わかりやすい学習順」について議論しながら中国語の教育法を学びます。また、発音については一般に普及している「普通話音節表」を資料とします。
到達目標	この授業によって、学習指導案を立てるさいの適切な手順や教材、測定方法を理解することができます。
授業方法と留意点	授業ごとに文法項目のテーマを決めて、資料を閱讀したあと、「どのように学べよいか」という視点で討論します。また、ここでの成果をもとにして、学期中に模擬授業を3回程度行います。テーマは前週に提示しますので、資料を読むなど準備をしたらうえて授業に臨んでください。
科目学習の効果(資格)	中国語教科教育法の知識の向上と中国語の読解力の向上に欠かせない講義です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	母音および声調の指導	テキストおよび参考資料を読みながら「どのように指導するか」を指導教員や受講生と議論する。	授業後は次回の授業で学ぶ内容について予習しておく。
	2	子音の指導	テキストおよび参考資料を読みながら「どのように指導するか」を指導教員や受講生と議論する。	授業後は次回の授業で学ぶ内容について予習しておく。
	3	指示詞と方位詞	テキストおよび参考資料を読みながら「どのように指導するか」を指導教員や受講生と議論する。	授業後は次回の授業で学ぶ内容について予習しておく。
	4	存在を表すための構文	テキストおよび参考資料を読みながら「どのように指導するか」を指導教員や受講生と議論する。	授業後は次回の授業で学ぶ内容について予習しておく。
	5	模擬授業(1)	第1回～第4回の内容に基づいて作成した指導案をもとに模擬授業を行う。	指導案を丁寧に作成してから模擬授業に臨む。
	6	各種の疑問文と文末助詞	テキストおよび参考資料を読みながら「どのように指導するか」を指導教員や受講生と議論する。	授業後は次回の授業で学ぶ内容について予習しておく。
	7	アスペクト(完了, 進行, 持続, 経験)など	テキストおよび参考資料を読みながら「どのように指導するか」を指導教員や受講生と議論する。	授業後は次回の授業で学ぶ内容について予習しておく。
	8	前置詞と語順の問題	テキストおよび参考資料を読みながら「どのように指導するか」を指導教員や受講生と議論する。	授業後は次回の授業で学ぶ内容について予習しておく。
	9	否定の諸相	テキストおよび参考資料を読みながら「どのように指導するか」を指導教員や受講生と議論する。	授業後は次回の授業で学ぶ内容について予習しておく。
	10	模擬授業(2)	第6回～第9回の内容に基づいて作成した指導案をもとに模擬授業を行う。	指導案を丁寧に作成してから模擬授業に臨む。
	11	存在文(場所主語文)	テキストおよび参考資料を読みながら「どのように指導するか」を指導教員や受講生と議論する。	教科書の該当部分を予習しておく
	12	被動, 使役, “把”構文	テキストおよび参考資料を読みながら「どのように指導するか」を指導教員や受講生と議論する。	授業後は次回の授業で学ぶ内容について予習しておく。
	13	各種の補語	テキストおよび参考資料を読みながら「どのように指導するか」を指導教員や受講生と議論する。	授業後は次回の授業で学ぶ内容について予習しておく。
	14	複文と接続詞	テキストおよび参考資料を読みながら「どのように指導するか」を指導教員や受講生と議論する。	授業後は次回の授業で学ぶ内容について予習しておく。
	15	模擬授業(3)	第10回～第14回の内容に基づいて作成した指導案をもとに模擬授業を行う。	指導案を丁寧に作成してから模擬授業に臨む。

関連科目	中国語教科教育法Ⅳ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語文法教室	杉村博文	大修館書店
	2			

評価方法(基準)	授業参加 60%、レポート(学習指導案) 40%
----------	--------------------------

学生へのメッセージ	よい授業を実現させるには、学ぶ側の視点を忘れないことが大切です。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館3階(中西研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

教職科目

科目名	中国語科教育法Ⅳ	科目名(英文)	Chinese Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	中国語の教員になるためには、中国語学、中国文学、中国語コミュニケーション、異文化理解の4つの分野を学ばなければなりません。この授業は中国語科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを基礎に、異文化理解を同時に目指す中国語教育に関する論文を読みます。中国語科教育法の知識の向上と教育法に関する研究能力の向上を目指します。
到達目標	異文化理解を目指す中国語教育のためのポイントを学びます。
授業方法と留意点	毎回、中国語の論文を訳読します。高度な内容の論文を読むので必ず予習が必要です。また授業の最後には、授業の成果を踏まえて教案を書き、更にそれに基づく模擬授業もしてもらいます。
科目学習の効果(資格)	中国語科教育法の知識の向上と中国語の読解力の向上に欠かせない講義です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	中国語教材における文化知識導入の研究	現状と問題	教科書の該当部分を予習しておく
	2	中国語教材における文化知識導入の研究	文化知識導入の理論と原則	教科書の該当部分を予習しておく
	3	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析1	教科書の該当部分を予習しておく
	4	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析2	教科書の該当部分を予習しておく
	5	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析3	教科書の該当部分を予習しておく
	6	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析4	教科書の該当部分を予習しておく
	7	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に①	教科書の該当部分を予習しておく
	8	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に②	教科書の該当部分を予習しておく
	9	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に①	教科書の該当部分を予習しておく
	10	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に②	教科書の該当部分を予習しておく
	11	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文章構成を中心に	教科書の該当部分を予習しておく
	12	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に①	教科書の該当部分を予習しておく
	13	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に②	教科書の該当部分を予習しておく
	14	まとめ1	これまでの学習成果を踏まえ、中国語授業の教案を書き、それを検討する。	教案を練る。
	15	まとめ2	前回作成した教案をもとに、中国語の模擬授業を行う。その検討と反省を通して、授業全体のまとめをおこなう。	レポートを書く。

関連科目	中国語科教育法Ⅲ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業参加およびレポート
----------	-------------

学生へのメッセージ	しっかり勉強すれば必ず力が付きます。
-----------	--------------------

担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)
----------	-------------

備考	
----	--

教職科目

科目名	道徳教育の研究	科目名(英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 裕樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では、日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方（日本の道徳教育の歴史、道徳教育の内容を構成する諸概念、道徳性の発達理論、等）について解説を加え、実際に学校でどのように道徳教育を行えばよいのかを考えていきます。
到達目標	受講者が日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付け、道徳教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行いますが、「道徳科」の学習指導案を書く演習等も適宜取り入れます。また、毎回授業の最後に受講者にコメントペーパーを書いてもらって次の授業中にその内容のいくつかを紹介することで、受講者が相互に関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して主体的かつ多角的に考えを深められるよう配慮します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道徳の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本の道徳教育の歴史①:戦前の道徳教育	①明治から昭和初期にかけての道徳教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。
3	日本の道徳教育の歴史②:戦後の道徳教育	道徳教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きとについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道徳教育の歴史の変遷を整理する。
4	日本の道徳教育の歴史③:現代の道徳教育	①近年の道徳教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道徳教育推進論の論拠の一つともなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出しておく。さらに、その体験について、授業の内容を踏まえたうえで再考する。
5	諸外国の道徳教育	①諸外国の道徳教育の状況について概観する。 ②諸外国の道徳教育を事例として、道徳教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道徳教育と自分の受けてきた道徳教育とを比較検討し、共通点と相違点を整理する。
6	道徳教育の内容①:自我	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐり、「自我」(＝「私」)について道徳教育の視点から考える。	普段の自分の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。
7	道徳教育の内容②:他者	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として人との関わりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「他者」との関わりをなかで「私」を捉え直す。	普段の自分の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。
8	道徳教育の内容③:生命と自然	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」をめぐり、道徳教育(とりわけ「いのちの教育」)の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。
9	道徳教育の内容④:美と崇高	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること」をめぐり、道徳教育をいわゆる「情操教育」的な観点から検討する。	授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」的な観点から道徳教育について再考する。
10	道徳教育の内容⑤:社会	①学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会との関わりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「社会」との関わりをなかで「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲で起こった「スクールカースト」の体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
11	道徳性の発達	①コールバーグによる道徳性の発達理論(およびギリガンによるその批判)について検討する。 ②道徳性の発達理論を応用したいいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。
12	道徳の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道徳教育の位置づけを確認する。 ②他教科での教育のなかで行われた道徳教育の実践例をもとに、道徳教育の幅広い可能性について考える。	他教科での教育と道徳教育の関わりについて整理する。
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道徳教育の「要」とされている「道徳科」の位置づけについて考える。	授業時に指示する。

教職科目

			②「道徳科」の時間を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。																	
	14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳科」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。																
	15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性</td> <td>下司晶</td> <td>世織書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶	世織書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶	世織書房																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	毎回の授業中に書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、課題として作成してもらう「道徳科」の学習指導案の内容(4%)、学期末試験の結果(66%)をもとに、総合的に評価します。なお、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る者に対しては厳正に対処をします(マイナス点やペナルティも課されます)ので、学生としての自覚と覚悟をもって授業に参加すること。																			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)																			
備考																				

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	(1) 学級活動 (ホームルーム活動)、生徒会活動 (児童会活動)、学校行事について、それぞれの指導目標や内容等に関する基礎的・基本的事項について整理する。 (2) 子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについての理解を深める。 (3) 「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうし関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流する。
到達目標	子どもたちが、さまざまな集団活動に自主的、実践的に取り組み、多様な他者と協働し、互いのよさを認め合い、発揮しながら、集団や自己の生活上の課題を解決するために必要な資質・能力を育成する育成できるよう、また、自己の生き方について考えていくための資質・能力を育成できるよう、実践的な指導ができる。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動を指導する立場にたつ教員として、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネート・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：特別活動の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・特別活動の意義と課題	特別活動とは何か、特別活動の教育的意義、社会の変貌と子どもたちの状況、学級担任の役割	教科書第1章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
	2	特別活動の目的・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐる	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ソロワークと意見交換	教科書第1・2章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
	3	学級活動 (ホームルーム活動) その1 ワーク②大学に入って	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
	4	学級活動 (ホームルーム活動) その2 ワーク③学級活動 (係・班・当番・委員) の思い出	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
	5	生徒会活動 (児童会活動)・学級行事 ワーク④学校行事 (運動会・体育祭・文化祭等) の思い出	生徒会 (児童会) 活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ソロワークと意見交換	教科書第5・6・12・13章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
	6	体験活動の意義 ワーク⑤「14歳の頃」・「17歳の頃」	特別活動の目標と体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験のもつ教育力と教師の指導性 グループワークの班分け、顔合わせ	教科書第2章、配布プリントをよく読んでおく。
	7	特別活動の歴史・領域・方法 グループワーク①いじめ (その1)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ グループ討議・発表・交流	教科書第2・3章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
	8	特別活動と学級経営 グループワーク②不登校	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 グループ討議・発表・交流	教科書第9章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
	9	特別活動と生徒指導 グループワーク③暴力	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 即興劇・交流	教科書第10章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
	10	特別活動における評価 グループワーク④インクルーシブ教育 (外国にルーツ)	評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。学習事項を整理する。
	11	特別活動と道徳教育 グループワーク⑤進路指導・キャリア教育	特別活動と道徳教育との関連及びそれぞれの教育的意義 即興劇・交流	教科書第8章を読んでおく。学習事項を整理する。
	12	特別活動と総合的な学習 グループワーク⑥インクルーシブ教育	特別活動と総合的な学習の時間との関連及びそれぞれの教育的意義 グループ討議・発表・交流	教科書第7章を読んでおく。学習事項を整理する。
	13	特別活動とキャリア教育 グループワーク⑦ジェンダー	特別活動におけるキャリア教育の位置づけ、進路選択支援の課題 即興劇・交流	教科書第14章を読んでおく。学習事項を整理する。
	14	学習指導要領 (特別活動) について グループワーク⑧いじめ (その2)	現行学習指導要領の特徴、次期学習指導要領改定の要点 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。学習事項を整理する。
	15	特別活動の指導計画・指導案の作成と全体のまとめ	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成 集団的な自尊感情を育むことの重要性について	配布プリントを読んでおく。 全学習事項について再度振り返り整理する。
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」、「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の特別活動	相原次男他	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動	文部科学省	ぎょうせい
	2	高等学校学習指導要領解説 特別活動	文部科学省	海文堂出版
	3			
評価方法 (基準)	定期試験(50%)、中間レポート(30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況(20%)を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自分史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況を評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力することに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)			
備考				

発行 2018年4月

常翔学園 摂南大学

寝屋川校地

〒572-8508

大阪府寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

枚方校地

〒573-0101

大阪府枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3100 【枚方事務室】

